西田井遺跡発掘調査報告書

―― 一般国道24号（和歌山バイパス）建設に伴う発掘調査 ――

―本文編―

１９９１年３月

財団法人 和歌山県文化財センター

西田井遺跡発掘調査報告書

――一般国道24号(和歌山バイパス)建設に伴う発掘調査――

―本文編―

財団法人 和歌山県文化財センター

序

和歌山市西田井所在の西田井遺跡は、紀ノ川下流右岸の沖積平野に位置しており、弥生時代から古墳時代の遺跡が密集する地域にあります。また、条里についても、紀ノ川左岸と同様によく残っている地域でもあります。

本遺跡は、一般国道24号（和歌山バイパス）建設工事に伴い、西側に隣接する田屋遺跡に次いで発見された遺跡であり、現在は東側に所在する川辺遺跡の発掘調査が行われています。

発掘調査は、社団法人和歌山県文化財研究会により昭和58度から4箇年にわたり実施されました。その結果、縄文時代から古墳時代にかけての竪穴住居、方形周溝墓や、平安時代から室町時代にかけての掘立柱建物、井戸、墓をはじめとする多くの遺構が膨大な量の遺物を伴い検出されました。これらの遺物整理は、昭和62年度から4箇年を費やし当文化財センターが実施してまいりました。

このたび、発掘調査の成果をまとめ報告書として刊行するはこびになりましたが、本書が県民の皆様のみならず、広く一般の活用に資することができれば幸いかと存じます。

最後になりましたが、本事業の推進にあたり種々ご指導、ご支援を賜りました諸先生方や建設省近畿地方建設局和歌山工事事務所をはじめとする関係機関、地元の皆様に対し、改めて厚くお礼申し上げます。

平成3年3月

財団法人 和歌山県文化財センター

理事長　仮谷　志良

例　　言

1．本書は、一般国道24号（和歌山バイパス）建設工事に伴う、和歌山市西田井・北に所在する西田井遺跡の発掘調査報告書である。

2．本事業のうち調査は、建設省近畿地方建設局の委託事業として和歌山県が受託し、試掘調査を昭和58・60年度に、発掘調査を昭和59年度から同61年度にかけて社団法人和歌山県文化財研究会が実施した。整理業務は、財団法人和歌山県文化財センターが受託し、昭和62年度から平成２年度にかけて実施した。

3．発掘調査および整理業務にかかる経費はすべて建設省近畿地方建設局が負担した。

4．発掘調査および整理業務について、調査委員鰕磨正信・巽　三郎・都出比呂志・藤澤一夫・安原啓示各氏（和歌山県文化財保護審議委員会委員）の指導、助言を得た。

5．発掘調査にあたっては、井馬好英・北野隆亮・祐本幸彦が補助した。なお、一連の事業遂行にあたっては、地元の方々から多大なる協力を得た。

6．本書は、調査担当者全員で討議のうえ土井が編集した。本書の執筆分担は目次に示すとおりである。

7．本書の作成にあたっては、遺物実測、遺構・遺物実測図の製図、出土遺物観察一覧作成のほか諸々の作業は整理担当者が統括した。また、土器の基礎的な器種・器形分類については土井が行なった。

8．図版編に使用した遺構写真は、各調査担当者が撮影した。遺物写真については、木製品を佐伯和也が、それ以外のものは土井が撮影した。

9．調査および報告書作成にあたっては、和歌山県教育委員会文化財課のほか、石野博信（奈良県立橿原考古学研究所）、宇野隆夫（富山大学）、佐々木好直・渡邊昌宏（財団法人大阪府埋蔵文化財協会）、橋本久和（高槻市立埋蔵文化財調査センター）の各氏を始め多くの方々から御指導、御教示を得た。記して感謝の意を表する。

10．航空写真撮影は第ＩＡ区・第ⅡＡ区を株式会社パスコ、第ⅢＣ区をアジア航測株式会社に、木製品・金属製品の保存処理は財団法人元興寺文化財研究所に、土壌の微化石・土器の胎土等の科学分析は株式会社パリノ・サーヴェイにそれぞれ委託した。

11．本書に使用した遺構の略号は下記のとおりである。

ＳＩ―竪穴住居、ＳＢ―掘立柱建物、Ｐ―柱穴、ＳＡ―柵、ＳＧ―庭園遺構（池状遺構）、
ＳＫ―土坑、ＳＸ―墓・地鎮遺構、ＳＥ―井戸、ＳＤ―溝、ＳＦ―溜桝、ＳＲ―自然河道

12．本書に使用した遺構番号は、新たに第Ｉ区～第Ⅲ区まで通し番号を付した。

13．挿図に示した遺構埋土の層序名・土質は、調査担当者で協議したが特に統一できなかった。

14．本書に掲載した遺物のうち、試掘調査に関するものは「試」を付し、縄文時代に関するものは第Ｉ区～第Ⅲ区まで「Ｊ」を付し通し番号とした。それ以外のものは各大地区毎に通し番号を付した。本書の遺物実測図・出土遺物観察一覧・遺物写真図版に付した遺物番号とは各々一致する。ただし、異なる地区の遺物をまとめて掲載した場合は、遺物番号の前に地区の略称として各々Ｉ・Ⅱ・Ⅲを付して表した。なお、遺物写真図版に収録した遺物は、特に縮尺を統一していない。

15．発掘調査・整理業務の調査組織は次頁に示すとおりである。

調 査 組 織

事業受託機関

和歌山県教育庁文化財課

課長	鍋島伊津夫	（昭和58・59年度）
	梅村　善行	（昭和60・61年度）
課長補佐	梅村　善行	（昭和58・59年度）
	桃野　真晃	（昭和61年度）
主幹	北野　全美	（昭和58～60年度）
	宮崎　喜一	（昭和61年度）
第二係長	桃野　真晃	（昭和58・59年度）
	吉田　宣夫	（昭和61年度）
第二係主査	吉田　宣夫	（昭和60年度）
	松田　正昭	（昭和58～61年度）
第二係主事	森本　一臣	（昭和58年度）
	西村　保彦	（昭和58年度）
	今田　一里	（昭和59・60年度）
	坂本　英雄	（昭和61年度）

発掘調査機関（社団法人　和歌山県文化財研究会）

事務局

局長	伊藤　正也	（昭和58・59年度）
	垣内　茂	（昭和60・61年度）
嘱託	木本　晴子	（昭和61年度）

調査担当

昭和58年度（試掘調査）

技術員	村田　弘	

昭和59年度（第Ⅰ区）

技術員	山本　高照	（文化財課第二係技師）
	井石　好裕	
	佐伯　和也	

昭和60年度（第Ⅱ区）

主任技術員	上田　秀夫	（文化財課第二係技師）
技術員	佐伯　和也	
	黒石　哲夫	
	瀬野　耕平	
	河内　一浩	

昭和61年度（第Ⅲ区）

主任技術員	上田　秀夫	（文化財課第二係主査）
技術員	土井　孝之	
	黒石　哲夫	
	瀬野　耕平	
	河内　一浩	

出土遺物整理機関（財団法人　和歌山県文化財センター）

事務局	専務理事	中川　昭	（昭和62年度）	和歌山県教育庁教育長
	〃	高垣　修三	（昭和62・63年度）	〃
	局長	梅村　善行	（昭和62・63年度）	
	専務理事（局長兼務）	鍋島伊津夫	（平成元・2年度）	
	次長	菅原　正明		
	埋蔵文化財課長	辻林　浩		
	管理課長	松田　正昭		

整理担当

		担当年度
埋蔵文化財課技師	佐伯　和也	（昭和62年度）
	土井　孝之	（昭和63年度～平成2年度）

本文目次

第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過 ……（上田）…… 1
第Ⅱ章　遺跡の立地と環境 ……（土井）…… 2
　第1節　地理的環境 …… 2
　第2節　歴史的環境 …… 3
第Ⅲ章　調査の方法と概要 …… 9
　第1節　調査の範囲と方法 ……（土井）…… 9
　第2節　調査の概要 …… 10
　　1　試掘調査 ……（村田・上田）…… 10
　　2　発掘調査 ……（土井）…… 15
　　3　出土遺物整理 ……（土井）…… 17
　第3節　調査区の層序 ……（土井）…… 18
第Ⅳ章　検出遺構 …… 19
　第1節　第Ⅰ区の検出遺構 ……（井石・土井）…… 19
　　1　第ⅠA区 …… 19
　　（1）　弥生・古墳時代 …… 19
　　a　土坑 …… 19　　c　溝 …… 20
　　b　壷棺 …… 19
　　（2）　奈良時代 …… 21
　　a　掘立柱建物 …… 21　　b　土坑 …… 23
　　（3）　平安時代～室町時代 …… 23
　　a　掘立柱建物・柵 …… 23　　c　井戸 …… 30
　　b　土坑 …… 30　　d　溝 …… 32
　　2　第ⅠB区・ⅠC区 …… 33
　　（1）　弥生・古墳時代 …… 33
　　溝 …… 33
　　（2）　平安時代～室町時代 …… 33
　　溝 …… 33
　　3　第ⅠD区 …… 34
　　（1）　弥生・古墳時代 …… 34
　　a　竪穴住居 …… 34　　c　溝 …… 34
　　b　土坑 …… 34
　　（2）　奈良時代 …… 34
　　土坑 …… 34
　　（3）　平安時代～室町時代 …… 35
　　a　掘立柱建物 …… 35　　b　溝 …… 35

第２節　第Ⅱ区の検出遺構 …… 36
1　第ⅡＡ区 ……（佐伯）…… 36
（１）　弥生・古墳時代 …… 36
a　竪穴住居 …… 36　d　方形周溝墓 …… 58
b　掘立柱建物 …… 52　e　溝 …… 59
c　土坑 …… 54
（２）　平安時代～江戸時代 …… 61
a　掘立柱建物・柵 …… 61　d　井戸 …… 77
b　地鎮遺構 …… 73　e　溝 …… 79
c　土坑 …… 74
2　第ⅡＢ区 ……（井馬）…… 83
（１）　弥生・古墳時代 …… 83
a　土坑 …… 83　b　溝・旧河道 …… 85
（２）　平安時代～江戸時代 …… 86
a　土坑 …… 86　c　溝 …… 88
b　井戸 …… 87
第３節　第Ⅲ区の検出遺構 …… 89
1　第ⅢＣ区 ……（土井・黒石）…… 89
（１）　弥生・古墳時代 …… 89
a　竪穴住居 …… 89　d　木棺墓・壷棺 …… 105
b　掘立柱建物 …… 103　e　井戸 …… 105
c　土坑 …… 103　f　溝 …… 108
（２）　奈良時代 …… 118
a　土坑 …… 118　b　溝 …… 120
（３）　平安時代～江戸時代 …… 122
a　掘立柱建物・柵 …… 122　d　木棺墓・土壙墓・集石墓…… 135
b　池状遺構 …… 131　e　井戸・溜桝 …… 140
c　土坑 …… 133　f　溝 …… 144
2　第ⅢＤ区 ……（土井）…… 148
（１）　縄文時代 …… 148
竪穴住居 …… 148
（２）　弥生・古墳時代 …… 148
a　土坑 …… 149　b　溝 …… 149
第Ⅴ章　出土遺物 …… 152
第１節　出土遺物の整理方法 ……（土井）…… 152
1　弥生・古墳時代の遺物 …… 152
2　奈良時代～平安時代中期の遺物 …… 156
3　平安時代後期～室町時代の遺物 …… 157

第２節　第Ⅰ区の出土遺物 ……（土井）…… 161
1　縄文時代 …… 161
2　弥生・古墳時代 …… 161
（1）　壷棺 …… 161　（3）　竪穴住居 …… 170
（2）　溝 …… 162　（4）　土坑 …… 170
3　奈良時代 …… 173
（1）　掘立柱建物 …… 173　（2）　土坑 …… 173
4　平安時代～室町時代 …… 173
（1）　掘立柱建物・柱穴 …… 173　（3）　井戸 …… 175
（2）　土坑 …… 175　（4）　溝 …… 178
第３節　第Ⅱ区の出土遺物 ……（佐伯・土井）…… 190
1　縄文時代 …… 190
2　弥生・古墳時代 …… 190
（1）　竪穴住居 …… 190　（4）　方形周溝墓 …… 217
（2）　掘立柱建物・柱穴 …… 215　（5）　溝 …… 230
（3）　土坑 …… 215　（6）　自然河道 …… 234
3　平安時代～室町時代 …… 243
（1）　掘立柱建物・地鎮遺構・柱穴…… 243　（3）　井戸 …… 247
（2）　土坑 …… 243　（4）　溝 …… 257
第４節　第Ⅲ区の出土遺物 ……（土井・黒石）…… 276
1　縄文時代 …… 276
2　弥生・古墳時代 …… 277
（1）　竪穴住居 …… 277　（3）　木棺墓・壷棺 …… 290
（2）　土坑 …… 289　（4）　溝 …… 292
3　奈良時代 …… 322
（1）　土坑 …… 322　（2）　溝 …… 323
4　平安時代～江戸時代 …… 327
（1）　掘立柱建物・柱穴 …… 327　（4）　木棺墓・土壙墓・集石墓…… 337
（2）　池状遺構 …… 327　（5）　井戸・溜桝 …… 339
（3）　土坑 …… 331　（6）　溝 …… 339
第５節　包含層の出土遺物 …… 366
第Ⅵ章　まとめ …… 373
第１節　西田井遺跡の集落構成の変遷 …… 373
1　弥生・古墳時代の竪穴住居の構成と変遷 ……（土井）…… 373
2　平安時代～室町時代の建物配置と変遷 ……（佐伯・土井）…… 378
第２節　出土遺物 …… 383
1　弥生土器・古式土師器の器種構成と流れ ……（土井）…… 383
2　平安時代～室町時代の器種構成と流れ ……（佐伯・土井）…… 389

第Ⅶ章　総括 ……（土井）…… 402

新旧遺構名対照一覧 …… 404
出土遺物観察一覧 …… 410～475

付章　西田井遺跡の自然科学分析 …… 476
はじめに…… 476
Ⅰ．微化石分析による古環境解析…… 476
Ⅱ．遺構埋積物のリン・カルシウム分析…… 491
Ⅲ．出土土器の胎土分析…… 493
引用文献…… 508

挿図目次

第1図　紀ノ川周辺の微地形と遺跡の分布 … 2
第2図　西田井遺跡とその周辺 …… 5
第3図　上野廃寺地形測量図 …… 8
第4図　発掘調査位置図 …… 9
第5図　試掘調査出土土器・土製品実測図 … 10
第6図　試掘調査位置図及び
土層柱状図 …… 11・12
第7図　発掘調査地区割図 …… 15
第8図　各地区の基本層序 …… 18
第9図　第ⅠA区SK2・SX6実測図 …… 19
第10図　第ⅠA区弥生・古墳時代溝土層図 … 20
第11図　第ⅠA区主要遺構全体図 …… 21
第12図　第ⅠA区SB31・32・33
・34実測図 …… 22
第13図　第ⅠA区SB41・42・58実測図 …… 25
第14図　第ⅠA区SB44・47・56・57
実測図 …… 26
第15図　第ⅠA区SB45・48実測図 …… 27
第16図　第ⅠA区SB46・52実測図 …… 28
第17図　第ⅠA区SK91、
SE92・93実測図 …… 31
第18図　第ⅠA区平安時代後期～室町時代
溝土層図 …… 32
第19図　第ⅠB区・ⅠD区遺構全体図 …… 34
第20図　第ⅠD区SI136・SK141実測図 … 35
第21図　第ⅡA区弥生・古墳時代主要遺構
全体図 …… 37
第22図　第ⅡA区SI161・163実測図 …… 43
第23図　第ⅡA区SI164・166実測図 …… 44
第24図　第ⅡA区SI165及び柱穴実測図 … 45
第25図　第ⅡA区SI167・171実測図 …… 46
第26図　第ⅡA区SI169・170実測図 …… 47
第27図　第ⅡA区SI173・174実測図 …… 48
第28図　第ⅡA区SI175・179実測図 …… 49
第29図　第ⅡA区SI181・182
・187実測図 …… 50
第30図　第ⅡA区SI188・192実測図 …… 51
第31図　第ⅡA区SB196・197・198・199・
200実測図 …… 53
第32図　第ⅡA区SK202・205・208・211
・213実測図 …… 55
第33図　第ⅡA区SK209・239実測図 …… 56
第34図　第ⅡA区SK243実測図 …… 57
第35図　第ⅠB・ⅡA区SX251実測図 …… 58
第36図　第ⅡA区弥生・古墳時代溝実測図 … 60
第37図　第ⅡA区平安時代後期～江戸時代
主要遺構全体図 …… 63
第38図　第ⅡA区SB281・287実測図 …… 67
第39図　第ⅡA区SB288・292実測図 …… 68
第40図　第ⅡA区SB289・290実測図 …… 69
第41図　第ⅡA区SB291実測図 …… 70
第42図　第ⅡA区SB293・294
・296実測図 …… 71
第43図　第ⅡA区SB297・298・299・300
実測図 …… 72
第44図　第ⅡA区SX411・412実測図 …… 73
第45図　第ⅡA区SK320・323・349・390
実測図 …… 75
第46図　第ⅡA区SK332・351・399・
SD478内集石実測図 …… 76
第47図　第ⅡA区SE416・418実測図 …… 77
第48図　第ⅡA区SE417実測図 …… 78
第49図　第ⅡA区平安時代後期～室町時代
溝土層図 …… 80
第50図　第ⅡA区平安時代後期～室町時代
溝土層図 …… 81
第51図　第ⅡB区SK492・496
・502実測図 …… 83
第52図　第ⅡB区遺構全体図 …… 84
第53図　第ⅡB区弥生・古墳時代溝土層図 … 85

第54図　第ⅡＢ区ＳＥ566実測図 …… 86
第55図　第ⅡＢ区ＳＥ567・568
・569実測図 …… 87
第56図　第ⅡＢ区平安時代後期～室町時代
溝土層図 …… 88
第57図　第ⅢＣ区弥生・古墳時代主要遺構
全体図 …… 91
第58図　第ⅢＣ区ＳＩ601実測図 …… 93
第59図　第ⅢＣ区ＳＩ602・606実測図 …… 95
第60図　第ⅢＣ区ＳＩ603・604実測図 …… 96
第61図　第ⅢＣ区ＳＩ605・614実測図 …… 97
第62図　第ⅢＣ区ＳＩ615・616実測図 …… 98
第63図　第ⅢＣ区ＳＩ618・619実測図 …… 99
第64図　第ⅢＣ区ＳＩ617・621実測図 …… 100
第65図　第ⅢＣ区ＳＩ623・624実測図 …… 101
第66図　第ⅢＣ区ＳＫ626・627・628・646・
651・652実測図 …… 104
第67図　第ⅢＣ区ＳＸ671・673
・674実測図 …… 106
第68図　第ⅢＣ区ＳＸ672・677・679・680、
ＳＥ669・670実測図 …… 107
第69図　第ⅢＣ区弥生・古墳時代溝土層図 … 109
第70図　第ⅢＣ区弥生・古墳時代溝土層図 … 110
第71図　第ⅢＣ区ＳＤ681土器出土分布
状況図 …… 111・112
第72図　第ⅢＣ区弥生・古墳時代溝土層図 … 113
第73図　第ⅢＣ区ＳＤ702土器出土分布
状況図 …… 114・115
第74図　第ⅢＣ区ＳＤ687・720・721土器分布
密度図 …… 117
第75図　第ⅢＣ区ＳＫ732・734
・735実測図 …… 118
第76図　第ⅢＣ区奈良時代主要遺構全体図 … 119
第77図　第ⅢＣ区奈良時代溝実測図・
土層図 …… 121
第78図　第ⅢＣ区平安～江戸時代主要遺構
全体図 …… 123
第79図　第ⅢＣ区ＳＢ757・759・760・761
実測図 …… 127
第80図　第ⅢＣ区ＳＢ762・764・767・770
実測図 …… 128
第81図　第ⅢＣ区ＳＢ769・774実測図 …… 129
第82図　第ⅢＣ区ＳＢ771・772実測図 …… 130
第83図　第ⅢＣ区ＳＧ782実測図 …… 131
第84図　第ⅢＣ区ＳＧ782・783
・784土層図 …… 132
第85図　第ⅢＣ区平安～江戸時代土坑
実測図 …… 133
第86図　第ⅢＣ区ＳＫ819実測図 …… 134
第87図　第ⅢＣ区ＳＸ851・853実測図 …… 136
第88図　第ⅢＣ区ＳＸ854・856・858・860
実測図 …… 137
第89図　第ⅢＣ区ＳＸ857・859
・869実測図 …… 138
第90図　第ⅢＣ区ＳＥ871・872実測図 …… 141
第91図　第ⅢＣ区ＳＥ874・875
・877実測図 …… 142
第92図　第ⅢＣ区ＳＦ876実測図 …… 143
第93図　第ⅢＣ区平安時代後期～室町時代溝
土層図 …… 145
第94図　第ⅢＣ区平安時代後期～室町時代溝
土層図 …… 147
第95図　第ⅢＤ区ＳＩ926実測図 …… 149
第96図　第ⅢＤ区遺構全体図 …… 150
第97図　第ⅢＤ区ＳＤ936土器分布密度図 … 151
第98図　第ⅢＤ区弥生・古墳時代溝土層図 … 151
第99図　弥生・古墳時代土器の表現方法 …… 152
第100図　弥生土器・土師器形態分類 …… 155
第101図　奈良～平安時代中期土器形態分類 … 156
第102図　平安～室町時代土器の表現方法 …… 157
第103図　平安時代後期～室町時代土器形態
分類 …… 159
第104図　第Ⅰ区出土縄文土器・石器、弥生時代
前期土器実測図 …… 161
第105図　ＳＸ６出土土器実測図 …… 161
第106図　ＳＤ12出土土器実測図 …… 164

第107図　ＳＤ12出土土器実測図 …… 165
第108図　ＳＤ12出土土器実測図 …… 166
第109図　ＳＤ12出土土器実測図 …… 167
第110図　ＳＤ12出土土器実測図 …… 168
第111図　ＳＤ11・14・18・20・26・127、
ＳＩ136出土土器実測図 …… 169
第112図　ＳＫ141出土土器実測図 …… 171
第113図　ＳＫ141、ＳＤ147、第Ⅰ区包含層
出土土器実測図 …… 172
第114図　第Ⅰ区出土弥生・古墳時代
石器・鉄器実測図 …… 173
第115図　ＳＫ36・37出土土器実測図 …… 173
第116図　第ⅠＡ区掘立柱建物・柱穴
出土土器実測図 …… 174
第117図　ＳＤ131・156出土土器実測図 …… 178
第118図　ＳＫ67・71・76・91
出土土器実測図 …… 176
第119図　ＳＥ92・93、ＳＤ96・97・101
出土土器実測図 …… 177
第120図　ＳＤ102出土土器実測図 …… 180
第121図　ＳＤ102出土土器実測図 …… 181
第122図　ＳＤ102出土土器実測図 …… 182
第123図　ＳＤ102出土土器実測図 …… 183
第124図　ＳＤ102出土土器実測図 …… 184
第125図　ＳＤ102出土土器実測図 …… 185
第126図　ＳＤ103・111出土土器実測図 …… 186
第127図　ＳＤ112・113、包含層出土土器、
遺構・包含層出土土錘実測図 …… 187
第128図　第Ⅰ区出土瓦実測図 …… 188
第129図　第Ⅰ区出土奈良～江戸時代
石製品・金属製品実測図 …… 189
第130図　第Ⅱ区出土縄文土器・石器実測図 … 190
第131図　ＳＩ170出土土器実測図 …… 194
第132図　ＳＩ174出土土器実測図 …… 194
第133図　ＳＩ161・162出土土器実測図 …… 195
第134図　ＳＩ163出土土器実測図 …… 196
第135図　ＳＩ163出土土器実測図 …… 197
第136図　ＳＩ164出土土器実測図 …… 198
第137図　ＳＩ164出土土器実測図 …… 199
第138図　ＳＩ165出土土器実測図 …… 200
第139図　ＳＩ165・166出土土器実測図 …… 201
第140図　ＳＩ166出土土器実測図 …… 202
第141図　ＳＩ167・168出土土器実測図 …… 203
第142図　ＳＩ169・186
・175出土土器実測図 …… 204
第143図　ＳＩ175出土土器実測図 …… 205
第144図　ＳＩ170・171出土土器実測図 …… 206
第145図　ＳＩ172・173出土土器実測図 …… 207
第146図　ＳＩ173・174出土土器実測図 …… 208
第147図　ＳＩ174出土土器実測図 …… 209
第148図　ＳＩ174出土土器実測図 …… 210
第149図　ＳＩ177・178
・179出土土器実測図 …… 211
第150図　ＳＩ180・181・182・183・184
出土土器実測図 …… 212
第151図　ＳＩ185・187・188・189・190・191・
192出土土器実測図 …… 213
第152図　第ⅡＡ区ＳＩ出土紡錘車実測図 …… 214
第153図　第ⅡＡ区掘立柱建物・柱穴
出土土器実測図 …… 215
第154図　ＳＫ201・208出土土器実測図 …… 215
第155図　ＳＫ205・207・209・213
出土土器実測図 …… 218
第156図　ＳＫ208・232・233・235・239・242
出土土器実測図 …… 219
第157図　ＳＫ243出土土器実測図 …… 220
第158図　ＳＫ243出土土器実測図 …… 221
第159図　ＳＫ243出土土器実測図 …… 222
第160図　ＳＫ243出土土器実測図 …… 223
第161図　ＳＫ243出土土器実測図 …… 224
第162図　ＳＫ243出土土器実測図 …… 225
第163図　ＳＫ243出土土器実測図 …… 226
第164図　ＳＫ493・502・504・509・513・516
出土土器実測図 …… 227
第165図　ＳＸ251出土土器実測図 …… 228
第166図　ＳＸ251出土土器実測図 …… 229

第167図　ＳＤ256出土土器実測図 …… 231
第168図　ＳＤ256出土土器実測図 …… 232
第169図　ＳＤ257・264・268・276
出土土器実測図 …… 233
第170図　ＳＤ525・528・529・530・532・533・
535・536・541出土土器実測図 …… 234
第171図　ＳＲ546出土土器実測図 …… 235
第172図　第Ⅱ区包含層出土土器実測図 …… 236
第173図　第Ⅱ区包含層出土土器実測図 …… 237
第174図　第Ⅱ区包含層出土土器、遺構・
包含層出土土錘・紡錘車実測図 …… 238
第175図　第Ⅱ区出土弥生・古墳時代
石製品・石器実測図 …… 239
第176図　第Ⅱ区出土弥生・古墳時代石器
実測図 …… 240
第177図　第Ⅱ区出土弥生・古墳時代石器
実測図 …… 241
第178図　第Ⅱ区出土弥生・古墳時代
石器・金属製品実測図 …… 242
第179図　第ⅡＡ区掘立柱建物・地鎮遺構
出土土器実測図 …… 244
第180図　第ⅡＡ区掘立柱建物・地鎮遺構・柱穴
出土土器実測図 …… 245
第181図　ＳＫ311・320・323・339・349・365・
387・390・553・562出土土器
実測図 …… 246
第182図　ＳＥ417出土土製品実測図 …… 247
第183図　ＳＥ416・417
・418出土土器実測図 …… 250
第184図　ＳＥ417出土土器実測図 …… 251
第185図　ＳＥ417出土土器実測図 …… 252
第186図　ＳＥ417出土土器実測図 …… 253
第187図　ＳＥ417出土土器実測図 …… 254
第188図　ＳＥ417出土土器実測図 …… 255
第189図　ＳＥ417・566・567・568・569
出土土器実測図 …… 256
第190図　ＳＤ424出土土器実測図 …… 257
第191図　ＳＤ425出土土器・土製品実測図 … 258
第192図　ＳＤ424出土土器実測図 …… 261
第193図　ＳＤ424・425出土土器実測図 …… 262
第194図　ＳＤ425出土土器実測図 …… 263
第195図　ＳＤ425出土土器実測図 …… 264
第196図　ＳＤ271・277・426・428・429・435・
440・441出土土器実測図 …… 265
第197図　ＳＤ443・445・446・447・450
出土土器実測図 …… 266
第198図　ＳＤ452出土土器実測図 …… 267
第199図　ＳＤ452・453出土土器実測図 …… 268
第200図　ＳＤ469出土土器実測図 …… 269
第201図　ＳＤ470・580・594・596・第Ⅱ区
包含層出土土器実測図 …… 270
第202図　第Ⅱ区包含層出土土器実測図 …… 271
第203図　第Ⅱ区包含層出土土器・土製品
実測図 …… 272
第204図　第Ⅱ区遺構・包含層出土土錘・
瓦実測図 …… 273
第205図　第Ⅱ区出土平安～江戸時代石製品・
金属製品実測図 …… 274
第206図　第Ⅱ区出土平安～江戸時代金属製品・
木製品実測図 …… 275
第207図　第Ⅲ区出土縄文土器・石器実測図 … 276
第208図　ＳＩ602出土土器実測図 …… 277
第209図　ＳＩ601出土土器実測図 …… 280
第210図　ＳＩ602出土土器実測図 …… 281
第211図　ＳＩ603・604
・605出土土器実測図 …… 282
第212図　ＳＩ606・607・608・610・611・612・
613・614出土土器実測図 …… 283
第213図　ＳＩ615・616
・618出土土器実測図 …… 284
第214図　ＳＩ617出土土器実測図 …… 285
第215図　ＳＩ619・620
・621出土土器実測図 …… 286
第216図　ＳＩ623出土土器実測図 …… 287
第217図　ＳＩ624出土土器実測図 …… 288
第218図　ＳＫ626・627出土土器実測図 …… 290

第219図　ＳＫ628・632・656・668、ＳＸ671・672・673・679出土土器実測図 …… 291
第220図　ＳＤ681出土土器実測図 …… 298
第221図　ＳＤ681出土土器実測図 …… 299
第222図　ＳＤ681出土土器実測図 …… 300
第223図　ＳＤ681出土土器実測図 …… 301
第224図　ＳＤ681出土土器実測図 …… 302
第225図　ＳＤ681出土土器実測図 …… 303
第226図　ＳＤ681出土土器実測図 …… 304
第227図　ＳＤ681出土土器実測図 …… 305
第228図　ＳＤ687出土土器実測図 …… 306
第229図　ＳＤ683・684・686・687・688・703・704・705・706・708・709・710・711出土土器実測図 …… 307
第230図　ＳＤ702出土土器実測図 …… 308
第231図　ＳＤ702出土土器実測図 …… 309
第232図　ＳＤ702出土土器実測図 …… 310
第233図　ＳＤ702出土土器実測図 …… 311
第234図　ＳＤ702出土土器実測図 …… 312
第235図　ＳＤ702出土土器実測図 …… 313
第236図　ＳＤ702出土土器実測図 …… 314
第237図　ＳＤ702出土土器実測図 …… 315
第238図　ＳＤ702出土土器実測図 …… 316
第239図　ＳＤ702出土土器・土製品実測図 … 317
第240図　ＳＤ695・720・721出土土器実測図 …… 318
第241図　ＳＤ936出土土器実測図 …… 319
第242図　ＳＤ936出土土器実測図 …… 320
第243図　第Ⅲ区出土弥生・古墳時代石製品・石器実測図 …… 321
第244図　第Ⅲ区出土弥生・古墳時代石器・金属製品実測図 …… 322
第245図　ＳＫ732・734・753、ＳＤ738・739・740・742出土土器実測図 …… 324
第246図　ＳＤ741出土土器実測図 …… 325
第247図　ＳＤ741・745・746・747・748・749・750・755出土土器実測図 …… 326
第248図　掘立柱建物・柱穴、ＳＧ781・782出土土器実測図 …… 328
第249図　ＳＧ783出土土器実測図 …… 329
第250図　ＳＧ784出土土器実測図 …… 330
第251図　ＳＫ787出土土器実測図 …… 333
第252図　ＳＫ789・792・793・794・795・796・800出土土器実測図 …… 334
第253図　ＳＫ819出土土器実測図 …… 335
第254図　ＳＫ819出土土器実測図 …… 336
第255図　ＳＫ845出土土器実測図 …… 337
第256図　ＳＸ851・853・854・856・857・858・865・869出土土器実測図 …… 338
第257図　ＳＥ871・872・874・875・877出土土器実測図 …… 340
第258図　ＳＦ876出土土器実測図 …… 341
第259図　ＳＦ876、ＳＤ881・882・885出土土器実測図 …… 342
第260図　ＳＤ886出土土器実測図 …… 347
第261図　ＳＤ886出土土器実測図 …… 348
第262図　ＳＤ886落ち・落ち込み・包含層出土土器実測図 …… 349
第263図　ＳＤ887・888・898・899・900・901出土土器実測図 …… 350
第264図　ＳＤ902出土土器実測図 …… 351
第265図　ＳＤ902出土土器実測図 …… 352
第266図　ＳＤ903出土土器実測図 …… 353
第267図　ＳＤ905出土土器実測図 …… 354
第268図　ＳＤ906・907・910・911出土土器実測図 …… 355
第269図　ＳＤ911出土土器実測図 …… 356
第270図　ＳＤ913・914・915出土土器実測図 …… 357
第271図　ＳＤ915、第Ⅲ区包含層出土土器・土錘実測図 …… 358
第272図　第ⅢＣ区出土瓦実測図 …… 359
第273図　第ⅢＣ区出土瓦実測図 …… 360
第274図　第ⅢＣ区出土奈良～江戸時代石製品実測図 …… 361
第275図　第ⅢＣ区出土奈良～江戸時代

石製品実測図 …… 362
第276図　第Ⅲ C区出土平安～室町時代
鉄製品実測図 …… 363
第277図　第Ⅲ C区出土平安～江戸時代
金属製品・銅銭実測図 …… 364
第278図　第Ⅲ C区出土室町～江戸時代
木製品実測図 …… 365
第279図　第Ⅰ A区～Ⅱ B区包含層出土土器の
分布密度図 …… 367・368
第280図　第Ⅲ C区・D区包含層出土土器の
分布密度図 …… 371・372
第281図　弥生・古墳時代の集落立地 …… 373
第282図　西微高地弥生・古墳時代
主要遺構変遷図 …… 375・376
第283図　東微高地弥生・古墳時代
主要遺構変遷図 …… 377
第284図　平安～室町時代の集落立地 …… 378
第285図　東微高地平安～江戸時代
主要遺構変遷図 …… 380
第286図　西微高地平安～江戸時代
主要遺構変遷図 …… 381・382
第287図　弥生土器・古式土師器の
器種構成比率 1 …… 386
第288図　弥生土器・古式土師器の
器種構成比率 2 …… 387
第289図　弥生土器・古式土師器の
器種構成比率 3 …… 388
第290図　平安時代後期～鎌倉時代土器の
器種構成 …… 391
第291図　平安時代後期～鎌倉時代土器の
器種構成比率 …… 392
第292図　平安時代後期～鎌倉時代土器の
法量 1 …… 393
第293図　平安時代後期～鎌倉時代土器の
法量 2 …… 394
第294図　平安時代後期～鎌倉時代土器の
法量 3 …… 395
第295図　室町時代土器の器種構成比率 …… 398
第296図　室町時代皿形態の法量 1 …… 399
第297図　室町時代皿形態の法量 2 …… 400

表　目　次

表 1　遺跡地名表 …… 4
表 2　第Ⅰ A区奈良時代
掘立柱建物規模一覧 …… 22
表 3　第Ⅰ A区平安時代後期～室町時代
掘立柱建物規模一覧 …… 29
表 4　第Ⅱ A区弥生・古墳時代
竪穴住居規模一覧 …… 42
表 5　第Ⅱ A区古墳時代
掘立柱建物規模一覧 …… 52
表 6　第Ⅱ A区平安時代後期～室町時代
掘立柱建物規模一覧 …… 66
表 7　第Ⅲ C区弥生・古墳時代
竪穴住居規模一覧 …… 102
表 8　第Ⅲ C区平安時代～室町時代
掘立柱建物規模一覧 …… 126
表 9　ＳＤ12出土土器器種構成比率 …… 162
表10　ＳＫ141出土土器器種構成比率 …… 170
表11　ＳＫ91出土土器器種構成比率 …… 175
表12　ＳＤ102出土土器器種構成比率 …… 179
表13　ＳＫ243出土土器器種構成比率 …… 216
表14　ＳＸ251出土土器器種構成比率 …… 217
表15　ＳＤ256出土土器器種構成比率 …… 230
表16　ＳＥ417出土土器器種構成比率 …… 248
表17　ＳＤ681出土土器器種構成比率 …… 293
表18　ＳＤ687出土土器器種構成比率 …… 294
表19　ＳＤ702出土土器器種構成比率 …… 296
表20　ＳＤ936出土土器器種構成比率 …… 297
表21　ＳＤ741出土土器器種構成比率 …… 323
表22　ＳＫ787出土土器器種構成比率 …… 331
表23　ＳＫ819出土土器器種構成比率 …… 332

表24　包含層出土土器の構成比率 …… 369
表25　弥生・古墳時代
　　竪穴住居・掘立柱建物時期一覧 …… 374
表26　平安時代後期～室町時代
　　掘立柱建物・柵時期一覧 …… 379
表27　弥生土器・古式土師器の
　　器種構成比率１ …… 383
表28　弥生土器・古式土師器の
　　器種構成比率２ …… 384
表29　弥生土器・古式土師器の
　　器種構成比率３ …… 385
表30　平安時代後期～鎌倉時代土器の
　　器種構成比率１ …… 389
表31　平安時代後期～鎌倉時代土器の
　　器種構成比率２ …… 390
表32　室町時代土器の器種構成比率１ …… 396
表33　室町時代土器の器種構成比率２ …… 397
表34　平安時代後期～
　　室町時代の土器の変遷 …… 401

写　真　目　次

写真１　周辺の弥生・古墳時代遺跡 …… 6
写真２　周辺の古墳時代遺跡 …… 7
写真３　試掘調査作業風景 …… 13
写真４　試掘調査作業風景 …… 14
写真５　発掘調査作業風景 …… 16
写真６　出土遺物整理作業風景 …… 17

付　章

挿　図　目　次

図１　主要珪藻化石群集の層位分布 …… 482
図２　主要珪藻化石群集の層位分布 …… 482
図３　花粉化石群集の層位分布 …… 484
図４　植物珪酸体群集の層位分布 …… 489
図５　西田井遺跡胎土分析試料重鉱物組成 … 495
図６　斜方輝石 …… 493
　　－単斜輝石－角閃石三角ダイアグラム
図７　Ｘ線回析図 (1) …… 496
Ｘ線回析図 (2) …… 497
Ｘ線回析図 (3) …… 498
Ｘ線回析図 (4) …… 499
Ｘ線回析図 (5) …… 500
Ｘ線回析図 (6) …… 501
Ｘ線回析図 (7) …… 502
Ｘ線回析図 (8) …… 503

表　目　次

表１　分析試料一覧 …… 476
表２　第ＩＡ・ⅡＡ区の珪藻分析結果 (1) …… 478
　　第ＩＡ・ⅡＡ区の珪藻分析結果 (2) …… 479
表３　第ⅢＣ・ⅢＤ区の珪藻分析結果 (1) …… 480
　　第ⅢＣ・ⅢＤ区の珪藻分析結果 (2) …… 481
表４　第ＩＡ・ⅡＡ区の花粉分析結果 …… 485
表５　第ⅢＣ・ⅢＤ区の珪藻分析結果表 (1) … 486
　　第ⅢＣ・ⅢＤ区の珪藻分析結果表 (2) … 487
表６　植物珪酸体分析結果 …… 488
表７　西田井遺跡リン・カルシウム分析試料一覧
　　および分析結果 …… 491
表８　胎土重鉱物分析結果 …… 494

図　版　目　次

図版１　珪藻化石（１）　…… 509
図版２　珪藻化石（２）　…… 510
図版３　珪藻化石（３）　…… 511
図版４　珪藻化石（４）　…… 512
図版５　花粉化石（１）　…… 513
図版６　花粉化石（２）　…… 514
図版７　花粉化石（３）　…… 515
図版８　花粉化石（４）　…… 516
図版９　花粉化石（５）　…… 517
図版10　植物珪酸体　…… 518
図版11　胎土重鉱物（１）　…… 519
図版12　胎土重鉱物（２）　…… 520
図版13　胎土重鉱物（３）　…… 521

第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過

一般国道24号線のバイパス建設に係る埋蔵文化財の発掘調査が開始されたのは、建設省近畿地方建設局和歌山工事事務所が、和歌山県と奈良県を結ぶ主要幹線道路としてその役割を果してきた一般国道24号線の渋滞緩和を図るためバイパスの建設を計画したことに始まる。昭和42年度から岩出バイパス（那賀郡打田町黒土～同岩出町備前）の施工が開始され、これに伴って、昭和52・53年度に打田町東田中遺跡の調査が実施された。また、昭和43年度から和歌山バイパス（和歌山市花山～岩出町備前）の施工が開始され、まず和歌山市街地東部の交通渋滞を緩和するため和歌山市栗栖から和歌山港・鳴神山口線に接続する花山交差点付近にかけての施工計画に伴って昭和52～54年度に鳴神地区遺跡の調査が実施された。その調査成果は『鳴神地区遺跡発掘調査報告書』（和歌山県教育委員会1984年発行）に詳述されている。その後、和歌山市東部の紀ノ川南岸、堤防上を走る国道24号線のバイパス建設予定地は、和歌山市出島（八軒屋）辺りから紀ノ川北岸に渡り、紀ノ川に沿うように東西に走る。和歌山バイパスの予定ルートは、沖積平野の幾つかの微高地形の南縁を縫うように横断する。この施工ルートに伴って埋蔵文化財の調査が継続されることとなった。

微高地形上には弥生時代から古墳時代、あるいは奈良時代にかけての県下でも有数の大規模な集落遺跡が多く存在することが知られている。和歌山バイパス工事関連として昭和56年度から同60年度にかけて発掘調査の行われた田屋遺跡の集落もこの微高地形上に立地している。田屋遺跡では弥生時代から古墳時代にいたる竪穴住居や掘立柱建物などが多数発見され、大量の遺物が出土している。なお、田屋遺跡は昭和56年に同バイパス工事に伴って不時発見され、その後の試掘調査により範囲確定され（この時点では今回西田井遺跡として発掘調査された地区の一部が田屋遺跡東端部に含まれていた）、発掘調査された遺跡である。

当時、西田井遺跡の存在も認識されていなかったが、田屋遺跡の東側の西田井地区にも同様の微高地形がいくつか続き、遺跡が存在することが予想された。そのため、和歌山県教育委員会文化財課と建設省和歌山工事事務所の協議により、昭和58年度に、田屋遺跡発掘調査事業の一環として、田屋遺跡の東に続く西田井地区から七瀬川間の延長約650ｍについて試掘調査（第１次試掘調査）が実施された。

この試掘調査では各微高地上に密度の高い遺構、遺物の存在が確認され、その後、西田井遺跡と命名された（実際の公の刊行物としてこの遺跡名称が使用されたのは平成元年に和歌山県教育委員会によって刊行された『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』からで、その際に田屋遺跡の東端部の西田井地区が分離されて西田井遺跡に組み込まれた）。試掘結果をもとに、この新発見の遺跡の取扱いについて、文化財課と建設省和歌山工事事務所が協議、調整を重ねた結果、昭和59年度から３年次にわたる発掘調査を実施することが決定された。しかし、この時点で予定された全面調査地点は、20ｍ間隔で設定された試掘坑での点的な調査結果によるものであったため、文化財課と建設省和歌山工事事務所との再協議が行われ、昭和60年度には全面調査範囲確定の精度を上げるために第２次試掘調査を実施し、全面調査範囲の見直し、修正を行った。なお、各年度の調査範囲や調査方法等については第Ⅲ章において詳述する。

また、発掘調査の最終年度である昭和61年度には文化財課と建設省和歌山工事事務所が、出土した予想を上回る大量の遺物の整理や報告書の刊行について協議した。その結果、昭和62年度から４年次にわたって出土遺物整理事業を実施し、最終年度の平成２年度に発掘調査報告書を刊行することが決定された。

なお、発掘調査は社団法人和歌山県文化財研究会によって実施されたが、出土遺物整理事業は昭和62年度に社団法人和歌山県文化財研究会から分離、独立して設立された財団法人和歌山県文化財センターに継承され、現在、発掘調査報告書を刊行するにいたった。

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

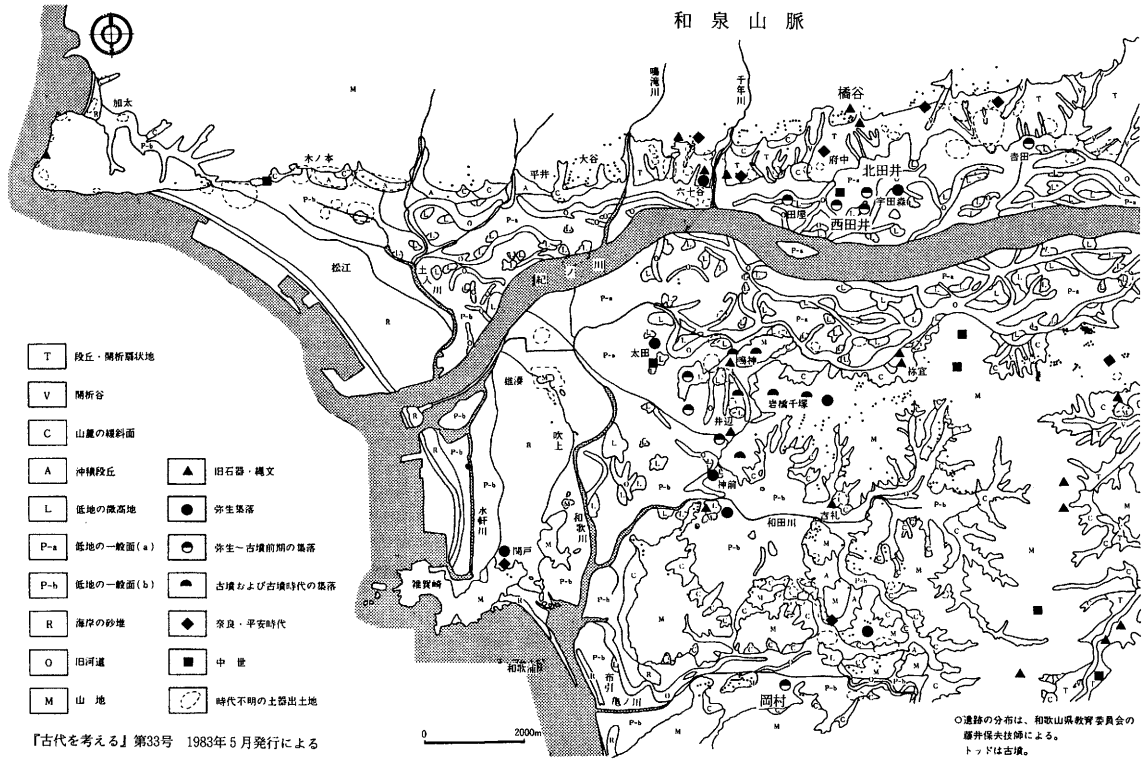
第1節　地理的環境（第1・2図）

西田井遺跡（388）は、現在の行政区分では和歌山市西田井・北に所在し、北田井集落と西流する紀ノ川の間に位置する。西田井遺跡の周辺には、西側に接して田屋遺跡（93）、北東側に接して北田井遺跡（124）、宇田森遺跡（149）など弥生時代から古墳時代にかけての大規模な集落遺跡が知られている。

西田井遺跡の立地する沖積平野は、地理的な分野から分類すれば沖積Ⅲ面に位置する(註1)。細かく見れば、紀ノ川北岸の沖積Ⅲ面に形成された七瀬川や旧自然河道の扇状地形と思われる微高地の先端に立地する。周辺の遺跡は、狭小な沖積平野上の微高地に低湿地を避けて形成された集落であり、更に上流に向かって紀ノ川に沿うように点在していたものと思われる。発掘調査地においても、紀ノ川に向かって南下する旧自然河道や低湿地を避けて微高地を中心に遺構が営まれていたことが確認されており、一つの遺跡内においても幾つかの同様の集落が存在する。調査時の当地周辺の地目は、水田もしくは畑地となっていた。調査対象地周辺は、紀ノ川及び紀ノ川の下流に向かって緩やかに移行し、標高約7～8mを測る。

また、北岸では、紀ノ川の主流が弥生時代から平安時代頃まで和歌山市六十谷から現在の土入川・和田川を経て和歌浦に注いでいたと考えられ、田屋遺跡より西側の平野部には数遺跡が認められるに過ぎない。

紀ノ川南岸では北岸の在り方とは対象的に、和歌山市下三毛から栗栖を経て加納付近までの沖積平野上は、比較的新しい時代まで紀ノ川の氾濫源となり旧自然河道が北岸以上に網目状に存在していた状況が窺える。そのため、この地域の南岸では、平安時代以前の集落は殆ど存在しない。平安時代以前の集落が立地するのは、和歌山市鳴神・井辺から太田にかけての低丘陵の山麓や紀ノ川の自然堤防上で、鳴神地区遺跡群（314～319）・井辺遺跡（308）・秋月遺跡（331）・太田黒田遺跡（327）などが存在する。



第1図　紀ノ川周辺の微地形と遺跡の分布

第2節　歴史的環境（表1、第2図）

地理的環境でみたように、西田井遺跡の所在する沖積平野の微高地上および周辺には数多くの大遺跡が分布し、紀ノ川北岸（右岸）での原始古代から中世に至る中枢部の様相を呈している。ここでは、周辺部の遺跡について簡単に触れておくことにしたい。

先土器時代～縄文時代草創期

先土器時代から縄文時代草創期の遺跡（遺物の散布地）は、紀ノ川の沖積平野部では見つかっていない。先土器時代の遺跡は、西田井遺跡などの所在する平野部から少し離れた丘陵台地（和歌山市鳴滝遺跡、ナイフ形石器）や山間に入った地域（和歌山市・貴志川町山東大池遺跡、ナイフ形石器・角錐状石器・尖頭器）などの場所に存在している。その他、第2図に示す範囲内では岩橋千塚古墳群（185）の裏側に当たる寺内総綱寺谷遺跡（189）・園部遺跡（74）からナイフ形石器が単独で出土しているに過ぎず、遺跡としての様相を知ることはできない。また、鳴神貝塚（317）から有舌尖頭器の出土が報じられている。

縄文時代

縄文時代になると先土器時代よりも平野部（当時の海岸線）に近接した遺跡の立地が認められ、生活の場として形成された貝塚が中心に発見されているが、遺跡そのものは海南市以南の河川流域ほども密な状態ではない。縄文時代の遺跡は、紀ノ川北岸の台地上に中期を主体とする直川遺跡（89）が、和歌山市東部の丘陵から緩やかに延びる緩斜面状の台地に禰宜貝塚（176）・吉礼貝塚（298）・鳴神貝塚などの前・中期を主体として後期ないし一部晩期まで継続する遺跡が、丘陵裾部に後期後半から晩期前半を主体とする岡崎縄文遺跡（309）が存在している。

縄文時代後期から晩期になると、岡崎縄文遺跡が示すように集落の立地に変化が認められ、沖積平野や扇状地の陸地化に伴い晩期中葉を主体とする川辺遺跡（145）、僅かながら晩期後半の遺物が散見される田屋遺跡（93）・西田井遺跡などが存在してくる。加えて先に見た鳴神貝塚では、晩期の埋葬人骨一体（伸展葬）が発見されている。縄文時代の住居は、西田井遺跡で住居とみられる1棟の竪穴と川辺遺跡（145）で2棟検出されているに過ぎない。限られた資料ではあるが、これらの遺跡から出土する土器様相から各地域との交流を推し量ることも可能となってきている。

弥生時代（写真1）

続く弥生時代前期初頭には沖積平野の広域な陸地化と弥生文化の伝播波及に伴い、集落の形成が活発になってくるが、県下では弥生時代前期古段階の資料は見出されていない。また、弥生時代の生産基盤となる水稲耕作を示す資料は、全期間を通して状況証拠としての遺物に頼らざるを得ない状況にある。これは西田井遺跡の調査でも示されるように、集落を中心とした調査に終始することにも一部起因するものと思われる。

紀ノ川北岸では昭和40年代前半の大規模な発掘調査によって、宇田森遺跡（149）・吉田遺跡（393）・北田井遺跡（124）で弥生時代から古墳時代にかけての集落の一部が調査されている。また、田屋遺跡や近年調査の行なわれた川辺遺跡・山口遺跡（142）などの成果から、集落間の消長を推し量ることが可能となってきている。宇田森遺跡[註2]や北田井遺跡では集落の一部を区画する環濠状の溝が確認され、弥生時代中期中葉に集落の拡大が顕著に認められている。しかし、吉田遺跡を含めて中期末には集落が終息する向きにあり、再び集落が認められるのは後期中葉ないしは後半に至ってからのことである。これらの集落に併行して、田屋遺跡や川辺遺跡・山口遺跡が後期中葉以降に出現し、多くの遺跡が古墳時代へと継続されていく。

一方、紀ノ川南岸に目を転じてみると、弥生時代の初期には北岸にやや遅れた地形の陸地化を示すかのよ

番号	遺跡名	種類	時代	内容
(75)	園部円山古墳	古墳	古墳	円墳、横穴式石室、金環、圭頭太刀柄頭、馬具、須恵器他
77	有功遺跡	散布地	古墳？	土師器
80	大同寺墳墓	墳墓	奈良	石櫃、金銅製蔵骨器
84	六十谷遺跡	散布地	縄文～弥生	弥生土器、石鏃、石庖丁、縄文土器、石錘
(88)	六十谷古墳群	古墳群	古墳	前方後円墳？1基、円墳1基、円筒埴輪
89	直川遺跡	散布地	縄文	縄文土器
(93)	田屋遺跡	集落跡	縄文～鎌倉	竪穴住居、自然河道、溝、弥生土器、土師器、木製品ほか
94	府中Ⅱ遺跡	散布地	弥生	弥生土器
95	府中Ⅲ遺跡	散布地	縄文	石鏃、縄文土器、石棒
(96)	府中遺跡	散布地	奈良	須恵器、土師器
98～104	北山古墳群	古墳群	古墳	前方後円墳1基、円墳4基、方墳1基
105～117	直川八幡山古墳群	古墳群	古墳	前方後円墳1基、円墳11基、方墳1基
(118)	八王寺山古墳群	古墳群	古墳	前方後円墳3基、円墳17基(?)木棺墓、横穴式石室
119	橘谷Ⅰ遺跡	集落跡	弥生	弥生土器
120	橘谷Ⅱ遺跡	散布地	弥生	弥生土器
(121)	橘谷Ⅲ遺跡	散布地	弥生	竪穴住居、濠状遺構、弥生土器、銅鏃
122	橘谷銅鐸出土地	出土地	弥生	銅鐸
(124)	北田井遺跡	集落跡 古墳	弥生～室町	竪穴住居、溝、古墳、弥生土器、小形鏡、土師器、須恵器、埴輪
125～127	別所古墳群	古墳群	古墳	円墳3基
(128)	上野古墳群	古墳群	古墳	前方後円墳1基、円墳7基
129～139	山口古墳群	古墳群	古墳	前方後円墳1基、円墳10基
140	山口廃寺跡	寺院跡	白鳳	塔心礎（緑泥片岩製）、瓦、須恵器、土師器
141	中筋日延遺跡	散布地	古墳～奈良	土師器、須恵器
(142)	山口遺跡	集落跡	弥生～古墳	掘立柱建物、溝 弥生土器、土師器、須恵器
(144)	里遺跡	散布地	弥生～古墳	溝 弥生土器、土師器、須恵器
(145)	川辺遺跡	集落跡	縄文～江戸	竪穴住居、掘立柱建物、地震後、縄文土器、弥生土器、土師器
148	藤田遺跡	散布地	弥生	弥生土器
(149)	宇田森遺跡	集落跡	弥生	竪穴住居、溝、弥生土器、石鏃、石庖丁、石製紡錘車ほか
(150)	上野廃寺跡 (紀伊薬師寺跡)	寺院跡	白鳳	薬師寺式伽藍配置（変形）、瓦、塼、隅木蓋瓦、緑釉ほか
153	北野窯跡	窯跡	古墳～奈良	須恵器
162	小倉古墳群	古墳群	古墳	円墳9基
164	明楽古墳群	古墳群	古墳	円墳14基
165	小倉神社古墳群	古墳群	古墳	円墳2基
167	モント古墳跡	古墳群	古墳	円墳4基
170	奥池遺跡	散布地	古墳～奈良	窯跡(？)、須恵器
171	高積山遺跡	出土地	中世	宋銭他1万枚余
173	城ケ峯城跡	城跡	中世	方形状の土壇、高さ1m内外の土塁
174	禰宜Ⅰ遺跡	散布地	古墳	土師器
(176)	禰宜貝塚	貝塚	縄文	縄文土器、石器、骨角器、ハイガイ、ヤマトシジミほか
183	和佐古墳群	古墳群	古墳	円墳7基
(184)	花山古墳群	古墳群	古墳	前方後円墳9基 円墳89基以上
(185)	岩橋千塚古墳群	古墳群	古墳	前方後円墳13基、方墳4基、円墳455基以上
(186)	井辺前山古墳群	古墳群	古墳	前方後円墳5基 円墳60基以上
(187)	寺内古墳群	古墳群	古墳	円墳33基以上
209	山東古墳群	古墳群	古墳	円墳15基
(219)	吉礼砂羅谷窯跡	窯跡	古墳～奈良	須恵器
245	伊太祈曽神社古墳群	古墳群	古墳	円墳3基
307	神前遺跡	散布地	弥生	弥生土器、石庖丁、紡錘車、石斧
(308)	井辺遺跡	集落跡	弥生～古墳	井戸、溝、弥生土器、土師器、土錘、石器、木製品
(309)	岡崎縄文遺跡	貝塚	縄文	縄文土器、石器、ハマグリ、マガキほか
(310)	森小手穂埴輪窯跡	窯跡	古墳	埴輪（円筒、形象）
(311)	大日山Ⅰ遺跡	集落跡	古墳～奈良	竪穴住居、掘立柱建物、土師器、須恵器、鳥形土器、滑石製勾玉
313	井辺Ⅱ遺跡	散布地	弥生～古墳	弥生土器、土師器、須恵器
(314)	鳴神Ⅱ遺跡	用水路跡	弥生～平安	弥生土器、土師器、須恵器、木製品
315	鳴神Ⅲ遺跡	散布地	古墳	土師器、須恵器
(316)	鳴神Ⅳ遺跡	集落跡	弥生～古墳	竪穴住居、井戸、溝、土師器、須恵器、木製品
(317)	鳴神貝塚	貝塚	縄文～弥生	縄文土器、骨製品、人骨、弥生土器
(318)	鳴神Ⅴ遺跡	集落跡 墓	弥生～平安	方形周溝墓、円形周溝墓、方形の土壇状遺構、木棺墓
(319)	音浦遺跡	集落跡	古墳	竪穴住居、掘立柱建物、土師器、須恵器、韓式系土器
325	紀の川銅鐸出土地	出土地	弥生	銅鐸
326	有本銅鐸出土地	出土地	弥生	紀の川南川岸から出土 土師器
(327)	太田・黒田遺跡	集落跡	弥生～室町	竪穴住居、土壙墓、井戸、溝、弥生土器、石器、銅鐸、土師器
(331)	秋月遺跡	集落跡 古墳	弥生～鎌倉	竪穴住居、前方後円墳1基、方墳、溝、井戸、土師器ほか
332	津秦遺跡	散布地	弥生	弥生土器、サヌカイト
(356)	太田城跡	城跡	室町～江戸	土塁、堀
(380)	山口御殿跡	屋敷跡	江戸	周濠、建物
(388)	西田井遺跡	集落跡	縄文～江戸	本報告書にて詳述
389	井ノ口遺跡	散布地	古墳・中世	須恵器、土師器、瓦器
392	楠本遺跡	散布地	古墳・中世	須恵器、土師器、瓦器
(393)	吉田遺跡	集落跡	弥生～奈良	竪穴住居、掘立柱建物、方形周溝墓、溝、弥生土器ほか

『和歌山県遺跡地名表』和歌山県教育委員会 平成元年3月発行に加筆、(　　)印 一部で調査の行なわれた遺跡

表1　遺跡地名表



『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』平成元年３月発行による

第２図　西田井遺跡とその周辺

うに太田黒田遺跡（327）や秋月遺跡（331）では、弥生時代前期中頃以後でないと遺構や遺物が認められない。紀ノ川南岸地域において弥生時代の集落の拡がりを一部把握できるのは、県下で最大規模の拠点集落として位置付けられる太田黒田遺跡[註3]だけである。太田黒田遺跡の周辺部には、神前遺跡（307）・鳴神Ⅳ遺跡（316）や津秦遺跡（332）でも若干の遺物が認められ、後期末には井辺遺跡（308）や秋月遺跡と共に紀ノ川南岸の集落の一群を形成している。

これらの沖積平野部の遺跡とは対照的に、弥生時代中期末から後期前半にかけての遺跡は紀ノ川両岸の丘陵上や山腹に多く認めることができ、近接して扁平鈕式六区袈裟襷文銅鐸の出土（122）した橘谷遺跡[註4]（119～121）や天王塚山遺跡（仮称210）などが存在している。いわゆる高地性集落としての機能を有する遺跡であり、これらと同様の動向は有田川や日高川流域の弥生集落相互にも認めることができ、弥生集落を構成する地域全体の中で把握していく必要のある問題と考えられる。

また、太田黒田遺跡出土の外縁鈕式四区袈裟襷文銅鐸を始め、平野部から出土する銅鐸の集中する地域として砂山出土の突線鈕式袈裟襷文銅鐸（325）、有本出土の扁平鈕式流水文銅鐸（326）などがあり、宇田森遺跡では大屋都姫神社境内から六区袈裟襷文銅鐸の出土が伝えられている。

古墳時代（写真１・２）

古墳時代には弥生時代後期から継続する集落が多く、紀ノ川北岸では西田井遺跡を始め吉田遺跡・田屋遺跡・北田井遺跡などに幾つかの集落をみることができ、紀ノ川北岸での中心地を形成している。北田井遺跡では後期の集落の一部に方墳や円墳が築造され、墓域としての様相を呈している部分も認められる。庄内式から布留式併行期の竪穴住居は、方形プランを呈しベッド状遺構や貯蔵穴を有するものが普遍的に存在する。例外なく田屋遺跡にも存在し[註5]、引き続いて吉田遺跡と共に造りつけ竈の設けられた竪穴住居も多数検出されている。西田井遺跡から西へ約４kmほど離れた地域には、陶質土器（須恵器）が多量に出土した楠見遺跡、同様の土器と共に整然と配置された大規模掘立柱建物群が見つかった鳴滝遺跡が存在する。古墳時代後期末の集落の検出例はあまり顕著でなかったが、川辺遺跡の調査により竪穴住居と掘立柱建物で構成される集落の一部が明らかにされてきている。

紀ノ川南岸では県下で最も拓けた土地柄を反映して、弥生時



宇田森遺跡　A溝（1968年）



北田井遺跡　３・２号住居



北田井遺跡　Ⅱ－１号住居



大日山Ⅰ遺跡　14・15号住居



田屋遺跡　竪穴住居

写真１　周辺の弥生・古墳時代遺跡

代後期末から継続する集落（秋月遺跡・井辺遺跡・太田黒田遺跡）や新たに形成される多くの集落（音浦遺跡319・大日山Ⅰ遺跡311など）が存在している。特に、音浦遺跡では古墳時代中期の集落内において土師器・須恵器と共に多くの韓式系土器・陶質土器が出土し、北岸の田屋遺跡などと共に朝鮮半島との繋がりが注目される地域の一つでもある。また、鳴神Ⅱ～Ⅳ遺跡・音浦遺跡などの鳴神地区遺跡群や秋月遺跡は紀ノ川河口部の開発と係りをもつ集団の集落として位置付けることが可能であろう。(註6)



川辺遺跡　91・92号住居



川辺遺跡　72号建物

写真2　周辺の古墳時代遺跡

これらの集落に関係して造営された古墳の大半は、和泉山脈から紀ノ川に向かって延びる丘陵や、南岸の岩橋山塊を中心とした地域に集中している。西田井遺跡の北側の丘陵には、前代の高地性集落とほぼ重複する範囲に八王子山古墳群（118）が、西に連れて直川八幡山古墳群（105～117）・北山古墳群（98～104）・六十谷古墳群（88）が、東に連れて別所古墳群（125～127）・上野古墳群（128）・山口古墳群（129～139）などの多くの古墳群が形成されている。中には園部円山古墳（75）のように、大型石材を用いて横穴式石室を構築した古墳も見受けられる。平地には西田井遺跡の方形周溝墓を始め、藤田古墳（146）・硲古墳（147）、北田井遺跡の古墳が存在している。

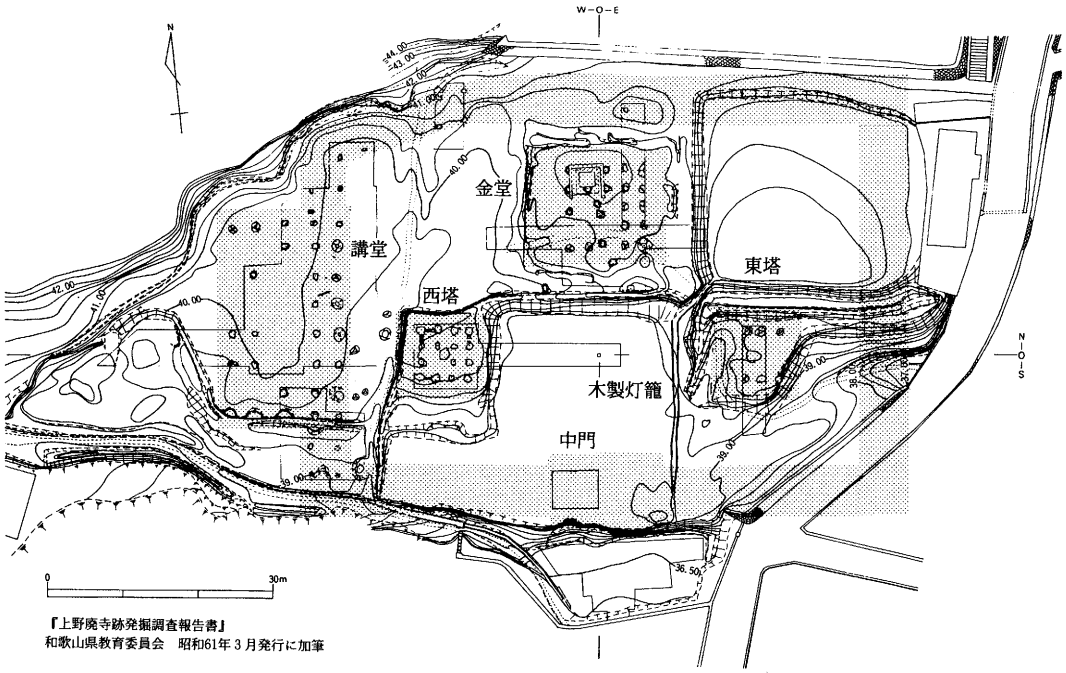
一方、和歌山市東部の岩橋山塊丘陵上には、全国的にも著名な岩橋千塚古墳群（185）・花山古墳群（184）・井辺前山古墳群（186）・寺内古墳群（187）などの一大古墳群が形成されている。また、沖積平野の秋月遺跡では初現期の前方後円墳や方墳が、鳴神Ⅴ遺跡（318）で円墳や方墳が築造されている様相から、紀ノ川下流域の古墳群の変遷が辿られるようになってきている。今後も、平野部での古墳の発見が相継ぐものと思われる。当然のことながら、秋月遺跡や鳴神Ⅱ～Ⅳ遺跡・音浦遺跡で確認されている集落の存在と有機的な関連を有する古墳群であることには間違いない。

奈良時代～平安時代(註7)

奈良時代には紀ノ川北岸で、吉田遺跡（393）・府中遺跡（96）・山口遺跡（142）・川辺遺跡（145）などの諸遺跡が存在する。吉田遺跡で確認された奈良時代の諸遺構は「駅家」的な性格(註8)が、府中遺跡を中心とした地域に国府の存在を比定する考えが、川辺遺跡では2条の溝に挟まれた幅員8ｍの道が、加えて川辺遺跡周辺に「河辺屯倉」を想定する考えも出されている。これらの状況から、西田井遺跡の所在する河北地域は、南に紀ノ川の水運を有し、かつ東西に走る南海道と南北に走る雄ノ山峠越えの熊野街道との交点に近く、水陸の交通の便に適しており交通の要衝地であったことはいうまでもない。また、上野廃寺（150　第3図）・山口廃寺（140）・直川廃寺（90）などの白鳳寺院の存在も見逃せないところである。

紀ノ川南岸には、太田黒田遺跡・秋月遺跡・大日山Ⅰ遺跡・鳴神地区遺跡群などに奈良時代の遺構・遺物を見ることができ、律令時代においても紀伊国の中枢部であったことが窺われる。

西田井遺跡隣接部の平安時代以降の状況は今一つ明瞭とは言い難い状況にあり、少し広い範囲をも視野に含めて見る必要があろう。一つには律令体制の崩壊と共に引き興された荘園支配と土地の利用関係、今一つは国府の移動や駅家の変動の問題が絡んでくるものと思われる。僅かながら、川辺遺跡で条里遺構や集落が



第３図　上野廃寺地形測量図

確認されている。一方、河南地域では秋月遺跡・鳴神Ｖ遺跡などに濃密な様相を見ることができる。

鎌倉～室町時代

平安時代前・中期を通して不明瞭であったこの地域にも、平安時代後期になると西田井遺跡でも集落が見られるようになる。続く鎌倉・室町時代には北田井遺跡・宇田森遺跡・川辺遺跡など広範囲に集落の成立を認めることができる。この様相は、この時期河北地域の荘園と公領の分布状況がかなり複雑な様相を呈していることにも起因すると考えられる。河南地域も、中世紀伊国の一宮日前国懸神宮とその荘園との関係、さらに雑賀党や太田党などの諸勢力と関係する太田城（356）の存在からも、秋月遺跡周辺部において様々な遺跡が展開するところである。また、一方で集落遺跡や城館と並んで中世山城の存在も重要である。

以上見てきたように、西田井遺跡の存在する紀ノ川下流域は県下の中でも極めて遺跡の密集する地域で、拓けた沖積平野の生産力と常なる紀ノ川の氾濫を背景に様々な社会が展開していったものと考えられる。

註

（１）額田雅裕「和泉山脈と和歌山平野」『和歌山地理』第８号　1988年　和歌山地理学会

（２）集落が最も拡大した時の範囲は東西・南北約600ｍの微高地上を占め、自然流路を挟んで幾つかの集落が存在したものと考えられる。また、生産基盤となる水田の範囲を遺跡の北東側に求めることも可能である。

（３）太田黒田遺跡はＪＲ和歌山駅の東側に位置し、紀ノ川の旧自然堤防上に立地する県下最大規模の弥生集落である。ただ、駅東口周辺の区画整理・再開発事業に伴い一部が調査されているに過ぎず、遺跡の全体像を明らかにできるものではないが、遺構・遺物の在り方から弥生時代の拠点集落とすることができる。

（４）前田敬彦『山口遺跡 第５次発掘調査報告書』1990年　和歌山市教育委員会に拠ると、山口遺跡は「高地性集落の橘谷遺跡とは、土器でみる限り共存期間を持っていたようで」との指摘があり、諸集落の消長について慎重に検討していく必要のある課題である。

（５）詳細に見ていくと各集落の消長は一率ではなく、集落により布留式併行期の中で一時途絶える期間を認めることもできる。また、旧自然河道の一部は古墳時代後期末に埋没していることが明らかになっている。

（６）秋月遺跡に含まれる地域に日前国懸神宮が鎮座しており、日前国懸神宮を司祭してきた紀国造家の始祖が早くから紀ノ川下流域の名草郡を本拠として紀ノ川河口部を開発してきた一族と考えられている。例えば、音浦遺跡・鳴神Ｖ遺跡などで見つかった古墳時代の大溝がこの地域一体を潤す用水路と見做されている。

（７）文献資料からの考察については、『岩橋千塚』『和歌山市における古墳文化』に詳述されている。

（８）三宅正浩「奈良時代居住形態の一例」『考古学論集』第１集　1985年　考古学を学ぶ会

第Ⅲ章　調査の方法と概要

第１節　調査の範囲と方法

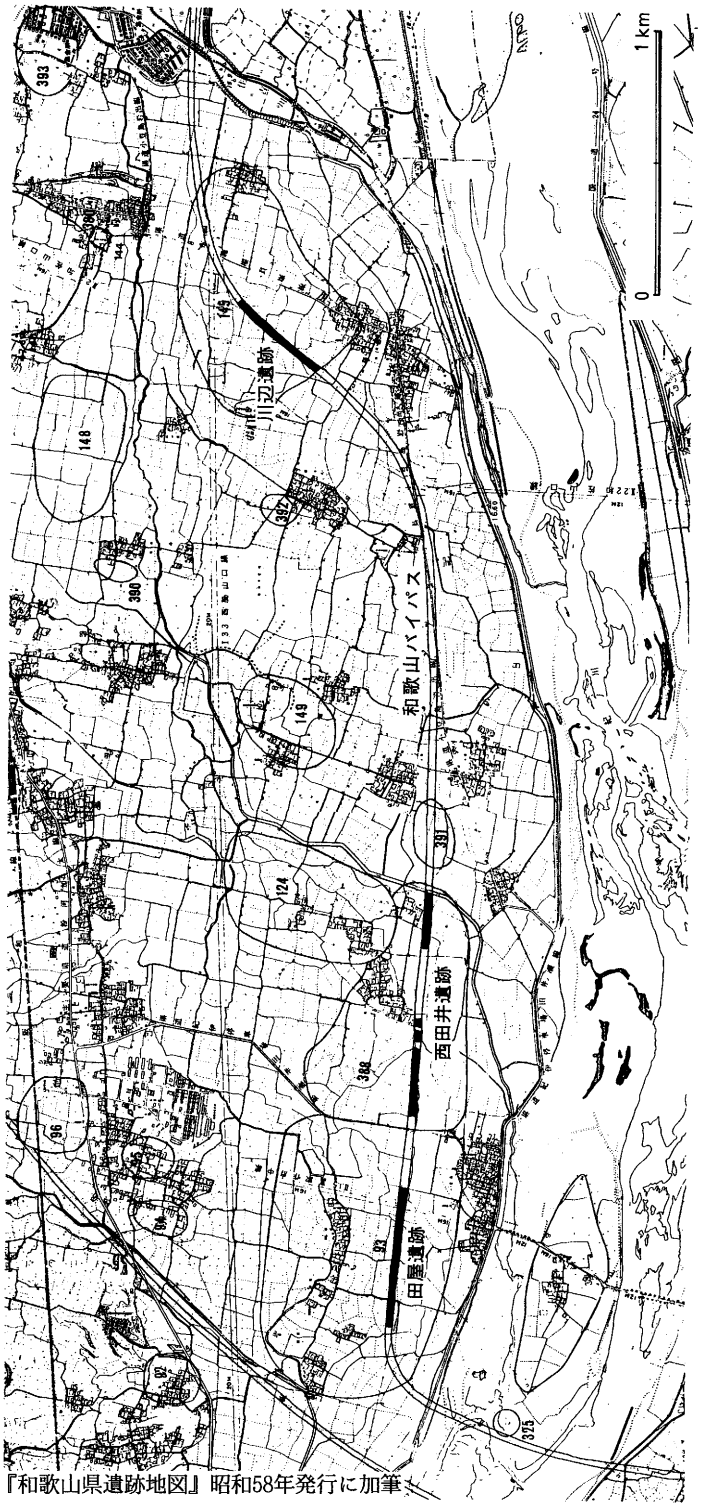
調査の範囲（第４・７図）

調査の範囲は、一般国道24号（和歌山バイパス）建設予定地内に限られる南北幅30ｍ・東西延長約880ｍ、総面積約26,400㎡を対象地として実施した。先述ないし後述するように、調査対象地および全面調査区の追加・変更がなされたが、最終的には県道紀伊停車場田井瀬線から東へ約80ｍの地点から全面調査を実施することとなった。

試掘調査を省く全面調査対象面積は、約13,800㎡となる。その内調査区域を横切る市道・農道・堤防等を省いた実質の掘削面積は、約11,000㎡を測る。また、２年次にわたる試掘調査の掘削面積は、約2,200㎡に及ぶ。

調査の方法

調査地区の地区割は、全体を統一したものにはなっていない。第Ⅰ区は、国土座標第Ⅵ系の座標軸を使用した。第Ⅱ区は、調査地区の中央西寄りに任意の基準点（０・０）（Ｘ－193597.891ｍ・Ｙ－70236.517ｍ）を設定し、基準点より東はＥ、西はＷ、南はＳ、北はＮを冠し、これに基準点からの距離で地点を表示した。調査地区に設定した方４ｍの小区画は、各々の北東隅の距離をもって呼称することにした。第Ⅲ区は、第Ⅱ区の延長Ｅ 260Ｓ17を基準点（０・０）とした。地点の表示及び小区画の呼称は、第Ⅱ区と同様の方法で行った。なお、図面上の復元では調査地区の基準線は、国土座標のＹ軸に対して第Ⅱ区では約２°西に偏し、第Ⅲ区では約３°東に偏する。本書の遺構実測図・文中に用いた方位のＮは、上記の各々の地区の基準線の北を示す。



『和歌山県遺跡地図』昭和58年発行に加筆

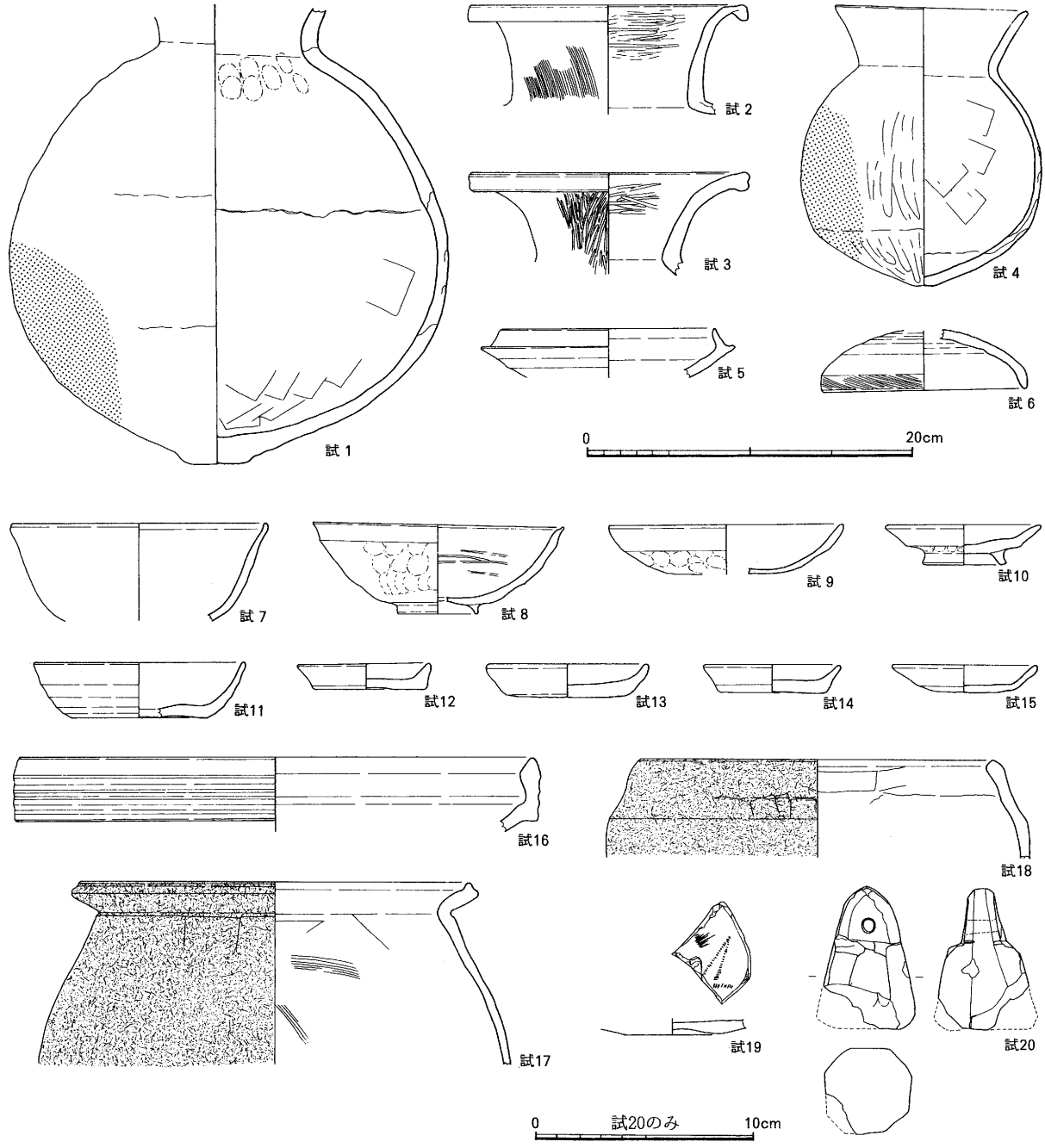
第４図　発掘調査位置図

第２節　調査の概要

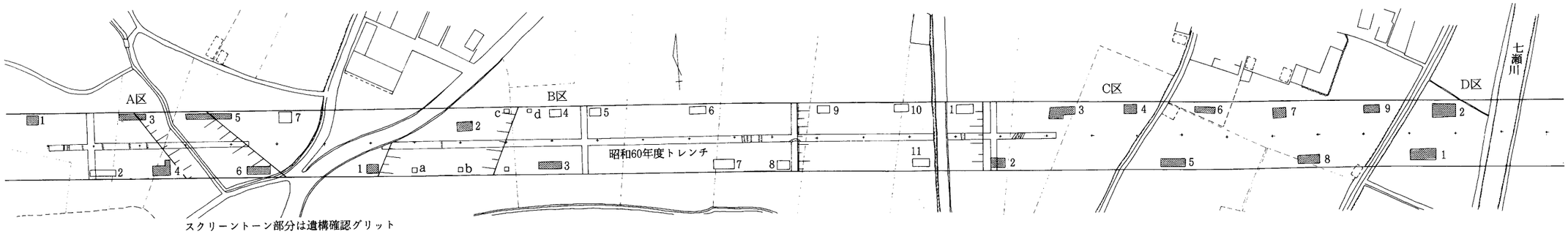
１　試掘調査（第６図）

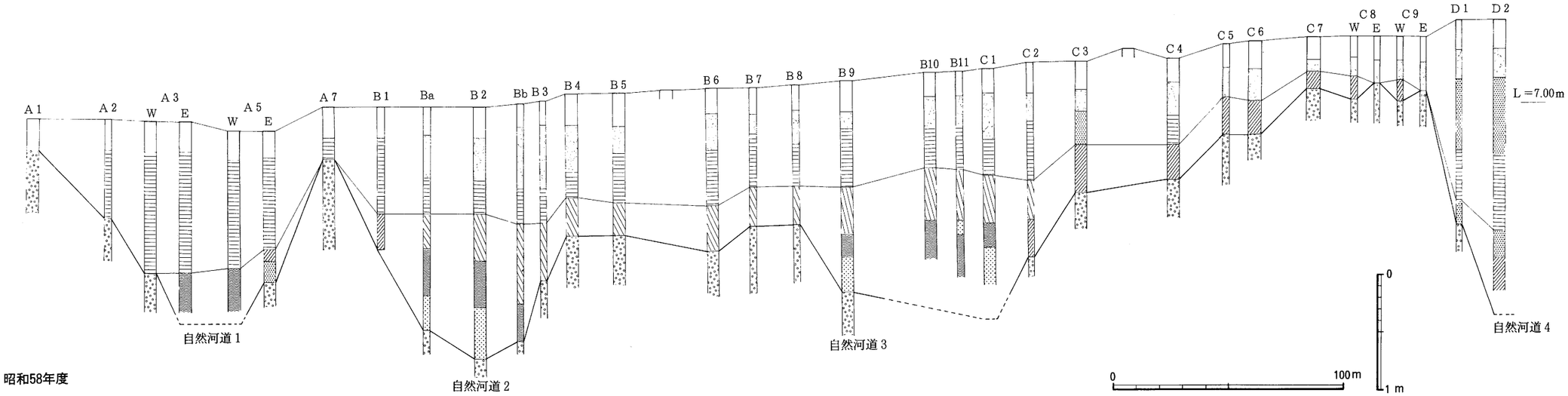
先述したように建設省近畿地方建設局では国道24号線の混雑緩和のため新たに紀ノ川北岸にバイパスを建設することとなったが、このルート上にあたる和歌山市西田井・北は周辺の状況から弥生・古墳時代並びに平安時代の集落跡の存在が濃厚な地区であった。このため工事に先立って建設予定地内の遺跡の有無、その状況を把握する必要が認められ、試掘調査が実施される運びとなった。試掘調査は昭和58年度と同60年度の２年次にわたって実施されたものである。以下、年次毎にその概要を記述することにする。

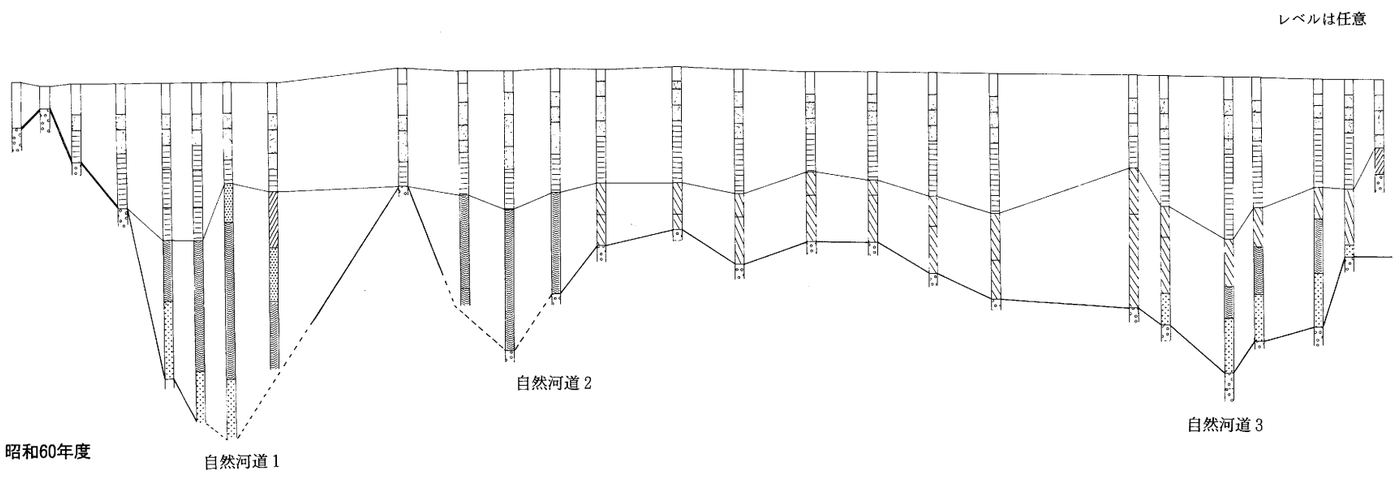
第１次試掘調査　昭和58年度（第６図中段柱状土層図・写真３）



第５図　試掘調査出土土器・土製品実測図







昭和58年度	昭和60年度
耕土・床土	耕土
黄灰色泥土	黄灰色土・茶褐色土・黄褐色土
茶灰色泥土（中世の包含層）	茶褐色土・黄灰色土（鉄分混入）
淡茶灰色泥土（粘質）	灰褐色弱粘質土・灰色粘質土
青灰色シルト	灰色粘質土・水色粘土・灰色粘土
濃茶色泥砂	茶褐色粘質土
暗茶褐色泥土（弥生時代後期～古墳時代前期の包含層）	灰褐色弱粘質土
暗青灰色シルト	暗灰色粘土・黒色粘土
黄茶色泥土（下層は砂質）地山	地山

第６図　試掘調査位置図及び土層柱状図

当該年度の調査対象区域は、延長約650ｍ（本調査第ⅡＡ４区～第ⅢＤ区相当）、幅30ｍ、総面積およそ19,500㎡である。調査にあたっては、区域を横切る市道（和歌山市道紀伊44号線）・農道等を境として任意に４区分し、それぞれ西から順にＡ区～Ｄ区と仮称した。調査はグリッドによる調査方法を用い、原則としてグリッドの大きさは20㎡とし、ほぼ20ｍ間隔で設定した。また、これとは別に基本層序確認のためのセミグリッド（２ｍ×２ｍ）をＢ区西端に５箇所設定した。

グリッドを設定した29箇所のうち18箇所において遺構が検出された。遺構が検出されたグリッドは第６図にも示すように調査対象区域の西側（Ａ区）と東側（Ｃ・Ｄ区）に著しい偏りを見せている。これらの箇所は土層柱状図が示すようにいずれも地山面が一段と高くなっており、かつては微高地であったと考えられる場所にあたる。

検出した遺構には、弥生時代の竪穴住居・溝・土坑・柱穴、奈良時代の溝・土坑・柱穴、鎌倉～室町時代の土坑・柱穴、江戸時代の土坑などがある。このうちＣ区５・６グリッドで検出した溝は、幅1.2ｍ、深さ0.5ｍを測るもの（本調査第ⅢＣ３区ＳＤ702）で、その肩口からは弥生時代後期後半の壷（試１・２・４）・甕・高坏などが折重なった状態で出土している。この溝は北東から南西方向に流れており、その規模から集落内の住居群を区画する溝であった可能性も考えられた。

なお、基本層序を整理した結果、第６図の柱状図が示すように調査対象区域内を四箇所にわたって小さな谷筋（自然河道１～４）が横断していることを確認した。これらは、紀ノ川の分流や和泉山地の山麓から紀ノ川へと流れ出る自然河道と考えられるもので、その堆積土である青灰色・暗青灰色シルト層からは弥生時代後期から古墳時代後期にかけての土器片が混在して出土している。

出土遺物は全体に多く、とりわけ前述の溝からは多量の遺物が出土している。第５図としてその一部を図示したが、図示しえなかったものも含めれば弥生時代から近世に至るまで一時途絶期間はあるもののほぼ各時代のものが出土している状況であった。

このうち弥生土器については、後期前半まで遡ると思われる土器片もごく僅かに見られるが、大部分は後期後半段階のもの（試１～試３）であった。器種としては甕のほかに壷・高坏・鉢などがあり、鉢は底部に穿孔されているものが多かった。

須恵器は甕・坏身を中心に壷・坏蓋などの小破片が出土している。いずれも陶邑編年Ⅱ期からⅣ期にかけて（６世紀前半～８世紀前半）のものである。Ⅰ期に属するもの、また逆にⅤ期に属するものは試掘調査で見る限り出土していない。

土師器は奈良時代の甕・高坏・坏のほか、平安時代のⅢ、鎌倉～室町時代のⅢ・土釜・瓦質土釜・瓦が出土している。瓦器はほぼ全域から出土しているがとりわけＣ区４グリッドに多いことから、この付近に中世の村落の存在が予想された。なお、これらの瓦器は形態・技法から13世紀代のものと判断される。また、Ｃ区７グリッドの溝（本調査第ⅢＣ４区ＳＤ911）からは、15世紀後半





昭和58年　写真３　試掘調査作業風景

～16世紀前半と考えられる土師器小皿（試12・試14）等とともに土師質の分銅型土製品（試20）が出土している。分銅型土製品は、高さ6.6㎝・残存最大幅 4.1㎝（復元最大幅4.5㎝）・残存重量71.94ｇを測り、胎土は淡黄褐色を呈し緻密である。

そのほか国産の陶器では、備前焼の甕・擂鉢、美濃の灰釉皿などが出土している。また、輸入陶磁器については極めて少量であるが、白磁の碗、青磁の碗・皿が出土している。

今次の試掘調査の掘削面積は約600㎡と調査対象区域の３％にも満たず、これをもって全区域の見通しを述べることは困難な状況である。しかしながら、先述したように対象区域の西側と東側において遺構および遺物の量は極めて多く、遺跡の存在は確実なものと言えた。

また、出土している遺物の傾向などから西側部分については田屋遺跡との、東側部分については北田井遺跡との関連が指摘でき、周知の両遺跡の範囲がさらに広がる可能性も考えられるところである。

そのほか、今次の調査では遺構の検出ができなかったＢ区においても包含層の存在は確認されており、集落に伴う生産基盤である水田等の遺構の存在する可能性が充分に予想されたため対象区全域にわたる綿密な発掘調査の必要性が認められるものであった。

第２次試掘調査　昭和60年度（第６図下段柱状土層図・写真４）

第１次試掘調査がグリッドによる点的な調査方法であったため、遺構・遺物包含層の範囲が不明確な部分が存在した。そのため、当該年度の試掘調査は、全面調査の必要な範囲を明確にする目的のためにトレンチによる線的な調査方法を取った。

調査対象区域は、延長約 450ｍ（本調査第ⅡＡ４区～第ⅢＣ１区相当)、幅30ｍ、総面積およそ13,500㎡である。試掘調査は道路建設予定地の中央に東西約390ｍと、これに直交する南北30ｍの、各々幅約４ｍのトレンチを設定した。調査にあたって、地区名の呼称は第１次試掘調査と同様にそれぞれ西から順にＡ区～Ｃ区と仮称した。調査面積はおよそ1,600㎡に及ぶ。

調査は、重機により遺構面まで掘り下げた後、人力により遺構・遺物包含層の確認に努めた。遺構は、Ａ区東半で旧自然河道、Ｂ区中央やや東寄りにおいて奈良時代と考えられる溝３条、Ｃ区西端において奈良時代ないし鎌倉時代の溝５条を検出した。また、Ａ区において全面調査予定地区（本調査第ⅡＡ１～Ａ３区）の更に東側約20ｍ（本調査第ⅡＡ４区）まで遺物包含層が続き、弥生・古墳時代、鎌倉・室町時代の遺構の存在することが判明した。また、Ａ区東半では、全面調査予定地区外の西側旧自然河道肩部（本調査第ⅡＢ１区西半）に相当数の遺物が認められたが、自然河道２～自然河道３間上部の堆積層の出土遺物は僅かであった。なお、調査範囲における基本層序と旧自然河道の在り方は、若干の違いを認めるものの基本的に第１次試掘調査の結果と同じである。

以上、当該年度に同時に実施していた本調査範囲（第ⅡＡ１～Ａ３区）に第ⅡＡ４区と第ⅡＢ１区西半を追加することとなった。また、昭和61年度の調査予定地においても若干の範囲変更（第ⅢＣ１区の範囲追加）の必要性が生じ、遺構らしきものが認められたがその存在が極めて希薄であったＢ区の自然河道２～自然河道３の間（約280ｍ）と、第ⅡＡ４区以東～第ⅡＢ１区以西の間（約55ｍ）の範囲が調査対象外となった。



昭和60年度　写真４　試掘調査作業風景

２　発掘調査（第７図・写真５）

全面発掘調査は、昭和59年度から同61年度にかけて実施され、二箇所の微高地において縄文時代後期から江戸時代にかけて断続的に続く集落跡を検出した。これらの内容は各々の微高地において若干異なるが、大きく縄文時代後・晩期、弥生時代後期～古墳時代後期、奈良時代～平安時代中期、平安時代後期～鎌倉時代、室町時代後期、江戸時代の六期に大別できる遺構・遺物を確認している。

第一次調査（昭和59年度）第ＩＡ区

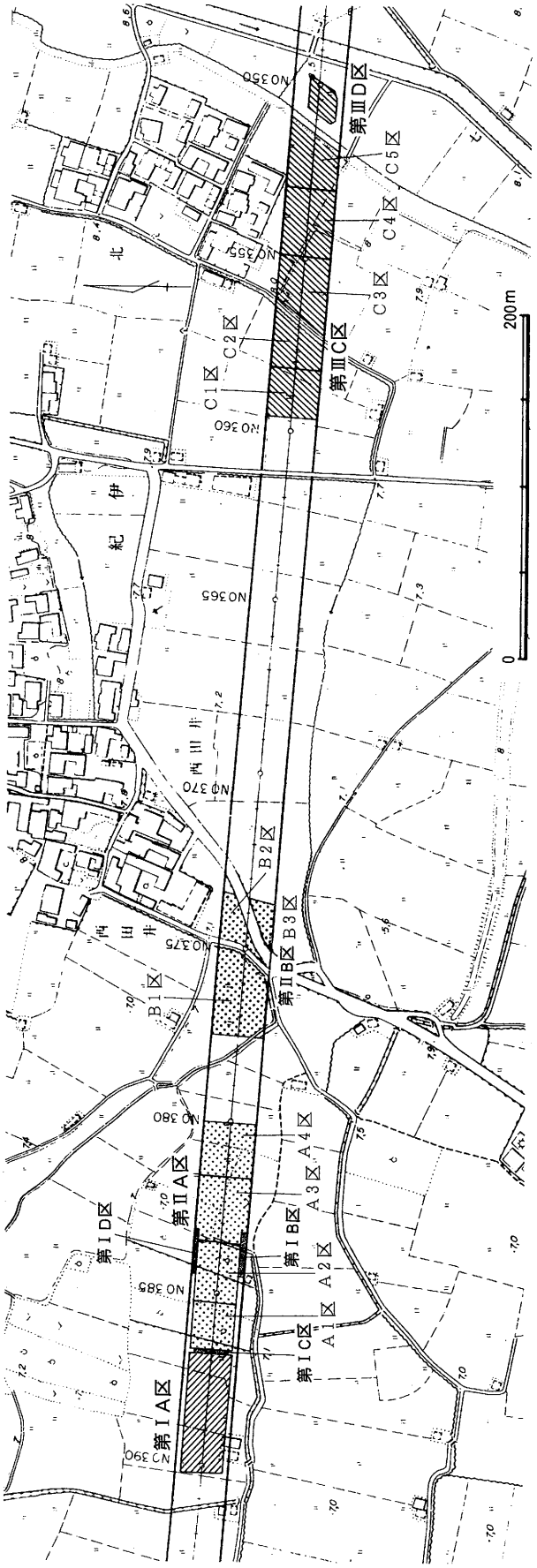
当年度の調査は、県道紀伊停車場田井瀬線から東へ約80ｍの地点から東側約2,100㎡を対象として実施した。第ＩＡ区の南北両端は、遺跡発見の原因となったバイパス工事の関係で既に擁壁工事が完了し、調査区東端でも工事予定地を横断する南北方向にコンクリート製の型枠が埋設されていた（当地点第ＩＣ区は工事施工が決定していたため昭和58年５月に緊急調査を実施）ため調査対象外とした。また、第ＩＢ区・第ＩＤ区は、先行して発掘調査の実施していた田屋遺跡の一貫の西田井地先として第ＩＣ区と同様に昭和58年２月～３月にかけて緊急調査を実施した。第ＩＤ区は西田井遺跡発見の端諸となった地点であり、第ＩＢ区・第ＩＤ区以西は既に擁壁工事が完了していた。

検出遺構として、弥生時代の土坑・壺棺墓・溝、古墳時代の竪穴住居・土坑、奈良時代の掘立柱建物・土坑、平安時代から室町時代の掘立柱建物・柵・土坑・井戸・溝などがある。遺物は遺構や包含層から少量の縄文土器を始め、多くの各種土器と共に金属製品、石製品などが出土している。

調査の内、第ＩＡ区を山本が担当し井石・佐伯がこれを補佐し、これ以外の地区は山本が担当した。

第二次調査（昭和60年度）第ⅡＡ区・第ⅡＢ区

当年度の調査は、昨年度に続く東側約16,800㎡を対象としたが、先述したように全面調査の範囲を確定する第２次試掘調査の関係から約6,000㎡



第７図　発掘調査区割図

について全面調査を実施し、残り10,800㎡は試掘調査のみに終始した。第ⅡＡ区の南北両端の一部は、第ⅠＡ区からの続きの擁壁工事が完了していた（第ⅠＢ区・第ⅠＤ区は第一次調査として実施）ため調査対象外とした。また、第ⅡＢ区は調査区内を横断する市道（和歌山市道紀伊44号線）・農道が存在したため、これに係る部分は調査対象外となり、第ⅡＢ１区の追加範囲の旧自然河道は、重機による掘削が中心となった。

調査は、調査範囲内に遣り方を設置するためと安全確保のため南北両端に控えを取り、耕作土・表土の機械掘削後に西側から整地を開始し徐々に東側に向かって作業を進めた。包含層の遺物は、方４ｍの小区画毎に取り上げを行った。調査区の内、第ⅡＡ３・４区の北側に掛る現水田区画の一段低い範囲は、近代の水田の床下げと江戸時代の遺構による削平が激しいため相当数の古い時期の遺構が削平されたと考えられる。

検出遺構として、弥生・古墳時代の竪穴住居・掘立柱建物・土坑・方形周溝墓・溝・旧自然河道、平安時代から室町時代の掘立柱建物・柵・地鎮遺構・土坑・井戸・溝、江戸時代の土坑・溝などがある。遺物は遺構や包含層から少量の縄文土器を始め、多量の各種土器と共に金属製品、石製品、木製品などが出土している。

調査の内、第ⅡＡ区を佐伯が担当し黒石・瀬野・河内・井馬がこれを補佐し、第ⅡＢ区を井馬が担当し、上田がこれらを統括した。

第三次調査（昭和61年度）

当年度の調査は、第１・２次試掘調査の成果を受けて七瀬川から西側約5,700㎡を対象として実施した。第ⅢＣ区は調査区内を横断する農道・用水路が存在したため、これに係る部分は調査対象外となった。また、第ⅢＣ区と第ⅢＤ区の間には、洪水時に紀ノ川本流から七瀬川への逆流を考えて西田井・北の集落を洪水から守るための小規模な堤防が敷設されており、安全面から考慮して調査の対象外となった。

調査の内、第ⅢＣ区は調査範囲内に遣り方を設置するためと安全確保のため南北両端に控えを取り、第ⅢＤ区は遺構面がかなり深いため十分な控えを取ると共に調査区の壁に十分な法面を残した。調査は、道路工事との関係から先に第ⅢＤ区に、続いて第ⅢＣ３～５区に、期間途中から第ⅢＣ１・２区に着手した。

検出遺構として、弥生時代の竪穴住居・掘立柱建物・土坑・木棺墓・溝、奈良時代の土坑・溝、平安時代から江戸時代の掘立柱建物・柵・土坑・木棺墓・土壙墓・井戸・溜桝・溝などがある。遺物は、多量の弥生土器と室町時代の土器が主体となっている。

調査の内、第ⅢＣ１・２区を土井が、第ⅢＣ３区・第ⅢＤ区を河内が、第ⅢＣ４区を瀬野が、第ⅢＣ５区を黒石が各々担当し、上田がこれらを統括した。



第ⅠＡ区



第ⅡＡ区



第ⅢＣ区

写真５　発掘調査作業風景

３　出土遺物整理（写真６）

発掘調査によって出土した遺物には、土器のほか石器・金属製品・木製品・分析用の資料などがあり、通常のコンテナにして約2,300箱ある。これらの遺物については、発掘調査と併行して一部応急的な整理作業を行っていたが、大半は未整理の状態であったため本格的な整理作業を進める必要があった。昭和62年度から４箇年計画で整理作業を進め、最終年度に調査報告書を刊行することとなった。なお、出土遺物・写真・図面等は、報告書作成後、和歌山県教育委員会が保管している。

昭和62年度（昭和62年６月１日～昭和63年３月20日）

出土遺物が大量におよび当センターの既設建物では処理できないため、和歌山市永穂に仮設の整理事務所と倉庫を建設して作業を実施した。当年度は、主に出土遺物の洗浄・注記作業を行うとともに、一部について接合・復元・実測・写真撮影作業を行った。

金属製品・木製品については、当時点で抽出出来たものを保存処理作業として（財）元興寺文化財研究所に委託した。また、土壌の微化石・土器の胎土等の科学分析については、株式会社パリノ・サーヴェイに委託して行った。

昭和63年度（昭和63年４月20日～平成元年３月20日）

当年度は、主に出土遺物の洗浄及び注記・接合作業を行うとともに、一部について遺物の復元・実測・写真撮影・主要遺構の遺物分類・遺構図面の整理・遺構全体図の作成・遺構図面のレイアウト・遺構図面の製図・遺構写真の整理作業等を行った。

平成元年度（平成元年５月15日～平成２年３月20日）

当年度は、主に出土遺物の注記・接合・復元・実測作業を行うとともに、一部について遺物の写真撮影・主要遺構の遺物分類・石膏復元部分の着色・遺物実測図の整理・遺物写真の整理・遺物図面のレイアウト・遺構全体図の作成・遺構図面の製図・遺構写真の抽出作業等を行った。

平成２年度（平成２年８月１日～平成３年３月30日）

当年度は、主に遺物の実測・写真撮影・図面類の製図・調査報告書掲載図面のレイアウト作業を行うとともに、主要遺構の遺物分類・遺物の石膏復元部分の着色・遺物実測図の整理・遺物写真の整理・遺構全体図の作成・遺構遺物



洗浄作業



接合・注記作業



復元作業



実測作業



遺物収納状況

写真６　出土遺物整理作業風景

写真図版のレイアウト・各種統計資料・一覧資料の作成作業等を行い、調査報告書を刊行した。

その他、石製品・木製品・金属製品・骨・自然遺物の種類別収納、遺物コンテナの遺構種別・時代順による総番号打ち、コンテナの収納場所移動に伴う遺物類の梱包作業等を行った。

第3節　調査区の層序

各地区の基本層序（第6・8図）

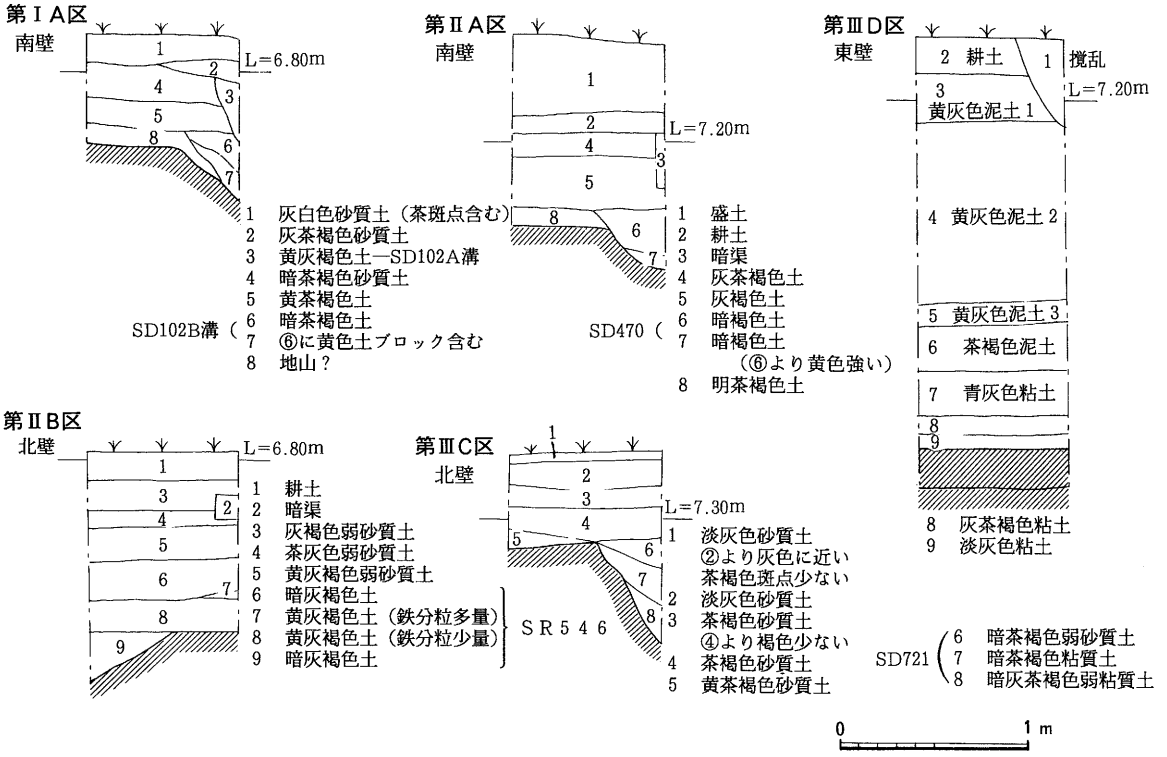
調査対象範囲の基本層序の繋がりは、試掘調査と本調査の土層を繋げることによって理解できる。基本的な土層は各地区を通して、上層から水田耕土・床土・旧耕土・旧床土・平安～室町時代・弥生～古墳時代の遺物包含層となるが、細部において若干異なる土層も見受けられる。

第ⅠA区では、道路工事の関係で耕土・床土は図示できていない。調査区の全域で弥生・古墳時代（第8層）と鎌倉・室町時代（第1・4・5層）の遺物包含層が存在する。その内、第5層は調査区の西側南寄りに認められる15世紀中頃前後の堆積層である。遺構検出は、ベース面と遺物包含層面の上下二面である。

第ⅡA区では、道路工事の関係で一部に客土が置かれたり、耕土・床土が除去されていた部分がある。第ⅠA区の続きであるため、基本的には調査区西半を中心に弥生・古墳時代（第8層）と平安～室町時代（第5層）の遺物包含層が存在する。遺構検出は、ベース面と遺物包含層面の上下二面である。

第ⅡB区では、純粋な遺物包含層は存在しないが、旧自然河道の上部に古墳時代（第7・8層）と室町時代（第6層）の遺物堆積層が存在する程度である。遺構検出は、ベース面の一面である。

第ⅢC区では、C1・2区とC3～5区では大きく異なる様相を呈する。C1・2区では、旧自然河道3の上部に当り西側に向かって谷地形を成す場所であるため、東半に弥生時代・鎌倉時代の遺物包含層、西半に奈良時代・奈良～平安時代・鎌倉時代・江戸時代の水田跡と考えられる堆積層が存在する。C3～5区では、ほぼ全域で弥生・古墳時代（第4・5層）と室町時代（第2・3層）の遺物包含層が存在する。



第8図　各地区の基本層序

第Ⅳ章　検出遺構

第１節　第Ｉ区の検出遺構

調査の概要で既述したように、第Ｉ区は４地区に分かれている。第ＩＢ区と第ＩＤ区については、調査区の位置関係から本来第Ⅱ区の項で扱うべきであるが、年度毎の記述で行なうため当項で扱うことにする。

１　第ＩＡ区

（１）弥生・古墳時代（第11図、ＰＬ．１）

弥生・古墳時代の検出した遺構には、土坑・壺棺墓・溝がある。その内、多くの溝はほぼ同一方向に延びる。遺構検出面の高さは西側ほど低くなり、調査区の西側に接して旧河道が存在するものと思われる。

ａ　土坑

土坑の中には、出土遺物が少なく、また、後世の遺構との重複が著しいため時期判断を誤って古墳時代より新しい時期で扱っているものがあるかもしれない。大半の土坑が、土壙墓の可能性を持つものであろう。

ＳＫ１　ＳＤ15・102に削られるため全容は不明であるが、深さ27㎝で歪な円形を呈すると考えられる。遺物は弥生時代後期末の甕などの小片が出土している。

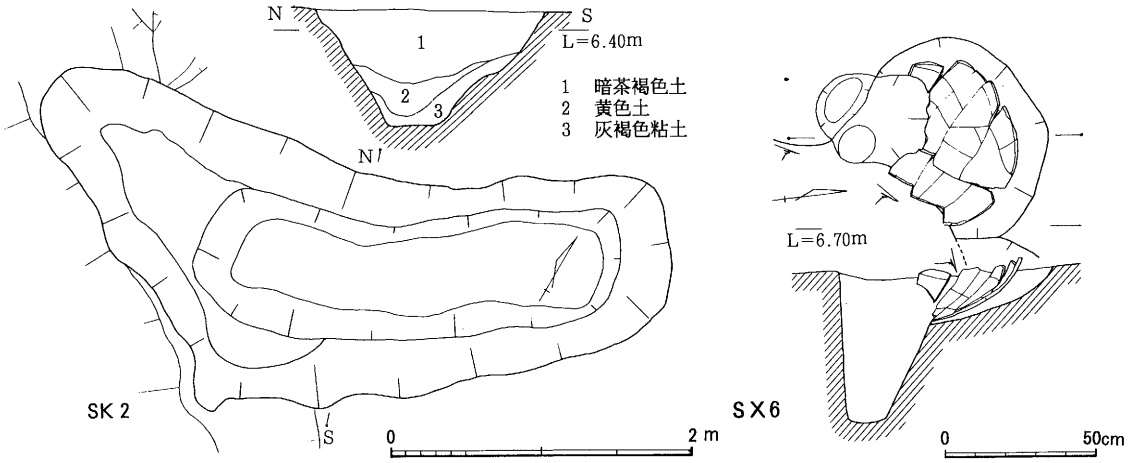
ＳＫ２（第９図）　長軸4.4ｍ、短軸1.54ｍ、深さ82㎝を測り、長軸方向にやや湾曲して延びる。掘り込みは全体に傾斜がきつく、西側に段が付く。重複関係からＳＤ20より古く、少量の弥生土器が出土している。

ＳＫ３（ＰＬ．３）　奈良時代のＳＢ33の柱穴と一部重複する。長軸3.6ｍ、短軸1.0ｍ、深さ42～65㎝を測り、長軸方向に湾曲して延びる。遺物は少量の弥生土器と共に奈良時代の土器が若干出土している。

ＳＫ４（ＰＬ．２）　一部平安時代の土坑やＳＤ96と重複する。長軸4.25ｍ、短軸1.12ｍ、深さ25～35㎝を測り、長軸方向に湾曲して延びる。本来の時期を示す遺物も少なく、若干中世遺物が混入している。

ｂ　壺棺　**ＳＸ６**（第９図）

全容は不明であるが、凡そ直径0.7ｍ、深さ20㎝の墓壙が遺存している。壺棺は墓壙のほぼ中央に正立させて埋置しており、体部中位までが遺存していた。一部が後世の柱穴とＳＫ73によって撹乱されているため壺棺の破片の多くは、本来の位置から遊離した状態で出土している。壺棺から弥生時代後期末と考えられる。



第９図　第ＩＡ区ＳＫ２・ＳＸ６実測図

c　溝

出土遺物の少量のもの、また、遺構の重複の著しい部分が見られることから時期判断の困難なものもある。多くの溝はほぼ同一方向に延び、第ＩＡ区西端の状況に続いて集落の西側外縁を区画するものと考えられる。

ＳＤ１１　調査区の東端に位置する。北から南方向に延びる溝で、延長20ｍ、幅0.94～1.33ｍ、深さ51～67㎝を測る。重複関係と少量の遺物から、ＳＤ12より新しい弥生時代後期後葉と考えられる。

ＳＤ１２（ＰＬ．２）　調査区の北東端に位置し、幅1.3ｍ、深さ20～25㎝を測る。北西から南東方向に延び、第ＩＣ区（ＳＤ12）と第ⅡＡ区（ＳＤ256）においてその延長部分を検出している。遺物は第ＩＣ区の延長部分同様に上層から多量の弥生土器が出土している。出土遺物から弥生時代後期後葉と考えられる。

ＳＤ１４（第10図）　東南東から西北西方向に延びる溝で、幅1.0～1.42ｍ、深さ38～44㎝を測り、延長47.5ｍ分を検出した。遺物は庄内式併行期の土器と共に須恵器の壺が出土したが別遺構のものと判断した。

ＳＤ１５（第10図）　ＳＤ14とほぼ並行して同一方向に延びる溝で、幅0.4～0.7ｍ、深さ21～40㎝を測り、延長50.5ｍ分を検出した。遺物は弥生土器の小片が少量出土しているが、時期を断定し難い。

ＳＤ１６（第10図）　調査区のほぼ中央に位置する。南東から西北西方向に蛇行して延びる溝で、幅0.66～1.20ｍ、深さ43㎝を測り、延長33ｍ分を検出した。遺物は弥生時代後期末の小片が少量出土している。

ＳＤ１８　調査区の北東端に位置し、ＳＤ12とほぼ並行して延びるが、第ⅡＡ区では確認できていない。幅0.5ｍ、深さ17㎝を測り、延長13ｍ分を検出した。遺物は弥生時代後期後半の土器が少量出土している。

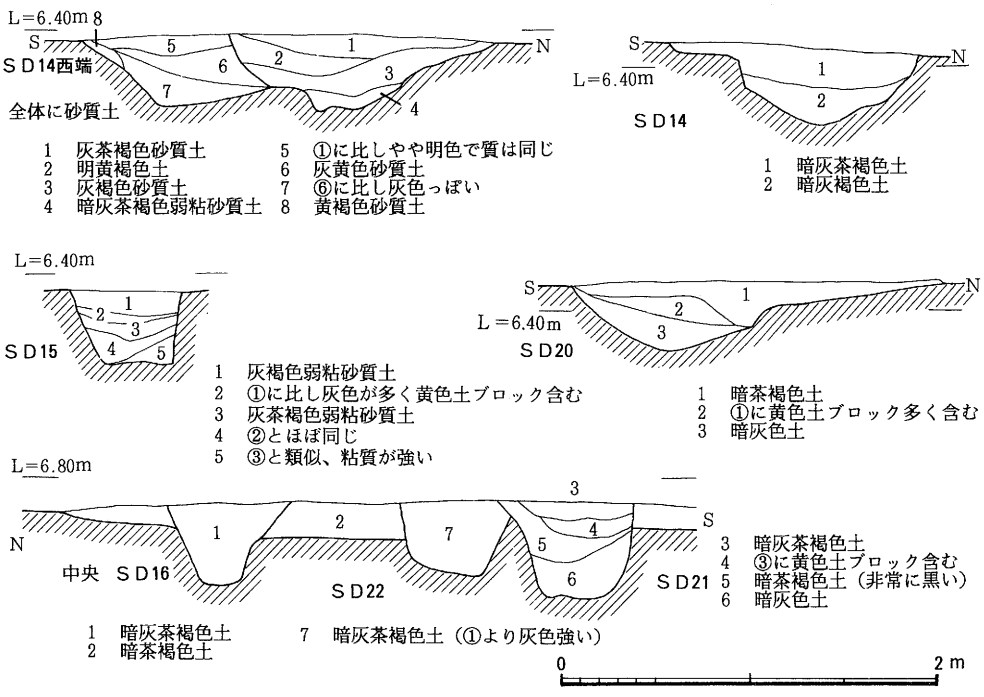
ＳＤ２０（第10図）　調査区のほぼ中央に位置し、南東から北西方向に延びる。幅0.8～2.0ｍ、深さ15～36㎝を測り、延長36ｍ分を検出した。遺物は小片が多いが、弥生時代後期末から庄内式併行期と考えられる。

ＳＤ２１（第10図）　北西から南東方向に緩やかに延び、重複関係からＳＤ16・22より新しい。幅0.55～0.72ｍ、深さ50㎝を測り、延長30.5ｍ分を検出した。遺物は弥生時代後期末から庄内式併行期の土器がある。

ＳＤ２２（第10図）　調査区の中央に位置し、重複関係からＳＤ21より古い。幅0.34～0.60ｍ、深さ40㎝を測り、延長32.5ｍ分を検出した。遺物は小片が多いが、弥生時代後期末から庄内式併行期と考えられる。

ＳＤ２３　調査区の南西隅に位置し、平安時代のＳＤ99に重複している。幅0.65～0.87ｍ、深さ30㎝を測り、延長7.5ｍ分を検出した。遺物は少量出土しているが、弥生時代後期末から庄内式併行期と考えられる。

ＳＤ２６　調査区の東半に位置し、ＳＤ17とほぼ並行して同一方向に延びる。幅0.2～0.5ｍ、深さ９～14㎝を測り、延長28.5ｍ分を検出した。遺物は古墳時代の土師器甕が出土している。



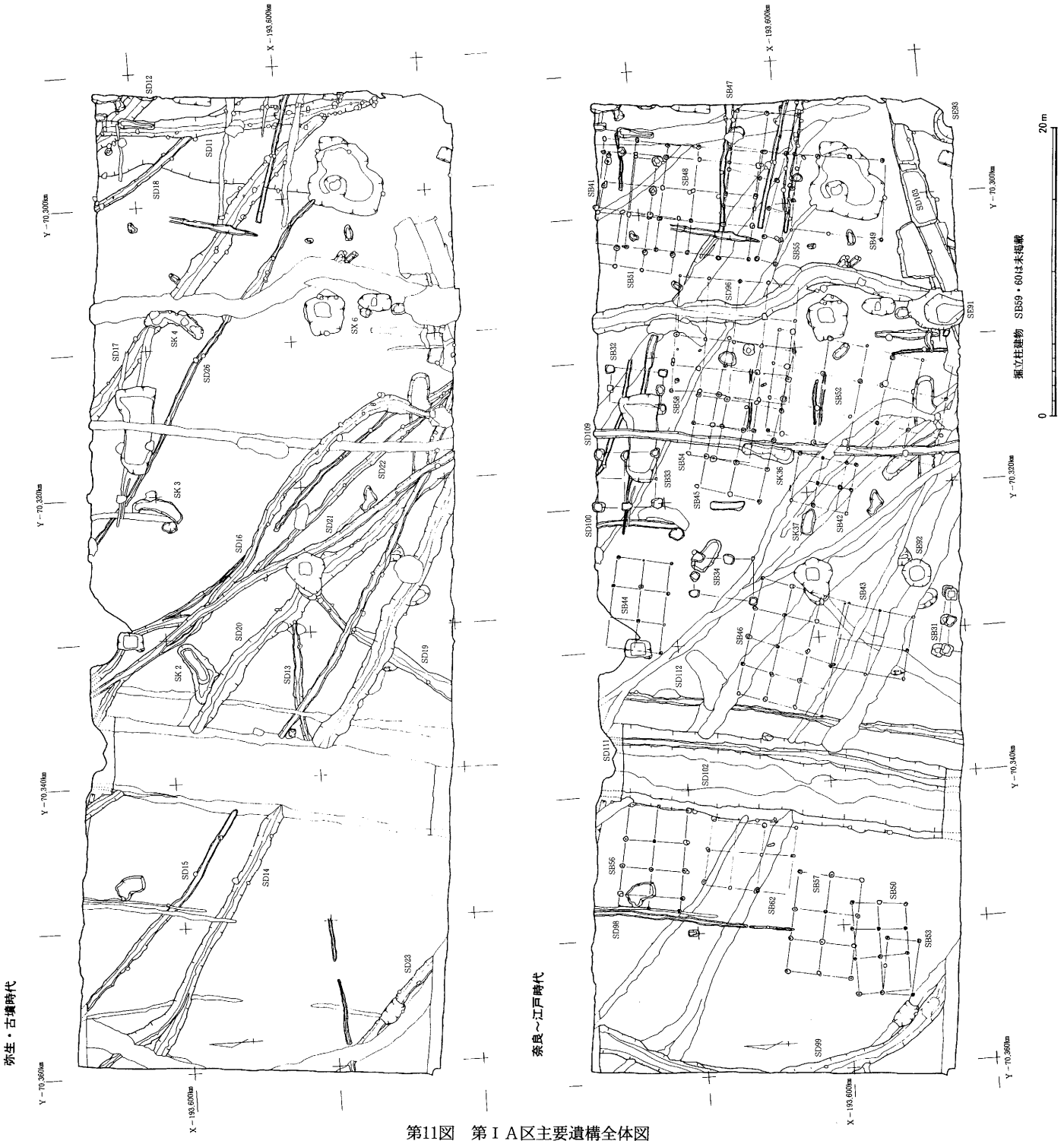
第10図　第ＩＡ区弥生・古墳時代溝土層図

（２）奈良時代

奈良時代の遺構には、掘立柱建物と土坑があるに過ぎない。東側の第ⅡＡ区で奈良時代の顕著な遺構が見出せないことから、調査区に対して南北方向に小規模な集落が存在していたものと考えられる。

ａ　掘立柱建物（表２）

奈良時代の掘立柱建物は、調査区の中央から東寄りで計４棟検出したが、いずれも小規模なものである。

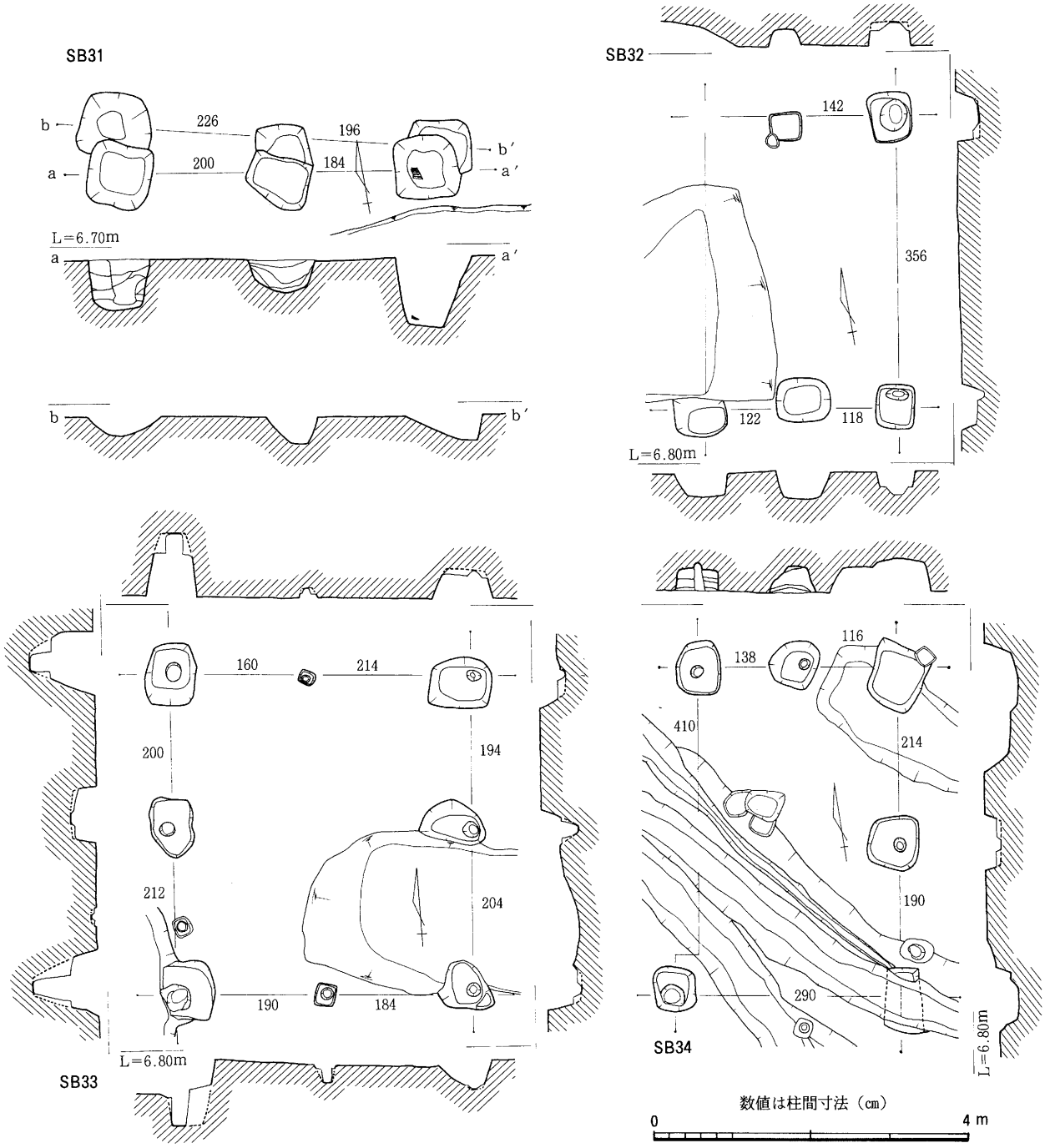


第11図　第ＩＡ区主要遺構全体図

掘立柱建物	規模 間×間 面積(㎡)	東西(cm)(尺)	南北(cm)(尺)	柱穴 掘形(cm) 直径	掘形(cm) 深さ	柱当り(cm) 直径	柱当り(cm) 深さ		主軸方位	備考
SB 31	2間×(1間以上)(?)	梁行 384 12.7		60～80		43～66	46～94	根石1	N－10.5°－E	抜き取り穴あり 東向き
SB 32	2間×2間 8.5	梁行 240 7.9	桁行 356 11.7	48～70	20～24	6～48	20～38		N－10°－E	東向き
SB 33	2間×2間 16.0	梁行 390 12.9	桁行 411 13.6	18～80	28～55	4～22	31～83		N－3°－E	東向き
SB 34	2間×2間 11.9	梁行 290 9.6	桁行 410 13.5	67～78		14～28	20～48		N－7°－E	東向き

(　) 付は現存規模、1尺＝30.3cmで計算

表2　第ⅠA区　奈良時代掘立柱建物規模一覧



第12図　第ⅠA区SB31・32・33・34実測図

ＳＢ３１（第12図、ＰＬ．３）　調査区の中央南端に位置する。梁間２間（3.84ｍ）、桁行は不明である。柱穴は隅丸方形状を呈し、柱当りの底面は不揃いである。北側に柱の抜取り穴と思しき土坑が重複している。主軸方向はＮ－10.5°－Ｅである。時期を断定できないが、奈良時代の土師器の小片が微量出土している。

ＳＢ３２（第12図）　調査区の東半北端に位置し、他遺構との重複が著しいため全容は不明である。桁行２間（3.56ｍ）、梁間２間（2.40ｍ）の規模を持つ。主軸方向はＮ－10°－Ｅである。

ＳＢ３３（第12図、ＰＬ．３）　ＳＢ32の西側に位置する。桁行２間（4.11ｍ）、梁間２間（3.90ｍ）の規模を持つ。東側の柱筋を除けば、柱筋中央の柱穴の深さが非常に浅い。主軸方向はＮ－３°－Ｅである。

ＳＢ３４（第12図）　調査区の中央北寄りに位置する。桁行２間（4.11ｍ）、梁間２間（3.90ｍ）の規模を持つ。東向きの建物と考えられ、主軸方向はＮ－７°－Ｅである。時期を断定できないが、奈良時代の土師器の小片が微量出土している。

ｂ　土坑

土坑は掘立柱建物に取り囲まれるように位置し、計２基を検出したに留まる。

ＳＫ３６　調査区の中央東寄りに位置し、東半がＳＤ109に削られて不明である。長軸3.56ｍ、短軸1.10ｍ、深さ38㎝を測り、歪な楕円形を呈する。遺物は奈良時代の土師器、須恵器坏身・蓋・甕が出土している。

ＳＫ３７　調査区のほぼ中央に位置する。長軸1.90ｍ、短軸0.85ｍ、深さ19～23㎝を測り、歪な隅丸長方形状を呈する。遺物は奈良時代の土師器、須恵器坏身などの小片が少量出土しているに過ぎない。

（３）平安時代～室町時代（第11図、ＰＬ．１・２）

当該期の遺構密度は特に第ⅡＡ区に近い東半分が高く、第ⅡＡ区に続く集落の中心地を占める範囲である。平安時代後期から室町時代まで長期に渡る時代幅の中で掘立柱建物・井戸・土坑・溝などが確認されている。

ａ　掘立柱建物・柵

遺構の重複関係が著しいため、柱筋の並びを整理段階での図面上で復原し得た建物も多い。掘立柱建物21棟を検討した結果、11世紀前半（平安時代後期前半）～14世紀前半（鎌倉時代後期）まで断続的に続き、11世紀後葉～12世紀末（平安時代後期後半）に空白期間を認めることができる。

ＳＢ４１（第13図、ＰＬ．４）

調査区の北東隅に位置する。桁行２間（4.11ｍ）、梁間２間（3.65ｍ）の規模を持つ建物である。柱穴の掘形は他の建物より平均的に大きく、中央の柱穴が存在しない側柱だけの建物である。南向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－77.5°－Ｗに置く。遺物は柱穴から黒色土器の椀、土師器皿・甕などが出土している。

ＳＢ４２（第13図）

調査区のほぼ中央東寄りに位置する。桁行３間（3.93ｍ）、梁間２間（3.39ｍ）の規模を持つ建物である。柱穴の掘形は直径18～28㎝を測り、円形ないし隅丸方形を呈する。桁行方向の南端の柱間が他に比べて狭いことから、東向きで南庇の建物と考えられ、主軸方向をＮ－18°－Ｅに置く。遺物は土師器皿などがある。

ＳＢ４３

調査区のほぼ中央南寄りに位置する。桁行２間（5.00ｍ）、梁間２間（4.53ｍ）の規模を持つ建物である。

ＳＢ４４（第14図、ＰＬ．３）

調査区の中央北端に位置する。調査区の北側に続く可能性もあるが、桁行３間（6.41ｍ）、梁間２間（3.82ｍ）の規模と判断した。柱穴の掘形は直径14～26㎝と比較的小振りである。南向きの建物と考えられ、主軸

方向をＮ－80°－Ｗに置く。遺物は黒色土器、土師器甕など少量が出土し、11世紀中頃と考えられる。

ＳＢ４５（第15図、ＰＬ．４）

調査区のほぼ中央東寄りでＳＢ42の北側に位置する。桁行５間（10.65ｍ）、梁間２間（4.53ｍ）の規模を持つ。桁行両端の柱穴の深さが他に比べて浅い傾向にある。南向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－72.5°－Ｗに置く。遺構の重複関係と出土遺物からＳＢ52・54・58の建物より古く、11世紀中頃と考えられる。

ＳＢ４６（第16図）

調査区のほぼ中央西寄りに位置する。桁行４間（9.22ｍ）、梁間３間（6.28ｍ）の規模を持つ。桁行南端の柱筋を含めて考えたが、不揃いのため４間×２間の建物の可能性もある。主軸方向をＮ－72°－Ｗに置く。

ＳＢ４７（第14図、ＰＬ．４・５）

調査区の東端中央でＳＢ48・55と重複して位置する。桁行３間（6.82ｍ）、梁間２間（4.46ｍ）の規模を持つ。梁間方向に比べて、桁行方向の柱間が不揃いである。主軸方向をＮ－78°－Ｗに置く。

ＳＢ４８（第15図、ＰＬ．４・５）

調査区の東端北側でＳＢ41・47・55と重複して位置する。調査区の北側に続く可能性もあるが、桁行５間（10.83ｍ）、梁間４間（7.64ｍ）の規模と判断した。平面規模82.7㎡で大形の総柱建物である。梁間方向の東端の柱間が他に比べて狭いことから、東向きで東庇の建物と考えられ、主軸方向をＮ－10°－Ｅに置く。

ＳＢ４９

ＳＢ48の南側に位置するが、撹乱の掘削により全容は不明である。桁行３間（6.20ｍ）、梁間３間（4.30ｍ）の規模を持つ建物を考えたが、不明な部分が多い。東向きと考えられ、主軸方向をＮ－９°－Ｅに置く。

ＳＢ５０（ＰＬ．６）

調査区の西端南寄りに位置する。桁行３間（6.38ｍ）、梁間２間（3.64ｍ）の規模を持つ。桁行方向の西端の柱間が広く、やや歪な平面形を呈する。南向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－88.5°－Ｗに置く。

ＳＢ５１（ＰＬ．４）

ＳＢ48に重複する部分に位置する。桁行３間（5.93ｍ）、梁間２間（3.92ｍ）の規模を持つ。梁間方向の西側の柱間が狭いことから、庇か縁を想定した方がよいかもしれない。主軸方向をＮ－12.5°－Ｅに置く。

ＳＢ５２（第16図）

調査区の東半南側に位置する。桁行６間（12.17ｍ）、梁間３間（7.27ｍ）の規模を持つ建物を考えたが、他の柱間に比べて桁行中央の柱間が狭いことから、南棟（２間×２間）と北棟（３間×２間と北庇）に分かれる可能性もある。遺物は瓦器椀、土師器皿・土釜などが出土し、13世紀初頭と考えられる。

ＳＢ５３

ＳＢ50に重複して位置する。桁行２間（3.71ｍ）、梁間１間（2.16ｍ）の規模を持つ建物を考えた。

ＳＢ５４（ＰＬ．４）

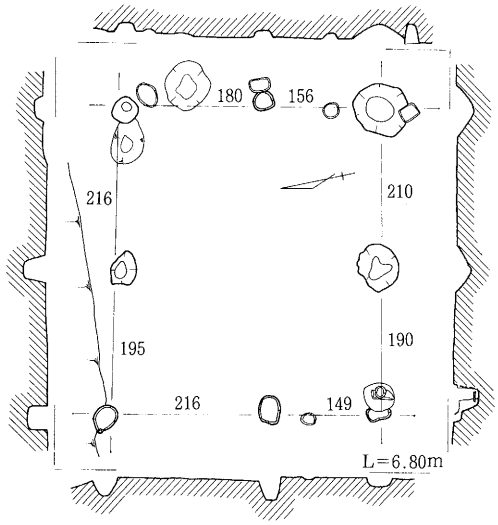
ＳＢ45・58に重複して位置する。桁行２間（4.26ｍ）、梁間２間（4.20ｍ）の規模を持つ。柱穴の重複関係からＳＢ58より新しい。南向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－76.5°－Ｗに置く。

ＳＢ５５（ＰＬ．５）

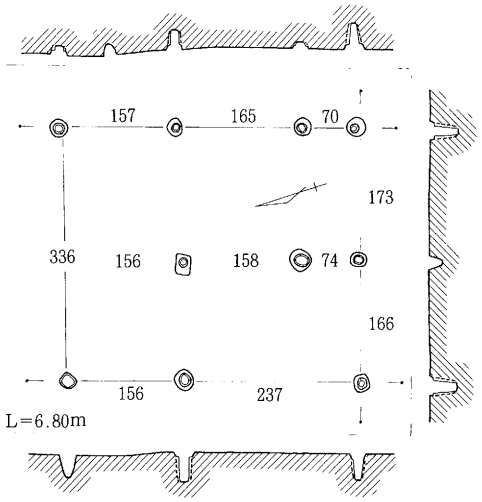
調査区の東端中央に位置し、ＳＢ47・59に重複する。桁行４間（7.68ｍ）、梁間１間（1.30ｍ）の規模を持つ。馬屋的な性格の建物か柵を考えたが、この建物の主軸方位に合う他の建物を見出すことができない。

ＳＢ５６（第14図、ＰＬ．５）

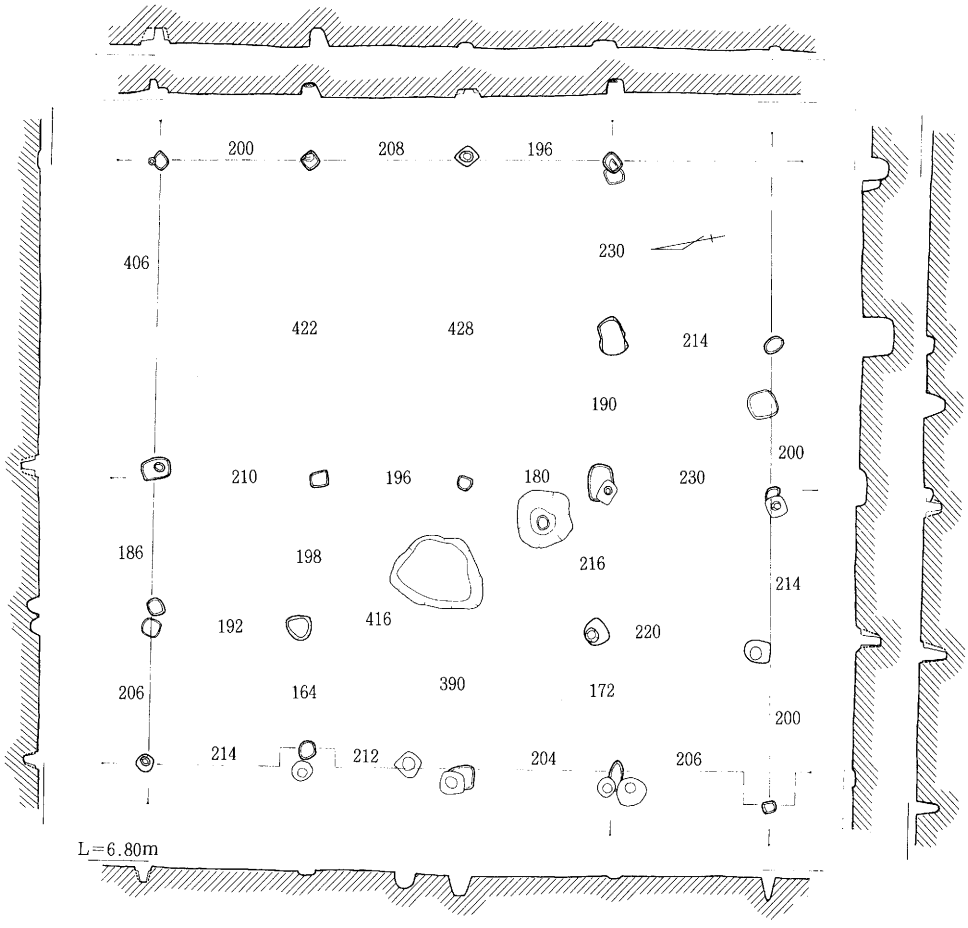
調査区の西半北端に位置する。桁行４間（7.00ｍ）、梁間２間（4.24ｍ）の規模を持つ。桁行方向の西端



SB41



SB42

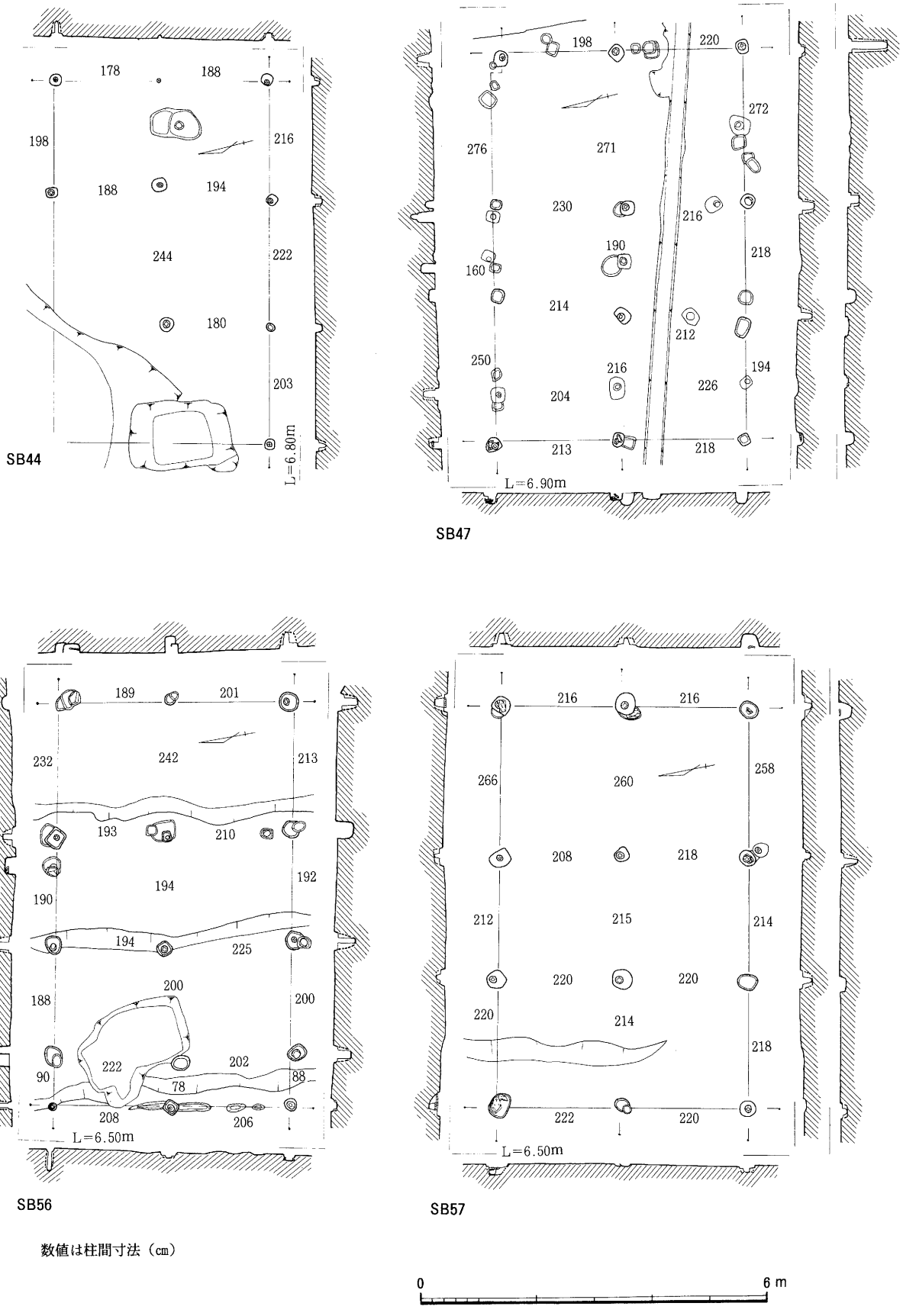


SB58

数値は柱間寸法（cm）

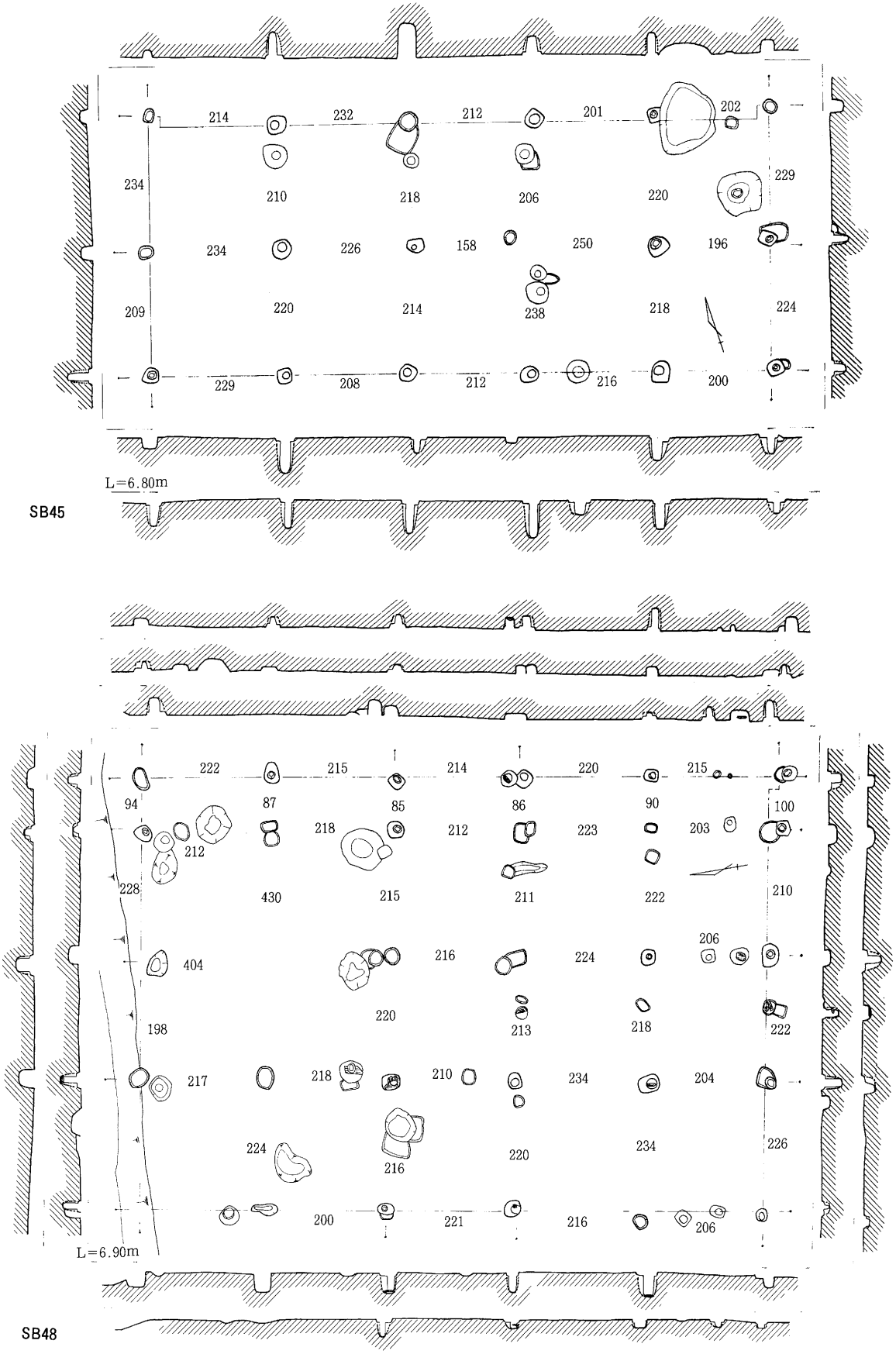
0　6 m

第13図　第ＩＡ区ＳＢ41・42・58実測図



数値は柱間寸法（cm）

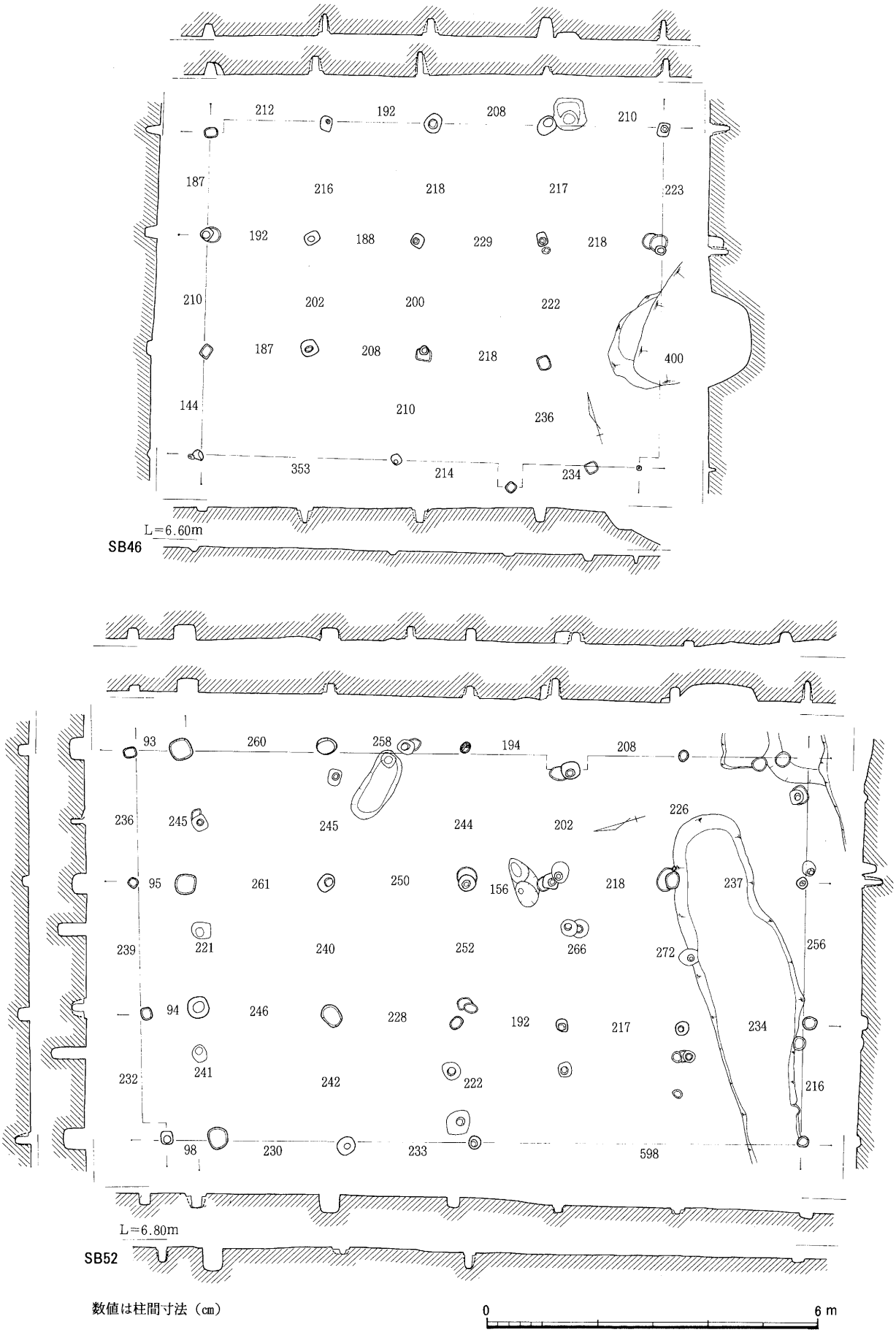
第14図　第ⅠA区SB44・47・56・57実測図



数値は柱間寸法（cm）

0　6 m

第15図　第ＩＡ区ＳＢ45・48実測図



第16図　第ⅠA区SB46・52実測図

掘立柱建物	規模			柱穴					主軸方位	備考
	間×間 面積(㎡)	東西(cm) (尺)	南北(cm) (尺)	掘形(cm)		柱当り(cm)				
				直径	深さ	直径	深さ			
SB 41	2間×2間 15.0	桁行 411 13.6	梁行 365 12.0	34～74		12～38	9～31		N－77.5°－W	南向き
SB 42	2間×3間 13.3	梁行 339 11.2	桁行 393 13.0	18～28		6～14	19～40		N－18°－E	南庇 東向き
SB 43	2間×2間 22.7	梁行 453 15.0	桁行 500 16.5	8～24		4～10	10～19		N－14°－E	東向き
SB 44	3間×2間 24.5	桁行 641 21.1	梁行 382 12.6	14～26		6～14	4～46		N－80°－W	南向き
SB 45	5間×2間 48.2	桁行 1,065 35.1	梁行 453 15.0	22～36		6～18	10～64		N－72.5°－W	南向き
SB 46	4間×3間 57.9	桁行 922 30.4	梁行 628 20.7	16～36		4～16	8～48		N－72°－W	北庇？ 南向き
SB 47	3間×2間 30.4	桁行 682 22.5	梁行 446 14.7	20～28		4～15	10～72	据石2	N－78°－W	南向き
SB 48	4間×5間 82.7	梁行 764 25.2	桁行 1,083 35.7	20～49		6～24	9～34	根石2	N－10°－E	東庇 東向き
SB 49	3間×3間 26.7	梁行 430 14.2	桁行 620 20.5	20～30		8～20	6～25		N－9°－E	東庇？ 東向き
SB 50	3間×2間 23.2	桁行 638 21.1	梁行 364 12.0	18～32		4～14	9～30	据石1	N－88.5°－W	南向き
SB 51	2間×3間 23.2	梁行 392 12.9	桁行 593 19.6	32～40	31	10～18	27～35	根石1 据石4	N－12.5°－E	東向き
SB 52	3間×6間 88.5	梁行 727 24.0	桁行 1,217 40.2	20～40		3～12	5～40	根石1	N－18°－E	北庇 東向き
SB 53	2間×1間 8.0	桁行 371 12.2	梁行 216 7.1	19～32		8～12	15～27		N－80°－W	南向き
SB 54	2間×2間 17.9	桁行 426 14.1	梁行 420 13.9	20～42		12～16	18～41		N－76.5°－W	南向き
SB 55	4間×1間 10.0	桁行 768 25.3	梁行 130 4.3	15～32		8～12	10～40	据石1	N－62°－W	柵か？ 南向き
SB 56	4間×2間 29.7	桁行 700 23.1	梁行 424 14.0	18～34		6～15	14～37		N－80°－W	西庇 南向き
SB 57	3間×2間 30.9	桁行 698 23.0	梁行 442 14.6	22～40		5～10	6～29	据石5	N－79°－W	西庇？ 南向き
SB 58	4間×4間 68.4	桁行 818 26.9	梁行 836 27.6	18～52		10～12	5～20	根石1 据石1	N－80°－W	南向き
SB 59	4間×4間 70.6	桁行 840 27.7	梁行 840 27.7	18～40		10～18	10～26	根石3 据石4	N－77°－W	東庇 南向き
SB 60	2間×(2間) (23.5)	梁行 460 15.2	桁行 (510) (16.8)	18～28		10～14	9～35		N－16.5°－E	東向き
SB 62	2間×3間 26.2	梁行 460 15.2	桁行 570 18.8	16～38		8～14	21～53	根石2	N－10°－E	東向き

(　) 付は現存規模、1尺＝30.3cmで計算

表3　第ⅠA区　平安時代後期～室町時代掘立柱建物規模一覧

の柱間が他に比べて狭いことから、南向きで西庇の建物と考えられ、主軸方向をＮ－80°－Ｗに置く。

ＳＢ５７（第14図、ＰＬ．６）

調査区の西半南寄りに位置する。ＳＢ56と同様の規模・方向を示す。遺物から14世紀初頭と考えられる。

ＳＢ５８（第13図、ＰＬ．４）

調査区の東半中央に位置する。桁行４間（8.18ｍ）、梁間４間（8.36ｍ）の規模を持ち、平面積68.4㎡は比較的大形の建物に属する。南向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－80°－Ｗに置く。

ＳＢ５９

調査区の東端に位置し、他遺構との重複が著しいため全容は不明である。桁行４間（8.40ｍ）、梁間４間（8.40ｍ）の規模を持ち、平面積70.6㎡は大形の建物に属する。桁行方向の東端の柱間が他に比べて狭いことから、南向きで東庇の建物と考えられ、主軸方向をＮ－77°－Ｗに置く。

ＳＢ６０

調査区の東半南端に位置する。他遺構の重複により全容は不明で、調査区の南側に続く可能性もある。

ＳＢ６２

ＳＢ56とＳＢ57の間に位置する。桁行３間（5.70ｍ）、梁間２間（4.60ｍ）の規模を持つ。東向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－10°－Ｅに置く。

ｂ　土坑

土坑は平安時代後期後半から室町時代のもので、総数22基以上を検出した。中には遺物が少量のものがあり、時期の断定し難い土坑も存在する。ここでは主な土坑のみ記述する。江戸時代の土坑は除外した。

ＳＫ６７

調査区の北東隅で、ＳＢ48の柱筋に位置する。長軸0.66ｍ、短軸0.6ｍ、深さ22㎝を測り、やや歪な円形を呈する。遺物は主に11世紀末～12世紀初頭の黒色土器、土師器皿・埦、瓦器椀などが出土している。

ＳＫ７１

ＳＢ56の南西隣に位置する。長軸0.76ｍ、短軸0.44ｍ、深さ11㎝を測り、隅丸長方形を呈する。遺物は12世紀後半～13世紀初頭の瓦器椀土師器皿、須恵質捏鉢と縄文時代の石鏃が出土している。

ＳＫ８１

ＳＢ34に重複して位置する。長軸2.50ｍ、短軸1.12ｍ、深さ34㎝を測り、楕円形を呈する。遺物は弥生土器か土師器と思われるものが数片出土しているに過ぎず、弥生時代の土坑の可能性もある。

ＳＫ９１（第17図）

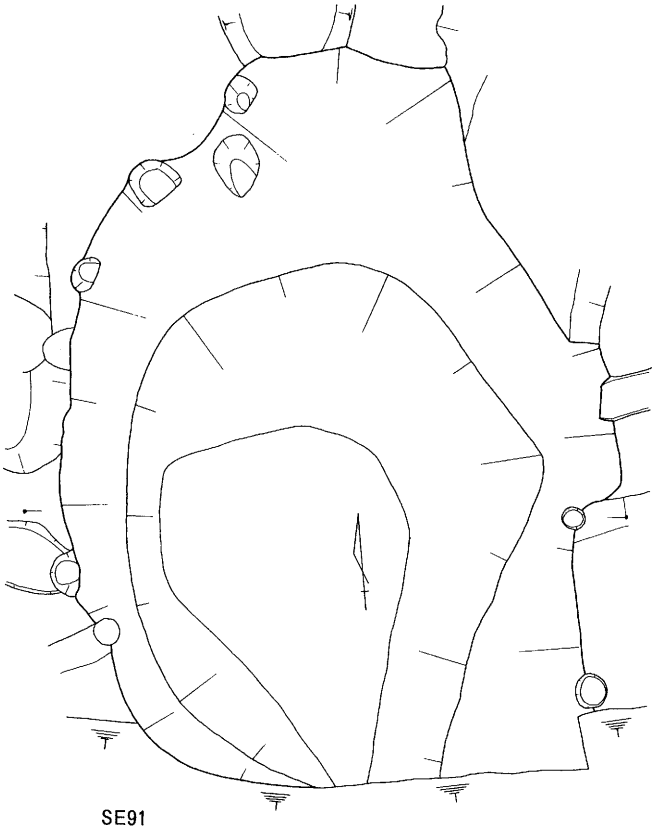
ＳＤ96の南端に重複して位置する。長軸3.9ｍ以上、短軸3.66ｍ、深さ80～97㎝を測り、大形の土坑である。遺物には瓦器椀・小皿、土師器皿・土釜、白磁碗などがあり、上・中層と下層で若干の時期差が認められる。遺物から埋土上層の堆積が13世紀中頃に生じたものと考えられる。

ｃ　井戸

２基の井戸を検出したが、基底部まで調査できなかった。現状では素掘りであるが、本来木製の井側・井筒が存在した可能性も考えられる。各時期を通して掘立柱建物の棟数に比べて井戸の少なさが顕著である。

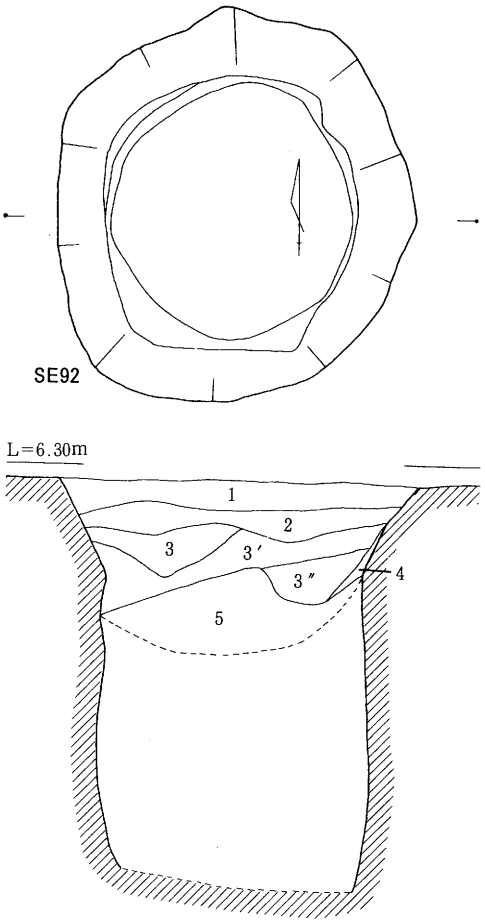
ＳＥ９２（第17図、ＰＬ．６）

調査区の中央南端に位置する。長軸2.1ｍ、短軸1.9ｍ、深さ2.2ｍ以上を測り、円形を呈する。掘り込みは上部約50㎝まで傾斜し、以下はほぼ垂直に掘削されている。埋土上部は地山土に類似する堆積土が認められ、

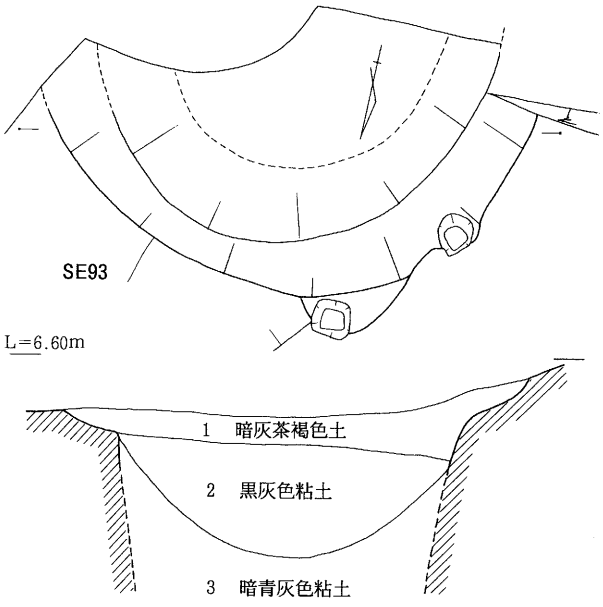


1　暗灰茶褐色砂質土
2　①に黄色土ブロック含む
3　暗灰茶褐色砂質土（①より暗色、砂質度弱い）
4　暗茶褐色土
5　④に黄色土ブロック含む
6　黄色土ブロックの間に④含む
7　灰色砂（まばらに径２～３cmの黄色土ブロック含む）
8　黄白色粘土

遺物取り上げ対応層位
１－３　上層
　４　中層
　７　下層or砂層



1　茶色土
2　茶色土
3　茶褐色土
3′茶褐色土（③に黄色土ブロック含む）
3″茶褐色土（③に比し暗色）
4　暗茶灰色土
5　暗青灰色粘土



0　2 m

第17図　第ＩＡ区ＳＫ91、ＳＥ92・93実測図

人為的に埋められた可能性が高い。遺物は鎌倉時代の瓦器椀と共に土師器小皿（根来タイプを含む）、備前焼擂鉢、青磁・白磁碗、青白磁合子などが出土している。遺物から埋土上層の堆積は室町時代15世紀中頃以後と考えられる。

ＳＥ９３

調査区の南東隅に位置する。検出範囲が限られるが直径2.46ｍの円形を呈すると考えられる。掘り込みは回りに浅い段がつき、以下ほぼ垂直に掘削されている。遺物は土師器小皿（根来タイプを含む）、瀬戸美濃天目茶碗が出土している。遺物の示す時期は新しく、第ＩＡ区に当該期の建物は確認されていない。

ｄ　溝

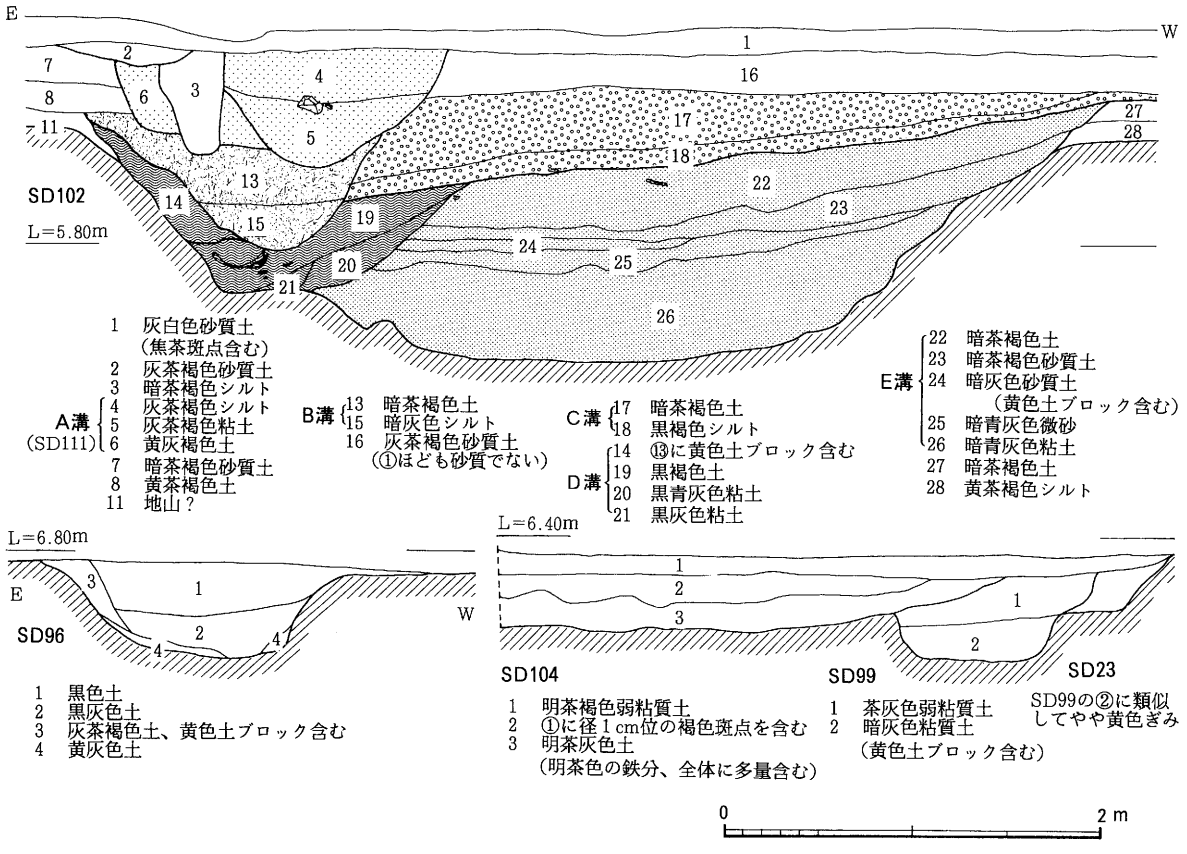
平安時代後期～江戸時代までの溝を20条以上検出した。中には、現在の土地区画と同一方位を示すものがあり、古くからの条里遺構との関係が見受けられる。近世以後と考えられる素掘り溝は除外した。

ＳＤ９６（第18図）

調査区の東半に位置し、北から南方向に蛇行しながら延びる溝である。幅1.48～2.06ｍ、深さ36～50㎝を測り、延長23.5ｍ分を検出した。遺物は瓦器椀・小皿、土師器皿、須恵器捏鉢、丸瓦、鉄鏃・平鍬・鉄釘など下層に13世紀前半～中頃にかけてのものが多く、11世紀後半のものも見受けられる。

ＳＤ９９（第18図）

調査区の西端に位置し、北から南方向に大きく湾曲して延びる溝である。幅1.08～1.24ｍ、深さ40～45㎝を測り、延長26.3ｍ分を検出した。遺物は11世紀中頃～後半の土師器、瓦などが出土している。



第18図　第ＩＡ区平安時代後期～室町時代溝土層図

ＳＤ１０２（第18図、ＰＬ．２・６）

調査区の西半に位置し、北から南方向に直線的に延びる溝である。掘り直しが認められ、ＳＤ111を含めて６条の溝が重複して存在する。各溝をＡ溝～Ｅ溝と区別し、Ａ・Ｂ・Ｄ溝が東肩に沿って再掘削されている。各々の溝の幅・深さは、Ａ溝が1.8ｍ・60㎝、Ｂ溝が1.6ｍ・70㎝、Ｃ溝が5.4ｍ・50～60㎝、Ｄ溝が2.0ｍ・95㎝、Ｅ溝が4.2ｍ・135㎝を測る。Ａ溝は埋土の堆積状況から第６層が一時期古くなる可能性がある。軸方向をＮ－10°－Ｅに置き、調査区南北両側の現水田と同一方向を示している。遺物は12世紀末～16世紀初頭の瓦器椀・小皿、土師器皿・土釜・土堝、瓦質足釜・甕、備前焼壺・擂鉢、須恵質椀・捏鉢、青磁碗、砥石、金属製品など多種にわたり、各々の溝の埋没時期を反映している。埋土の堆積状況と遺物から、Ｅ溝とＤ溝の間に掘削時期の大きな開きがあるものと考えられる。

ＳＤ１０４（第18図）

調査区の南西隅でＳＤ99に重複して位置する。一見、落ち込み状地形の様相を呈し、重複関係からＳＤ99より新しい。遺物は古い時期のものを含みつつ、13世紀後半の瓦器椀、土錘などが少量出土している。

ＳＤ１０９

調査区の東半に位置し、北から南方向に直線的に延びる溝である。幅0.63ｍ、深さ50㎝を測り、軸方向をＮ－８°－Ｅに置き、ＳＤ102に類似する。重複関係からＳＢ52より古い。遺物は13世紀～14世紀の土師器皿、須恵質捏鉢などが少量出土している。

ＳＤ１１１

ＳＤ102に重複して位置する。第18図に示す第２層がＳＤ111に相当する。遺物は古い時期のものを含み、15世紀末～16世紀初頭の土師器皿・土釜・捏鉢、瓦質土釜、備前焼擂鉢などが出土している。

ＳＤ１１２

ＳＤ102の東側に並行して位置する。幅22～94ｍ、深さ６～14㎝を測り、主軸方向をＳＤ102・111と同じにする。遺物は15世紀後半の土師器皿・捏鉢、瓦質甕、備前焼擂鉢、白磁小碗などが出土している。

２　第ＩＢ区・ＩＣ区（第19図、ＰＬ．７）

第ＩＢ区は第ⅡＡ区の中央南側に接して、第ＩＣ区は第ＩＡ区と第ⅡＡ区の間に位置している。

（１）弥生・古墳時代

溝　ＳＸ121は方形周溝墓ＳＸ251の溝の延長で、第ⅡＡ区の項で扱う。

ＳＤ１２　第ＩＡ区ＳＤ12の南東側延長部分に当り、第ＩＡ区同様に多量の弥生土器が出土している。

ＳＤ１２６　第ＩＢ区に位置し、重複するＳＤ131に削られる。第ⅡＡ区のＳＤ268の延長部分を検出した。

ＳＤ１２７　第ＩＢ区に位置する。第ⅡＡ区のＳＤ267の延長部分と考えられるが、重複するＳＤ131に削られ全容は判然としない。遺物は少量の弥生土器と共に土師器高坏、須恵器坏蓋が少量出土している。

（２）平安時代後期～室町時代

溝　ＳＤ１３１

第ＩＢ区に位置する。第ⅡＡ区のＳＤ424ないしＳＤ429の延長部分を検出した。第ⅡＡ区よりやや北向きに方向を変え、東南東方向に延びる。遺物は黒色土器Ａ類椀、土師器皿・甕・竈などが少量出土している。

その他、所属時期を明確にし難い数個の柱穴を確認したに留まる。

3　第ＩＤ区（第19図、ＰＬ．7）

第ＩＤ区は第ⅡＡ区の中央北側に接して位置している。

（1）弥生・古墳時代

弥生・古墳時代の遺構は、竪穴住居・土坑・溝を検出した。遺構の密度はやや低い感がある。

a　竪穴住居　**ＳＩ１３６**（第20図）

南側は第ⅡＡ区のＳＩ189に続くものと考えられる。平面規模は東西4.6ｍ、南北復原4.4ｍ、壁の残存高は38～42㎝を測る。主柱穴は２箇所で検出でき、直径16～26㎝、深さ34～37㎝を測り、４本と考えられる。壁溝は北壁と西壁に接して設けられ、平均幅５㎝、深さ４㎝を測る。東壁中央に竈が造り付けられている。竈は両袖間の幅77㎝、袖の長さは北側で52㎝、南側で55㎝が遺存している。竈の燃焼部には焼土が認められ、やや窪んでいる。遺物は布留式併行期のものを含み、５世紀中頃の土師器壺・甕・高坏などが少量出土している。

b　土坑　**ＳＫ１４１**（第20図）

ＳＩ136の北西隣に位置する。長軸1.5ｍ以上、短軸1.2ｍ、深さ55㎝を測り、調査区の北側に続く。遺物は土坑の西側から一時期に投棄された状態で、布留式併行期古段階の土師器壺・甕・高坏・器台・製塩土器、砥石などが多数まとまって出土している。西側に位置するＳＫ142にも同時期の遺物が認められる。

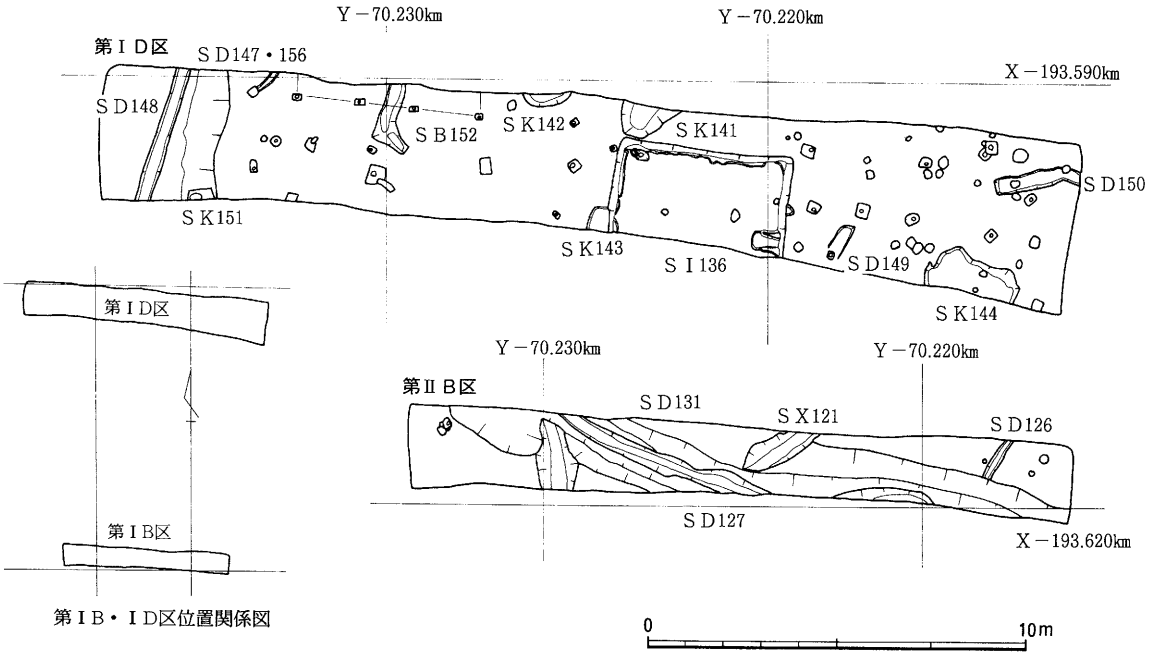
c　溝　**ＳＤ１４７**

調査区の西端で後世の溝ＳＤ156と重複して位置する。第ⅡＡ区ＳＤ270の延長部分と考えられるが、判然としない。遺物は弥生時代後期末～庄内式併行期の壺・甕が少量出土している。

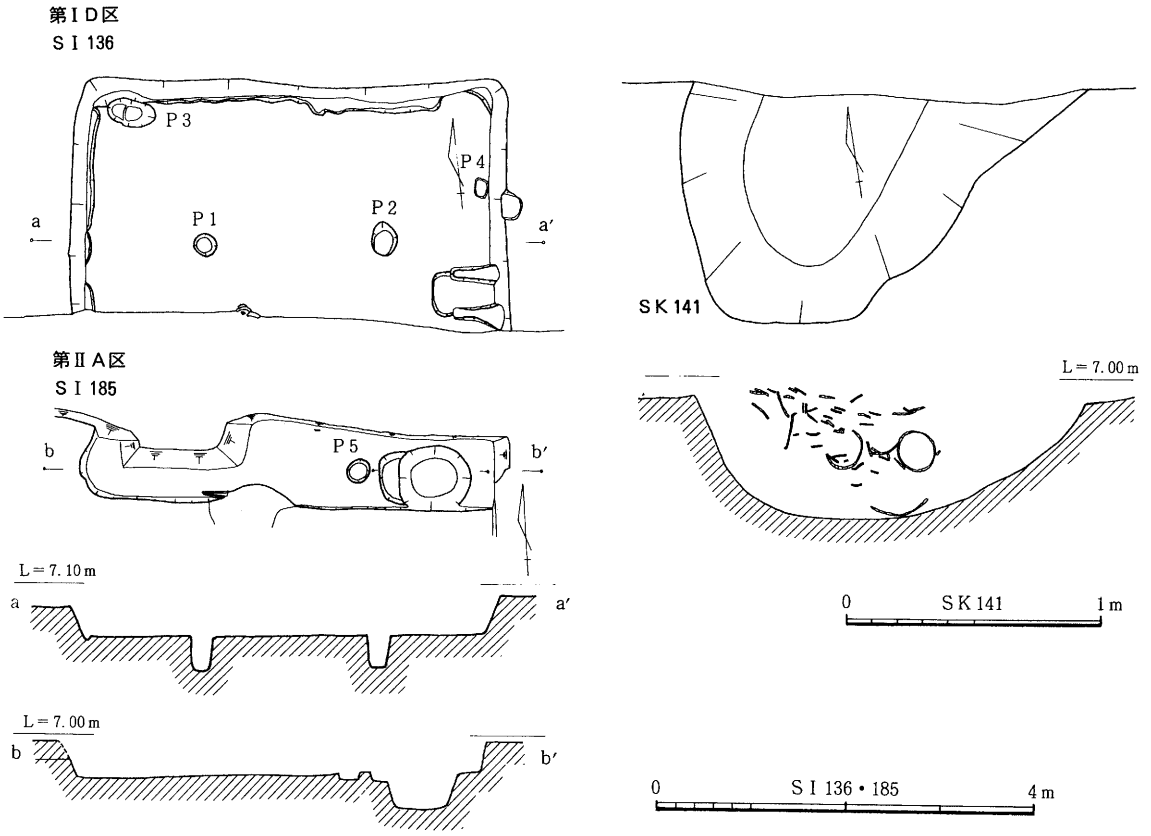
（2）奈良時代

土坑　**ＳＫ１５１**

調査区の西端でＳＤ147と重複して位置する。遺物から当該期の土坑と判断したが、判然としない。



第19図　第ＩＢ区・ＩＤ区遺構全体図



第20図　第ＩＤ区ＳＩ136・ＳＫ141実測図

（３）平安時代後期～室町時代

ａ　掘立柱建物　ＳＢ１５２

調査区の西半北端に位置する。３間（4.78m）規模の建物の桁行方向南端と判断した。柱間は比較的整い平均1.6mを測る。遺物が微量のため時期は断定し難い。主軸方向をＮ－84°－Ｗに置く。

ｂ　溝　ＳＤ１５６

調査区の西端で溝ＳＤ147と重複して位置する。第ⅡＡ区ＳＤ470の延長部分と考えられるが、判然としない。遺物は土師器皿・小皿、須恵質椀などが少量出土している。

第２節　第Ⅱ区の検出遺構

１　第ⅡＡ区

（１）弥生・古墳時代（第21図、ＰＬ．８・９）

弥生・古墳時代の検出した遺構には竪穴住居・掘立柱建物・方形周溝墓・土坑・溝などがある。第Ⅱ区では、当地区に集落が形成され始めた弥生時代後期中葉から古墳時代６世紀前半まで連綿と続くものである。調査区が道路幅という制約があり、この南北両側に展開される一大集落を想定することができる。

ａ　竪穴住居（表４）

第Ⅱ区において竪穴住居は旧河道の西側の第ⅡＡ区で32棟検出した。しかし、旧河道の東側の第ⅡＢ区ではその検出は皆無であった。竪穴住居の内訳は円形住居９棟、隅丸方形住居３棟、方形住居19棟、長方形住居１棟である。これらの竪穴住居は遺構相互の重複ないし一部が調査区外に掛かるものが多く、全容を確認できたものは数少ない。

ＳＩ１６１（第22図、ＰＬ.10）

平面規模は直径6.22～6.24ｍを測り、中央に炉が設けられたほぼ正円を呈する竪穴住居である。住居の壁は大半がＳＩ165に削平されているが、14～16㎝遺存しておりほぼ垂直に立ち上がる。炉は長軸98㎝、短軸86㎝、深さ12㎝を測り楕円形を呈する。炉の南側は二段に段づき、掻き出し口と思われる痕跡が認められる。主柱穴は７本であり、柱間は最も狭い間隔で1.3ｍ、最も広い間隔で2.6ｍを測り一定でない。炉の最下層には灰白色の灰が２㎝弱堆積しており、その上層は黒褐色粘質の炭で覆われていた。住居の埋土は２層に堆積し、上層は暗茶褐色土、下層は黒褐色土である。遺物は少量で埋土から甕、床面直上から高坏、柱穴から壺・高坏などが出土した。出土土器から、ＳＩ161は弥生時代後期中葉と考えられる。

ＳＩ１６２（ＰＬ.12）

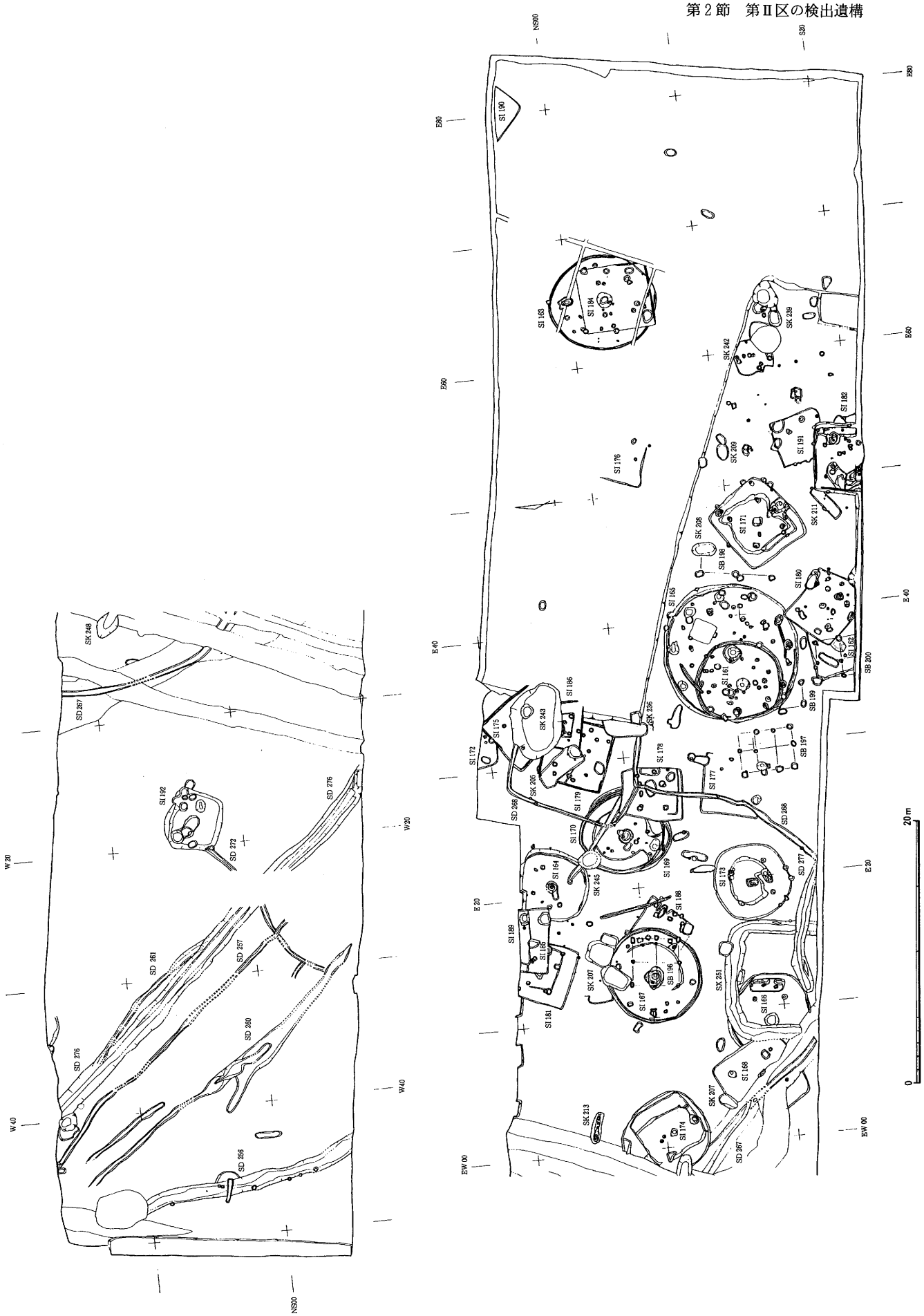
平面規模は東西4.24ｍ、南北3.52ｍ以上を測る。削平が著しく壁の残存高は２～13㎝である。中央に楕円形の炉が設けられた方形の竪穴住居である。ＳＩ162に付随する主柱穴と壁溝は認められなかった。炉の規模は長軸120㎝、短軸90㎝、深さ３㎝と非常に浅く楕円形を呈する。住居の埋土は３層に分層でき、中層からの遺物量が最も多く、弥生時代後期中葉の広口壺・長頸壺・甕・器台などが出土している。

ＳＩ１６３（第22図、ＰＬ.10）

平面規模は長径8.18ｍ、短径7.44ｍのやや楕円形を呈し、中央に炉が設けられた円形の竪穴住居である。削平が著しく壁の残存高は４～17㎝である。主柱穴を６本有し、柱間は2.0～3.36ｍと不揃いである。炉の規模は直径116×118㎝、深さ56㎝を測り、炉堤は巡らない。炉の埋土は３層に分層することができ、上・下層は黄色味の強い茶色の炭粒混入土が、中層には灰黒色の炭・灰・焼土が堆積していた。遺物は炉の東側床面から少し浮いた状態で、二重口縁壺・高坏・甑・大形器台など大振りの破片が散在していた。埋土から緑色凝灰岩製の勾玉・管玉、碧玉製の管玉、サヌカイト製の削器未製品などが出土している。

ＳＩ１６４（第23図、ＰＬ.12）

ＳＩ164は調査区の中央北端に位置する。中央に炉が設けられた隅丸方形の竪穴住居である。住居の北端は若干調査区外に掛かり、北西隅はＳＩ185に削られている。平面規模は長軸5.98ｍ、短軸5.54ｍを測り、若干東西に長い。壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存高は48～52㎝を測る。主柱穴は４本である。東西の柱間は約2.1ｍ、南北の柱間は約2.3～2.4ｍを測り、この柱間の間隔は平面形に相反する。炉は直径90㎝の円形を



第21図　第ⅡＡ区弥生・古墳時代主要遺構全体図

呈し、掘り込みは三段を有し深さ53cmである。炉の西側には灰を掻き出したと考えられる深さ２～３cm、東西56cm、南北44cmの浅い窪みを検出した。壁溝は東側と西側に幅13～15cm、深さ６～11cmと明瞭に遺る。住居の床面は比較的堅く引き締まり、黄色味の強い茶色である。遺物は埋土の中・下層から多量に出土し、床面直上から広口壺・高坏、壁溝から脚台付壺などが、埋土から管玉１点が出土している。

ＳＩ１６５ａ（第24図、ＰＬ.11）

ＳＩ165ａは同心円拡張したＳＩ165ｂによって殆ど削平された円形の竪穴住居である。平面規模は直径7.96ｍを測る。住居の壁は遺存せず、８本の主柱穴と僅かに北西側と南側に壁溝の一部を検出したのみである。柱穴の柱当りも直径10～46cmと非常に不揃いで、柱間の間隔も1.88～3.0ｍと等間隔でない。

ＳＩ１６５ｂ（第24図、ＰＬ.11）

ＳＩ165ｂは、第Ⅱ区の中で最も規模の大きなものである。平面規模は東西10.56ｍ、南北10.30ｍで、平面積は85.4㎡を測る。壁は南西隅が最も削平を受け、やや斜めに立ち上がり８～43cm遺存する。主柱穴は11本で、西側の柱穴（Ｐ３～６）の掘形の直径は約40～60cmと小振りであるのに対し、他の主柱穴の掘形は80～90cmと大きなものである。深さ39～76cmを測る。主柱穴の柱間は約２～３ｍの範囲で、住居全体の中ではさほど違和感がない。壁溝は深さ３～７cmと浅く、幅20～28cmを測る。壁溝は住居内を全周するのではなく、東南隅で約5.6ｍ途切れていることから出入口が存在した可能性も考えられる。炉は中央に位置し、直径138×134cmのほぼ円形を呈し、二段に構築されている。平面形から炭・灰の掻き出し方向は南側と考えられる。この炉に炉堤は巡らないが、床面には約１ｍ内外の範囲で炭が認められた。遺物は柱穴から広口壺・細頸壺・甕・鉢・高坏などの多量の遺物が出土している。

ＳＩ１６６（第23図、ＰＬ.17）

調査区の中央南端に位置する。ＳＩ168と方形周溝墓ＳＸ251に削られ、平面形が半分以上欠損している。平面規模は直径6.23×6.28ｍ、壁の残存高は20～29cmを測る。中央やや西寄りに炉が設けられ、５本の主柱穴を有する。柱間は2.15～2.30ｍとほぼ等間隔である。炉の規模は直径104cm、深さ22cmを測り、底面は平坦である。炉の南西側底面には薄い焼土の範囲が認められた。壁溝は幅８～14cm、深さ４～８cmを測る。

ＳＩ１６７（第25図、ＰＬ.10）

調査区の中央に位置する。中央に炉が設けられた円形の竪穴住居である。平面規模は長径7.35ｍ、短径7.18ｍ、壁の残存高は16～26cmを測る。主柱穴は８本で、深さ18～64cmである。炉の規模は長軸114cm、短軸104cm、深さ71cmを測り、炉堤が巡る。炉堤は幅16～20cm、高さ４～６cmを測り、黄色の粘土で貼られ、西側で開口している。おそらく西側部分に灰を掻き出したものと考えられる。炉の埋土は基本的に三層に分層され、第11層は灰黒色弱粘質土で炭・灰の層である。また、住居の内側には北東側から南側にかけて、高さ約３～６cm、幅80～130cmのベッド状遺構が構築されている。壁溝は幅12～18cm、深さ８～10cmを測り全周するものと思われる（一部ＳＫ207に削られる）。西側の床面直上の土層では炭が検出された。遺物は床面直上から広口壺・甕・鉢が、埋土から甕・鉢・二重口縁壺・高坏・小形甕などが出土している。

ＳＩ１６８（ＰＬ.13）

ＳＩ168は平安時代の溝（ＳＤ424・429）に中央部を北西から南東にかけて大きく削られている。平面規模は長辺6.0ｍ、短辺5.80ｍの南北にやや長い方形の竪穴住居である。壁の残存高は８～16cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。主柱穴は４本（内、２本はＳＤ424・429のためかなり削平されている）で、掘形の直径53～66cm、柱当たりは直径16cm、深さ40～48cmと比較的均一である。炉は西半分が前述のＳＤ424・429のため欠損しており、南北軸の長さから一辺72cmの隅丸方形を呈するものと思われ、深さは11cmである。

ＳＩ１６９（第26図）

ＳＩ169はＳＩ170と殆ど重なり、ＳＩ170より一時期古いものである。平面規模は長径6.64ｍ、短径6.44ｍ、壁の残存高は４～28㎝を測る。東西にやや歪な円形の竪穴住居である。中央に炉が設けられ、長軸76㎝、短軸64㎝のほぼ円形を呈し、深さ32㎝を測るが、ＳＩ170と重複しているため詳細は不明である。主柱穴は６本である。柱間は全体に東側が狭く、西側が広い間隔になる。壁溝は幅12～16㎝、深さ６～９㎝を測る。

ＳＩ１７０（第26図、ＰＬ.13）

ＳＩ169の建替えと考えられ、位置が北西方向に若干移動している。平面規模はＳＩ169に比べやや小さくなり、直径6.34ｍ×6.28ｍのほぼ正円を呈する。壁の残存高は17～37㎝を測る。壁の内側には幅９～19㎝、深さ７～12㎝の壁溝が全周し、その内側には高さ２～8.3㎝、幅約85～100㎝のベッド状遺構が構築されている。主柱穴は５本でベッド状遺構の内側にほぼ等間隔に配置されている。炉は長軸110㎝、短軸70㎝、深さ39㎝を測り、楕円形を呈する。炉の周りに幅14～20㎝、高さ1.8～6.3㎝の炉堤が巡り、北東方向の開口部に掻き出し口と考えられる深さ約５㎝の浅い窪みが取り付く。南西側でベッド状遺構が2.0ｍ途切れることから、出入口の施設が存在したと考えられる。埋土から砂岩製の砥石が出土している。出土土器からＳＩ169は弥生時代後期５段階、ＳＩ170は後期６段階と考えられる。

ＳＩ１７１（第25図、ＰＬ.12）

調査区の東半南寄りに位置する。平面規模は長辺5.78ｍ、短辺5.46ｍ、壁の残存高は28～31㎝を測り、やや長方形を呈する。主柱穴を４本有し、深さ46～62㎝を測る。柱間は2.70～3.0ｍとほぼ均一で、目立って歪んではいない。住居の中央に設けられた炉は直径62×70㎝、深さ約11㎝の円形を呈し、炉堤は巡らない。埋土は全体に粘質土で覆われ、底には厚さ７㎝程の炭を含む黒褐色土が堆積している。主柱穴の外側には幅約60～90㎝、高さ10～11㎝のベッド状遺構が構築されている。南側の内壁中央部には楕円形の貯蔵穴が設けられ、長軸146㎝、短軸116㎝、深さ47㎝を測る。この南側は柱穴状の掘り穴になっており、当住居に関連するかどうか不明確である。なお、壁溝は認められない。遺物は土器の小片が多く、これらと共に床面直上から鉄鎌、西壁付近から柱状片刃石斧が出土している。

ＳＩ１７２

調査区の中央北端に位置し、住居の大半が調査区外のため全容は不明である。方形の竪穴住居と考えられる。平面規模は東西3.02ｍ、南北1.54ｍ以上を測る。壁の残存高は９～11㎝である。

ＳＩ１７３（第27図、ＰＬ.12）

平面規模は長軸5.94ｍ、短軸5.66ｍを測る円形の竪穴住居である。壁の残存高は10～20㎝を測り、斜めに立ち上がる。床面の中央に長軸84㎝、短軸62㎝、深さ24㎝を測る炉が設けられ、隅丸長方形状を呈する。主柱穴は４本であり、柱間は2.4～2.6ｍを測り、東側だけがやや短い。主柱穴に沿う形で歪なベッド状遺構が全周する。ベッド状遺構は幅1.0～1.3ｍ、床面からの高さは東側2.6㎝、西側で6.0㎝を測る。炉の埋土は大きく２層に分層でき、下層に炭を多量に含む。遺物は床面直上から広口壺・高坏・甕・手焙形土器などが、また、金属製品では鉄（素材）片３点、刀子状鉄製品１点、棒状鉄製品１点などが集中して出土している。

ＳＩ１７４（第27図、ＰＬ.10）

調査区中央やや西寄りに位置する隅丸方形の竪穴住居である。平面規模は長辺6.50ｍ、短辺5.62ｍを測り、壁高は31～42㎝を測る。住居に伴う主柱穴と壁溝は認められない。中央やや南寄りに長軸59㎝、短軸48㎝の小振りで隅丸方形状の炉が設けられ、深さ15㎝を測る。底には暗灰色弱粘質の炭を含む土が薄く堆積していた。住居の内側に沿って二段に取り付いたベッド状遺構が設けられ、床面からの高さ13～18㎝を測る。南壁

のやや内側には楕円形の貯蔵穴が設けられ、長軸81cm、短軸61cm、深さ33cmを測る。住居の埋土から多量の遺物が出土し、ＳＩ174は弥生時代後期末から庄内式併行期と考えられる。

ＳＩ１７５（第28図、ＰＬ.16）

ＳＩ175はＳＫ243に大部分が削られ、長辺4.84ｍ、短辺4.80ｍを測り、壁の残存高は32～36cmを測る。主柱穴は４本と考えられるが、北側で２本検出したのみで、南側では主柱穴と炉は欠損していた。遺物は比較的大振りの破片がまとまって出土しており、壺・甕・鉢・高坏などがある。

ＳＩ１７６

調査区の東に位置する。削平が著しく住居の南西隅壁だけを検出し、残存高は４～５cmである。規模は東西側3.10ｍ以上、南北側3.0ｍ以上を測る。主柱穴・炉・壁溝・貯蔵穴などの施設は検出できなかった。

ＳＩ１７７

長辺4.57ｍ、短辺4.34ｍを測る方形の竪穴住居である。壁の遺存状態は悪く約７～８cmである。平面形は東側と南側の削平が著しく、全容は不明である。主柱穴は４本で、深さ27～62cmを測る。炉及び壁溝は検出できなかった。南西隅には貯蔵穴と考えられる直径68～72cm、深さ25cmの土坑が設けられている。

ＳＩ１７８

ＳＩ178は南北に長辺4.64ｍ、東西に短辺4.04ｍを有し、やや長方形を呈する。壁の残存高は４～15cmである。深さ15～40cmの主柱穴を４本有し、柱間は約1.90ｍとほぼ等間隔である。南壁の内側には幅約30～55cm、高さ２～４cmのベッド状遺構が設けられている。壁溝は認められない。炉はほぼ中央に設けられ長軸44cm、短軸38cmの小振りの円形を呈する。遺物は床面直上から土師器小形鉢、埋土から弥生土器の小片が少量出土している。ＳＩ178は布留式併行期古段階に位置づけられる。

ＳＩ１７９（第28・36図、ＰＬ.13）

平面規模は長辺5.16ｍ、短辺5.10ｍを測る方形の竪穴住居である。壁高は12～16cmを測る。本来炉の位置すべき所に長軸116cm、短軸100cm、深さ29cmの土坑が検出されたが、掘形及び形状から炉と断定し難いものである。但し、底（第６層）には他の住居の炉に類似する微量の粘質の炭を含んでいた。主柱穴は４本で、深さ48～63cmと多少不揃いである。柱間は南北側が約2.50ｍ、東西側は約2.70～2.85ｍを測る。貯蔵穴は住居の南辺中央からやや西寄りの壁に隣接して設けられ、長軸82cm、短軸77cm、深さ38cmを測り隅丸を呈する。住居の北東隅はＳＫ243に削られており、ＳＩ179の遺物の中にはＳＫ243の土器が多数含まれている。

ＳＩ１８０

平面規模は長辺5.08ｍ、短辺4.24ｍのやや歪んだ長方形を呈する竪穴住居である。壁の残存高は５～９cmを測る。主柱穴は４本で深さ58～68cmと比較的深い。住居中央に長軸50cm、短軸44cm、深さ32cmを測る炉が設けられている。貯蔵穴は南西側の壁に沿って設けられ、長軸68cm、短軸48cm、深さ64cmを測り長方形を呈する。壁溝は認められない。遺物は柱穴や埋土から弥生土器・土師器の小片が少量出土している。

ＳＩ１８１（第29図、ＰＬ.13）

調査区の中央北端に位置する。住居の北東側はＳＩ185に削られ、平面規模は東西4.74ｍ、南北4.11ｍ以上を測る。主柱穴を４本有し、この内Ｐ２・３は極端に浅い。主柱穴の外側に隣接して、幅1.10ｍ、高さ1.5～3.5cmの低いベッド状遺構が構築されている。中央やや西寄りに楕円形の炉が設けられ、長軸82cm、短軸58cm、深さ17cmを測る。炉の最下層（第７層）には焼土片を含む厚さ約10cmの炭層が堆積している。遺物は床面や埋土から弥生土器・土師器の小片が少量であるが、ＳＩ181は庄内式併行期新段階から布留式併行期古段階と考えられる。

ＳＩ１８２（第29図、ＰＬ.14）

住居の南半部は調査区外のため全容は確認できなかった。平面規模は東西5.28ｍ、南北3.24ｍ以上を測り、壁の残存高は22～27㎝である。壁溝は住居の北辺と東辺で検出し、幅12～26㎝、深さ４～６㎝を測る。貯蔵穴は北東隅に設けられ、東西80㎝、南北58㎝、深さ30㎝の楕円形を呈する。ＳＩ182 に伴う主柱穴及び炉は検出できなかった。貯蔵穴から土師器の高坏、埋土から壺・甕・高坏など小片が出土している。

ＳＩ１８４

調査区の東半でＳＩ163に重複して位置する。壁は大きく削平を受け、残存高１～４㎝と浅い。主柱穴を４本有し、深さ30～62㎝を測る。柱間は南北側が約2.30ｍ、東西側が約2.45ｍを測り、やや東西に長い。住居の南西隅に東西94㎝、南北76㎝、深さ47㎝を測る楕円形の貯蔵穴が設けられている。壁溝は南辺と東辺の一部で僅かに検出したのみで、幅10㎝、深さ４～７㎝を測る。貯蔵穴からまとまって土器が出土している。

ＳＩ１８５

調査区の中央北端でＳＩ181に重複して位置する。平面規模は東西5.0ｍ、南北2.44ｍ以上を測り、壁の残存高は13～21㎝である。住居の中央南寄りに炉が設けられ、軸長90㎝×92㎝、深さ21㎝を測る。住居の東南隅に長軸104㎝、短軸76㎝、深さ20㎝の楕円形の貯蔵穴を設けている。主柱穴は南西隅で１本検出した。

ＳＩ１８６（ＰＬ.16）

平面規模は東西3.72ｍ、南北1.72ｍ以上を測る比較的小形の竪穴住居である。住居はＳＫ205・ＳＩ179・ＳＫ243に削られ、壁の遺存状態は悪く西側と南側で７～32㎝、東側では僅かに壁溝のみを確認したに留まる。住居のほぼ中央には長軸 106㎝、短軸34㎝以上、深さ５㎝の炉に類する土坑が存在するが、炉とは断定し難い。また、床面の三方には幅50～80㎝のベッド状遺構が構築されている。柱穴、貯蔵穴などの施設は検出できなかった。

ＳＩ１８７（第29図、ＰＬ.14）

平面規模は東西4.46ｍ、南北3.62ｍ以上を測る。壁は20～31㎝遺存し、斜めに立ち上がる。主柱穴は４本と考えられるが、南西側の柱穴は検出できなかった。壁溝は僅かに西壁に沿って検出でき、深さ１㎝である。竈は東壁の中央北寄りに位置し、袖は黄色粘土で造り付けられている。竈の袖は長さ72㎝、高さは北側で約７～23㎝、南側は殆ど削平され１㎝である。燃焼部の下部に浅い窪みが有り、その中央に深さ約26㎝、直径16㎝の掘り穴が検出されたが、竈に伴うかどうか不明である。また、Ｐ４東側で直径34×36㎝、深さ４㎝の炉状の土坑を検出したが、本来ＳＩ182に伴う炉と考えられる。

ＳＩ１８８（第30図、ＰＬ.14）

平面規模は南北3.88ｍ、東西3.22ｍ以上を測る。ＳＩ167と重複する住居の西半は、検出時にプランが判別しにくく検出できなかった。壁はやや斜めに立ち上がり、残存高は11㎝を測る。東壁の中央北寄りに竈が造り付けられている。袖は地山削り出しである。北側の袖は長さ65㎝、幅25㎝、南側は長さ46㎝、幅32㎝を測る。燃焼部は東西60㎝、南北約30㎝、深さ15㎝の窪みになり、土師器の高坏の坏部を伏せ、支脚の代用としている。住居の東南隅に長軸90㎝、短軸68㎝、深さ13㎝の長方形を呈する貯蔵穴が設けられている。また、住居内で７箇所の柱穴を検出したが、主柱穴は不明である。壁溝は認められない。住居の床面直上から緑色凝灰岩の小玉２点が出土している。出土土器からＳＩ188は５世紀中頃と考えられる。

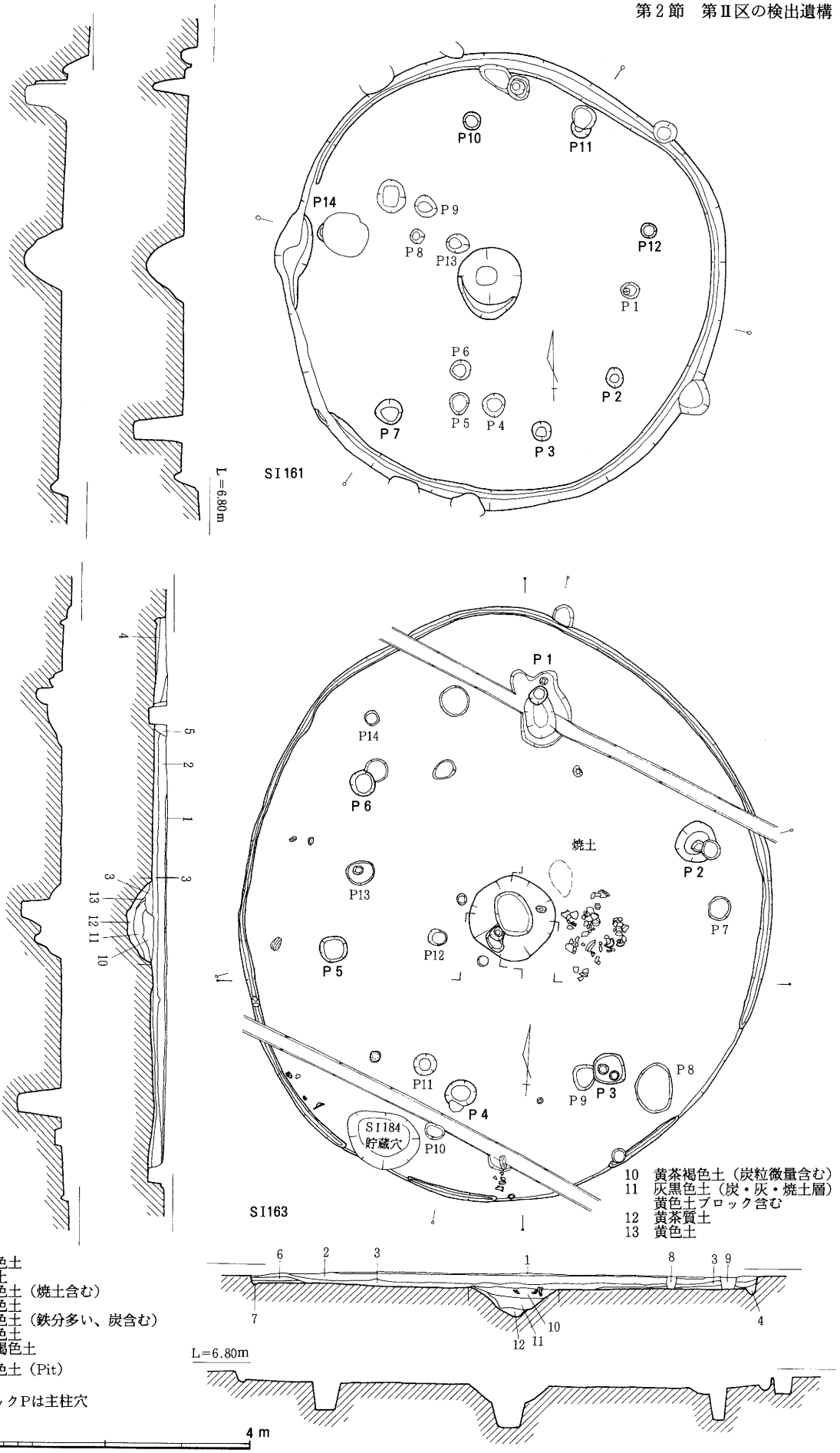
ＳＩ１８９（第20図）

調査区の中央北端でＳＩ185に重複して位置する。ＳＩ189の北側は第ＩＤ区のＳＩ136に続くものと考えられる。平面規模は東西4.36ｍ、南北0.94ｍ以上、壁の残存高は13～30㎝を測る。東南隅に貯蔵穴が設けら

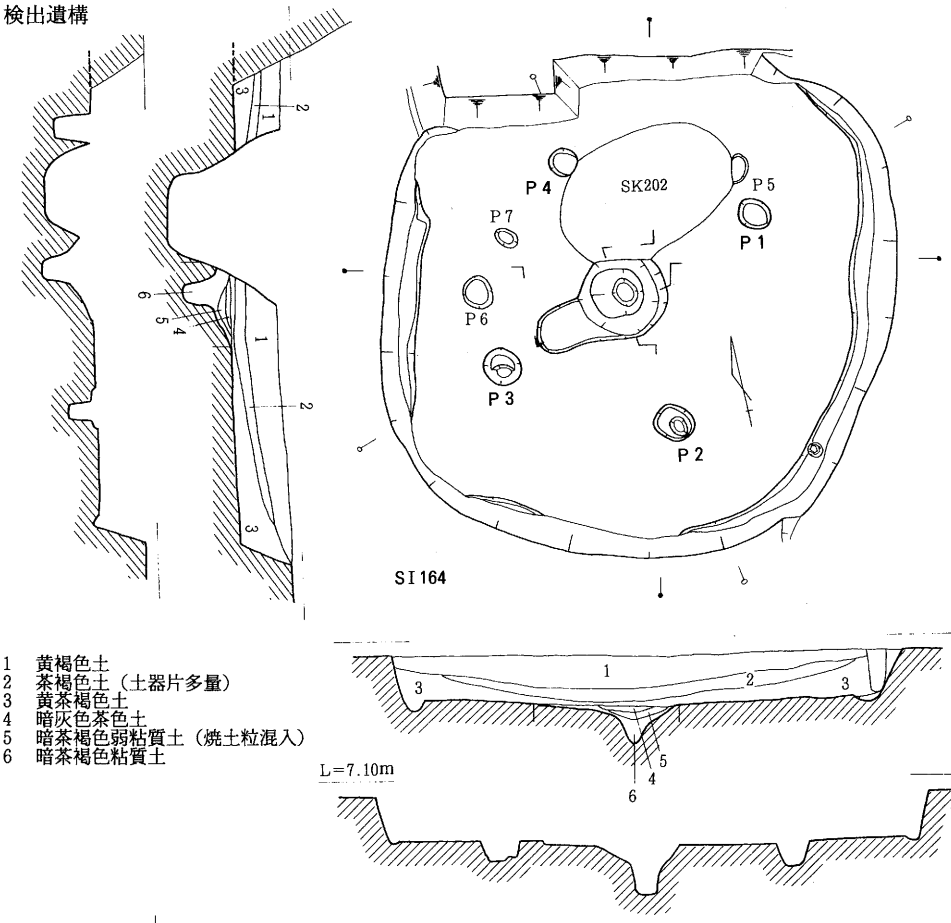
竪穴住居	形	規模 東西×南北 (cm)	面積 (㎡)	壁高 (cm)	主柱数	柱穴 径 (cm)	柱穴 深 (cm)	壁溝 幅 (cm)	壁溝 深 (cm)	炉 形	炉 平面規模 (cm)	炉 深 (cm)	炉堤	カマド (cm)	貯蔵穴 形	貯蔵穴 平面規模 (cm)	貯蔵穴 深 (cm)	ベッド
ＳＩ 161	円	622×624	30.5	14～16	7	11～22	38～62	13～22	8～12	円	86×98	(12)						
ＳＩ 162	方	424×(352)	(14.9)	2～13	?					楕円	90×120	3						
ＳＩ 163	円	744×818	47.8	4～17	6	12～28	32～60	8～16	4～8	円	116×118	56						
ＳＩ 164	隅丸	598×554	26.0	48～52	4	12～30	22～33	13～15	6～11	円	90×91	53						
ＳＩ 165 a	円	796	49.7	0	8	10～46	9～61	15～22	3	円	134×138	74						
ＳＩ 165 b	円	1,056×1,030	85.4	8～43	11	12～48	39～76	20～28	3～7	円	134×138	74						
ＳＩ 166	円	623×628	30.7	20～29	5	10～36	33～73	8～14	4～8	円	104×104	22						
ＳＩ 167	円	735×718	41.4	16～26	8	8～42	18～64	12～18	8～10	円	104×114	71	○					○
ＳＩ 168	方	580×600	34.8	8～16	4	14～18	14～48			方形	(30)×72	11						
ＳＩ 169	円	664×644	33.6	4～28	6	6～20	23～38	12～16	6～9	円	64×76	32	○					
ＳＩ 175	方	484×480	23.2	32～36	(2)	18～22	61	7～10	2～6	?								
ＳＩ 186	方	372×(172)	(6.4)	7～32	?			6～10	4～5	楕円	(34)×106	5						○
ＳＩ 170	円	628×634	31.3	17～37	5	14～17	25～32	9～19	7～12	楕円	70×110	39	○					○
ＳＩ 171	方	578×546	31.6	28～31	4	7～13	46～62			円	62×70	11			楕円	116×146	47	○
ＳＩ 172	方	302×(154)	(4.7)	9～11	?					?								
ＳＩ 173	円	566×594	26.4	10～20	4	12～26	30～75			長方	62×84	24			楕円	60×110	35	○
ＳＩ 174	隅丸	562×650	28.7	31～42	0					方形	48×59	15			楕円	61×81	33	○
ＳＩ 176	方	(310×300)	(9.3)	4～5	?					?								
ＳＩ 177	方	457×434	19.8	7～8	4	12～18	27～62								円	68×72	25	
ＳＩ 178	方	404×464	18.7	4～15	4	(8)～32	15～40			円	38×44	未堀						○
ＳＩ 179	方	510×516	26.3	12～16	4	8～10	48～63	10～14	4	円	100×116	29			隅丸	77×82	38	
ＳＩ 180	方	508×424	21.5	5～9	4	11～18	58～68			円	44×50	32			長方	48×68	64	
ＳＩ 181	方	474×(411)	(19.5)	20～27	4	14～40	5～50			楕円	58×82	17			楕円	76×95	12	○
ＳＩ 182	方	528×(324)	(17.1)	22～27	0			12～26	4～6	円	34×36	4			楕円	58×80	30	
ＳＩ 184	方	510×538	27.4	1～4	4	12～20	30～62	10	4～7						楕円	76×94	47	
ＳＩ 185	方	500×(244)	(12.2)	13～21	(1)	14	49			円	90×92	21			楕円	76×104	20	
ＳＩ 187	長方	446×(362)	(16.2)	20～31	(3)	16～32	8～22	5～8	1					96×101	楕円	44×54	5	
ＳＩ 188	方	(322)×388	(12.5)	11	(2)	16～24	15～29							65×92	長方	68×90	13	
ＳＩ 189	方	436×(94)	(4.0)	13～30	(1)	19	11								楕円	68×90	43	
ＳＩ 190	方	(324×240)	(7.8)	10～30	?													
ＳＩ 191	方	350×380	13.3	3～10	(2)	24～26	15～35							?	楕円	82×110	8	
ＳＩ 192	隅丸	478×422	20.1	31～35	?						?							

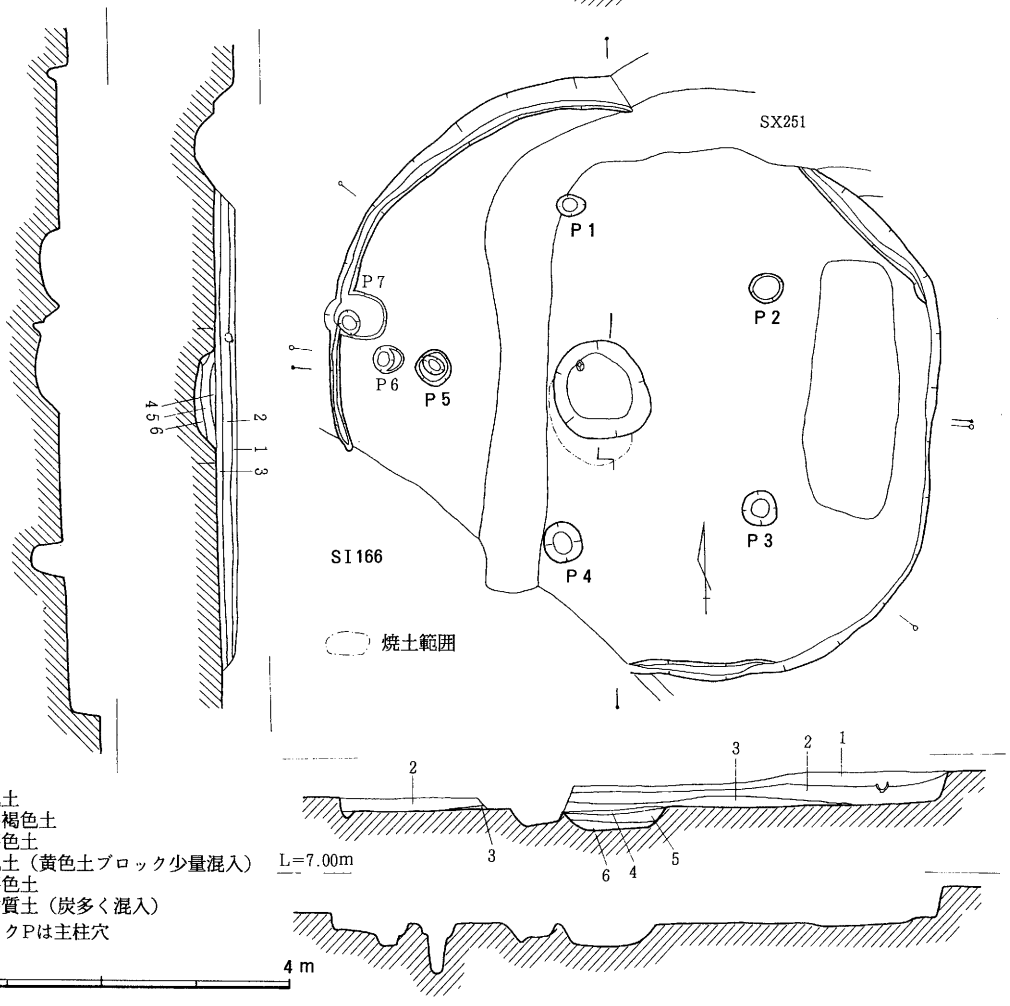
（　）付は現存規模、柱穴は柱当り寸法

表４　第ⅡＡ区弥生・古墳時代竪穴住居規模一覧

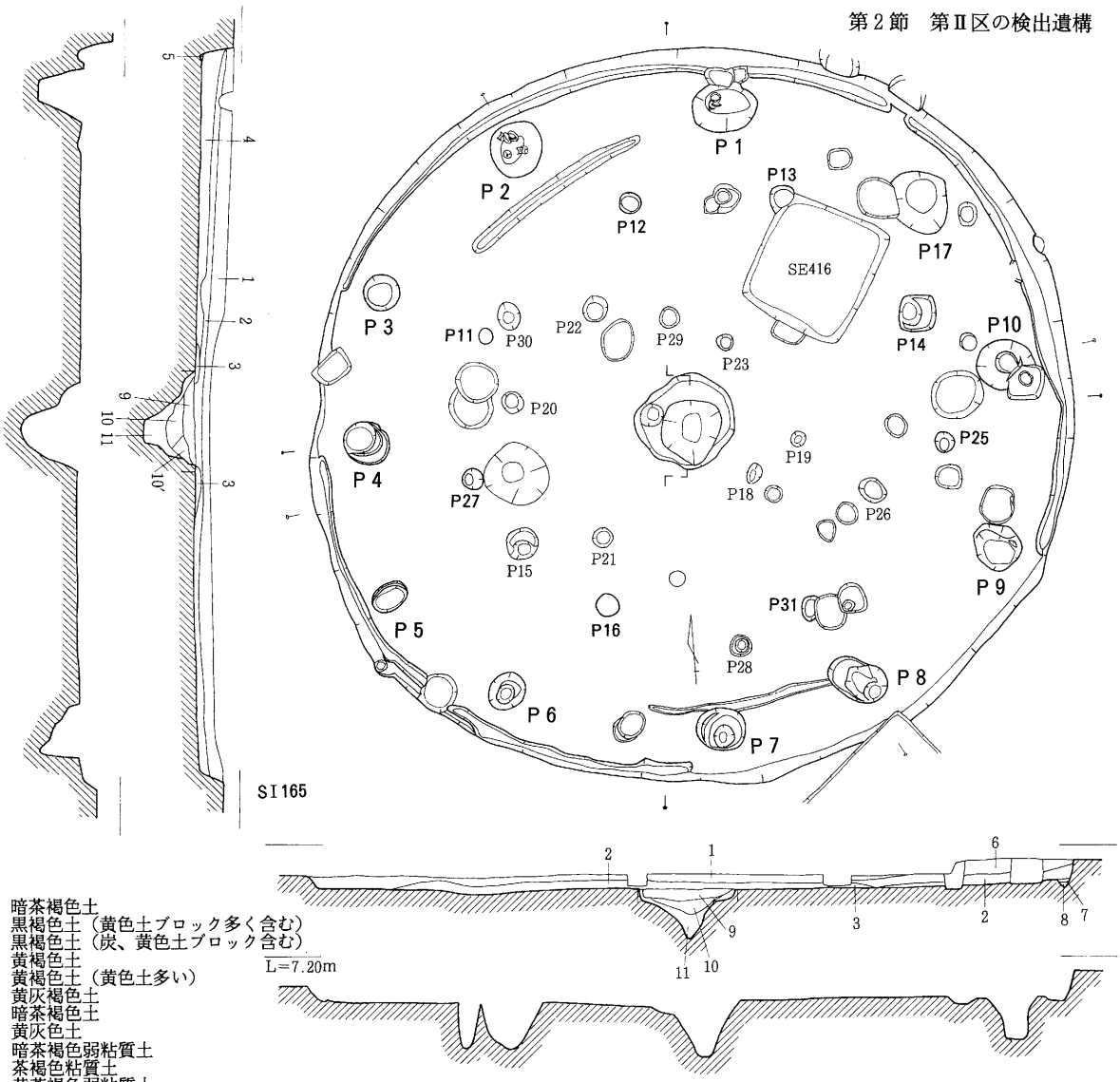


第22図　第ⅡＡ区ＳＩ161・163実測図

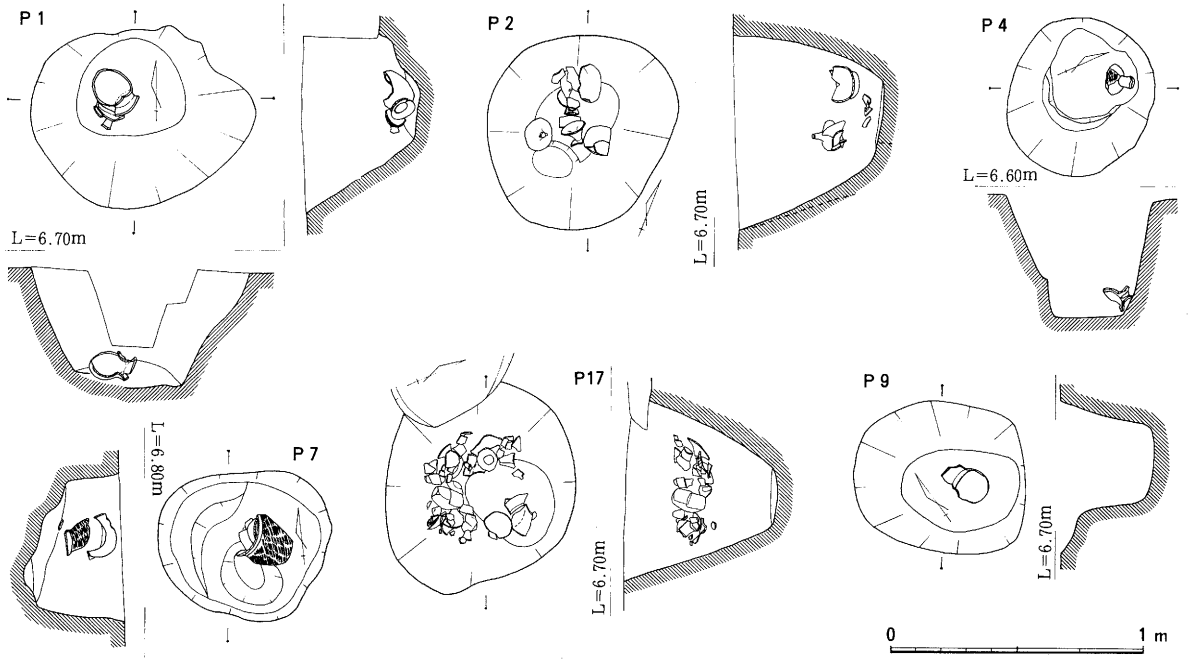




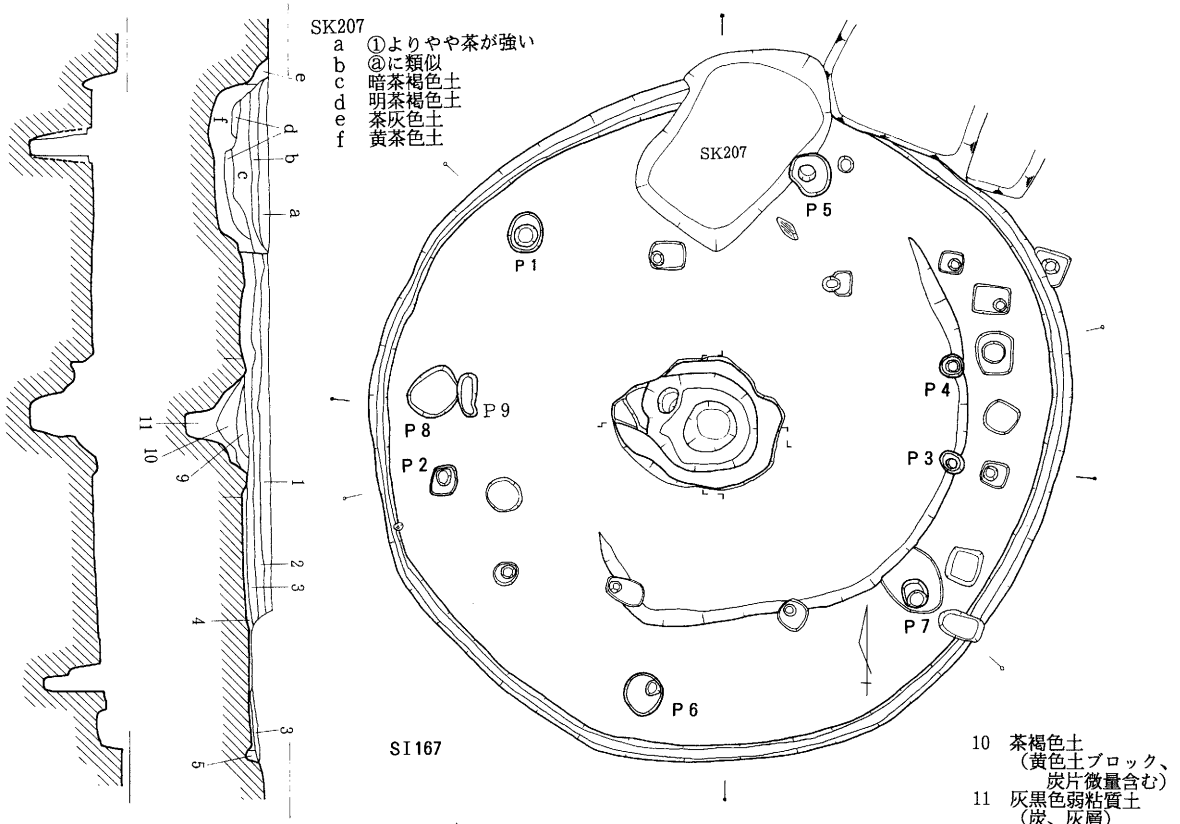
第23図　第ⅡA区ＳＩ164・166実測図

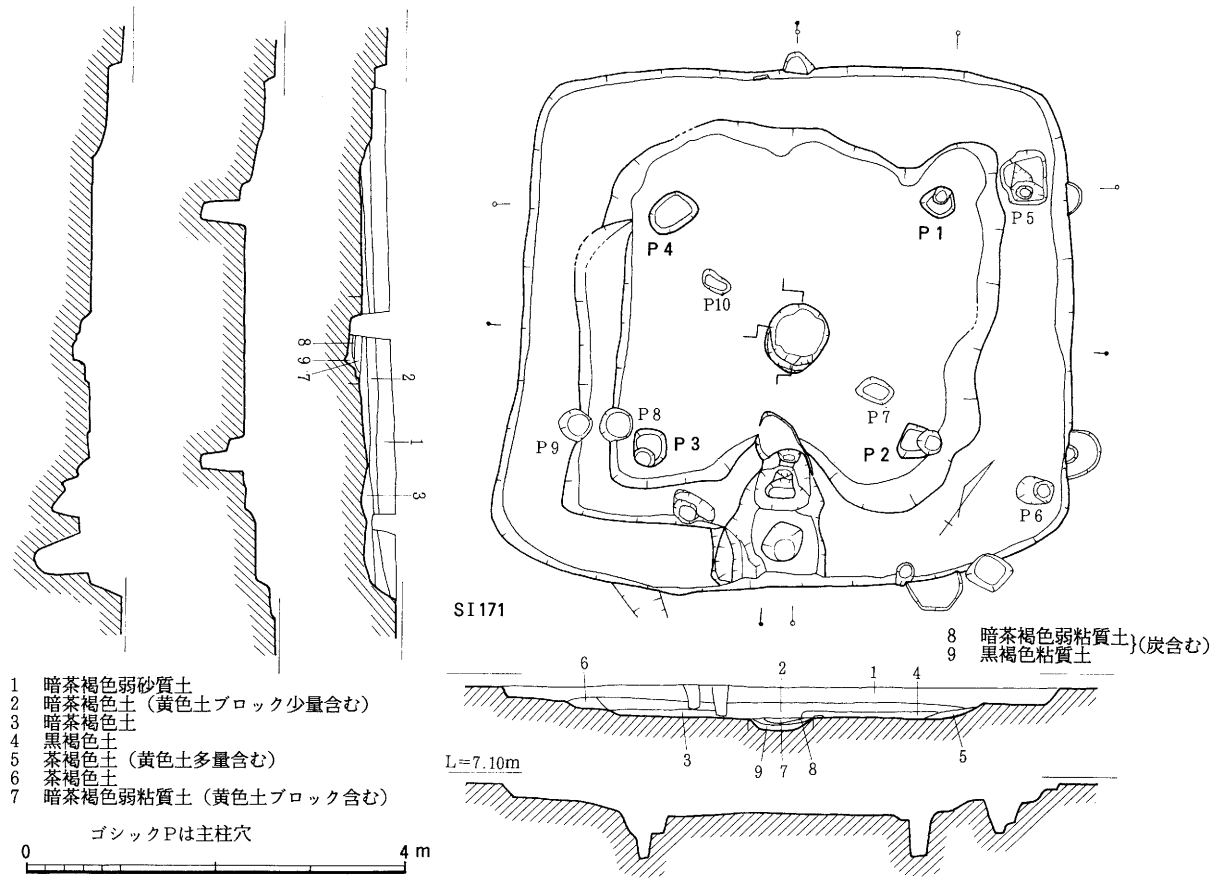


1　暗茶褐色土
2　黒褐色土（黄色土ブロック多く含む）
3　黒褐色土（炭、黄色土ブロック含む）
4　黄褐色土
5　黄褐色土（黄色土多い）
6　黄灰褐色土
7　暗茶褐色土
8　黄灰色土
9　暗茶褐色弱粘質土
10　茶褐色粘質土
10′　黄茶褐色弱粘質土
11　黒褐色粘質土（炭）

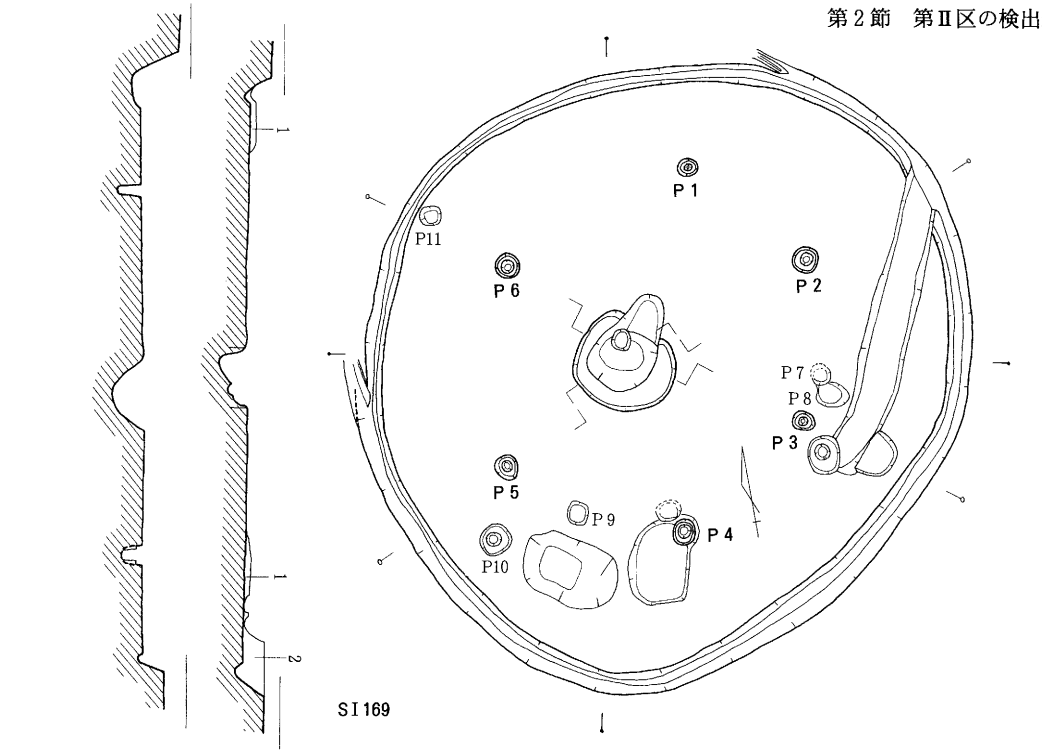


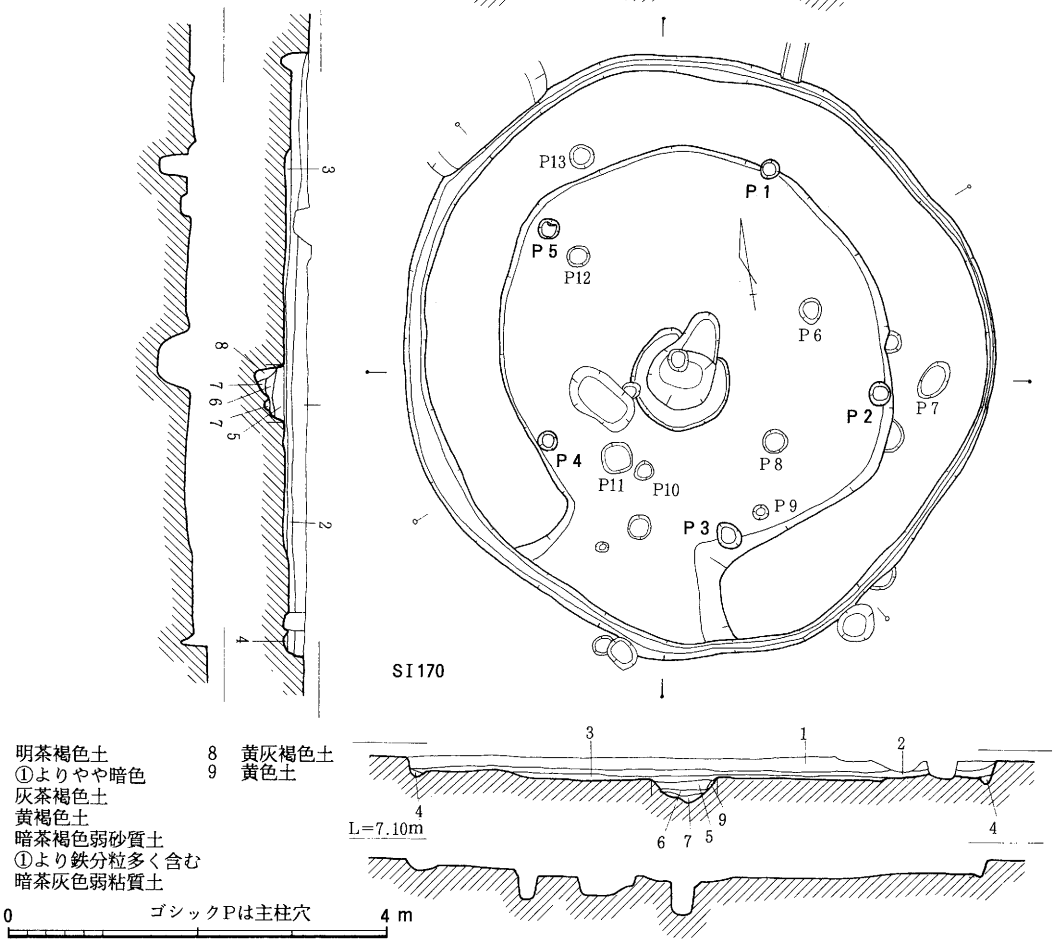
第24図　第ⅡＡ区ＳＩ165及び柱穴実測図



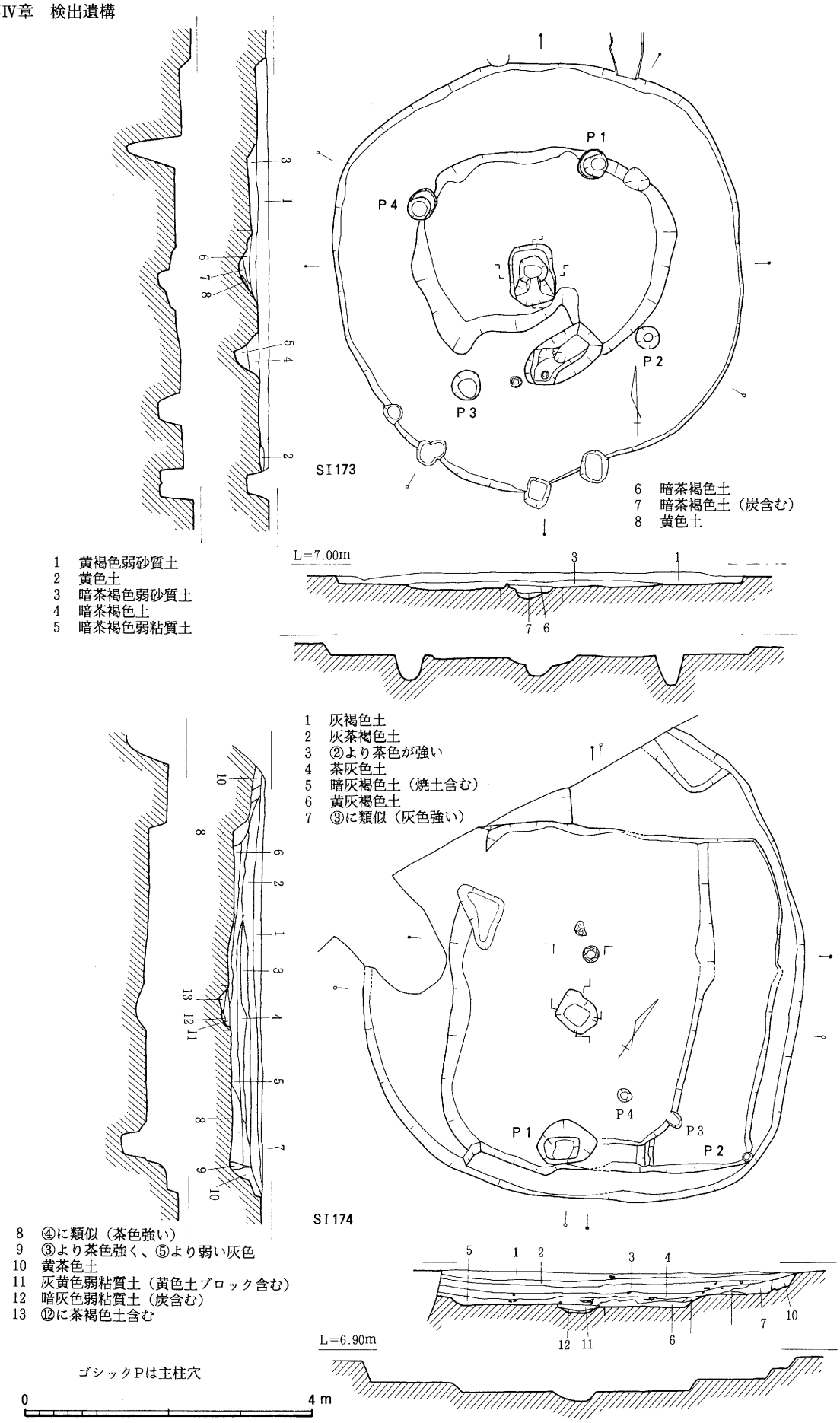


第25図　第ⅡA区ＳＩ167・171実測図

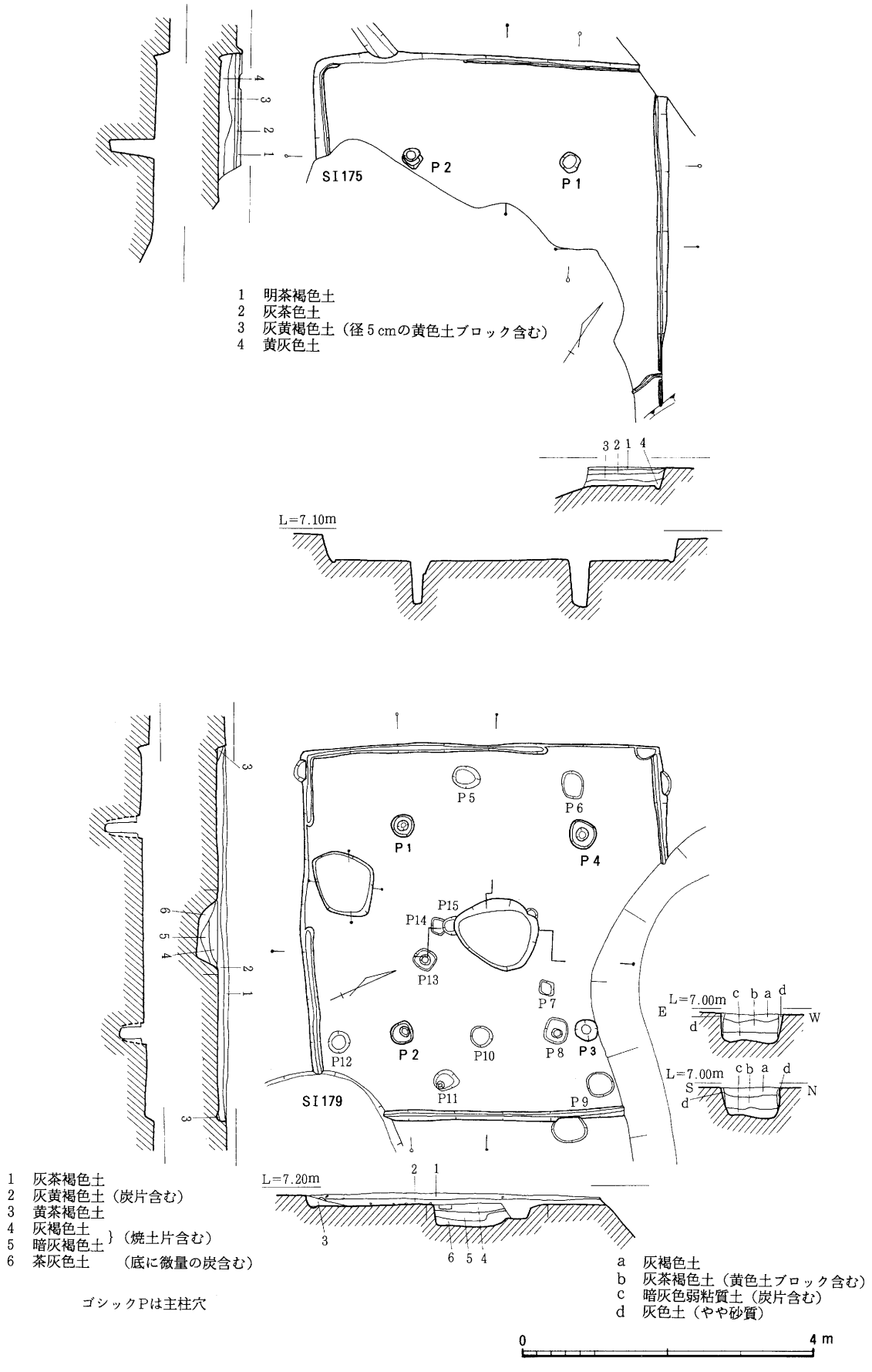




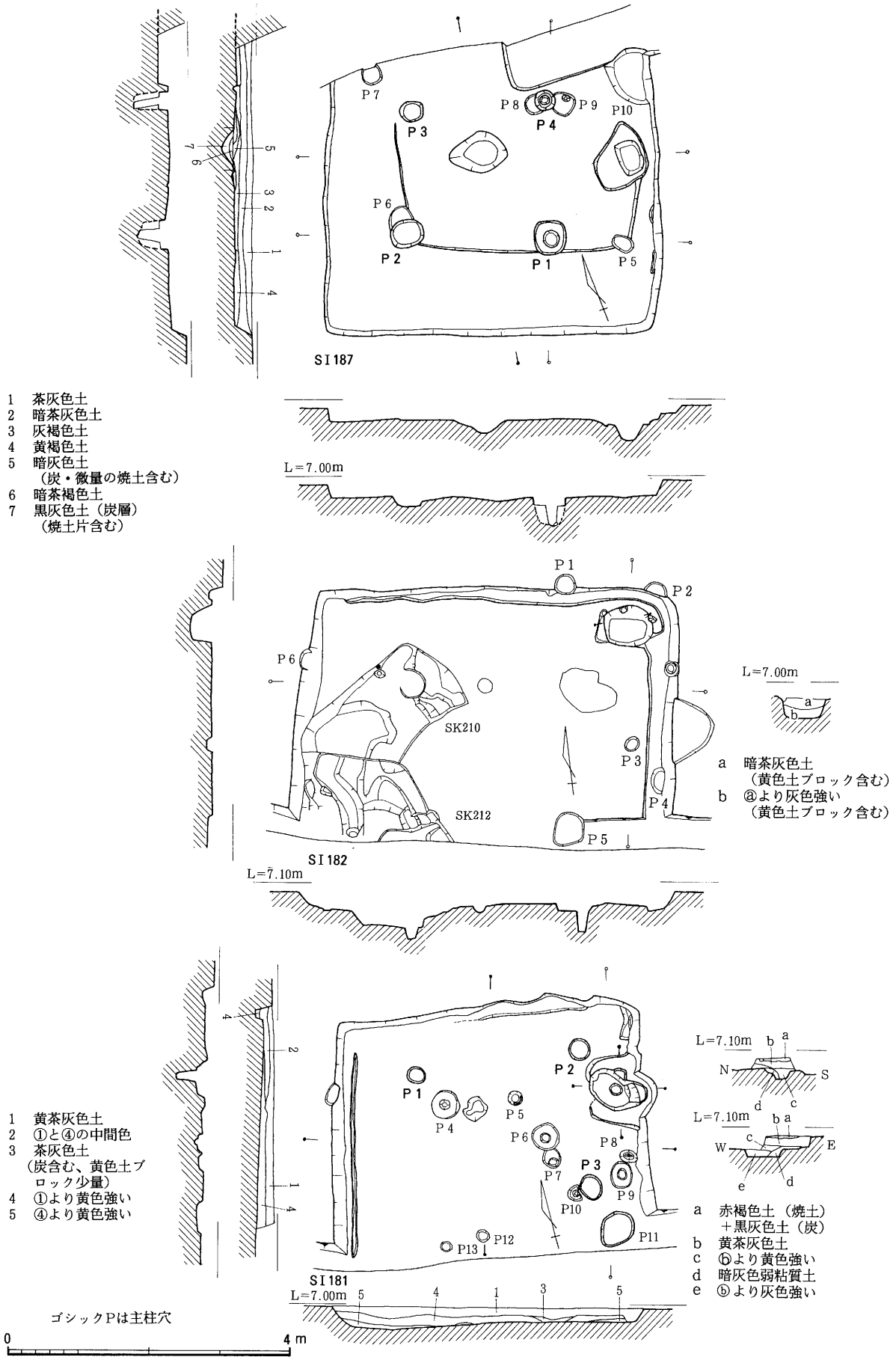
第26図　第ⅡＡ区ＳＩ169・170実測図



第27図　第ⅡA区ＳＩ173・174実測図



第28図　第ⅡＡ区ＳＩ175・179実測図



第29図　第ⅡA区ＳＩ181・182・187実測図

れ、長軸90cm、短軸68cm、深さ43cmを測り、楕円形を呈する。

ＳＩ１９０

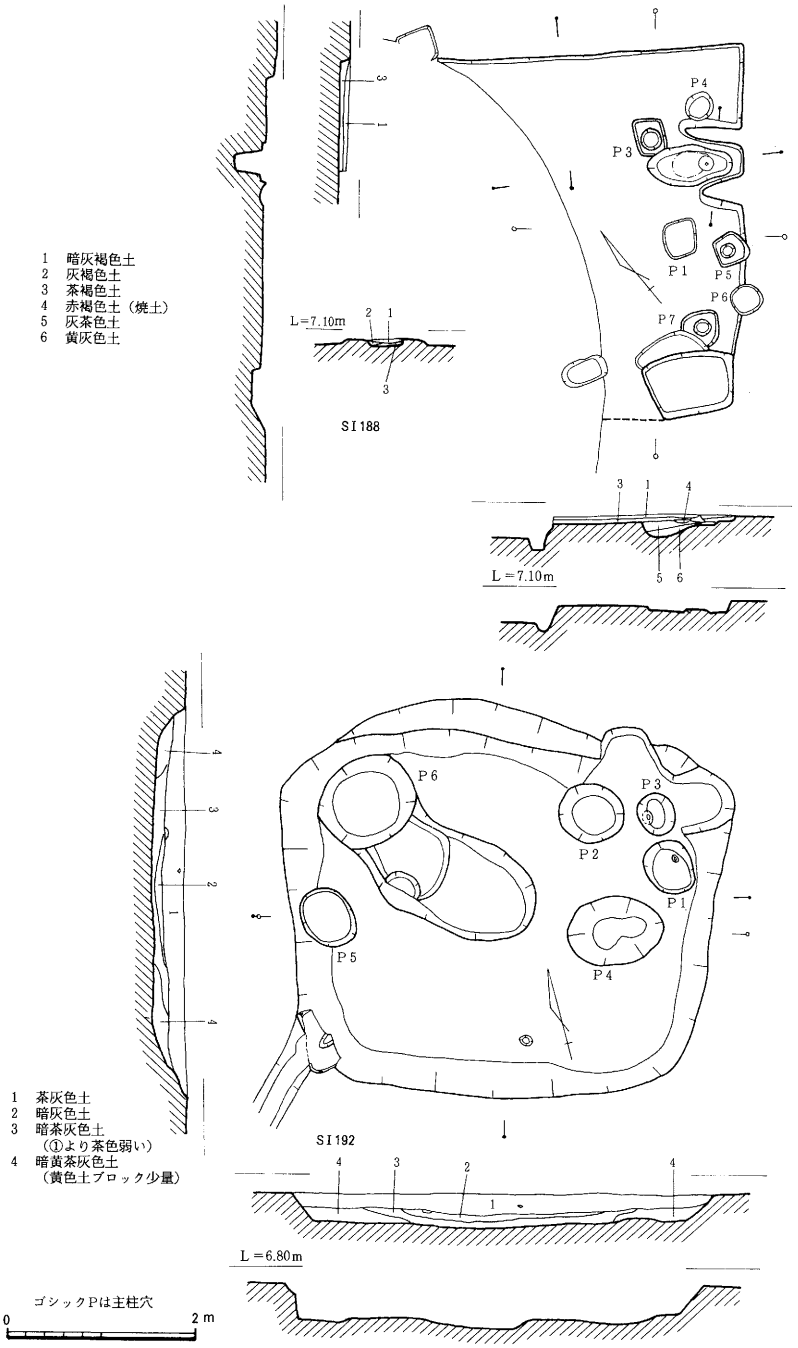
調査区の北東隅に位置する。僅かに住居の一部を検出したのみである。検出範囲の形状から判断して方形の竪穴住居と考えられる。壁の残存高は10～30cmを測る。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出できなかった。

ＳＩ１９１（ＰＬ.14）

ＳＩ191の南西隅はＳＩ182と重複し、この部分の平面確認は難しく検出できなかった。平面規模は長軸3.80ｍ、短軸3.50ｍ、壁の残存高は３～10cmを測り、やや南北に長い方形を呈する。貯蔵穴は住居の北東隅に設けられ、長軸110cm、短軸82cmの楕円形を呈する。深さは８cmで非常に浅いものである。また、住居の北壁中央部が北側に40cm突出し、浅い窪みを有している。これは竈的な性格の遺構と考えられるが、定かでない。主柱穴、壁溝などの施設は認められない。

ＳＩ１９２（第30図）

他の住居群からやや西側に離れた場所に単独で位置する。平面規模は長軸4.78ｍ、短軸4.22ｍで、やや東西に長い歪な隅丸方形を呈する。壁は斜めに立ち上がり、深さ31～35cmを測る。この遺構内には数基の浅い小土坑が有り、ＳＩ192に付随するかどうか不確かである。本来、竪穴住居に必要不可欠な諸施設が皆無という状況、あるいは上記の様相から判断して、竪穴住居でないと考えられる。また、ＳＩ192の南西隅から一条の溝が取り付いているように見えるが、出土した遺物から異なる時期の遺構と考えられる。



第30図　第ⅡＡ区ＳＩ188・192実測図

b　掘立柱建物（表５）

掘立柱建物は計５棟検出したが、いずれも小規模なものである。柱の掘形から出土した土器は殆どが細片で、実測図として掲載できないものが多い。また、埋土はすべて暗茶褐色土であった。

ＳＢ１９６（第31図）

ＳＩ167と重複する位置にある。本来、ＳＢ196の検出面はＳＩ167の埋土上面と考えられるが、埋土の質・色調が酷似し平面確認には至らなかった。幸い、ＳＩ167の床面で検出できた。桁行２間（東側3.43ｍ、西側3.49ｍ）、梁行２間（南側3.66ｍ、北側3.64ｍ）の規模をもつ。桁行主軸方向をＮ－84.5°－Ｗにおく。出土遺物から布留式併行期と考えられる。

ＳＢ１９７（第31図、ＰＬ.15）

北東の一部の柱穴は検出できなかった。桁行３間（東側2.72ｍ以上、西側4.0ｍ）、梁行２間（南側2.92ｍ、北側1.92ｍ以上）を測る。柱穴の掘形は隅丸方形を呈し、一辺24～62㎝を測る。柱当りは直径14～21㎝の円形で、深さは４～40㎝と大きなバラつきを呈する。桁行主軸方向をＮ－1°－Ｗにおく。

ＳＢ１９８（第31図）

桁行２間（5.50ｍ）で梁行は不明である。柱穴の掘形は一辺39～62㎝、柱当りは直径14～28㎝の円形を呈する。桁行主軸方向はＮ－8°－Ｅである。平面検出時、一部ＳＫ208と重複があったが、その存在は定かでなくなった。

ＳＢ１９９（第31図）

桁行１間以上（南側2.14ｍ以上）、梁行１間以上（西側1.30ｍ以上）を測る。ＳＢ199はＳＩ165ｂと重複し、双方共に暗茶褐色土の埋土で上面での平面は確認し難く、北側と東側方向は不明である。掘形は一辺40～60㎝の方形を呈し、柱当りは直径18～19㎝、深さ12～19㎝を測る。桁行主軸方向はＮ－90°－Ｗである。

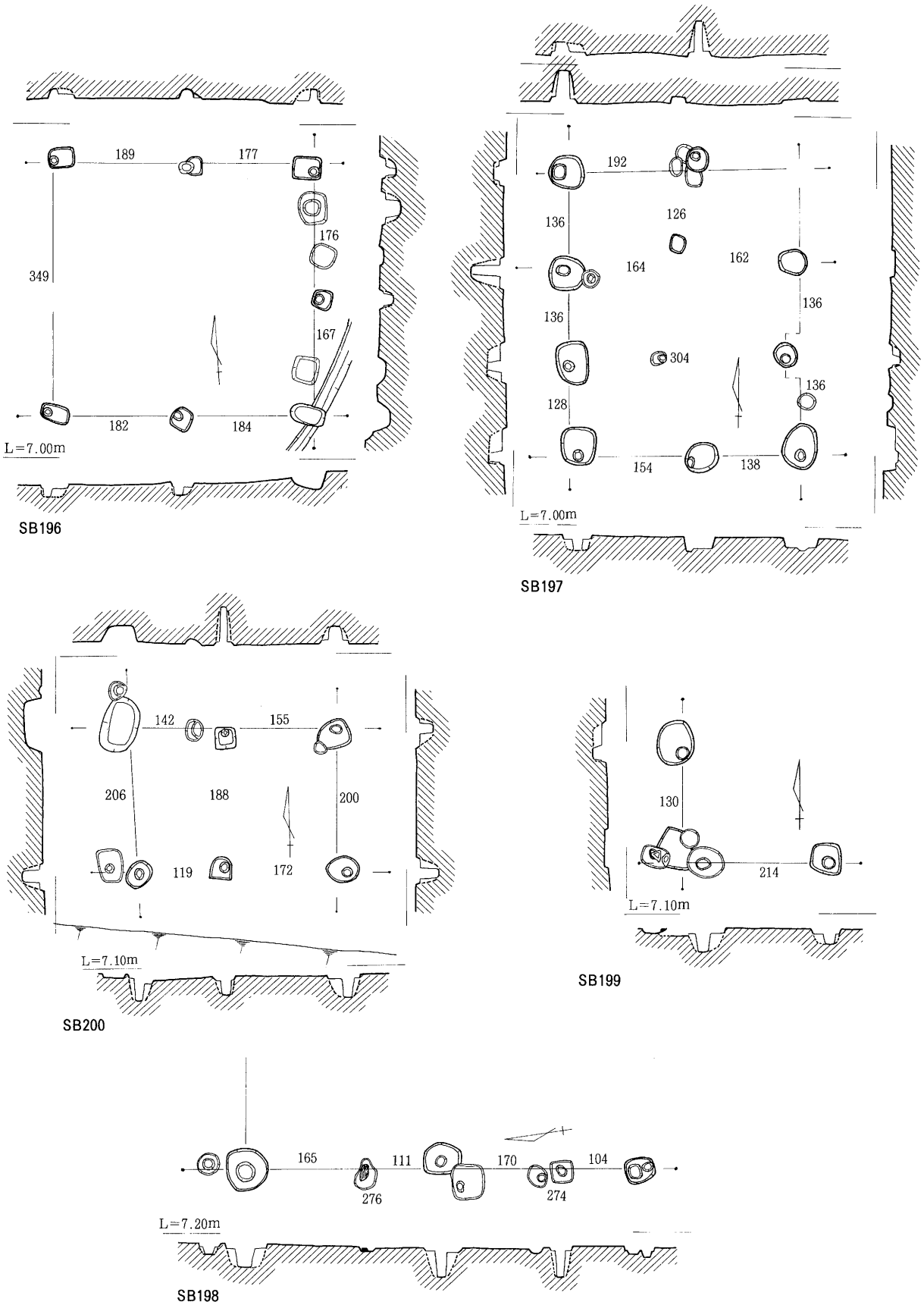
ＳＢ２００（第31図）

桁行１間以上（西側2.06ｍ以上）、梁行２間（北側2.97ｍ）を測る。柱穴の掘形は方形ないし楕円形で、一辺30～47㎝を測る。柱当りは直径10～18㎝、深さ23～45㎝を測る。桁行主軸方向をＮ－１°－Ｅにおく。出土遺物からＳＢ200は５世紀末～６世紀前半に位置づけられる。

掘立柱建物	規模			柱穴				主軸方位	備考
	間×間 面積（㎡）	東西（cm） （尺）	南北（cm） （尺）	掘形（cm） 直径	深さ	柱当り（cm） 直径	深さ		
ＳＢ 196	2間×2間 12.8	桁行　366 12.1	梁行　349 11.5	27～41		12～16	13～19	N－84.5°－W	南向き
ＳＢ 197	2間×3間 13.9	梁行　326 10.8	桁行　426 14.1	24～62	6～10	14～21	4～40	N－1°－W	東向き
ＳＢ 198	？×2間		桁行　550 18.2	39～62		14～28	8～38	N－8°－E	東向き？
ＳＢ 199	(1間以上×1間以上) （2.8以上）	桁行　(214) （7.1）	梁行　(130) （4.3）	40～60		18～19	12～19	N－90°－W	南向き
ＳＢ 200	2間×(1間以上) （6.1以上）	梁行　297 9.8	桁行　(206) （6.8）	30～47		10～18	23～45	N－1°－E	東向き

（　）付は現存規模、１尺＝ 30.3㎝で計算

表５　第ⅡＡ区古墳時代掘立柱建物規模一覧



第31図　第ⅡA区SB196・197・198・199・200実測図

c　土坑

土坑は総数40基を検出した。これらの土坑の内何基かは墓壙と考えられるものもあるが、確証付けるものはない。土坑の在り方から、墓域は住居群に隣接ないし重複して営まれた可能性が高いと考えられる。

ＳＫ２０２（第32図、ＰＬ.16）

ＳＩ164と重複する。遺物から見れば殆ど時期差は無いが、検出状況からＳＫ202が若干新しい時期と考えられる。規模は長軸2.6ｍ、短軸1.55ｍ、深さ1.2ｍを測り楕円形を呈する。東西両側に一段の段が付き、南北側の掘り込みは途中まで傾斜をもち、それ以下はほぼ垂直に落ちる。遺物は弥生土器の小片が多く、長頸壺・甕・高坏・甑などが出土し、若干上・下層との接合が認められる。

ＳＫ２０５（第32図、ＰＬ.15）

ＳＩ186・ＳＩ179と重複し、検出状況からＳＩ186が古く、ＳＩ179が新しい時期である。規模は長軸3.85ｍ、短軸1.50ｍ、深さ22～26㎝を測り隅丸長方形を呈する。底面は北から南につれて若干の傾斜を示す。埋土の状況から判断して墓壙の可能性が考えられる。出土遺物は弥生土器の広口壺・細頸壺・高坏・鉢などがある。遺構の重複関係と出土遺物から庄内式併行期と考えられる。

ＳＫ２０７

ＳＩ167と一部重複する。重複関係及び出土遺物からＳＫ207が若干新しい時期である。規模は長軸2.30ｍ、短軸1.40ｍ、深さ30～34㎝を測り隅丸長方形を呈する。出土遺物は弥生時代後期末段階の壺・甕・高坏などがある。

ＳＫ２０８（第32図）

規模は長軸約1.7ｍ、短軸約0.7ｍ、深さ約30㎝を測り、長軸が磁北方向と合致する。埋土はレンズ状に堆積し、下層部分には焼土と炭が混入する。ＳＫ202と同様、土坑の形状及び埋土から墓壙と考えられる。遺物は小破片であるが、弥生土器の広口壺・二重口縁壺・甕・高坏・鉢などが出土している。なお、平面検出時にはＳＢ198の柱穴と考えられる掘り穴が認められたが、その存在は定かでなくなった。

ＳＫ２０９（第33図）

規模は長軸1.0ｍ、短軸0.7ｍ、深さ28～33㎝を測る。掘り込みはやや斜めに掘られている。土器は上層から中層にかけて破砕した状態で出土している。遺物は弥生土器の甕・脚台・脚台付鉢などがあり、遺物から弥生時代後期６段階と考えられる。

ＳＫ２１１（第32図）

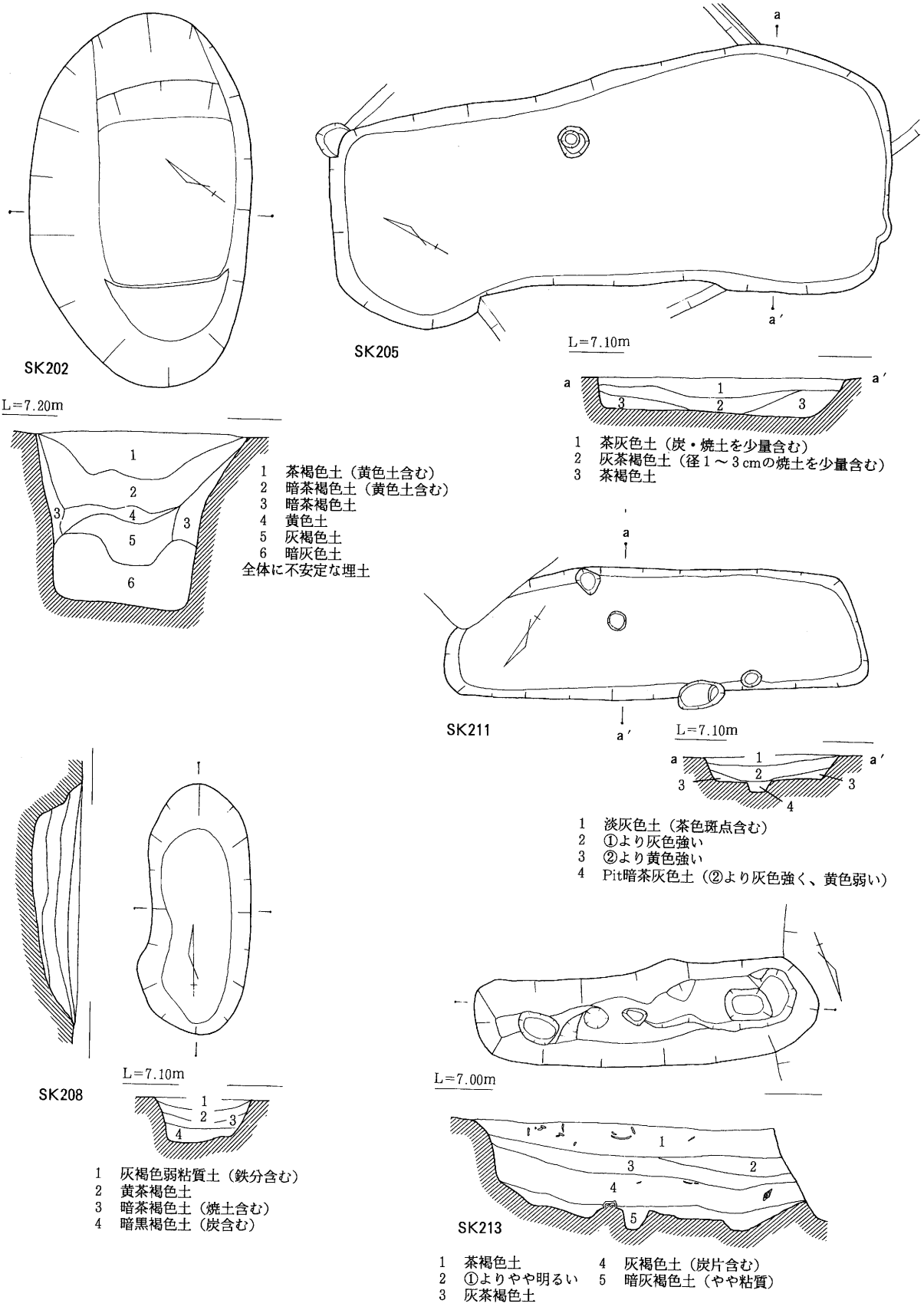
ＳＩ187と一部重複する。規模は長軸2.9ｍ、短軸0.9ｍ、深さ13㎝を測り長方形を呈する。出土遺物は細片が多く実測不能であるが、弥生時代後期後葉と考えられる。

ＳＫ２１３（第32図、ＰＬ.15）

規模は長軸約2.40ｍ、短軸約0.65ｍ、深さ約40～70㎝を測り長楕円形を呈する。掘り込みは傾斜がきつく、底面は凹凸が著しい。埋土は基本的に４層に分層することができ、遺物は第１層ないし第４層からが殆どで、広口壺・脚台付短頸壺・脚台付壺・鉢など大振りの土器が出土した。上・中層は比較的細片も多い。出土遺物の時期からＳＫ213は弥生時代後期末から庄内式併行期にかかるものと考えられる。

ＳＫ２３５

ＳＢ197と一部重複する位置にある。規模は長軸0.84ｍ、短軸0.62ｍ、深さ57㎝を測り楕円形を呈する。遺物は土師器の甕が３個体まとまって出土している。



第32図　第ⅡＡ区ＳＫ202・205・208・211・213実測図

ＳＫ２３６

東側は現水田が一段低いため欠損し、全容が明らかでない。規模は東西1.40ｍ以上、南北3.40ｍ、深さ18～20㎝を測る。遺物は須恵器の坏身・坏蓋、土師器の甕・製塩土器などの小片が出土している。遺物の時期からＳＫ236は６世紀初頭と考えられる。

ＳＫ２３９（第33図、ＰＬ.16）

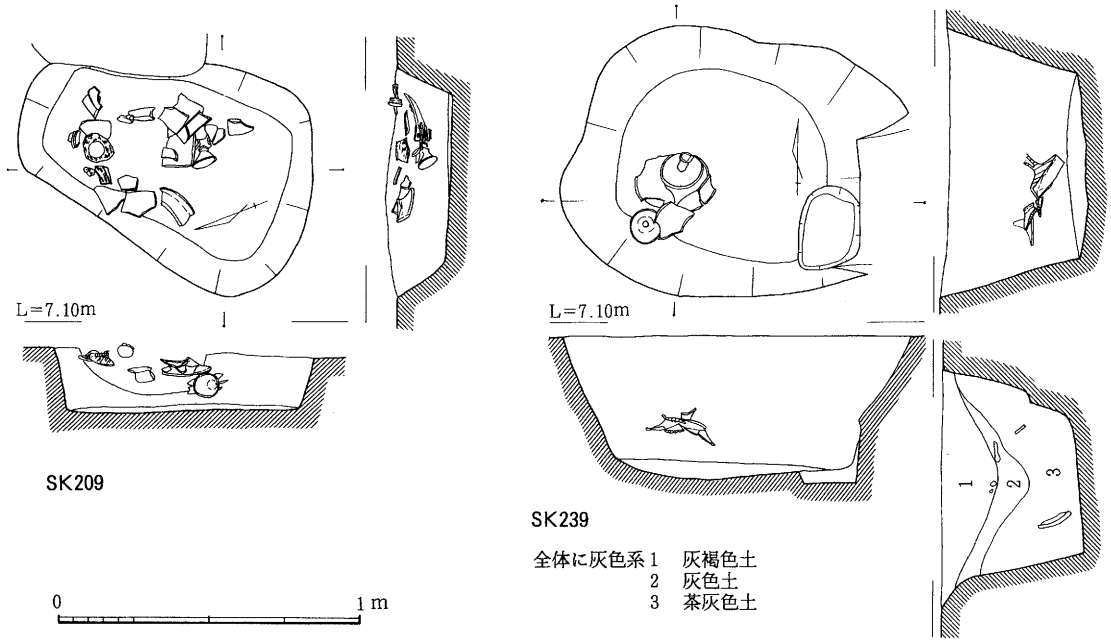
規模は長軸1.10ｍ、短軸0.88ｍ、深さ45㎝を測り歪な隅丸方形を呈する。埋土は基本的に３層に分層でき、遺物は特に第３層に多く、大形の高坏などが伏せられたような状態で出土した。上・中層では細片が少量出土したのみである。遺物は土師器の鉢・高坏・脚台などが出土している。

ＳＫ２４３（第34図、ＰＬ.16）

規模は長軸6.05ｍ、短軸3.80ｍ、深さ65～105㎝を測る大形の土坑で、東西に長い不整形を呈する。東端は現水田が低いため東側の1.45ｍ間が一部削平されていた。掘り込みは側壁がかなり斜めに落ちこみ凸凹になっている。底面もまた凹凸が著しい。堆積土層は大きく４層に分層でき、東西土層は基本的に南北土層と同じであるが、東端部の下層（第５層）では状況が異なる。第５層（暗灰褐色土）の中に直径３～５㎝程度の焼土および炭片を多量に含んでいる。この部分の底面も赤色に変色し、焼けた痕跡が窺える。遺物は第２～３層にかけて多量に出土し、特に北端の第３層上位では土砂の堆積に対応して須恵器の大甕片がレンズ状に堆積していた（土層図ｂｂ′）。また、遺物は各上下層との接合関係が多く、かけ離れた層位との接合が殆ど見られないことから土砂と遺物の投棄は比較的短期間に漸次行われたと考えられる。第３層からは丸底Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類の製塩土器の破片が多量に出土している。遺物は土師器の甕・甑・短頸壺・高坏・椀・鉢、須恵器の坏身・坏蓋・無蓋高坏・有蓋高坏・壺・甕、鉄滓など多数の遺物が出土している。

ＳＫ２４７

西半部はＳＤ470に削られている。規模は東西2.0ｍ以上、南北1.05ｍ、深さ80㎝弱を測り楕円形を呈する。埋土はレンズ状に堆積し、全体的に灰色味を帯びる。上層は灰褐色土、茶灰色土で、下層は灰茶色粘質土、灰色粘質土である。遺物は少なく、上層から弥生土器と土師器の細片少量が出土し、下層では中世の土師器

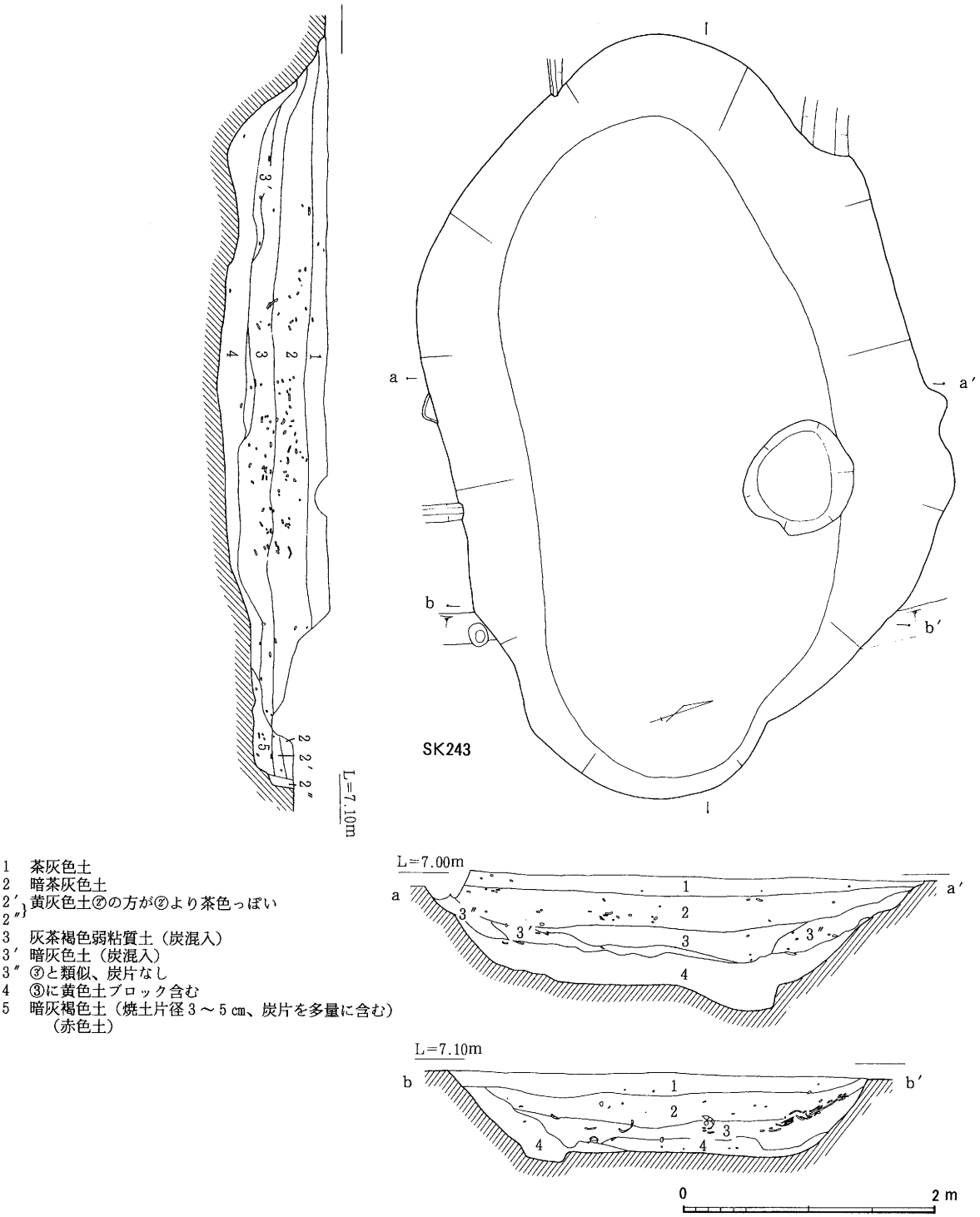


第33図　第ⅡＡ区ＳＫ209・239実測図

土釜・皿、白磁の小片が出土している。中世遺物はおそらくＳＤ470の遺物が混入したものと考えられる。土坑の形状から墓壙の可能性も考えられるが、遺構を性格付ける遺物が皆無のため断定し難い。

ＳＫ２４８

ＳＫ248もまた、ＳＫ247と同様に室町時代の溝（ＳＤ469）に東半部が削られている。規模は東西2.0ｍ以上、南北1.4ｍ、深さ約40㎝を測る。遺物は瓦器椀、瓦質の甕、土師器皿の細片少量が出土しているが、これはＳＤ469からの混入と考えられる。ＳＫ248からは中世以外の遺物は皆無であるが、周辺の同様な土坑の在り方から弥生時代に帰属するものと考えた。

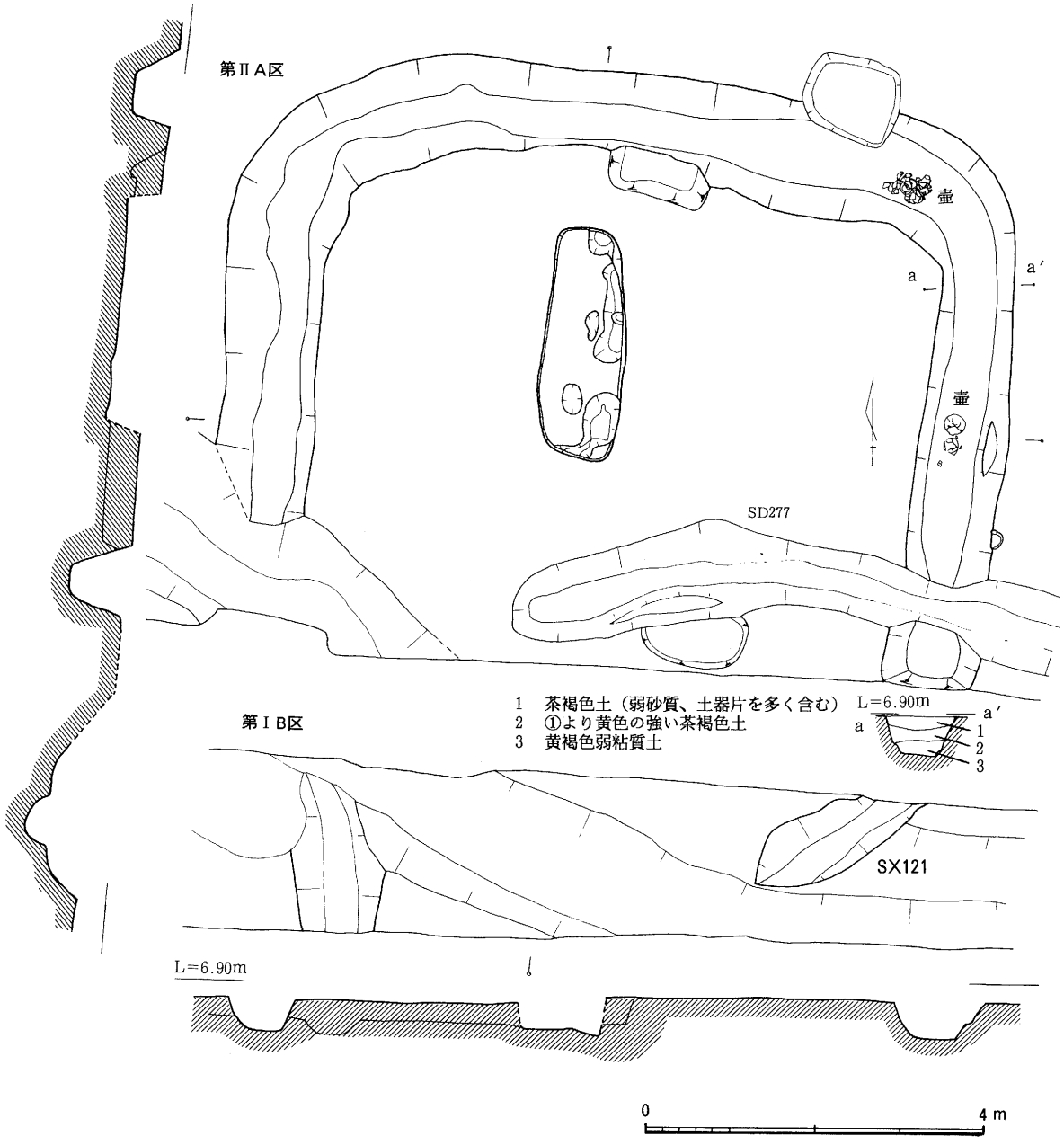


1　茶灰色土
2　暗茶灰色土
2′
2″　黄灰色土㋑の方が㋺より茶色っぽい
3　灰茶褐色弱粘質土（炭混入）
3′　暗灰色土（炭混入）
3″　㋩と類似、炭片なし
4　㋩に黄色土ブロック含む
5　暗灰褐色土（焼土片径３～５㎝、炭片を多量に含む）
（赤色土）

第34図　第ⅡＡ区ＳＫ243実測図

d　方形周溝墓　ＳＸ２５１（第35図、ＰＬ.17）

調査区の中央南端に位置する。第一次調査の第ＩＢ区において南東周溝部と西側の周溝の一部を検出し、当調査区で北側の大部分を検出した。盛土は全て削平されており、主体部の基底部と周溝を確認するに留まった。ＳＸ251は他の遺構との重複が多く、西側ではＳＩ166・168（弥生時代後期後葉）を削り、南東側はＳＤ277（古墳時代）に削られている。平面形はほぼ方形と考えられるが、第ＩＢ区検出の西側周溝が東側周溝と非対称になり南に延びる状況から、南側が開口部と考えられる。但し、第ＩＢ区の周溝の在り方が非常に中途半端であったり、ＳＤ424・429に削られているため不明な部分もある。平面規模は周溝を含めて東西9.25ｍを測る。周溝の規模は幅85～140㎝、深さ45㎝を測りコーナー部でやや広くなる。主体部は本来ＳＩ



第35図　第ＩＢ・ⅡＡ区ＳＸ251実測図

166の検出面で確認しなければならないが、埋土が酷似していたため上面から検出できず、ＳＩ166の床面で確認した。周溝内側の北寄りに位置し、長軸2.75ｍ、短軸約1.0ｍ、深さ５～15㎝を測る。南北方向に長く、主軸は磁北からやや東に振る。基底部は凹凸が著しい。遺物は全て周溝から出土し、その中で、北東コーナーと東側周溝内に据え置かれた状態の土器（809・811～814）も出土している。その他、土師器の広口壺・短頸壺・二重口縁壺・甕・鉢・高坏・脚台などのまとまった遺物が出土している。

ｅ　溝

第ⅡＡ区の弥生・古墳時代の溝は、大規模なものから小規模なものまで合わせて総数14条検出した。溝の大半は住居群から少し離れた西側に集中し、ほぼ同一方向に延びる。ここでは主要な溝のみを記述する。

ＳＤ２５６（第36図、ＰＬ.18）

調査区の西端に位置する。ＳＤ 256は第一次調査の第ＩＡ・ＩＣ区において北側の一部（ＳＤ12）を検出している。規模は幅約1.20ｍ、深さ25㎝を測り、延長30ｍ分を検出した。断面は浅い「Ｕ」字状を呈し、北から南方向に僅かに蛇行しながら延びる。遺物は、特に第一次調査の第ＩＣ区と当調査区の北側で多量の土器が出土した。遺物には弥生土器の各器種・各形態が認められる。遺物から弥生時代後期後葉と考えられ、上層に少量の須恵器片を含むことから５世紀末には完全に埋没したと見られる。

ＳＤ２５７（第36図、ＰＬ.18）

北西から南東方向に延びる溝である。一部は中世の溝（ＳＤ437・440・452）と重複するため欠損している。断面は「Ｕ」字状を呈し、削平が著しいため調査区内南側で消滅している。幅30～40㎝、深さ約20㎝を測り、延長26.3ｍ分を検出した。溝内には本来完形品であったと考えられる土器が５箇所に据えられた状態で出土した。遺物間の間隔は1.6ｍ～2.8ｍを測る。どのような性格を持つかは不明である。

ＳＤ２６７

調査区の中央やや西寄りに位置する。北から南東方向に緩やかに湾曲して延びる溝で、総延長約30ｍ、幅約50～60㎝、深さ25～35㎝を測り、断面は逆台形を呈する。ＳＤ267はＳＤ424・428・429（平安時代末～鎌倉時代初）と重複するため、これらの溝の底で検出せざるを得なかった。

ＳＤ２６８（第36図）

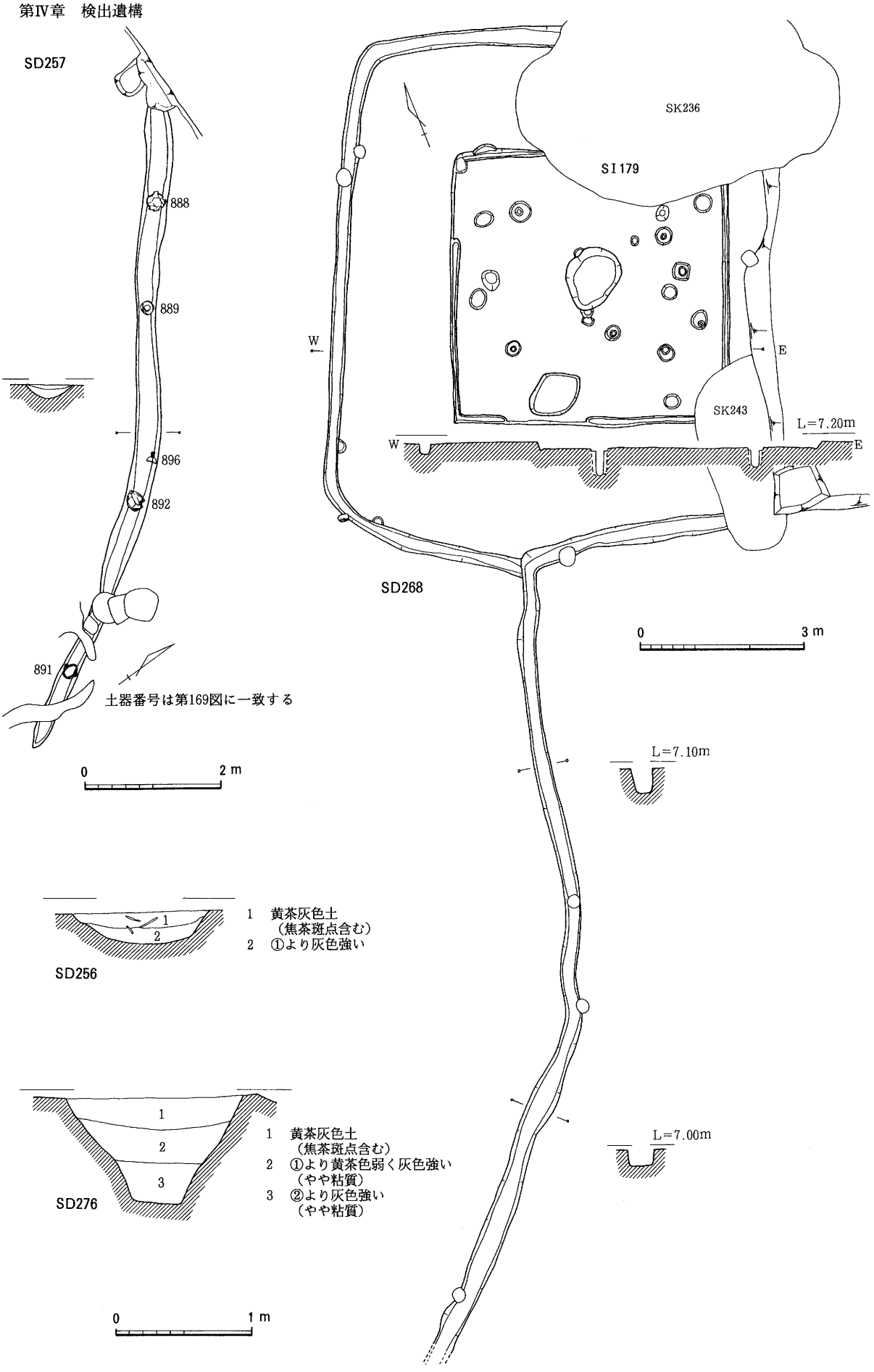
北から南方向に延びる溝で、ＳＩ179を囲繞し、そこから緩やかに湾曲して南に延びる。規模は幅 35～40㎝、深さ40㎝を測り、延長35.8ｍ分を検出した。断面は逆台形を呈する。ＳＩ179の各々の壁から約1.9ｍ均等に離れ、当然、東壁の東側にもこの溝が巡っていたものと考えられる。埋土は灰茶褐色土の単層である。遺物は土師器の甕・高坏・脚台などが出土し、ＳＩ179とほぼ同時期（庄内式併行期新段階～布留式併行期古段階）と考えられる。また、溝の形状および出土遺物の時期から判断してＳＩ179 に伴う排水溝である。

ＳＤ２７６（第36図、ＰＬ.18）

ＳＤ257と同一方向に延びる溝である。両肩は二段掘りになって、幅約1.3～1.5ｍ、深さ78㎝を測り、延長35ｍ分を検出した。遺物には土師器の手捏ね壺、須恵器の坏蓋・壺・𤭯があり、他に瓦器椀片、土師器鍋などの小片少量が出土した。この内、中世の遺物は上面の遺構の遺物が混入したものと考えられる。出土遺物から６世紀後半と考えられる。

ＳＤ２７７

東西方向に延びる６世紀初頭（西田井第Ⅷ期）の溝である。東側はやや南へ湾曲し、幅0.9～1.25ｍ、深さ61～68㎝、総延長約10ｍを測る。出土遺物は須恵器の坏身、土師器鍋（把手）などがある。



第36図　第ⅡA区弥生・古墳時代溝実測図

（２）平安時代～江戸時代（ＰＬ.19・20）

当該期の第Ⅱ区の遺構密度は高く、第ＩＡ区に続く集落の中心地を占める範囲である。平安時代中期～江戸時代まで長期に渡る時代幅の中で掘立柱建物・柵・井戸・土坑・溝・集石遺構などが確認されている。

ａ　掘立柱建物・柵（表６）

掘立柱建物20棟を検討した結果、10世紀後半（平安時代中期）～13世紀中頃（鎌倉時代中期）まで続き、これ以降の掘立柱建物は検出できなかった。その他の13世紀後半以後の遺構（土坑・溝・集石遺構）に伴う建物跡は一部第ＩＡ区で確認でき、また、当調査区の南北両側に近接して存在するものと考えられる。

ＳＢ２８１（第38図、ＰＬ.20）

調査区の中央北寄りに位置する。桁行４間（9.74ｍ）、梁行２間（4.44ｍ）の規模を持つ建物である。全体に東側梁間に比べ西側梁間が狭い傾向にある。柱穴の掘形は直径26～60㎝と大きくバラつき、円形ないし楕円形を呈する。柱当りは直径14～18㎝、深さ６～26㎝を測り円形を呈する。その内の一箇所に厚さ５㎝の扁平な石を据石として配している。ＳＢ281は南北方向に桁行主軸を持つもので、Ｎ－8.5°－Ｅである。

ＳＢ２８２

調査区の中央やや東寄りの南端に位置する。桁行は３間（4.95ｍ）、梁行は不明である。ＳＢ282は梁行が北側で検出できなかった以上、調査区外の南側に延びると考えた方が妥当であるが、南接する第ＩＢ区においても検出できていないため柵の可能性も考えられる。柱穴の掘形は直径27～38㎝を測り、正方形ないし不整形を呈する。主軸方向はＮ－73°－Ｅで、南向きの建物が想定できる。

ＳＢ２８３

調査区の西側北端に位置する。ＳＢ283の大部分も調査区外に掛かるため全容は明らかでない。桁行３間（6.50ｍ）、梁行１間以上（1.51ｍ以上）の規模である。柱穴の掘形は円形ないし楕円形を呈する。柱当りは直径14～26㎝の円形を呈し、深さ34～48㎝を測る。柱穴の底二箇所に根石が据えられている。東西棟の南向きの建物が考えられ、主軸方向はＮ－74°－Ｗである。

ＳＢ２８４

ＳＢ281と重複する。桁行２間（4.96ｍ）、梁行２間（3.98ｍ）を測る。桁行方向の柱間には違いが認められ、東側は2.25ｍ、西側は2.60ｍを測る。梁間は1.90ｍの当間隔である。柱当りは直径11～14㎝の円形で、深さ８～14㎝である。ＳＢ281もまた、南向きと考えられＮ－74°－Ｗの主軸方向である。

ＳＢ２８５

東西方向の建物か柵と考えられる。ＳＢ285は桁行２間（4.34ｍ）、梁行は不明である。柱穴の掘形は楕円形を呈し、直径27～40㎝を測る。柱当りは直径18㎝内外でほぼ同程度である。主軸方向はＮ－67.5°－Ｗである。ＳＢ285が柵であれば、これに伴う建物は南側のＳＢ287が考えられる。

ＳＢ２８６

桁行は３間（6.58ｍ）、梁行は不明である。柱穴の掘形は一辺33～40㎝を測り隅丸方形を呈する。柱当りは直径14～19㎝と纏まり円形を呈する。深さは28～36㎝を測る。主軸方向はＮ－66°－ＷでＳＢ285とほぼ同一方向である。ＳＢ285と同様、建物か柵かどちらとも言えない。

ＳＢ２８７（第38図、ＰＬ.21）

調査区の中央やや東寄りに位置する。桁行４間（8.46ｍ）、梁行４間（8.18ｍ）の規模を持つ総柱の建物

である。桁行方向の北端の柱間が他と比べ狭いことから、北庇の建物と考えられる。また、この建物の北側には柵と考えられる柱穴を検出した。柱穴の掘形は隅丸方形・円形・楕円形と様々な形状を呈する。柱当りは直径12～20㎝の円形を呈し、深さ14～48㎝と大差が認められる。掘形の埋土は黒褐色で、柱当りはそれよりやや黒色を呈する。主軸方向はＮ－63°－Ｗを示す。各々の柱穴の掘形と柱当りの出土遺物には弥生・古墳時代の古い遺物が多量に混入していたが、下面遺構の遺物が混入した結果であり、本来ＳＢ287に伴う遺物には土師器皿、黒色土器などがある。ＳＢ287の時期は11世紀中頃と考えられる。

ＳＢ２８８（第39図）

調査区の西側南寄りに位置する南北棟の建物である。規模は桁行５間（11.26ｍ）、梁行（4.10ｍ）を測る。梁行南端の中央の柱穴が検出できないため、南へ延びる可能性もある。柱穴の掘形は円形ないし楕円形を呈する。柱当りは直径11～24㎝の円形である。東向きの建物と考えられ、主軸方向はＮ－13°－Ｅである。

ＳＢ２８９・２９０（第40図、ＰＬ.21）

ＳＢ287の東側に隣接して位置する。ＳＢ289・290は建物の方向性と大部分の柱筋が一直線上に通ることから同一の建物と考えたが、遺物から見ればＳＢ290が若干後出する可能性もある。南北棟の建物で桁行７間（15.93ｍ）、梁行４間（7.52ｍ）を測り、第Ⅱ区の中で最も平面規模の大きいもの（119.8㎡）である。柱穴の掘形は直径18～56㎝の不整形を呈するものが多く、西側庇部分は比較的小振りである。柱当りは直径12～24㎝の円形ないし楕円形を呈し、深さ６～35㎝を測る。二箇所の柱当りの底には、10～15㎝大の砂岩の根石が入れられている。梁行方向の東西両端の柱間が他と比べ狭いことから、東西両庇の東向きの建物と考えられ、主軸方向はＮ－25°－Ｅである。なお、東側の梁間一間分は縁になる可能性も考えられる。柱穴からの出土遺物は、ＳＢ287と同様な傾向を示し、弥生土器、古墳時代の須恵器・土師器が混入している。ＳＢ289・290に伴う本来の遺物には、黒色土器の椀、瓦器、土師器皿などがある。

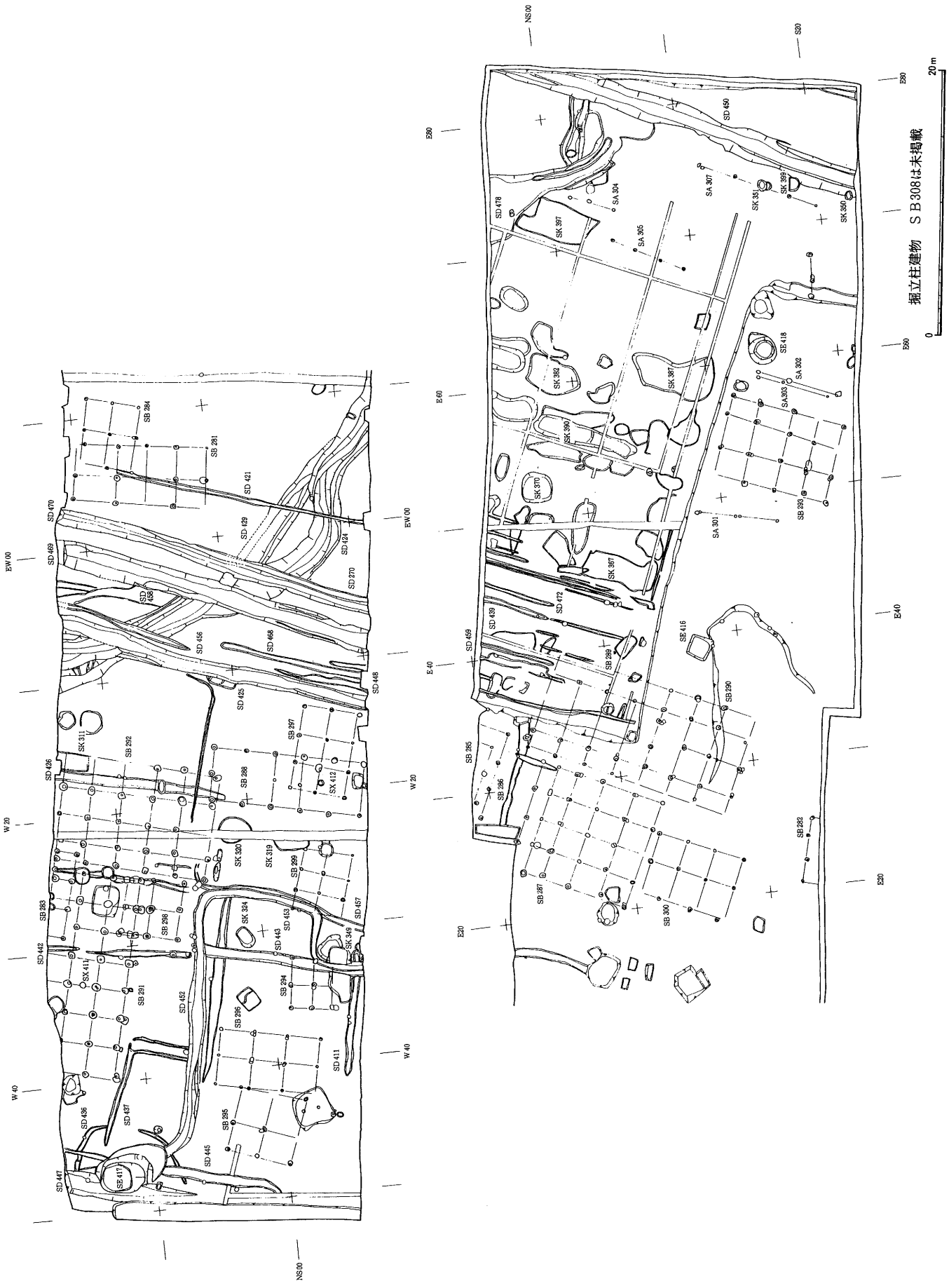
ＳＢ２９１（第41図、ＰＬ.21）

調査区の西側の北端に位置する。北側に延びる部分（梁行）の一部は調査区外に掛かるため、全容は明らかでない。桁行７間（15.31ｍ）柱間は2.04～2.47ｍを測り西端の2.47ｍを除けばほぼ均一である。梁行３間（6.50ｍ、柱間2.06～2.20ｍ）を測り、比較的柱筋のよく通った大形の総柱建物である。柱筋が最もよく通る点では平面規模が最大（99.5㎡）であり、北側に延びる可能性は少ないと考えられる。なお、南側柱筋の重複状況からして、ＳＢ291そのものが建替えられている可能性が考えられる。柱穴の掘形は直径30～70㎝と不揃いで、形状も円形・楕円形・不整形と様々であるが、大形の掘り穴を有する。柱当りは直径16～28㎝の円形を呈し、深さ18～56㎝とバラつきが認められる。これらの柱穴には、片岩や砂岩の据石が八箇所、根石が一箇所検出された。南向きの建物と考えられ、主軸方向はＮ－76.5°－Ｗである。

ＳＢ２９２（第39図、ＰＬ.22）

ＳＢ291の東側に隣接して位置する。桁行５間（11.18ｍ）、梁行４間（7.87ｍ）の規模を持つ南北棟の建物である。北東隅の桁行方向３間分は欠損している。柱穴の掘形は形状が不揃いであるが、比較的大形の掘り穴を有する。柱当りも直径16～40㎝、深さ10～76㎝と大差がある。梁行方向の西端部分の柱間（1.42～1.54ｍ）は他に比べ狭いことから、ＳＢ292は東向きで西庇の総柱建物と考えられる。主軸方向はＮ－14.5°－Ｅである。遺物は黒色土器、瓦器椀、土師器皿・土釜、東播系捏鉢などが出土している。遺物から検討したＳＢ292の時期は11世紀末から12世紀後半となり、ＳＢ291と一時期併存することになるが、長期間に渡り過ぎる嫌いがありＳＢ291より後出する可能性が高いと考えられる。

ＳＢ２９３（第42図、ＰＬ.22）



第37図　第ⅡＡ区平安時代後期～江戸時代主要遺構全体図

桁行４間（8.72ｍ）、梁行３間（6.22ｍ）の南北棟の総柱建物である。この建物は柱並びが非常に悪い。柱穴の掘形の形状も円形・隅丸方形・不整形と不揃いで、直径28～66㎝を測る。柱当りは直径12～26㎝の円形ないし楕円形を呈する。深さは６～35㎝を測る。梁行方向の東端の柱間が狭く、東庇が考えられる建物である。桁行主軸方向をＮ－21°－Ｅに置く。なお、柱穴からの出土遺物は数少なく、時期は特定できない。

ＳＢ２９４（第42図、ＰＬ.22）

調査区の西側南寄りに位置する。桁行２間（3.88ｍ）、梁行２間（3.05ｍ）の規模を持つ東西棟の総柱建物である。柱穴の掘形は直径32～43㎝の隅丸方形ないし楕円形を呈する。柱当りは直径９～19㎝、深さ７～22㎝を測り円形を呈する。南向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－78°－Ｗに置く。遺物は柱穴の掘形から土師器皿、瓦器椀の細片が少量出土しているのみで、13世紀中頃と考えられる溝（ＳＤ443）と重複していることからこれより若干後出する時期と考えられる。

ＳＢ２９５（ＰＬ.22）

調査区の西端南寄りに位置する。桁行２間（5.30ｍ）、梁行２間（5.0ｍ）の東西棟の建物である。桁行方向の西側の柱間が東側に比べ狭い。柱穴の掘形は直径28～43㎝で、形状は不揃いで円形・方形・楕円形・隅丸方形と多様である。柱当りは直径14～18㎝とほぼまとまり、深さ10～32㎝と大差がある。南向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－70°－Ｗに置く。

ＳＢ２９６（第42図、ＰＬ.22）

ＳＢ295の東側と一部重複する建物である。桁行３間（7.64ｍ）、梁行２間（4.30ｍ）の規模を持つ南北棟の建物である。柱穴の掘形は直径20～32㎝とやや小振りで、形状は円形ないし隅丸方形である。柱当りは直径10～14㎝、深さ３～８㎝と非常に遺りが悪い。東向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－11.5°－Ｅに置く。なお、ＳＢ295ないしはＳＢ296の東側と南側に建物を囲むと考えられる柵状の施設が認められる。

ＳＢ２９７（第43図、ＰＬ.22）

桁行３間（6.40ｍ）、梁行２間（4.20ｍ）の規模を持つ東西棟の総柱建物である。柱穴の掘形の形状は円形と隅丸方形があり、直径20～34㎝を測る。柱当りは直径10～18㎝の円形ないし楕円形を呈する。柱穴12本の内５本の柱当りが不明である。建物中央西端には、これに伴う土師器小皿を十数枚配した地鎮遺構（ＳＸ412）がある。南向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－72.5°－Ｗに置く。

ＳＢ２９８（第43図、ＰＬ.21）

桁行２間（4.34ｍ）、梁行２間（4.34ｍ）の総柱建物である。柱穴の掘形は不整形を呈する。柱当りは直径16～22㎝の円形を呈する。柱穴９本の内、三箇所に根石、一箇所に据石が認められる。南向きの建物と考えられ、主軸方向はＮ－77.5°－Ｗで、前述のＳＢ297とほぼ同一方向を示す。遺物は柱穴の掘形から瓦器椀、土師器皿・土釜などが出土し、ＳＢ298は12世紀末～13世紀初と考えられる。なお、ＳＢ298には北東側に東西３間・南北１間分の間取りが取り付く可能性が考えられる（付図２参照）。

ＳＢ２９９（第43図、ＰＬ.22）

ＳＢ297の西側に位置する。西側の柱穴二箇所がＳＤ451・453に切られ欠損しているが、桁行３間（4.70ｍ）、梁行２間（3.68ｍ）の規模を持つ東西棟の建物である。柱穴の掘形の形状も様々で、直径20～36㎝を測り、比較的小振りである。柱当りの確認できるものは一箇所で直径14㎝の円形を呈し、深さ26㎝を測る。主軸方向はＮ－71°－Ｗで、南向きの建物と考えられる。遺物はごく少量の土師器皿・土釜、瓦器椀などの破片が出土している。ＳＢ299は13世紀前半と考えられる。

ＳＢ３００（第43図、ＰＬ.22）

調査区の中央やや東寄りに位置する。桁行3間（6.60m）、梁行2間（5.04m）の規模を持つ建物である。梁行方向2間分が等間隔で無く、西側柱間に比べ東側柱間が狭い。柱穴の掘形は、大きさ・形状共に不揃いで比較的小振りである。柱当りは直径13～18cmで円形を呈し、深さ5～32cmと大差がある。東向きの建物と考えられ、主軸方向をN－25°－Eに置く。

ＳＢ３０８（第39図、ＰＬ.22）

ＳＢ308はＳＢ292の建替えと考えられる建物で、桁行5間（11.30m）、梁行3間（6.30m）の規模を測り、平面積はＳＢ292同様比較的規模の大きいもの（71.2㎡）である。柱穴の掘形も直径30～60cmと比較的大振りの掘り穴を有し、柱当りは直径12～22cm、深さ18～52cmを測る。梁行方向の西端部分の柱間は他の柱間に比べ狭いことから、ＳＢ308は東向きで西庇の総柱建物と考えられる。柱穴からの出土遺物は数少ないが、確実にＳＢ292より後出するもので、12世紀末～13世紀初頭と考えられる。

ＳＡ３０１

南北2間以上（6.0m以上）の規模である。北側は現水田区画が一段低いため、削平されている可能性が十分考えられる。掘形は直径22～25cmの楕円形を呈する。遺物は柱穴の掘形から弥生土器、古墳時代の須恵器が混入しているが、黒色土器、土師器皿・土釜の破片が少量出土している。このことより10世紀後半～11世紀前半のものと考えられるが、近辺にはこれに伴う時期の建物は無く判然としない。

ＳＡ３０２

南北2間以上（6.0m以上）の規模である。ＳＡ301と同様に北側が現水田で削平されている可能性がある。柱穴の掘形は直径25～30cmの楕円形である。ＳＢ293の東側を区画するものと考えられる。

ＳＡ３０３

ＳＡ302の西側に隣接し、これに平行に建てられている。南北2間以上（5.38m以上）を測る。掘形は円形を呈し、直径20～28cmである。ＳＡ303はＳＡ302の建替えと考えられる。

ＳＡ３０４

これもまた、南北方向の柵である。規模は2間（5.5m）を測る。

ＳＡ３０５

規模は南北3間（5.75m）の規模で、柱間は等間隔（約1.90m）である。柱穴の掘形は直径25～30cmの円形ないし楕円形を呈し、柱当りは直径10～20cmの円形である。遺物は柱穴の掘形から弥生土器、古墳時代の製塩土器・土師器などが出土し、また柱当りから縄文晩期の鉢、弥生土器、中世の土師器土釜などの細片が少量出土している。このことから、ＳＡ305は11世紀代の廃絶と考えられる。

ＳＡ３０６

南北3間（3.9m）の規模で、柱間は1.25mの等間隔である。柱穴の掘形の形状は不揃いで、直径15～30cmを測る。柱当りから瓦器椀、土師器皿・土釜、弥生土器などの破片が少量出土している。このことから、ＳＡ306は13世紀後半の廃絶と考えられる。

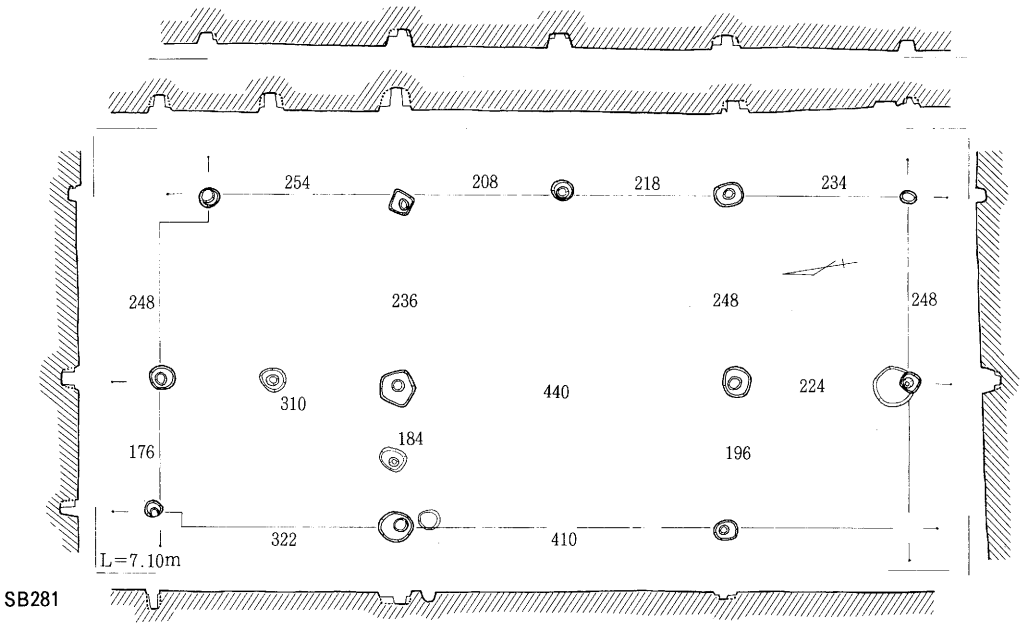
ＳＡ３０７

ＳＤ450の西側に隣接して併行に築かれているもので、南北4間（9.0m）の規模を測る。中央の柱穴は欠損しているが、柱間は2.10～2.20mのほぼ等間隔である。柱穴の掘形は直径18～25cmの円形ないし方形である。柱当りは直径12～15cmの円形で纏まっている。掘形と柱当りから、各々瓦器椀・皿、土師器皿などの遺物が出土しているが、遺物から見た時期は不明確である。ＳＤ450の機能していた時期から考えて、ＳＡ307は12世紀末～13Ｃ世紀初頭にかけてＳＤ450の西側に展開する集落群を界するものと考えられる。

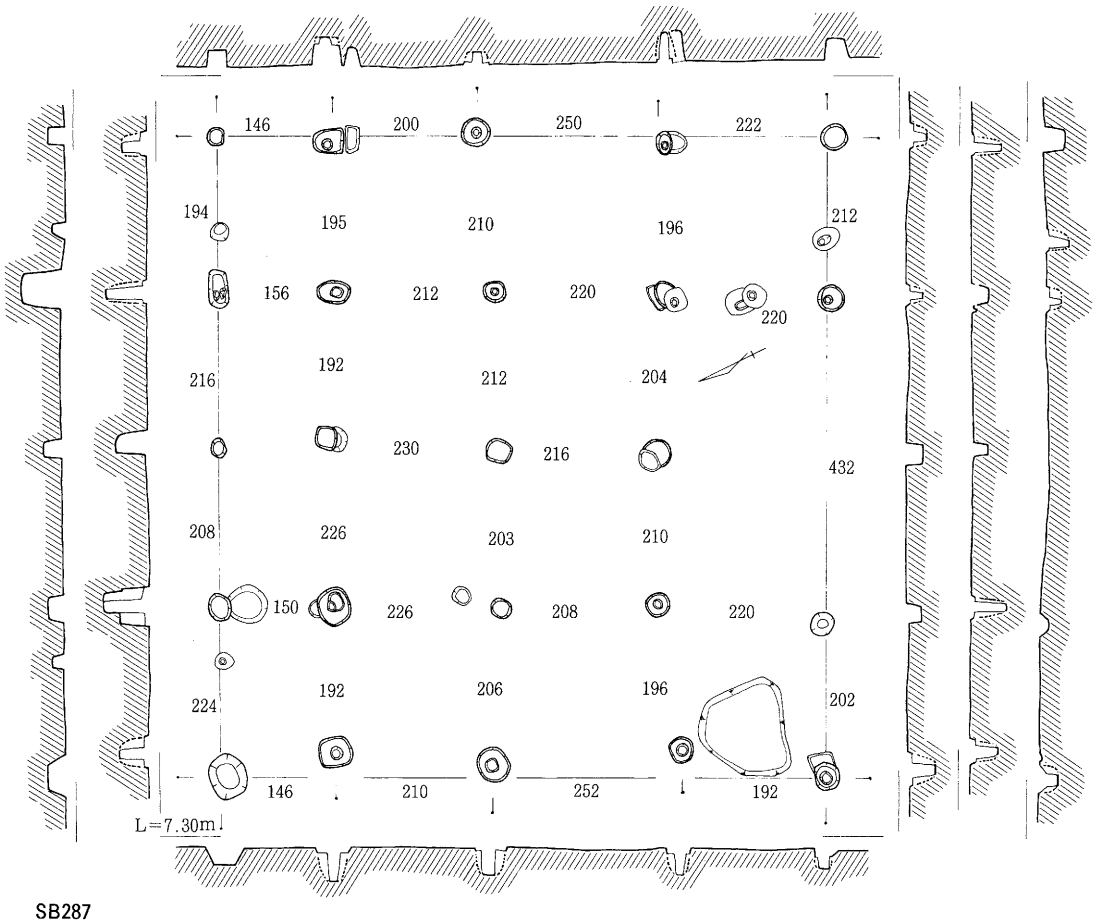
掘立柱建物	規模			柱穴					主軸方位	備考
	間×間 面積(㎡)	東西(cm) (尺)	南北(cm) (尺)	掘形(cm)		柱当り(cm)				
				直径	深さ	直径	深さ			
SB 281	2間×(4間) (43.2)	梁行　444 14.7	桁行　(974) (32.1)	26～60	14	14～18	6～26	据石1	N－8.5°－E	東向き
SB 282	3間×(1間以上) (?)	桁行　495 16.3		27～38		12～16	14～26		N－73°－E	南向き
SB 283	3間×(1間以上) (9.8以上)	桁行　650 21.4	梁行　(151) (4.9)	36～52	16～56	14～26	34～48	根石2	N－74°－W	南向き
SB 284	2間×2間 19.7	桁行　496 16.4	梁行　398 13.1	22～43	19～20	11～14	8～14		N－74°－W	南向き
SB 285	(2間×1間以上) (?)	桁行　(434) (14.3)		27～40	10～29	18			N－67.5°－W	柵か? 南向き
SB 286	(3間×1間以上) (?)	桁行　(658) (21.7)		33～40		14～19	28～36		N－66°－W	柵か? 南向き
SB 287	4間×4間 69.2	桁行　846 27.9	梁行　818 2.7	22～56	12～52	12～20	14～48	根石1	N－63°－W	北庇 南向き
SB 288	2間×(5間) (46.2)	梁行　410 13.5	桁行(1,126) (37.2)	26～50	8～20	11～24	6～34		N－13°－E	東向き
SB 289 SB 290	4間×7間 119.8	梁行　752 24.8	桁行　1,593 52.6	18～56	9～34	12～24	6～35	根石2	N－25°－E	東西庇 東向き
SB 291	7間×(3間) (99.5)	桁行　1,531 50.5	梁行　(650) (21.5)	30～70	24～54	16～28	18～56	根石1 据石8	N－76.5°－W	南向き 一部改築
SB 292	4間×(5間) (88.0)	梁行　787 25.9	桁行(1,118) (36.9)	14～66		16～40	10～76	根石1 据石1	N－14.5°－E	西庇 東向き
SB 293	3間×4間 54.2	梁行　622 20.5	桁行　872 28.8	28～66		12～26	6～35	据石1	N－21°－E	東庇 東向き
SB 294	2間×2間 11.8	桁行　388 12.8	梁行　305 10.1	32～43	12～26	9～19	7～22	据石1	N－78°－W	南向き
SB 295	2間×2間 26.5	桁行　530 17.5	梁行　500 16.5	28～43	5～25	14～18	10～32		N－70°－W	南向き
SB 296	2間×3間 32.9	梁行　430 14.2	桁行　764 25.2	20～32	6～42	10～14	3～8		N－11.5°－E	東向き
SB 297	3間×2間 26.9	桁行　640 21.1	梁行　420 13.9	20～34	6～32	10～18	10～33		N－72.5°－W	南向き
SB 298	2間×2間 18.8	桁行　434 14.3	梁行　434 14.3	34～68	6～60	16～22	8～47	根石3 据石1	N－77.5°－W	南向き 一部改築
SB 299	3間×2間 17.3	桁行　368 12.1	梁行　470 15.5	20～36	11～44	14	26		N－71°－W	南向き
SB 300	2間×3間 33.3	梁行　504 16.6	桁行　660 21.8	24～44	12～34	13～18	5～32		N－25°－E	東向き
SB308	3間×5間 71.2	梁行　630 20.8	桁行　1130 37.3	30～60		12～22	18～52		N－14°－E	東向き

(　) 付は現存規模、1尺＝30.3cmで計算

表6　第ⅡA区平安時代後期～室町時代堀立柱建物規模一覧



SB281

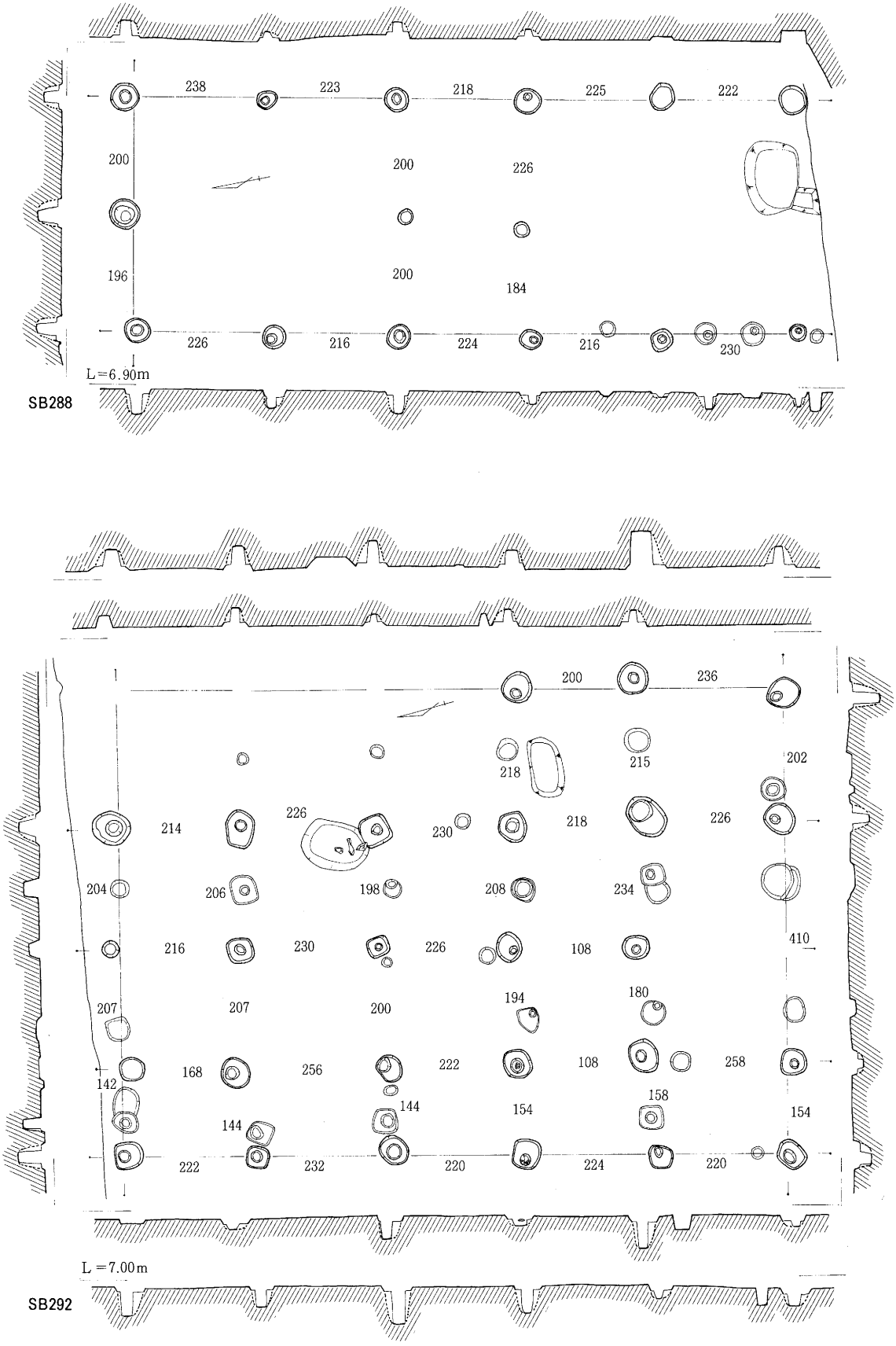


SB287

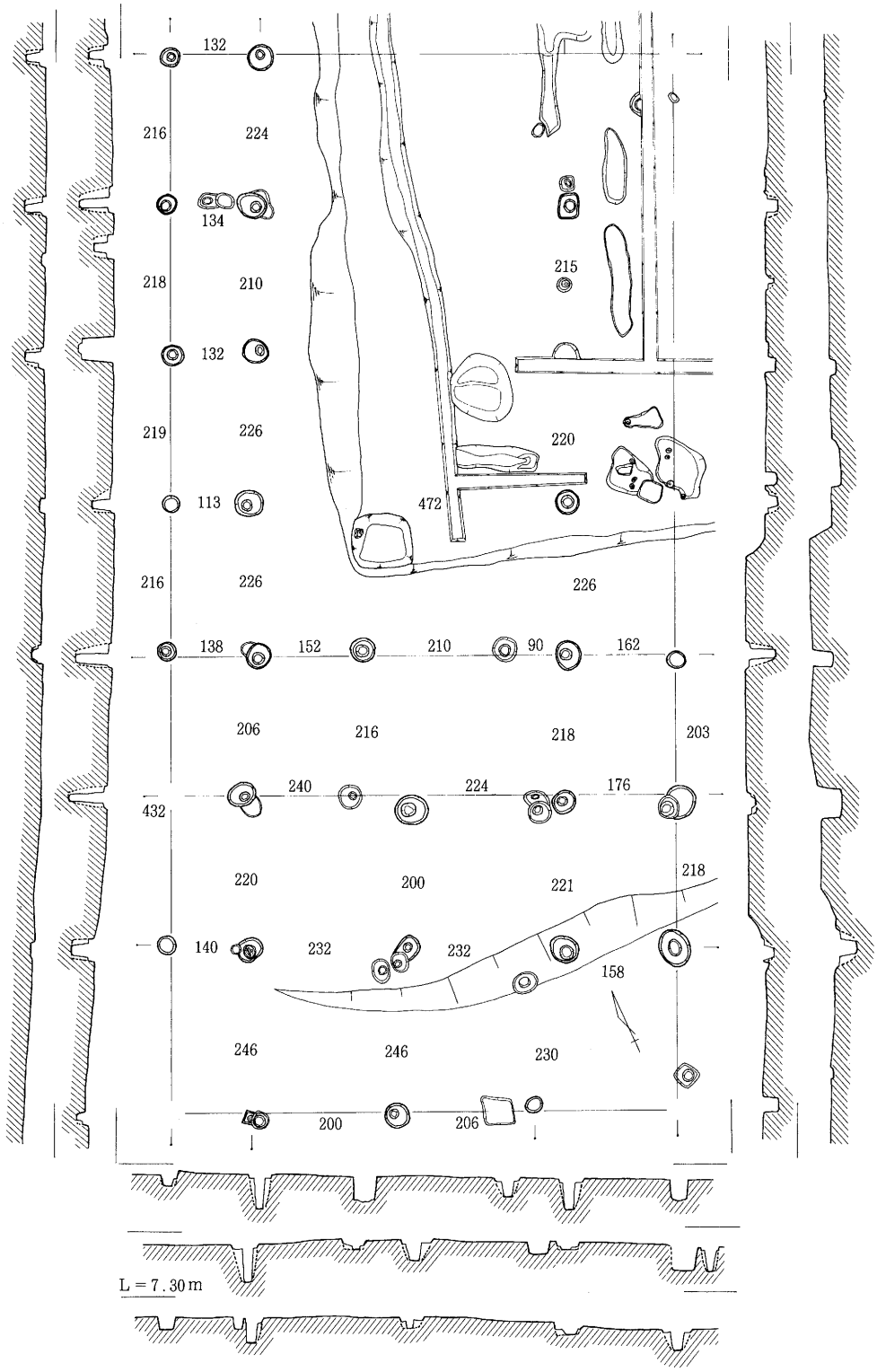
数値は柱間寸法（cm）

0　6 m

第38図　第ⅡＡ区ＳＢ281・287実測図



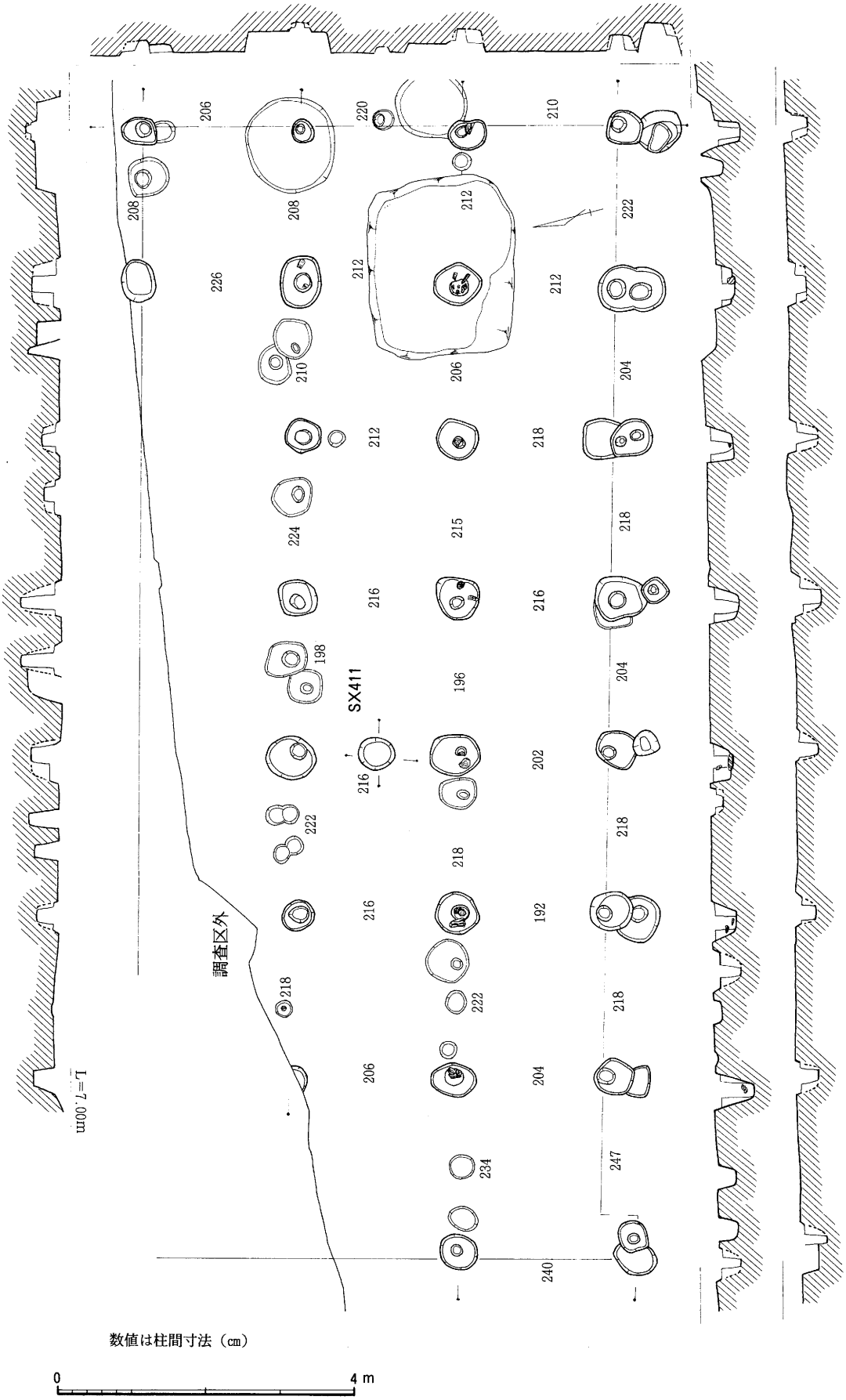
第39図　第Ⅱ A区ＳＢ288・292実測図



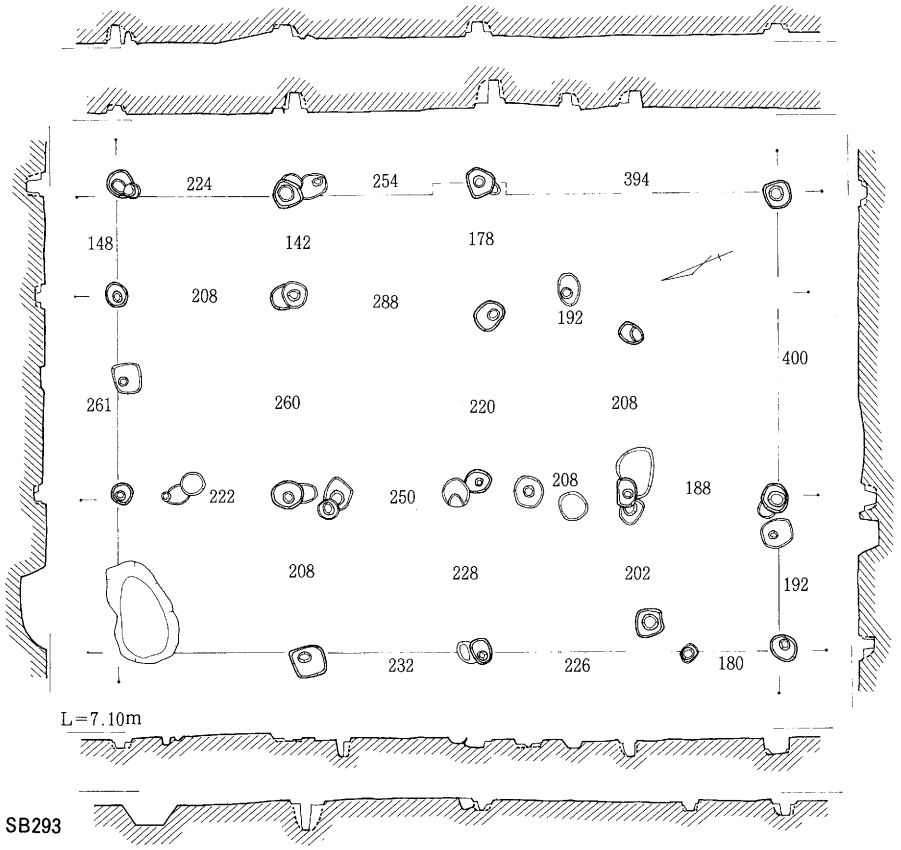
数値は柱間寸法（cm）

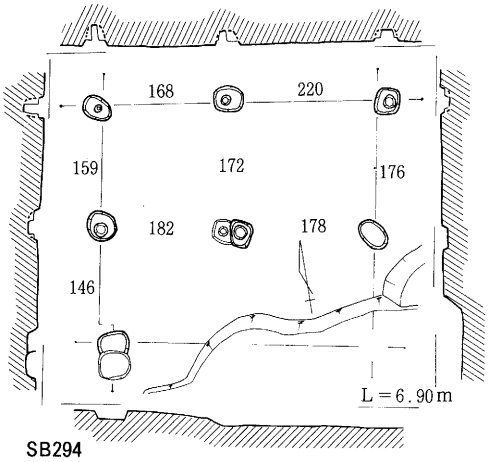
0　6 m

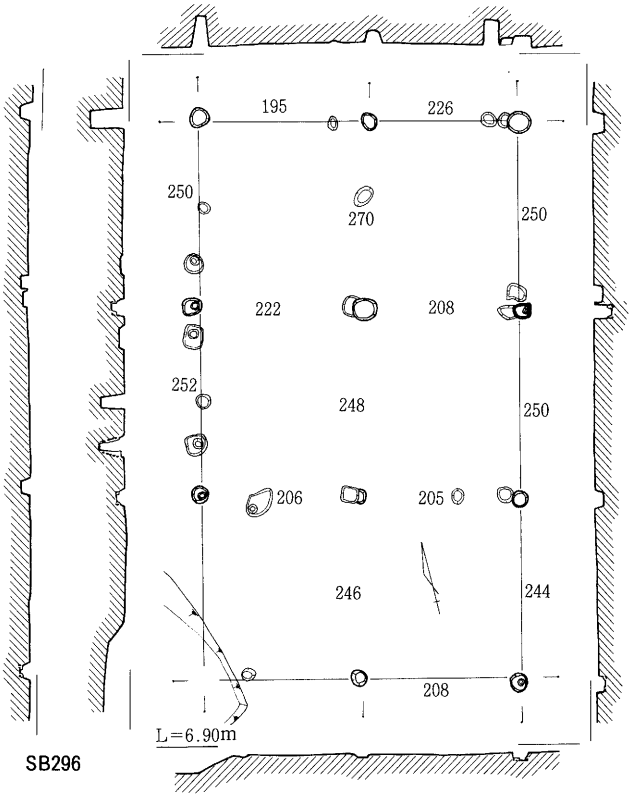
第40図　第ⅡＡ区ＳＢ289・290実測図



第41図　第ⅡＡ区ＳＢ291実測図



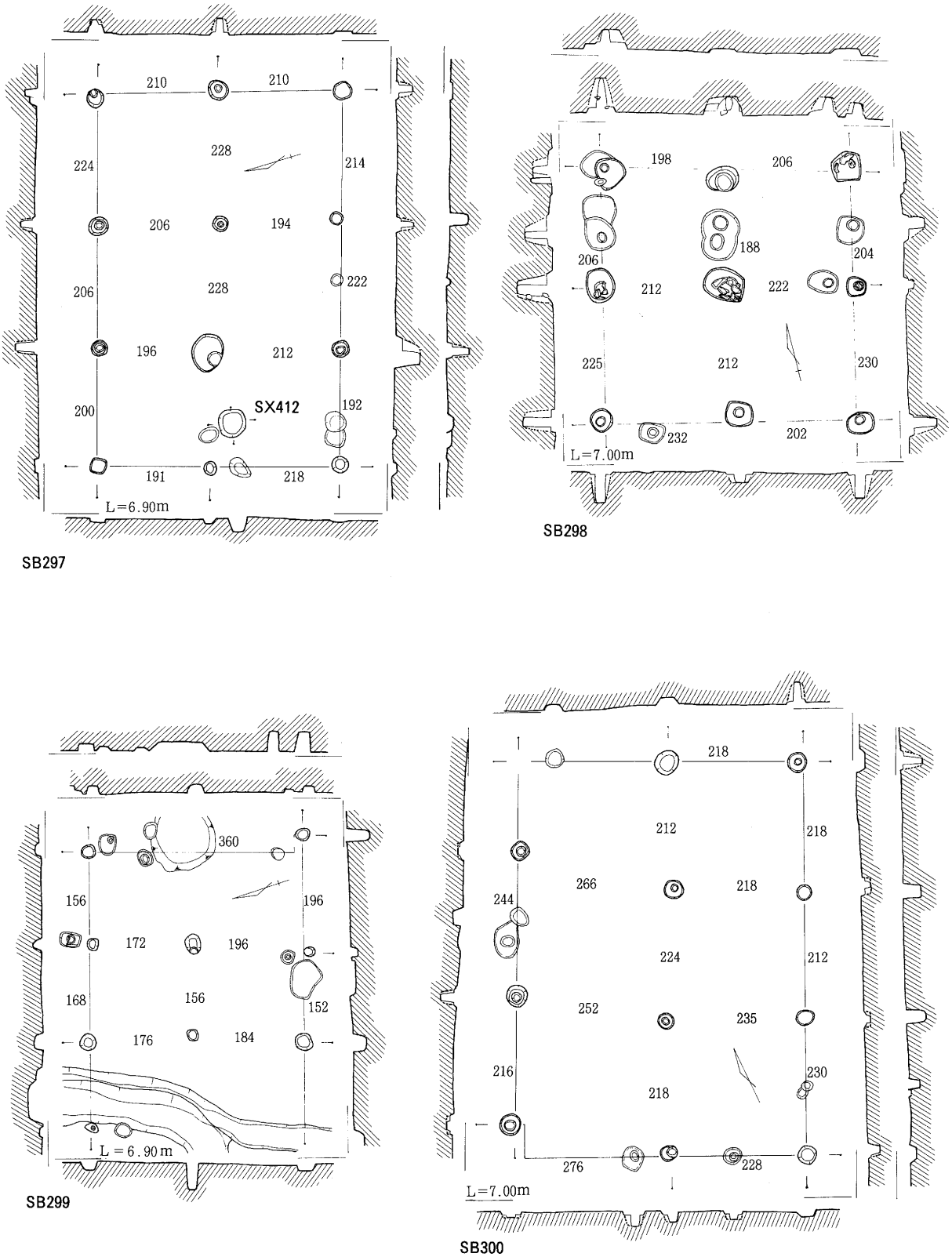




数値は柱間寸法（cm）

0　6 m

第42図　第ⅡＡ区ＳＢ293・294・296実測図



第43図　第ⅡA区SB297・298・299・300実測図

b　地鎮遺構

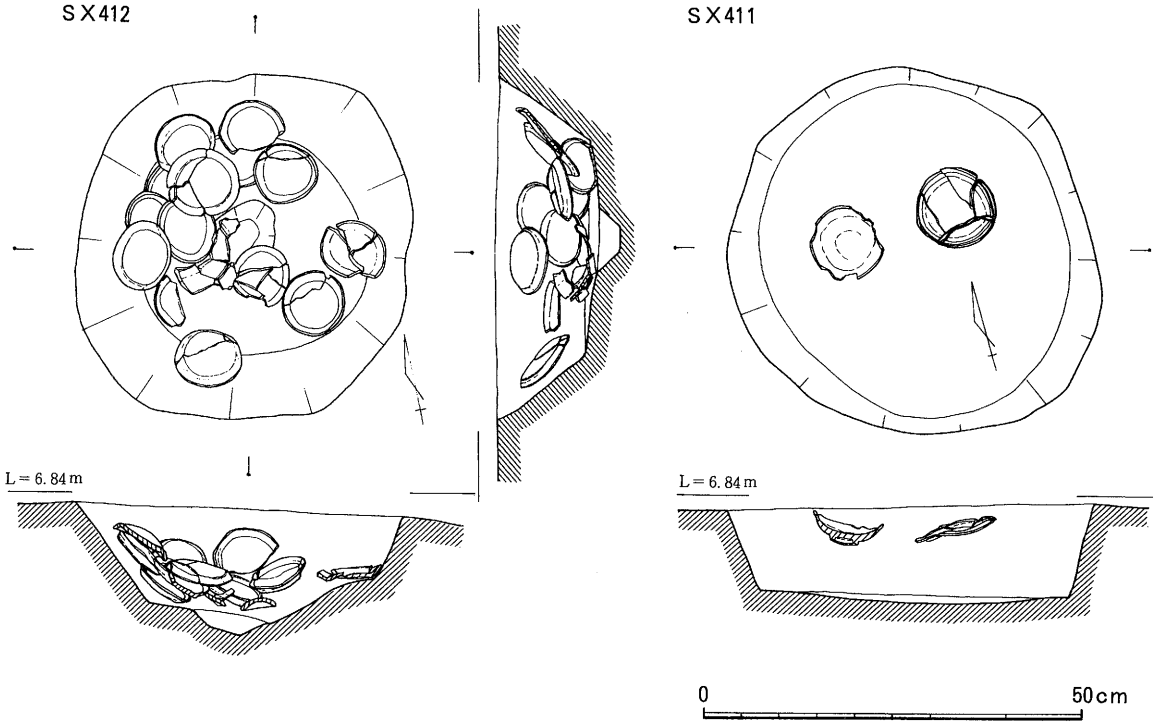
掘立柱建物に伴うものを３基検出した。いずれも小土坑に土師器皿を埋置したものである。また、各々の建物の内側にある土坑・柱穴について形状・遺物などを検討したが、他の地鎮遺構は認められなかった。

ＳＸ４１１（第44図、ＰＬ.23）

ＳＸ411はＳＢ291と同一面で検出され、この建物に伴う地鎮遺構と考えられる。ＳＢ291は桁行７間、梁行３間と考えられる建物で、ＳＸ411は梁行のほぼ中央、桁行の中央やや西側に設けられている。平面規模は直径約50㎝の円形を呈する。壁はかなり急傾斜に掘り込まれ、深さ11～13㎝を測る。底面はやや平坦である。埋土はＳＢ291の柱穴と同様、暗灰褐色土である。埋置遺物は土坑の底面からかなり浮いた位置に土師器皿２点が上向きにして置かれていた。他に土師器土釜の破片が数片出土しているが、埋置物として置かれていたものかどうかは不明である。これらの出土遺物は11世紀中葉～後半と考えられ、ＳＢ291の時期（11世紀末～12世紀後半）とほぼ一致する。

ＳＸ４１２（第44図、ＰＬ.23）

検出当初、ＳＸ412はＳＢ288に伴うと判断されていたが、遺物から時期的に符合しない。むしろＳＢ297に伴うものと考えられ、桁行方向の西端、梁間のほぼ中央に位置する。平面規模は直径約45㎝を測りやや歪な円形を呈する。深さは17㎝を測り、中央に直径10㎝の小穴を有し、二段に掘り込まれている。西側の掘り込みは東側に比べてかなり斜めになる。埋土は茶褐色の単層である。埋置遺物は土坑の底面から側壁に接した位置にあり、大半が上向きにして置かれてあるが、並べ方に規則性は看守されない。遺物は底部回転糸切りの土師器小皿が14点、皿１点が重なって出土した。これらの出土遺物は12世紀後半と考えられ、ＳＢ297の時期（12世紀末～13世紀初頭）とほぼ一致する。



第44図　第ⅡＡ区ＳＸ411・412実測図

c　土坑

土坑は平安時代後期後半（11世紀末）～江戸時代末（19世紀）のもので、大形のものから小形のものまで総数97基を検出した。これらの土坑はいずれも同一面で検出した。第ⅡＡ３・４区の北側に掛かる現水田区画の一段低くなった範囲の遺構については、殆どが近世の土砂採取の土坑と考えられる。

ＳＫ３２０（第45図）

規模は長軸 2.48m、短軸2.0m、深さ８～12cmを測り浅い土坑である。形状は不整形を呈し、基底部は平坦である。掘り込みは削平が著しいため現状では判然としない。遺物は黒色土器椀Ｂ類、土師器小皿、瓦器椀などの破片が出土している。出土遺物から11世紀後半～12世紀初頭と考えられる。

ＳＫ３２３（第45図）

調査区の西側南寄りに位置する。一部調査区外のため全容は不明である。規模は長軸2.90m、短軸2.0m以上、深さ12cmを測る。掘り込みは傾斜が緩く、西側の側面は極めて緩やかである。遺物は瓦器椀、土師器皿・土釜、東播系捏鉢などの破片がある。12世紀後半～13世紀前半と考えられる。

ＳＫ３３２（第46図、ＰＬ.23）

調査区の東側南寄りに位置し、ＳＫ399と一部重複する。規模は長軸80cm、短軸約50cm、深さ18cmを測り隅丸長方形を呈する。長さ15～35cmの河原石が乱雑に入れ込まれ、青磁碗・皿、瓦などが出土している。

ＳＫ３４９（第45図）

調査区の西側南寄りのＳＤ453とＳＤ457の間に位置する。南西部分は現在の撹乱により削られている。規模は長軸2.0m、短軸1.20m以上、深さ20～24cmを測る。掘り込みは全体的に緩やかな傾斜である。遺物は12世紀末～13世紀初頭の瓦器椀、瓦質土釜、土師器土釜・皿・土錘などが出土している。ＳＤ453はＳＫ349を避けて延びていることから、ＳＫ349はＳＤ453との関連性が窺われる。

ＳＫ３５１（第46図）

ＳＫ332の北側に位置し、直径80cm、深さ38cmを測るほぼ円形の土坑である。掘形は二段に掘られ、埋土は全体的に灰色味が強く、底の埋土が灰黄色土（黄色土ブロック混入）になる状況から一時期に埋められたと考えられる。遺物は少量で、時期が不明確である。

ＳＫ３９０（第45図、ＰＬ.23）

規模は長軸7.88m、短軸1.10～1.70m、深さ30～50cmを測り長楕円形を呈する。埋土の状況から一時期に埋められたと考えられる。北と南の掘り込みは緩やかである。遺物は縄文時代晩期～江戸時代までの土器の小片が多数ある。ＳＫ390は遺物と周辺の土坑の状況から江戸時代と考えられる。

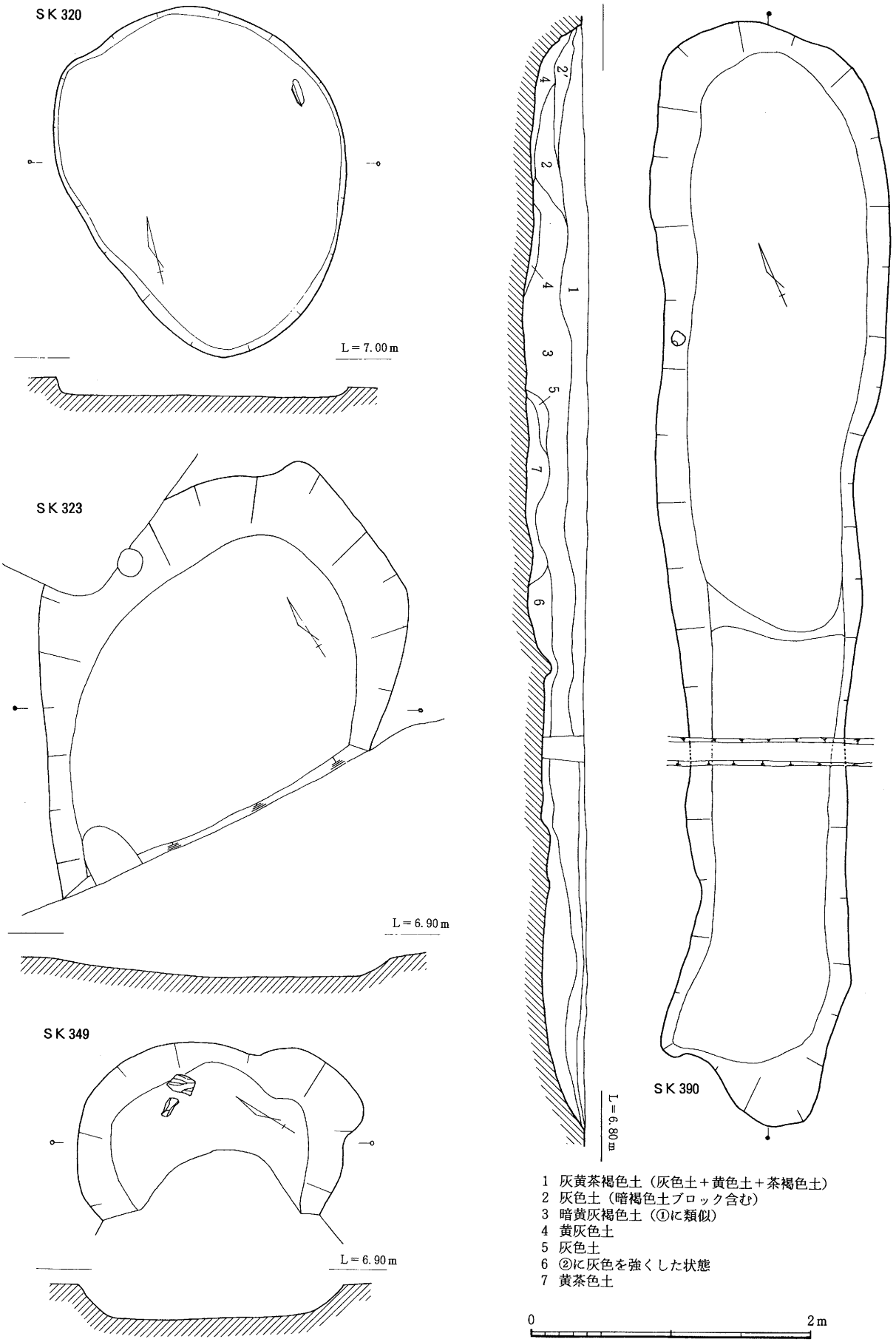
ＳＫ３９９（第46図、ＰＬ.23）

ＳＫ332の南側に一部重複して位置する。規模は長軸1.08m、短軸0.85m、深さ48cmを測り長方形を呈する。底には厚さ2.4cmの木枠と考えられる板材が残存している。掘り込みは東側を省けばやや垂直である。遺物は瓦器椀、土師器土釜、伊万里焼などがある。遺物などから19世紀の遺構と考えられる。

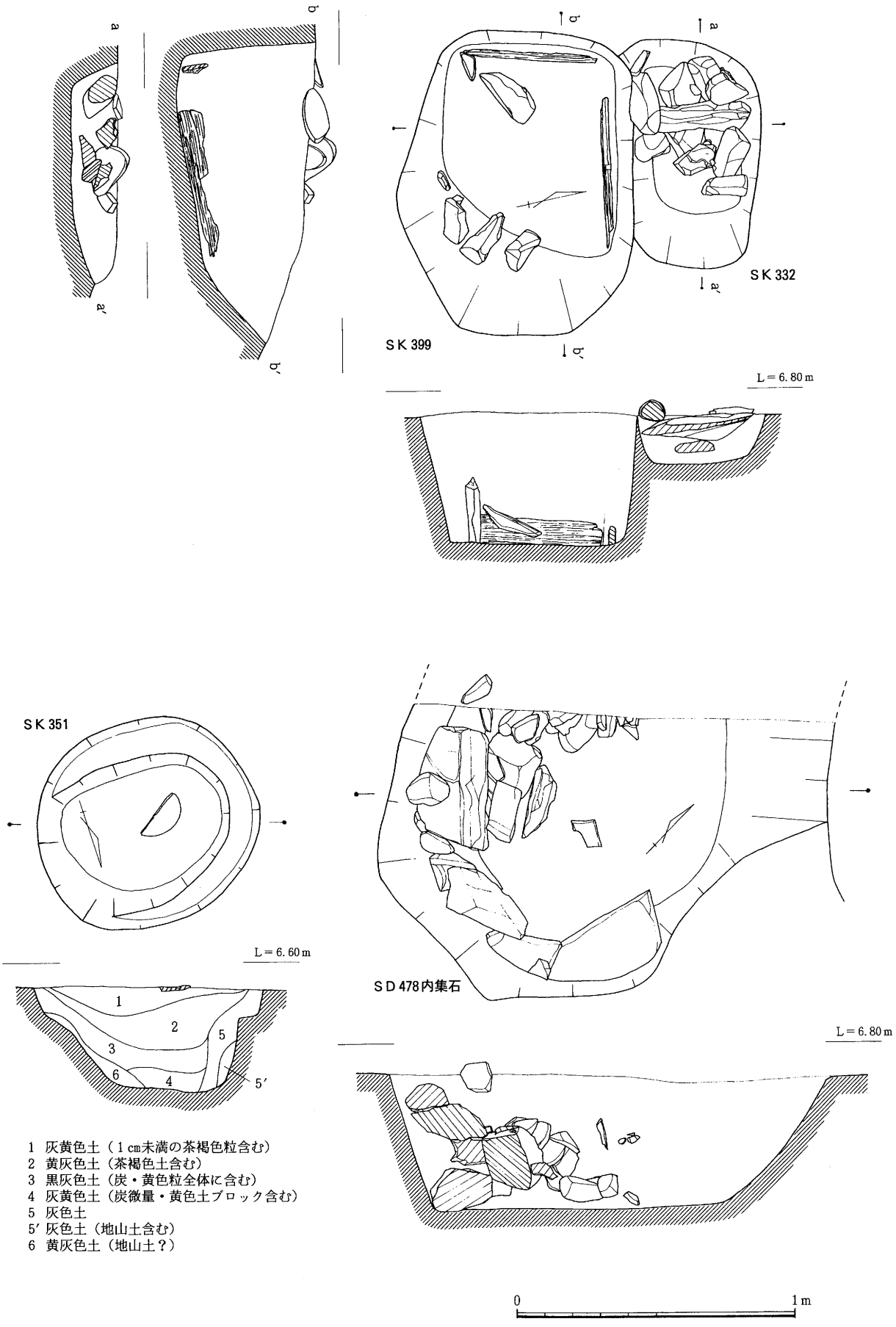
ＳＤ４７８内集石遺構（第46図、ＰＬ.25）

調査区の北東隅のＳＤ478南端に位置する。規模は長軸1.6m、短軸1.05m以上、深さ44～50cmを測る。土坑内には長さ12～45cm大の大振りの石が西側から南側にかけて積まれている。出土遺物には土師器皿、瓦器、唐津焼と多くの瓦がある。13世紀代の遺物が多いが、当遺構は18世紀代と考えられる。

調査区北東側の土坑群



第45図　第ⅡA区SK320・323・349・390実測図



1　灰黄色土（1㎝未満の茶褐色粒含む）
2　黄灰色土（茶褐色土含む）
3　黒灰色土（炭・黄色粒全体に含む）
4　灰黄色土（炭微量・黄色土ブロック含む）
5　灰色土
5′灰色土（地山土含む）
6　黄灰色土（地山土？）

第46図　第ⅡA区SK332・351・399・SD478内集石実測図

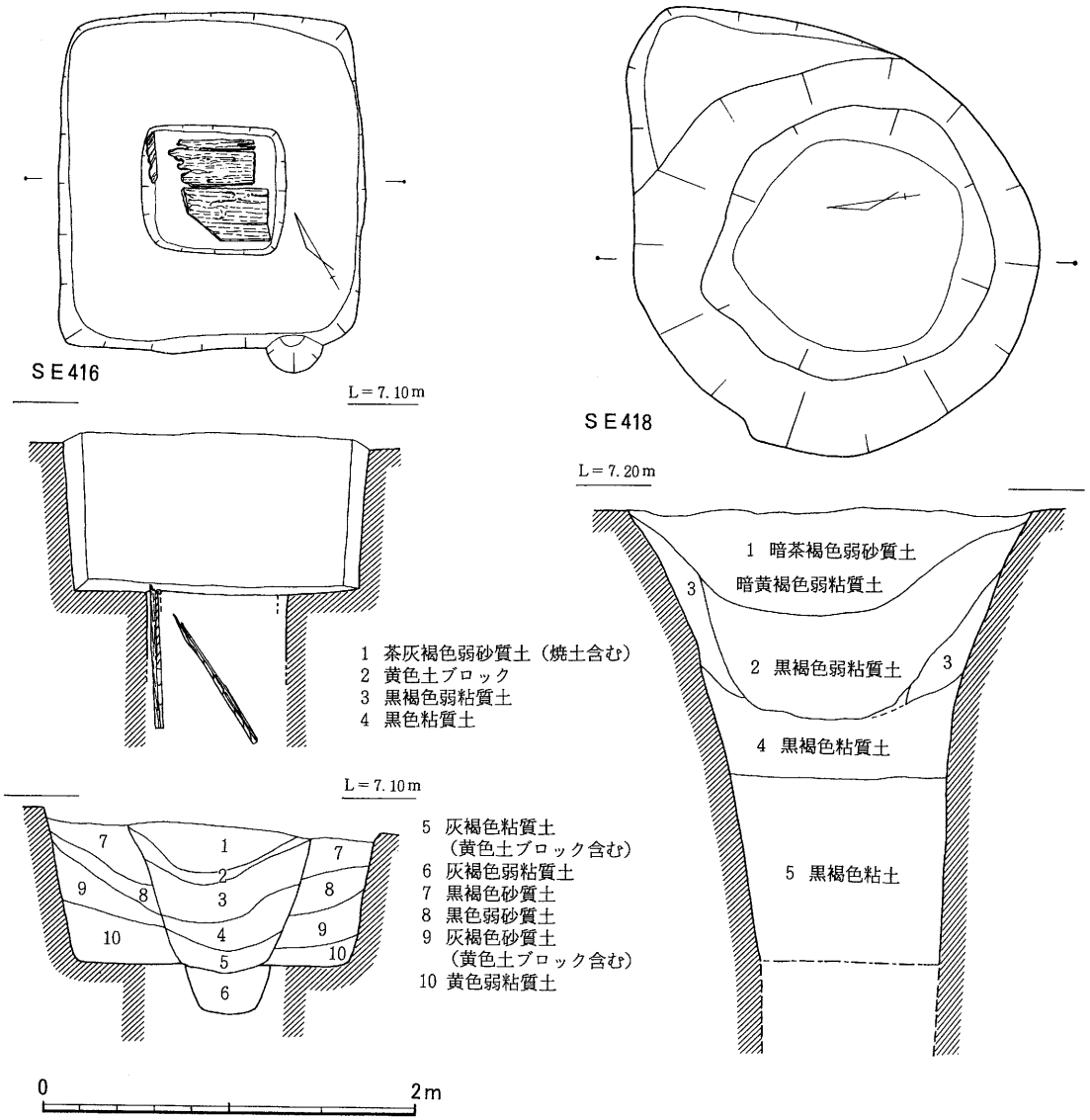
ＳＫ356～ＳＫ410の大半は、先述したように現水田区画の一段低くなった特定の範囲に掘削されており、形状は不整形を呈し、規格性は認められない。遺物は小片が多く、弥生時代から江戸時代にかけてのものが認められ、中でも弥生時代後期から古墳時代前期、鎌倉時代前後に属するものが比較的主体となるため、その時期に係る相当数の遺構が削平されたものと考えられる。なお、遺構の重複関係も多数認められるが、遺物等との関係から18・19世紀内での所産と考えられる。

ｄ　井戸

３基の井戸を検出したが、遺構が深く周辺の地山が軟弱なため基底部まで調査できなかった。現状での内訳は素掘りのもの２基、木組の井戸で井戸側を使用したと考えられるもの１基である。

ＳＥ４１６（第47図、ＰＬ.23）

木組の井戸と考えられる。掘形の平面形は南北方向にやや長い方形を呈する。長辺1.80ｍ、短辺1.65ｍを測る。掘り込みは殆ど垂直に約80㎝掘り込まれ、その深さから一辺約75㎝の正方形の木組枠を設けている。周辺の地山が軟弱なため掘形と井側を合わせて、深さ約1.80ｍしか掘ることができなかった。掘り込みの西壁の一部に井側と思われる板材が貼り付いた状態で、埋土中からは板材が東壁から倒れた状態で検出された。

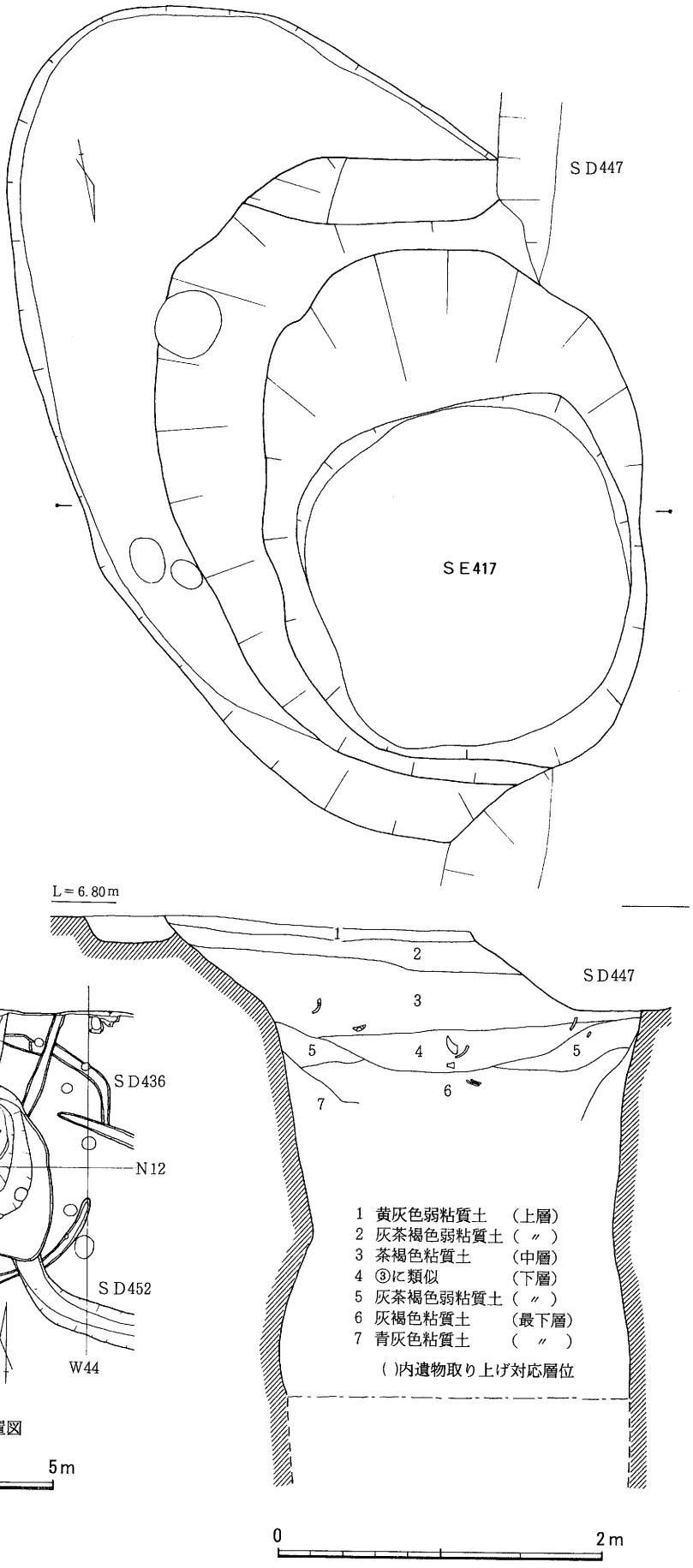


第47図　第ⅡＡ区ＳＥ416・418実測図

埋土は掘形内では本来、水平に埋め込まれた土砂がずれ落ちて斜めに堆積する。遺物は掘形埋土から多くの弥生土器、古墳時代の土師器と共に平安時代後期の土師器皿・小皿・土釜・鉢、瓦器椀が、井側内埋土から黒色土器、瓦器椀、土師器皿・小皿などが出土している。出土遺物からＳＥ416は11世紀中頃以後～11世紀後半に機能し、11世紀後半～12世紀にかけて埋没したと考えられる。遺構の位置関係等からして同時期のＳＢ287ないしＳＢ289・290が考えられる。ただ、基底部まで完掘できていない以上、不明な部分も残る。

ＳＥ４１７（第48図、ＰＬ.23）

調査区の西端北寄りに位置する。他遺構との重複が多く、検出状況からＳＤ445・452より新しくＳＤ447より古い。掘形は楕円形を呈し、長径4.0ｍ、短径3.0ｍを測る。ＳＥ417もまたＳＥ416同様周辺の地山が軟弱で危険度が高いため、約2.90ｍの深さで検出することを断念した。掘り込みは検出面から深さ50㎝まで



第48図　第ⅡＡ区ＳＥ417実測図

緩やかな傾斜が付き、その深さから垂直に内径2.0ｍの円形に掘り込まれている。遺物は各層共に非常に多いが、中・下層に比べ最下層に最も多く下位の層ほど完形品が多量に出土している。最下層（第７層）は青灰色の粘質土で1.8ｍ以上の堆積を測るが、分層し得なかった。遺物には瓦器椀・小皿、土師器皿・土釜、東播系捏鉢、中国製青磁碗・白磁皿、瓦などがあり、上層から最下層までの各層位で若干の時期差が認められる。出土遺物からＳＥ417は12世紀後半頃に機能し、12世紀末～13世紀中頃にかけて埋没したと考えられる。また、ＳＥ417に伴う建物としてＳＢ291ないしＳＢ292が考えられ、第ＩＡ区の東側建物群には同時期のものが認め難い。なお、ＳＤ436は後述するように、井戸に伴う排水施設と考えられる。

ＳＥ４１８（第47図、ＰＬ.23）

掘り込みは検出面で内径2.15ｍを測り、円形を呈する。断面形はラッパ状に上に開き、深さ2.45ｍ以上を測る。検出し得た底面の形態も円形を呈し、内径0.95ｍを測る。埋土は上層位（第１・２層）はレンズ状に落ち込み、暗褐色味の強い砂質土及び弱粘質土で、下層位（第４・５層）は水平堆積で黒褐色の粘性の強い粘土である。井戸側に使用した板材は検出できなかったが、埋土の落ち込み状況から井筒の存在した可能性も考えられる。遺物は全て上層からの出土で瓦器椀、土師器皿・土釜、中国製白磁碗などの破片がある。出土遺物からＳＥ418の上層埋没時期は12世紀末～13世紀初頭とみられ、当然、機能していた時期は遡るものと考えられる。また、ＳＥ418周辺の同時期の建物として、ＳＢ293が考えられる。

ｅ　溝

平安時代後期～江戸時代までの溝を多数検出した。とりわけ調査区西半部においては、この調査区で検出し得た溝の大部分が集中している。残念なことに遺構(溝)の重複関係が複雑なため、土層観察を行なっても掘り込み状況および前後関係が判然としない溝もある。

ＳＤ４２１

調査区の中央西寄りに位置し、北々東から南々西方向に延びる溝である。規模は幅30㎝、深さ６㎝、延長19ｍ分を検出した。遺物は少量の土師器、黒色土器の椀が出土し、平安時代後期（11世紀代）と考えられる。

ＳＤ４２４（第49図、ＰＬ.19・24）

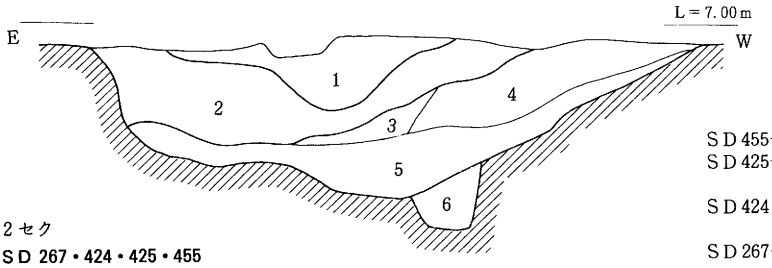
調査区の中央やや西寄りを北から南東方向に蛇行して斜めに延びる溝である。規模は延長35ｍ、幅約2.30ｍ、深さ60～85㎝を測る。肩口は緩やかに傾斜して落ち込み、Ｕ字形を呈する。埋土は基本的に３層に分層できるが、検出範囲によって若干の色調および質に違いが認められる。遺物は細片が多く、各層共に同程度の量が出土し、黒色土器Ａ類、瓦器椀、土師器皿・小皿・甕・製塩土器などがある。出土遺物からＳＤ424は11世紀中頃と考えられる。

ＳＤ４２５（第49図、ＰＬ.19）

調査区の中央やや西寄りで溝が６条複雑に重なり合った箇所から南々西に延びる溝である。規模は延長約24ｍ、幅約1.10～1.25ｍを測る。深さは約40～60㎝であり、黒灰色のやや粘質土が堆積していた。遺物は11世紀末～12世紀中頃にかけての多種多様の土器が多量に出土している。取り分け、溝が複雑に重複する北端部分に集中していた。出土遺物には瓦器椀・小皿、土師器皿・小皿・土釜・甕、東播系捏鉢、産地不明の須恵質椀（底部回転糸切り）などがある。

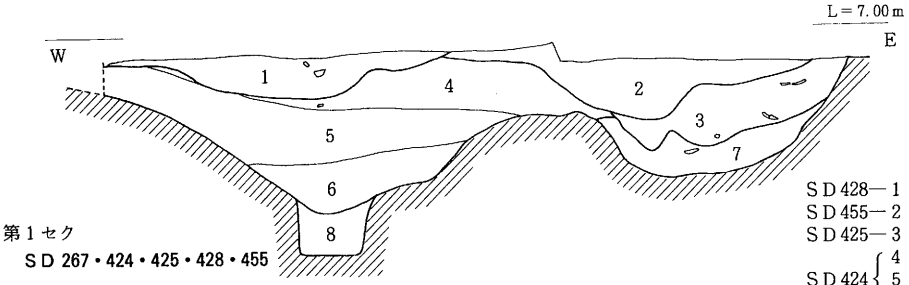
ＳＤ４３６

ＳＥ417と関連のある溝と考えられる。ＳＥ417を取り囲むような状況で検出した。規模は幅25～30㎝、深さ10～15㎝の小溝である。ＳＤ436とＳＥ417との間隔は約2.50ｍを測り、井戸の周辺を巡る排水施設、もし



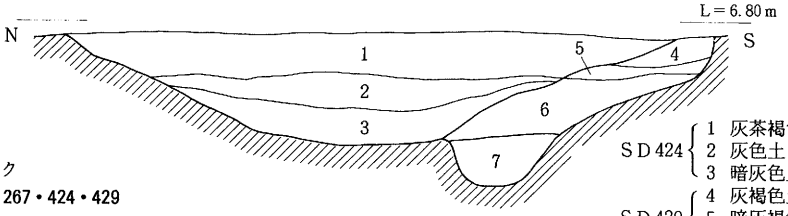
第２セク
SD 267・424・425・455

SD455－1　暗茶灰色土
SD425－2　黒灰色土（炭・焼土含む）
SD424　3　④より灰色強い　上層
SD424　4　暗茶褐色土　上層
SD424　5　暗灰色土　――下層
SD267－6　茶灰色土



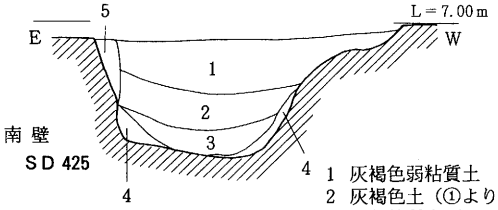
第１セク
SD 267・424・425・428・455

SD428－1　暗茶褐色土
SD455－2　明茶灰色土
SD425－3　黒灰色土（炭・焼土含む）
SD424　4　明茶褐色土――上層
SD424　5　明茶灰色土――中層
SD424　6　暗灰色土――下層
7　灰色土――SD425の下
SD267－8　茶灰色土



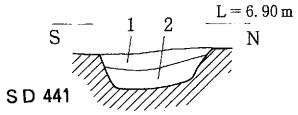
第３セク
SD 267・424・429

SD424　1　灰茶褐色土（5㎝前後の黄色土ブロック含む）－上層
SD424　2　灰色土（2～3㎝の黄色土ブロック含む）－中層
SD424　3　暗灰色土　－下層
SD429　4　灰褐色土　上層
SD429　5　暗灰褐色土　上層
SD429　6　茶灰色土（黄色土ブロック含む）－中層
SD267－7　暗灰茶褐色弱粘質土（　〃　）



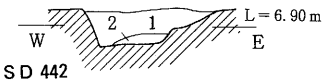
南壁
SD 425

1　灰褐色弱粘質土
2　灰褐色土（①より灰色強い）
3　灰色粘質土（やや褐色を帯びる）
4　灰色粘質土（鉄分粒多量含む）
5　灰褐色土（黄色土小ブロック含む）



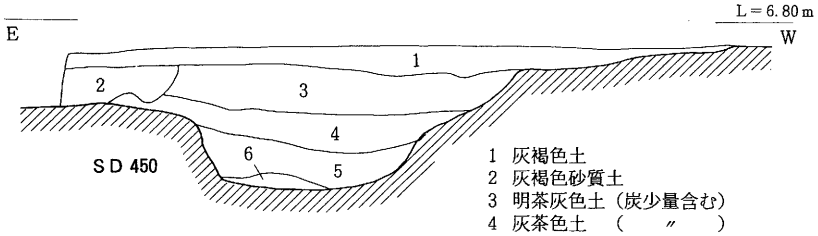
SD 441

1　茶褐色弱砂質土
2　暗茶褐色土



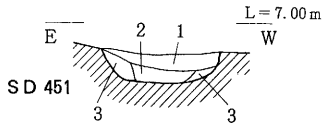
SD 442

1　黒褐色砂質土
2　黄褐色砂質土



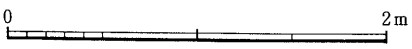
SD 450

1　灰褐色土
2　灰褐色砂質土
3　明茶灰色土（炭少量含む）
4　灰茶色土　（　〃　）
5　明灰褐色土（　〃　）
6　黄灰色土



SD 451

1　茶褐色弱砂質土（鉄分粒含む）
2　黄茶褐色弱砂質土
3　黄褐色土（鉄分粒含む）



第49図　第ⅡA区平安時代後期～室町時代溝土層図

くは上屋の雨落ち溝とも考えられる。出土遺物は瓦器椀、土師器小皿などがあるが非常に少量である。これらの遺物からも、時期的にＳＥ417と大差のないものと考えられる。

ＳＤ４３７

調査区の西端に位置し、逆Ｌ字形に折れ曲がる溝である。南北方向の想定延長方向にはＳＢ295が位置し、建物の方向性と比較的一致する。遺物には土師器皿、瓦器椀などがあり12世紀末～13世紀初頭と考えられる。

ＳＤ４４０・４４１

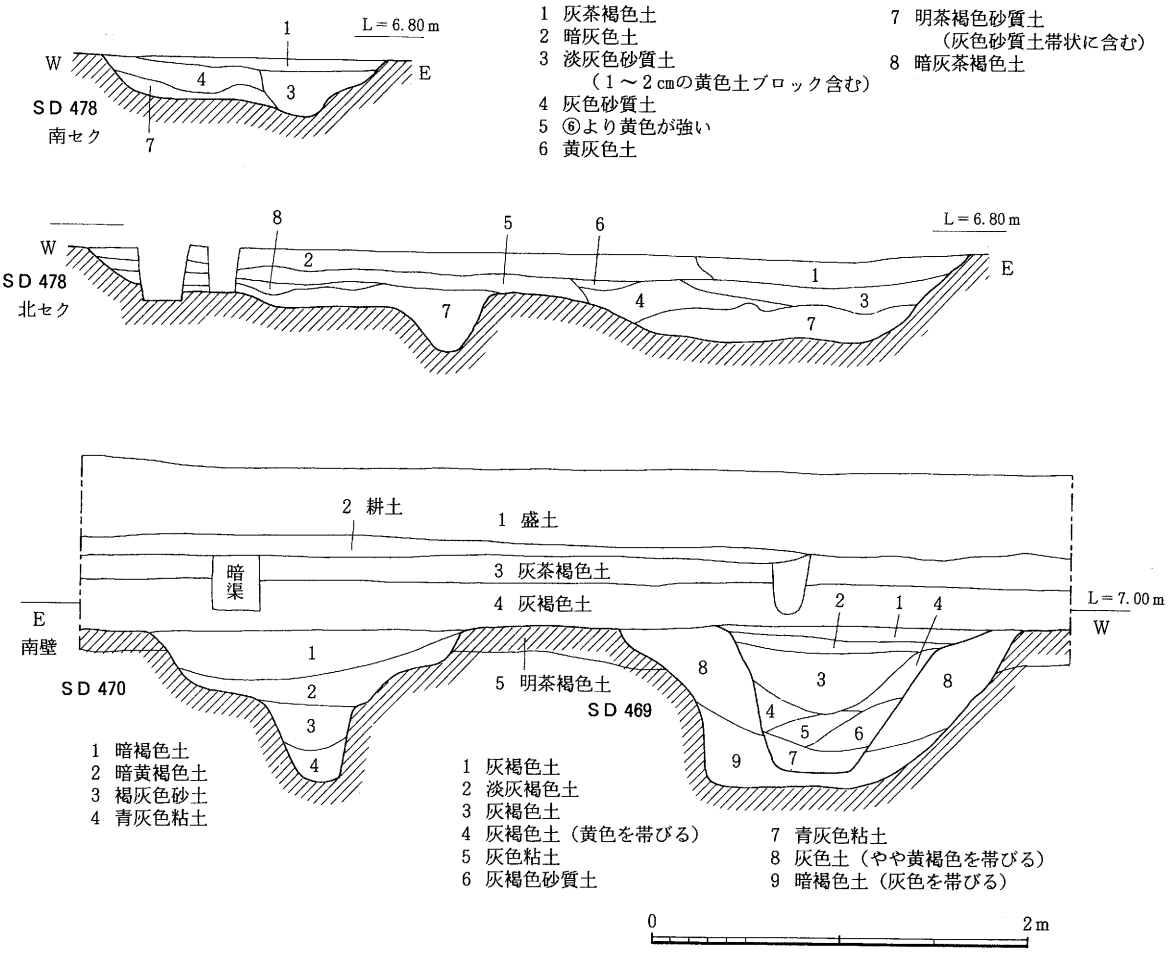
ＳＢ294・296を挟む位置の北側にＳＤ440、南側にＳＤ441が存在する。ＳＤ440は延長14ｍ分を、ＳＤ441は延長9.5ｍ分を検出した。遺物は少量の瓦器椀、土師器皿・小皿・土釜などが出土し、ＳＢ294・296とほぼ同時期の13世紀前半と考えられる。建物の位置関係からＳＢ296に伴う可能性がより濃厚である。

ＳＤ４４５

調査区の西端で検出し得た南北に延びる溝で、検出状況からはＳＥ417に削られている。規模は幅0.5～0.85ｍ、深さ20～30㎝を測り、延長約17ｍ分を検出した。ＳＤ 445は南端で西側へ屈曲するが、第ＩＡ区で溝の続きは確認できなかった。埋土は灰褐色粘質土の単層である。出土遺物には瓦器椀、土師器皿・小皿・土釜などがある。出土遺物の時期はＳＥ417上層と大差なく、ＳＥ417の廃絶後間もなくＳＤ445が掘削された可能性が高いと考えられ、検出状況とは異なる。

ＳＤ４４７

第一次調査の第ＩＡ区に続く溝である。規模は幅1.75～1.85ｍ、深さ約30～50㎝を測り、延長10ｍ分を検



第50図　第ⅡＡ区平安時代後期～室町時代溝土層図

出した。埋土は基本的に２層に分層でき、上層は茶褐色土、下層は暗茶褐色弱粘質土である。出土遺物には瓦器椀・小皿、土師器小皿・土釜、中国製青磁碗、東播系捏鉢などの破片がある。ＳＤ447はＳＥ417を削って掘り込まれ、遺物もＳＥ417上層出土のものより後出すると思われ、ＳＤ445と併行して延びていた可能性が考えられる。

ＳＤ４５０（第49図、ＰＬ.25）

調査区の東端で、北々東から南々西方向に延びる溝である。規模は幅1.80～2.25ｍ、深さ約75㎝を測り、延長約29ｍ分を検出した。西肩は緩やかな掘り込みで、底面は幅広のＵ字形を呈している。土層図（第49図）の第１・２層はＳＤ450の埋土でない可能性がある。遺物は上層から瓦器椀、土師器皿・土釜に混じり唐津焼などの近世遺物があり、中・下層からは13世紀初頭～中頃の比較的まとまりのある遺物が出土している。

ＳＤ４５２・４５３

建物の敷地を界する溝と考えられる。規模は幅0.90～1.25ｍ、深さ15～30㎝を測る。埋土は暗灰色土の単層である。ＳＤ452・453はＳＢ296とほぼ同一方向にあるが、遺物からは時期的に符合しない。また、ＳＫ349をあたかも避けて延びている。検出時、北側の東西方向に延びる部分をＳＤ452、屈曲して南側に延びる部分をＳＤ453と区分した。埋土から違いは認め難いが、出土遺物ではＳＤ452に古い時期の遺物群を多く含んでいる。出土遺物は瓦器椀・小皿、土師器小皿・土釜、東播系捏鉢、中国製青磁皿・白磁碗がある。この状況からＳＤ452・453は13世紀中頃～14世紀初頭には埋没したと思われる。

ＳＤ４６９（第50図、ＰＬ.24）

調査区の中央西寄りに位置し、北々東から南々西方向に延びる溝である。ＳＤ469は後に掘り直された可能性があり、新旧２条を検出した。新溝は一周り小さくこの溝の中におさまり、この状況は調査区南壁の土層の堆積から窺うことができる。調査当初は一条の溝という判断で検出している。遺物取上げは最下層から上層で各々一括で取り上げている。旧溝は延長24.5ｍ、幅1.70～2.0ｍ、深さ約90㎝を測る。東肩はやや垂直ぎみに掘り込まれているのに対し、西肩の掘り込みは傾斜がきつい。新溝は旧溝同様延長24.5ｍ、幅1.40ｍ、深さ約80㎝を測り、掘り込みは逆台形状を呈する。出土遺物には瓦質甕、土師器土釜、備前焼擂鉢、常滑焼、瓦などがあり15世紀中頃～末の時期が与えられる。他に土師器皿、瓦器椀、東播系捏鉢、中国製青磁碗・白磁碗などこの時期に先行する遺物も多量に混入している。そのため、旧溝の掘削が12世紀前半～13世紀前半に遡る可能性もある。

ＳＤ４７０（第50図、ＰＬ.24）

ＳＤ469と平行に延びる溝である。延長24.5ｍ、幅1.45～1.70ｍ、深さ80㎝を測る。掘り込みは両肩共に二段に掘り込まれ、底面はＵ字形を呈する。出土遺物は少なく瓦器椀、土師器皿・土釜、瓦質土釜、備前焼擂鉢などがあり、13世紀前半～15世紀後半にかけての遺物である。ＳＤ470そのものは15世紀後半と考えられ、ＳＤ469新溝と併行して同時存在したものである。両溝の間隔は約1.0～1.5ｍを測る。

ＳＤ４７８（第50図、ＰＬ.25）

ＳＤ450の北西に位置し、南東から北方向に延びる溝である。形状は北側にラッパ状に広がり幅1.60～5.20ｍ、深さ25～45㎝を測り、延長約13ｍ分を検出した。埋土は自然堆積ではなく、一時期に埋められたものと思われ、色々な土が固まりで層を成し、溝内の北側と南側では堆積状況が異なる。土坑の項でも記したがこの溝の南端に河原石を積んだ集石遺構がある。集石遺構は18世紀代と考えられ、ＳＤ478の出土遺物は土師器皿、瓦器椀を主体とする中世遺物が多いことから別遺構と考えられる。また、ＳＤ478周辺の近世遺構からの混入・重複があったものと考えられる。

２　第ⅡＢ区（第52図、ＰＬ.26・27）

（１）弥生・古墳時代

弥生・古墳時代の検出した遺構には、土坑・溝・旧河道がある。当地区と第ⅡＡ区との間に52ｍの未調査範囲があるため、どこまで居住区が拡がっていたか厳密には不明である。試掘調査の成果を考慮すれば未調査範囲の西半分は旧自然河道に下りていく傾斜面で、東半分は旧自然河道が存在することになる。

ａ　土坑

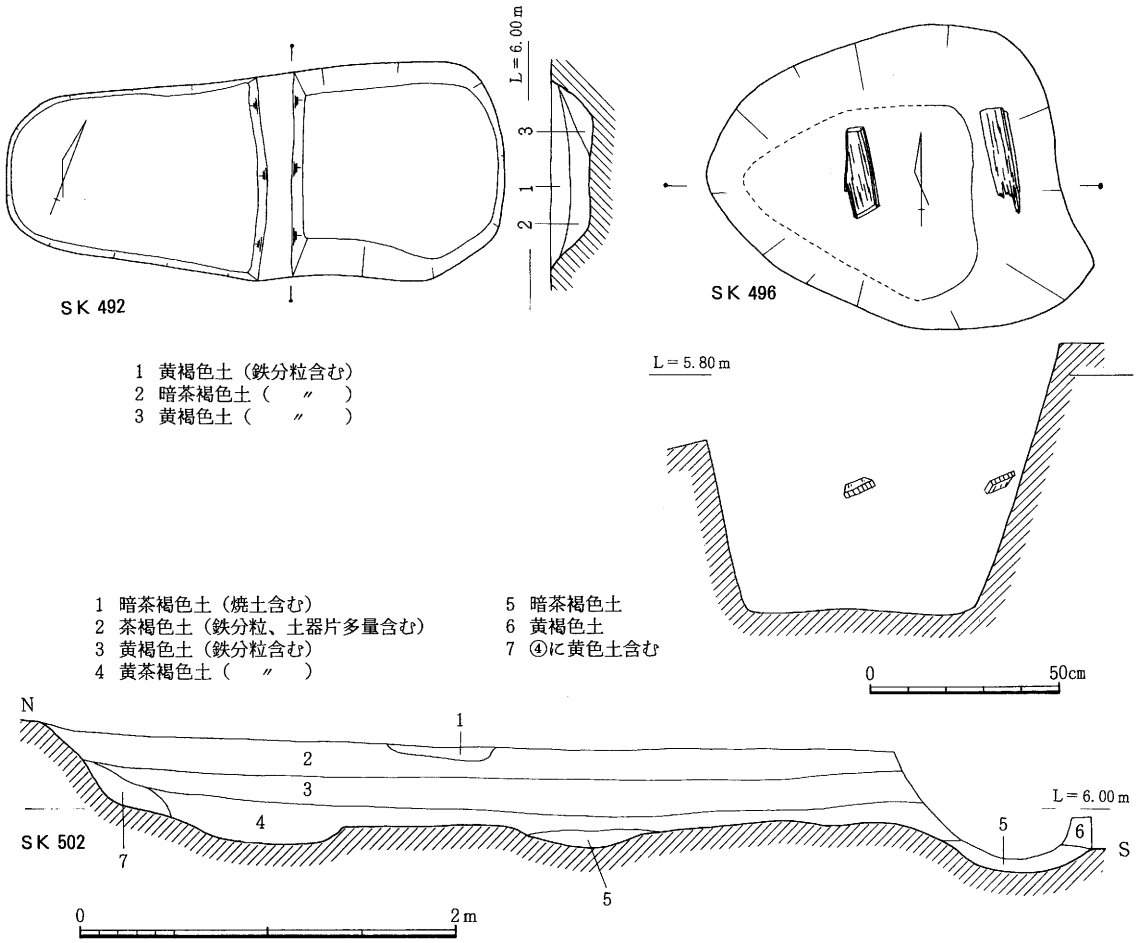
当該期に含めて考えた土坑は、総数29基がある。平安時代から江戸時代の遺構と同様に遺構の重複が著しく、出土遺物が少ないため所属時期を明確にし得ていないものも多い。

ＳＫ４９２（第51図）

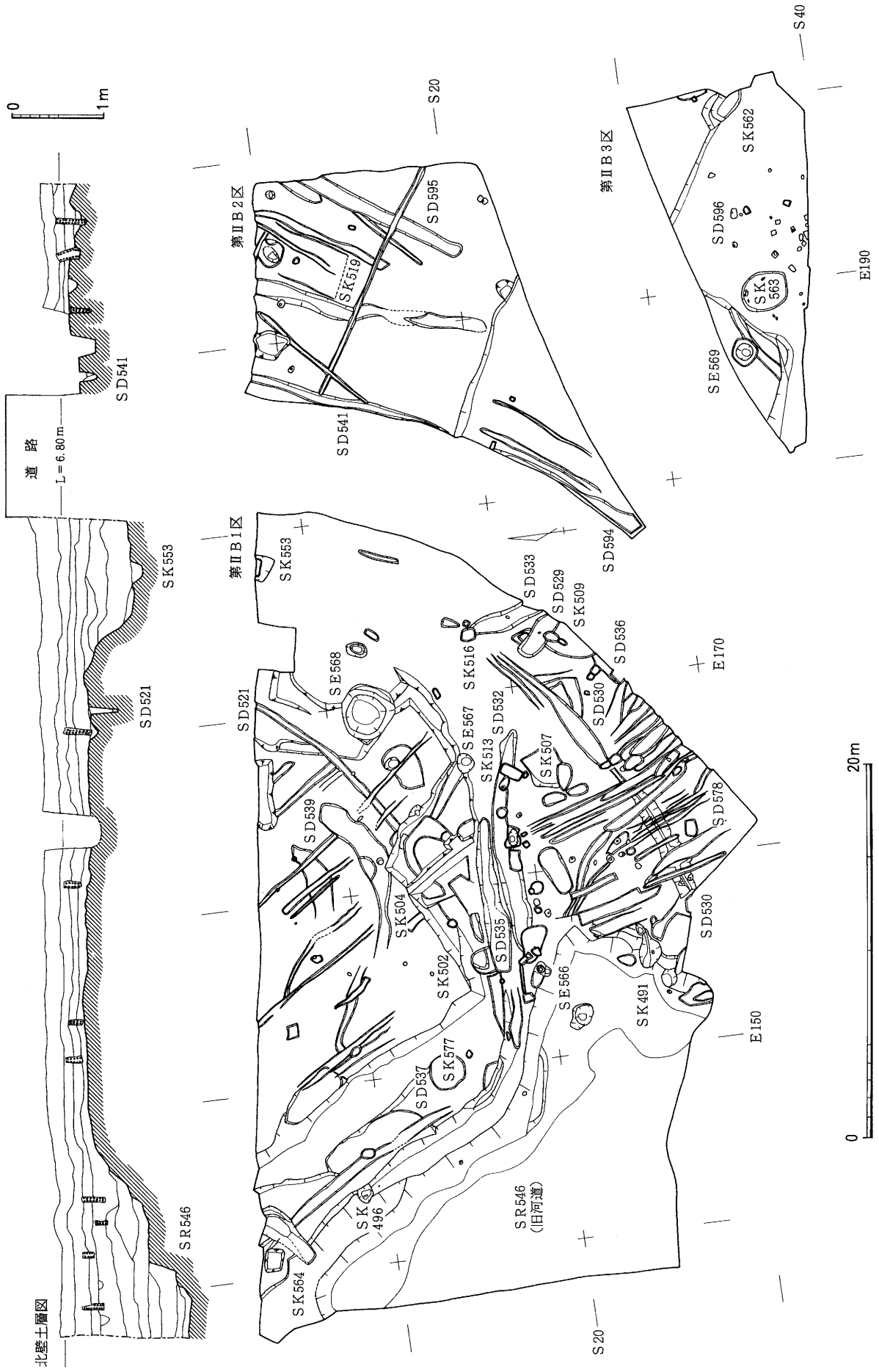
Ｂ１区の中央南寄りに位置する。長軸2.65ｍ、短軸1.08ｍ、深さ22㎝を測り、隅丸長方形を呈する。遺物は弥生土器の小片が極少量出土しているに過ぎない。

ＳＫ４９６（第51図）

Ｂ１区の北西隅でＳＲ546の肩部分に位置する。西側がＳＲ546に削られるため長軸1.04ｍ、短軸0.8ｍ、深さ46～74㎝を測り、不整形を呈する。土坑の中位で幅８㎝、長さ25㎝前後の板材が２枚並行して出土している。遺物は５世紀後半代の土師器甕・高坏、須恵器甕などが少量出土している。



第51図　第ⅡＢ区ＳＫ492・496・502実測図



第52図　第ⅡB区遺構全体図

ＳＫ５０２（第51図）

Ｂ１区の中央に位置し、他遺構との重複が著しい。長軸10.5ｍ以上、短軸4.8～6.9ｍ、深さ40～68㎝を測り、不整形方形を呈する。位置関係や平面形態からＳＲ546の抉り込んだ部分とも考えられる。遺物は上層から多く出土し、５世紀～６世紀前半代の土師器甕・高坏、須恵器坏身・坏蓋・有蓋高坏・壺などがある。

ＳＫ５０４

ＳＲ546の肩部分に位置し、ＳＤ537に削られる。長軸5.85ｍ、短軸3.5ｍ以上、深さ34㎝を測り、長楕円形を呈する。遺物はＳＲ546などと接合するものが多く、６世紀中頃～後半の土師器甕・堝、須恵器坏身・坏蓋・壺・甕などが少量出土している。

ＳＫ５１３

Ｂ１区の中央東寄りに位置し、ＳＤ532を削り込む。長軸1.24ｍ、短軸0.66ｍ、深さ７～11㎝を測り、長方形を呈する。遺物は土師器甕、須恵器甕・有蓋高坏が出土している。

ｂ　溝・旧河道

第ⅡＢ区の弥生・古墳時代の溝は、総数23条ほどを検出している。土坑と同様に出土遺物が少ないため所属時期を明確にし得ていないものも多い。

ＳＤ５２１（第53図）

Ｂ１区の中央北東寄りに位置し、ＳＫ502などに削られる。調査区の北側に存在する微高地の縁辺部に沿って北東から南西方向に緩やかに湾曲して延びる。幅0.3ｍ、深さ30㎝を測り、延長10.2ｍ分を検出した。遺物は弥生土器の小片が極僅かに出土しているに過ぎない。

ＳＤ５２４（第53図）

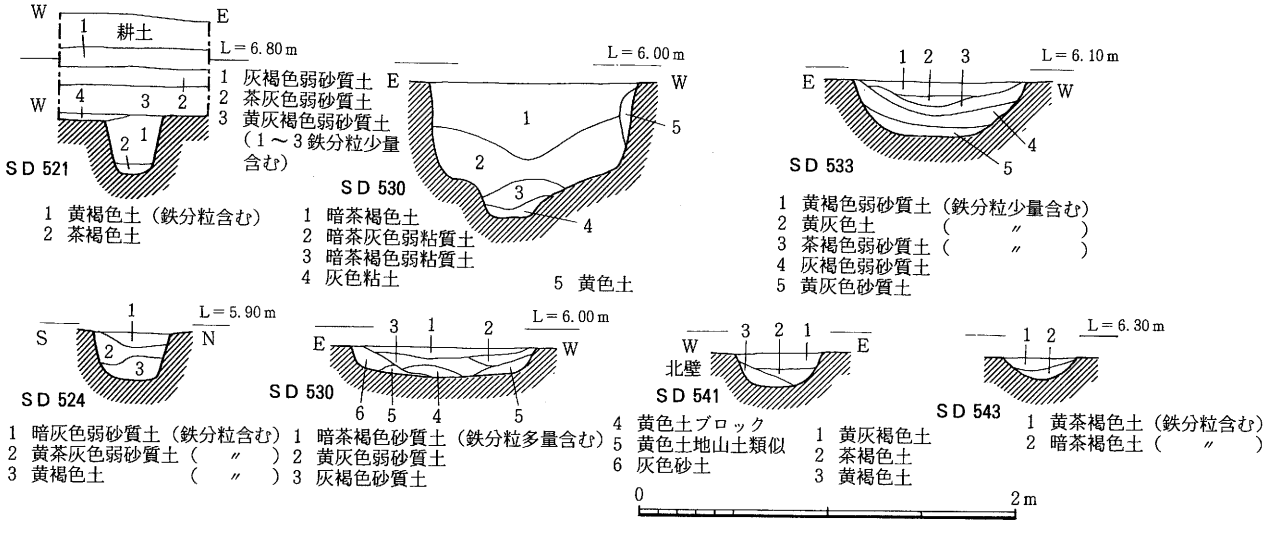
Ｂ１区の南東側に位置する十数条の溝の中の一条である。北西から南々東方向に緩やかに蛇行して延び、直線的に延びる他の溝と状況を異にする。遺物は庄内式併行期と考えられる壺底部が１点ある。

ＳＤ５２９

Ｂ１区の東端中央に位置する。遺物は土師器甕・高坏・鉢、須恵器小形壺などが少量出土している。

ＳＤ５３０（第53図）

Ｂ１区の南東端に位置し、南北方向の溝に削られる。ＳＤ521と類似する方向性を示し、北東から南々西



第53図　第ⅡＢ区弥生・古墳時代溝土層図

方向に緩やかに湾曲して延び、北東側で途切れる。南西側に比べ北東側で極端に浅くなり、幅0.98～1.25m、深さ16～70cmを測り、延長16.5m分を検出した。遺物は土師器甕・高坏などが少量出土している。

ＳＤ５３２

Ｂ１区の中央に位置し、ＳＫ513に削られる。東から西方向に緩やかに湾曲して延び、幅1.4～1.5m、深さ16～26cmを測り、延長12m分を検出した。遺物は土師器高坏、須恵器坏身・坏蓋などが少量出土している。

ＳＤ５３３（第53図）

Ｂ１区のＳＤ529の北東隣に位置し、ＳＫ516に削られる。南々東方向に延び、幅0.9～1.12m、深さ20～28cmを測り、延長４m分を検出した。遺物は土師器甕・高坏、須恵器坏身・壺などが少量出土している。

ＳＤ５３５

Ｂ１区のＳＤ532の北側に並行して位置し、東西方向に延びる。幅1.35～1.7m、深さ18～32cmを測り、延長8.4m分を検出した。遺物は６世紀中頃前後の土師器甕・高坏、須恵器坏身・壺などが少量出土している。

ＳＤ５４１（第53図）

Ｂ２区の北西端に位置し、ＳＤ521・530などと共に調査対象外となった現有の農道とほぼ同一の方向性を示していることは興味深い。遺物は６世紀中頃～７世紀中頃の須恵器坏身・坏などが少量出土している。

ＳＲ５４６（ＰＬ.26）

Ｂ１区の南西側全域に拡がる旧自然河道である。北東肩部分は三段の階段状になり、西側に落ち込んでいく。ＳＲ546の肩部分の範囲を何処までと見做すかは難しいが、凡そＳＫ502を含み込んだ範囲までとすることができる。南西隅の最も深い部分で2.5mを測り、試掘成果と合わせて判断すると西側に連れてさらに深くなる。遺物は弥生土器と共に５世紀～７世紀初頭の土師器甕・高坏、須恵器坏身・坏蓋・高坏・甕・横瓶、滑石製紡錘車などが出土している。これらのことからＳＲ546の最終埋没は７世紀初頭前後と考えられる。

（２）平安時代～江戸時代

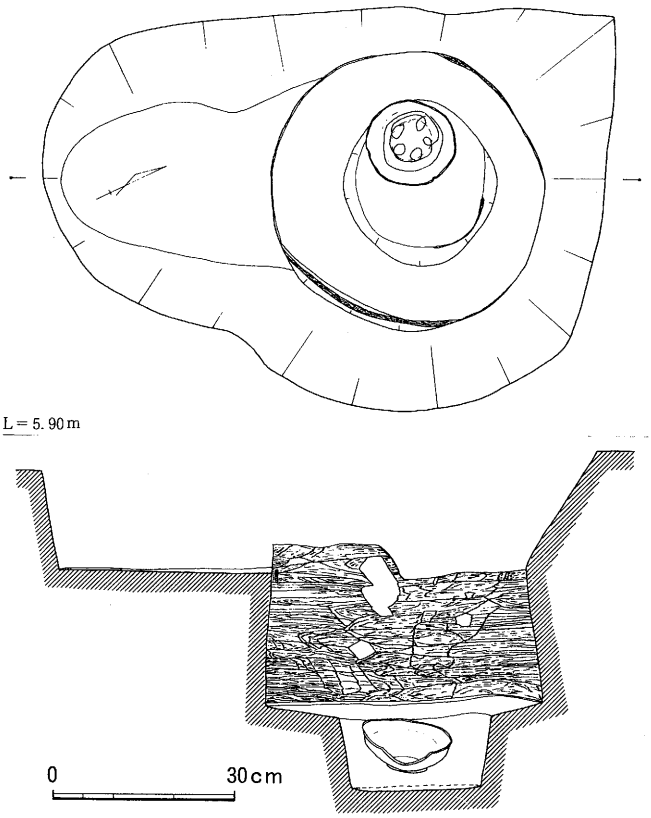
当該期の遺構の様相は、遺物が少なかったり、古い時代の土器が多く混入したりするため弥生・古墳時代よりも不鮮明である。東側ほど遺構密度は低い。

ａ　土坑

土坑は総数15基を検出した。大半は性格の不明な土坑である。

ＳＫ５６２

Ｂ３区の東端に位置する。一部が試掘坑により破壊されているが、長軸2.1m、短軸1.16m、深さ17～40cmを測る。遺物は土師器小皿、丸瓦・平瓦、鉄滓などが少量出土している。



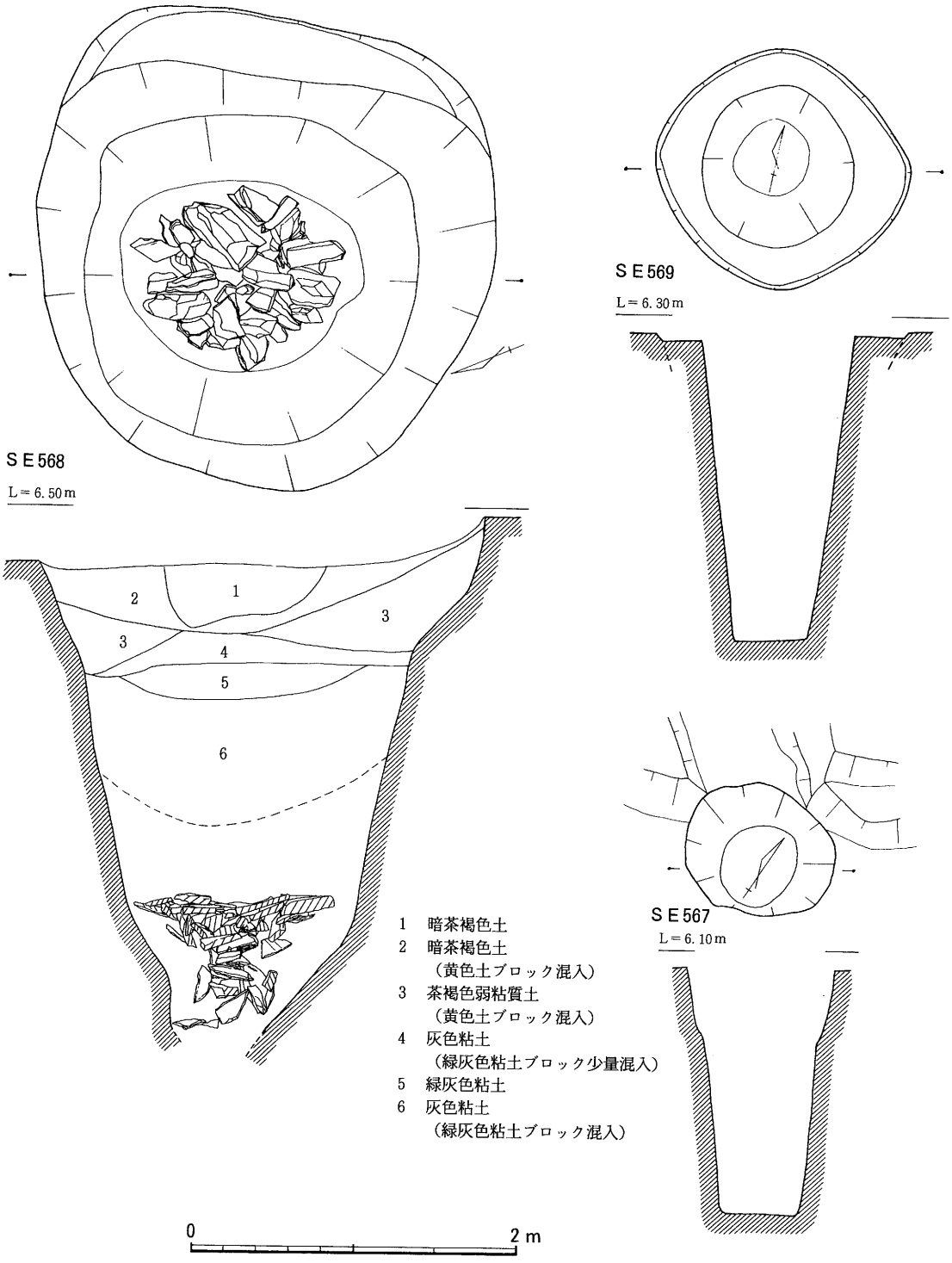
第54図　第ⅡＢ区ＳＥ566実測図

ｂ　井戸

鎌倉時代～室町時代にかけての井戸を３基、水溜と考えられる遺構を１基検出した。井戸は石組のもの１基、素掘り２基がある。第ＩＡ区と同様に、当該期の井戸に伴う建物は調査区外北側に考えられよう。

ＳＥ５６６（第54図、ＰＬ.27）

Ｂ１区の中央南寄りでＳＲ546の東肩に位置する。土坑の北西側に偏して底板を抜いた木製曲物を据付け、その中心部を直径25㎝、深さ12㎝に一段掘り下げている。掘り下げた穴の西側に偏して瓦器椀が置かれていた。基底部で標高約5.3ｍを測る。井戸の略称を与えたが、他の井戸の底面の深さに比べて極端に浅いこと



第55図　第ⅡＢ区ＳＥ567・568・569実測図

から湧水は考えられず、ＳＲ546からの溜水に関連する施設と考えられる。遺物は瓦器椀１点のみである。

ＳＥ５６７（第55図、ＰＬ.27）

Ｂ１区の中央東寄りでＳＫ502の東肩に位置し、ＳＤ526を削り込む。井側内は上部でやや膨らむが、ほぼ直線的に立ち上がり直径0.80×0.92ｍ、深さ1.52ｍを測る。底面は標高約4.5ｍを測る。遺物は埋土下層～上層にかけて余り変化がなく、14世紀初頭頃の土師器皿・土釜、瓦器椀、中国製青磁碗などが出土している。

ＳＥ５６８（第55図、ＰＬ.27）

Ｂ１区の北東側に位置する石組の井戸である。掘り込みは検出面で直径2.88×3.04ｍを測り、やや歪な円形を呈する。断面形はラッパ状に上に開き、深さ3.35ｍ以上を測る。埋土下部で結晶片岩の割石が崩れた状態で出土している。遺物は鎌倉時代の土器と共に14世紀中頃以後の土師器皿・土釜などが出土している。出土遺物から中層埋没時期は14世紀中頃～15世紀とみられ、当然、機能していた時期は遡る可能性がある。

ＳＥ５６９（第55図、ＰＬ.27）

Ｂ３区の西端に位置し、ＳＤ543を削り込む。井側内は上部でやや膨らむが、ほぼ直線的に立ち上がり直径0.92×1.0ｍ、深さ1.90ｍを測り、ほぼ円形を呈する。底面は平坦で標高約4.3ｍを測る。掘形は不明である。遺物は16世紀代の土師器小皿が１点出土しているに過ぎない。

ｃ　溝（第56図）

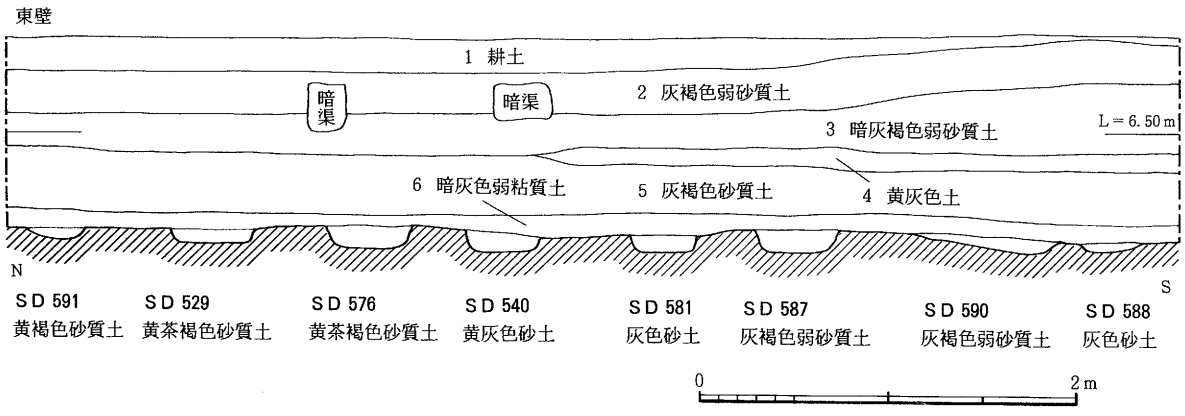
第ⅡＢ区の当該期の溝は総数26条ほどを検出しているが、所属時期を明確にし得ていないものも多い。

ＳＤ５７８　Ｂ１区の南東隅の溝群の中に位置する。遺物は土師器皿・土釜、瓦器椀などが出土している。

ＳＤ５８０　Ｂ１区の南東隅の溝群の西端に位置し、南側でＳＤ585に繋がる。溝群は凡そ北々西から南々東方向に延び、幅や深さが類似することから耕作に伴うものと考えられる。遺物は土師器皿・土釜、瓦器椀などがある。

ＳＤ５９４　Ｂ２区の南西端に位置する。調査区の端で検出したため全容は不明であるが、延長９ｍ分を検出した。遺物は６世紀中頃の須恵器と共に鎌倉時代の瓦器椀などが出土している。溝の位置関係からはＳＤ541に繋がるものと考えられるが、出土遺物の様相が異なることから別の遺構と判断した。

ＳＤ５９６　Ｂ３区の大半を占める位置にあり、ＳＫ563・柱穴などに削り込まれる。検出状況から南側に向かって下降する地形的な落ちと考えられる。遺物は古い時期のものと共に15世紀後半以後の土師器皿・土釜、瓦質土釜・火舎、備前焼、常滑焼、中国製青磁・白磁など小片が主体に出土している。



第56図　第ⅡＢ区平安時代後期～室町時代溝土層図

第３節　第Ⅲ区の検出遺構

１　第ⅢＣ区

（１）弥生・古墳時代（第57図、ＰＬ.28・30）

第Ⅲ区は調査区の東西両側に低湿地ないし旧自然河道が存在し、一見、島状の微高地上に位置する。弥生・古墳時代の検出した遺構には竪穴住居・掘立柱建物・木棺墓・土壙墓・壺棺墓・土坑・溝などがある。第Ⅲ区では第Ⅱ区とは異なり、集落は弥生時代後期中葉から庄内式併行期まで続き継続幅が短い。

ａ　竪穴住居（表７）

第Ⅲ区において竪穴住居は、調査区両端の低い範囲を省いたＣ２区からＣ５区で26棟検出した。竪穴住居の内訳は円形住居８棟、隅丸方形住居３棟、方形住居５棟、隅丸長方形住居２棟、長方形住居８棟である。これらの竪穴住居は第ⅡＡ区同様、全容を確認できたものは数少ない。

ＳＩ６０１（第58図、ＰＬ.31）

Ｃ３区の南西隅に位置し、ＳＤ705・710・713などに削られている。平面規模は東西径7.00ｍを測り、中央に炉が設けられた円形の竪穴住居である。壁の残存高は30～58㎝を測り、やや斜めに立ち上がる。炉は長軸80㎝、短軸68㎝、深さ40㎝を測り円形を呈する。炉の周囲に幅13～34㎝、高さ２～６㎝の炉堤が巡らされ、北西側の一部が途切れている。炉の埋土は大きく３層に分かれ、上層（第19層）と下層（第22層）に炭・焼土が堆積していた。主柱穴は６本で、柱間は2.40～2.72ｍと比較的平均している。主柱穴間の外側には４箇所の分割型のベッド状遺構が盛土で構築されている。ベッド状遺構は平均長2.25ｍ、平均幅0.94ｍ、面積2.0～2.4㎡、床面からの高さ12～16㎝を測る。壁溝は壁とベッド状遺構の間に設けられ、北西側では長さ30～54㎝、幅３～５㎝、深さ３～13㎝の細切れ状の壁溝が認められる。この状況は壁に沿って板材が埋め込まれていた痕跡と推定できるものである。床面は炉の周囲約１～1.6ｍにかけて硬く踏み締められ、多量の炭化材と焼土が認められた。遺物は炉の西側床面に集中し、台石と共に広口長頸壺・甕・鉢・高坏が、埋土から小形壺・高坏などが出土している。出土土器からＳＩ601は弥生時代後期中葉から後葉と考えられる。

ＳＩ６０２ａ（第59図、ＰＬ.32）

検出状況では、ＳＩ602ｂにベッド状遺構が構築されていない状態の住居をＳＩ602ａと判断した。平面規模、柱穴・炉の位置は基本的にＳＩ602ｂと重複する。ＳＩ602ｂより一時期先行すると考えられる。

ＳＩ６０２ｂ（第59図）

調査区の東半北端に位置し、南側はＳＩ614とＳＫ628に削られている。平面規模は直径9.80×9.82ｍ、面積は第ⅢＣ区で最大の75.5㎡を測る円形の竪穴住居である。炉は中央やや東寄りに設けられ、長軸139㎝、短軸117㎝、深さ86㎝を測り二段掘りになる。炉の北側に幅18～32㎝、高さ２～５㎝の炉堤が半周巡らされ、西側には掻き出し部と思われる舌状の浅い凹みが取り付いている。炉の埋土は砂質土と炭が互層を成して３重に堆積していた。主柱穴は７本で、深さ12～68㎝と極端なバラつきがみられ、柱間も2.4～3.3ｍと不揃いである。また、炉の北西側と南東側に２本の柱穴（Ｐ８・９）が取り付く。壁の内側には、幅0.7～1.0ｍ、高さ16～19㎝のベッド状遺構が構築されている。遺物は柱穴から甕・高坏が、床面直上から高坏が、埋土から広口壺・長頸壺・高坏・甕・甑・器台などが出土している。埋土の遺物は比較的小片が多い。出土土器からＳＩ602は弥生時代後期後葉と考えられる。なお、ベッド状遺構と埋土下層から布留式併行期古相の土器が数点出土している（第208図）が、他遺構との重複が多いことから別遺構からの混入と判断した。

ＳＩ６０３ａ（第60図、ＰＬ.32）

ＳＩ603ｂの拡張によって殆ど削平された方形の竪穴住居で、平面規模は長辺3.48ｍ、短辺3.37ｍを測る。主柱穴は当期の床面で検出し、直径11～35㎝、深さ３～11㎝を測り非常に浅い。壁溝は西隅が途切れ、一部ＳＩ603ｂの壁溝に重複して、幅12～18㎝、深さ２～５㎝を測る。遺物は弥生土器の小片が微量である。

ＳＩ６０３ｂ（第60図、ＰＬ.32）

Ｃ２区の南東隅に位置し、ＳＤ684・686・736などに削られている。平面規模は長辺4.70ｍ、短辺4.02ｍを測り隅丸長方形を呈する。壁の残存高は42～69㎝を測り、やや斜めに立ち上がる。炉は中央からやや壁際に寄った位置に設けられ、直径54×55㎝、深さ14㎝を測る。炉の下層には炭層に近い埋土（第32層）が堆積していた。また、炉の南西側には浅い窪みになって焼土の範囲が認められる。南東壁のやや内側には楕円形の貯蔵穴が設けられ、長軸63㎝、短軸45㎝、深さ15㎝を測る。壁溝は一部で途切れるが、幅４～６㎝、深さ３～５㎝を測る。遺物は床面直上から鉢・甕が、埋土最下層から小形壺・鉢などが出土している。

ＳＩ６０４（第60図、ＰＬ.32）

調査区のほぼ中央に位置する長方形の竪穴住居である。平面規模は長軸3.76ｍ、短軸2.88ｍ、壁の残存高は20～30㎝を測る。柱穴は住居の東西外側に存在し、計６箇所で検出した。ほぼ一直線状に南北に並び、直径14～20㎝、深さ４～９㎝を測る。床面のほぼ中央に直径50×52㎝、深さ６㎝の炉が設けられ、炭を多量に含む埋土（第７層）が堆積していた。壁溝は南側の一部を除いて認められ、この途切れた部分に梯子掛けと想定される直径10㎝、深さ９～13㎝の小柱穴が２箇所存在する。遺物は埋土から弥生時代後期後葉の壺が僅かに出土しているに過ぎない。

ＳＩ６０５（第61図、ＰＬ.33）

調査区のほぼ中央南端に位置する円形の竪穴住居である。平面規模は東西径6.98ｍ、壁の残存高は32～42㎝を測り、やや斜めに立ち上がる。中央に直径97×98㎝、深さ38㎝の炉が設けられ、円形を呈する。炉の周囲に幅20～28㎝、高さ１～３㎝の炉堤が巡らされ、北西側の一部が途切れている。炉の埋土は砂質土と炭が互層を成して２重に堆積していた。主柱穴は５箇所で検出でき、柱間は1.92～3.12ｍとバラつきが認められる。主柱穴間の外側には４箇所の分割型のベッド状遺構が構築されている。ベッド状遺構は平均長2.41ｍ、平均幅0.92ｍ、面積2.0～2.5㎡、床面からの高さ７～10㎝を測る。壁溝は壁とベッド状遺構の間に設けられ全周し、幅３～17㎝、深さ８～10㎝を測る。住居の埋土下層（第５層）には炭と焼土が認められる。遺物は床面直上から弥生時代後期後葉の壺・高坏が、埋土上層から庄内式併行期の壺などが出土している。

ＳＩ６０６（第59図、ＰＬ.35）

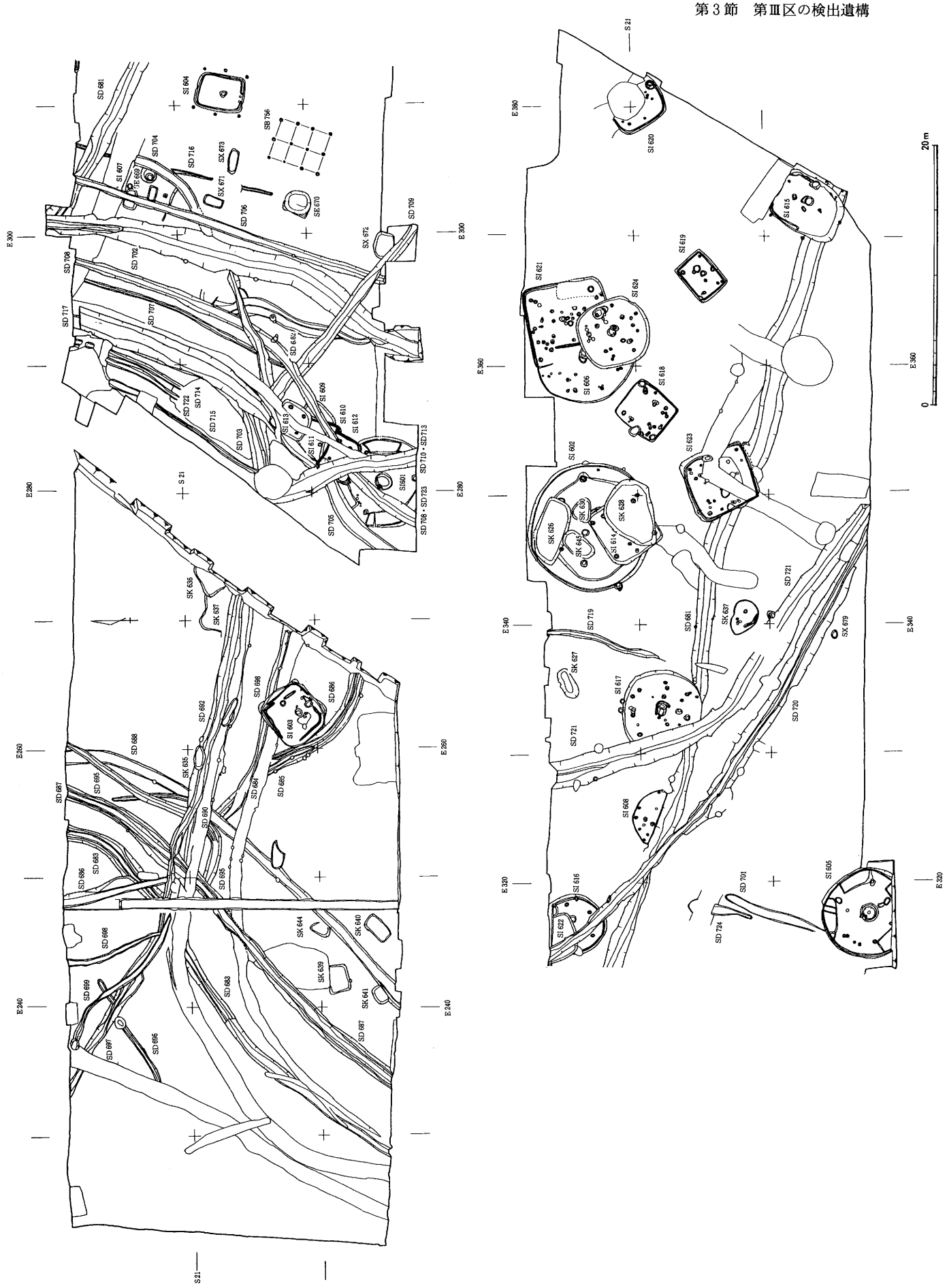
調査区の東半北端に位置し、ＳＩ621・624に削られている。平面規模は長径7.72ｍ、短径7.46ｍを測りやや歪である。壁の残存高は34～38㎝を測り、やや斜めに立ち上がる。住居のほぼ中央で円形の炉Ａと楕円形の炉Ｂを確認した。炉Ａには炭層（第13層）、炭を多量に含む埋土（第10・12層）が堆積していた。主柱穴は10本で、直径12～25㎝、深さ21～44㎝（Ｐ４は４㎝のためＰ23の34㎝を考えるべきか）を測る。壁溝は存在しない。遺物は埋土から弥生時代後期後葉から末の二重口縁壺・鉢・高坏などが少量出土している。

ＳＩ６０７

ＳＩ604の北西側に位置し、ＳＤ702・704・706に削られる。東西4.30ｍ以上、南北3.82ｍの長方形の竪穴住居と考えられるが、不明な部分が多い。遺物は弥生時代後期末から庄内式併行期の土器が微量ある。

ＳＩ６０８

大部分がＳＤ681・720に削平されている。東西径4.28ｍを測る円形の竪穴住居である。壁の残存高は11～



第57図　第ⅢＣ区弥生・古墳時代主要遺構全体図

15cmを測り、周囲に壁溝は認められない。炉の有無は不明である。主柱穴は壁際に近い位置で5箇所検出している。遺物は埋土から微量の弥生土器が出土している。

ＳＩ６０９

ＳＩ601の北東側に位置し、遺構の重複が著しくＳＩ610・613・ＳＤ708に削られる。東西1.44ｍ以上、南北2.68ｍを測る方形の竪穴住居である。壁の残存高は18～20cmを測り、周囲に壁溝は認められない。

ＳＩ６１０

ＳＩ609に重複して位置し、ＳＩ612・613・ＳＤ705・708に削られる。東西2.48ｍ以上、南北3.30ｍ以上を測る長方形の竪穴住居である。壁の残存高は14cm、壁溝は幅10cm、深さ4cmを測る。

ＳＩ６１１

ＳＩ601の北東側に重複して位置し、ＳＩ612・ＳＤ705・708・713に削られる。長方形の竪穴住居で、東西3.24ｍ、南北2.60ｍ、壁の残存高20～23cmを測る。床面での諸施設は存在しない。

ＳＩ６１２（ＰＬ.33）

殆どがＳＩ611に重複して位置し、ＳＩ610を削り込む。東西3.38ｍ、南北2.90ｍを測る長方形の竪穴住居である。壁溝は幅8～10cm、深さ3～6cmを測り全周する。北隅にやや歪な楕円形の貯蔵穴が存在する。

ＳＩ６１３（ＰＬ.33）

ＳＩ609・610を削り込む。東西2.48ｍ、南北2.78ｍを測る長方形気味のやや歪な竪穴住居である。主柱穴は4本で、壁溝は存在しない。壁の残存高は9～26cmを測り、斜めに立ち上がる。ＳＩ601とＳＩ609～613の関係は、後者は遺物が非常に少なく遺構の重複関係でみるしかない。弥生時代後期後葉～末の中で、古い段階からＳＩ601→611→612、ＳＩ609→610→612、ＳＩ609→610→613の変遷を見ることができる。

ＳＩ６１４（第61図）

ＳＩ614はＳＩ602・ＳＫ628と重複し、南東側の一部が削平されている。平面規模は長辺4.84ｍ、短辺4.72ｍを測る隅丸方形の竪穴住居である。炉は検出できなかった。主柱穴は4本で、深さ20cm前後を測る。壁の残存高は55～62cmを測り、壁溝は認められない。遺物は住居の埋土から広口壺・短頸壺・甕・大形鉢など少量が出土している。出土土器からＳＩ614は弥生時代後期後葉と考えられる。

ＳＩ６１５（第62図、ＰＬ.34）

調査区の東端南寄りに位置する小判形の竪穴住居で、ＳＤ681より新しい。平面規模は長軸5.36ｍ以上、短軸4.30ｍを測る。壁の残存高は27～30cmで、西壁の北半部と東壁内側に沿って幅14～30cm、深さ2～4cmの浅い壁溝が巡らされる。壁の立ち上がりは全体に緩やかで、特に南壁は約40°の緩傾斜である。主柱穴は2本で、長軸中央線上に両端の壁際からほぼ等距離に位置する。炉は床面の中央からやや東寄りに設けられ、北側に長さ35cm、深さ8cmほどの窪みが取り付き直径68×70cm、深さ16cmを測る。炉の東側の東壁際に南北80cm、東西68cm、深さ15cmの貯蔵穴が設けられている。住居の埋土は大きく3層に分かれ、下層は炭混じりの赤褐色の焼土で、床面に炭化した板状の建築部材がかなり遺存していた。埋土の状況から、火災によって廃絶したものと考えられる。遺物は比較的北半部に多く、炉から北西に1.5ｍほど離れた床面から高坏・壺・鉢などが、北西隅からほぼ完存する広口壺が出土している。土器の大半は器面の剥離が著しい状態である。

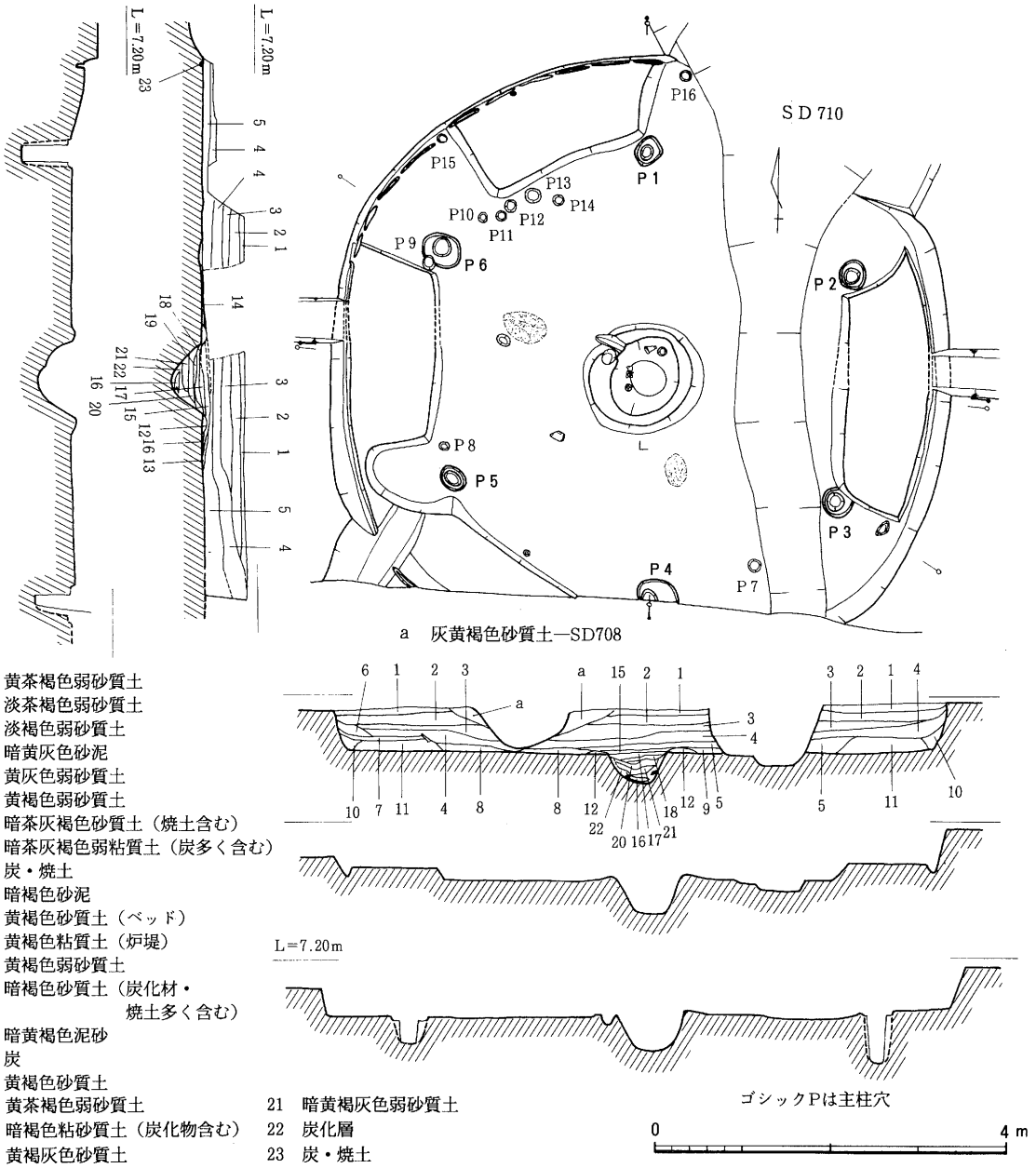
ＳＩ６１６（第62図、ＰＬ.34）

調査区の中央北端に位置し、一部がＳＩ622・ＳＤ720に削平された円形の竪穴住居である。平面規模は東西4.64ｍ、南北4.42ｍ以上を測る。壁の立ち上がりは緩やかで、残存高は15～20cmを測り、周囲に幅11～16cm、深さ4～6cmの壁溝が巡らされる。床面の中央からやや東寄りに炉が設けられ、長軸58cm、短軸54cm、深

さ14cmを測り隅丸方形を呈する。主柱穴は４箇所で検出でき、柱間が不揃いで全体に東側に片寄っている。遺物は住居の埋土から壺・甕・高坏の小片が少量であるが、出土土器から弥生時代後期後葉と考えられる。

ＳＩ６１７（第64図、ＰＬ.34）

平面規模は南北6.14ｍ、東西5.38ｍ以上を測る円形の竪穴住居で、西側をＳＤ721によって削平されている。主柱穴は周囲に７本巡り、柱間はＰ１～２・Ｐ６～９間が1.6ｍ、右回りＰ２～６間が1.8～2.1ｍ、Ｐ１～９間が2.6ｍと広くなる。また炉の両端に２本取り付く。壁の残存高は60～63cmを測り、壁溝は認められない。中央に二段掘りの炉が設けられ、長軸100cm、短軸70cm、深さ20cmを測り楕円形を呈する。炉の北東側に幅15～24cm、高さ１～６cmの炉堤が巡らされている。遺物は炉から広口壺が、床面直上や埋土から二重口縁壺・高坏・甕・器台などが出土している。出土土器からＳＩ617は弥生時代後期末頃と考えられる。なお、ＳＩ617はＳＤ681より新しいが、検出時点では一部逆転した掘り方をした部分がある。



1　黄茶褐色弱砂質土
2　淡茶褐色弱砂質土
3　淡褐色弱砂質土
4　暗黄灰色砂泥
5　黄灰色弱砂質土
6　黄褐色弱砂質土
7　暗茶灰褐色砂質土（焼土含む）
8　暗茶灰褐色弱粘質土（炭多く含む）
9　炭・焼土
10　暗褐色砂泥
11　黄褐色砂質土（ベッド）
12　黄褐色粘質土（炉堤）
13　黄褐色弱砂質土
14　暗褐色砂質土（炭化材・焼土多く含む）
15　暗黄褐色泥砂
16　炭
17　黄褐色砂質土
18　黄茶褐色弱砂質土
19　暗褐色粘砂質土（炭化物含む）
20　黄褐灰色砂質土
21　暗黄褐灰色弱砂質土
22　炭化層
23　炭・焼土

第58図　第ⅢＣ区ＳＩ601実測図

ＳＩ６１８（第63図、ＰＬ.34）

調査区の東半北寄りに位置する方形に近い長方形の竪穴住居である。平面規模は長辺3.87ｍ、短辺3.53ｍを測りやや小形である。床面において23箇所の柱穴状の掘り穴を検出したが、主柱穴は４本である。壁の残存高は11～22㎝を測り、南東壁と南西壁に沿って幅６～12㎝、深さ５～７㎝の壁溝が巡らされる。炉は認められず、西側の隅に長軸52㎝、短軸38㎝、深さ26㎝を測る楕円形の貯蔵穴が設けられている。また、東側の隅にも同様の土坑が認められるが、貯蔵穴かどうか定かでない。

ＳＩ６１９（第63図、ＰＬ.34）

調査区の東半寄りに位置する長方形の竪穴住居である。平面規模は長辺3.44ｍ、短辺2.72ｍで、４本の主柱穴をもつ。住居の遺存状況は良好で、壁の残存高は北東壁で53㎝、南西壁で47㎝を測る。住居の壁際には幅８～15㎝、深さ３～５㎝の壁溝が巡らされる。中央からやや南東寄りに直径44×48㎝、深さ８㎝の円形の浅い炉が設けられている。炉の北東側に直径52×54㎝、深さ13㎝の貯蔵穴状の土坑が設けられている。遺物は住居の埋土から二重口縁壺・広口壺・高坏・器台など小片が、貯蔵穴から高坏・甕などが出土している。

ＳＩ６２０（ＰＬ.35）

調査区の東端北寄りに位置する隅丸方形の竪穴住居である。ＳＩ620は平安時代のＳＤ885と江戸時代のＳＥ877で北東側が削られているため全容は不明である。平面規模は南北4.03ｍ、東西3.18ｍ以上、壁の残存高は43～53㎝を測る。壁際に沿って幅６～８㎝、深さ４㎝の壁溝が巡らされる。主柱穴は床面の南側で１本検出したのみである。南東壁の壁際中央付近に、長軸77㎝、短軸69㎝、深さ46㎝の二段掘りの貯蔵穴が設けられ、貯蔵穴の上から床面直上にかけての位置から甕・高坏が出土している。また、ＳＥ877の掘形からも、本来ＳＩ620の遺物と考えられるものが出土している。

ＳＩ６２１（第64図、ＰＬ.35）

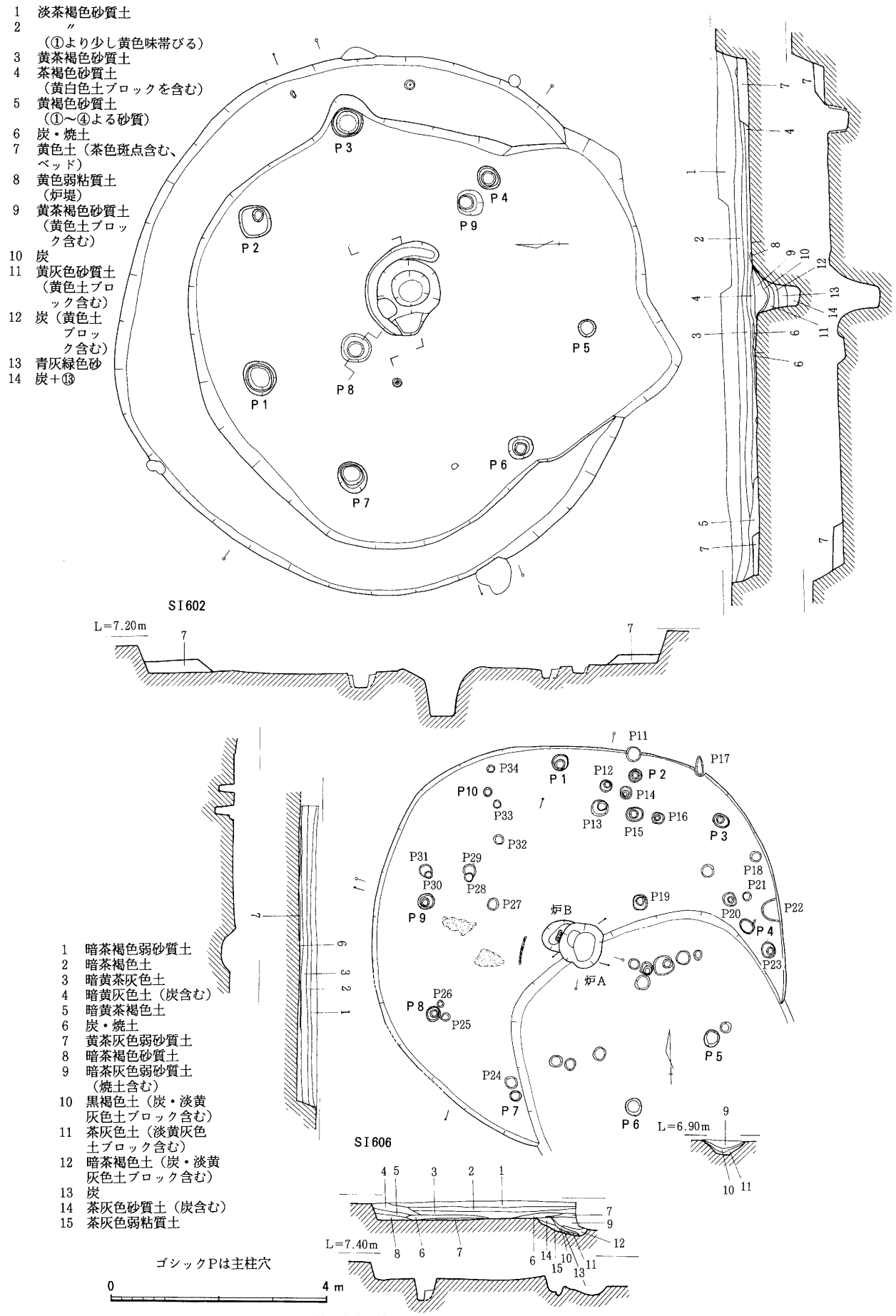
調査区の東半北寄りに位置し、ＳＩ606・624・時期不詳の土坑と重複する。平面規模は長辺6.44ｍ、短辺6.10ｍを測る大形の竪穴住居である。ＳＩ606よりＳＩ621が新しいが、埋土が酷似していたため一部重複部分の検出には至らなかった。床面において30箇所前後の柱穴状の掘り穴を検出したが、主柱穴は４本と考えられる。北東壁の内側に幅８～12㎝、深さ４～６㎝の壁溝が鍵状に巡らされる。住居のほぼ中央で円形の炉Ａと楕円形の炉Ｂ・Ｃを確認した。何れも深さ11～14㎝と浅く、炭混じりの焼土が堆積していた。炉の西側では、直径１ｍほどの範囲にわたり、床面が火熱で赤変している。床面の西側で、幅16㎝、深さ３～５㎝、延長1.9ｍ分の細溝が設けられ間仕切り溝と考えられる。出土土器などから弥生時代後期末と考えられる。

ＳＩ６２２

調査区の中央北端に位置し、ＳＤ720に削られる。東西3.50ｍ、南北2.26ｍ以上、壁の残存高６～21㎝を測る方形の竪穴住居である。遺物は弥生土器の小片が微量出土しているに過ぎない。

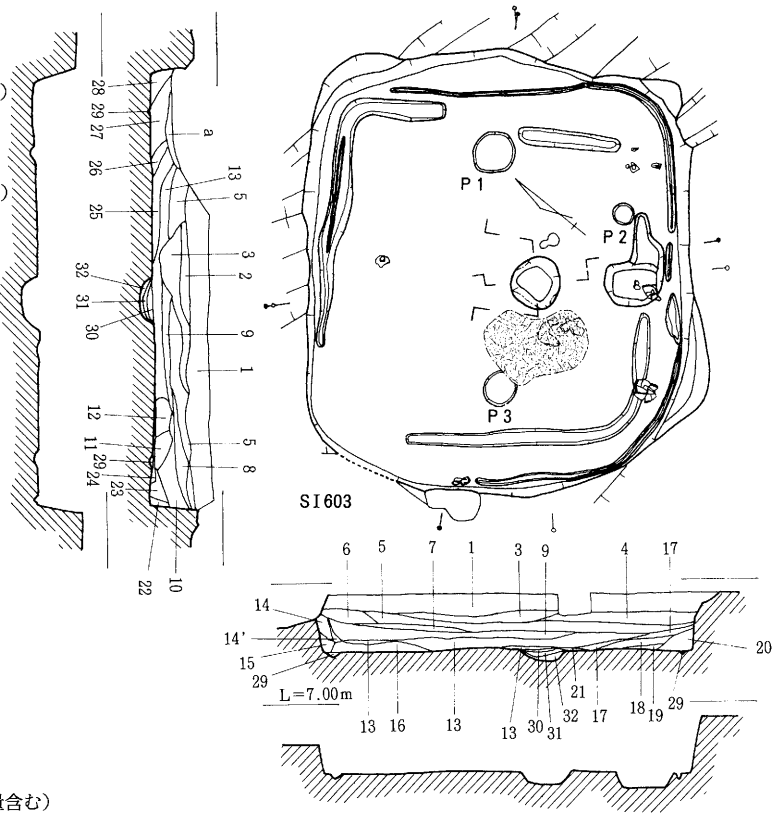
ＳＩ６２３（第65図、ＰＬ.35）

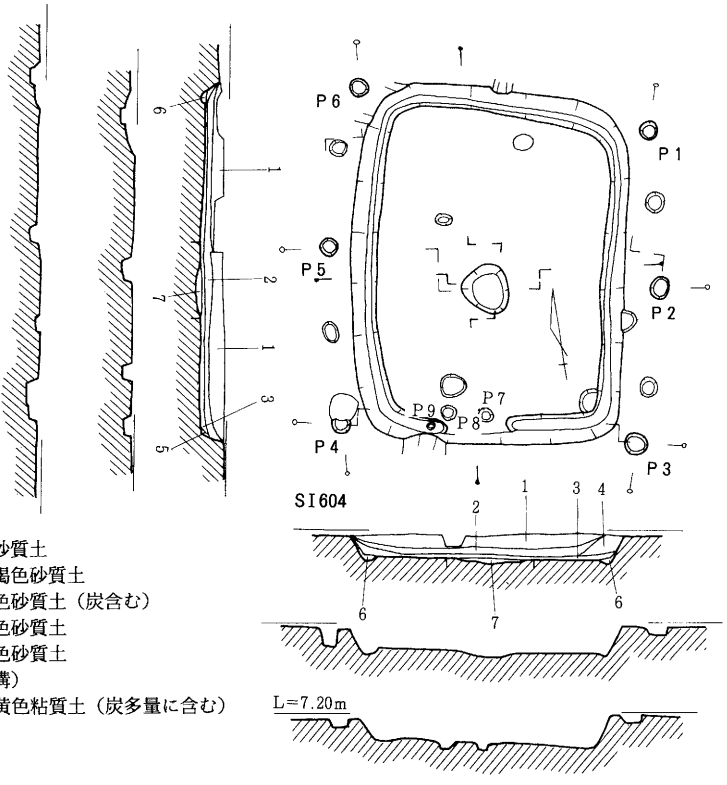
調査区の東中央に位置する方形の竪穴住居である。平面規模は長辺5.29ｍ、短辺5.12ｍ、壁の残存高は38～59㎝を測る。中央部分は奈良時代のＳＤ740によって削られ、炉の有無は不明である。壁際には幅18～26㎝、深さ５～６㎝の壁溝が巡らされる。東壁の内側中央に長軸76㎝、短軸50㎝、深さ25㎝の楕円形の貯蔵穴が設けられている。住居の内側には東南側にかけて幅0.8～1.1ｍ、高さ６㎝のベッド状遺構がＬ字状に構築されている。本来は、内側の主柱穴に沿って全周していた可能性が高い。主柱穴は、通常よりも外側の壁際の四隅に掘られた４本（Ｐ１～４）と、内側に４本並列したＰ５～８とがある。遺物は床面直上や埋土から広口壺・高坏・甕・鉢・器台などが、床面や壁溝から鉄鏃３点と鉄（素材）片１点などが出土している。



第59図　第ⅢＣ区ＳＩ602・606実測図

1　暗茶褐色弱砂質土（炭粒ブロック状に含む）
2　暗黄灰色弱砂質土
3　暗黄色弱砂質土（炭粒ブロック状に含む）
4　淡黄灰褐色弱砂質土（炭粒③より多い）
5　暗黄灰褐色弱砂質土（濃黄色土ブロック含む）
6　淡茶灰色弱砂質土（褐色粒少量）
7　暗茶灰色弱砂質土（上側に炭層）
8　暗黄灰褐色弱砂質土（炭粒少量含む）
9　黄灰色弱砂質土（褐色粒多量ベース土に類似）
10　淡茶黄色弱砂質土
11　暗茶褐色弱砂質土（炭粒多量含む）
12　暗黄茶褐色弱砂質土（　〃　）
13　淡黄灰色弱砂質土（炭粒少量含む）
14　茶褐色砂質土（褐色粒極多量）
14'　褐色砂質土
15　暗茶褐色砂質土
16　暗茶褐色弱砂質土
17　暗灰（褐）色弱粘質土（焼土含む）
18　暗黄灰色弱砂質土
19　暗茶褐色弱砂質土
（17～19：炭粒　極多量含む）
20　暗黄灰褐色弱砂質土
21　炭・焼土
22　暗灰褐色弱粘質土
23　暗黄色弱砂質土
24　黄色砂質土
25　黄灰褐色弱砂質土
26　暗灰褐色弱粘質土（炭粒含む）
27　濃黄色砂質土（灰褐色土ブロック含む）
28　明褐色砂質土
29　（壁溝）
30　暗黄色弱砂質土
31　暗黄色弱砂質土（灰色土ブロック・炭粒少量含む）
32　暗灰色粘質土（炭層に近い）



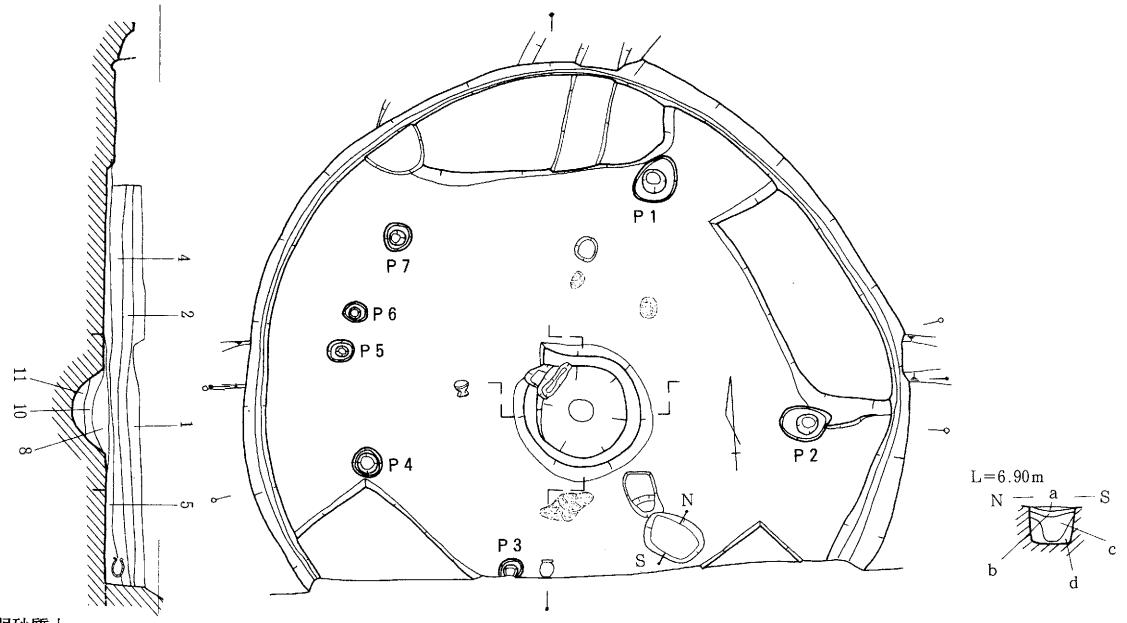


1　褐色砂質土
2　暗黄褐色砂質土
3　黄褐色砂質土（炭含む）
4　赤褐色砂質土
5　暗褐色砂質土
6　（壁溝）
7　暗灰黄色粘質土（炭多量に含む）

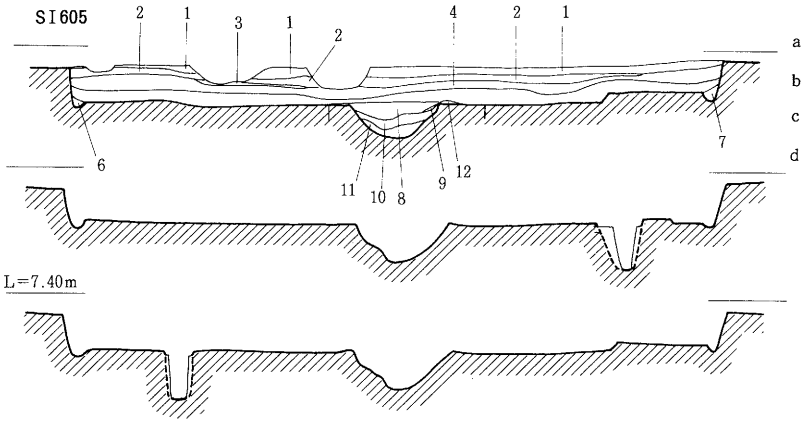
ゴシックPは主柱穴

0　4 m

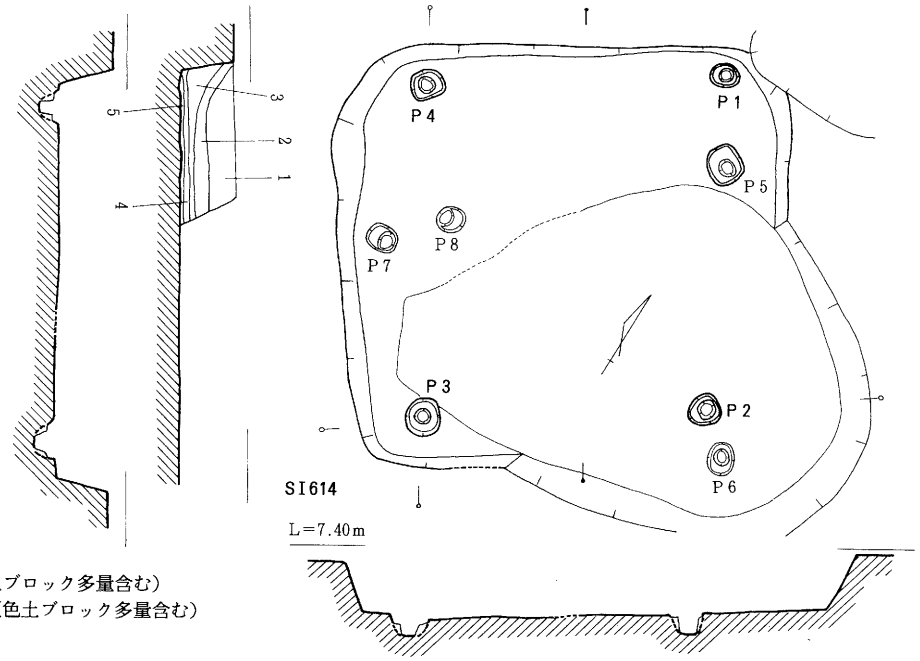
第60図　第Ⅲ C区ＳＩ603・604実測図



1　淡茶褐色弱砂質土
2　淡茶褐色土
3　黒褐色土（炭・焼土含む）
4　淡茶灰色土
5　淡黄色土（炭・焼土・茶灰色土小ブロック含む）
6　淡茶灰色弱砂質土
7　茶灰色弱砂質土（炭含む）
8　暗茶褐色砂質土（炭・黄色土ブロック少量含む）
9　炭
10　黄茶褐色砂質土（⑧に同じ）
11　黄茶色砂質土＋炭
12　菓茶褐色砂質土



a　茶褐色砂質土（炭極少量含む）
b　黄茶色砂質土（ⓐに同じ）
c　黄茶褐色砂質土（炭・焼土多量含む）
d　ⓑに類似

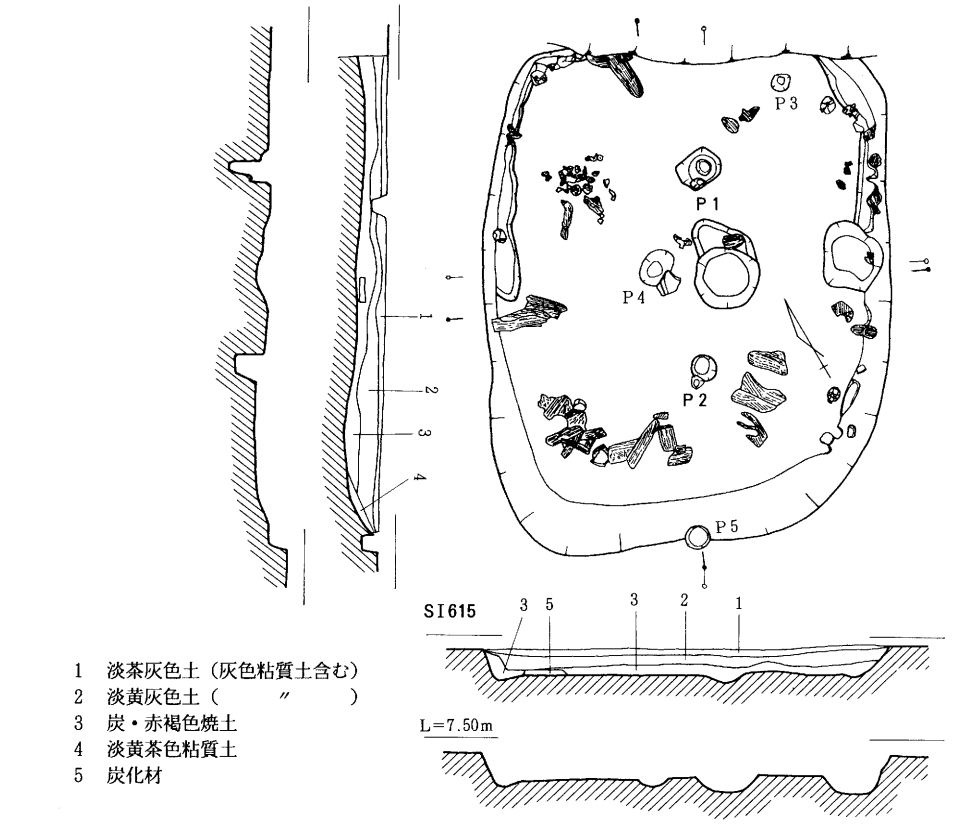


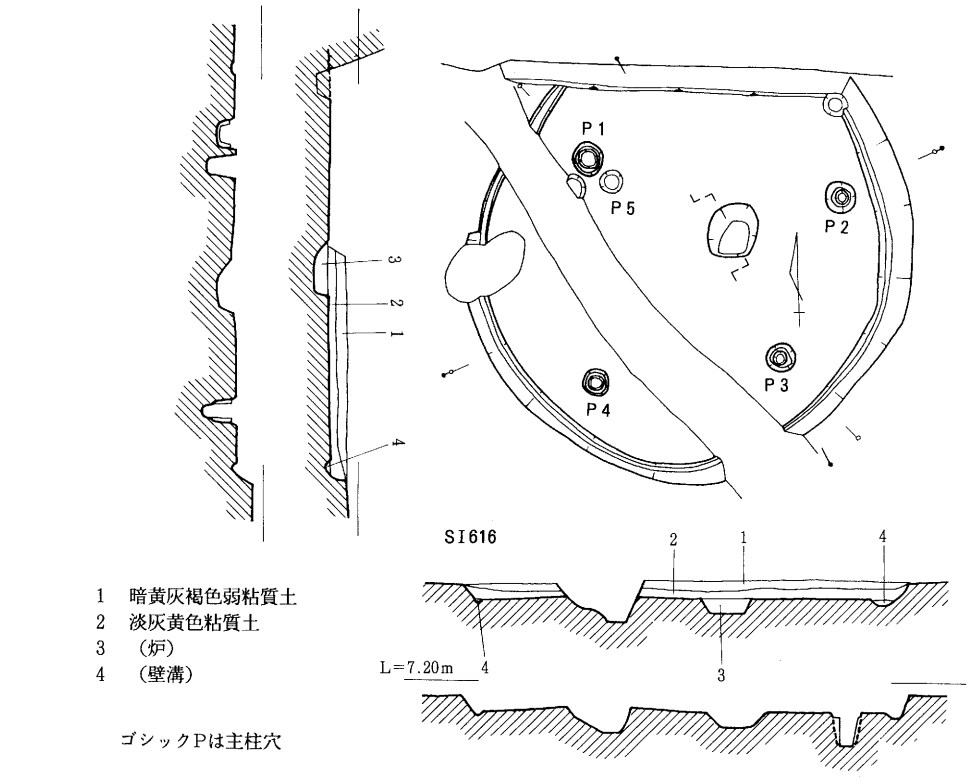
1　茶褐色砂質土
2　黄茶褐色砂質土
3　茶褐色砂質土（黄色土ブロック多量含む）
4　茶褐色弱粘質土（黄灰色土ブロック多量含む）
5　炭・焼土
①～④（炭微量含む）

ゴシックPは主柱穴

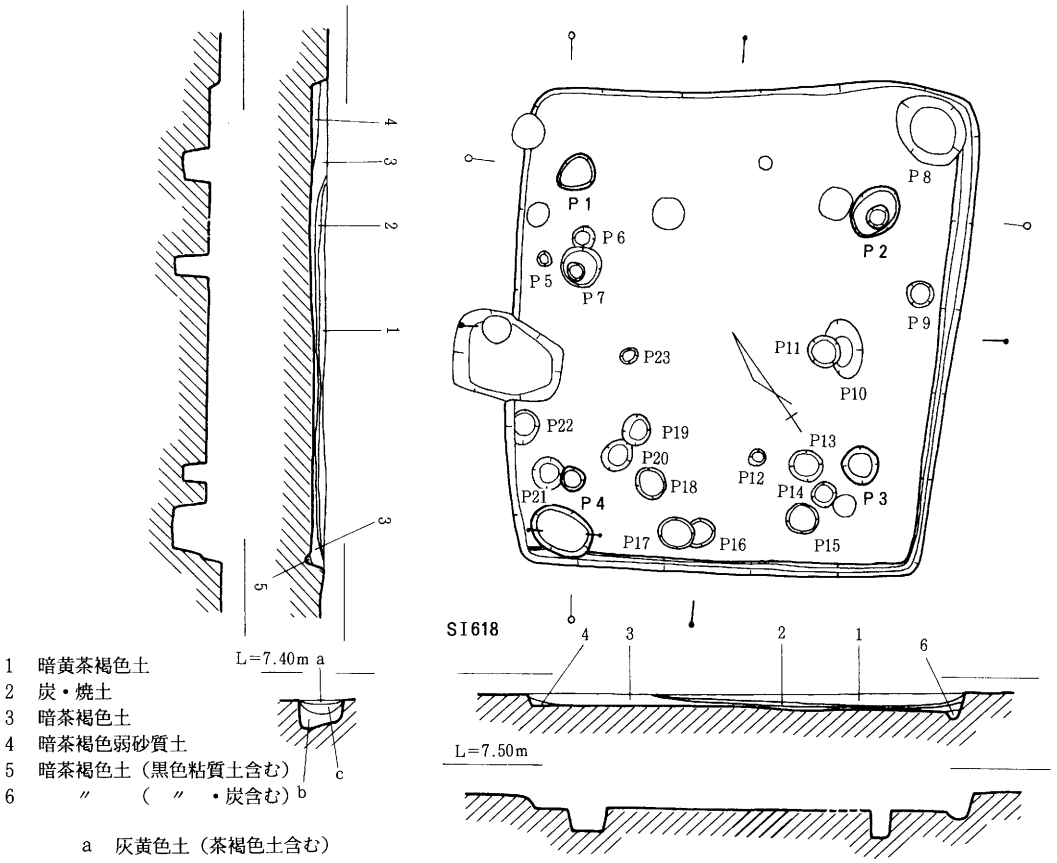
0　4 m

第61図　第ⅢＣ区ＳＩ605・614実測図



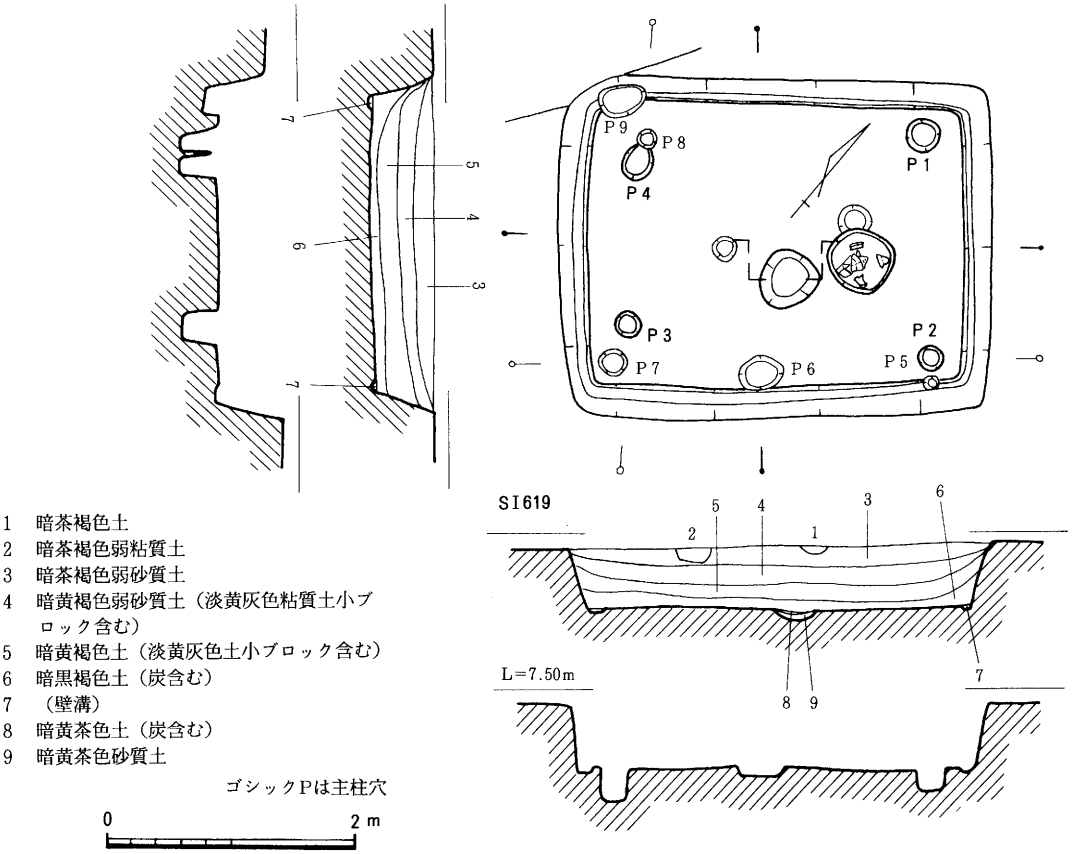


第62図　第Ⅲ C区ＳＩ615・616実測図



1　暗黄茶褐色土
2　炭・焼土
3　暗茶褐色土
4　暗茶褐色弱砂質土
5　暗茶褐色土（黒色粘質土含む）
6　〃　（〃・炭含む）

a　灰黄色土（茶褐色土含む）
b　淡灰黄色土
c　灰黄色土

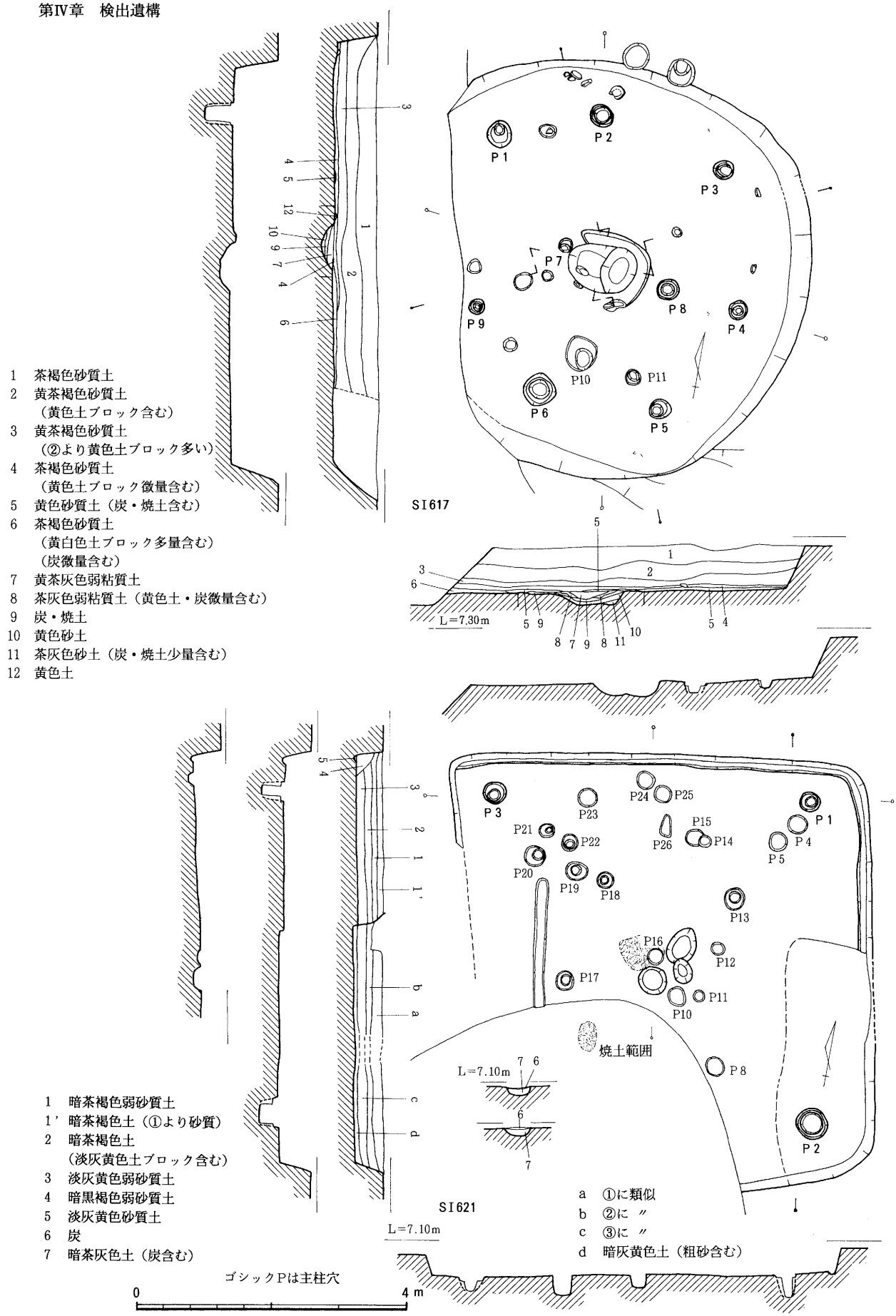


1　暗茶褐色土
2　暗茶褐色弱粘質土
3　暗茶褐色弱砂質土
4　暗黄褐色弱砂質土（淡黄灰色粘質土小ブロック含む）
5　暗黄褐色土（淡黄灰色土小ブロック含む）
6　暗黒褐色土（炭含む）
7　（壁溝）
8　暗黄茶色土（炭含む）
9　暗黄茶色砂質土

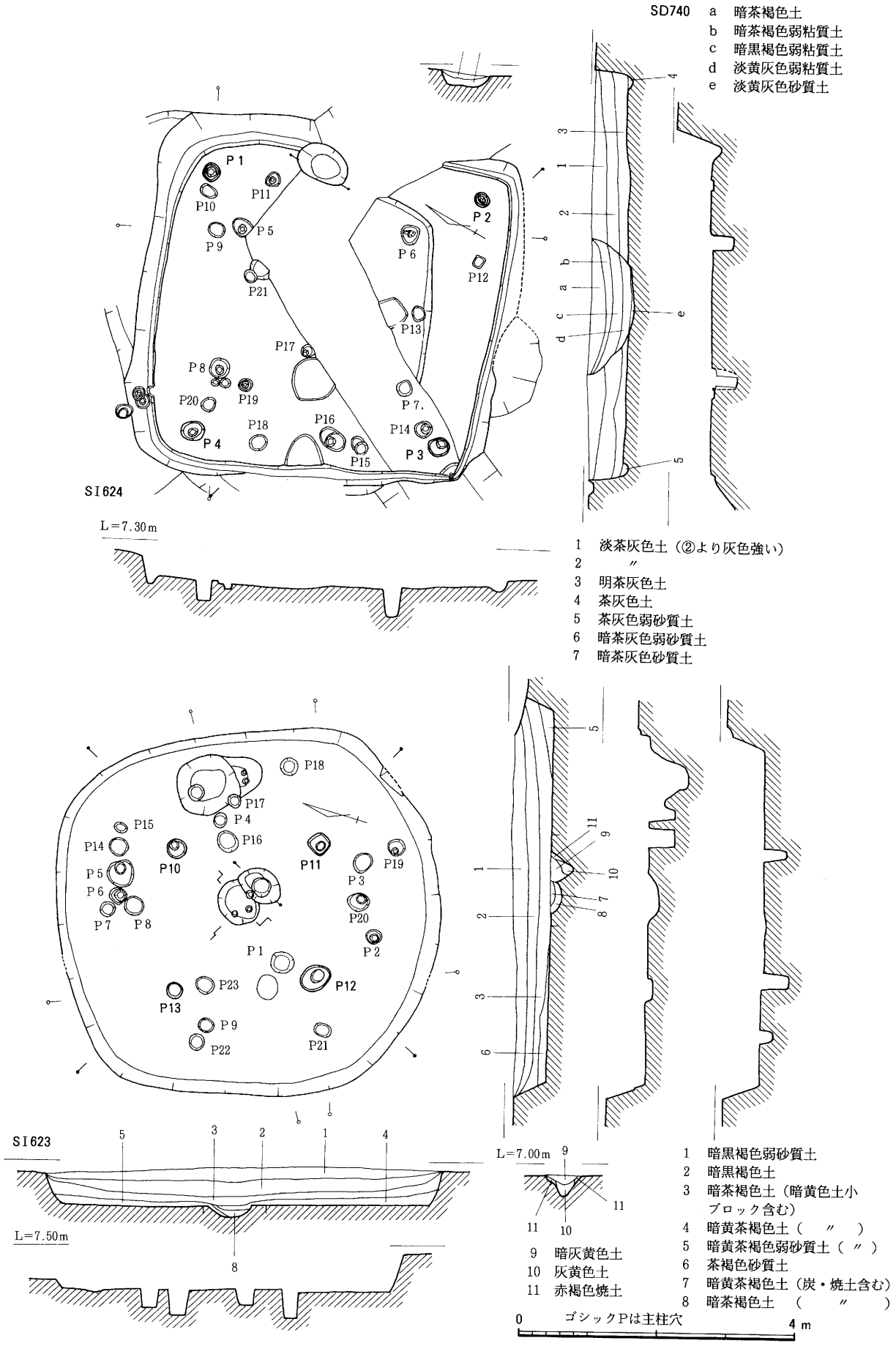
ゴシックPは主柱穴

0　2 m

第63図　第ⅢＣ区ＳＩ618・619実測図



第64図　第ⅢC区ＳＩ617・621実測図



第65図　第ⅢＣ区ＳＩ623・624実測図

竪穴住居	形	規模 東西×南北 (cm)	面積 (㎡)	壁高 (cm)	主柱数	柱穴 径 (cm)	柱穴 深 (cm)	壁溝 幅 (cm)	壁溝 深 (cm)	炉 形	炉 平面規模 (cm)	炉 深 (cm)	炉堤	カマド (cm)	貯蔵穴 形	貯蔵穴 平面規模 (cm)	貯蔵穴 深 (cm)	ベッド
ＳＩ 601	円	700×(618)	38.5	30～58	6	13～20	31～58	4～13	9～12	円	124×137	40	○					○
ＳＩ 602	円	980×982	75.5	48～68	9	14～34	11～69			円	117×139	86	○					○
ＳＩ 603 a	方	348×337	11.7	0	2	11～35	3～11	12～18	2～5									
b	隅丸長方	402×470	18.9	42～69	0			4～6	3～5	円	54×55	14	?		楕円	45×63	15	
ＳＩ 604	長方	288×376	10.8	20～30	6	14～20	4～9	12～20	4～8	円	50×52	6						
ＳＩ 605	円	698×(544)	38.2	32～42	(5)	10～15	21～57	3～17	8～10	円	97×98	38	○					○
ＳＩ 606	円	772×746	45.2	34～38	10	12～25	5～44			円	Ⓐ 78×83	26						
										楕円	Ⓑ(38)×59	34						
ＳＩ 607	長方	(430)×382	(16.4)	13～32	?													
ＳＩ 608	円	428×(186)	14.4	11～15	(5)	8～18	5～13											
ＳＩ 609	方	(144)×268	(3.9)	18～20	0													
ＳＩ 610	長方	(248×330)	(8.2)	14	0			10	4									
ＳＩ 611	長方	324×260	8.4	20～23	(1)	24～32	51											
ＳＩ 612	長方	338×290	9.8	21～24	(3)	14	28～29	8～10	3～6						楕円	80×112	57	
ＳＩ 613	方	248×278	6.9	9～26	4	11～14	15～21											
ＳＩ 614	隅丸	472×484	22.8	55～62	4	16～20	17～24											
ＳＩ 615	隅丸長方	430×536	23.0	27～33	2	12～22	26～41	14～30	2～4	円	70×68	16			楕円	68×80	15	
ＳＩ 616	円	464×(442)	16.9	15～20	(4)	11～16	18～35	11～16	4～6	円	54×58	14						
ＳＩ 617	円	(538)×614	29.6	60～63	(9)	10～18	12～54			楕円	100×70	20	○					
ＳＩ 618	長方	353×387	13.7	11～22	4	15～24	20～39	6～12	5～7						楕円	38×52	26	
ＳＩ 619	長方	272×344	9.4	47～53	4	15～22	10～33	8～15	3～5	円	44×48	8			円	52×54	13	
ＳＩ 620	方	(318)×403	(12.8)	43～53	(1)	16	32	6～8	4						円	69×77	46	
ＳＩ 621	方	610×644	39.3	33～41	(3)	20～33	21～33	8～12	4～6	円	Ⓐ 40×40	11						
										楕円	Ⓑ 40×56	13		炉Ⓒ楕円 28×38	14			
ＳＩ 622	方	350×(226)	(7.9)	6～21	?													
ＳＩ 623	方	529×512	27.1	38～59	8	7～24	7～40	18～26	5～6						楕円	50×76	25	○
ＳＩ 624	隅丸	526×552	22.8	46～61	4	12～20	29～53			円	Ⓐ 60×68	31			楕円	42×86	49	
										楕円	Ⓑ 50×64	32						

(　　)付は現存規模、柱穴は柱当り寸法

表７　第ⅢＣ区弥生・古墳時代竪穴住居規模一覧

ＳＩ６２４（第65図、ＰＬ.35）

ＳＩ606・ＳＩ621と重複する中で最も新しく、南側がやや円形に近い隅丸方形の竪穴住居である。平面規模は長軸5.52ｍ、短軸5.26ｍを測り、壁の残存高は46～61㎝を測る。床面の中央に炉が設けられ、円形の炉Ａとこれを切り込むように東側に接して炉Ｂが設けられ、二段掘りで楕円形を呈する。貯蔵穴は床面の北東側に設けられている。遺物は住居の埋土や床面直上から二重口縁壺・短頸壺・高坏・器台・鉢・甕など小片が多数出土している。出土土器からＳＩ624は庄内式併行期古段階と考えられる。

ｂ　掘立柱建物

ＳＢ７５６

調査区の中央南寄りＳＩ604の南西側に位置する。桁行３間（4.0ｍ）、梁行（3.2ｍ）を測る。柱間は桁行1.24～1.46ｍ、梁行1.50～1.70ｍを測り比較的整っている。柱穴は直径12～26㎝、深さ13～28㎝を測り円形を呈している。桁行主軸方向をＮ－71°－Ｅに置く。所属時期を判断する遺物は出土していないが、竪穴住居などの存在する遺構面で検出でき、弥生・古墳時代に帰属するものと判断するに至っている。

ｃ　土坑

土坑は総数30数基を検出した。これらの土坑の内何基かは次項で記述する墓壙と考えられるものもある。

ＳＫ６２６（第66図、ＰＬ.36）

ＳＩ602の北側で重複する位置にある。規模は長軸4.6ｍ、短軸2.5ｍ、深さ33～40㎝を測る。西隅がやや鋭角に尖り、北辺が緩やかな弧状を描き長方形を呈する。底面はほぼ平坦で、掘り込みは基底部から急角度で直線的に立ち上がる。土層は４層に大別でき、すべての層に炭を微量含んでいた。遺物には広口壺が多くみられ、短頸壺・高坏・鉢などが出土している。出土土器から弥生時代後期末と考えられる。

ＳＫ６２７（第66図）

調査区の東半北端でＳＩ617の北側に位置する。規模は長軸2.45ｍ、短軸1.12ｍ、深さ52㎝を測る。東端がやや角張った楕円形を呈する。長軸方向の掘り込みは緩やかに傾斜し、短軸方向は基底部から急角度で立ち上がり、南側は二段落ちである。埋土の中・上層から二重口縁壺・広口壺・甕・鉢などが出土している。

ＳＫ６２８（第66図）

ＳＩ602・614の南側で重複する位置にある。規模は長軸5.4ｍ、短軸4.1ｍ、深さ55～72㎝を測る。東側がやや突き出た不整形状を呈する。底面はほぼ平坦で北東から南西へと少し傾斜している。埋土の第４層から甕・鉢・高坏などがまとまって出土している。出土土器から弥生時代後期末と考えられる。

ＳＫ６４６（第66図）

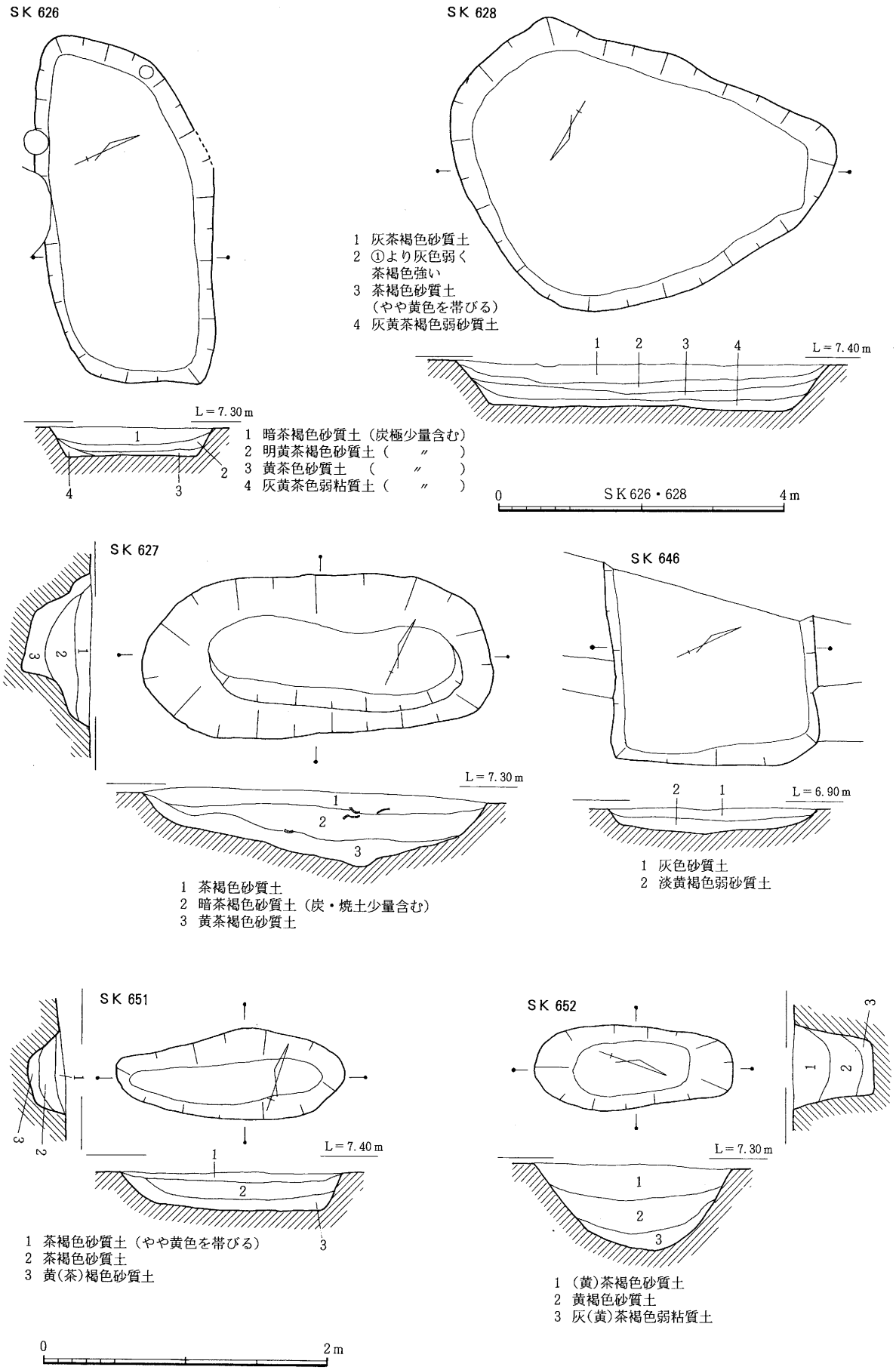
Ｃ３区の西端に位置し、ＳＤ715を削り込む。規模は東西1.40ｍ以上、南北1.46ｍ、深さ18㎝を測り長方形を呈する。壁は斜めに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。遺物は弥生土器の小片が少量出土している。

ＳＫ６５１（第66図）

ＳＩ605の北東側に位置する。規模は長軸1.60ｍ、短軸0.64ｍ、深さ22㎝を測り、やや歪な楕円形を呈する。遺物は弥生土器の小片が少量出土している。出土土器から弥生時代後期と考えられる。

ＳＫ６５２（第66図）

調査区の東半南端でＳＩ623の南西側に位置する。規模は長軸1.40ｍ、短軸0.60ｍ、深さ60㎝を測り、楕円形を呈する。遺物は弥生土器の小片が少量出土している。出土土器から弥生時代後期と考えられる。



第66図　第ⅢC区SK626・627・628・646・651・652実測図

ｄ　木棺墓・壺棺

土坑の形態・遺物の出土状況から墓壙と考えられるものは、総数10基を検出した。必ずしも、全てが墓壙でないかもしれないが、墓域は比較的住居間の空いた場所に営まれていたと考えられる。

ＳＸ６７１（第67図、ＰＬ.36）

ＳＩ604の西側に位置する。掘形と棺材の痕跡と考えられる部分がある。掘形は長軸1.48ｍ、短軸0.75ｍ、深さ40㎝を測り、長方形を呈する。棺材の痕跡（第５層）は２～５㎝の厚みがあり、長軸1.37ｍ、短軸0.62ｍ、深さ34㎝を測る。埋土は全体に地山土を含み、人為的に埋め戻されたものと考えられる。遺物は埋土から弥生時代後期中葉の壺・甕の小片が少量出土している。

ＳＸ６７２（第68図、ＰＬ.36）

Ｃ３区の南端に位置し、ＳＤ709に削られる。掘形と棺内の堆積と考えられる埋土（第３・５層）がある。掘形は長軸2.0ｍ、短軸1.54ｍ、深さ72㎝を測り、隅丸長方形を呈する。棺内と考えられる埋土は東西0.65ｍ、深さ25㎝に及ぶ。遺物は埋土から弥生時代後期後葉の壺・甕・高坏などの小片が多く出土している。

ＳＸ６７３（第67図、ＰＬ.36）

ＳＩ604の西側でＳＸ671に隣接して位置する。掘形と棺材の痕跡部分がある。掘形は長軸1.92ｍ、短軸0.64ｍ、深さ33㎝を測り、舟形を呈する。棺材の痕跡（第５層）は２～４㎝強の厚みがあり、長軸1.38ｍ、短軸0.46ｍ、深さ20㎝を測る。遺物は底面から少し浮いた状態で弥生時代後期後葉の甕が２個体出土している。

ＳＸ６７４（第67図）

ＳＩ604より新しく、ＳＤ706に削られる。掘形と棺材の痕跡がある。掘形は長軸1.08ｍ以上、短軸0.62ｍ、深さ40㎝を測り、長方形を呈する。棺材の痕跡（第４・６層）は３～８㎝の厚みがあり、長軸0.91ｍ以上、短軸0.39ｍ、深さ24㎝を測る。遺物は埋土から弥生時代後期末～庄内式併行期の壺・甕が少量出土している。

ＳＸ６７７（第68図）

ＳＩ607より新しく、ＳＥ669より古い。長軸1.50ｍ、短軸0.64ｍ、深さ12㎝を測り、長方形を呈する。

ＳＸ６７９（第68図、ＰＬ.36）

調査区の東半西寄り南端に位置する。墓壙の掘形は長軸0.68ｍ、短軸0.47ｍ、深さ23㎝を測り、両側がやや膨らんだ楕円（卵）形を呈する。壺棺は墓壙の西側に偏した位置に口縁部側をやや北側に傾けた状態に据え置かれ、口頸部は室町時代のＳＤ905により削平されていた。壺棺内に骨等は遺存していなかった。

ＳＸ６８０（第68図、ＰＬ.36）

ＳＩ602とＳＩ618・623の間に位置する。規模は長軸1.1ｍ、短軸0.41ｍ、深さ12～18㎝を測り、舟形状を呈する。墓壙の上から供献土器と考えられる甕・高坏が数個体分出土している。本来、平面形は土器の集中している高さで検出できた可能性がある。遺物は検出後、遺物包含層資料と混在して不明となっている。

ｅ　井戸

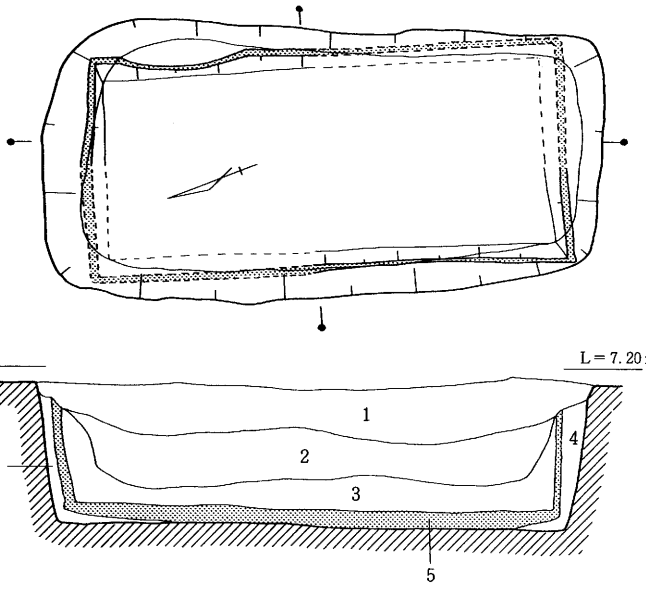
ＳＥ６６９（第68図、ＰＬ.36）

ＳＸ677に重複して位置する。規模は長軸1.30ｍ、短軸1.18ｍ、深さ48㎝を測り、やや歪な円形を呈する。

ＳＥ６７０（第68図）

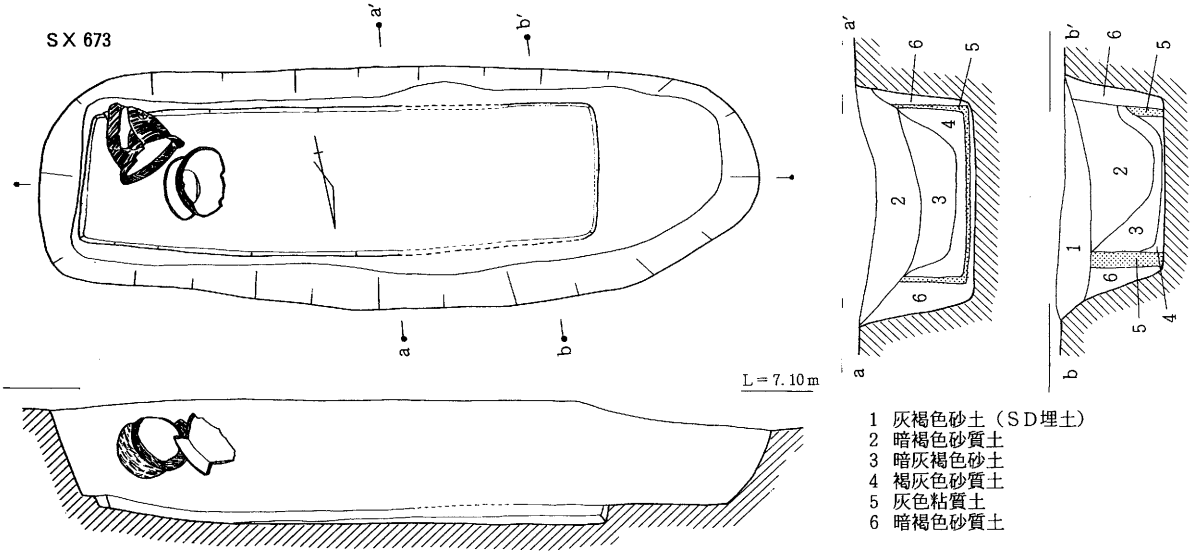
Ｃ３区の中央南寄りに位置し、ＳＸ675を削り込む井戸と考えられる土坑である。規模は長軸2.0ｍ、短軸1.8ｍ、深さ68㎝を測り、隅丸方形を呈する。遺物は弥生時代後期末の壺・高坏などが出土している。ＳＥ669・670共に井戸として検出しているが、井戸と考え難い部分もある。

SX 671



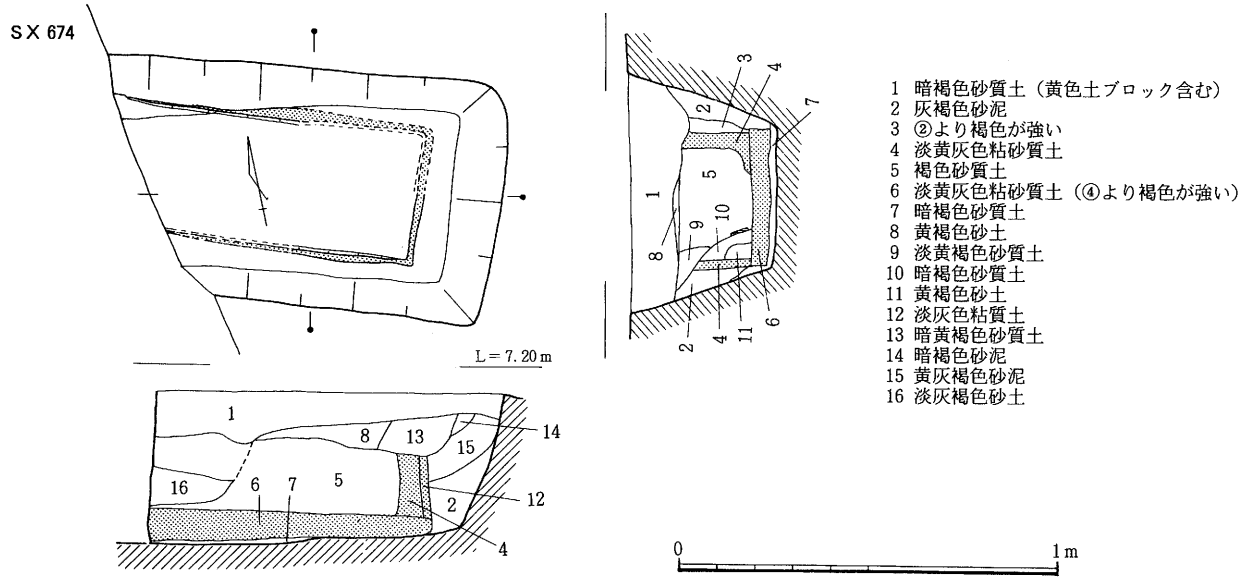
1　暗褐色砂質土（黄色土小ブロック含む）
2　褐灰色砂土（土器含む）
3　黄褐色砂質土（地山土より汚ない）
4　灰褐色砂泥
5　淡黄灰色粘砂質土

SX 673



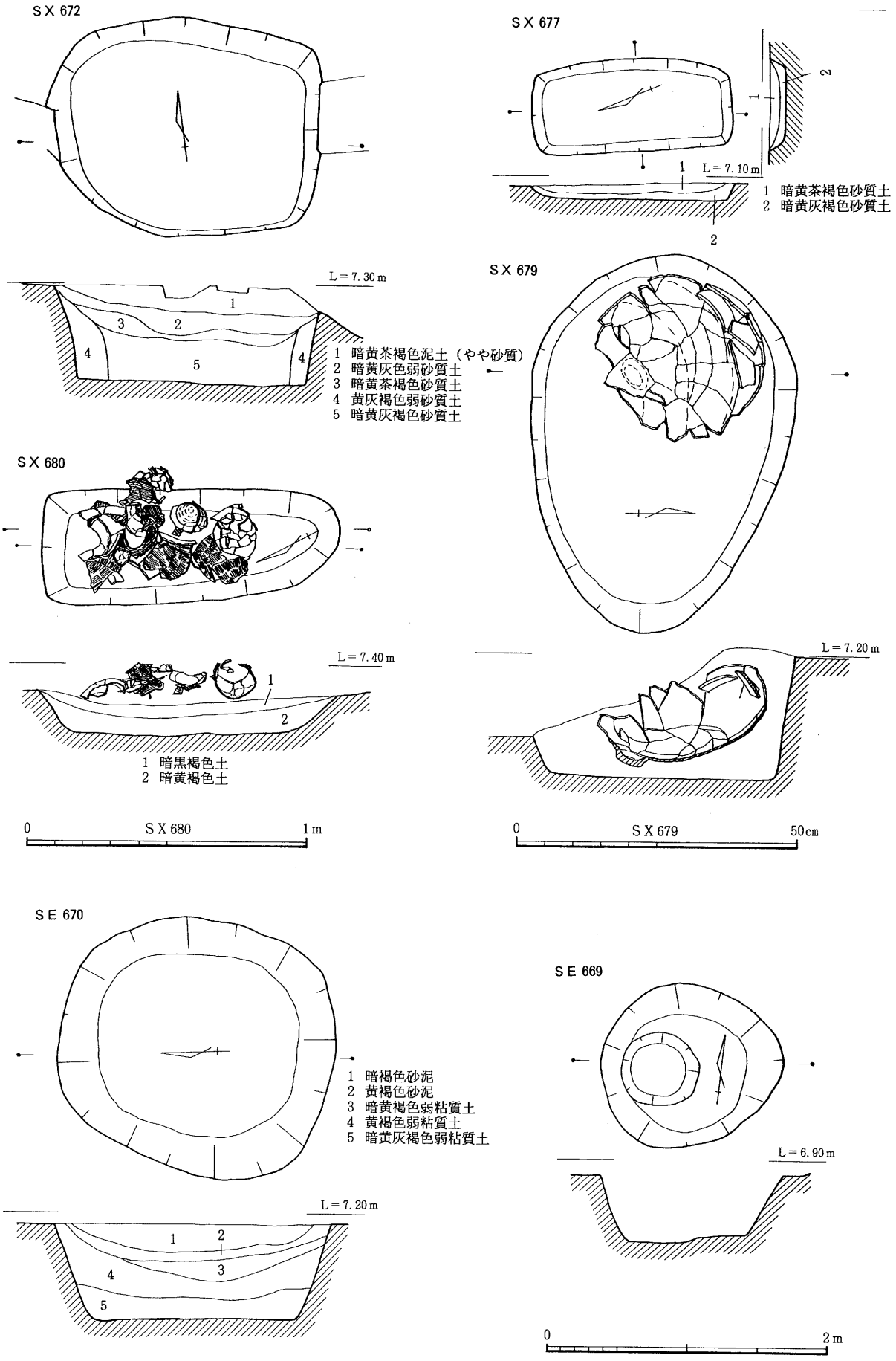
1　灰褐色砂土（SD埋土）
2　暗褐色砂質土
3　暗灰褐色砂土
4　褐灰色砂質土
5　灰色粘質土
6　暗褐色砂質土

SX 674



1　暗褐色砂質土（黄色土ブロック含む）
2　灰褐色砂泥
3　②より褐色が強い
4　淡黄灰色粘砂質土
5　褐色砂質土
6　淡黄灰色粘砂質土（④より褐色が強い）
7　暗褐色砂質土
8　黄褐色砂土
9　淡黄褐色砂質土
10　暗褐色砂質土
11　黄褐色砂土
12　淡灰色粘質土
13　暗黄褐色砂質土
14　暗褐色砂泥
15　黄灰褐色砂泥
16　淡灰褐色砂土

第67図　第ⅢC区SX671・673・674実測図



第68図　第ⅢＣ区ＳＸ672・677・679・680、ＳＥ669・670実測図

ｆ　溝

第ⅢＣ区の弥生・古墳時代の溝は、総数50条ほどを検出している。大半が調査区の中央から西半に集中し、大きく三方向に延びる。重複の著しい範囲では、遺物も少なく重複関係や繋がりが十分把握できない部分が多く、取り分け、Ｃ１区からＣ２区、Ｃ２区からＣ３区への繋がり関係が不明となった溝が多い。

ＳＤ６８１（第69・71図、ＰＬ.37）

Ｃ３区～Ｃ５区を東南東から西北西方向にほぼ直線的に延びる溝である。ＳＤ681は総延長が長い分、竪穴住居・溝と重複する部分が随所に見受けられ、西端でＳＤ702に、東端でＳＩ615に削られる。規模は幅1.2～2.0ｍ、深さ70～90㎝を測り、延長約78ｍ分を検出した。西端底面の深さは、東端より約50㎝浅い。底面は平坦で、壁は急傾斜で立ち上がり断面逆台形を呈する。土器は中・上層で数個体から二十数個体ほどの完存品ないしそれに近い土器が十数箇所でまとまって出土しており、比較的短期間に、漸次投棄された状態である。また、両端での土器の出土量が少なく、調査区内が投棄の最も集中する範囲のようである。出土した多数の土器は磨滅度が低く、破片もまとまっている。遺物は手焙形土器など弥生土器の各器種・各形態が認められ、舟形をした土製品も出土している。出土土器から弥生時代後期中葉～後葉に埋没したと考えられる。

ＳＤ６８２（第69図）

調査区の中央西寄りに位置し、ＳＤ702・704・708・709などに削られる。北々東から南方向に蛇行して延びる溝で、幅0.50～0.92ｍ、深さ26～78㎝を測り、延長13ｍ分を検出した。底面は平坦で、急傾斜で立ち上がり断面逆台形を呈する。遺物は弥生時代後期中葉の壺・高坏などが少量出土している。

ＳＤ６８３（第69・70図、ＰＬ.38）

調査区の西端Ｃ１・２区に位置し、ＳＤ686・736・738などに削られる。北東から南西方向に緩やかに蛇行して延びる溝で、幅0.66～0.90ｍ、深さ22～46㎝を測り、延長35ｍ分を検出した。壁は緩やかに立ち上がり、断面Ｕ字形を呈する。遺物は弥生時代後期中葉～後葉の壺・甕などが少量出土している。

ＳＤ６８６（第69・70図）

調査区の西半Ｃ２区に位置し、ＳＩ603を削り込む。南東から北々西方向に大きく蛇行して延び、東西方向に延びる大半の溝に削られる。ＳＩ603付近で一時期先行するＳＤ684と重複する。幅0.62～1.28ｍ、深さ12～32㎝を測り、延長30ｍ分を検出した。遺物は弥生時代後期後葉の壺・甕などの小片が多く出土している。

ＳＤ６８７（第69・74図、ＰＬ.38）

調査区の西端Ｃ１・２区に位置し、ＳＤ686を削り込む。北東から南西方向に緩やかに蛇行し、ＳＤ683とほぼ並行して延びる。幅1.22～1.42ｍ、深さ36～40㎝を測り、延長33.5ｍ分を検出した。壁は緩やかに立ち上がる。埋土は自然堆積と考えられ、中央付近で多量の炭粒を含んでいた（第４層）。遺物は南北両端に少なく、全体として下層に大振りの破片が、上層に小片が多い傾向にある。中でも、Ｃ２区の下層でまとまりのある土器群が遺存していた。弥生時代後期中葉～後葉の壺・甕・鉢・高坏などが出土している。

ＳＤ６８８（第69図、ＰＬ.38）

調査区の西端Ｃ１・２区に位置し、ＳＤ686を削り込み、ＳＤ695と東西方向に延びる大半の溝に削られる。北東から南西方向に緩やかに湾曲し、ＳＤ683・687とほぼ並行して延びる。幅0.68～0.88ｍ、深さ15～18㎝を測り、延長31ｍ分を検出した。遺物は弥生時代後期中葉～後葉の壺・甕・鉢・高坏などが出土している。

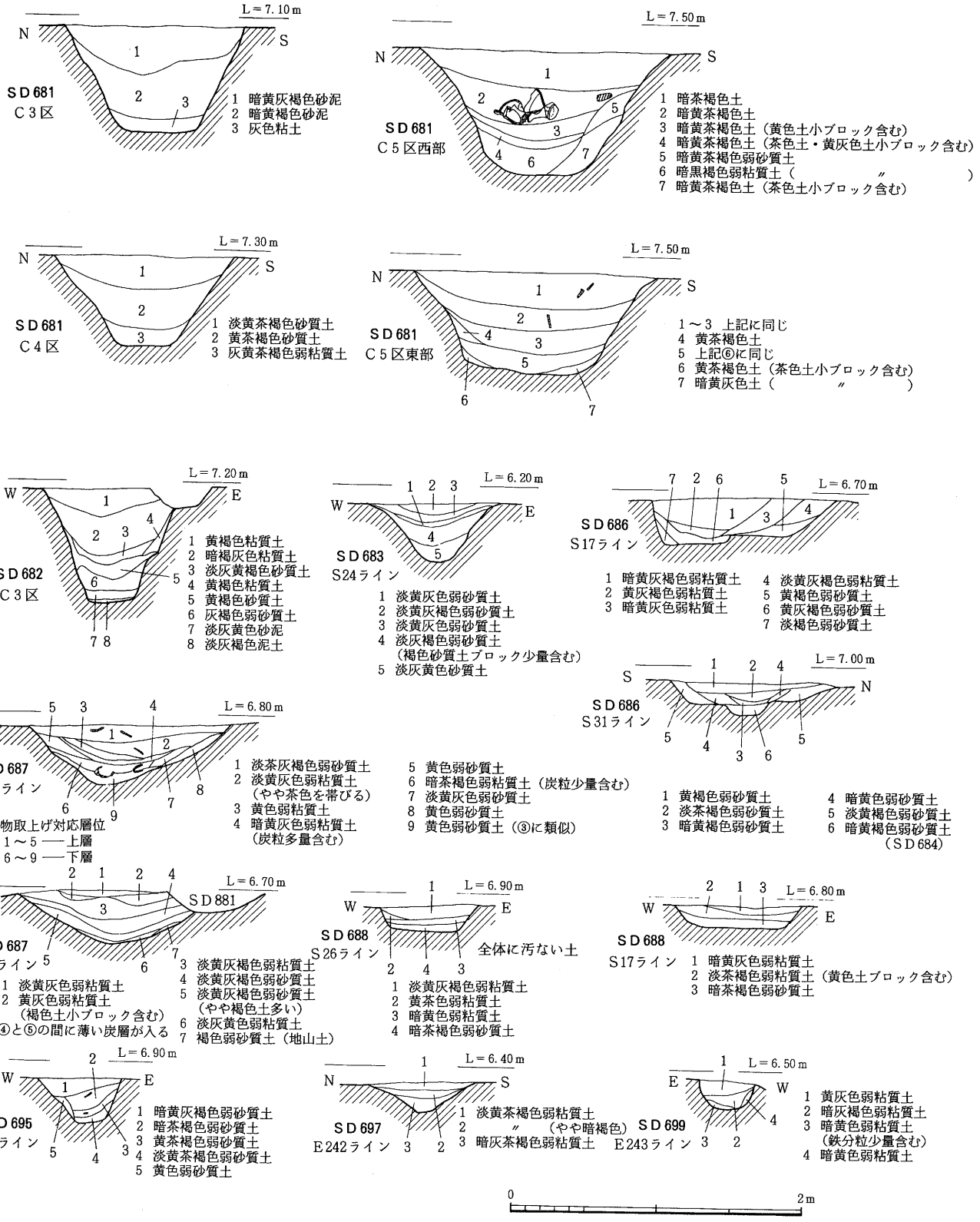
ＳＤ６９０（第70図）

Ｃ１・２区に位置し、ＳＤ689同様に重複の著しい範囲を東から西方向に延びる溝である。Ｃ１区ではＳＤ699の下で検出した溝が続くものと考えられる。幅0.32～0.76ｍ、深さ20～44㎝を測り、延長31ｍ分を検

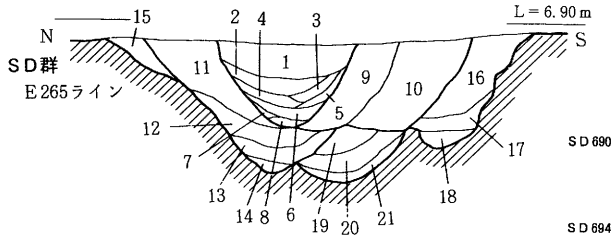
出した。重複関係から東西方向の溝群の中で最も新しいと考えられ、弥生時代後期後葉の壺・鉢・高坏などが出土している。

ＳＤ６９２（第70図）

調査区の西半Ｃ２区に位置し、重複の著しい範囲を東から西方向に延びる溝である。ＳＤ693に削られる。

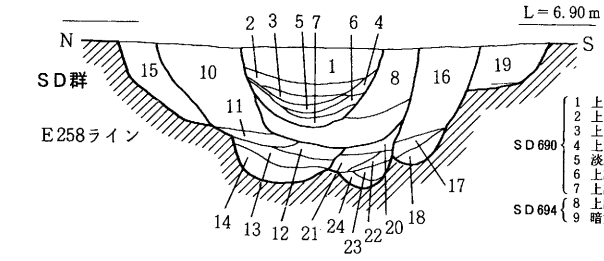


第69図　第ⅢＣ区弥生・古墳時代溝土層図



SD690
1 暗黄灰褐色弱粘質土
2 暗茶灰褐色弱粘質土
3 淡黄灰褐色弱粘質土
4 淡茶褐色弱砂質土
5 淡灰褐色弱粘質土
6 暗灰褐色弱砂質土（鉄分粒含む）
7 淡灰褐色弱砂質土
8 暗灰褐色弱砂質土（鉄分粒含む）
基底面鉄分粒の沈澱
SD694
9 黄灰褐色弱砂質土
10 黄灰褐色弱粘質土

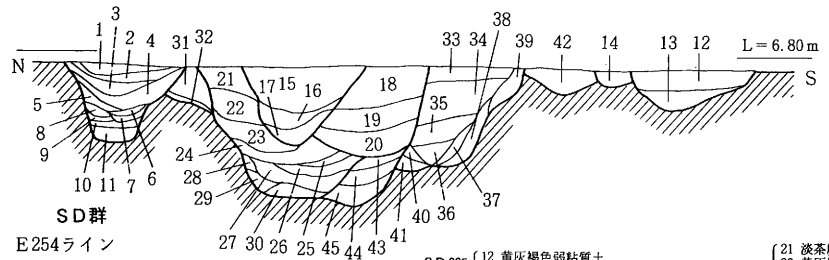
SD693
11 黄灰褐色弱粘質土
12 暗黄灰褐色弱粘質土
13 黄灰褐色弱粘質土（黄色土ブロック含む）
14 暗黄灰褐色弱砂質土（　〃　）
SD692—15 茶褐色弱砂質土
SD689
16（暗）茶褐色弱砂質土
17 暗茶褐色弱砂質土
18 淡黄灰褐色弱砂質土（黄色土ブロック含む）
SD725
19 黄灰褐色弱粘質土
20 暗黄灰褐色弱粘質土
21 淡黄灰褐色弱砂質土（黄色土ブロック含む）



SD690
1 上記①に対応
2 上記②に対応
3 上記③に対応
4 上記④に対応
5 上記⑤に対応
6 上記⑥に対応
7 上記⑦に対応
8 上記⑧に対応
9 暗黄灰褐色弱粘質土
SD694

SD693
10 上記⑪に対応
11 上記⑫に対応
12 〃 （やや暗色強い）
13 上記⑬に対応
14 上記⑭に対応
SD692—15 上記⑮に対応
SD689
16 上記⑯に対応
17 上記⑰に対応
18 上記⑱に対応

SD691—19 茶褐色弱砂質土
SD725
20 上記⑲に対応
21 上記⑳に対応
22 〃
（やや黄色強い）
23 上記㉑に対応
24 〃
（黄色土ブロック多量含む）

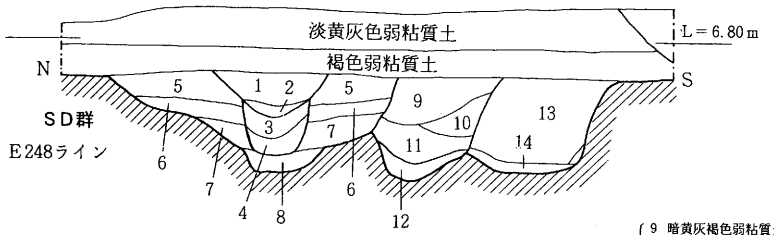


SD695
12 黄灰褐色弱粘質土
13 暗黄灰褐色弱粘質土
SD730—14 暗茶褐色弱砂質土

SD690
1 黄灰褐色弱粘質土
2 灰褐色弱粘質土
3 淡黄灰褐色弱粘質土
4 暗黄灰褐色弱砂質土
5 灰茶褐色弱砂質土（鉄分多）
6 淡(灰)茶褐色弱砂質土（　〃　）
7 暗灰(黄)褐色弱砂質土
8 明茶褐色弱砂質土
9 淡灰褐色弱砂質土
10 灰色弱砂質土
11 濃茶褐色弱砂質土
（灰色土ブロック含む）
SD697
？
15
16
17
18 茶灰褐色弱粘質土（鉄分３㎜まばら）
19 淡茶灰褐色弱粘質土
20 暗黄灰褐色弱粘質土
（黄色土・灰色土ブロック）

SD693
21 淡茶灰褐色弱粘質土
22 黄灰褐色弱粘質土
23 淡黄灰褐色弱粘質土
24 暗黄灰褐色弱粘質土
25 暗灰褐色弱粘質土（黄色土小ブロック）
26 暗黄灰褐色弱粘質土（黄色土少量含む）
27 暗黄灰褐色弱粘質土（黄色土灰色）
28 淡黄茶褐色弱砂質土
29 淡黄灰褐色弱砂質土
30 黄茶褐色弱砂質土
SD692
31 淡茶褐色砂質土
32 淡茶(灰)褐色砂質土

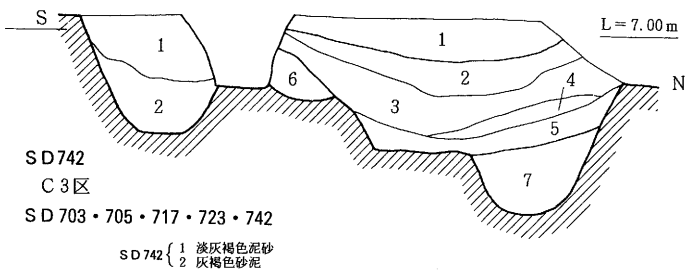
SD689
33 淡黄灰褐色弱粘質土
34 黄灰褐色弱粘質土
35 暗黄灰褐色弱粘質土
（黄色土小ブロック炭粒少量含む）
36 暗黄灰褐色弱粘質土
37 黄灰褐色弱粘質土
（黄色土ブロック多量含む）
38 淡黄茶褐色弱砂質土
（褐色土ブロック含む）
39 淡茶褐色砂質土
40 淡黄茶褐色砂質土
41 ㊵よりやや暗色
SD686—42 暗茶灰褐色弱砂質土
SD725
43 暗黄灰褐色弱粘質土
44 暗茶灰褐色弱粘質土
（灰色土小ブロック含む）
45 淡黄茶褐色弱砂質土
（明黄色土小ブロック多量含む）



SD699
1 黄灰褐色弱粘質土
2 淡黄灰褐色弱粘質土（灰色主体）
SD690
3 暗黄灰褐色弱粘質土
4 黄灰(褐)色弱粘質土（灰色主体）

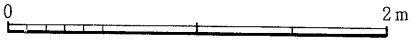
SD683
5 淡黄灰褐色弱粘質土
6 暗黄灰色弱粘質土（鉄分粒少量含む）
7 暗黄灰褐色弱粘質土（　〃　）
8 灰黄色弱粘質土

SD697
9 暗黄灰褐色弱粘質土
10 暗黄灰褐色弱粘質土（黄色主体）
11 黄灰褐色弱粘質土
12 黄色土ブロック
SD738
13 暗黄灰褐色弱粘質土
14 暗黄灰褐色弱粘質土（黄色土ブロック含む）



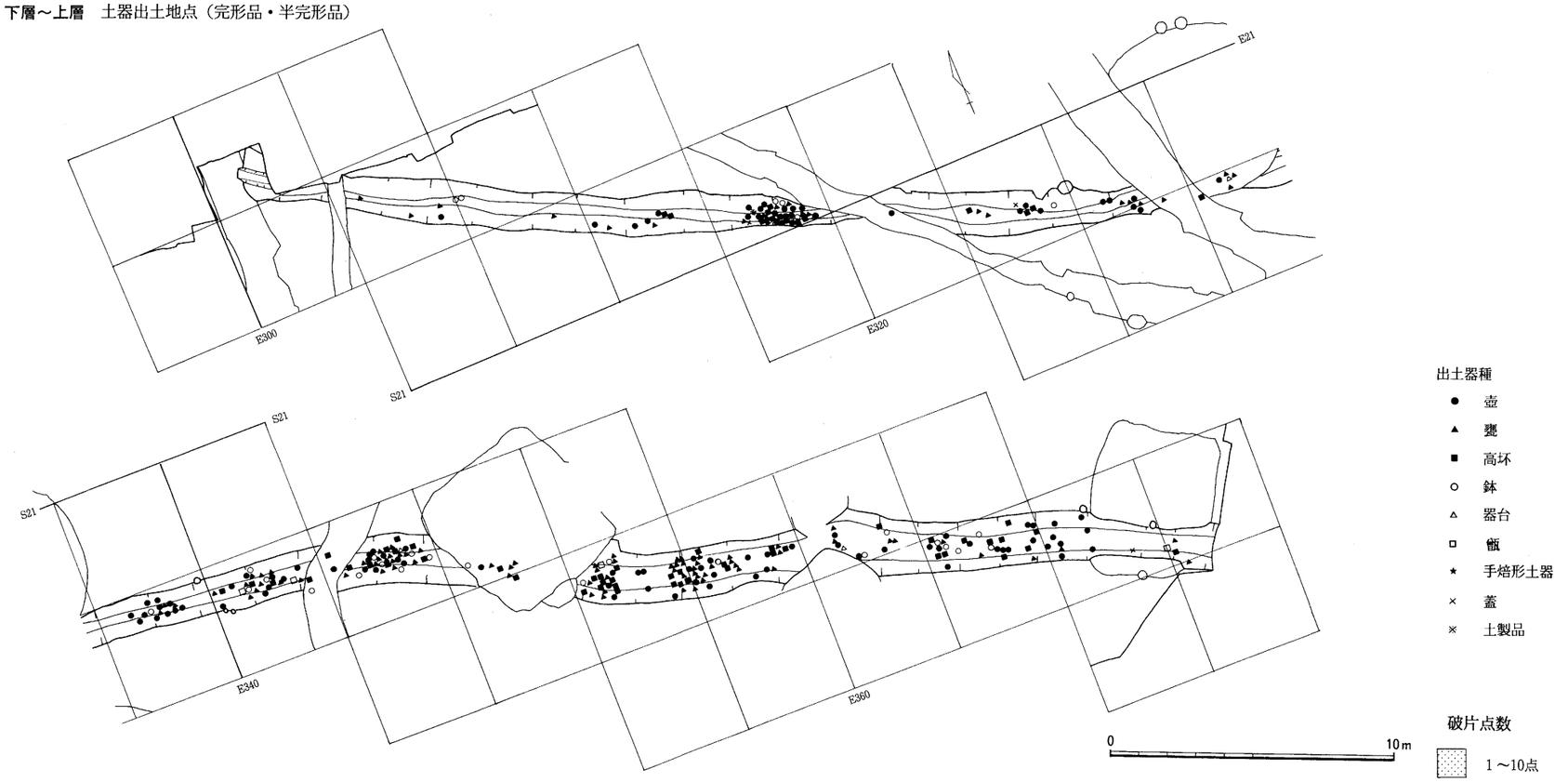
SD742
1 淡灰褐色泥砂
2 灰褐色砂泥

SD705—1 黄褐色弱砂質土
SD717
2 淡黄灰褐色砂質土
3 暗茶灰褐色砂泥
4 黄褐色弱砂質土
5 暗茶褐色砂泥（黄褐色土ブロック含む）
SD723—6 暗茶褐色泥土
SD703—7 暗茶灰色粘質土

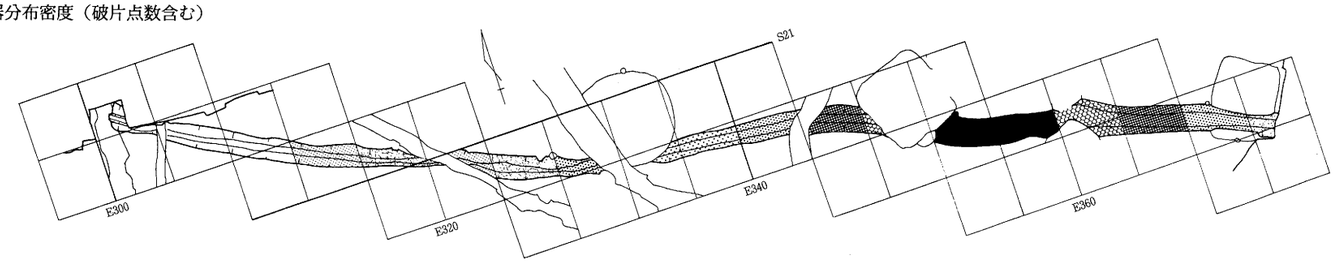


第70図　第ⅢＣ区弥生・古墳時代溝土層図

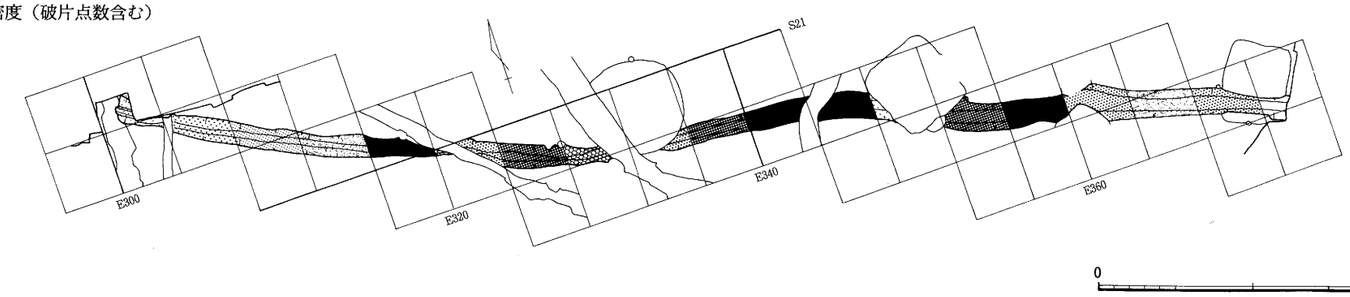
下層～上層　土器出土地点（完形品・半完形品）



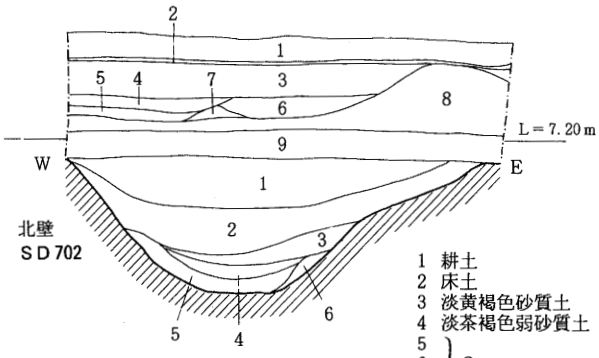
下層・中層　土器分布密度（破片点数含む）



上層　土器分布密度（破片点数含む）

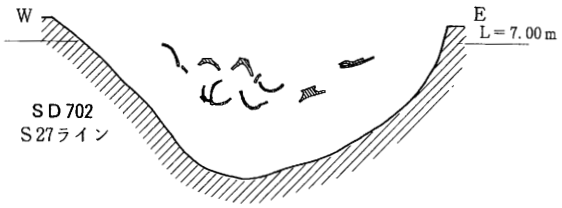


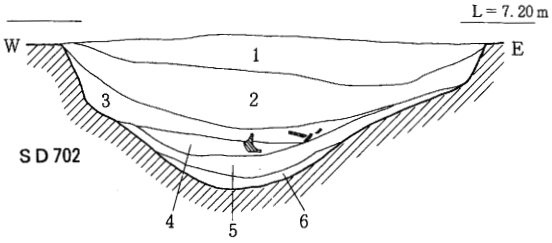
第71図　第ⅢC区SD681土器出土分布状況図



1 淡茶褐色弱砂質土
2 黄褐色砂泥
3 暗茶褐色砂泥
4 暗茶褐色泥土
5 黄灰色砂泥
6 茶褐色泥砂
1 耕土
2 床土
3 淡黄褐色砂質土
4 淡茶褐色弱砂質土
5 ?
6 ?
7 ?
8 淡黄褐色弱砂質土
9 暗茶褐色砂泥

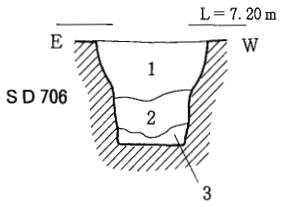


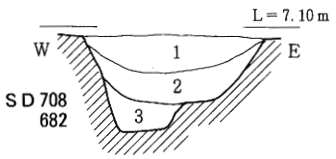




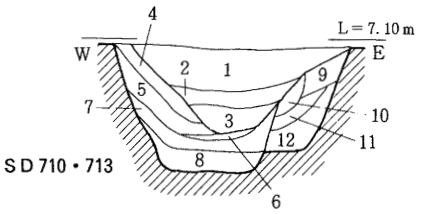
1 淡茶褐色弱砂質土（土器多量）
2 黄褐色砂泥　（土器極少量）
3 茶褐色砂泥
4 茶褐色砂泥（③よりやや粘質）
5 淡黄褐色砂泥
6 淡灰色砂泥





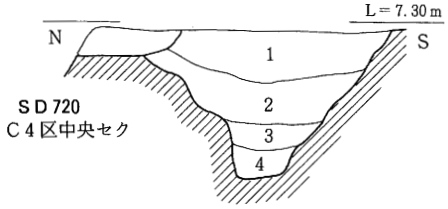


SD 708 { 1
　　 { 2
SD 682－3　黄褐色砂質土

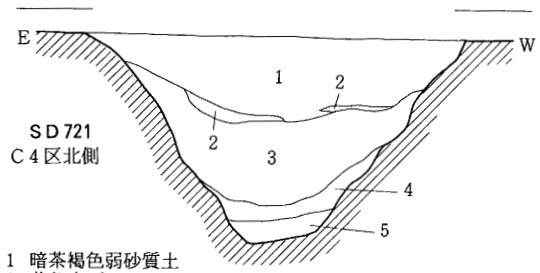


SD 713 { 1 暗褐色砂土
　　 { 2 褐灰色砂土
　　 { 3 褐色砂土（黄色土ブロック含む）

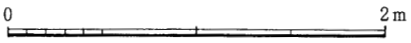
SD 710 { 4 淡褐灰色砂質土
　　 { 5 暗褐灰色砂質土
　　 { 6 灰褐色砂質土
　　 { 7 淡灰色砂質土
　　 { 8 黄褐色砂質土
9 褐色砂土
10 灰褐色砂土
11 褐色砂泥（⑫より淡色）
12 暗褐色砂泥



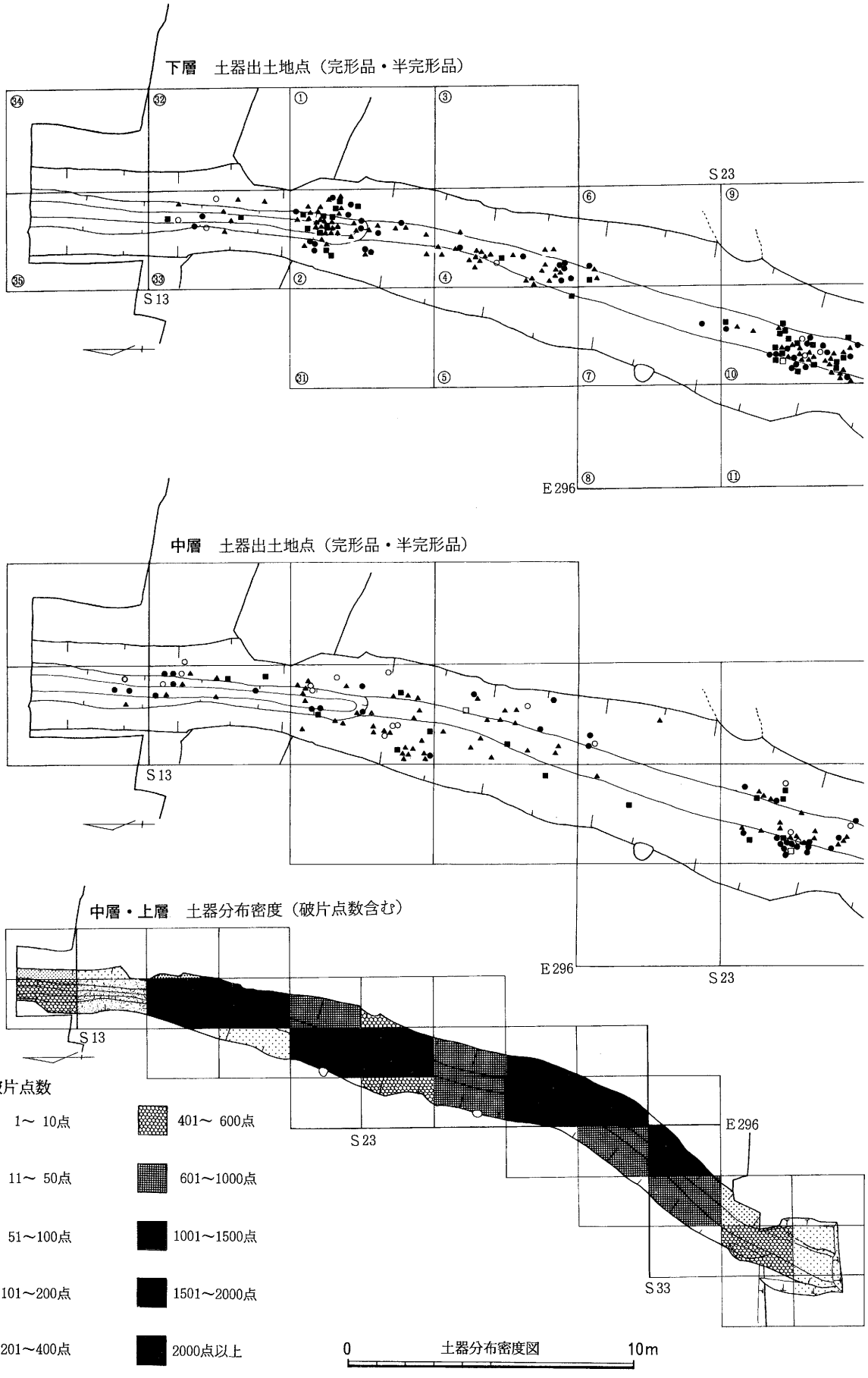
1 暗茶褐色砂質土
2 黄茶褐色砂質土
3 黄茶褐色弱粘質土
4 黄(茶褐)色砂土

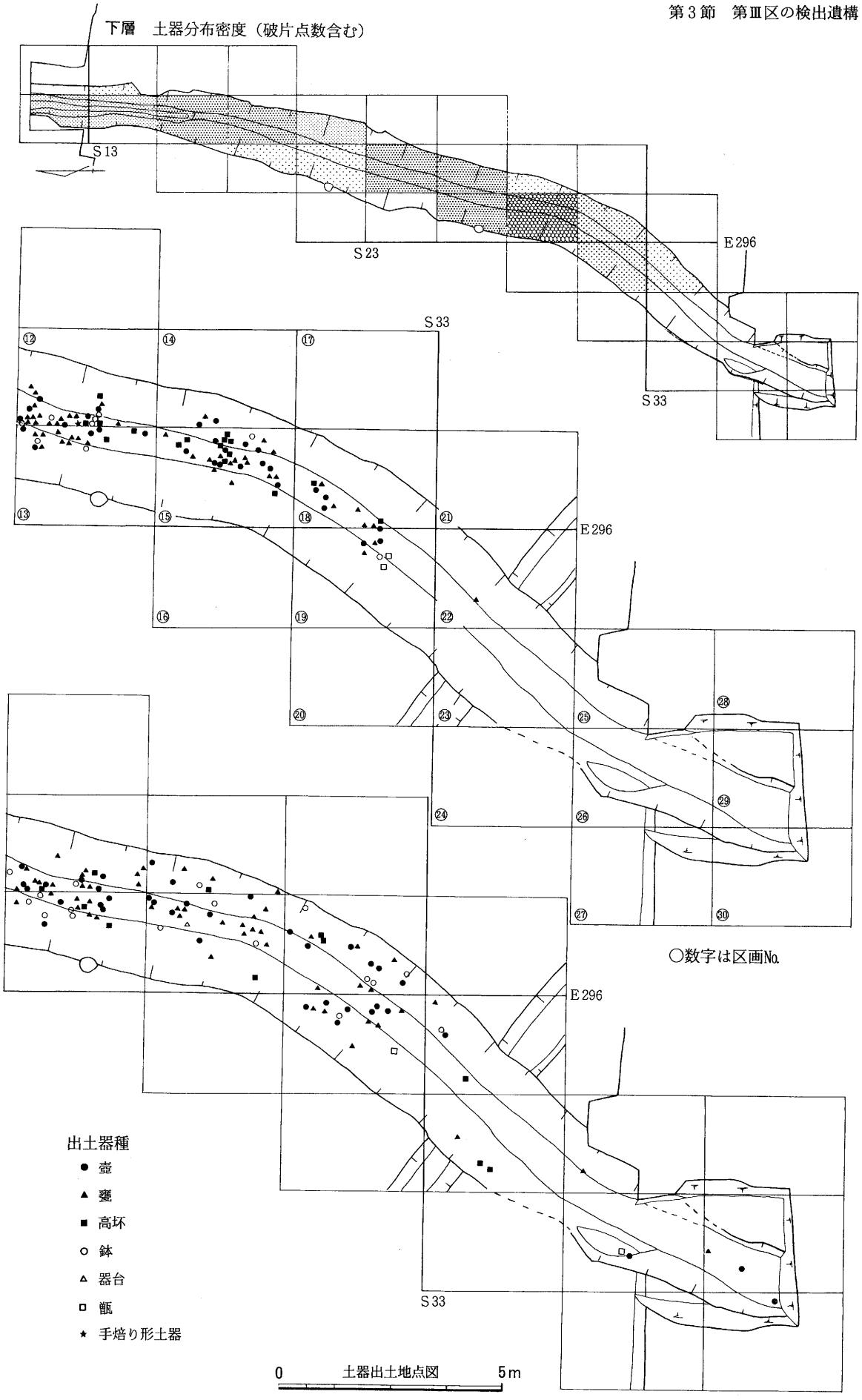


1 暗茶褐色弱砂質土
2 黄色土ブロック
3 暗茶褐色弱粘質土（黄色土ブロック多量含む）
4 暗灰茶褐色弱粘質土（黄色土ブロック極多量含む）
5 黄色砂土



第72図　第ⅢＣ区弥生・古墳時代溝土層図


下層　土器出土地点（完形品・半完形品）
S 13
S 23
E 296
中層　土器出土地点（完形品・半完形品）
S 13
E 296
S 23
中層・上層　土器分布密度（破片点数含む）
S 13
S 23
E 296
S 33
破片点数
1～ 10点
11～ 50点
51～100点
101～200点
201～400点
401～ 600点
601～1000点
1001～1500点
1501～2000点
2000点以上
0
土器分布密度図
10m



第73図　第ⅢＣ区ＳＤ702土器出土分布状況図２

ＳＤ６９３（第70図）

Ｃ２区に位置し、重複の著しい範囲を東から西方向に延びる溝である。推定幅1.2ｍ前後、深さ70㎝の規模で、断面Ｕ字形を呈する。遺物は弥生時代後期後葉の壺・甕・高坏などの小片が少量出土している。重複の著しい範囲の溝を検出状況から古い順に整理するとＳＤ689→725→693→694→690となり、順次掘削し直された状況が窺える。ただ、遺物が少なく重複関係そのものについても十分に把握できていない嫌いがある。

ＳＤ６９７（第69・70図）

Ｃ１区の北東隅に位置し、南々東から西北西に延びる溝である。Ｃ２区で延長部分が不明となる。

ＳＤ６９９（第69図）

Ｃ１区の北東隅に位置し、ＳＤ697を削り込む。南々東から西北西に延び、Ｃ２区で延長部が不明となる。

ＳＤ７０２（第72・73図、ＰＬ.38・39）

調査区のほぼ中央Ｃ３区に位置し、ＳＤ681・682・704を削り込み、ＳＤ709に削られる。北から南々西方向に緩やかに蛇行して延びる溝で、幅1.52～2.20ｍ、深さ64～85㎝を測り、延長30.5ｍ分を検出した。底面は丸く、緩やかに立ち上がり扁平な断面Ｕ字形を呈する。底面の深さは、南北両端で殆ど差が認められない。遺物は第ＩＡ区ＳＤ12・第ⅡＡ区ＳＤ256に類似して完存品が多く、溝の中央からやや東側に偏った状況で大量の土器が出土し、比較的短期間に段階的に投棄された状態である。この状況は溝内と土器内の埋土の堆積状況の比較から、滞水と泥の堆積が段階的に形成されたことが確認されている。下層・中層に完存品が、上層に破片が多い傾向にある。また、両端での土器の出土量が少なく、調査区内が土器の投棄の最も集中する範囲のようである。出土した多数の土器はやや磨滅気味であるが、個体そのものはまとまっている。遺物は手焙形土器など弥生土器の各器種・各形態が認められ、匙形をした土製品も出土している。出土土器から弥生時代後期後葉～末に埋没したと考えられ、最上層で庄内式併行期古段階の土器が僅かに認められる。

ＳＤ７０３（第70図）

Ｃ３区の西端の溝群に位置し、大半がＳＤ717・705に削り込まれる。北々東から西北西方向に折れ曲がり、西側のＣ２区に延びる。Ｃ２区のＳＤ690に続くと考えられるが定かでない。幅約1.5ｍ、深さ約１ｍを測る。

ＳＤ７０４

Ｃ３区の中央北端から西方向に湾曲し、西側のＣ２区に延びると考えられる。ＳＤ702を削り込み、ＳＤ706に削られる。ＳＤ703・709・710・713同様に西側Ｃ２区の延長部分との繋がりが判然としない。

ＳＤ７０５（第70図、ＰＬ.48）

Ｃ３区の西端溝群の中に位置し、北々東から南西方向に蛇行して延びる溝である。北側でＳＤ717を削り込む。検出状況と土層から、古い順にＳＤ703・723→717→705と考えられるが、判然としない部分もある。

ＳＤ７０６（第72図）

Ｃ３区の中央に位置し、北々東から南々西方向に直線的に延びる溝である。幅0.60ｍ、深さ56㎝を測り、延長25ｍ分を検出した。ＳＤ706は直線的に延び、後述する奈良時代の溝群と軸方向がほぼ一致する（Ｎ－20°－Ｅ）ことから一連のものである可能性がある。遺物は弥生土器と共に微量の布留式併行期の甕がある。

ＳＤ７０８（第72図、ＰＬ.48）

Ｃ３区の西端溝群の中に位置し、北々東から南西方向に蛇行してＳＤ705と並行して延びる溝である。ＳＩ601の上でＳＤ723が、北側でＳＤ682が重複する。遺物は弥生土器と共に微量の布留式併行期の甕がある。

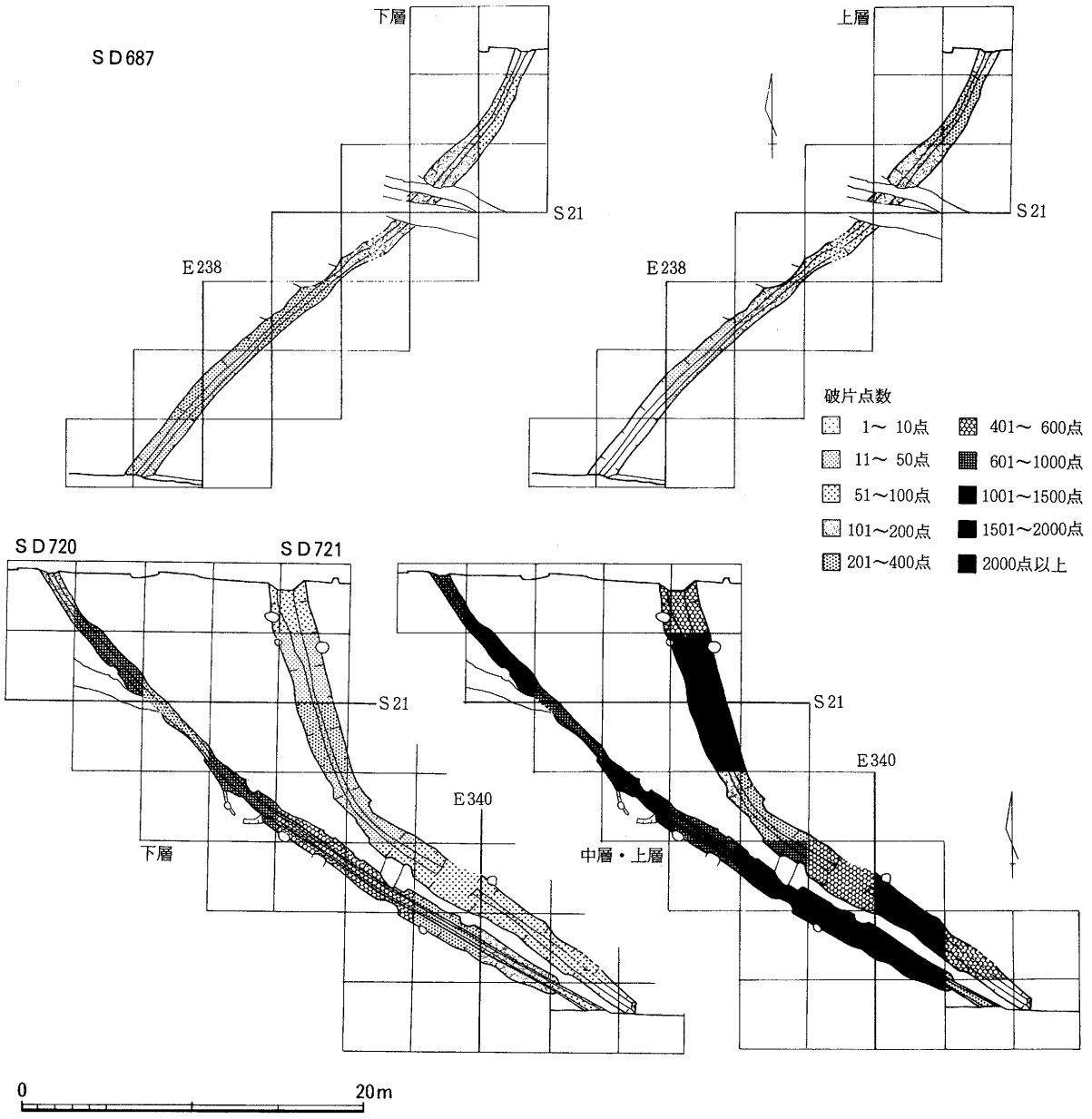
ＳＤ７２０（第72・74図、ＰＬ.37・39）

調査区の中央西寄りに位置し、南東から北西方向にやや弧状に延びる溝である。規模は幅0.6～2.2ｍ、深

さ39～85㎝を測り、延長約41ｍ分を検出した。南側底面の深さは、北側より約35㎝低い。底面は狭く、掘り込みは急傾斜で立ち上がり、北側肩部の一部がやや緩やかになっている。断面はＶ字形に近い状態を呈する。遺物は全ての層で細片が多く、下層の中にはＳＤ721の中層と接合する破片も認められる。遺物は波状文や円形浮文を施した庄内式併行期古段階の二重口縁壺・広口壺・高坏・甕・鉢・甑などが出土している。

ＳＤ７２１（第72・74図、ＰＬ.39）

一部ＳＤ720と並行する東側に位置し、南東から北々西方向へ延びる溝で、中央部で東寄りに屈曲する。規模は幅1.1～2.4ｍ、深さ100～110㎝を測り、延長約34ｍ分を検出した。底面の深さはほぼ同じであるが、屈曲部では10㎝ほど低くなっている。底面は平坦で、掘り込みの傾斜は北端では約45°であるが、南端では約70°の急傾斜で立ち上がる。埋土は上から４層に大別でき、北部では最下層に黄色砂土が堆積していた。遺物はＳＤ720と同様の細片が主体で、二重口縁壺・広口壺・高坏・甕・器台などが出土しており、弥生時代後期末～布留式併行期古段階のものである。但し、溝の機能していた時期は、ＳＤ720との遺物接合関係などから、ＳＤ720に若干先行する弥生時代後期末と考えられる。



第74図　第ⅢＣ区ＳＤ687・720・721土器分布密度図

（２）奈良時代（第76図）

奈良時代の遺構は、密度こそ少ないが調査区全域に拡がり、土坑と溝を検出している。第Ⅰ・Ⅱ区の奈良時代の遺構の在り方と対照的である。東端の溝からの出土遺物が多いことから居住空間の存在を示唆する。

ａ　土坑

土坑は総数５基を検出したに留まる。

ＳＫ７３２（第75図）

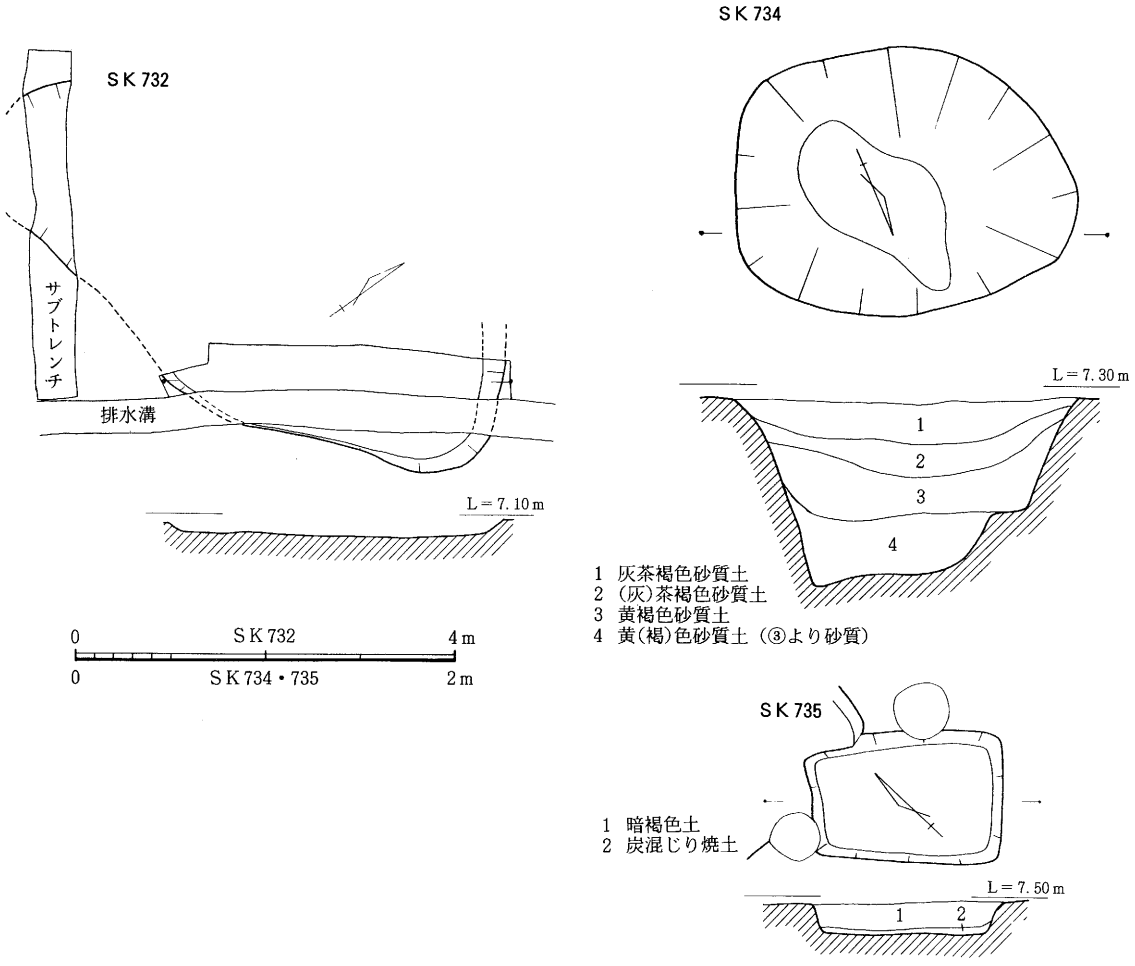
Ｃ３区の南西隅に位置し、大半が調査区外に延びる。長軸5.6ｍ以上、短軸3.6ｍ前後、深さ16㎝を測る浅い土坑である。遺物は須恵器の坏身・横瓶、土師器の製塩土器と共に平安時代の土器が微量出土している。

ＳＫ７３４（第75図）

調査区の東半南寄りで、ＳＤ740と重複して位置する。長軸1.8ｍ、短軸1.4ｍ、深さ90㎝を測る歪な形の土坑である。底面はほぼ平坦で、壁は斜めに直線的に立ち上がる。埋土は上層（１・２層）と黄褐色砂質土の下層とに大別できる。遺物は土師器の坏・製塩土器、須恵器の坏身・坏蓋・短頸壺などが出土している。

ＳＫ７３５（第75図）

調査区の東半北端に位置し、長軸1.05ｍ、短軸0.65～0.70ｍ、深さ18㎝を測る長方形の土坑である。底面は平坦で、炭混じりの焼土が約４㎝の厚さで層を成し、埋土は暗褐色土であった。このような状況から、火葬墓であった可能性も考えられる。遺物は土師器の坏・製塩土器、須恵器の甕が少量出土している。



第75図　第Ⅲ区ＳＫ732・734・735実測図



第76図　第ⅢＣ区奈良時代主要遺構全体図

b　溝

溝は大別して、調査区東半で直線的に延びるものと西半で大きく蛇行して延びるものがあり、総数19条を検出した。溝の軸方向も大きく幾つかのまとまりを示しているようである。

ＳＤ７３６（第77図、ＰＬ.48）、ＳＤ８８２、ＳＤ７４３（ＰＬ.48）

調査区の西半に位置し、Ｃ３区～Ｃ１区にかけて大きく屈曲して延びる溝である。三条の溝が連続する一連の溝と考えられ、Ｃ３区でＳＤ742を削り込み、ＳＫ732に削り込まれる。流れの方向は弥生時代後期の溝群と類似した方向性を示している。幅0.6～1.2ｍ、深さ20～36㎝を測り、延長75.6ｍ分を検出した。遺物はＳＤ736から土師器の竈、須恵器の坏蓋・壺、瓦が、ＳＤ743から土師器甕、須恵器の短頸壺が出土している。ただ、ＳＤ882からは奈良時代の土器と共に上層から平安時代の土器がまとまって出土している。

ＳＤ７３７（第77図、ＰＬ.48）

調査区の西端に位置し、北々東から南々西に延びる溝である。幅1.12～1.60ｍ、深さ70～72㎝を測り、延長27.3ｍ分を検出した。軸方向をＮ－25°～28°－Ｅに置く。軸方向の似通ったＳＤ741までの距離は約121.5ｍを測る。遺物は弥生土器と共に土師器甕、須恵器の坏身・蓋などの小片が出土している。

ＳＤ７３８（第77図）

ＳＤ736などとほぼ並行して同一方向に延びる溝である。Ｃ１区南端で両者の溝が近接する方向にあり、Ｃ３区ではその延長部分の溝が不明となっている。遺物は土師器甕・高坏、須恵器の甕が出土している。

ＳＤ７３９（第77図、ＰＬ.48・49）

調査区の西端に位置し、ＳＤ737・738を削り込む。遺物は土師器甕が押し潰された状態で出土している。

ＳＤ７４０（第77図）

調査区南東部で直角に折れ曲がり延びる溝で、ＳＤ741に削られる。幅1.8～2.1ｍ、深さ40～60㎝を測り、延長約23ｍ分を検出した。遺物は土師器の坏・高坏・甕・堝、須恵器の甕などが出土している。

ＳＤ７４１（第77図、ＰＬ.42）

調査区の東端に位置し、北々東から南々西に延びる二段掘りの溝である。幅1.66～2.24ｍ、深さ70～86㎝を測り、延長約31ｍ分を検出した。底面の深さは南北両端ともほぼ同一である。軸方向をＮ－30°－Ｅに置き、ＳＤ737とほぼ同様の方向性を示している。遺物は土師器の坏・高坏・皿・甕・製塩土器、須恵器の坏身・坏蓋・広口壺・甕などが出土している。

ＳＤ７４２（ＰＬ.48）

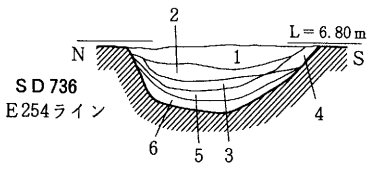
Ｃ３区西端溝群に位置し、ＳＤ743に削られる溝である。北々東から南々西に大きく蛇行して延びる溝である。軸方向をＮ－約25°－Ｅに置く。遺物は弥生土器と共に７世紀前半の須恵器坏身が出土している。

ＳＤ７４４～７５２（第77図）

調査区の中央から東半に位置し、4.75～5.38ｍ（平均5.06ｍ）の間隔を置いてほぼ並行して北々東から南々西に延びる溝である。各溝の規模は幅0.5～0.8ｍ前後、深さ10～40㎝を測る。ＳＤ744からＳＤ752までの距離は45.56ｍである。軸方向を平均Ｎ－20°－Ｅに置き、当該期の条理地割の区画方向に沿ったものと考えられる。弥生時代の項で扱ったＳＤ706とＳＤ744間も4.81ｍ前後を測り、総距離50.37ｍとなる。土層は基本的に２層に分かれる。各溝から土師器の皿・甕、須恵器の坏身・坏蓋・壺などの小片が少量出土している。

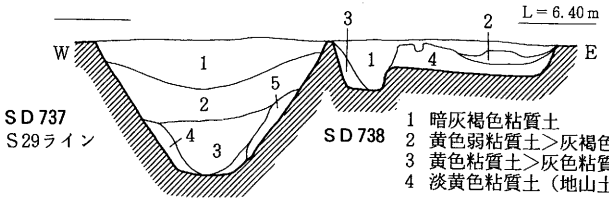
ＳＤ７５５（第77図）

Ｃ４区北端に位置し、円弧状に延びる溝である。最大幅1.9ｍ、深さ95㎝を測り、底面はほぼ平坦で壁は急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器坏・甕、須恵器の坏身・坏蓋・壺などが出土している。



1 淡黄(灰)褐色弱粘質土
2 淡黄褐色弱粘質土
3 黄灰褐色粘質土（炭粒微量含む）
4 淡褐黄色弱粘質土
5 淡灰色砂質土
6 淡黄灰色砂質土

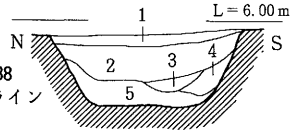




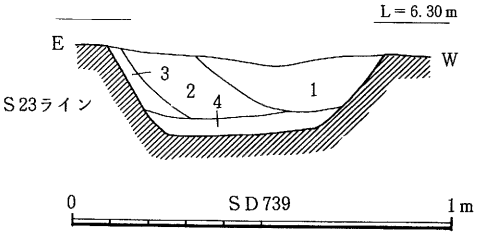
1 暗灰褐色粘質土
2 黄色弱粘質土＞灰褐色弱粘質土
3 黄色粘質土＞灰色粘質土
4 淡黄色粘質土（地山土に類似）

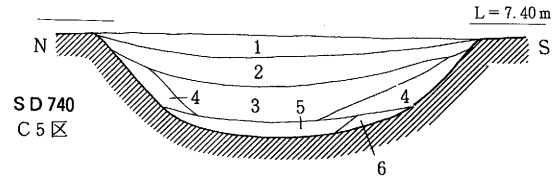


1 暗灰褐色粘質土（褐色土小ブロック多量含む）
2 灰褐色粘質土（炭粒少量含む）
3 灰色粘質土
（淡黄色粘質土小ブロック多量含む）
4 灰色粘質土＋淡黄色粘質土
5 淡黄灰色弱粘質土
（地山土を含む）

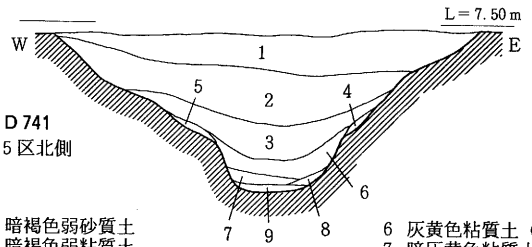


1 淡黄灰褐色弱粘質土
2 淡茶褐色弱粘質土（黄色土ブロック少量含む）
3 淡茶褐色弱粘質土（黄色土ブロック多量含む）
4 淡黄灰褐色弱砂質土
5 淡黄灰色弱砂質土

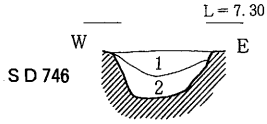




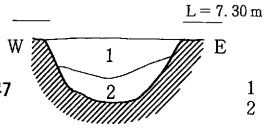
1 暗褐色弱砂質土
2 暗褐色弱砂質土（炭・焼土粒含む）
3 暗茶褐色土
4 暗茶褐色弱砂質土
5 暗茶灰色弱粘質土
6 暗茶灰色土
（淡灰黄色土小ブロック含む）



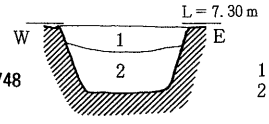
1 暗褐色弱砂質土
2 暗褐色弱粘質土
3 暗黄褐色土（黄褐色土ブロック含む）
4 黄褐色弱砂質土
5 淡灰黄褐色弱砂質土
6 灰黄色粘質土（黄褐色土含む）
7 暗灰黄色粘質土（　〃　）
8 淡灰黄色粘質土
9 灰黄色粘質土
（暗灰色粘質土、鉄分粒含む）



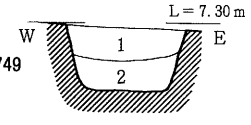
1 黄茶褐色砂質土
2 ①より黄色弱く、褐色強い



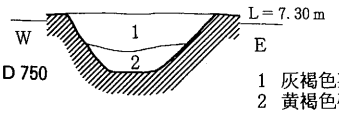
1 茶褐色砂質土
2 黄茶褐色砂質土



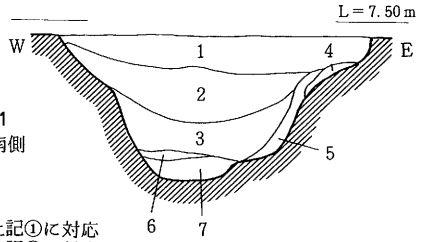
1 灰茶褐色砂質土
2 茶褐色砂質土



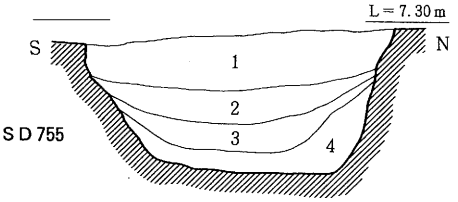
1 茶褐色砂質土
2 黄茶褐色砂質土



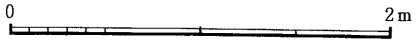
1 灰褐色茶質土（褐色強い）
2 黄褐色砂質土



1 上記①に対応
2 上記②に対応
3 上記③に対応
4 黄褐色砂質土
5 暗黄褐色砂質土
6 上記⑦に対応
7 上記⑥に対応



1 茶褐色砂質土（黄色土ブロック含む）
2 暗茶褐色砂質土
3 ②より茶褐色強い
4 茶褐色砂質土（黄色土ブロック多量含む）



第77図　第ⅢＣ区奈良時代溝実測図・土層図

（３）平安時代～江戸時代（第78図、ＰＬ.40・41）

当該期の第Ⅲ区の遺構密度は高く、第Ⅰ・Ⅱ区とは異なる集落の中心地を占める範囲である。一時期断絶があるものの、平安時代中期～江戸時代まで長期に渡る時代幅の中で掘立柱建物・池状遺構・土坑・墓・井戸・溜桝・溝などを検出している。なお、記述の上で調査区内での遺構の位置関係は第ⅢＤ区を除いた。

ａ　掘立柱建物・柵（表８）

遺構の削平が著しいためか、柱筋の並びを全て復原し得ていない掘立柱建物も存在する。掘立柱建物19棟を検討した結果、10世紀後半（平安時代中期）～16世紀初頭（室町時代後期）まで断続的に続き、途中二回の空白期間を認めることができる。出土遺物がさほど多くないため、時期判断のし難い建物も存在する。

ＳＢ７５７（第79図）

Ｃ３区の中央南寄りに位置する。桁行２間（3.32ｍ）、梁間２間（2.70ｍ）の規模を持つ建物である。柱穴の掘形は直径36～52㎝を測り、円形ないし歪な隅丸方形を呈する。柱当りは直径12～20㎝、深さ４～12㎝を測り、円形を呈する。東向きの建物と考えられ主軸方向をＮ－27°－Ｅに置き、柵と考えたＳＡ776と類似した方向を示している。遺物は一部の柱穴の掘形から弥生土器と黒色土器が微量出土しているに過ぎない。

ＳＢ７５８

調査区の中央Ｃ３区の南寄りに位置する。桁行２間（3.53ｍ）、梁間１間（2.24ｍ）の規模を持つ建物である。建物の機能時期は不明確であるが、建物の方向性等が類似することから12世紀前半と判断した。

ＳＢ７５９（第79図、ＰＬ.43）

調査区の東半北寄りに位置し、後世の削平のためか南東側の柱並びの不明な部分が多い。桁行４間（7.71ｍ）、梁間５間（8.55ｍ）を測り、面積65.9㎡で第Ⅲ区の中では規模の大きな建物である。柱穴の掘形は直径18～58㎝を測り、不揃いである。柱当りは直径12～32㎝、深さ４～22㎝を測り、円形を呈する。南向きの建物と考えられ主軸方向をＮ－77°－Ｅに置く。柱穴から土師器の椀・Ⅲ、黒色土器Ａ類椀が出土している。

ＳＢ７６０（第79図、ＰＬ.43）

ＳＢ759に重複して位置し、ＳＢ759より後出するものと考えられる。南側の柱並びの不明な部分が多い。規模は桁行２間（5.61ｍ）、梁間３間（6.26ｍ）である。柱穴の掘形は直径20～47㎝を測り、やや不揃いである。南向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－74°－Ｗに置く。柱穴から須恵器の壺、黒色土器Ａ類椀が出土している。遺物から10世紀末～11世紀初頭に機能した建物と判断した。

ＳＢ７６１（第79図、ＰＬ.42）

調査区の東端に位置する。規模は桁行３間（5.90ｍ）、梁間２間（3.82ｍ）である。柱穴の掘形は直径24～46㎝、深さ10～34㎝である。東向きの建物と考えられ主軸方向をＮ－23°－Ｗに置き、同時期と考えたＳＢ760と直交する方向性を示している。遺物は土師器Ⅲ・椀、黒色土器Ａ類椀などが出土している。なお、ＳＢ761は柱筋の並びから西側に接して、東西３間、南北４間分の間取りが考えられる（付図３ＳＢ775）が、図上の復原であり判然としない。

ＳＢ７６２（第80図）

調査区の西端南側で本集落の立地する微高地の西端に位置する。ＳＢ764と重複し、ＳＸ852より後出する。柱筋の並びを全て確認できなかったが、桁行３間（4.76ｍ）、梁間２間（4.23ｍ）の規模を持つ建物である。東向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－０°－Ｗに置く。遺物から建物の機能していた時期が判然としないが、少なくとも13世紀前半～中頃にかけて埋没したものと考えられる。



第78図　第ⅢＣ区平安～江戸時代主要遺構全体図

ＳＢ７６３

調査区の西半Ｃ２区の南端に位置し、大半は南側調査区外に延びるものと考えられる。ＳＸ853より後出する。桁行３間（4.38ｍ）、梁間は不明である。柱穴の掘形は直径25～32㎝、柱当りは直径15～22㎝、12～40㎝を測り円形を呈する。南向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－２°－Ｅに置く。遺物は柱穴の柱当りから鎌倉時代中期（13世紀初頭）の瓦器鉢が出土している。

ＳＢ７６４（第80図）

調査区の西端南側で本集落の立地する微高地の西端に位置し、大半は南側調査区外に延びるものと考えられる。ＳＢ762と重複する。桁行３間（4.50ｍ）、梁間１間（1.70ｍ）以上を測る。南向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－90°－Ｗに置く。遺物は柱穴の掘形から鎌倉時代中期（13世紀中頃）の土師器皿、瓦器椀などが少量出土している。

ＳＢ７６５（ＰＬ.42）

調査区の西半Ｃ２区の南寄りに位置し、ＳＤ889を削り込む。桁行１間（4.04ｍ）、梁間２間（3.22ｍ）を測る。桁行方向の柱間が開き過ぎることから、本来礎石が伴っていた可能性も考えられる。東向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－24°－Ｅに置く。遺物は柱穴の掘形から13世紀前半と考えられる土師器皿などが少量出土しているに過ぎない。

ＳＢ７６６（ＰＬ.42）

ＳＢ765の北側に位置する。遺構の重複が著しく判然としない部分も存在するが、落ち込み状遺構よりは新しい。規模は桁行２間（3.42ｍ）、梁間２間（3.17ｍ）を測る。主軸方向をＮ－24°－Ｅに置く。遺物は柱穴の掘形から鎌倉時代中期（13世紀前半）と考えられる瓦器椀などが少量出土しているに過ぎない。

ＳＢ７６７（第80図、ＰＬ.42）

調査区の西半Ｃ２区の中央に位置する。遺構の重複が著しく柱筋の並びの判然としない部分も存在するが、落ち込み状遺構・ＳＤ886よりは新しい。規模は桁行４間（6.64ｍ）、梁間３間（4.01ｍ）を測る。梁間方向の西端柱間が他に比べ狭いことから、西庇の建物と考えられる。柱穴の掘形は直径20～36㎝、柱当りは直径10～18㎝、８～46㎝を測り、大半が円形を呈している。東向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－25°－Ｅに置く。遺物は柱穴の掘形から13世紀中頃の土師器の皿・土釜、瓦器椀などが、柱当りから13世紀後半の瓦器椀などが出土している。

ＳＢ７６８（ＰＬ.42）

ＳＢ767の南東側に位置する。ＳＢ767と同様に落ち込み状遺構・ＳＤ886よりは新しい。桁行３間（5.02ｍ）、梁間１間（1.46ｍ）を測る。主軸方向をＮ－27°－Ｅに置く。遺物は柱穴の掘形から土師器の皿・土釜、瓦器椀などが、柱当りから土師器皿・土釜、瓦器椀、須恵質捏鉢などが出土している。遺物の内容と主軸方向の類似性からＳＢ767と同時併存していたものと考えられる。

ＳＢ７６９（第81図、ＰＬ.43）

Ｃ３区の東端に位置し、柱並びの不明な部分が多い。桁行５間（7.79ｍ）、梁間５間（7.17ｍ）の規模を持つ建物である。柱穴の掘形は直径17～34㎝、柱当りは直径10～18㎝、８～47㎝を測り、大半が円形を呈している。桁行方向の東端の柱間が他に比べ狭いことから、東庇の建物と考えられる。柱筋の並びを揃わない状態で復原しているため、幾つかの小規模の建物の存在も考えることができる。南向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－53°－Ｗに置く。遺物は柱穴の掘形から13世紀後半の土師器土釜、瓦器椀・皿などが、柱当りから13世紀末～14世紀初頭の土師器皿・土釜、瓦器椀などが出土している。

ＳＢ７７０（第80図）

調査区の東半Ｃ４区の北端に位置する。柱並びの不明な部分が多いが、桁行３間（4.14ｍ）、梁間２間（3.74ｍ）の規模を持つ建物である。東向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－20°－Ｅに置く。柱穴から13世紀中頃の土師器皿、瓦器椀が出土している。

ＳＢ７７１（第82図、ＰＬ.42）

調査区の中央Ｃ３区の中央に位置する。柱筋があまり揃わないが、桁行４間（8.04ｍ）、梁間３間（6.00ｍ）の規模を持つ建物である。南向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－69°－Ｗに置く。柱筋が最も揃う中央の２間×２間が本来の建物身舎になる可能性も考えられる。柱穴からの遺物は極微量であるが、ＳＢ772に先行する建物で、15世紀後半のＳＤ906とＳＧ781によって区画されるものと考えられる。

ＳＢ７７２（第82図、ＰＬ.42）

ＳＢ771に重複して位置し、後出する建物である。柱並びの不明な部分が多いが、桁行４間（9.15ｍ）、梁間４間（7.36ｍ）の規模を持つ建物である。復原した建物の柱筋をそのまま計算すると、面積67.3㎡と第Ⅲ区で最大規模となる。南向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－63.5°－Ｗに置く。ＳＢ771と同様に柱穴からの遺物は極微量であるが、15世紀末～16世紀初頭と考えられるＳＤ907・909とＳＧ782によって区画されるものと考えられる。また、ＳＥ871もＳＢ771・772の建替えに伴い作り直されたものである。

ＳＢ７７３

調査区の中央Ｃ３区のＳＢ771・772の南西側に位置する。規模は調査区外南側に延びる可能性もあるが、現状として桁行２間（4.26ｍ）、梁間２間（3.74ｍ）である。主軸方向をＮ－62°－Ｗに置き、ＳＢ772に類似した方向性を示している。

ＳＢ７７４（第81図、ＰＬ.43）

調査区の東半Ｃ４区北東部に位置する。桁行４間（7.56ｍ）、梁間３間（6.29ｍ）の規模を持つ建物である。柱穴20箇所の内、七箇所に据石が、二箇所に根石が認められる。桁行方向の東端の柱間が他に比べ狭いことから、東庇の建物と考えられる。南向きの建物と考えられ、主軸方向をＮ－66.5°－Ｗに置く。柱穴の遺物から時期を断定することができないが、ＳＢ774を区画する位置に存在するＳＧ783・784から15世紀後半～16世紀前半の中で考えることができる。

その他、Ｃ２区の中央で重複の著しい多数の柱穴を確認しているが、上記した以外の柱筋の並びを捉えるまでには至らなかった。また、Ｃ３区やＣ５区の掘立柱建物を検出した周辺にも数多くの柱穴が存在しているため、確認し得た建物以上の棟数が存在していたものと思われる。

ＳＡ７７６

ＳＢ757の南東側にほぼ並行して位置し、２間（2.76ｍ）の規模である。柱穴の規模、ＳＢ757との柱間寸法の違い、位置関係からＳＢ757に併存した施設と判断した。軸方向をＮ－23.5°－Ｅに置く。

ＳＡ７７７

ＳＢ769の南東側にほぼ並行して位置し、ＳＤ898に削られる。南西から北東に延び、３間（6.63ｍ）以上の規模が考えられる。軸方向をＮ－42°－Ｅに置く。

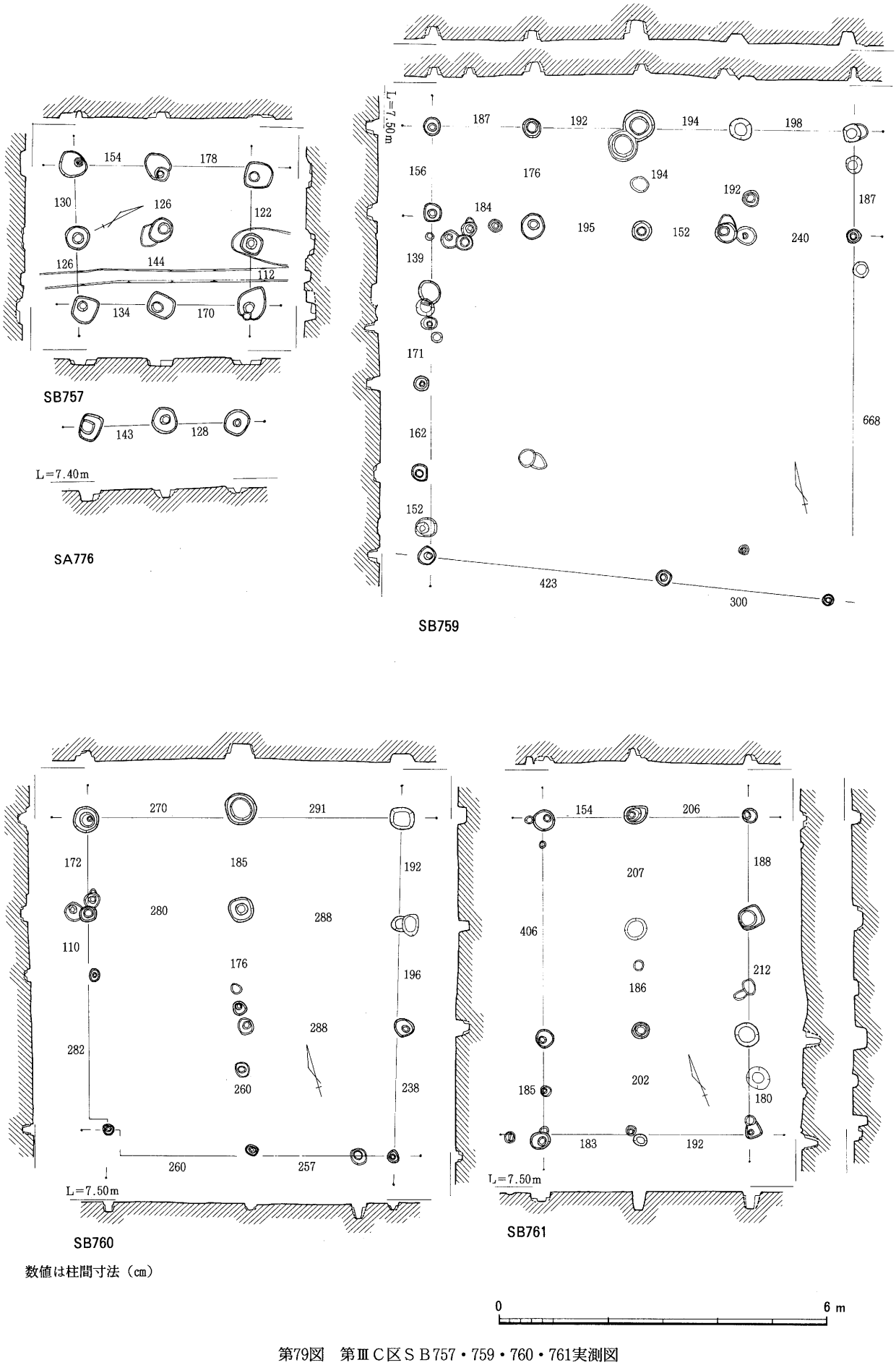
ＳＡ７７８

ＳＢ771・772の北西側に並行して位置する。南西から北東に延び、２間以上の規模が考えられる。軸方向をＮ－32.5°－Ｅに置く。遺物から時期を断定することはできないが、軸方向の同一性からＳＢ773を含めた範囲を画するものと考えられる。

掘立柱建物	規模			柱穴					主軸方位	備考
	間×間	東西（cm）	南北（cm）	掘形（cm）		柱当り（cm）				
	面積（㎡）	（尺）	（尺）	直径	深さ	直径	深さ			
SB 756	3間×2間 12.8	桁行　400 13.2	梁行　320 10.6	20	16～18	12～26	13～28		N－71°－W	南向き
SB 757	2間×2間 9.0	梁行　270 8.9	桁行　332 11.0	36～52	6～15	12～20	4～12		N－27°－E	東向き
SB 758	1間×2間 7.9	梁行　224 7.4	桁行　353 11.7	15～34	16～34	14～20	9～28		N－29°－E	東向き
SB 759	4間×5間 65.9	桁行　771 25.4	梁行　855 28.2	18～58	13～36	12～32	4～22		N－77°－E	南向き
SB 760	2間×3間 35.1	桁行　561 18.5	梁行　626 20.7	20～47	10～47	8～22	4～30		N－74°－W	南向き
SB 761	2間×3間 22.5	梁行　382 12.6	桁行　590 19.5	24～46	10～34	12～30	6～28		N－23°－W	東向き
SB 762	2間×3間 20.1	梁行　423 14.0	桁行　476 15.7	20～33	32～46	10～21	26～40		N－0°－E	東向き
SB 763	3間×（1間以上） （？）	桁行　438 14.5		25～32	24～42	15～22	12～40		N－2°－E	南向き
SB 764	3間×（1間以上） （7.7）	桁行　450 14.9	梁行　（170） （5.6）	20～40	36～44	13～22	28～36		N－90°－W	南向き
SB 765	2間×1間 13.0	梁行　322 10.6	桁行　404 13.3	26～34	30～41	15～18	28～37		N－24°－E	東向き
SB 766	2間×2間 10.8	梁行　317 10.5	桁行　342 11.3	24～40	24～40	14～22	18～34		N－24°－E	東向き
SB 767	3間×4間 26.6	梁行　401 13.2	桁行　664 21.9	20～36	20～54	10～18	8～46		N－25°－E	西庇 東向き
SB 768	1間×3間 7.3	梁行　146 4.8	桁行　502 16.6	26～56	30～59	14～24	25～50		N－27°－E	東向き
SB 769	5間×5間 55.9	桁行　779 25.7	梁行　717 23.7	17～34	20～51	10～18	8～47		N－53°－W	変形 南向き
SB 770	2間×3間 15.5	梁行　374 12.3	桁行　414 13.7	21～52	16～36	10～27	10～30		N－20°－E	東向き
SB 771	4間×3間 48.2	桁行　804 26.5	梁行　600 19.8	18～38	8～40	9～18	6～35		N－69°－W	南向き
SB 772	4間×4間 67.3	桁行　915 30.2	梁行　736 24.3	18～52	11～24	10～18	6～22	据石2	N－63.5°－W	変形 南向き
SB 773	2間×2間 15.9	桁行　426 14.1	梁行　374 12.3	28～36	14～26	12～24	10～20		N－62°－W	南向き
SB 774	4間×3間 47.6	桁行　756 25.0	梁行　629 20.8	22～48	4～44	12～28	7～42	根石2 据石7	N－66.5°－W	東庇 南向き

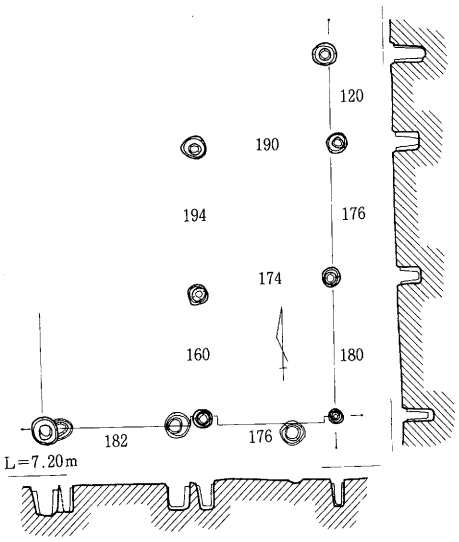
（　）付は現存規模、1尺＝30.3cmで計算

表8　第ⅢC区平安時代～室町時代掘立柱建物規模一覧

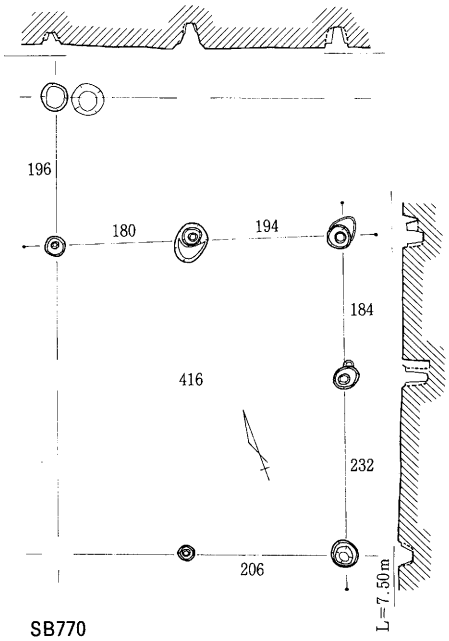


数値は柱間寸法（cm）

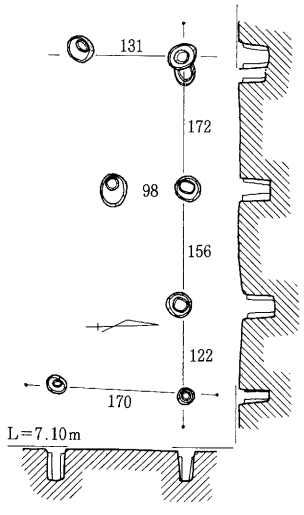
第79図　第ⅢＣ区ＳＢ757・759・760・761実測図



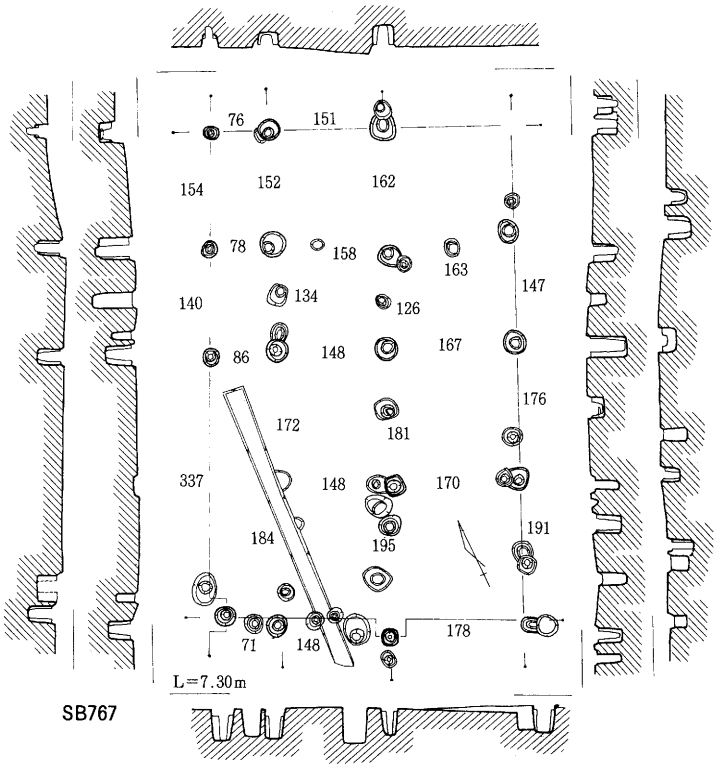
SB762



SB770

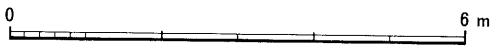


SB764

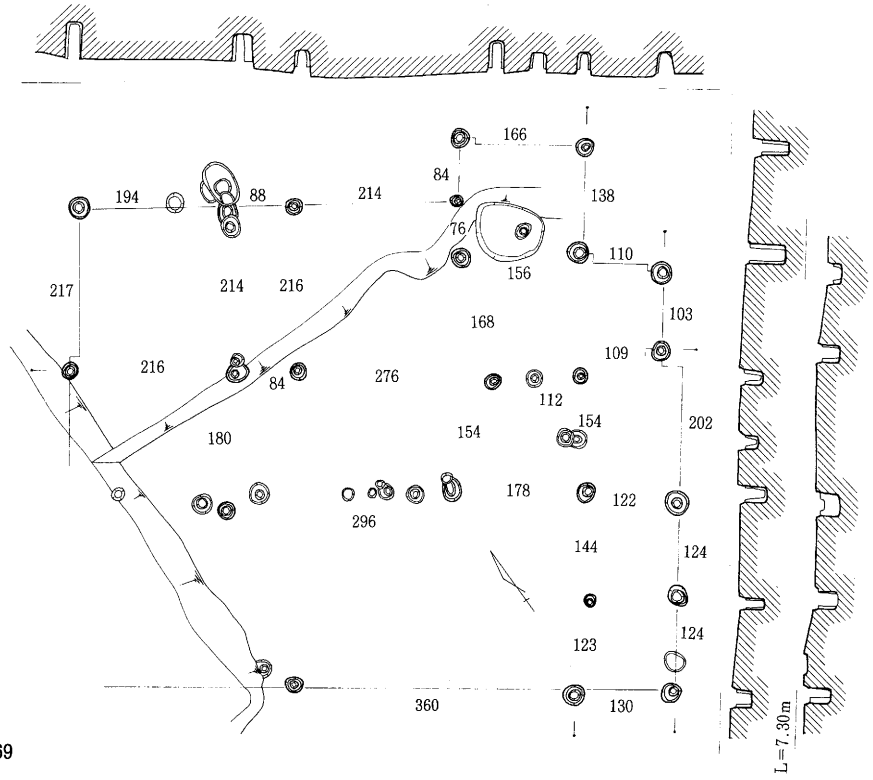


SB767

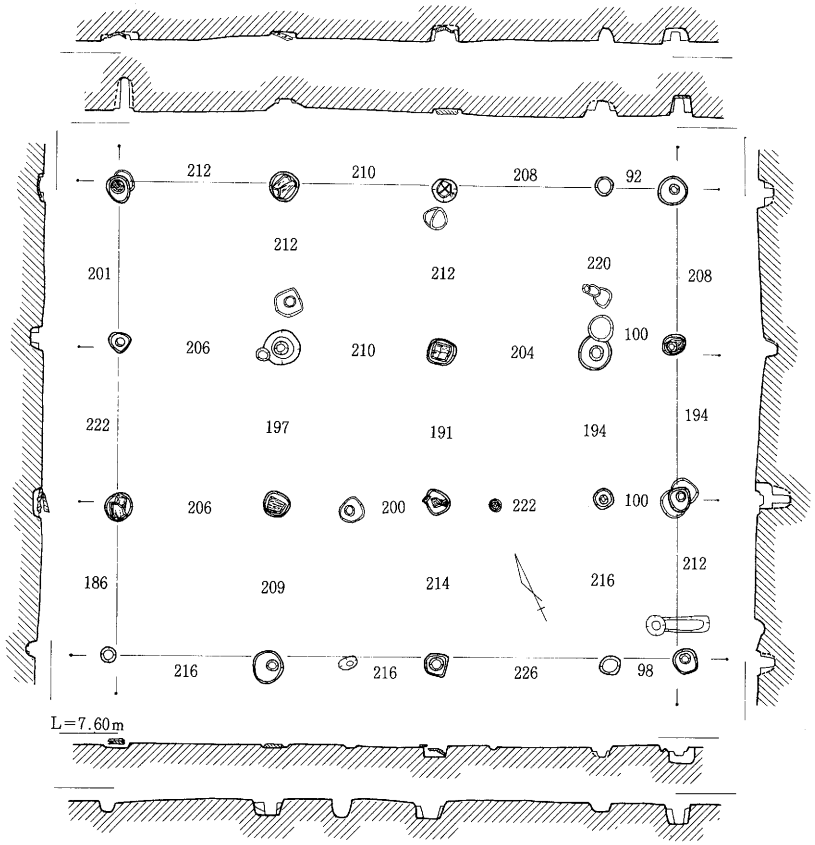
数値は柱間寸法（cm）



第80図　第ⅢＣ区ＳＢ762・764・767・770実測図



SB769

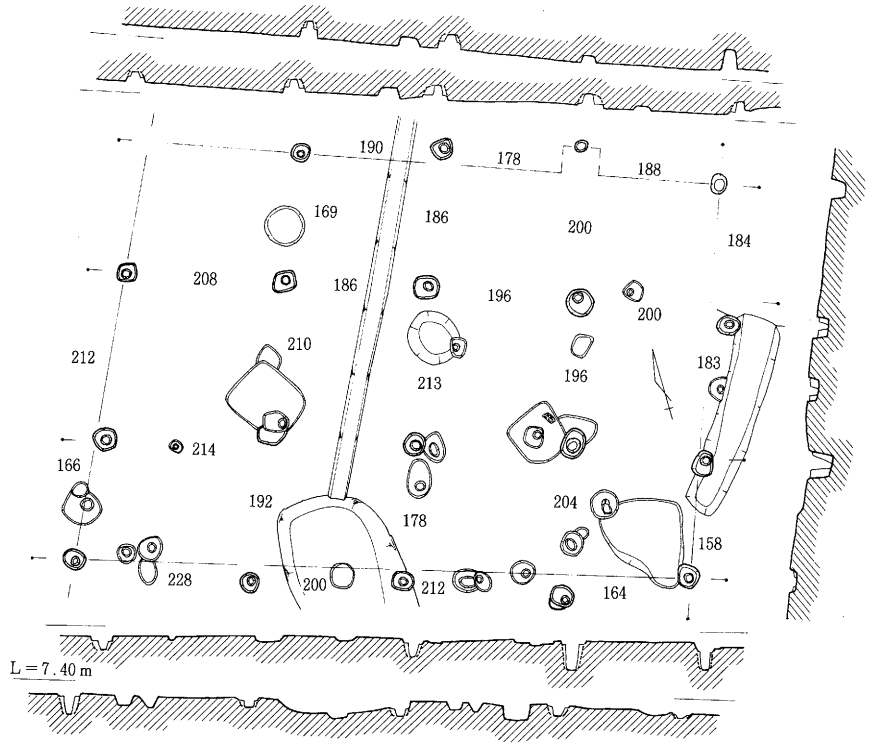


SB774

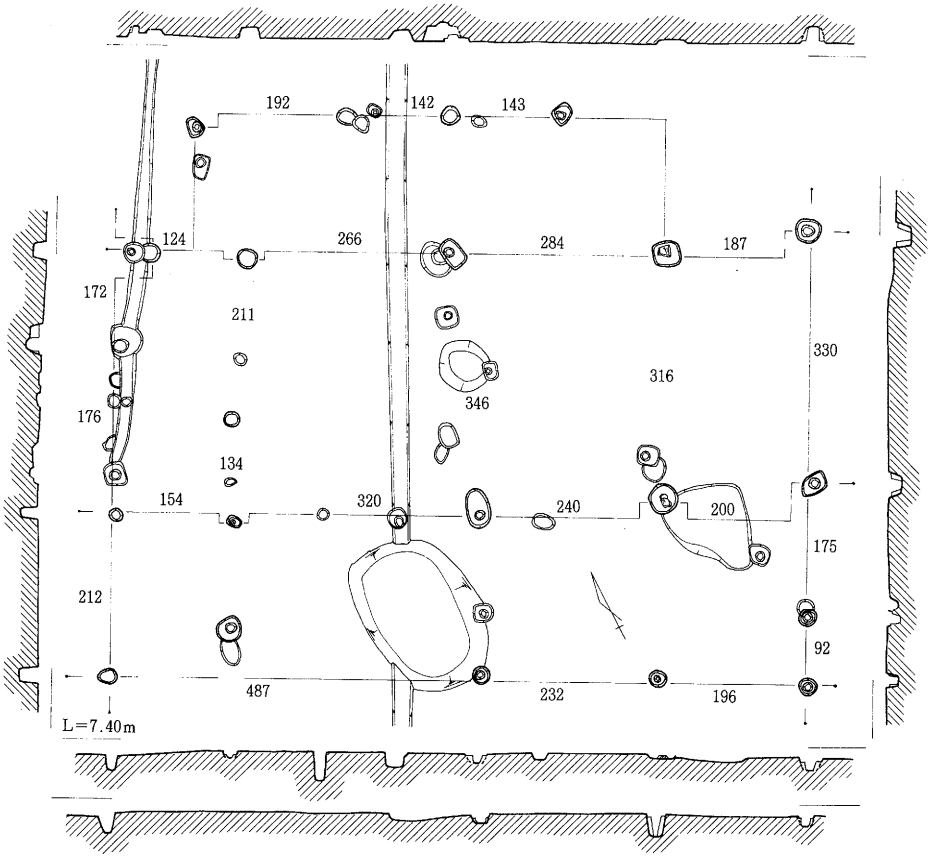
数値は柱間寸法（cm）

0　6 m

第81図　第ⅢＣ区ＳＢ769・774実測図



SB771

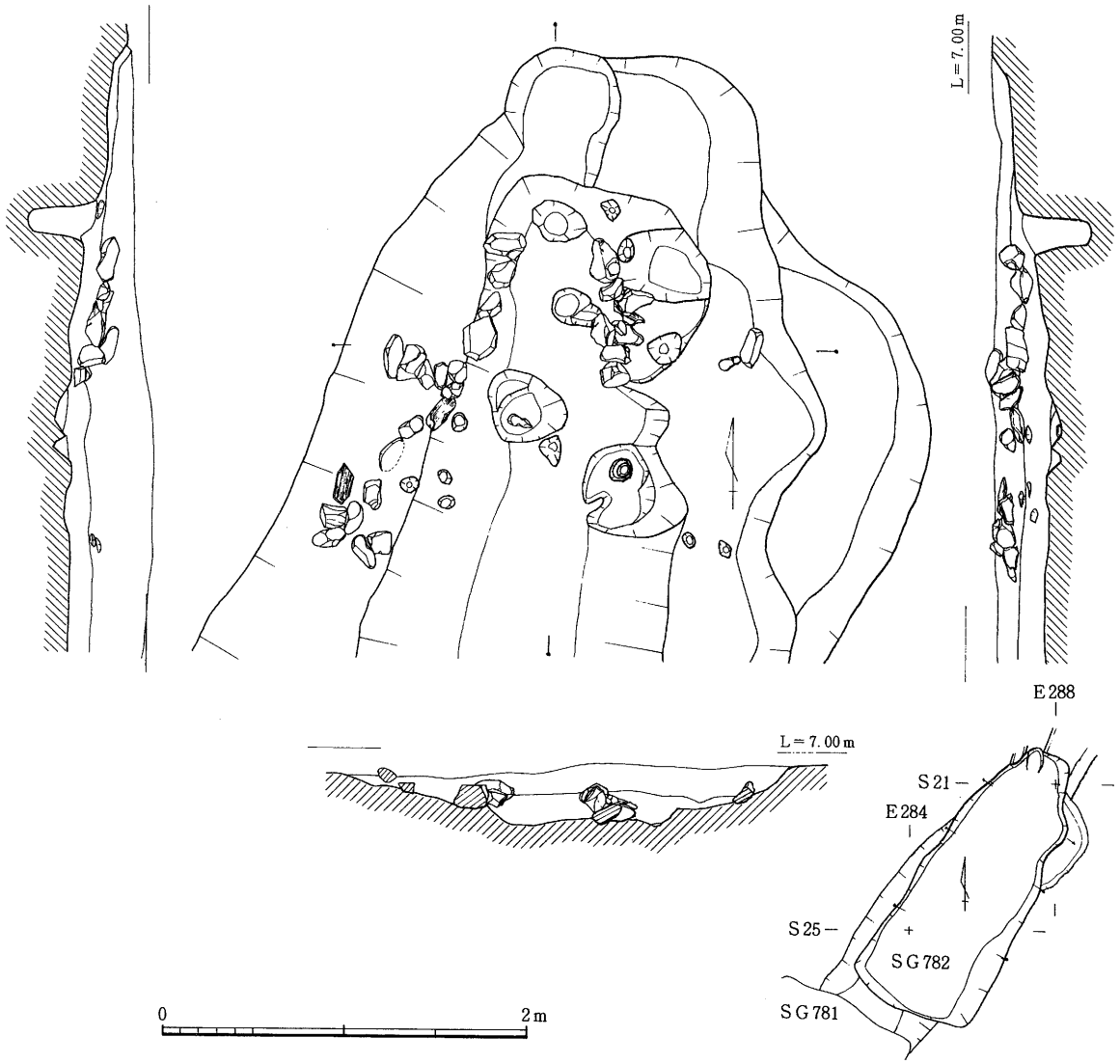


SB772

数値は柱間寸法（cm）

0　6 m

第82図　第Ⅲ C区ＳＢ771・772実測図



第83図　第ⅢＣ区ＳＧ782実測図

ｂ　池状遺構

池状遺構は各建物の屋敷地を区画する溝と共に建物の外側に存在する。作り替えを含めて４基検出した。

ＳＧ７８１（ＰＬ.44）

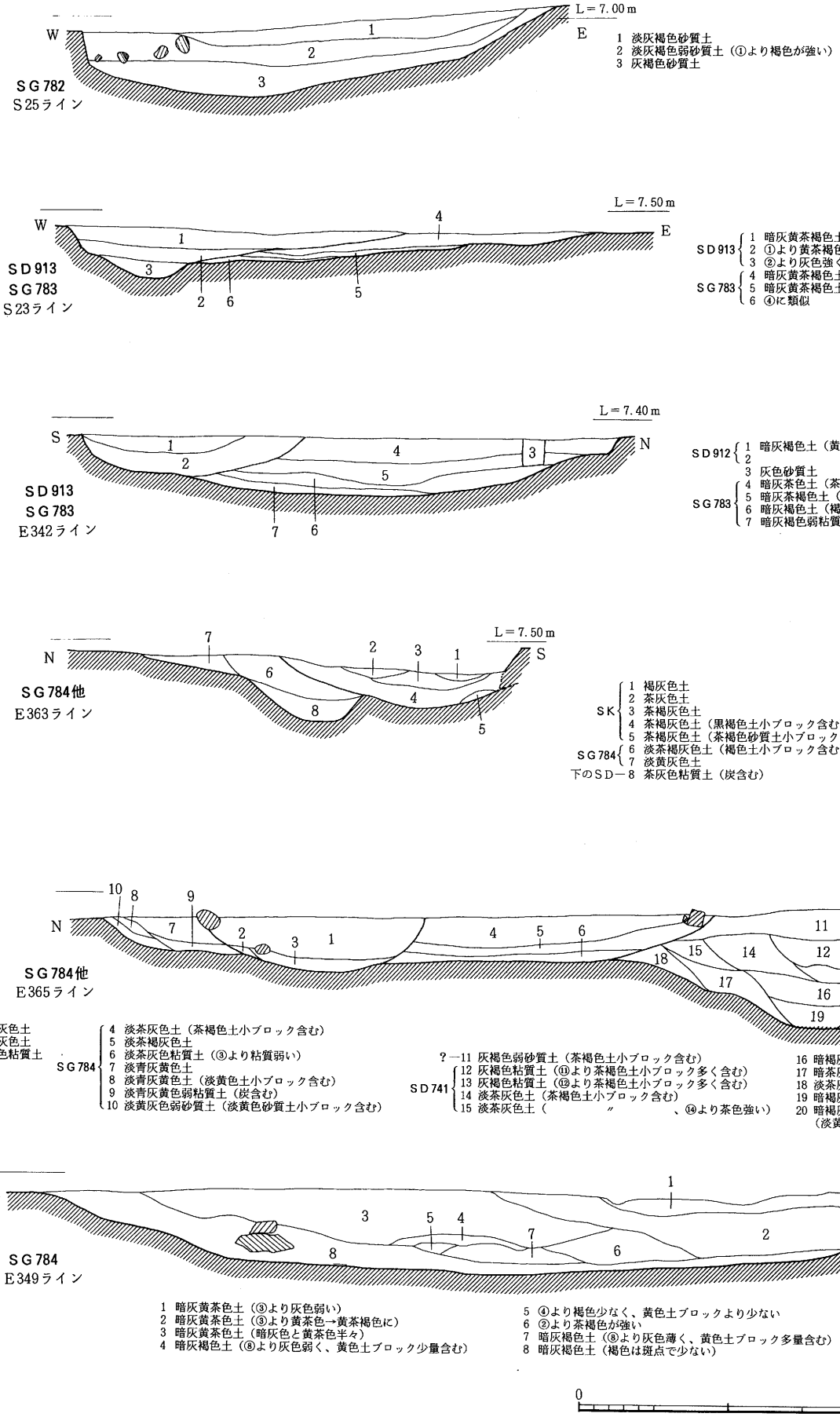
ＳＧ782に先行する施設で、遺構の位置関係からＳＢ771に伴い、ＳＤ906に付随するものと考えられる。ＳＫ814・831に削られている。遺物は土師器皿・土釜、瓦質土釜、瀬戸美濃系の香炉、丸瓦、石臼などが出土している。長軸8.2m以上、短軸3.1ｍを測り、深さはＳＧ782の削平により不明である。

ＳＧ７８２（第83・84図、ＰＬ.44）

遺構の位置関係からＳＢ772に伴い、ＳＤ907に付随すると考えられる。長軸8.28m、短軸2.9～3.36m、深さ35～60㎝を測る。ＳＧ782には特徴的な石組施設が存在する。ＳＤ907と連続するＳＧ782北側に大小の川原石を並べた状態で検出され、並びの認められる部分で幅0.6m、延長２ｍに延びる。遺物は土師器皿・土釜・蛸壺、瓦質土釜・火舎、備前焼擂鉢・甕、瀬戸美濃系おろし皿、中国製青磁碗などが出土している。

ＳＧ７８３（第84図、ＰＬ.41）

Ｃ４区東側に位置し、遺構の位置関係からＳＢ774に伴う池跡である。ＳＤ913・914に削られているが、ＳＦ876との関係は判然としない。東端の長軸5.0m、短軸3.0m、深さ55㎝の土坑状の落ち込みを中心に、



第84図　第Ⅲ C区ＳＧ782・783・784土層図

北西側にＬ字状に延びる。東側に位置するＳＧ784とは、２条の幅24㎝の溝で繋がっていたと考えられる。遺物は土師器皿・土釜、瓦質甕・捏鉢・火鉢、備前焼甕、中国製青磁碗、平瓦などが出土している。

ＳＧ７８４（第84図）

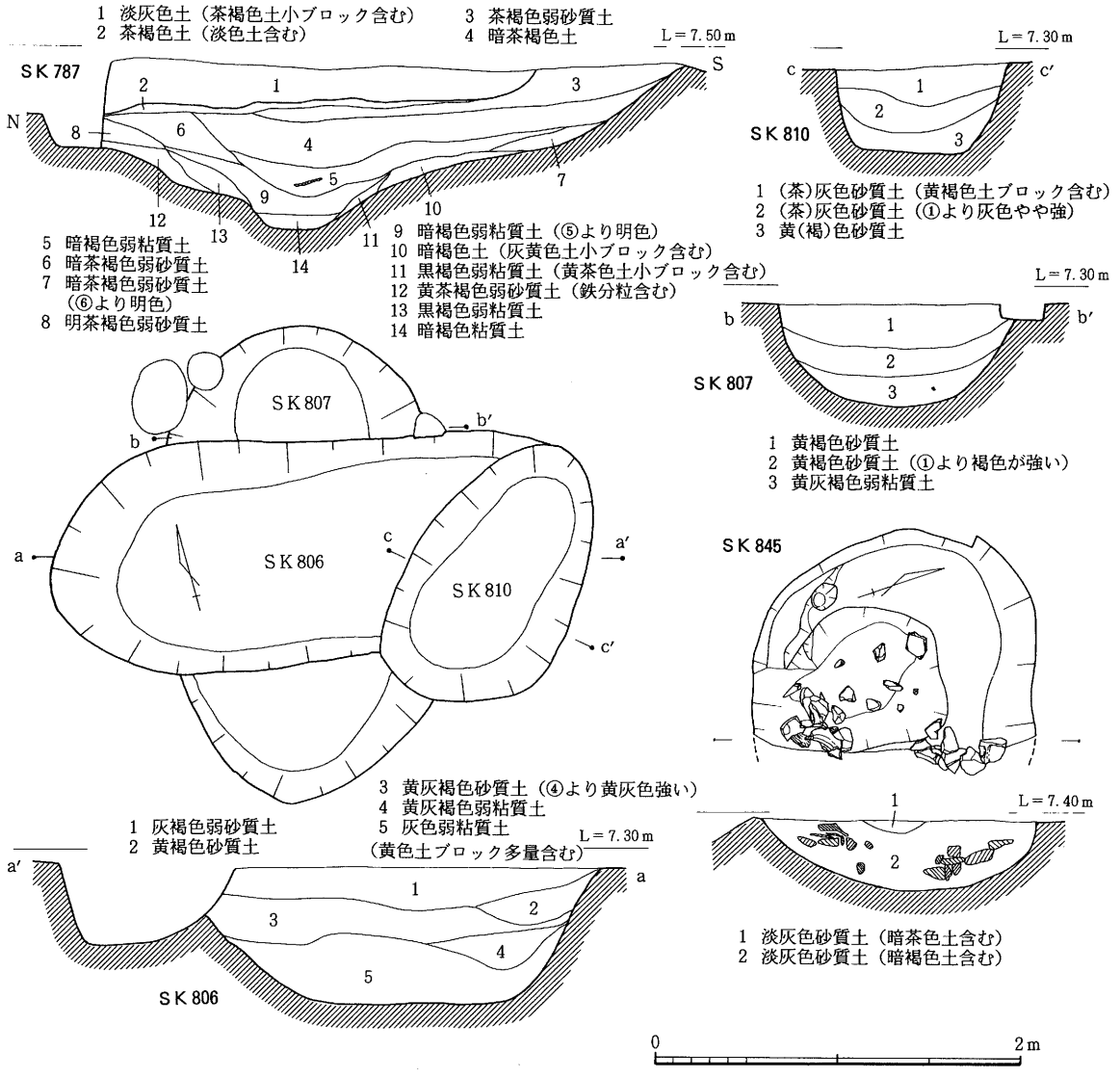
Ｃ５区南端に位置する池跡で、延長24ｍ以上に及ぶ。東西二つの池に分かれ、Ｃ４区のＳＧ783と一連の遺構と考えられる。東側の池の壁面の一部には、10～30㎝の河原石や結晶片岩が遺存している。東側の池から西側の池までは幅0.4ｍの溝で繋がり、両側に杭跡がみられる。西側の池は最大幅5.8ｍ、深さ50㎝を測る。遺物は土師器皿・土釜、瓦質湯釜、備前焼甕・擂鉢・徳利、中国製青磁碗・皿、砥石などが出土している。

ｃ　土坑

土坑は平安時代中期末（10世紀末）～江戸時代（18世紀）のもので、大小61基以上を検出した。Ｃ５区を除いて大半の土坑は同一面で検出しているが、遺構密度の多い範囲では時期を確定し得ていないものもある。

ＳＫ７８７（第85図）

調査区Ｃ５区の北東隅に位置する。ＳＤ741・885を削り込み、ＳＥ877・ＳＤ923に削られているため全容はよくわからない。幅2.7～4.5ｍ、深さ49～60㎝、全長15ｍ以上を測る不整形の土坑と判断している。



第85図　第ⅢＣ区平安～江戸時代土坑実測図

遺物は黒色土器Ａ類椀、土師器皿・椀・甕・竈、須恵器坏身・椀・壺・甕など多数が出土している。遺物の中には奈良時代のものが多くＳＤ741からの混入品と、ＳＤ741に繋がる溝があったものと考えられる。

ＳＫ７８９

調査区の西半Ｃ２区の北東隅に位置し、ＳＫ792に削られている。北側はトレンチ掘削により不明で、南北1.64～2.4ｍ以上、東西4.4ｍ以上、深さ10㎝を測る浅い土坑である。遺物は12世紀末～13世紀前半の土師器皿・高台付皿・土釜、瓦器椀・皿などが出土している。

ＳＫ７９３

Ｃ２区の東端に位置する浅い落ち込みである。ＳＤ888に削られ、ＳＸ854・855・ＳＤ886を削り込む。遺物は13世紀中頃の土師器、瓦器、白磁碗が出土している。



第86図　第Ⅲ区ＳＫ819実測図

ＳＫ７８８・７９４・７９５・７９８・８００

Ｃ２区の東寄りに位置し、ＳＢ769やＳＤ890に重複する浅い土坑群である。遺構の重複が著しく規模・時期共に不明確な部分が多い。遺物は13世紀中頃～後半を中心としたものが主体となっている。

ＳＫ７９１・７９６

Ｃ２区の中央に位置する。検出状況からはＳＢ767や落ち込み状遺構に削られることになるが、遺物の時期から判断すると逆転する可能性もある。遺物は13世紀代の土師器皿、瓦器椀などが出土している。

ＳＫ８０６・８０７・８１０（第85図）

Ｃ４区の中央西寄りに位置する。弥生・古墳時代の遺物包含層除去後の遺構面で検出しているが、出土遺物から13世紀初頭前後と判断した。検出状況から古い順にＳＫ807→806→810となるが、判然としない。

ＳＫ８１９（第86・94図、ＰＬ.44）

Ｃ４区の西端に位置する。他遺構との重複が著しいが、ＳＤ902・ＳＫ836・ＳＤ903・910に削られ、ＳＤ900を削り込む。長軸5.4ｍ、短軸1.9ｍ、深さ35～55㎝を測り、長楕円形を呈する。土坑の底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。遺物は土坑の基底部から少し離れた状態で、数百点以上の土師器皿が置かれていた。皿の大半は内面を上に向けた状態で、中には数枚が重ね置かれた箇所も見受けられた。他に、土師器の土釜・土錘、瓦質土釜、備前焼擂鉢、中国製青磁・白磁碗の小片が少量出土している。

ＳＫ８４５（第85図）

Ｃ５区のＳＥ872の埋土を削り込んで掘られた二段掘りの土坑である。直径0.8ｍ、深さ50㎝を測り、拳大の河原石が埋土に混入していた。ＳＫ845の周辺には類似した土坑が数基存在し、ＳＫ845を含めて墓壙の可能性が考えられる。遺物は土師器土釜・甕、唐津焼皿などが出土している。

ｄ　木棺墓・土壙墓・集石墓

墓と考えられるものは木棺墓・土壙墓・集石墓を含めて総数19基を検出した。これらの中には不整形で浅い土坑もあり、埋土から焼土・炭粒・骨片が多く出土していることから土壙墓と判断したものも含んでいる。逆に、土壙墓と判断したものの中には、墓と何らかの関係する土壙も含まれているものと考えられる。

ＳＸ８５１（第87図、ＰＬ.45・46）

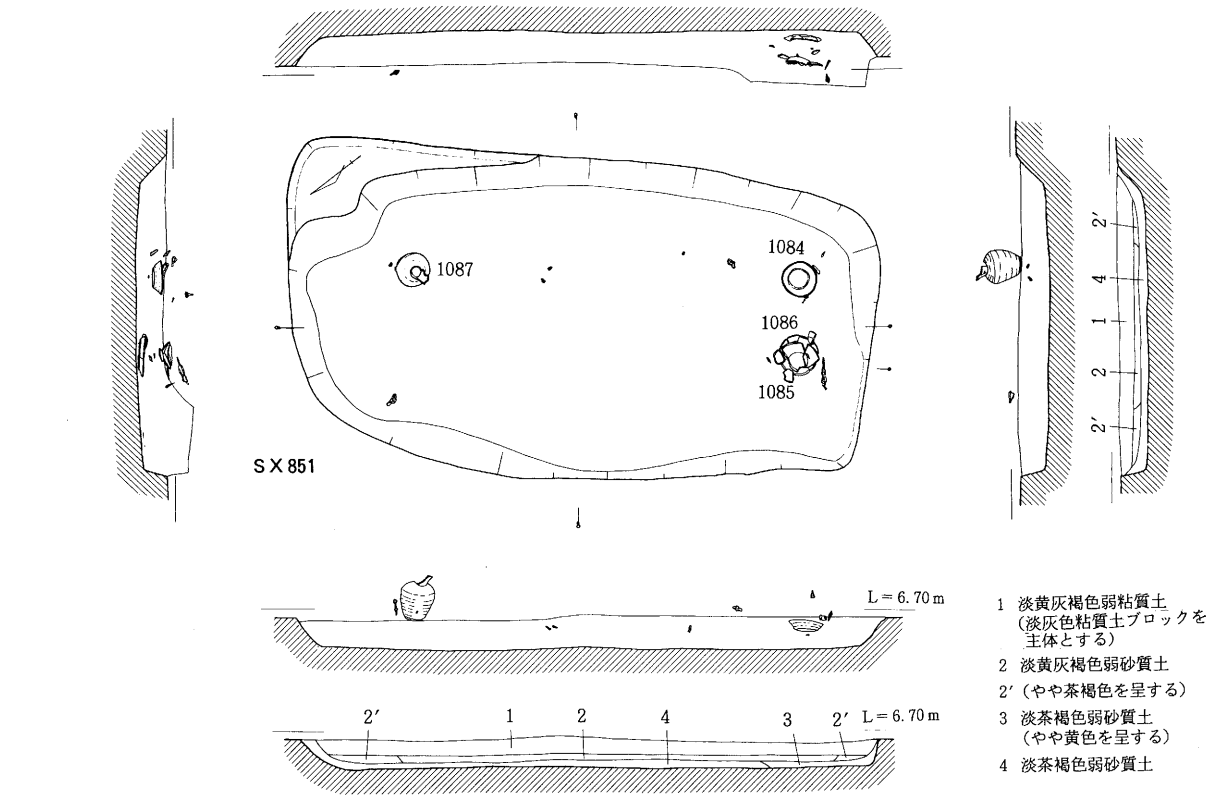
本集落の立地する微高地の西端に位置し、ＳＢ762と一部重複する。長軸2.3ｍ、短軸1.3ｍ、深さ22㎝の規模の墓壙を持ち、埋土の観察と鉄釘の出土状況から長軸1.72ｍ、短軸0.5ｍの木棺の痕跡を復原することができる。埋土の第２層が棺材の底板の痕跡と考えられる。遺物は木棺内北側で墓壙の基底部から約10㎝浮いた状態で須恵器壺が、南側で７㎝浮いたもの２点と基底部に接地した状態の土師器皿１点が出土している。鉄釘は木棺の三方の隅部分と合わせて９本が出土している。

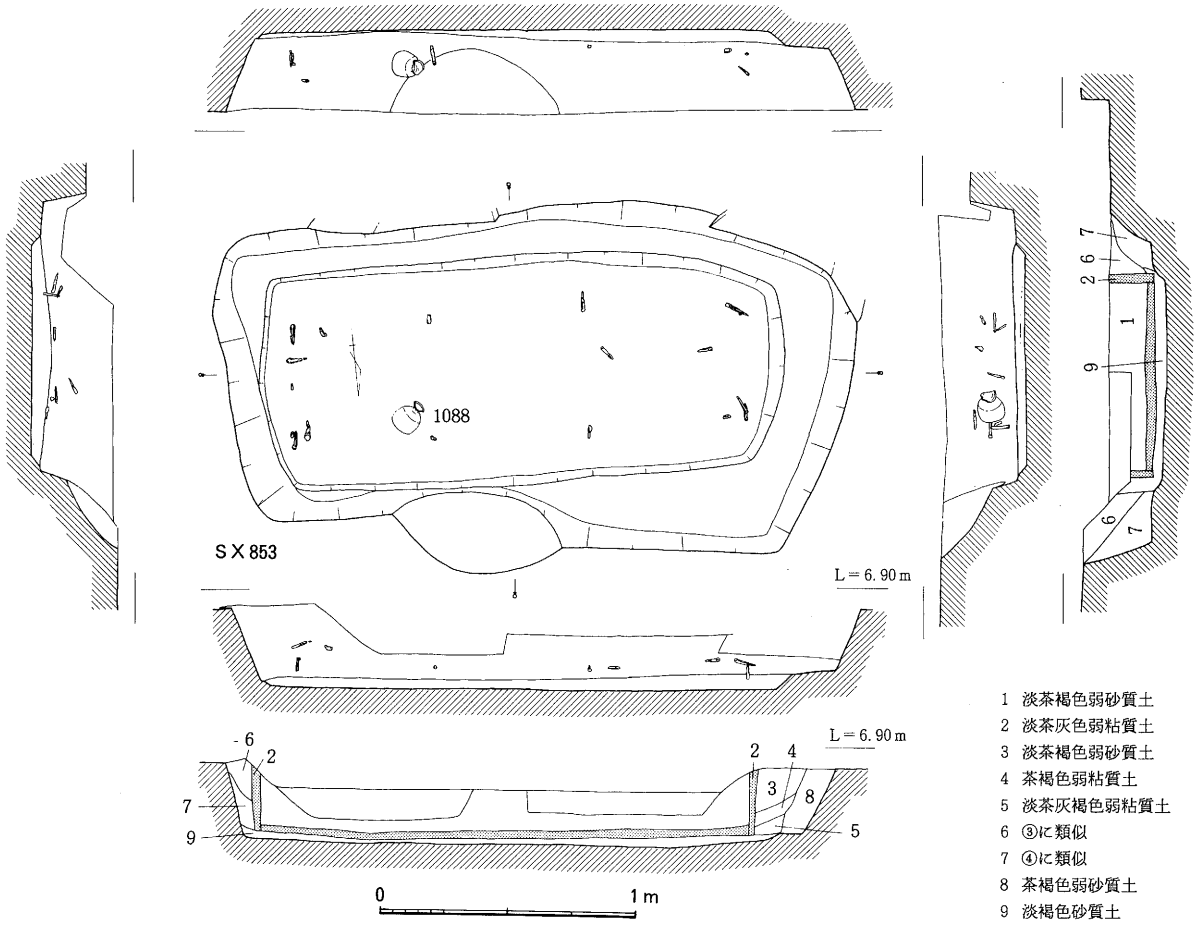
ＳＸ８５２

ＳＸ851に重複して位置する。本来、墓壙ではなく、ＳＸ851に伴う何らかの掘り込みと考えた方がよいかも知れない。遺物の出土状況から、本来、ＳＸ851はＳＸ852の埋土上面から検出できた可能性がある。

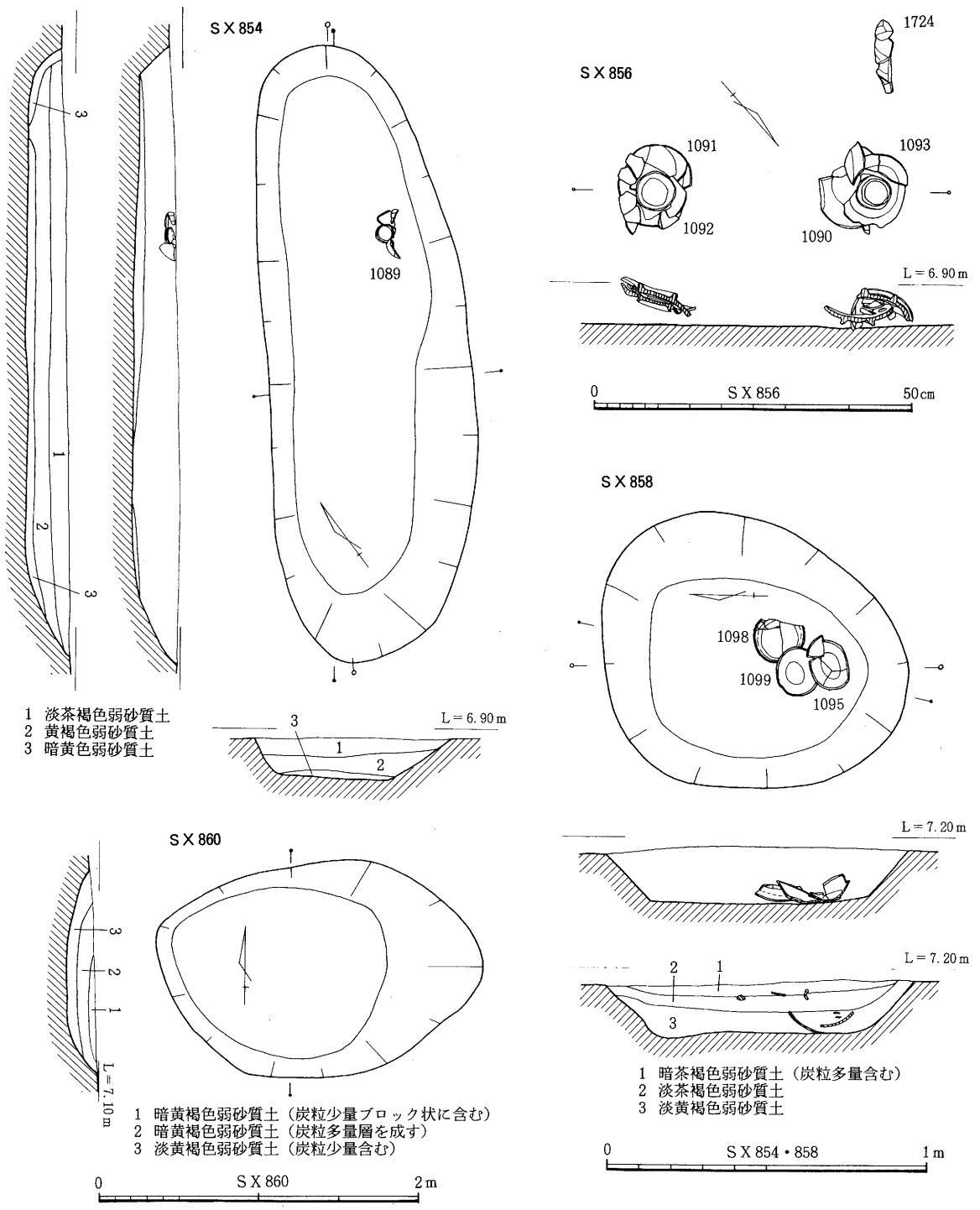
ＳＸ８５３（第87図、ＰＬ.45）

Ｃ２区の南西隅に位置し、下面遺構と共に検出する結果となった。ＳＸ853の上部に重複する土坑は、ＳＸ853に伴う土層の変化を間違って検出したものである。長軸2.5ｍ、短軸1.38ｍ、深さ30㎝の規模の墓壙を持ち、墓壙の掘り込み状況・埋土の観察と鉄釘の出土状況から長軸1.8ｍ、短軸0.5ｍ弱の木棺の痕跡を復原することができる。埋土の第２層が棺材の痕跡と考えられる。遺物は木棺内東側で墓壙の基底部から約８㎝





第87図　第Ⅲ C区ＳＸ851・853実測図



第88図　第ⅢＣ区ＳＸ854・856・858・860実測図

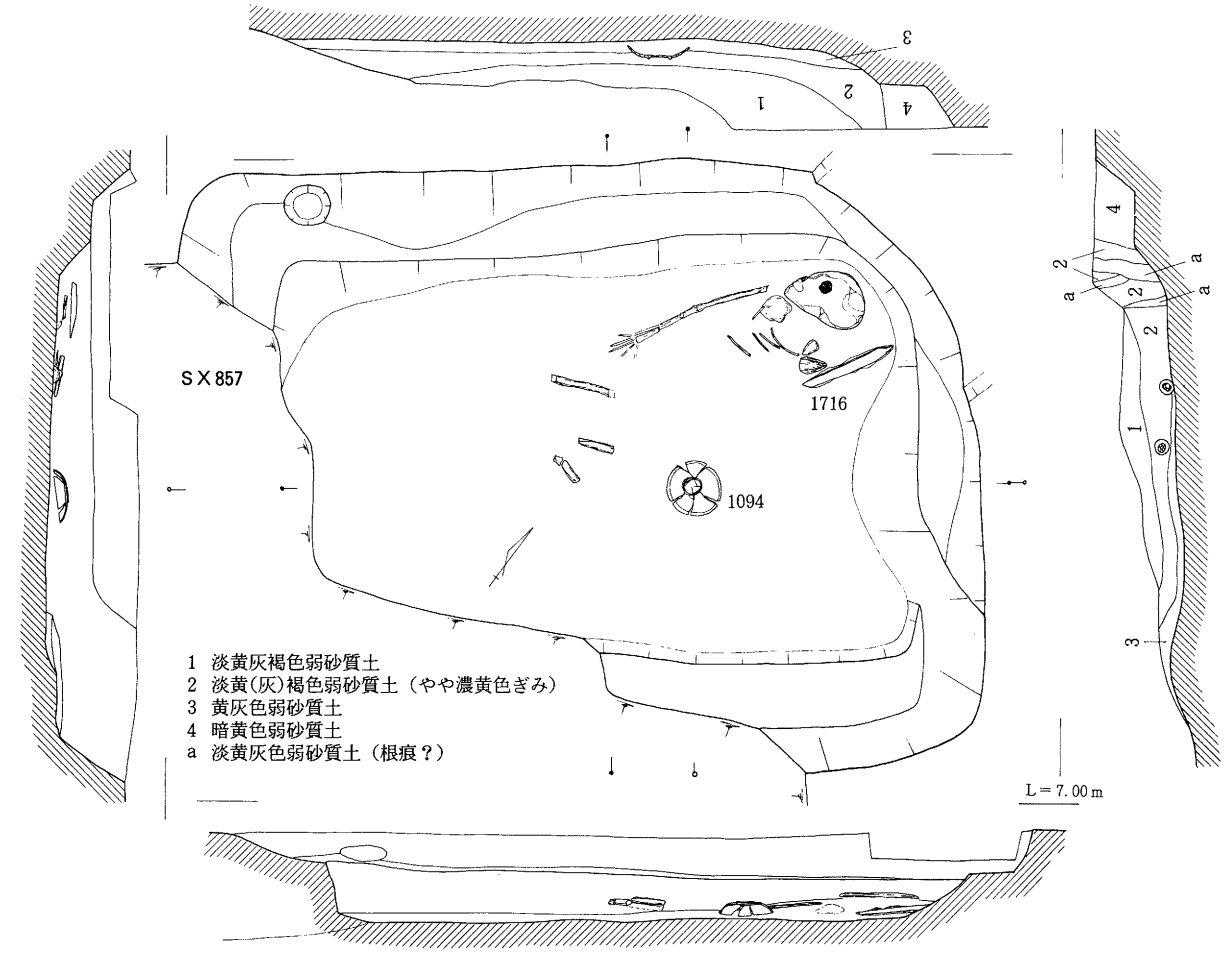
浮いた状態で須恵器壺が出土しているに過ぎない。鉄釘は木棺の四隅分と合わせて総数20本が出土している。

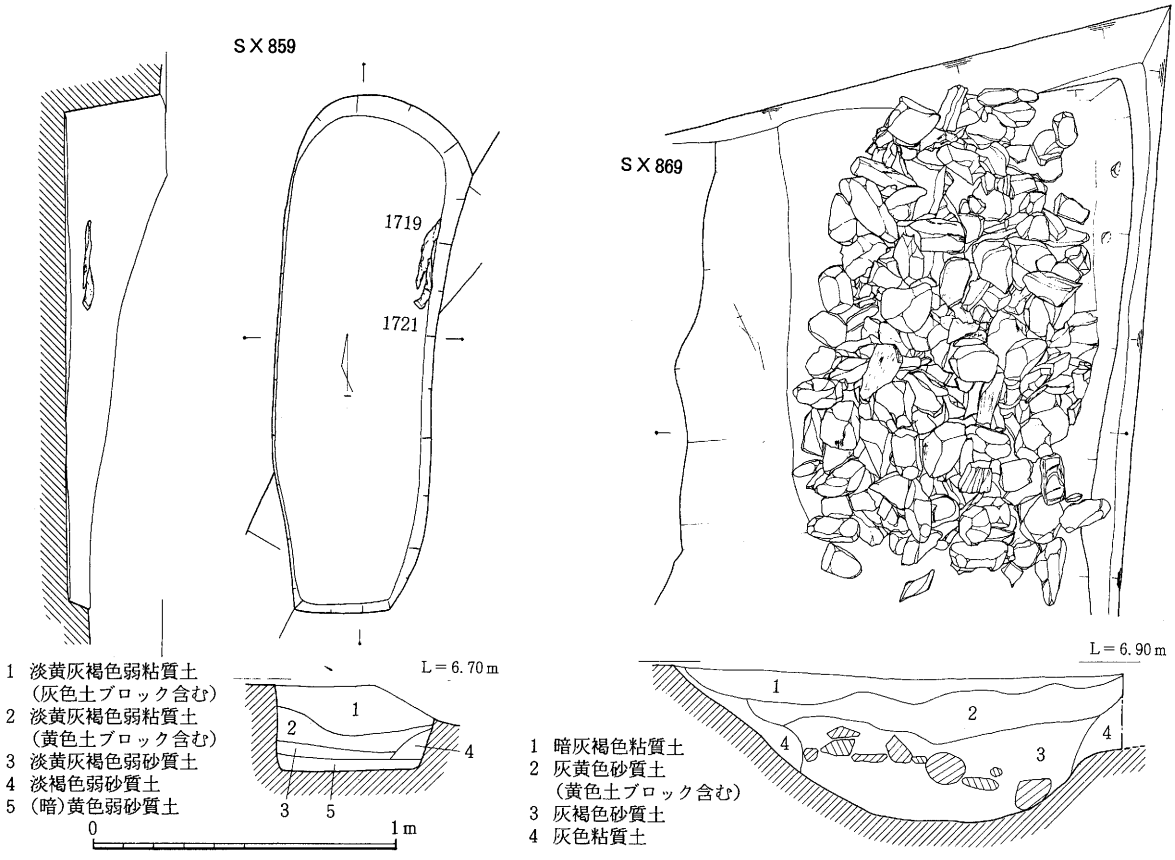
ＳＸ８５４（第88図）

Ｃ２区の南東隅に位置する。土壙の形態と遺物の出土状況から墓壙と判断した。長軸1.95ｍ、短軸0.64ｍ、深さ14㎝を測り、長楕円形を呈する。遺物は土師器椀１点が、黒色土器Ｂ類椀が破片で僅かに出土している。

ＳＸ８５５

ＳＸ854の東側に隣接して位置し、下面で検出した。ＳＸ854と同形態の墓壙である。長軸1.84ｍ、短軸0.68ｍ、深さ12㎝を測り、長楕円形を呈する。遺物は土師器の破片が僅かに出土しているに過ぎない。





第89図　第Ⅲ C区ＳＸ857・859・869実測図

ＳＸ８５６（第88図、ＰＬ.46）

ＳＢ767の北西側に位置する。ＳＸ856は中世遺構の検出面において確認されている。遺物のみが埋置された状況で出土し、墓壙の掘り込みは検出できなかった。遺物は約20㎝離れた状況で二箇所に土師器皿が内側を重ね合わせて、また、土師器の南西側に約10㎝離れて鉄鏃が置かれていた。この状況から墓と判断した。

ＳＸ８５７（第89図、ＰＬ.45）

ＳＢ768の南側に位置する。ＳＸ857の上部に重複するＳＫ799は、ＳＸ857に伴う土層の変化を間違って検出したものである。長軸2.6ｍ、短軸2.0ｍ、深さ30㎝の規模の墓壙を持ち、二段に掘り込まれることから内側の段に伴う範囲が木棺の痕跡と見做すことができる。このことから、木棺の痕跡は長軸2.1ｍ、短軸1.43ｍを測ることができる。ただ、第89図にみるように、人骨と木棺の痕跡との軸方向にずれが認められる。遺物は墓壙のほぼ中央で人骨の腰付近に瓦器椀１点が、頭の東側に小刀が埋置されていた。その他、埋土から土師器皿・土釜、瓦器椀の破片が少量出土している。

ＳＸ８５８（第88図、ＰＬ.46）

ＳＢ767の南側に位置し、ＳＤ886を削り込む。長軸1.0ｍ、短軸0.85ｍ、深さ18㎝を測り、やや歪な楕円形を呈する。遺物は墓壙の南寄りに土師器皿２点、瓦器椀１点が埋置されていた。その他、埋土から土師器皿・土釜、瓦器椀の大振りの破片が少量出土している。

ＳＸ８５９（第89図、ＰＬ.44）

Ｃ２区の北西隅に位置し、下面遺構と共に検出する結果となった。長軸1.72ｍ、短軸0.6ｍ、深さ34㎝を測り、隅丸長方形を呈する。遺物は墓壙の北寄りの東壁に接して、鉄鎌・鉄製刀子が出土している。

ＳＸ８６０（第88図）

本集落の立地する微高地の西端に位置する。長軸2.08ｍ、短軸1.34ｍ、深さ20㎝を測り、やや歪な楕円形を呈する。埋土に多量の炭粒が混じっている。遺物は鎌倉時代の土師器皿、瓦器椀が少量出土している。

ＳＸ８６１

Ｃ１区の南東隅に位置する。形態から墓壙と判断した。墓壙は長軸1.16ｍ、短軸0.52ｍ、深さ10㎝を測り、やや歪な長方形を呈する。遺物は弥生土器の小片が微量出土しているに過ぎない。

ＳＸ８６２～８６４

ＳＸ862・863・864はＣ４区の中央にまとまって位置する。これらの土壙は、形態と埋土の堆積状況から土壙墓と考えられる。ＳＸ862は長軸1.1ｍ、短軸0.7ｍ、深さ10㎝を測り、平面形が歪な隅丸長方形を呈する。遺物は11世紀前半を中心とした土師器皿・土釜、瓦器椀、須恵器壺・甕などが少量出土している。

ＳＸ863は長軸0.8ｍ、短軸0.7ｍ、深さ10㎝を測り、平面形が歪な方形を呈する。遺物は平安時代（11世紀前半）の土師器皿、須恵器甕と共に13世紀中頃の瓦器椀などが少量出土している。

ＳＸ864はＳＫ818と重複して位置する。長軸1.7ｍ、短軸1.1ｍ、深さ12㎝を測り、やや歪な楕円形を呈する。遺物はＳＸ863と同様に平安時代の土師器甕と共に瓦器の破片、骨片などが出土している。

ＳＸ８６５～８６８

ＳＸ865～868はＣ５区南西部でＳＧ784・ＳＥ872に重複して位置する。集石遺構で、形態とその状況から土壙墓の可能性が高い。ＳＸ865はかなり削平されていたが５～20㎝大の河原石や結晶片岩を長軸1.8ｍ、短軸1.0ｍの範囲で確認した。遺物は室町時代の遺物を拾い集めて、石と同じ意味合いで置かれている様相が見受けらる。骨片と共に土師器皿・土釜、瓦器椀、瓦質捏鉢、常滑焼、丸瓦、軽石などが出土している。

ＳＸ866は比較的大きさの揃った20㎝前後の河原石がやや密に、長軸1.6ｍ、短軸1.2ｍの範囲に集められ

ている。遺物は弥生土器と共に土師器の皿が微量出土している。

ＳＸ867も10～20㎝大の河原石がややまばらに、径１ｍほどの範囲に集められた遺構である。

ＳＸ868はＳＸ867の西側に約１ｍ離れて位置する。径１ｍほどに河原石が集められた集石遺構である。ＳＸ867とはほぼ同時期に対を成して並んでいたと考えられる。

これらの土壙はＳＫ845を含めて、最も新しい時期の出土遺物から17世紀初頭前後と考えられる。

ＳＸ８６９（第89図、ＰＬ.46）

Ｃ３区の北西隅に位置する。掘形は長軸1.7ｍ以上、短軸1.5ｍ以上、深さ50㎝を測り、５～20㎝大の河原石や結晶片岩を集めて、長軸1.6ｍ、短軸1.0ｍの楕円形状の集石遺構を作り出している。遺物はやはり古い時期のものを拾い集めた様相が見受けられ、室町時代の土師器皿・土釜、須恵質捏鉢、備前焼甕・擂鉢、瀬戸美濃系鉢、中国製青磁鉢、瓦が出土している。また、ＳＧ871出土のものと接合する石臼も出土している。

ｅ　井戸・溜桝

室町時代～江戸時代にかけての井戸を５基、溜桝と考えられる遺構を１基検出した。井戸は石組のもの４基、素掘り１基がある。室町時代の井戸の石組の大半は既に抜き取られ、一部が遺存している程度である。

ＳＥ８７１（第90図、ＰＬ.46）

Ｃ３区の西端に位置する。掘形は壁面の崩落のため袋状を呈しているが、上面で直径2.7×2.84m、深さ2.4ｍを測る。井筒は新旧の据え替えが認められる。古い時期の井筒は底面のやや西寄りに、直径41×49㎝、高さ19㎝の曲物を据えて上端を河原石で固定している。新しい時期の井筒はやや東寄りに、上側の直径55㎝、高さ44㎝の桶枠を据え、その上部に30～55㎝大の和泉砂岩の割石を積み上げていたと考えられる。井筒の底面から上に約80㎝にかけて垂直に立てられた竹筒が確認されている。遺物は15世紀後半を中心とした土師器皿・土釜、瓦質土釜、常滑焼甕、中国製青磁碗・皿、木製曲物の蓋などが出土している。

ＳＥ８７２（第90図、ＰＬ.47）

Ｃ５区の中央南側でＳＧ784に一部重複して位置する。掘形は二段掘りで、基底部に直径66㎝の大木を刳抜いた高さ42㎝の井筒を据えて、その上部に30～50㎝大の和泉砂岩の割石を積み上げている。掘形の規模は上面で直径4.0ｍ、深さ3.2ｍを測る。井戸上端から約1.9ｍ掘り下げた深さのほぼ中央で、節を刳抜いた竹筒を垂直な状態で約60㎝確認した。また、底面から約70㎝上で、木製の釣瓶と藁縄が出土している。遺物は土師器皿、瓦質椀・甕・土釜・捏鉢、備前焼擂鉢、青磁碗、木製下駄・曲物の底などが出土している。

ＳＥ８７４（第91図）

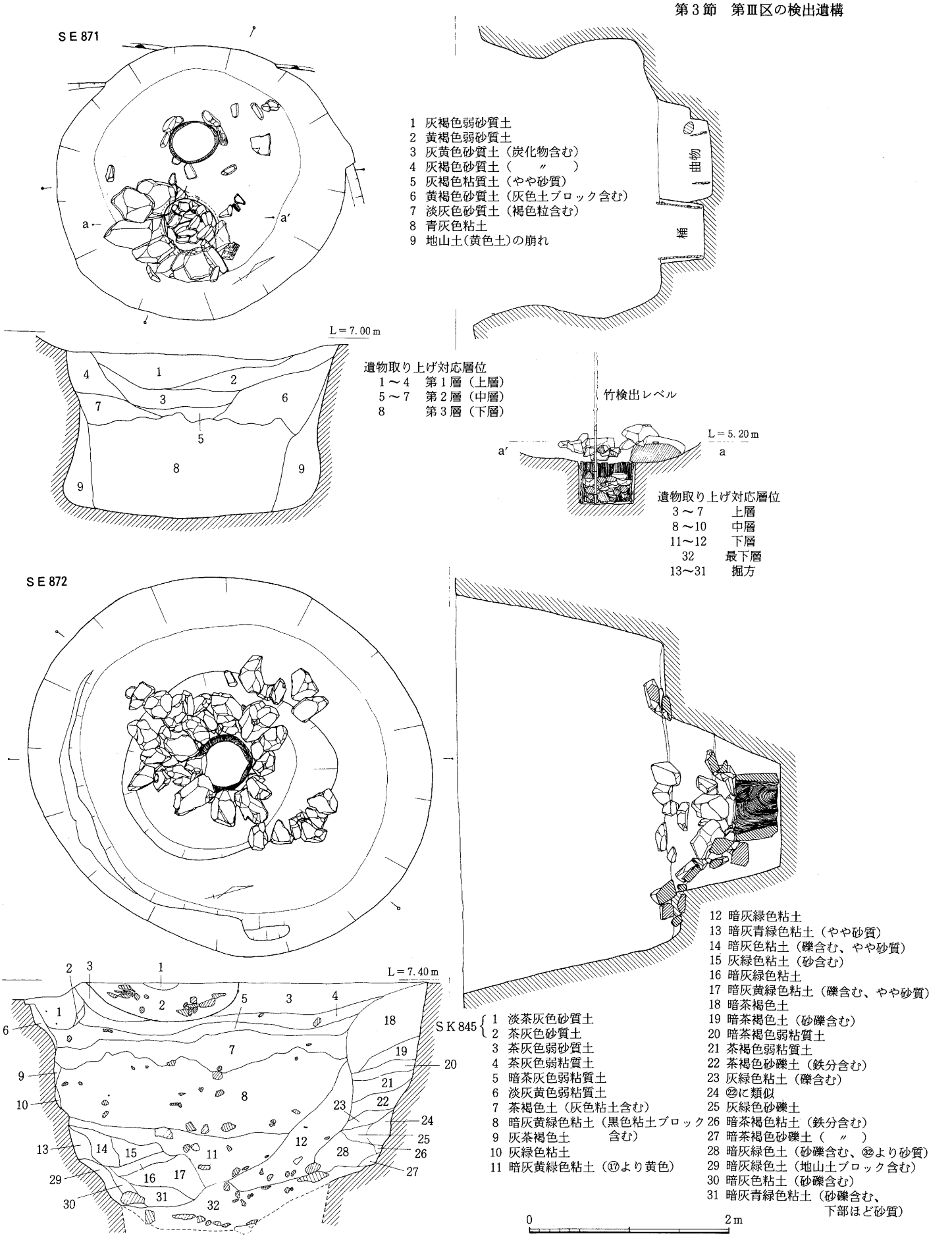
Ｃ３区の北西隅でＳＤ904を削り込み、ＳＤ905・921に削られる。長軸3.8ｍ以上、短軸3.4ｍ、深さ1.5ｍを測り、上部は歪な楕円形を、下部は隅丸長方形を呈している。埋土の中層から河原石が多く出土している。井戸として扱ったが、ＳＦ876に類似した形態・埋土の堆積状況から本来、ＳＦ876と同様の溜桝状の遺構の可能性が考えられる。遺物は小片が多く土師器皿・土釜、備前焼擂鉢、瀬戸美濃系皿などが出土している。

ＳＥ８７５（第91図、ＰＬ.48）

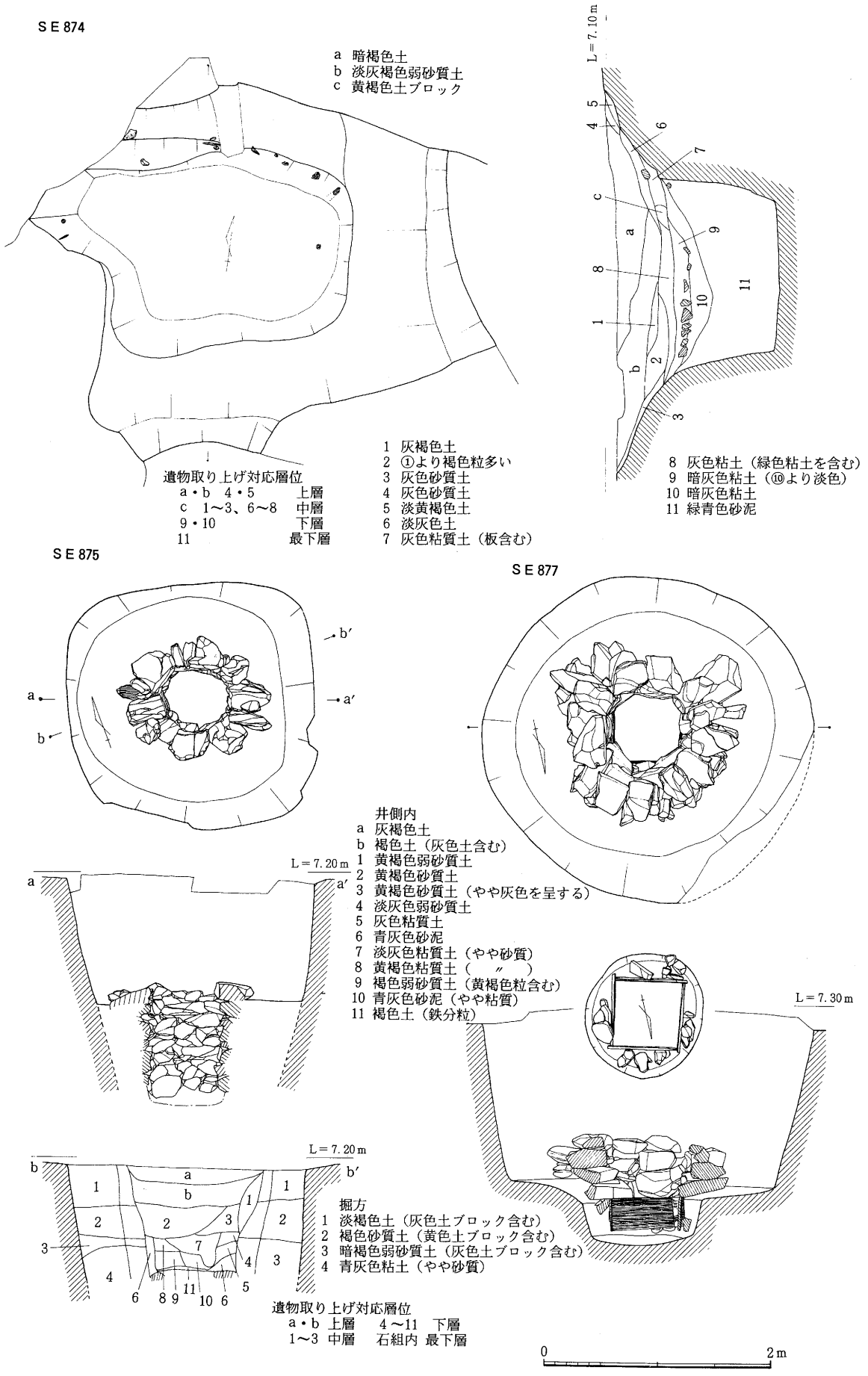
Ｃ３区の南東隅に位置する。掘形の規模は一辺2.2ｍ、深さ2.05ｍ以上を測り、上部は隅丸方形、下部は円形を呈する。石組は直径0.6ｍで扁平な和泉砂岩や結晶片岩が平積み・小口積みされ、七・八段分が遺存していた。遺物は掘形から備前焼、中国製青磁碗が、井側内から唐津碗、備前焼壺、平瓦が出土している。

ＳＥ８７７（第91図、ＰＬ.48）

Ｃ５区の北東隅に位置する。掘形の規模は上面で直径2.9ｍ、深さ2.1ｍを測る。掘形は二段掘りで、基底

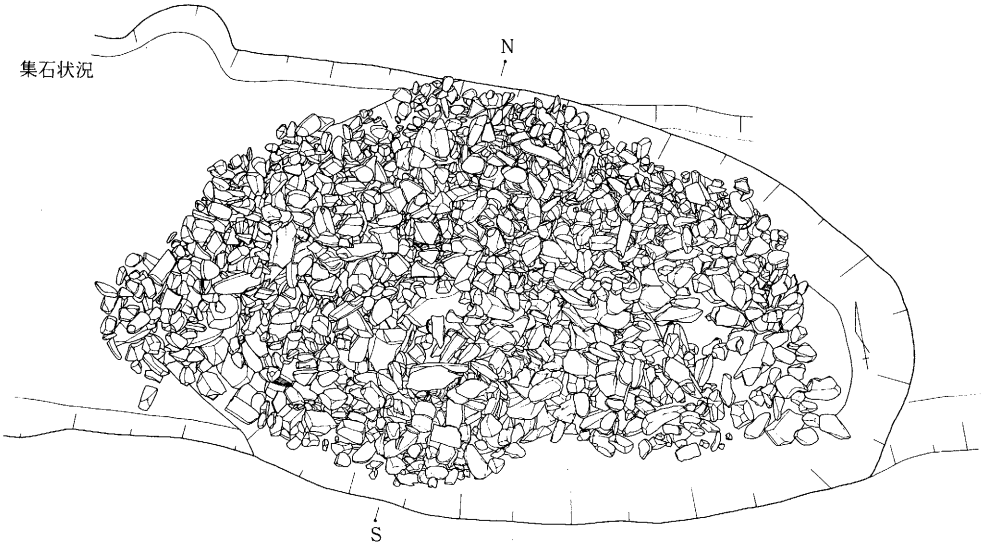


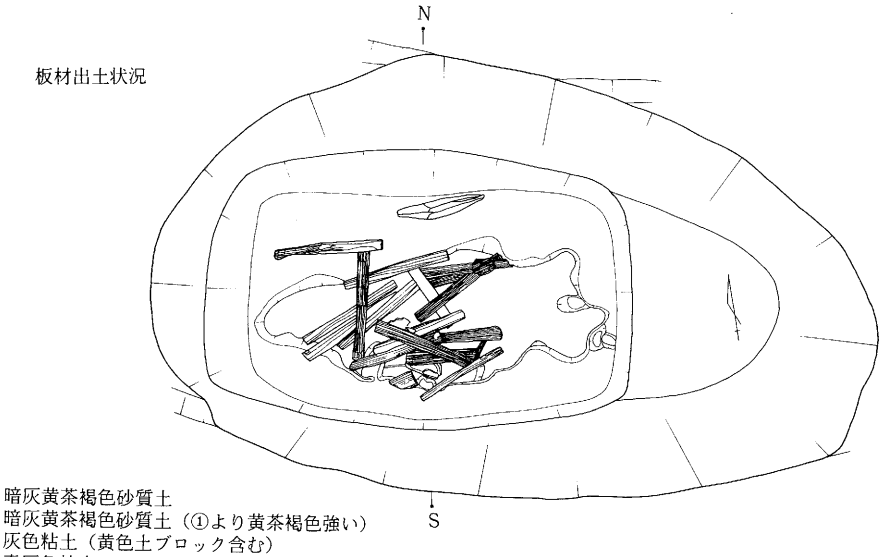
第90図　第ⅢＣ区ＳＥ871・872実測図



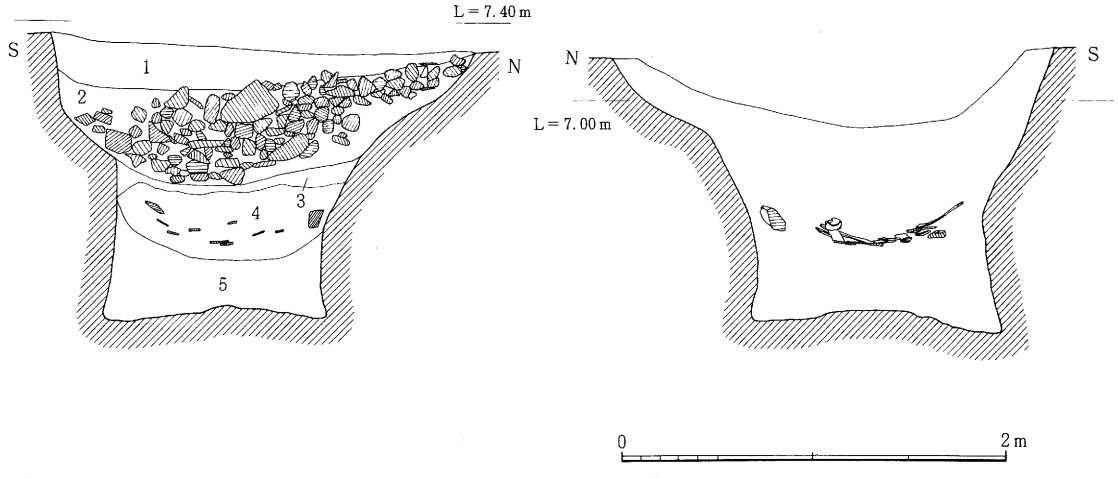
第91図　第ⅢC区SE874・875・877実測図

部に横幅62㎝、高さ28㎝、厚さ約２㎝の板材を食違いに組み合わせた井戸枠が据えられていた。板材は片端の中央部に一箇所出柄が削り出され、反対側に柄穴が開けられ、各々の板を差し込んで固定している。井戸枠から上部には30～50㎝大の扁平な和泉砂岩が平積みされ、三・四段分が遺存していた。遺物は掘形や裏込





1　暗灰黄茶褐色砂質土
2　暗灰黄茶褐色砂質土（①より黄茶褐色強い）
3　灰色粘土（黄色土ブロック含む）
4　青灰色粘土
5　青灰緑色砂泥



第92図　第ⅢＣ区ＳＦ876実測図

めから唐津皿・碗、備前焼擂鉢があり、その内、唐津の碗はＳＥ872上層出土のものと接合している。

ＳＦ８７６（第92図、ＰＬ.47）

Ｃ４区の南寄りでＳＧ783に重複して位置する。掘形は二段掘りで、上部は長軸4.2ｍ、短軸2.2ｍ、深さ約80㎝を測る。平面形は歪な楕円形を呈し、５～30㎝大の河原石や瓦などが隙間無く埋められていた。下部は長軸2.2ｍ、短軸1.45ｍ、深さ約75㎝を測り、隅丸長方形を呈する。底面はほぼ平坦で、断面形も壁面中央がやや突き出た長方形状である。埋土の第３・４層で、溜桝の部材と考えられる長さ50～60㎝、幅４～６㎝の板材が十数枚出土している。溜桝が廃絶した後、沈み込みを防ぐため上部に石や瓦片を敷き詰めたと考えられる。遺物は土師器皿・土釜、瓦質捏鉢・火鉢・甕、備前焼擂鉢、青磁碗、五輪塔などが出土している。

ｆ　溝

平安時代～江戸時代の溝を総数43条ほどを検出している。室町時代の溝の中には、小規模な屋敷地を区画するものや現有の土地区画と同様の方向性を示すものが認められる。遺物は比較的小片が多い傾向にある。

ＳＤ８８１（第93図）

Ｃ１・２区に位置し、ＳＸ852・ＳＤ736を削り込む。北々東から南々西に緩やかに湾曲して延び、幅0.86～1.08ｍ、深さ36～44㎝を測り、延長30.5ｍ分を検出した。壁は緩やかに立ち上がり、断面Ｕ字形を呈する。遺物は土師器甕、黒色土器Ａ類椀などと共に12世紀代と考えられる土釜片も極僅かに出土している。

ＳＤ８８２（第93図）

奈良時代のＳＤ736の項で既述した通り、Ｃ２区においてＳＤ736と連続するものである。遺物は上層から土師器皿・竈、黒色土器、須恵器甕、平瓦など10世紀末～11世紀初頭のまとまりのあるもので、奈良時代の溝に重複して当該期の溝が掘削されていた可能性が考えられる。

ＳＤ８８５

調査区の北東隅に位置する。ＳＤ741を削り込み、ＳＫ787・ＳＥ877に削られているため全容はよくわからない。後者の削平のためか、若干蛇行する状況にある。幅0.7～2.1ｍ、深さ43～90㎝を測り、延長13ｍ分を検出した。遺物は土師器坏、黒色土器Ａ類椀、緑釉椀などが少量出土している。

ＳＤ８８６（第93図、ＰＬ.49）

Ｃ２区の南寄りに位置し、ＳＫ790・落ち込み状遺構を削り込み、掘立柱建物やＳＸ858・ＳＤ898に削られる。溝の方向性は定かでないが、東から西北西方向に延び、幅0.93～1.3ｍ、深さ28～40㎝を測り、延長20ｍ分を検出した。遺物の大半は埋土上層から出土し、多量の炭粒が含まれている。遺物は磨滅の著しい12世紀末～13世紀初頭の土師器皿・土釜、瓦器椀・小皿、中国製白磁碗などがまとまって出土している。

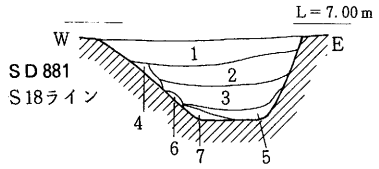
ＳＤ８８７（第93図）

調査区の西端で本集落の立地する微高地の縁辺部に位置する。北から西南西方向に緩やかに蛇行して延び、幅0.94～2.08ｍ、深さ14～28㎝を測り、延長20.5ｍ分を検出した。遺物は13世紀中頃の土師器皿・土釜、瓦器碗など小片を主体とするものが出土している。

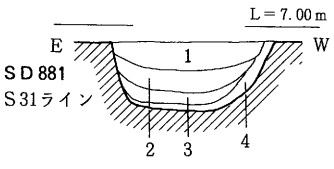
ＳＤ８８８（第93図）

Ｃ２区の南寄りに位置し、ＳＫ793の上で検出し、ＳＤ898に削られる。北々西から東南東方向に直線的に延び、幅0.24ｍ、深さ13㎝を測り、延長9.5ｍ分を検出した。遺物は13世紀後半の土師器皿、瓦器椀などが出土している。軸方向をＮ－68°－Ｗに置き、北側に存在する掘立柱建物と関係するものと考えられる。

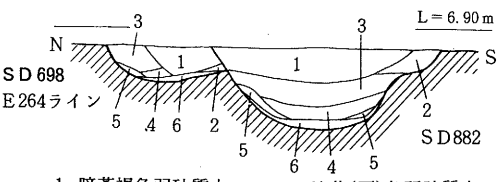
ＳＤ８９１・８９２



1 淡黄灰茶色弱粘質土
2 淡黄灰褐色弱粘質土
3 黄灰褐色弱粘質土
4 褐色弱砂質土
5 淡黄灰色弱砂質土
6 淡黄褐色弱砂質土
7 濃黄灰色弱粘質土

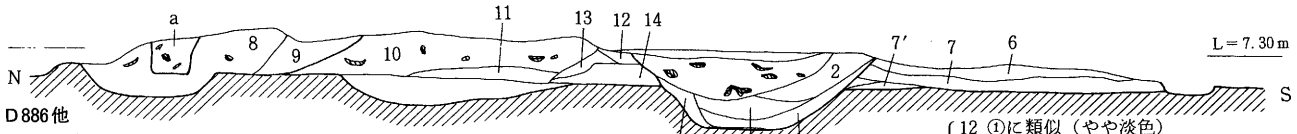


1 淡黄灰色弱粘質土（鉄分粒多量含む）
2 ①よりやや灰色強い（鉄分粒中量含む）
3 灰黄色粘質土（鉄分粒少量含む）
4 黄灰褐色弱砂質土



1 暗茶褐色弱砂質土
2 黄色弱砂質土
3 淡茶褐色弱砂質土
4 暗褐色弱粘質土
5 黄色弱砂質土
6 暗黄色弱砂質土

1 淡黄(灰)色弱砂質土
2 淡黄褐色弱砂質土
3 黄褐色弱砂質土
4 淡黄灰褐色弱砂質土
5 淡灰褐色弱砂質土
6 淡灰色砂質土



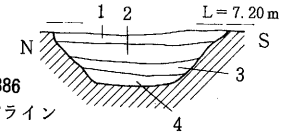
SD 886
1 暗(茶)褐色弱粘質土（炭粒多量、灰色土、黄色土小ブロック多量含む）
2 淡灰黄褐色弱粘質土（炭粒少量含む）
3 淡黄灰褐色弱粘質土
4 淡黄褐色弱砂質土
5 ②に類似

落ち込み
12 ①に類似（やや淡色）
13 ②に類似
14 ③に類似

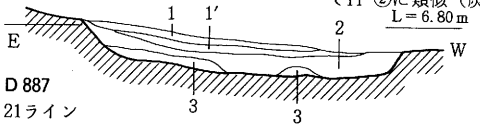
SK 795
8 淡茶褐色弱砂質土（炭粒少量含む）
9 ③に類似

落ち込み
10 暗(茶)褐色弱砂質土（炭粒多量含む）
11 ②に類似（炭粒やや多く含む）

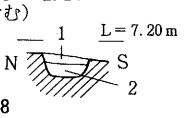
SK 793
6 淡黄褐色弱砂質土
7 淡黄(褐)色弱砂質土
7′ ②に類似



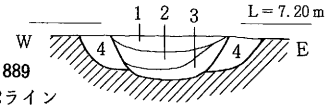
1 淡茶褐色弱砂質土
2 淡黄褐色弱砂質土
3 淡灰褐色弱砂質土
4 淡黄灰褐色弱砂質土



1 灰色弱粘質土
1′ 灰色弱粘質土（やや暗色を呈する）
2 灰色弱粘質土（褐色土ブロック少量含む）
3 灰褐色弱砂質土（褐色土ブロック多量含む）

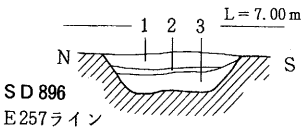


1 暗茶褐色弱砂質土（炭粒多量含む）
2 淡茶褐色弱砂質土

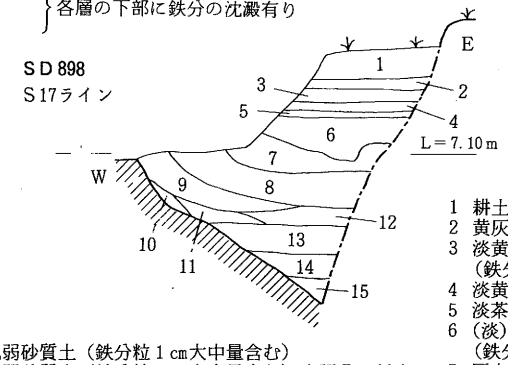


SD 889
1 暗灰黄色弱砂質土（黄色土ブロック、炭粒多量含む）
2 灰黄色弱砂質土（炭粒少量含む）
3 淡灰黄色弱砂質土

SK 801－4
1 耕土
2 黄灰色弱砂質土（床土）
3 〃
4 〃
5 〃
各層の下部に鉄分の沈澱有り

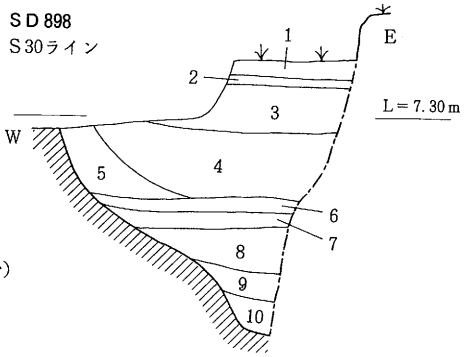


1 淡黄褐色弱砂質土
2 茶褐色弱砂質土
3 淡茶褐色弱砂質土



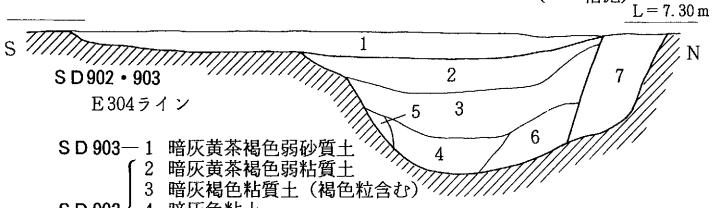
6 灰黄色弱砂質土（鉄分粒1cm大中量含む）
7 灰黄色弱砂質土（鉄分粒5㎜大中量含む）右記③に対応
8 右記④に対応
9 右記⑤に対応
10 明黄灰色弱粘質土（地山土の崩れ）
11 右記⑥に対応
12 右記⑦に対応
13 右記⑧に対応
14 右記⑨に対応
15 右記⑩に対応

遺物取り上げ対応層位
8～9　上層
10～12　上・下層
13～15　下層(灰色粘土)



1 耕土
2 黄灰色弱砂質土（床土）
3 淡黄灰色弱砂質土
（鉄分粒5㎜大多量に含む）
4 淡黄灰褐色弱砂質土
5 淡茶褐色弱砂質土
6 (淡)茶褐色弱砂質土
（鉄分粒微量含む）
7 灰白色粘泥（黄色土ブロック含む）
8 灰色粘泥
9 暗灰色粘泥（木葉少量含む）
10 暗灰色粘泥（木葉、木屑多量含む）

遺物取り上げ対応層位
4・5　上層
6・7　上・下層
8～10　下層
（　　粘泥）



SD 903－1 暗灰黄茶褐色弱砂質土
SD 902
2 暗灰黄茶褐色弱粘質土
3 暗灰褐色粘質土（褐色粒含む）
4 暗灰色粘土
5 暗灰黄褐色粘質土（　〃　）
6 暗灰黄褐色粘質土（黄色土ブロック含む）
SD 901－7 暗茶褐色泥土

0　2m

第93図　第ⅢC区平安時代後期～室町時代溝土層図

調査区の微高地からやや下がった西端に位置する。両者はほぼ接するように隣接し、北々東から南々西方向に延びる。軸方向を凡そＮ－20°－Ｅ前後に置く。ＳＤ891は幅1.60～2.08ｍ、深さ13～16㎝、延長20ｍ分を、ＳＤ892は幅0.62～0.80ｍ、深さ10～13㎝、延長24.5ｍ分を検出した。遺物はＳＤ891からは皆無、ＳＤ892からは13世紀後半と考えられる土師器皿、瓦器椀の小片が極少量出土している。

ＳＤ８９８（第93図、ＰＬ.49）

Ｃ２区の東端で現有の農道・用水路に重複して位置する。北東から南西方向に直線的に延びる溝で、幅1.8ｍ以上、深さ1.2ｍ以上、延長31.5ｍ分を検出した。軸方向をＮ－40°－Ｅに置き、現有の農道・用水路と同一方向である。下層の粘泥層から木葉や木屑が多量に出土しており、滞水していたものと思われる。遺物は土師器皿・土釜、瓦質土釜・火舎、備前焼擂鉢、青磁碗、瀬戸美濃天目台、平瓦など小片が出土している。

ＳＤ８９９（ＰＬ.49）

Ｃ３区の東端に位置する。北壁土層から幅1.82ｍ、深さ1.2ｍを測るが、現有の農道は調査対象外となったため、一部しか検出できず全容は不明である。状況から判断して、ＳＤ898に並行して同一方向に延びるものと考えられる。遺物は土師器皿・土釜、中国製青磁碗、平瓦などが少量出土している。

ＳＤ９００（第94図）

Ｃ４区中央に位置し、検出状況からＳＫ819・ＳＤ910に削られる。Ｃ３区での繋がりは定かでないが、状況から判断してＳＤ901が延長部分と考えられる。東南東から西北西方向に延び、幅0.6～1.6ｍ、深さ25～60㎝を測り、延長15ｍ分を検出した。遺物は土師器皿・土釜、須恵質捏鉢、砥石などが出土している。

ＳＤ９０２（第93・94図）

Ｃ３区～Ｃ４区に位置し、ＳＫ819を削り込み、ＳＤ903・910・ＳＫ823に削られる。東南東から西北西方向に直線的に延び、幅１～２ｍ、深さ20～72㎝を測り、延長37.5ｍ分を検出した。遺物は土師器皿・土釜、瓦質土釜、備前焼壺・甕・擂鉢、中国製青磁碗・皿、灰釉平碗、平瓦・雁振瓦、硯などが多数出土している。

ＳＤ９０３（第93・94図）

ＳＤ902に重複して位置し、ＳＤ902を削り込む。幅2.04～2.84ｍ、深さ14～32㎝を測る。これらの溝群は軸方向を凡そＮ－67°－Ｗ前後に置く。検出状況から古い順に整理するとＳＤ900→（ＳＫ819）→902→903→910となり、順次掘削し直されたものと考えられる。遺物は土師器皿・土釜・捏鉢、瓦質甕・土釜・火舎、備前焼擂鉢、中国製青磁碗、砥石などが出土している。

ＳＤ９０５（第94図）

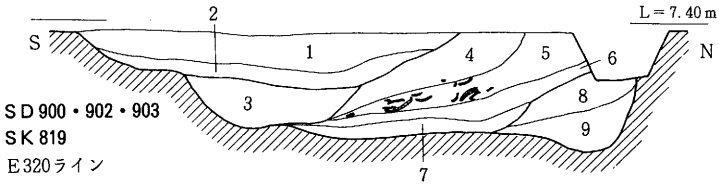
Ｃ３区～Ｃ４区でＳＤ900・902・903などに並行して位置する。それらと同一方向に延び、幅0.45～1.2m、深さ15～35㎝を測り、延長58ｍ分を検出した。北西端はＳＥ874を削り込む。遺物は土師器皿・土釜、瓦質甕・捏鉢・香炉、備前焼擂鉢・壺・水指、瀬戸美濃天目茶碗、中国製青磁・白磁碗・皿、軒平瓦・丸瓦、硯、板状鉄製品などが出土している。ＳＤ905はＳＤ902の南側に約2.5ｍの距離をおいて並行し、溝と溝の間は道として機能していたと考えられる。ＳＤ904はＳＤ905の下で検出している。ＳＤ899との関係は不明。

ＳＤ９０６（第94図）

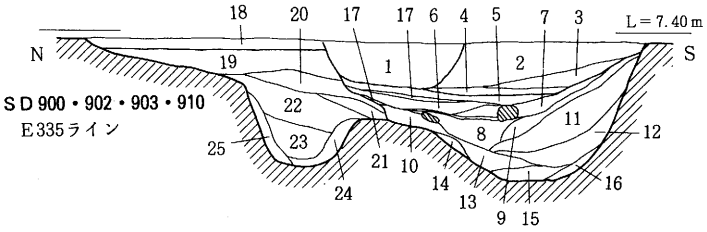
Ｃ３区のＳＢ771の北東側に位置する。大半はＳＤ907に重複して、規模は不明である。位置関係からＳＤ906とＳＧ781によってＳＢ771を区画するものと考えられる。遺物は土師器皿・土釜、備前焼擂鉢がある。

ＳＤ９０７（第94図）

ＳＤ906と重複して位置し、同一方向に延びる。幅0.7～1.4ｍ、深さ12～15㎝を測り、延長27.5ｍ分を検出した。軸方向をＮ－65°－Ｗに置き、位置関係からＳＤ907とＳＧ782によってＳＢ772をコ字形に区画する



SD 903 { 1 暗灰黄茶褐色弱砂質土（黄茶褐色土が多い）
2 ①より黄茶褐色土少ない
SD 902 3 褐色弱砂質土（暗灰色土ブロック含む）
SK 879 { 4 黄茶褐色弱砂質土
5 暗灰黄茶褐色弱砂質土
6 ⑤と⑦の中間色、弱粘質土
7 暗灰褐色弱粘質土
SD 900 { 8 黄茶褐色弱砂質土（暗灰色土ブロック少量含む）
9 黄茶褐色砂質土（黄色強い）

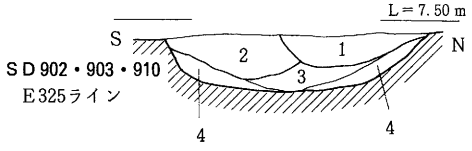


SD 902 { 9 ⑪より黄茶褐色土ブロック多い
10 暗灰黄褐色弱粘質土（黄褐色土ブロック含む）
11 暗灰褐色粘質土（鉄分粒含む）
12 暗灰褐色粘質土（⑪より褐色強い）
13 暗灰黄褐色粘質土（鉄分粒含む）
14 暗灰黄褐色弱粘質土（　〃　）
15 暗灰色粘土
16 暗灰黄褐色粘質土（黄色土ブロック、鉄分粒含む）
17 白色粘土

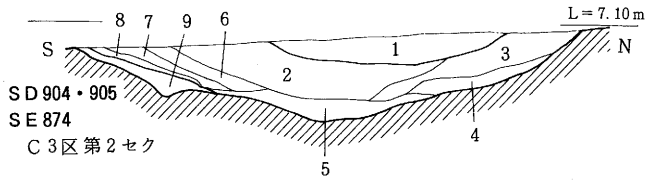
SD 900 { 18 暗灰褐色弱砂質土
19 暗灰黄茶褐色弱砂質土
20 ⑲に黄茶褐色土ブロック含む
21 ⑲に褐色ブロック含む
22 ⑲に鉄分粒含む
23 暗灰黄茶褐色弱粘質土（鉄分粒）
24 暗灰色弱粘質土（鉄分粒微量）
25 暗灰黄茶褐色弱粘質土

SD 910－1 暗灰黄茶褐色弱砂質土
SD 903 { 2 ①より少し褐色強い
3 ③より黄茶色強い
4 暗灰黄茶褐色弱粘質土

SD 902 { 5 暗灰褐色弱粘質土（白色粘土含む）
6 ⑤より褐色弱い
7 暗灰色弱粘質土
8 ⑬より黄色弱い（白色粘土含む）



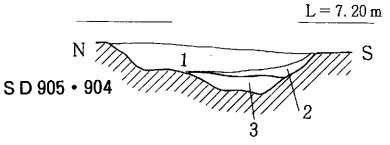
SD 910－1 ②より黄褐色土少ない
SD 903－2 ③より灰色が弱い
SD 902 { 3 暗灰黄褐色土（黄褐色土ブロック含む）
4 ③より黄褐色土が多い



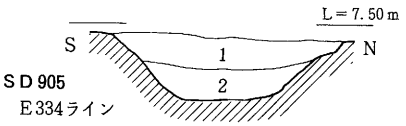
SD 905－1 淡褐色粘質土（やや砂質）
SE 874 { 2 淡黄灰色砂質土
3 灰褐色粘質土
4 灰褐色砂質土

SE 874 { 5 淡灰色粘土
6 灰褐色砂質土
7 黄褐色粘質土
8 淡灰色弱粘質土

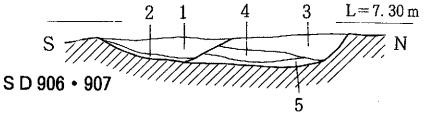
9 SD 904



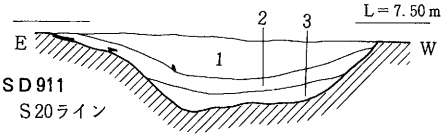
SD 905 { 1
2 淡褐色粘質土（やや砂質）
SD 904－3



1 ②より黄茶褐色土少ない
2 暗灰黄茶褐色弱砂質土

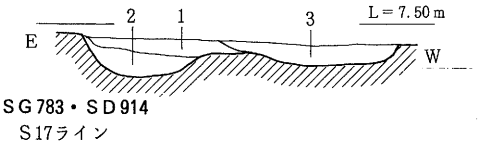


SD 907 { 1 灰褐色砂土
2 暗灰褐色砂土
SD 906 { 3 黄褐色土（灰色土含む）
4 暗灰色砂質土
5 灰褐色砂質土

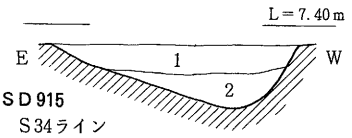


遺物取り上げ対応層位
1　上層
2・3　下層

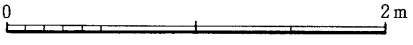
1 暗灰茶褐色弱砂質土（鉄分粒含む）
2 暗灰褐色弱砂質土（褐色強い）
3 暗灰褐色弱砂質土（②より濃色）



SG 783 { 1 暗灰褐色弱砂質土
2 暗灰褐色弱砂質土（褐色強い）
SD 914－3 黒灰褐色弱砂質土（炭・焼土多量含む）



1 暗灰黄茶褐色土（鉄分粒含む）
2 暗灰黄茶褐色土（①より鉄分粒少ない）
（①より黄茶色強い）



第94図　第ⅢＣ区平安時代後期～室町時代溝土層図

ものと考えられる。遺物は古い時期のものと共に土師器皿・土釜、備前焼小片などが出土している。

ＳＤ９１０（第94図）

Ｃ４区に位置し、ＳＤ900・902などと重複する。東南東から西北西方向に延び、幅0.5～0.7ｍ、深さ20㎝を測り、延長20ｍ分を検出した。遺物は土師器皿・土釜、瓦質土釜、中国製白磁碗などが出土している。

ＳＤ９１１（第94図）

Ｃ４区中央に位置する。検出状況では東南東から西北西方向に延びる溝群を削り込む。北々東から南々西方向に延び、幅1.3～1.8ｍ、深さ30㎝を測り、延長16ｍ分を検出し、南側で浅くなり途切れる。遺物は土師器皿・土釜、瓦質土釜・甕・捏鉢、備前焼壺・甕、中国製青磁皿などが多数出土している。軸方向をＮ－23°－Ｅ前後に置き、ＳＤ900・902・903・910の何れかと関連してＳＢ770を区画するものと考えられる。

ＳＤ９１３（第84図）

Ｃ４区に位置し、ＳＤ911と並行ぎみに北々東から南々西方向に延びる。南側でほぼ直角に折れ曲がり、ＳＦ876に接続する。規模は幅0.8～2.0ｍ、深さ12～28㎝を測る。南端の底面のレベルが北端よりも約25㎝低くなり、ＳＦ876への導水溝と考えられる。検出状況から古い順にＳＤ914→ＳＧ783→ＳＤ913となる。遺物は土師器皿・土釜、瓦器小皿、備前焼擂鉢などが少量出土している。

ＳＤ９１４（第94図）

Ｃ４区を北々東から南々西に延び、大半はＳＤ913に削られるため詳細は不明である。幅1.1ｍ、深さ15㎝を測る。土層から判断するとＳＧ783を削り込むが、ＳＧ783と関連してＳＢ774を区画するものと考えられる。遺物は土師器皿、瓦質土釜、備前焼擂鉢・甕、中国製青磁碗などが出土している。

ＳＤ９１５（第94図）

Ｃ４区南西部に位置する。Ｌ字形に延びる溝で、幅0.8～1.2ｍ、深さ20～35㎝を測り、延長24ｍ分を検出した。西端の底面のレベルは東端より約20㎝低くなっている。遺物は土師器皿・土釜、瓦質捏鉢、備前焼徳利・甕・擂鉢、瀬戸美濃系灰釉おろし皿、中国製青磁碗、石鍋、砥石などが出土している。

2　第ⅢＤ区（第96図、ＰＬ.50）

第ⅢＤ区は第ⅢＣ区に隣接する小堤防と東側を流れる七瀬川の間である。立地的には低地に下りた位置にあるため、遺構検出面は西側の微高地より約１～1.5ｍ低くなる。現地表から遺構検出面までの間には、弥生時代後期から現代に至るまでの氾濫層ないしは水田耕作土と考えられる土砂が幾層にも渡って認められる。

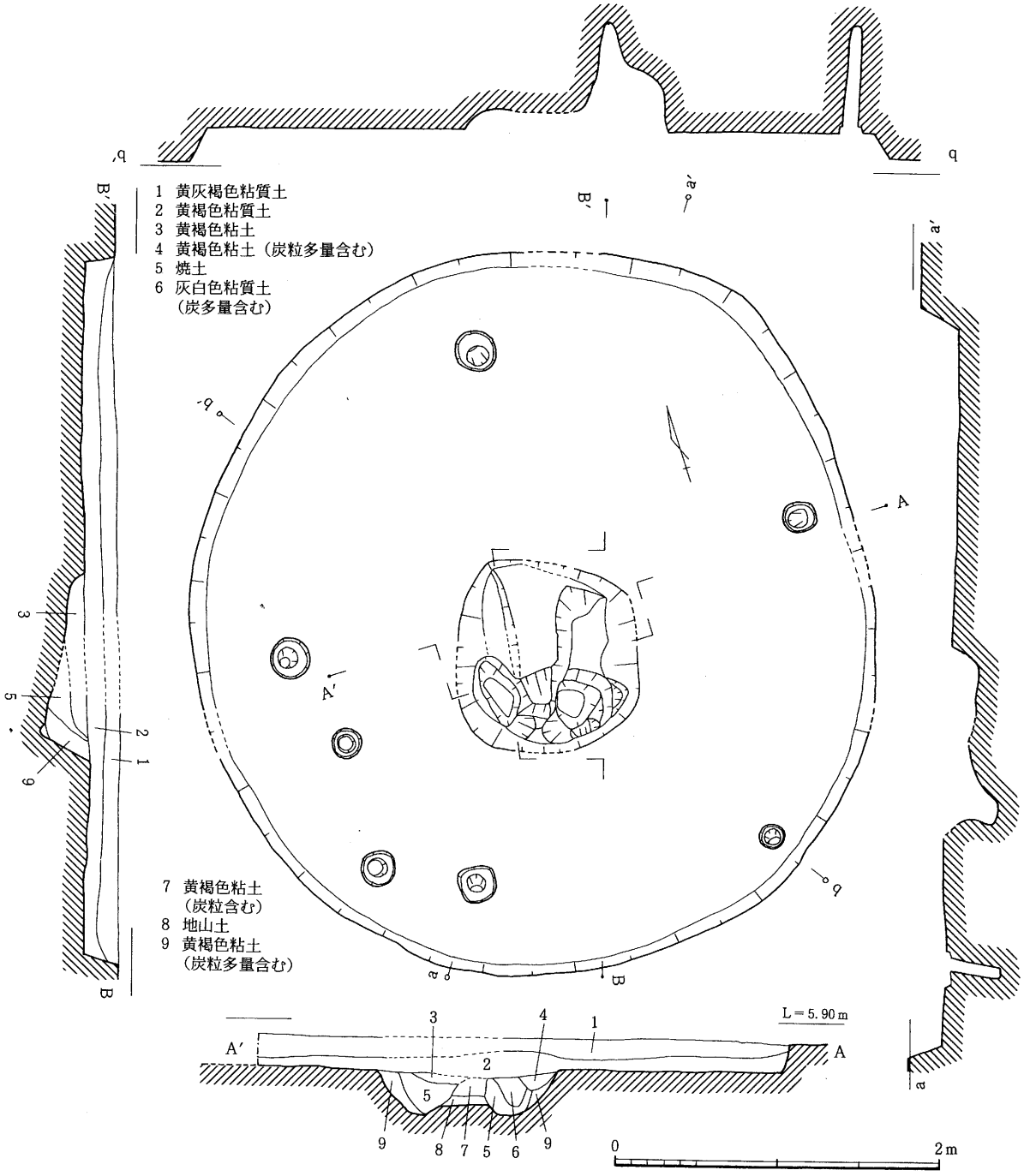
（１）縄文時代

竪穴住居（第95図、ＰＬ.50）

第ⅢＤ区の西半側には、弥生時代後期の溝を検出した面よりさらに下に黄色粘質土の無遺物層が約30㎝堆積する。この堆積層除去面において竪穴住居と考えられる遺構を検出した。平面規模は短軸4.2ｍ、長軸4.46ｍを測り、ほぼ円形を呈する。壁はやや斜めに立ち上がり、16～24㎝遺存する。床面の中央南寄りに炉が存在する。石囲いは既に抜き取られていたが、多量の炭と焼土からその痕跡を確認することができた。主柱穴は５本で、壁際に存在し中心に向かって内傾している。埋土から出土した土器片は微細なため時期を限定するに至らなかったが、平面形態・規模・炉の様相から縄文時代の竪穴住居の可能性が考えられる。

（２）弥生・古墳時代

弥生・古墳時代の遺構は、土坑２基、溝３条を数えるに過ぎない。遺構は遺物包含層の堆積・検出面の状



第95図　第ⅢＤ区ＳＩ926実測図

況から当該期に含めて考えられている。中でもＳＤ936に関しては多くの情報を得ることができた。

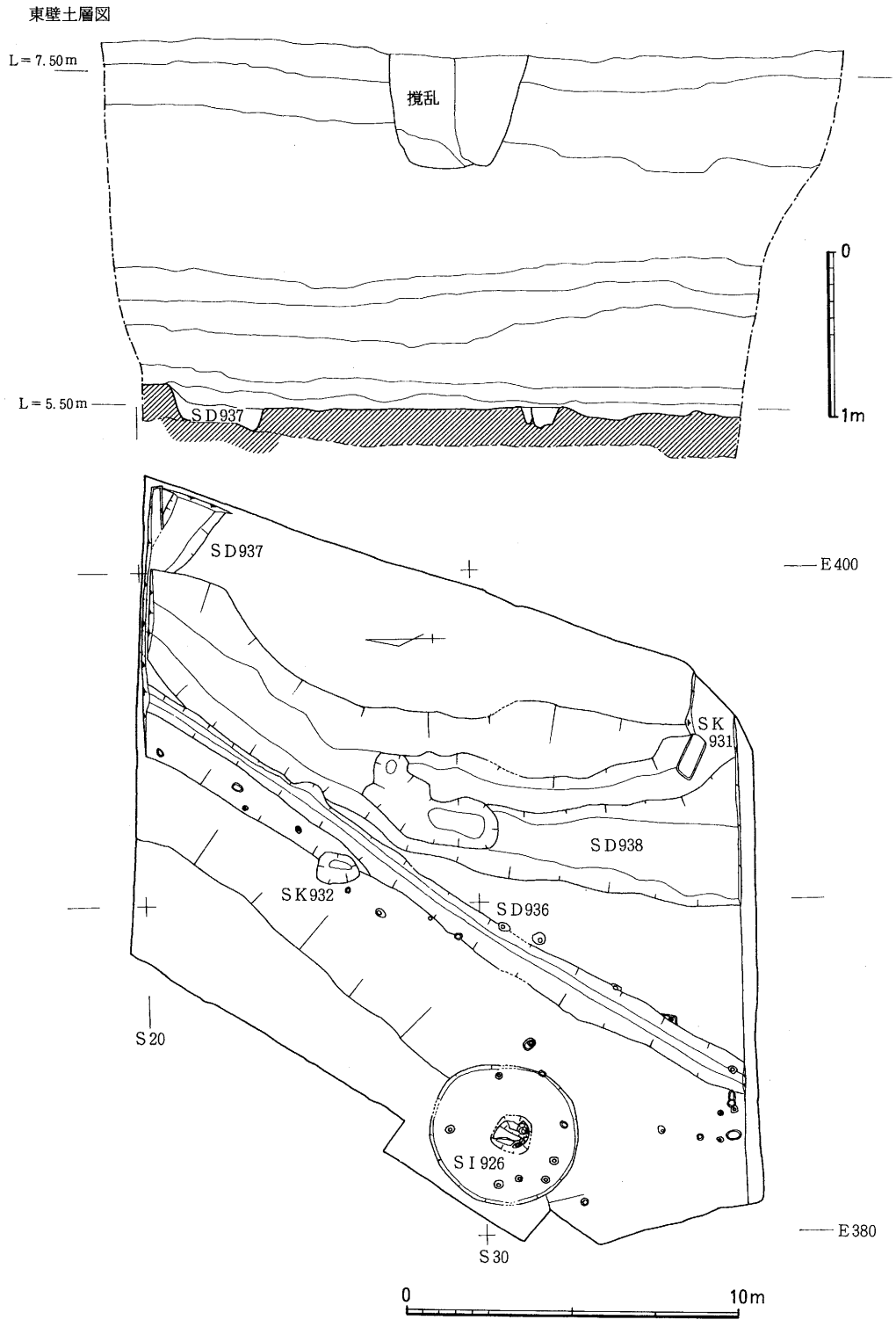
ａ　土坑

ＳＫ９３１

調査区の南東隅に位置し、ＳＤ938に削られる。長方形を呈し、長軸1.41ｍ、短軸0.53ｍ、深さ10㎝を測る。遺物は土坑の底面から少し離れた状態で、弥生土器が少量出土している。

ＳＫ９３２

調査区の北寄りに位置し、ＳＤ936に削られる。歪な楕円形を呈し、長軸1.3ｍ、短軸0.9ｍ、深さ47㎝を測る。東西の断面形はＶ字形を呈している。遺物は弥生土器の細片が極僅かに出土している。

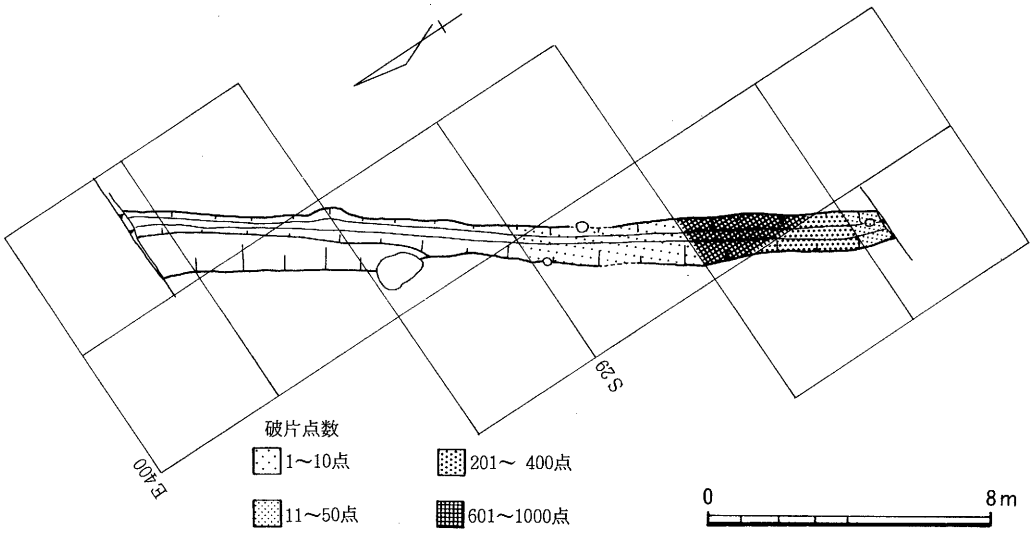


第96図　第ⅢD区遺構全体図

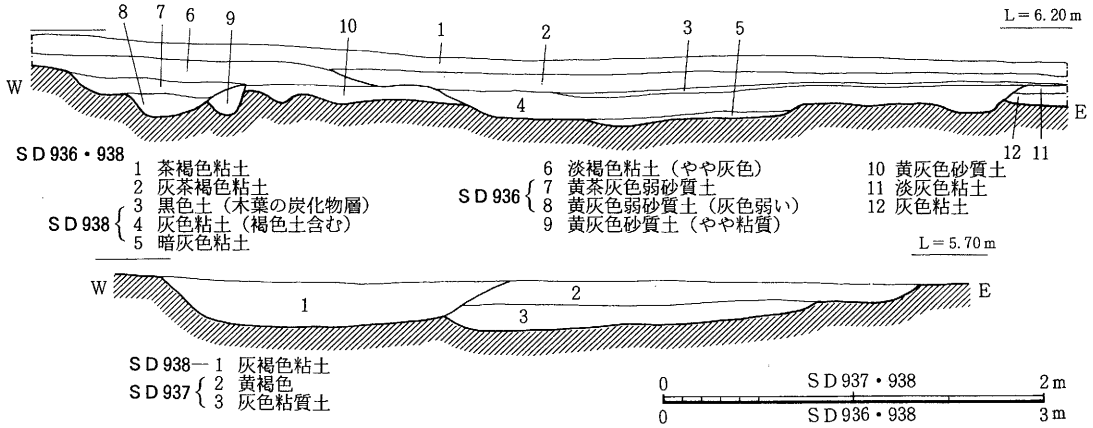
b　溝

ＳＤ９３６（第97・98図、ＰＬ.50）

調査区の中央に位置し、ＳＤ938に削られる。北東から南西方向に延び、幅0.76～1.4ｍ、深さ38～45㎝を測り、延長21.3ｍ分を検出した。遺物は溝の南半分に集中し、特に南端で多量の弥生土器が出土している。第280図に見るように包含層出土土器の大半がＳＤ936のライン上にあることから、本来溝はもう少し規模が大きく、包含層出土土器とした内のいくらかは溝内堆積の遺物の可能性が考えられる。



第97図　第ⅢＤ区ＳＤ936土器分布密度図



第98図　第ⅢＤ区弥生・古墳時代溝土層図

ＳＤ９３７

調査区の北東隅に位置し、ＳＤ938に削られる。規模等詳細は不明である。遺物は出土していない。

ＳＤ９３８

ＳＤ936の東側に位置し、ＳＤ936・937を削り込む。北東から南方向に緩やかに蛇行して延び、幅2.76～5.2m、深さ28～48cmを測り、延長19.6m分を検出した。その状況から自然流路の可能性も考えられる。遺物は砥石、磨石があるが、土器は不明である。

第Ⅴ章　出土遺物

第１節　出土遺物の整理方法

○整理方法

遺物の出土は、特定の遺構を省いて、多くは小片となったものである。これらの遺物を資料化する方法として、上下層あるいはそれを飛び越えた層位での接合関係、遺構とその上部に存在する包含層との接合関係などを検討している。また、実測図の掲載を重視し、数量的にまとまっている遺物群について器種構成比率を算出することに努めた。巻末には、出土遺物観察一覧を掲載し、後の検証が可能になるようにした。

１　弥生・古墳時代の遺物

○弥生土器・古式土師器の技法と実測図の表現（第99図）

成形・整形・調整技法の名称は、以下の意味合いと表現に基づいて行っている。

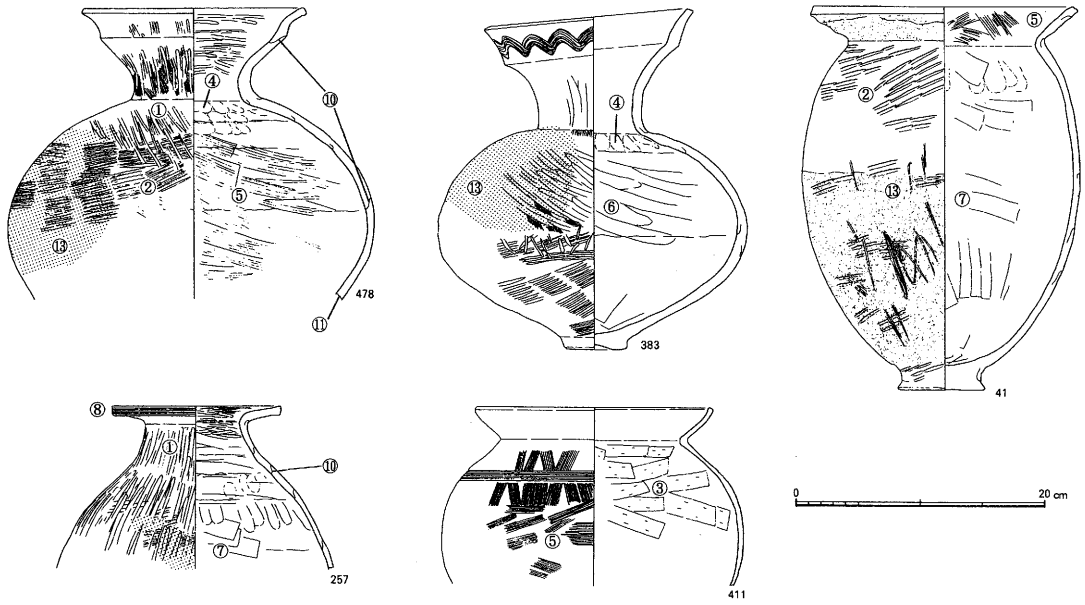
ナデ　不定方向のナデ、もしくは一定方向のナデを意味し、実測図では表現しない。

ヨコナデ　回転によるナデ、もしくは横方向の一定のナデを意味し、口縁部と裾部に顕著である。強く施すと筋目が残るが、実測図では表現しない。

①ヘラミガキ　細い篦状工具で器壁表面を整えるもの。実測図ではその幅を２本の細実線で表現する。

②タタキ（メ）　叩き板（工具）で器壁を叩いて形を整えるもの。実測図では山の部分を太実線で、谷の部分を細実線で表現する。

③ヘラケズリ　１～３㎝幅の篦状工具で器壁を薄く、平滑に仕上げるもの。実測図では砂粒の動きで上下方向を表現する。



第99図　弥生・古墳時代の土器の表現方法

④ユビオサエ（指頭圧痕）　指先で器壁を押さえて形を整えるもの。実測図では細い一点破線で表現する。
⑤ハケ（メ）　一定の幅をもつ刷毛状工具で器壁を整え、刷毛目が明瞭に残るもの。実測図ではその実数を細い平行線で表現する。但し、縮小によって図が潰れる場合は、間引く方法を採っている。
⑥ハケナデ（刷毛状工具によるナデ）　一定の幅をもつ軟質の刷毛状工具で器壁を整え、細かく浅い筋目が残り、端が丸く終わるもの。実測図では工具痕の幅のみを図示し、筋目は表現できない。
⑦イタナデ（板状工具によるナデ）　一定の幅をもつ硬質の板状工具で器壁を整え、細かく浅い筋目が残り、端が角をもって終わるもの。実測図では工具痕の幅のみを図示し、筋目は表現できない。
⑧凹線文・擬凹線　端部の強化と装飾を兼ねて口縁部・裾部の端面に、横方向のナデにより施されるもの。実測図では山の部分を2本の細実線、谷の部分を2箇所開ける1本の細線で表現する。
⑨絞り目　筒状の頸部・柱状部に外圧を加えることによってできる粘土の皺を意味する。実測図では蛇行する細実線、もしくは蛇行する細い一点破線で表現する。
⑩接合痕　粘土帯・各部位の接合面、貼り付けを意味する。実測図では明確な部分までを細実線で表現する。
⑪破断面　土器の破砕面。実測図では鋸歯状の細実線で表現する。
⑫技法の方向　技法の上下・左右の関係、または前後関係を意味し、各表現の線の重なり具合で表現する。
⑬黒斑・煤の付着　土器の焼成時に付くものを黒斑、二次的な加熱によって付くものを煤としてスクリーントーンで表現する。

○弥生土器・古式土師器の形態分類（第100図）

本来、口縁部から底部（裾部）まで遺存する全形態により同一基準において分類するべきであるが、小破片が主体を占める遺物群であるため口頸部を中心にした分類を行った。よって、分類項目の設定に当っては、機能差・技法差・時期差を無視した状態にあると言える。数量的な集計は、以下の分類に拠っている。

・壺（形土器）　壺は形態的特徴により、広口壺・二重口縁壺・長頸壺・広口長頸壺・細頸壺・短頸壺・太頸壺・無頸壺・脚台付壺・小形壺に大分類できる。各々、口頸部の屈曲・口縁部の外反度・口縁端部の形態的特徴などにより細分が可能であるが、成し得ていない。広口壺のみ口頸部の形態により、細分を行った。

広口壺A　頸部から口縁部にかけて一定の広がりをもち、口縁端部に粘土帯を付加し、垂れ下がる形態。
広口壺B　口頸部は広口壺Aの形態に類似し、口縁端部に粘土帯を付加せずに面をもって整える形態。
広口壺C　頸部から口縁部の変換点で外方に折れ曲がり、口縁端部を上方に摘み上げる形態。
二重口縁壺　所謂、複合口縁壺を総称する形態。
長頸壺　直線的な長い口頸部を有する形態。
広口長頸壺　広口壺としての口縁形態を示し、筒状の長い頸部を有する形態。
細頸壺　頸部径が小さく、筒状の長い口頸部を有する形態。直線的、もしくは外反する口頸部形態がある。
短頸壺　直線的、もしくは外反する短い口頸部を有する形態。
太頸壺　膨らみのある太い口頸部を有する形態。口縁形態が広口壺になるものは省いた。
無頸壺　原則的には頸部をもたない形態。極めて短く、直立する口縁部を有する形態のものを含める。
脚台付壺　脚台の付く壺の総称として使用し、脚台付短頸壺・脚台付太頸壺・脚台付無頸壺などを含める。
小形壺　一般的な壺の容量を下回る小形品。実用品と考え難い機能を有する手捏ね土器とも区別する。

・甕（形土器）　甕は主に口頸部の形態的特徴により、A類からG類に分類できる。

甕A　直線的に斜め外方に立ち上がる口縁部を有し、口縁端部に面をもつ形態。

甕B　外反、もしくは内湾する口縁部を有し、口縁端部が丸く収まる形態。

甕C　外反する口縁部を有し、口縁端部が上下方に僅かに摘み出されて面をもつ形態。

甕D　斜め上方に開き、口縁部上位で屈曲して上方ないし斜め外方に立ち上がる形態。一見、受口状口縁を呈する。

甕E　外反する口縁部を有し、口縁端部が上方に大きく摘み出されて面をもつ形態。

甕F　所謂、庄内式甕、庄内系甕を包括した形態。角閃石を含んだ特徴的な胎土を示す土器。

甕G　所謂、布留式甕、布留式傾向甕を包括した形態。結晶片岩を含んだ特徴的な胎土を示す土器。

・高坏（形土器）　高坏は坏部と脚台部の形態的特徴により、A類からF類に分類できる。

高坏A　総体的に皿形の浅い体部に外反する口縁部を有し、逆漏斗状に開く脚台部をもつ形態。体部に対する口縁部の長さは段階的に長くなる。中には体部と口縁部の屈折の不明瞭なものも存在する。

高坏B　椀形の深い坏部を有し、円柱状もしくは逆漏斗状に開く脚台部をもつ形態。口縁部が屈折して内湾する形態を含める。

高坏C　基部から直線的に外方に開く口縁部を有する形態。

高坏D　体部が水平もしくは斜めに伸び、直線的もしくは外反する長い口縁部を有する形態。

高坏E　所謂、有段の坏部を有する形態。

高坏F　椀形の小さい坏部を有し、ハの字形に直線的に開く脚台部を有する形態。器台Cと区別する。

・脚台　多くは高坏、壺・甕・鉢に付く脚台を指し、脚台の形態的特徴により、A類からG類に分類できる。

脚台A　高坏A・Bの脚台に多用され、器高が高く逆漏斗状に外反して開く形態。

脚台B　高坏A・Bの脚台に多用される傾向があり、器高が低く逆漏斗状に外反して開く形態。

脚台C　高坏Bの脚台に多用される傾向があり、円柱状の柱状部からハの字形に開く裾部を有する形態。

脚台D　希少例であるが、所謂、有段の脚台部を有する形態。

脚台E　中膨らみの柱状部から、内湾しながらハの字形に開く裾部を有する形態。

脚台F　直線的に開く柱状部から、直線的にハの字形に開く裾部を有する形態。

脚台F'　脚台Fの柱状部が中実のもの。

脚台G　高坏Fの脚台に多用され、基部からハの字形に直線的に開く形態。

・鉢（形土器）　鉢は形態的特徴により、A類からD類に分類できる。

鉢A　椀形の深い体部に、平底の底部が取り付く形態。

鉢B　平底の底部から内湾ぎみの体部に続き、体部上位で折れ曲がり、口縁部が外方に開く形態。

鉢B'　小形で球形の体部から短い口縁部が取り付く形態。小さい平底、もしくは丸底の底部になる。

鉢C　平底の底部から、直線的に外方に開く体・口縁部を有する形態。

鉢D　坏形の形態を有するもの。

・器台（形土器）　器台は主に口縁部の形態的特徴より、A類からC類に分類できる。

器台A　口縁部形態が広口壺Aに類似する形態。

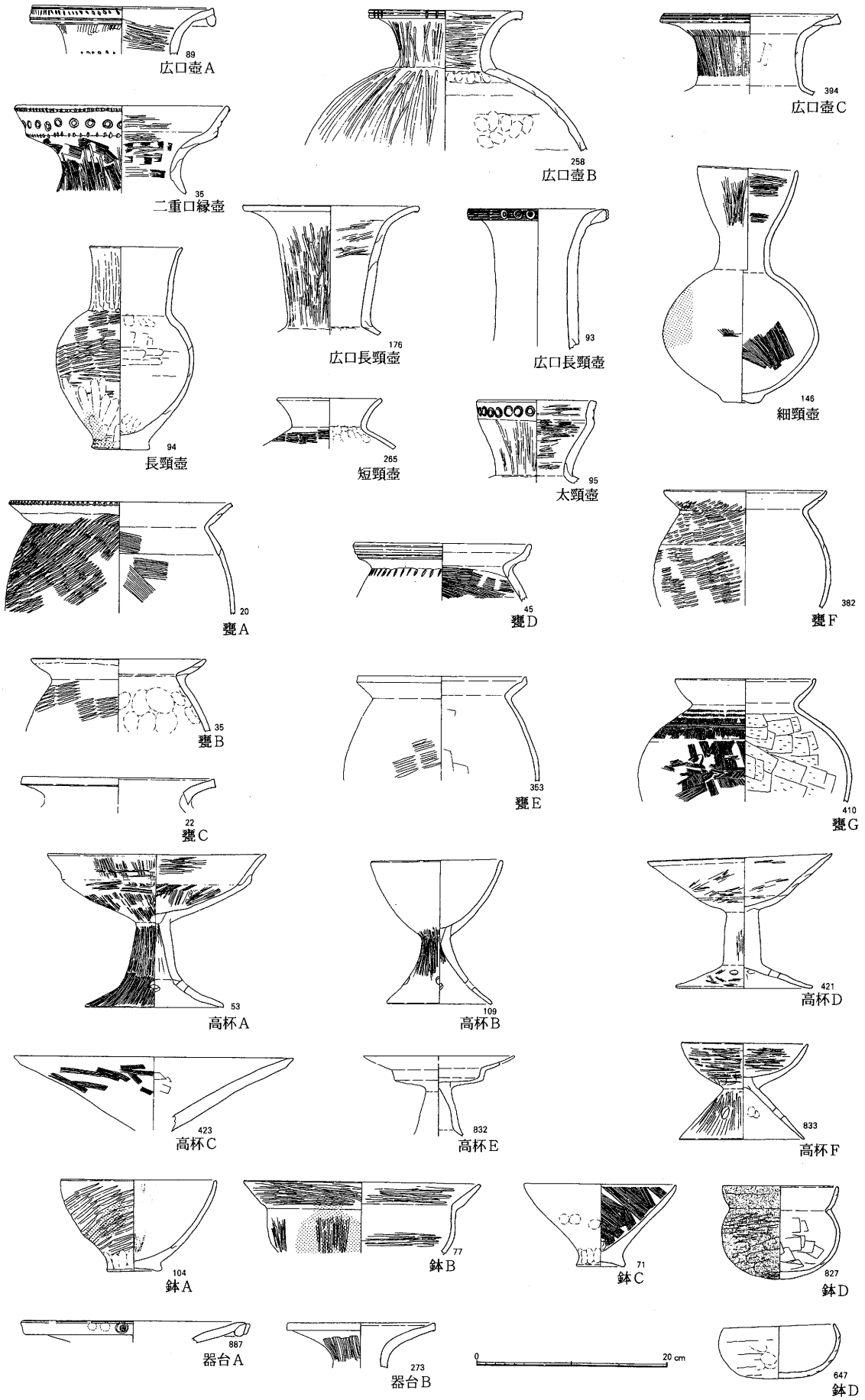
器台B　口縁部形態が広口壺Bに類似する形態。

器台C　小形で皿形の浅い体部に内湾する口縁部を有し、基部から直線的に開く脚台を有する形態。

・手焙形土器　所謂、鉢形の体部に覆い部が取り付く形態。

・蓋（形土器）　蓋は形態的特徴より、A類・B類に分類できる。

蓋A　摘み部から逆漏斗状に外開きする形態。壺用・甕用の二者がある。



第100図　弥生土器・土師器形態分類

蓋Ｂ　円盤状の形態に、２孔一対の紐孔の穿たれたもの。西田井遺跡の出土例では希少である。

・**甑（形土器）**　多くは鉢Ａ・鉢Ｂの底部に甑としての孔が穿たれた形態。

・**製塩土器**　製塩土器は脚台式で、Ⅰ類からⅣ類に分類できる。

脚台Ⅰ　ハの字形に外開きする器高の高い脚台を有する形態。広瀬分類の脚台１式に対応する。

脚台Ⅱ　ハの字形に外開きする器高の低い脚台を有する形態。広瀬分類の脚台２式に対応する。

脚台Ⅲ　椀形の体部に、小さい平底の取り付く形態。広瀬分類の脚台３式に対応する。

脚台Ⅳ　椀形の体部に、脚台Ⅲ類より更に小さい平底の取り付く形態。広瀬分類の脚台４式に対応する。

○古墳時代中期・後期の土師器・須恵器

土師器

古墳時代中期・後期は、広口壺・二重口縁壺・短頸壺、甕、高坏、鉢（坏）、甑などで土師器の器種構成を成している。その他、韓式系軟質土器の甕、椀、甑が当該期の器種構成に加えられる。

須恵器

須恵器は、広口壺・直口壺・短頸壺、甕、高坏、坏身・坏蓋、器台などで器種構成を成している。

・**製塩土器**　製塩土器は丸底式で、Ⅰ類からⅣ類に分類できる。

丸底Ⅰ　薄手で、内湾する椀形の小さい形態。広瀬分類の丸底２式に対応する。

丸底Ⅱ　薄手で、体部の長い形態。口縁部が内傾するのを常とする。広瀬分類の丸底１式に対応する。

丸底Ⅲ　薄手で、球形の体部に短く折れ曲がる口縁部の取り付く形態。

丸底Ⅳ　やや薄手で、歪な球形の体部になる形態。非常に雑な整形により作られる。

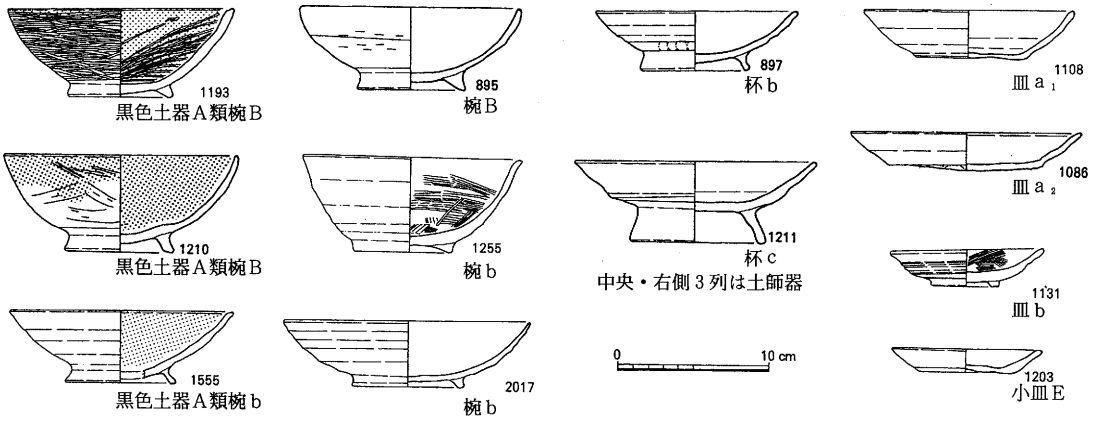
２　奈良時代～平安時代中期の遺物（第101図）

○奈良時代～平安時代中期の土器形態分類

土師器　奈良時代の土器にも対応できるが、主に、平安時代中期の形態分類に適応する。

椀は、高台の無い椀Ａ、高台の付く椀Ｂ、多段ナデ技法による体部に高台の無い椀ａ、多段ナデ技法による体部に高台の付く椀ｂに分類できる。

坏は、多段ナデ技法による体部に高台の無い坏ａ、多段ナデ技法による体部に高台の付く坏ｂ、多段ナデ



第101図　奈良～平安時代中期土器形態分類

技法による体部に高い高台の付く坏ｃに分類できる。

皿は、口縁端部に面をもち高台の無い皿ａ$_1$、器高の低い皿ａ$_2$、高台の付く皿ｂ 、高い高台の付く皿ｃに分類できる。皿ａ$_1$は平安時代後期の皿Ｅと同一である。

小皿は、小皿Ｄ$_1$、小皿Ｅなどに分類できる（本来、平安時代後期に属する形態)。

黒色土器　当分類も奈良時代の土器にも対応できるが、主に、平安時代中期の形態分類に適応する。

黒色土器の椀は、椀Ａ、椀Ｂ、多段ナデ技法による体部に高台の無い椀ａ、高台の付く椀ｂに分類できる。

黒色土器の坏は、土師器と同様に坏ａ、坏ｂ、坏ｃに分類できる。

須恵器

須恵器は、坏・皿・蓋・盤・鉢・高坏・壺・甕などで器種構成を成している。

・製塩土器（砲弾形）

製塩土器は、丸底Ⅴａ、Ⅴｂ、Ⅴｃ、Ⅵ、Ⅶａ、Ⅶｂ、Ⅶｃに分類できる。広瀬分類の丸底３式に対応する。また、丸底Ⅷａ、Ⅷｂ、Ⅷｃ、Ⅸに分類できるものも存在する。

3　平安時代後期～室町時代の遺物

○土師器の技法と実測図の表現（第102図）

成形・整形・調整技法の名称は、以下の意味合いと表現に基づいて行っている。

ナデ　不定方向のナデ、もしくは一定方向のナデを意味し、実測図では表現しない。

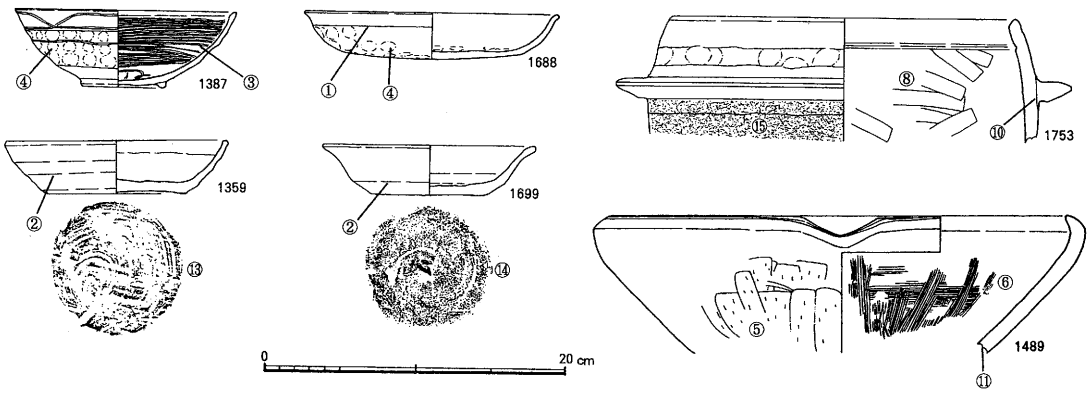
①ヨコナデ　回転によるナデ、もしくは横方向の一定のナデを意味し、実測図では表現しない。但し、ヨコナデの範囲の区切りを細実線により示す。例えば、口縁部のヨコナデ、高台貼り付けのヨコナデなどがある。

②回転ナデ　轆轤を利用した回転による横方向のナデ。基本的に凸部を２箇所開ける１本の細線で表現する。

③ミガキ　金属状の細い篦状工具で器壁表面を整えるもの。実測図ではその幅を２本の細実線で表現する。

④ユビオサエ（指頭圧痕)、⑤ヘラケズリ、⑥ハケ（メ)、⑦ハケナデ（刷毛状工具によるナデ)、⑧イタナデ（板状工具によるナデ)、⑨絞り目、⑩接合痕、⑪破断面、⑫技法の方向の意味合いと実測図の表現方法は、基本的に弥生土器・古式土師器と同じである。

⑬回転糸切り　轆轤回転による底部の切離しを意味する。螺旋を描く多条の筋目が明瞭に付く。



第102図　平安～室町時代土器の表現方法

⑭回転篦切り　轆轤回転による底部の切離しを意味する。螺旋を描くヘラケズリ状の痕跡が明瞭に付く。
⑮黒斑・煤の付着　土器の焼成時に付くものを黒斑、二次的な加熱によって付くものを煤としてスクリーントーンで表現する。時代は異なるが、黒色土器の場合、黒色化された器面側をスクリーントーンで表現する。瓦器についてはその表現は行っていない。

○平安時代後期～室町時代土器の形態分類（第103図）

弥生土器・古式土師器と同様に、小破片が主体を占める遺物群である。基本として口縁部から底部までの全形態からの分類を行ったが、中には口縁部を中心とした分類も含んでいる。よって、分類項目の設定に当っては、機能差・技法差が混在した状態にあると言える。数量的な集計は、以下の分類に拠っている。

平安時代後期～鎌倉時代

瓦器　瓦器には椀・小皿・釜がある。瓦器椀は主に口縁部の形態的特徴により、A類からD類に分類できる。

瓦器椀A　全般に器壁が薄く、口縁端部に内傾する面を成す形態。

瓦器椀B　全般に器壁が厚く、口縁端部が丸く納まる形態。

瓦器椀C　強いヨコナデにより、口縁部に一段ないし二段の凹凸を有する形態。連続する小ピッチの指頭圧痕が認められるものが多い。

瓦器椀D　口縁端部内面に一条の沈線が巡らされる形態。

瓦器小皿　形態分類をせず、小皿を総称する。

土師器

皿A_1　底部外面は指押えとナデにより整えられ、口縁部は一段のヨコナデにより整えられる形態。

皿A_2　皿A_1と類似形態を示し、器高の低い形態。連続する小ピッチの指頭圧痕が認められる。

皿B_1　底部は回転糸切り、もしくは回転篦切りにより整えられ、口縁部は二・三段の回転ナデにより整えられる形態。

皿B_2　皿B_1と類似形態を示し、器高の低い形態。西田井遺跡の出土例では希少である。

皿C　全般に体部の器壁が厚く、底部外面は指押えとナデにより整えられ、口縁部は一段の強いヨコナデにより整えられる形態。

皿D　底部外面は指押えとナデにより整えられ、口縁端部が外反する形態。

小皿A_1　底部外面は指押えとナデにより整えられ、口縁部は一段のヨコナデにより整えられる形態。

小皿A_2　小皿A_1と類似形態を示し、器高の低い形態。連続する小ピッチの指頭圧痕が認められる。

小皿B_1　底部は回転糸切り、もしくは回転篦切りにより整えられ、口縁部は一・二段の回転ヨコナデにより整えられる形態。

小皿B_2　小皿B_1と類似形態を示し、器高の低い形態。

小皿C　全般に体部の器壁が厚く、底部外面は指押えとナデにより整えられ、口縁部は一段のヨコナデにより整えられる形態。

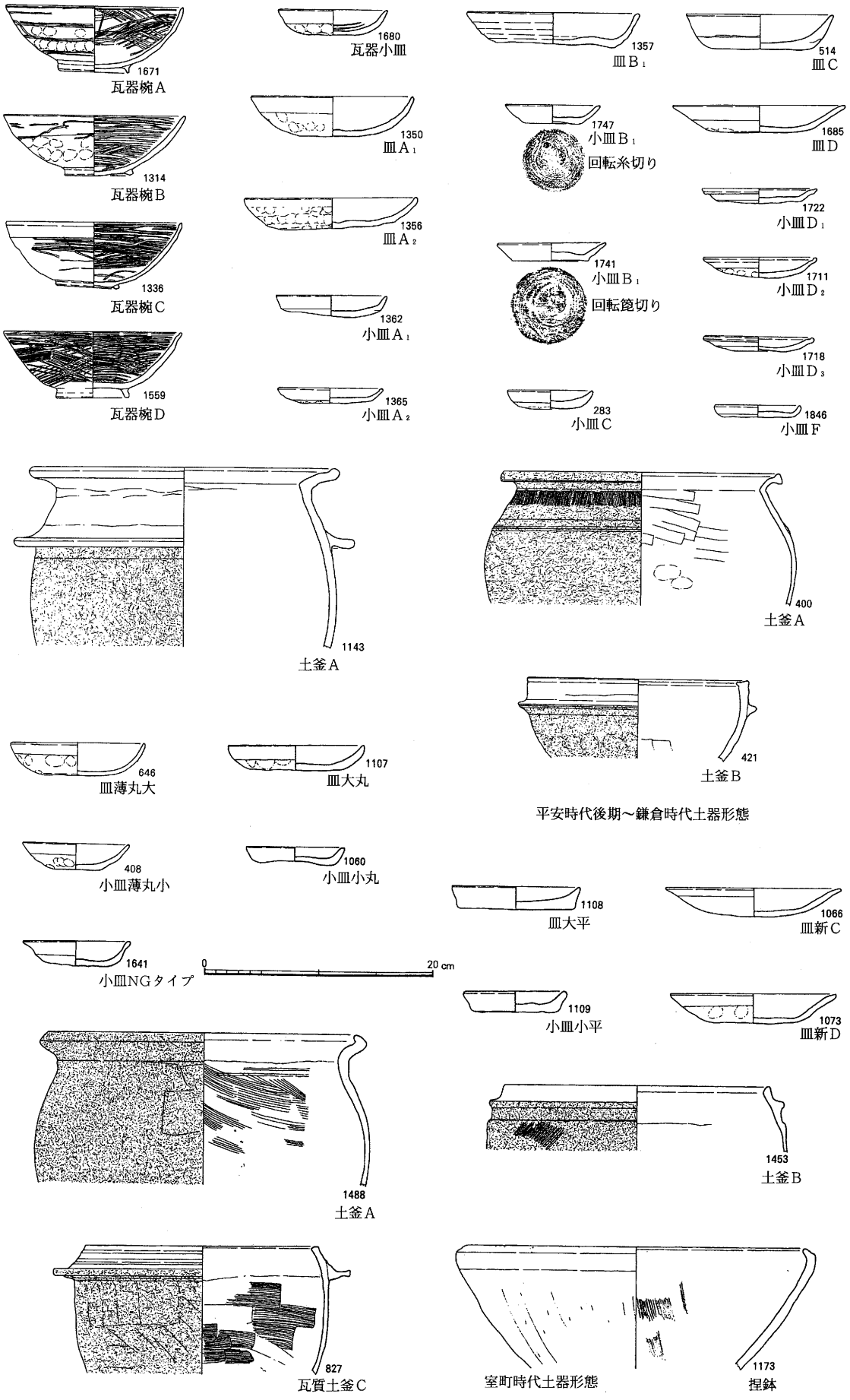
小皿D_1　口縁部上位で外方に折れ曲がり、口縁端部が水平ぎみに延びる形態。

小皿D_2　口縁部上位で外方に折れ曲がり、口縁端部が内側に巻き込む形態。

小皿D_3　口縁部上位で外方に折れ曲がり、口縁端部が肥厚して垂直ぎみの面をもつ形態。

小皿E　底部外面は指押えとナデにより整えられ、口縁端部に水平ぎみの面をもつ形態。

小皿F　底部外面は指押えとナデにより整えられ、器壁が薄く、口径が小さく、器高が低い形態。



第103図　平安時代後期～室町時代土器形態分類

土釜　所謂、鍔釜。土師器の鍔釜で、菅原分類の土師器釜の河内Ｂ型・和泉Ｂ型に対応する。

土釜Ａ　所謂、鍔釜。土師器の鍔釜で、頸部で「く」の字形に折れ曲がり、口縁端部に面をもつ形態。鍔の形骸化するもの・無い形態をも総称する。

土釜Ｂ　土師器の鍔釜で、内湾もしくは直立ぎみの口縁部。口縁端部が内側に折れ曲がる形態。

他に、**堝、甕**などの器種がある。

室町時代

土師器皿

皿薄丸大（皿大薄）　底部から口縁にかけての器壁が薄く均一化し、腰部が丸みを呈する形態。

小皿薄丸小（小皿小薄）　皿薄丸大の形態をそのまま小形化した形態。器壁が薄く均一化している。

皿大丸　底部外面は指押えとナデにより整えられ、板目圧痕の認められる場合もある。

皿大平　底部外面が平坦な形態。大半に板目圧痕が認められる。

小皿小丸　底部外面は指押えとナデにより整えられ、口縁部に軽い一段のヨコナデが認められる。

小皿小平　底部外面が平坦な形態。皿大平と同様に、板目圧痕が認められる。

小皿ＮＧ（ＮＧタイプ）　口縁端部の肥厚する形態。岩出町根来寺坊院跡の16世紀通有に見られる形態。

皿Ｃ　口縁部が外反する形態。在地産。

皿Ｄ　口縁部が大きく外反する形態。搬入品。

土釜

土釜Ａ　頸部で「く」の字形に折れ曲がり、口縁端部に面をもつ形態。鍔のない形態をも総称する。

土釜Ｂ　土師器の鍔釜で、内湾もしくは直立ぎみの口縁部。口縁端部が内側に折れ曲がる形態。

土釜Ｃ　所謂、鍔釜。瓦質の鍔釜で、菅原分類の瓦器釜の河内Ｄ型・和泉Ｄ型に対応する。土師質を含む。

他に、**捏鉢、堝、甕**などの器種がある。

出土遺物について各遺構、および出土層位毎に次節以後に記述するが、個々の説明を詳述することは容量的に無理があるので、主になる遺物の説明と、形態毎の諸特徴・器種構成などを中心に記載する。

また、各遺構の遺物量は、全ての破片点数について数量化できていない。そのため、以下の方法で行った。一部は、既述しているが、弥生・古墳時代の土器は、器種・器形の判別できる口頸部を中心に数量化に努めた。奈良時代・平安時代前期の土器は、判別できる範囲内で全破片数による数量化に努めた。平安時代後期～室町時代の土器は、口縁部計測法による数量化を行った。

各々、該当する部位の無い場合や極めて微量の場合は、器種構成比率表に※印で示した。

尚、文章中で資料数を「全体の資料数は何袋」と記載した部分は、遺物取り上げ袋・１袋に付き破片約20～30点を示し、「ややまとまった資料数」「まとまった資料数」と記載した部分は、通常の遺物収納コンテナ（28ℓ）で箱単位の資料が存在することを示す。

第２節　第Ｉ区の出土遺物

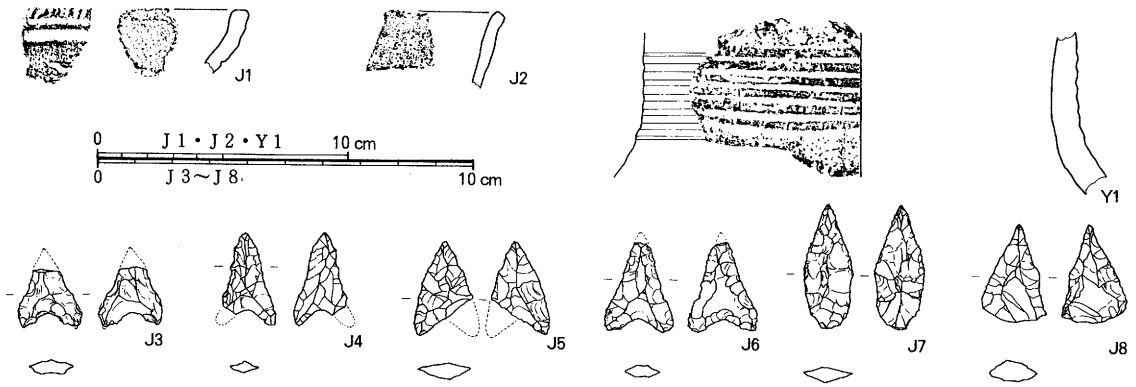
第Ｉ区の出土遺物の主体は、弥生時代後期～古墳時代前・中期、平安時代後期～室町時代の土器類であり、大半は、溝から出土した資料である。他に、若干量の後期縄文土器と奈良時代の遺物がある。また、石器・金属製品などは、平安時代後期～室町時代に伴うものが大半である。

１　縄文時代（第104図、ＰＬ．147）

縄文時代の遺物は、土坑や遺物包含層などの遺物に混じって、土器・石器が微量出土している。土器はいずれも小破片で、後期末に属するものである。弥生時代前期の土器も当項で扱う。

縄文土器は各々の形態的特徴からＪ１は宮滝式、Ｊ２も宮滝式に属するものであろうか。石器は６点出土し、石材は全てサヌカイトである。Ｊ３・４・５は凹基無茎式で、いずれも抉りの浅いものである。Ｊ７・８は円基式に属するものである。

弥生土器Ｙ１は、壺の頸部で削出突帯と箆描沈線文５条からなる施文が施されている。



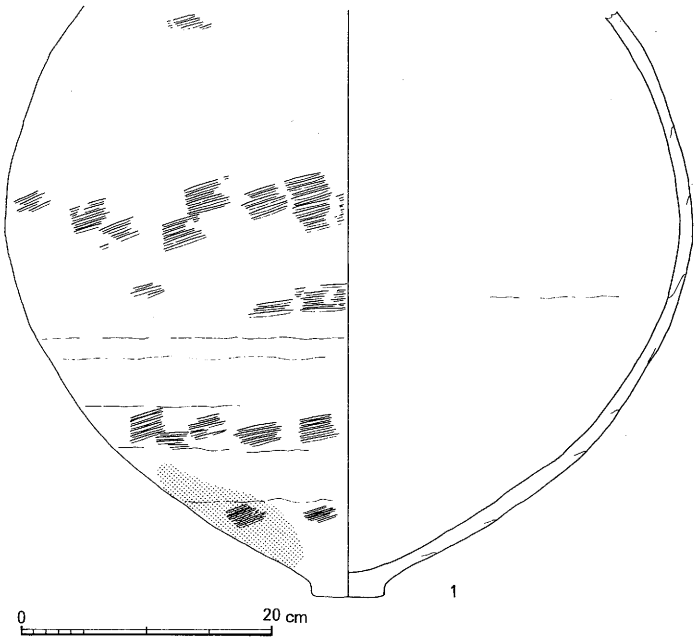
第104図　第Ｉ区出土縄文土器・石器、弥生時代前期土器実測図

２　弥生・古墳時代

第Ｉ区出土の弥生時代後期の遺物の大半は、溝から出土した土器資料である。古墳時代の遺物としては、竪穴住居と土坑の土器資料がある。当該期の石器・鉄器は極めて僅かである。

（１）壺棺（第105図）

１は壺の体底部で、突出する小振りの底部に球形に近い体部が取り付く。口頸部は遺存しない。体部中位に最大径をもち、底部の大きさに比べて、体部最大径55㎝の大形品である。第ⅢＣ区溝ＳＤ681出土資料の二重口縁壺などに類例を求めることができる。



第105図　ＳＸ６出土土器実測図

（２）溝

溝資料の大半は、ＳＤ12から出土した弥生時代後期ものである。それ以外で弥生時代後期と判断した溝の資料は僅かである。混入遺物の認められる場合が多いが、重複関係等の検討により当該期に含めている。その他、須恵器を伴う古墳時代中期のものが若干認められる。

ＳＤ１１（第111図）

ＳＤ11の資料数はごく僅かであるが、遺構の重複関係からＳＤ12より古くなる。甕Ａ類111、甕Ｂ類112がある。111の口縁端部には、細かな単位の箆刻みが施される。

ＳＤ１２（第106～110図、表９、ＰＬ．51～53）

出土土器は、取り上げに際して、第ＩＡ区では埋土一括、第ＩＣ区では埋土下層・上層、埋土最上層に区別されていたため、有効手段と判断した三区分で器種構成比率を算出した。

第ＩＡ区の出土遺物として、壺には、広口壺Ａ類２～４、広口壺Ｂ類５・６・８がある。７は、口縁端面に擬凹線と貼付円形浮文＋竹管文の施されたもので、広口Ａ類としたが、器台の可能性をもつ。二重口縁壺11～14は、小形13と大形11・12・14に区別でき、後者ほど装飾性に富むものである。竹管文と箆描による鋸歯文の組合せたもの11、粗い櫛描波状文と貼付円形浮文＋竹管文の組合せたもの14がある。甕には、甕Ａ類17～24・26～32、甕Ｂ類25・33～37、甕Ｄ類38がある。体底部40～43では、分割成形の認められるタタキ方向、体部下半に煤の付着する共通要素を示している。甕底部45は、立上りの状態からかなりの大形品になる。鉢には、鉢Ａ類46～48、鉢Ｂ類50～52がある。49も椀形の鉢Ａ類に含めた。鉢Ｂ類には、小形50、中形51、大形52の３種が存在する。高坏には、高坏Ａ類54～57、高坏Ｂ類58がある。55～57の高坏Ａ類にみられるように坏部と口縁部の境目が不明瞭な形態である。中には、高坏54のように、口縁部の立上りが垂直気味で、坏部に対して口縁部が短い要素から後期中頃前半の様相を呈するものも存在する。

器種	遺構 層位 ＼ 器形	ＳＤ12 埋土		ＳＤ12 埋土（下層・上層）		ＳＤ12 埋土（最上層）	
壺	広口壺Ａ	18 (40.9%)	44 (18.0%)	2 (7.4%)	27 (12.6%)	22 (24.4%)	90 (23.4%)
	広口壺Ｂ	14 (31.8%)		16 (59.3%)		47 (52.2%)	
	広口壺Ｃ						
	二重口縁壺	8 (18.2%)		5 (18.5%)		9 (10.0%)	
	長頸壺					1 (1.1%)	
	広口長頸壺					1 (1.1%)	
	細頸壺	3 (6.8%)		2 (7.4%)		4 (4.4%)	
	短頸壺	1 (2.3%)				6 (6.7%)	
	太頸壺						
	無頸壺						
	脚台付壺			2 (7.4%)			
甕	甕Ａ	48 (32.7%)	147 (60.3%)	68 (54.8%)	124 (58.0%)	111 (57.2%)	194 (50.4%)
	甕Ｂ	96 (65.3%)		49 (39.5%)		72 (37.1%)	
	甕Ｃ					1 (0.5%)	
	甕Ｄ	3 (2.0%)		7 (5.6%)		10 (5.2%)	
	甕Ｅ						
	甕Ｆ						
	甕Ｇ						
高坏	高坏Ａ	35 (79.5%)	44 (18.0%)	33 (73.3%)	45 (21.0%)	67 (84.8%)	79 (20.5%)
	高坏Ｂ	9 (20.5%)		12 (26.7%)		12 (15.2%)	
	高坏Ｃ						
	高坏Ｄ						
	高坏Ｅ						
	高坏Ｆ						
鉢	鉢Ａ	1 (11.1%)	9 (3.7%)	4 (26.7%)	15 (7.0%)	7 (38.9%)	18 (4.7%)
	鉢Ｂ	6 (66.7%)		11 (73.3%)		11 (61.1%)	
	鉢Ｃ	2 (22.2%)					
	鉢Ｄ						
器台	器台Ａ				1 (0.5%)	2 (100.0%)	2 (0.5%)
	器台Ｂ			1 (100.0%)			
	器台Ｃ						
手焙形土器				2 (100.0%)	2 (0.9%)		
蓋	蓋Ａ					※	※
	蓋Ｂ						
甑						2 (100.0%)	2 (0.5%)
合計			244 (100.0%)		214 (100.0%)		385 (100.0%)
地区		第ＩＡ区		第ＩＣ区		第ＩＣ区	

※印は存在するが小破片

表９　ＳＤ12出土土器器種構成比率

第ⅠC区の上層出土遺物として、最上層の破片と接合するものを含めて扱った。壺には、広口壺A類60・61、広口壺B類62・63がある。球形の壺体底部64には細頸壺65様の口頸部が取付くものとみられる。壺64は、段付口縁壺とでも称するものであるが、二重口縁壺に含めた。甕には、甕A類69～72、甕B類73・74がある。甕A類72、甕B類73のように、体部の張出しが無く、体部径が口縁部径より中に入る形態も見受けられる。73は、外面全体に煤の付着が認められる。鉢には、鉢A類75・76、鉢B類77がある。鉢B類77は、内外面共に丁寧なヘラミガキの施された精製の土器で、胎土も殆んど砂粒を含まず緻密である。高坏には、高坏A類78～80がある。高坏A類79もSD12の中では、若干古い要素をもつものである。高坏の脚台部は、逆漏斗状に大きく開いた裾部が取付き、円孔が一段で3孔になるもの78、二段に上から2孔＋3孔になるもの80がある。

第ⅠC区の最上層出土遺物として、壺には、広口壺A類81～88、広口壺B類89～91がある。広口壺A類87・88は、器台の可能性をもつものである。広口長頸壺93は、類例として乏しいもので、筒状の長い頸部に屈曲する口縁部が取付く。二重口縁壺94・95は、口縁部内面にも施文されるもの94がある。高坏には、高坏A類106～108、高坏B類109がある。高坏A類106・107は、薄手の作りで、丁寧なヘラミガキが施される。高坏B類109は、基部付近に縦方向の丁寧なヘラミガキが遺存している。甑105は、中央1孔、外側4孔の焼成前の穿孔がある。脚台110は、鉢に取付く脚台と判断できる。

器種構成比率として、何れにおいても甕が半数以上を占め、次いで壺ないしは高坏が高率を占める。層位的にみると、甕A類に対する口縁端部の刻み目は、埋土で有36点・無10点、埋土（下層・上層）で有48点・無19点、埋土（最上層）で有74点・無36点となる。甕B類に対する刻み目は、埋土で有14点・無78点、埋土（下層・上層）で有7点・無41点、埋土（最上層）で有14点・無58点となる。

SD14（第111図、PL．54）

本来のSD14には平安時代後期の土器が主体を占めることから、当遺物は異なる別遺構の可能性が高いものである。全体の資料数は、9袋と少量である。須恵器の壺119そのものは、丁寧な作りに、細かなピッチの櫛描波状文が施され、胎土は緻密である。陶邑ON46型式に属すると考えられる。

SD18（第111図、PL．54）

SD18からは、平安時代の須恵器1点、鎌倉時代の土師器小皿・瓦器小皿各1点が出土しているが、混入資料と判断した。上記以外は、弥生時代後期の遺物である。全体の資料数は、6袋と少量である。高坏A類115と低脚の壺脚台116と考えられるものがある。

SD20（第111図）

SD20からは、鎌倉時代の土師器皿1点が出土しているが、それ以外は、弥生時代後期の遺物である。全体の資料数は、5袋と少量である。不明瞭に突出する壺底部117が出土している。

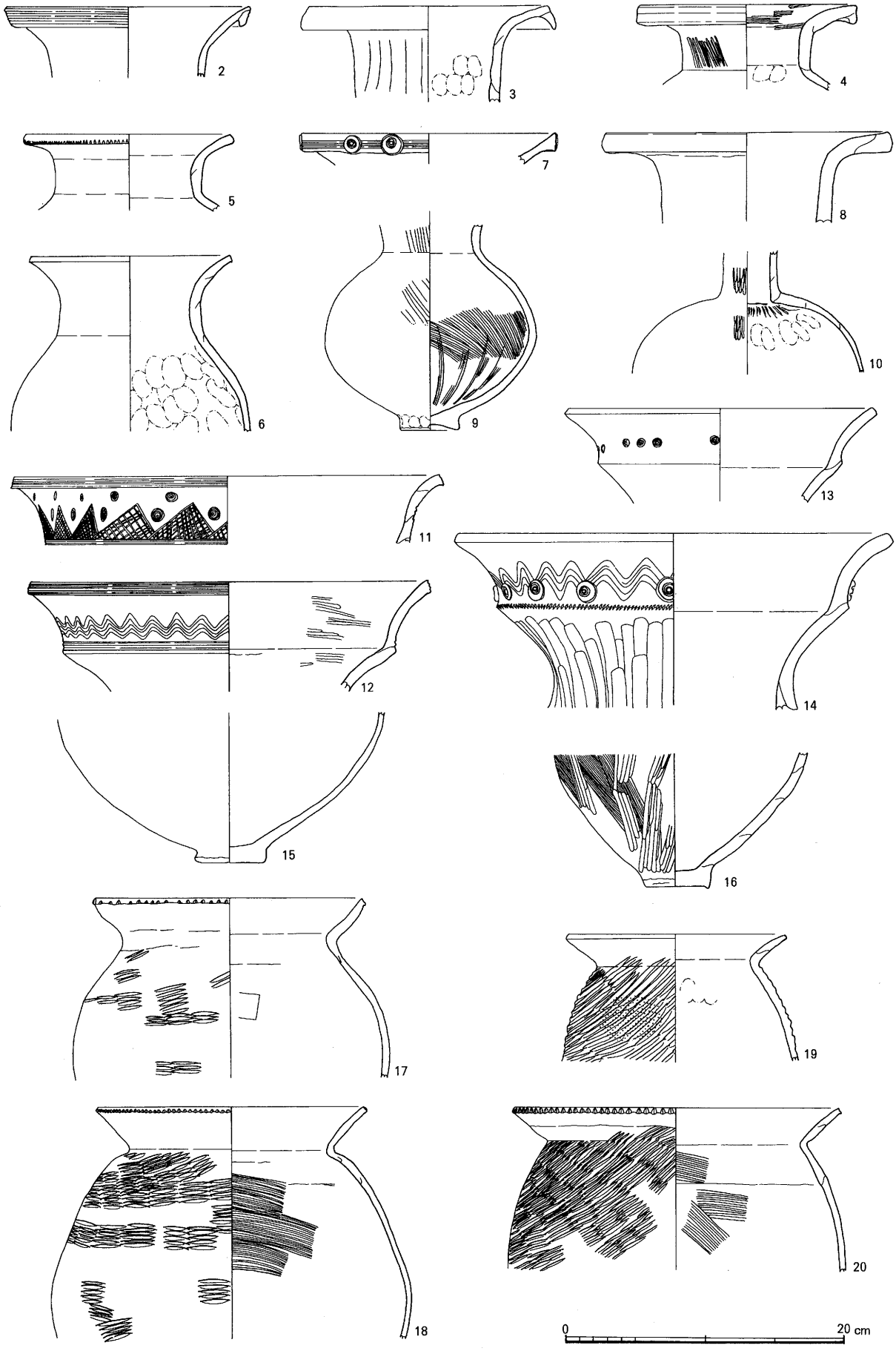
SD26（第111図）

SD26からは、弥生時代後期の高坏や古墳時代6世紀の甕1点が出土している。全体の資料数は、1袋とごく少量である。鉢A類118は、庄内式併行期に属するものと考えられる。

SD127（第111図、PL．54）

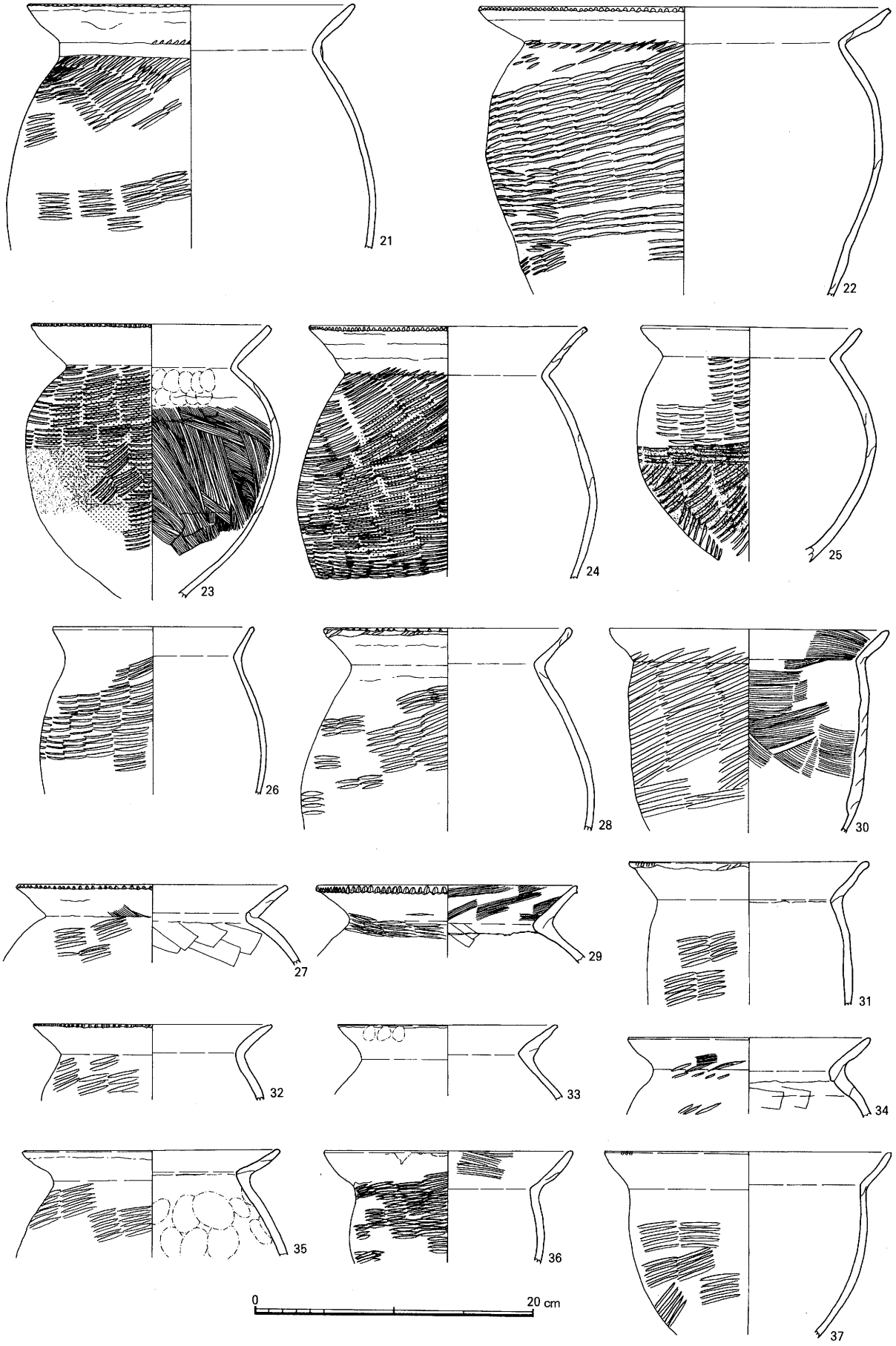
第ⅠB区の溝である。SD127からは、弥生時代後期の土器と共に平安時代後期の土師器皿2点、黒色土器1点、カマド1点、製塩土器1点が出土するが、重複する別遺構（SD131）と判断した。全体の資料数は、8袋と少量である。高坏D類120・121に伴って、須恵器坏蓋122が出土している。

SD147（第113図）



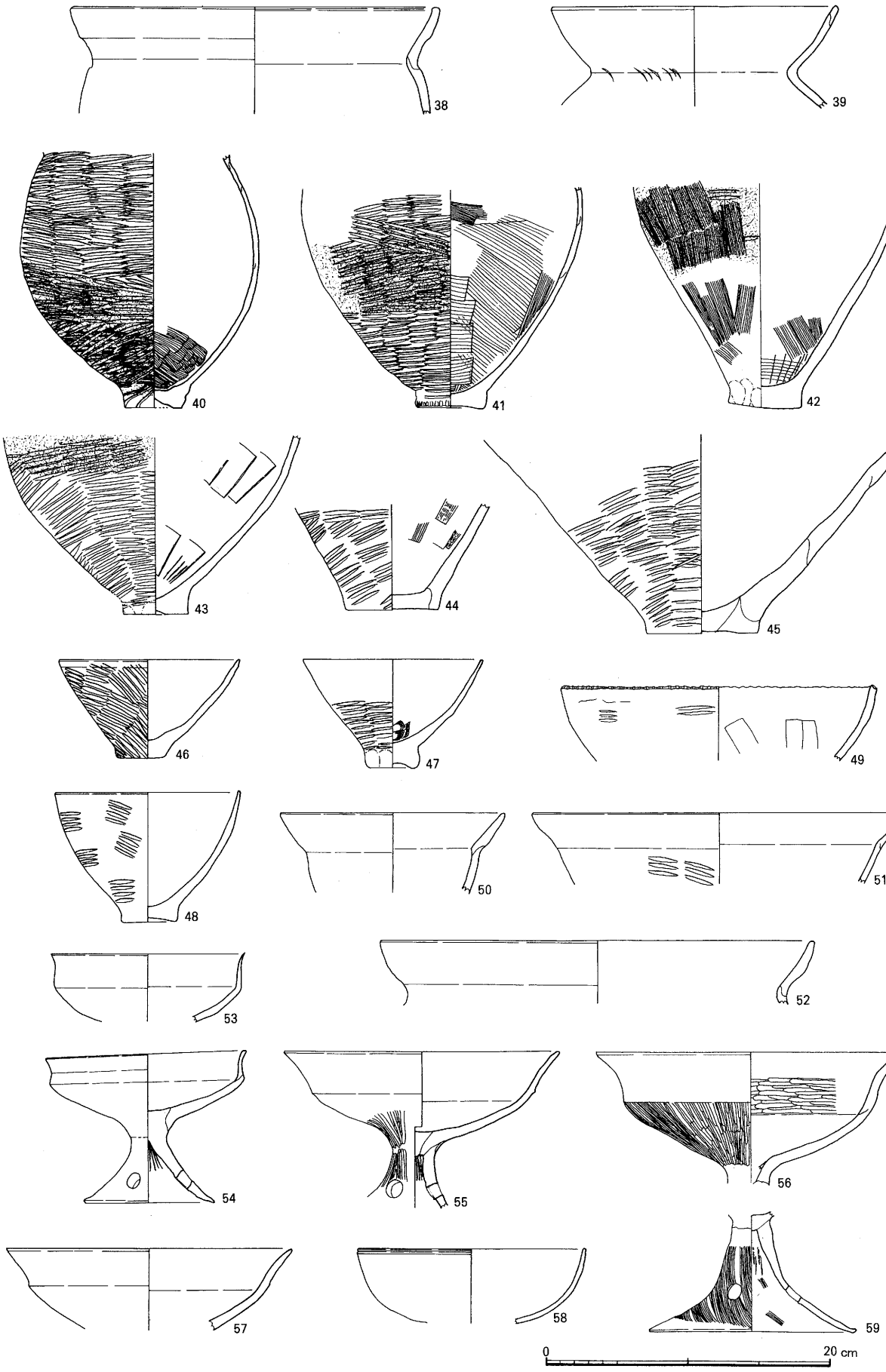
第ⅠA区

第106図　ＳＤ12出土土器実測図



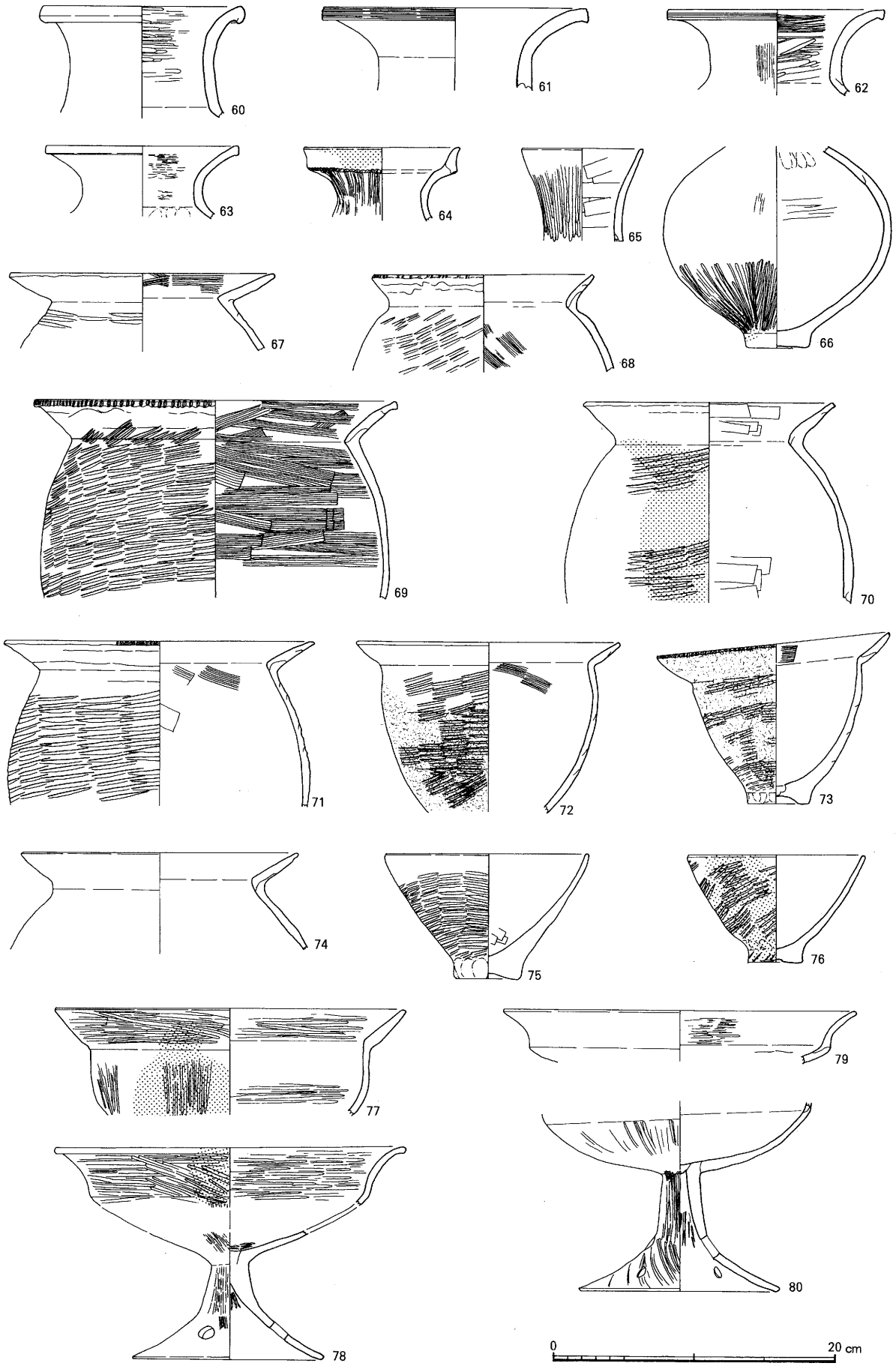
第ＩＡ区

第107図　ＳＤ12出土土器実測図



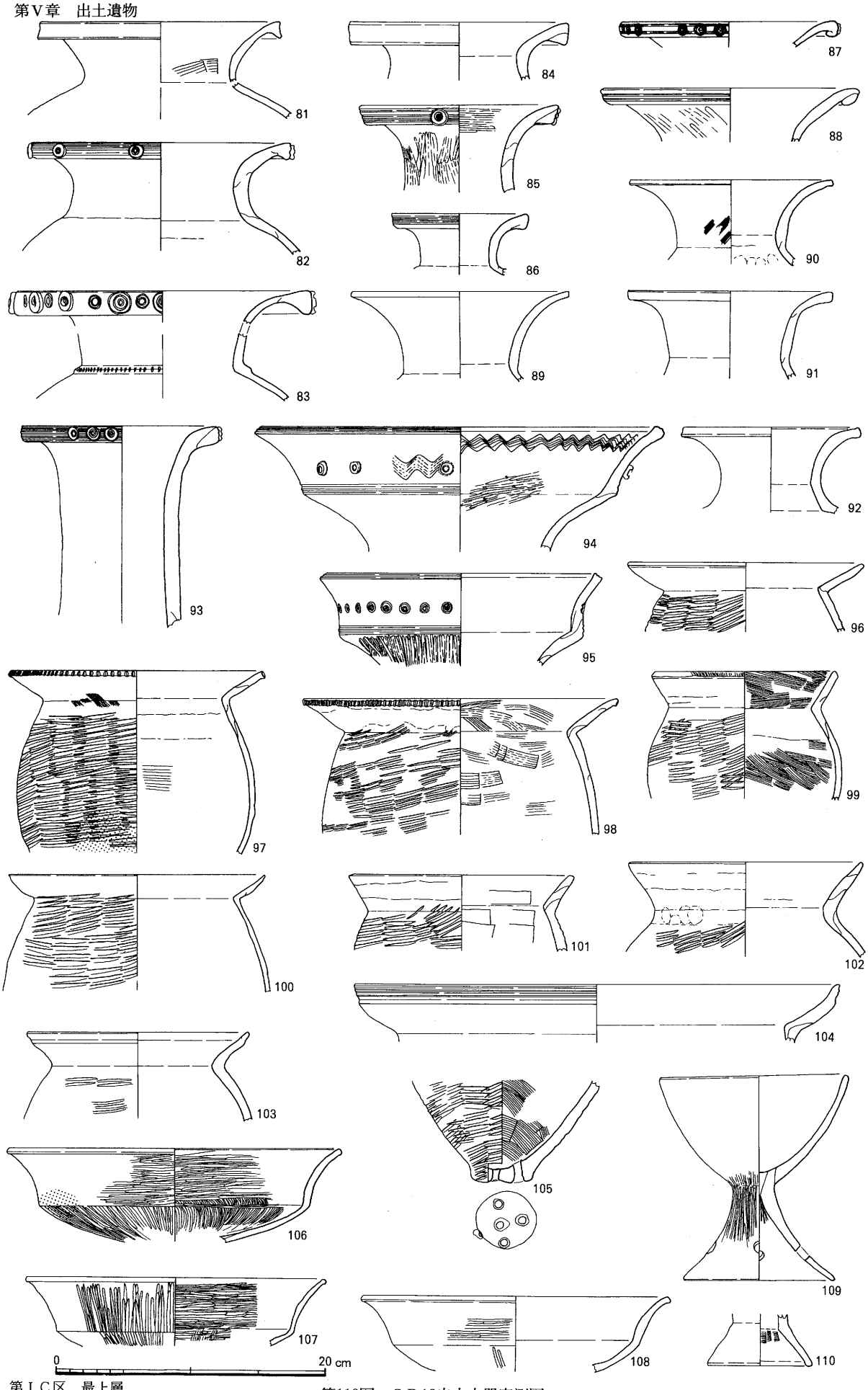
第ⅠA区

第108図　ＳＤ12出土土器実測図



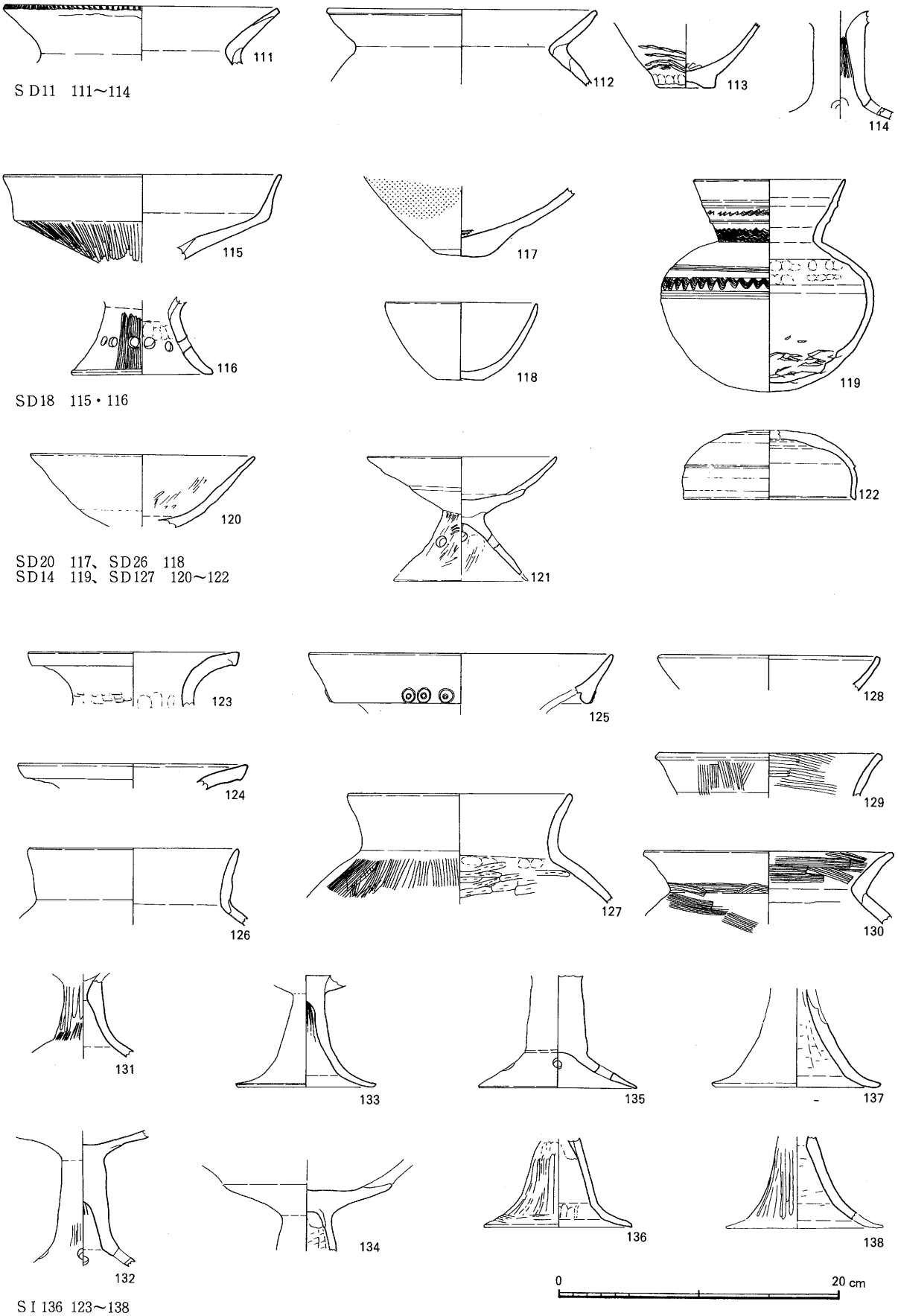
第Ⅰ C区　上層

第109図　ＳＤ12出土土器実測図



第ⅠC区　最上層

第110図　ＳＤ12出土土器実測図



SD11　111～114

SD18　115・116

SD20　117、SD26　118
SD14　119、SD127　120～122

SI136　123～138

第111図　SD11・14・18・20・26・127、SI136出土土器実測図

第ＩＤ区の溝である。ＳＤ147からは、最上層で平安時代末の土師器皿３点、上層で土師器１点、須恵器１点が出土している。全体の資料数は、１袋とごく少量である。甕底体部174、甕底部173は溝底から出土したものである。弥生時代後期末ないし庄内式併行期に属するものである。

（３）竪穴住居

ＳＩ１３６（第111図、ＰＬ．54）

ＳＩ136からは、床面直上、竈、柱穴、埋土一括として取上げられた土器資料47点が存在する。中には、庄内式～布留式併行期にかけての広口壺Ｂ類123・124、二重口縁壺125、甕Ｆ類128、高坏Ｄ類134、脚台Ａ類131～133がある。近接するＳＫ141との関係で、埋土に入り込んだものと考えられる。甕Ｆ類128は、胎土に角閃石を多量に含み生駒西麓からの搬入品と考えられる。

本来の竪穴住居に伴う遺物として、短頸壺126、甕Ｂ類127・129・130、脚台Ｆ類136～138がある。甕Ｂ類に施されるハケ調整は、通例、体部外面が粗い縦方向、口縁部内面が粗い横方向の調整となる。127の肩部内面は、軟質の篦状工具による幅の狭い単位のヘラケズリが認められる。脚台Ｆ類は、脚部内面に横方向のヘラケズリが施され、裾部が外側に折れ曲がる。脚台Ｆ’類135は、中実の脚部に短い裾部が取付く。これらの資料は、古墳時代５世紀中頃から後半にかけての一群である。

器種	器形	比率		器種	器形	比率	
壺	広口壺Ａ	1 (5.0%)	20 (15.7%)	高坏	高坏Ａ	4 (33.3%)	12 (9.5%)
	広口壺Ｂ	9 (45.0%)			高坏Ｂ		
	広口壺Ｃ				高坏Ｃ		
	二重口縁壺	5 (25.0%)			高坏Ｄ	3 (25.0%)	
	長頸壺				高坏Ｅ	1 (8.3%)	
	広口長頸壺				高坏Ｆ	4 (33.3%)	
	細頸壺	5 (25.0%)		鉢	鉢Ａ	1 (33.3%)	3 (2.4%)
	短頸壺				鉢Ｂ	2 (66.7%)	
	太頸壺				鉢Ｃ		
	無頸壺				鉢Ｄ		
	脚台付壺			器台	器台Ａ		
甕	甕Ａ	6 (6.5%)	92 (72.4%)		器台Ｂ		
	甕Ｂ	71 (77.2%)			器台Ｃ		
	甕Ｃ	1 (1.1%)		手焙形土器			
	甕Ｄ	1 (1.1%)		蓋	蓋Ａ		
	甕Ｅ				蓋Ｂ		
	甕Ｆ	9 (9.8%)		甑			
	甕Ｇ	4 (4.3%)		合計			127 (100.0%)

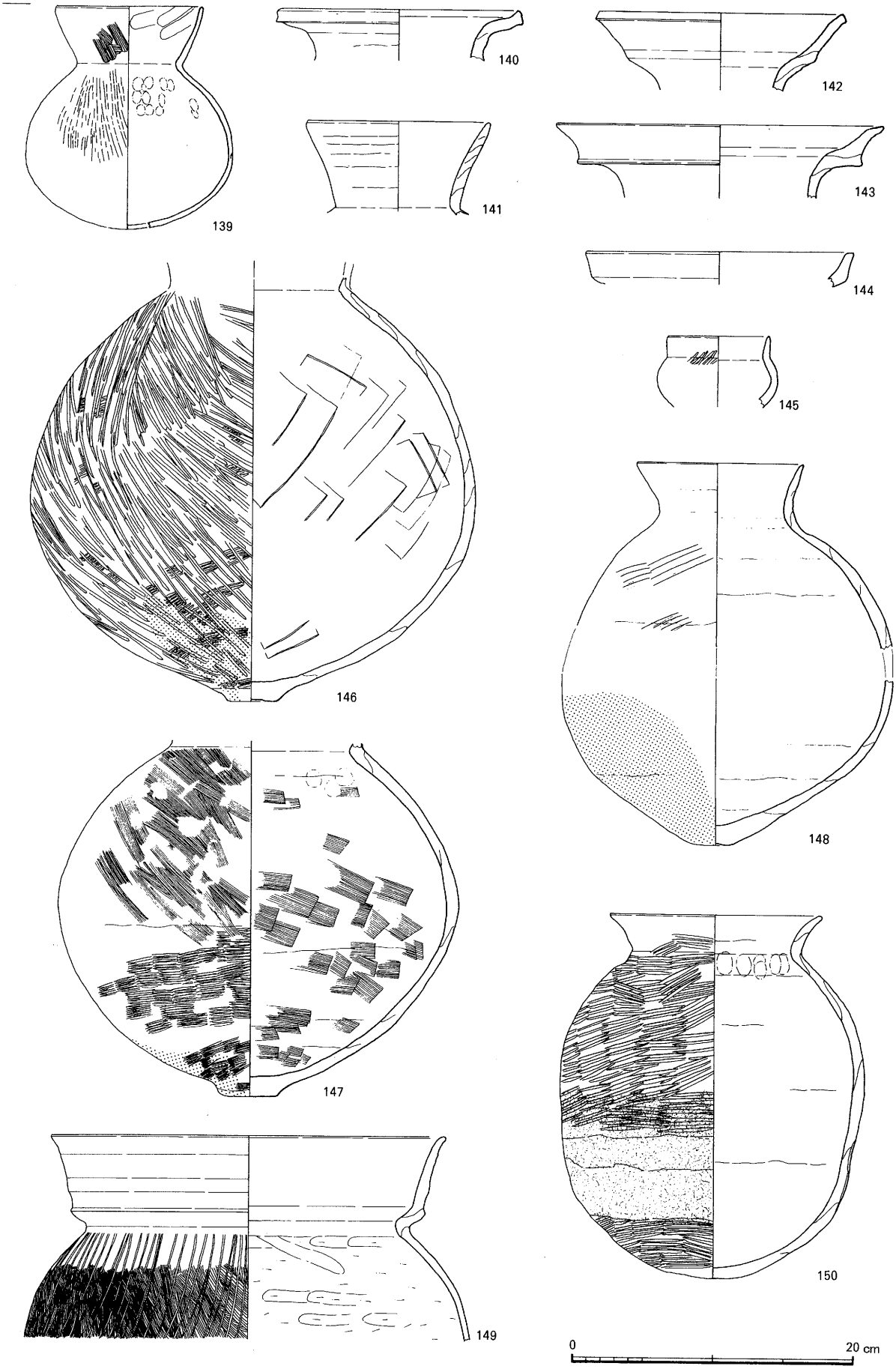
表10　ＳＫ141出土土器器種構成比率

（４）土坑

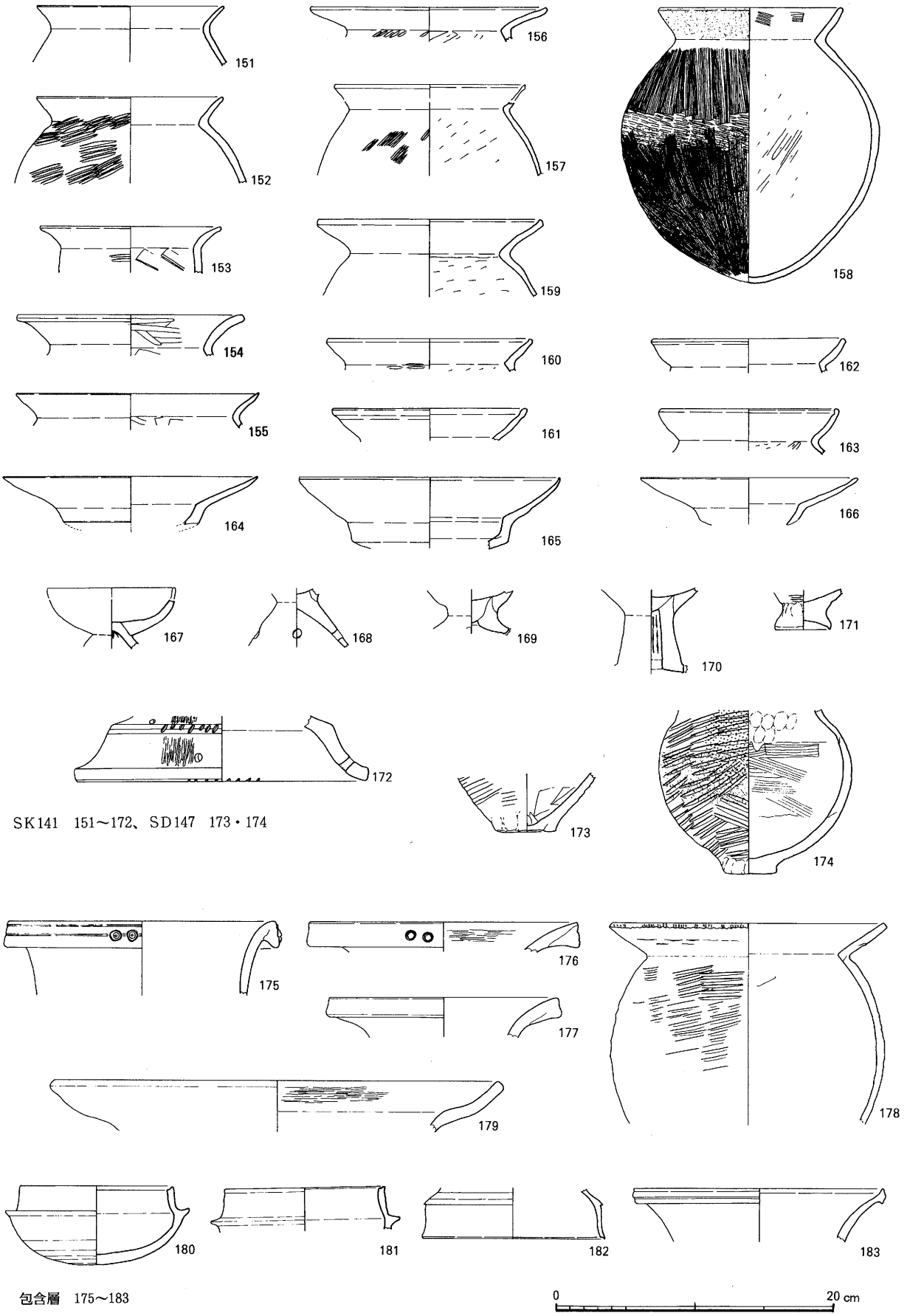
土坑の資料としては、第ＩＡ区では極めて僅かである。第ＩＤ区でも数少なく、１基にまとまる程度である。

ＳＫ１４１（第112～114図、表10、ＰＬ．55・148・150）

ＳＫ141からは、広口壺Ｃ類140、短頸壺139・141・148、二重口縁壺142～144、甕Ｂ類150～155・158、甕Ｆ類156・157、甕Ｇ類159～163、高坏Ｅ類164～166、高坏Ｆ類167、脚台Ａ類（１点）、脚台Ｂ類（４点）、脚台Ｅ類（４点）、脚台Ｆ類170（12点）、脚台Ｇ類168・169（３点）、製塩土器の脚台Ⅲ類171など資料127点が出土している。短頸壺139は、球形丸底の体部から直立気味に内湾する口縁部が取付く。広口壺Ｃ類140は、口縁部で外方に屈曲し、端部で上に摘み上げられる。二重口縁壺142～144は、何れも装飾のないものである。壺の体底部146・147は、小振りの底部に球形に近い体部が取り付く。受口状口縁の甕149には、細かな縦方向のハケ調整を施した上に装飾を意識したような縦方向のヘラミガキが施される。胎土はやや粗く砂質で、Ｓ・ＳＳサイズの角閃石が中量含まれた特徴的なものである。甕Ｂ類150は、体底部全体を三分割によって作り上げ、底部はタタキ調整の後に荷重による磨り減りが認められる。尖底から丸底への過渡的なものとして位置付けられるものである。体部外面下半には、煤の付着する範囲が帯状に



第112図　ＳＫ141出土土器実測図

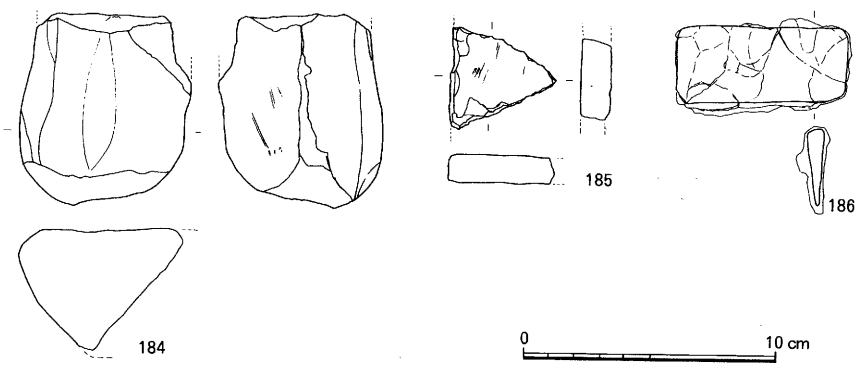


SK141　151～172、SD147　173・174

包含層　175～183

第113図　ＳＫ141、ＳＤ147、第Ⅰ区包含層出土土器実測図

認められる。甕Ｆ類156・157は、胎土に角閃石・金雲母を多量に含み生駒西麓からの搬入品と考えられる。甕Ｂ類158は、片岩を多量に含んだ地元産の土器である。



第114図　第Ⅰ区出土弥生・古墳時代石器・鉄器実測図

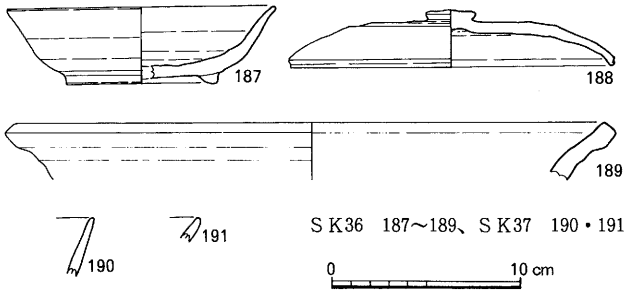
これらの資料は、庄内式併行期新相のものを含むが、布留式併行期古相に属する一群で、第ⅡＡ区方形周溝墓ＳＸ251の出土資料に類例を求めることができる。

3　奈良時代

（1）掘立柱建物

掘立柱建物に伴う資料は、極めて僅かである。粗いハケ調整された土師器甕の破片などで各建物の時代判断が可能なぐらいで、図示できるものがない。

（2）土坑



第115図　ＳＫ36・37出土土器実測図

ＳＫ３６（第115図、ＰＬ．56）

ＳＫ36からは、須恵器坏187、坏蓋188、甕189が出土している。全体の資料数は、３袋とごく少量である。飛鳥Ⅴ～平城Ⅰに併行する段階のものである。

ＳＫ３７

ＳＫ37からは、須恵器坏190、土師器坏191が出土している。全体の資料数は、１袋とごく少量である。図示した土器もかなりの小破片で、断面のみである。

4　平安時代～室町時代

第Ⅰ区出土の当該期の資料は、井戸と溝資料が大半を占めている。中でも、溝資料は一定のまとまりをもつものである。

（1）掘立柱建物・柱穴（第116・128・129図、ＰＬ．56）

掘立柱建物については、各柱穴の掘形と柱当りの出土資料を区別して、建物の機能時期と廃絶時期の検討を行った。土器資料の大半が小破片であるが、有効な方法と判断した。

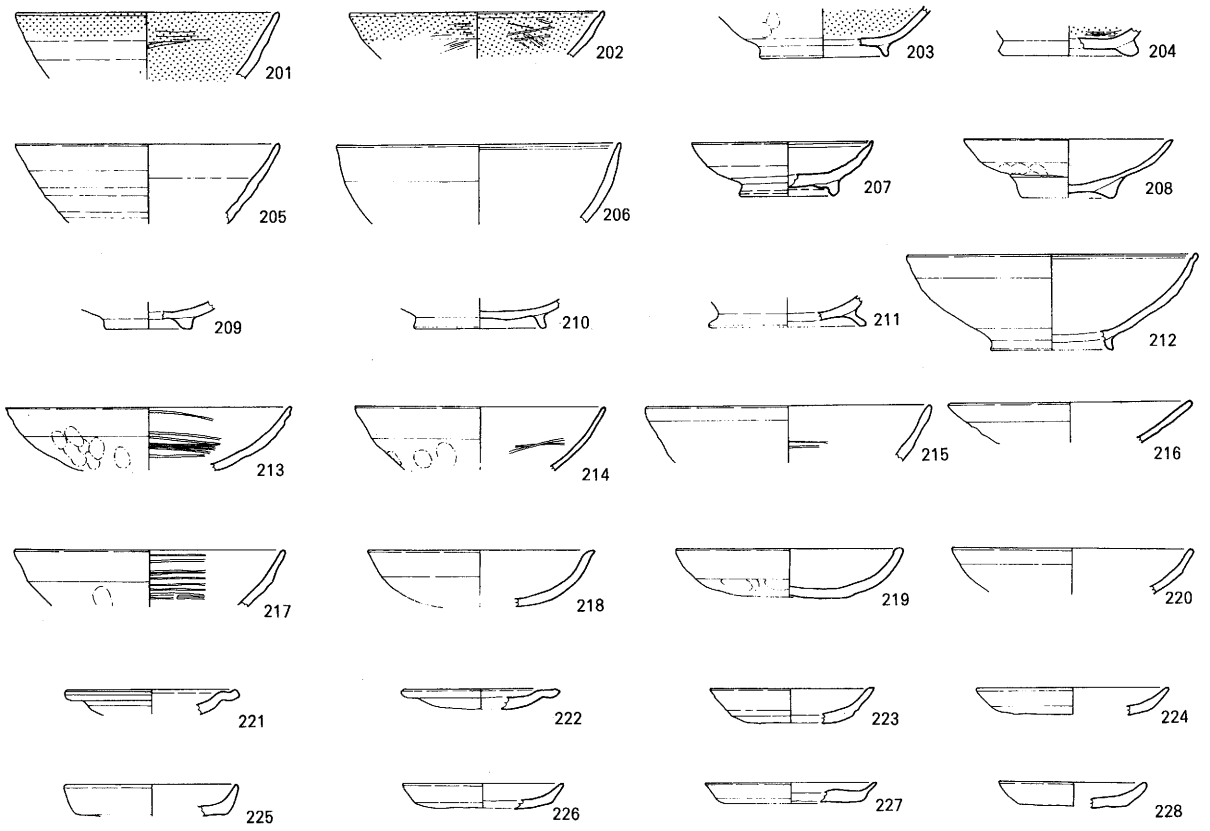
ＳＢ４１　出土資料は極めて少ないが、土師器皿ｂ類207・Ｅ類、黒色土器Ａ類の椀ｂ類などがある。

ＳＢ４２　黒色土器Ａ類の椀204、土師器小皿Ｅ類223・小皿$Ｄ_{1}$類などがある。

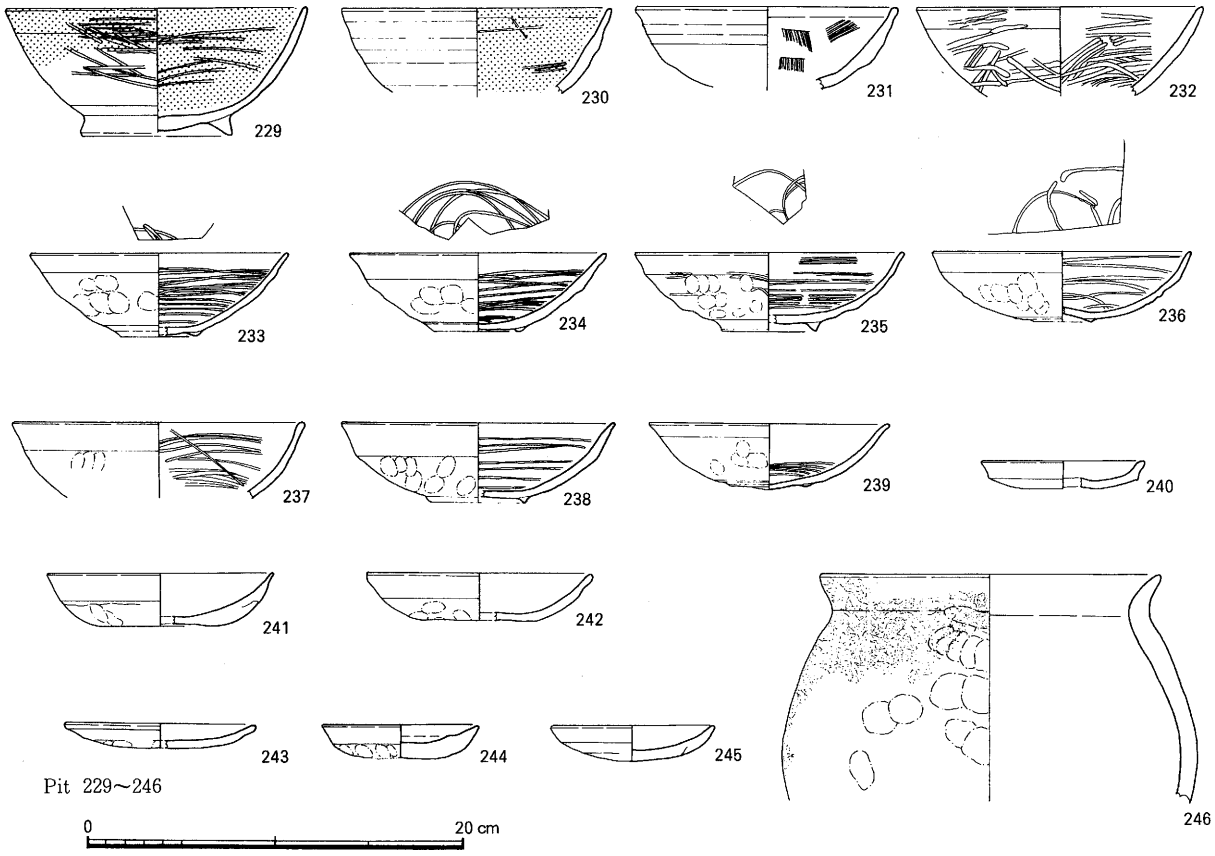
ＳＢ４５　土師器皿ｂ類208・椀Ｂ類206・小皿$Ｄ_{1}$類、黒色土器Ａ類の椀ｂ類201、土錘704などがある。

ＳＢ４６　土師器椀Ｂ類205・皿Ｅ類・須恵質捏鉢、黒色土器Ａ類の椀、土錘701などがある。

ＳＢ４８　出土資料はややまとまりがあり、土師器皿$Ａ_{1}$類218・皿$Ｂ_{1}$類・小皿$Ａ_{1}$類224・小皿$Ｂ_{1}$類・小皿$Ｄ_{1}$類・皿Ｃ・土釜、瓦器椀Ｃ類215、黒色土器Ａ類の椀などがある。



SB掘立 Pit 201～228



Pit 229～246

第116図　第ⅠA区掘立柱建物・柱穴出土土器実測図

ＳＢ４９　出土資料は極めて少ないが、土師器皿Ａ$_1$類・皿薄丸大219、瓦器椀Ｃ類217・Ｄ類などがある。

ＳＢ５１　土師器小皿Ａ$_1$類・小皿Ｂ$_1$類・小皿Ｃ類・小皿Ｄ$_3$類221、瓦器椀Ｃ類213などがある。

ＳＢ５２　土師器皿Ａ$_1$類・小皿Ｂ$_1$類・皿Ｃ類・小皿Ｄ$_2$類、黒色土器Ａ類の椀203などがある。

ＳＢ５６　土師器皿Ａ$_1$類・小皿Ａ$_1$類326・小皿Ｂ$_1$類・皿薄丸大220・土釜Ａ類、瓦器椀Ｃ類214・小皿・鉢などがある。

ＳＢ５７　土師器小皿Ａ$_1$類227・土釜Ａ類、瓦器椀Ｃ類216・椀Ｄ類212、須恵質椀、白磁などがある。

その他の柱穴　その他の柱穴資料として、土師器皿Ｃ類241・皿薄丸大242・椀ｂ類231・甕246、瓦器椀Ｃ類233～239・小皿240、黒色土器Ａ類の椀Ｂ類229・椀ｂ類230などがある。各々の単独資料も掘立柱建物の並びとして捉えた一連の柱穴と時期的に符合する遺物群である。

（２）土坑

ＳＫ６７（第118図）

資料数は、２袋とごく少量であるが、土師器皿Ｃ類247・小皿・鍋、瓦器椀、黒色土器Ａ類の椀などがある。

ＳＫ７１（第118図）

ＳＫ71の資料数は、１袋とごく少量であるが、土師器小皿、瓦器椀、須恵質捏鉢などがある。

ＳＫ７６（第118図）

ＳＫ76の資料数は、１袋とごく少量であるが、土師器土釜、瓦器椀、須恵質捏鉢249がある。

ＳＫ９１（第118・127図、表11、ＰＬ．56）

ＳＫ91には、土師器皿Ｃ類271～274・小皿Ａ$_1$類275～282・小皿Ｃ類283・284・土釜Ａ類285～288、瓦器椀Ｃ類250～266・小皿267～270、白磁碗289、土錘706などのややまとまった資料がある。口縁部計測法による個体数は、18.75個体（対応資料数198点）である。Ⅴ期の備前焼擂鉢が１点あるが、混入と判断した。

種類	器種形＼遺構層位		下層・中層・上層			種類	器種形		下層・中層・上層		
瓦器	椀	A		10.55 (56.3%)	11.01 (58.8%)	土師器		E			
		B	0.63 (3.4%)					F			
		C	9.46 (50.5%)				坏				
		D	0.46 (2.5%)				黒色土器	※		※	
	小皿		0.46 (2.5%)				椀				
土師器	皿	A_1	0.96 (5.1%)	2.08 (11.1%)	6.24 (33.3%)		甕	1.17 (6.2%)		1.17 (6.2%)	
		A_2					土釜				
		B					土釜A				
		C	1.08 (5.8%)				土釜B				
		D	0.04 (0.2%)				瓦器釜				
		E				須恵器（質）	椀				
	小皿	A_1	3.08 (16.4%)	4.16 (22.2%)			捏鉢	0.25 (1.3%)		0.25 (1.3%)	
		A_2					甕				
		B	0.29 (1.5%)				壺				
		C	0.75 (4.0%)			陶器		0.08 (0.4%)		0.08 (0.4%)	
		D_1				磁器	白磁	※		※	
		D_2					青磁				
		D_3	0.04 (0.2%)			合計		18.75 (100.0%)			

口縁部計測法による個体数、※印は存在するが微量・体部破片

表11　ＳＫ91出土土器器種構成比率

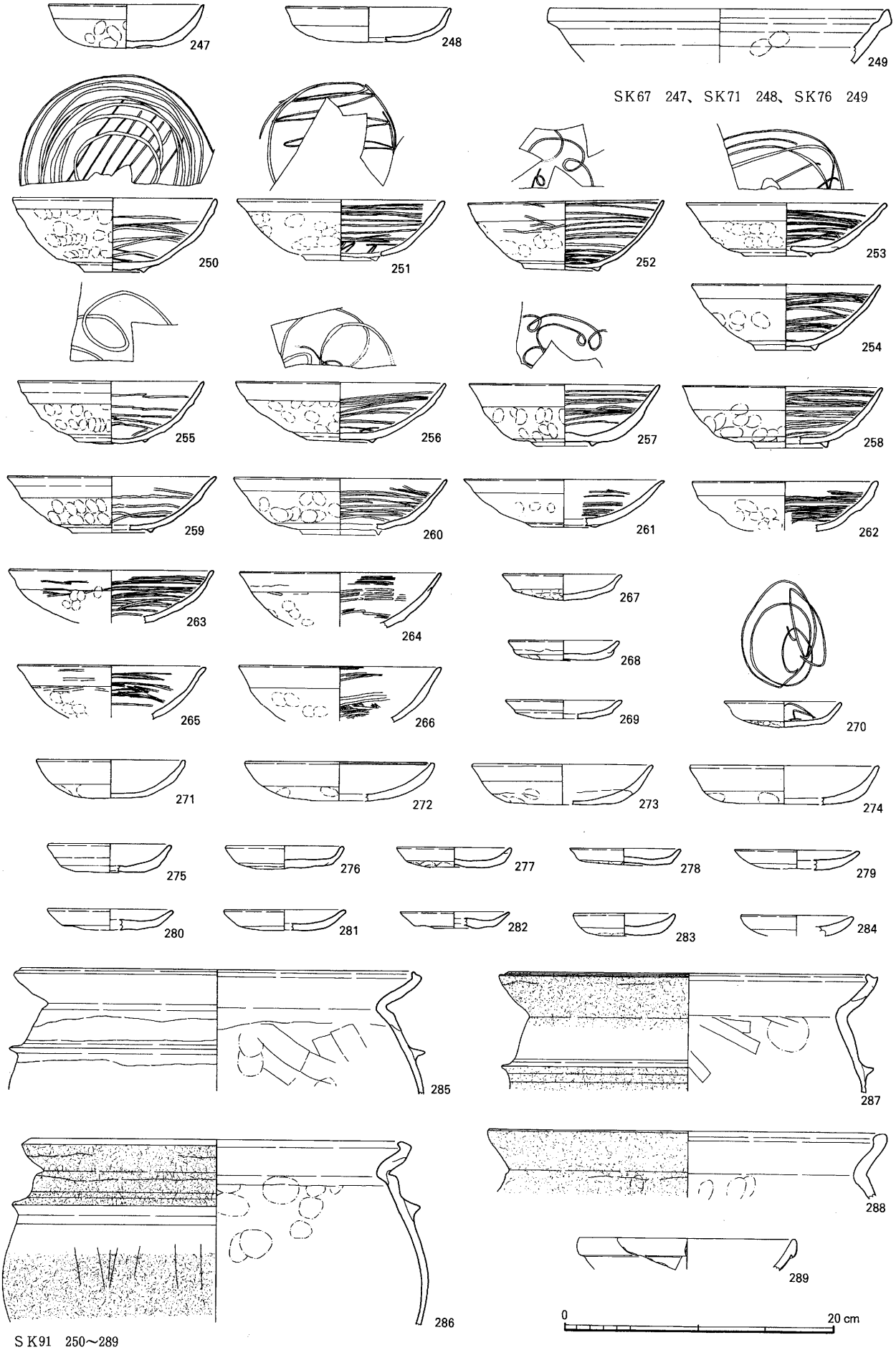
（３）井戸

ＳＥ９２（第119図、ＰＬ．57）

ＳＥ92からは、土師器皿大平290～295・小平296～299・大丸300～302・薄丸小302・303、備前焼擂鉢304、青磁碗305・白磁碗・青白磁合子などがある。全体の資料数は、６袋と少量である。

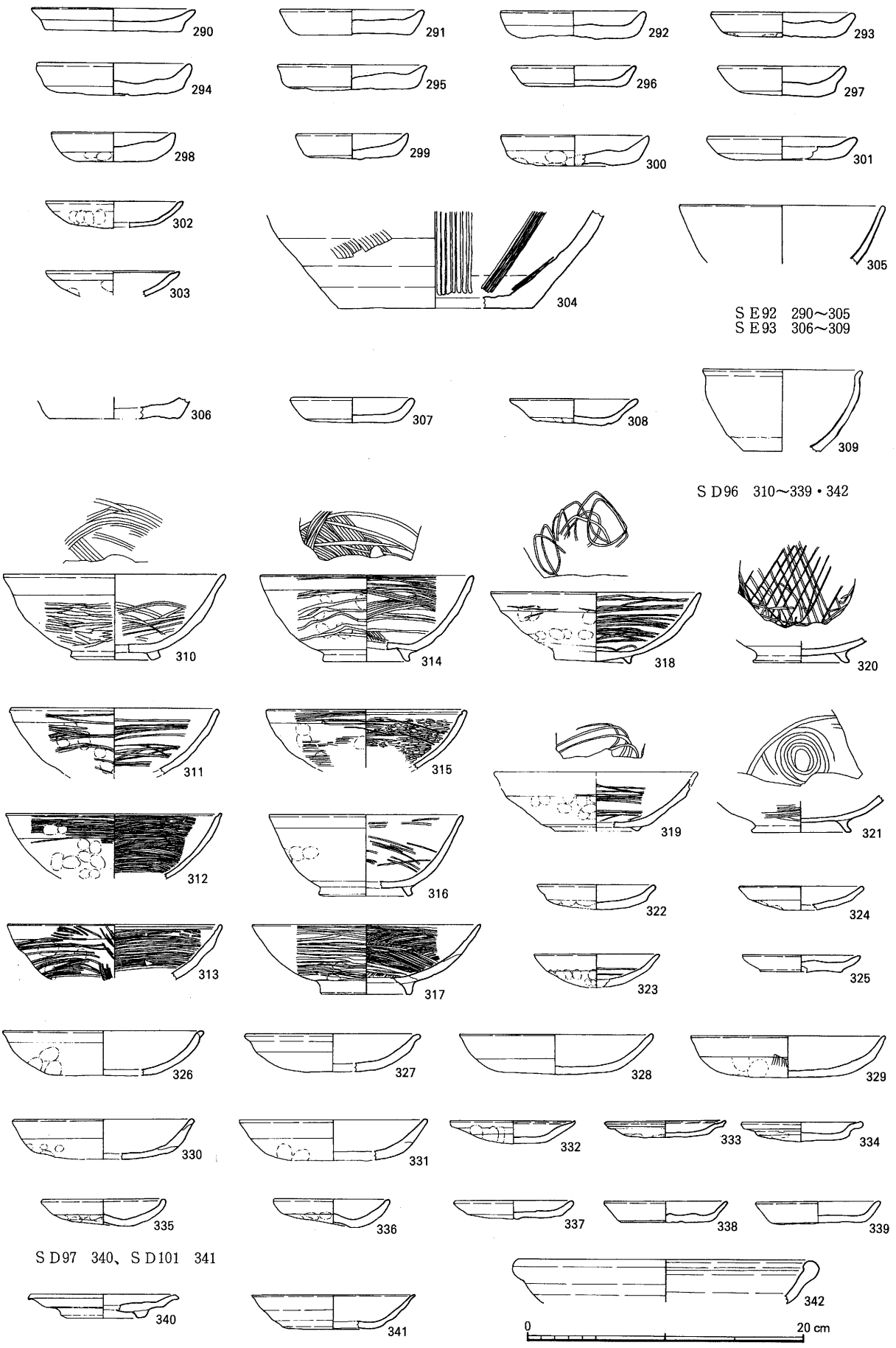
ＳＥ９３（第119・129図）

ＳＥ93からは、土師器皿大平306・小平307・ＮＧタイプ308、瀬戸美濃の天目茶碗309、毛抜き731などがある。全体の資料数は、４袋と少量である。



SK91　250～289

第118図　SK67・71・76・91出土土器実測図

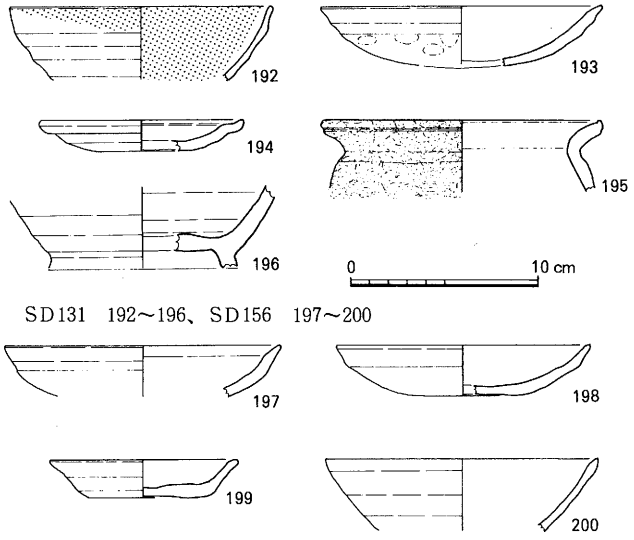


第119図　ＳＥ92・93、ＳＤ96・97・101出土土器実測図

（4）溝

ＳＤ９６（第119・128・129図、表31、ＰＬ．57）

ＳＤ96からは、土師器皿Ｄ類326・327、皿Ｃ類329～331、小皿Ａ$_1$類325・326、小皿Ｂ$_1$類337～339、小皿Ｄ$_2$類332～334、瓦器椀Ｂ類310・311、椀Ｃ類314・316・318、椀Ｄ類312・313・315、瓦器小皿322～325、土錘681・699、丸瓦710、鉄鏃720などのまとまった資料がある。口縁部計測法による個体数は、37.14個体（対応資料数411点）である。遺物は、取上げ時は下層・上層・埋土としていたが、一括して扱った。



SD131　192～196、SD156　197～200

第117図　ＳＤ131・156出土土器実測図

ＳＤ９７（第119図）

ＳＤ97の資料数は、５袋と少量であるが、土師器皿ｂ類340・小皿Ｄ類、黒色土器Ａ類の椀がある。

ＳＤ１０１（第119図）

ＳＤ101の資料数は、１袋とごく少量であるが、土師器皿Ｅ類341などが出土している。

ＳＤ１０２（表12）

中世の遺物として、第ＩＡ区で最もまとまった土器資料が存在する。

Ｅ溝（第22～26層）（第120図、ＰＬ．58）Ｅ溝からは、土師器皿Ａ$_1$類361・362・364、皿薄丸大363、小皿Ａ$_1$類365・366、土釜Ａ類368～372、瓦器椀Ａ類343・椀Ｂ類、椀Ｃ類344～354・鉢355・接合痕の顕著な小皿358～360・356・357・367、須恵質捏鉢373～375・椀376・甕377、青磁碗378などがある。口縁部計測法による個体数は、47.38個体（対応資料数425点）である。

Ｄ溝（第19・20層）（第121・129図、ＰＬ．59）Ｄ溝からは、土師器皿Ａ$_1$類388～394・土釜Ａ類396～400、土釜Ｃ類、瓦器椀Ｂ類・椀Ｃ類379～383、須恵質捏鉢402～405などがある。口縁部計測法による個体数は、22.09個体（対応資料数144点）である。瓦器椀Ｃ類には、高台の無いもの379・381、高台の形骸化したもの380・382がある。土釜Ａ類の肩部の鍔は、本来の機能を成さない非常に低いものとなっている。

Ｃ溝（第17・18層）（第122図）口縁部計測法による個体数は、13.82個体（対応資料数197点）である。

Ｂ溝（第15層）（第122図、ＰＬ．60）口縁部計測法による個体数は、4.25個体（対応資料数46点）である。

Ａ溝（第４・５層）（第122図、ＰＬ．60）口縁部計測法による個体数は、14.24個体（対応資料数98点）である。

第３層（第123・128図、ＰＬ．60）口縁部計測法による個体数は、17.77個体（対応資料数121点）である。

第２層（第124・128・129図、ＰＬ．61）遺物の内容は、Ｄ溝に類似する。口縁部計測法による個体数は、48.76個体（対応資料数393点）である。

第１層（第123図、ＰＬ．60）口縁部計測法による個体数は、21.93個体（対応資料数221点）である。

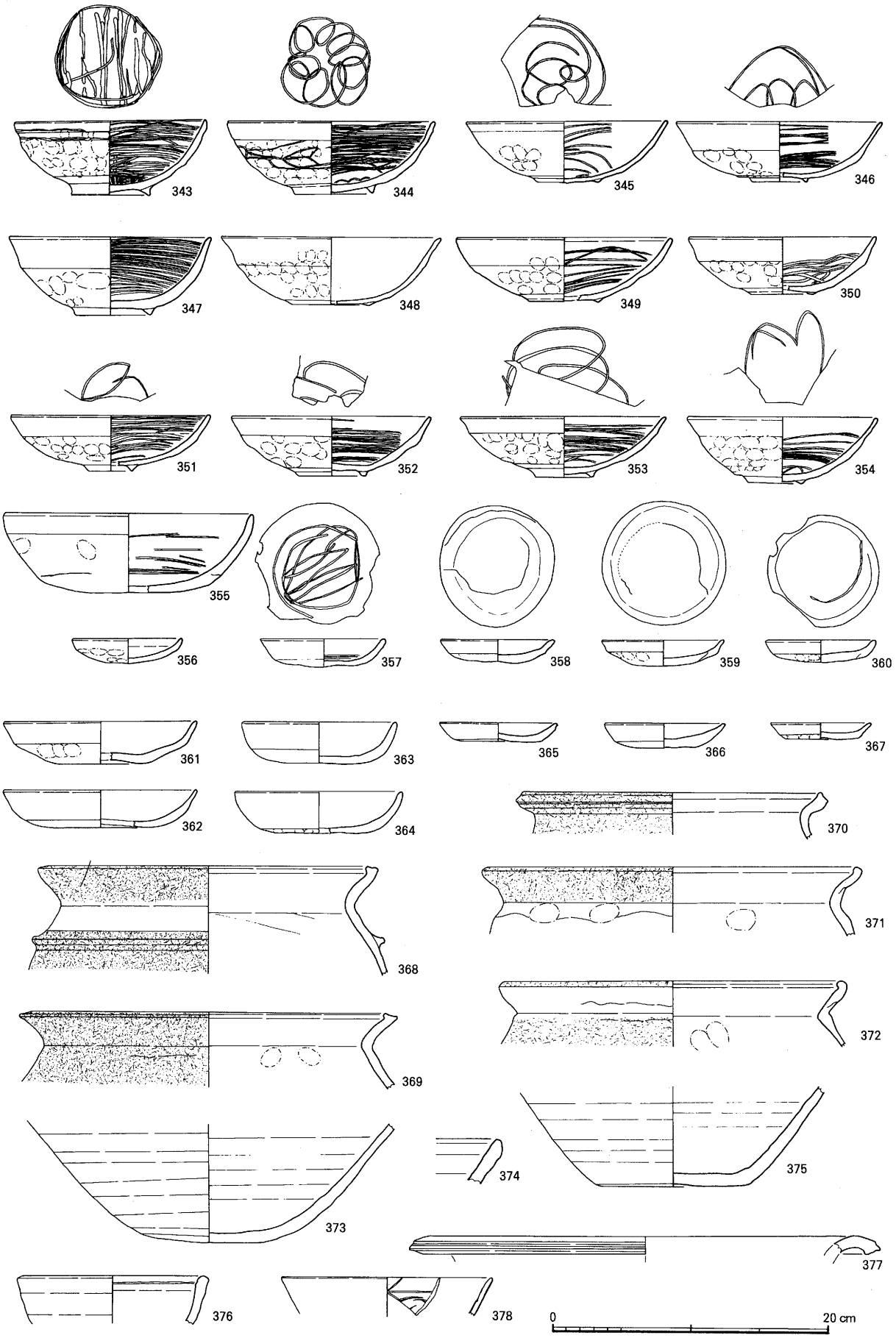
上層（第125・129図、ＰＬ．62）口縁部計測法による個体数は、ＳＤ102で最も多い68.16個体（対応資料数755点）である。

その他の層位の資料として、最下層・下層・最上層をまとめて、口縁部計測法による個体数は、33.66個体（対応資料数344点）である。

表12　SD102出土土器器種構成比率

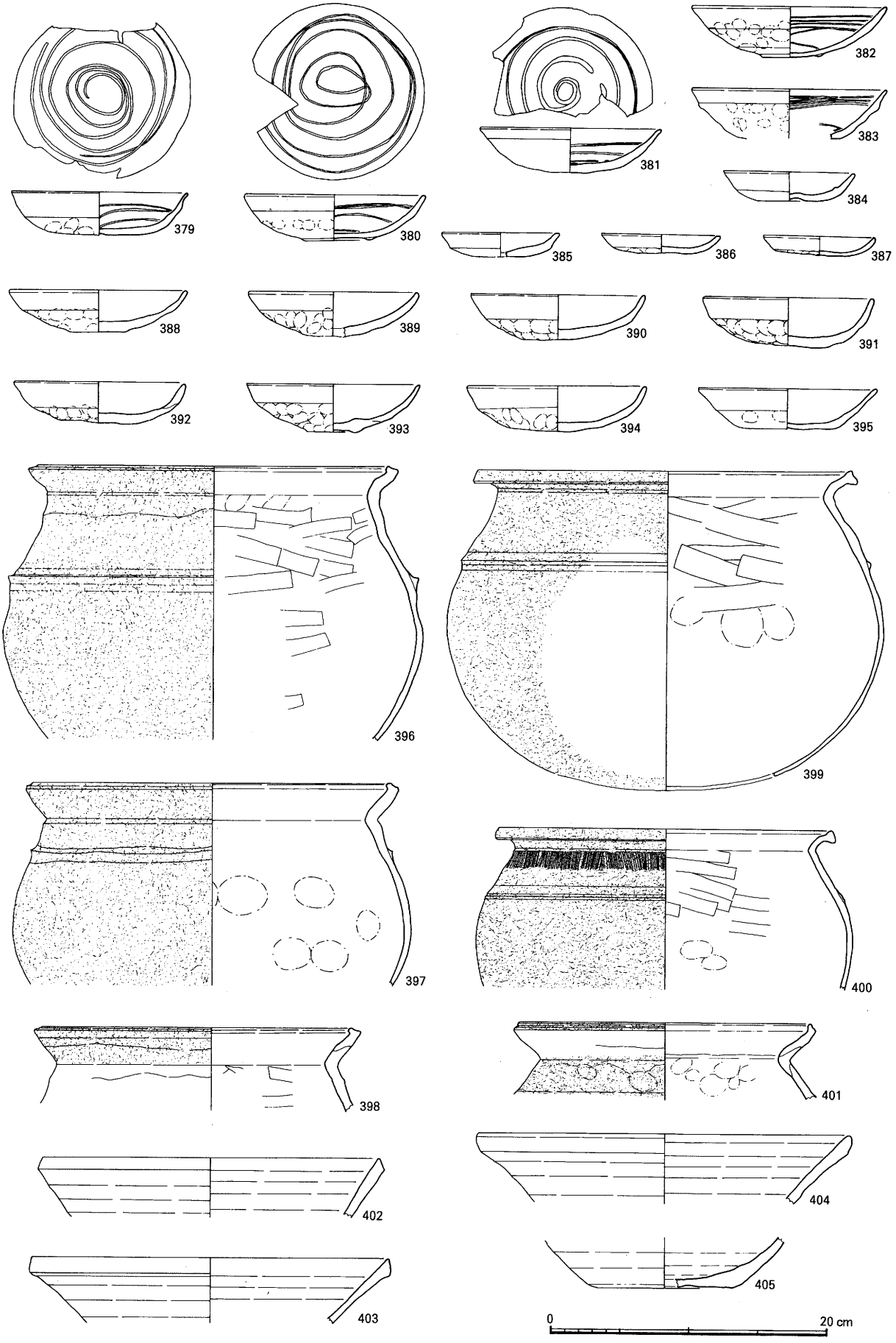
種類	器種器形 ＼ 遺構層位		E溝（22層・23層・24層・25層・26層）			D溝（19層・20層・21層）			C溝（17層・18層）			B溝（13層・15層）			A溝（4層・5層・6層）			3層			2層			1層			上層			その他		
瓦器	椀	A	3.21 (6.8%)	25.79 (54.4%)	33.12 (69.9%)		6.05 (27.4%)	7.63 (34.6%)		7.05 (51.0%)	8.59 (62.2%)		1.96 (46.1%)	2.38 (56.0%)				0.67 (3.8%)	6.59 (37.1%)	11.72 (66.0%)	0.33 (0.7%)	19.54 (40.1%)	24.42 (50.1%)		8.04 (36.7%)	10.21 (46.6%)	0.33 (0.5%)	33.29 (48.8%)	46.54 (68.3%)	0.29 (0.9%)	13.83 (41.1%)	19.83 (58.9%)
		B	0.25 (0.5%)			0.17 (0.8%)			0.42 (3.0%)																		32.83 (48.2%)			13.54 (40.2%)		
		C	22.33 (47.1%)			5.88 (26.6%)			6.63 (48.0%)			1.96 (46.1%)						5.75 (32.4%)			19.21 (39.4%)			8.04 (36.7%)			0.13 (0.2%)					
		D																0.17 (1.0%)														
	小皿		7.33 (15.5%)	7.33 (15.5%)		1.58 (7.2%)	1.58 (7.2%)		1.54 (11.1%)	1.54 (11.1%)		0.42 (9.9%)	0.42 (9.9%)					5.13 (28.9%)	5.13 (28.9%)		4.88 (10.0%)	4.88 (10.0%)		2.17 (9.9%)	2.17 (9.9%)		13.25 (19.4%)	13.25 (19.4%)		6.0 (17.8%)	6.0 (17.8%)	
土師器	皿	A_1	3.13 (6.6%)	3.13 (6.6%)	9.84 (20.8%)	8.25 (37.3%)	8.25 (37.3%)	11.71 (53.0%)	0.13 (0.9%)	0.13 (0.9%)	3.64 (26.3%)	0.08 (1.9%)	0.08 (1.9%)	1.46 (34.4%)		0.16 (1.1%)	13.32 (93.5%)	1.38 (7.8%)	1.38 (7.8%)	4.47 (25.2%)	11.50 (23.6%)	11.50 (23.6%)	18.42 (37.8%)	6.13 (28.0%)	6.13 (28.0%)	8.96 (40.9%)	6.25 (9.2%)	6.25 (9.2%)	17.41 (25.5%)	1.83 (5.4%)	1.83 (5.4%)	11.16 (33.2%)
		C													0.16 (1.1%)						※											
	小皿	A_1	6.71 (14.2%)	6.71 (14.2%)		3.46 (15.7%)	3.46 (15.7%)		0.63 (4.6%)	1.09 (7.9%)		1.0 (23.5%)	1.0 (23.5%)					2.96 (16.7%)	2.96 (16.7%)		6.92 (14.2%)	6.92 (14.2%)		2.83 (12.9%)	2.83 (12.9%)		10.54 (15.5%)	10.54 (15.5%)		5.75 (17.1%)	5.75 (17.1%)	
		C							0.46 (3.3%)																							
	皿	大薄							1.96 (14.2%)	1.96 (14.2%)		0.38 (8.9%)	0.38 (8.9%)		0.46 (3.2%)	0.46 (3.2%)																
	皿	大丸														2.41 (16.9%)											0.33 (0.5%)	0.62 (0.9%)				
		大平													2.41 (16.9%)												0.29 (0.4%)					
	小皿	小丸								0.46 (3.3%)					0.08 (0.6%)	10.29 (72.3%)		0.13 (0.7%)	0.13 (0.7%)										1.25 (3.7%)	3.58 (10.6%)	
		小平							0.46 (3.3%)						10.21 (71.7%)															2.33 (6.9%)		
	土釜	A	4.13 (8.7%)	4.13 (8.7%)		2.08 (9.4%)	2.08 (9.4%)		1.46 (10.6%)	1.46 (10.6%)		0.33 (7.8%)	0.41 (9.6%)		0.58 (4.1%)	0.58 (4.1%)		1.08 (6.1%)	1.08 (6.1%)		4.33 (8.9%)	5.34 (11.0%)		2.63 (12.0%)	2.76 (12.6%)		3.21 (4.7%)	3.46 (5.1%)		2.38 (7.1%)	2.46 (7.3%)	
		B										0.08 (1.9%)									0.88 (1.8%)			0.13 (0.6%)			0.21 (0.3%)			0.08 (0.2%)		
瓦器	釜					※															0.13 (0.3%)						0.04 (0.1%)			※		
須恵器（質）	椀		※	0.25 (0.5%)		0.29 (1.3%)	0.67 (3.0%)			0.13 (0.9%)		※	※		※	0.17 (1.2%)		※	0.50 (2.8%)			0.25 (0.5%)		※	※		※	0.29 (0.4%)			0.21 (0.6%)	
	捏鉢		0.17 (0.4%)			0.38 (1.7%)			0.13 (0.9%)			※			※			0.33 (1.9%)			0.25 (0.5%)		※				0.29 (0.4%)			0.08 (0.2%)		
	甕		0.08 (0.2%)			※			※			※			0.17 (1.2%)			0.17 (1.0%)			※			※			※			0.13 (0.4%)		
陶器	備前	擂鉢													※	0.17 (1.2%)						※			※			※			※	
		壺													※																	
		甕													0.17 (1.2%)						※			※			※			※		
磁器	白磁			0.04 (0.1%)			※								※	※		※	※		0.33 (0.7%)	0.33 (0.7%)		※	※		0.13 (0.2%)	0.46 (0.7%)			※	
	青磁		0.04 (0.1%)			※									※			※									0.33 (0.5%)			※		
合計			47.38 (100.0%)			22.09 (100.0%)			13.82 (100.0%)			4.25 (100.0%)			14.24 (100.0%)			17.77 (100.0%)			48.76 (100.0%)			21.93 (100.0%)			68.16 (100.0%)			33.66 (100.0%)		

口縁部計測法による個体数、※印は存在するが微量・体部破片



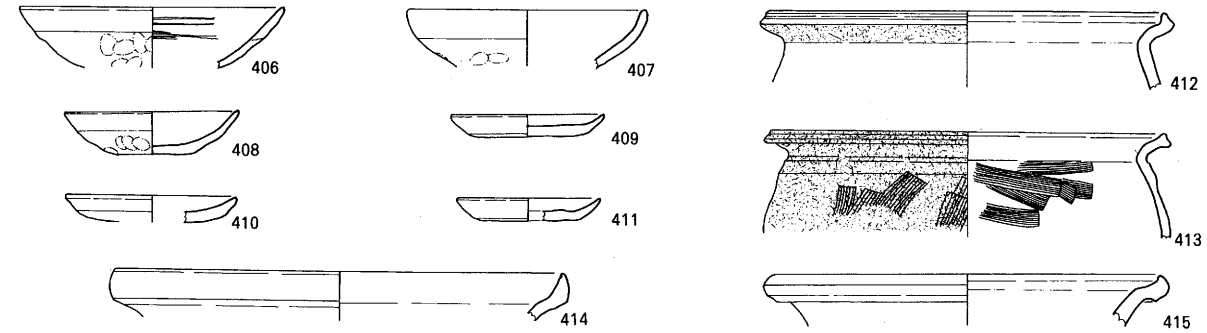
E溝（22～26層）

第120図　ＳＤ102出土土器実測図

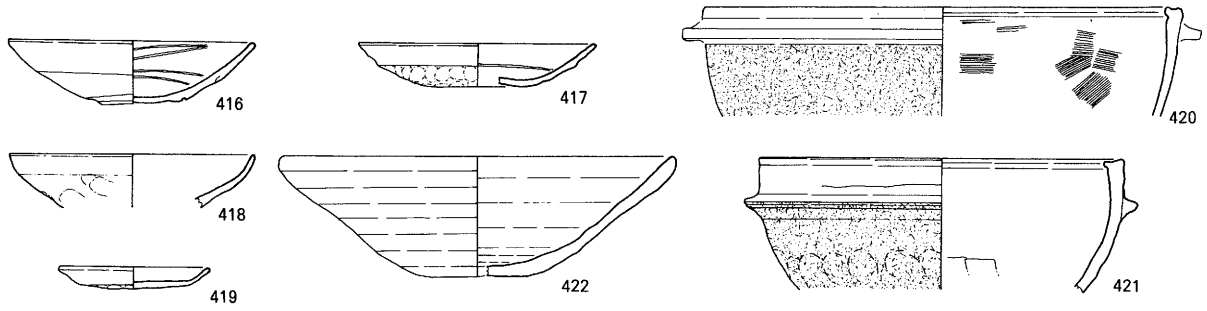


D溝（19・20層）

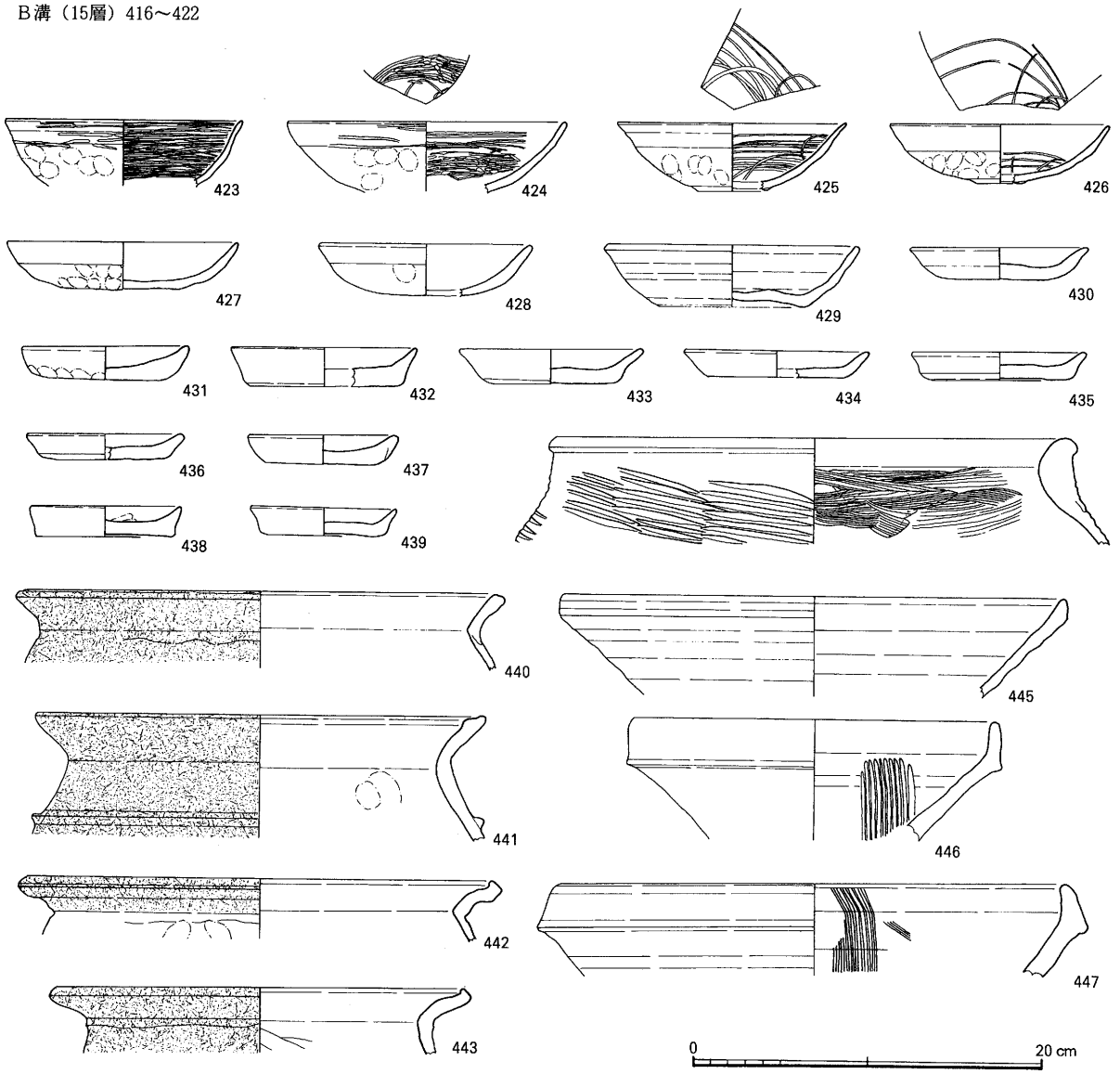
第121図　ＳＤ102出土土器実測図



C溝（17・18層）406～415

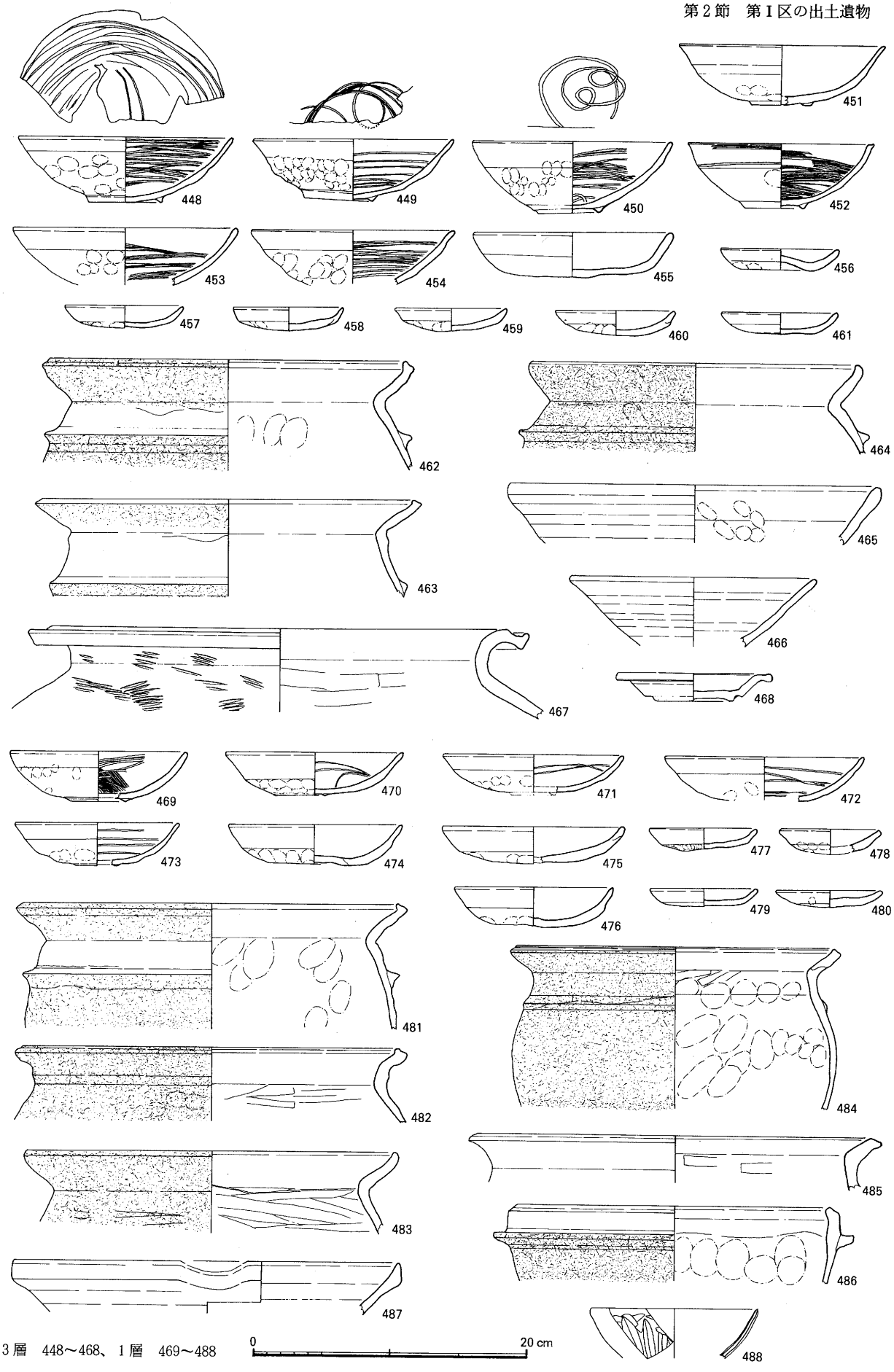


B溝（15層）416～422



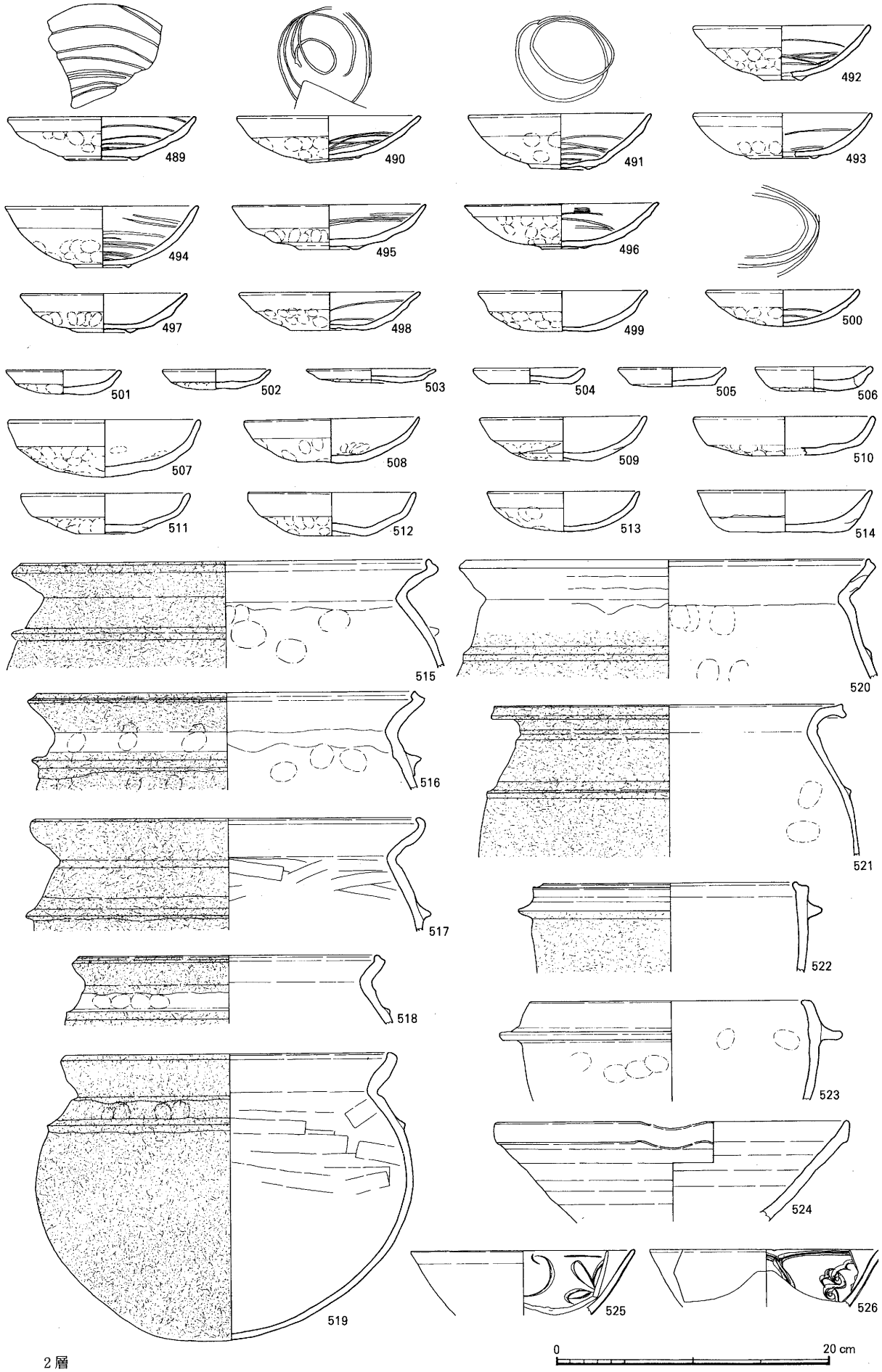
A溝（４・５層）423～447

第122図　ＳＤ102出土土器実測図



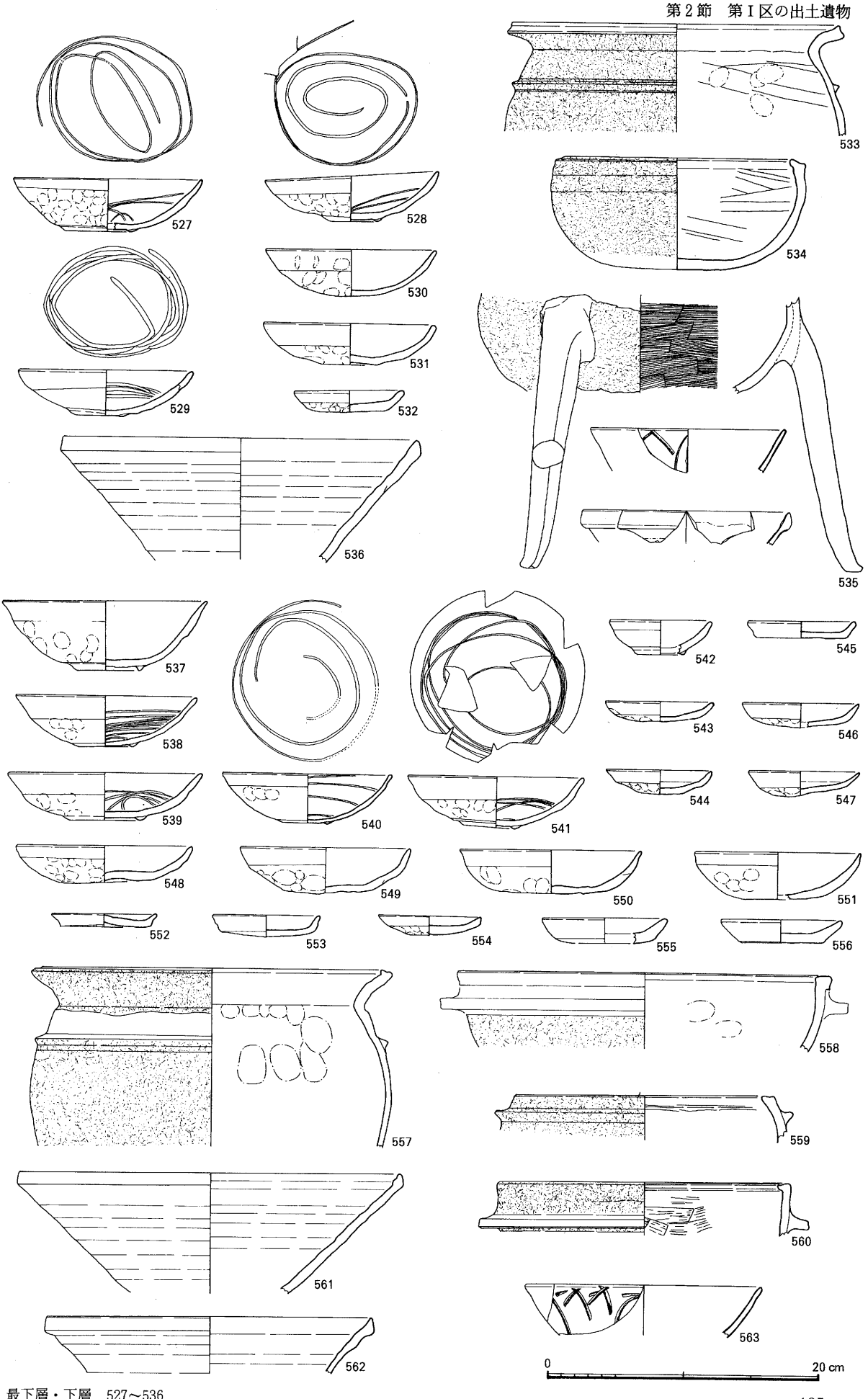
3層　448～468、1層　469～488

第123図　ＳＤ102出土土器実測図



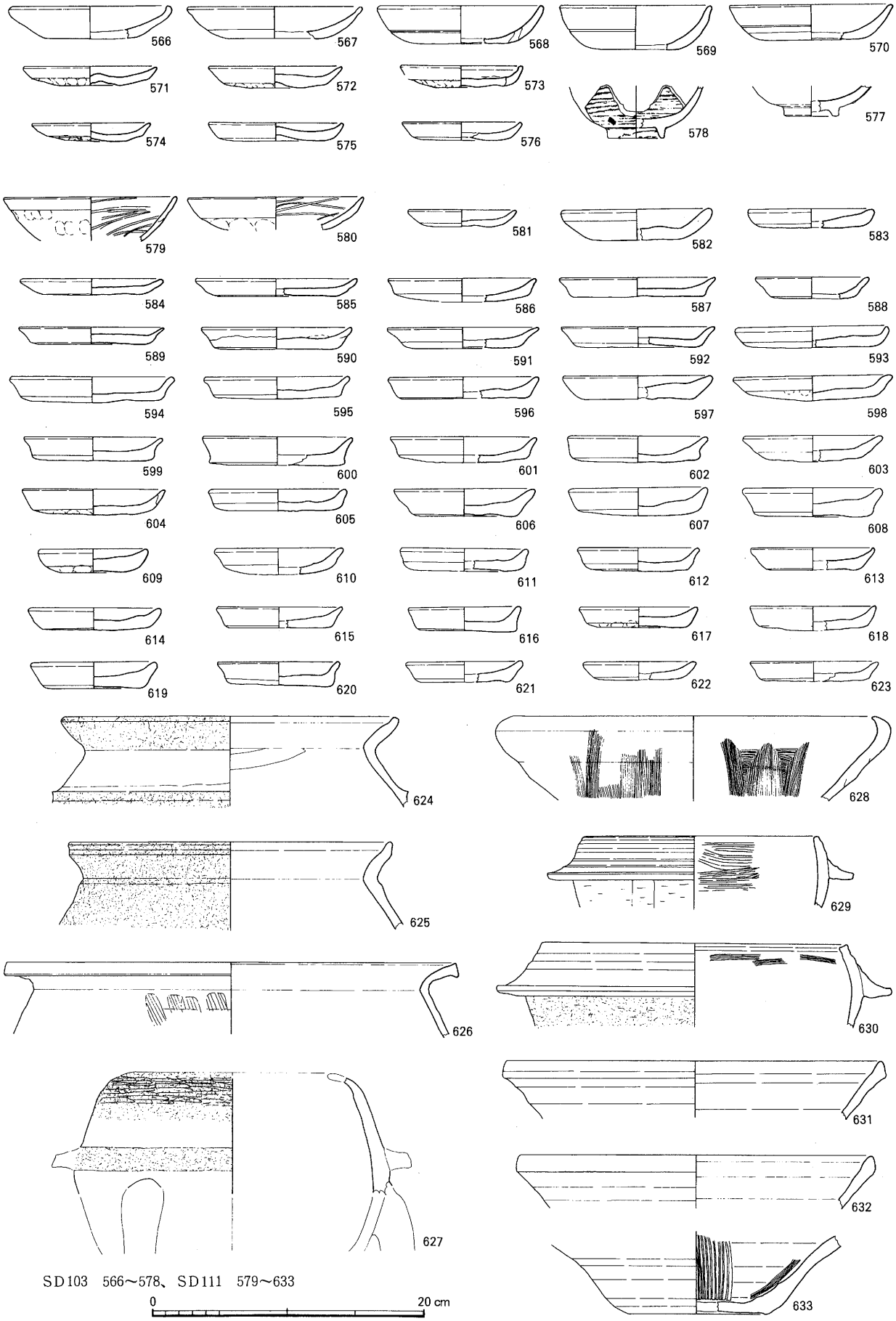
2層

第124図　ＳＤ102出土土器実測図

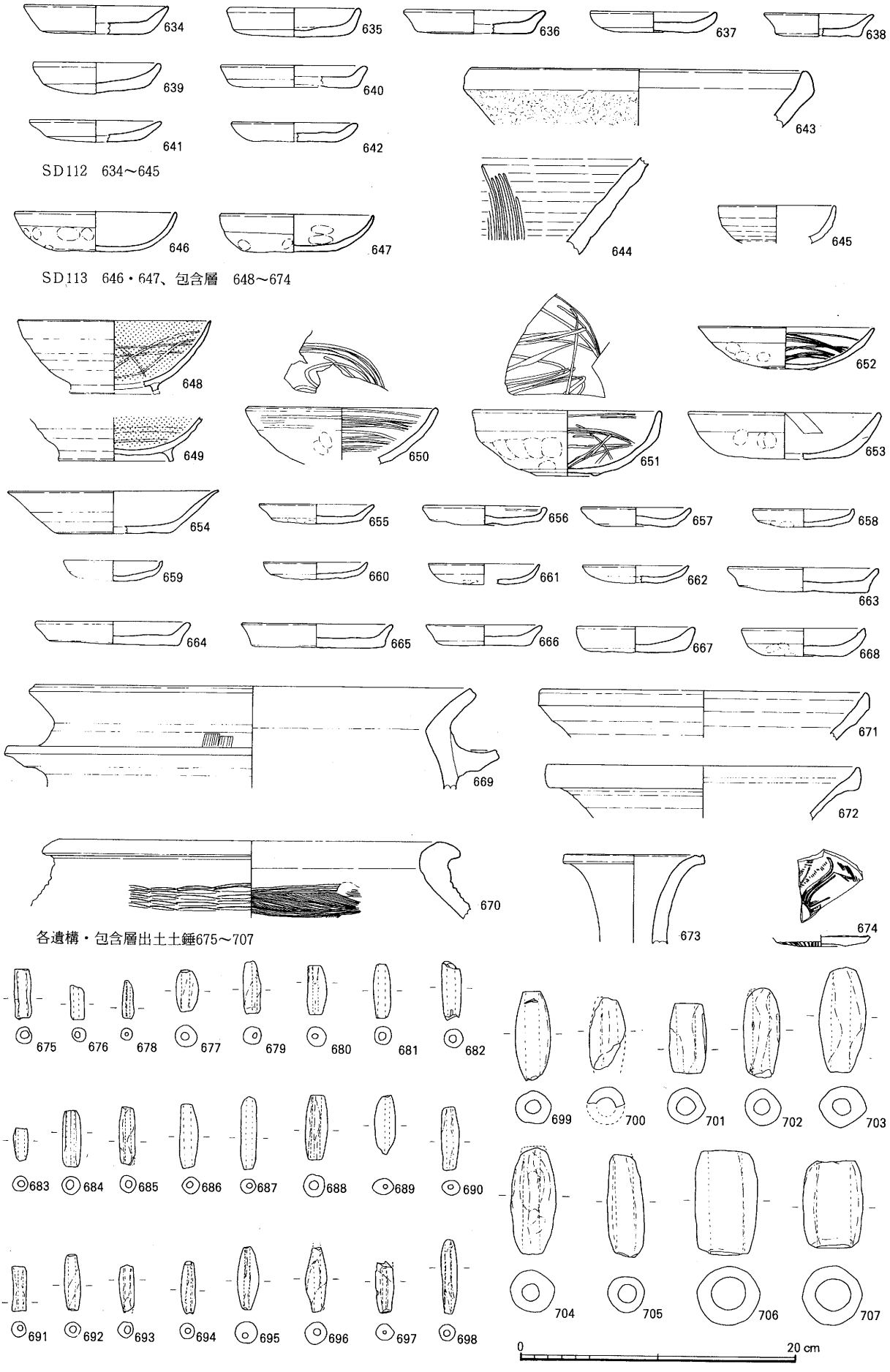


最下層・下層　527～536
上層・最上層　537～565

第125図　ＳＤ102出土土器実測図



第126図　ＳＤ103・111出土土器実測図



第127図　ＳＤ112・113、包含層出土土器、遺構・包含層出土土錘実測図

ＳＤ１０３（第126図）

ＳＤ103からは、土師器皿Ａ$_1$類566・567、皿Ｃ類568～570、小皿Ａ$_1$類571～576、土釜、瓦器椀、白磁578、常滑焼、混入と判断できる唐津碗577などがある。全体の資料数は、６袋と少量である。

ＳＤ１１１（第126・128・129図、表32、ＰＬ．63）

ＳＤ111からは、土師器皿大丸582、小丸583・588、大平584～587・589～608、小平609～623、土釜Ａ類624～626、瓦質足釜627、土師器捏鉢628、土釜Ｃ類629・630、須恵質捏鉢631・632、備前焼擂鉢633、けら羽瓦712などのややまとまった資料がある。口縁部計測法による個体数は、45.29個体（対応資料数373点）である。

ＳＤ１１２（第127図、ＰＬ．63）

ＳＤ112からは、土師器皿大平634・小平638・大丸640・小丸642、捏鉢643、備前焼？擂鉢644、白磁小碗645、須恵質捏鉢、常滑焼、瓦質甕などがあるが、小破片が多く図化できるものは少ない。

ＳＤ１１３（第127図、ＰＬ．63）

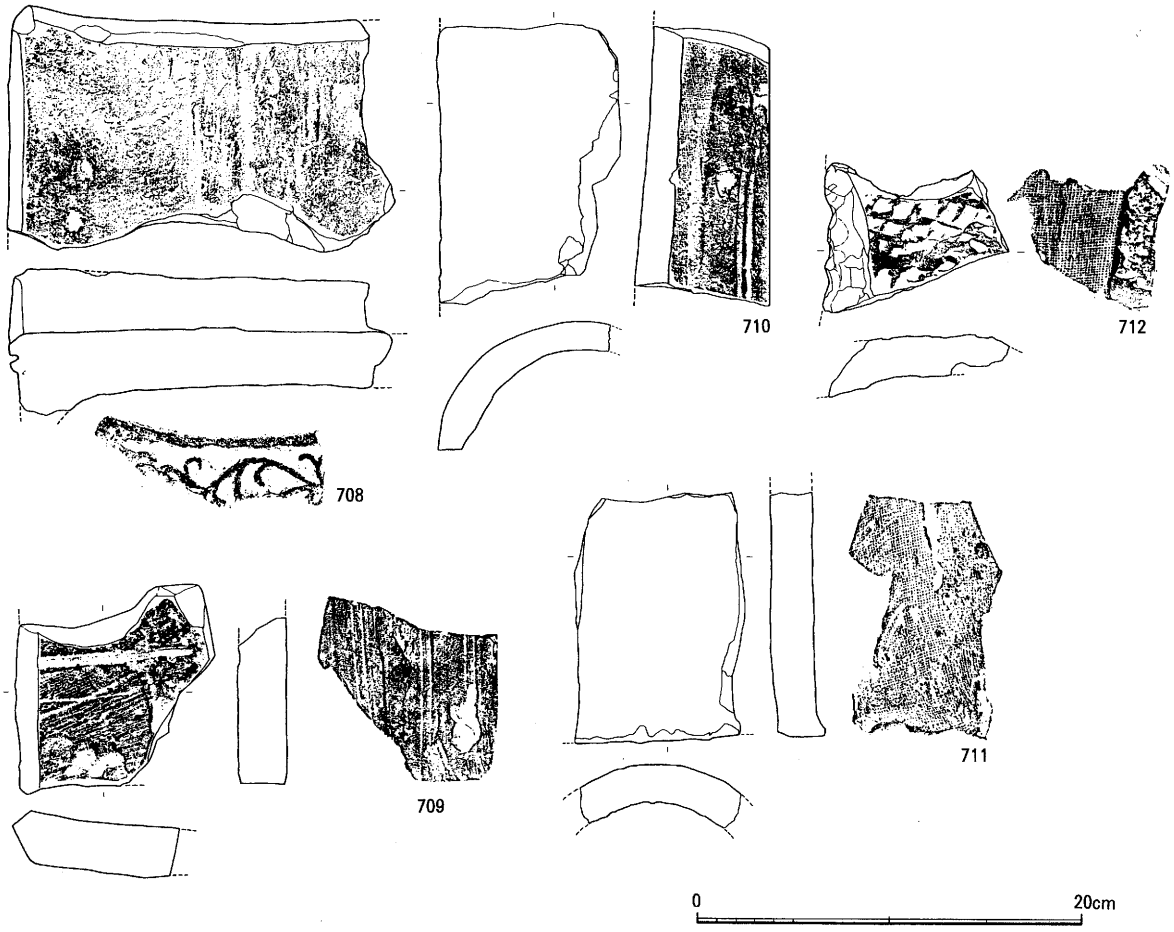
ＳＤ113からは、土師器皿薄丸大646・647、備前焼壺などがある。資料数は、３袋とごく少量である。

ＳＤ１３１（第117図）

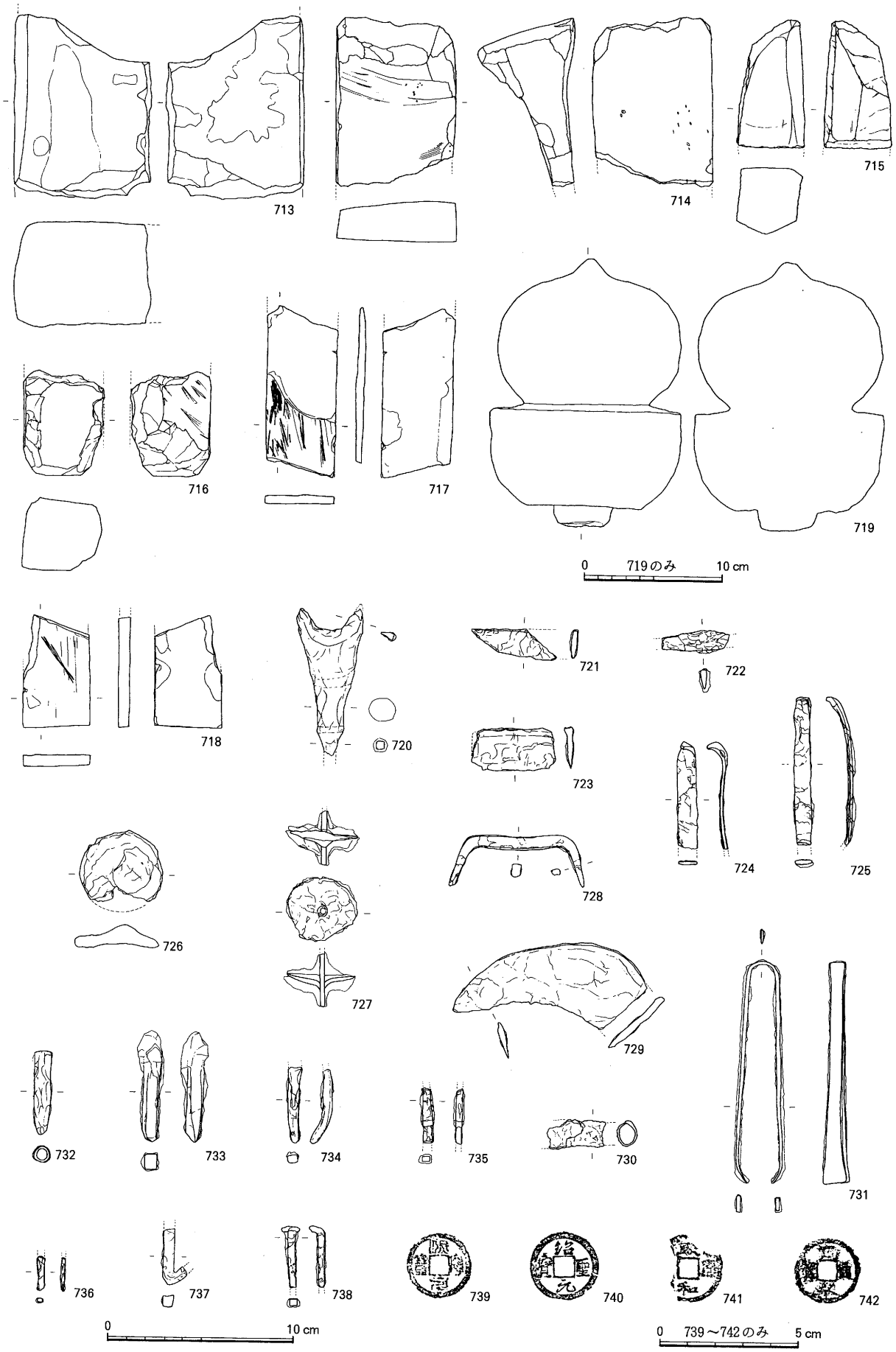
第ＩＢ区のＳＤ127と重複する溝である。ＳＤ131からは、土師器皿Ｄ類193・小皿Ｄ$_2$類194・甕195、黒色土器Ａ類の椀ｂ類192、須恵器壺196、厚手の製塩土器１点などがある。

ＳＤ１５６（第117図）

第ＩＤ区のＳＤ147と重複する溝と判断した。ＳＤ156からは、土師器皿Ｄ類197、皿Ａ$_2$類198、皿Ｂ$_1$類199、瓦質に近い軟質の須恵器椀200などがある。



第128図　第Ｉ区出土瓦実測図



第129図　第Ⅰ区出土奈良～江戸時代石製品・金属製品実測図

第3節　第Ⅱ区の出土遺物

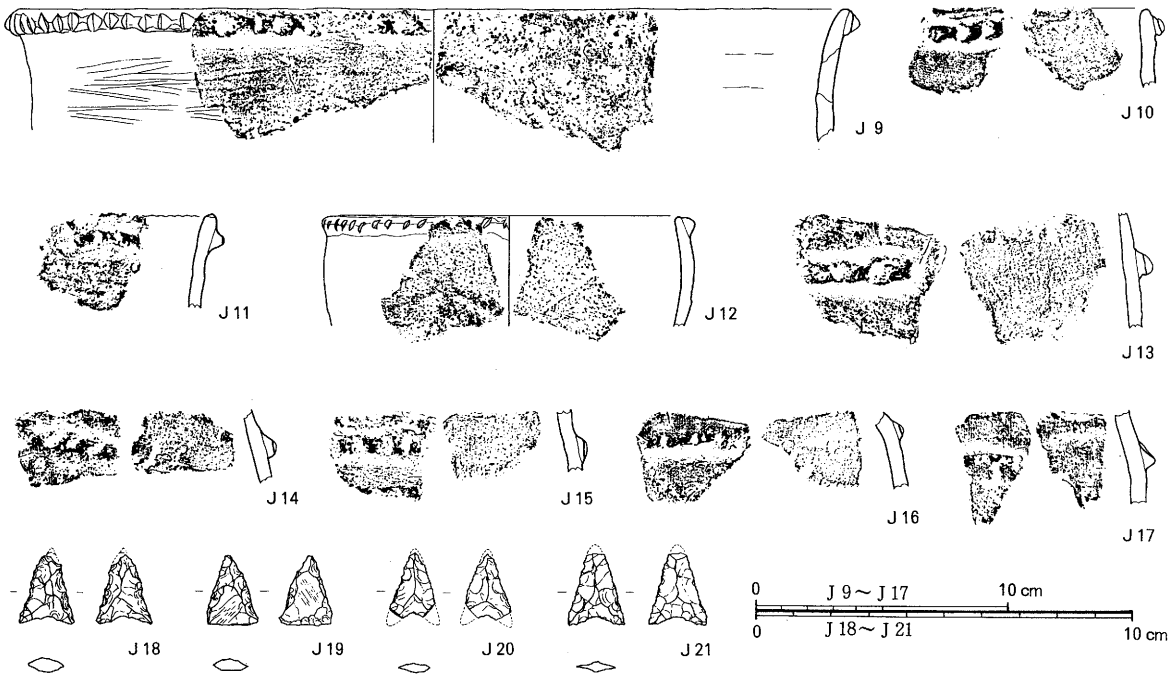
第Ⅱ区の出土遺物の主体は、弥生時代後期～古墳時代前・中期、平安時代後期～鎌倉時代の土器類である。他に、少量の室町時代の土器と若干量の晩期縄文土器や上記の時代に伴う、石器・金属製品などがある。特に、平安時代後期末の井戸出土資料は層位的にまとまりを見せる良好なものである。

1　縄文時代（第130図、ＰＬ．147）

縄文時代の遺物は、竪穴住居・柱穴・遺物包含層などの遺物に混じって、土器・石器が微量出土している。土器はいずれも小破片で、晩期後半から末に属するものである。

縄文土器は各々の形態的特徴からＪ９・12は長原式、Ｊ10は船橋式、Ｊ11は滋賀里Ⅳ式に比定され、Ｊ13～Ｊ17は縄文時代晩期の船橋式ないしは長原式に属する突帯文系土器の体部である。Ｊ16は胎土に角閃石を少量、金雲母を多量に含む搬入品である。

石器は４点出土し、石材は全てサヌカイトである。Ｊ18・20・21は凹基無茎式で、いずれも抉りの浅いものである。Ｊ19は平基式に属するものである。



第130図　第Ⅱ区出土縄文土器・石器実測図

2　弥生・古墳時代

第Ⅱ区の弥生時代～古墳時代の遺物は、竪穴住居・土坑・溝などに集中してみられる。特に、竪穴住居出土資料は、層位的にも土器の変遷を辿るには良好な土器群である。また、土坑の中には、遺物が多量に出土しているものもあり、土器の器種組成を考える上で有効な資料である。

（１）竪穴住居

竪穴住居の資料は、集落の変遷を考える上での重要な基準となるため、可能な限り出土層位などの検証が行えるようにしている。そのため、必要に応じて小破片についても図面・出土遺物一覧で扱うよう努めた。

遺構の項で記載した各竪穴住居の時期は、床面に関係する土器資料で判断している。

ＳＩ１６１（第133図、ＰＬ．64）

ＳＩ161から出土した土器は全て小破片で、器種構成比率に耐えうる資料は層位一括で12点を数えるのみである。ＳＩ161には、壺、甕、高坏、脚台がある。その内、高坏Ａ類11が床面直上、広口壺Ａ類３、壺の頸部４、脚台Ａ類12が柱穴から出土した土器で、住居の時期の決定資料となっている。特に高坏Ａ類11は、坏部に対して口縁部の立ち上がりが短く、出土資料の中では古い要素をもっている。壺頸部４の肩部には、ヘラ状工具による浅いタッチの記号文が施される。その他、脚台Ａ類が３点出土している。

ＳＩ１６２（第133図、表27、ＰＬ．64）

ＳＩ162から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・炉（ＦＲ：略号は、巻末の「出土遺物観察一覧　凡例」を参照）で22点、埋土下層中層（ＢＣ）で26点、埋土上層（Ｄ）で10点、計58点を数える。ＳＩ162には、壺、甕、高坏、鉢、器台がある。その内、床面直上の資料として、広口壺Ａ類16、長頸壺18、甕Ｄ類24～27、鉢Ａ類29などがある。但し、甕Ｄ類24～26は、埋土の中層ないしは上層の破片と接合関係にある。長頸壺18は小破片ながら、直線的に斜め外方に伸び、外面は縦方向のハケ、内面はほぼ水平方向の単位の明確なハケが施される。長頸壺17は埋土中層の出土であるが、調整技法としては、長頸壺18と類似している。甕は19点あるが、甕Ａ類１点、甕Ｂ類10点、甕Ｄ類７点である。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、施される例がない。

その他、脚台Ａ類が（ＦＲ）で４点、（ＢＣ）で５点、（Ｄ）で２点、脚台Ｃ類が（ＢＣ）で１点出土している。

ＳＩ１６３（第134・135・175・176図、表27、ＰＬ．64・65・147・148）

ＳＩ163から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・中央炉東（最下層扱い）・炉・壁溝（ＦＡＲＧ）で30点、床近く・埋土下層（Ｂ）で10点、埋土中層上層・一括（ＣＤ）で179点、計398点を数える。ＳＩ163には、壺、甕、高坏、鉢、器台、甑がある。まとまりのある中央炉東の資料として、広口壺Ａ類34、二重口縁壺35・36、甕Ａ類39～42、甕Ｂ類43、甕Ｄ類44・45、鉢Ａ類46～48、器台（広口壺Ｃ類の可能性有り）51、甑50、高坏Ａ類52・53・55、高坏Ｂ類54などがある。二重口縁壺35・36、甕Ｄ類44・45、高坏Ａ類52・53は、共通して緻密な胎土に丁寧なナデ・ヘラミガキ・細かいハケ調整が施され、整った形態である。甕Ａ類39～41、鉢Ａ類46・47は、胎土・調整・形態に共通した点が認められる。埋土一括から出土した高坏Ａ類75は、その形態的特徴から後期の中で最も古い段階に位置づけられる資料である。甕Ｄ類64や高坏Ｂ類77は、近似した段階の資料と考えられるものである。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（ＦＡＲＧ）で有４点・無１点、（Ｂ）で有０点・無１点、（ＣＤ）で有３点・無16点となる。甕Ｂ類が（ＣＤ）で有１点・無24点となり、他の層位では施される例がない。

その他、脚台Ａ類が（ＦＡＲＧ）で８点、（Ｂ）で２点、（ＣＤ）で58点、脚台Ｃ類が（ＣＤ）で７点出土している。また、小形壺が（Ｂ）、（ＣＤ）で各２点出土している。埋土一括から出土した甕Ｇ類２点は数量比率から除外した。

石器・石製品として、勾玉1045、管玉1046、削器1063・1064、砥石1069・1074・1075がある。

ＳＩ１６４（第136・137・175・178図、表27、ＰＬ．66・67・147・149）

ＳＩ164から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・炉・柱穴・壁溝（ＦＲＰＧ）で25点、埋土下層・セク第３層（Ｂ）で184点、埋土中層・セク第２層（Ｃ）で136点、埋土上層・セク第１層・埋土一括（Ｄ）で63点、計408点を数える。ＳＩ164には、壺、甕、高坏、鉢、器台、蓋、甑がある。床面直上・

壁溝の資料として、広口壺Ｂ類79、異形の壺部を載せた脚台付壺80、甕Ｄ類82、高坏Ａ類84・85、鉢Ａ類83・86、裾部が大きく開く脚台Ａ類87などがある。埋土下層の資料として、典型的な広口壺Ａ類88～91、口縁部の立上りの短い長頸壺94、段状口縁壺とでも呼称すべき太頸壺95、受け口の屈曲の度合いが若干弱くなった甕Ｄ類100～103、高坏Ａ類106、高坏Ｂ類107・108、鉢Ａ類104、鉢Ｂ類105、蓋110、甑111・112などがある。甑112は、多数の孔が穿たれた鉢の形態を成すものである。ＳＩ164では全ての層位において、甕Ａ（19点）・Ｂ類（79点）の口縁端部の刻み目は、施される例がない。

その他、脚台Ａ類が（ＦＲＰＧ）で５点、（Ｂ）で46点、（Ｃ）で28点、（Ｄ）で24点、脚台Ｃ類が（ＦＲＰＧ）で２点、（Ｂ）で４点、（Ｃ）で３点、（Ｄ）で１点出土している。また、壺用の把手が（ＦＲＰＧ）で１点、（Ｃ）で２点、（Ｄ）で１点出土している。セク第１層から出土した須恵器１点は数量比率から除外した。

石器・石製品として、管玉1047、磨石1090がある。

ＳＩ１６５（第138・139・176・178図、表27、ＰＬ．68・69・148・149）

ＳＩ165から出土した器種構成比率に対応できる資料は、柱穴（Ｐ）で38点、床面直上・炉・壁溝（ＦＲＧ）で49点、埋土下層（Ｂ）で36点、埋土中層（Ｃ）で149点、埋土上層（Ｄ）で143点、埋土最上層・その他（Ｅ）で41点、合計456点を数える。第ⅡＡ区の資料群では特にまとまった数量であるが、小破片が多い。ＳＩ165には、壺、甕、高坏、鉢、器台、甑がある。完存品の大部分が柱穴からの出土である。柱穴の資料として、広口壺Ａ類129、広口壺Ｂ類130、細頸壺131・132、甕Ａ類133～135、甕Ｂ類137・138、鉢Ａ類139・小形141・142、鉢Ｂ類140、高坏Ａ類143、高坏Ｂ類144・145などがある。細頸壺131は床面直上の破片と、高坏Ｂ類145は埋土下層の破片と接合関係にある。埋土中層の資料となる二重口縁壺156・157は、第ＩＡ区溝ＳＤ12出土資料と同一段階の資料である。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（Ｐ）で有１点・無４点、（ＦＲＧ）で有４点・無３点、（Ｂ）で有７点・無２点、（Ｃ）で有22点・無８点、（Ｄ）で有17点・無５点、（Ｅ）で有３点・無０点となる。甕Ｂ類が（Ｄ）で有６点・無15点、（Ｅ）で有１点・無４点となり、他の層位では施される例がない。甕Ｃ類が（ＦＲＧ）で有１点・無０点、甕Ｄ類が（Ｃ）で有１点・無１点、甕Ｅ類が（Ｄ）で有１点・無０点となる。甕Ａ類に見られる口縁端部の刻み目は、この資料をもって有が無を凌駕するようになる。甕Ｂ類では、引き続き刻み目の無いものが圧倒的多数を占めている。

その他、脚台Ａ類が（Ｐ）で10点、（ＦＲＧ）で15点、（Ｂ）で12点、（Ｃ）で51点、（Ｄ）で43点、（Ｅ）で11点、脚台Ｂ類が（Ｐ）で１点、（ＦＲＧ）で２点、（Ｂ）で１点、（Ｃ）で３点、（Ｄ）で１点出土している。また、小形壺が（ＦＲＧ）で１点出土している。埋土上層・最上層・埋土一括から各々２点の６世紀前半の須恵器が出土したが、数量比率から除外した。

石器・石製品として、砥石1066、叩石1082、磨石1089がある。

ＳＩ１６６（第139・140・178図、表27、ＰＬ．69・70・148・149）

ＳＩ166から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・炉・柱穴・壁溝（ＦＲＰＧ）で６点、埋土下層（Ｂ）で５点、埋土中層（Ｃ）で90点、埋土上層・埋土一括（Ｄ）で88点、計189点を数える。埋土中層資料となる広口長頸壺175・176、短頸壺177は、第ⅢＣ区溝ＳＤ702出土資料と同一段階の資料である。埋土中層の資料として、庄内系の甕Ｆ類が１点含まれている。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（Ｂ）で有１点・無１点、（Ｃ）で有12点・無３点、（Ｄ）で有７点・無７点となる。甕Ｂ類が（Ｃ）で有１点・無20点、（Ｄ）で有１点・無31点となり、他の層位では施される例がない。

その他、脚台Ａ類が（ＦＲＰＧ）で１点、（Ｂ）で３点、（Ｃ）で12点、（Ｄ）で19点、脚台Ｂ類が（Ｃ）

で３点、脚台Ｃ類が（Ｄ）で１点出土している。

ＳＩ１６７（第141・152・176・177・178図、表27、ＰＬ．70・71・148・149）

ＳＩ167から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・炉・柱穴・壁溝（ＦＲＰＧ）で46点、埋土下層（Ｂ）で10点、埋土中層（Ｃ）で29点、埋土上層・埋土一括（Ｄ）で86点、計171点を数える。埋土中層の資料として、短脚（脚台Ｂ類）の高坏Ｂ類229、把手の付くジョッキ形土器230、生駒西麓の胎土の甕Ｆ類１点などがある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（ＦＲＰＧ）で有７点・無２点、（Ｃ）で有２点・無２点、（Ｄ）で有13点・無２点となる。甕Ｂ類が（Ｄ）で有１点・無23点となり、他の層位では施される例がない。

その他、脚台Ａ類が（ＦＲＰＧ）で14点、（Ｂ）で３点、（Ｃ）で９点、（Ｄ）で19点、脚台Ｂ類が（ＦＲＰＧ）で１点、脚台Ｃ類が（ＦＲＰＧ）、（Ｄ）で各１点出土している。埋土一括から鎌倉時代の土師器皿・瓦器椀10点が出土したが、数量比率から除外した。石器として、石皿1079、叩石1085も出土している。

ＳＩ１６８（第141図、ＰＬ．71）

ＳＩ168から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・柱穴・埋土下層（ＦＰＢ）で10点、埋土上層・埋土一括（Ｄ）で21点、計31点を数える。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（ＦＰＢ）で有１点・無０点、（Ｄ）で有１点・無０点となる。甕Ｂ類（13点）の口縁端部の刻み目は、何れの層位においても施される例がない。

その他、脚台Ａ類が（ＦＰＢ）で１点、（Ｄ）で２点出土している。

ＳＩ１６９（第142図）

ＳＩ169から出土した土器で、器種構成比率に対応できる資料は、埋土一括で19点を数えるのみである。図化できた資料は僅かで、広口壺Ａ類239、短頸壺240、擬凹線の施された高坏Ｂ類244、蓋Ｂ類245などがある。ＳＩ169では、甕Ａ類（１点）・Ｂ類（６点）の口縁端部の刻み目は、施される例がない。

その他、脚台Ａ類が４点出土している。

ＳＩ１８６（第142・175図、ＰＬ．71・147）

ＳＩ186から出土した器種構成比率に対応できる資料は、埋土一括で23点を数えるのみである。広口壺Ａ類246・247、鉢Ａ類251、擬凹線の施された器台Ａ類253などがある。重複する土坑ＳＫ205・ＳＫ243からの混入遺物と認められる須恵器・製塩土器は数量から除外した。ＳＩ186では、甕Ａ（２点）・Ｂ類（７点）の口縁端部の刻み目は、施される例がない。

その他、脚台Ａ類が７点出土している。

ＳＩ１７５（第142・143図、表28、ＰＬ．72・73）

ＳＩ175から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・柱穴（ＦＰ）で９点、一段落ち（最下層扱い）・埋土一括・セク（Ａ）で91点、計100点を数える。一段落ちの資料として、広口壺Ｂ類257、甕Ａ類259、角閃石を多量・金雲母を中量含む甕Ｂ類266、脚台部が低脚化する傾向にある高坏Ａ類277などがある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（Ａ）で有６点・無４点、甕Ｂ類が（Ａ）で有７点・無27点となり、他の層位では何れも施される例がない。

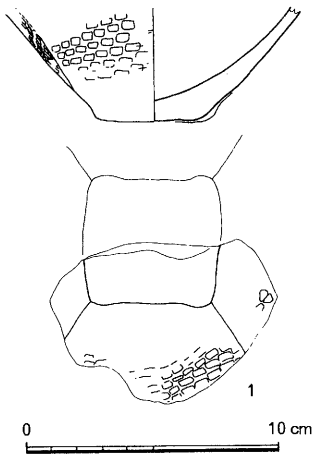
その他、脚台Ａ類が（ＦＰ）で４点、（Ａ）で13点出土している。

ＳＩ１７０（第131・144図、ＰＬ．73）

ＳＩ170から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・炉・柱穴・壁溝（ＦＲＰＧ）で18点、第２層（２ソ）で81点、埋土一括（Ｄ）で50点、計149点を数える。床面直上の資料として、広口壺Ａ類283、

丸底化した甕底部284、柱穴の資料として、注ぎ口の付けられた鉢Ｂ類286などがある。埋土一括の資料として、一部は剥離しているが側面に籠目圧痕の付いた底部１がある。底面形は、方形を呈するものとみられる。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（２ソ）で有５点・無４点、甕Ｂ類が（２ソ）で有１点・無30点となり、他の層位では何れも施される例がない。

その他、脚台Ａ類が（ＦＲＰＧ）で７点、（２ソ）で14点、（Ｄ）で10点、脚台Ｂ類が（２ソ）で２点、脚台Ｃ類が（Ｄ）で１点出土している。



第131図　ＳＩ170出土土器実測図

ＳＩ１７１（第144・175・178図、表28、ＰＬ．73・148・150）

ＳＩ171から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・柱穴・貯蔵穴（ＦＰＴ）で61点、埋土下層（Ｂ）で32点、埋土中層（Ｃ）で54点、埋土上層・セク（Ｄ）で46点、計193点を数える。床面直上の資料として、広口壺Ｂ類306、本遺跡で最も古い段階に位置付けられる製塩土器の脚台Ｉ類320、埋土中層の資料として、脚台部が低脚化し脚台部に比べて坏部の大きい高坏Ｂ類318、脚台Ｇ類319などがある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（ＦＰＴ）で有11点・無８点、（Ｂ）で有１点・無７点、（Ｃ）で有８点・無６点、（Ｄ）で有５点・無５点となる。甕Ｂ類が（Ｂ）で有２点・無10点、（Ｃ）で有１点・無17点、（Ｄ）で有1点・無７点となり、他の層位では施される例がない。

その他、脚台Ａ類が（ＦＰＴ）で14点、（Ｂ）で３点、（Ｃ）で16点、（Ｄ）で13点、脚台Ｂ類が（Ｃ）で１点、（Ｄ）で３点、脚台Ｇ類が（Ｃ）で１点出土している。

石器・石製品として柱状片刃石斧1057、鉄製品として直刃鎌1106がある。

ＳＩ１７２（第145図、ＰＬ．73）

ＳＩ172から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上（Ｆ）で６点、埋土一括で22点、計28点を数えるのみである。床面直上の資料として、甕Ｂ類326・331、脚台Ａ類333などがある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（Ｆ）で有１点・無０点、埋土一括で有３点・無０点となり、甕Ｂ類（10点）に施される例がない。

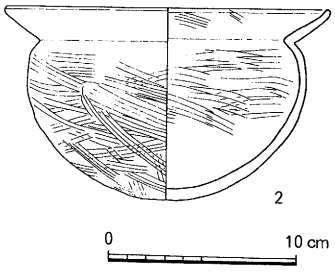
その他、脚台Ａ類が（Ｆ）で１点、埋土一括で５点、脚台Ｂ類が埋土一括で２点出土している。

ＳＩ１７３（第145・146・176・178図、表28、ＰＬ．74・148・150）

ＳＩ173から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・炉・柱穴（ＦＲＰ）で62点、埋土一括で37点、計99点を数える。床面直上の資料として、体底部は欠失するが大振りの覆い部の取付く手焙形土器348などがある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（ＦＲＰ）で有１点・無０点、埋土一括で有２点・無５点、甕Ｂ類が（ＦＲＰ）で有２点・無21点、埋土一括で有１点・無９点となる。

その他、脚台Ａ類が（ＦＲＰ）で９点、埋土一括で10点、脚台Ｂ類が埋土一括で１点出土している。

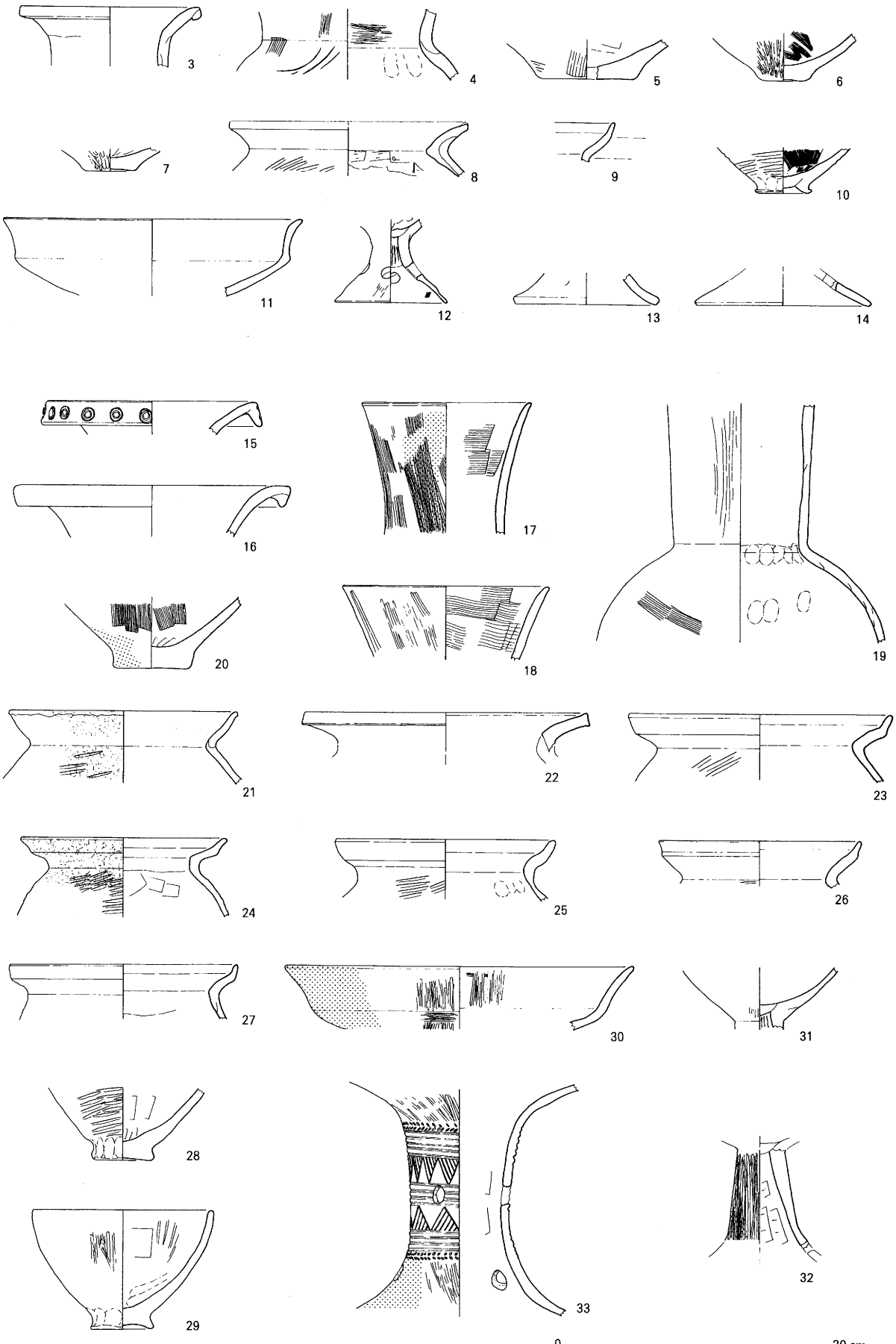
石器・石製品として砥石1068、鉄器・鉄製品として鉄素材破片を思わせる剣形鉄製品1092、鉄鏃1093～1095、棒状鉄製品1101、鉇1104などがある。



第132図　ＳＩ174出土土器実測図

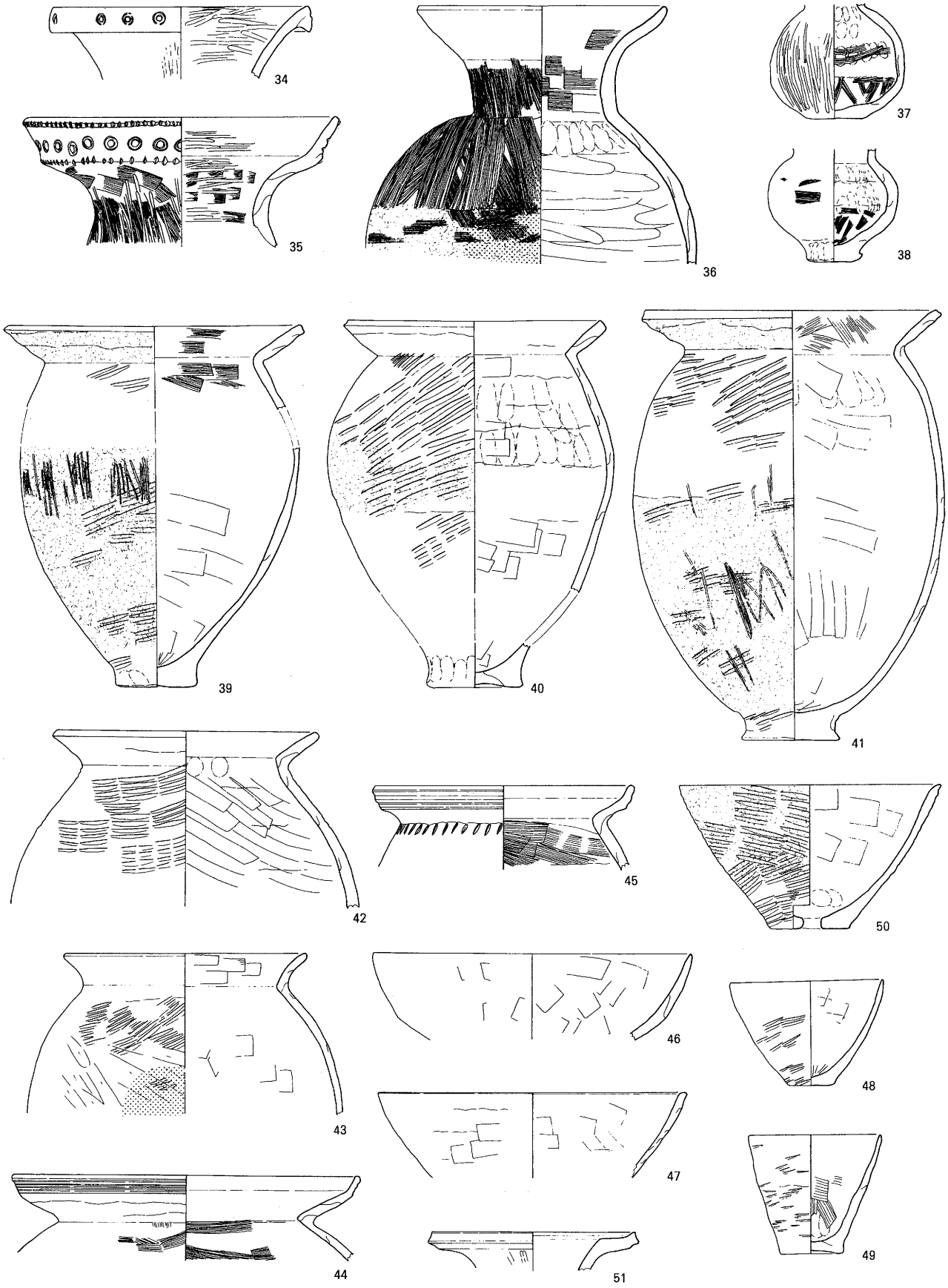
ＳＩ１７４（第132・146～148・152・176・178図、表28、ＰＬ．75・76・77・148・149）

ＳＩ174から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・

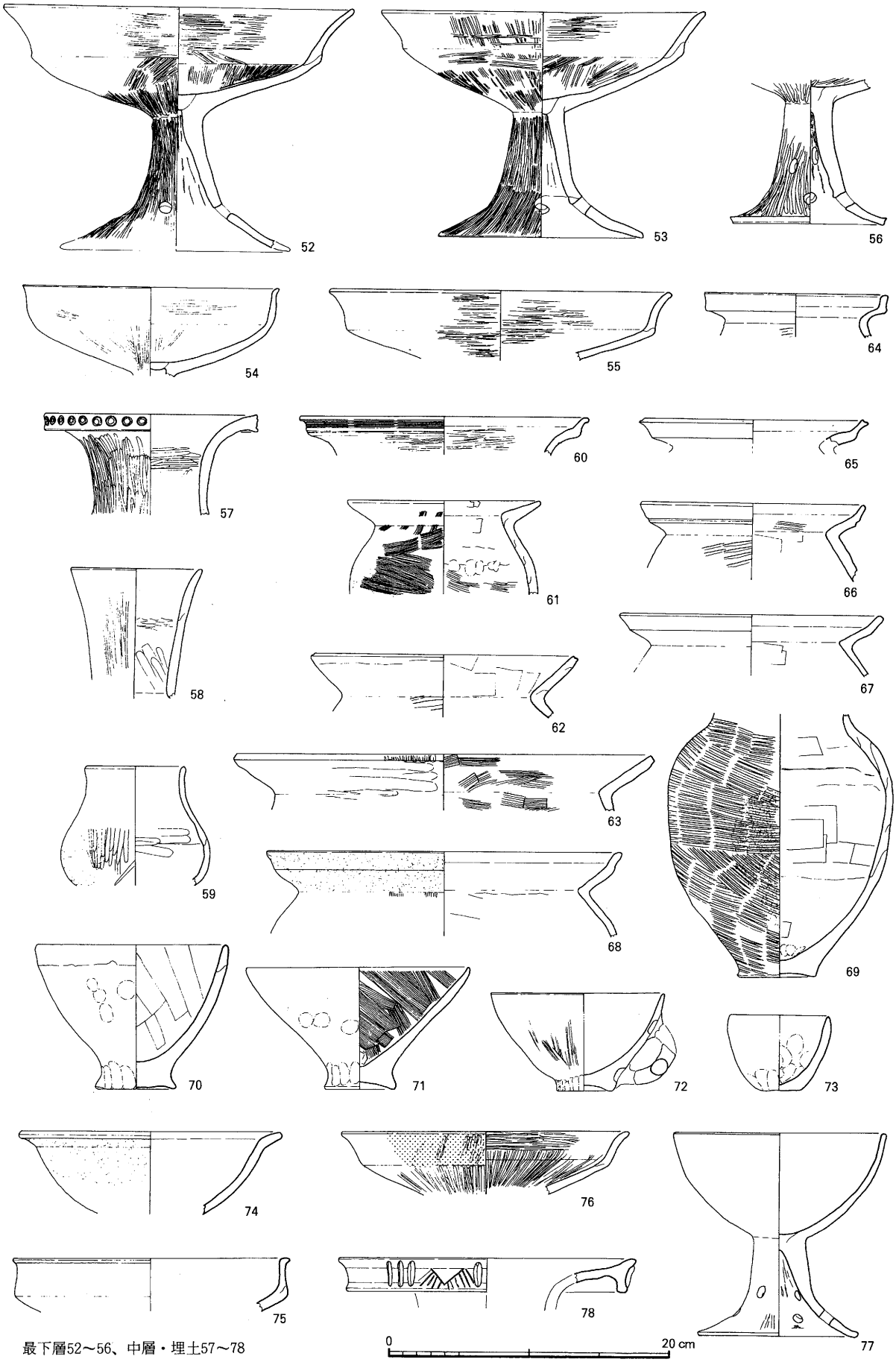


ＳＩ161　柱穴・床直・埋土３～14、ＳＩ162　床直・下層・中層・上層15～33

第133図　ＳＩ161・162出土土器実測図

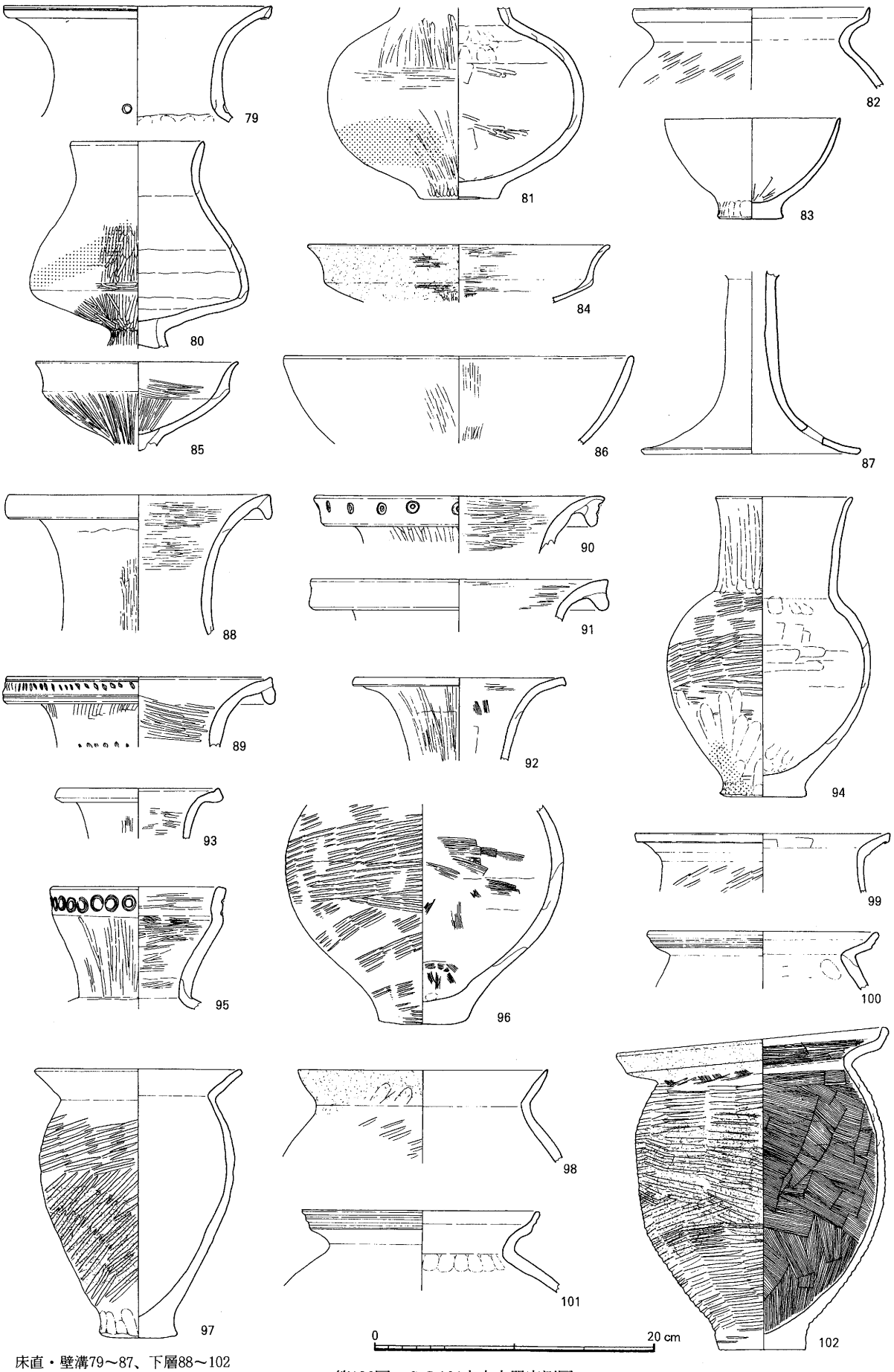


第134図　ＳＩ163出土土器実測図



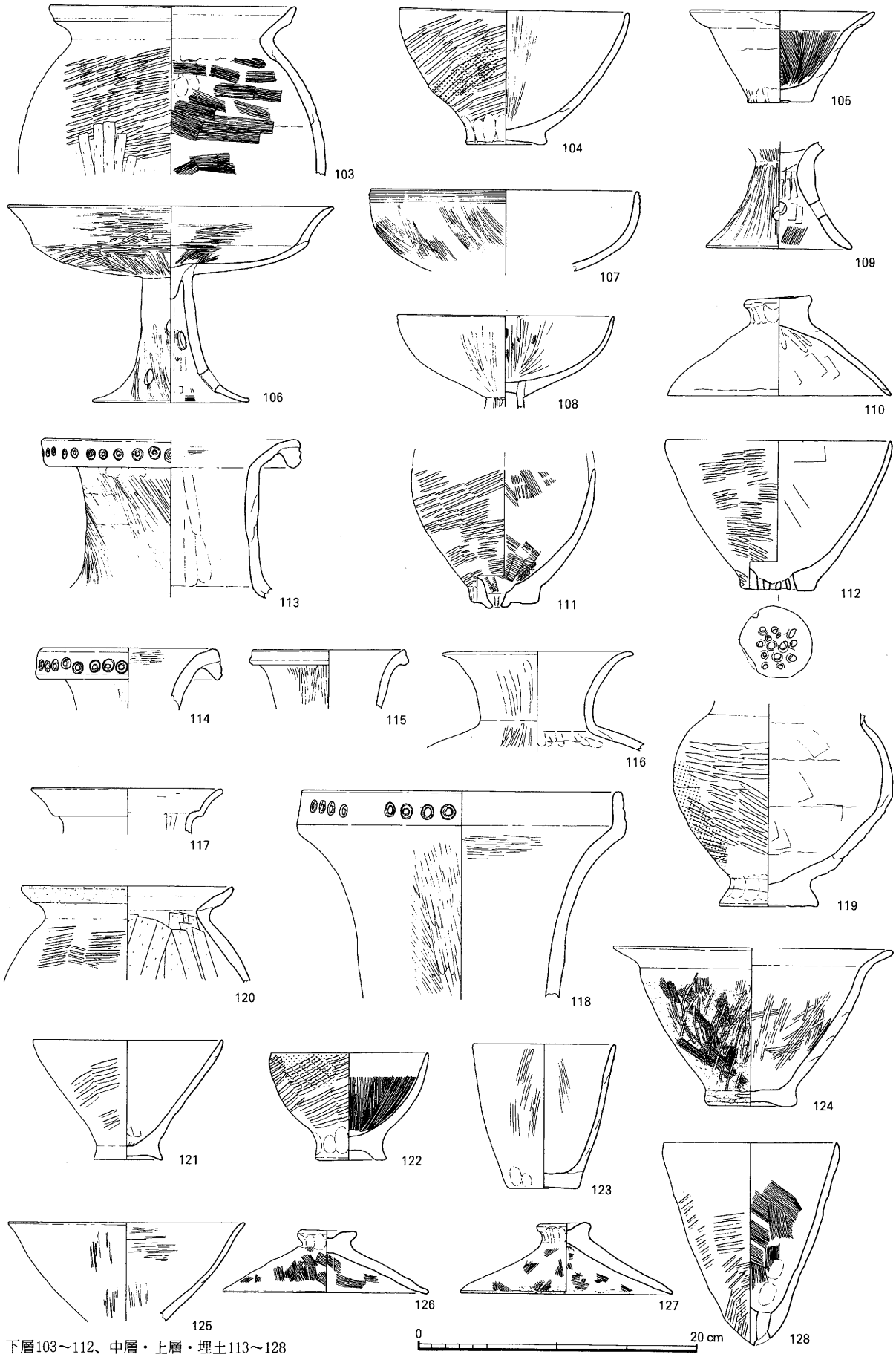
最下層52～56、中層・埋土57～78

第135図　ＳＩ163出土土器実測図



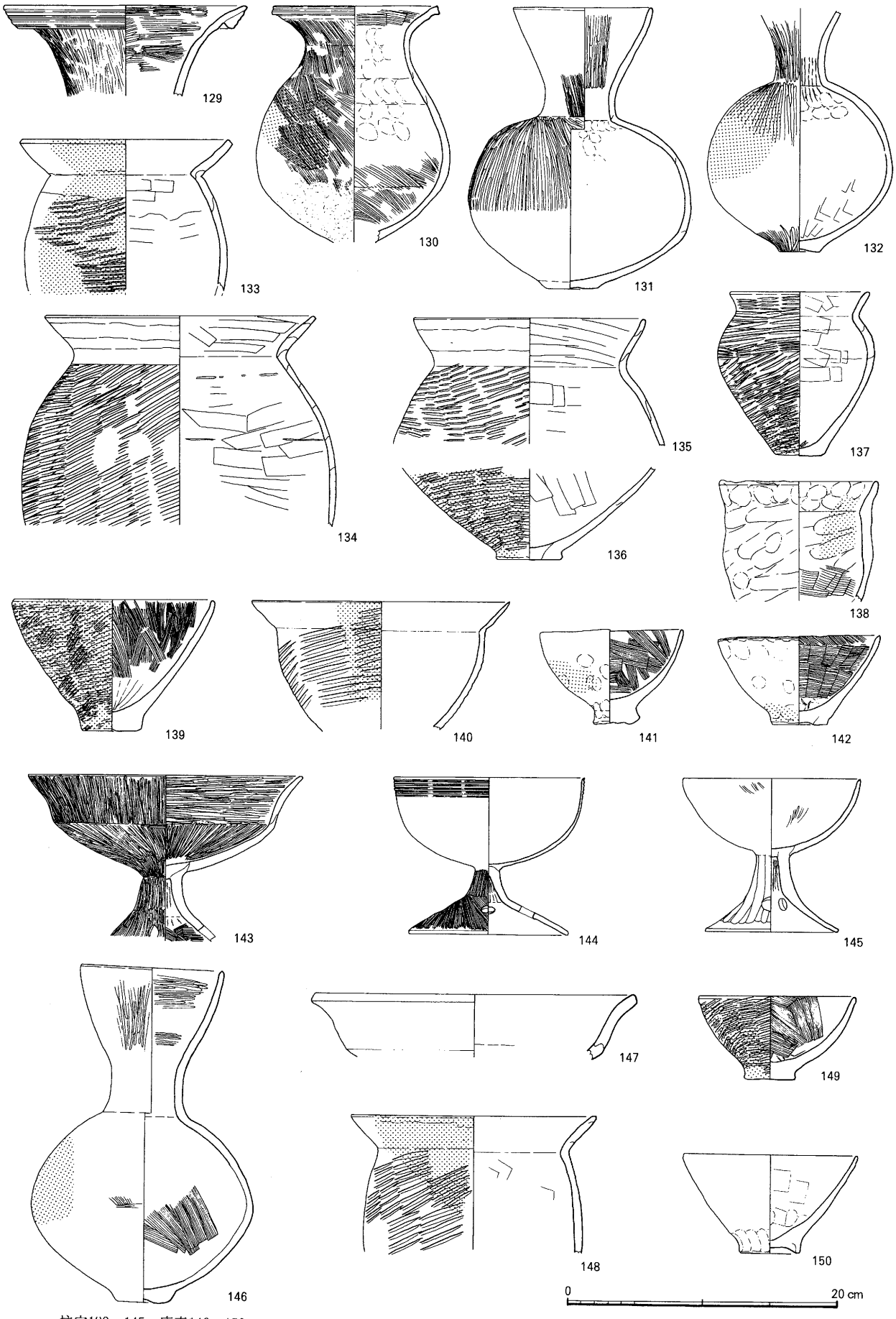
床直・壁溝79～87、下層88～102

第136図　ＳＩ164出土土器実測図



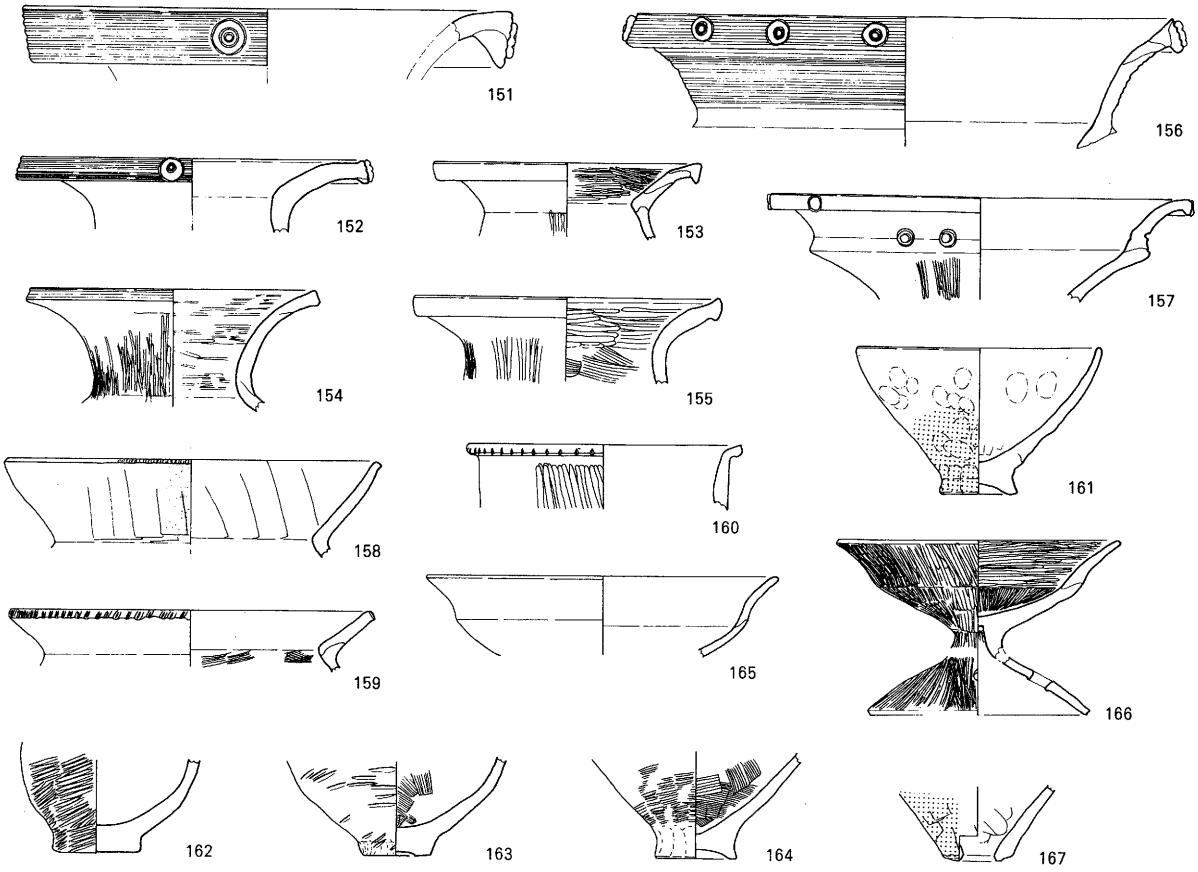
下層103～112、中層・上層・埋土113～128

第137図　ＳＩ164出土土器実測図

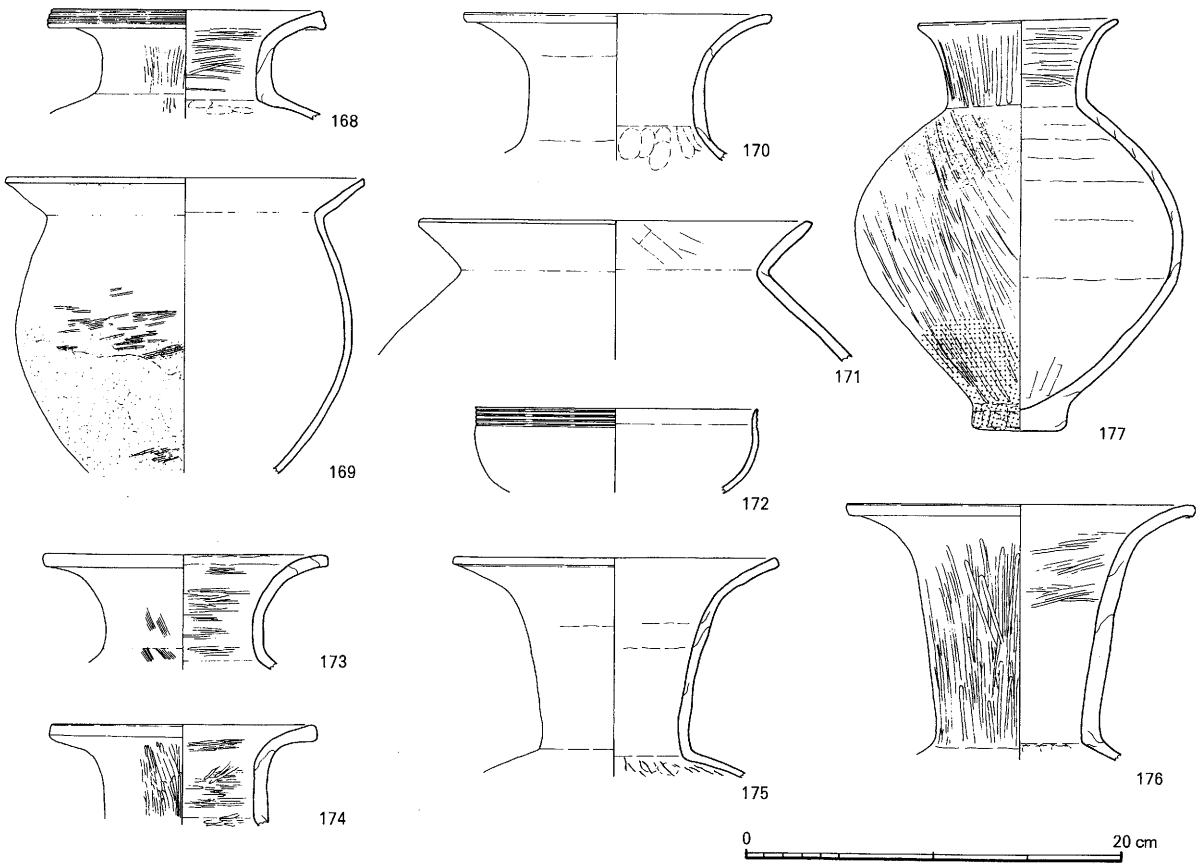


柱穴129～145、床直146～150

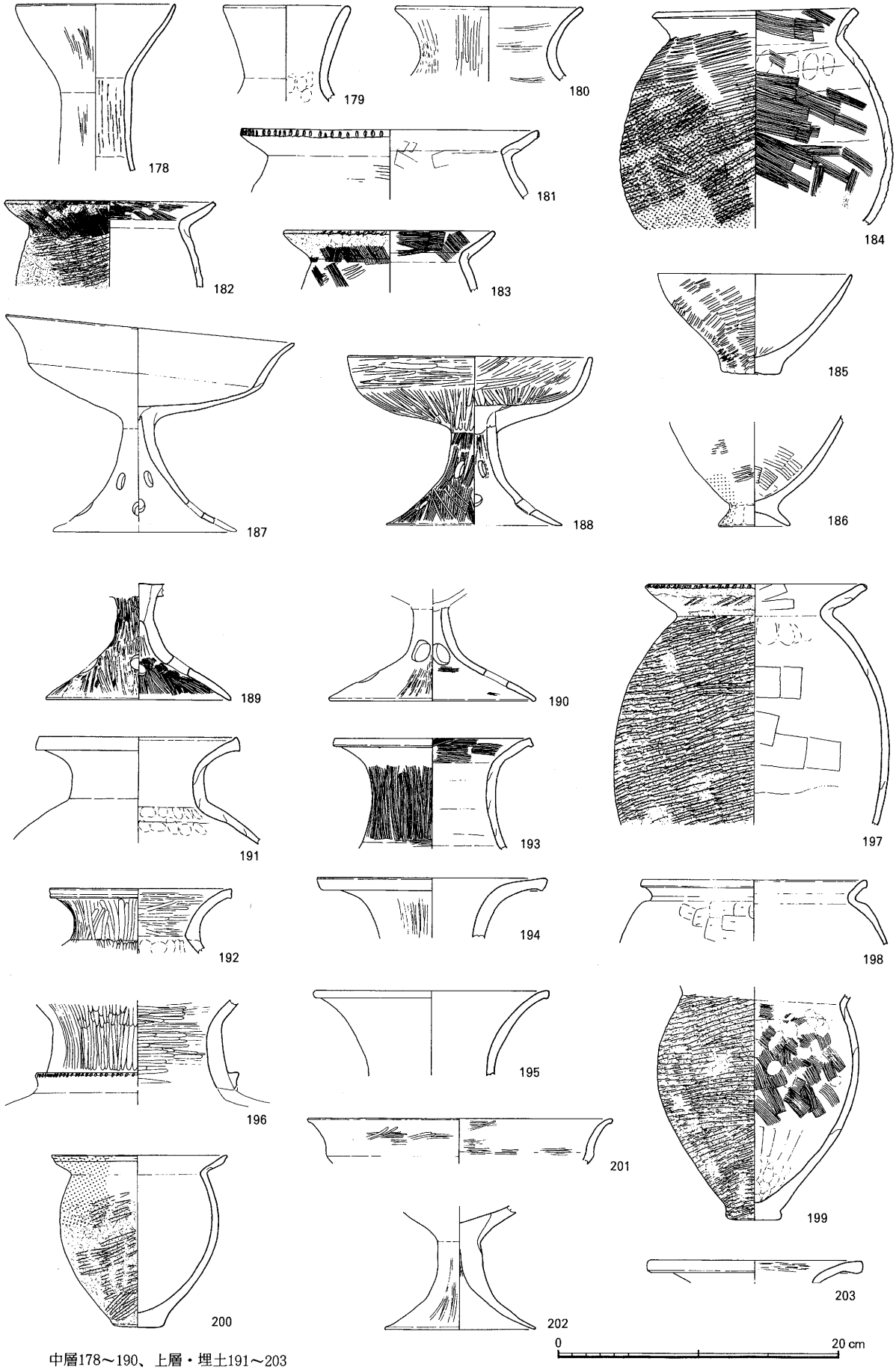
第138図　ＳＩ165出土土器実測図



ＳＩ165　下層・中層・上層151～167、ＳＩ166　炉168・169、下層170～172、中層173～177

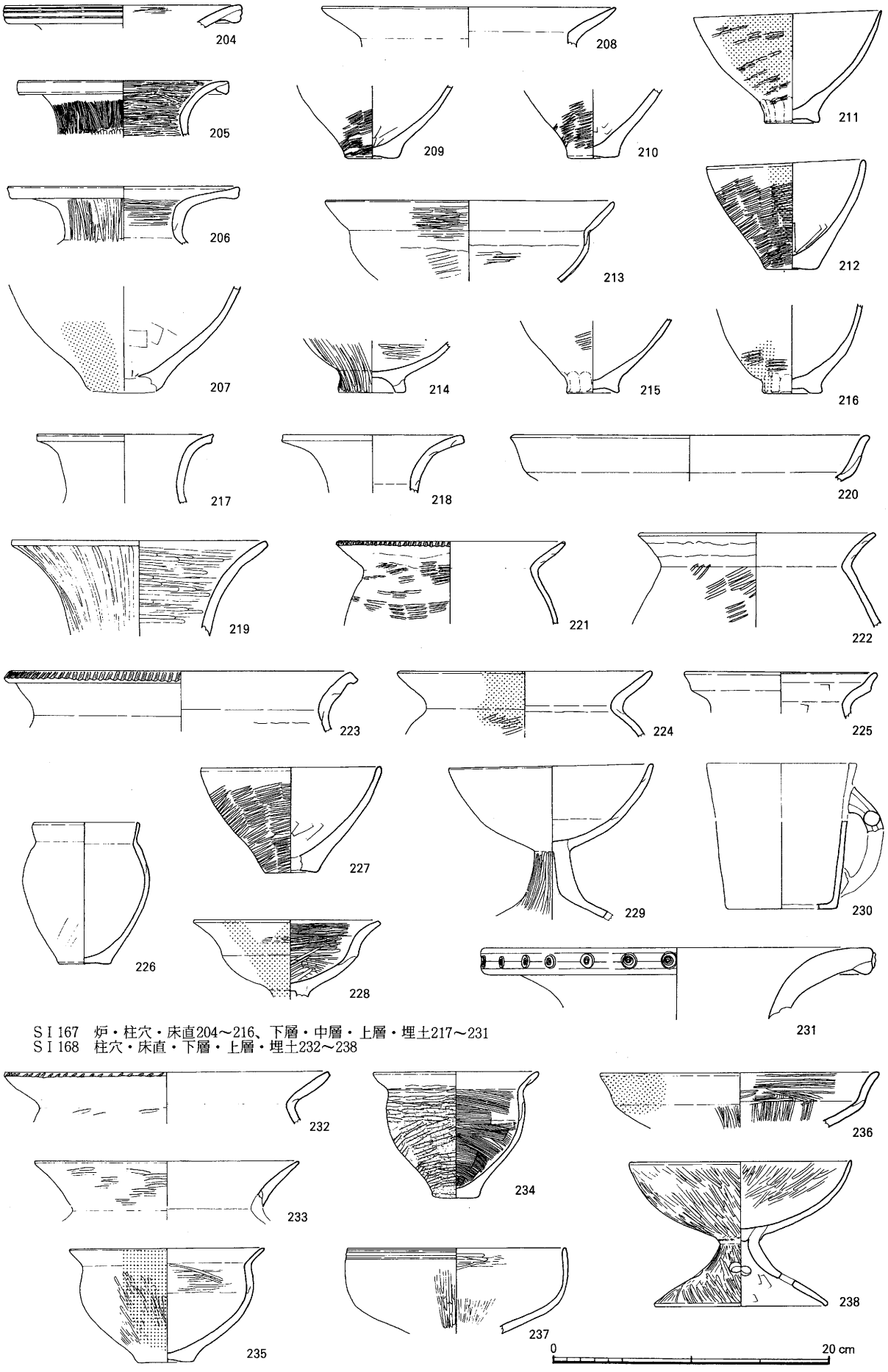


第139図　ＳＩ165・166出土土器実測図



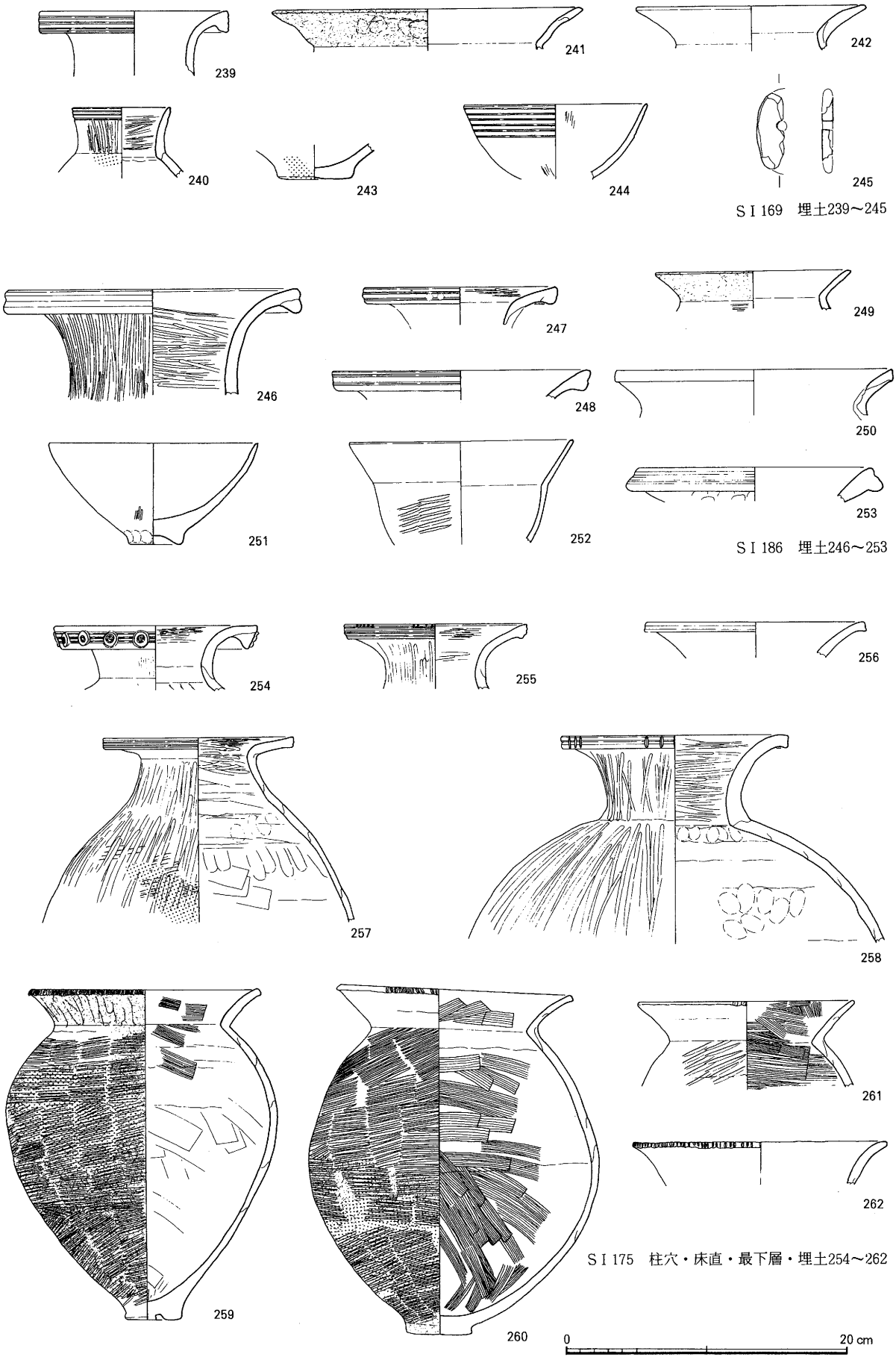
中層178～190、上層・埋土191～203

第140図　ＳＩ166出土土器実測図

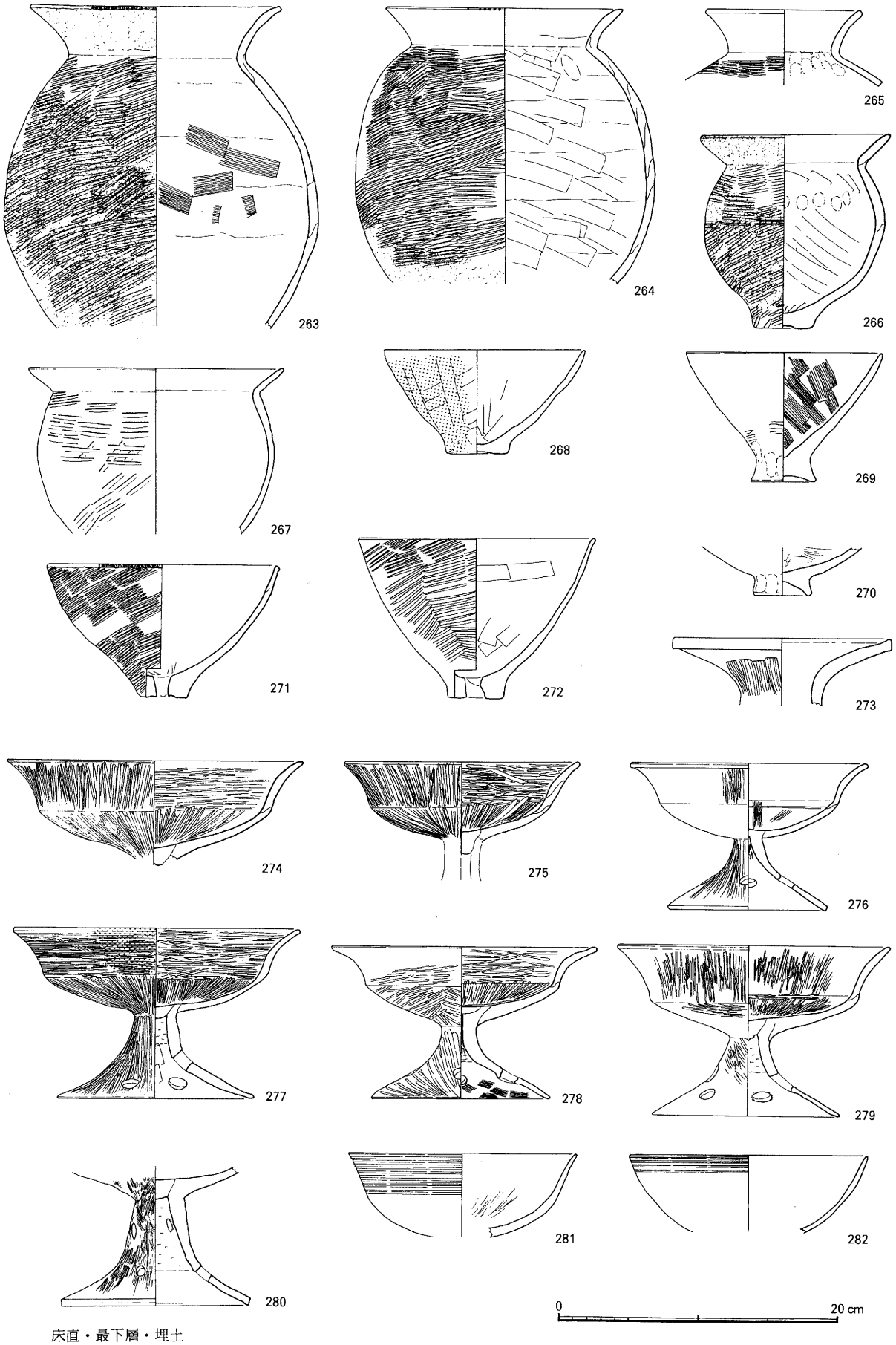


ＳＩ167　炉・柱穴・床直204～216、下層・中層・上層・埋土217～231
ＳＩ168　柱穴・床直・下層・上層・埋土232～238

第141図　ＳＩ167・168出土土器実測図

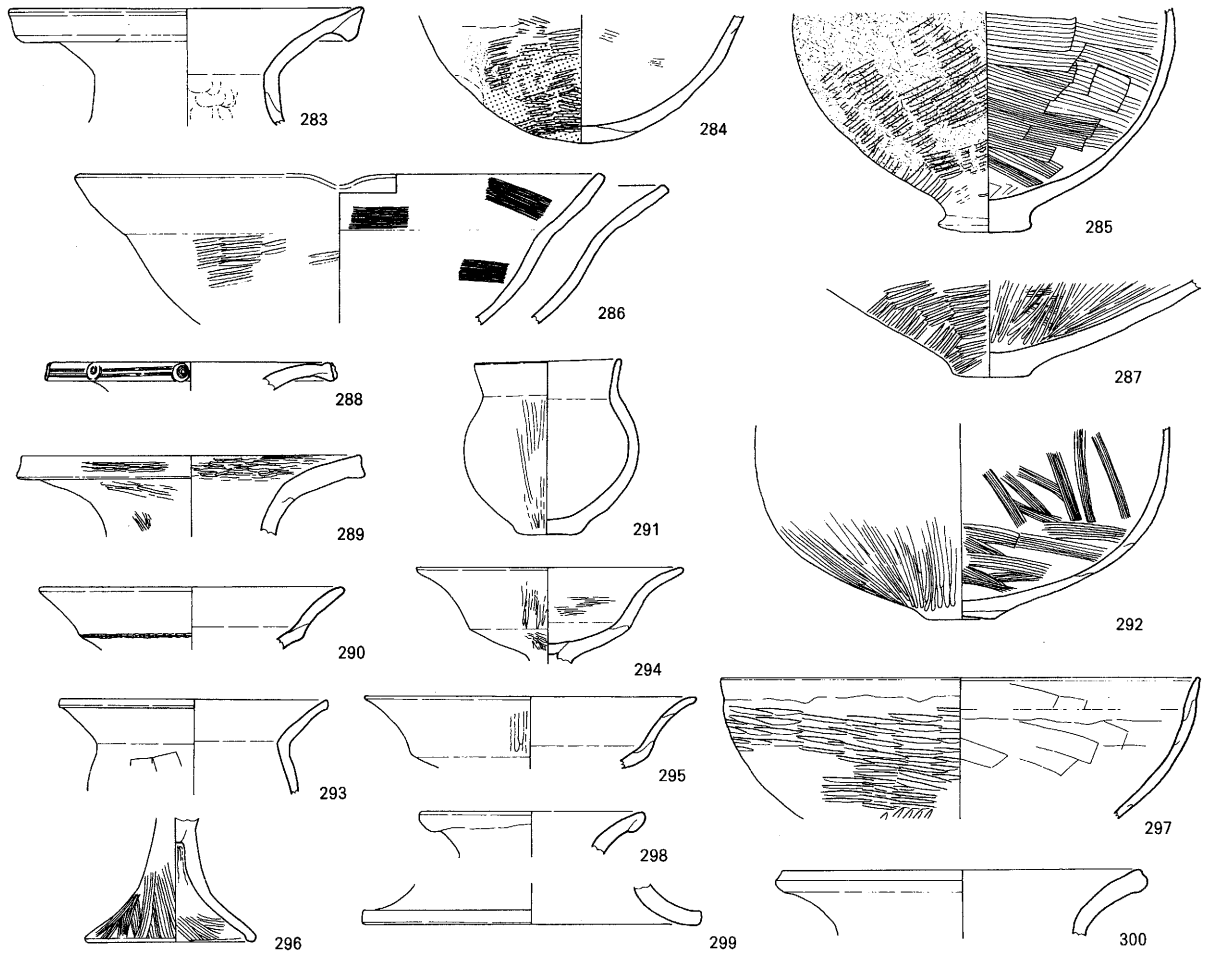


第142図　ＳＩ169・186・175出土土器実測図

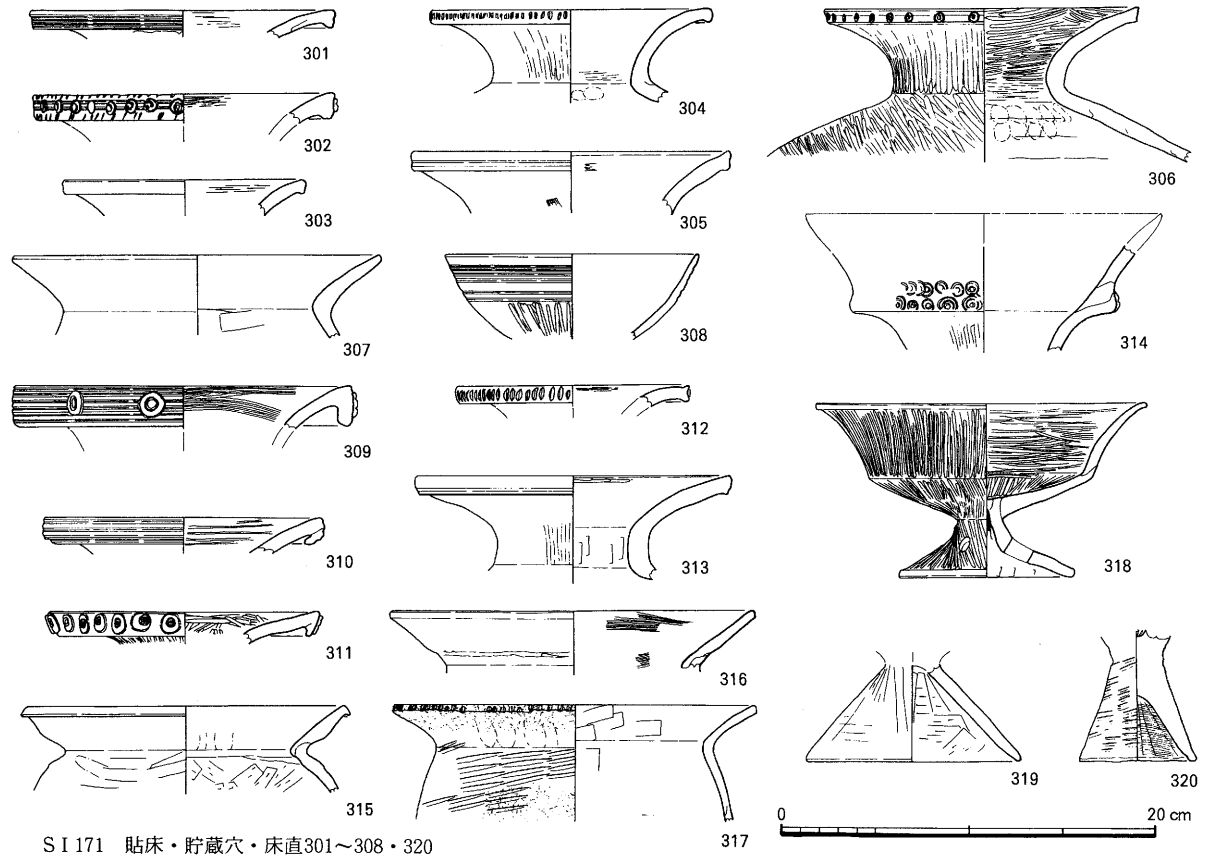


床直・最下層・埋土

第143図　ＳＩ175出土土器実測図

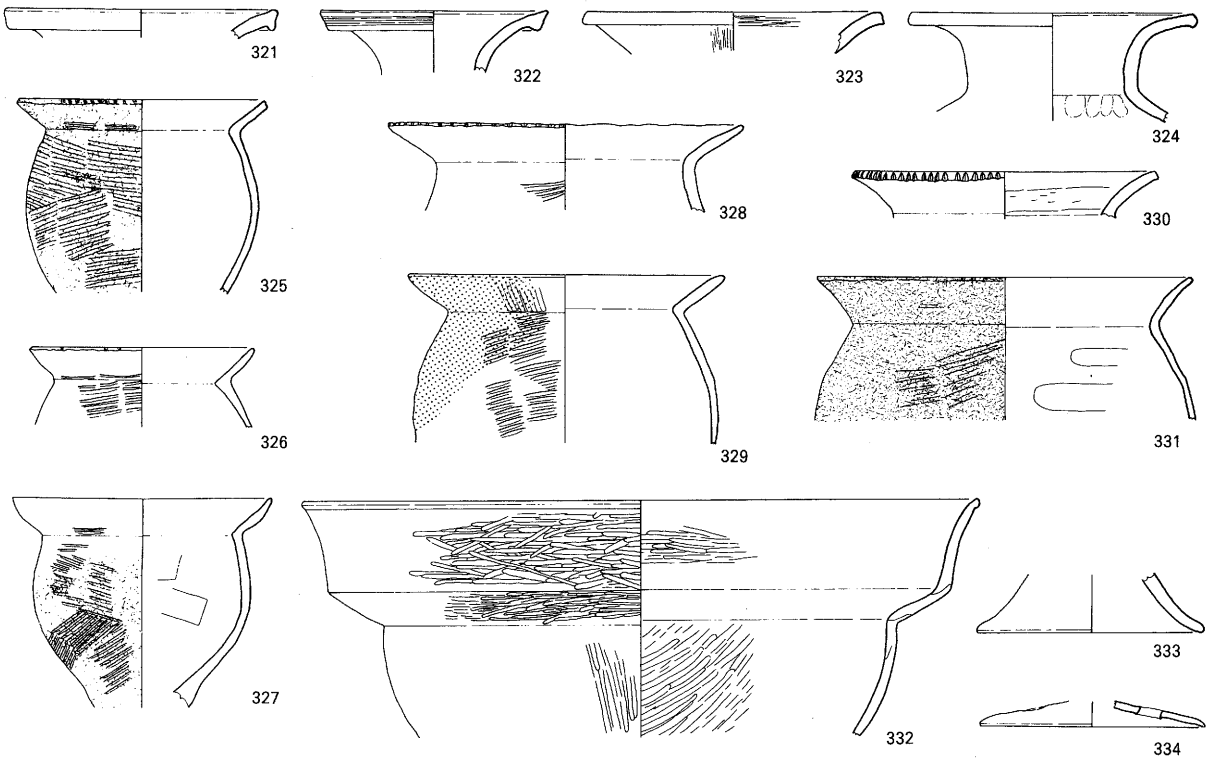


ＳＩ170　柱穴・床直283～287、セク・埋土288～300

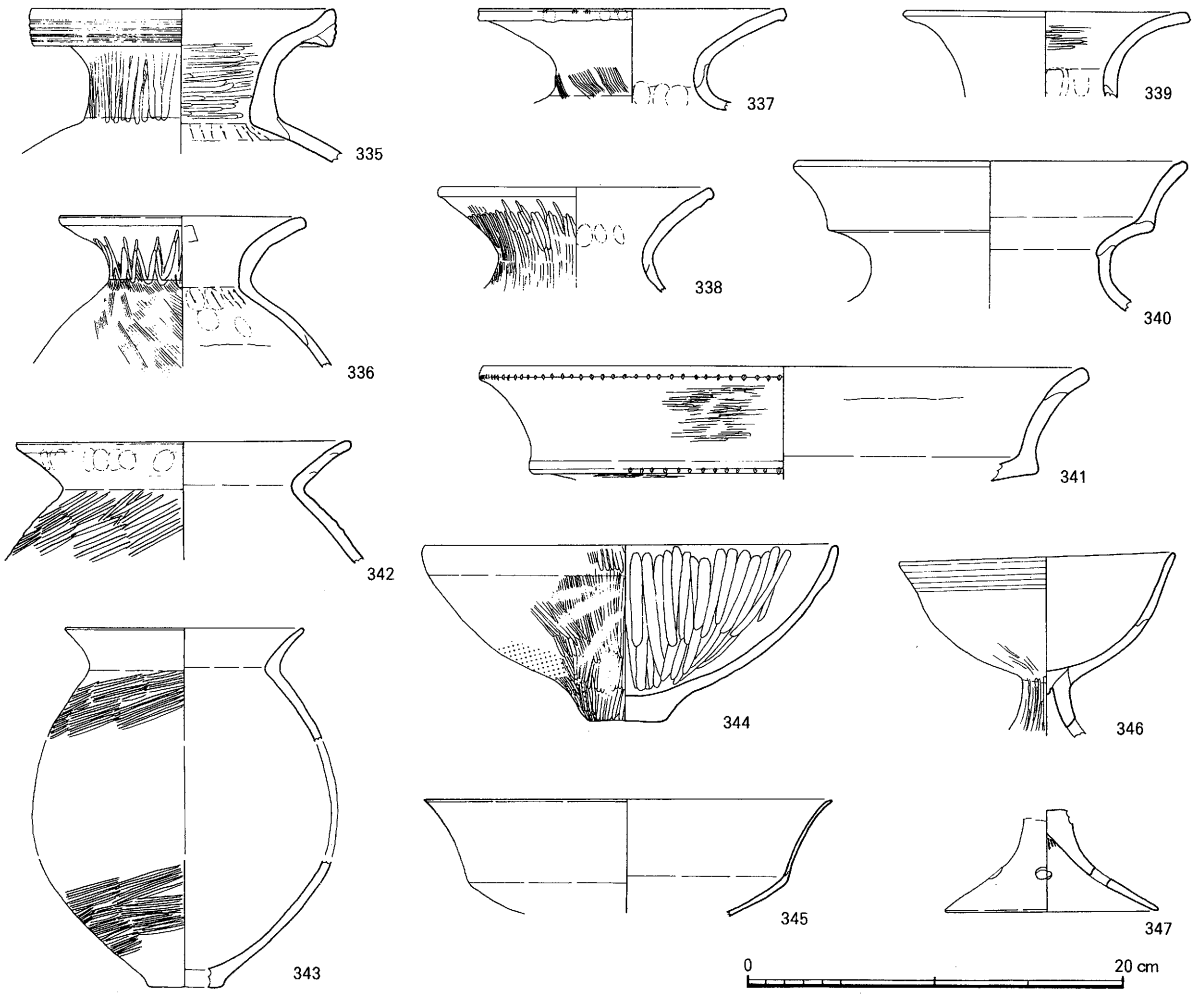


ＳＩ171　貼床・貯蔵穴・床直301～308・320
下層・中層・上層309～319

第144図　ＳＩ170・171出土土器実測図

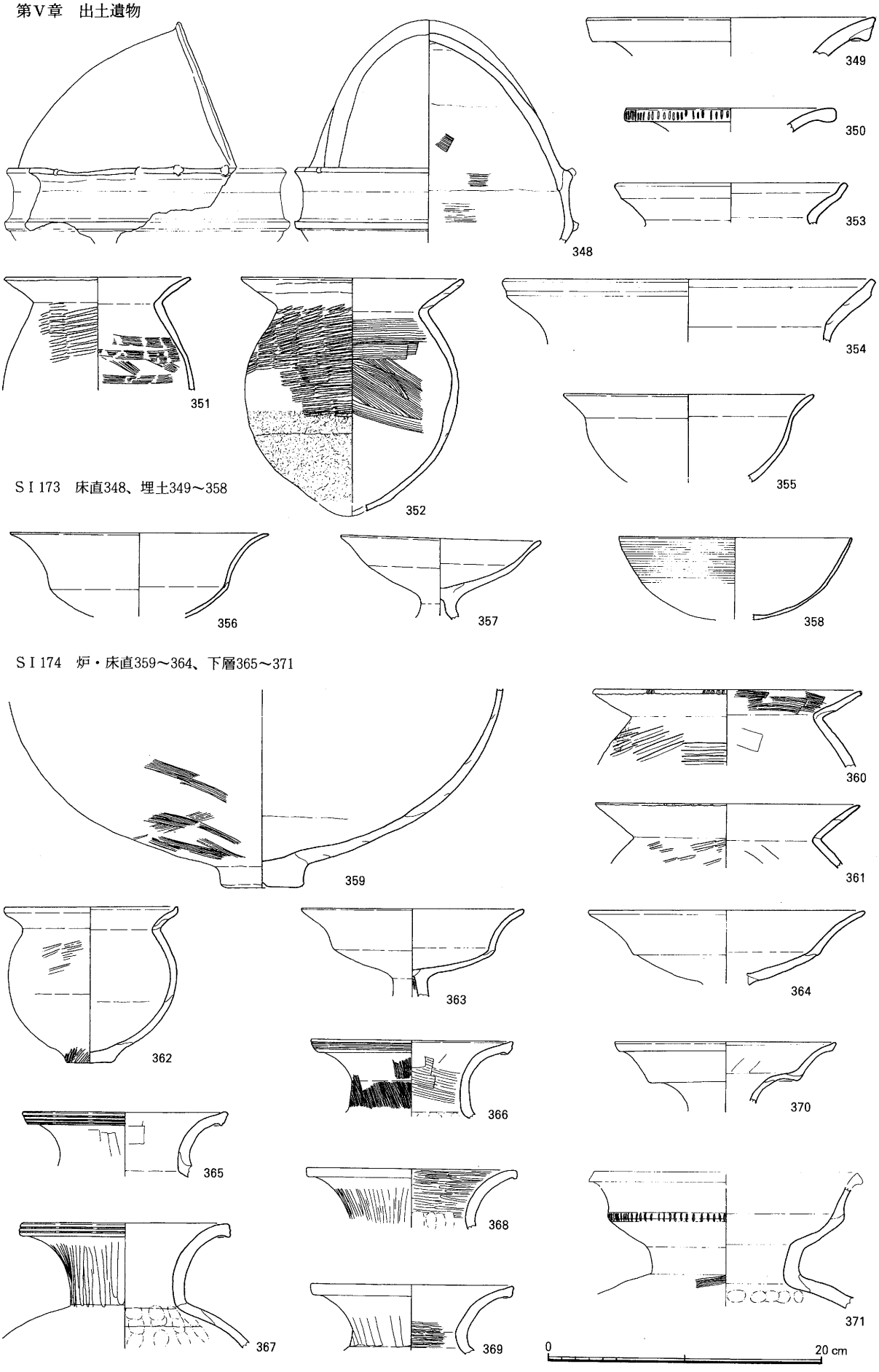


ＳＩ172　床直・埋土321～334



ＳＩ173　柱穴・床直335～347

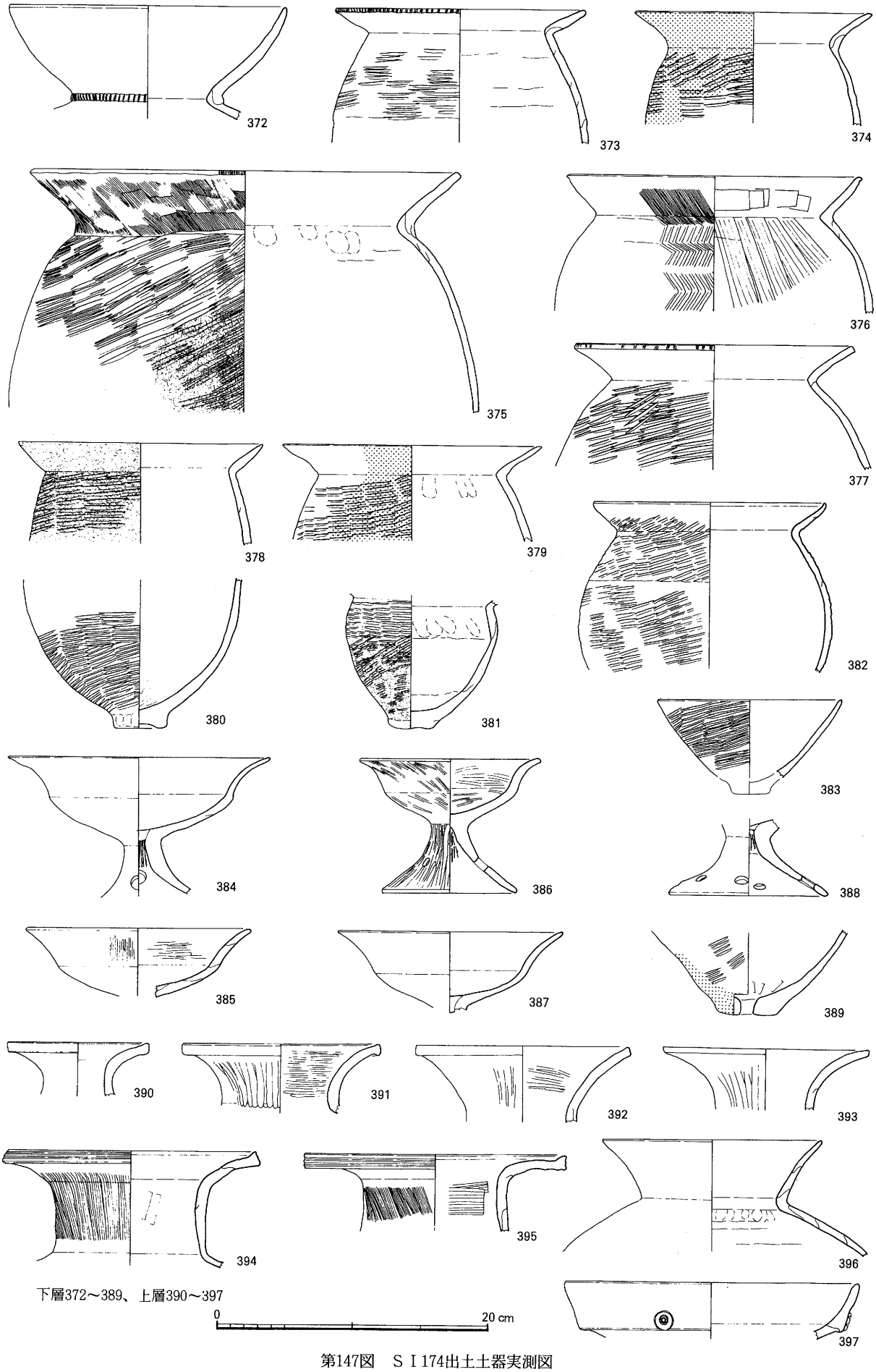
第145図　ＳＩ172・173出土土器実測図



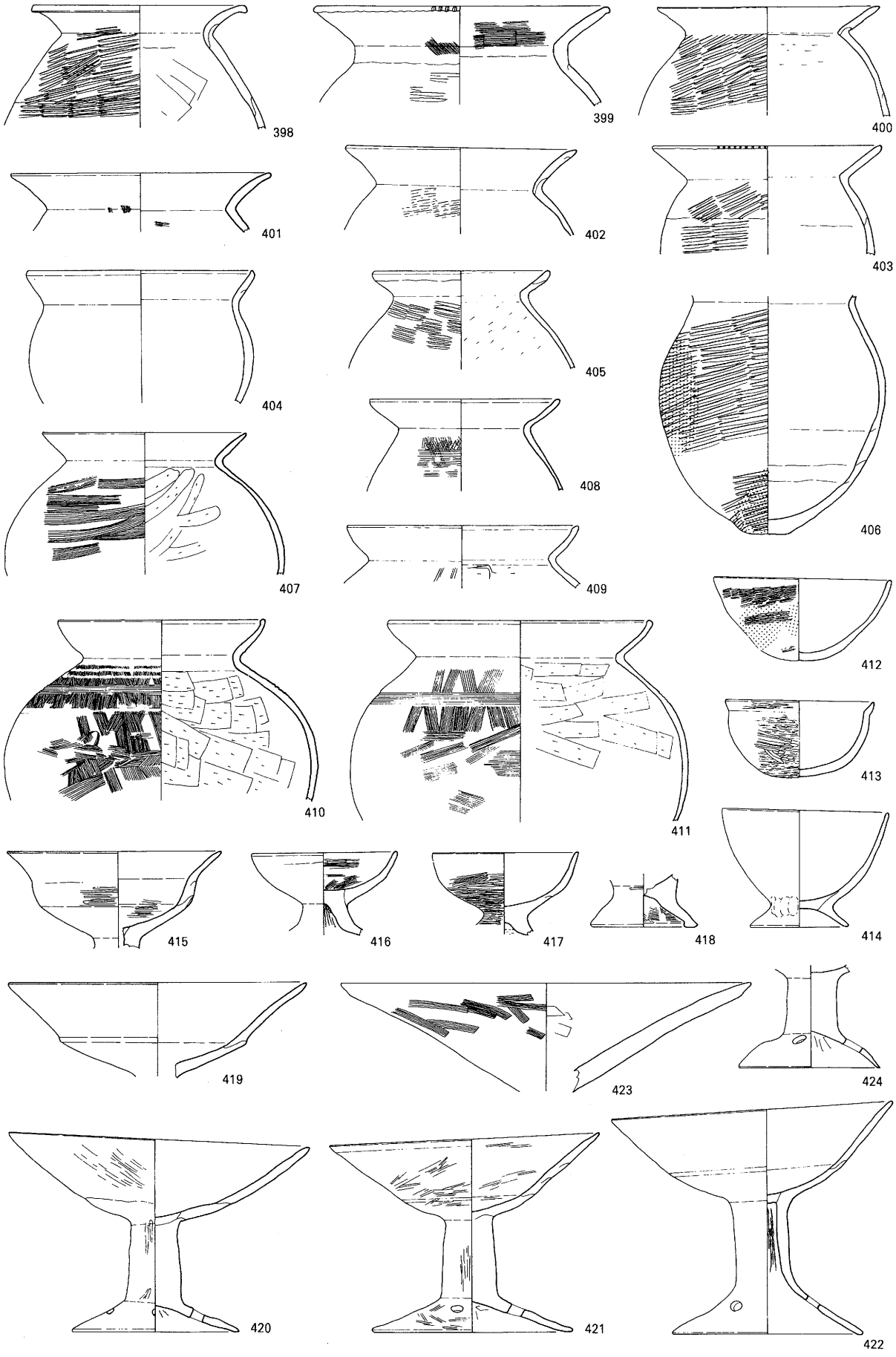
ＳＩ173　床直348、埋土349～358

ＳＩ174　炉・床直359～364、下層365～371

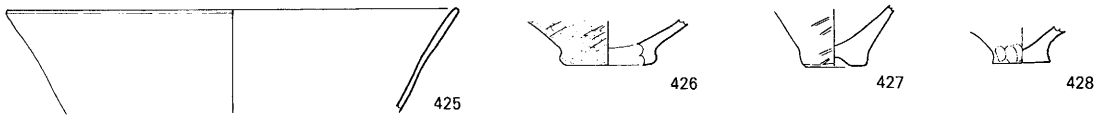
第146図　ＳＩ173・174出土土器実測図



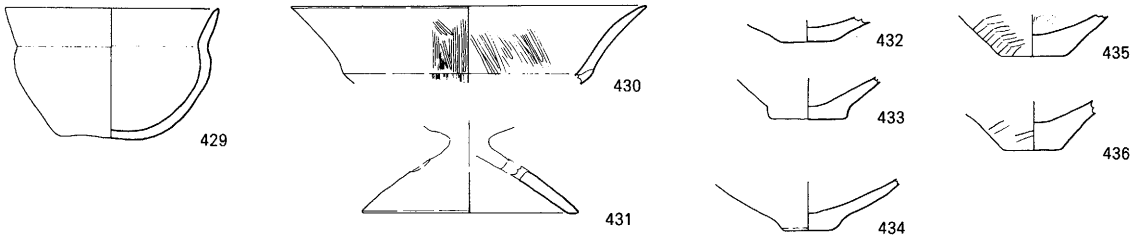
第147図　ＳＩ174出土土器実測図



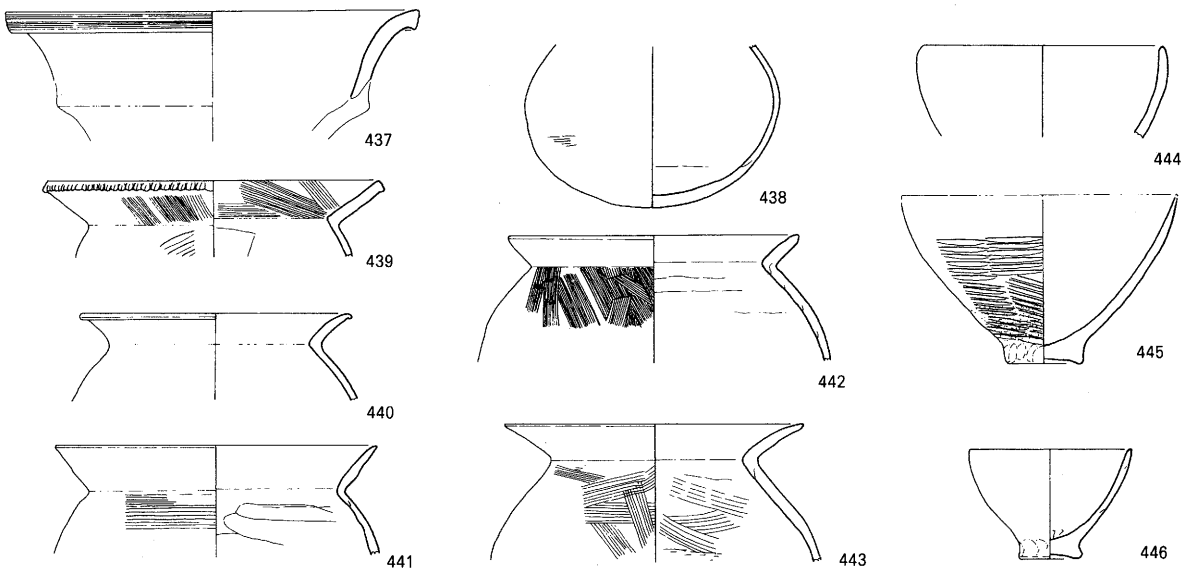
第148図　ＳＩ174出土土器実測図

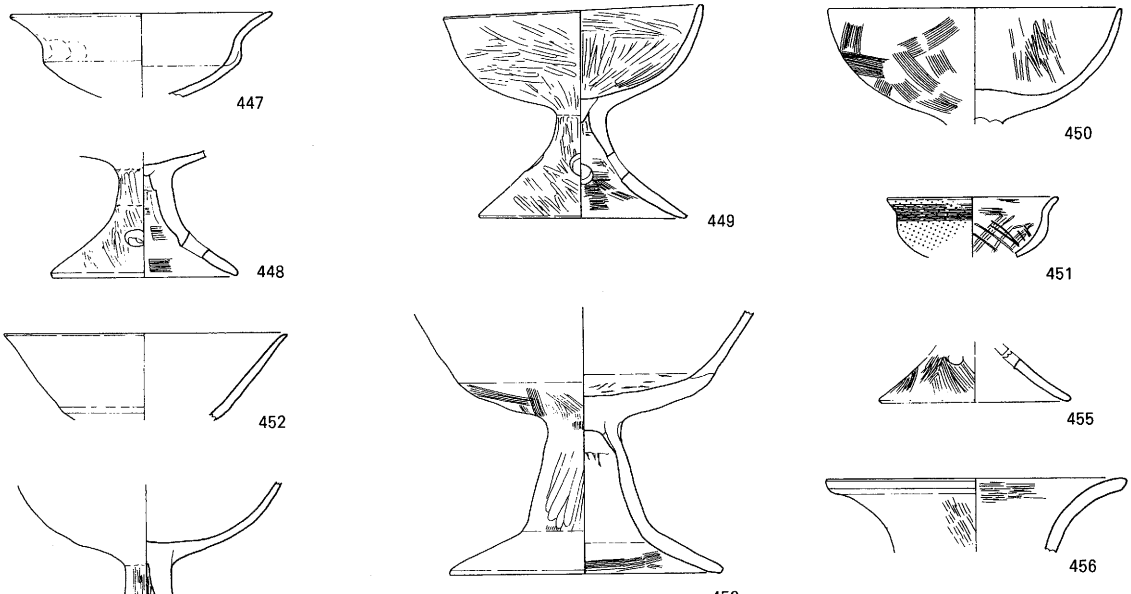


ＳＩ177　埋土425～428



ＳＩ178　床直429、埋土430～436

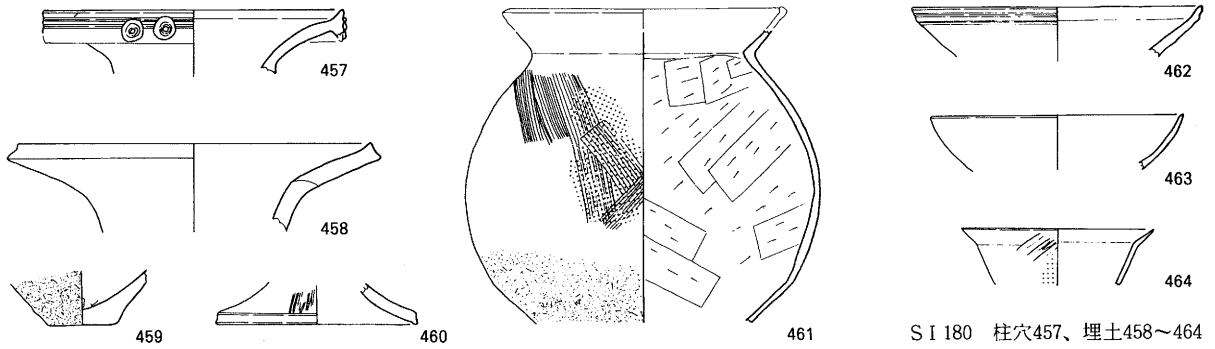




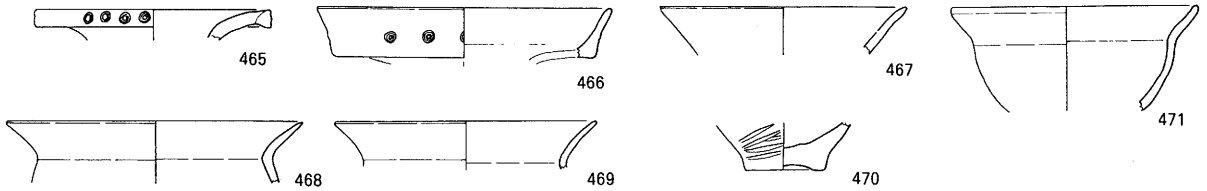
ＳＩ179　柱穴・貯蔵穴・炉・最下層・埋土437～456

0　20 cm

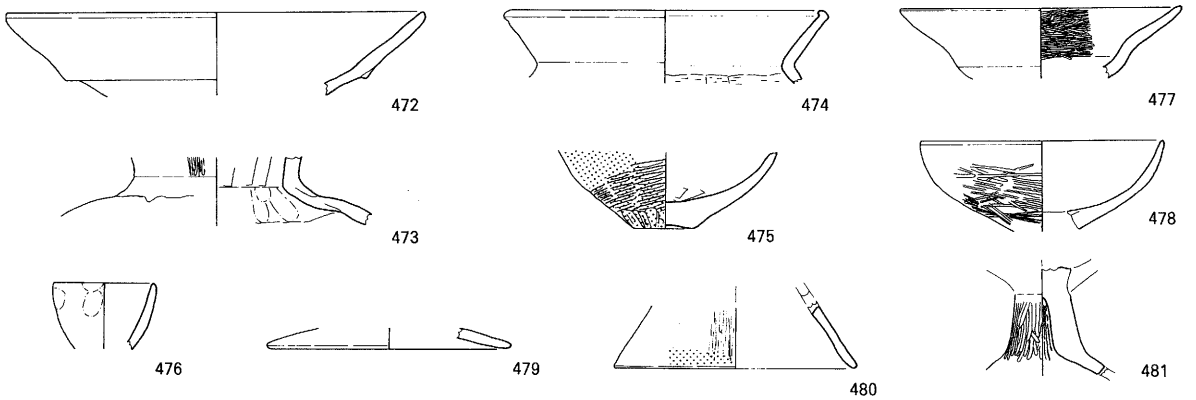
第149図　ＳＩ177・178・179出土土器実測図



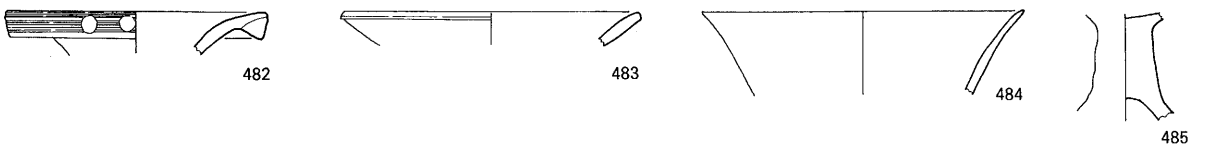
ＳＩ180　柱穴457、埋土458～464



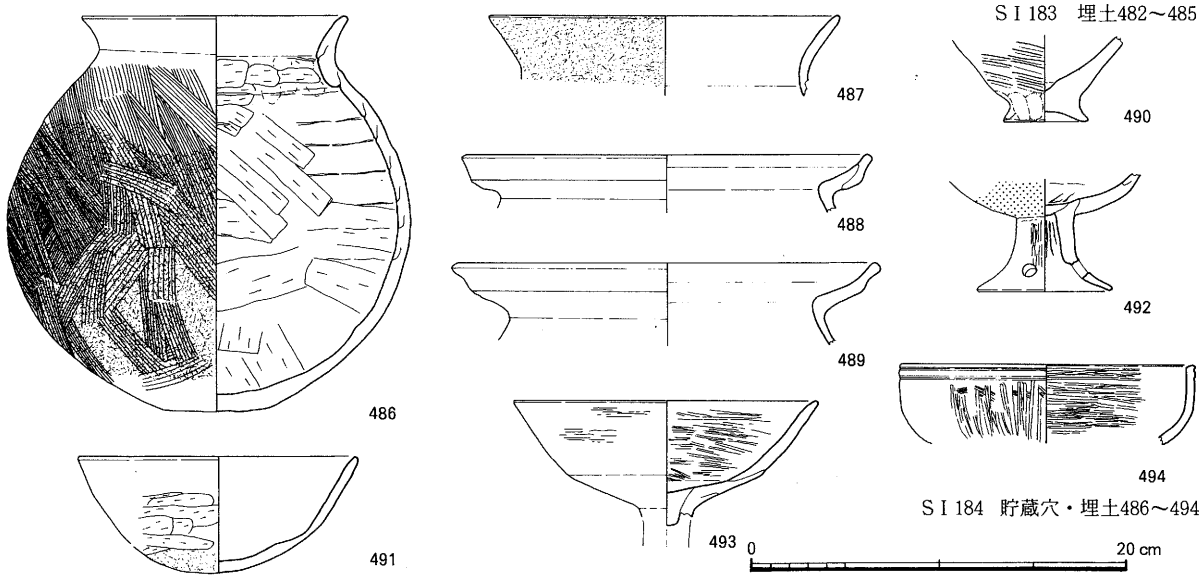
ＳＩ181　床直・上層・埋土465～471



ＳＩ182　貯蔵穴・埋土472～481

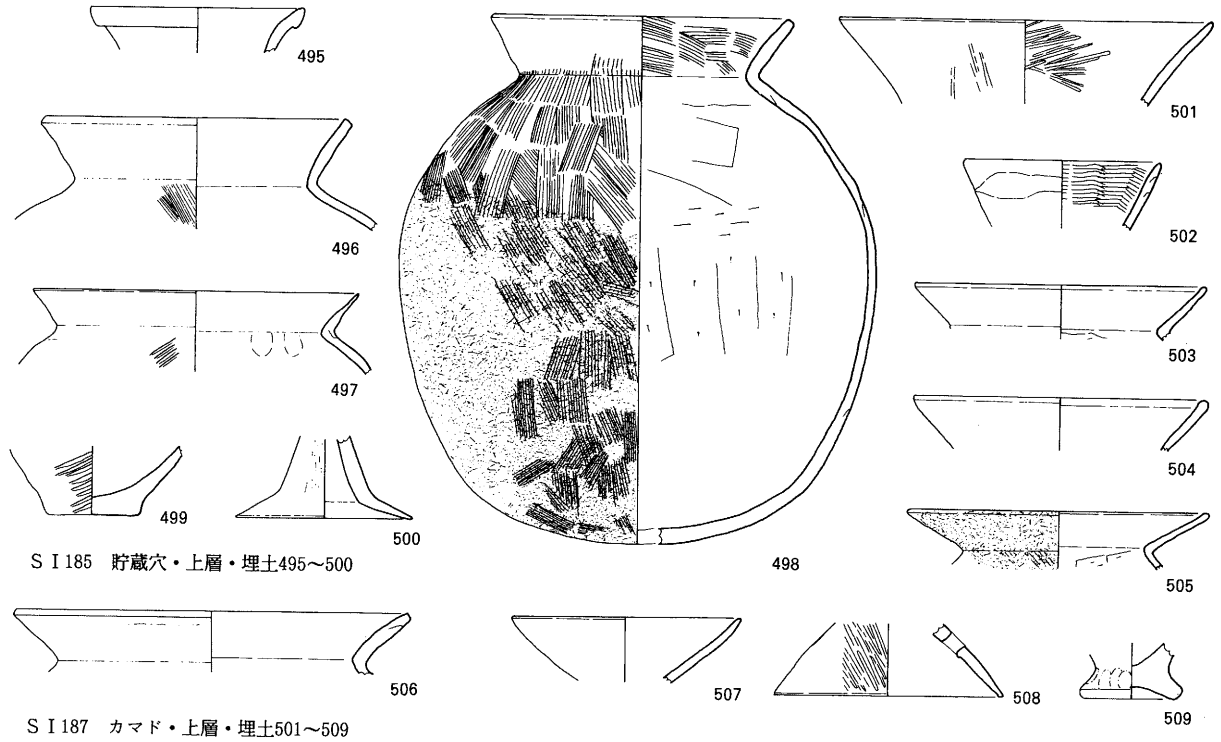


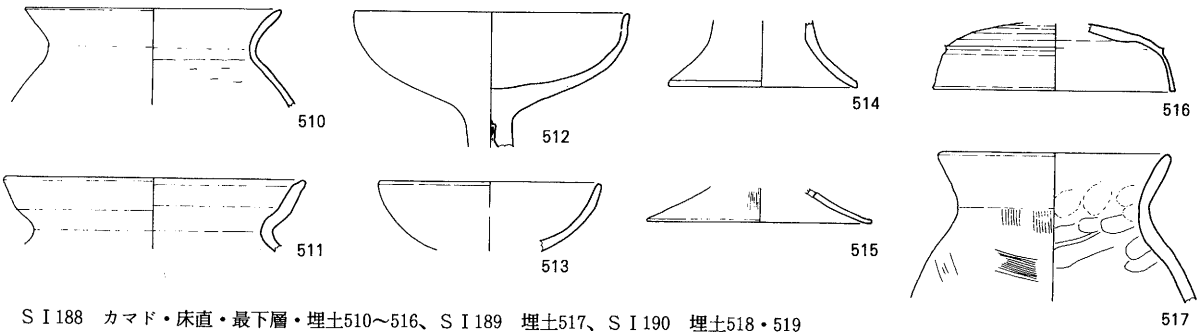
ＳＩ183　埋土482～485

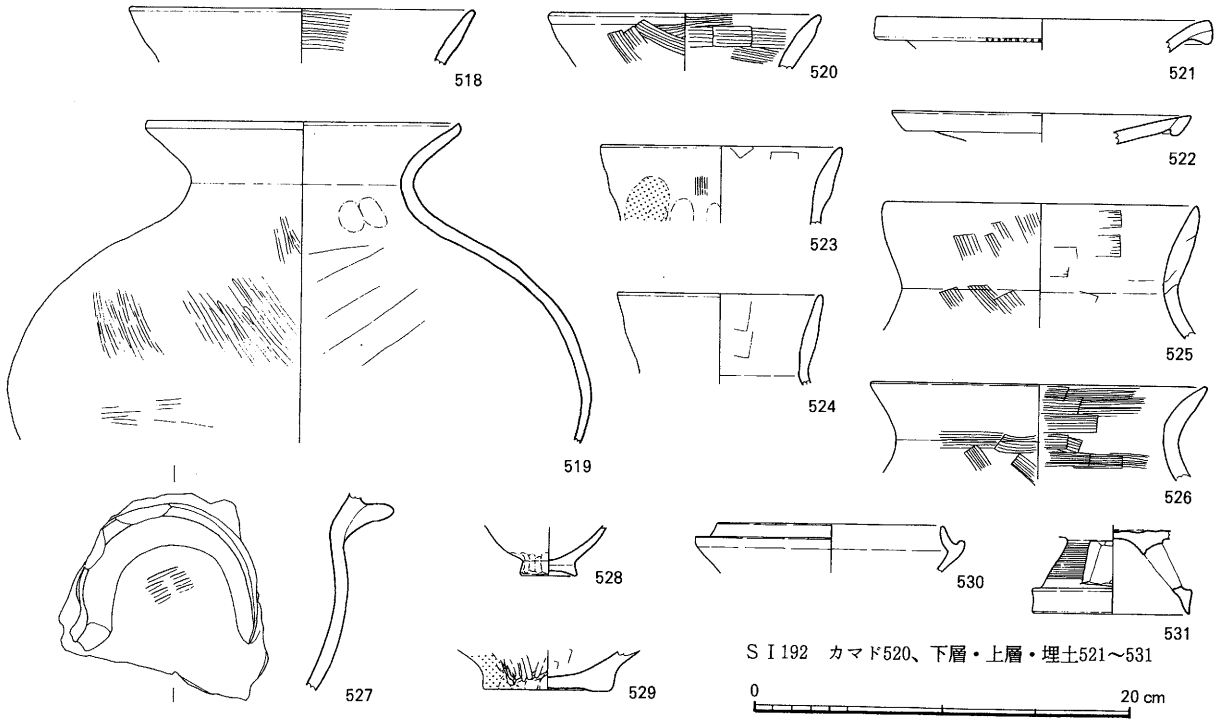


ＳＩ184　貯蔵穴・埋土486～494

第150図　ＳＩ180・181・182・183・184出土土器実測図







第151図　ＳＩ185・187・188・189・190・191・192出土土器実測図

炉（ＦＲ）で７点、埋土下層（Ｂ）で229点、埋土上層（Ｄ）で277点、計513を数える。第ⅡＡ区の資料群では特にまとまった数量である。しかし、埋土の資料が多く、下層と中層で若干の時期差を認めることができ、断続的に廃棄された一群の土器資料と考えられるものである。床面直上の資料として、体部外面の調整は摩滅のため不明瞭であるが、胎土に角閃石・金雲母を多量に含む甕Ｆ類362がある。埋土下層の資料として、頸部のくびれ部に刻み目の施された太頸壺372、大振りの器形になる甕Ａ類375、体部上位に羽状タタキの施された甕Ａ類376、体部から頸部にかけて細かいタタキメが施され、口縁端部が上方に摘み上げられた甕Ｆ類382（胎土に多量の角閃石、少量の金雲母を含む）、坏部の口縁部と皿部の比率が約１：1.5から１：1.2になる高坏Ａ類384～387、低脚の脚台Ｂ類388、甑389、手焙形土器の小破片などがある。埋土上層の資料として、鉢の形態に近い丸底の甕Ｂ類２、広口壺Ａ類390～393、口縁端部に擬凹線、頸部外面に粗いハケメが施された搬入品と考えられる広口壺Ｃ類394・395、短頸壺396、甕Ａ類398・399、甕Ｂ類400～403、地元の胎土であるが、庄内式甕の口縁端部の技法を真似た甕Ｆ類404・405、口縁部が内湾しながら立上り、端部で若干肥厚する布留式併行期の甕Ｇ類407～411、鉢Ｄ類412・413、高坏Ａ類415、高坏Ｃ類423、高坏Ｄ類419～421、高坏Ｄ´類422、高坏Ｆ類416・417、脚台Ｅ類424などがある。未製品の紡錘車534・535もある。

甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（ＦＲ）で有１点・無０点、（Ｂ）で有14点・無７点、（Ｄ）で有14点・無６点、甕Ｂ類が（Ｂ）で有12点・無59点、（Ｄ）で有７点・無91点となる。

その他、脚台Ａ類が（Ｂ）で33点、（Ｄ）で31点、脚台Ｂ類が（Ｂ）で３点、（Ｄ）で５点、脚台Ｃ類が（Ｄ）で６点出土している。

石器・石製品として、砥石1073、磨石1088などがある。

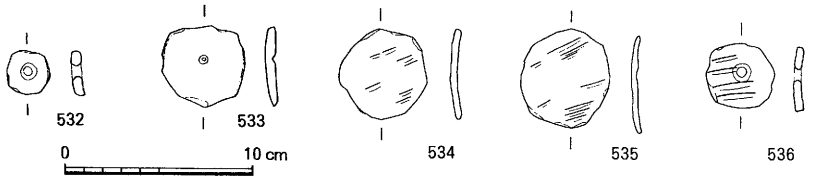
ＳＩ１７９（第149・177・178図、ＰＬ．77・148・149）

ＳＩ179から出土した器種構成比率に対応できる資料は、重複する土坑ＳＫ243の遺物がかなりの量で混入するものと思われるが、計142点を数える。その内、炉内から鉢Ａ類445、小形の鉢Ａ類446、炉の基底部から椀形の高坏Ｂ類449、小形の高坏Ｂ類451、貯蔵穴から高坏Ｄ類453、台石1081などがある。

ＳＩ１８２（第150図、ＰＬ．78）

ＳＩ182から出土した器種構成比率に対応できる資料は、計23点を数えるのみである。その内、貯蔵穴の埋土から高坏Ｅ類477、高坏Ｆ類478、脚台Ｆ類481、埋土一括から二重口縁壺472、椀形の手捏ね476などがある。

その他、竪穴住居の資料として、**ＳＩ１８０**（第150図、ＰＬ．77）、**ＳＩ１８１**（第150・152図）、**ＳＩ１８３**（第150図）、**ＳＩ１８４**（第150図、ＰＬ．78）、**ＳＩ１８５**（第151・175・176・177図、ＰＬ．78・148・149）、**ＳＩ１８７**（第151図）、**ＳＩ１８８**（第151・175図、ＰＬ．78・147）、**ＳＩ１８９**（第151図、ＰＬ．78）、**ＳＩ１９０**（第151図、ＰＬ．78）、**ＳＩ１９１**（第151図）、**ＳＩ１９２**（第151図、ＰＬ．77・78）各々、ＳＩ180から計40点、ＳＩ181から計56点、ＳＩ183から計19点、ＳＩ184から計34点、ＳＩ185から計57点、ＳＩ187から計78点、ＳＩ188から計22点、ＳＩ189から計９点、ＳＩ190から計４点、ＳＩ191から計10点、ＳＩ192から計20点の器種構成比率に対応できる資料が出土している。



第152図　第ⅡＡ区ＳＩ出土紡錘車実測図

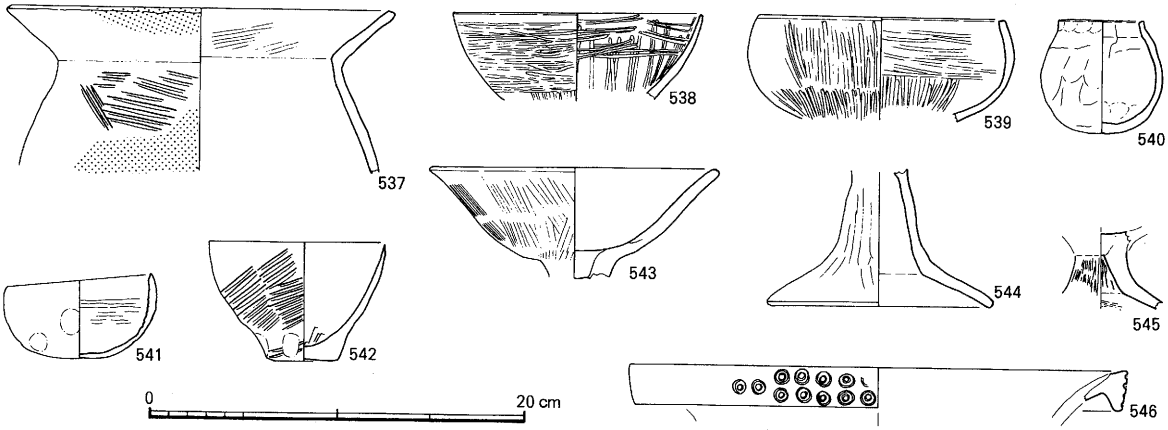
（２）掘立柱建物・柱穴（第153・175図、ＰＬ．79・147）

掘立柱建物の柱穴に伴う資料は、遺構群の中では最も少ないものとなり、集落の中での竪穴住居との関連で掘立柱建物そのものが少ないことにも起因する。資料は小破片が主体を占め、時期的には弥生時代後期よりも古墳時代前期の資料が多くなる。

掘立柱建物の柱穴に伴う資料としては、小破片の土器が大半を占める。その内、ＳＢ197からは、サヌカイト剥片、５世紀末から６世紀初頭の須恵器坏身などが、ＳＢ198からは、甕Ｇ類、脚台Ｂ類545、５世紀末から６世紀初頭の製塩土器・甕小破片などが出土している。

また、建物の並びを捉えることのできなかった柱穴から甕Ａ類537、高坏Ｂ類538・539、鉢Ａ類の小形品542、高坏Ｄ類543、脚台Ｆ類544、手捏ねの壺（製塩土器？）540、製塩土器Ⅰ類541などが出土している。

石器・石製品として、１箇所の柱穴の掘形から滑石製の有孔円板1053・1054が出土している。



第153図　第ⅡＡ区掘立柱建物・柱穴出土土器実測図

（３）土坑

土坑の資料も、特にまとまった遺構のものを省くと、量的にはさほど多くはない。

ＳＫ２０１（第154図）

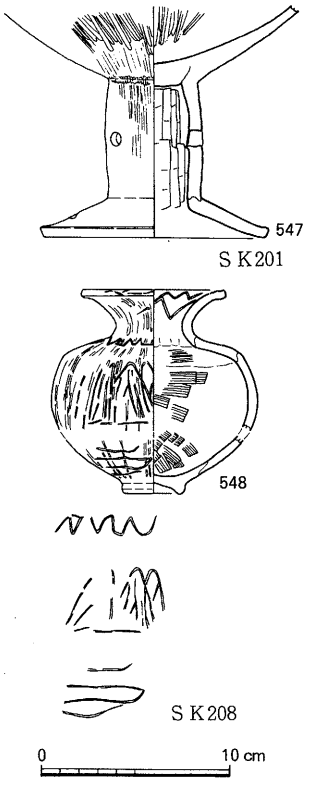
ＳＫ201からは、脚台Ｃ類547が出土したのみである。脚台Ｃ類547は、内面ヘラケズリの施された中空の柱状部から斜め外方に屈曲して裾部が取付く。裾端部は、面を持ち、丁寧な調整が施される。西田井遺跡出土の弥生時代後期の資料としては、第ⅡＡ区竪穴住居ＳＩ163出土の高坏Ａ類75と共に最も古い段階に位置付けられる高坏である。

ＳＫ２０５（第155・176図、ＰＬ．79・148）

ＳＫ205から出土した器種構成比率に対応できる資料は、計42点を数える。資料の内訳として、ハケ調整を主体とする広口壺Ａ類（１点）549、広口壺Ｂ類（４点）550、細頸壺（１点）551、甕Ａ類（２点）、甕Ｂ類（15点）、高坏Ａ類（６点）555・556、高坏Ｂ類（７点）557、鉢Ｂ類（５点）552・553、小形鉢554、脚台Ａ類（４点）などがある。

ＳＫ２０７（第155図、ＰＬ．79）

ＳＫ207からは、擬凹線・刺突文など加飾の豊かな広口壺Ａ類558・559、



第154図　ＳＫ201・208出土土器実測図

甕Ａ類560・561、甕Ｂ類、口縁部と坏部の長さ比率が１：１となる高坏Ａ類562・563などが出土している。全体の資料数は、５袋と少量である。

ＳＫ２０８（第154・156図、ＰＬ．79）

ＳＫ208から出土した器種構成比率に対応できる資料は、計37点を数える。小形壺548は、口縁部内面と外面頸部から体部にかけて篦状工具による浅いタッチの抽象的な記号文様が施される。広口壺Ａ類575、広口壺Ｃ類577・578、二重口縁壺580などがあるが、弥生時代後期後半段階の遺物が混在する。

ＳＫ２０９（第155図、ＰＬ．79）

ＳＫ209の全体の資料数は、４袋と少量である。中には、甕Ａ類564・565、脚台Ｂ類566、緻密な胎土に内外面共に丁寧なヘラミガキの施された脚台付鉢567がある。

ＳＫ２１３（第155図、ＰＬ．79・80）

ＳＫ213から出土した器種構成比率に対応できる資料は、計22点を数えるのみである。その中で、広口壺Ａ類568、広口壺Ｂ類569、脚台付短頸壺570、脚台付壺571、鉢Ａ類573・574などがある。

ＳＫ２３３（第156図）

ＳＫ233からは、粗いハケメの施された丸底甕、製塩土器の丸底Ⅱ類591～594、丸底Ⅱ類595などがまとまって出土している。全体の資料数は、２袋とごく少量である。

ＳＫ２３５（第156図、ＰＬ．80）

全体の資料数は、２袋とごく少量であるが、甕Ｂ類596・597、粗い作りの目立つ甕？598などがある。ＳＫ235からは須恵器が出土していない。土坑ＳＫ232・235・239の資料を含めて、和歌山市鳴神地区遺跡のＭ地区ＳＤ117に類例を求めることができる。

ＳＫ２３９（第156・174・176図、ＰＬ．80・148）

ＳＫ239の全体の資料数は、４袋と少量である。粗いハケ調整の土器が目立つ。資料の内訳は、鉢599、大形の高坏Ｄ類601、脚台Ｆ類602・603、５世紀末の須恵器甕などがある。石器・石製品として、砥石1070が出土している。

ＳＫ２４３（第157～163・174図、表13、ＰＬ．81～86）

ＳＫ243からは、最もまとまった量の土師器・須恵器が出土している。器種構成比率に対応できる資料として、土師器446点、須恵器161点、製塩土器648点、計1255点を数える。土師器・須恵器の個体は、上下層を越えてかなりの比率で接合したため、器種構成比率の算出に当り、層位を一括

土師器　73.5％　　須恵器　26.5％

器種	土師器 器形	比率		器種	須恵器 器形	比率	
壷	広口壷Ｂ	24 (5.4%)	38 (8.5%)	壷	広口壷	8 (5.0%)	12 (7.5%)
	二重口縁壷	10 (2.2%)			直口壷	2 (1.2%)	
	短頸壷	4 (0.9%)			短頸壷	2 (1.2%)	
甕	甕Ａ	42 (9.4%)	335 (75.1%)	甕	大形	1 (0.6%)	6 (3.7%)
	甕Ｂ	290 (65.0%)			小形	5 (3.1%)	
	甕Ｃ	3 (0.7%)		高坏	有蓋	2 (1.2%)	11 (6.8%)
高坏	高坏Ｂ	18 (4.0%)	42 (9.4%)		無蓋	9 (5.6%)	
	高坏Ｄ	24 (5.4%)		坏身		57 (35.4%)	57 (35.4%)
鉢	鉢Ｂ	4 (0.9%)	26 (5.9%)	蓋	坏蓋Ａ	67 (41.6%)	74 (46.0%)
	鉢Ｄ	22 (5.0%)			坏蓋Ｂ	7 (4.4%)	
甑		5 (1.1%)	5 (1.1%)	器台		1 (0.6%)	1 (0.6%)
合計		446 (100.0%)	446 (100.0%)	合計		161 (100.0%)	161 (100.0%)

口縁部破片点数　　土師器・須恵器

器形＼層	1層 他	2層 2・3層混	3層	4層	計
丸底Ⅰ類	80.8％	73.5％	69.7％	69.5％	71.2％
	6.3	12.38	48.21	4.92	71.81
丸底Ⅱ類	18.2％	22.3％	25.5％	29.4％	24.7％
	1.42	3.75	17.63	2.08	24.88
丸底Ⅲ類	1.0％	4.2％	4.8％	1.1％	4.1％
	0.08	0.7	3.29	0.08	4.15
計	100.0％	100.0％	100.0％	100.0％	100.0％
	7.8	16.83	69.13	7.08	100.84

口縁部計測法による個体数　　製塩土器

表13　ＳＫ243出土土器器種構成比率

して行った。土師器には、球形の体部の甕605～616、小形の長胴の甕617、長胴の甕618～624、堝625・626、甑627～629、把手に刺突のある韓式系土器の甑630、外面に細かいタタキ調整の施された甕632・633がある。タタキの認められる高坏Ｂ類635・636、脚台Ｆ類639、高坏Ｄ類640・641は、韓式系土器の範疇に含めて考える。また、須恵器の製作技法を模倣したと見られる椀644、壺645などもある。

製塩土器は、層位によって形態の違いを見つけることができないかと考え、層位と形態別に分類して数量化に努めた。製塩土器648点の口縁部計測法による個体数は、計100.84個体を数える。その内、丸底Ⅰ類650～692、丸底Ⅱ類693～712、丸底Ⅲ類713～720がある。

須恵器には、坏身735～750、坏蓋Ａ721～734、坏蓋Ｂ（摘付）751～755、有蓋高坏756～758、無蓋高坏762～765、広口壺・直口壺・短頸壺・甕などがあり、各々の型式的特徴から若干の時期差を見出すことが可能である。概ね、陶邑編年のＴＫ208・ＯＮ46・ＴＫ23・ＴＫ47・ＭＴ15型式に属するものである。ＴＫ23型式に属するものが最も多くみられるが、坏身750は、第１層出土でＴＫ10ないしＴＫ43型式に属するものとみられる。

ＳＫ５０２（第164・174図、ＰＬ．86）

ＳＫ502は、第ⅡＢ１区の土坑である。ＳＫ502では器種構成比率を算出していないが、まとまった量の土師器・須恵器が出土している。中には、弥生時代後期の資料の混在も認められるが、出土資料の主体が須恵器である。土師器には、甕Ａ類777、甕Ｂ類778・779、高坏Ｄ類780～782などがある。須恵器には、坏身783・784、坏蓋Ａ785、有蓋高坏786、広口壺788～791、𤭯792、甕793などがあり、各々の型式的特徴から時期差が存在する。概ね、陶邑編年のＴＫ73・ＴＫ216・ＴＫ208・ＴＫ23・ＭＴ15型式に属するものが混在して出土している。

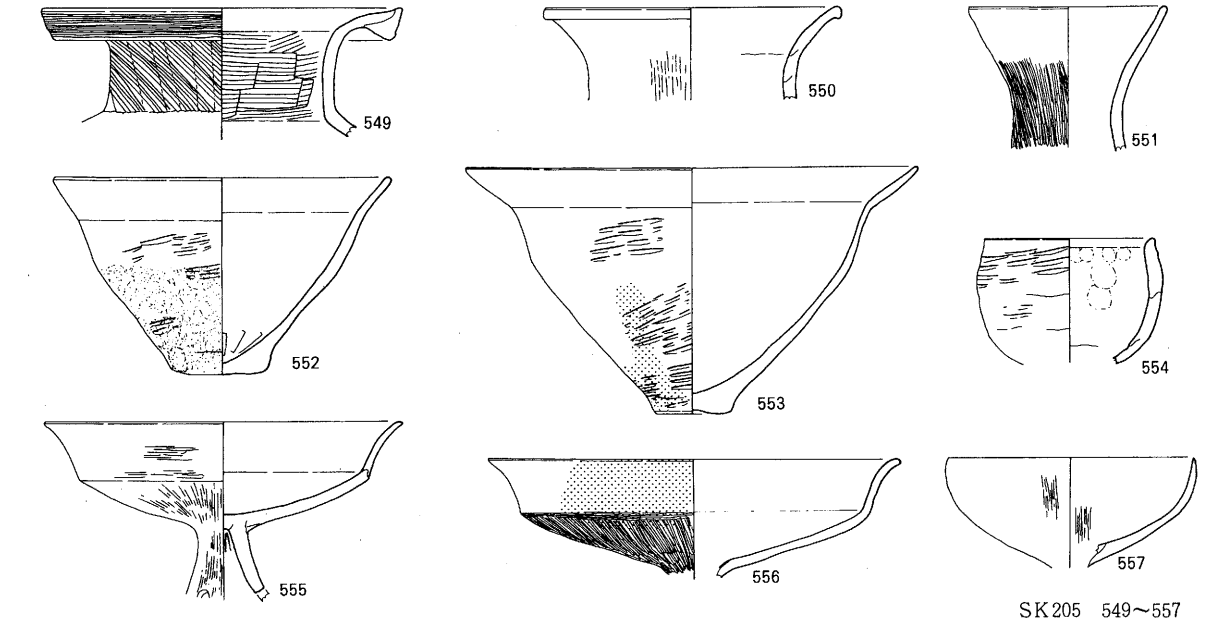
（４）方形周溝墓

ＳＸ２５１（第165・166・176・178図、表14、ＰＬ．87・88・148・150）

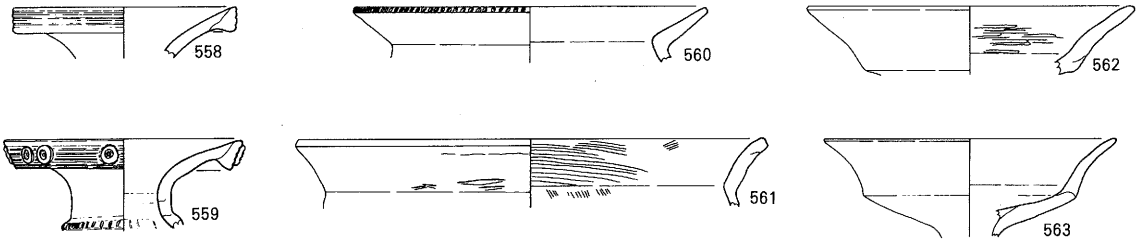
ＳＸ251から出土した器種構成比率に対応できる資料は、周溝内から出土したもので計218点を数える。主体部と見られる土坑からの遺物はない。資料の内訳として、広口壺Ａ類803・804、広口壺Ｃ類808・808、二重口縁壺805～807、外面に細かいピッチのヘラケズリの施された小形の短頸壺810、短頸壺811～813、底部がほとんど消失しかけている甕Ｂ類815～818、地元の胎土で作られた甕Ｇ類819～826、鉢Ｄ類827（口縁部の立上りの違いから短頸壺810と区別した）・828、高坏Ｄ類829～831、高坏Ｅ類832、高坏Ｆ類833～835、脚台Ｆ類836・837、小形の鉢に伴うと見られる脚台840～842などがある。ＳＸ251出土資料は、第ⅡＡ区竪穴住居ＳＩ174上層の出土資料に類似する様相をもつものである。

器種	器形	比率		器種	器形	比率	
壺	広口壺Ａ	15 (19.2%)	78 (35.8%)	高坏	高坏Ａ	11 (29.7%)	37 (17.0%)
	広口壺Ｂ	23 (29.5%)			高坏Ｂ	4 (10.8%)	
	広口壺Ｃ	3 (3.8%)			高坏Ｃ		
	二重口縁壺	21 (26.9%)			高坏Ｄ	14 (37.8%)	
	長頸壺				高坏Ｅ	2 (5.4%)	
	広口長頸壺				高坏Ｆ	6 (16.2%)	
	細頸壺			鉢	鉢Ａ	4 (36.4%)	11 (5.0%)
	短頸壺	16 (20.5%)			鉢Ｂ	4 (36.4%)	
	太頸壺				鉢Ｃ		
	無頸壺				鉢Ｄ	3 (27.3%)	
	脚台付壺			器台	器台Ａ		
甕	甕Ａ	10 (10.9%)	92 (42.2%)		器台Ｂ		
	甕Ｂ	45 (48.9%)			器台Ｃ		
	甕Ｃ			手焙形土器			
	甕Ｄ	2 (2.2%)		蓋	蓋Ａ		
	甕Ｅ				蓋Ｂ		
	甕Ｆ	9 (9.8%)		甑			
	甕Ｇ	26 (28.3%)		合計			218 (100.0%)

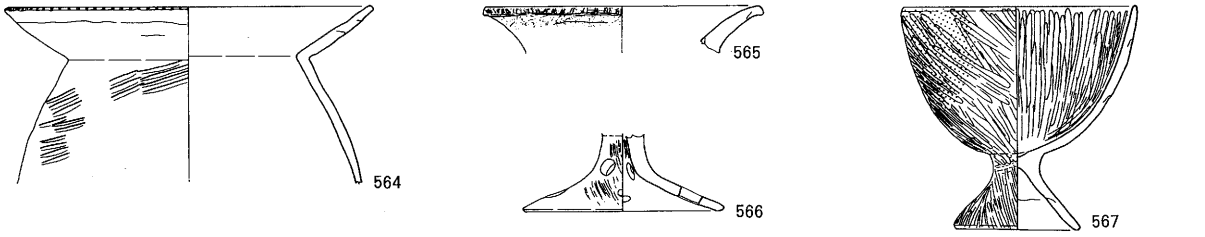
表14　ＳＸ251出土土器器種構成比率



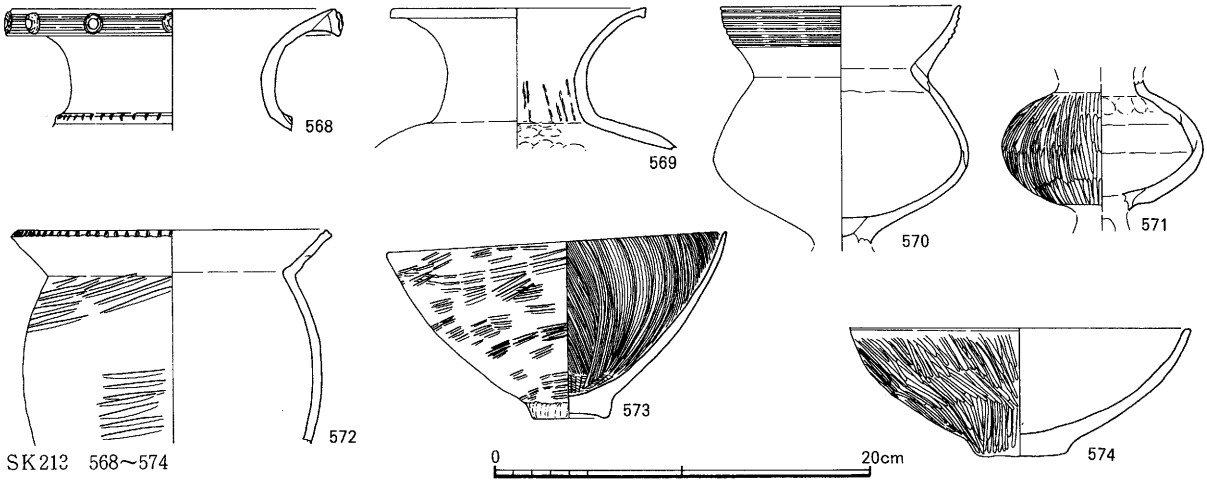
SK205　549～557



SK207　558～563

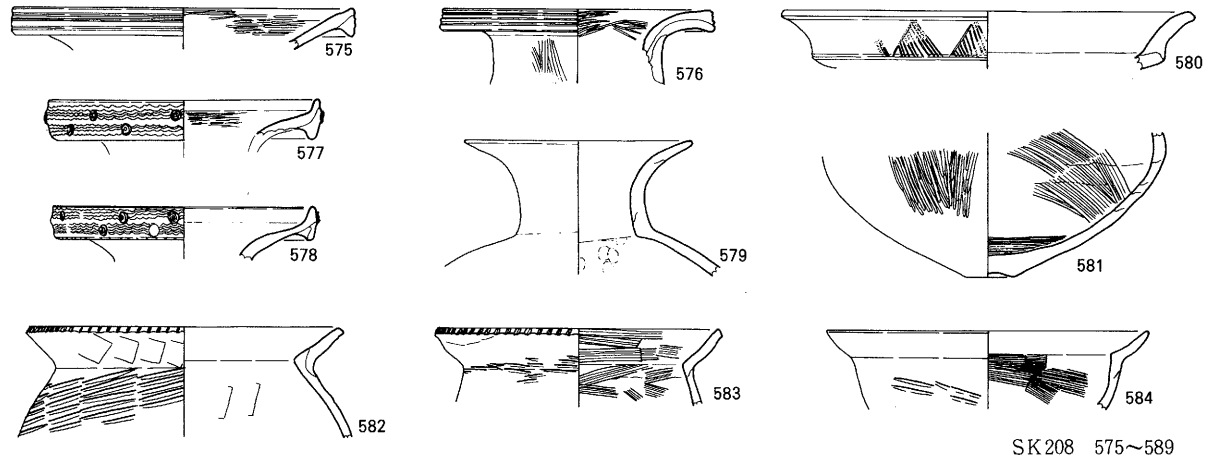


SK209　564～567

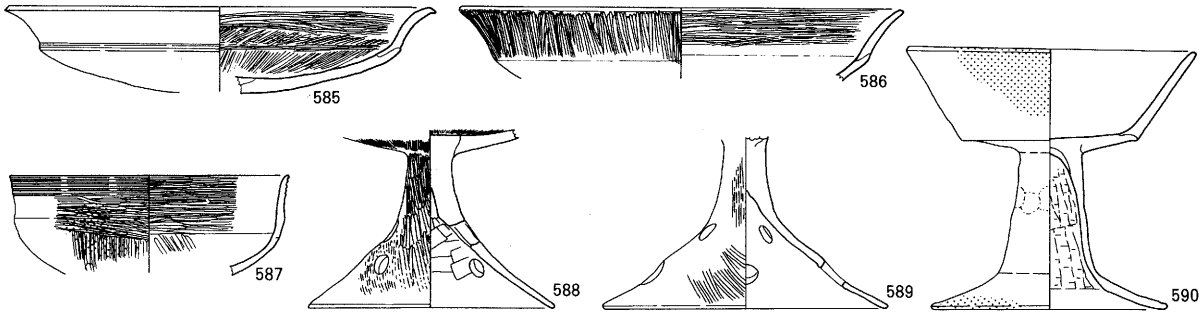


SK213　568～574

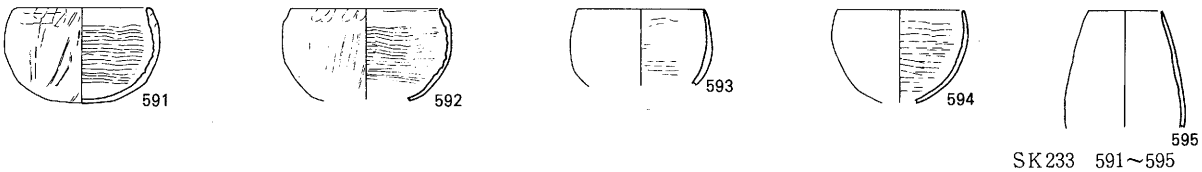
第155図　ＳＫ205・207・209・213出土土器実測図



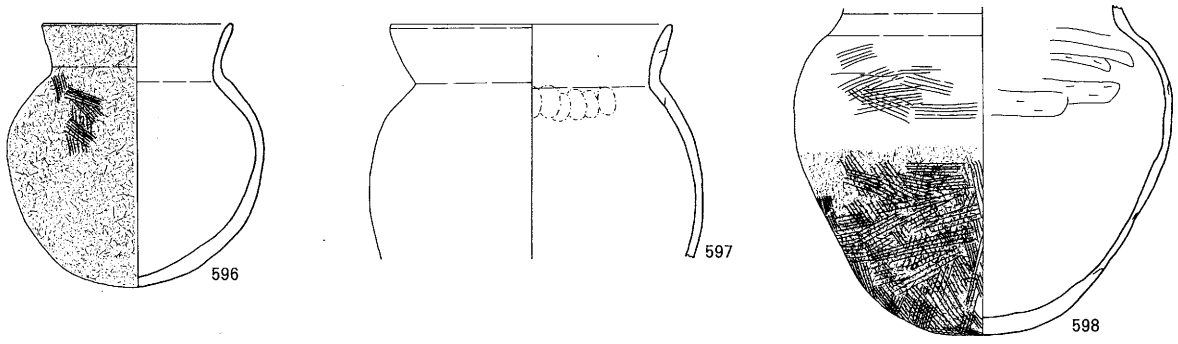
SK208　575～589



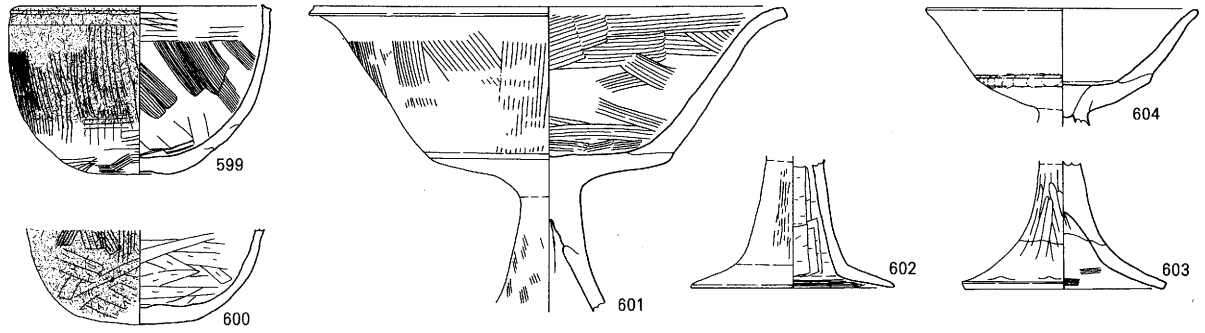
SK232　590



SK233　591～595



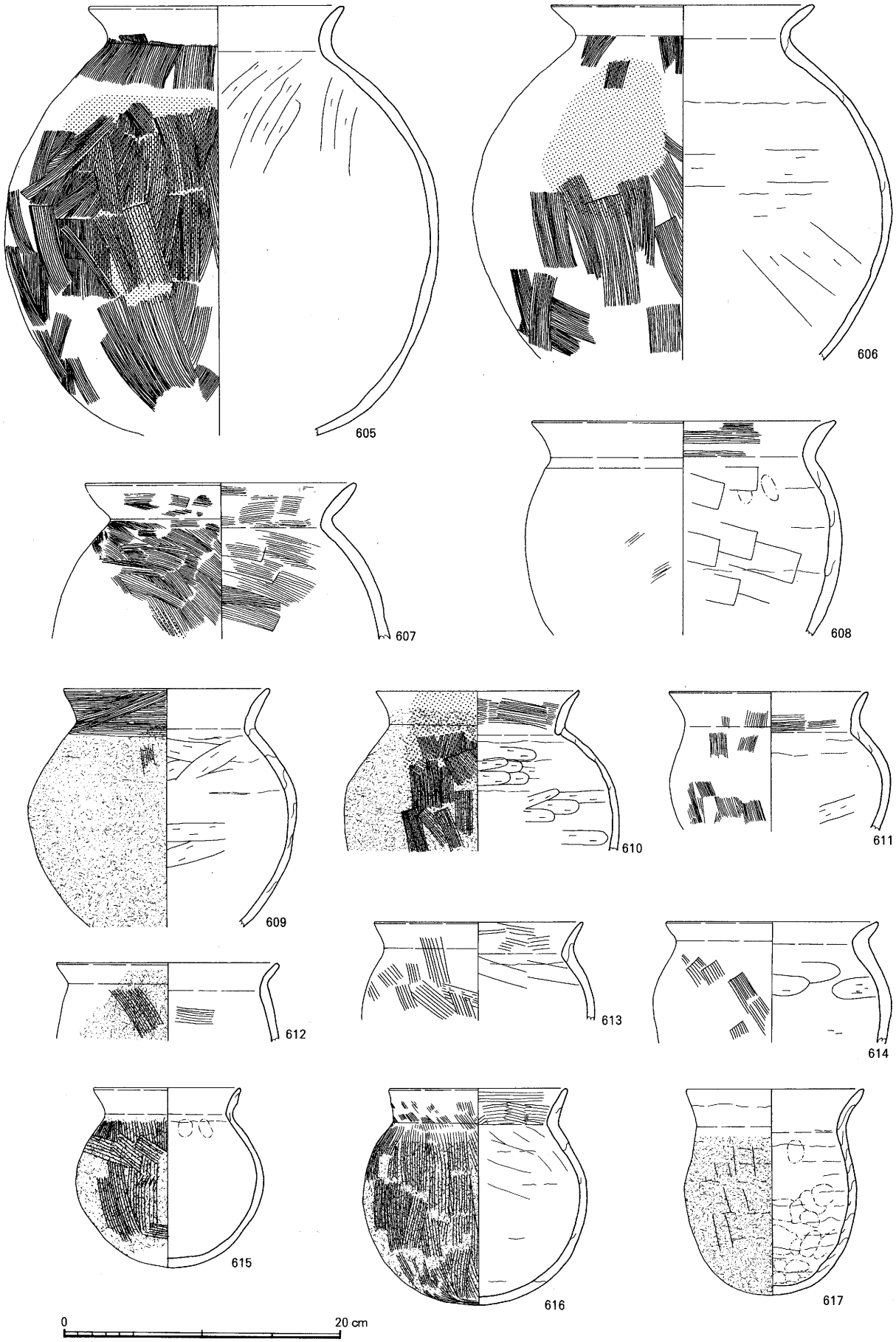
SK235　596～598



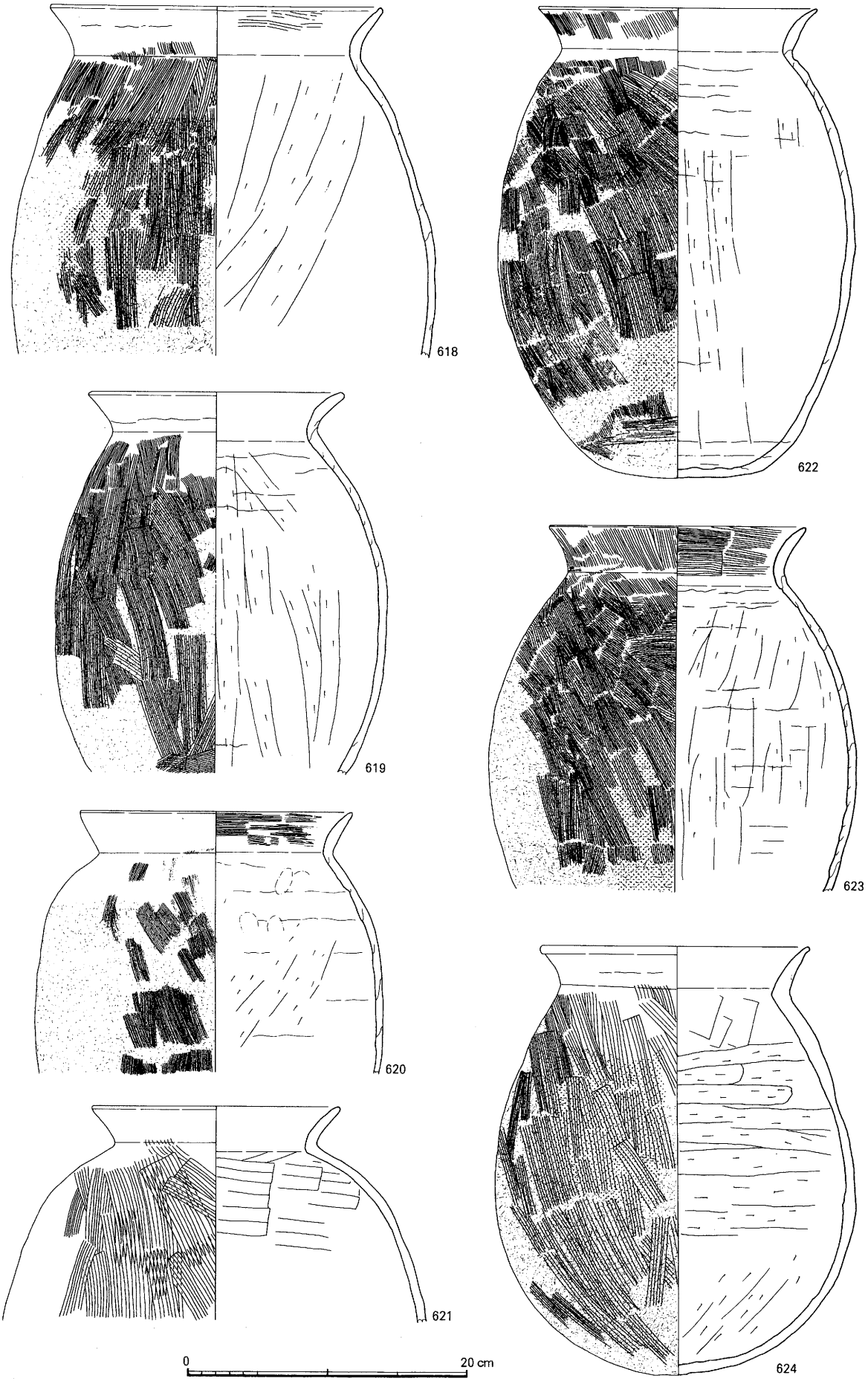
SK239　599～603、SK242　604

0　20 cm

第156図　ＳＫ208・232・233・235・239・242出土土器実測図



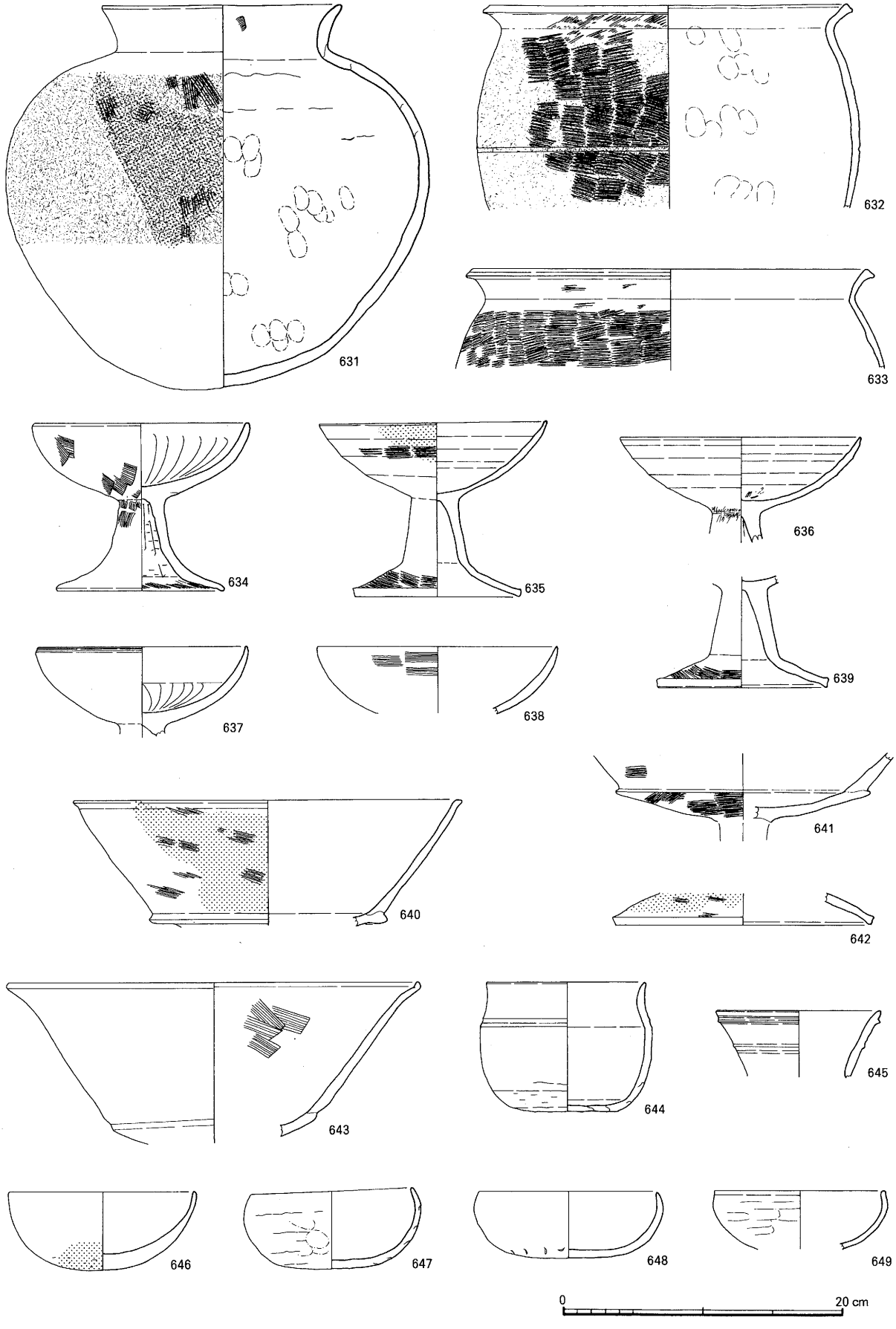
第157図　ＳＫ243出土土器実測図



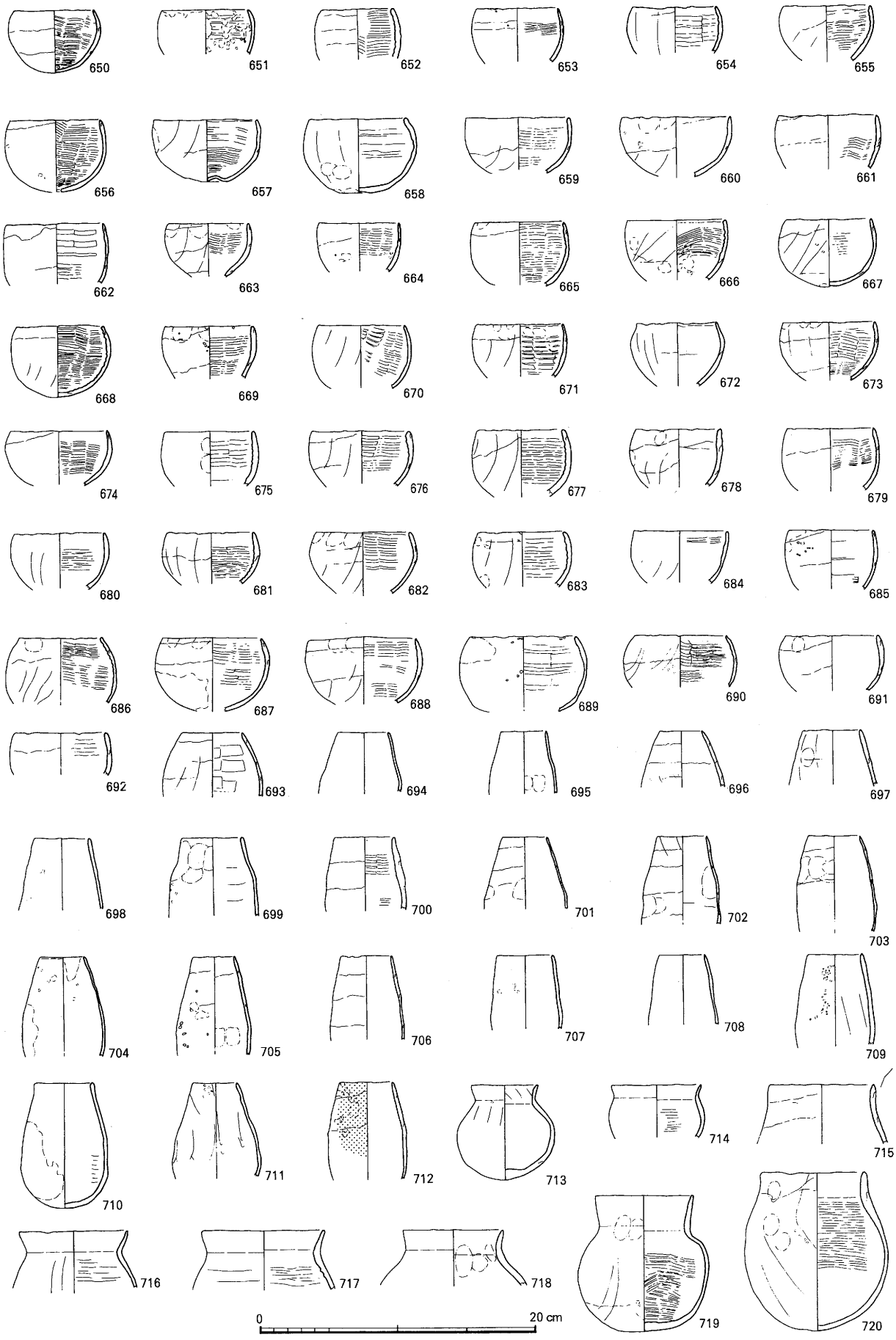
第158図　ＳＫ243出土土器実測図



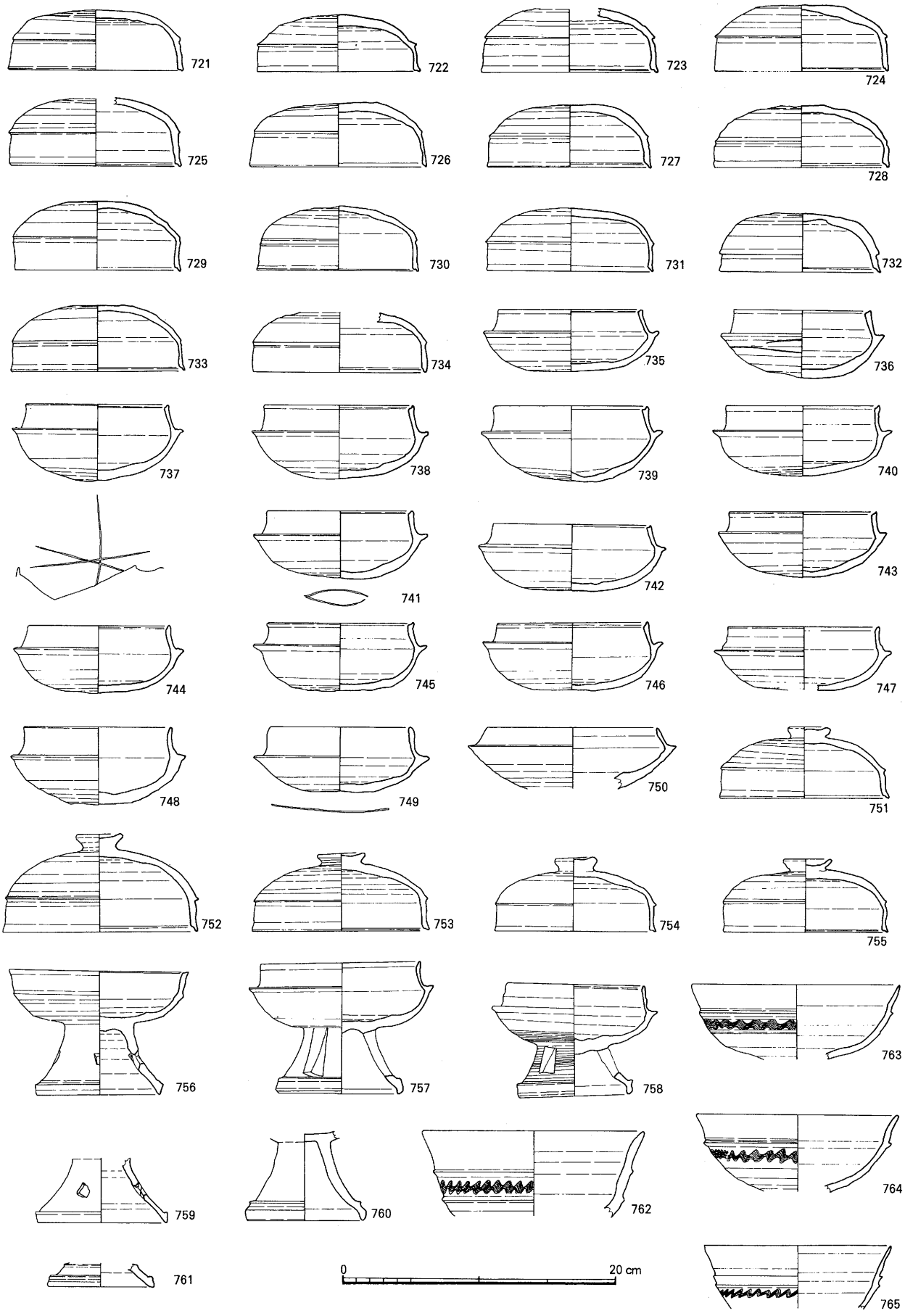
第159図　ＳＫ243出土土器実測図



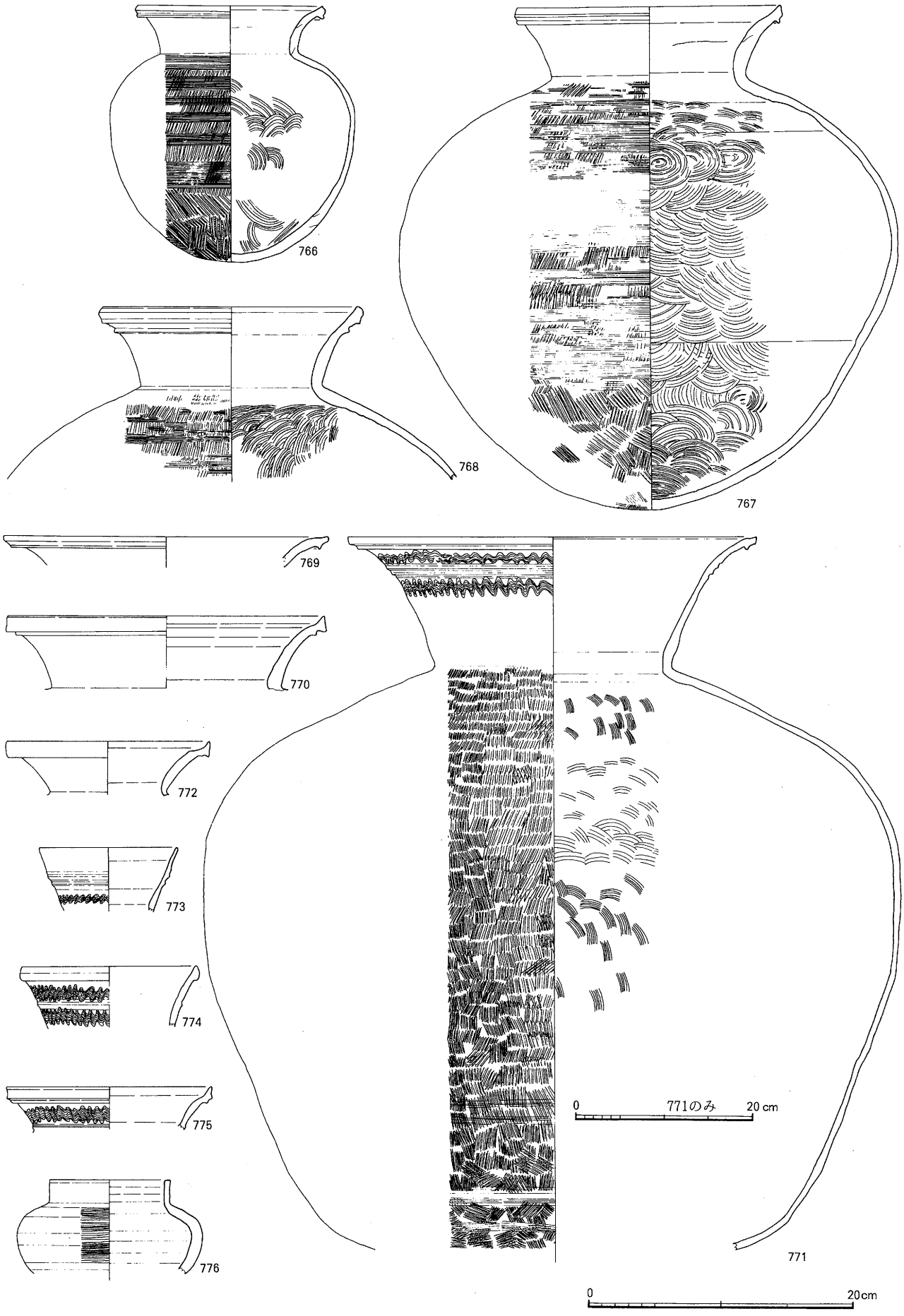
第160図　ＳＫ243出土土器実測図



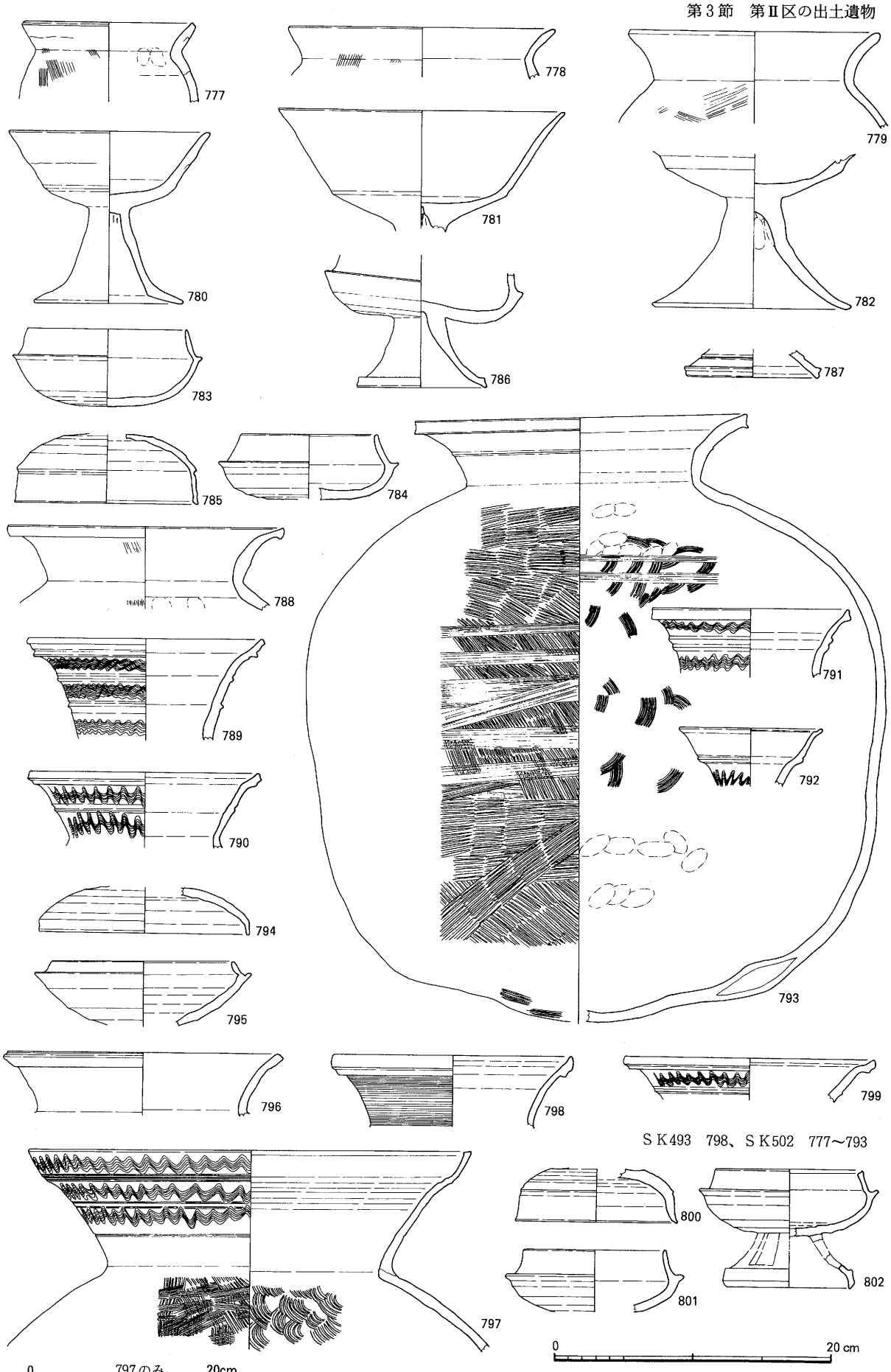
第161図　ＳＫ243出土土器実測図



第162図　ＳＫ243出土土器実測図



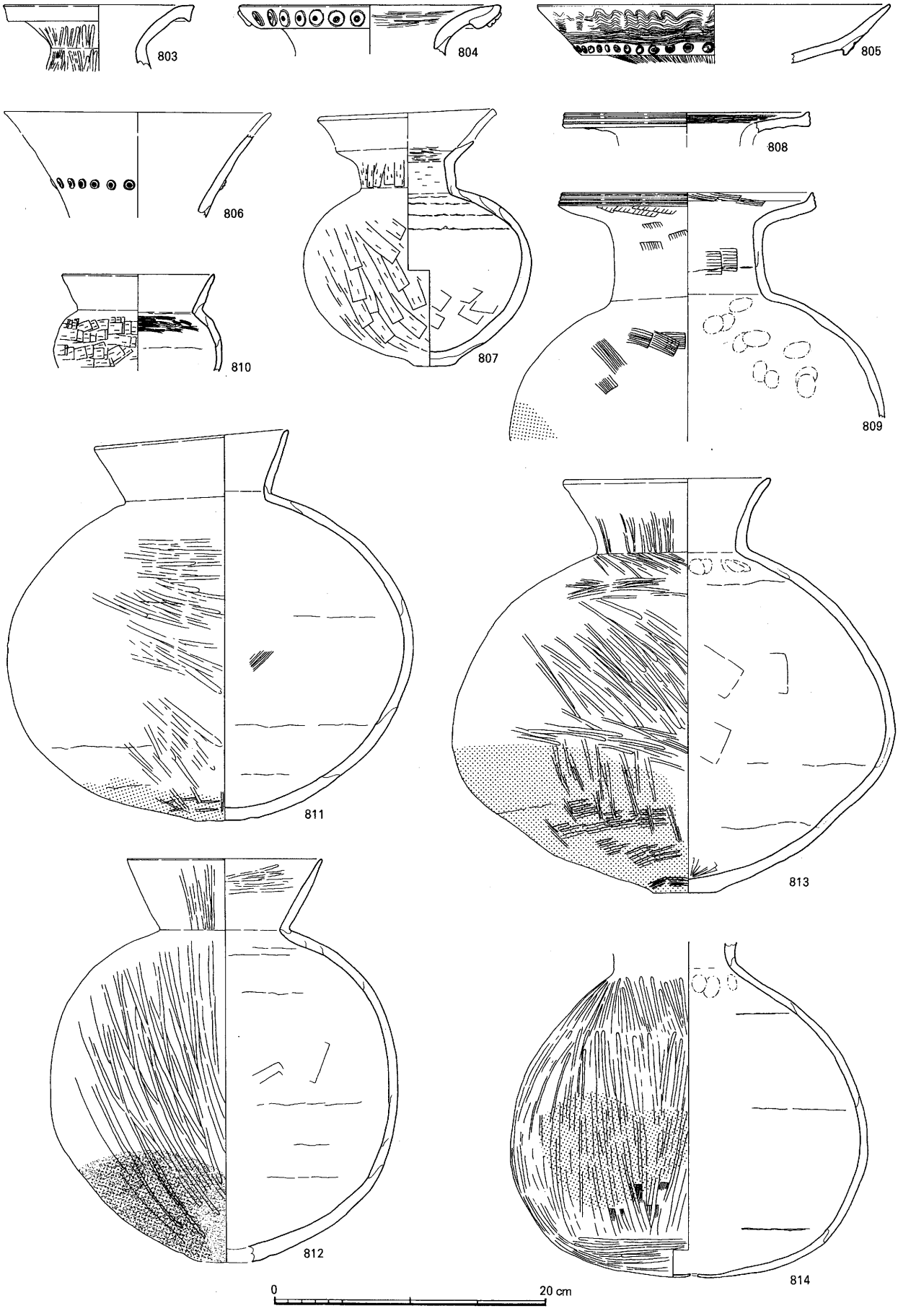
第163図　ＳＫ243出土土器実測図



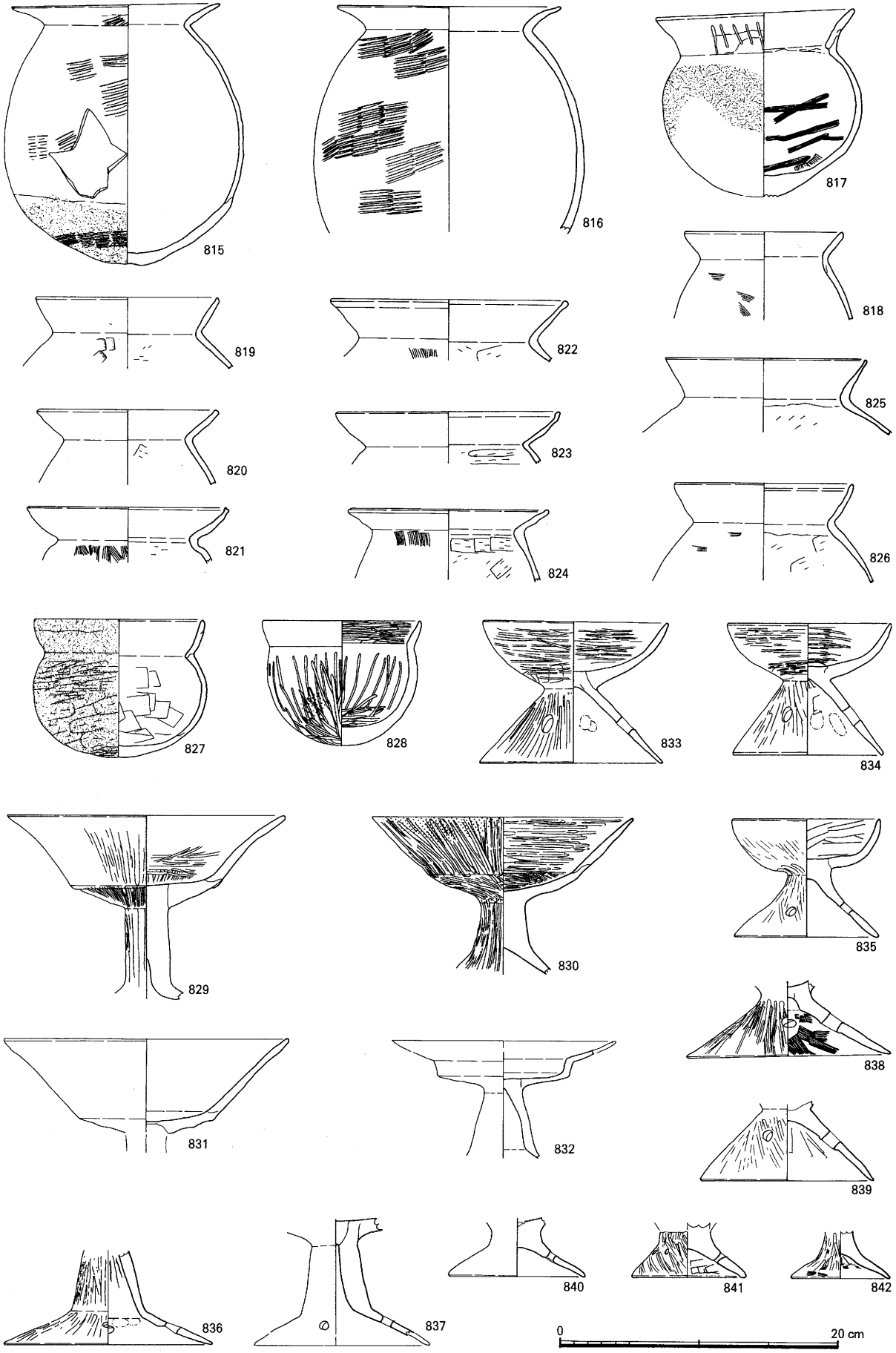
ＳＫ493　798、ＳＫ502　777～793

ＳＫ504　794～797、ＳＫ509　800・801、ＳＫ513　802、ＳＫ516　799

第164図　ＳＫ493・502・504・509・513・516出土土器実測図



第165図　ＳＸ251出土土器実測図



第166図　ＳＸ251出土土器実測図

その他、脚台Ａ類７点、Ｂ類11点、Ｅ類１点、Ｆ類８点、Ｆ’類３点、Ｇ類12点が出土している。

石器・石製品として、砥石1072、鉄製品として、鉇1102・1103がある。

（５）溝

第ⅡＡ区の溝資料の大半は、ＳＤ256などから出土した弥生時代後期の土器である。

ＳＤ２５６（第167・168・178図、表15、ＰＬ．89・90・149）

ＳＤ256は、第ＩＡ区ＳＤ12からの延長部分である。ＳＤ256から出土した器種構成比率に対応できる資料は、埋土一括で計209点を数える。資料の内訳は、広口壺Ａ類843、広口壺Ｂ類844、短頸壺に含めた異形の845、二重口縁壺846～848、細頸壺849、脚台付壺850、甕Ａ類851～855、甕Ｂ類856～861、二重口縁の甕862、鉢Ａ類866～868、鉢Ｂ類869～872、高坏Ａ類873～878、高坏Ｂ類879・880、高坏Ｄ類881、甑884～886、円形の貼付浮文＋竹管文の施された器台Ａ類887などがある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が有17点・無７点、甕Ｂ類が有２点・無46点となる。その他、脚台Ａ類46点、脚台Ｂ類１点が出土している。

石器・石製品として、磨石1087がある。

器種	器形	比率		器種	器形	比率	
壺	広口壺Ａ	5 (12.2%)	41 (19.6%)	高坏	高坏Ａ	51 (82.3%)	62 (29.7%)
	広口壺Ｂ	22 (53.7%)			高坏Ｂ	11 (17.7%)	
	広口壺Ｃ				高坏Ｃ		
	二重口縁壺	5 (12.2%)			高坏Ｄ		
	長頸壺				高坏Ｅ		
	広口長頸壺				高坏Ｆ		
	細頸壺	3 (7.3%)		鉢	鉢Ａ	11 (50.0%)	22 (10.5%)
	短頸壺	5 (12.2%)			鉢Ｂ	11 (50.0%)	
	太頸壺				鉢Ｃ		
	無頸壺				鉢Ｄ		
	脚台付壺	1 (2.4%)		器台	器台Ａ	1 (50.0%)	2 (1.0%)
甕	甕Ａ	24 (30.8%)	78 (37.3%)		器台Ｂ	1 (50.0%)	
	甕Ｂ	48 (61.5%)			器台Ｃ		
	甕Ｃ			手焙形土器			
	甕Ｄ	5 (6.4%)		蓋	蓋Ａ		
	甕Ｅ	1 (1.3%)			蓋Ｂ		
	甕Ｆ			甑		4 (100.0%)	4 (1.9%)
	甕Ｇ			合計			209 (100.0%)

表15　ＳＤ256出土土器器種構成比率

ＳＤ２５７（第169図、ＰＬ．90）

ＳＤ257からは、頸部に低い粘土帯を貼付け、刻み目を施した広口壺Ａ類888・889、広口壺Ｂ類890・891、甕Ａ類893、甕Ｂ類892、高坏Ｂ類896・897、摩滅しているもののタタキの後の粗い調整の目立つ鉢Ｃ類895などがある。全体の資料数は、８袋と少量である。

ＳＤ２６４（第169図）

ＳＤ264からは、広口壺Ａ類898、高坏、甕Ｄ類899などがある。全体の資料数は、４袋と少量である。

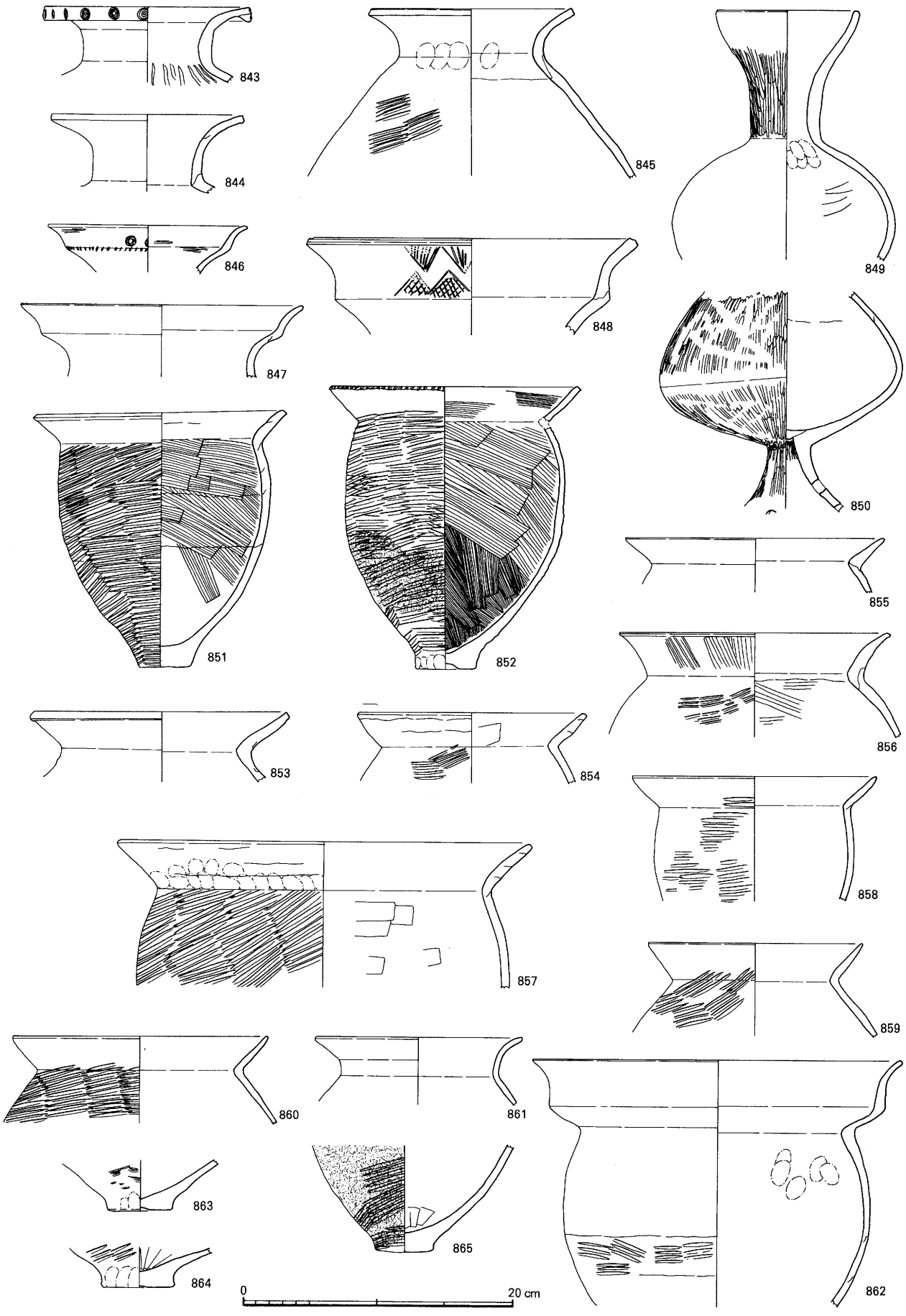
ＳＤ２６８（第169図、ＰＬ．90）

ＳＤ268から出土した器種構成比率に対応できる資料は、埋土一括で計32点を数える。資料の内訳は、広口壺Ａ類（１点）、広口壺Ｂ類（３点）、二重口縁壺（１点）、短頸壺（１点）、甕Ａ類（３点）900、甕Ｂ類(13点)、甕Ｆ類（１点）、甕Ｇ類（１点）、高坏Ａ類（２点）、高坏Ｂ類（３点）901・902、鉢Ｂ類（２点）、器台Ｂ類（１点）がある。その他、脚台Ｅ類（２点）903・904がある。

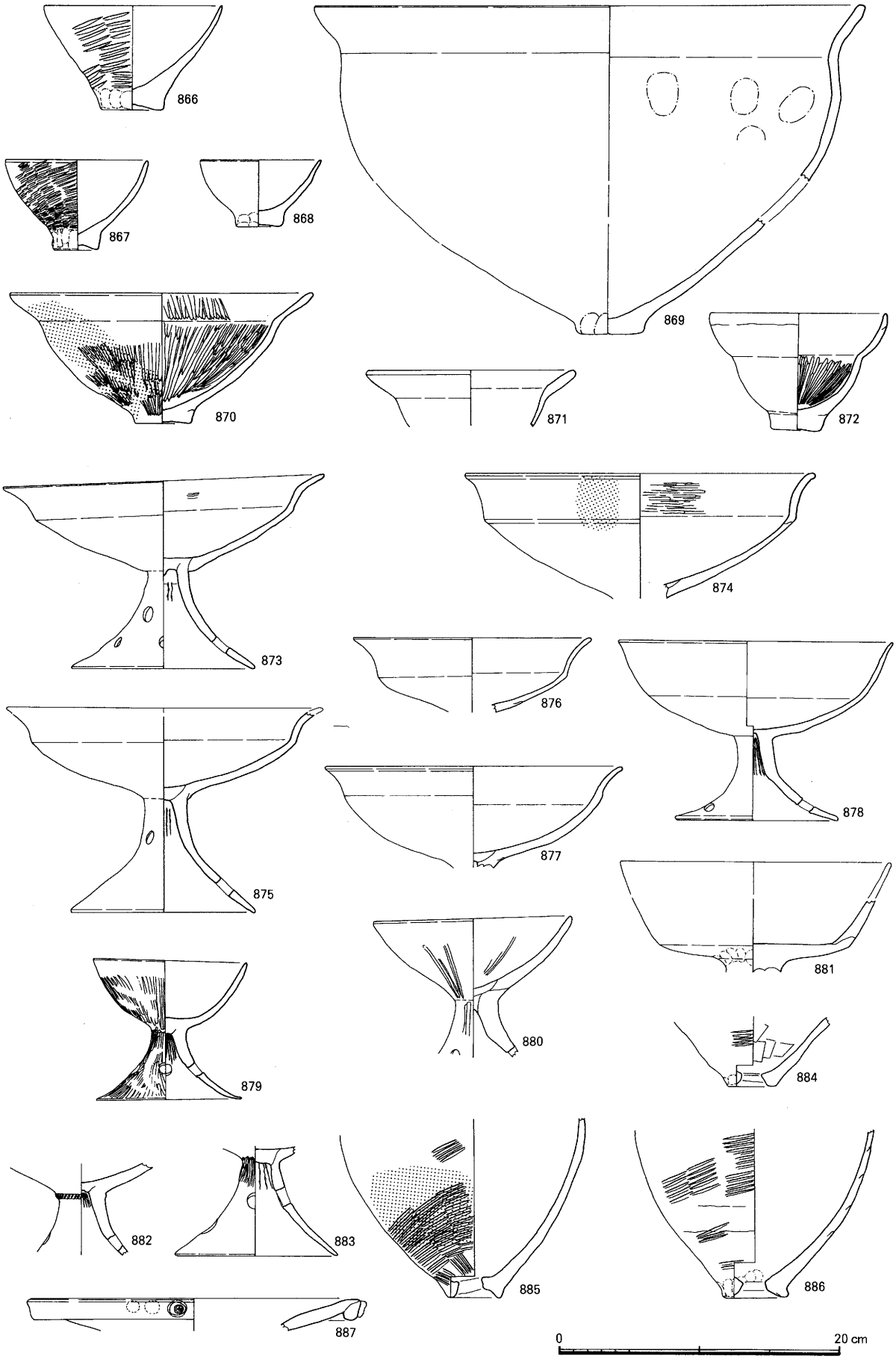
ＳＤ２７６（第169図）

ＳＤ276からは、須恵器を伴う時期の遺物に弥生時代後期・古墳時代前期の土器が混在してある。図示できるものは少ないが、手捏ねの壺905、須恵器甕906・壺907などがある。

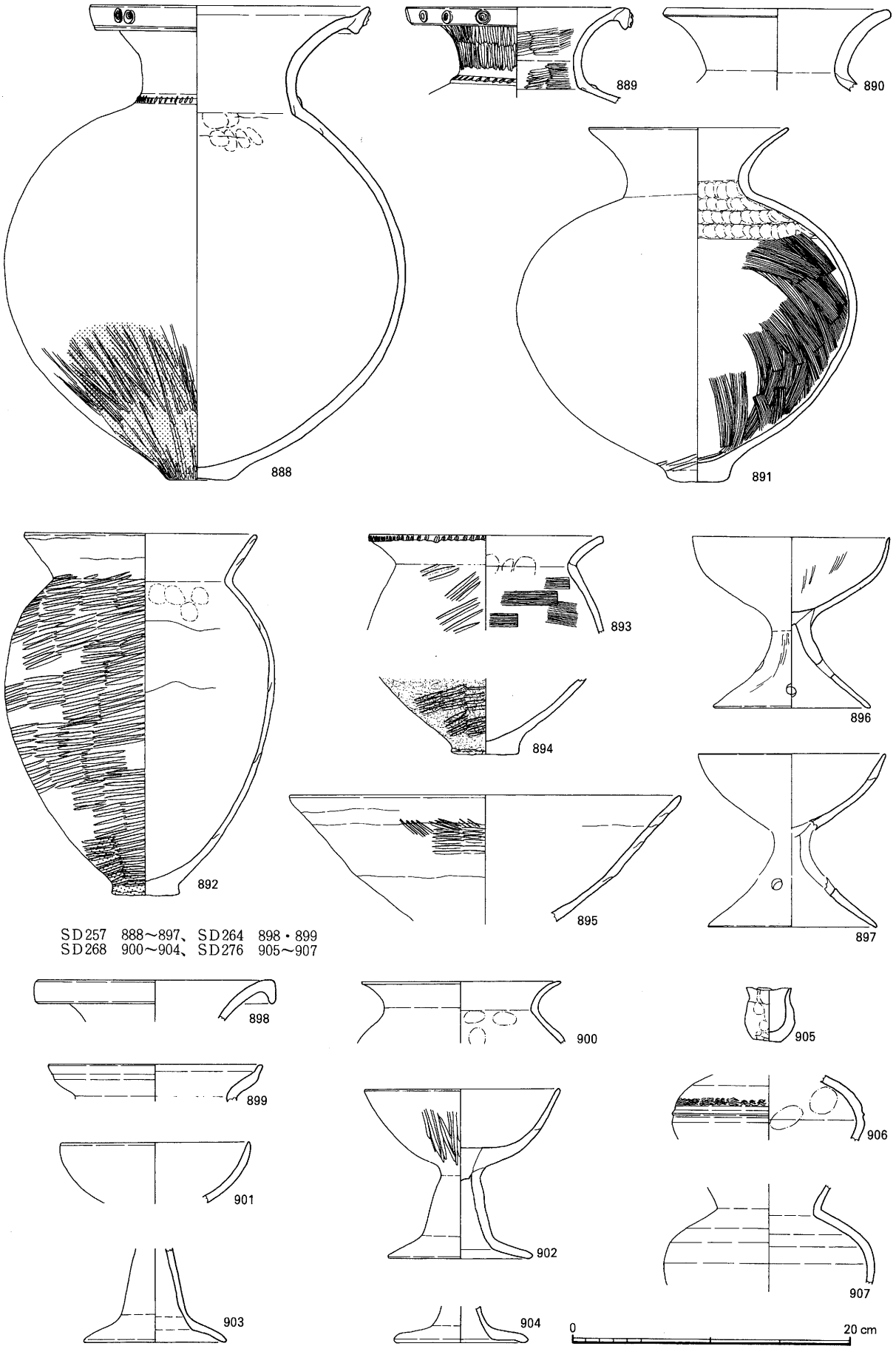
その他、第ⅡＢ区の溝資料として、須恵器を伴う時期の**ＳＤ５２５**（第170図）、**ＳＤ５２８**（第170図、



第167図　ＳＤ256出土土器実測図

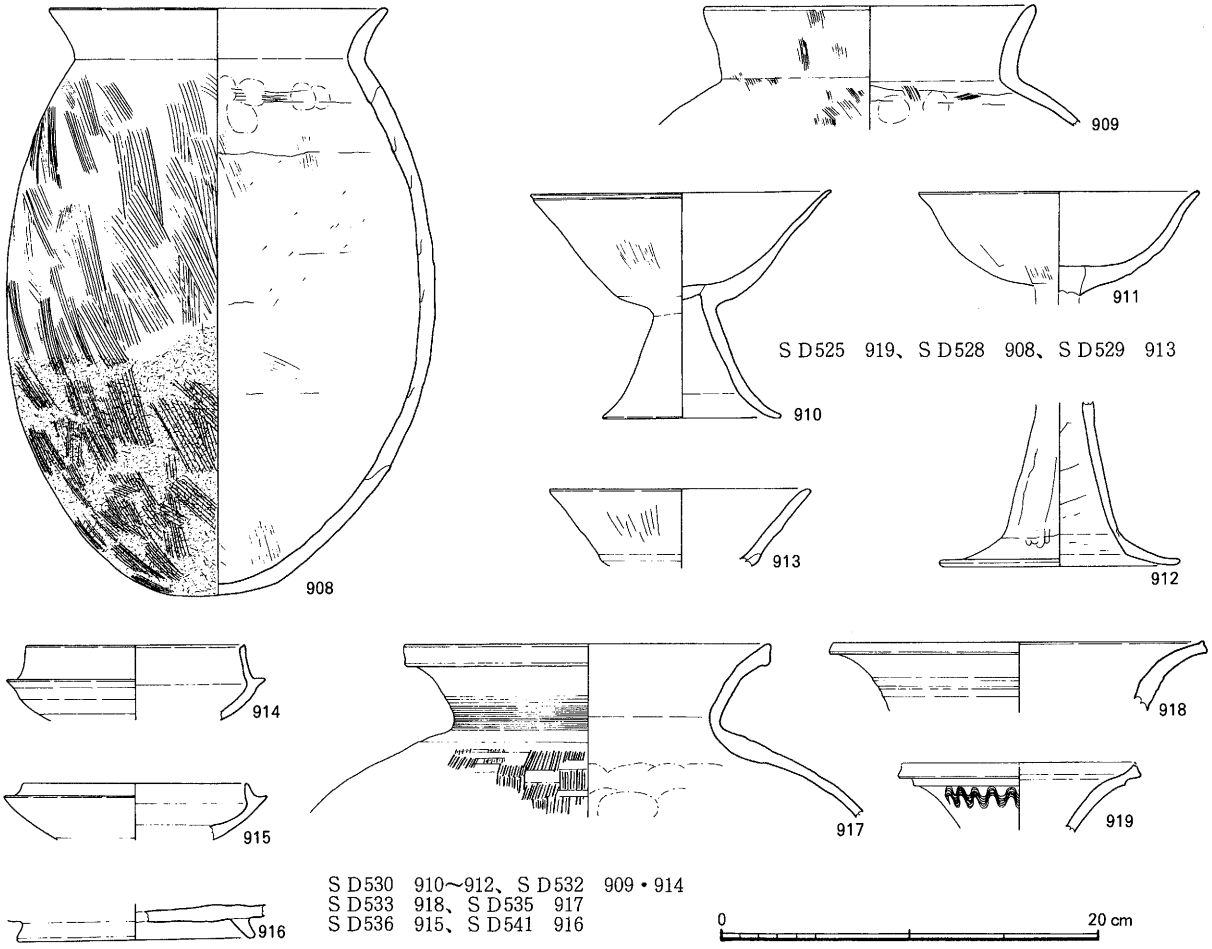


第168図　ＳＤ256出土土器実測図



第169図　ＳＤ257・264・268・276出土土器実測図

ＰＬ．91)、**ＳＤ５２９**（第170図)、**ＳＤ５３０**（第170図、ＰＬ．91)、**ＳＤ５３２**（第170図、ＰＬ．91)、**ＳＤ５３３**（第170図)、**ＳＤ５３５**（第170図)、**ＳＤ５３６**（第170図)、**ＳＤ５４１**（第170図）などがある。



第170図　ＳＤ525・528・529・530・532・533・535・536・541出土土器実測図

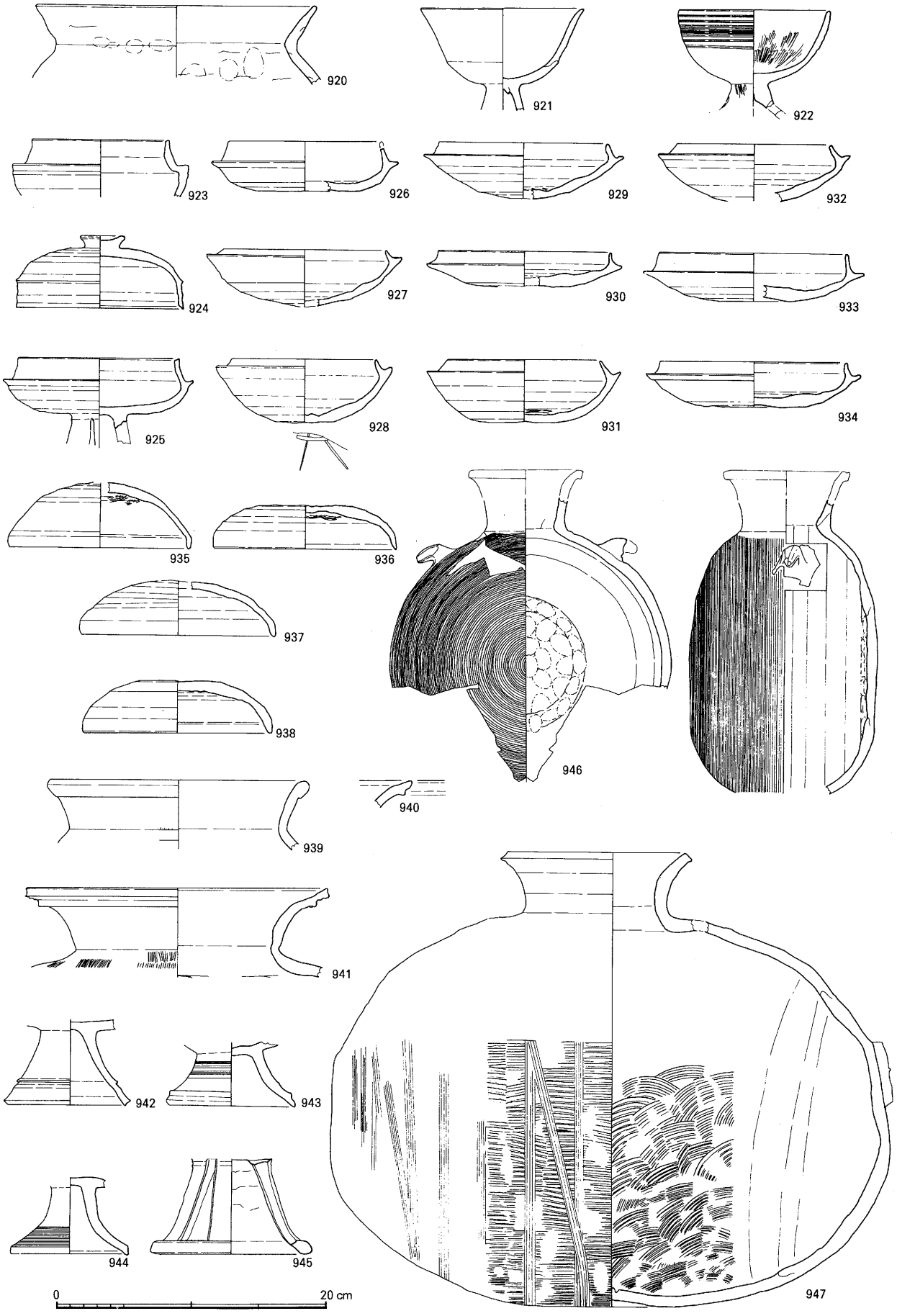
（６）自然河道

ＳＲ５４６（第171・174・175図、ＰＬ．91・147）

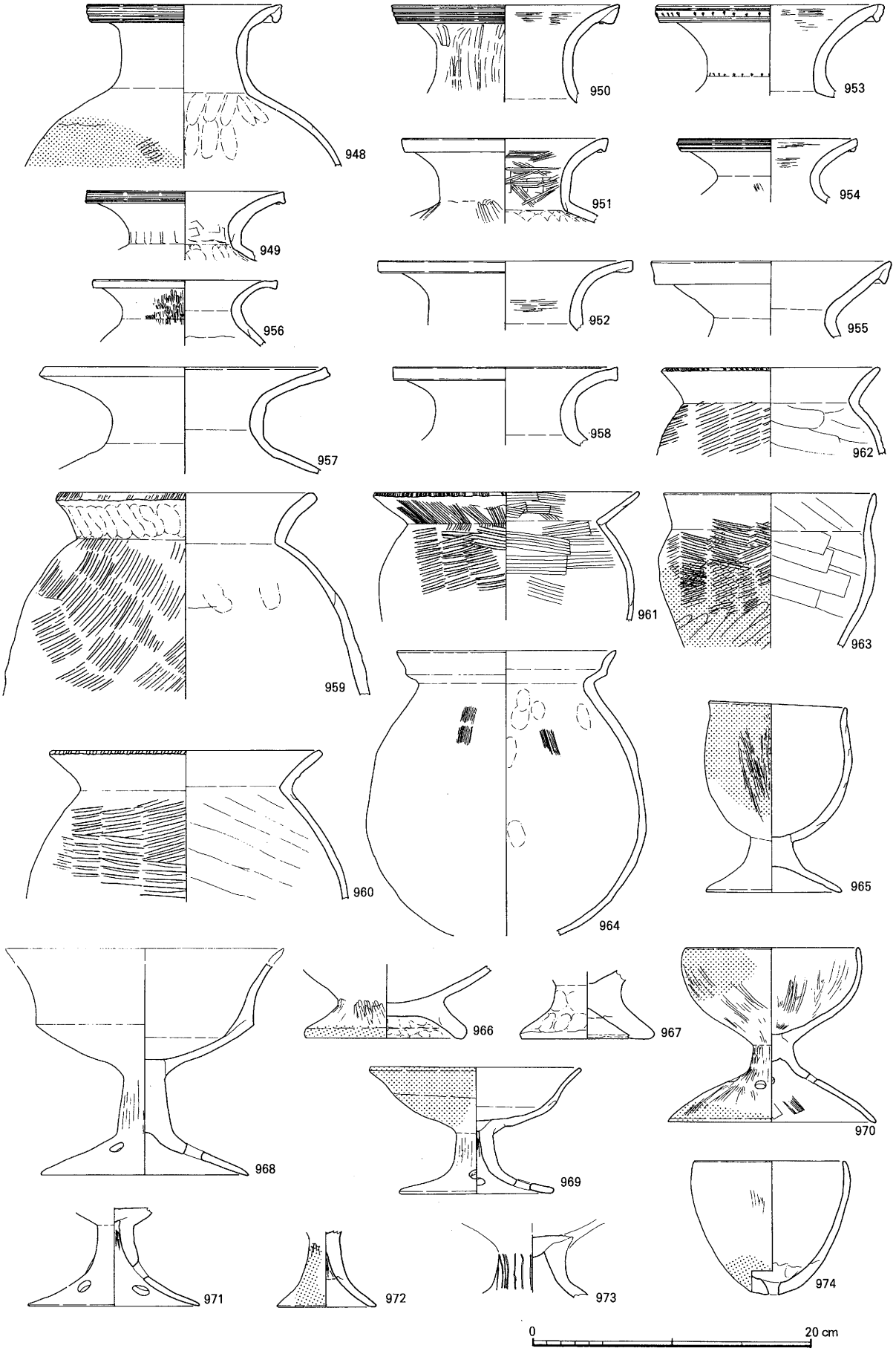
ＳＲ546からは、須恵器を伴った時期の遺物がまとまって出土している。弥生時代後期の資料の混在も認められるが、出土資料の主体が須恵器である。ＳＲ546では時期差が存在し過ぎるため、器種構成比率を算出していない。土師器・須恵器の個体は、上下層を越えてかなりの比率で接合関係が認められ、資料的には砕片化したものである。

弥生土器・土師器には、甕Ｂ類920、擬凹線の施された高坏Ｂ類922、高坏Ｄ類921がある。須恵器には、非常に緻密な胎土で瓦質に近い坏身923、坏身926～934、坏蓋Ａ935～938、坏蓋Ｂ（摘付）924、有蓋高坏925、広口壺939、甕940・941、提瓶946、横瓶947などがある。各々の型式的特徴からかなりの時期差が存在する。概ね、陶邑編年のＴＫ73・ＴＫ216・ＴＫ208・ＴＫ23・ＭＴ15・ＴＫ10・ＭＴ85・ＴＫ209型式に属するものが混在して出土している。中でも、ＭＴ85型式に属するものが最も多くみられる。下層資料ほど古い傾向にはあるが、新しい型式の須恵器が混在することから一概にそうとも言えない。

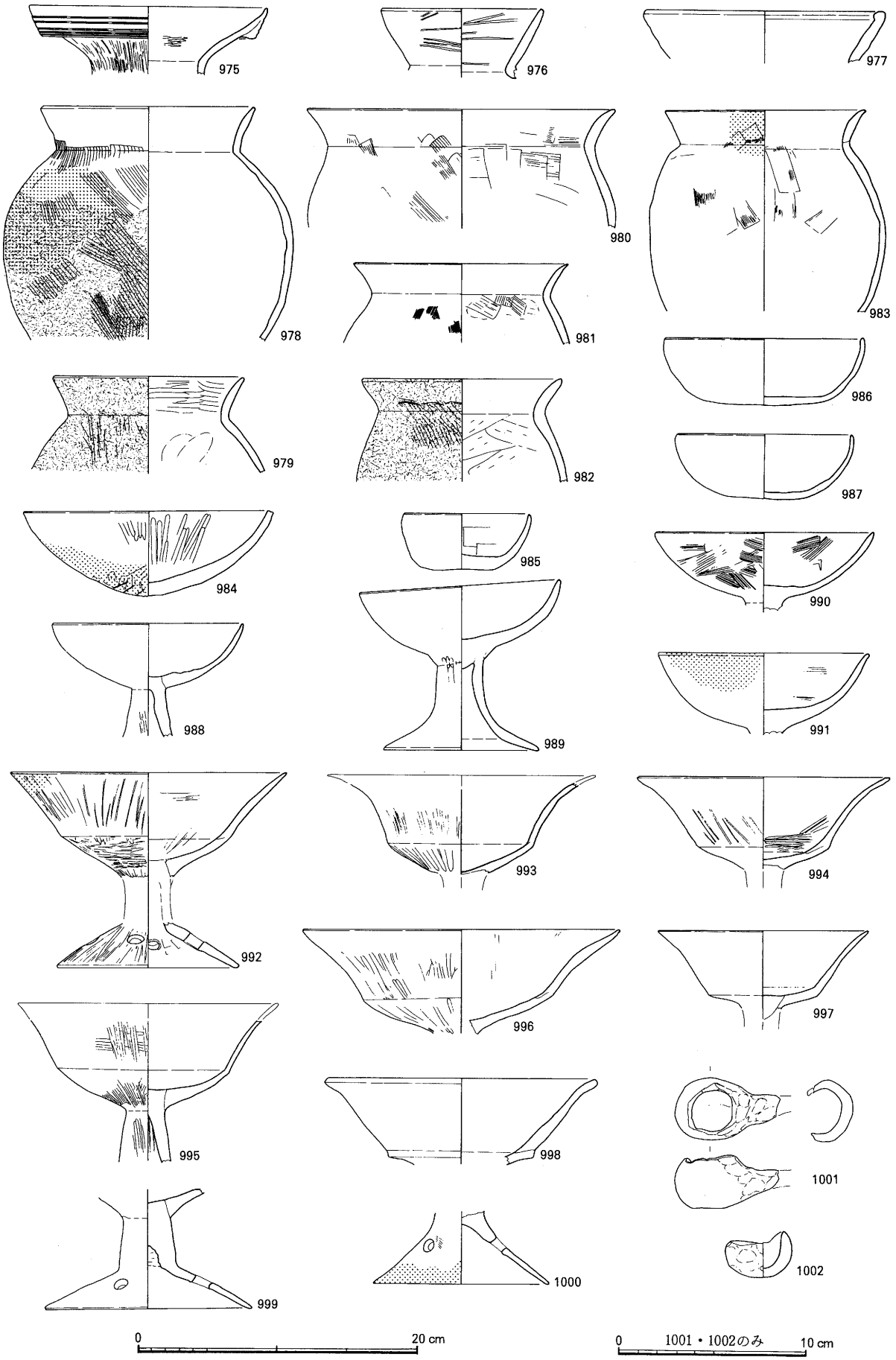
埋土最上層において、近世の伊万里・軟質の施釉陶器が各１点混入するが、当資料から除外した。



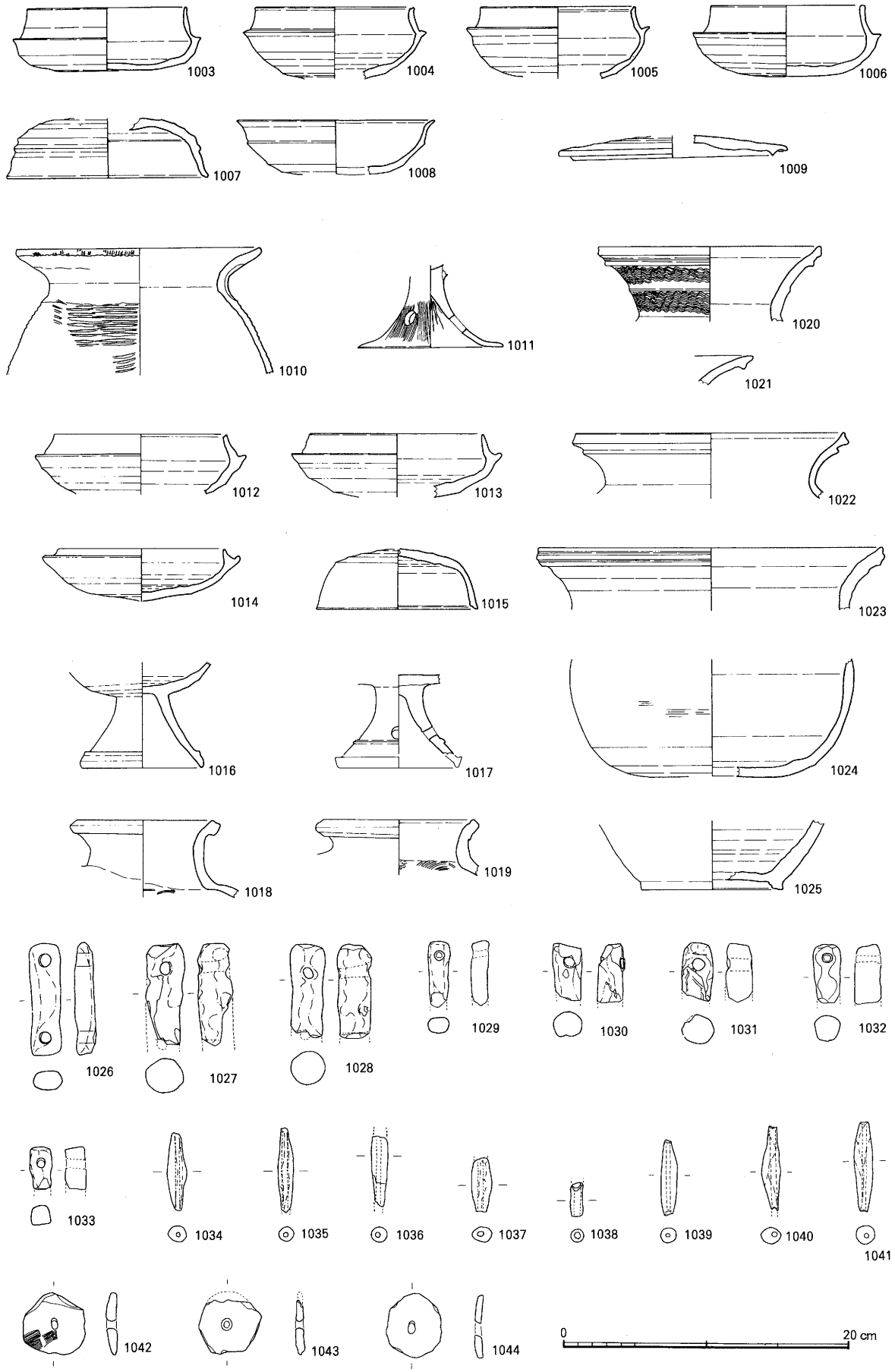
第171図　ＳＲ546出土土器実測図



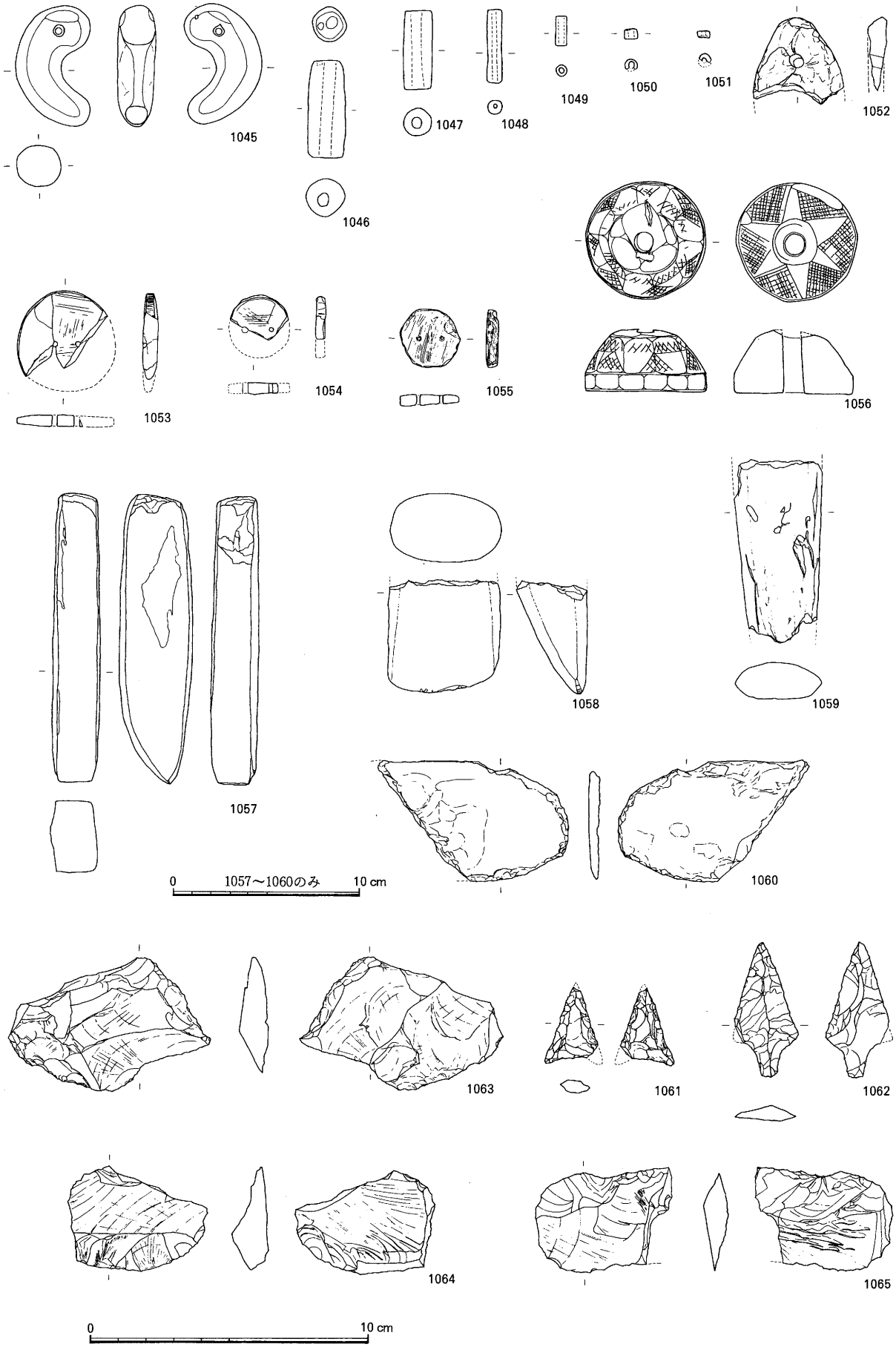
第172図　第Ⅱ区包含層出土土器実測図



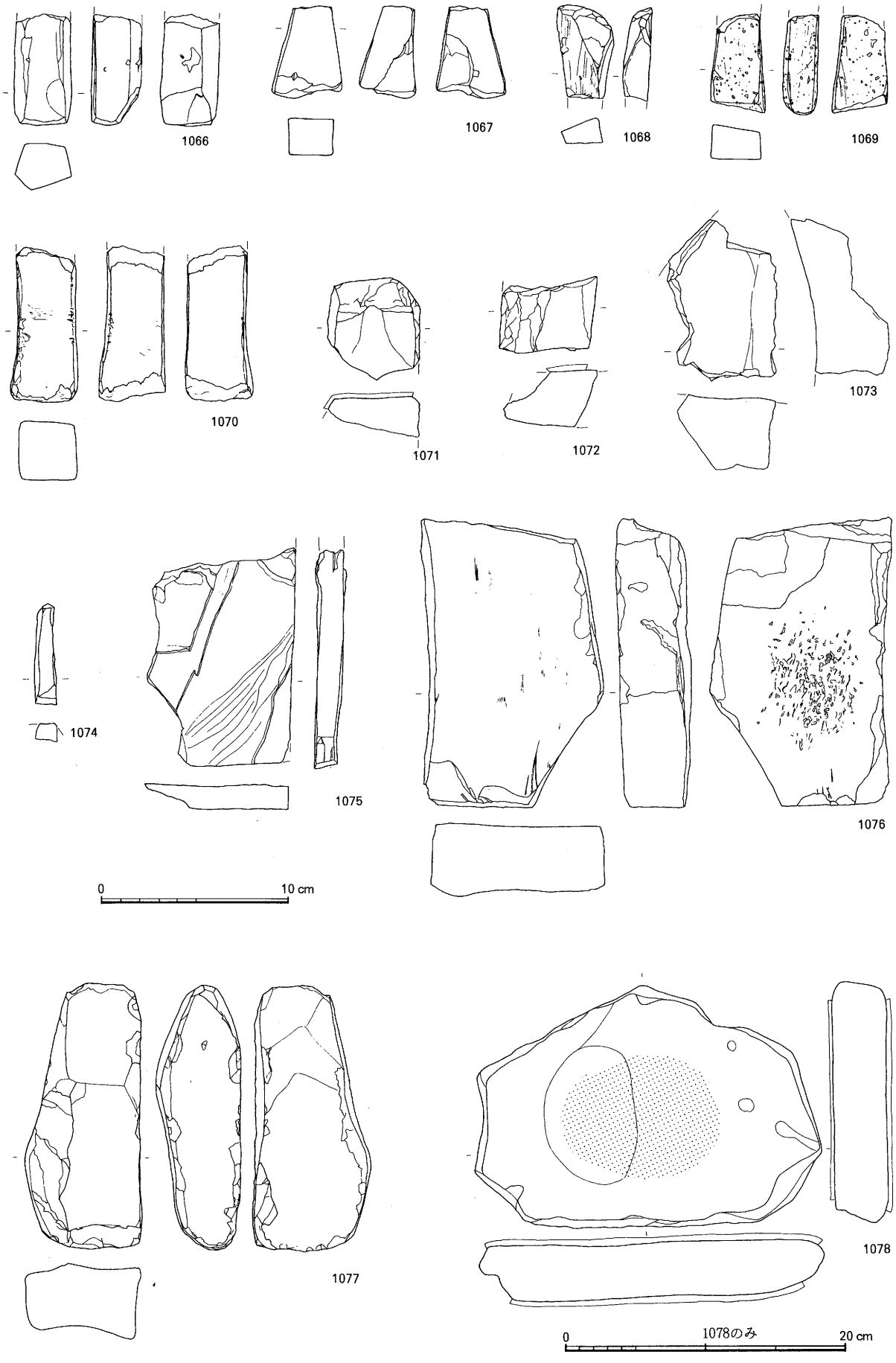
第173図　第Ⅱ区包含層出土土器実測図



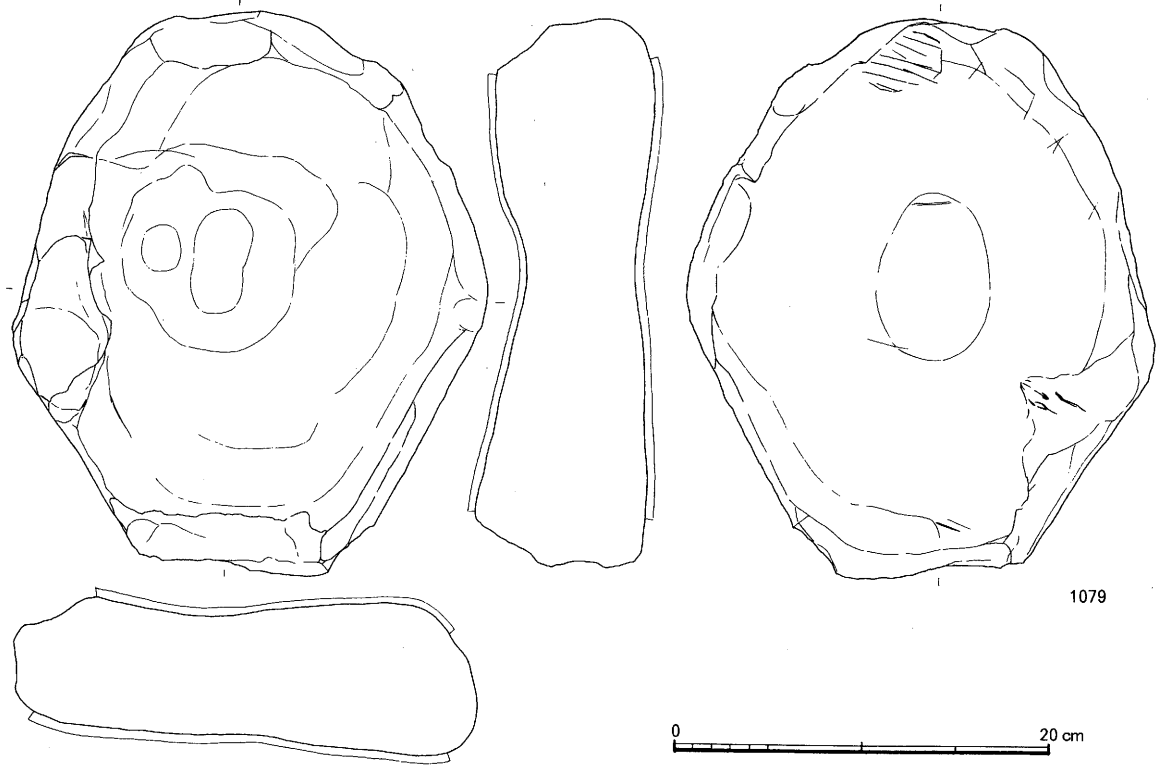
第174図　第Ⅱ区包含層出土土器、遺構・包含層出土土錘・紡錘車実測図

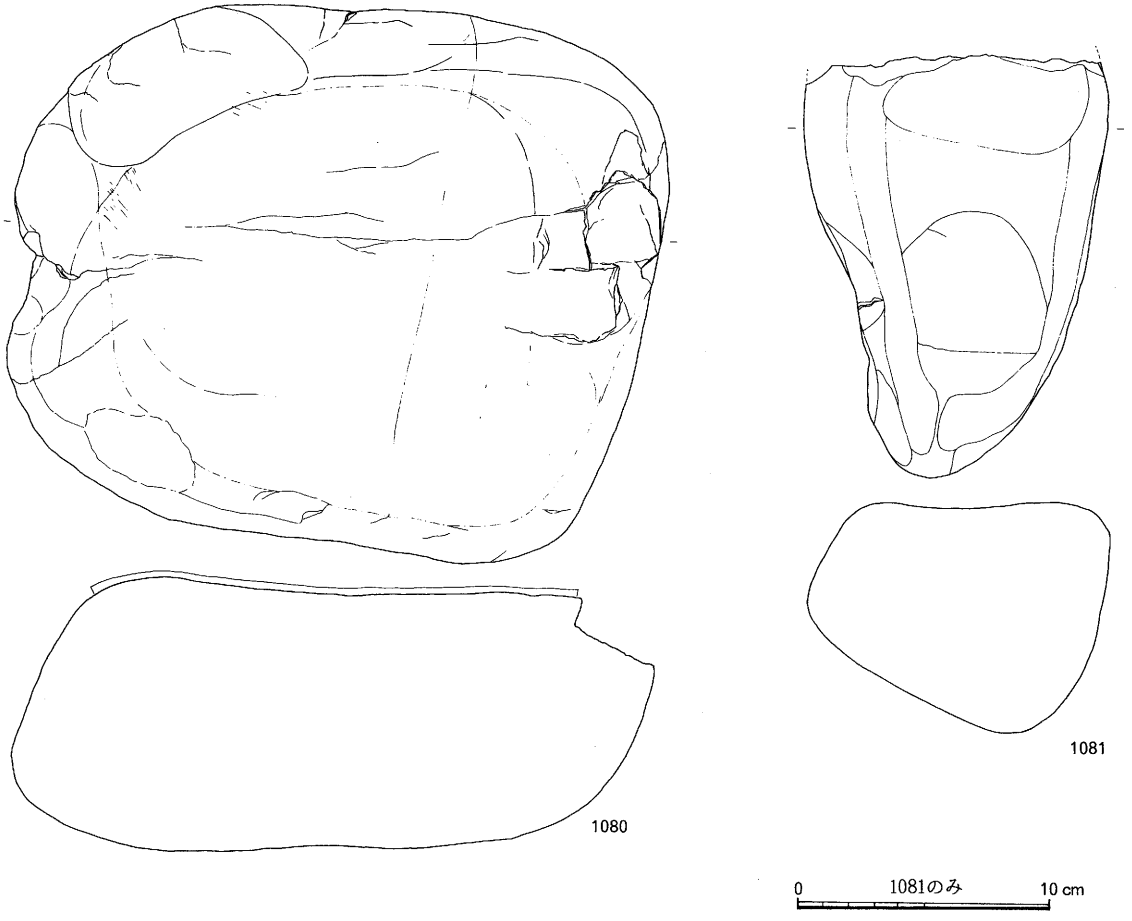


第175図　第Ⅱ区出土弥生・古墳時代石製品・石器実測図

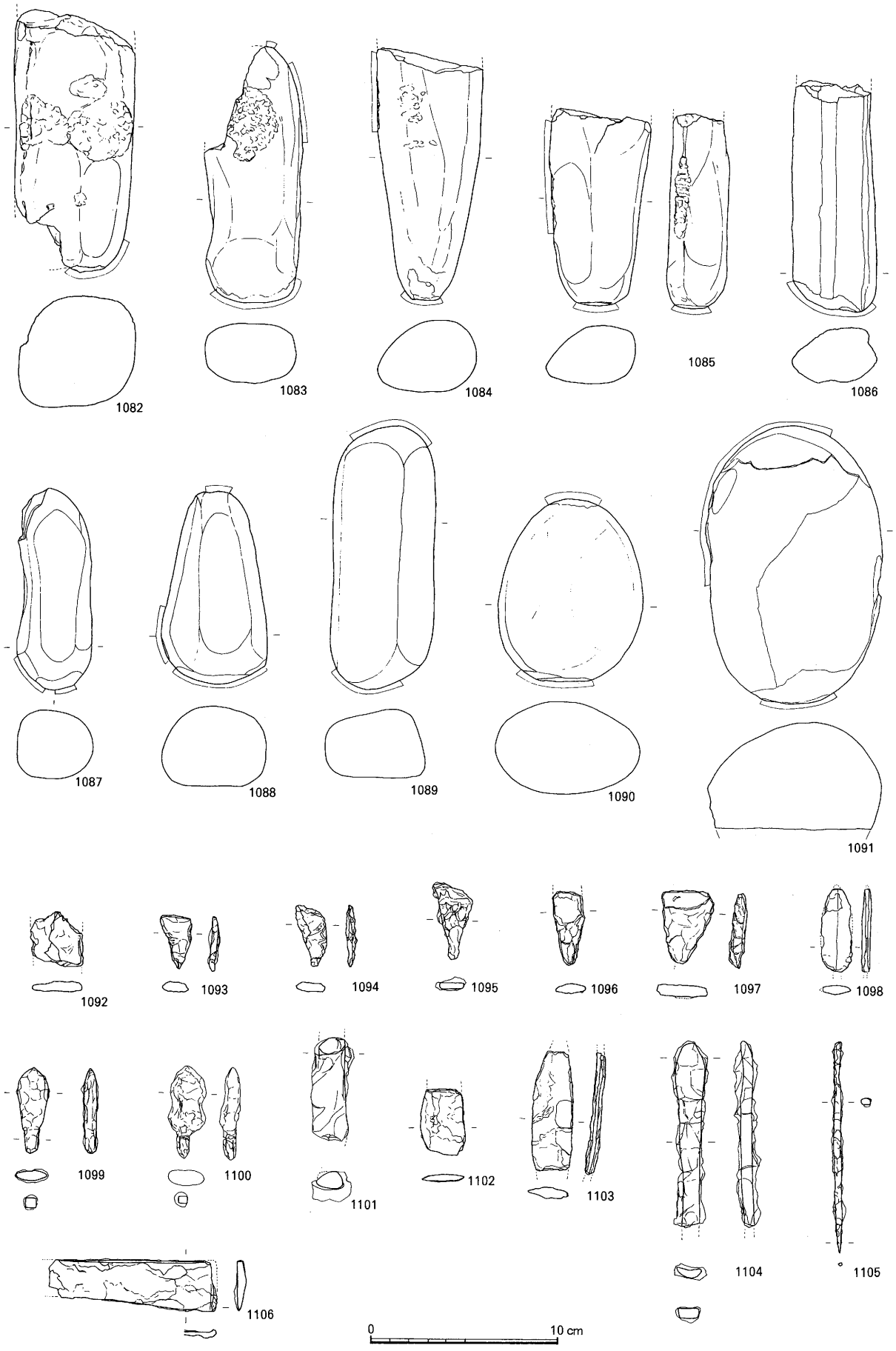


第176図　第Ⅱ区出土弥生・古墳時代石器実測図





第177図　第Ⅱ区出土弥生・古墳時代石器実測図



第178図　第Ⅱ区出土弥生・古墳時代石器・金属製品実測図

３　平安時代～室町時代

第ⅡＡ区出土の当該期の資料は、井戸と溝資料が大半を占めている。特に、平安時代後期末の井戸・溝出土資料は層位的にまとまりを見せる良好なものである。

（１）掘立柱建物・地鎮遺構・柱穴

第ⅠＡ区と同様に、第ⅡＡ区の掘立柱建物についても柱穴毎に掘形と柱当りの遺物を区別して対比を行なった。土器資料の大半が小破片であるが、中には、地鎮遺構に伴う完存品もある。

ＳＢ２８１（第179図、ＰＬ．93）　出土資料は少ないが、黒色土器Ａ類の椀ｂ類1107、土師器皿ａ$_1$類1108・竈・厚手丸底の製塩土器、須恵器壺底部1109などがある。

ＳＢ２８７（第179・204・205図、ＰＬ．152）　出土資料は少ないが、黒色土器Ａ類の椀、土師器椀Ｂ類1110・皿Ｄ類1111・小皿Ｄ$_2$類1112・甕・製塩土器、須恵器甕、砥石2173などがある。

ＳＢ２９１（第179・204・205図、ＰＬ．93・154）　出土資料はややまとまりがあり、土師器皿Ａ$_1$類1129・皿Ｂ$_1$類1130・皿Ｄ類1128・小皿Ｂ$_1$類1141・小皿Ｄ$_2$類1134～1137・小皿Ｄ$_3$類1138・1139・小皿Ｅ類1140、土師器土釜Ａ類として最も古い1143・土釜1144、重複する柱穴の混入と考えられる土釜Ｃ類1145、甕、竈、黒色土器Ａ類の椀、瓦器椀Ｂ類・椀Ｃ類1124・1125・椀Ｄ類1119～1123、瓦器小皿1126・1127、須恵質椀・捏鉢などがある。その他、土錘2131・2139・2143、鉄鏃2183などがある。

ＳＸ４１１（第179図、ＰＬ．93）　ＳＢ291に伴う地鎮遺構として、ＳＸ411から土師器皿ｂ類1131・小皿Ｄ$_2$類1132・1133、土師器椀・土鍋小破片などがある。

ＳＢ２９２（第179・180図、ＰＬ．93）　出土資料は多いが、小破片が主体である。黒色土器Ａ類の椀、土師器椀1146・皿ｂ類1155・皿Ｄ類1151・皿Ｅ類・小皿Ｂ$_1$類1160・1165・小皿Ｄ$_1$類1156・小皿Ｄ$_2$類1157・土釜Ａ類、瓦器椀Ｃ類1148・小皿1154、須恵質捏鉢などがある。

ＳＢ２９３（第179・180図）　黒色土器Ａ類の椀、土師器皿Ｄ類1152・1153・小皿Ｂ$_1$類1162・小皿Ｄ$_2$類・小皿Ｄ$_3$類1158、瓦器椀Ｄ類1147などがある。

ＳＢ２９５（第180図）　土師器皿Ａ$_1$類・皿Ｂ$_1$類・小皿Ａ$_1$類・小皿Ｂ$_1$類、須恵質捏鉢1166などがある。

ＳＢ２９６（第179・180図、ＰＬ．93）　出土資料は少ないが、土師器皿Ｂ$_1$類・小皿Ａ$_1$類・小皿Ｂ$_1$類1161・1164、瓦器椀Ｃ類1150などがある。

ＳＢ２９７（第179図）　土師器皿Ｅ類・小皿Ｂ$_1$類・小皿Ｄ$_2$類・土釜Ａ類、瓦器椀Ｃ類1149などがある。

ＳＸ４１２（第180図、ＰＬ．93）　ＳＢ297に伴う地鎮遺構として、ＳＸ412から底部回転篦切りの土師器皿Ｂ$_1$類が１点1167・小皿Ｂ$_1$類が14点1168～1181がある。

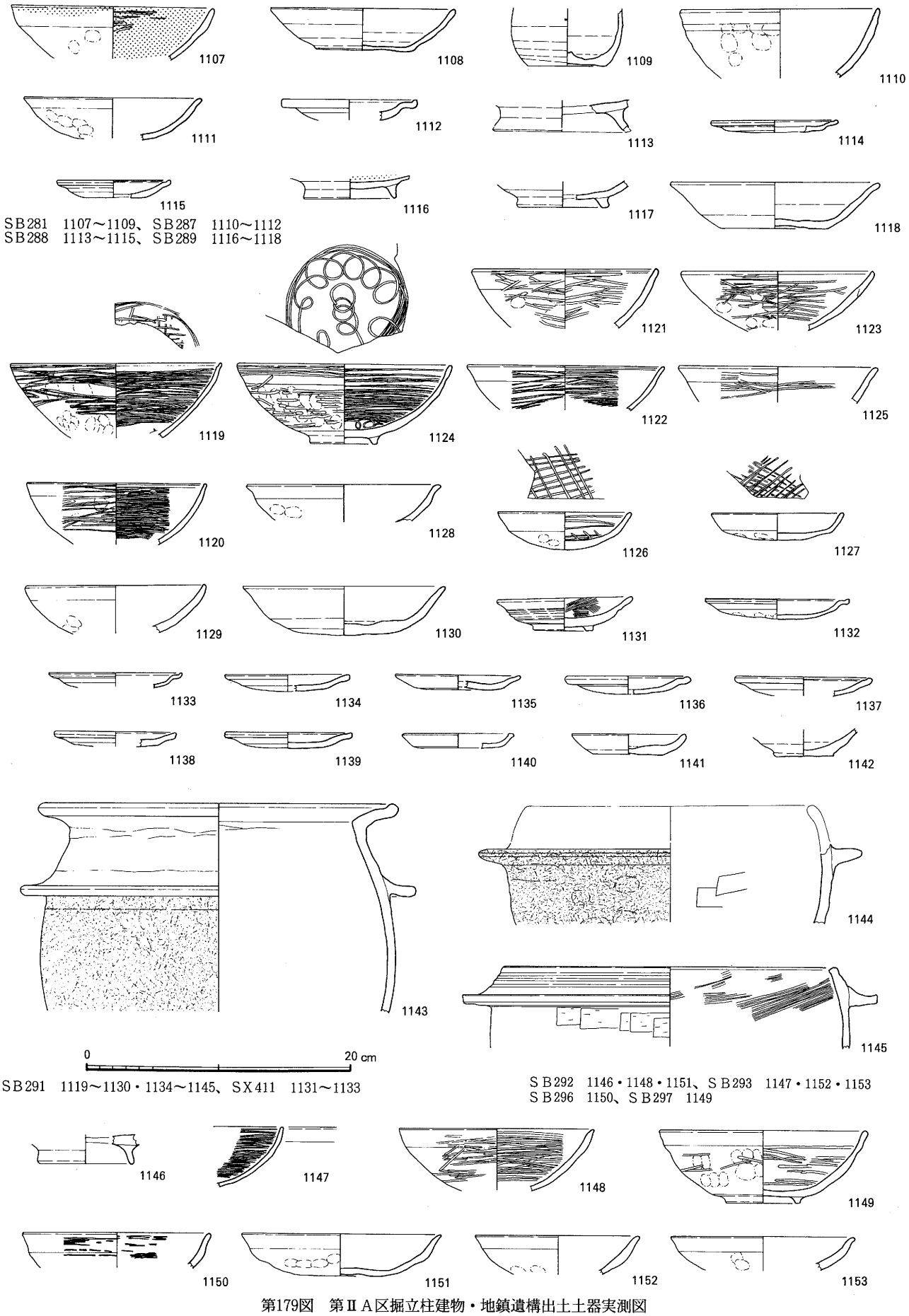
ＳＢ２９８（第180図、ＰＬ．93）　土師器皿Ｂ$_1$類1184・皿Ｅ類・小皿Ａ$_1$類・小皿Ｂ$_1$類1185～1189・土釜1190・1191、瓦器椀Ａ類・椀Ｄ類1182・1183、白磁碗1192などがある。

柱穴（第180・205図、ＰＬ．152・154）　その他の柱穴資料として、黒色土器Ａ類の椀Ｂ1193・椀ｂ類1195、黒色土器Ｂ類の椀ｂ類、土師器椀Ｂ類1196・1197・皿Ｄ類1198・皿ｂ類1199・1200などがある。

（２）土坑

土坑の資料としては、近世の土坑による撹乱を受けたものや一部の土坑を省けば、殆んど本来の中世としてのまとまった例が見られない。

ＳＫ３１１（第181図、ＰＬ．94）　ＳＫ311からは、土師器皿Ｂ$_1$類1210・皿Ｄ類1208・1209・底部回転

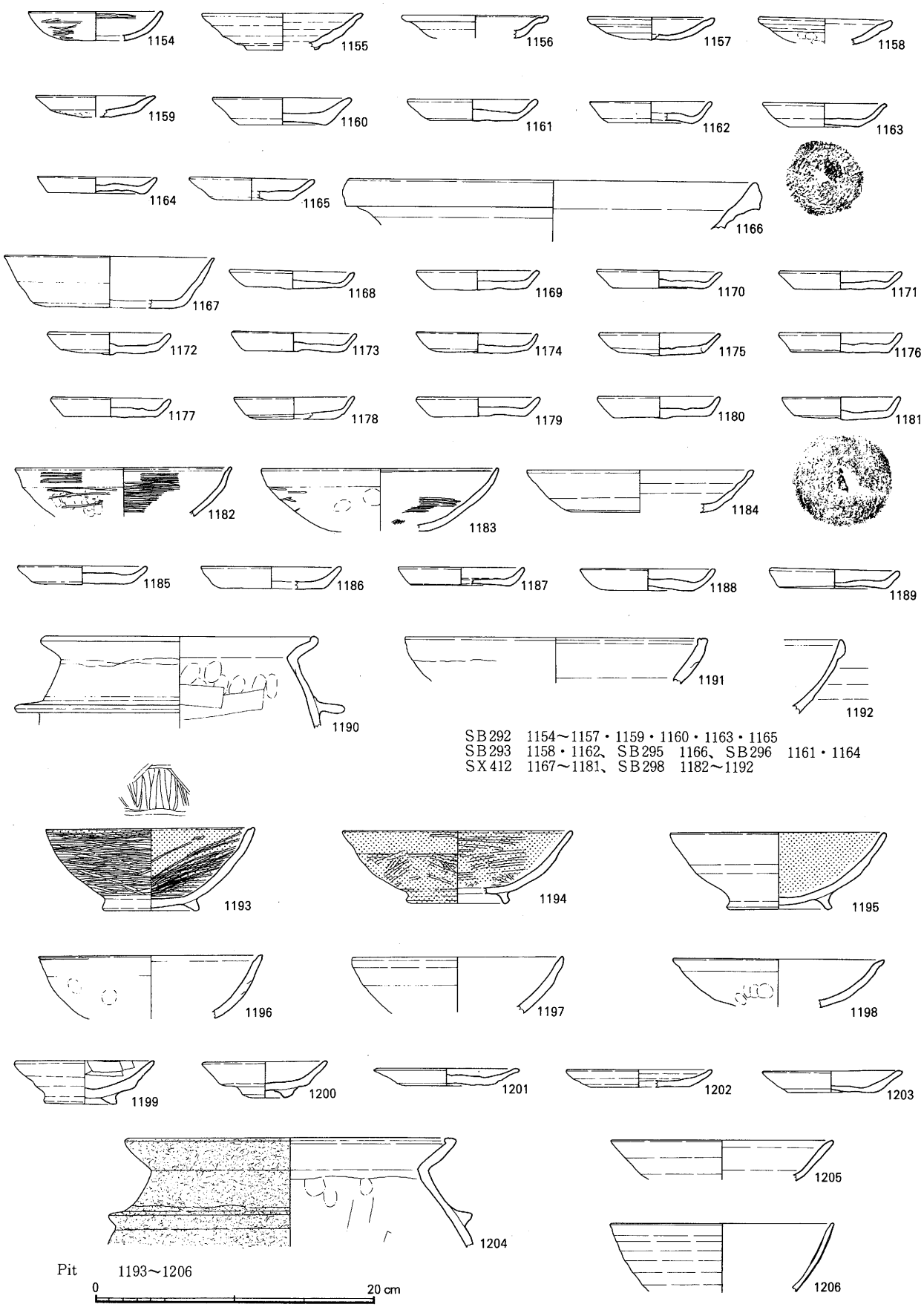


SB281　1107～1109、SB287　1110～1112
SB288　1113～1115、SB289　1116～1118

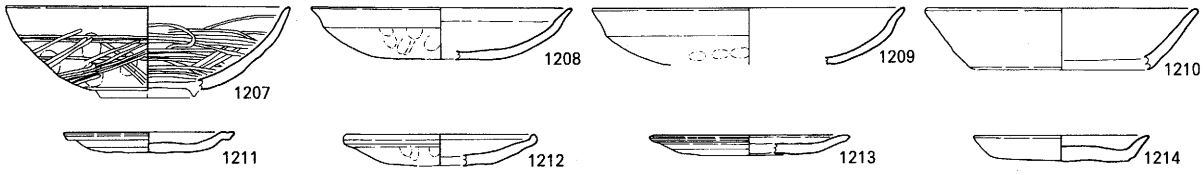
SB291　1119～1130・1134～1145、SX411　1131～1133

SB292　1146・1148・1151、SB293　1147・1152・1153
SB296　1150、SB297　1149

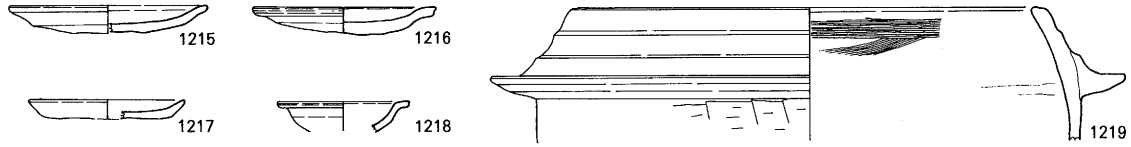
第179図　第ⅡA区掘立柱建物・地鎮遺構出土土器実測図



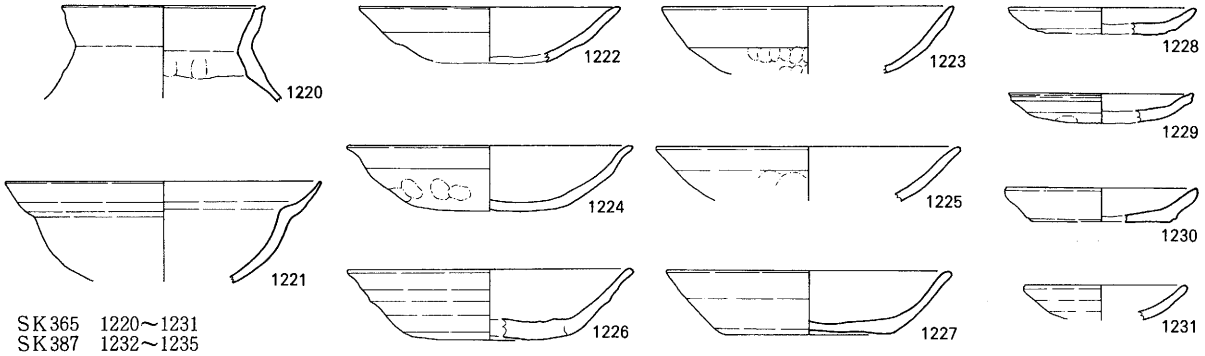
第180図　第ⅡA区掘立柱建物・地鎮遺構・柱穴出土土器実測図



SK311　1207～1214、SK320　1215～1216



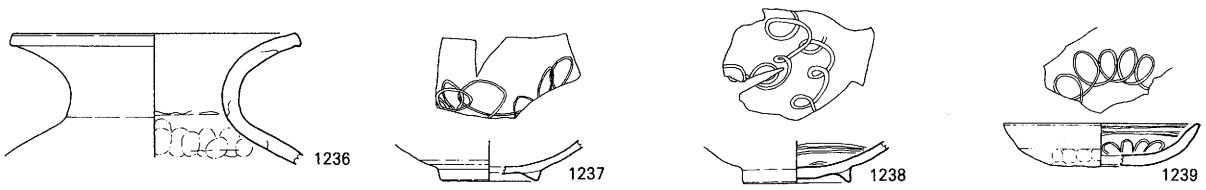
SK323　1217・1218、SK349　1219



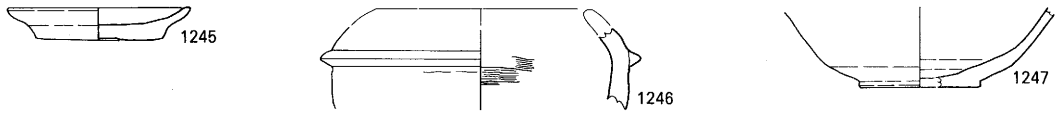
SK365　1220～1231
SK387　1232～1235

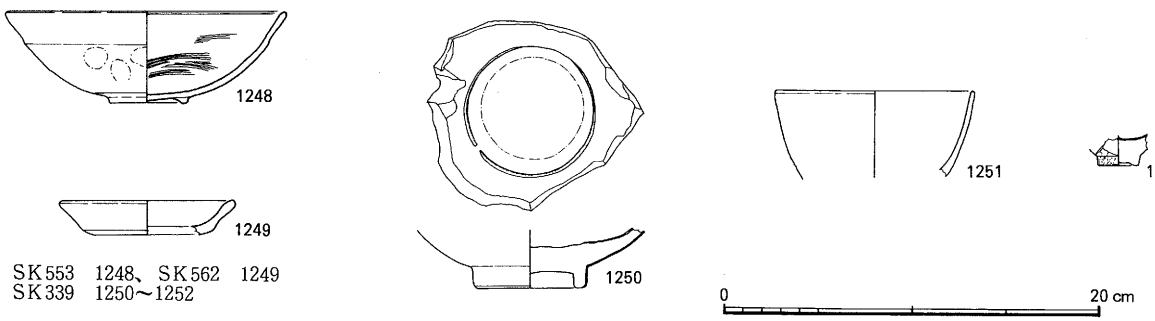


SK390　1236～1247









SK553　1248、SK562　1249
SK339　1250～1252

第181図　SK311・320・323・339・349・365・387・390・553・562出土土器実測図

篦切りの小皿Ｂ$_1$類1214・小皿Ｄ$_2$類1211・1212などがある。全体の資料数は、２袋とごく少量である。

ＳＫ３２０（第181図）　ＳＫ320からは、土師器小皿Ｄ$_2$類1215・小皿Ｄ$_3$類1216、瓦器椀Ｄ類などがある。全体の資料数は、５袋と少量である。

ＳＫ３２３（第181図）　ＳＫ323からは、土師器小皿Ａ$_1$類1217、須恵質捏鉢、土釜Ａ類、無釉陶器1218などがある。全体の資料数は、４袋と少量である。

ＳＫ３３９（第181図）　ＳＫ339からは、瓦器碗、瓦質甕、青磁碗1250、天目茶碗1251、白磁1252、平瓦などがある。全体の資料数は、９袋と少量である。

ＳＫ３６５（第181図、ＰＬ．94）　ＳＫ365からは、庄内式併行期新相段階の甕1220・鉢1221、黒色土器Ａ類の椀、土師器皿Ａ$_1$類1225・皿Ｂ$_1$類1226・1227・皿Ｄ類1222～1224・小皿Ｂ$_1$類1230・小皿Ｃ類1231・小皿Ｄ$_3$類1229、土錘などがある。全体の資料数は、４袋と少量である。

ＳＫ３８６（第205図、ＰＬ．152）　ＳＫ386からは、土師器皿・土釜、瓦器椀、滑石製の石鍋2162がある。全体の資料数は、１袋とごく少量である。

ＳＫ３８７（第181図、ＰＬ．94）　ＳＫ387からは、土師器小皿Ｄ$_2$類1232・1234・小皿Ｄ$_1$類1233・小皿Ｂ$_1$類1235、瓦器椀、瓦質甕などがある。全体の資料数は、８袋と少量である。

ＳＫ３９０（第181図、ＰＬ．94・154）　ＳＫ390からは、弥生土器、平安時代の土師器高坏、土師器皿Ａ類1240・小皿1241～1244、底部回転糸切りの土師器椀1247、瓦器椀1237・1238・小皿1239、三足の付くとみられる瓦質の足釜1246などがある。全体の資料数は、10袋あるが、江戸時代の遺物が混在して出土している。

（３）井戸

井戸資料としては、平安時代末から鎌倉時代にかけての土器資料が最も多く、室町時代の資料も若干見受けられる。

ＳＥ４１６（第183・204図、ＰＬ．94）

ＳＥ416からは、コンテナ１箱のややまとまった資料があるが、弥生土器・庄内式併行期の土器が多いため、器種構成比率に対応する資料数は算出していない。井戸の掘形埋土からは、黒色土器Ａ類の椀Ｂ類1254、土師器皿Ａ$_1$類1260・皿Ｅ類1274・小皿Ｂ$_2$類1276・1277・小皿Ｄ$_2$類1264・1268・小皿Ｄ$_3$類1270・1271・椀ｂ類1255、内面板状工具によるナデの施された土師器鉢1278・甕・竈・土錘2149などがある。西田井遺跡の井戸資料として、最も古い段階に位置付けられる一群である。

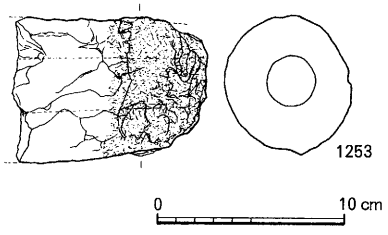
井側内埋土からは、土師器皿Ａ$_1$類・皿Ｄ類1259・小皿Ａ$_1$類1275・小皿Ｄ$_1$類1261～1263・小皿Ｄ$_2$類1265～1267・1269・小皿Ｄ$_3$類1272・1273・甕 、瓦器椀Ａ類・Ｃ類1256・小皿1258、土錘2148などがある。

ＳＥ４１７（第183・204・205・206図、表16、ＰＬ．94・151）

ＳＥ417から出土した土器資料は、層位的に一定のまとまりの見られる良好な一群である。ここでは、遺物の取上げに従って最下層・下層・中層・上層に区別して記述する。

最下層（第184・185・204・205図、ＰＬ．95・96・151・152・154）

最下層資料の口縁部計測法による個体数は、51.31個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計121点を数える。これらの内、瓦器椀が30.01個体（77点）、土師器皿・小皿、瓦器小皿が21.09個体（33点）を占める。この数値から、最下層では主要



第182図　ＳＥ417出土土製品実測図

器種が殆どを占めると共に、完存品の率が非常に高い傾向にある。資料の内訳は、土師器皿A₁類1350～1353・皿A₂類1354～1356・皿B₁類1357～1359・小皿A₁類1360～1364・1369・小皿A₂類1365～1368・小皿B₁類1370～1375・甕1376～1378、土釜A類、瓦器椀A類1321～1333・椀B類1314～1320・椀C類1335～1347・椀D類・小皿1348・1349、須恵器甕（2点）、須恵質椀（1点）1379、中層と接合関係にある白磁碗（1点）1380などがある。

その他、土錘（2点）2121、凹面布目・凸面格子タタキの施される軒平瓦2156、丸瓦2161、砥石（1点）2169、鉇2185などがある。

下層（第182・186・187図、ＰＬ．97）

下層資料の口縁部計測法による個体数は、36.37個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計138点を数える。これらの内、瓦器椀が31.71個体（115点）、土師器皿・小皿が4.53個体（20点）を占める。資料の内訳は、土師器皿A₁類1414・皿A₂類1415・

種類	器種形＼遺構層位		最下層			下層			中層			上層		
瓦器	椀	A	12.92 (25.2%)	30.01 (58.5%)	31.51 (61.4%)	15.5 (42.6%)	31.71 (87.2%)	31.71 (87.2%)	9.3 (21.6%)	30.59 (71.0%)	33.72 (78.2%)	3.71 (7.4%)	32.63 (64.9%)	33.42 (66.5%)
		B	7.38 (14.4%)			6.96 (19.1%)			11.79 (27.3%)			9.0 (17.9%)		
		C	9.63 (18.8%)			9.25 (25.4%)			9.17 (21.3%)			19.13 (38.1%)		
		D	0.08 (0.2%)						0.33 (0.8%)			0.79 (1.6%)		
	小皿		1.5 (2.9%)	1.5 (2.9%)					3.13 (7.3%)	3.13 (7.3%)		0.79 (1.6%)	0.79 (1.6%)	
土師器	皿	A_1	4.29 (8.4%)	6.92 (13.5%)	19.59 (38.2%)	1.58 (4.3%)	1.79 (4.9%)	4.53 (12.5%)	0.66 (1.5%)	1.29 (3.0%)	9.2 (21.3%)	2.59 (5.2%)	6.2 (12.3%)	16.53 (32.9%)
		A_2	0.38 (0.7%)			0.13 (0.4%)			0.42 (1.0%)			1.95 (3.9%)		
		B	2.25 (4.4%)			0.08 (0.2%)			0.08 (0.2%)			0.08 (0.2%)		
		C							0.13 (0.3%)			1.58 (3.1%)		
		D												
		E												
	小皿	A_1	5.38 (10.5%)	12.67 (24.7%)		1.33 (3.7%)	2.74 (7.5%)		6.33 (14.7%)	7.91 (18.3%)		5.5 (10.9%)	10.33 (20.6%)	
		A_2	3.04 (5.9%)			0.33 (0.9%)			1.58 (3.7%)			1.58 (3.1%)		
		B	4.25 (8.3%)			1.08 (3.0%)						1.25 (2.5%)		
		C										2.0 (4.0%)		
		D_1												
		D_2	※			※			※					
		D_3												
		E												
		F												
	坏			※			※			※			※	
	黒色土器		※			※			※			※		
	椀													
	甕		0.17 (0.3%)	0.21 (0.4%)		※	0.13 (0.4%)		0.03 (0.1%)	0.22 (0.5%)		0.1 (0.2%)	0.2 (0.4%)	
	土釜													
	土釜A		0.04 (0.1%)			0.13 (0.4%)			0.19 (0.4%)			0.1 (0.2%)		
	土釜B													
瓦器釜												0.03 (0.1%)	0.03 (0.1%)	
須恵器（質）	椀		※	※			※		※	※		※	0.03 (0.1%)	
	捏鉢					※						0.03 (0.1%)		
	甕		※			※						※		
	壷													
陶器						※	※					※	※	
磁器	白磁		※	※		※	※		※	※		※	※	
	青磁					※						※		
合計			51.31 (100.0%)			36.37 (100.0%)			43.14 (100.0%)			50.21 (100.0%)		

口縁部計測法による個体数、※印は存在するが微量・体部破片

表16　ＳＥ417出土土器器種構成比率

小皿Ａ$_1$類1416～1418・小皿Ａ$_2$類1419・小皿Ｂ$_1$類1420・1421・甕、土釜Ａ類1422・1423、瓦器椀Ａ類1386～1399・椀Ｂ類1381～1385・椀Ｃ類1400～1413、須恵器甕（１点）、須恵質捏鉢（１点）、陶器甕（１点）、青磁碗（１点）1424、白磁碗（１点）1425などがある。その他、中空部に簾状の物に巻付けて成形した痕跡が認められる鞴の羽口（１点）1253（第182図）が共伴して出土している。

中層（第187・188・204図、ＰＬ．98）

中層資料の口縁部計測法による個体数は、43.18個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計178点を数える。これらの内、瓦器椀が30.59個体（138点）、土師器皿・小皿、瓦器小皿が12.39個体（34点）を占める。完存率の違いはあるが、主要器種の占める比率は、最下層・下層と同傾向を示している。資料の内訳は、土師器皿Ａ$_1$類1450・1451・皿Ａ$_2$類・皿Ｂ$_2$類・皿Ｃ類1452・小皿Ａ$_1$類1453～1462・小皿Ａ２類・甕、土釜Ａ類1463、瓦器椀Ａ類1429～1438・椀Ｂ類1426～1428・椀Ｃ類1439～1447・椀Ｄ類・小皿1448・1449、須恵質椀（１点）1464、白磁碗（１点）1465などがある。

その他、土錘（１点）2133などがある。

上層（第188・189・204・205図、ＰＬ．98・151・152）

上層資料の口縁部計測法による個体数は、50.24個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計547点を数える。これらの内、瓦器椀が32.63個体（364点）、土師器皿・小皿、瓦器小皿が17.32個体（164点）を占める。この数値から、上層では資料が砕片化している率が非常に高い傾向にある。資料の内訳は、土師器小椀1480・皿Ａ$_1$類1481・1482・皿Ｃ類1483～1486・小皿Ａ$_1$類1488～1494・小皿Ｃ類1495～1497・甕1498・1499・手捏土釜1500、土釜Ａ類1501・1502、瓦器椀Ｂ類1466・1467・椀Ｃ類1470～1472・椀Ｄ類1468・1469・小皿1475～1479・足釜1487、須恵器甕・瓦質を含む（７点）1504、須恵質椀（１点）1505・捏鉢（１点）1503、青磁碗（１点）1507、白磁碗（１点）・皿（２点）1506などがある。

その他、土錘（１点）2134、砥石（４点）2164・2171などがある。

上記ＳＥ417では、各層位において資料点数と個体数の関係の中で主要器種の占める割合は類似する。しかし、表16に見るように主要器種の中でも土師器皿・小皿と瓦器椀・小皿との関係が、また、同一器種内の器形においても層位によって構成比率が変化を示している。実測図に示したように各層位において器形の変化が認められ、これと連動して器種比率の変化が認められる。これらの器種構成比率の一連の変化に続くものとして、既述している第ＩＡ区溝ＳＤ102第２層、溝ＳＤ102第１層、溝ＳＤ102Ｄ溝、溝ＳＤ102Ｃ溝などの資料がある。

ＳＥ４１８（第183・204図、表31）

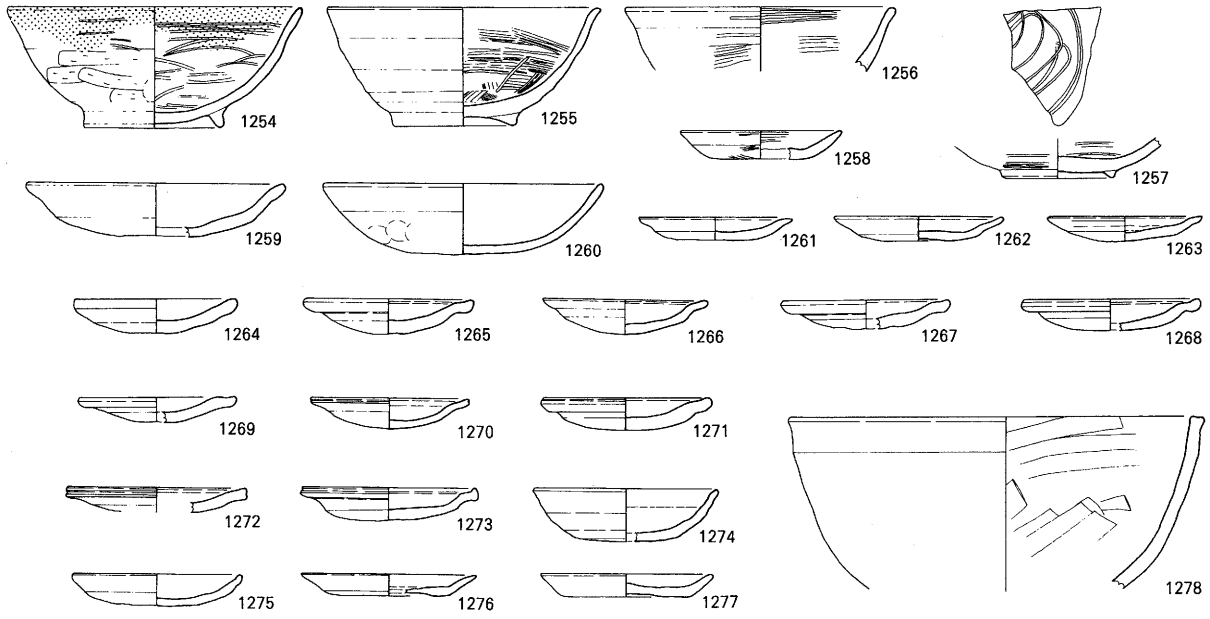
ＳＥ418上層から出土した資料の口縁部計測法による個体数は、36.33個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計484点を数える。この数値から、殆どの資料が、極めて砕片化している状態にある。主要器種以外に、土師器鉢1303、須恵質椀（２点）1305、白磁碗1307・1308、古墳時代の製塩土器（18点）、土錘（２点）2122、平瓦（４点）2159などがある。

ＳＥ５６６（第189図、ＰＬ．98）　ＳＥ566からは、完存品の瓦器椀Ｃ類1508が１点である。

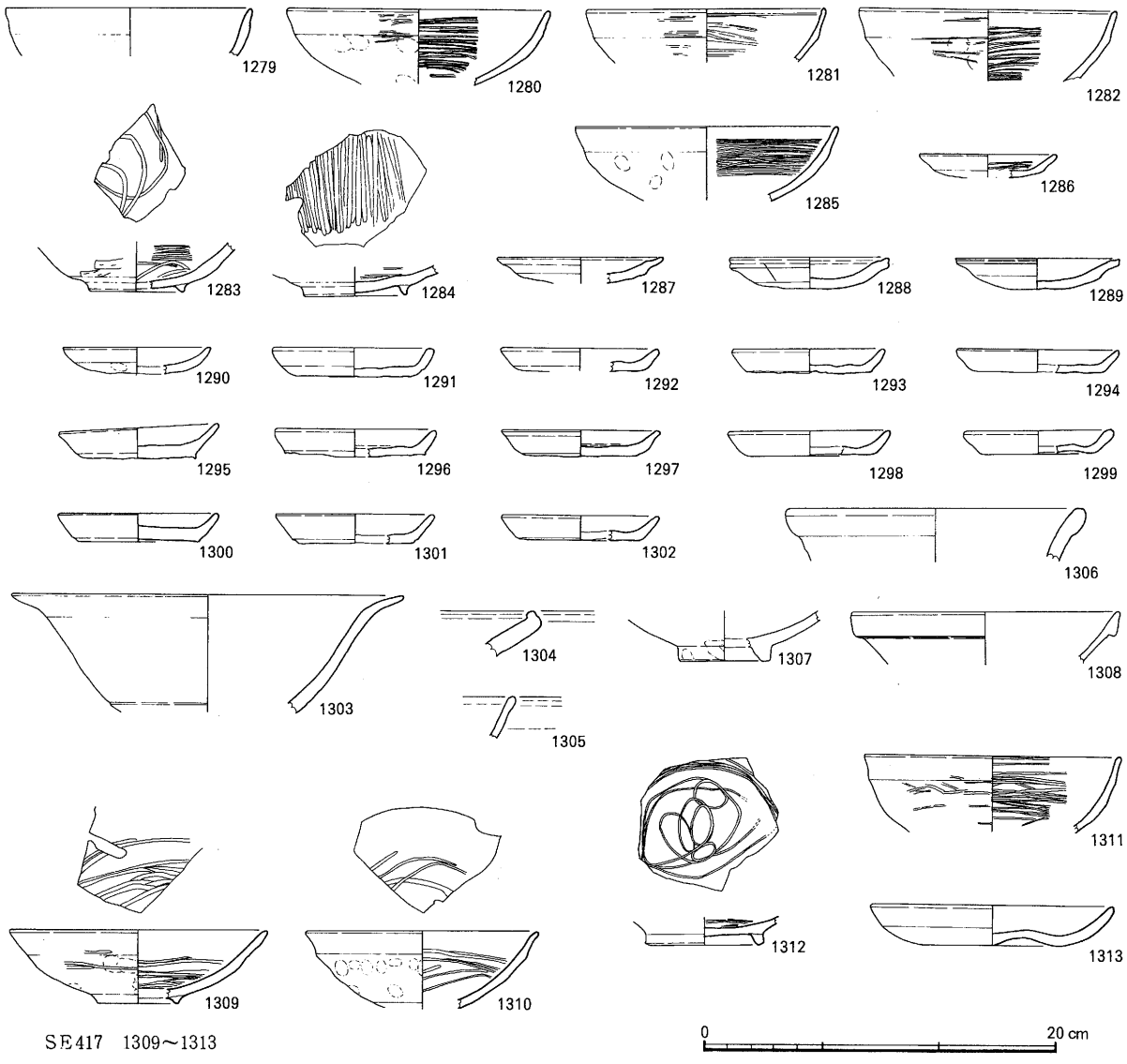
ＳＥ５６７（第189図）　ＳＥ567からは、土師器皿薄丸大1509・小皿Ａ$_1$類、一定量の土釜Ａ類1511～1515、瓦器椀Ｃ類、青磁碗1510などがある。須恵器が混在するが、全体の資料数は、５袋と少量である。

ＳＥ５６８（第189・206図、ＰＬ．155）　ＳＥ568からは、土師器皿大平1521・小平1522・1523、須恵質捏鉢1524などと共に、瓦器椀Ｃ類1517・1518などがある。全体の資料数は、７袋と少量である。

ＳＥ５６９（第189・206図、ＰＬ．155）　ＳＥ569からは、土師器小皿ＮＧタイプ1525が１点である。

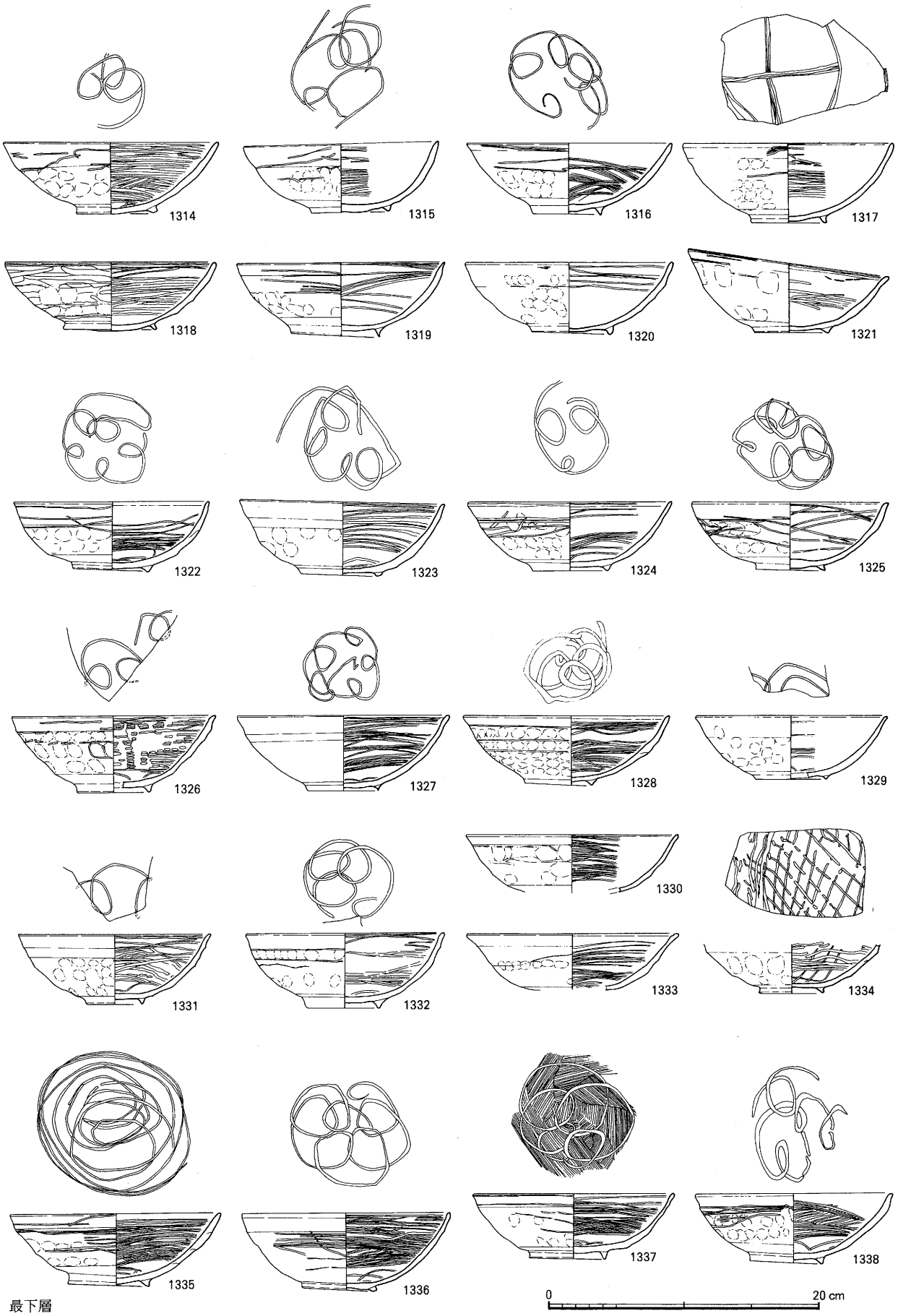


SE416　1254～1278、SE418　1279～1308



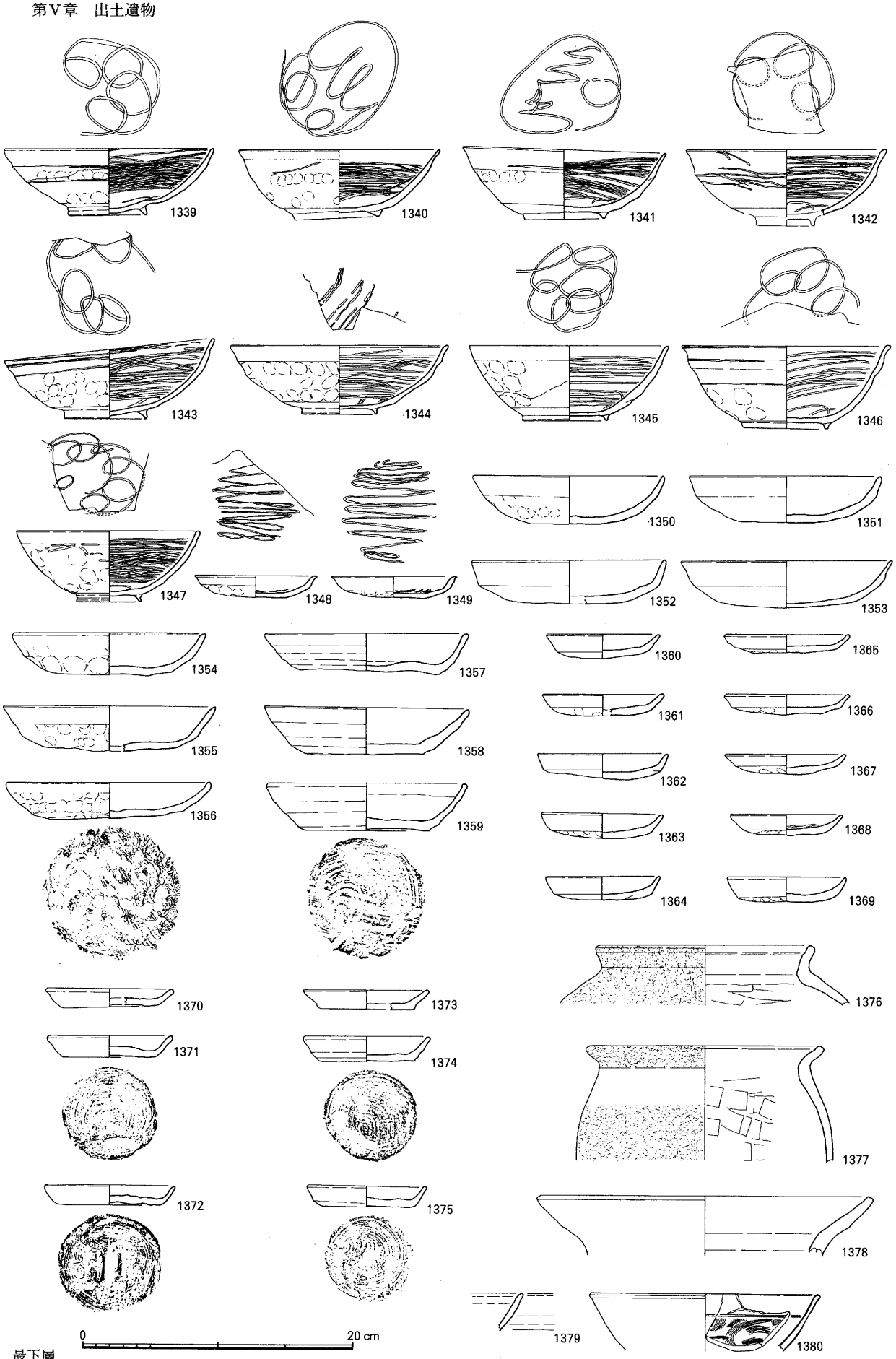
SE417　1309～1313

第183図　ＳＥ416・417・418出土土器実測図



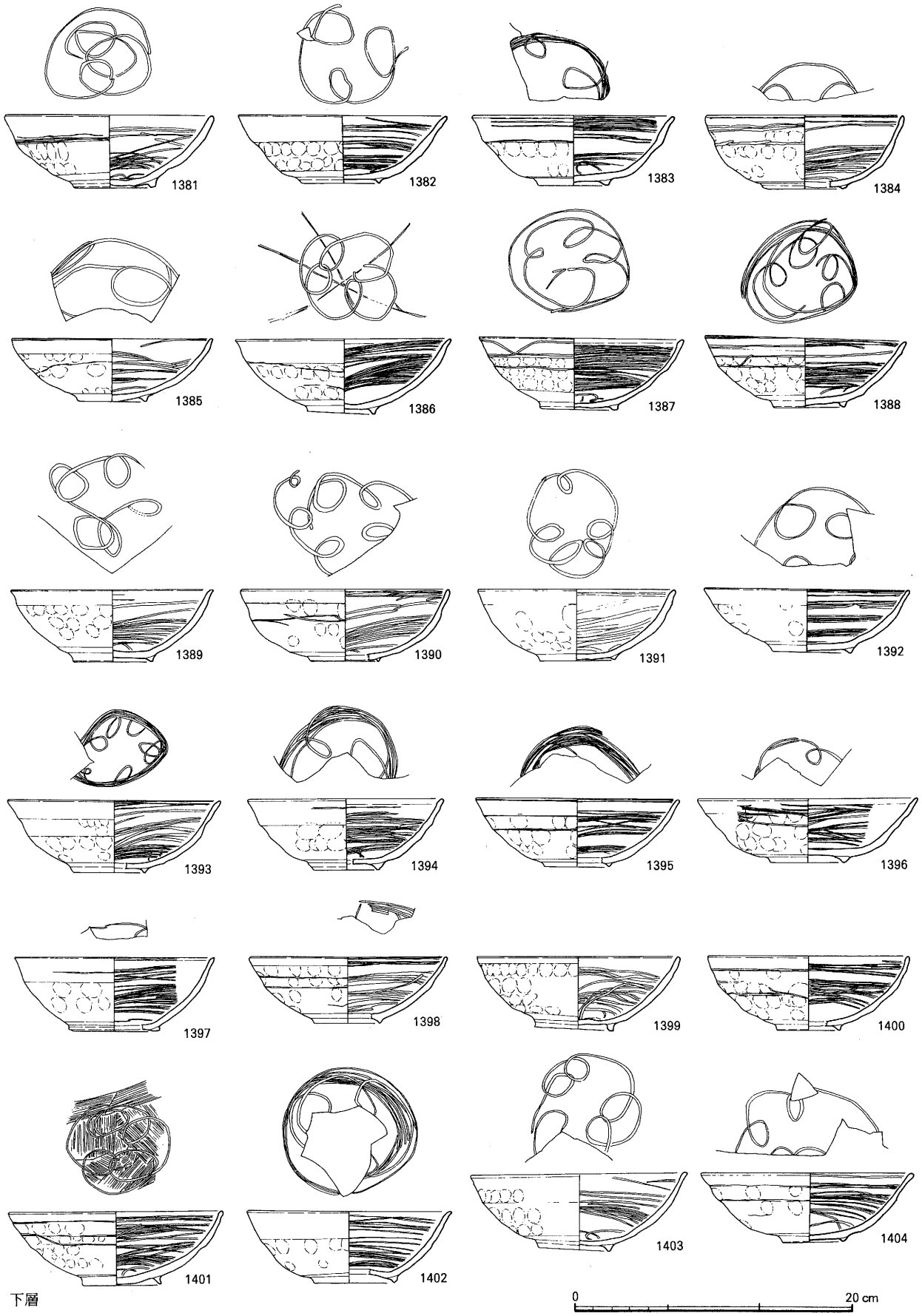
最下層

第184図　ＳＥ417出土土器実測図

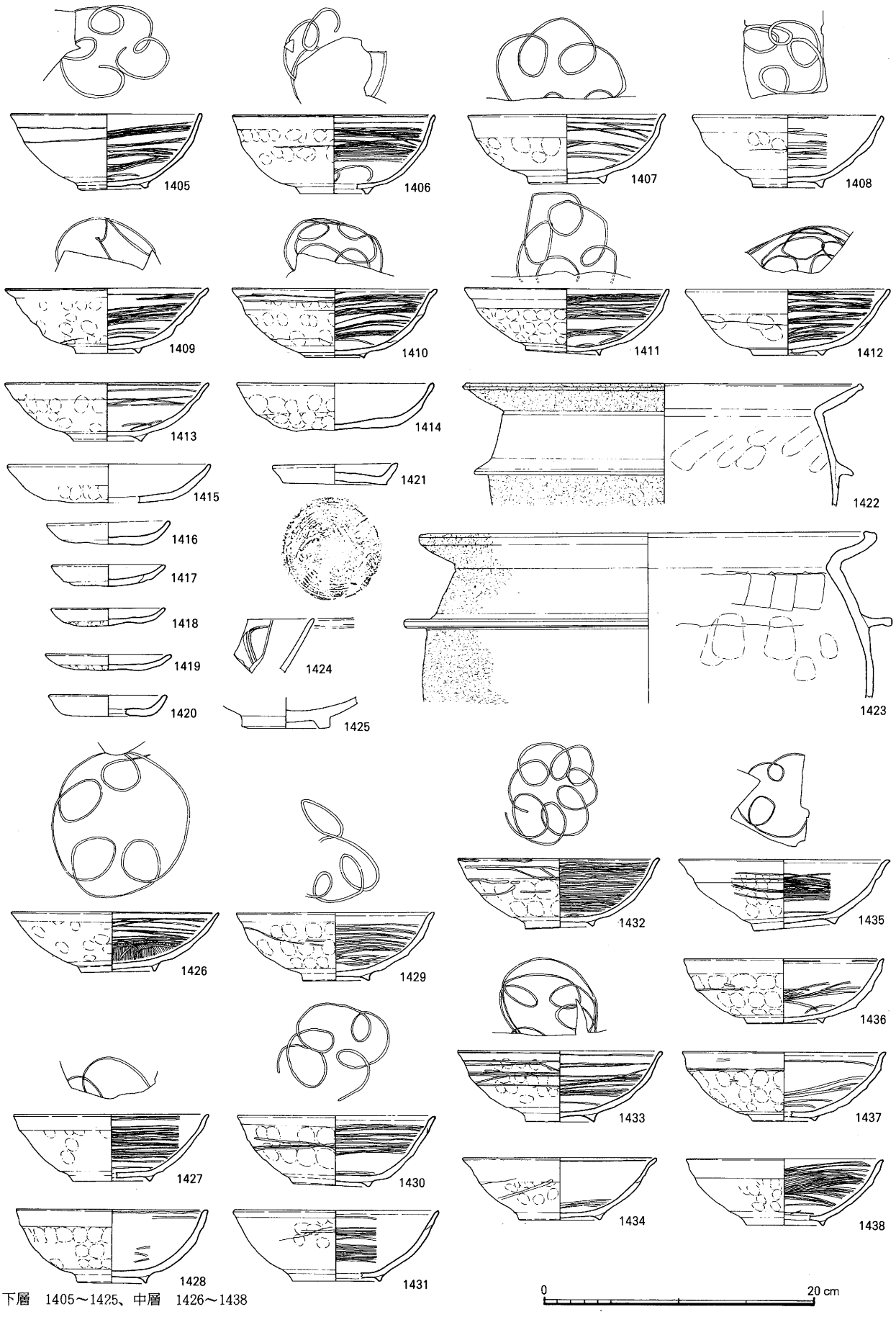


最下層

第185図　ＳＥ417出土土器実測図

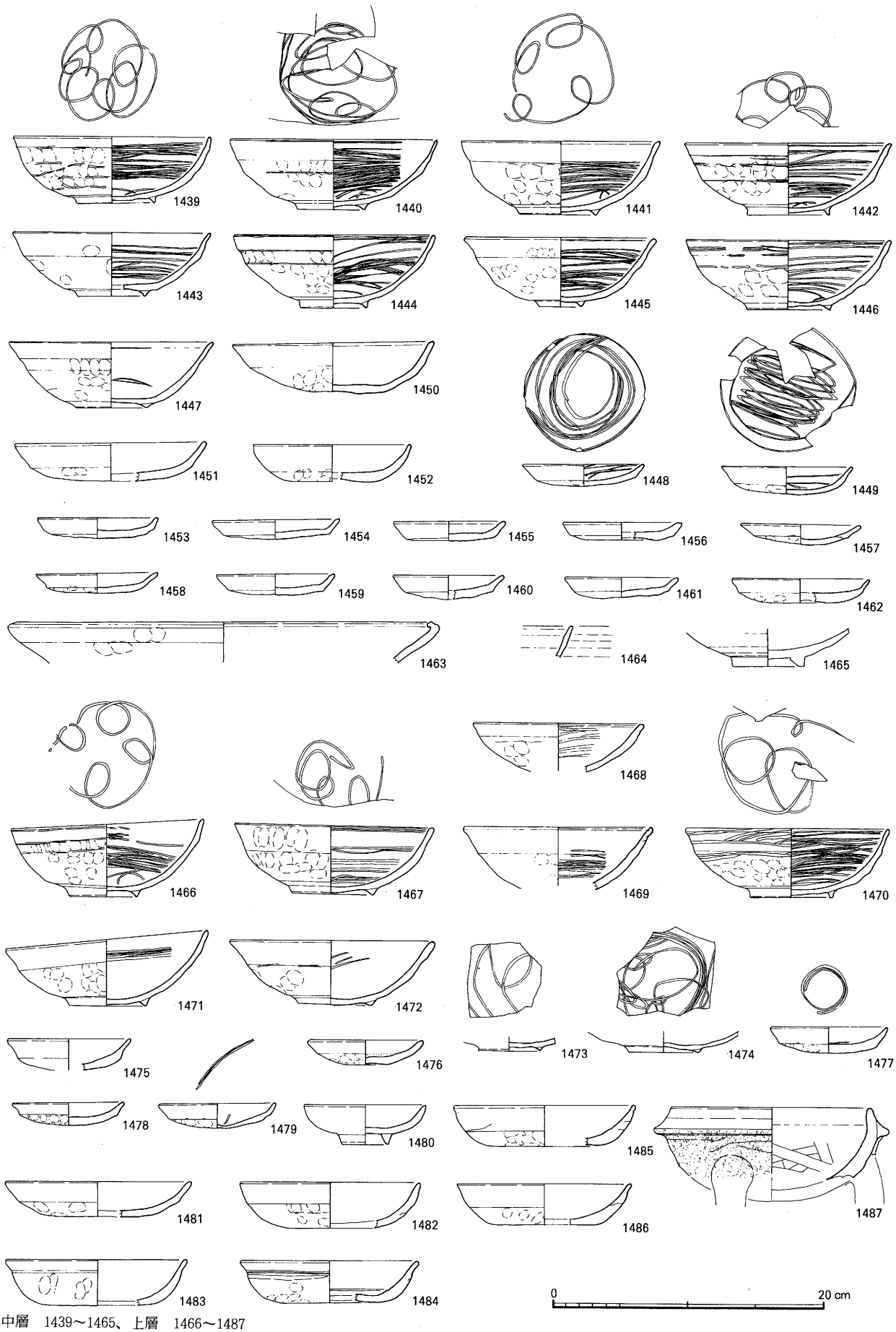


第186図　ＳＥ417出土土器実測図



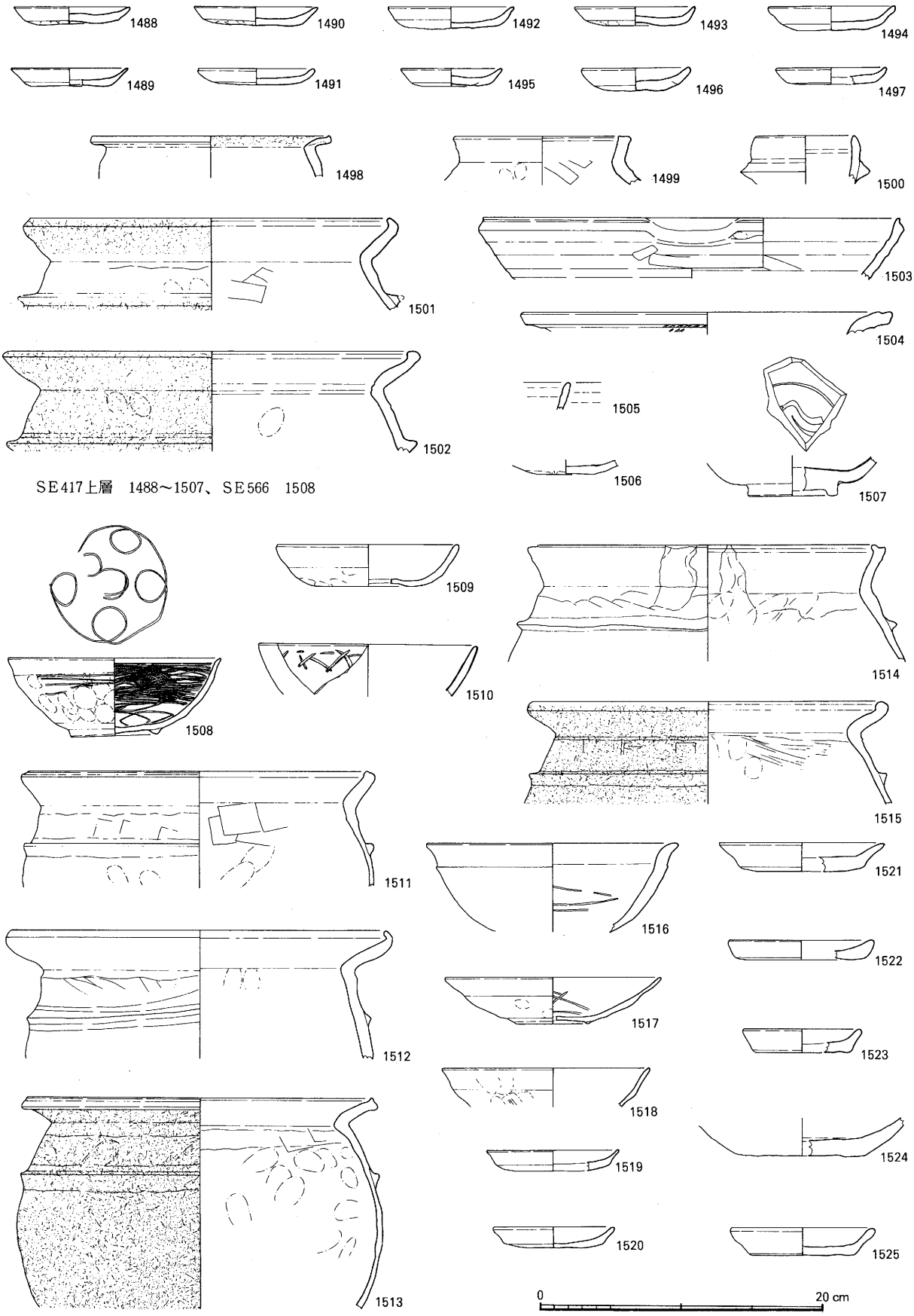
下層　1405～1425、中層　1426～1438

第187図　ＳＥ417出土土器実測図



中層　1439～1465、上層　1466～1487

第188図　ＳＥ417出土土器実測図



SE417上層　1488～1507、SE566　1508

SE567　1509～1515、SE568　1516～1524
SE569　1525

第189図　SE417・566・567・568・569出土土器実測図

（４）溝

溝資料は、井戸資料ほども明確ではないが、個別の溝によって平安時代から室町時代の変遷を探ることのできる一群が存在する。井戸資料に先行する時期の一群には、器種構成などの点で古代的な様相が強く見受けられる。

ＳＤ２７１（第196図、ＰＬ．103）

ＳＤ271は、資料の大半が弥生・古墳時代前期の土器で占められるため、遺構としては古い時代のものと判断した。ＳＤ271とは別遺構の可能性を考えた13世紀頃の瓦器椀１点と土師器土釜1759がある。土釜そのものは、平安時代中期の所産と考えられる。全体の資料数は、２袋とごく少量である。

ＳＤ２７７（第196図、ＰＬ．103）

ＳＤ277でも古墳時代前期と６世紀初頭の須恵器が主体を占める。底部外面に３分割のヘラケズリが施された土師器皿1760は、平城Ⅲ～Ⅳ式に併行する段階のものである。

ＳＤ４２４（第190・192・193・204・205図、表30、ＰＬ．99・154）

初現期の瓦器椀を含むものの、古代的な様相の強い一群である。全体の資料数としては、ややまとまっている程度であるが、遺物の取上げに従って下層・中層・上層に区別して記述する。

下層（1537～1554）

下層資料の口縁部計測法による個体数は、7.65個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計108点を数える。これらの内、黒色土器・土師器椀が2.96個体（44点）、土師器皿・小皿が2.64個体（32点）を占める。資料の内訳は、土師器椀・皿Ｄ類1543・皿Ｅ（a_1）類1542・小皿D_1類1545・1546・甕1547・1548・竈、製塩土器、瓦器椀Ｂ類、黒色土器Ａ類の椀ｂ類1537～1539、須恵器壺底部1549～1553・甕1554などがある。その他、土錘2125・2142・2145、瓦（１点）がある。

中層（1555～1569）

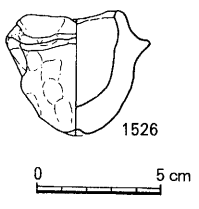
中層資料の口縁部計測法による個体数は、6.87個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計74点を数える。これらの内、黒色土器・土師器・瓦器椀が0.95個体（８点）、土師器皿・小皿が5.16個体（51点）を占める。資料の内訳は、土師器皿A_1類1565・皿Ｄ類1563・1564・皿Ｅ（a_1）類1560～1562・小皿D_1類1566・小皿D_2類・小皿D_3類1567・1568・甕・竈、製塩土器、瓦器椀Ｂ類・体部外面に４分割のヘラミガキの施された初現期の瓦器椀Ｄ類1559、黒色土器Ａ類の椀ｂ類1555～1557、須恵器壺底部1569・甕などがある。

上層（1570～1580）

上層資料の口縁部計測法による個体数は、8.38個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計120点を数える。これらの内、黒色土器・土師器・瓦器椀が1.13個体（17点）、土師器皿・小皿が5.71個体（81点）を占める。資料の内訳は、土師器椀・皿A_1類1573・皿Ｂ類・皿Ｄ類1571・1572・皿Ｅ（a_1）類1570・小皿A_1類・小皿A_2類1575・1576・小皿D_1類・小皿D_2類・小皿D_3類1574・甕・竈、製塩土器、瓦器椀Ｂ類・椀Ｃ類、黒色土器Ａ類の椀ｂ類、須恵器壺底部1578・1579・甕1580などがある。その他、金属製品として、鉄鏃？（刀子？）2184がある。

埋土一括（1526・1581～1587）

取上げ時に、層位の不明確になった資料である。個体数及び資料数の算出は、成し得ていない。ほぼ完存品の瓦器手捏土釜1526、土錘2155などがある。



第190図
ＳＤ424出土土製品実測図

製塩土器（1588～1625）

製塩土器は、全て丸底砲弾形と考えられ、下層で5.34個体（55点）、中層で6.29個体（67点）、上層で3.38個体（42点）を数える。詳細に見ると、胎土の精粗で６種類の違い（巻末の「出土遺物観察一覧　凡例」を参照）が認められる。層位を一括して、２類の0.5㎜以下の砂粒を極めて多量に含み、パサつくものが最も多く、77点（全体の47％を占める）を数える。次いで、３類の緻密な胎土に0.5～１㎜の砂粒を少量含むものが多く、40点（全体の24％）を数える。以下、６類が24点（15％）、１類が11点（７％）、４類が10点（６％）、５類が２点（１％）を数える。

ＳＤ４２５（第191・193～195・205・206図、表30、ＰＬ．99～102・152）

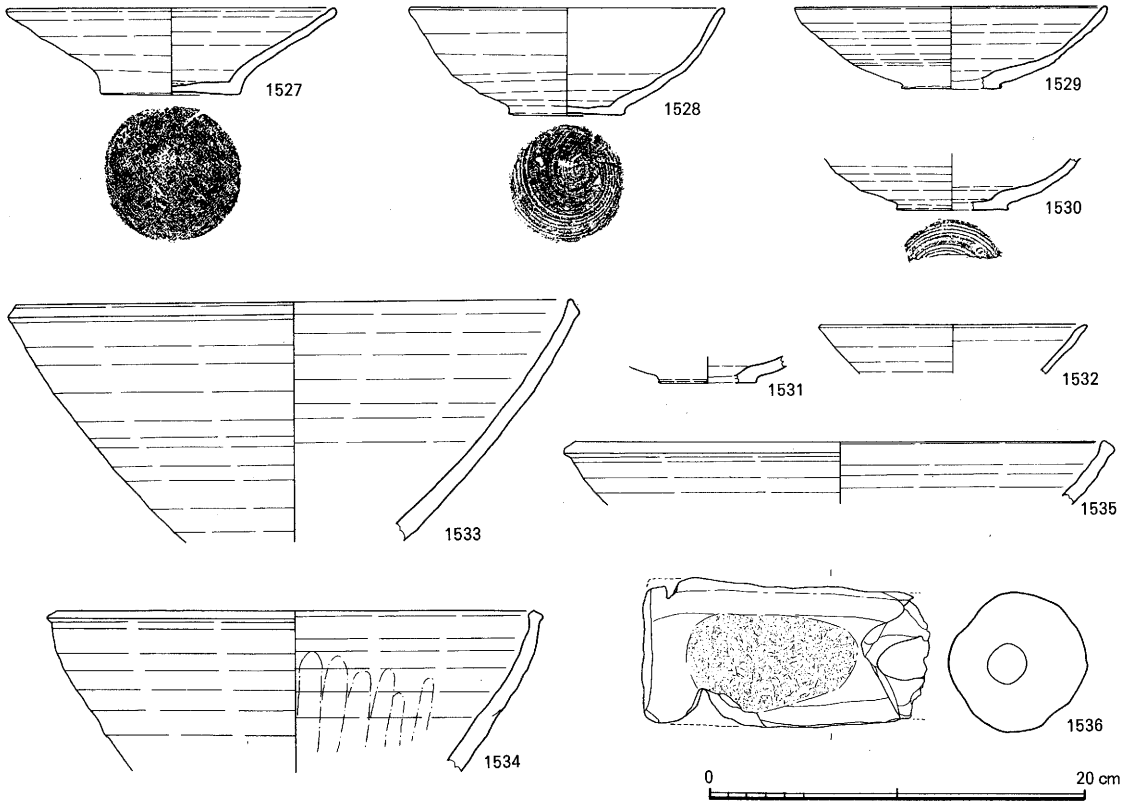
初現期の瓦器椀を含むものの、古代的な様相から中世的な様相へ移り変わる過渡期の一群が存在する。全体の資料数としてはまとまりがあるが、一部の資料の取上げにおいて下層・上層と区別する程度である。従って、大半の土器資料が埋土一括の状態で取上げられている。

下層（1536・1626～1644）

下層資料の口縁部計測法による個体数は、10.84個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計114点を数える。これらの内、黒色土器・瓦器椀が1.14個体（19点）、土師器皿・小皿、瓦器小皿が8.79個体（91点）を占める。資料の内訳は、土師器皿Ａ$_1$類・皿Ａ$_2$類1630・皿Ｂ$_1$類1631・皿Ｂ$_2$類1632・小皿Ａ$_2$類1642・小皿Ｂ$_1$類1637～1641・小皿Ｄ$_1$類1633・1634・小皿Ｄ$_2$類1635・1636・甕・土釜Ａ類、竈、瓦器椀Ａ類・椀Ｂ類・椀Ｃ類1627・椀Ｄ類1626・小皿、黒色土器Ａ類の椀、瓦質に近い状態の須恵器椀1643、須恵質捏鉢1644、鞴の羽口1536などがある。

上層（1645～1661）

上層資料の口縁部計測法による個体数は、11.45個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資



第191図　ＳＤ425出土土器・土製品実測図

料は、計116点を数える。これらの内、黒色土器・瓦器椀が2.95個体（24点）、土師器皿・小皿が8.5個体（87点）を占める。資料の内訳は、土師器皿Ａ$_1$類1651・皿Ａ$_2$類1652・皿Ｂ$_1$類1653・小皿Ｄ$_1$類1654・小皿Ｄ$_2$類1655・1656・小皿Ｂ$_1$類1657～1600・甕、瓦器椀Ａ類1648・1649・椀Ｂ類・椀Ｃ類1650、黒色土器Ａ類の椀ｂ類1645～1647、須恵質捏鉢1662、青磁碗1661などがある。

その他、鉄釘2197がある。

埋土一括（1527～1535・1663～1758）

埋土一括とした資料の口縁部計測法による個体数は、113.03個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計893点を数える。これらの内、黒色土器・瓦器椀が13.66個体（122点）、土師器皿・小皿、瓦器小皿が96.58個体（748点）を占める。

資料の内訳は、土師器椀・皿Ａ$_1$類1688～1691・皿Ａ$_2$類1692～1694・皿Ｂ$_1$類1695～1706・皿Ｄ類1683～1687・小皿Ａ$_1$類1727～1732・小皿Ａ$_2$類1733・1734・小皿Ｂ$_1$類1735～1751・小皿Ｄ$_1$類1707・1708・小皿Ｄ$_2$類1709～1716・小皿Ｄ$_3$類1717～1751（形態的に不明瞭な資料を含む）・甕1754～1757・結晶片岩を含み地元産とみられる土釜1752・1753・土釜Ａ類（４点）・菅原分類和泉Ｂ型（１片）、竈、黒色土器Ａ類の椀ｂ類、瓦器椀Ａ類1671・1672・椀Ｂ類1663～1667・椀Ｃ類1673～1679・椀Ｄ類1668～1670・小皿1680～1682、外面底部回転糸切りの土師器坏1527、瓦質に類似し、胎土の緻密な須恵質椀1528～1532・捏鉢1533～1535、須恵器壺・甕、白磁碗1758などがある。土師器坏や須恵質椀は、特徴的な技法・形態・胎土によって紀ノ川左岸の和歌山市秋月遺跡の出土資料に類例を求めることができる。土釜Ｂ類が１点あるが、混入と判断して構成比率から除外した。

その他、製塩土器（４点）、土錘（１点）、砥石2172などがある。

ＳＤ４２６（第196図、ＰＬ．103）

ＳＤ426からは、庄内式併行期の土器、土師器皿Ｂ類・皿Ｄ類1761・小皿Ａ$_1$類1763・小皿Ｄ$_3$類1762・土釜Ａ類1765、黒色土器Ａ類の椀、白磁碗1764などがある。全体の資料数は、８袋と少量である。

ＳＤ４２８（第196図、ＰＬ．103）

ＳＤ428からは、土師器椀・皿Ｂ類・皿Ｄ類1767・小皿Ｄ$_1$類1768・1769・小皿Ｄ$_2$類1770・土釜Ａ類、土釜Ｂ類に類似する形態で鍔の長い鍋、瓦器椀、黒色土器Ａ類の椀、白磁碗1771・1772、外面格子タタキの施された須恵器甕などがある。全体の資料数は、９袋と少量である。

ＳＤ４２９（第196図）

ＳＤ429からは、コンテナ１箱のややまとまった量の資料があるが、異なる遺構の重複と考えられる弥生・古墳時代の土器や平安時代前期の鍋・製塩土器を多く含む。資料の内訳は、土師器椀ｂ類1773・1774・皿1775・皿Ｄ類1776・1777・小皿Ｄ$_2$類1778・小皿Ｄ$_3$類1779・1780・甕1781・1782、黒色土器Ａ類の椀、須恵質椀1783などがある。

ＳＤ４３５（第196図）

ＳＤ435からは、土師器小皿Ｂ$_1$類1785・小皿Ｄ$_3$類1784・土釜Ａ類（鍔高５㎜）、瓦器椀、黒色土器Ａ類の椀などがある。全体の資料数は、１袋とごく少量である。

ＳＤ４４０（第196図、ＰＬ．103）

ＳＤ440からは、小破片が多く、比較的古相の他段階の資料が含まれている。資料の内訳は、土師器皿Ａ$_1$類1790・皿Ｃ類1791～1793・小皿Ａ$_1$類1794～1796・小皿Ｂ$_1$類1797、瓦器椀Ｃ類1786・1787、黒色土器Ａ類の椀などがある。全体の資料数は、５袋と少量である。

ＳＤ４４７（第197・204図）

ＳＤ447からは、土師器小皿Ａ$_1$類1829・1830・土釜Ａ類1833、瓦器椀Ｃ類1824～1826・小皿1827～1829、瓦質土釜Ｃ類、青磁碗1832、常滑、土錘2154などがある。全体の資料数は、８袋と少量である。

ＳＤ４５０（第197・204図、ＰＬ．103・151）

ＳＤ450からは、遺物の取り上げに際して下層・中層・上層と区別されたコンテナ２箱のややまとまった資料があるが、大半が砕片化した土器資料である。層位によって、資料の時期差が存在するが、ここでは一括して扱った。資料の内訳は、土師器皿Ａ$_1$類1838・1839・皿Ｂ$_1$類1841・1842・皿Ｃ類1840・皿Ｅ類1844・皿薄丸大1843・小皿Ａ$_1$類1845・小皿Ｆ類1846・土釜Ａ類1847～1851、高台の形骸化した瓦器椀Ｃ類1834～1837などがある。その他、凹面布目・凸面縄目の平瓦2158・2160がある。

ＳＤ４５２（第198・199・206図、表31、ＰＬ．104・105）

ＳＤ452からは、ややまとまった量の資料があるが、他段階の資料が含まれている。埋土一括とした資料の口縁部計測法による個体数は、47.59個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計369点を数える。これらの内、瓦器椀が18.67個体（181点）、土師器皿・小皿、瓦器小皿が28.13個体（177点）を占める。資料の内訳は、土師器皿Ａ$_1$類1884～1886・皿Ｃ類1887～1895・小皿Ａ$_1$類1897～1911・小皿Ｃ類1913～1916・小皿Ｆ類1917・1918・土釜Ａ類・Ｂ類（１点）、古い段階の資料を含む瓦器椀Ｂ類1852・1853・椀Ｃ類1857～1879・椀Ｄ類1854～1856・小皿1880～1882、須恵器・瓦質甕1920、須恵質捏鉢1919、陶器壺、青磁皿1921・1922などがある。

土師器の内、土釜Ｂ類としては、ＳＤ452からの出土が初現期の資料となる。構成比率の数量から、古い段階の土師器皿Ｂ$_1$類（３点）・皿Ｄ類（11点）1883・小皿Ａ$_2$類（１点）1912・小皿Ｂ$_1$類（10点）・小皿Ｄ類（14点）1896などは除外した。その他、鉄釘2193がある。

ＳＤ４５３（第199図、ＰＬ．105）

ＳＤ453からは、土師器皿Ａ$_1$類1939～1941・皿Ａ$_2$類1942・皿Ｃ類1943・1944・小皿Ａ$_1$類1945～1948・小皿Ｃ類1949・小皿Ｂ$_1$類1950・土釜Ａ類1951、瓦器椀Ｂ類1923・椀Ｃ類1924～1936・小皿1937・1938、須恵質捏鉢、白磁1952などがある。全体の資料数は、11袋あるが他段階の資料が含まれている。その他、土錘、平瓦がある。

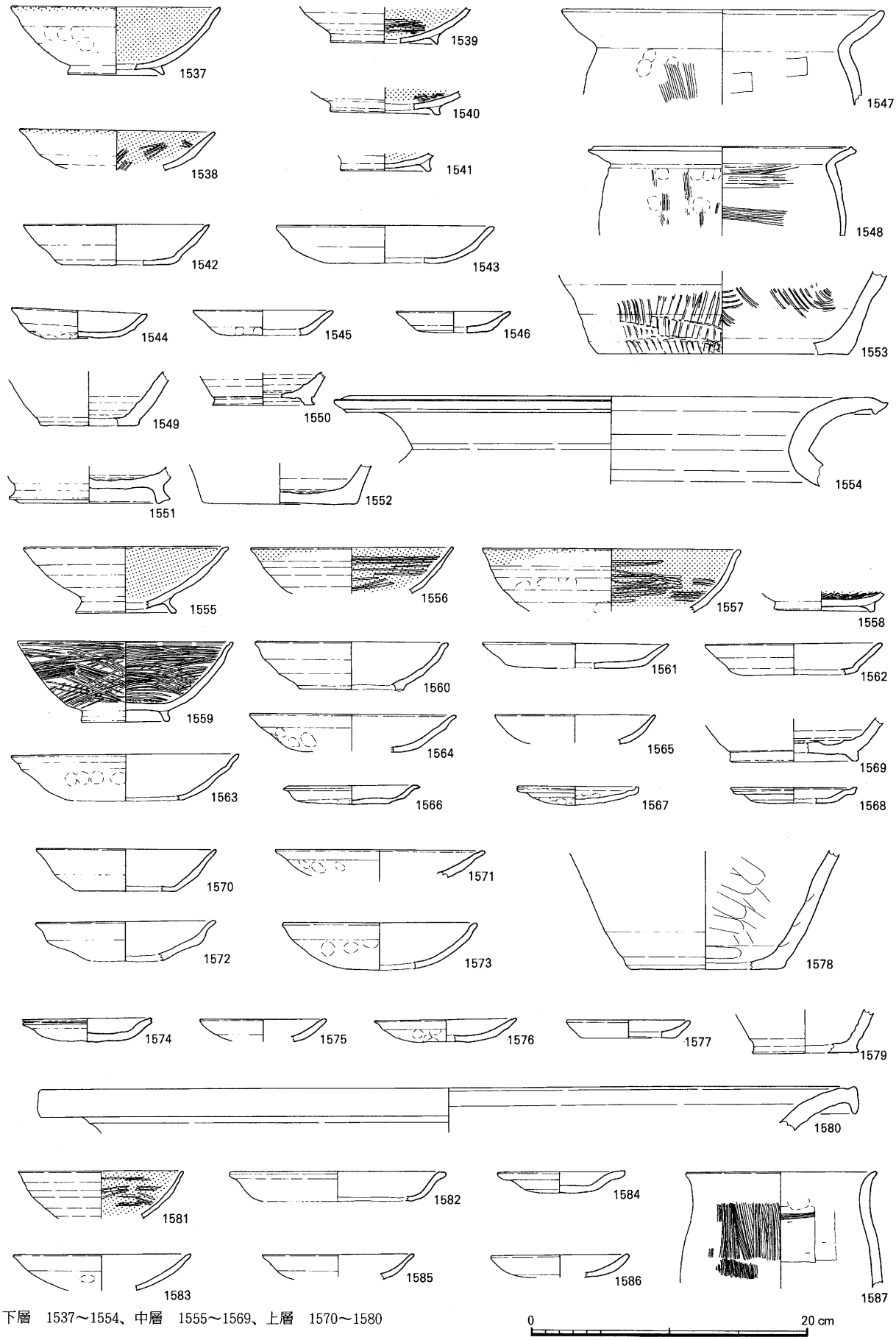
ＳＤ４６９（第200・205図、表32、ＰＬ．105・152）

ＳＤ469からは、ややまとまった量の資料があるが、平安時代前期や瓦器椀の伴う時期の資料が混在する状況にある。口縁部計測法による個体数は、5.96個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計57点を数える。これらの内、土師器皿・小皿が3.5個体（28点）を占める。この段階の一群の資料から、椀形態の資料を見出すことができない。資料の内訳は、土師器皿1960・皿大平1962・1963・小皿Ａ$_2$類1961・小皿小平1964～1968・土釜Ａ類1969～1974・捏鉢1978、瓦質土釜Ｃ類1975～1977・甕1979・1980、須恵質捏鉢1981～1983、備前擂鉢1984、青磁碗1985～1987、白磁皿1988などがある。

構成比率の数量から、瓦器椀Ｃ類1954～1958・椀Ｄ類1953などの古い段階の資料は除外した。所属時期を明確にできなかったが土師器土製支脚も混在している。その他、上層で砥石2163がある。

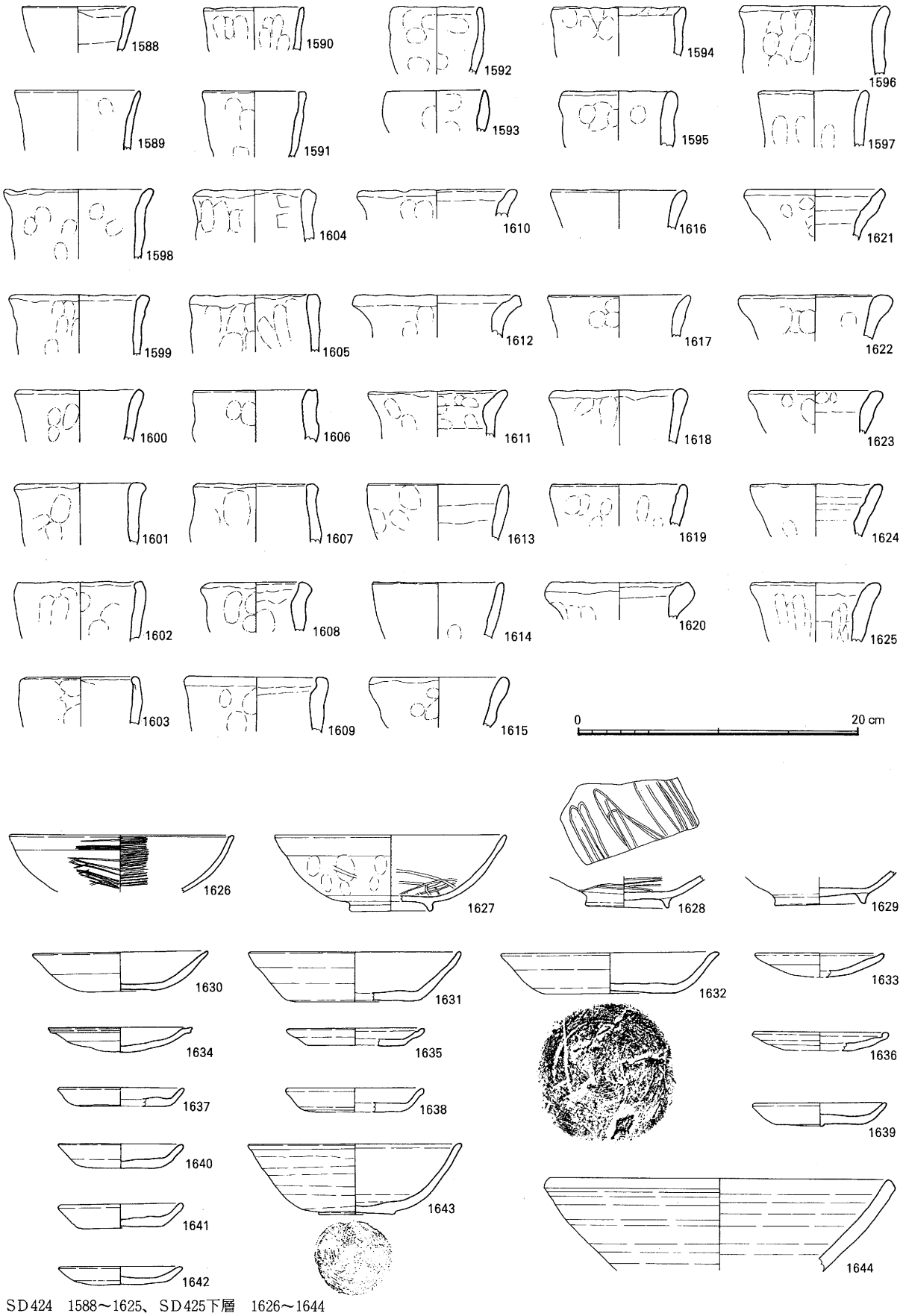
ＳＤ４７０（第201図）

ＳＤ470からは、コンテナ1箱の資料があるが、他段階の資料が多く含まれている。資料の内訳は、土師器皿薄丸大1992・皿大平1994・小皿Ｂ$_1$類1989～1991・小皿小丸1993・小皿ＮＧタイプ1995・土釜Ａ類1997、瓦器椀、瓦質土釜Ｃ類1998、備前擂鉢1999、青磁碗2000、須恵器甕、丸瓦などがある。



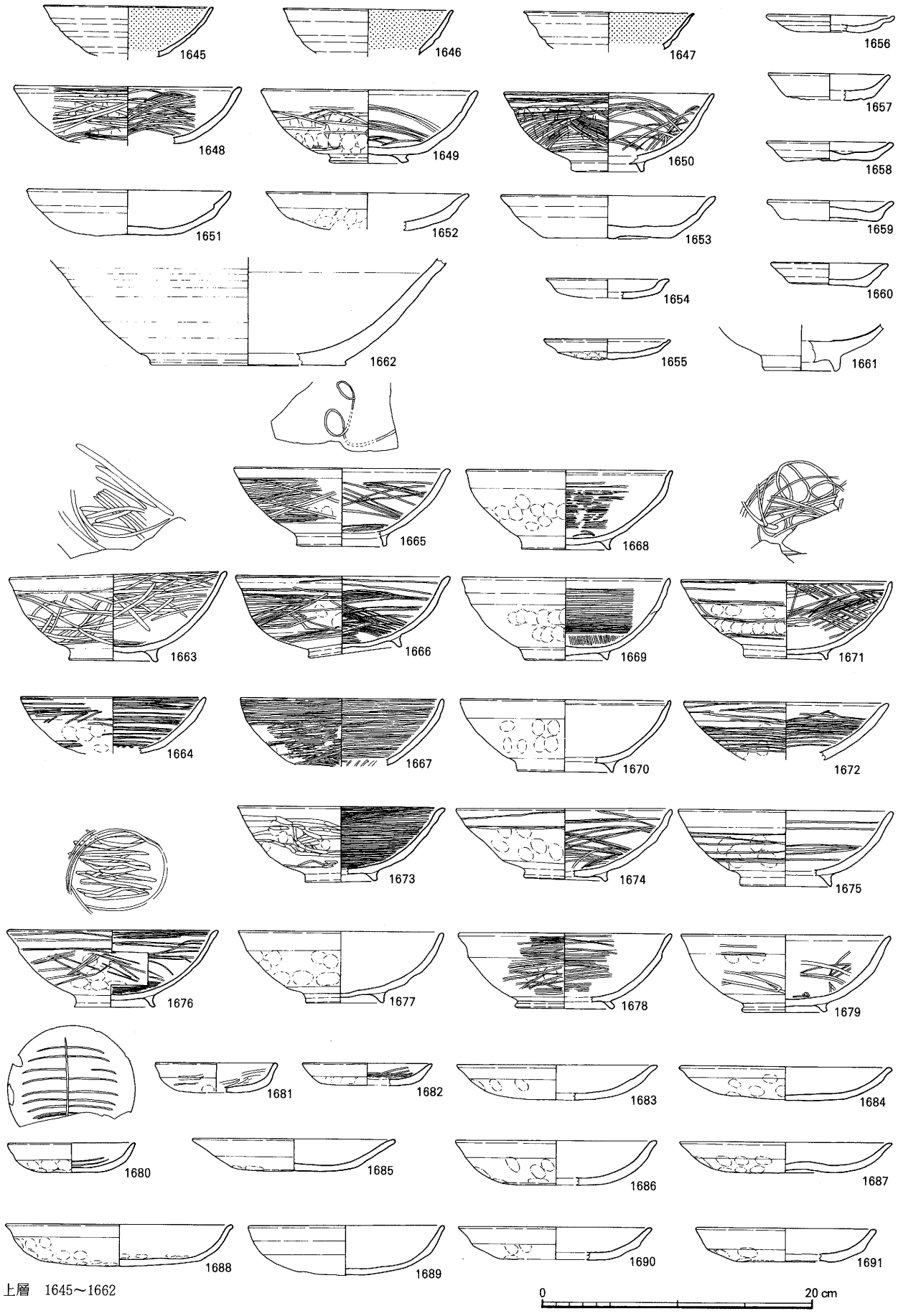
下層　1537～1554、中層　1555～1569、上層　1570～1580

第192図　ＳＤ424出土土器実測図



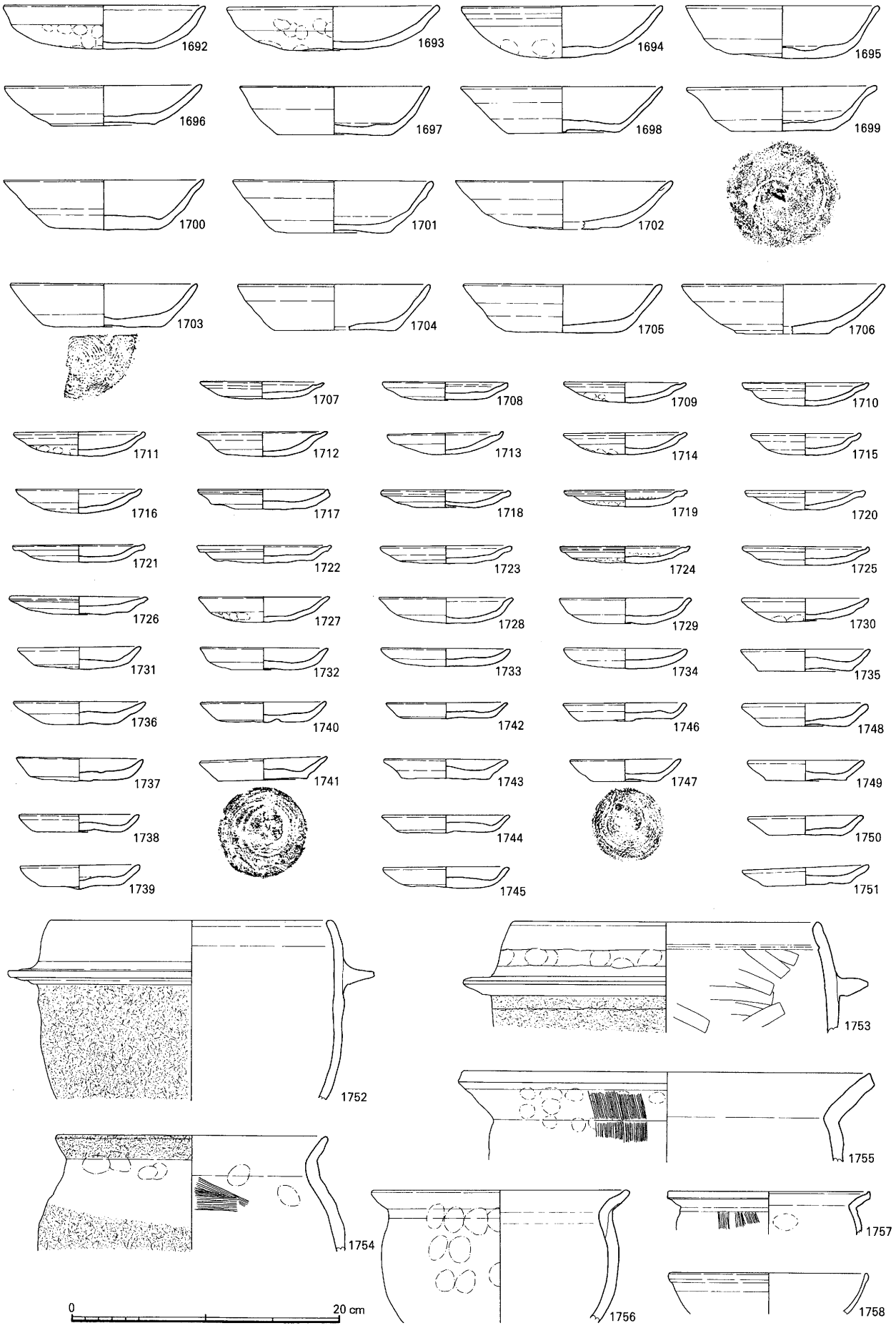
SD424　1588～1625、SD425下層　1626～1644

第193図　ＳＤ424・425出土土器実測図

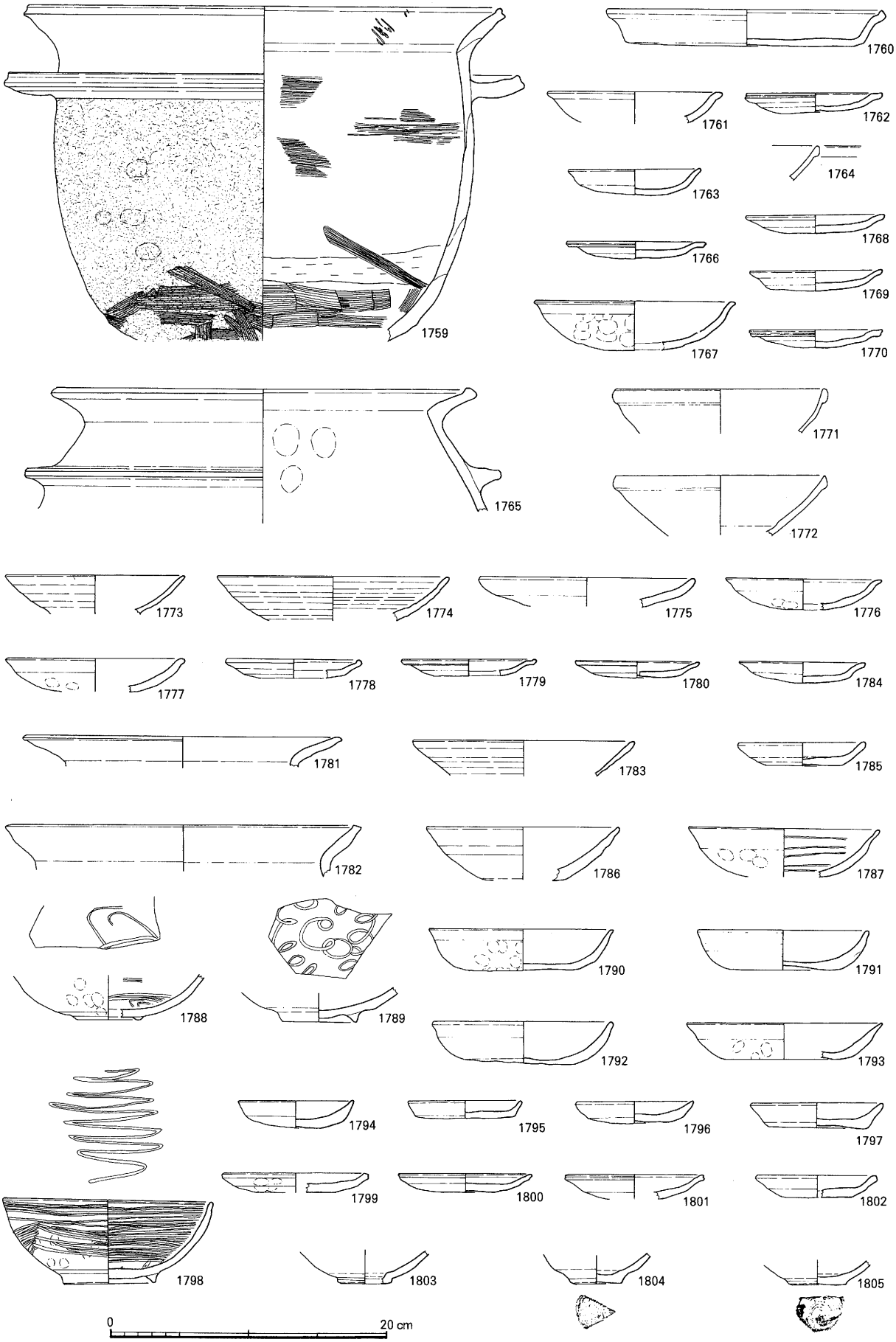


上層　1645～1662

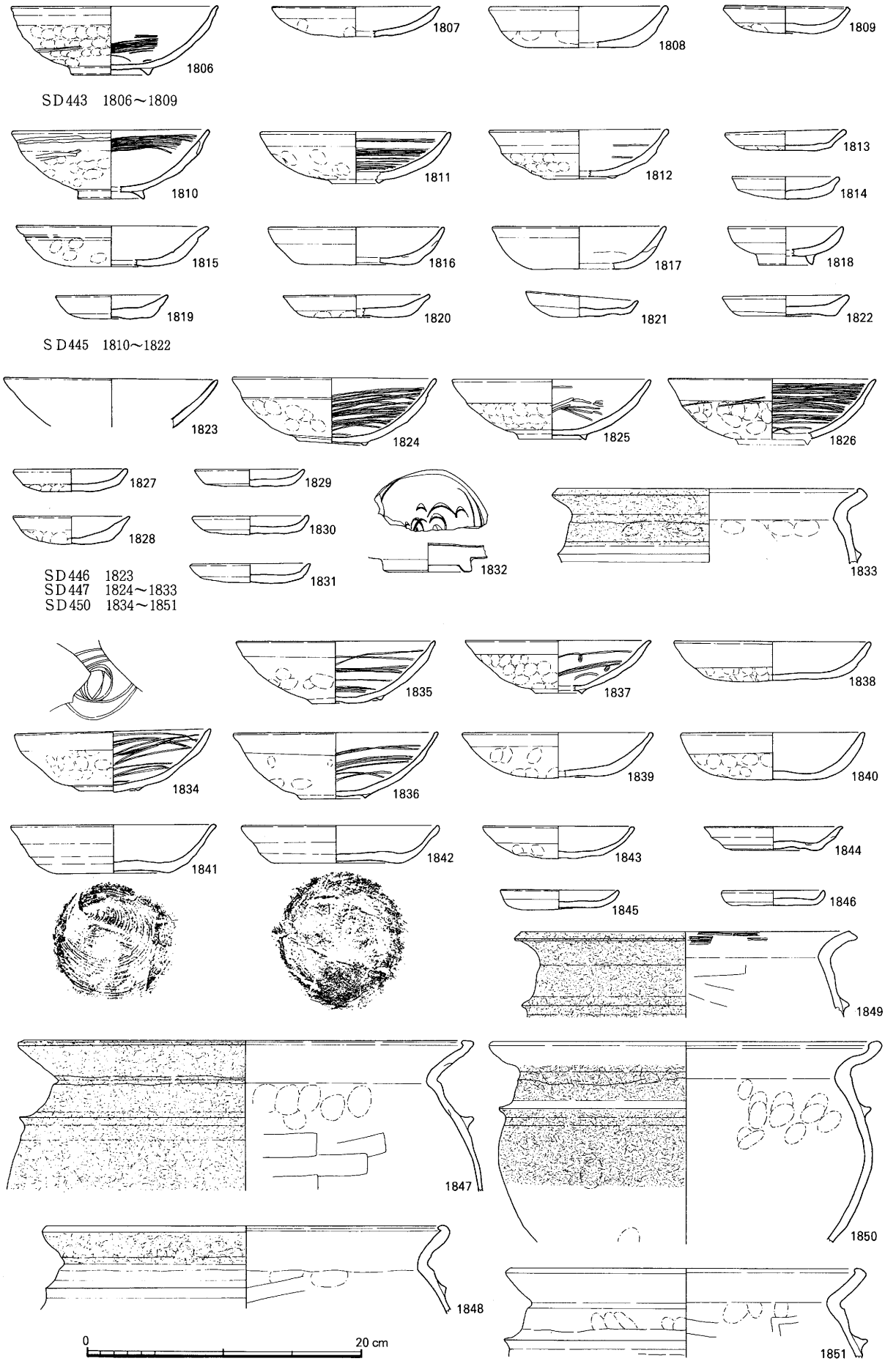
第194図　ＳＤ425出土土器実測図



第195図　ＳＤ425出土土器実測図



第196図　ＳＤ271・277・426・428・429・435・440・441出土土器実測図

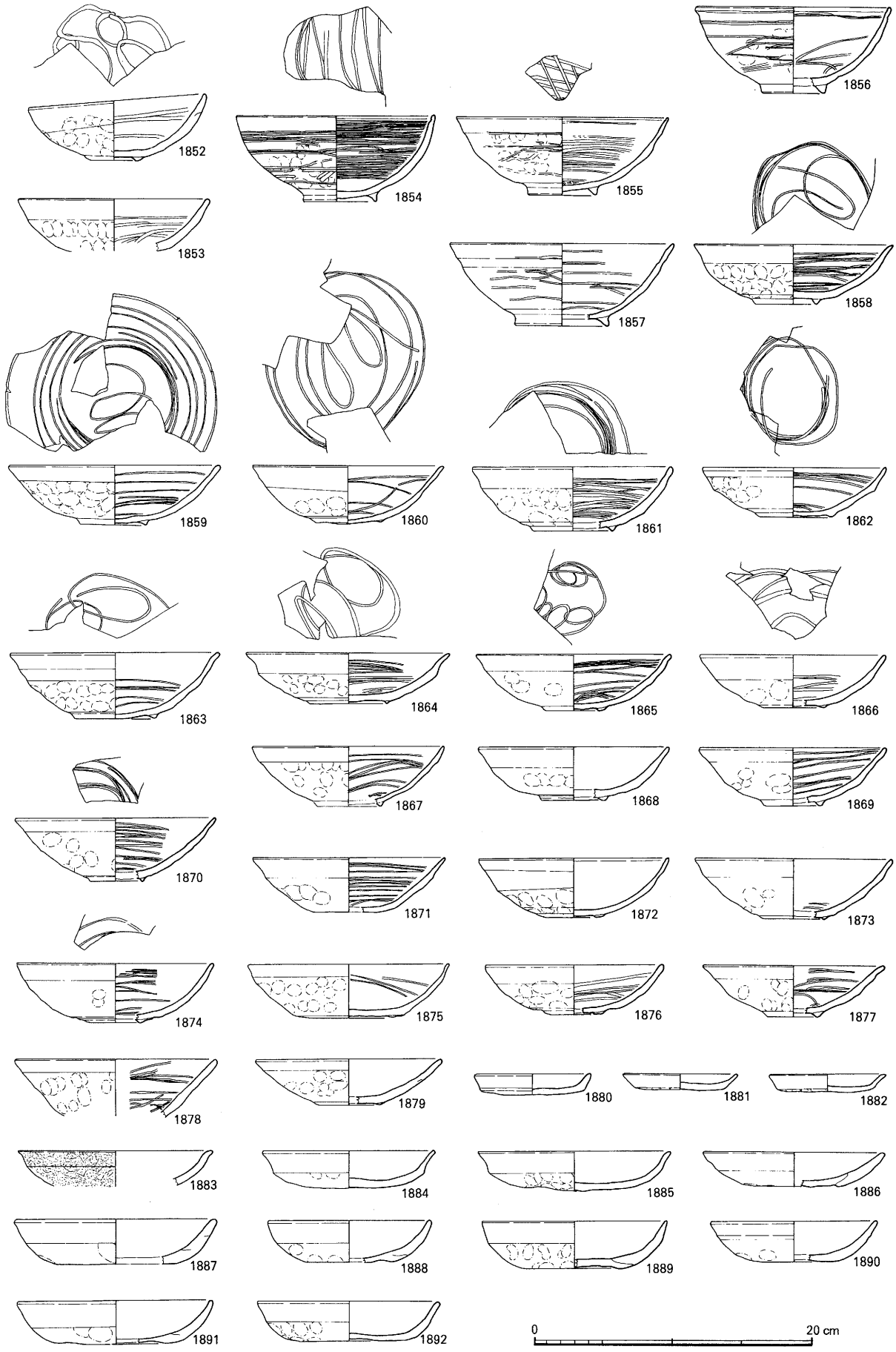


SD443　1806～1809

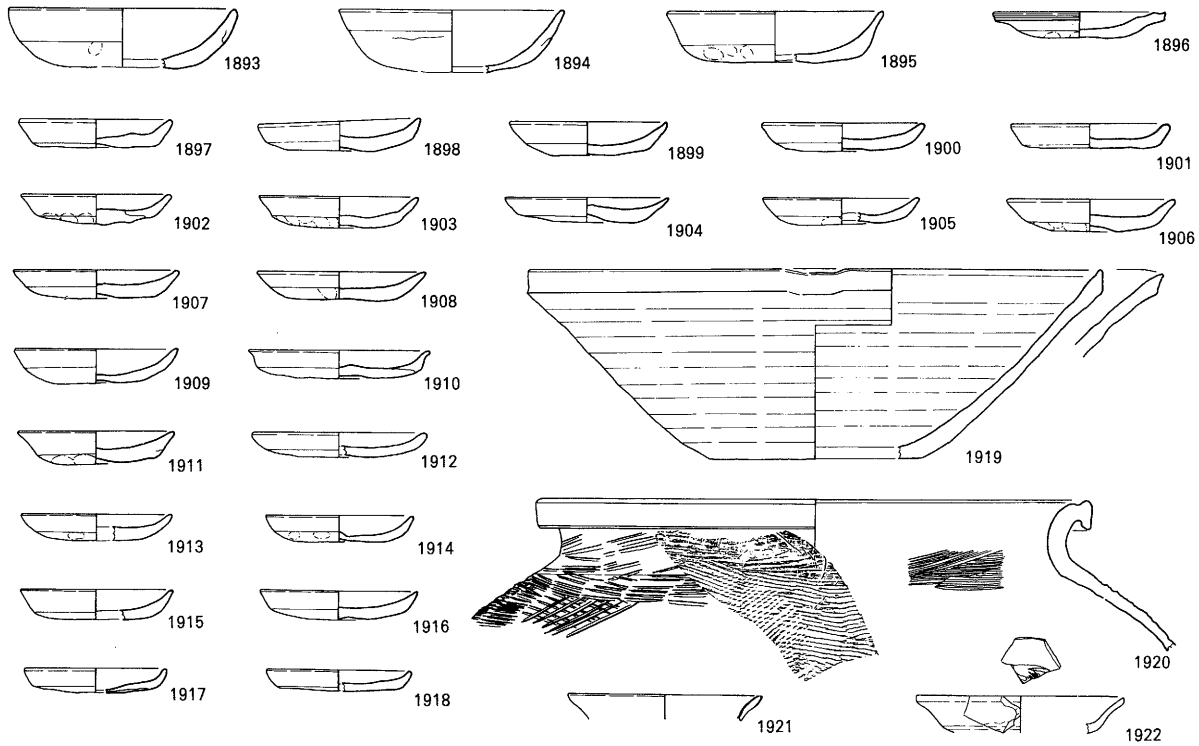
SD445　1810～1822

SD446　1823
SD447　1824～1833
SD450　1834～1851

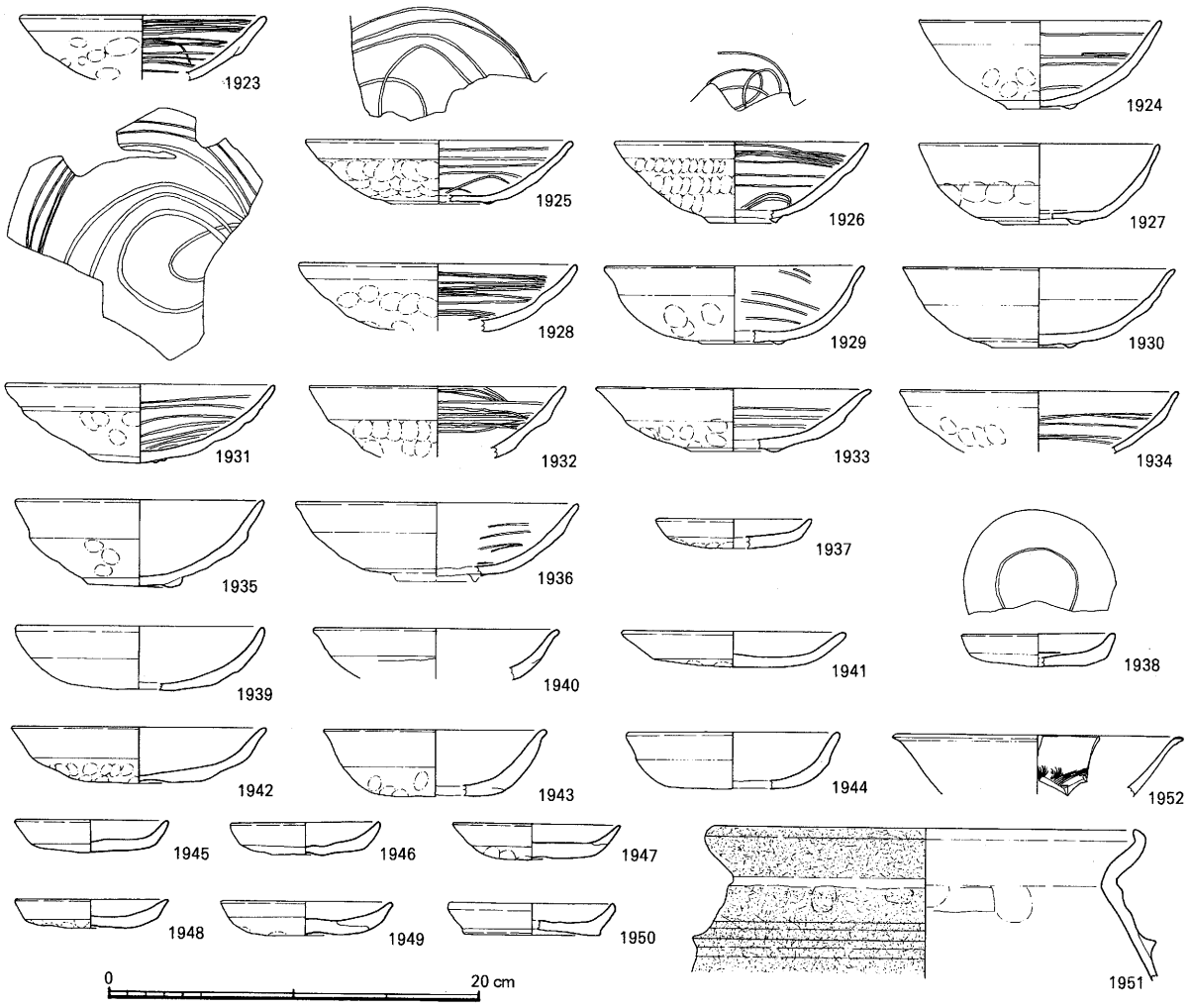
第197図　SD443・445・446・447・450出土土器実測図



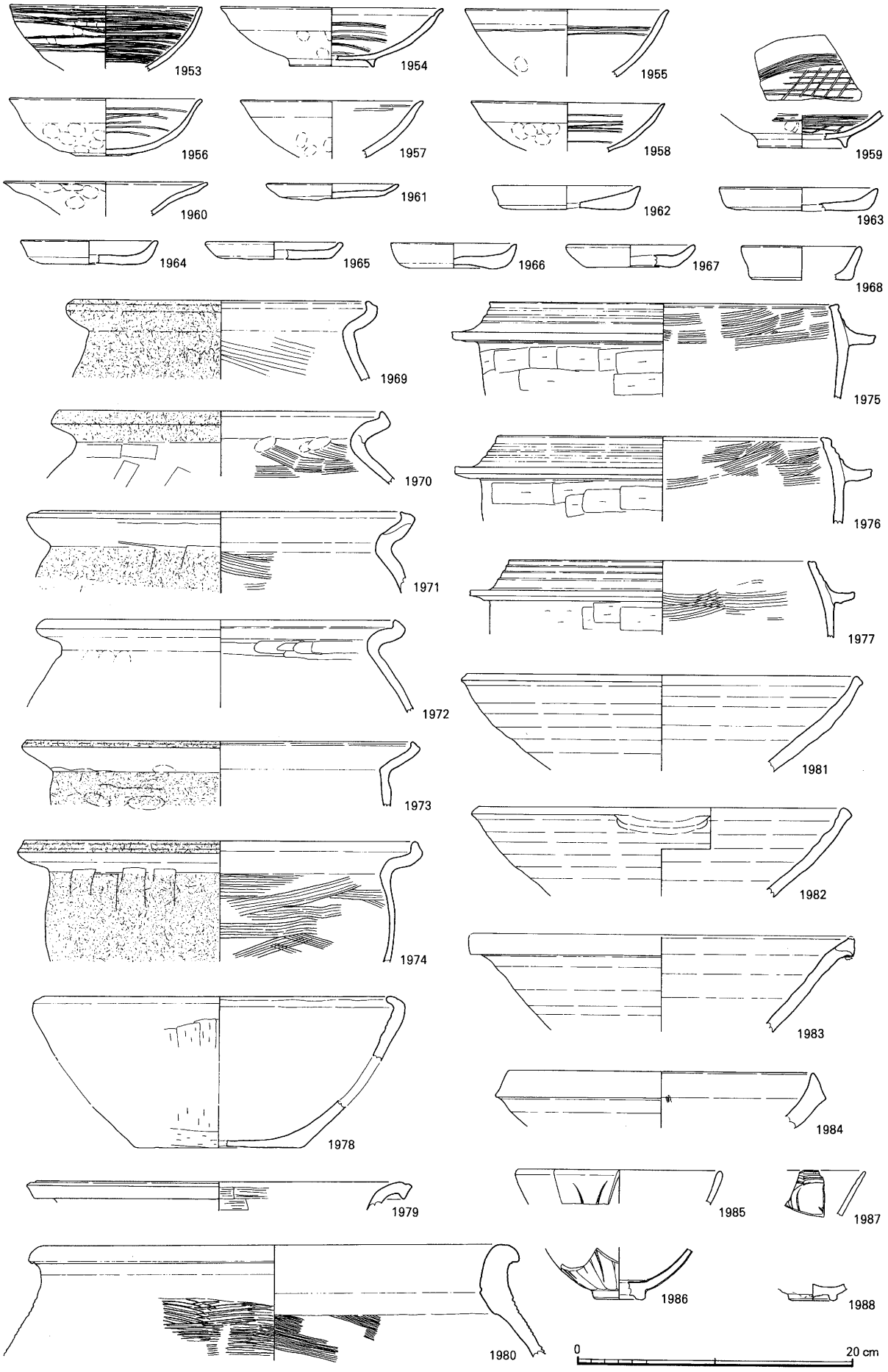
第198図　ＳＤ452出土土器実測図



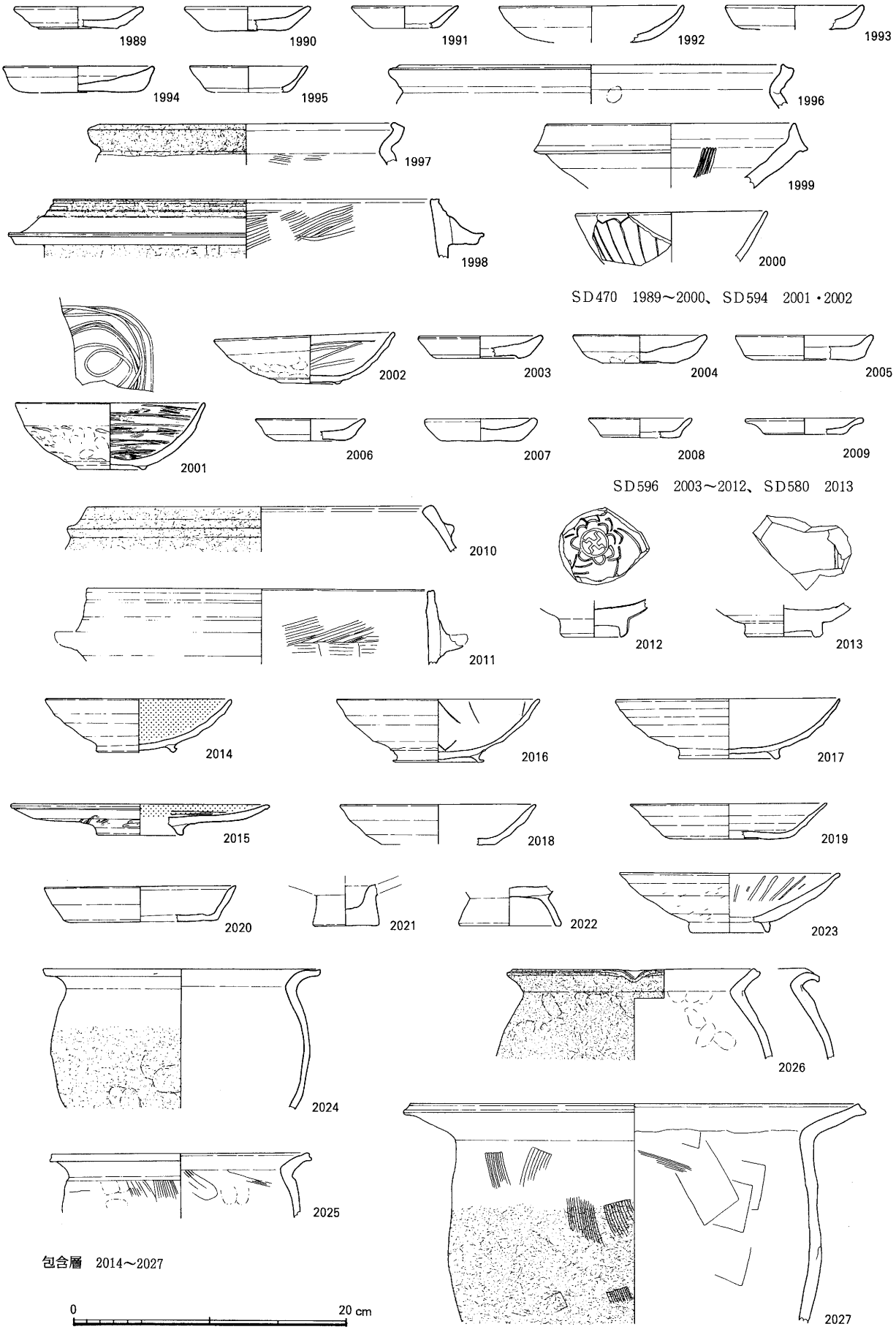
SD452　1893～1922、SD453　1923～1925



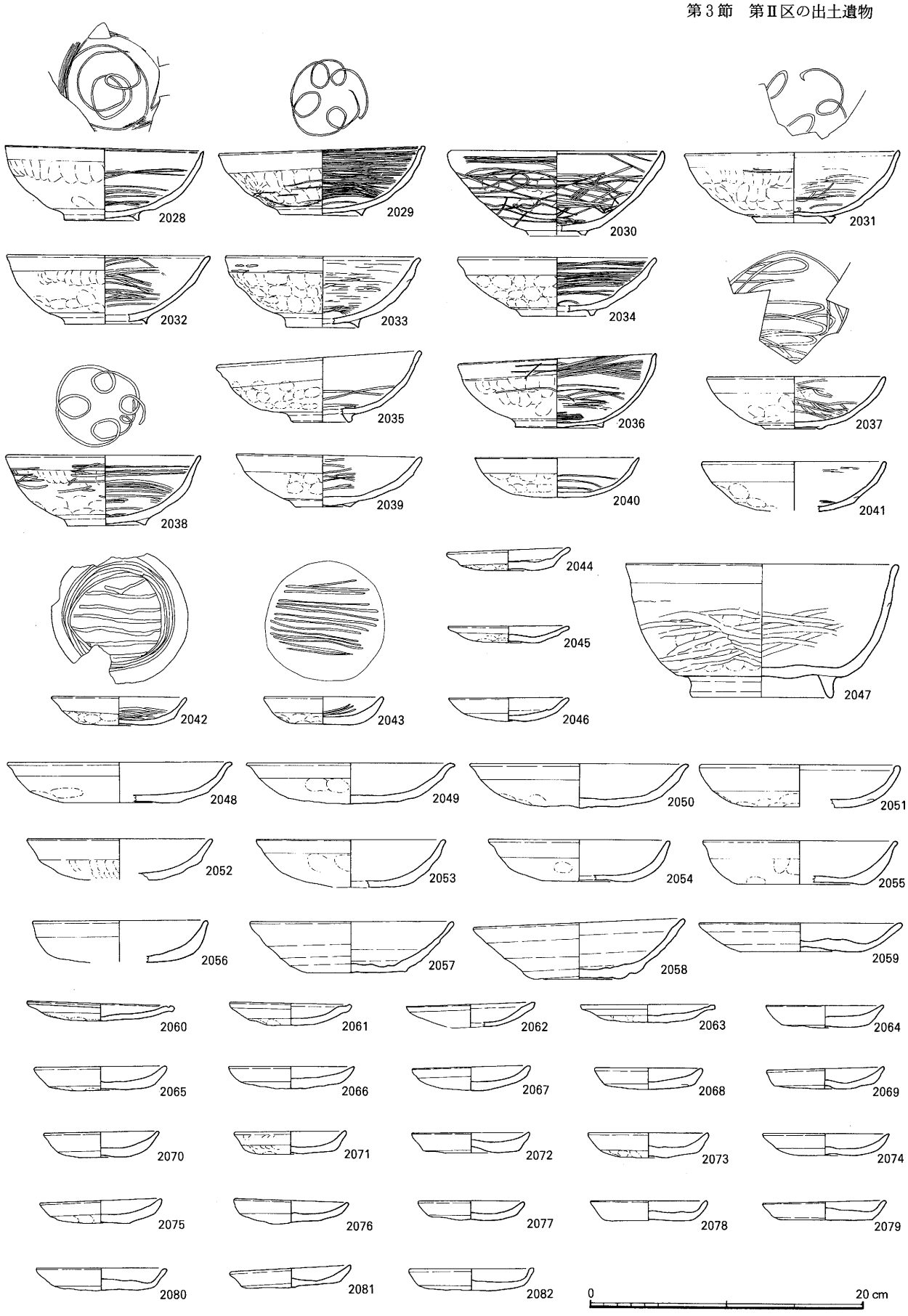
第199図　ＳＤ452・453出土土器実測図



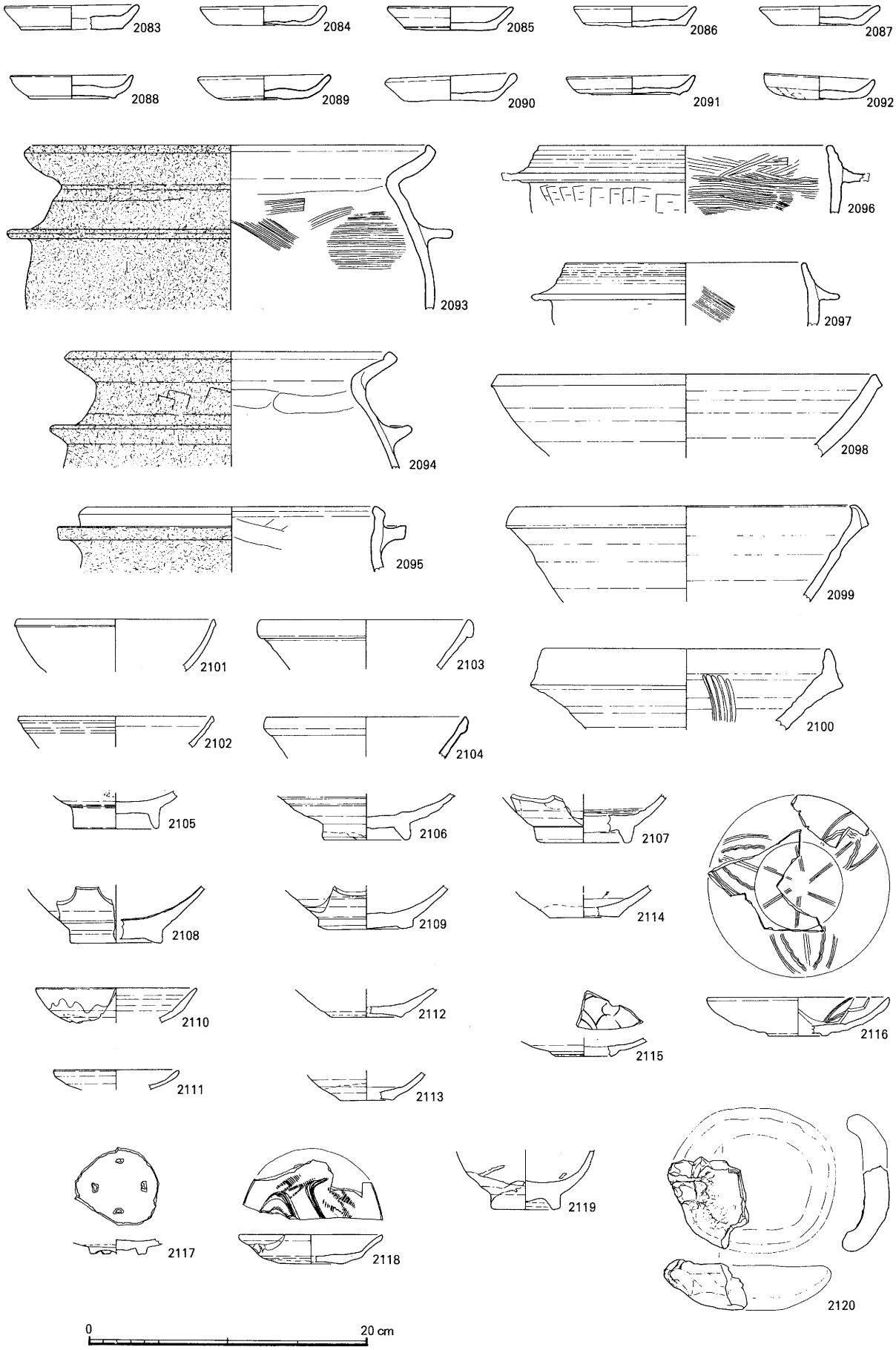
第200図　ＳＤ469出土土器実測図



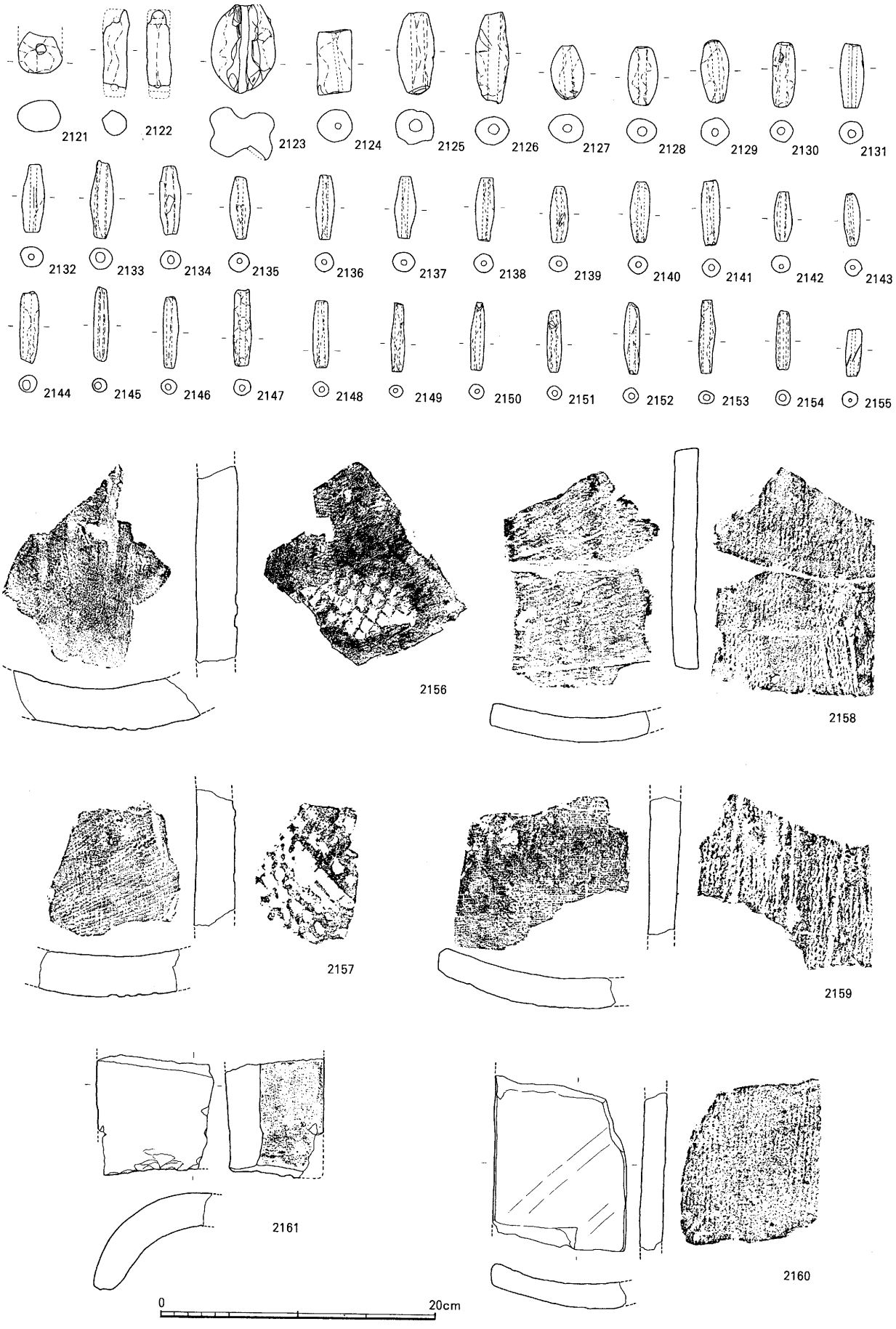
第201図　ＳＤ470・580・594・596・第Ⅱ区包含層出土土器実測図



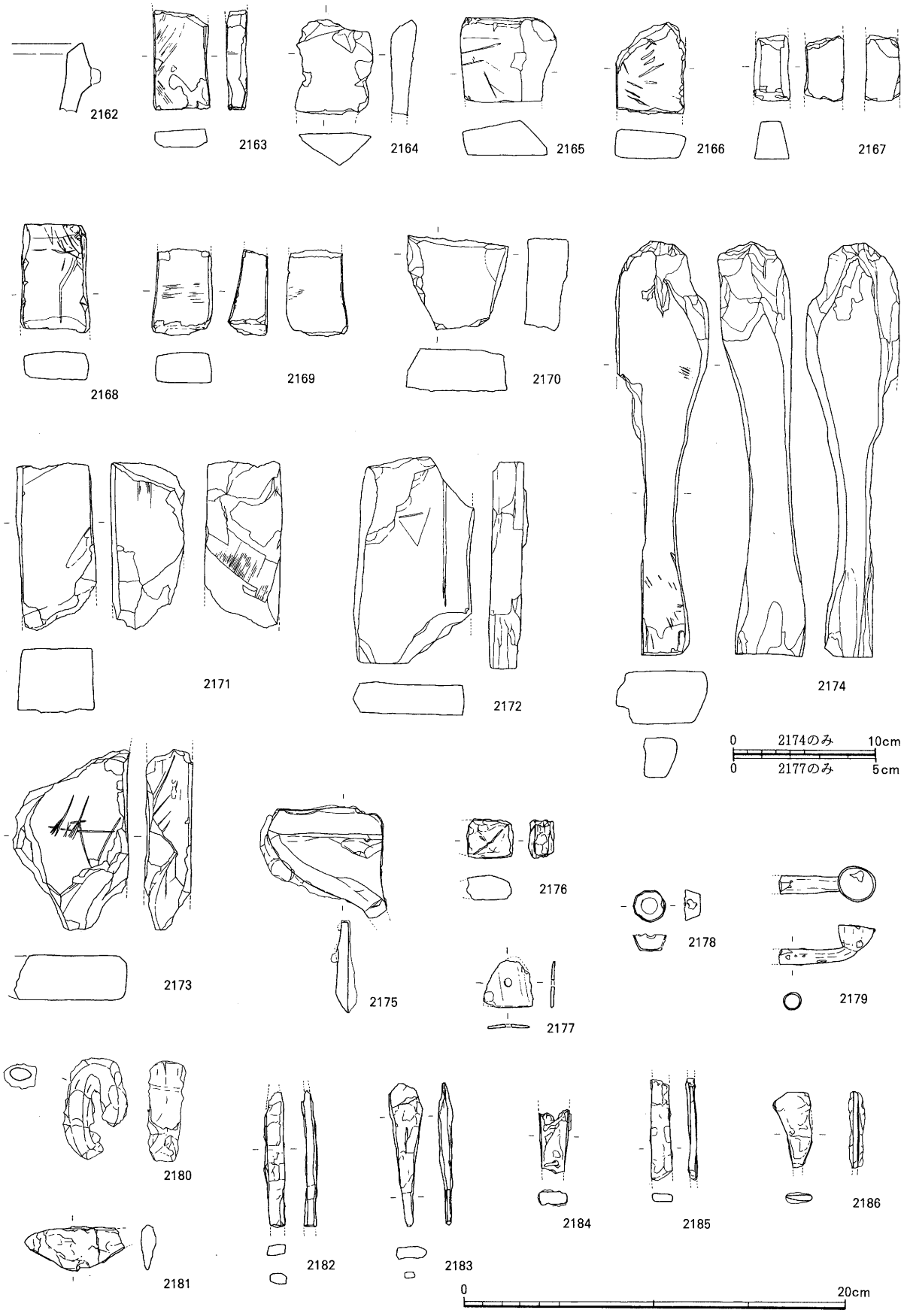
第202図　第Ⅱ区包含層出土土器実測図



第203図　第Ⅱ区包含層出土土器・土製品実測図



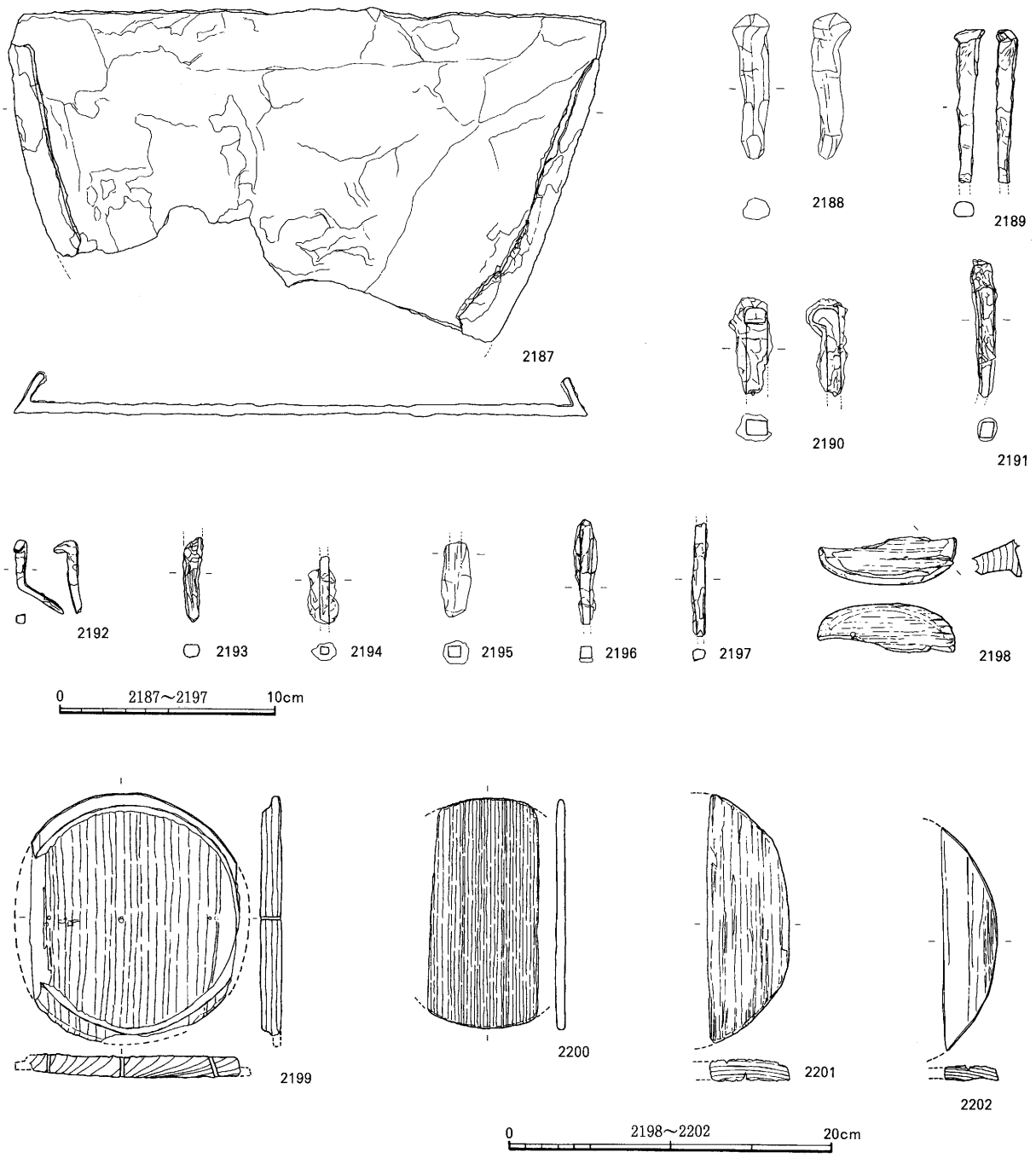
第204図　第Ⅱ区遺構・包含層出土土錘・瓦実測図



第205図　第Ⅱ区出土平安～江戸時代石製品・金属製品実測図

その他、ＳＤ４４１（第196図、ＰＬ．103）全体の資料数は、５袋と少量である。ＳＤ４４３（第197・206図、ＰＬ．154）全体の資料数は、10袋あるが他段階の資料が含まれている。ＳＤ４４５（第197・205図、ＰＬ．103）全体の資料数は、８袋と少量である。他段階の資料が含まれている。ＳＤ５８０（第201図）全体の資料数は、１袋とごく少量である。ＳＤ５９４（第201図、ＰＬ．105）ＭＴ85型式の須恵器坏身１点と瓦器椀Ｃ類2001・2002がある。ＳＤ５９６（第201・205図、ＰＬ．154）15世紀後半代の資料と共に、ＭＴ85型式の須恵器坏身１点・甕がある。全体の資料数は、６袋と少量である。

以上、一括して取上げられた溝の資料で、異なる他段階の資料が多く含まれるものが存在する。これらの資料は、単なる混在なのか、それとも溝の機能時期と埋没時期の段階を表しているのか判断しがたいものである。各資料の取上げ層位については、巻末の「出土遺物観察一覧」を参照されたい。



第206図　第Ⅱ区出土平安～江戸時代金属製品・木製品実測図

第4節　第Ⅲ区の出土遺物

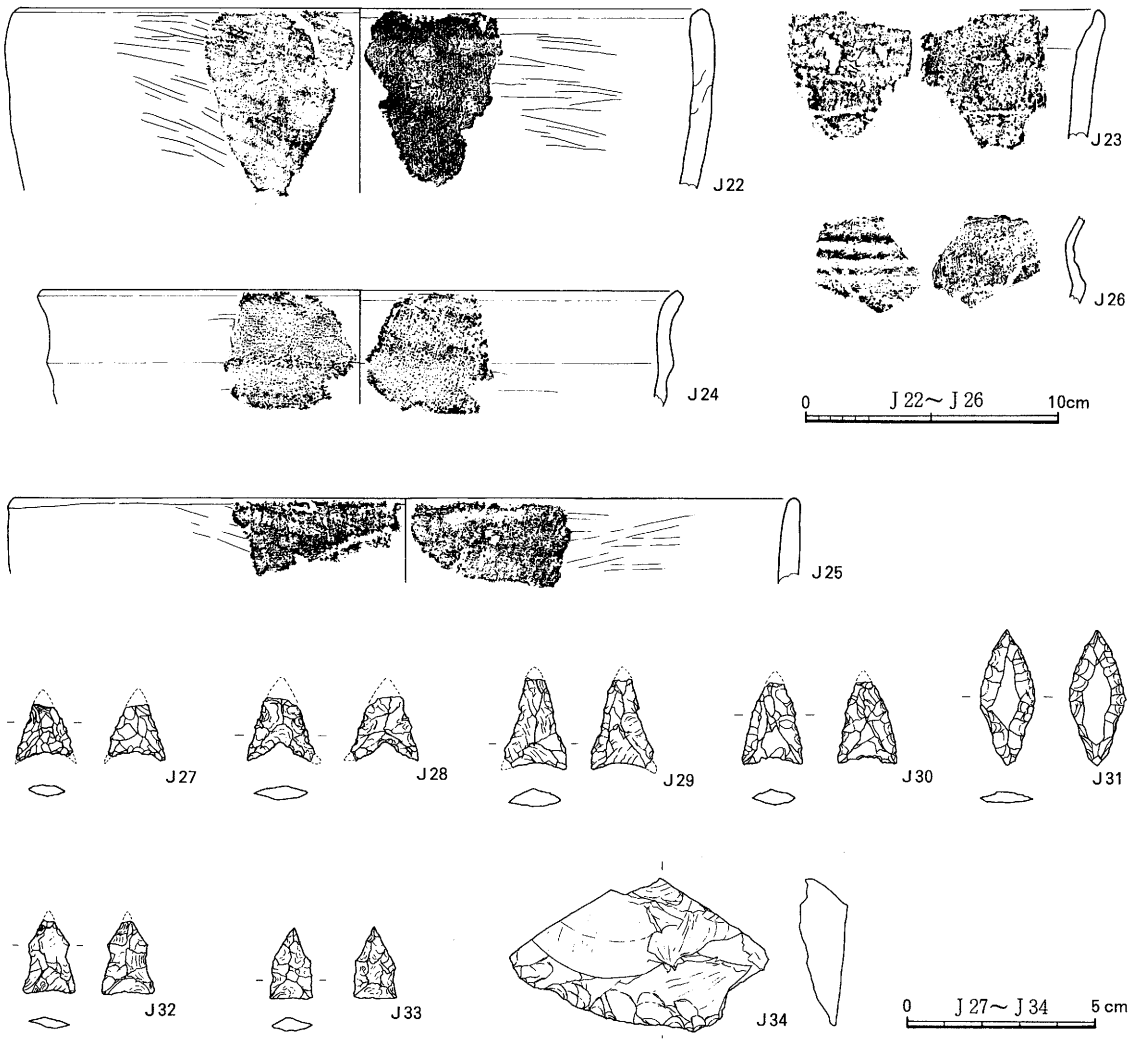
第Ⅲ区の出土遺物の主体は、弥生時代後期～古墳時代前期、室町時代の土器類である。他に、少量の奈良時代・平安～鎌倉時代・江戸時代前期の土器と若干量の晩期縄文土器や上記の時代に伴う、石器・金属製品などがある。室町時代の資料は、第Ⅰ区出土資料と対比できる数量が整っている。

1　縄文時代（第207図、ＰＬ．147）

縄文時代の遺物は、竪穴住居・溝・遺物包含層などの遺物に混じって、土器・石器が微量出土している。土器はいずれも小破片で、後期末ないしは晩期初頭に属するものである。

縄文土器は各々の形態的特徴からＪ23は滋賀里Ⅰ式、Ｊ24は滋賀里Ⅰ式ないしはⅡ式に、Ｊ26は元住吉山Ⅱ式ないしは宮滝式に比定される浅鉢である。Ｊ22・25は縄文時代晩期前半の粗製深鉢である。

石器は8点出土し、石材は全てサヌカイトである。Ｊ27～Ｊ30は凹基無茎式で、いずれも抉りの浅いものである。Ｊ31は凸基無茎式に、Ｊ32・33はいわゆる五角形鏃に属するものである。J34は刃部の調整の粗い、肉厚の削器で、背面の細部調整加工が殆んど成されていない。



第207図　第Ⅲ区出土縄文土器・石器実測図

２　弥生・古墳時代

第Ⅲ区の弥生～古墳時代の遺物は、竪穴住居・溝などに集中してみられる。特に、弥生時代後期の溝出土資料は、完存品が多く、土器の形態・器種構成を探る点において良好なまとまりを見せるものである。

（１）竪穴住居

竪穴住居の資料は、第Ⅱ区と同様の基準により取り扱っている。全体の様相として、第Ⅱ区の資料に比べて、若干後出する要素が強いように見受けられる。また、土器から見た集落の様相も短命に終焉を迎える。

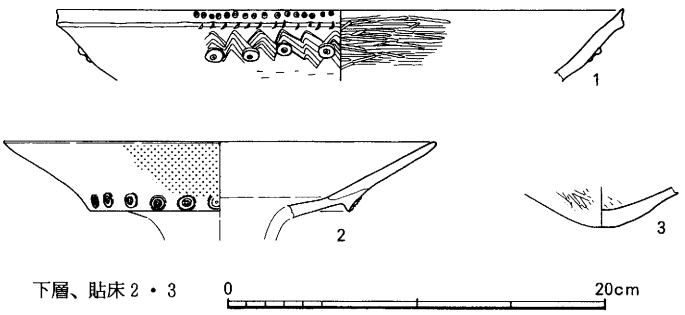
ＳＩ６０１（第209・244図、表28、ＰＬ．107・150）

ＳＩ601から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・柱穴（ＦＰ：略号は、巻末の「出土遺物観察一覧　凡例」を参照）で30点、埋土一括で34点、計64点を数える。第ⅢＣ区の範囲では最も古い一群に属する竪穴住居の資料がある。床面直上の資料として、広口壺Ａ類４、広口壺Ｂ類６、安定感のある広口長頸壺５、加飾のない二重口縁壺７、細頸壺８、甕Ａ類９～11、高坏Ａ類14、高坏Ｂ類15・16、鉢Ｂ類13、器台17などがある。柱穴の資料として、外面タタキの後、ハケ状工具によるナデの認められる甕Ａ類９がある。埋土一括の資料として、広口壺Ａ類18・19、広口壺Ｂ類20・21、小形壺22、甕Ａ類23、高坏Ａ類24、高坏Ｂ類25などがある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（ＦＰ）で有３点・無０点、埋土一括で有３点・無０点、甕Ｂ類が（ＦＰ）で有１点・無４点、埋土一括で有０点・無７点となる。

その他、脚台Ａ類が（Ｆ）で３点、埋土一括で８点出土している。鉄製品として、釣針663がある。

ＳＩ６０２（第208・210図、表28、ＰＬ．108）

ＳＩ602から出土した器種構成比率に対応できる資料は、貼床・柱穴・炉・ベッド下（ＨＰＲ）で38点、埋土下層・中層・上層（ＢＣＤ）で263点、計301点を数える。二重口縁壺１は埋土下層から、二重口縁壺２・甕底部３は貼床から出土した資料であるが、他の同一層位の資料との時期的な差が認められるため、異なる遺構の重複した可能性が考えられる。貼床・柱穴の資料として、甕Ｂ類28、高坏Ａ類29、高坏Ｂ類30・31などがある。ベッド下の資料として、広口壺Ｂ類37・41などがある。埋土下層・中層・上層の資料として、広口壺Ａ類32～34、広口壺Ｂ類35・36・38～42、長頸壺43、甕Ａ類44～48、甕Ｂ類49、鉢Ａ類50、高坏Ａ類51・52、高坏Ｂ類53・54、甑57、器台Ｂ類58などがある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（ＨＰＲ）で有１点・無１点、（ＢＣＤ）で有22点・無13点、甕Ｂ類が（ＨＰＲ）で有０点・無６点、（ＢＣＤ）で有１点・無41点となる。



第208図　ＳＩ602出土土器実測図

その他、脚台Ａ類が（ＨＰＲ）で６点、（ＢＣＤ）で31点、脚台Ｂ類が（ＨＰＲ）で１点、（ＢＣＤ）で10点、脚台Ｃ類が（ＢＣＤ）で２点出土している。

ＳＩ６０３（第211図、ＰＬ．108）

ＳＩ603から出土した器種構成比率に対応できる資料は、埋土一括で26点を数えるのみである。図化できた資料は僅かで、広口壺Ａ類（３点）、広口壺Ｂ類（10点）59～61、二重口縁壺（２点）62、甕Ａ類（２点）、甕Ｂ類（５点）、高坏Ａ類（１点）、鉢Ａ類（２点）65・66、雑な成形の施された鉢Ｃ類（１点）67がある。

甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が有２点・無０点、甕Ｂ類が有０点・無５点となる。その他、脚台Ａ類が３点出土している。

ＳＩ６０４（第211図）

ＳＩ604から出土した土器は全て小破片で、器種構成比率に耐えうる資料は埋土一括で計９点を数えるのみである。図化できた資料は僅かで、器台の可能性のある広口壺Ａ類（３点）68・広口壺Ａ類69・70、甕Ｂ類（２点）、高坏Ａ類（４点）がある。甕Ｂ類の口縁端部の刻み目は、施される例がない。その他、脚台Ａ類が１点出土している。

ＳＩ６０５（第211図、表29、ＰＬ．109）

ＳＩ605から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・炉・ベッド下（ＦＲ）で18点、上層（Ｄ）で68点、計86点を数える。資料の内訳は、広口壺Ａ類71・72、広口壺Ｂ類73～75、二重口縁壺76、口縁部の開きの大きい長頸壺77、甕Ｂ類80、鉢Ａ類81、高坏Ａ類82、擬凹線の施された高坏Ｂ類83、器台84、接合部の小破片である手焙形土器85、外面ヘラミガキの施された手捏ねの脚台86・鉢87、土玉88などがある。壺の体部78には、肩部に箆描による３条の沈線と渦巻状の文様で表された記号文が施されている。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（Ｄ）で有１点・無１点、甕Ｂ類が（ＦＲ）で有０点・無１点、（Ｄ）で有０点・無18点となる。その他、脚台Ａ類が（ＦＲ）で２点、（Ｄ）で３点出土している。

ＳＩ６０６（第212・244図、ＰＬ．109・150）

ＳＩ606から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・柱穴（ＦＰ）で10点、埋土下層・中層・上層（ＢＣＤ）で64点、計74点を数えるが、小破片が多い。資料の内訳は、口縁部端面に擬凹線の施された広口壺Ｂ類89、二重口縁壺90、甕Ａ類91、鉢Ａ類93、高坏Ａ類94、高坏Ｂ類95・96、脚台Ａ類97～99、脚台付壺の脚台部100などがある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（ＦＰ）で有０点・無２点、（ＢＣＤ）で有３点・無10点となる。甕Ｂ類（18点）では、何れの層位においても施される例がない。その他、脚台Ａ類が（ＢＣＤ）で13点、鉄製品として鉄鏃（刀子？）664がある。

ＳＩ６０７（第212図）

ＳＩ607から出土した土器は全て小破片で、器種構成比率に耐えうる資料は埋土一括で13点を数えるのみである。資料の内訳は、広口壺Ａ類（２点）101、二重口縁壺（２点）103・104、甕Ａ類（１点）105、甕Ｂ類（４点）106、高坏Ａ類（１点）、高坏Ｂ類（１点）、鉢Ａ類（１点）、広口壺Ｂ類の可能性のある器台Ｂ類（１点）102がある。その他、脚台Ａ類が２点、脚台Ｂ類が１点出土している。

ＳＩ６０８（第212図）**ＳＩ６１０**（第212図）**ＳＩ６１１**（第212図）**ＳＩ６１２**（第212図）から出土した土器は全て小破片で、器種構成比率に耐えうる資料は埋土一括でごく僅かな点数のみである。

ＳＩ６１３（第212図）

ＳＩ613から出土した土器は全て小破片で、器種構成比率に耐えうる資料は埋土一括で９点を数えるのみである。資料の内訳は、広口壺Ａ類（２点）114、甕Ｂ類（５点）115・116、甕Ｆ類（１点）117、器台（１点）がある。その他、脚台Ａ類が２点出土している。

ＳＩ６１４（第212図、ＰＬ．109）

ＳＩ614から出土した器種構成比率に対応できる資料は、埋土一括で69点を数える。資料の内訳は、広口壺Ａ類（６点）121～123、広口壺Ｂ類（10点）、二重口縁壺（１点）124、短頸壺（２点）125、甕Ａ類（４点）、甕Ｂ類（22点）126、甕Ｄ類（1点）127、高坏Ａ類（13点）、高坏Ｂ類（２点）、鉢Ｂ類（３点）129、器台Ａ類（２点）、器台Ｂ類（1点）がある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が有２点・無２点、

甕Ｂ類（22点）では施される例がない。その他、脚台Ａ類が7点出土している。

ＳＩ６１５（第213・243図、表29、ＰＬ．109・149）

ＳＩ615から出土した器種構成比率に対応できる資料は、焼炭層・埋土下層（Ｂ）で18点、埋土中層・上層（ＣＤ）で54点、計72点を数える。資料の内訳は、広口壺Ｂ類130～135、二重口縁壺136、細頸壺、短頸壺137、甕Ａ類、甕Ｂ類、甕Ｄ類、高坏Ａ類141・142、高坏Ｂ類143、鉢Ａ類、鉢Ｂ類がある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（Ｂ）で有０点・無１点、（ＣＤ）で有３点・無３点、甕Ｂ類が（Ｂ）で有０点・無３点、（ＣＤ）で有０点・無８点となる。その他、脚台Ａ類が（Ｂ）で２点、（ＣＤ）で５点、脚台Ｂ類が（Ｂ）で３点、（ＣＤ）で１点出土している。石器・石製品として砥石650・651もある。

ＳＩ６１６（第213図）

ＳＩ616から出土した土器は全て小破片で、器種構成比率に耐えうる資料は埋土一括でごく僅かな点数のみである。甕Ａ類146・147、高坏Ａ類149などがある。

ＳＩ６１７（第214・244図、表29、ＰＬ．110）

ＳＩ617から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・柱穴・炉（ＦＰＲ）で19点、埋土下層・中層・上層（ＢＣＤ）で154点、計173点を数える。資料の内訳は、炉で広口壺Ｂ類153、床面直上で広口壺Ｂ類154、甕Ａ類156、甕Ｂ類157がある。埋土の資料として、広口壺Ａ類、広口壺Ｂ類160～164、口縁部に擬凹線・鋸歯文・貼付浮文の施された二重口縁壺165、短頸壺、甕Ａ類166～168、底部が尖底に近いものを含んだ甕Ｂ類169～171、甕Ｄ類172、甕Ｆ類、高坏Ａ類174・175、高坏Ｂ類177、鉢Ａ類、鉢Ｂ類、鉢Ｃ類、口縁部端面に竹管文の施される器台Ｂ類178などがある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（ＦＰＲ）で無、（ＢＣＤ）で有19点・無８点、甕Ｂ類が（ＦＰＲ）で有０点・無４点、（ＢＣＤ）で有２点・無33点となる。その他、脚台Ａ類が（ＦＰＲ）で５点、（ＢＣＤ）で23点、脚台Ｂ類が（ＦＰＲ）で１点、（ＢＣＤ）で８点出土している。石器・石製品として、叩石661がある。

ＳＩ６１８（第213図）

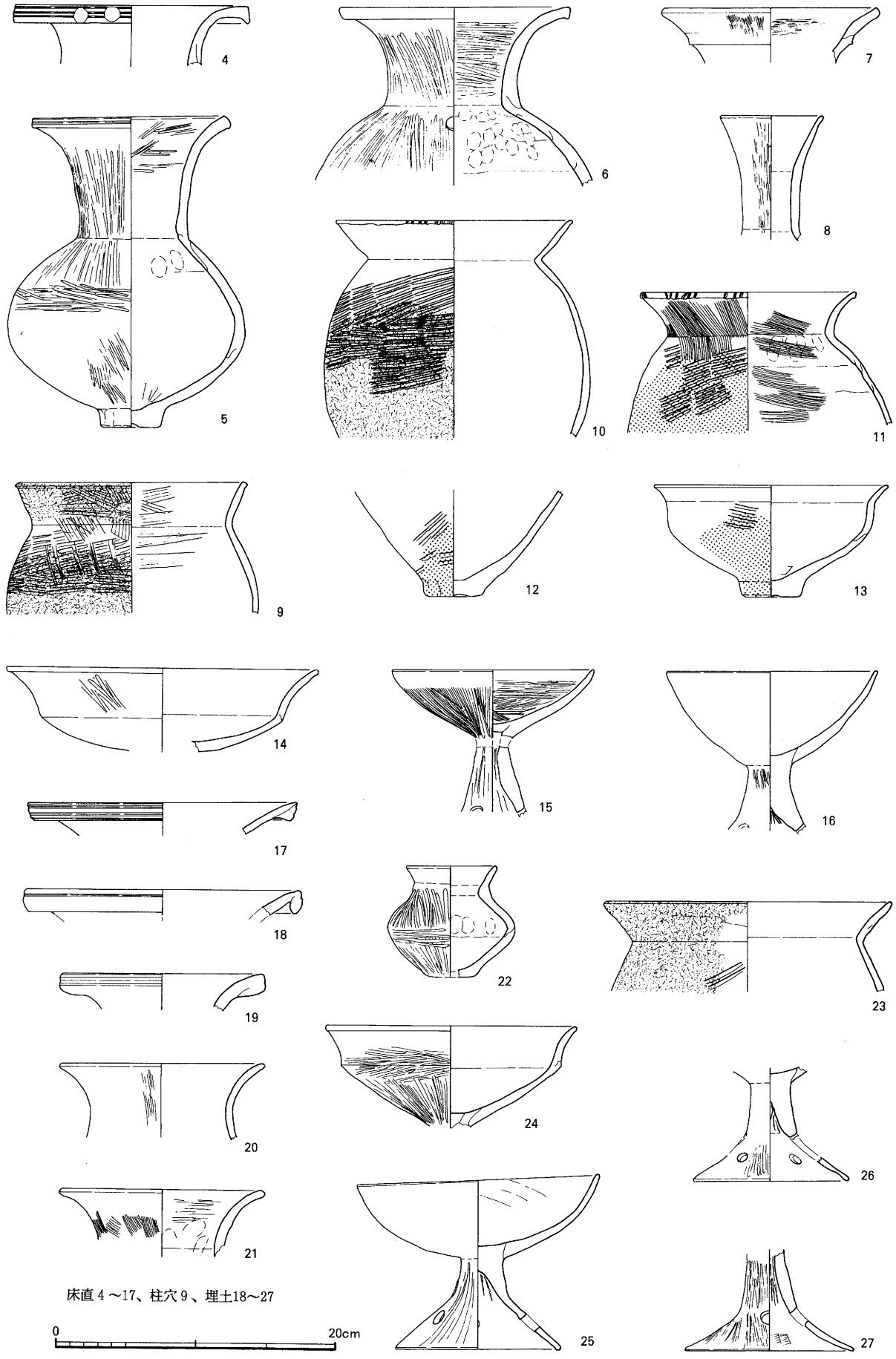
ＳＩ618から出土した器種構成比率に対応できる資料は、埋土一括で15点を数えるのみである。資料の内訳は、広口壺Ｂ類（５点）150・151、甕Ｂ類（８点）、高坏Ａ類（１点）、鉢Ｂ類（１点）がある。甕Ｂ類の口縁部の刻み目は、施される例がない。

ＳＩ６１９（第215図、ＰＬ．110）

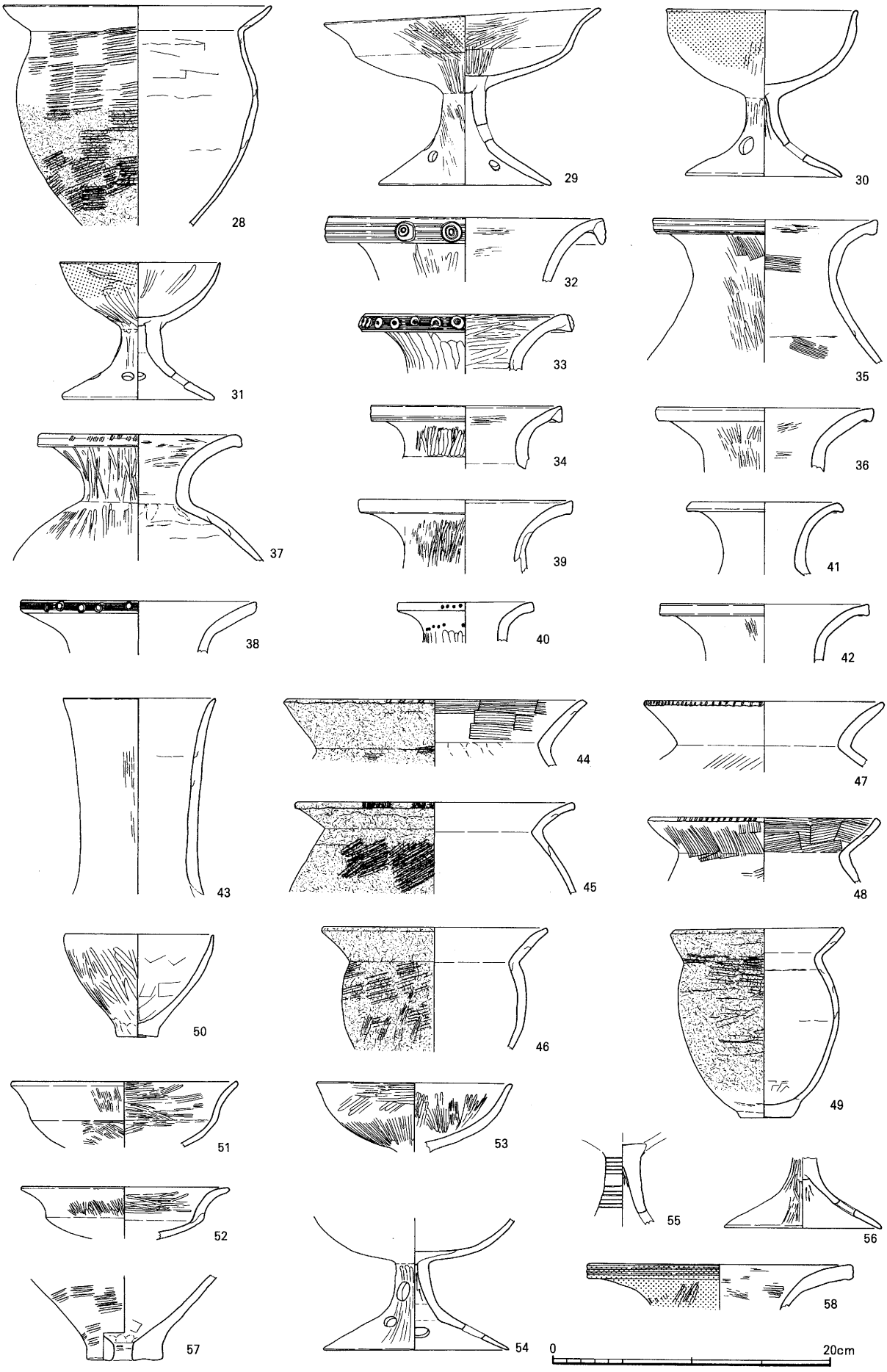
ＳＩ619から出土した器種構成比率に対応できる資料は、埋土一括で42点を数える。資料の内訳は、広口壺Ａ類（２点）179・180、広口壺Ｂ類（７点）181・182、二重口縁壺（５点）183・184、短頸壺（１点）、甕Ａ類（４点）185・186、甕Ｂ類（３点）187、甕Ｃ類（１点）、甕Ｄ類（１点）、高坏Ａ類（11点）188・189、高坏Ｂ類（２点）190、鉢Ｂ類（３点）、擬凹線と竹管文の施される器台Ａ類（１点）192がある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が有２点・無２点、甕Ｂ類（３点）では施される例がない。その他、脚台Ａ類が７点、脚台Ｂ類が１点出土している。

ＳＩ６２０（第215・243・244図、ＰＬ．110・149・150）

ＳＩ620から出土した器種構成比率に対応できる資料は、埋土一括で53点を数える。資料の内訳は、広口壺Ａ類（１点）193、広口壺Ｂ類（13点）194、短頸壺（４点）、甕Ａ類（３点）197、甕Ｂ類（17点）、高坏Ａ類（９点）、高坏Ｂ類（２点）198、鉢Ｂ類（４点）がある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が有３点・無０点、甕Ｂ類（17点）では施される例がない。その他、脚台Ａ類が７点、脚台Ｃ類が１点出土している。石器・石製品として砥石653、鉄製品として鉄鏃665もある。

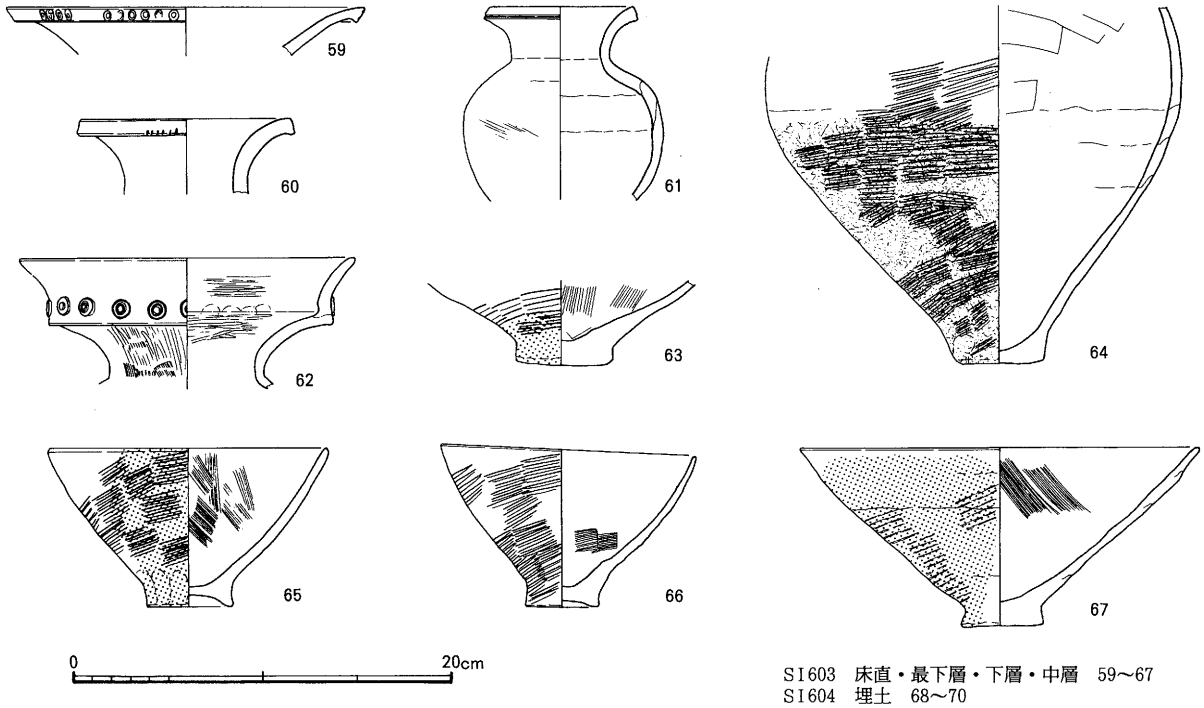


第209図　ＳＩ601出土土器実測図

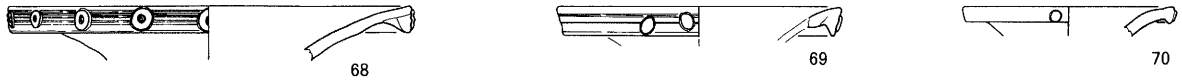


柱穴　28・31、貼床　29・30
ベッド下・下層・中層・上層　32～58

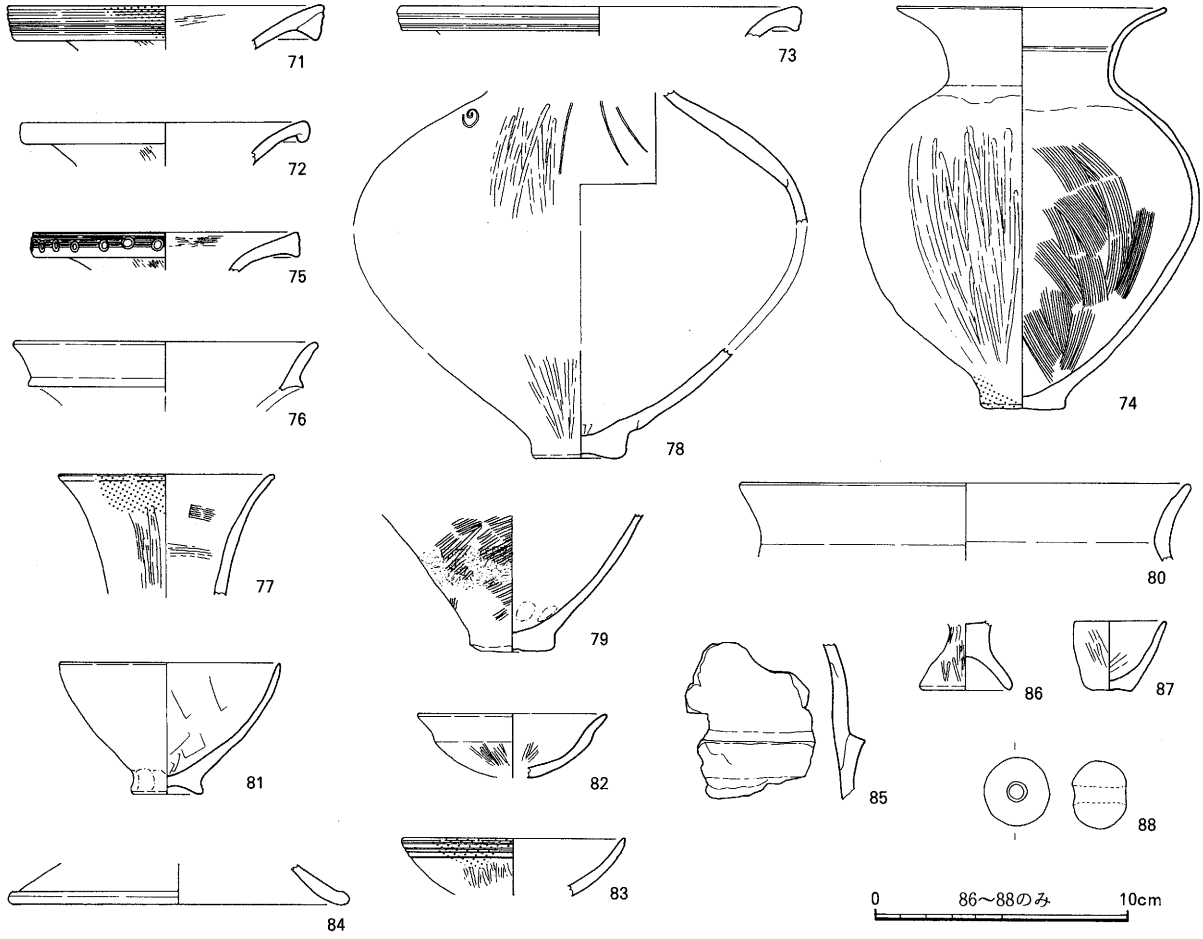
第210図　ＳＩ602出土土器実測図



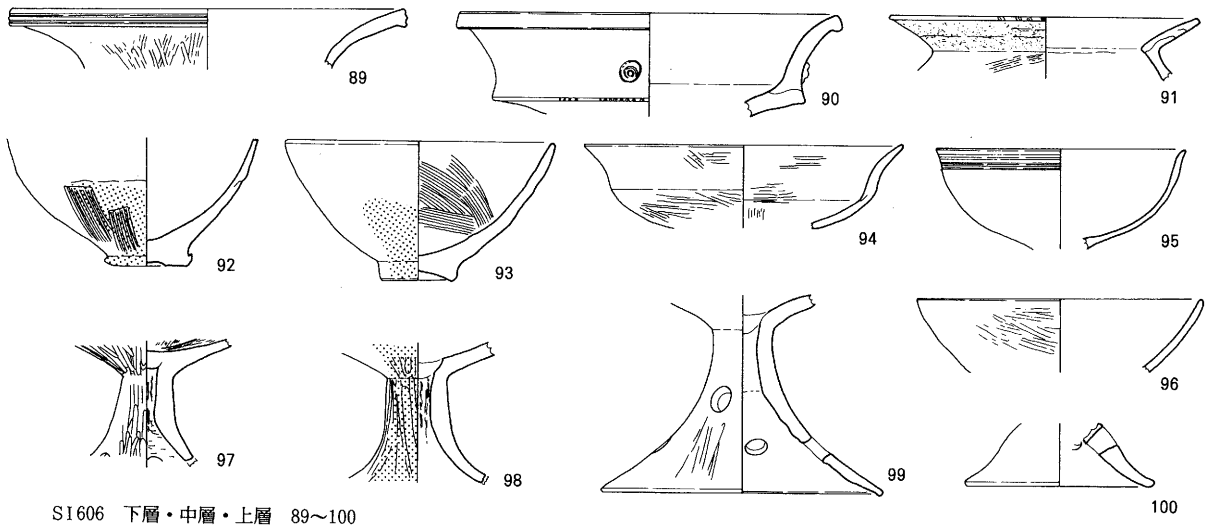
SI603　床直・最下層・下層・中層　59～67
SI604　埋土　68～70



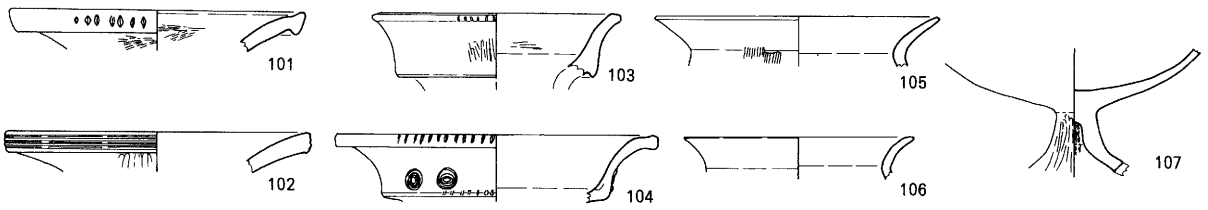
SI605　床直・炉・下層・上層　71～88



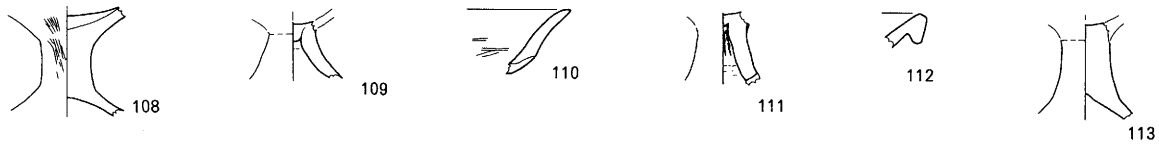
第211図　ＳＩ603・604・605出土土器実測図



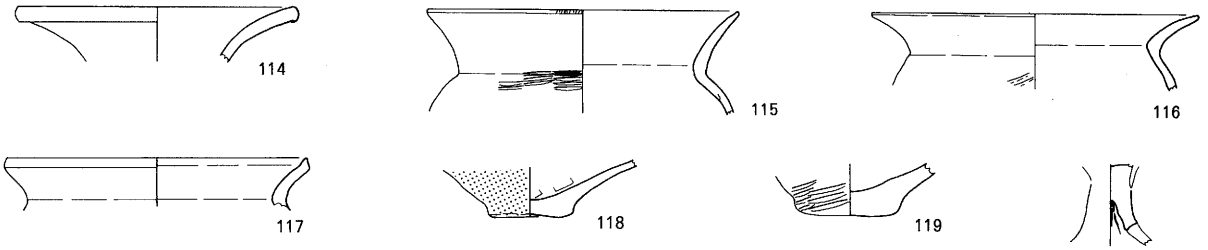
SI606　下層・中層・上層　89～100



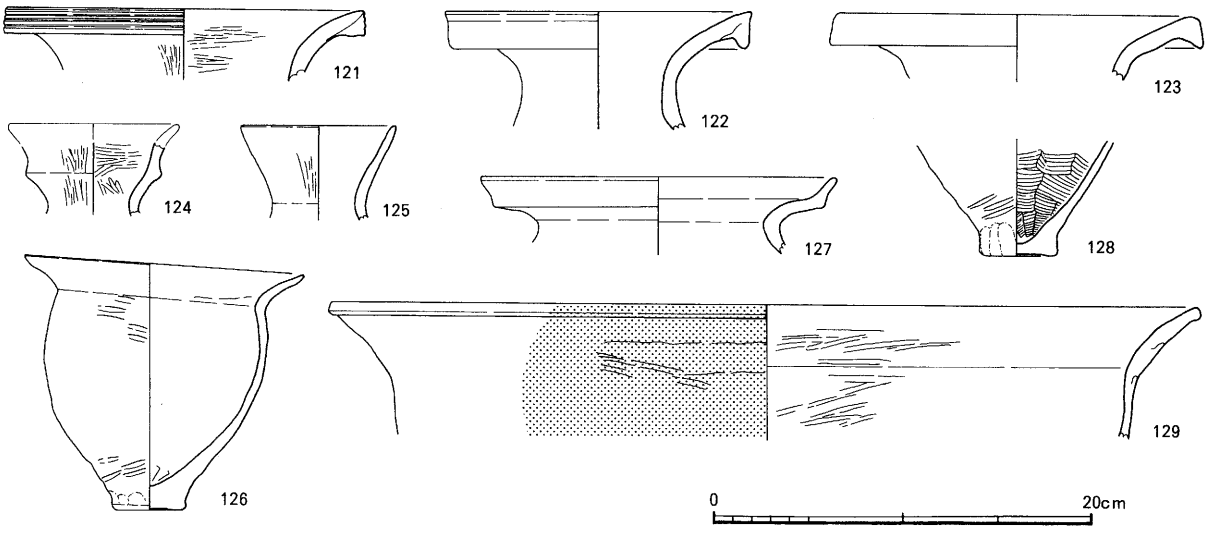
SI607　埋土　101～107、SI608　108



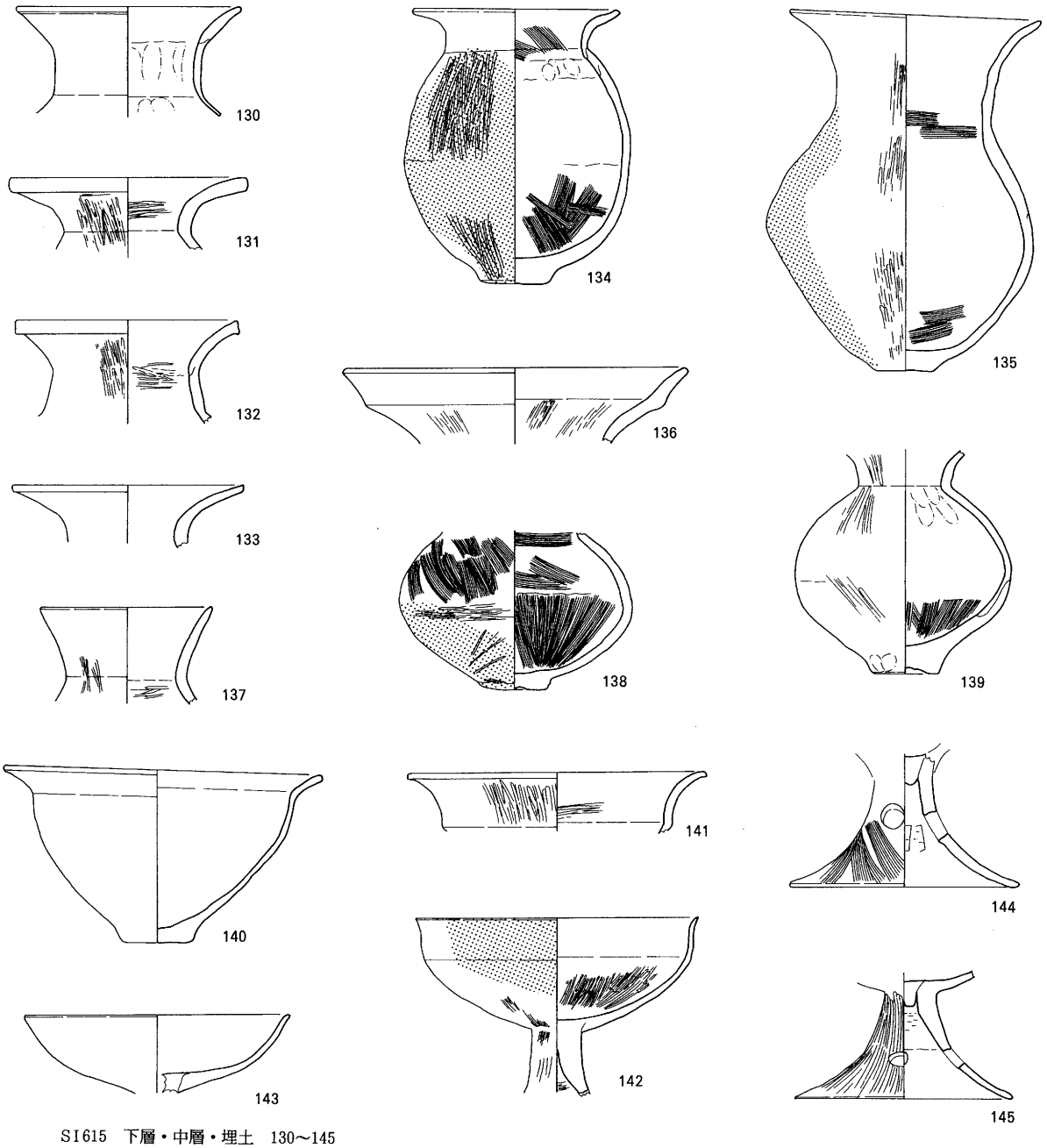
SI610　109、SI611　110・111、SI612　112・113



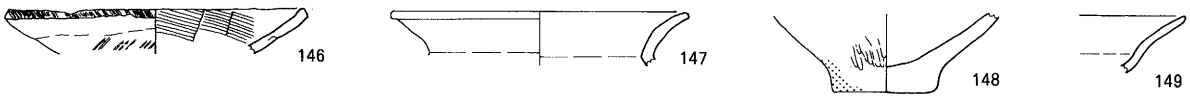
SI613　114～120、SI614　下層・上層・埋土　121～129



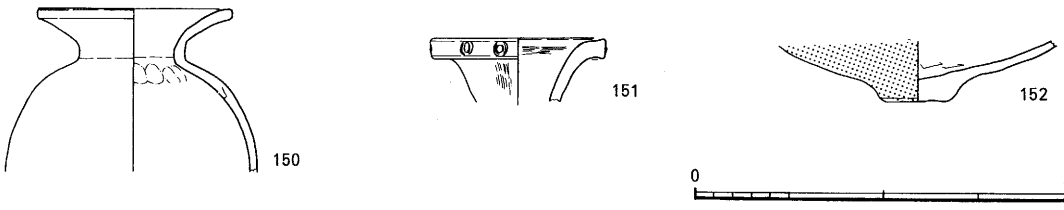
第212図　ＳＩ606・607・608・610・611・612・613・614出土土器実測図



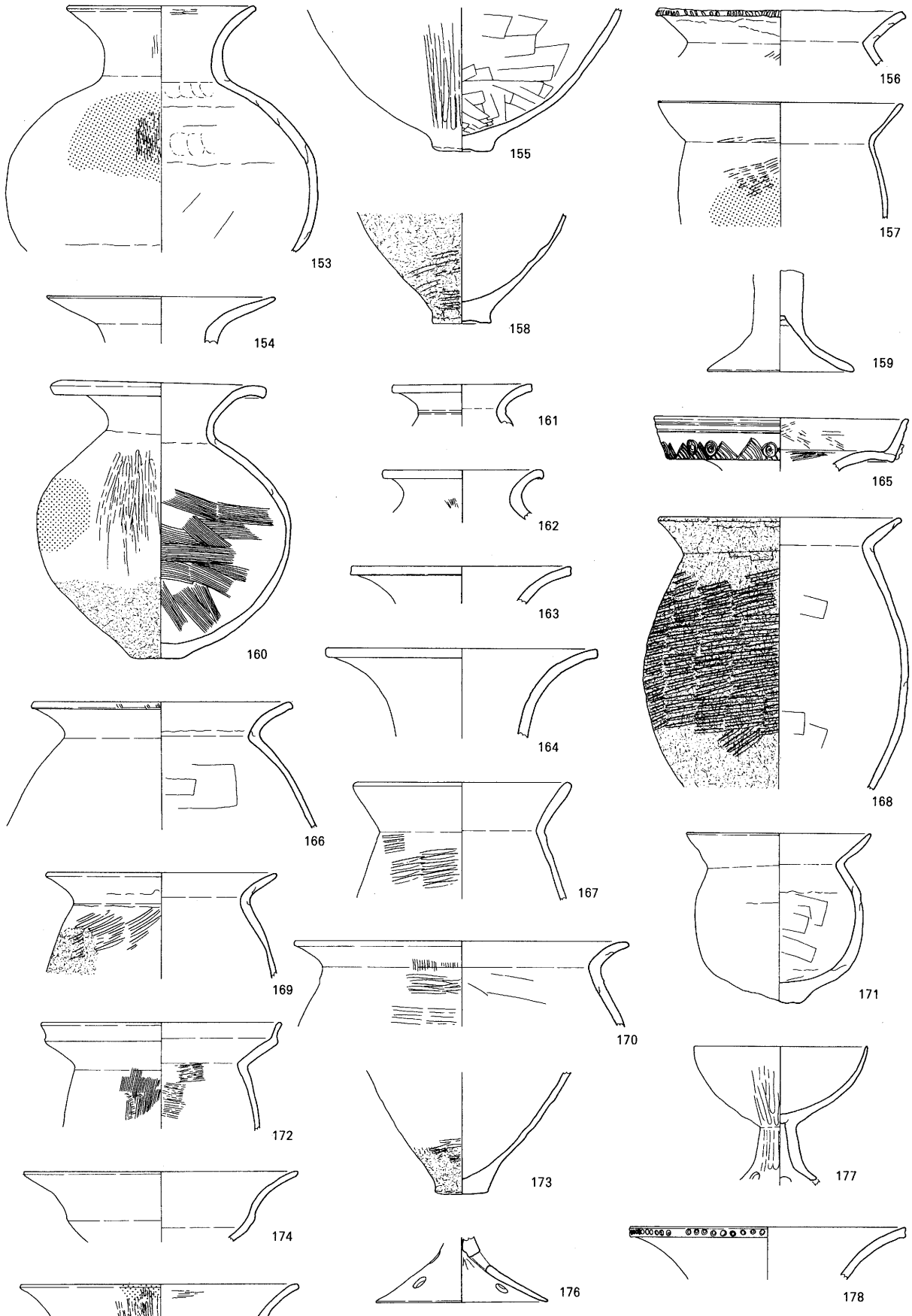
SI615　下層・中層・埋土　130～145



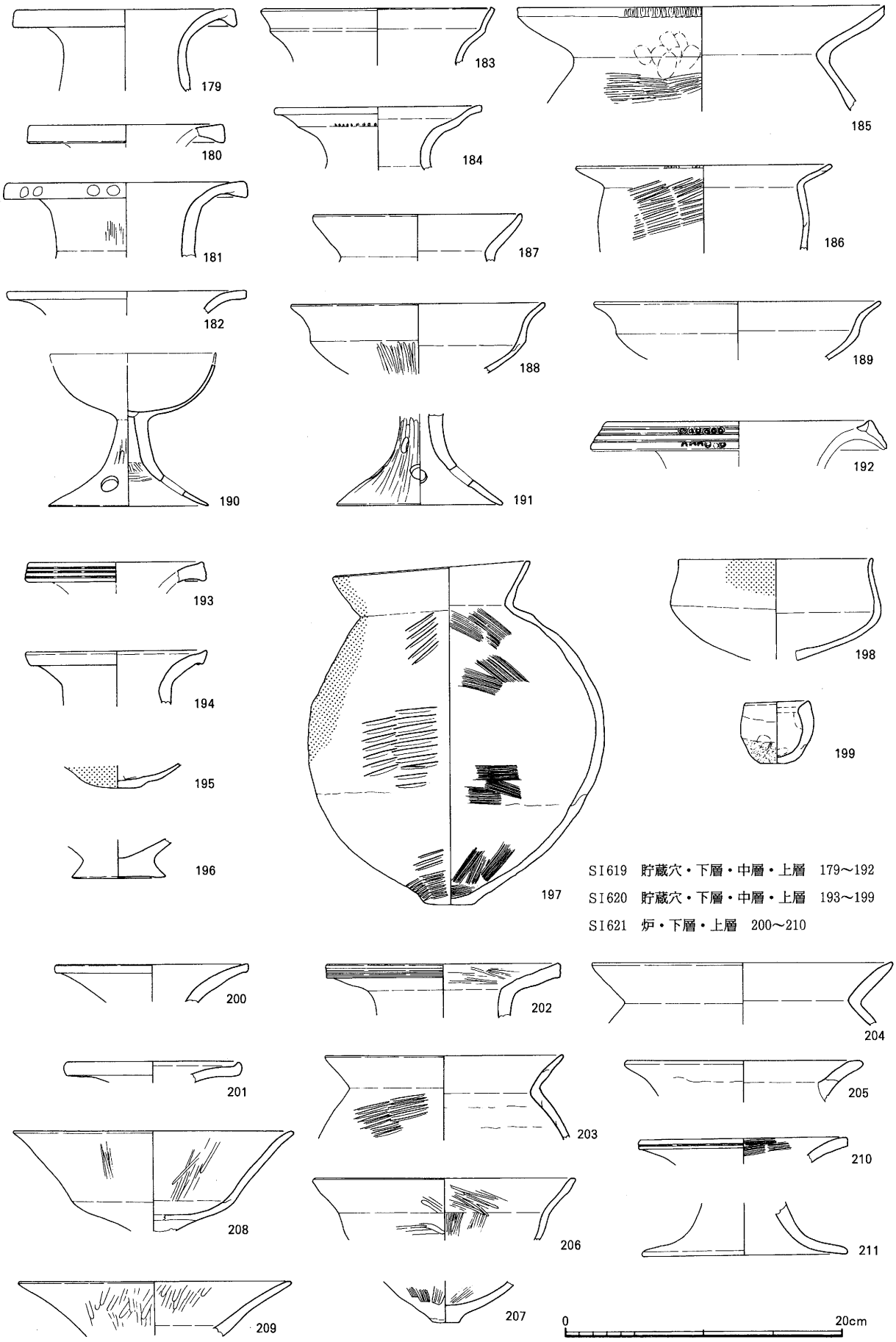
SI616　埋土　146～149、SI618　上層・埋土　150～152



第213図　ＳＩ615・616・618出土土器実測図

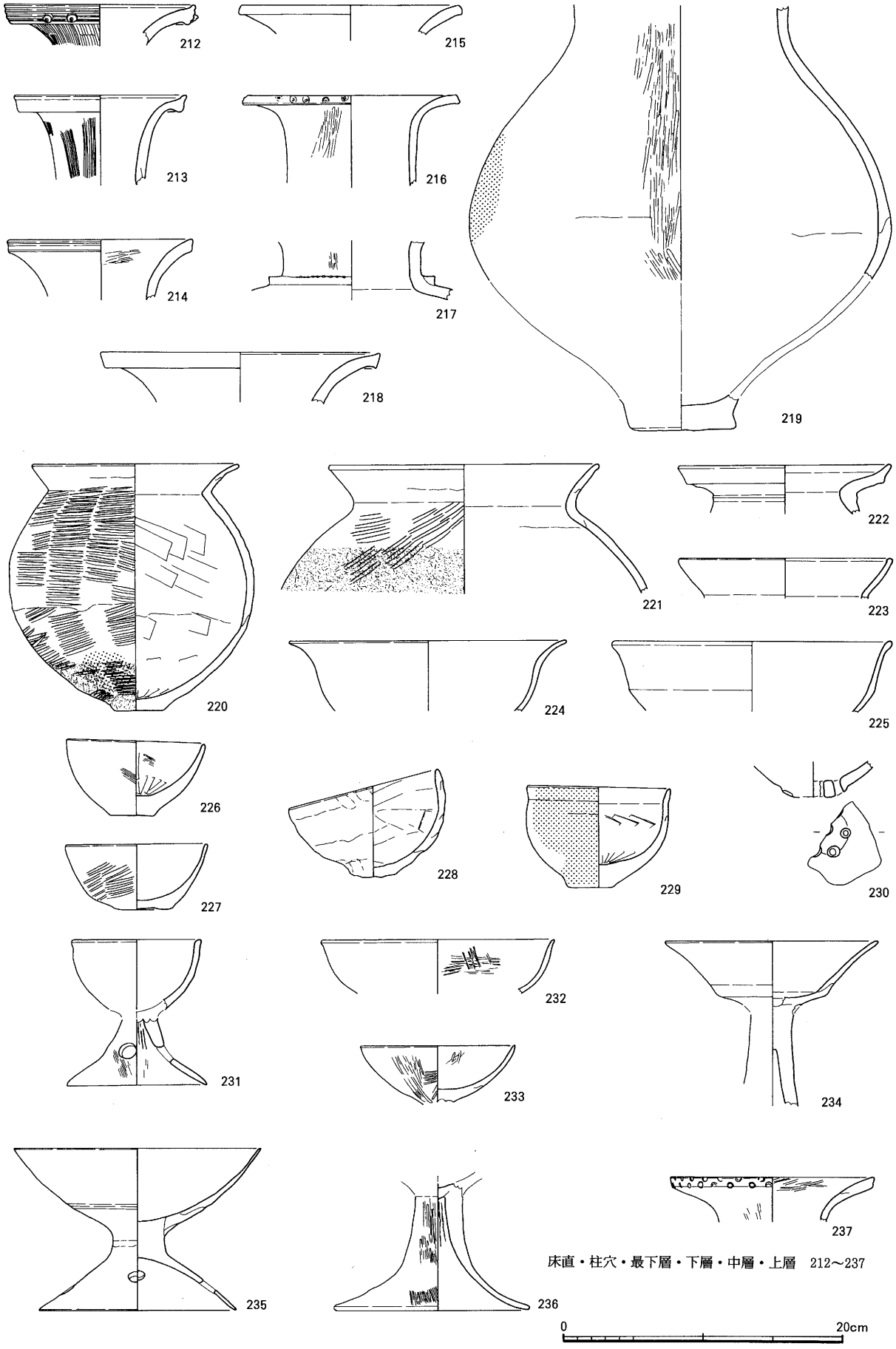


第214図　ＳＩ617出土土器実測図

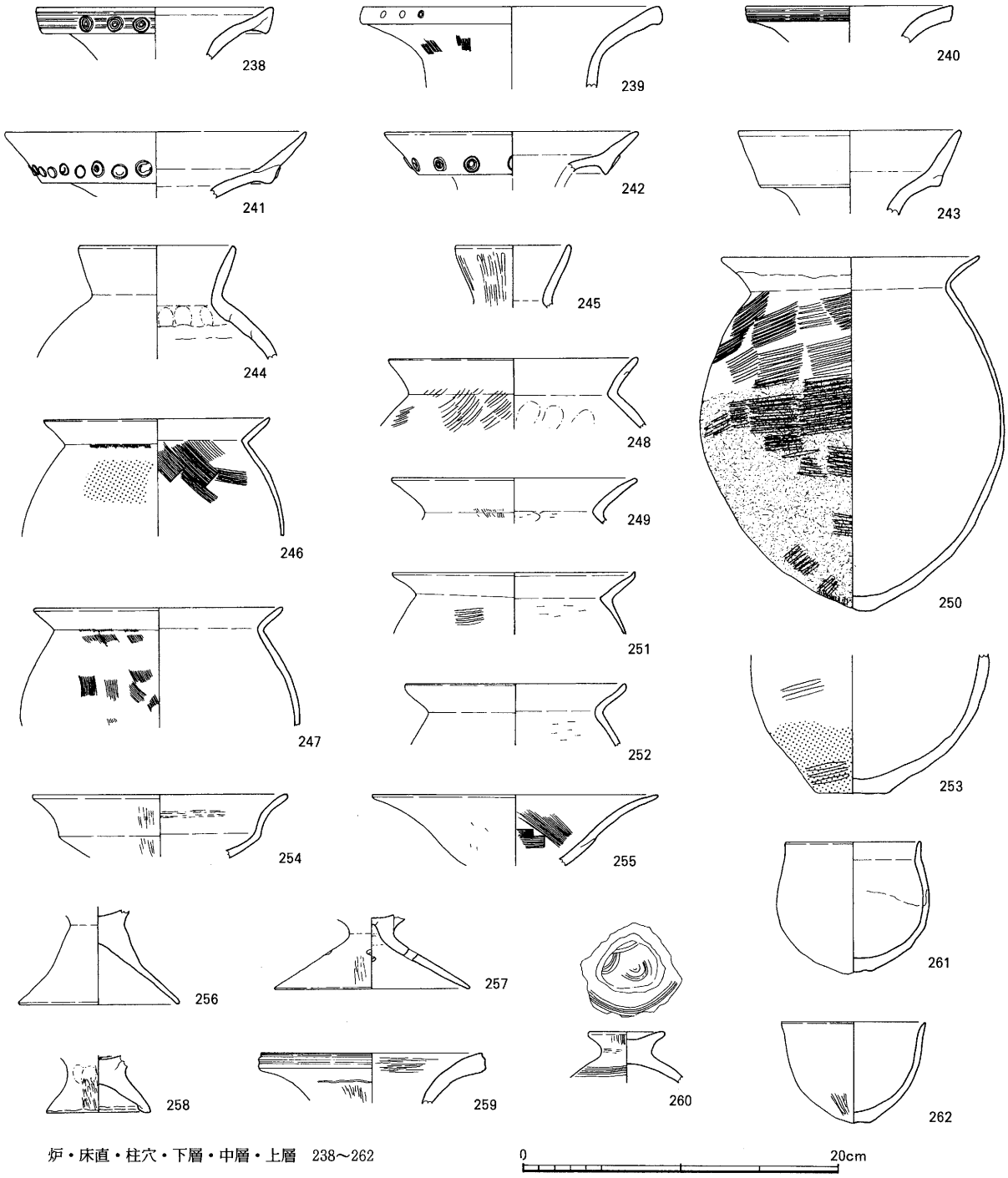


SI619　貯蔵穴・下層・中層・上層　179～192
SI620　貯蔵穴・下層・中層・上層　193～199
SI621　炉・下層・上層　200～210

第215図　ＳＩ619・620・621出土土器実測図



第216図　ＳＩ623出土土器実測図



第217図　ＳＩ624出土土器実測図

ＳＩ６２１（第215・244図、ＰＬ．111・150）

ＳＩ621から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・柱穴・炉（ＦＰＲ）で７点、埋土下層・中層・上層（ＢＣＤ）で144点、計151点を数える。資料の内訳は、一括で広口壺Ａ類（３点）、広口壺Ｂ類（16点）200・201、二重口縁壺（４点）、短頸壺（７点）、脚台付壺（１点）、甕Ａ類（23点）、甕Ｂ類（48点）203～205、甕Ｄ類（４点）、甕Ｆ類（２点）、甕Ｇ類（1点）、高坏Ａ類（13点）、高坏Ｂ類（13点）、高坏Ｄ類（２点）、鉢Ａ類（２点）、鉢Ｂ類（８点）、器台Ａ類（２点）、器台Ｂ類（４点）がある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（ＦＰＲ）で有1点・無０点、（ＢＣＤ）で有14点・無８点、甕Ｂ類では

（ＦＰＲ）３点（ＢＣＤ）44点共に、施される例がない。その他、脚台Ａ類が７点、脚台Ｂ類が２点、脚台Ｇ類が1点出土している。鉄製品として、鉄鏃？666もある。

ＳＩ６２３（第216・244図、表29、ＰＬ．111・150）

ＳＩ623から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・柱穴・貯蔵穴・壁溝（ＦＰＴＧ）で11点、埋土下層・中層・上層（ＢＣＤ）で112点、計123点を数える。資料の内訳は、広口壺Ａ類212・213、広口壺Ｂ類214～216・218、甕Ｂ類220・221、器壁の厚い甕Ｄ類222、甕Ｇ類223、高坏Ｂ類231～233、高坏Ｄ類234・235、粗雑な作りの鉢Ａ類の小形226～228、鉢Ｂ類の小形229、高坏Ａ類の可能性のある鉢Ｂ類224・225、竹管文の施された器台Ｂ類237、甑230がある。壺体底部219や甕Ｂ類230は、床面直上と埋土の資料が接合関係にある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（ＦＰＴＧ）で無、（ＢＣＤ）８点で不明、甕Ｂ類が（ＦＰＴＧ）４点で施される例がなく、（ＢＣＤ）で有１点・無43点となる。

その他、脚台Ａ類が（ＦＰＴＧ）で１点、（ＢＣＤ）で８点、脚台Ｂ類が（ＦＰＴＧ）で１点、（ＢＣＤ）で３点出土している。鉄器・鉄製品として、鉄鏃もしくは鉄素材片と考えられる667～670がある。

ＳＩ６２４（第217・243・244図、表29、ＰＬ．111・149・150）

ＳＩ624から出土した器種構成比率に対応できる資料は、床面直上・柱穴・貯蔵穴・炉（ＦＰＴＲ）で11点、埋土下層・中層・上層（ＢＣＤ）で240点、計251点を数える。資料の内訳は、広口壺Ａ類238、広口壺Ｂ類239・240、二重口縁壺241～243、細頸壺、短頸壺244・245、甕Ａ類、甕Ｂ類246～250、甕Ｃ類、甕Ｄ類、地元の胎土で作られた甕Ｆ類251、口縁端部の肥厚する甕Ｇ類252、高坏Ａ類254、高坏Ｂ類、高坏Ｄ類255、鉢Ａ類262、鉢Ｂ類261、器台Ｂ類259、外面肩部と摘み部に荒い櫛描文が施される蓋260がある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（ＦＰＴＲ）で有１点・無０点、（ＢＣＤ）で有８点・無12点、甕Ｂ類が何れの層位においても施される例がない。その他、（ＢＣＤ）で脚台Ａ類が２点、脚台Ｂ類が12点、脚台Ｇ類が１点出土している。鉄器・鉄製品として、鉄鏃671がある。

（２）土坑

第Ⅲ区の土坑の資料は、少ないながらも一定のまとまった資料が認められる。

ＳＫ６２６（第218・243図、ＰＬ．112・149）

ＳＫ626から出土した器種構成比率に対応できる資料は、埋土一括で85点を数える。資料の内訳は、広口壺Ａ類（10点）263～266、広口壺Ｂ類（13点）267・268、二重口縁壺（５点）、細頸壺（１点）269、擬凹線の施された短頸壺（１点）270、甕Ａ類（11点）、甕Ｂ類（14点）、甕Ｄ類（１点）、甕Ｆ類（１点）、高坏Ａ類（18点）273・274、高坏Ｂ類（２点）、鉢Ａ類（１点）272、鉢Ｂ類（４点）、器台Ａ類（２点）、器台Ｂ類（１点）がある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が有６点・無５点、甕Ｂ類が施される例がない。

その他、脚台Ａ類が13点出土している。

ＳＫ６２７（第218図、ＰＬ．112）

ＳＫ627には、加飾のある広口壺Ａ類278・279、広口壺Ｂ類280、口縁部外面下部に波状文と円形浮文が施される二重口縁壺281、甕Ａ類282～284、異形の歪な大形の鉢Ｂ類284などがある。

ＳＫ６２８（第219図、ＰＬ．112）

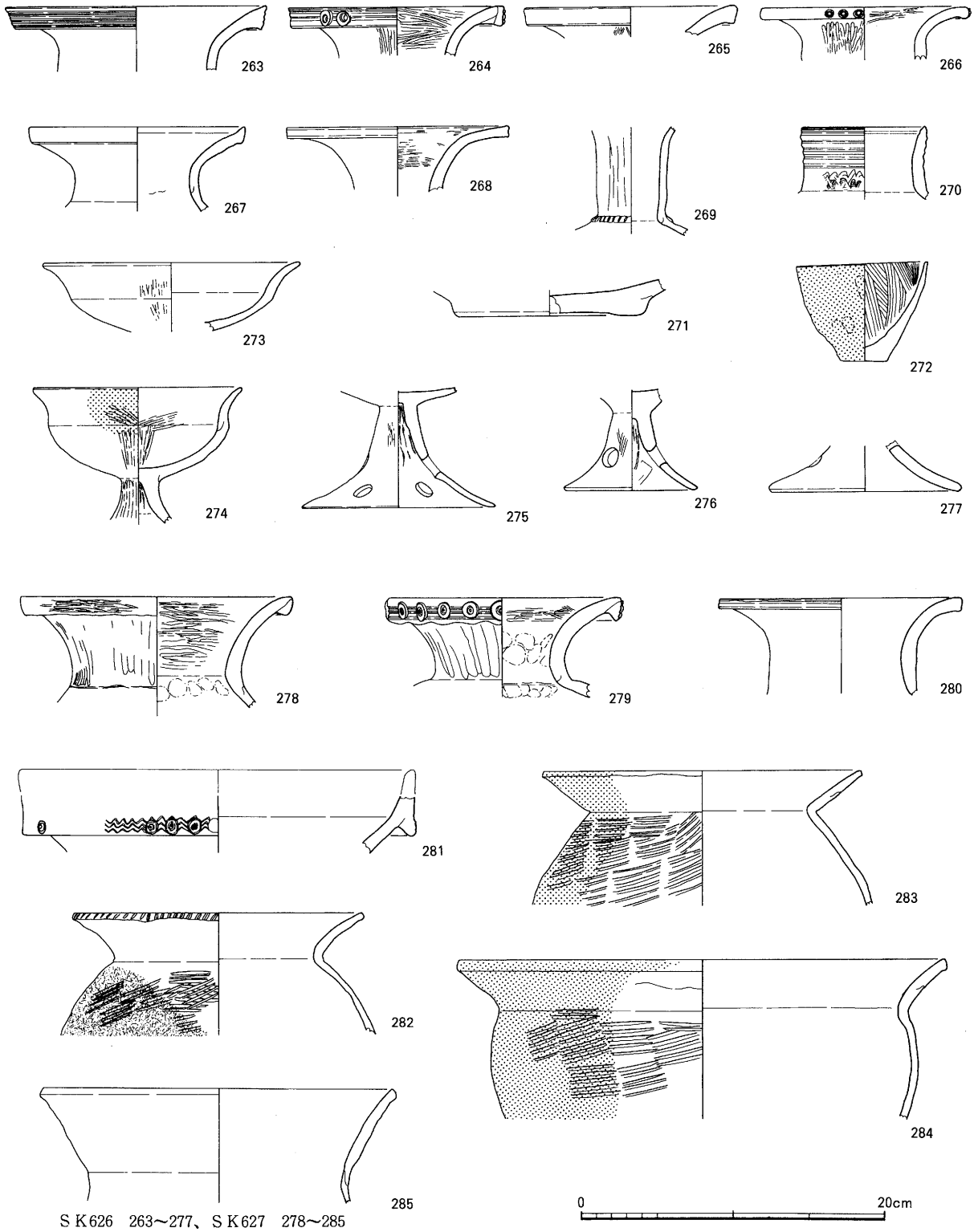
ＳＫ628には、口縁部端面に円形浮文の付けられ広口壺Ａ類286、短頸壺287、甕Ｂ類288、高坏Ａ類291、鉢Ａ類290、鉢Ｂ類289など作りの丁寧な土器がある。

ＳＫ６３２（第219図）には、甕Ｂ類の小形292、**ＳＫ６５６**（第219図）には、広口壺Ａ類293、二重口

縁壺294、ＳＫ６６８（第219図）には、広口壺Ａ類295、広口壺Ｂ類296・297、脚台付の小形壺298などがある。

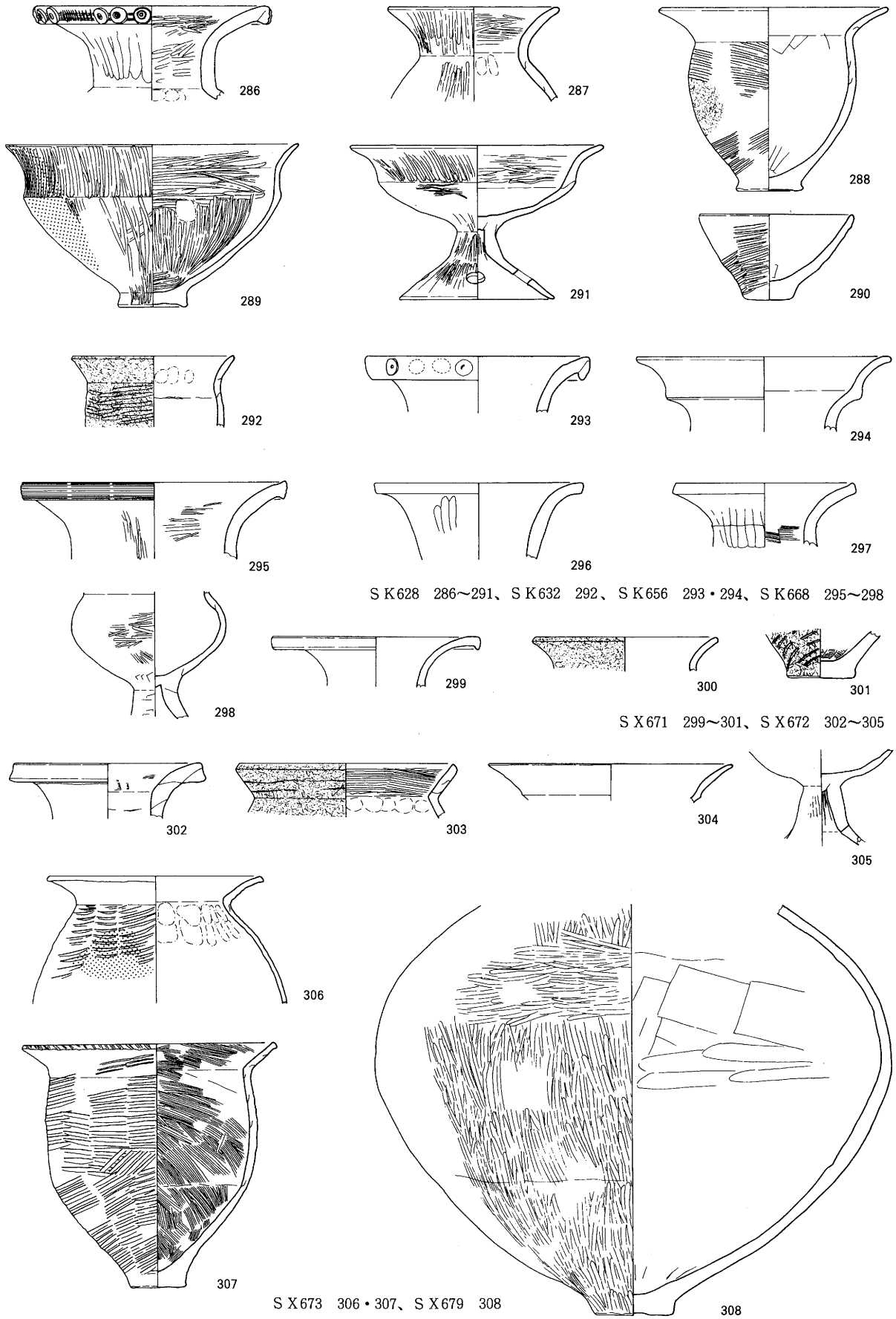
（３）木棺墓・壺棺

木棺墓と考えられる土坑の資料は、ＳＸ673を省けば混入したと見られる資料である。



ＳＫ626　263～277、ＳＫ627　278～285

第218図　ＳＫ626・627出土土器実測図



ＳＫ628　286～291、ＳＫ632　292、ＳＫ656　293・294、ＳＫ668　295～298

ＳＸ671　299～301、ＳＸ672　302～305

ＳＸ673　306・307、ＳＸ679　308

第219図　ＳＫ628・632・656・668、ＳＸ671・672・673・679出土土器実測図

ＳＸ６７１（第219図）には、広口壺Ａ類299、甕Ａ類300、ＳＸ６７２（第219図）には、広口壺Ａ類302、甕Ａ類302、高坏Ａ類304、ＳＸ６７３（第219図、ＰＬ．112）には、甕Ａ類306・307などがある。

ＳＸ６７９（第219図）は、外面に密なヘラミガキがみられる玉葱形をした大形壺の体部である。

（４）溝

溝出土資料も集落の消長に符合し、弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのものである。特に、弥生時代後期の溝出土資料は、遺存状態も良好で完存品が多く、良好なまとまりを見せるものである。

ＳＤ６８１（表17）

ＳＤ681から出土した器種構成比率に対応できる資料は、下層で83点、中層で239点、上層で385点、計707点を数える。総延長68ｍにおよぶ溝から出土した資料は、出土地点により一定のまとまりをみせるが、その分析については成し得なかった。第71図の土器出土分布状況図と「出土遺物観察一覧」の出土地区・層位を対応することによって大要を見出すことが可能である。

下層（309～323）（第220図、ＰＬ．113）

下層資料の内訳は、体部外面と口頸部の内外面には細かいヘラミガキが施され、体部内面はハケで調整される広口壺Ａ類309・310、外面に縦方向のヘラミガキが施される広口壺Ｂ類311、摩滅が著しく調整が不明瞭であるが、外面に指頭圧痕の残る広口壺Ｂ類312、体部にタタキ目がみられ、頸部外面がハケ調整される広口長頸壺313、細頸壺、短頸壺、扁球形の体部に直立する短い口頸部が取付く小形の脚台付短頸壺314、長細い体部をした丸底の小形壺315、甕Ａ類316～318、球形の体部に受口状の口縁部をもつ甕Ｄ類319、高坏Ａ類320・321、高坏Ｂ類322・323、鉢Ａ類、鉢Ｂ類、鉢Ｃ類、器台Ａ類、蓋Ａ類、甑がある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が有３点・無６点、甕Ｂ類（18点）では施される例がない。高坏Ａ類では、坏部の口縁部と体部の比率が、１：2.5ないし１：2.8となり、口縁部が短い傾向にある。

その他、脚台Ａ類が10点出土している。

中層（324～375）（第221～224図、ＰＬ．114～117）

中層資料の内、壺には、口縁端部に粘土帯を付足して垂下させた広口壺Ａ類324～326、広口壺Ｂ類327～332、扁平な体部に直立した頸部が付き、口縁は急角度で外反する327・331、倒卵形の体部に緩やかに外反する頸部が付き、口縁部へと延びる328～330・332、長頸壺333・334、口縁部の屈曲が緩やかで、全体にやや歪む二重口縁壺335、広口長頸壺336～338、口縁端部に円形浮文が貼付けられる338、短頸壺339・340、口縁部が片口状に外側に捻り出される340、細かいヘラミガキが外面に施される脚台付細頸壺341・342、脚台付太頸壺343、扁平な体部に直立した口頸部が付き、外面に縦方向の密なヘラミガキが施される細頸壺344がある。甕には、口縁端部がやや面をなす甕Ａ類345～347、口縁端部が丸くおさめられた甕Ｂ類348～352、下膨れの強い349、口縁部が内湾する350・351、甕Ｃ類、甕Ｅ類の要素をもった甕Ｄ類353がある。鉢には、把手が付いた鉢Ａ類354・355、屈曲する口縁部をもつ鉢Ｂ類356・357がある。高坏には、外反する口縁部と浅い坏部に逆漏斗状に開く脚台を接合した高坏Ａ類359～364、坏部から口縁部が内湾して立上がり、端部が外反する高坏Ｂ類366、浅い椀形の坏部をもつ高坏Ｂ類367～370がある。その他、摘み部から裾部まで直線的に大きく開く蓋371・372、手焙形土器の祖形と考えられる体部373、底部に孔を１孔もつ甑374・375がある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が有10点・無13点、甕Ｂ類が有１点・無51点となる。高坏Ａ類では、坏部の口縁部と体部の比率が、１：2.7前後もしくは１：2.3前後のグループに区別でき、下層資料と同様に口縁部が短い傾向にある。

その他、脚台Ａ類が39点、脚台Ｂ類が２点出土している。

上層（376～403）（第225～227図、ＰＬ．118・119）

上層資料の内、壺には、外面がヘラミガキで内面がハケで調整される広口壺Ａ類376、内外面ともハケ調整される広口壺Ｂ類377・外面にタタキ目がみられる広口壺Ｂ類378、球形の体部に外反する口頸部が接合され、接合部に刻み目をもつ断面三角形の突帯が１条廻る二重口縁壺379、口縁端面に擬凹線が廻り、小さな円形浮文が貼り付けられ、口縁部にも円形浮文が貼られ、その下に雑な波状文が２条施されている。体部と頸部の接合部には断面三角形の突帯が廻り、上下面に羽状に細かい刻み目が施されている球形の体部をもつ大形の二重口縁壺380、体部と頸部の接合部に突帯をもつ大形の二重口縁壺381・382、扁球形の体部にやや長い頸部が接合し、口縁部に波状文帯が廻る二重口縁壺383、やや長い頸部から短く立上がる口縁部をもつ二重口縁壺384、フラスコ形の長頸壺385、口頸部がラッパ状に大きく開き、口縁端部が垂下する広口長頸壺386・387、細頸壺、短頸壺、脚台付太頸壺388がある。甕には、甕Ａ類389、甕Ｂ類389～392、受け口の短く立上がる甕Ｄ類393、甕Ｅ類がある。鉢には、口縁に段を有さない鉢Ａ類395・397、椀形の体部に屈曲する口縁部が接合し、擬凹線を廻らした口縁部の一部が片口状に外側に摘み出される大形の鉢Ｂ類394、口縁部が僅かに外反する鉢Ｂ類396がある。高坏には、高坏Ａ類398～400、高坏Ｂ類401・402がある。その他、長さ12㎝、幅８㎝程の中央部が窪んだ土製品で、船形を模した403がある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が有26点・無30点、甕Ｂ類が有１点・無80点となる。高坏Ａ類では、坏部の口縁部と体部の比率が、１：2.6～３もしくは１：1.8のグループに区別でき、口縁部の長いものが存在する傾向にある。但し、高坏Ａ類400は、小形の形態を示すため、口縁部と体部の比率が時期的な段階を示さない

器種	器形＼遺構層位	下層		中層		上層	
壺	広口壺Ａ	5 (27.8%)	18 (21.7%)	27 (40.3%)	67 (28.0%)	39 (37.1%)	105 (27.2%)
	広口壺Ｂ	5 (27.8%)		11 (16.4%)		36 (34.3%)	
	広口壺Ｃ						
	二重口縁壺			2 (3.0%)		12 (11.4%)	
	長頸壺	1 (5.6%)		3 (4.5%)		3 (2.9%)	
	広口長頸壺	1 (5.6%)		4 (6.0%)		4 (3.8%)	
	細頸壺	1 (5.6%)		6 (9.0%)		5 (4.8%)	
	短頸壺	2 (11.1%)		4 (6.0%)		3 (2.9%)	
	太頸壺	1 (5.6%)		1 (1.5%)			
	無頸壺						
	脚台付壺	2 (11.1%)		9 (13.4%)		3 (2.9%)	
甕	甕Ａ	9 (30.0%)	30 (36.2%)	23 (24.0%)	96 (40.2%)	56 (33.7%)	166 (43.1%)
	甕Ｂ	18 (60.0%)		52 (54.2%)		81 (48.8%)	
	甕Ｃ	1 (3.3%)		2 (2.1%)			
	甕Ｄ	2 (6.7%)		19 (19.8%)		28 (16.9%)	
	甕Ｅ					1 (0.6%)	
	甕Ｆ						
	甕Ｇ						
高坏	高坏Ａ	21 (77.8%)	27 (32.5%)	38 (66.7%)	57 (23.9%)	74 (87.1%)	85 (22.1%)
	高坏Ｂ	6 (22.2%)		19 (33.3%)		11 (12.9%)	
	高坏Ｃ						
	高坏Ｄ						
	高坏Ｅ						
	高坏Ｆ						
鉢	鉢Ａ	2 (40.0%)	5 (6.0%)	9 (60.0%)	15 (6.3%)	7 (30.4%)	23 (6.0%)
	鉢Ｂ	2 (40.0%)		6 (40.0%)		15 (65.2%)	
	鉢Ｃ	1 (20.0%)				1 (4.3%)	
	鉢Ｄ						
器台	器台Ａ	1 (100.0%)	1 (1.2%)			1 (100.0%)	1 (0.3%)
	器台Ｂ						
	器台Ｃ						
手焙形土器				1 (100.0%)	1 (0.4%)		
蓋	蓋Ａ	1 (100.0%)	1 (1.2%)	1 (100.0%)	1 (0.4%)	1 (100.0%)	1 (0.3%)
	蓋Ｂ						
甑		1 (100.0%)	1 (1.2%)	2 (100.0%)	2 (0.8%)	4 (100.0%)	4 (1.0%)
合計			83 (100.0%)		239 (100.0%)		385 (100.0%)

表17　ＳＤ681出土土器器種構成比率

可能性がある。

その他、脚台Ａ類が75点、脚台Ｂ類が２点、脚台Ｃ類が１点出土している。

ＳＤ６８７（第228・229図、表18、ＰＬ．120）

ＳＤ687から出土した器種構成比率に対応できる資料は、下層で58点、上層で18点、計76点を数える。資料の内訳は、下層・上層一括で広口壺Ｂ類404～406、広口壺Ｃ類407、二重口縁壺408、長い口頸部が直線的に外反する細頸壺410、短頸壺409、甕Ａ類411・412、甕Ｂ類413～415、受け口の口縁部の短い甕Ｄ類416、口縁部の立上がりの長い高坏Ａ類424・425・427、坏部内面にハケ調整の施される高坏Ｂ類426・擬凹線の施される高坏Ｂ類428・429、鉢Ａ類417、鉢Ｂ類418・419、底部に孔を３孔もつ甑422・底部に孔を１孔もつ甑423がある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が有９点・無０点、甕Ｂ類（15点）では施される例がない。高坏Ａ類では、坏部の口縁部と体部の比率が、１：1.8前後となり、口縁部の長くなる傾向にある。

器種	器形	比率		器種	器形	比率	
壺	広口壺Ａ		12 (15.8%)	高坏	高坏Ａ	22 (78.6%)	28 (36.8%)
	広口壺Ｂ	5 (41.7%)			高坏Ｂ	6 (21.4%)	
	広口壺Ｃ	1 (8.3%)			高坏Ｃ		
	二重口縁壺	1 (8.3%)			高坏Ｄ		
	長頸壺				高坏Ｅ		
	広口長頸壺				高坏Ｆ		
	細頸壺	2 (16.7%)		鉢	鉢Ａ	1 (14.3%)	7 (9.2%)
	短頸壺	3 (25.0%)			鉢Ｂ	6 (85.7%)	
	太頸壺				鉢Ｃ		
	無頸壺				鉢Ｄ		
	脚台付壺			器台	器台Ａ		
甕	甕Ａ	9 (34.6%)	26 (34.2%)		器台Ｂ		
	甕Ｂ	15 (57.7%)			器台Ｃ		
	甕Ｃ			手焙形土器			
	甕Ｄ	2 (7.7%)		蓋	蓋Ａ		
	甕Ｅ				蓋Ｂ		
	甕Ｆ			甑		3 (100.0%)	3 (4.0%)
	甕Ｇ			合計			76 (100.0%)

表18　ＳＤ687出土土器器種構成比率

その他、脚台Ａ類が15点、脚台Ｂ類が１点出土している。

ＳＤ６８３（第229図）

ＳＤ683からは、細頸壺430、甕Ｂ類の要素を持つ短頸壺431、甕Ａ類432、甕Ｂ類433などがある。全体の資料数は、13袋とややまとまりがあるが小破片が多い。

ＳＤ６８６（第229図）

ＳＤ686からは、ややまとまった資料があるが、小破片が多い。資料の内訳は、広口壺Ａ類434、甕Ａ類435・436、甕Ｂ類433などがある。

ＳＤ６８８（第229図）

ＳＤ688からは、広口壺Ａ類438、広口壺Ｂ類、甕Ａ類、甕Ｂ類、高坏Ａ類、口縁部に擬凹線の施された高坏Ｂ類、鉢Ａ類、鉢Ｂ類、器台Ｂ類439などがある。全体の資料数は、下層で３袋、上層で10袋あるが、小破片が多い。

ＳＤ７０２（表19）

ＳＤ702から出土した器種構成比率に対応できる資料は、下層で292点、中層で399点、上層で521点、計1212点を数える。ＳＤ681と同様に、検出延長30.5ｍにおよぶ溝から出土した資料は、層位と出土地点により一定のまとまりをみせるが、その分析については成し得なかった。同じく、第73図の土器出土分布状況図と「出土遺物観察一覧」の出土地区・層位を対応することによって大要を見出すことが可能である。

下層（第230～234図、ＰＬ．121～125・149）

下層資料の内訳は、広口壺Ａ類458～464・口縁部短面に貼付浮文などの加飾の施される461～464、加飾の施される率の低い広口壺Ｂ類465～471、体部にタタキ目が残った状態の二重口縁壺476～478、長頸壺、丁寧なヘラミガキの施される細頸壺479・480、短頸壺472～475、甕Ａ類482・484～491、甕Ｂ類483・492・493・497、甕Ｄ類494～496、鉢Ａ類499～502、大形の鉢Ｂ類498・口縁部が外反して屈曲する503～505、単孔の甑506・507、高坏Ａ類508～518、高坏Ａ類の変形519、高坏Ｂ類520～522、形の整った段階の手焙形土器523がある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が有77点・無16点、甕Ｂ類が有13点・無35点となる。高坏Ａ類では、坏部の口縁部と体部の比率が、１：3.5～4.2もしくは１：2.2前後、１：1.7前後の３グループに区別でき、口縁部の長いものが存在する傾向にある。但し、口縁部の極めて短いものが存在することから、異なる段階の資料が混在しているものと考えることができる。

その他、脚台Ａ類が50点、脚台Ｂ類が１点出土している。

中層（第235～239図、ＰＬ．126～129）

中層資料の内訳は、広口壺Ａ類524～531・口縁部端面に擬凹線と貼付円形浮文＋竹管文が組合わさった加飾の広口壺Ａ類528・529、広口壺Ｂ類532～540・箆状工具による記号文の施された広口壺Ｂ類536、長頸壺、広口長頸壺542・543、細頸壺544、短頸壺541、脚台付壺、甕Ａ類545～552、甕Ｂ類553～556、鉢Ａ類557～561、鉢Ｂ類562～569・大形の器形に耳状の把手の付けられた鉢Ｂ類562、甑570～573、高坏Ａ類574～579、高坏Ｂ類580～582がある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が有126点・無12点、甕Ｂ類が有29点・無45点となる。高坏Ａ類では、坏部の口縁部と体部の比率が、１：2.3前後もしくは１：1.6前後のグループに区別でき、口縁部の長いものが存在する傾向にある。

その他、脚台Ａ類が61点、脚台Ｂ類が２点出土している。

上層・埋土（第235・239・243図）

上層では、下層・中層の資料に比べ図化できるものが極端に少ない状況になる。上層資料の内訳は、広口壺Ａ類、広口壺Ｂ類583、二重口縁壺、長頸壺、細頸壺、太頸壺、甕Ａ類、甕Ｂ類584、甕Ｄ類、高坏Ａ類、高坏Ｂ類585、鉢Ａ類、鉢Ｂ類586、器台Ａ類、手焙形土器、甑、匙状土製品587がある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が有99点・無28点、甕Ｂ類が有64点・無86点となる。

その他、脚台Ａ類が106点、脚台Ｃ類が１点出土している。石器・石製品として、管玉645、磨製石斧647、がある。

ＳＤ６９５（第240図）

ＳＤ695からは、貼付浮文の施された二重口縁壺588、高坏Ｄ類589、脚台Ｇ類などがある。全体の出土量は、５袋と少量である。

ＳＤ７０３（第229図）

ＳＤ703からは、ややまとまった資料があるが、小破片が多い。資料の内訳は、口縁部の垂下面に擬凹線の施された広口壺Ａ類441、広口壺Ｂ類、二重口縁壺、甕Ａ類442、甕Ｂ類、底部径の縮小化して丸みのある壺底部443、脚台Ａ類、中実の壺用の脚台などがある。

ＳＤ７０４（第229図）

ＳＤ704からは、広口壺Ｂ類444、短頸の小形壺、口縁端部に刻み目の施された甕Ａ類445、甕Ｆ類の傾向をもつ土器、高坏Ａ類、脚台Ａ類、脚台Ｂ類などがある。全体の資料数は、９袋がある。

ＳＤ７０５（第229図）

ＳＤ705からは、ややまとまった資料があるが、やはり小破片が多い。資料の内訳は、広口壺Ｂ類446、甕

A類、高坏A類、甕G類の傾向をもつ土器などがある。

ＳＤ７０６（第229図）

ＳＤ706からは、甕A類、生駒西麓の胎土をもつ甕B類、甕G類、脚台B類の要素をもつ脚台G類などがある。全体の資料数は、10袋があるが、小破片が多い。

ＳＤ７０８（第229図）

ＳＤ708からは、ややまとまった資料があるが、やはり小破片が多い。資料の内訳は、広口壺A類448、広口壺B類、二重口縁壺、広口壺C類の傾向をもつ土器、手捏の脚台B類449、小振りの脚台A類・脚台B類、重複した別遺構の資料と考えられる丸底の甕B類450などがある。

ＳＤ７０９（第229図）

ＳＤ709からは、ややまとまった資料があるが、やはり小破片が多い。資料の内訳は、広口壺A類451、二重口縁壺、高坏A類452、甕G類の傾向をもつ土器、甕用の底部453、手焙形土器などがある。

ＳＤ７１０（第229図）

ＳＤ710からは、加飾のない二重口縁壺454、甕B類、甑などがある。全体の資料数は、８袋と少量である。

ＳＤ７１１（第229図）

ＳＤ711からは、広口壺A類455、広口壺B類、二重口縁壺、甕G類の体部破片、甕用の底部456、高坏A類、高坏B類、鉢用の底部457などがある。全体の資料数は、５袋と少量である。

ＳＤ７２０（第240図）

ＳＤ720から出土した器種構成比率に対応できる資料は、下層（B）で69点、中層（C）で81点、上層（D）で254点、計404点を数える。資料の内訳は、下層・中層・上層一括で広口壺A類590～593、広口壺B類594～596、加飾の豊かな二重口縁壺597～600、口縁部が直線的に外方向に開く短頸壺601・口縁部が内湾する短頸

器種	遺構 層位 / 器形	下層		中層		上層	
壺	広口壺A	10 (15.6%)	64 (21.9%)	20 (22.5%)	89 (22.3%)	17 (12.7%)	134 (25.7%)
	広口壺B	35 (54.7%)		57 (64.0%)		108 (80.6%)	
	広口壺C						
	二重口縁壺	5 (7.8%)				5 (3.7%)	
	長頸壺	4 (6.3%)		2 (2.2%)		2 (1.5%)	
	広口長頸壺			3 (3.4%)			
	細頸壺	2 (3.1%)		2 (2.2%)		1 (0.7%)	
	短頸壺	8 (12.5%)		3 (3.4%)			
	太頸壺					1 (0.7%)	
	無頸壺						
	脚台付壺			2 (2.2%)			
甕	甕 A	93 (64.6%)	144 (49.3%)	138 (64.2%)	215 (53.9%)	127 (44.9%)	283 (54.3%)
	甕 B	48 (33.3%)		74 (34.4%)		150 (53.0%)	
	甕 C						
	甕 D	3 (2.1%)		3 (1.4%)		6 (2.1%)	
	甕 E						
	甕 F						
	甕 G						
高坏	高坏 A	50 (80.6%)	62 (21.2%)	36 (81.8%)	44 (11.0%)	65 (86.7%)	75 (14.4%)
	高坏 B	12 (19.4%)		8 (18.2%)		10 (13.3%)	
	高坏 C						
	高坏 D						
	高坏 E						
	高坏 F						
鉢	鉢 A	9 (50.0%)	18 (6.2%)	20 (44.4%)	45 (11.3%)	4 (20.0%)	20 (3.9%)
	鉢 B	9 (50.0%)		25 (55.6%)		16 (80.0%)	
	鉢 C						
	鉢 D						
器台	器台 A					1 (100.0%)	1 (0.2%)
	器台 B						
	器台 C						
手焙形土器		1 (100.0%)	1 (0.4%)			1 (100.0%)	1 (0.2%)
蓋	蓋 A						
	蓋 B						
甑		3 (100.0%)	3 (1.0%)	6 (100.0%)	6 (1.5%)	7 (100.0%)	7 (1.3%)
合計			292 (100.0%)		399 (100.0%)		521 (100.0%)

表19　ＳＤ702出土土器器種構成比率

壺602、脚台付壺、甕Ａ類、甕Ｂ類603～605、甕Ｃ類、受口の屈曲度の極めて緩い甕Ｄ類606、甕Ｆ類、甕Ｇ類、高坏Ａ類、高坏Ｂ類、高坏Ｄ類、高坏Ｅ類609、鉢Ｄ類の要素をもつ鉢Ａ類607、鉢Ｂ類、器台Ｂ類、手焙形土器、多孔をもつ甑608がある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（Ｂ）で有４点・無２点、（Ｃ）で有４点・無２点、（Ｄ）で有11点・無10点、甕Ｂ類が（Ｂ）で有２点・無30点、（Ｃ）で有３点・無36点、（Ｄ）で有４点・無105点となる。

その他、脚台Ａ類が（Ｃ）で６点、（Ｄ）で13点、脚台Ｂ類が（Ｂ）で３点、（Ｃ）で５点、（Ｄ）で13点、脚台Ｆ・Ｆ’類が（Ｂ）610で４点、（Ｃ）で５点、（Ｄ）で46点、脚台Ｇ類が（Ｄ）で１点出土している。

ＳＤ７２１（第240・244図、ＰＬ．150）

ＳＤ720から出土した器種構成比率に対応できる資料は、下層で34点、中層で103点、上層で189点、計326点を数える。資料の内訳は、下層・中層・上層一括で口縁部端面に円形浮文をもつ広口壺Ａ類611、広口壺Ｂ類612、口縁下部に粘土帯を貼り付けて垂下させ、口縁に円形浮文をもつ二重口縁壺613、短頸壺、脚台付壺、甕Ａ類615、甕Ｂ類614、甕Ｃ類、甕Ｄ類、甕Ｆ類、甕Ｇ類、高坏Ａ類、高坏Ｂ類、鉢Ａ類、鉢Ｂ類、鉢Ｃ類、器台Ａ類、器台Ｂ類、口縁外面に三角形の幾何学文と円形浮文が施される器台617、手焙形土器、甑がある。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が（Ｂ）で有１点・無１点、（Ｃ）で有７点・無３点、（Ｄ）で有10点・無５点、甕Ｂ類が（Ｂ）で有１点・無10点、（Ｃ）で有２点・無35点、（Ｄ）で有１点・無64点となる。

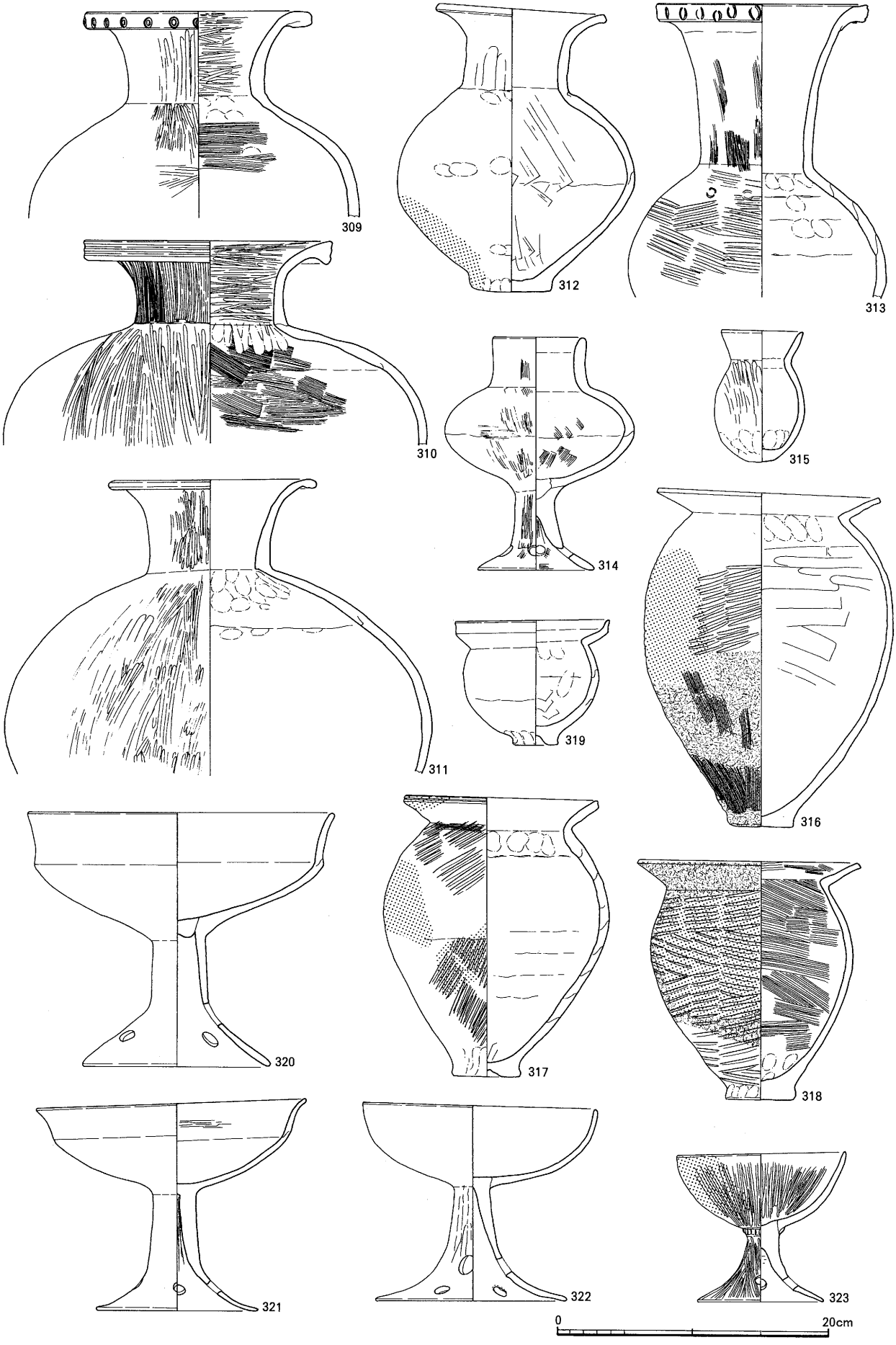
その他、脚台Ａ類が（Ｂ）で11点、（Ｃ）で９点、（Ｄ）で16点、脚台Ｂ類が（Ｂ）で４点、（Ｃ）で４点、（Ｄ）で７点、脚台Ｃ類が（Ｄ）で１点、脚台Ｆ類・Ｆ’類が（Ｄ）616で６点出土している。

ＳＤ９３６（第241・242図、表20、ＰＬ．130）

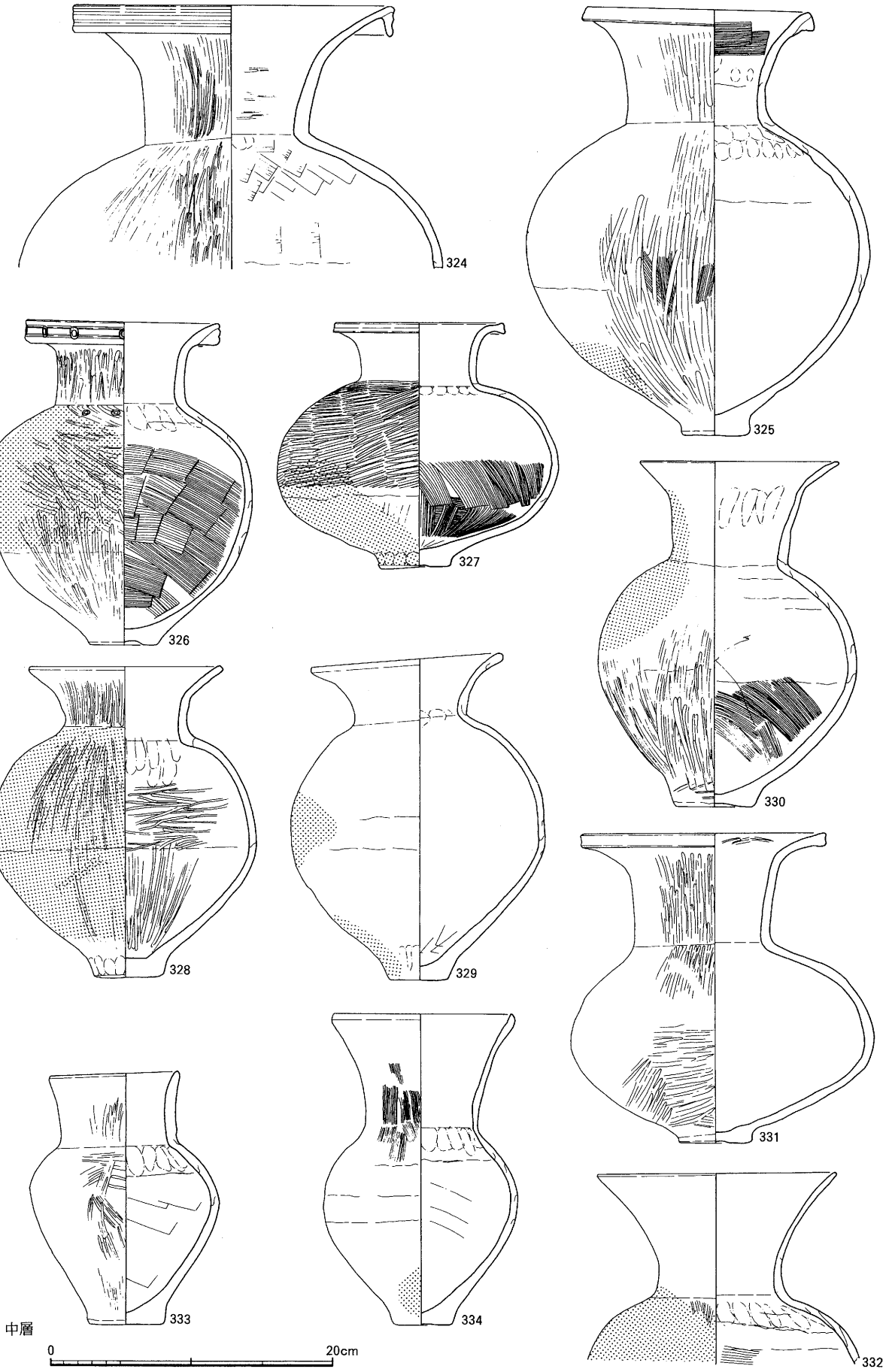
ＳＤ936から出土した器種構成比率に対応できる資料は、埋土一括で177点を数える。資料の内訳は、球形の体部が主体を占める広口壺Ａ類618～622、広口壺Ｂ類623・624、粘土帯を付加した部分の加飾豊かな二重口縁壺625・626、口縁部端面に擬凹線と貼付逆Ｓ字浮文が組合わさった加飾の広口長頸壺627・加飾のない広口長頸壺628、球形の体部に短く外傾する口頸部のつく短頸壺629、甕Ａ類630～636、甕Ｂ類、受口の屈曲度が緩く、体部が球形を呈する甕Ｄ類637、内湾傾向の脚台Ａ類の取付く高坏Ａ類639～641、高坏Ｂ類642、鉢Ａ類、口縁部外面に擬凹線を施した鉢Ｂ類638、器台Ａ類がある。二重口縁壺625・626は、加飾の類似性においてＳＤ702下層出土資料との比較が可能である。甕Ａ・Ｂ類の口縁端部の刻み目は、甕Ａ類が有18点・無７点、甕Ｂ類が有１点・無18点となる。高坏Ａ類では、坏部の口縁部と体部の比率が、１：２.６もしくは１：1.8、１：1.5の３グループ

器種	器形	比	率	器種	器形	比	率
壺	広口壺Ａ	28 (45.2％)	62 (35.0％)	高坏	高坏Ａ	40 (81.6％)	49 (27.7％)
	広口壺Ｂ	20 (32.3％)			高坏Ｂ	9 (18.4％)	
	広口壺Ｃ				高坏Ｃ		
	二重口縁壺	9 (14.5％)			高坏Ｄ		
	長頸壺				高坏Ｅ		
	広口長頸壺	2 (3.2％)			高坏Ｆ		
	細頸壺	1 (1.6％)		鉢	鉢Ａ	4 (44.4％)	9 (5.1％)
	短頸壺	2 (3.2％)			鉢Ｂ	5 (55.6％)	
	太頸壺				鉢Ｃ		
	無頸壺				鉢Ｄ		
	脚台付壺			器台	器台Ａ	1 (100.0％)	1 (0.6％)
甕	甕Ａ	25 (44.6％)	56 (31.6％)		器台Ｂ		
	甕Ｂ	19 (33.9％)			器台Ｃ		
	甕Ｃ			手焙形土器			
	甕Ｄ	12 (21.4％)		蓋	蓋Ａ		
	甕Ｅ				蓋Ｂ		
	甕Ｆ			甑			
	甕Ｇ			合計			177 (100.0％)

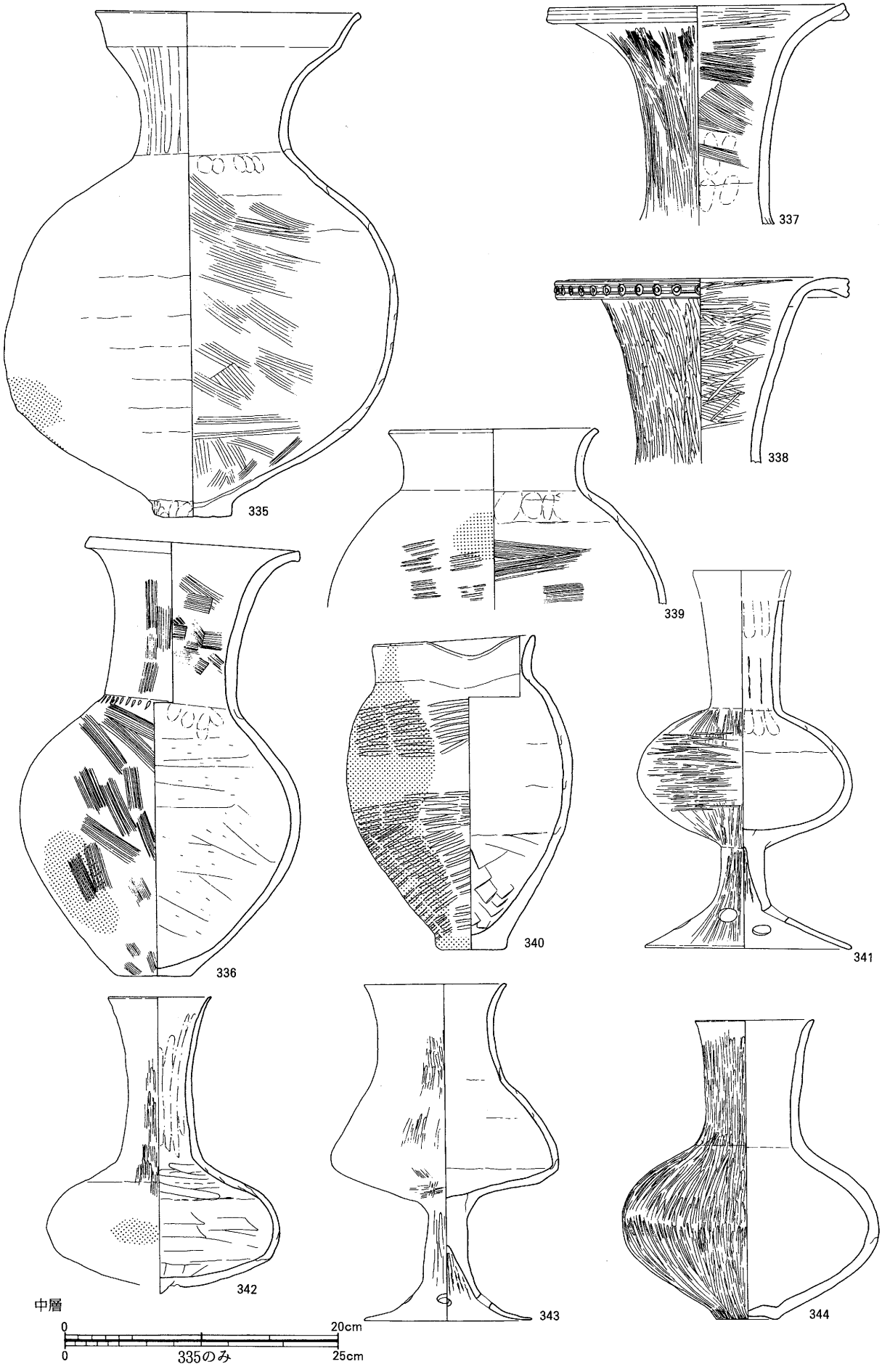
表20　ＳＤ936出土土器器種構成比率



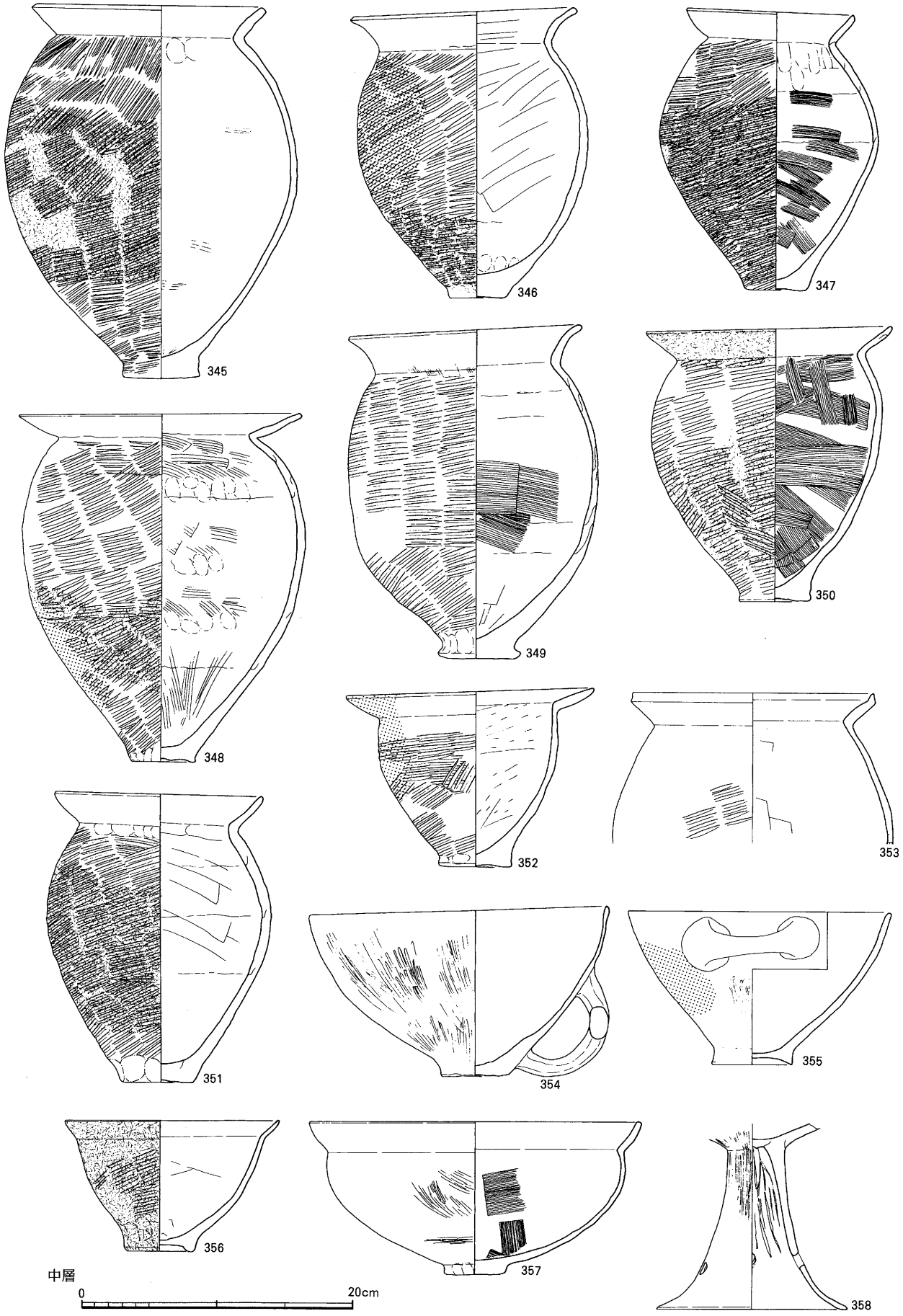
第220図　ＳＤ681出土土器実測図



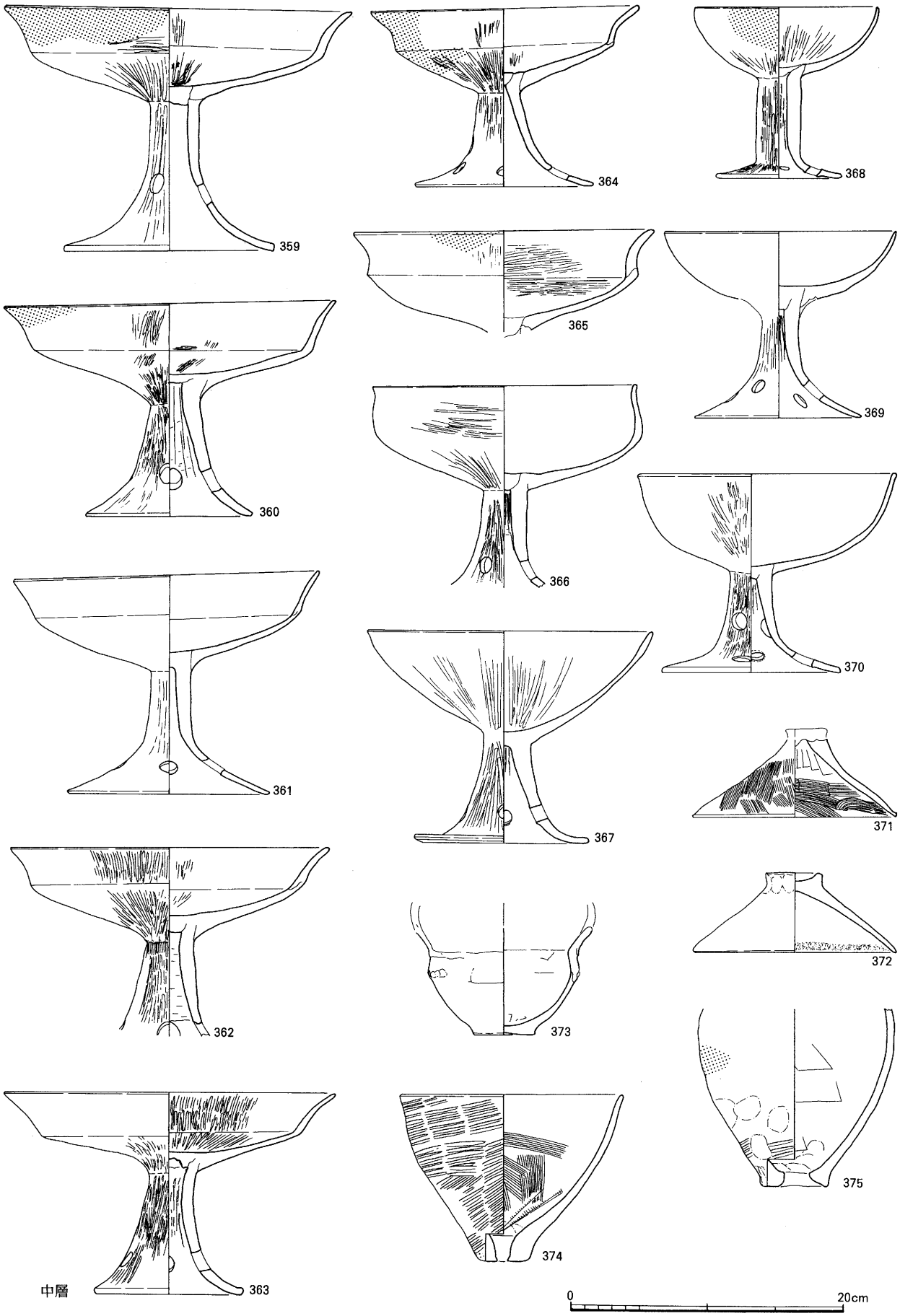
第221図　ＳＤ681出土土器実測図



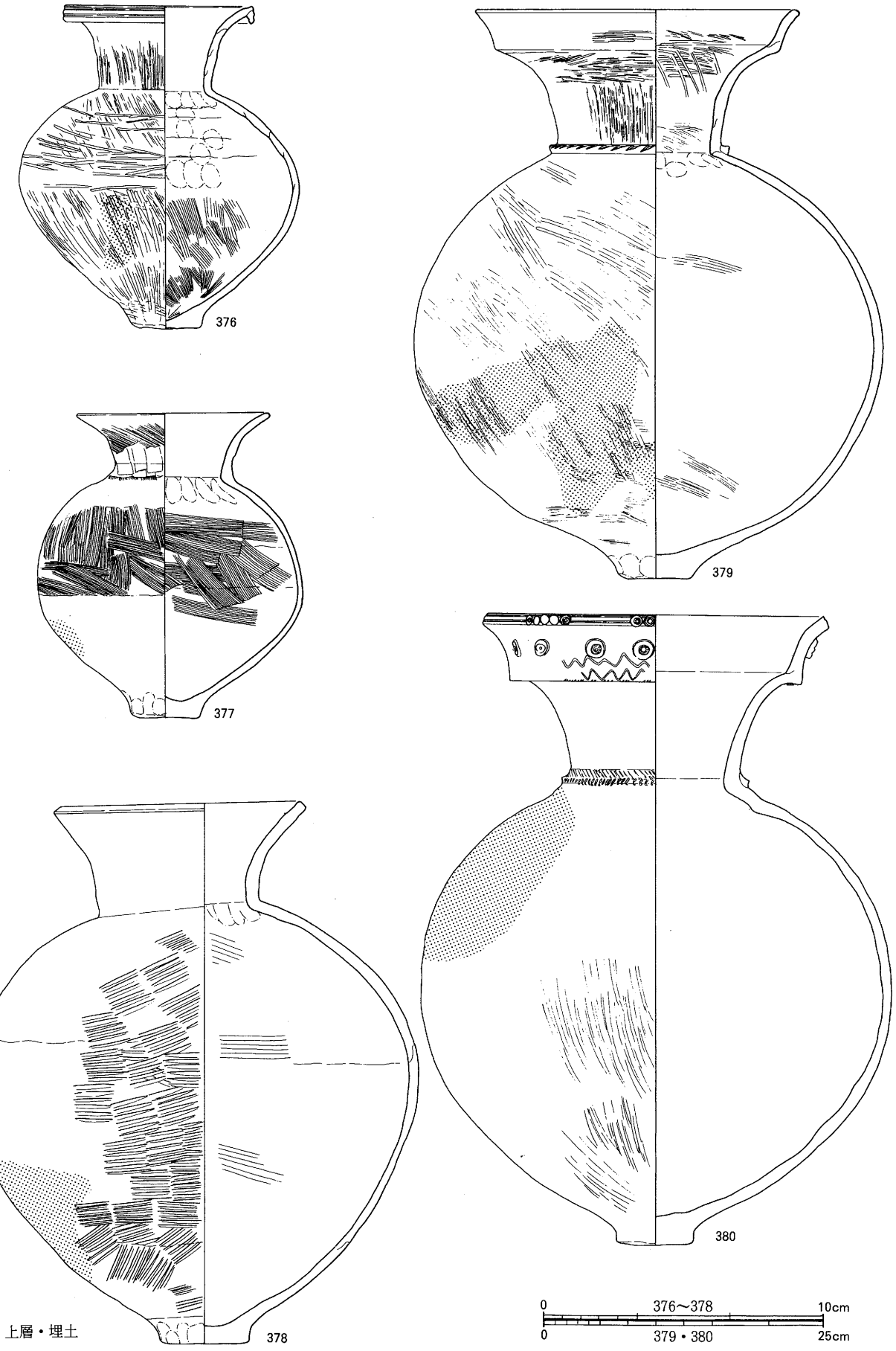
第222図　ＳＤ681出土土器実測図



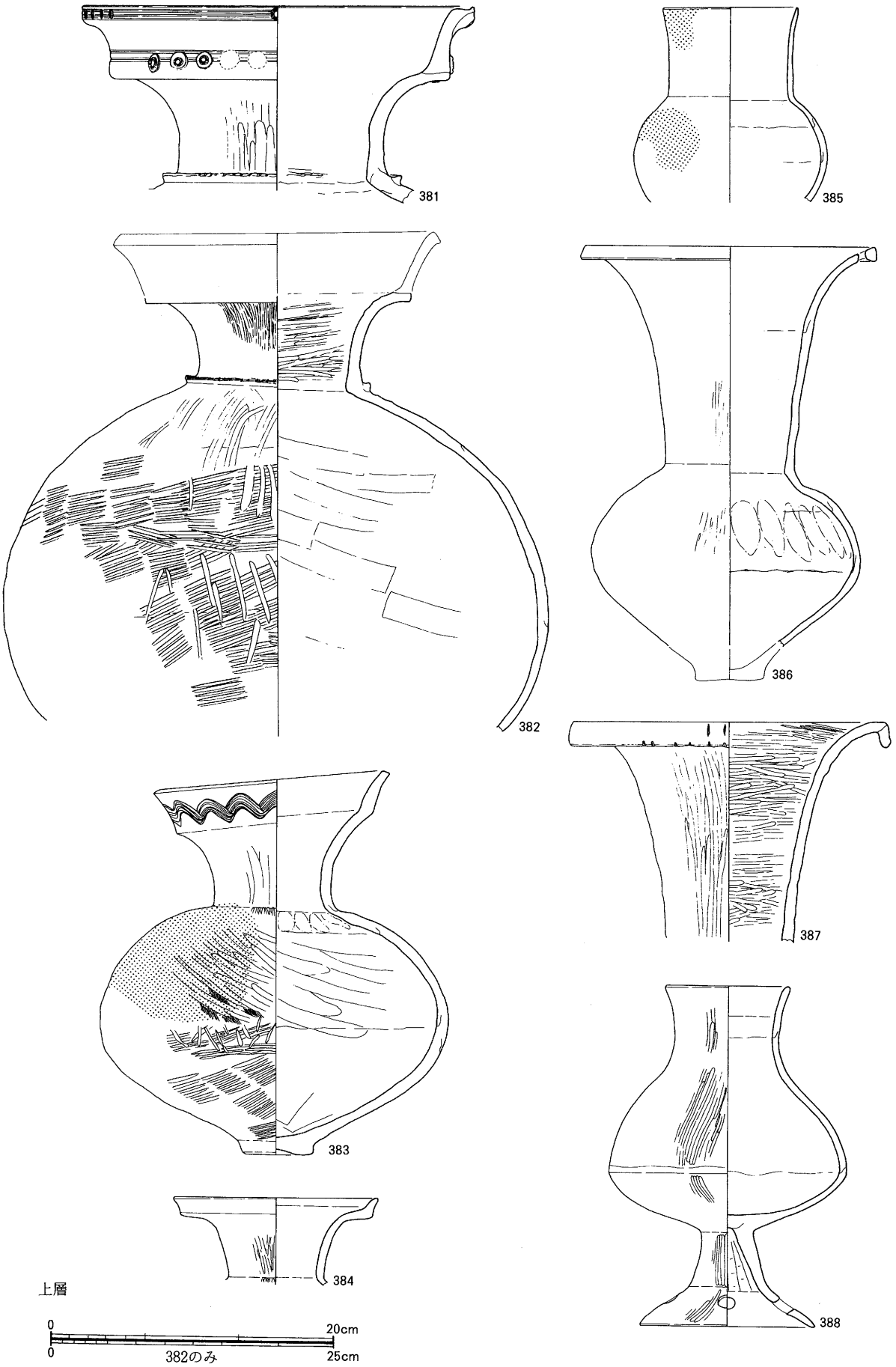
第223図　ＳＤ681出土土器実測図



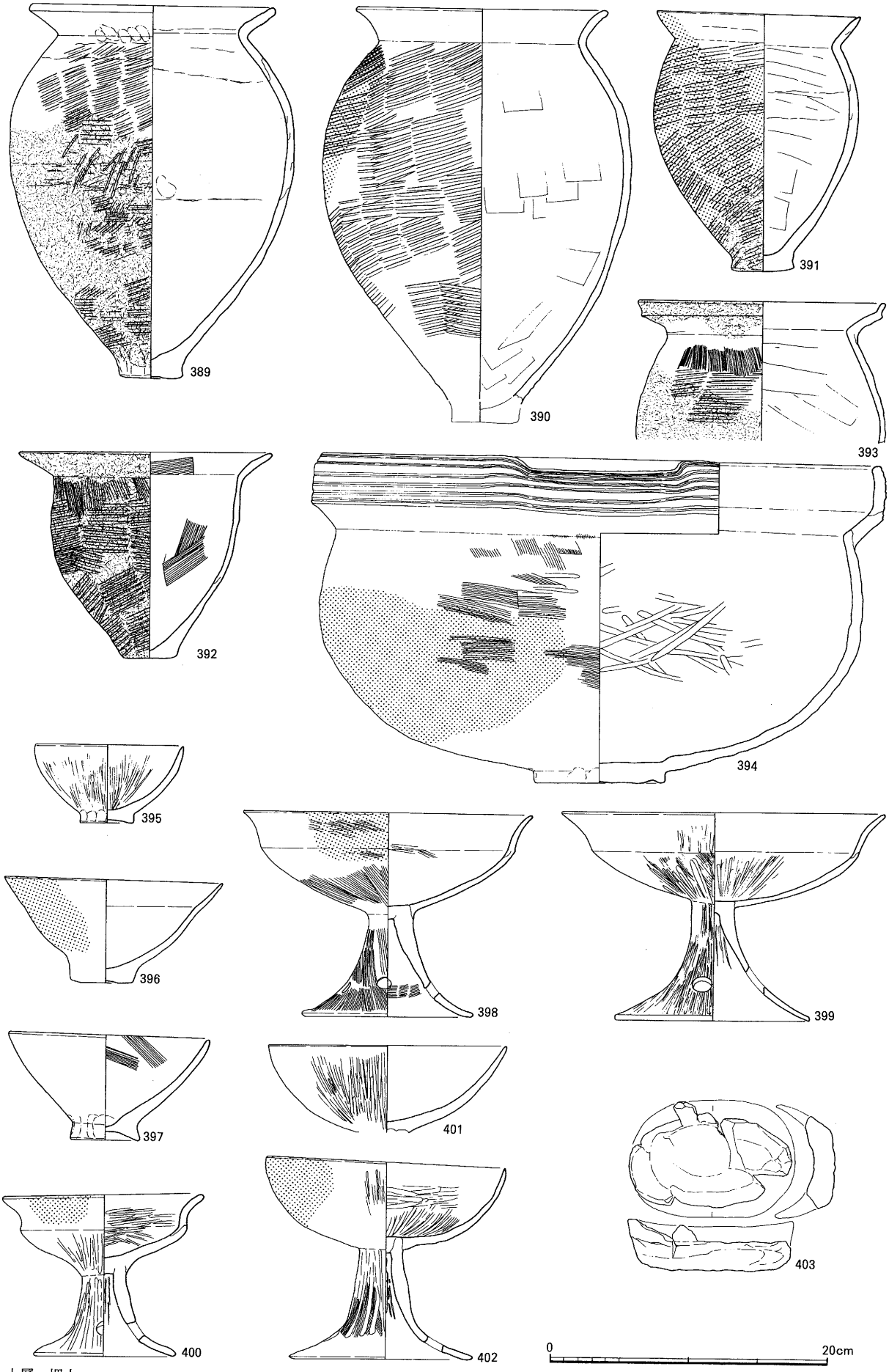
第224図　ＳＤ681出土土器実測図



第225図　ＳＤ681出土土器実測図

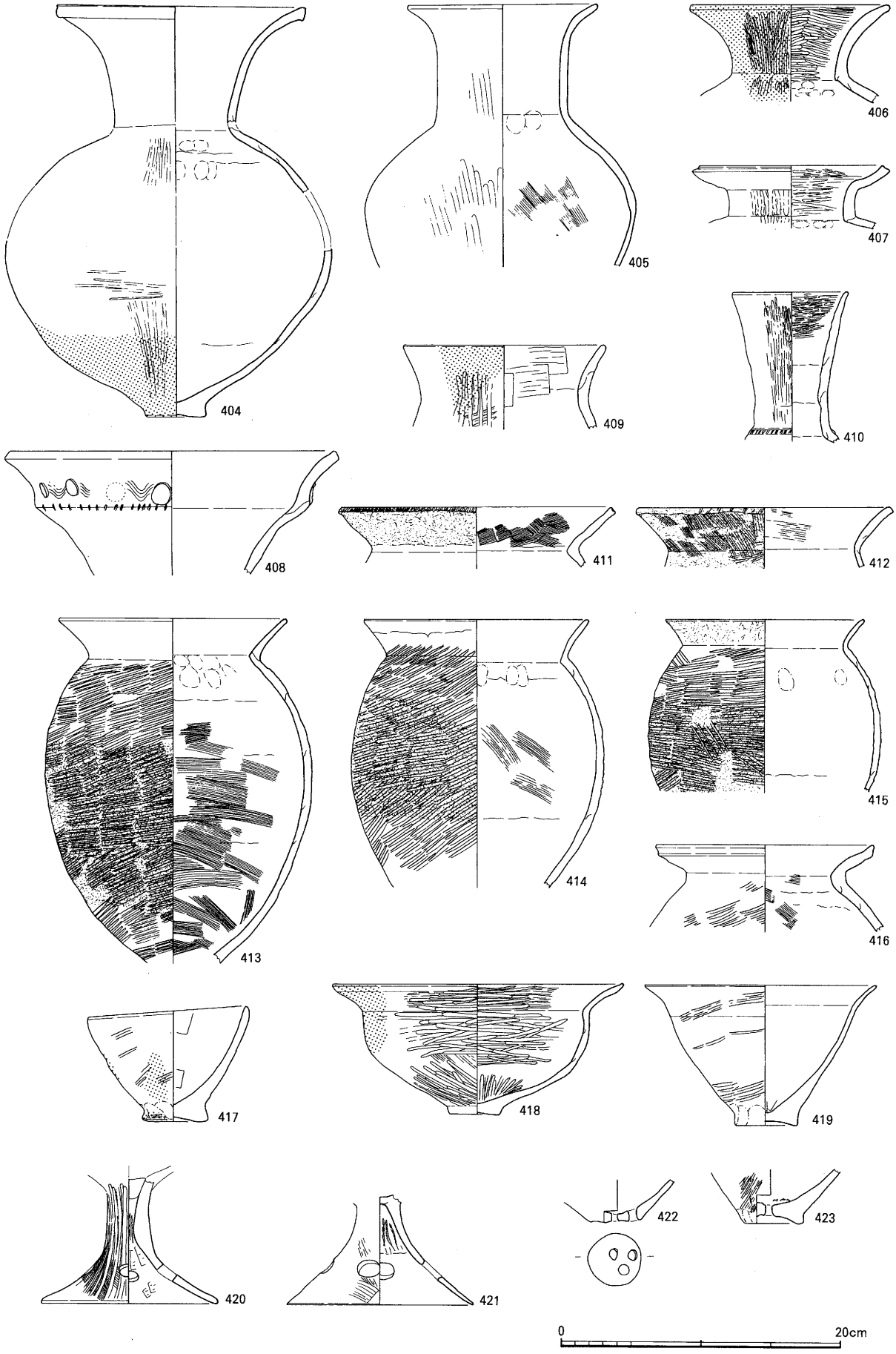


第226図　ＳＤ681出土土器実測図

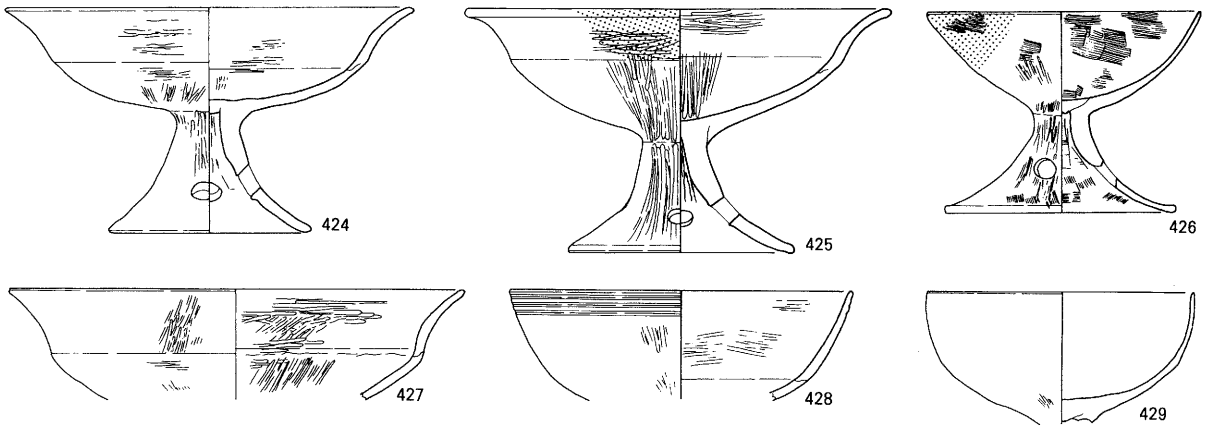


上層・埋土

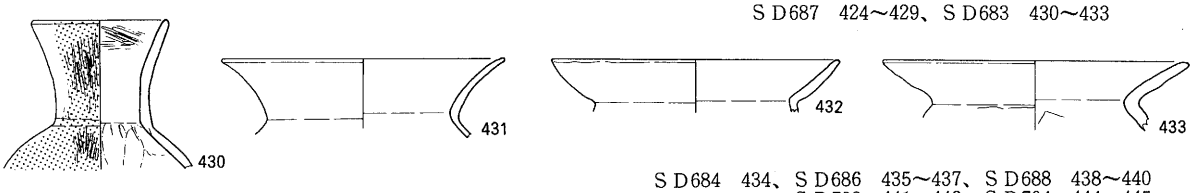
第227図　ＳＤ681出土土器実測図



第228図　ＳＤ687出土土器実測図

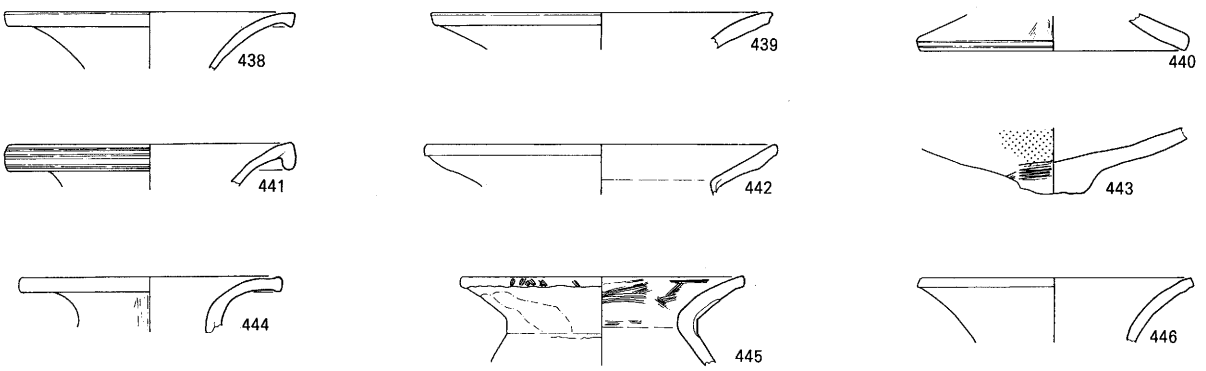


ＳＤ687　424～429、ＳＤ683　430～433

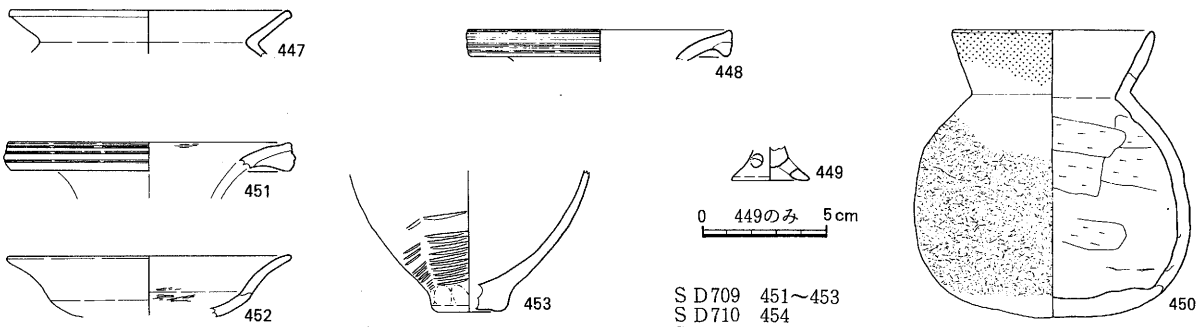


ＳＤ684　434、ＳＤ686　435～437、ＳＤ688　438～440
ＳＤ703　441～443、ＳＤ704　444・445



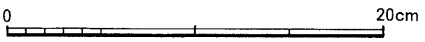


ＳＤ705　446、ＳＤ706　447、ＳＤ708　448～450

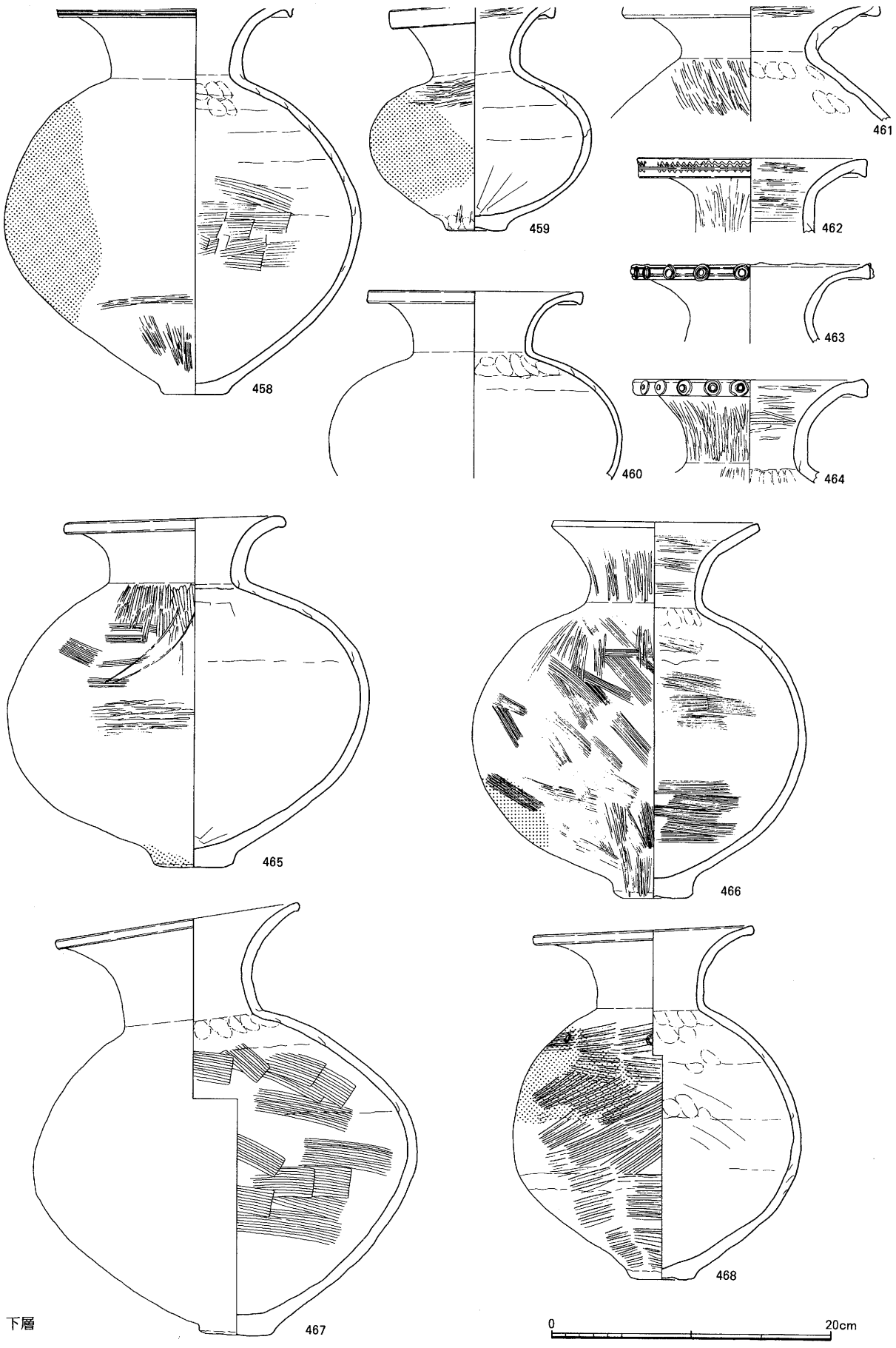


ＳＤ709　451～453
ＳＤ710　454
ＳＤ711　455～457

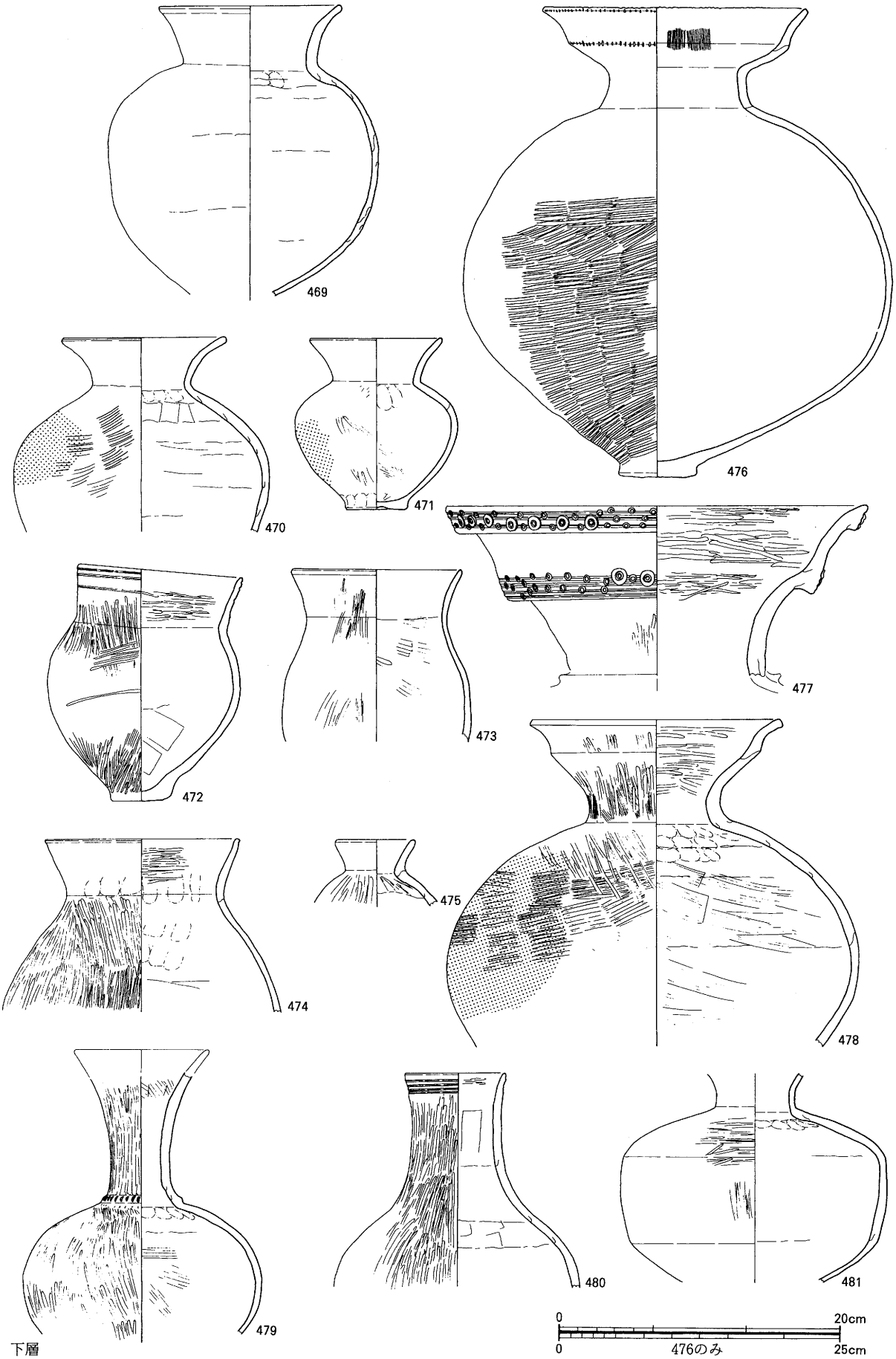




第229図　ＳＤ683・684・686・687・688・703・704・705・706・708・709・710・711出土土器実測図



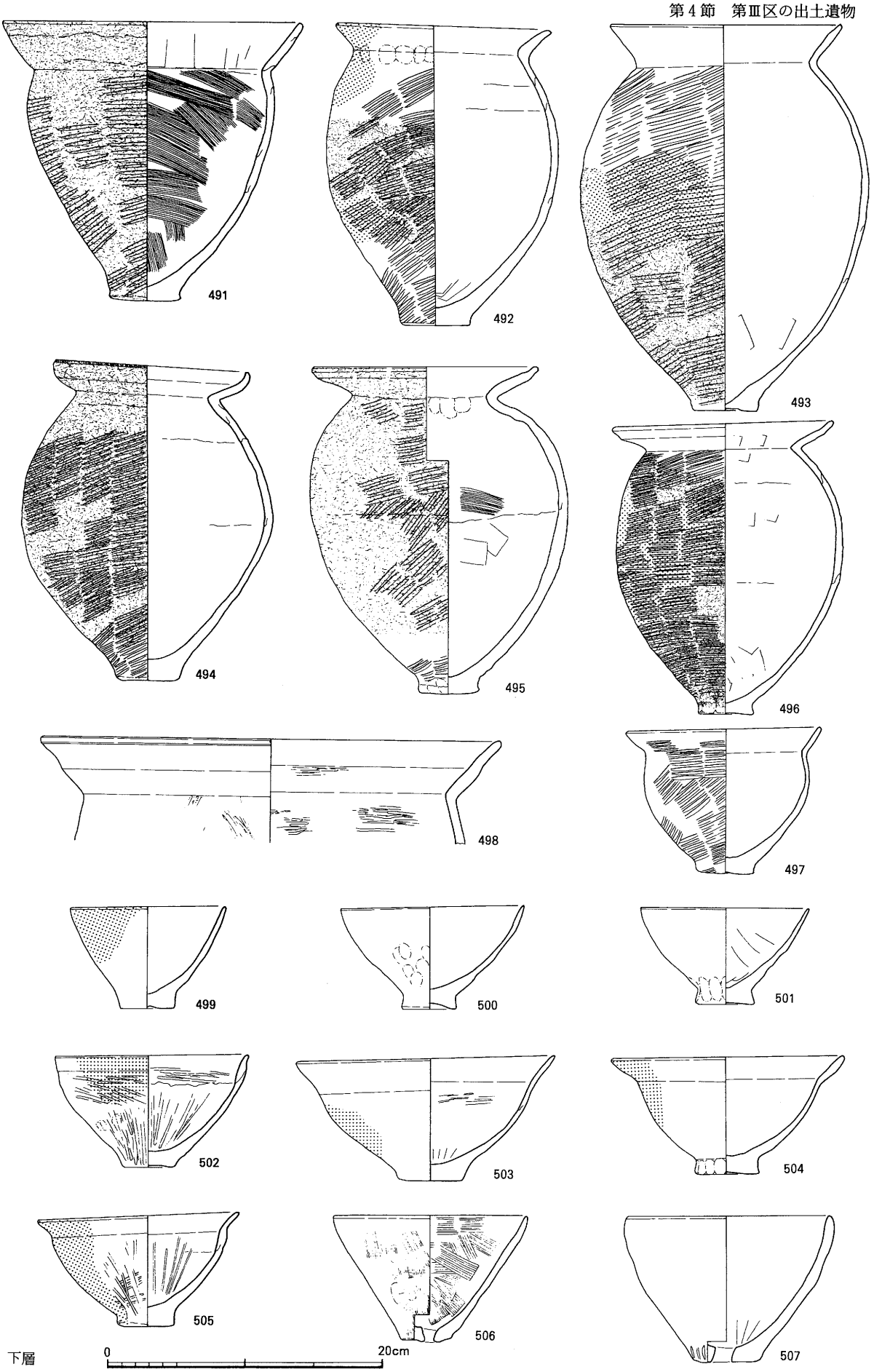
第230図　ＳＤ702出土土器実測図



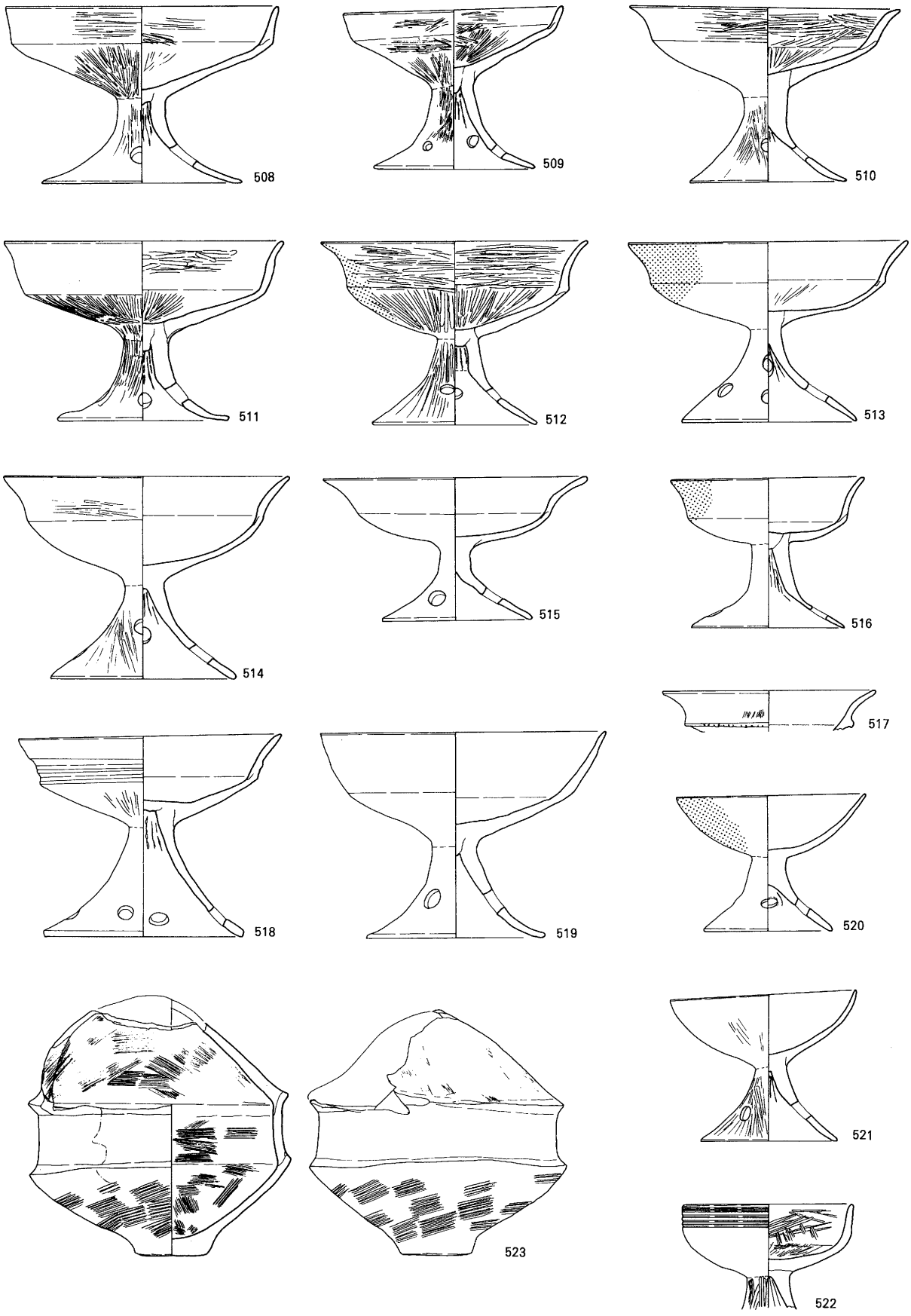
第231図　ＳＤ702出土土器実測図



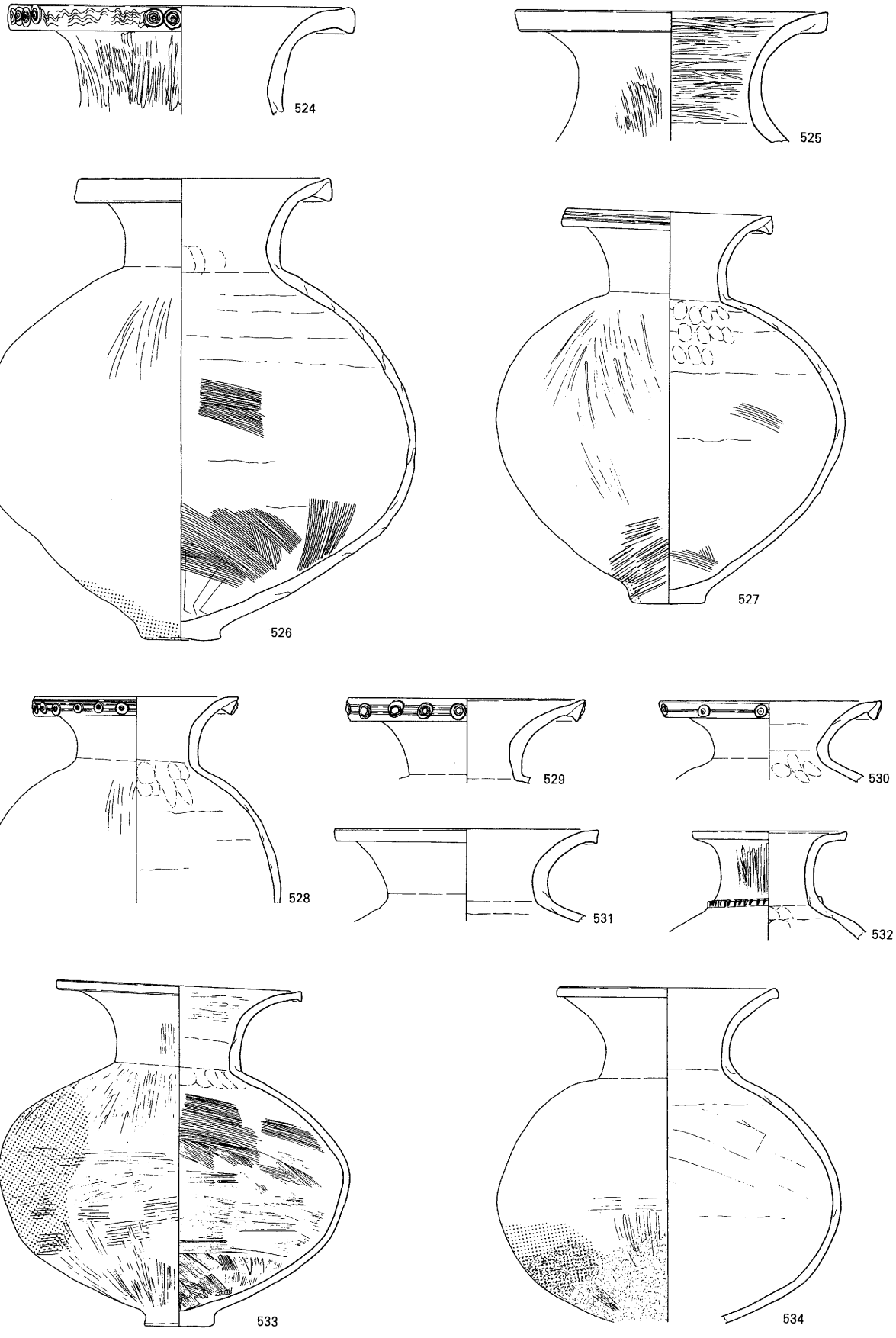
第232図　ＳＤ702出土土器実測図



第233図　ＳＤ702出土土器実測図

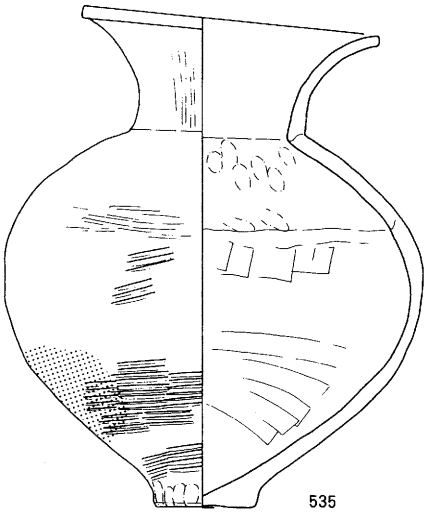


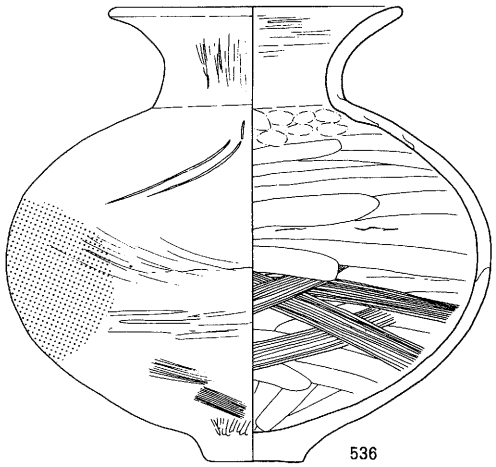
第234図　ＳＤ702出土土器実測図

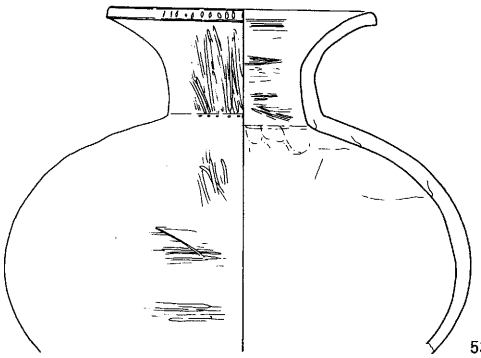


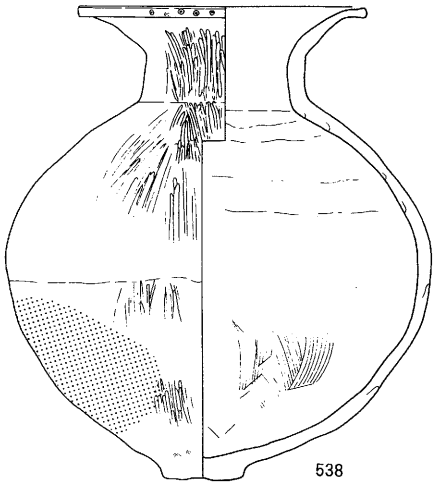
中層
533のみ埋土

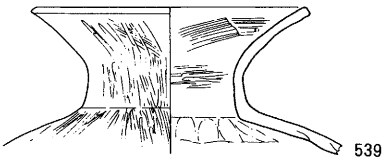
第235図　ＳＤ702出土土器実測図

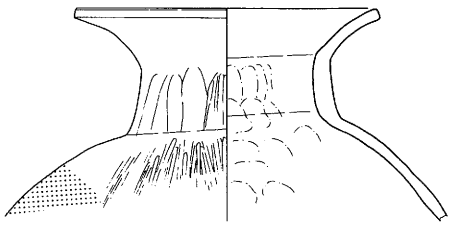


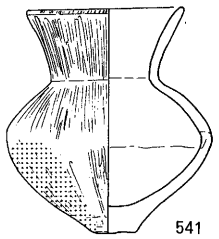


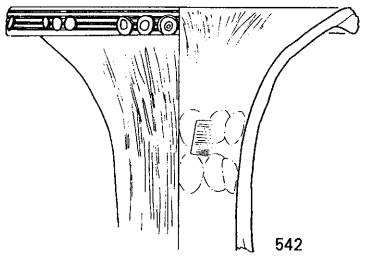


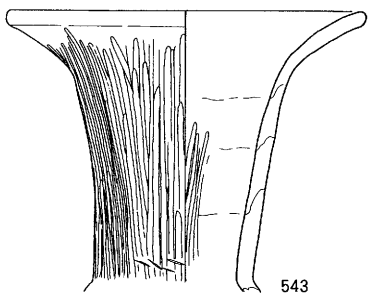


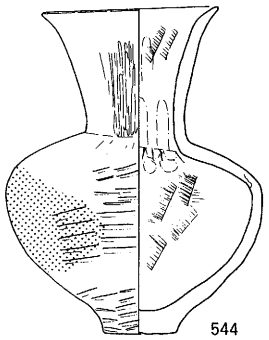




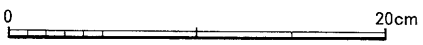




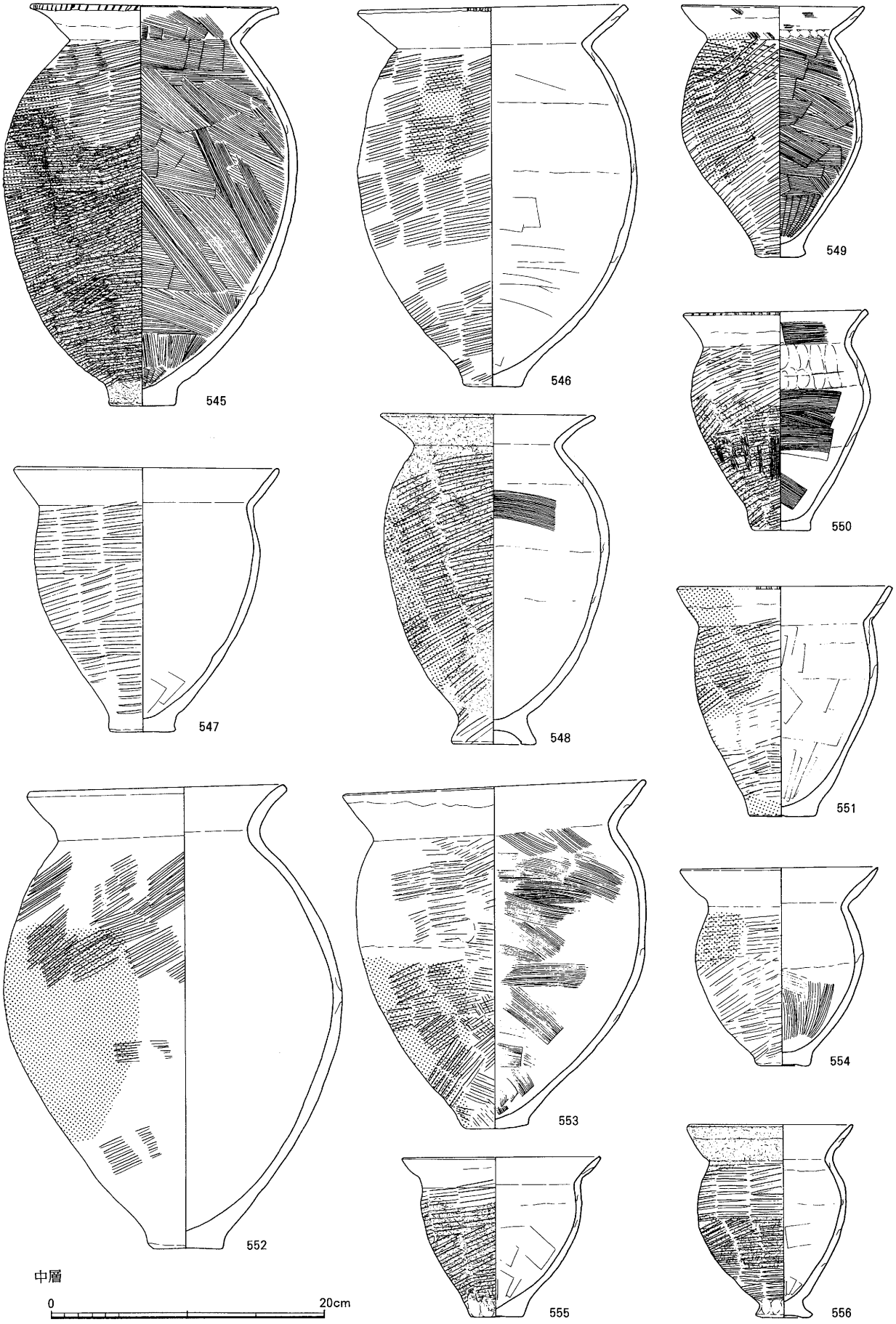




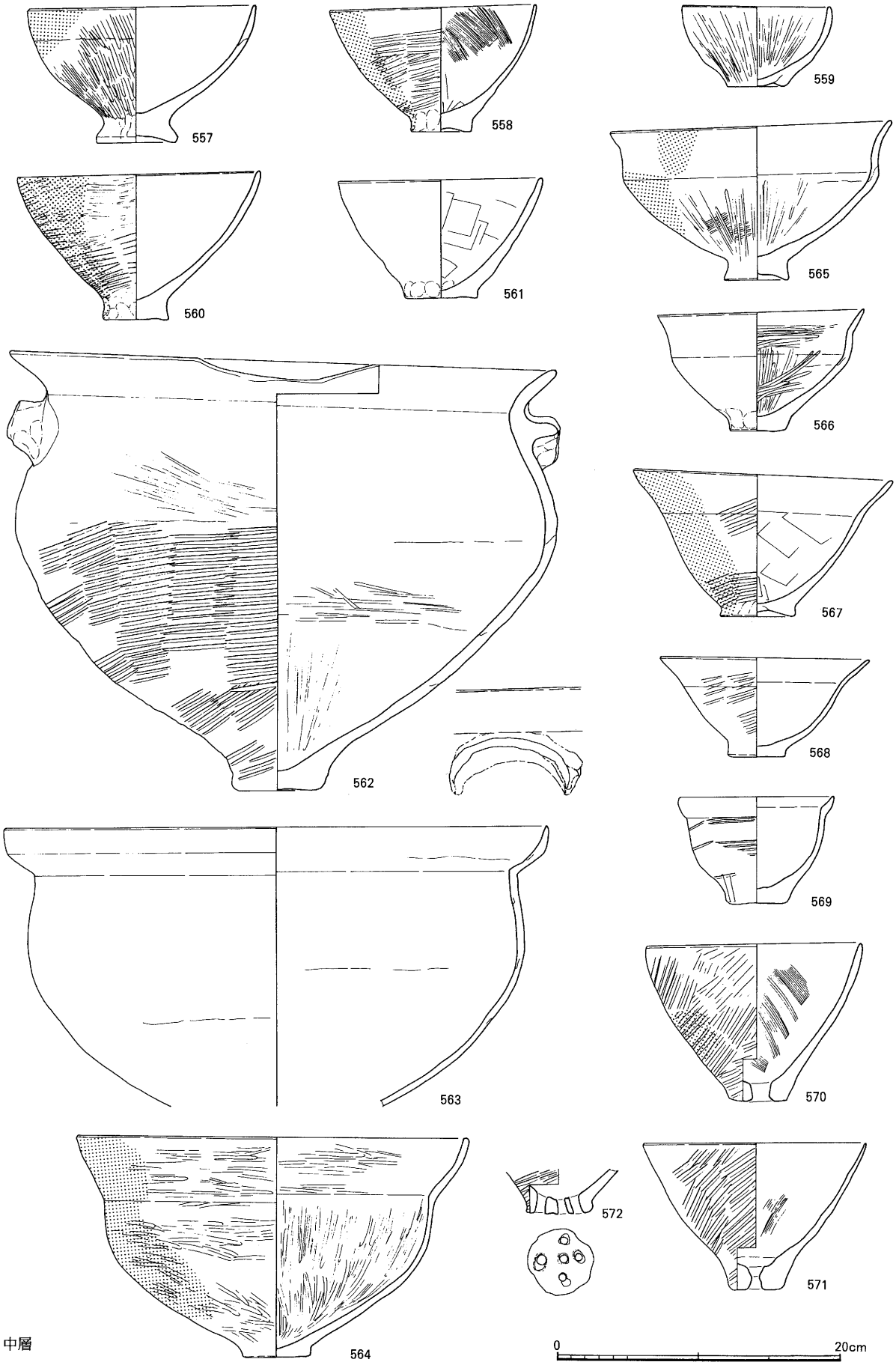
中層



第236図　ＳＤ702出土土器実測図



第237図　ＳＤ702出土土器実測図



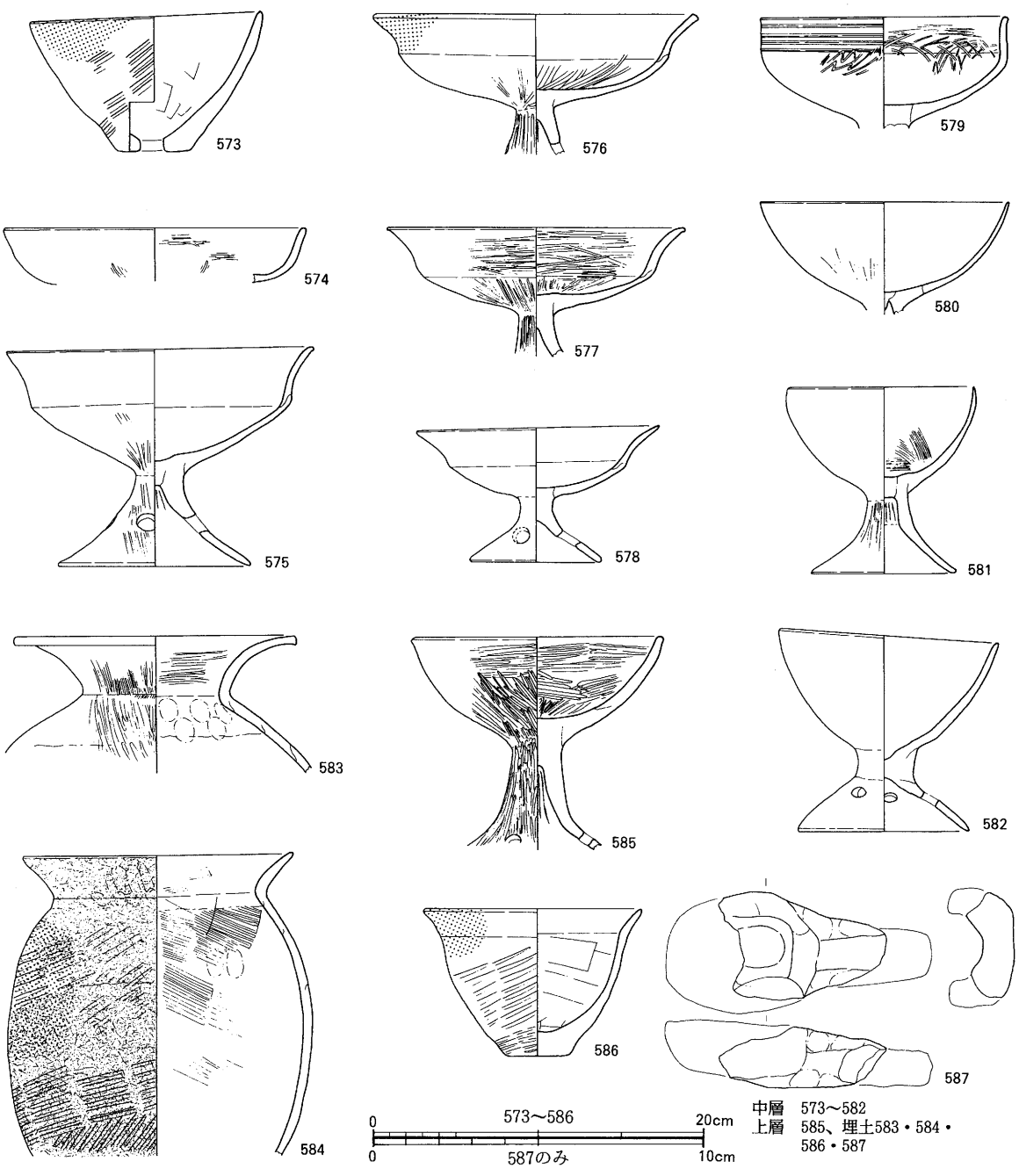
第238図　ＳＤ702出土土器実測図

に区別でき、口縁部の長いものが存在する。

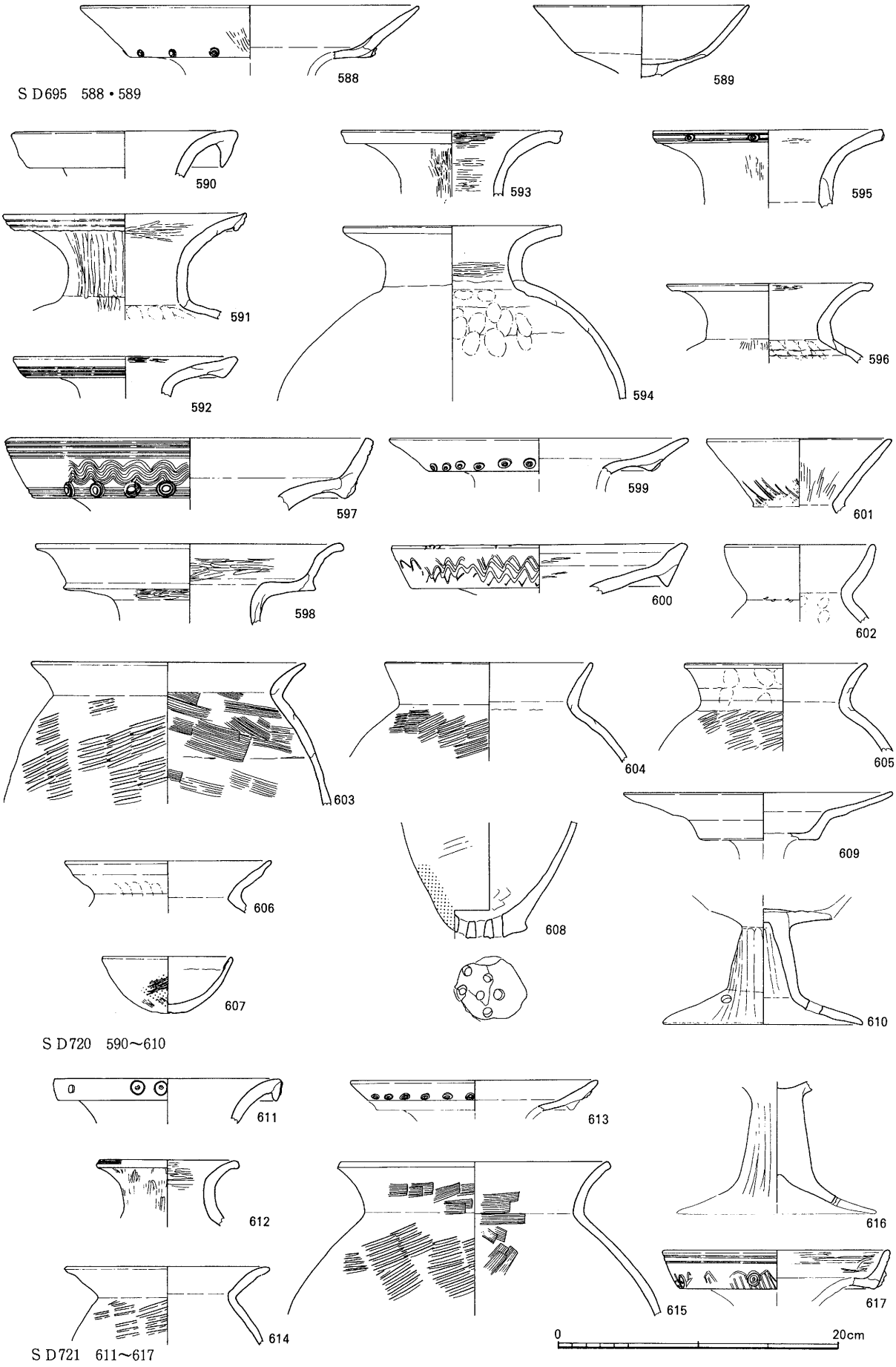
その他、脚台Ａ類が42点出土している。

ＳＤ９３８（第243図、ＰＬ．149・150）

土器資料は、極めて小破片のみである。石器・石製品として、砥石654、磨石658がある。



第239図　ＳＤ702出土土器・土製品実測図

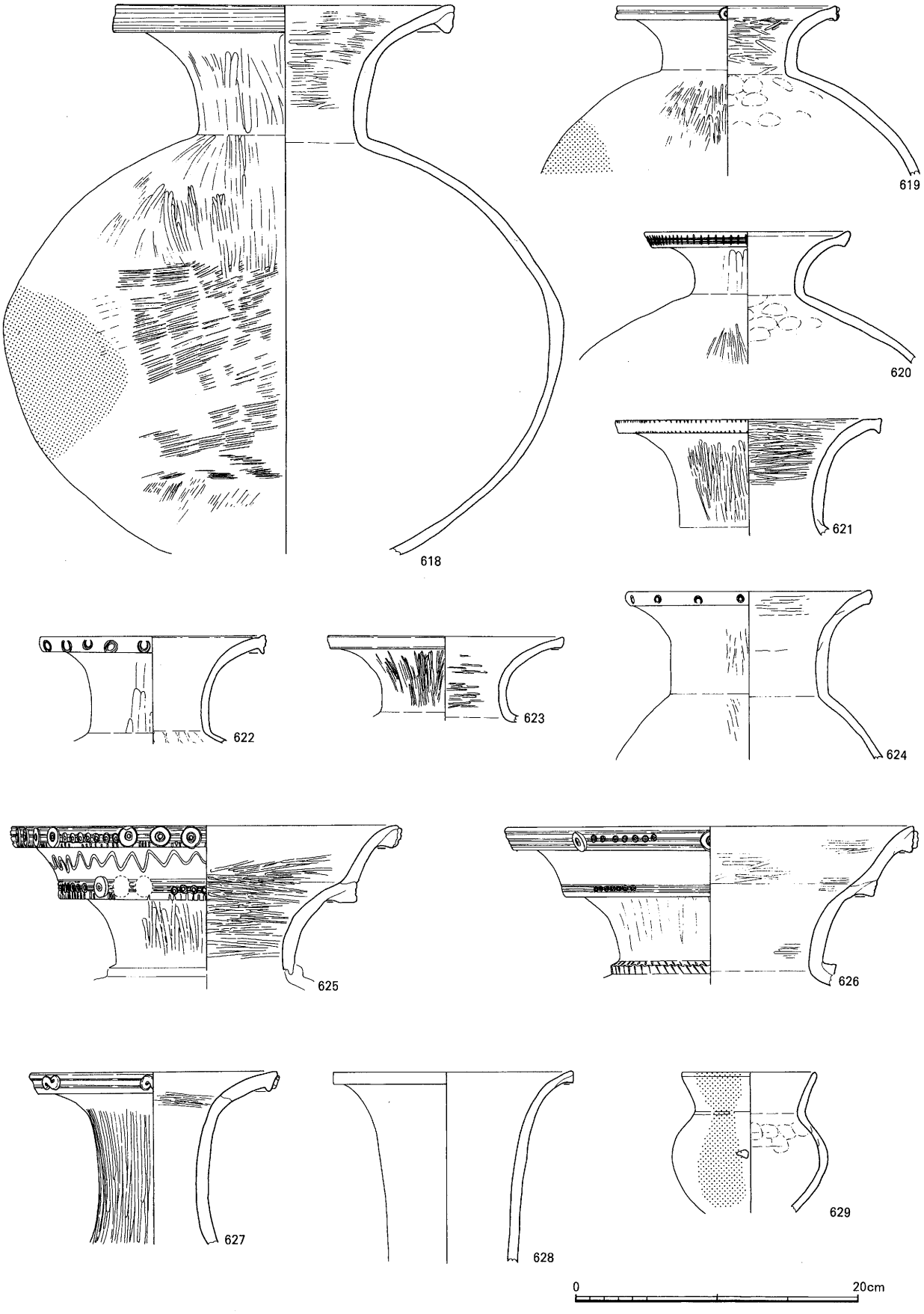


SD695　588・589

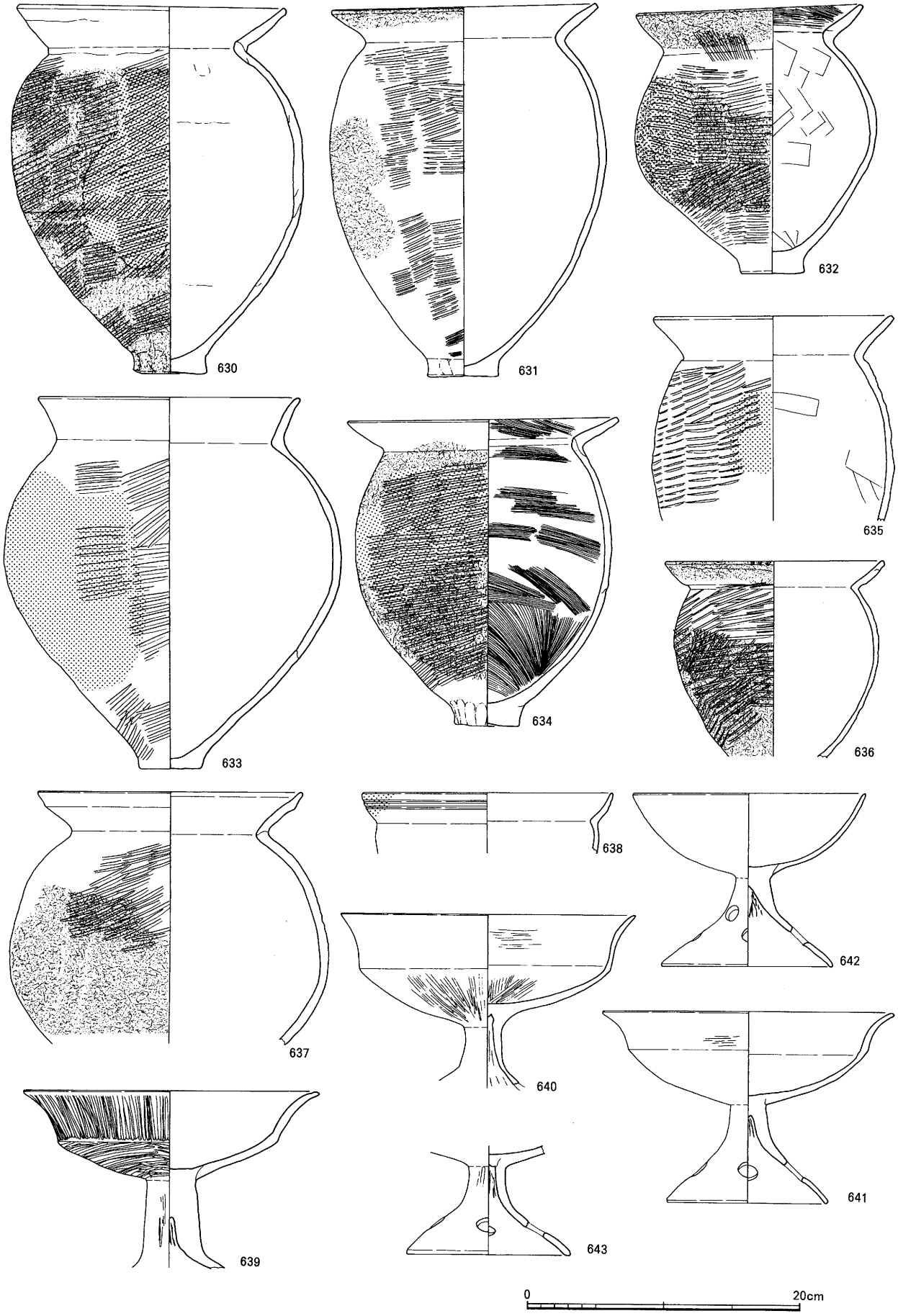
SD720　590～610

SD721　611～617

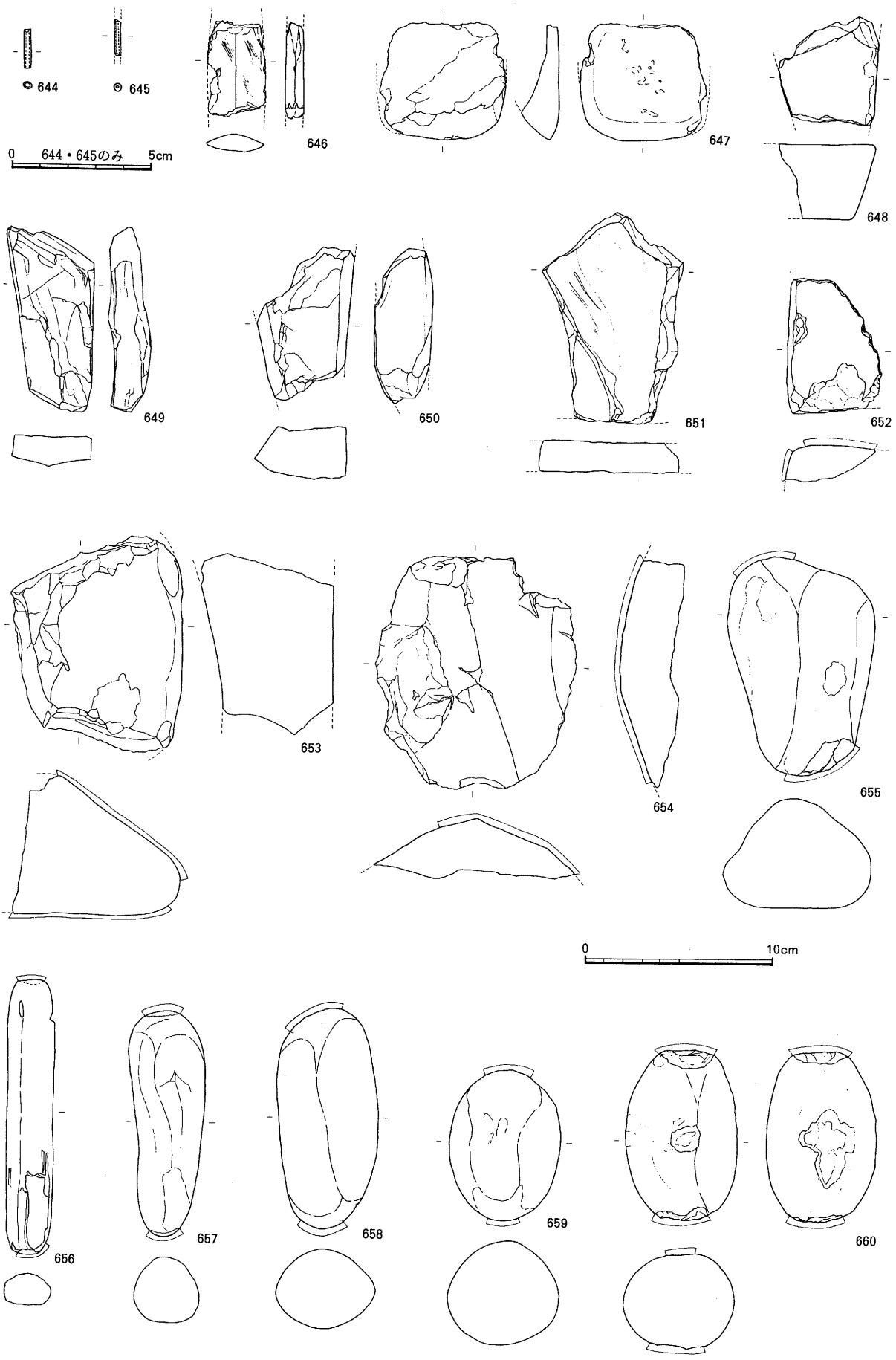
第240図　SD695・720・721出土土器実測図



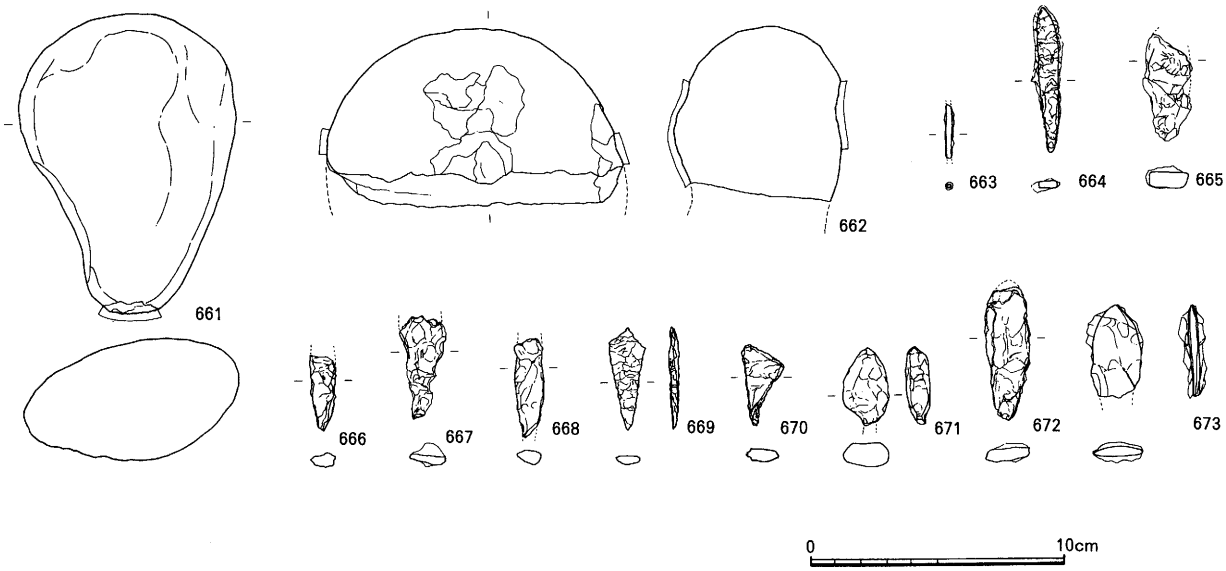
第241図　ＳＤ936出土土器実測図



第242図　ＳＤ936出土土器実測図



第243図　第Ⅲ区出土弥生・古墳時代石製品・石器実測図



第244図　第Ⅲ区出土弥生・古墳時代石器・金属製品実測図

3　奈良時代

第Ⅲ区の奈良時代の資料は、少数の土坑や溝から出土した資料がある。量的にはさほど多くないが、一定のまとまりをもつ資料である。

（1）土坑

土坑の資料は、僅かな量ではあるが、製塩土器などを伴う資料である。

ＳＫ７３２（第245図、ＰＬ．131）ＳＫ732の上層から室町時代の土釜Ａ類２点、青磁Ⅲ１点、伊万里１点が出土しているが、堆積過程の混在と判断した。資料の内訳は、黒色土器Ｂ類の椀、土師器甕、須恵器坏Ａ類679・680・坏Ｂ類・横瓶・甕、厚手の製塩土器で丸底Ⅵ類674・675、丸底Ⅴａ類676～678がある。

ＳＫ７３４（第245図、ＰＬ．131）ＳＫ734からは、土師器坏Ａ類682・683、須恵器坏Ｂ類684・蓋685・摘みの付く坏蓋686・687・短頸壺688・甕、厚手の製塩土器などがある。

ＳＫ７５３（第245図、ＰＬ．131）ＳＫ753からは、黒色土器Ａ類の椀Ｂ類689、土師器甕690、底部外面回転ヘラ切り、ロクロ右回り方向の須恵器坏Ａ類691・ロクロ右回り方向の坏Ｂ類692などがある。資料は、小破片が多い。土器資料は、平城Ⅱ～Ⅲの段階に併行する一群とみられる。

（2）溝

溝の資料は、一部にまとまりのあるものが認められるが、その他は小破片が主体を占める。

ＳＤ７４２（第245図、ＰＬ．131）ＳＤ742からは、大半が弥生時代後期の土器資料である。その中に、須恵器坏身681がある。飛鳥Ⅰ～Ⅱの段階に併行する資料とみられる。

ＳＤ７３８（第245図）ＳＤ738からは、11面の面取りされた土師器高坏の脚柱部・長胴の土師器甕693、須恵器甕などがある。飛鳥Ⅴの段階に併行する資料とみられる。

ＳＤ７３９（第245図、ＰＬ．131）ＳＤ739からは、体部下膨れ気味の土師器甕694がある。平城Ⅲ～Ⅴの段階に併行する資料とみられる。

ＳＤ７４０（第245・271図、ＰＬ．131）ＳＤ740からは、大半が弥生時代後期から終末期の土器である。

資料の内訳は、土師器坏Ａ類695・696、高坏698、甕699・700、土堝701、高台付の須恵器壺底部・丸底の壺底部702などがある。当項当該期の土器資料は、平城Ⅰ～Ⅱの段階に併行する一群とみられる。

ＳＤ７４１（第246・247図、表21、ＰＬ．131・132）ＳＤ741からは、まとまった量の資料がある。資料の内訳は、下層・中層・上層一括で黒色土器Ｂ類の坏Ａ類703、土師器Ⅲ Ａ類704～708・坏Ａ類709・710・坏Ｂ類711・甕712～714・高坏715～717、厚手の製塩土器で丸底Ｖａ類717・718・丸底Ⅶａ類720～723・丸底Ⅶｂ類724・丸底Ⅷａ類725・726・丸底Ⅷｂ類ないしⅦｂ類727・丸底底部728～730、須恵器広口壺731・高台付の壺底部732・甕733・坏Ａ類734～738・坏Ｂ類739～744・坏蓋745～747・甕748がある。下層資料に飛鳥Ⅴの段階に併行する資料が含まれるが、上層資料は平城Ⅲ～Ⅳの段階に併行する一群とみられる。

ＳＤ７４５（第247図）ＳＤ745からは、須恵器坏Ａ類・坏Ｂ類763・坏蓋などがある。土器資料は、平城Ⅱの段階に併行する資料とみられる。

ＳＤ７４６（第247図）ＳＤ746からは、土師器Ⅲ Ｂ類754・坏Ａ類756・甕、須恵器坏蓋764などがある。土器資料は、平城Ⅱの段階に併行する資料とみられる。

ＳＤ７４７（第247図）ＳＤ747からは、土師器甕、須恵器坏Ｂ類761・坏蓋765、厚手の製塩土器などがある。資料は、小破片が多い。土器資料は、平城Ⅱの段階に併行する資料とみられる。

ＳＤ７４８（第247図）ＳＤ748からは、土師器Ⅲ Ａ類・甕、須恵器坏蓋768・769・短頸壺759、厚手の製塩土器などがある。全体の資料は、庄内式併行期の土器が大半である。当項当該期の土器資料は、平城Ⅱの段階に併行する資料とみられる。

ＳＤ７４９（第247・276図、ＰＬ．154）ＳＤ749からは、土師器Ⅲ Ａ類、須恵器坏Ｂ類760・坏蓋766・甕758などがある。土器資料は、平城Ⅱ～Ⅲの段階に併行する資料とみられる。

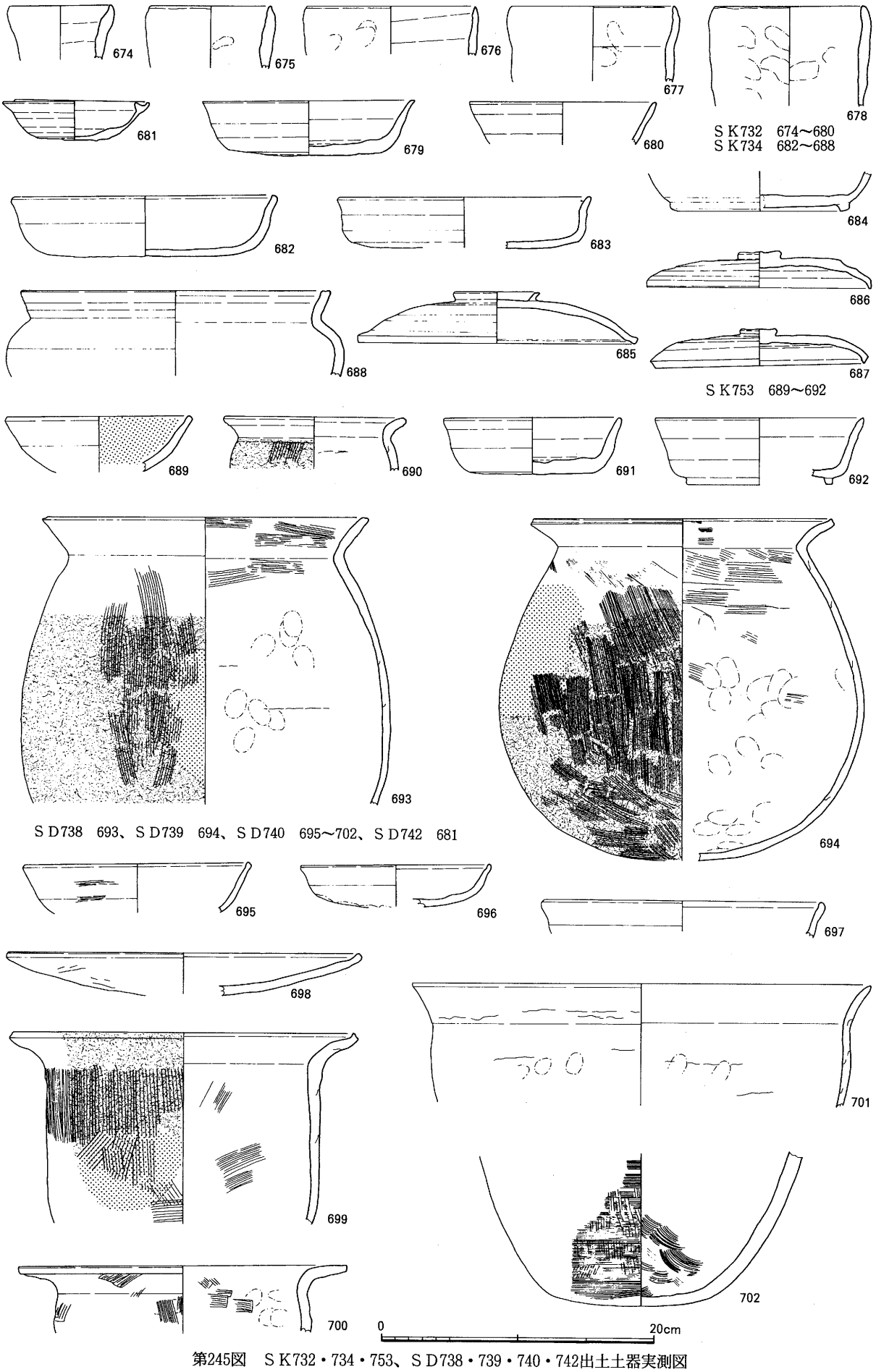
ＳＤ７５０（第247図）ＳＤ750からは、土師器Ⅲ Ａ類755・甕757、須恵器坏Ｂ類762・坏蓋767・壺などがある。全体の資料は、弥生時代後期末から庄内式併行期の土器が大半である。当項当該期の土器資料は、平城Ⅲの段階に併行する資料とみられる。

ＳＤ７５５（第247図、ＰＬ．132）ＳＤ755からは、土師器坏Ｂ類・甕、須恵器坏Ａ類750～752・坏Ｂ類・坏蓋753・壺底部749などがある。全体の資料は、小破片が多く、弥生時代後期末から庄内式併行期の土器が大半である。当項当該期の土器資料は、平城Ⅱの段階に併行する資料とみられる。

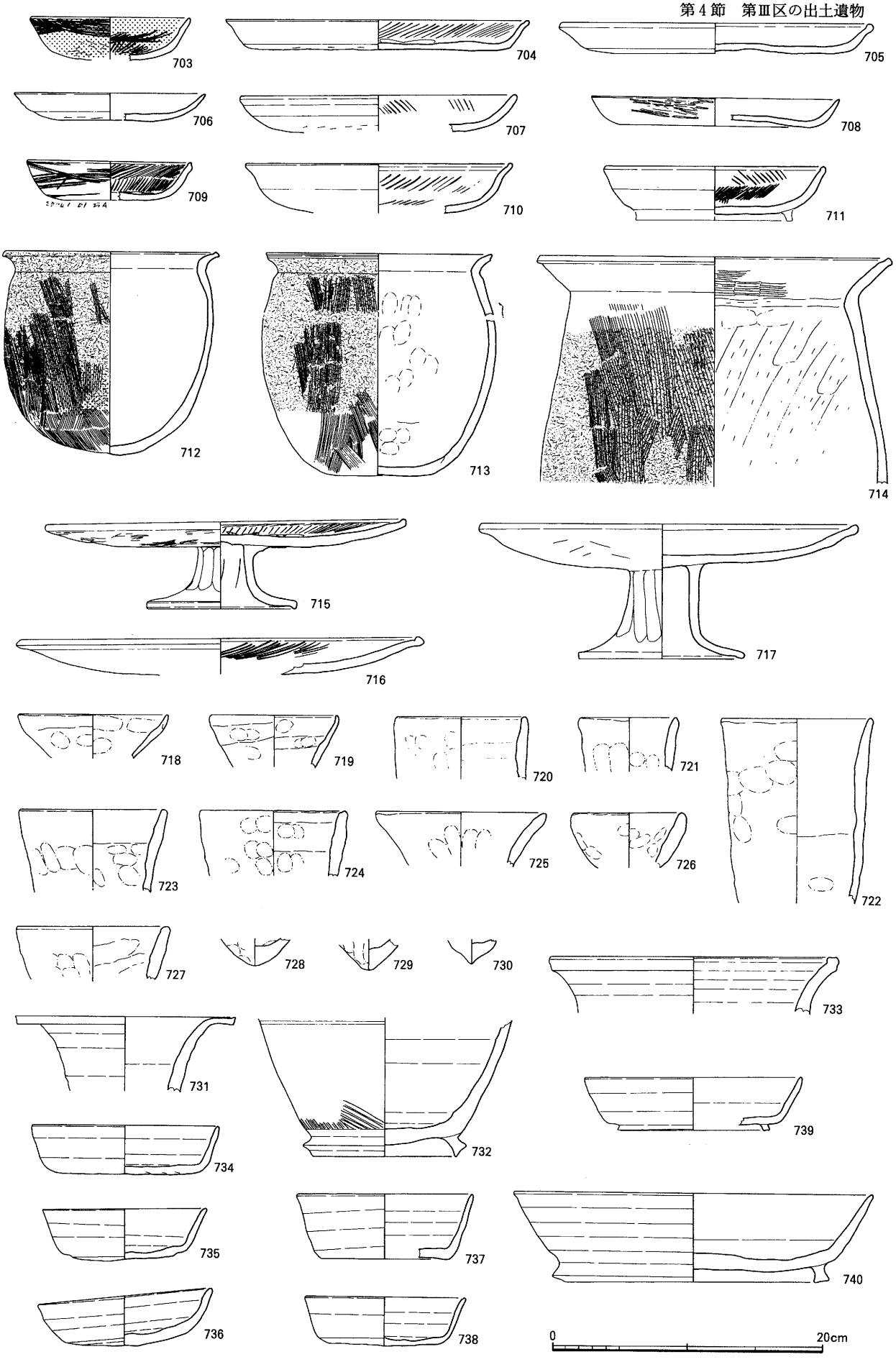
種類	器種＼遺構層位	下層			中層			上層			計		
土師	Ⅲ・坏	437 (59.6%)	460 (62.8%)	539 (73.5%)	172 (62.5%)	172 (62.5%)	222 (80.7%)	374 (37.6%)	405 (40.7%)	703 (70.7%)	983 (49.1%)	1037 (51.8%)	1464 (73.1%)
師	蓋	1 (0.1%)						8 (0.8%)			9 (0.4%)		
	高坏	21 (2.9%)						23 (2.3%)			44 (2.2%)		
	黒色土器	1 (0.1%)									1 (※)		
	甕	79 (10.8%)			50 (18.2%)			298 (29.9%)			427 (21.3%)		
須恵器	坏	52 (7.1%)	134 (18.3%)	194 (26.5%)	16 (5.8%)	40 (14.5%)	53 (19.3%)	108 (10.9%)	211 (21.2%)	291 (29.2%)	176 (8.8%)	385 (19.2%)	538 (26.9%)
	坏Ａ	47 (6.4%)			16 (5.8%)			62 (6.2%)			125 (6.2%)		
	坏Ｂ	14 (1.9%)			2 (0.7%)			17 (1.7%)			33 (1.6%)		
	蓋	21 (2.9%)			6 (2.2%)			24 (2.4%)			51 (2.5%)		
	壺	16 (2.2%)	60 (8.2%)		4 (1.5%)	13 (4.7%)		13 (1.3%)	80 (8.0%)		33 (1.6%)	153 (7.6%)	
	甕	44 (6.0%)			9 (3.3%)			67 (6.7%)			120 (6.0%)		
緑釉								1 (0.1%)			1 (※)		
合計		733 (100.0%)			275 (100.0%)			995 (100.0%)			2003 (100.0%)		

破片点数、※印は存在するが微量

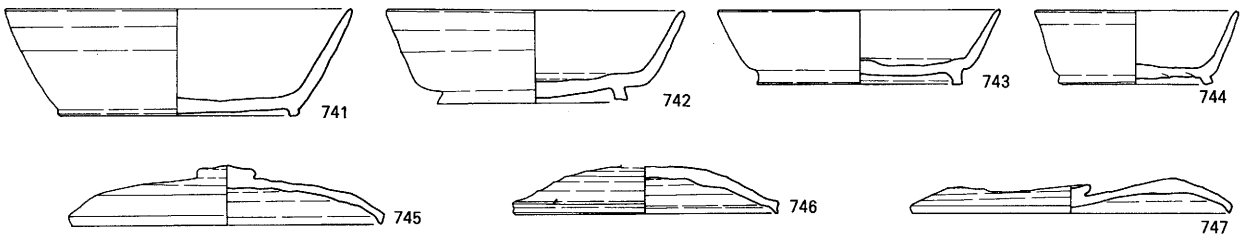
表21　ＳＤ741出土土器器種構成比率



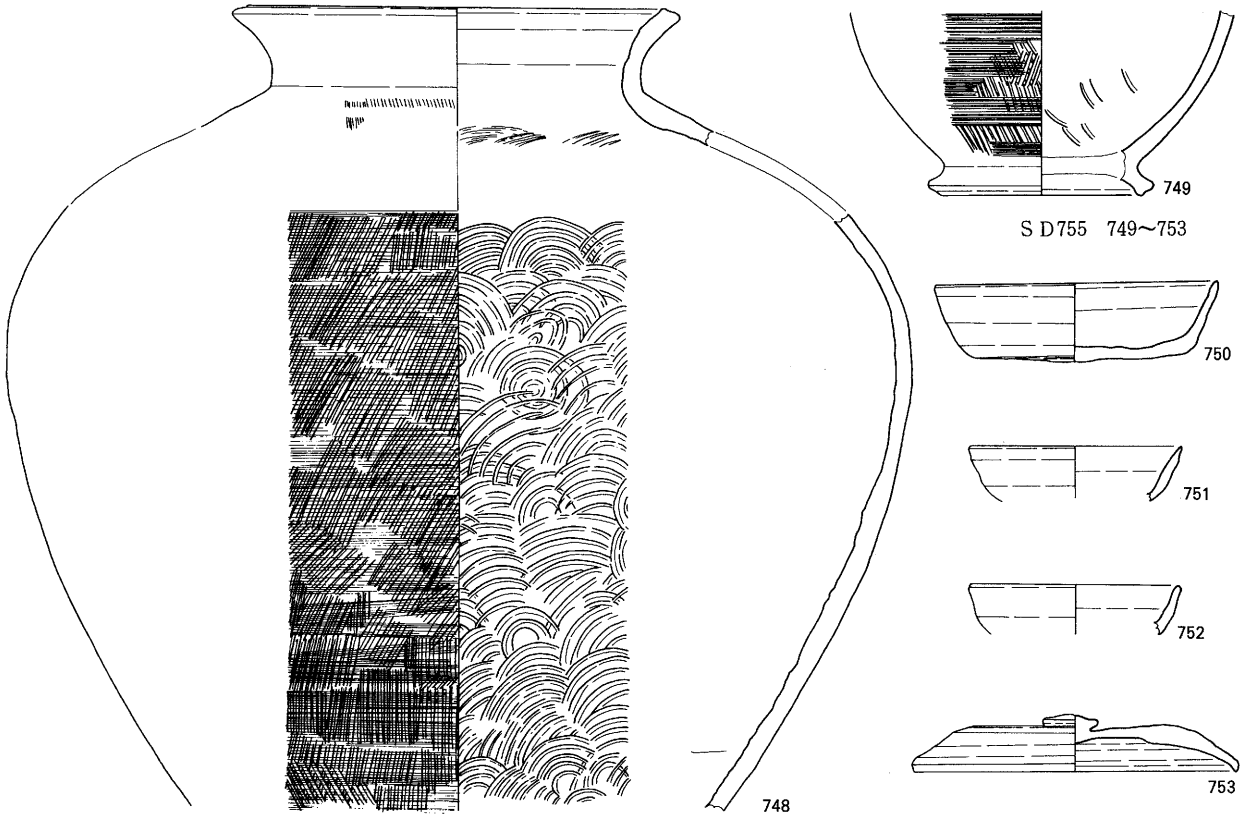
第245図　SK732・734・753、SD738・739・740・742出土土器実測図



第246図　ＳＤ741出土土器実測図

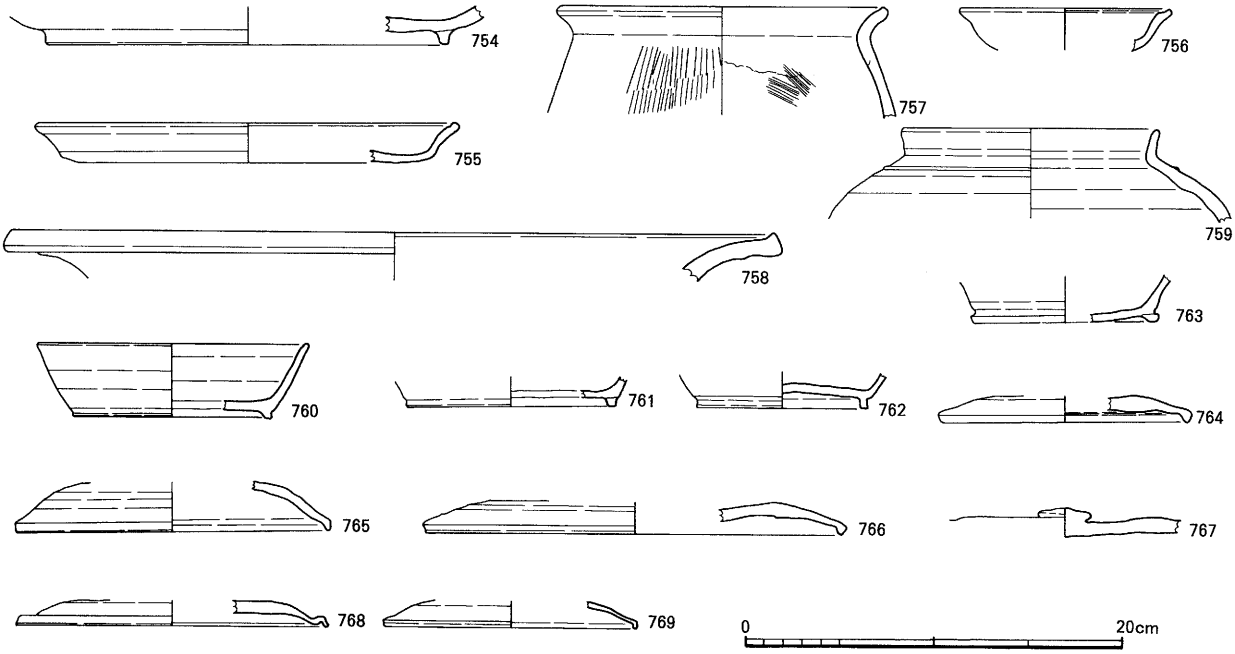


S D741　741～748



S D755　749～753

S D745～S D750　754～769



第247図　S D741・745・746・747・748・749・750・755出土土器実測図

３　平安時代～室町時代

第ⅢＣ区出土の当該期の資料の内、平安時代においては土坑資料が、平安時代末～鎌倉時代にかけては土壙墓や木棺墓・溝資料が、室町時代においては池状遺構や溜桝・溝資料が大半を占めている。

（１）掘立柱建物・柱穴

第ⅢＣ区の掘立柱建物資料は、建物の柱跡の構造が異なるためか、遺存量が良好でないものが多い。

ＳＢ７５９（第248図）黒色土器Ａ類の椀ｂ類772、土師器皿ａ$_1$類782・皿ｂ類・椀ｂ類773・土釜Ａ類・甕、須恵質捏鉢などがある。ＳＢ759を切る柱穴の遺物として、土師器小皿Ａ$_1$類、瓦質甕などがある。

ＳＢ７６０（第248図、ＰＬ．133）黒色土器Ａ類の椀Ｂ類771・椀ｂ類770、土師器皿ｂ類・小皿Ｄ$_1$類、瓦器椀Ｃ類、須恵器壺底部789、土錘、凸面ヘラケズリの平瓦などがある。

ＳＢ７６３（第248図、ＰＬ．133）出土資料は少ないが、瓦器鉢779がある。

ＳＢ７６７（第248図、ＰＬ．133）出土資料は多いが、小破片が主体である。土師器皿Ａ$_1$類・皿Ｃ類・小皿Ａ$_1$類・小皿Ｂ$_1$類・小皿Ｃ類・土釜Ａ類、瓦器椀Ｂ類・椀Ｃ類775・778・椀Ｄ類などがある。ＳＢ767を切る柱穴の遺物として、土師器皿Ａ$_1$類783・土釜Ａ類、瓦器椀Ｃ類などがある。

ＳＢ７６８（第248図）土師器皿Ａ類・皿Ｂ$_1$類・小皿Ａ$_1$類・小皿Ｂ$_1$類787・土釜Ａ類、瓦器椀Ｃ類・小皿、須恵質捏鉢などがある。ＳＢ768が切る柱穴の遺物として、土師器皿Ｂ$_1$類784・小皿Ｂ$_1$類・土釜Ａ類、瓦器椀Ｃ類777などがある。

ＳＢ７７０（第248図）土師器皿Ａ$_1$類・小皿Ａ$_1$類、瓦器椀Ｃ類776・小皿などがある。

柱穴（第248・276図、ＰＬ．154）その他の柱穴資料として、第ⅡＡ区の資料と比較すると量的に極端に少ないが、土師器皿Ｃ類785・甕788、瓦器椀Ｃ類774・小皿780・781などがある。

（２）池状遺構

池状遺構の資料は、ややまとまりのあるものの、溝資料と同様に細片化したものが主体を占める。

ＳＧ７８１（第248図、ＰＬ．133・134・153）

全体の資料数は、６袋と少量である。ＳＧ781からは、土師器皿大丸790・小皿小丸791・土釜Ａ類792・793、瓦質土釜Ｃ類794、美濃瀬戸鉄釉香炉796、丸瓦、石臼、古い時期の混在と考えられる須恵器壺795がある。

ＳＧ７８２（第248・272・274図、ＰＬ．133・134）

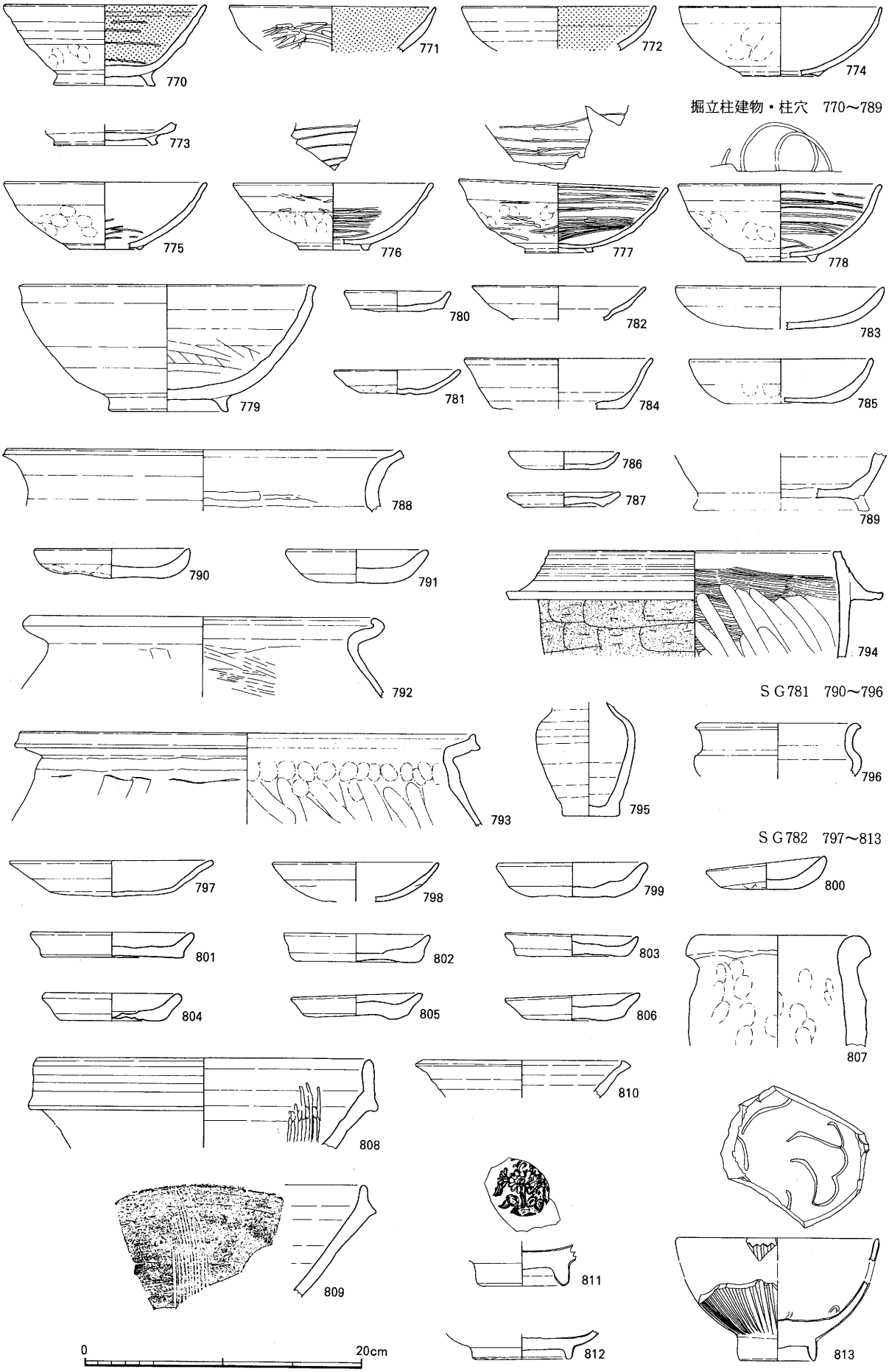
口縁部計測法による個体数は、ＳＧ782とＳＤ907を合せて25.34個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計143点を数える。これらの内、土師器皿・小皿が24.01個体（127点）を占める。資料の内訳は、土師器皿新Ｄ類797・皿薄丸大798・皿大丸799・皿大平801・802・小皿小平803～806、備前焼擂鉢808・809、美濃瀬戸灰釉おろし皿810、青磁碗811・813・皿812、蛸壺807、平瓦1685・丸瓦、茶臼1693などがある。

ＳＧ７８３（第249・274・276図、表32、ＰＬ．133・134・152）

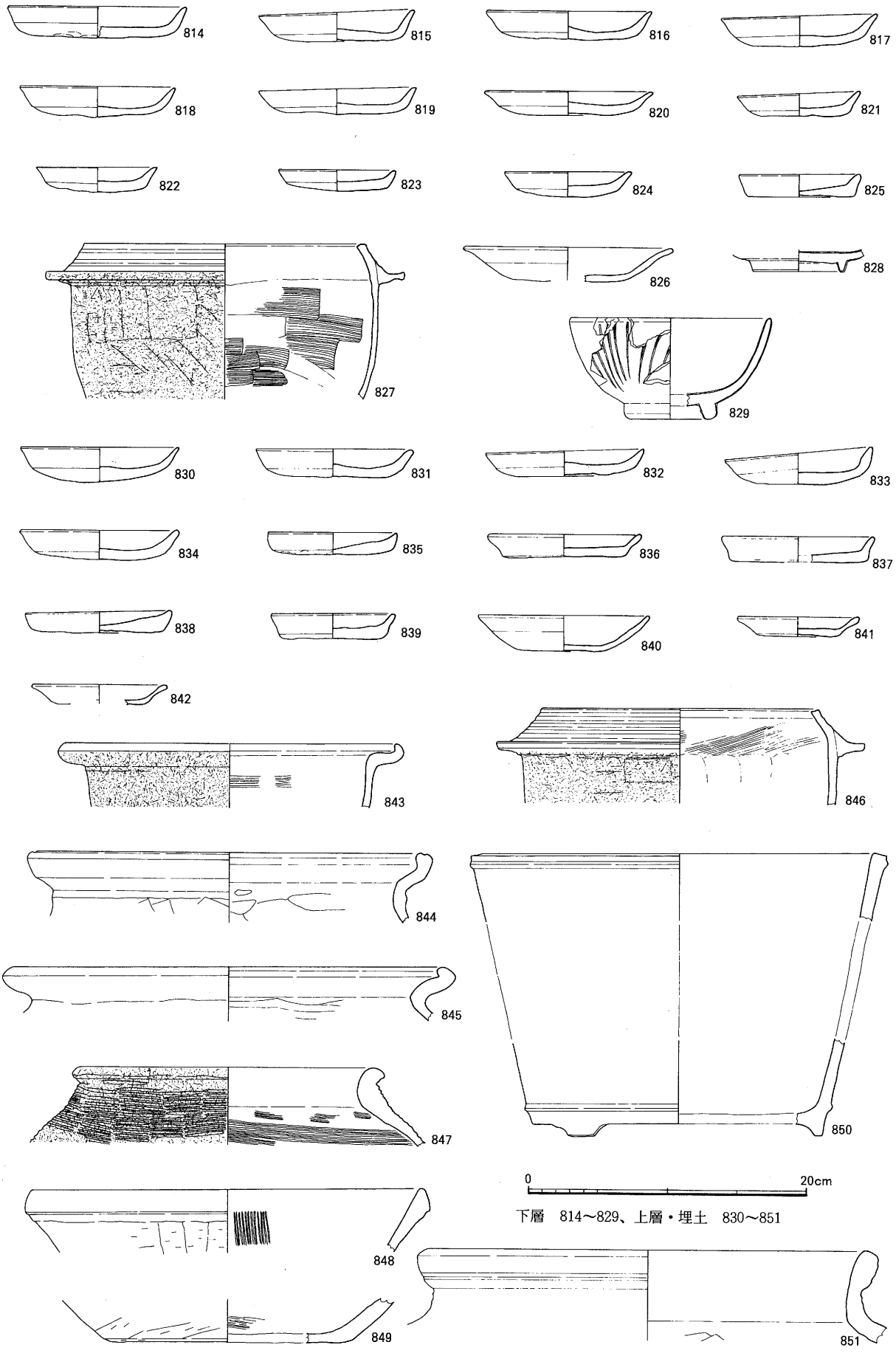
口縁部計測法による個体数は、下層・上層一括で35.57個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計263点を数える。これらの内、土師器皿・小皿が33.02個体（202点）を占める。

下層（814～829）下層の資料として、土師器皿大丸814～820・小皿小丸821～824・小皿小平825・皿新Ｄ類826、瓦質土釜Ｃ類827、瓦質捏鉢、青磁皿828・碗829などがある。

上層・埋土一括（830～851）上層・埋土一括の資料として、土師器皿大丸830～834・小皿小丸835・皿大

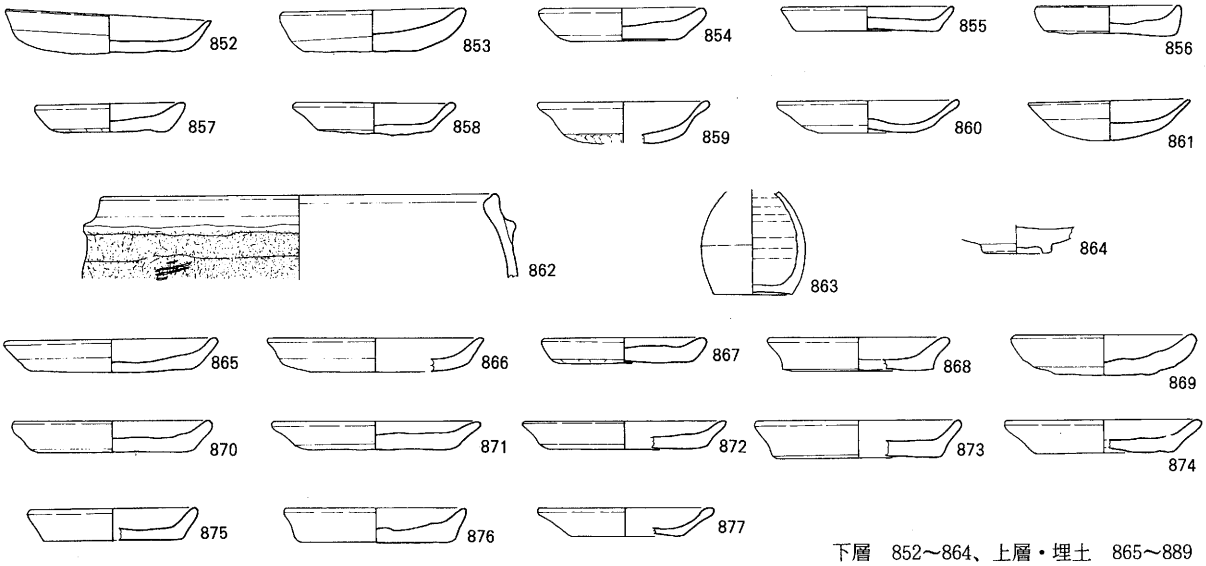


第248図　掘立柱建物・柱穴、S G781・782出土土器実測図

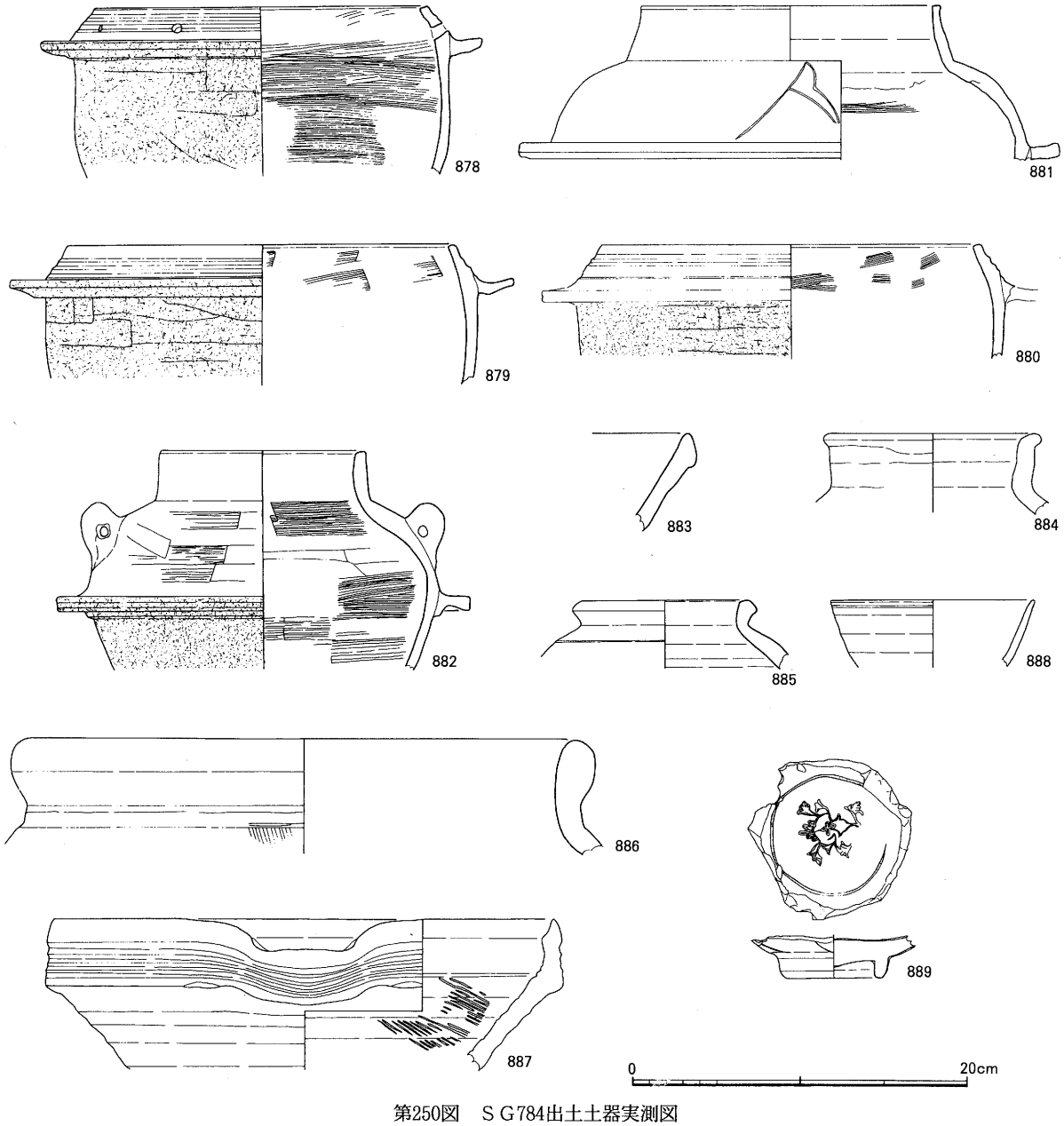


下層　814～829、上層・埋土　830～851

第249図　ＳＧ783出土土器実測図



下層　852～864、上層・埋土　865～889



第250図　ＳＧ784出土土器実測図

種類	器種＼遺構層位	下層				中層				上層				計			
土師器	椀 B	3 (0.3%)		26 (2.9%)	682 (76.7%)	6 (1.0%)		26 (4.2%)	520 (84.3%)	3 (0.4%)		19 (2.5%)	467 (61.0%)	12 (0.5%)		260 (11.4%)	1,669 (73.5%)
	椀 b	20 (2.2%)	23 (2.6%)			18 (2.9%)	20 (3.2%)			6 (0.8%)	16 (2.1%)			44 (1.9%)	59 (2.6%)		
	坏 b									10 (1.3%)				10 (0.4%)			
	坏 c	3 (0.3%)				2 (0.3%)								5 (0.2%)			
	皿 a_1	4 (0.4%)	55 (6.2%)	95 (10.7%)		2 (0.3%)	27 (4.4%)	45 (7.3%)		1 (0.1%)	36 (4.7%)	49 (6.4%)		7 (0.3%)	118 (5.2%)		
	a_2									1 (0.1%)				1 (※)			
	b	51 (5.7%)				25 (4.1%)				34 (4.4%)				110 (4.8%)			
	小皿 D_1	37 (4.2%)	40 (4.5%)			16 (2.6%)	18 (2.9%)			12 (1.6%)	13 (1.7%)			65 (2.9%)	71 (3.1%)		
	小皿 E	3 (0.3%)				2 (0.3%)				1 (0.1%)				6 (0.3%)			
	黒色土器 A 椀 B	17 (1.9%)		111 (12.5%)		9 (1.5%)		108 (17.5%)		25 (3.3%)		148 (19.3%)		51 (2.2%)		367 (16.2%)	
	黒色土器 椀 b	76 (8.5%)	94 (10.6%)			94 (15.2%)	97 (15.7%)			85 (11.1%)	122 (15.9%)			255 (11.2%)	313 (13.8%)		
	黒色土器 皿 b	18 (2.0%)				3 (0.5%)				37 (4.8%)				58 (2.6%)			
	黒色土器 B					2 (0.3%)				1 (0.1%)				3 (0.1%)			
	甕・土釜	393 (44.2%)	450 (50.6%)			331 (53.6%)	341 (55.3%)			240 (31.4%)	251 (32.8%)			964 (42.4%)	1,042 (45.9%)		
	カマド	57 (6.4%)				10 (1.6%)				11 (1.4%)				78 (3.4%)			
須恵器	椀				206 (23.1%)	1 (0.2%)			97 (15.7%)				294 (38.5%)	1 (※)			597 (26.3%)
	坏	47 (5.3%)	56 (6.3%)	63 (7.1%)		6 (1.0%)	10 (1.6%)	15 (2.4%)		58 (7.6%)	128 (16.7%)	149 (19.5%)		111 (4.9%)	194 (8.5%)	227 (10.0%)	
	坏 A	2 (0.2%)				3 (0.5%)				19 (2.5%)				24 (1.1%)			
	坏 B	7 (0.8%)				1 (0.2%)				51 (6.7%)				59 (2.6%)			
	蓋	7 (0.8%)				5 (0.8%)				21 (2.7%)				33 (1.5%)			
	壺	17 (1.9%)	143 (16.1%)			5 (0.8%)	81 (13.1%)			14 (1.8%)	145 (19.0%)			36 (1.6%)	369 (16.2%)		
	甕	126 (14.2%)				76 (12.3%)				131 (17.1%)				333 (14.7%)			
緑釉		2 (0.2%)								4 (0.5%)				6 (0.3%)			
合計		890 (100.0%)				617 (100.0%)				765 (100.0%)				2,272 (100.0%)			

破片点数、※印は存在するが微量

表22　ＳＫ787出土土器器種構成比率

平836～838・小皿小平839・皿新Ｄ類840・小皿ＮＧタイプ841・842・土釜Ａ類843～845・捏鉢、瓦質土釜Ｃ類846、瓦質甕847・捏鉢848・849・火鉢850、備前焼壺・甕851・擂鉢、白磁、青磁、染付などがある。

ＳＧ７８４（第250・272・275図、表32、ＰＬ．133・134・153）

口縁部計測法による個体数は、下層・上層一括で28.47個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計218点を数える。これらの内、土師器皿・小皿が26.47個体（192点）を占める。

下層（852～864）下層の資料として、土師器皿大丸852・小皿小丸853・854・小皿小平885～857・小皿ＮＧタイプ858～861・土釜Ｂ類862、備前焼甕・擂鉢・徳利863、美濃瀬戸天目茶碗、白磁864、青磁がある。

上層・埋土一括（865～889）上層・埋土一括の資料として、土師器皿大丸865・866・小皿小丸867・869・皿大平870～874・小皿小平868・875・876・小皿ＮＧタイプ877・土釜Ａ類・捏鉢、瓦質土釜Ｃ類878～880・湯釜881・882・捏鉢883、備前焼壺884・885・甕886・擂鉢887、常滑焼、青磁碗888・889などがある。

（３）土坑

ＳＫ７８７（第251図、表22、ＰＬ．135）

ＳＫ787からは、奈良時代の土器資料が混在した状態にある。器種構成比率に対応する資料（破片点数）は、下層で890点、中層で617点、上層で765点、計2,272点を数える。資料の内訳は、下層・中層・上層一括で、黒色土器Ａ類の椀Ｂ類890～892・椀ｂ類893・894・皿ｂ類、土師器椀Ｂ類895・椀ｂ類896・坏ｂ類897・坏ｃ類898・小皿Ｅ類899・皿ａ$_1$類・皿ａ$_2$類900・901・皿ｂ類902～905・小皿906・小皿Ｄ$_1$類907・坏Ａ類908・甕909～911、土師器竈918～920、須恵器坏Ａ類912・913・坏Ｂ類914・椀915・蓋・壺底部916・甕917、緑釉などがある。

ＳＫ７８９（第252図、ＰＬ．135）

ＳＫ789からは、ややまとまった量の資料があるが、小破片が多い。資料の内訳は、土師器皿Ａ$_1$類・皿Ｂ$_1$類927・高い高台の付く坏ｃ類928・小皿Ａ$_1$類929・小皿Ｂ$_1$類930・土釜Ａ類、瓦器椀Ａ類921・椀Ｂ類・椀Ｃ類922～925・小皿926などがある。

ＳＫ７９２（第252図）

ＳＫ792からは、土師器小皿Ａ$_1$類・小皿Ｂ$_1$類・小皿Ｃ類931・土釜Ａ類、瓦器小皿、須恵質捏鉢932などがある。全体の資料数は、３袋とごく少量である。

ＳＫ７９３（第252・276図、ＰＬ．154）

ＳＫ793からは、奈良時代の資料が混在するが、土師器皿Ａ$_1$類923・皿Ｃ類934・土釜Ａ類936・937、瓦器椀Ｃ類、須恵質捏鉢935、白磁碗などがある。全体の資料数は、７袋と少量である。

ＳＫ７９４（第252図）

ＳＫ794からは、土師器皿Ａ$_1$類941・小皿Ｂ$_1$類・土釜Ａ類942、瓦器椀Ｃ類938～940などがある。全体の資料数は、３袋とごく少量である。

ＳＫ７９５（第252図）

ＳＫ795からは、土師器皿Ａ$_2$類947・小皿Ａ$_1$類948・949・土釜Ａ類、瓦器椀Ｂ類943・椀Ｃ類944～946、須恵器甕、白磁碗950などがある。全体の資料数は、１袋とごく少量である。

ＳＫ７９６（第252図）

ＳＫ796からは、土師器皿Ｂ$_1$類・小皿Ａ$_1$類953・小皿Ｂ$_1$類954、瓦器椀Ｃ類951・952などがある。全体の資料数は、１袋とごく少量である。

ＳＫ８００（第252図）

ＳＫ800からは、土師器皿Ａ$_1$類・皿Ｂ$_1$類・土釜Ａ類・瓦器椀Ｃ類955、須恵器甕、青磁碗、土師器竈などがある。全体の資料数は、４袋と少量である。

ＳＫ８１９（第253・254図、表23、ＰＬ．136）

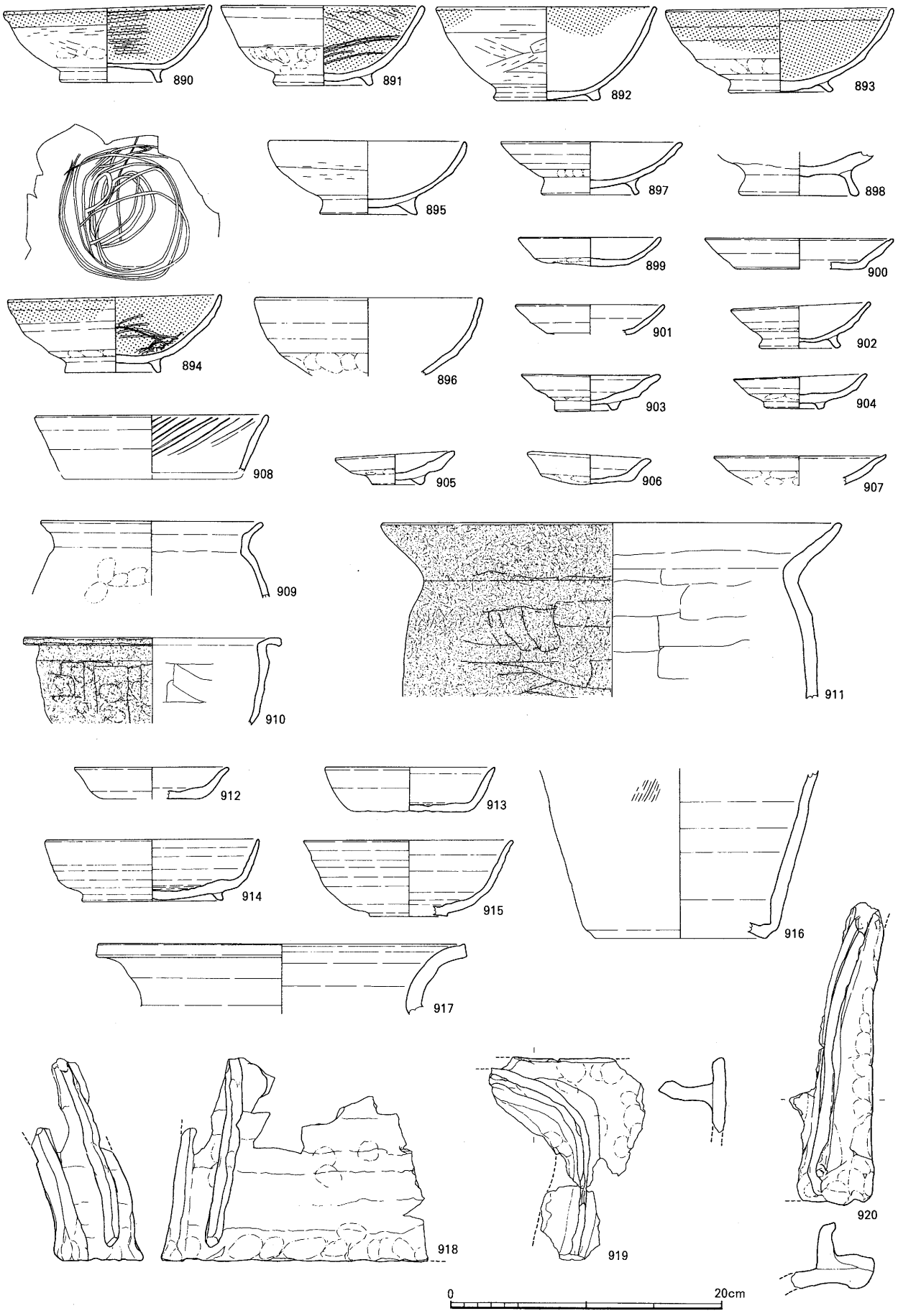
ＳＫ819からは、一括廃棄された多量の資料がある。口縁部計測法による土師器皿の個体数は、層位一括で432.97個体である。個体数による器種構成比率

器　形	個体数	比　率
大　丸	275.84	63.7%
小　丸	153.38	35.5%
C	2.75	0.6%
D	1.00	0.2%
合　計	432.97	100.0%

口縁部計測法による個体数

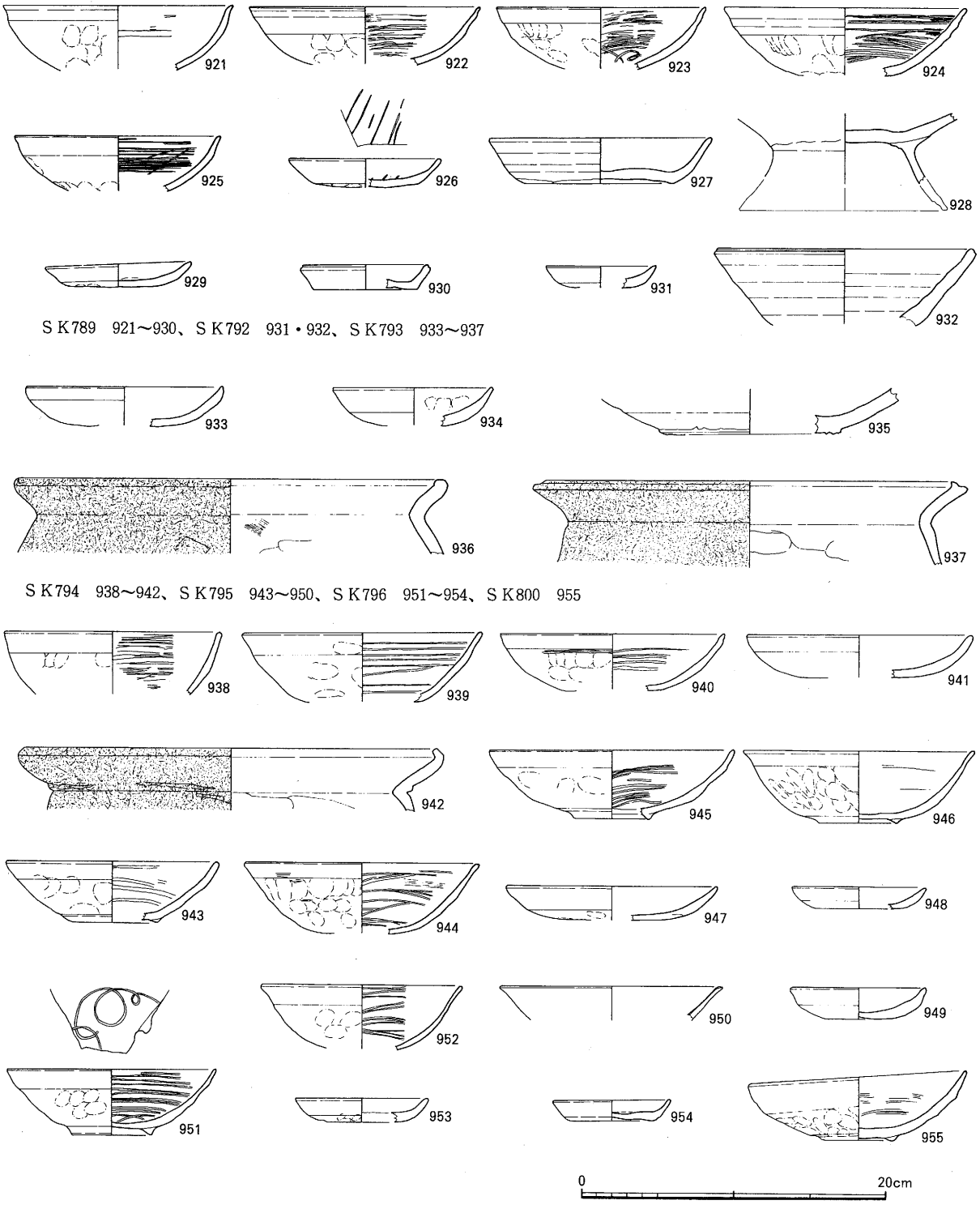
	大　丸		小　丸	
普　通	204.83	74.2%	127.13	82.9%
黒　色	11.79	4.3%	9.67	6.3%
白　色	29.96	10.9%	5.83	3.8%
板目圧痕	19.38	7.0%	1.83	1.2%
棒状圧痕	9.88	3.6%	8.92	5.8%
合　計	275.84	100.0%	153.38	100.0%

表23　ＳＫ819出土土器器種構成比率



第251図　ＳＫ787出土土器実測図

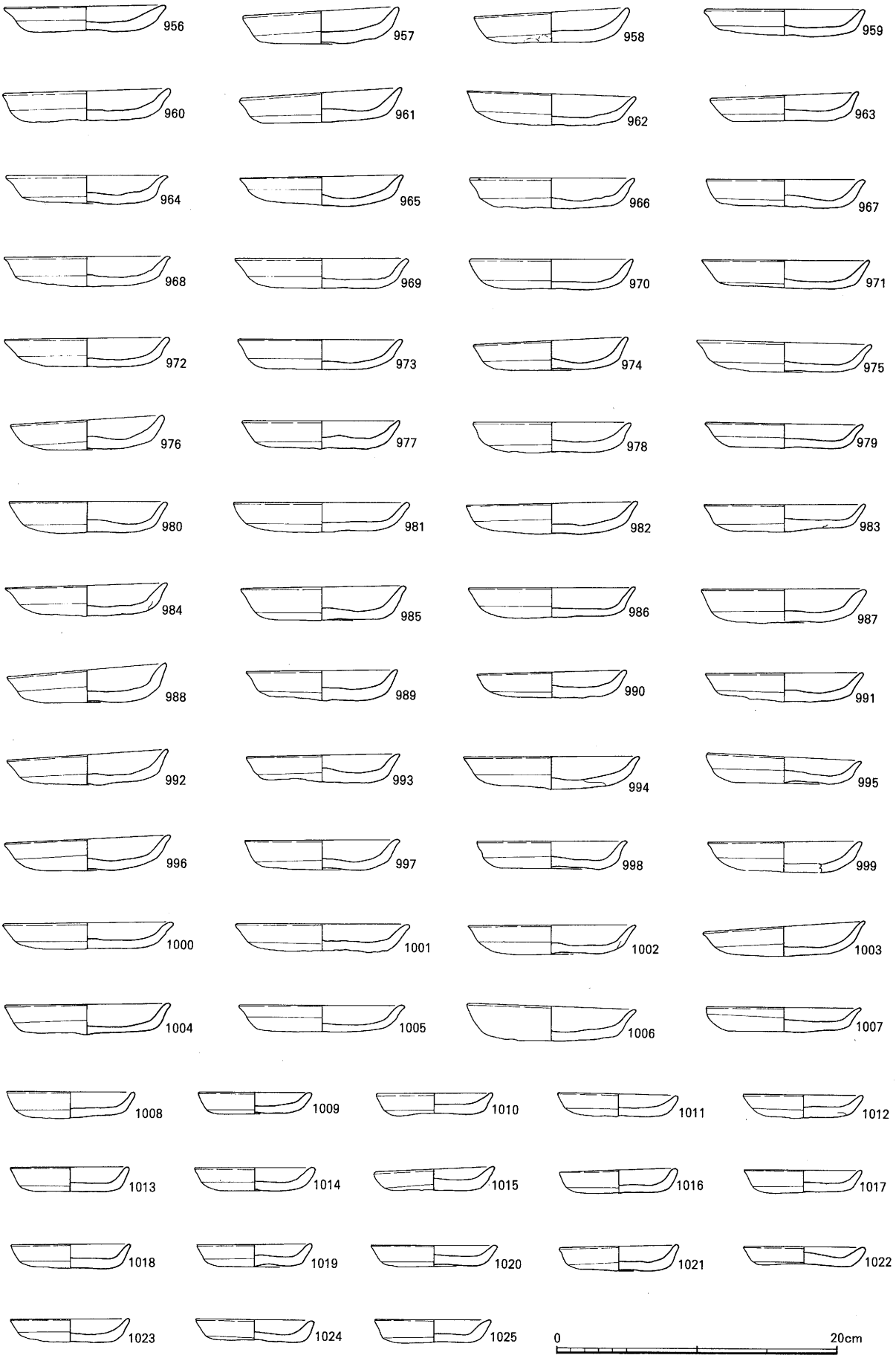
に対応できる資料は、土師器皿大丸956～1007で829点、小皿小丸1008～1065で548点、皿新Ｃ類1068～1072で17点、皿新Ｄ類1073で１点、計1,395点を数える。その他、埋土中のものが主体を占めるが、土師器土釜Ａ類1074（８点）、瓦質土釜Ｃ類1075～1077（５点）、須恵質捏鉢、備前焼擂鉢1078（１点）、白磁碗1080（１点）、青磁碗1081（１点）、瓦、土錘などがある。土師器皿・小皿の中には、作りは同じであるが、主体的に見られる明黄茶色から淡黄色の色調を呈するもの（普通）皿956～986・小皿1026～1039と明白茶色から



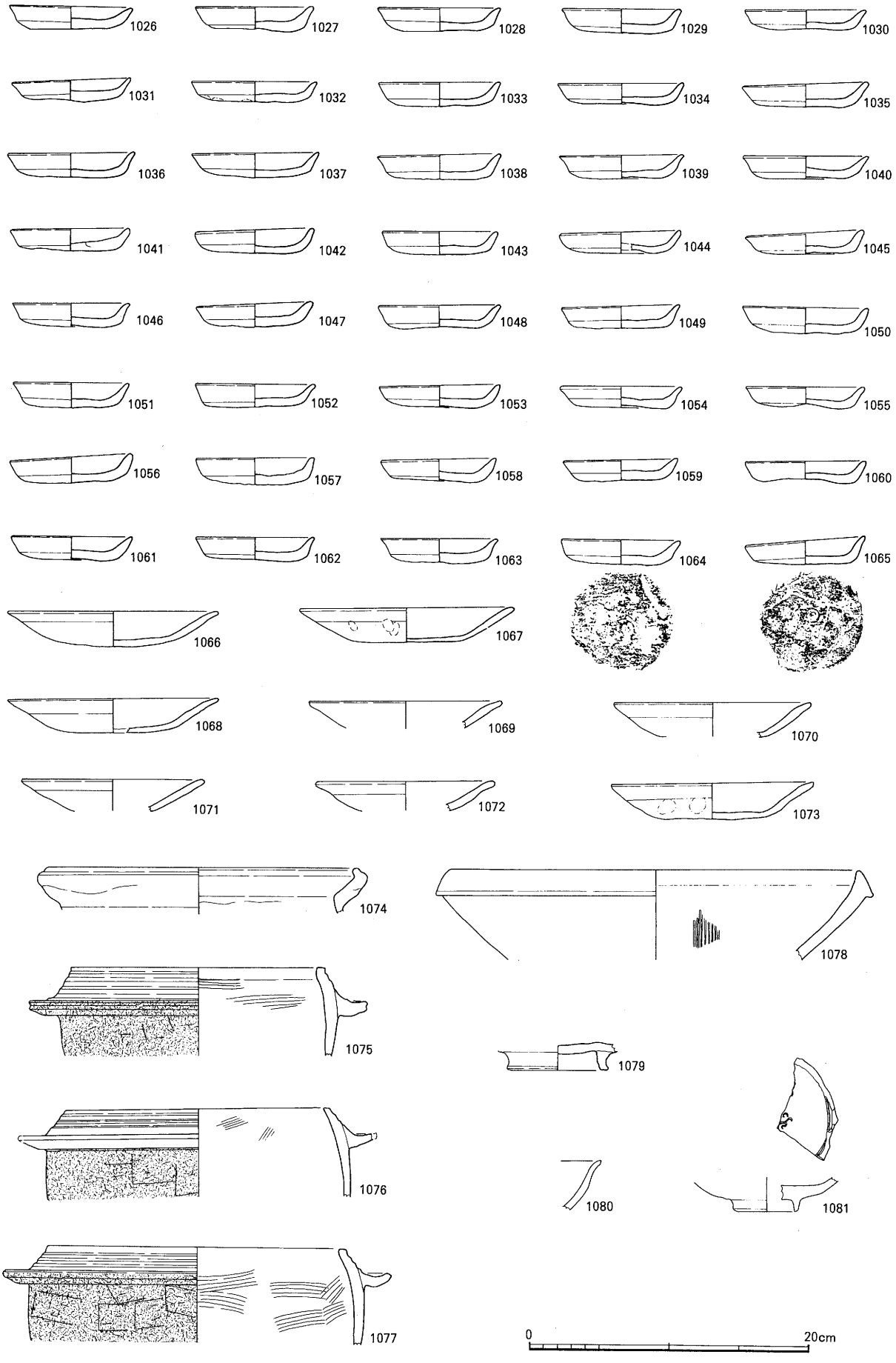
ＳＫ789　921～930、ＳＫ792　931・932、ＳＫ793　933～937

ＳＫ794　938～942、ＳＫ795　943～950、ＳＫ796　951～954、ＳＫ800　955

第252図　ＳＫ789・792・793・794・795・796・800出土土器実測図

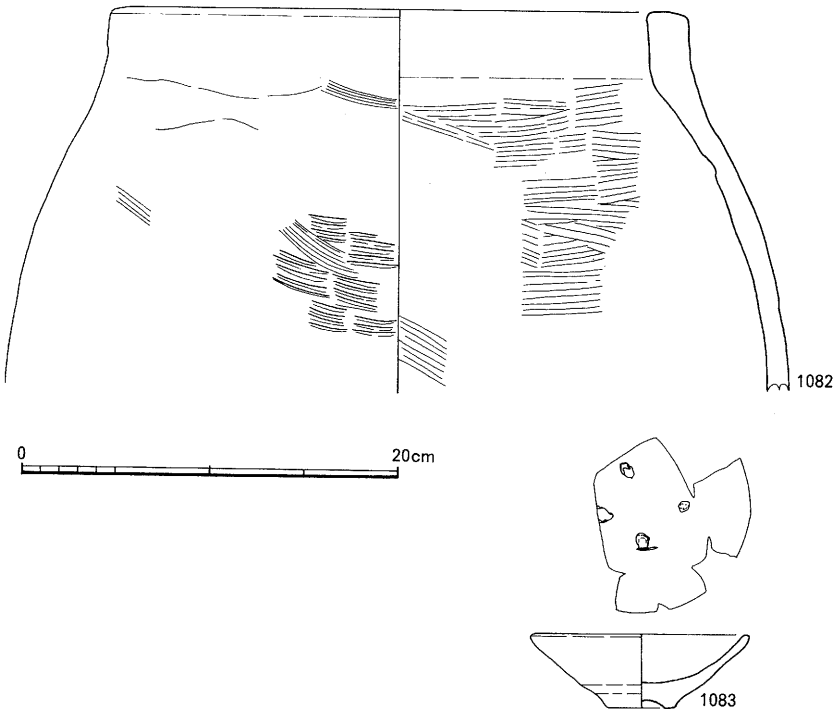


第253図　ＳＫ819出土土器実測図



第254図　ＳＫ819出土土器実測図

淡黄色を呈するやや白色系の（白色）皿987～998・小皿1042～1047・褐色を呈するやや黒ずんだもの（黒色）皿999～1007・小皿1048～1053が認められる。また、外部底面には簾状の板目圧痕の付く皿976～986・小皿1040・1041や竹管文状の棒状圧痕の付く皿・小皿1054～1065が存在する。



第255図　ＳＫ845出土土器実測図

ＳＫ８４５（第255図、ＰＬ．136）

ＳＫ845からは、土師器土釜Ａ類、ＳＧ784上層やＳＥ872上層と接合関係にある土師器甕1082、備前焼擂鉢、唐津皿1083などがある。全体の資料数は、４袋と少量である。

（４）木棺墓・土壙墓・集石墓

木棺墓・土壙墓・集石墓の資料は、量的には少ないが完存品としてのまとまりを認めることができる。

ＳＸ８５１（第256・276図、ＰＬ．137・154）

ＳＸ851からは、器高の高い土師器皿ａ$_1$類1084・1085、器高の低い皿ａ$_2$類、須恵器壺1087、棺材を留める鉄釘1729～1737がある。

ＳＸ８５３（第256・276図、ＰＬ．137・154）

ＳＸ853からは、徳利状の須恵器壺1088、棺材を留める鉄釘1738～1757がある。須恵器壺1088は、形態的特徴から京都府篠窯の製品と考えられる。

ＳＸ８５４（第256図、ＰＬ．137）

ＳＸ854からは、土師器椀ｂ類1089があり、埋土から黒色土器Ｂ類、瓦器椀Ｃ類の破片が出土している。

ＳＸ８５６（第256・276図、ＰＬ．137・154）

ＳＸ856からは、２組の重なった状態で出土した土師器皿ｂ類1090～1093、鉄鏃1724がある。

ＳＸ８５７（第256・276図、ＰＬ．137・154）

ＳＸ857からは、人骨一体分と共に、瓦器椀Ｃ類1094、鉄製の小刀1716がある。

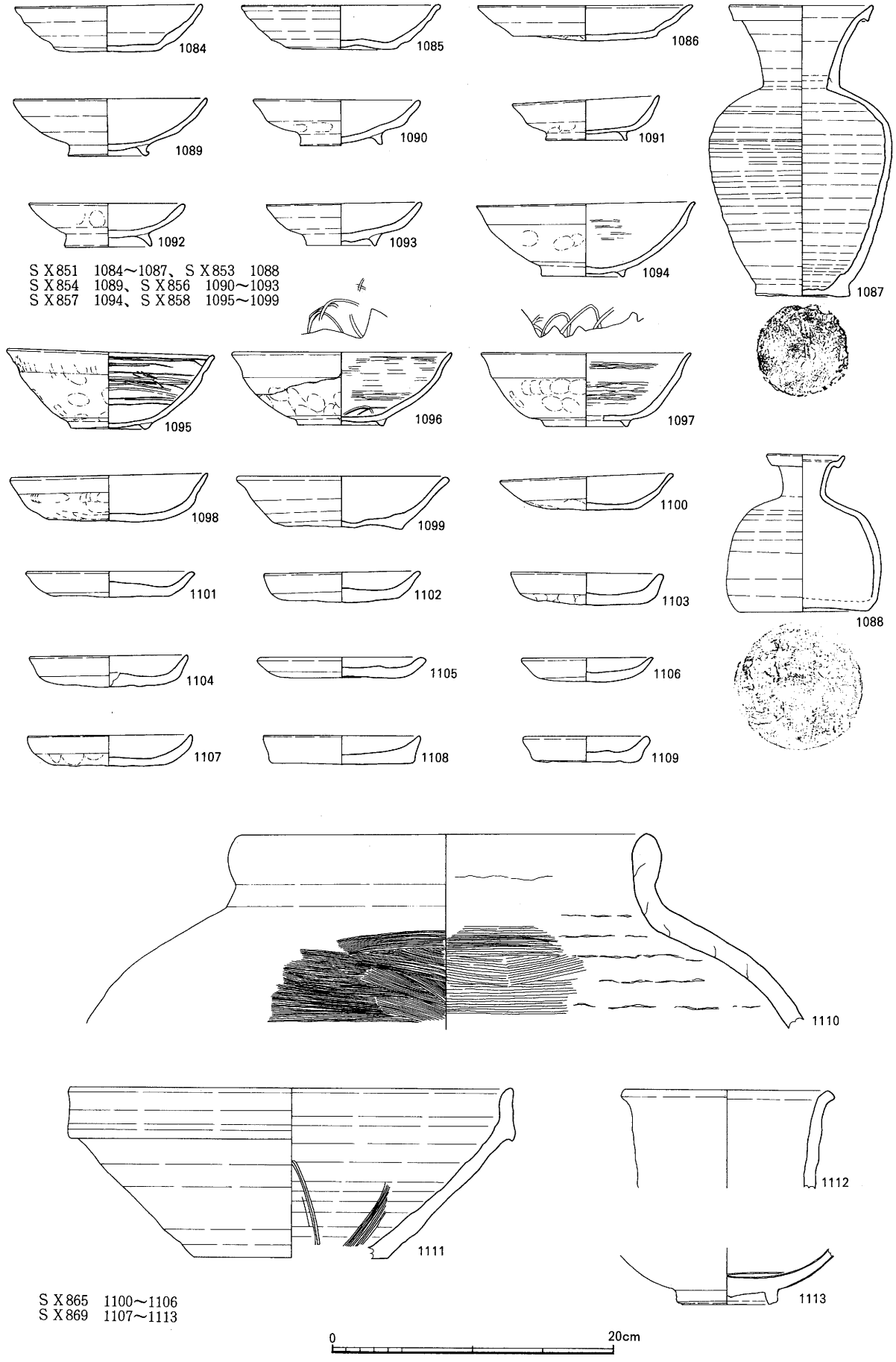
ＳＸ８５８（第256図、ＰＬ．137）

ＳＸ858からは、土師器皿Ａ$_1$類1098・皿Ｂ$_1$類1099、瓦器椀Ａ類1095・椀Ｃ類1096・1097がある。

ＳＸ８５９（第276図、ＰＬ．154）

ＳＸ859からは、鉄製刀子1719、鉄鎌1721がある。土器資料は出土していない。

ＳＸ８６５（第256図）



第256図　SX851・853・854・856・857・858・865・869出土土器実測図

ＳＸ865からは、土師器皿大丸1101～1104・皿大平1105・小皿Ａ$_1$類、備前焼甕、白磁碗などがある。

ＳＸ８６９（第256・274図、ＰＬ．138）

ＳＸ869からは、土師器皿大丸1107・皿大平1108・小皿小平1109、備前焼甕1110・擂鉢1111・土釜Ｂ類、美濃瀬戸鉄釉壺1112・鉢、青磁鉢1113、平瓦・道具瓦、石臼などがある。大半が集石の代用と見られる。

（５）井戸・溜桝

第ⅢＣ区の井戸資料は、室町時代から江戸時代にかけてのものでややまとまった資料数が存在するが小破片が多い。溜桝資料は、室町時代の中では最もまとまった資料と考えられる一群である。

ＳＥ８７１（第257・278図、ＰＬ．138・155）

ＳＥ871からは、小破片が多い。資料の内訳は、層位一括で土師器皿大丸1114・小皿小丸1115・小皿小平1116～1119・土釜Ａ類1120～1124、瓦質土釜Ｃ類1125、混在とみられる須恵質捏鉢1126、常滑焼甕1127、青磁碗1128・1129・皿1130、平瓦などがある。木器・木製品として、井側として利用されていた曲物1769、曲物底板1773・1774、井戸祭祀に伴う竹などがある。

ＳＥ８７２（第257・275・278図、ＰＬ．138・152・155）

ＳＥ872からは、同様に小破片が多く、古い時期の混在した資料が認められる。資料の内訳は、層位一括で土師器皿大丸1131・小皿ＮＧタイプ1132・1133、内外面共に丁寧なヘラミガキの施された瓦質椀1134、瓦質甕1135・捏鉢1136・土釜Ｃ類1137、備前焼甕・擂鉢1138、白磁、青磁碗1140、染付、唐津碗1139、平瓦などがある。石器・石製品として、砥石1704が、木器・木製品として釣瓶1770、曲物底板1771・1772、下駄1776、用途不明品（網針？）1778がある。

ＳＥ８７４（第257・273・274・275・278図、ＰＬ．138・151・152・153・155）

ＳＥ874からは、奈良時代資料の混在がある。資料の内訳は、層位一括で土師器皿大丸1141・小皿小平1142・土釜Ａ類1143、手捏の瓦質土釜1146、備前焼擂鉢1144・1145、美濃瀬戸灰釉皿1147、白磁皿1148、唐津碗1149、平瓦・丸瓦1687・1688、銅銭1763などがある。石器・石製品として、石臼1694、砥石1707が、木器・木製品として、漆器椀1175、用途不明品1777がある。

ＳＥ８７５（第257図、ＰＬ．138）

ＳＥ875からは、弥生土器・瓦器椀が混在する。資料の内訳は、土師器皿大丸、備前焼壺、青磁碗、唐津碗1150、平瓦などがある。全体の資料数は、５袋と少量である。

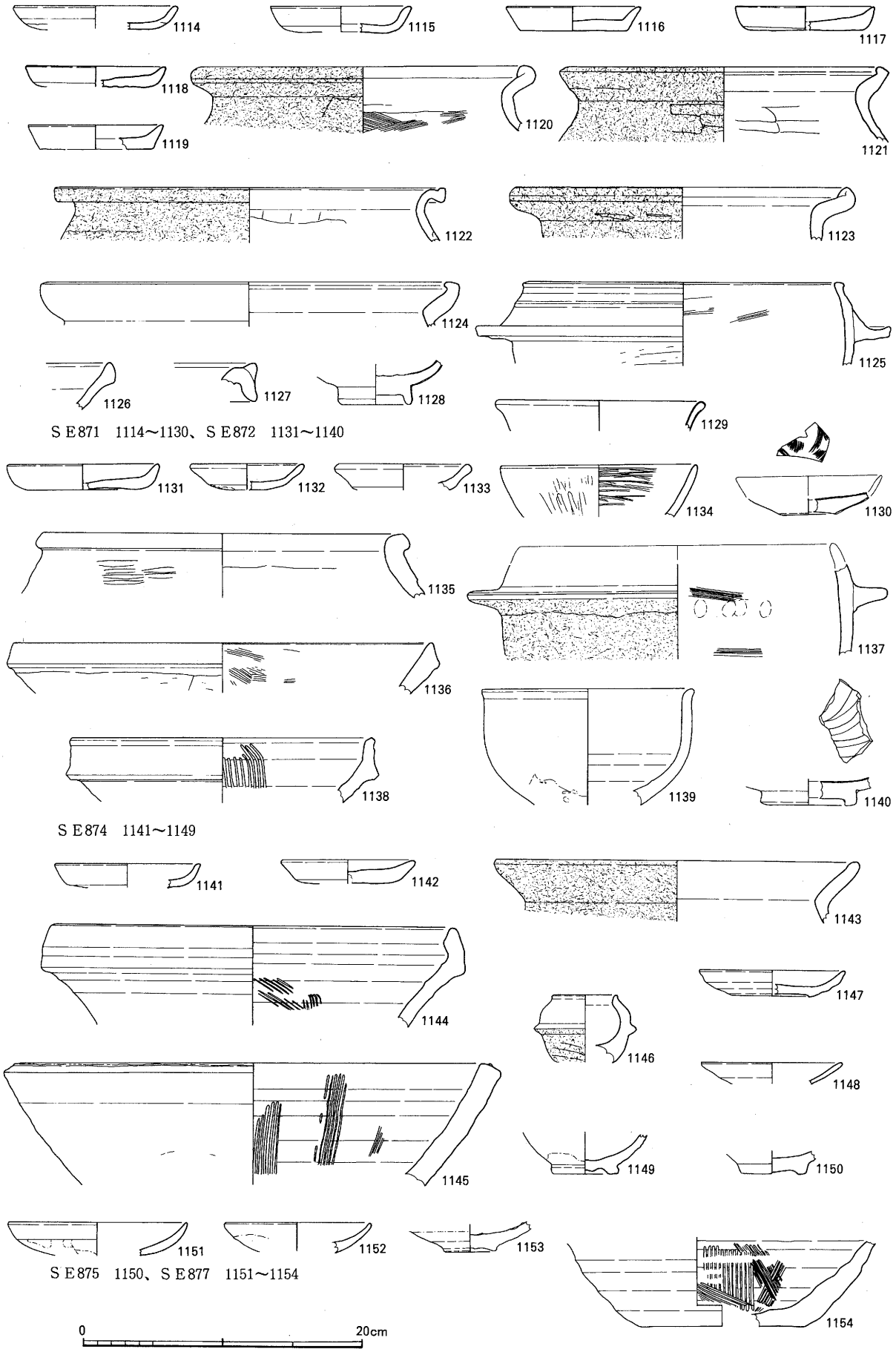
ＳＥ８７７（第257図、ＰＬ．138）

ＳＥ877からは、弥生土器・平安時代の資料が混在する。資料の内訳は、土師器皿薄丸大1151、備前焼擂鉢1154、唐津皿？1152、唐津皿1153、平瓦、銅銭1767などがある。

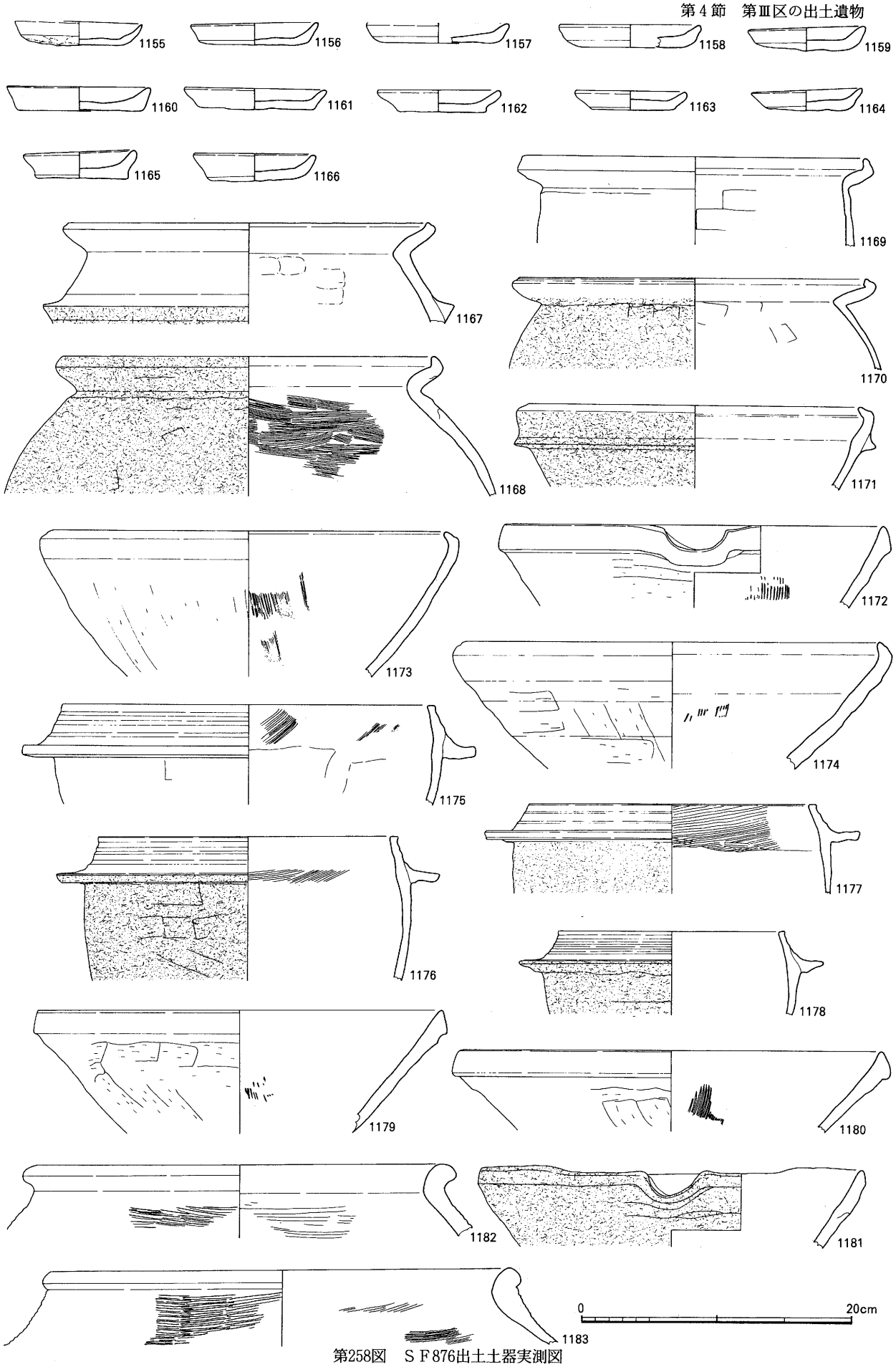
ＳＦ８７６（第258・259・272・274・275図、表32、ＰＬ．138・139・151・153）

ＳＦ876からは、少量の古い時期の混在が認められる。口縁部計測法による個体数は、層位一括で22.75個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計147点を数える。これらの内、土師器皿が16.75個体（83点）を占める。

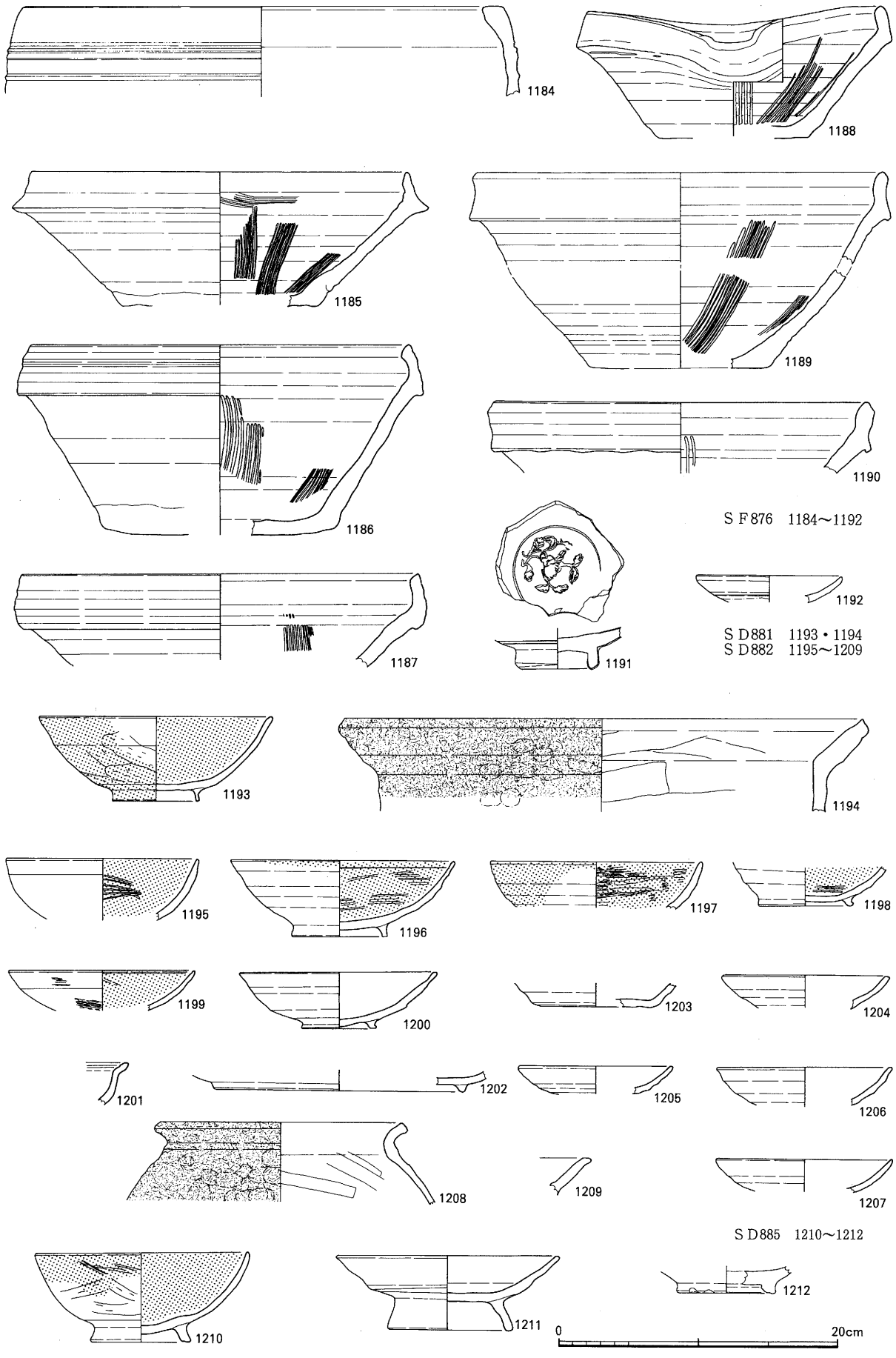
資料の内訳は、瓦器小皿1155・1156、土師器土釜Ａ類1167、土師器皿大丸1157・1158・小皿小丸1159・皿大平1160・1161・小皿小平1162～1166・土釜Ａ類1168～1170・土釜Ｂ類1171・捏鉢1172～1174、瓦質土釜Ｃ類1175～1178・捏鉢1179～1181・甕1182・1183・湯釜・火鉢1184、備前焼擂鉢1185～1190・壺・甕、常滑焼、青磁碗1191、白磁皿1192、鬼瓦1681などがある。石造物として五輪塔空風輪1696～1698が、石器・石製品と



第257図　SE871・872・874・875・877出土土器実測図



第258図　ＳＦ876出土土器実測図



第259図　S F876・S D881・882・885出土土器実測図

して、砥石1712・1714・1715がある。上層の備前焼擂鉢は、広範囲の遺構ＳＤ905・ＳＤ911・ＳＤ914・ＳＧ783・ＳＧ784などから出土した資料と接合関係にある。

（６）溝

第ⅢＣ区の溝資料は、平安時代後期から室町時代の資料が整っている。平安時代後期の資料は、僅かであるが、瓦器椀の伴う時期の溝や溝に関係する資料は、第ⅡＡ区の井戸や溝の資料群と対比できる良好なものである。室町時代の溝資料は、鎌倉時代もしくはそれ以前の多くの混在資料を含むものの、まとまった量の資料群がある。

ＳＤ８８１（第259図、ＰＬ．139）

ＳＤ881からは、弥生・古墳時代の資料が混在しつつ、土師器皿Ａ$_1$類・甕1194・鍔高約２㎝の土釜Ａ類、外面にヘラケズリの施される黒色土器Ｂ類の椀Ｂ類1193、格子タタキの施された軒平瓦などがある。全体の資料数は、３袋とごく少量である。

ＳＤ８８２（第259・272図、ＰＬ．139・151）

ＳＤ882からは、弥生・古墳時代の資料が混在しつつ、層位一括で土師器坏ｂ類1200・坏Ａ類1201・皿Ｂ類1202・皿ａ$_1$類（Ｅ類）1203・皿ｃ類1204～1207・甕1208・1209、土師器竈、黒色土器Ａ類の椀Ｂ類1195・椀ｂ類1196～1198・坏Ａ類1199、須恵器甕などがある。

ＳＤ８８５（第259図、ＰＬ．139）

ＳＤ885からは、小破片が多いが、土師器坏Ｃ類1211、外面にヘラケズリの施される黒色土器Ａ類の椀Ｂ類1210、緑釉陶器椀1212などがある。

ＳＤ８８６（第260・261図、ＰＬ．140・141）

ＳＤ886からは、まとまった量の資料が存在する。また、ＳＤ886に関連して取上げたものとして、ＳＤ886落ち込み・落ち込み・遺物包含層の資料が存在する。第ⅡＡ区の当該期の資料と比較すると、全体に遺存状態が悪い傾向にある。ＳＤ886資料の口縁部計測法による個体数は、層位一括で68.72個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計620点を数える。これらの内、瓦器椀が48.09個体（446点）、土師器皿・小皿が14.5個体（138点）、瓦器小皿が2.42個体（４点）を占める。

ＳＤ886資料の内訳は、瓦器椀Ｂ類1213・椀Ａ類1214～1216・椀Ｃ類1217～1242・椀Ｄ類・小皿1243～1247、土師器皿Ａ$_1$類1248・1249・皿Ｂ$_1$類1250～1265・小皿Ａ$_1$類1266～1268・小皿Ｂ$_1$類1270～1276・小皿Ｃ類・鍔高の長い土釜Ａ類1277～1283、須恵器甕がある。土師器皿Ｂ$_1$類・小皿Ｂ$_1$類の底部外面調整は、回転糸切りと回転篦切りによるもので、前者が多数を占める。

第ⅡＡ区の井戸ＳＥ417資料と比較すると、ＳＤ886資料はＳＥ417最下層より新相の資料を含むが、大方併行する資料群と見ることが可能である。但し、ＳＤ886資料では土師器皿Ｂ$_1$類・小皿Ｂ$_1$類の粗い回転糸切りや土釜Ａ類の比率が高い傾向にある。

ＳＤ８８６落ち（第262図、ＰＬ．141）

ＳＤ886落ち込み資料の口縁部計測法による個体数は、層位一括で14.79個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計179点を数える。これらの内、瓦器椀が10.29個体（118点）、土師器皿・小皿が4.0個体（54点）、瓦器小皿が0.21個体（２点）を占める。ＳＤ886落ち込み資料の内訳は、遺存状態が悪いが、瓦器椀Ｃ類1284～1288、土師器皿Ａ$_1$類1289～1291・皿Ｂ$_1$類1292～1294・小皿Ａ$_1$類1295～1297・小皿Ｂ$_1$類1298、片口の付けられた瓦器鉢1299、須恵質捏鉢、白磁碗などがある。

落ち込み（第262図、ＰＬ．141）

ＳＤ886に関連して取上げた落ち込み資料と遺物包含層資料を合わせた口縁部計測法による個体数は、層位一括で76.8個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計1,121点を数える。これらの内、瓦器椀が48.63個体（855点）、土師器皿・小皿が23.55個体（201点）、瓦器小皿が2.58個体（27点）を占める。落ち込み資料の内訳は、瓦器椀Ａ類1300・椀Ｃ類1301～1305、土師器皿Ａ$_1$類1306・皿Ｂ$_1$類1308・1309・皿Ｃ類1310・小皿Ａ１類1311～1321・小皿Ｂ１類1322・1323、須恵器鉢1324、白磁碗1325、などがある。土師器小皿Ａ１類1317は、小皿Ａ２類に属する形態に類似する。

遺物包含層（第262図）

ＳＤ886に関連して取上げた遺物包含層資料の内訳は、瓦器椀Ｃ類1326・小皿1327・1328、土師器皿Ａ$_1$類1329・1330・小皿Ａ$_1$類1331・1332・小皿Ｂ$_1$類1333～1337がある。また、落ち込み資料を合わせた資料の中に、土師器甕、瓦器鉢、須恵器甕、須恵質捏鉢、白磁皿、青磁碗・皿、染付などがある。石器・石製品として、砥石がある。

ＳＤ８８７（第263図、ＰＬ．142）

ＳＤ887からは、層位一括で瓦器椀Ｃ類1338、土師器皿Ａ$_1$類1339～1341・小皿Ａ$_1$類・小皿Ｂ$_1$類・鍔高約１～２㎝の土釜Ａ類、黒色土器Ｂ類、須恵器甕などがある。全体の資料数は、５袋と少量で、小破片が多い。

ＳＤ８８８（第263図）

ＳＤ888からは、層位一括で瓦器椀Ｃ類1342～1344、土師器皿Ａ$_1$類1345・皿Ｃ類・鍔高約２㎝の土釜Ａ類、備前焼甕、平安時代の混在資料と見られる土師器坏Ｂ類、黒色土器Ｂ類の椀、須恵器坏などがある。全体の資料数は、６袋と少量である。

ＳＤ８９０（第277図）

ＳＤ890からは、層位一括で瓦器椀Ｃ類、土師器皿Ａ$_1$類・皿Ｂ$_1$類・鉄釘1759・1760などがある。全体の資料数は、２袋とごく少量である。

ＳＤ８９８（第263図、ＰＬ．142）

ＳＤ898からは、ややまとまった資料がある。資料の内訳は、層位一括で土師器皿大丸1346～1348・皿大平1349・1350・小皿小丸1351～1354・小皿小平1355・土釜Ａ類1356・1357、瓦質土釜Ｃ類1359・1360、須恵器捏鉢1361、備前焼擂鉢1362、青磁碗1363・1365、美濃瀬戸鉄釉天目台1364・灰釉平碗などがある。他に、埋土下層から、土師器皿大平・小皿小平・小皿ＮＧタイプ・土釜Ａ類、平瓦が、埋土上層から土師器皿新Ｄ類・皿大丸・皿大平・土釜Ｂ類、瓦質火舎、備前焼擂鉢、美濃瀬戸灰釉などがある。

ＳＤ８９９（第263図、ＰＬ．142）

ＳＤ899からは、層位一括で土師器皿大丸・皿大平1368・小皿小丸・小皿小平1366・1367・1369・土釜Ａ類・土釜Ｂ類1370、無文と細描蓮弁の青磁碗、平瓦などがある。全体の資料数は、６袋と少量であり、古い時期の混在資料もある。

ＳＤ９００（第263・272・275図、ＰＬ．142・151・152）

ＳＤ900からは、ややまとまった資料があるが、鎌倉時代の混在資料が多い。資料の内訳は、層位一括で土師器皿薄丸大1371・1372・小皿薄丸小1373・皿大丸1374・1375・皿大平1376・小皿小平1377・1378・土釜Ａ類1379、須恵器捏鉢1382がある。他に、埋土下層から土師器皿Ｃ類・小皿Ｃ類・皿薄丸大・皿大丸・皿大平・小皿小平、瓦器椀Ｃ類が、埋土上層から鍔高約1.2㎝の土師器土釜Ａ類・小皿ＮＧタイプ、瓦器椀Ｃ類、白磁、軒丸瓦1675がある。

ＳＤ９０１（第263図、ＰＬ．142）

ＳＤ901からは、層位一括で土師器小皿Ａ１類・土釜Ａ類1380・1381、瓦器椀、白磁碗1383、青磁碗1384、須恵質捏鉢、奈良時代の須恵器蓋、土師器土錘がある。全体の資料数は、５袋と少量であり、鎌倉時代の混在資料が多い。

ＳＤ９０２（第264・265・272・274図、表33、ＰＬ．142・143・151・152）

ＳＤ902からは、まとまった量の資料数が存在するが、鎌倉時代の混在資料が多い。第ⅢＣ４区を中心としたＳＤ902の口縁部計測法による個体数は、層位一括で63.75個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計412点を数える。これらの内、土師器皿・小皿が62.71個体（395点）を占める。第ⅢＣ３区を中心としたＳＤ902の口縁部計測法による個体数は、層位一括で26.87個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計163点を数える。これらの内、土師器皿・小皿が24.04個体（138点）を占める。

資料の内訳は、地区一括の埋土最下層・下層で土師器皿Ａ$_1$類1385・小皿薄丸小1386・皿大丸1387～1390・小皿小丸1391～1395・皿大平1396～1398・小皿小平1399～1403・土釜Ａ類1404などがある。

地区一括の埋土上層で、土師器皿薄丸大1405～1407・小皿薄丸小1408～1412・皿大丸1413～1415・小皿小丸1416～1420・皿大平1421～1431・小皿小平1432～1446・土釜Ａ類1447～1452・土釜Ｂ類1453・1454、瓦質土釜Ｃ類1455、備前焼壺1456・甕1457・擂鉢1458～1461、美濃瀬戸灰釉平碗1462、青磁皿1463・碗1464、軒平瓦1680、硯1691がある。

その他、層位一括で須恵器捏鉢・甕・壺、瓦器椀・小皿・鉢、須恵質甕・捏鉢・椀、常滑焼、玉縁口縁の白磁碗、鉄釘、骨、土錘、平瓦・丸瓦・雁振1682がある。

ＳＤ９０３（第266・275図、表33、ＰＬ．144・152）

ＳＤ903からは、まとまった量の資料数が存在するが、やはり鎌倉時代の混在資料が多い。口縁部計測法による個体数は、層位一括で24.94個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計211点を数える。これらの内、土師器皿・小皿が22.8個体（179点）を占める。

資料の内訳は、土師器皿薄丸大1465・1466・皿大丸1467・小皿小丸1468～1470・皿大平1471～1478・小皿小平1479～1483・皿新Ｃ類1484・1485・土釜Ａ類1487・1488・捏鉢1489、瓦質甕1490・土釜Ｃ類1491・火舎1492、備前焼擂鉢1493・1494・甕、美濃瀬戸灰釉皿・壺、青磁碗1495、白磁、平瓦・丸瓦、土錘がある。その他、数量から除外した混在資料として、奈良時代の土師器・須恵器、黒色土器、土師器皿Ａ$_1$類、瓦器椀Ｃ類、須恵質捏鉢などがある。石器・石製品として、砥石1711もある。

ＳＤ９０５（第267・272・273・274・275図、表33、ＰＬ．144・151・152）

ＳＤ905からは、まとまった量の資料数が存在すが、やはり鎌倉時代の混在資料が多い。口縁部計測法による個体数は、埋土下層で3.17個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計24点を数える。これらの内、土師器皿・小皿が2.92個体（21点）を占める。埋土上層で15.85個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計150点を数える。これらの内、土師器皿・小皿が12.46個体（104点）を占める。

資料の内訳は、層位一括で、土師器皿大丸1496～1498・小皿小丸1499・皿大平1500～1503・小皿ＮＧタイプ1504～1508・土釜Ａ類1509・1510・土釜Ｂ類1511・捏鉢1512、瓦質土釜Ｃ類1513・1515・捏鉢1516・香炉1517・湯釜、備前焼壺1518・水差し1519・擂鉢1521～1523、常滑焼、丹波焼擂鉢、美濃瀬戸鉄釉碗1528・1529・灰釉平椀・おろし皿、青磁碗1524～1526、白磁皿1527、軒丸瓦1676・軒平瓦1678・1679・丸瓦1688・

1689がある。その他、数量から除外した混在資料として、瓦器椀Ｃ類、須恵質捏鉢1530、瓦質甕1514、備前焼擂鉢1520などがある。石器・石製品として、硯1692がある。

ＳＤ９０６（第268図）

ＳＤ906からは、土師器小皿薄丸小1531・小皿小丸1532・小皿小平1533～1535・土釜Ａ類1536～1538、混在資料としてのⅢＡ期の備前焼擂鉢1539などがある。全体の資料数は、３袋とごく少量で、若干の混在資料がある。

ＳＤ９０７（第268図、表32、ＰＬ．144）

ＳＤ907からは、ややまとまった資料に少量の混在資料を含みつつ、土師器小皿小丸1540・皿大平1541・小皿小平1542～1550・土釜Ａ類1552～1555、備前焼、混在資料としての瓦器椀、須恵質捏鉢、白磁壺底部1551などがある。

ＳＤ９１０（第268図、ＰＬ．144）

ＳＤ910からは、混在資料を含みつつ、瓦器椀Ｃ類1556、土師器皿Ａ$_1$類・小皿Ａ$_1$類1557、土師器皿薄丸大1558・皿大平1559～1562・小皿小平1563・土釜Ａ類1564、瓦質土釜Ｃ類、白磁碗1565、須恵器甕がある。

ＳＤ９１１（第268・269図、表33、ＰＬ．145）

ＳＤ911からは、ややまとまった量の資料数が存在するが、鎌倉時代の混在資料が多い。口縁部計測法による個体数は、層位一括で25.9個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計200点を数える。これらの内、土師器皿・小皿が22.87個体（163点）を占める。

資料の内訳は、層位一括で土師器小皿小丸1567・1568・皿大平1569～1576・小皿小平1577～1585・土釜Ａ類1586～1588・土釜Ｂ類1589、瓦質湯釜1590・1591・土釜Ｃ類1592～1594・甕1596・1598・捏鉢1597・火舎、胎土に結晶片岩を含むことから地元産と考えられる瓦質土釜1595、備前焼壺1599・甕1600・1601・擂鉢、常滑焼、美濃瀬戸灰釉平椀、青磁碗1602・稜花皿1603、白磁、土錘、瓦、砥石がある。その他、数量から除外した混在資料として、奈良時代の須恵器壺・甕、黒色土器、土師器小皿Ａ$_1$類1566、瓦器椀・瓦器小皿、須恵質捏鉢などがある。

ＳＤ９１３（第270図、ＰＬ．145）

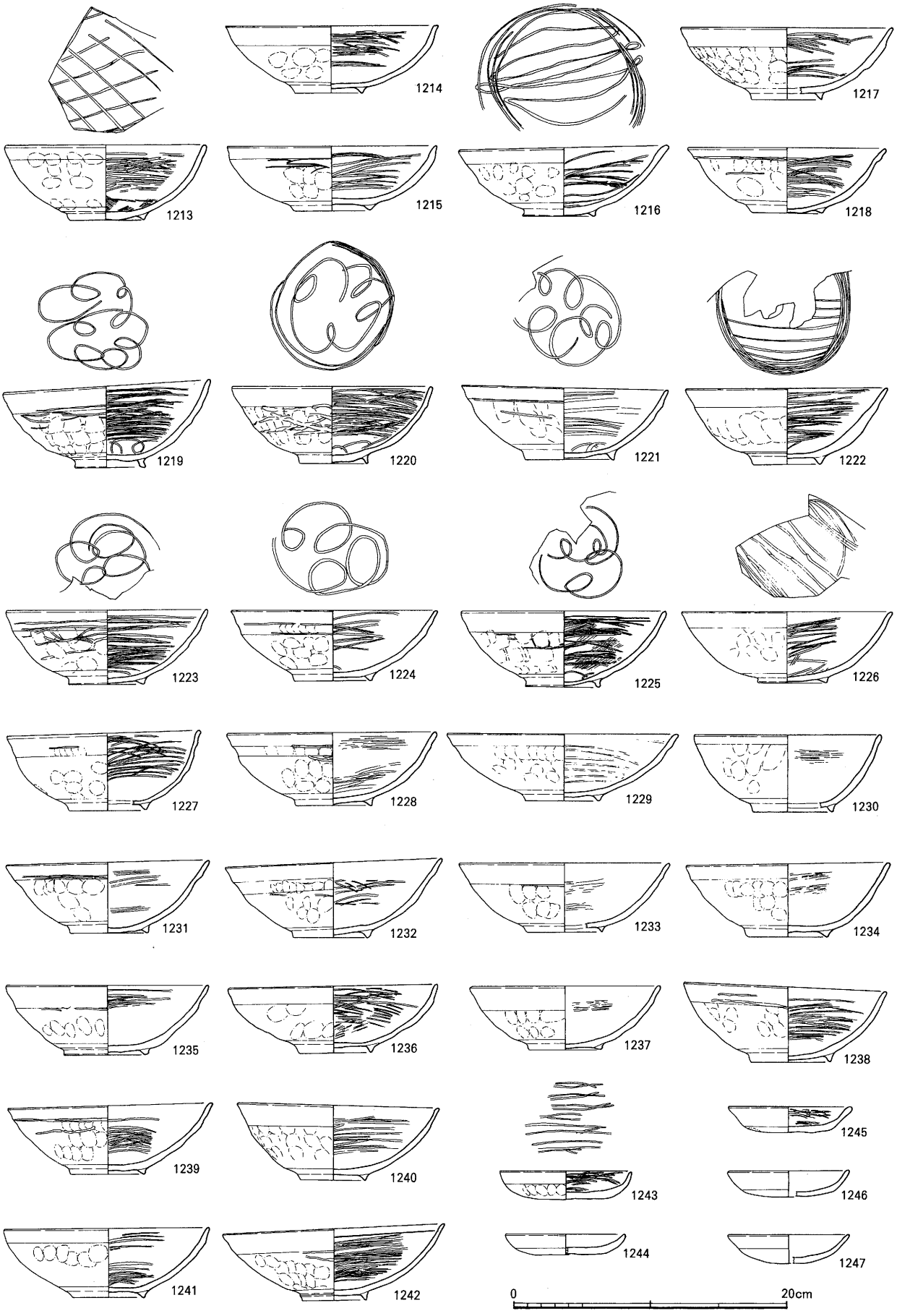
ＳＤ913からは、土師器皿Ａ$_1$類1605・1606・皿薄丸大1607・皿大平1609・小皿小平1608・1610・土釜Ａ類1611、ⅣＢ期の備前焼擂鉢、平瓦がある。混在資料として、黒色土器Ａ類椀、瓦器椀Ｃ類・瓦器小皿1604がある。全体の資料数は、10袋である。

ＳＤ９１４（第270図、ＰＬ．145）

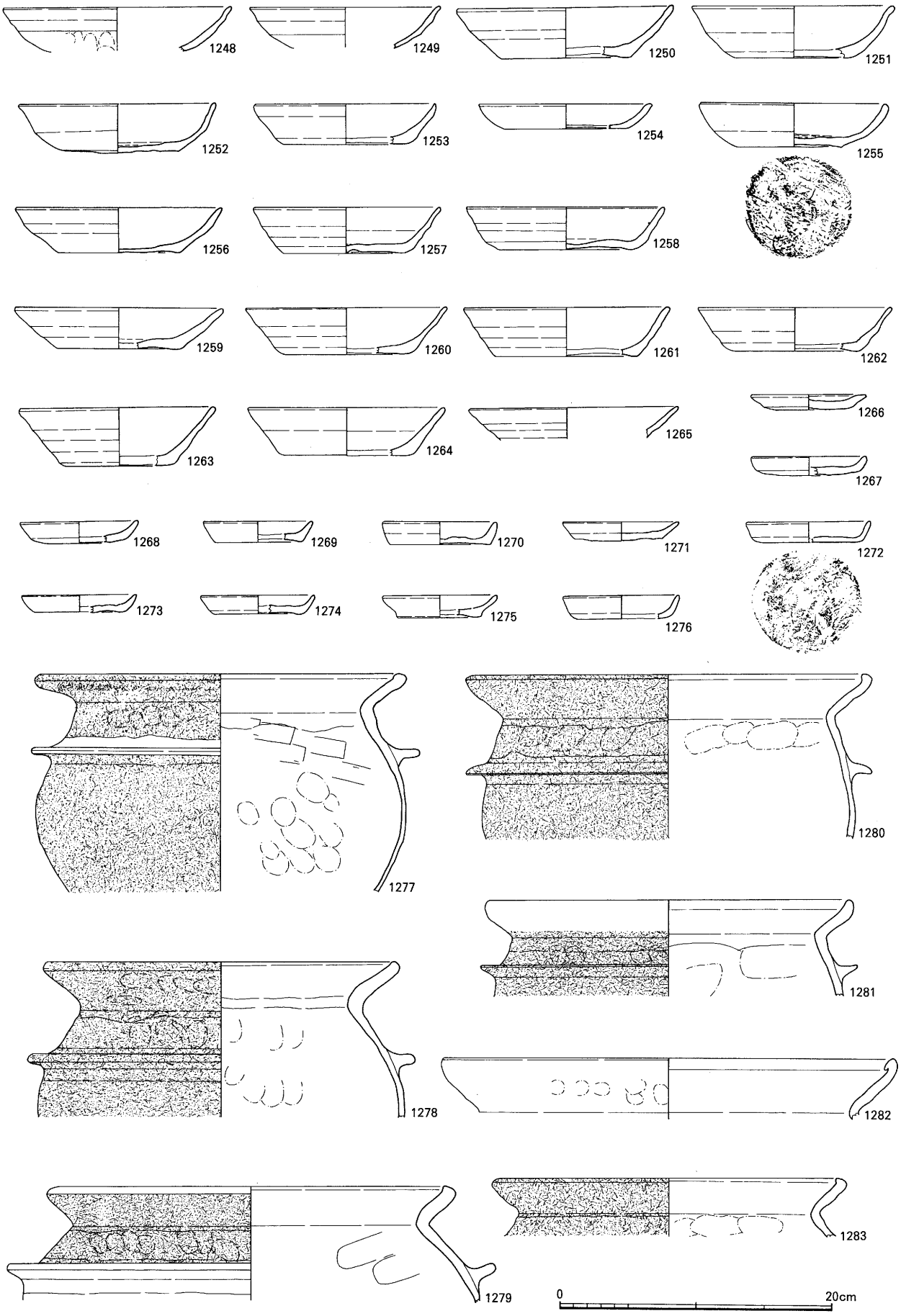
ＳＤ914からは、土師器皿大丸1612・小皿小丸1613・皿大平1614～1616・小皿小平1617～1622・ＳＧ783と接合関係にある小皿ＮＧタイプ1623、瓦質土釜Ｃ類1624・湯釜、備前焼擂鉢1625・甕1626、雷文帯の青磁碗1627がある。

ＳＤ９１５（第270・271・274・275図、表33、ＰＬ．145・152）

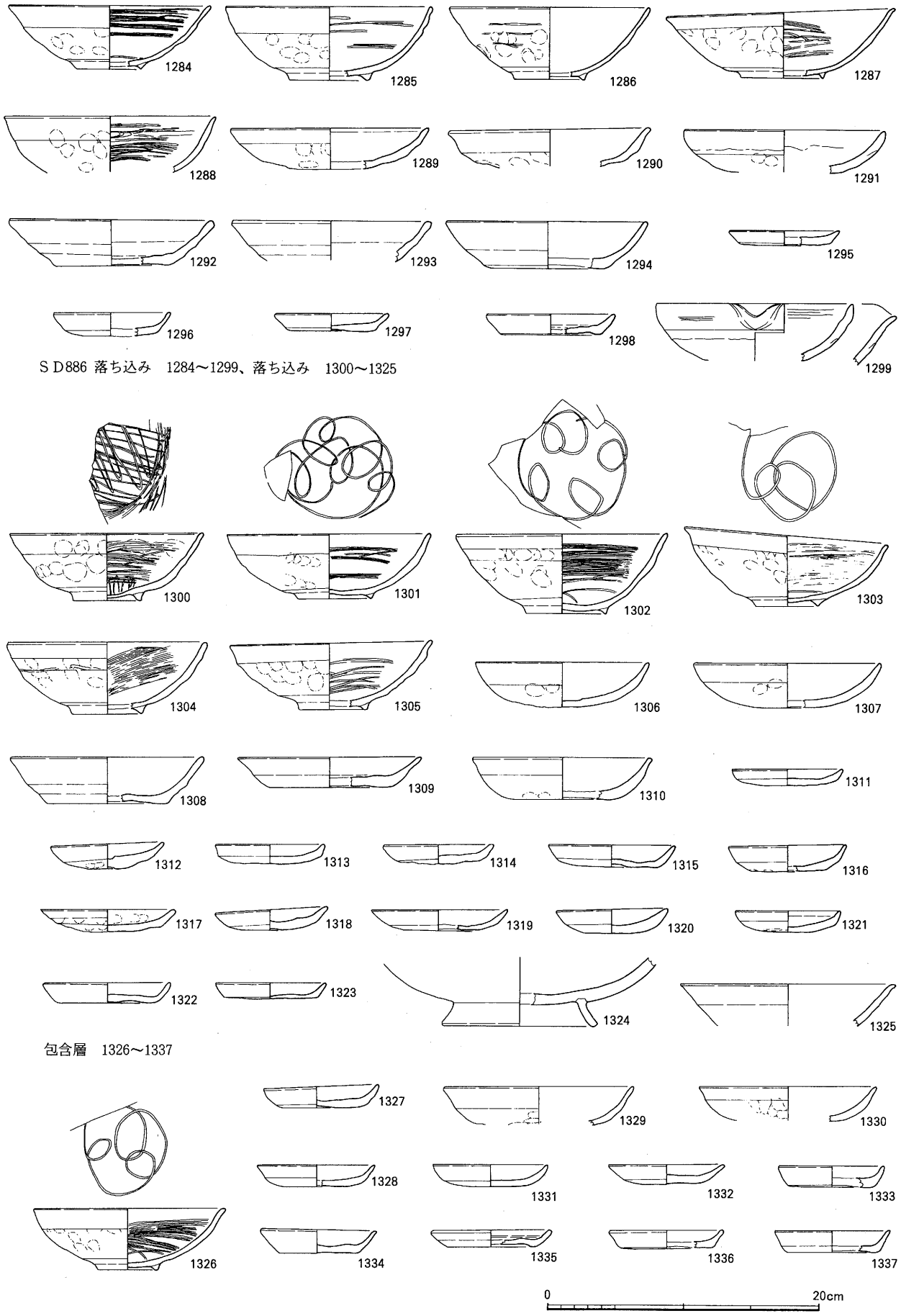
ＳＤ915からは、少ないながらもややまとまった量の資料がある。口縁部計測法による個体数は、層位一括で15.6個体である。個体数による器種構成比率に対応できる資料は、計126点を数える。これらの内、土師器皿・小皿が14.34個体（109点）を占める。資料の内訳は、層位一括で土師器皿大丸1628・小皿小丸1629・皿大平1630～1633・小皿小平1634～1640・小皿ＮＧタイプ1641・土釜Ａ類1642・1644・土釜Ｂ類1643、瓦質捏鉢1645、備前焼徳利1646・擂鉢1647・甕1648、美濃瀬戸灰釉おろし皿1649、青磁、瓦がある。その他、数量から除外した混在資料として、黒色土器、瓦器椀Ｃ類、須恵質捏鉢がある。石器・石製品として、石鍋



第260図　ＳＤ886出土土器実測図



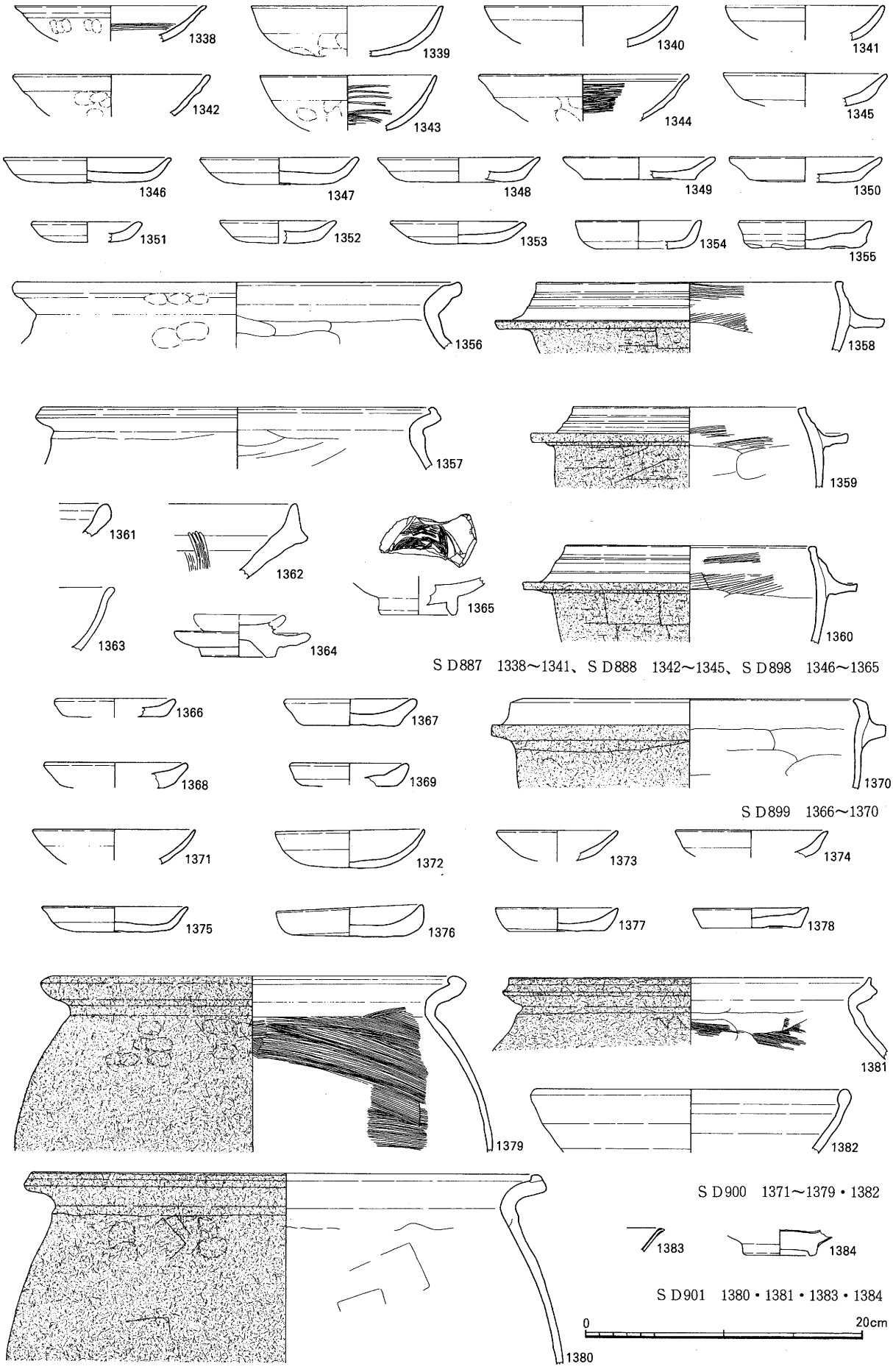
第261図　ＳＤ886出土土器実測図



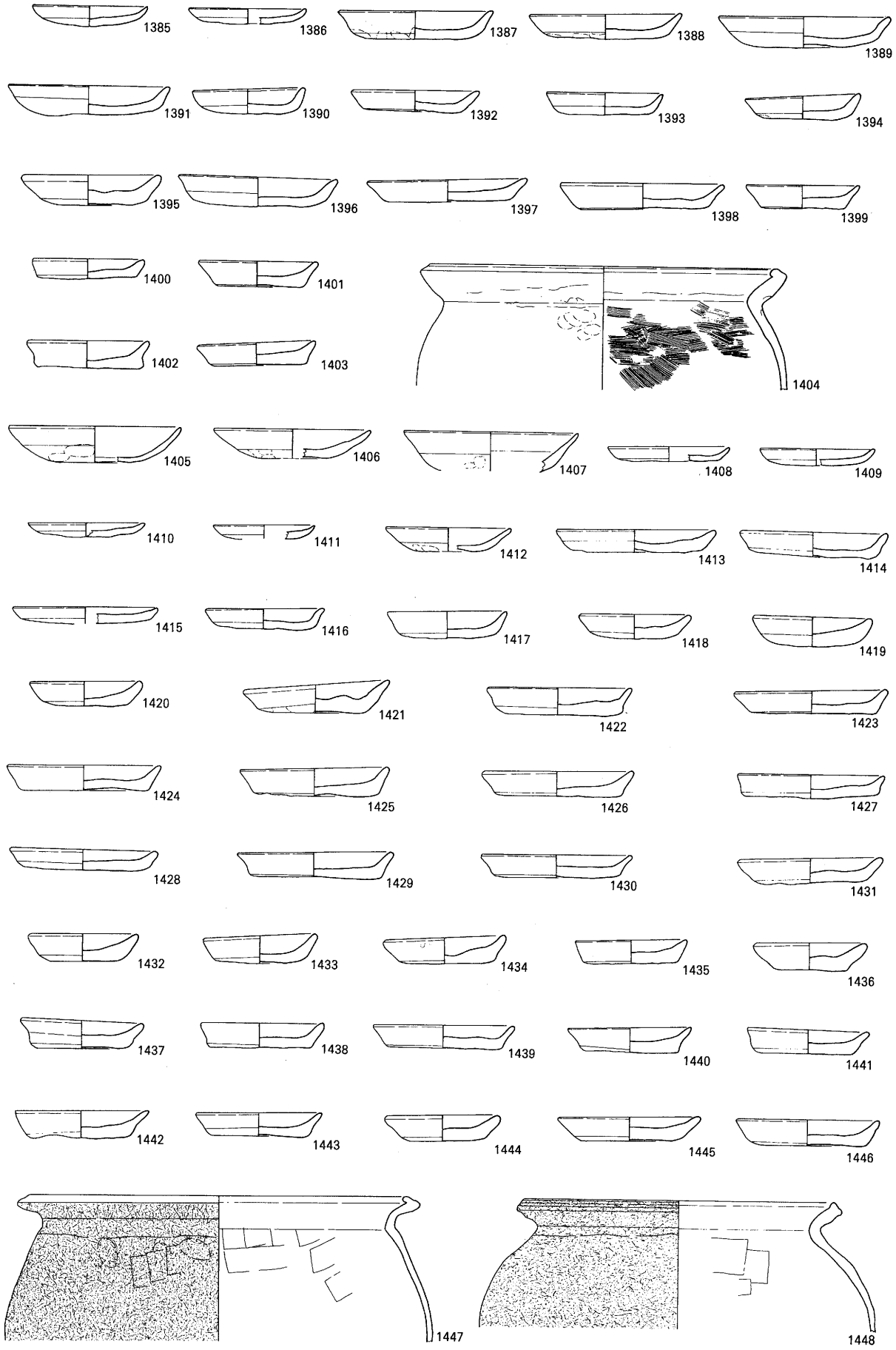
ＳＤ886 落ち込み　1284～1299、落ち込み　1300～1325

包含層　1326～1337

第262図　ＳＤ886落ち・落ち込み・包含層出土土器実測図

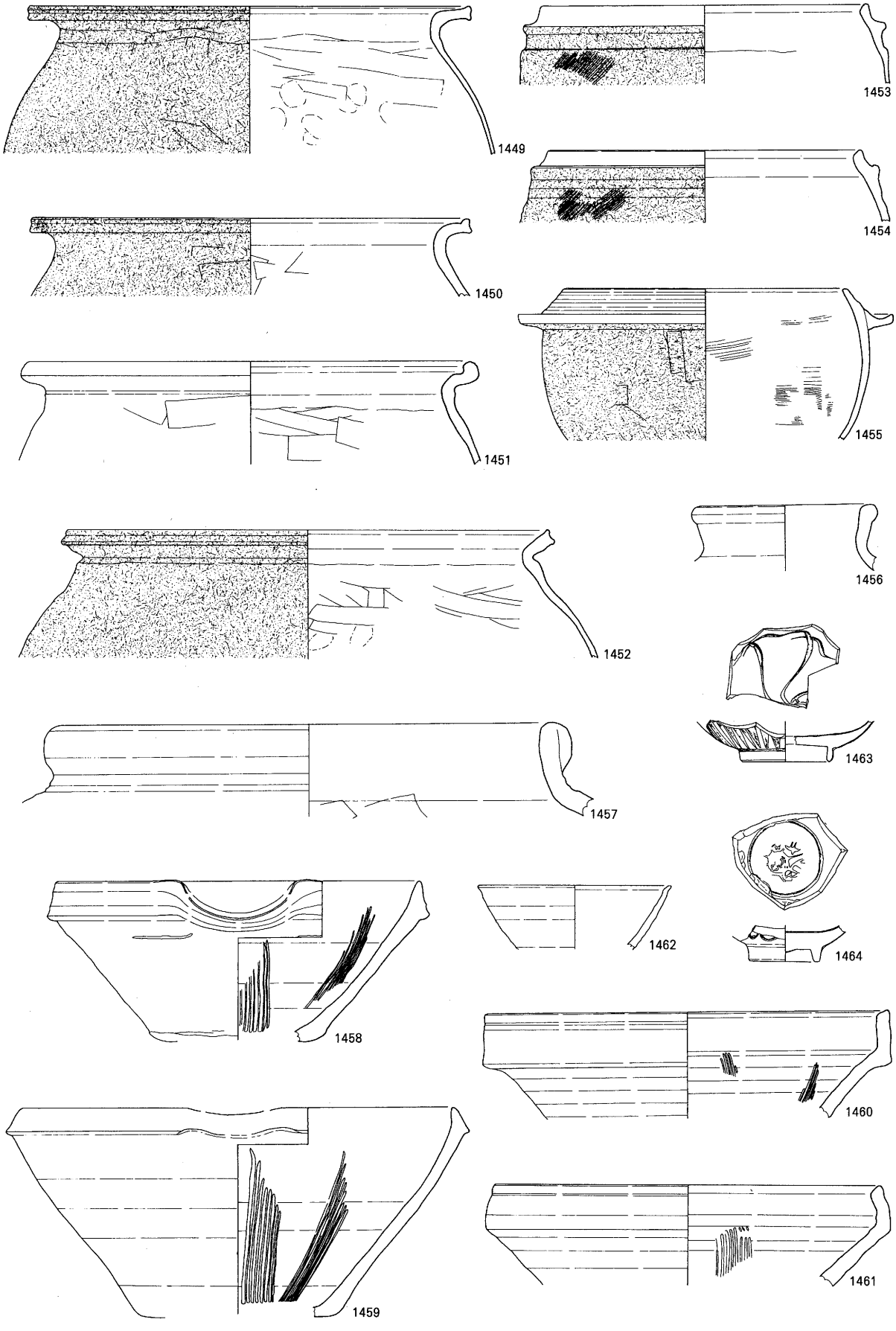


第263図　S D887・888・898・899・900・901出土土器実測図

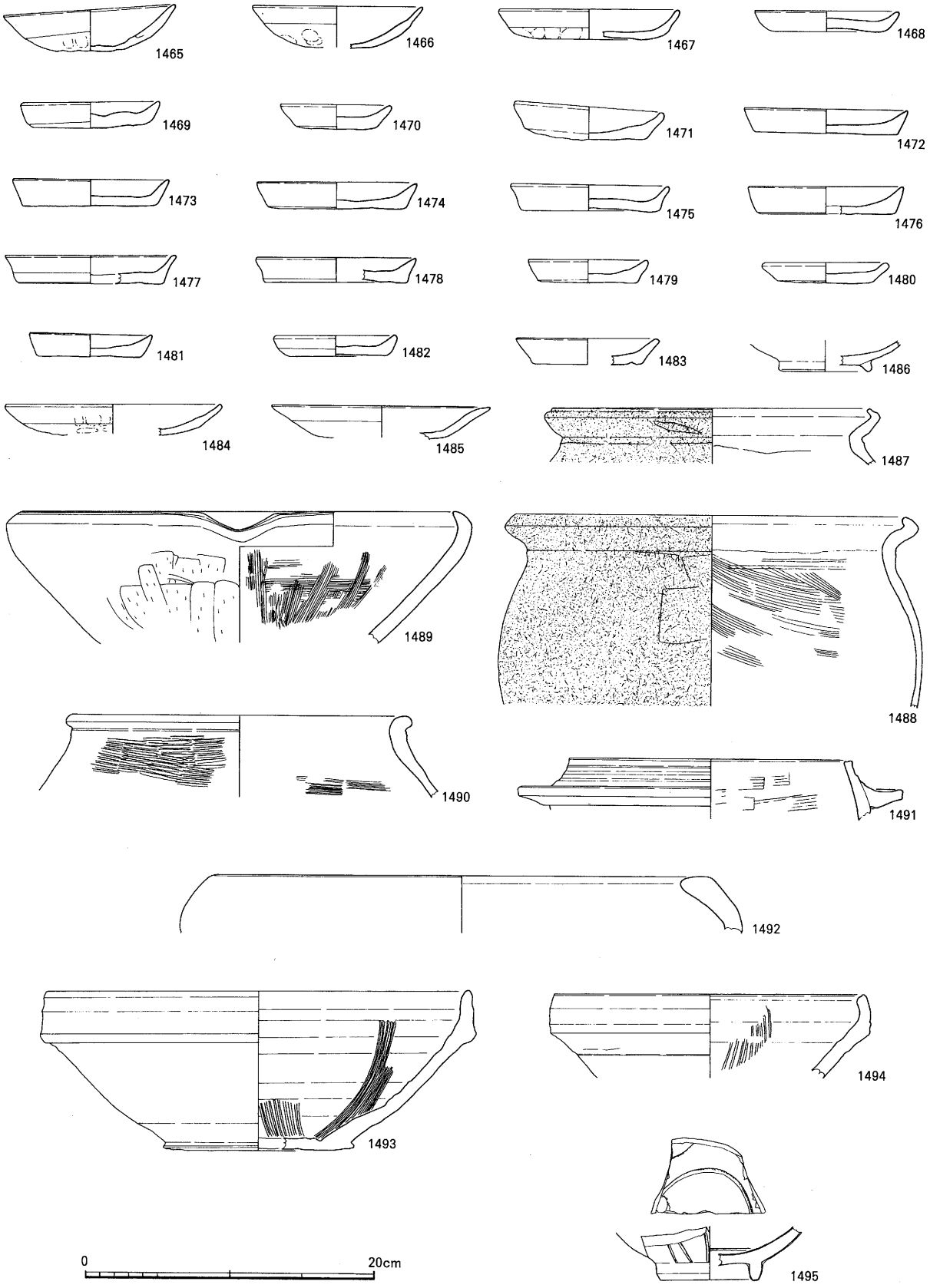


最下層・下層　1385～1404、上層　1405～1448

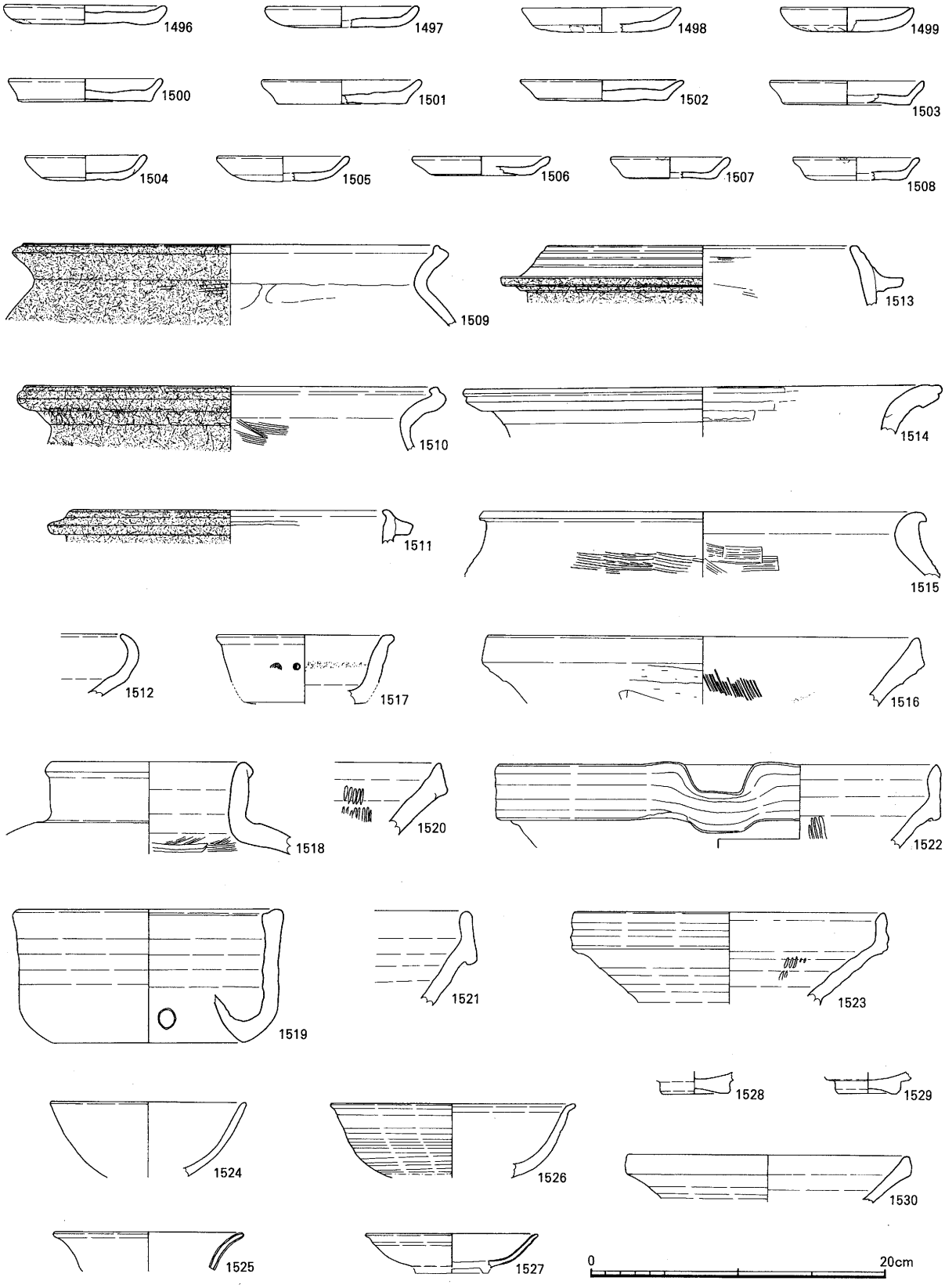
第264図　ＳＤ902出土土器実測図



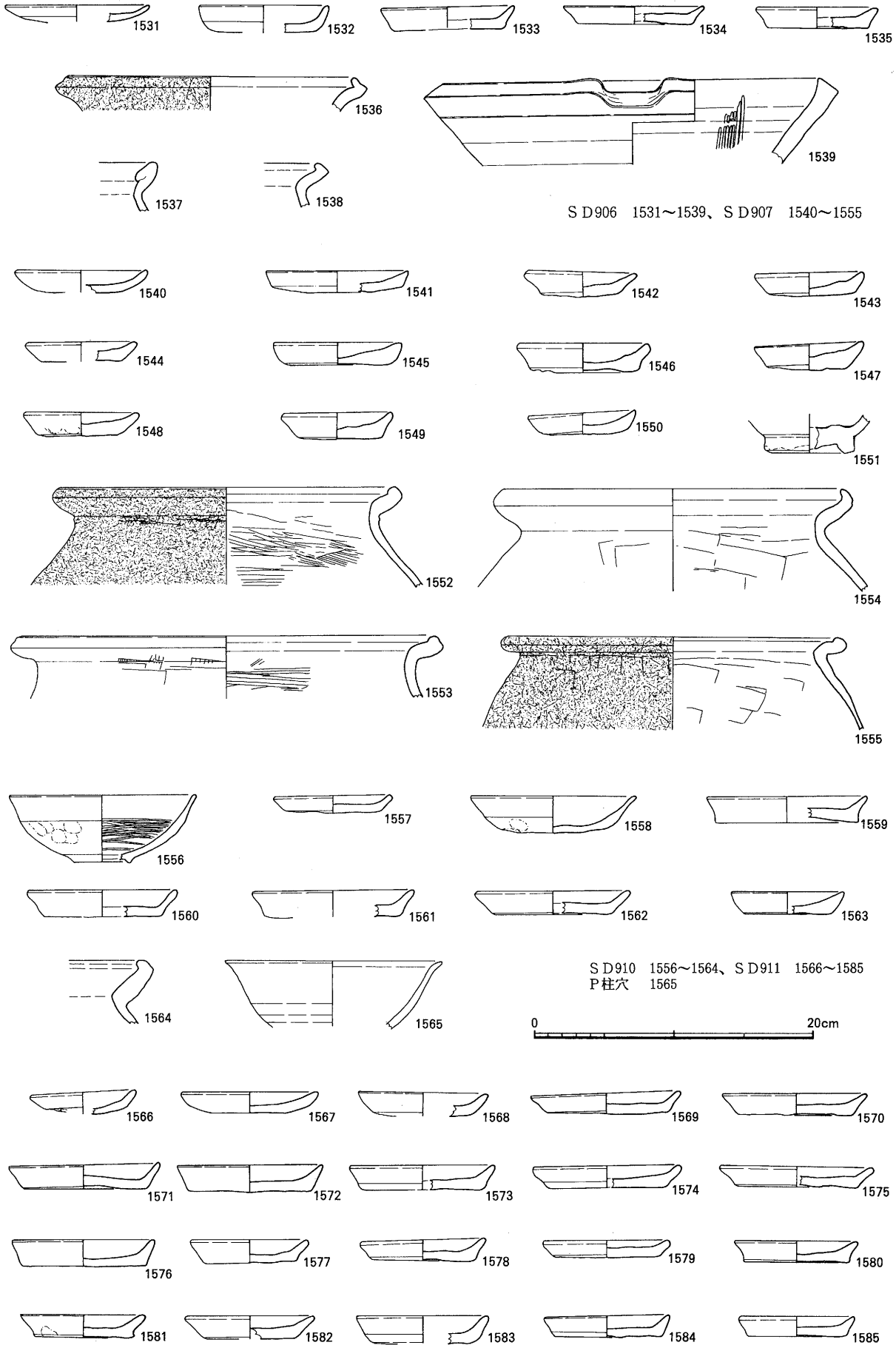
第265図　ＳＤ902出土土器実測図



第266図　ＳＤ903出土土器実測図



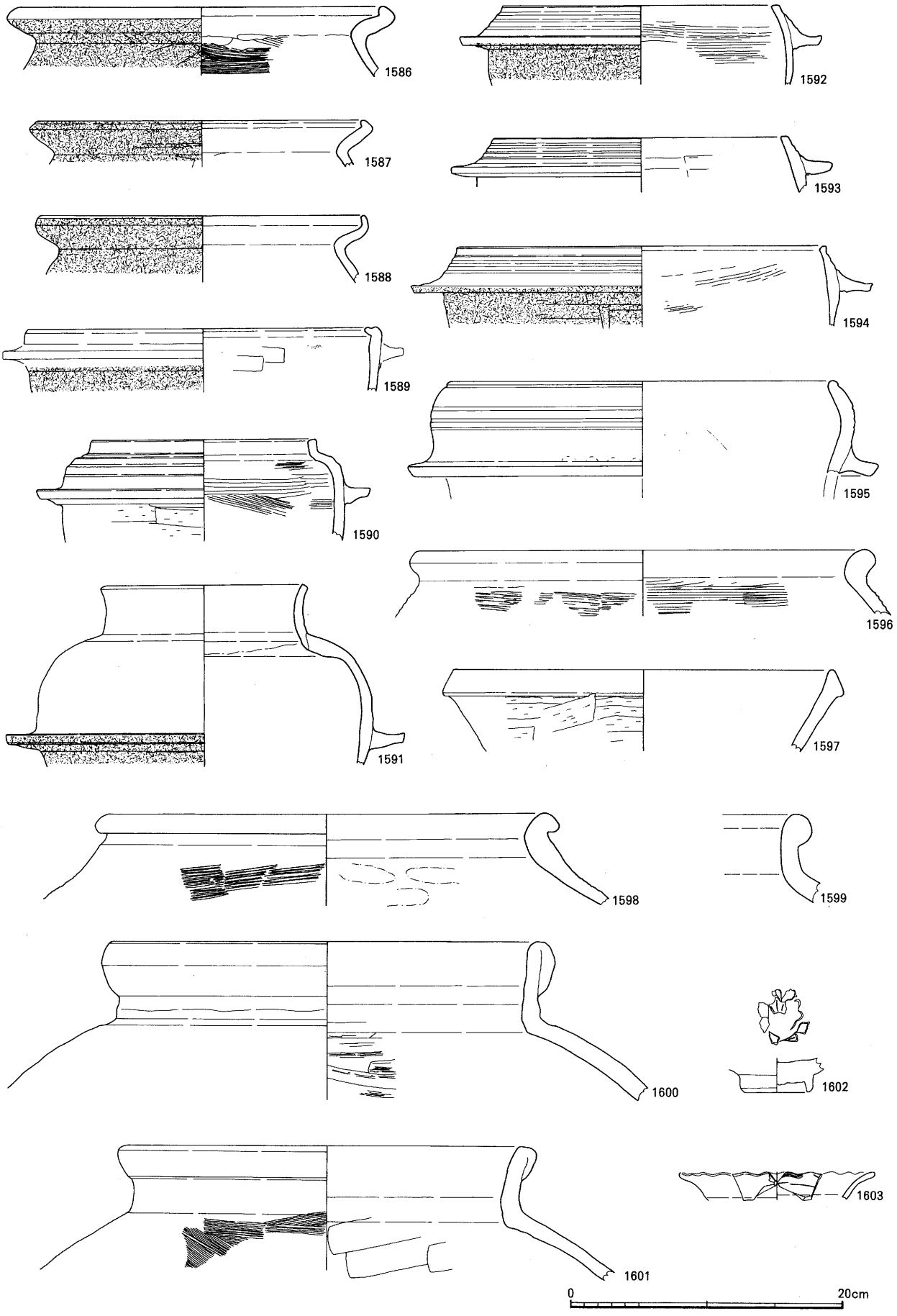
第267図　ＳＤ905出土土器実測図



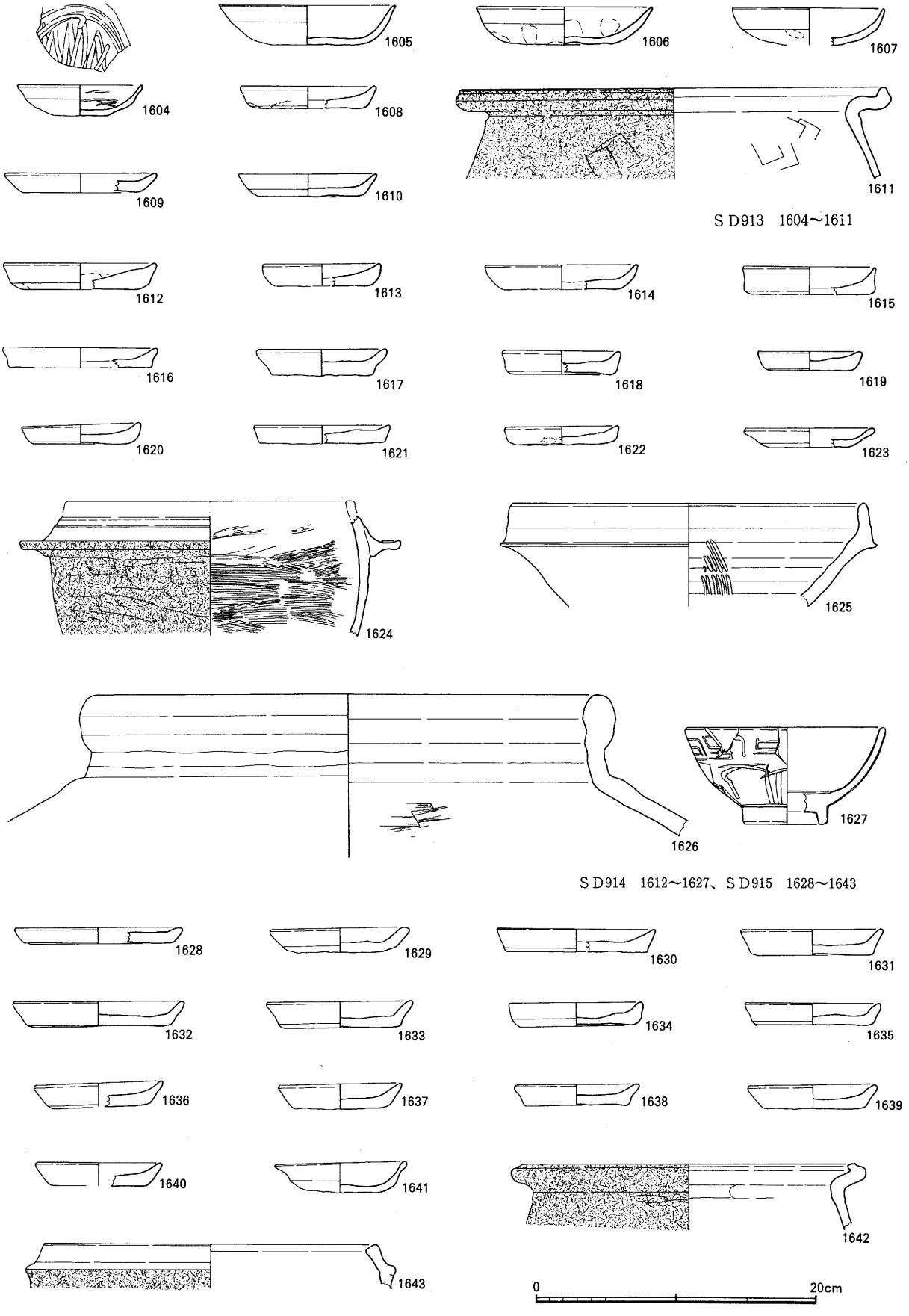
ＳＤ906　1531～1539、ＳＤ907　1540～1555

ＳＤ910　1556～1564、ＳＤ911　1566～1585
Ｐ柱穴　1565

第268図　ＳＤ906・907・910・911出土土器実測図



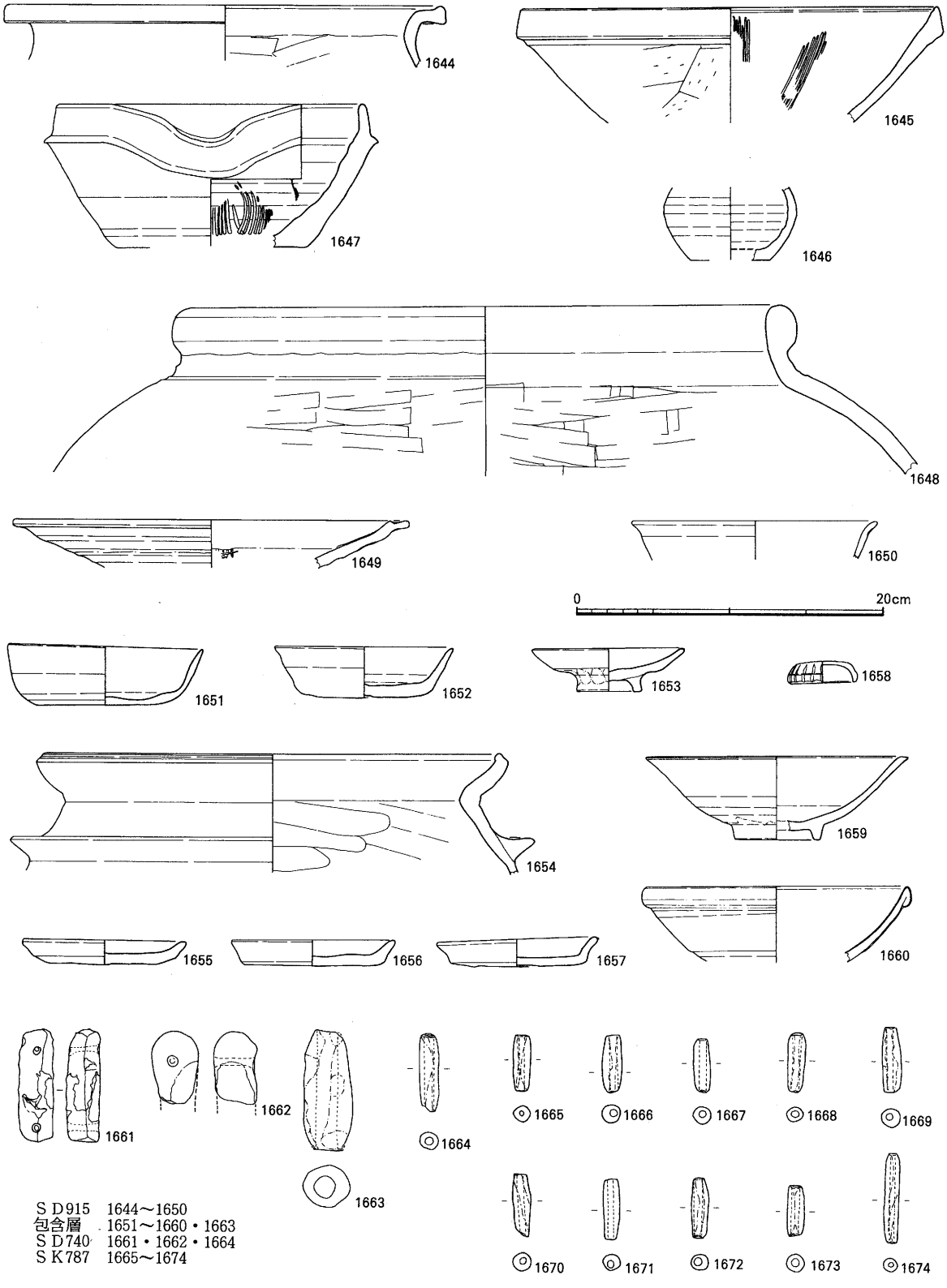
第269図　ＳＤ911出土土器実測図



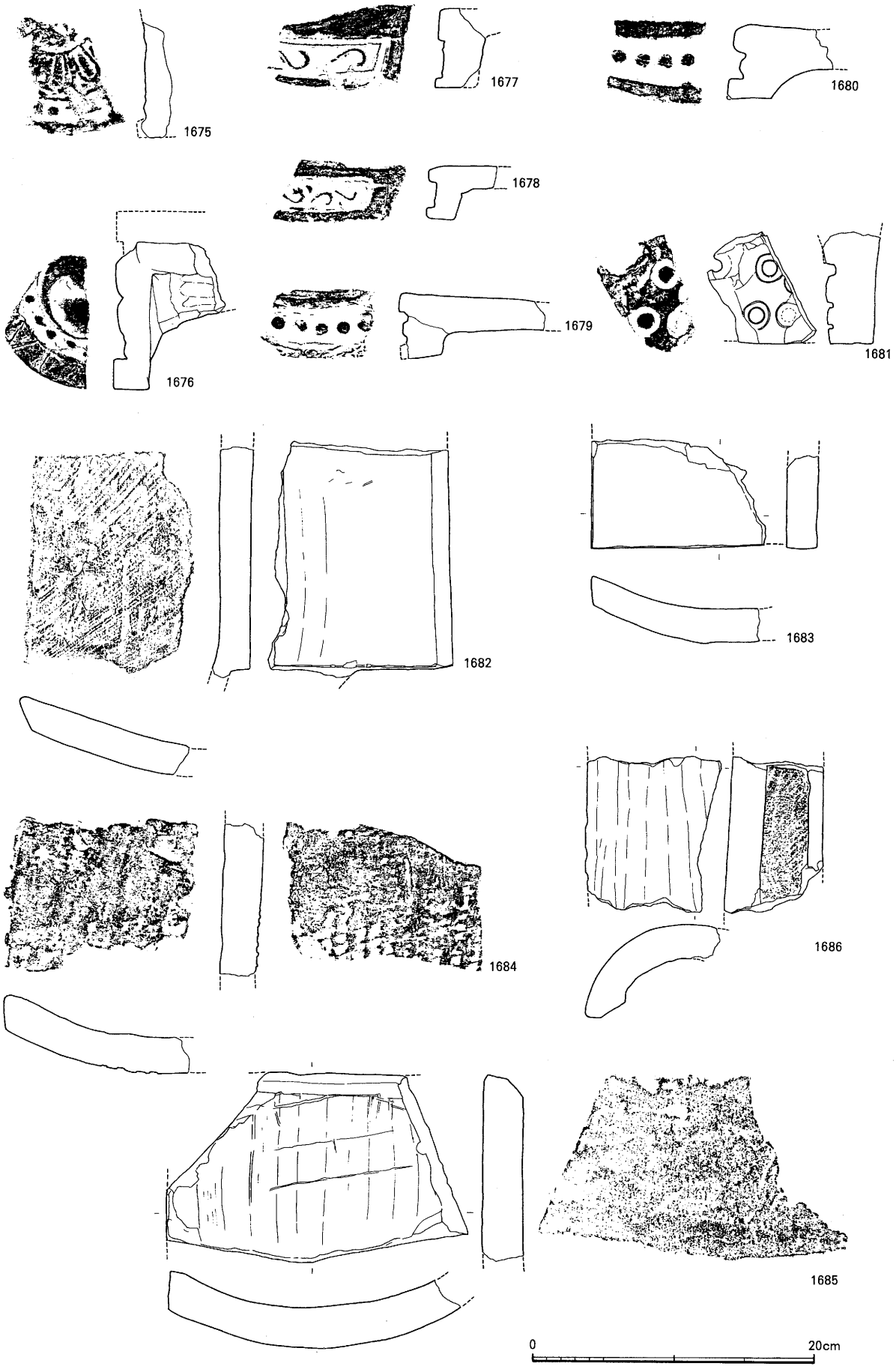
ＳＤ913　1604～1611

ＳＤ914　1612～1627、ＳＤ915　1628～1643

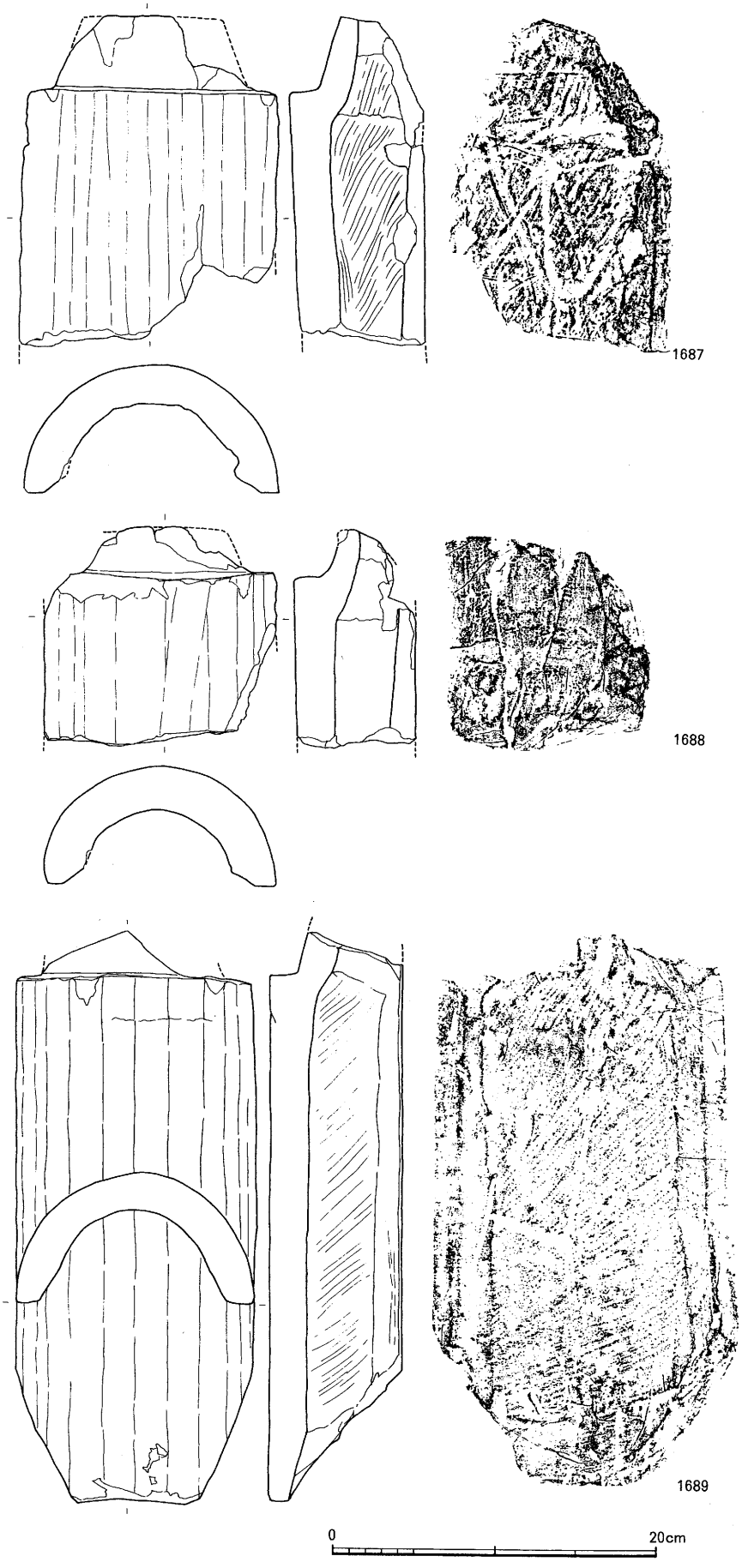
第270図　ＳＤ913・914・915出土土器実測図



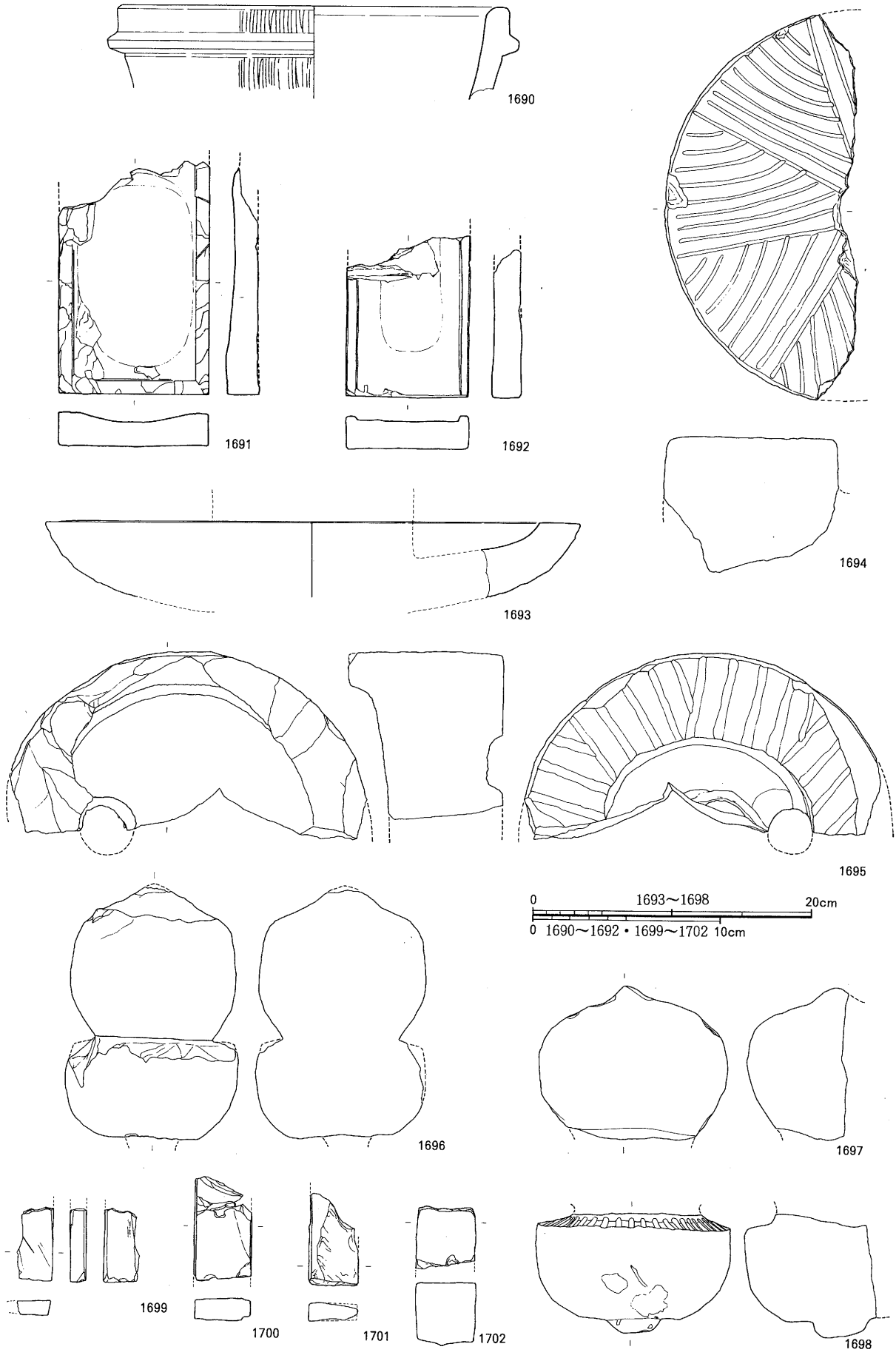
第271図　ＳＤ915、第Ⅲ区包含層出土土器・土錘実測図



第272図　第ⅢＣ区出土瓦実測図



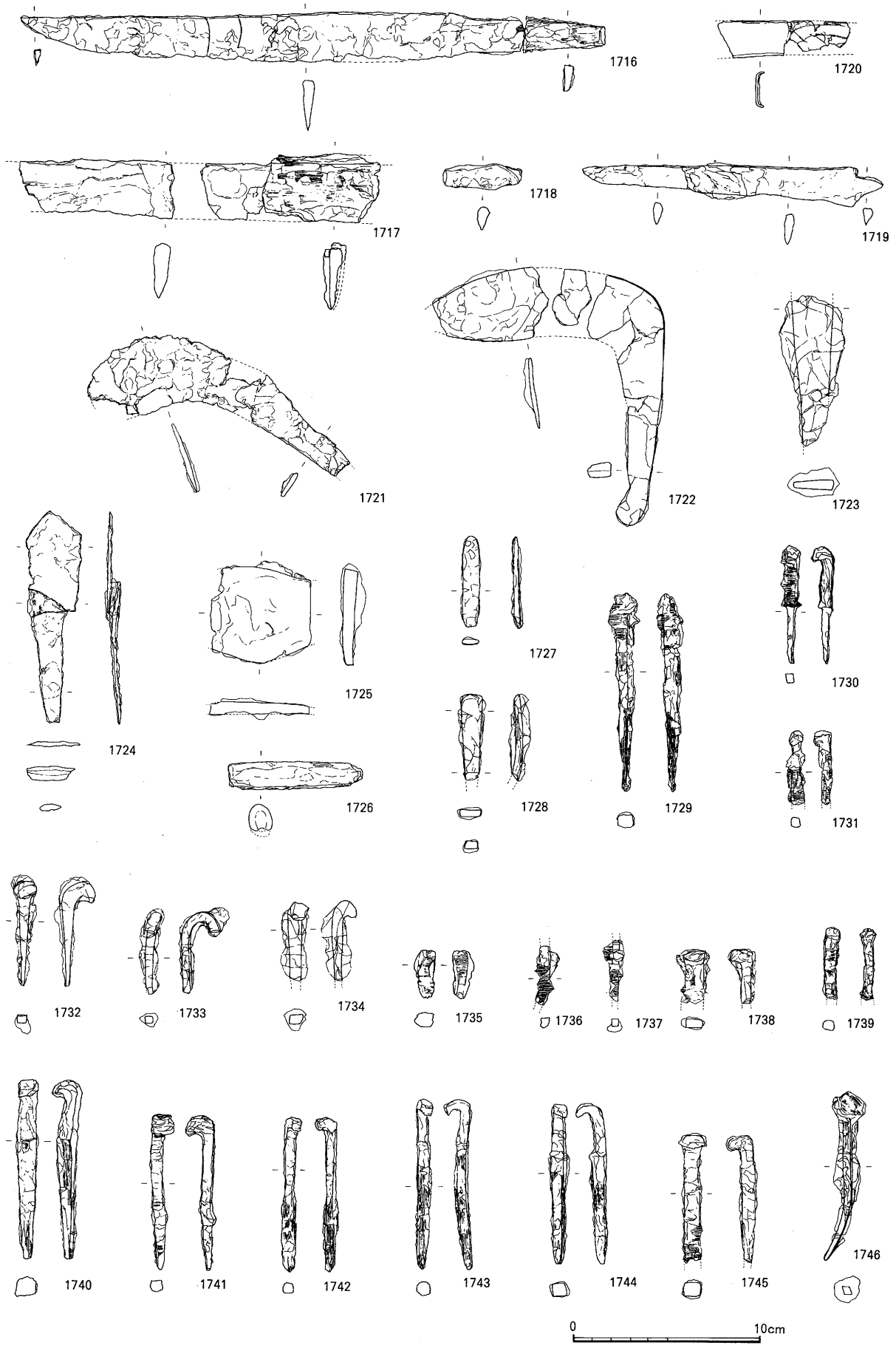
第273図　第Ⅲ C区出土瓦実測図



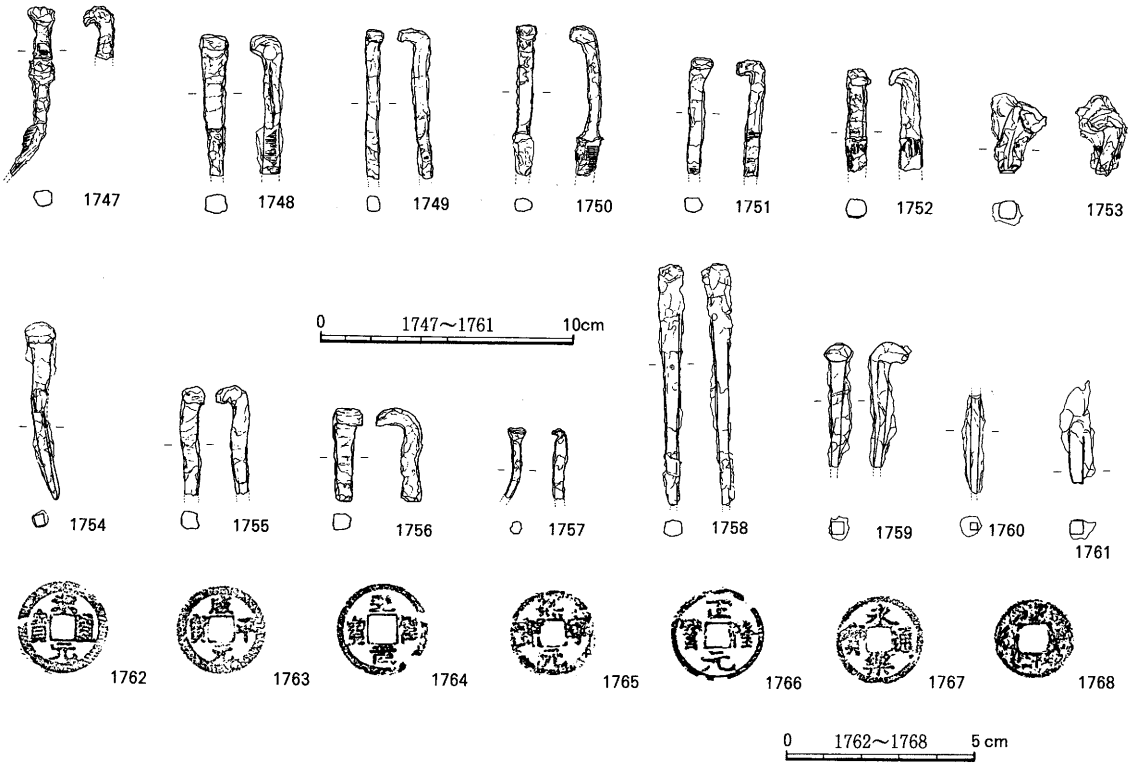
第274図　第ⅢＣ区出土奈良～江戸時代石製品実測図



第275図　第Ⅲ C区出土奈良～江戸時代石製品実測図



第276図　第ⅢＣ区出土平安～室町時代鉄製品実測図

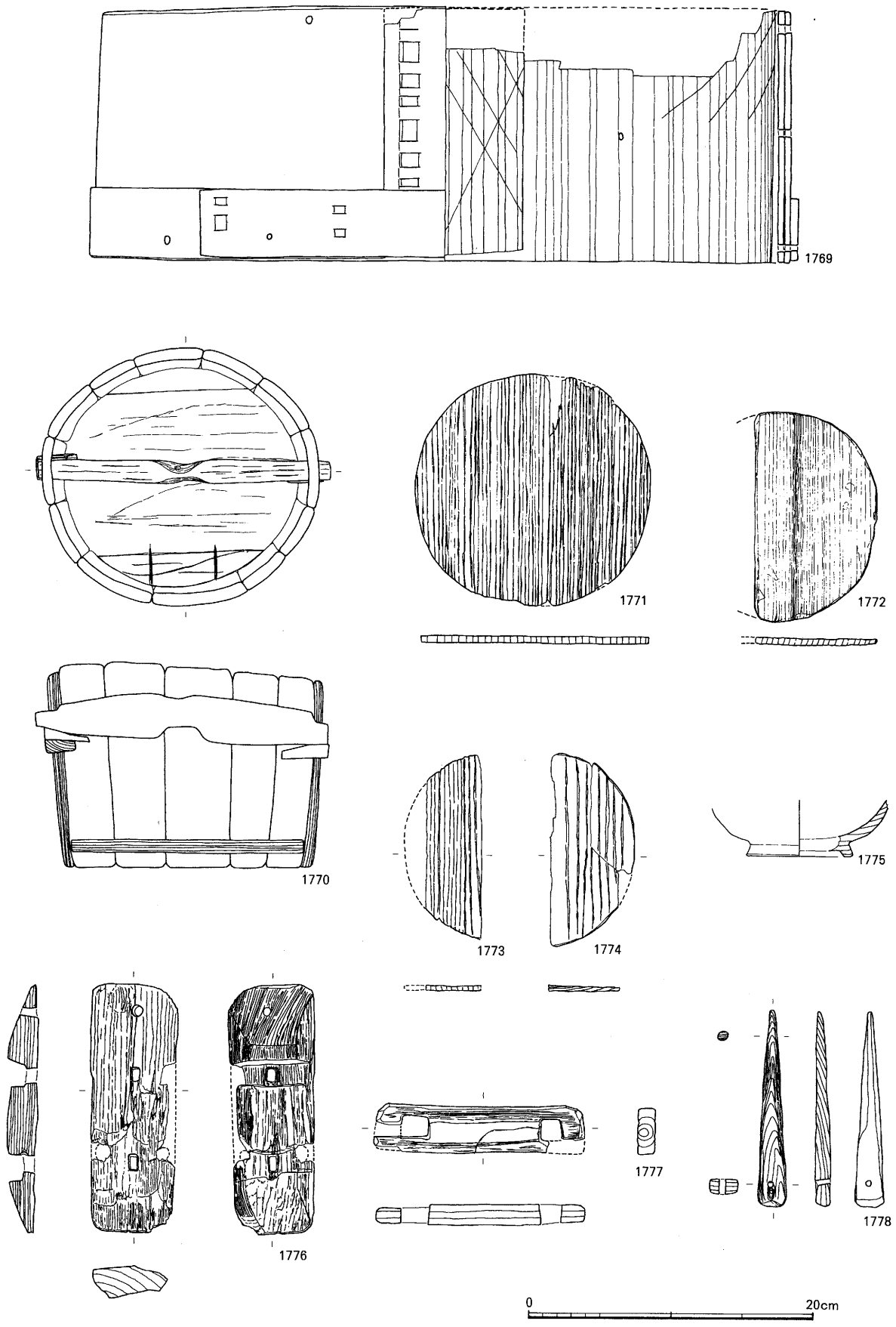


第277図　第Ⅲ C区出土平安～江戸時代金属製品・銅銭実測図

1690、砥石1703がある。

ＳＤ９１８（第272図）

ＳＤ918からは、瓦器椀Ｃ類、備前焼擂鉢、平瓦1683などがある。全体の資料数は、10片のみである。



第278図　第Ⅲ C 区出土室町～江戸時代木製品実測図

第5節　包含層の出土遺物

当節においては各地区から出土した包含層資料を一括して扱うこととし、各地区の資料の概要を時代毎に示しておく。出土した包含層資料は、各地区において細片化したものが大半を占める。一部においては、遺構埋土の上層部資料を包含層として掘削したと思われるほどの大破片が存在する場合もある。これらの資料は、数量的にさほど多いとは考えられないが、遺構出土資料と接合しない限り包含層資料として扱っている。

包含層出土遺物の分布密度は、後世の開発による開墾・削平状況により大きな違いを見せる部分も存在するが、西田井遺跡の調査地では概ね包含層直下での下部面の遺構の状況により左右されている。包含層とはいえ、広範囲の調査区において同一の堆積層が存在する状態ではない。そこで、基礎数量として土質や土色の違う堆積土から得られた資料の個別的な数量化を行なっている。これらを最終的に資料化する方法として、時代毎の器種組成を算出することに努め、時代毎の分布密度図を作成した。資料は、細片化したものが大半を占めるため、器種すら判別できないものが存在する。このことから、時代によっては異なる分別基準を採らざるを得ない状況にもあった。

なお、包含層資料においてのみ、平安時代後期前半の黒色土器を含んだ一群の資料を、出現期の瓦器椀と分離し、便宜上、平安時代中期の中で扱った。

第ⅠA区・第ⅠD区

弥生・古墳時代（第113・279図、表24）　第ⅠA区の包含層資料には、弥生土器の広口壺A類175～177・甕A類178・丁寧なヘラミガキの施された鉢B類179など弥生時代後期後半の資料が主体となる。溝遺構が多いが、遺構の性格との絡みからか廃棄された量が少ないようである。分布密度図には提示していないが、第ⅠD区の包含層資料には、須恵器坏身180・181・坏蓋182・壺183など古墳時代中期の資料が主体となる。

奈良～平安時代中期（第127・279図、表24）　奈良時代の資料は極端に少ない状況にある。平安時代前・中期の資料には、黒色土器A類の椀b類648・649、土師器土釜669、須恵器長頸壺673など一定量存在するが、分布密度において、特に集中する範囲は認められない。

平安時代後期・鎌倉時代（第127・279図、表24、PL．63）　第ⅠA区の中での包含層資料としては、約半数を占めるものである。資料の内訳は、瓦器椀B類650・椀C類651・652、土師器皿B_1類654・皿C類653・小皿A_1類655～657・小皿F類658～662、須恵質捏鉢671・672、青磁皿674などがある。器種構成の比率では、SD102D溝などとよく似た傾向を見ることができる。また、分布密度において、特に集中する範囲は認められない状況にある。

室町時代（第127・279図、表24、PL．63）　室町時代の資料には、土師器皿大平663～665・小皿小平666・667・小皿小丸668などがあり、SD102溝の周辺部に散在する傾向にあるが、全体から見れば少量である。

第ⅡA区

弥生・古墳時代（第172～174・279図、表24、PL．92）　資料の大半は、地山直上層として取上げられた一群の遺物である。第ⅡA区の中での包含層資料としては、半数以上を占めるものである。分布密度においては、特に竪穴住居の分布する西寄りの範囲に重複して集中しており、包含層が形成される過程で竪穴住居内の埋土の最上層が何らかの影響を受けたことも一因と考えられる。また、SI192の北側範囲に遺物の集中する範囲が認められるが、要因について、弥生・古墳時代の遺構が少ない範囲だけに判断しかねる状況にある。資料の内訳は、弥生土器として広口壺A類948～955・広口壺B類956～958・甕A類959～962・甕B類963・甕D類964・脚台付鉢965・高坏A類968・969・高坏B類970・脚台A類971・972・甑974などがある。

弥生・古墳時代

EW00

NS00

奈良～平安時代中期

第ⅠA区

第ⅡA区

EW00

第ⅠD区

第ⅡB区

NS00

B2区

A1区

A2区

第ⅠB区

A3区

A4区

B3区

B1区

平安時代後期・鎌倉時代

EW00

NS00

室町時代

EW00

NS00

破片点数

1～10点

11～50点

51～100点

101～200点

201～400点

401～600点

601～1000点

1001～1500点

1501～2000点

2001点以上

0 40m

第279図　第ⅠA区～ⅡB区包含層出土土器の分布密度図

		区画	第Ⅰ区			第Ⅱ区			第Ⅱ区			第Ⅲ区			第Ⅲ区			第Ⅲ区		
			A区			A区			B1区			C1・2区			C3～5区			D区		
		種類	破片数	比率%		破片数	比率%		破片数	比率%		破片数	比率%		破片数	比率%		破片数	比率%	
弥生・古墳	(土師器・弥生土器)		5,352	97.65	32.28	116,915	98.21	59.36	5,621	75.13	70.65	7,582	100.00	40.68	71,306	99.98	78.68	23,741	99.88	99.62
	製塩土器		76	1.39	0.46	471	0.40	0.24	223	2.98	2.80				9	0.01	0.01	29	0.12	0.12
	須恵器		53	0.97	0.32	1,659	1.40	0.84	1,638	21.89	20.59				2	※	※			
	計		5,481	100.01	33.06	119,045	100.01	60.44	7,482	100.00	94.04	7,582	100.00	40.68	71,317	99.99	78.69	23,770	100.00	99.74
奈良		皿・坏	2	7.41	0.01							66	16.46	0.35	287	18.55	0.32			
		甕・土釜	4	14.81	0.02	2	3.33	※	1	25.00	0.01	27	6.73	0.14	504	32.58	0.56			
		須恵器	21	77.78	0.13	58	96.67	0.03	3	75.00	0.04	308	76.81	1.65	756	48.87	0.83	20	100.00	0.09
	計		27	100.00	0.16	60	100.00	0.03	4	100.00	0.05	401	100.00	2.14	1,547	100.00	1.71	20	100.00	0.09
平安前・中	土師器	皿・坏	33	1.36	0.20	626	3.97	0.32	3	5.45	0.04	149	25.73	0.80	733	15.00	0.81	1	6.25	※
		黒色土器	913	37.76	5.52	6,269	39.78	3.18	7	12.73	0.09	113	19.52	0.61	2,126	43.51	2.35	6	37.50	0.03
		土師器・椀	140	5.79	0.84	943	5.98	0.48	6	10.91	0.08	88	15.20	0.47	526	10.77	0.58	4	25.00	0.02
		甕・土釜	1,202	49.71	7.25	6,890	43.72	3.50	37	67.27	0.46	161	27.81	0.86	1,079	22.08	1.19			
		カマド	14	0.58	0.08	183	1.16	0.09	1	1.82	0.01	6	1.04	0.03	50	1.02	0.06	1	6.25	※
		製塩土器	2	0.08	0.01	758	4.81	0.38	1	1.82	0.01	51	8.81	0.27	233	4.77	0.26	1	6.25	※
	須恵器		114	4.71	0.69	92	0.58	0.05				11	1.90	0.06	139	2.84	0.15	3	18.75	0.01
	計		2,418	99.99	14.59	15,761	100.00	8.00	55	100.00	0.69	579	100.01	3.10	4,886	99.99	5.39	16	100.00	0.06
平安後～鎌倉	土師器	皿・小皿	5,000	58.80	30.16	45,008	72.87	22.85	128	37.76	1.61	4,008	39.77	21.50	3,791	57.48	4.18	21	80.77	0.09
		土釜AB・鍋	613	7.21	3.70	2,818	4.56	1.43	49	14.45	0.62	1,516	15.04	8.13	792	12.01	0.87			
		捏鉢	1	0.01	※	1	※								15	0.23	0.02			
	瓦器	椀・皿・鉢	2,801	32.94	16.90	13,548	21.94	6.88	154	45.43	1.93	4,509	44.75	24.19	1,892	28.69	2.09	5	19.23	0.02
	須恵質	甕	18	0.21	0.11	63	0.10	0.03	2	0.59	0.03	10	0.10	0.05	28	0.42	0.03			
		捏鉢	45	0.53	0.27	111	0.18	0.06	5	1.47	0.06	3	0.03	0.02	60	0.91	0.07			
		椀	5	0.06	0.03	37	0.06	0.02				1	0.01	0.01	3	0.05	※			
	磁器	白磁	10	0.12	0.06	144	0.23	0.07				21	0.21	0.11	6	0.09	0.01			
		青磁	11	0.13	0.07	33	0.05	0.02	1	0.29	0.01	9	0.09	0.05	8	0.12	0.01			
	計		8,504	100.01	51.30	61,763	99.99	31.36	339	99.99	4.26	10,077	100.00	54.06	6,595	100.00	7.28	26	100.00	0.11
室町	土師器	皿・小皿	109	74.15	0.66	35	10.87	0.02	59	77.63	0.74				5,081	80.89	5.61			
		土釜AB・鍋	11	7.48	0.07	91	28.26	0.05	2	2.63	0.03				511	8.14	0.56			
	瓦器(～瓦質)	土釜C	4	2.72	0.03	49	15.22	0.02	6	7.89	0.07				196	3.12	0.22			
		甕	1	0.68	※	20	6.21	0.01	4	5.26	0.05				31	0.49	0.03			
		火舎・香炉				3	0.93	※							31	0.49	0.03			
		捏鉢	3	2.04	0.02	10	3.11	※							32	0.51	0.04			
		湯釜													2	0.03	※			
	陶器	備前	11	7.48	0.07	43	13.35	0.02	2	2.63	0.03				219	3.49	0.24			
		常滑	1	0.68	※	21	6.52	0.01	1	1.32	0.01				10	0.16	0.01			
		丹波													1	0.02	※			
		美濃・瀬戸	3	2.04	0.02	14	4.35	0.01	2	2.63	0.03				52	0.83	0.06			
		信楽				1	0.31	※							1	0.02	※			
	磁器	白磁	1	0.68	※	32	9.94	0.02							38	0.60	0.04			
		青磁	3	2.04	0.02	3	0.93	※							70	1.11	0.08			
		染付													6	0.10	0.01			
	計		147	99.99	0.89	322	100.00	0.16	76	99.99	0.96	0		0	6,281	100.00	6.93	0		0
総合計			16,577		100.00	196,951		99.99	7,956		100.00	18,639		99.98	90,626		100.00	23,832		100.00

破片点数、※印は存在するが微量

表24　包含層出土土器の構成比率

古式土師器・土師器の類として、二重口縁壺975・短頸壺976・977・甕Ｂ類978～983・鉢984・985・椀（鉢Ｄ）986・987・主に坏部と脚台部が遊離した状態の高坏Ｂ類988～991・高坏Ｄ類992～998・脚台Ｆ類999・脚台Ｇ類1000・手捏の匙形土製品1001・手捏の鉢形土製品などがある。須恵器として、坏身1003～1006・坏蓋1007・1009・無蓋高坏1008などがある。

奈良～平安時代中期（第201・279図、表24）　資料の大半は、遺構面直上層として取上げられた一群の中に含まれる遺物である。奈良時代の資料は極端に少ない状況にある。平安時代前・中期の資料は分布密度において、Ａ１区からＡ２区の北側範囲に若干集中する範囲が認められる状況にある。資料の内訳は、黒色土器Ａ類の椀ｂ類2014・高台付皿2015、土師器椀ｂ類2016・2017・皿ａ$_1$類2018・皿ａ$_1$類（皿Ｅ類）2019・2020・坏ｂ類2023・坏ｃ類と考えられる高台部2022・甕2024～2027などがある。

平安時代後期・鎌倉時代（第201～203・279図、表24、ＰＬ．106）　資料の大半は、前段階の資料と同様に遺構面直上層として取上げられた一群の遺物である。資料の分布密度は、特に掘立柱建物の分布する西寄りの範囲に重複して集中して、Ａ１区からＡ２区西側半分にかけて顕著な状況にある。資料の内訳は、瓦器椀Ｄ類2028～2030・椀Ａ類2031～2033・椀Ｃ類2034～2040・小皿2042～2046・鉢2047、土師器皿Ｄ類2048～2050・皿Ａ$_1$類2051～2053・皿Ｃ類2054～2056・皿Ｂ$_1$類2057・2058・皿Ｂ$_2$類2059・小皿Ｄ$_2$類2060～2062・Ｄ$_3$類2063、土師器土釜Ａ類2093・2094・土釜Ｂ類2095、瓦質土釜Ｃ類2096・2097、須恵質捏鉢2098・2099、など多くの資料がある。

室町時代（第203・279図、表24）　室町時代の資料は、備前焼擂鉢2100などがあるが、全体から見れば少量の状況にある。

第ⅡＢ区（第174・279図、表24）

弥生・古墳時代　ＳＲ546旧河川の埋没過程の堆積状況の中で、須恵器を伴う時期の資料が主体となり調査区の南側範囲に若干の集中範囲を認めることができる。

奈良～平安時代中期・平安時代後期・鎌倉時代・室町時代　全体量そのものが少量で、分布密度も特に集中する範囲は認められない状況にある。

第ⅢＣ区（第271・280図、表24）

第ＩＡ区・第ＩＤ区・第ⅡＡ区の包含層資料に比べて、図化できるものが極端に少ない傾向にある。

弥生・古墳時代　資料は、細片化したものが大半を占める。分布密度としては、特にＣ４区を中心として、Ｃ３区からＣ５区にかけて溝ＳＤ681の北東側や溝ＳＤ720・721の範囲に集中する傾向にある。

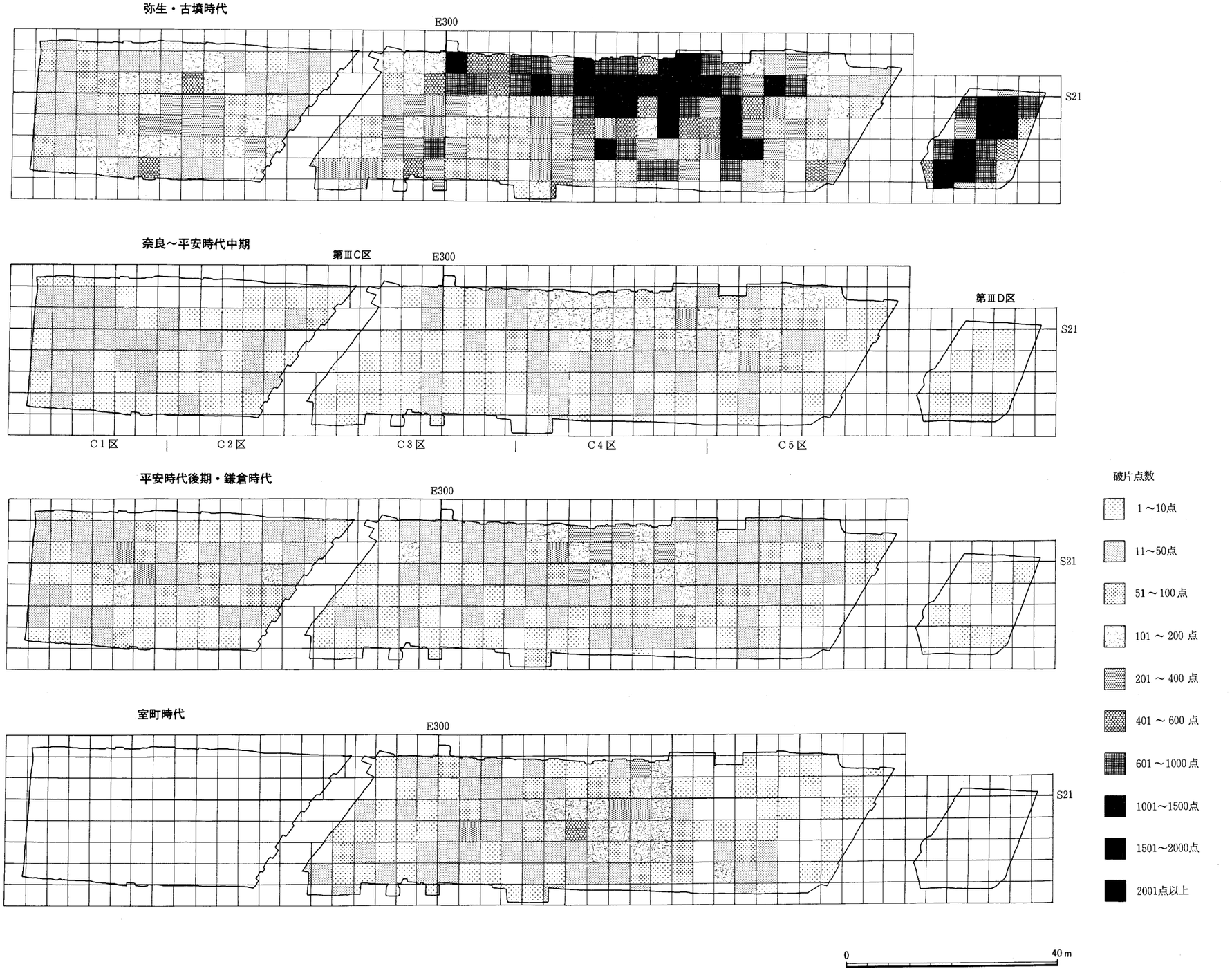
奈良～平安時代中期　Ｃ１区からＣ５区・Ｄ区にかけて全体的に分布し、須恵器坏Ａ類1651・1652などの溝ＳＤ741や土坑ＳＫ787などに関連した資料群が認められる。

平安時代後期・鎌倉時代　当該期の資料は、遺構の殆んど検出されなかったＣ３～５区にかけても全体的に分布している。この分布状況から、本来、Ｃ１・２区と同様に相当数の遺構が存在したものが、室町時代の屋敷地の造成によって削平・消滅したものと考えられる。

室町時代　Ｃ１・２区では当該期の資料は、全く分布しない状況にある。それに比べて、溝に囲まれた屋敷地の存在するＣ３～５区にかけて全体的に分布し、多くの資料が存在する傾向にある。

第ⅢＤ区（第271・280図、表24）

弥生・古墳時代　溝ＳＤ936に重複する範囲に集中して分布している。本来、包含層資料というより、溝ＳＤ936の埋没過程に伴う資料群として扱うべきものであった可能性が高い。



第280図　第ⅢC区・D区包含層出土土器の分布密度図

第Ⅵ章　まとめ

第１節　西田井遺跡の集落構成の変遷

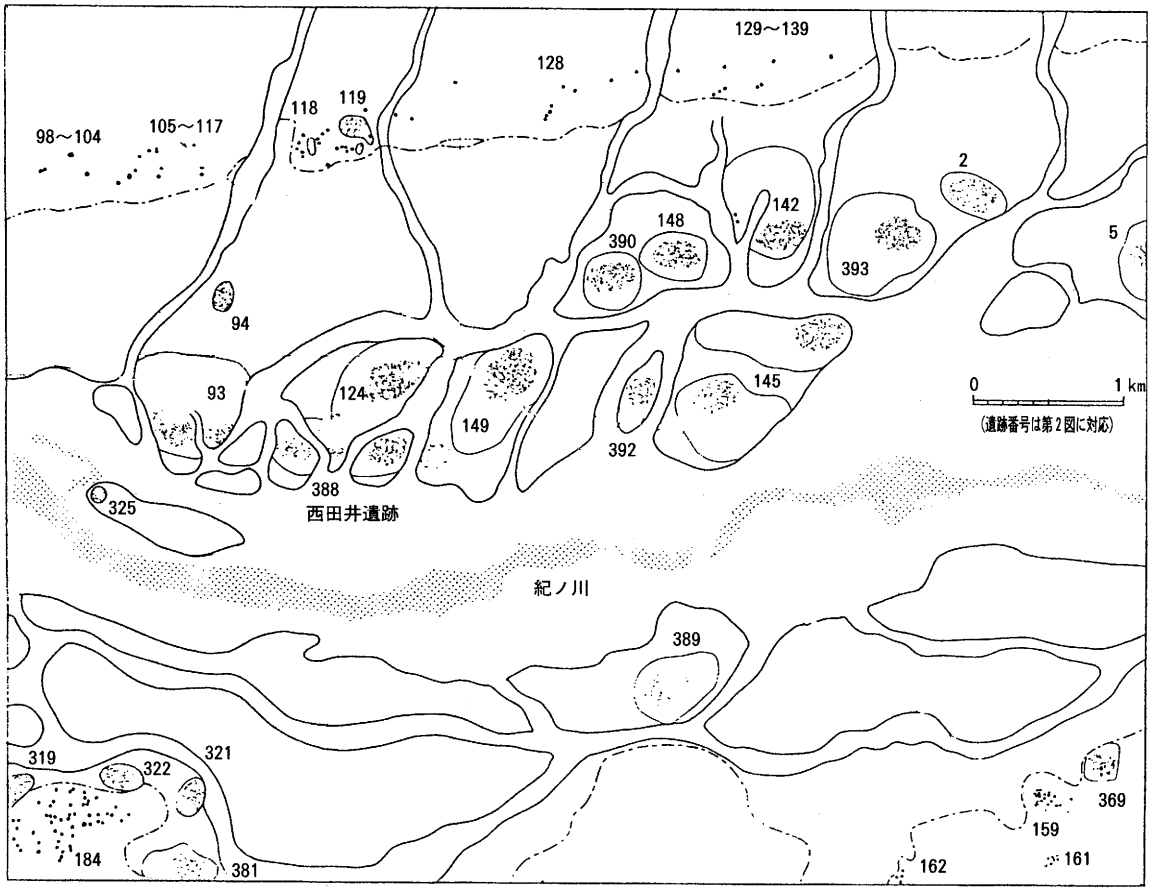
１　弥生・古墳時代の竪穴住居の構成と変遷

検出遺構の項で既述したように、遺構によっては時期判断の決定要素となる遺物の少ないものが存在し、また、重複関係の著しい部分もあって、その前後関係を正しく把握できない部分が多少存在している。これらの事実関係を把握すべく整理資料を駆使してその前後関係の整理を行なった。

まず、既往の調査と田屋遺跡・川辺遺跡などの調査成果を踏まえて西田井遺跡周辺の弥生・古墳時代の集落立地を見ると、平野部において紀ノ川の分流と和泉山脈の谷間から流れ出る支流によって、幾つもの島状の地形が形成されている。今回調査した西田井遺跡の範囲では、第ⅡＢ区で検出した旧自然河道を挟んで東西に二つの集落が存在することが判明している。

この二つの集落の消長には、若干の遅速が認められ、西微高地の集落が東微高地の集落より先行して形成され、終焉においても古墳時代中期まで続くことが判明してきた。この在り方は、西田井遺跡の西側に存在する田屋遺跡の状況に類似するところである。西微高地の集落の終焉は、第ⅡＢ区で検出した旧自然河道の埋没と期を一にしている状況にあり、集落の廃絶の原因を探る上において興味深い点である。

また、二つの集落に共通して、Ⅱ期（弥生時代後期中葉）～Ⅳ期（弥生時代後期末）にかけて集落の西側に溝の掘削が顕著に認められる。その結果が、以下に示す図表となっている。



第281図　弥生・古墳時代の集落立地

時期	I	II	III	IV	Va	Vb	VIa	VIb	VIIa	VIIb	VIII
	弥生後期				庄内		布留		5C		6C
段階	3	4	5	6	古	新	古	中	新	前	後	前	後
SI161	○	◌											
SI162	○	◌											
SI163	○	◌											
SI164		○	◌										
SI165a		○											
SI165b			○	◌	◌								
SI166			○	◌									
SI167				○	◌								
SI168	◌	◌	◌										
SI169		◌	○										
SI175		◌	◌	◌	◌								
SI186		◌	◌	◎									
SI170				○	◌								
SI171				○	◌	◌							
SI172				○			◌	◌					
SI173				○	○	◌							
SI174					○	◌	◌						
SI176						?							
SI177						○							
SI178						⑦	◌						
SI179		◌	◌	◌	◌	⑦				◌	◌	◌	
SI180						○	◌	○				◌	◌
SI181						◌	○	◌					
SI182							◎	◌					
SI183			◌	◌				⑦					
SI184							◌			○			
SI185				◌			◌			○			
SI187								◌	◌		○		
SI188											○		
SI189							◌				○		
SI190											○		
SI191												○	◌
SI192			◌	◌								○	
SI136											○	◌	
SB196													
SB197													
SB198													
SB199													
SB200													

時期	II	III	IV	Va	Vb	VIa
	弥生後期			庄内		布留
段階	4	5	6	古	新	古
SI601	◎	◌				
SI602a	○					
SI602b		◌	○	○		○
SI603		○	○			
SI604		⑦				
SI605		○	○	⑦		
SI606		○	○			
SI607		⑦	○	○		
SI608		⑦				
SI609		⑦				
SI610		⑦				
SI611			⑦			
SI612			⑦			
SI613			⑦			
SI614	○	◌				
SI615	○	◌	○			
SI616	○	○	⑦			
SI617		○	◎	○		
SI618		○	○			
SI619		◌	◎			
SI620		○	◎	○		
SI621			○	○		
SI622				⑦		
SI623				◎	○	○
SI624				○	○	○

○ 機能時期　◌ 埋土の遺物
——〃 不明確　…… 埋没時期

表25　弥生・古墳時代竪穴住居・掘立柱建物時期一覧

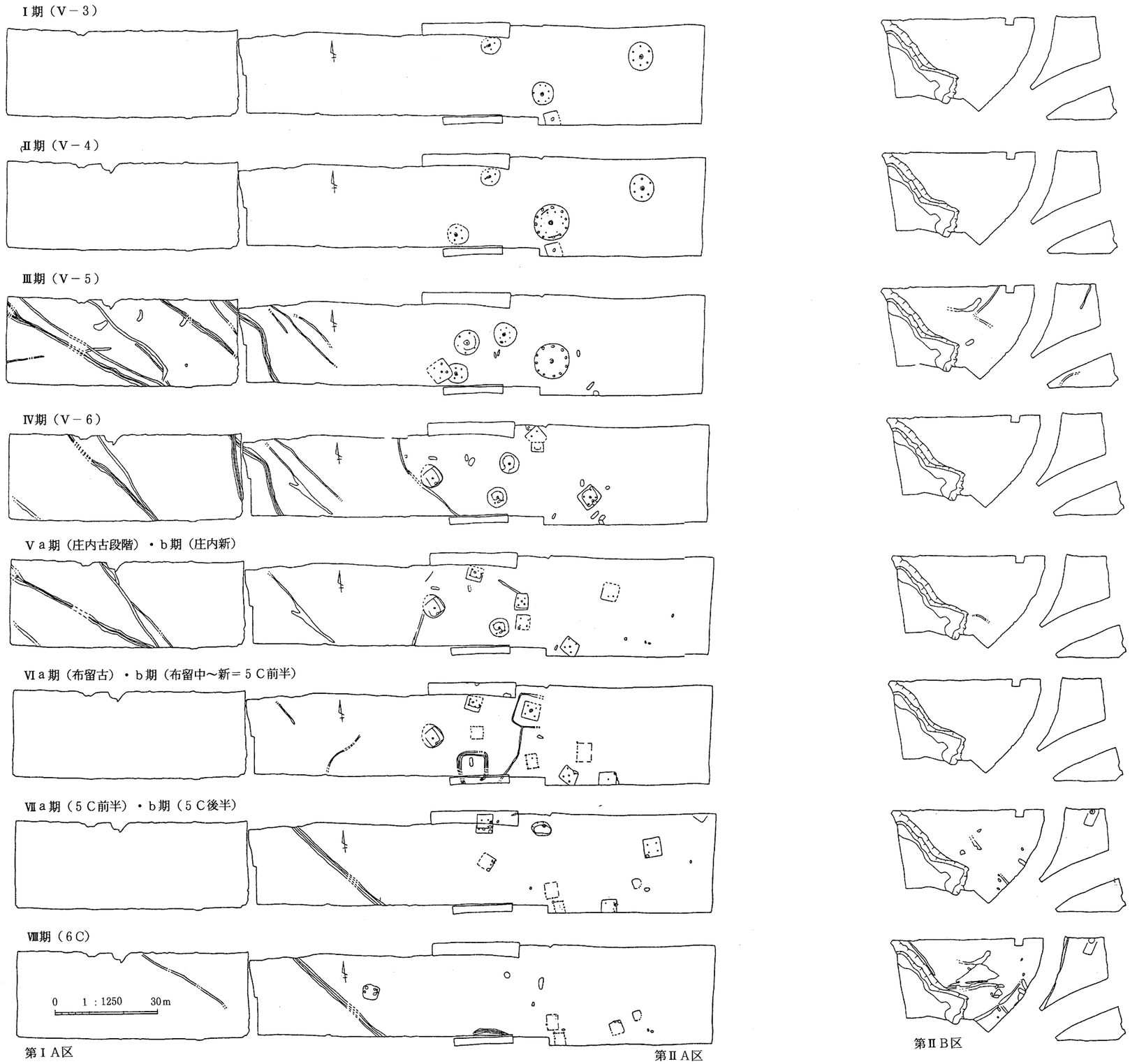
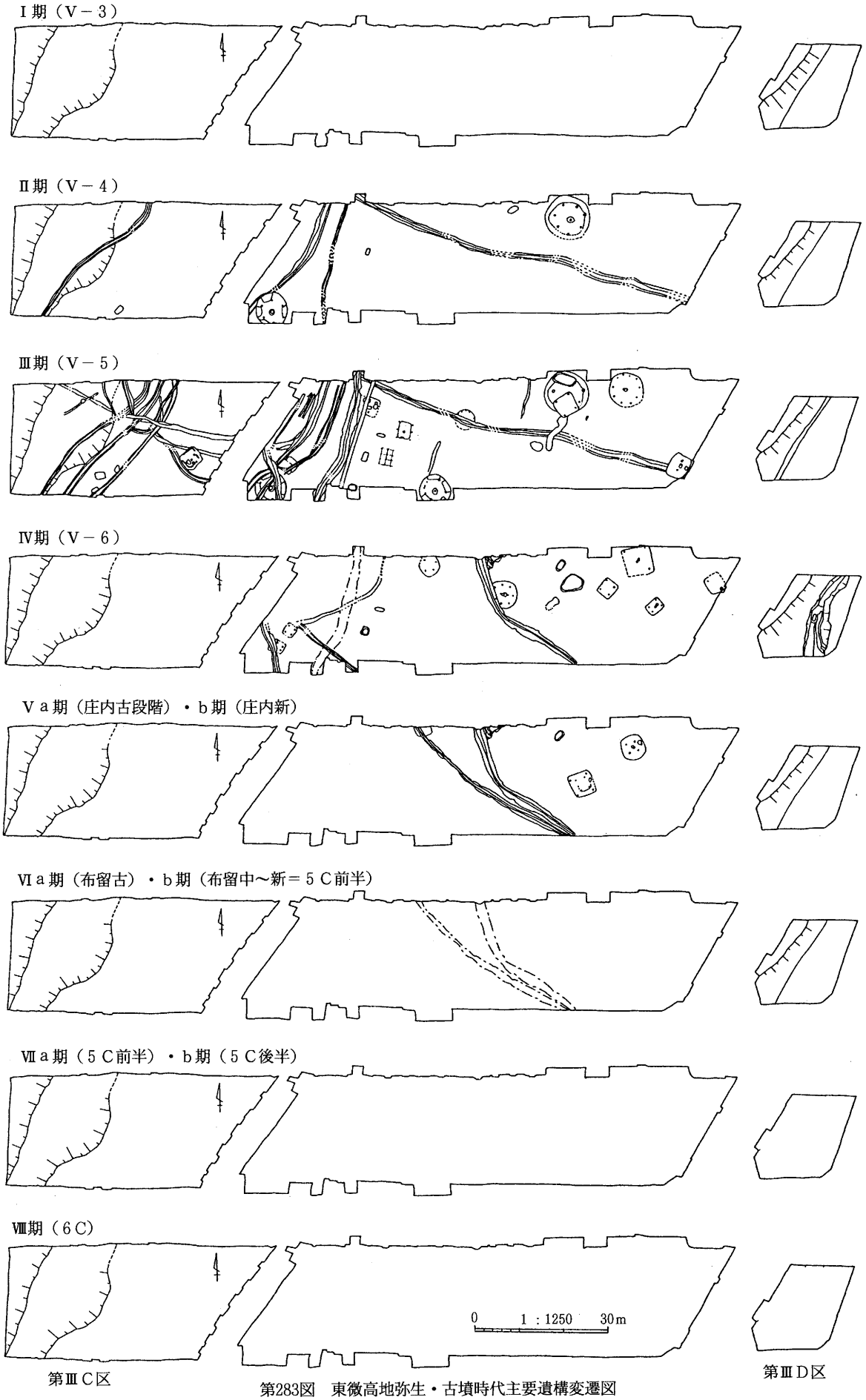


表282図　西微高地弥生・古墳時代主要遺構変遷図



第283図　東微高地弥生・古墳時代主要遺構変遷図

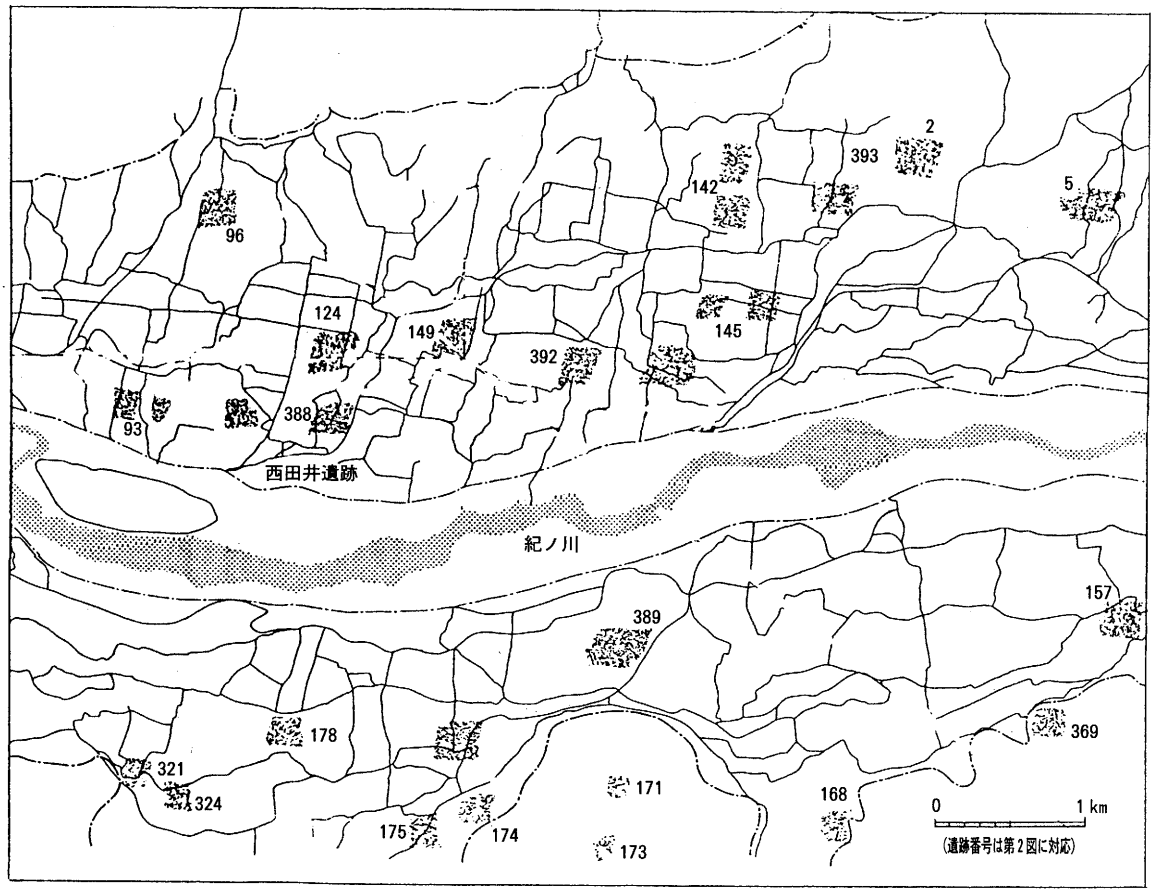
2　平安時代～室町時代の建物配置と変遷

まず、既往の調査成果と現状の水利形態から読み取れる西田井遺跡周辺の平安時代～室町時代の集落立地を見ると、河北条里と呼ばれる水田区画の中の一定範囲に集落の立地を見ることができる。時代毎の詳細な検討を経ていない状況ではあるが、鎌倉時代や室町時代前半において集村形態の集落が平野の中に点在して形成されていたと考えられる。今回調査した西田井遺跡の範囲では、第ⅡＢ区から第ⅢＣ１区の低地部を挟んで東西に二つの集落が存在することが判明している。即ち、二つの集落の間の低地部が当該期の水田の展開する範囲と見ることができるのである。

ただ、平安時代から室町時代の様相において、西微高地と東微高地の集落の消長においてかなり異なった状況にある。西微高地では、Ⅰ期（平安時代中期～後期前半）～VI期（室町時代前半）まで連綿として集落の存続が認められるのに対し、東微高地ではⅡ期（平安時代後期中葉）・VI期（室町時代前半）の断絶が認められる。VI期からVII期への両集落の盛衰は、短絡ではあるが、あたかも西微高地から東微高地へ連続した集落の形成を読み取ることが可能になる。

二つの集落をとおして、東微高地の区画溝・通路・池状遺構に囲まれた複数の屋敷地によって構成される集落の存在から、集落形態が大きく変わる段階を、上記のVI期からVII期への移り変わりの中で捉えることが可能かと思われる。

また、両集落において中世から近世に移り変わる中で、土地利用の在り方が西微高地では水田経営に転換し、東微高地では墓域に転換する。このように西田井遺跡の発掘調査の行なわれた範囲において、土地利用の在り方が大きく変化した様相が読み取れる。



第284図　平安～室町時代の集落立地

表26　平安時代後期～室町時代掘立柱建物・柵列時期一覧

時期	I	II	IIIa	IIIb	IV	V	VIa	VIb
建物番号	10C	11C		12C		13C		14C
SB 41								
SB 42								
SB 43								
SB 44								
SB 45								
SB 46								
SB 47								
SB 48								
SB 49								
SB 50								
SB 51								
SB 52								
SB 53								
SB 54								
SB 55								
SB 56								
SB 57								
SB 58								
SB 59								
SB 60								
SB 62								
SA 61								
SB152								
	10C	11C		12C		13C		14C

時期	I	II	IIIa	IIIb	IV	V
建物番号	10C	11C		12C		13C
SB281						
SB282						
SB283						
SB284						
SB285						
SB286						
SB287						
SB288						
SB289						
SB290						
SB291						
SB292						
SB293						
SB294						
SB295						
SB296						
SB297						
SB298						
SB299						
SB300						
SB308						
SA301						
SA302						
SA303						
SA304						
SA305						
SA306						
SA307						
	10C	11C		12C		13C

時期	I	II	IIIa	IIIb	IV	V	VIa	VIb	VIIa	VIIb
建物番号	10C	11C		12C		13C	14C	15C		16C
SB756				下面検出						
SB757				10C～11Cの可能性		形態は奈良				
SB758										
SB759										
SB760										
SB761										
SB762										
SB763										
SB764										
SB765										
SB766										
SB767										
SB768										
SB769										
SB770										
SB771										
SB772										
SB773										
SB774										
SA776										
SA777										
SA778										
	10C	11C		12C		13C	14C	15C		16C

機能時期　不明確　埋没時期

Ⅰ期（10ｃ後半～11ｃ前半）

Ⅱ期（11ｃ中）

Ⅲａ期（11ｃ後半）・ｂ期（11ｃ末～12ｃ後半）

Ⅳ期（12ｃ末～13ｃ前半）

Ⅴ期（13ｃ中～後半）

Ⅵａ期（14ｃ前半）・ｂ期（14ｃ後半～15ｃ前半）

0　1：1250　30m

Ⅶａ期（15ｃ後半）・ｂ期（15ｃ末～16ｃ前半）

Ⅷ期（16ｃ後半～19ｃ）

第Ⅲ C区　　第Ⅲ D区

第285図　東微高地平安～江戸時代主要遺構変遷図



第286図　西微高地平安～江戸時代主要遺構変遷図

第2節　出土遺物

1　弥生土器・古式土師器の器種構成と流れ

器種	器形＼遺構・層位	SI 162 床直・埋土（下層・中層・上層）		SI 163 床直・炉・壁溝・中央炉東・床近く		SI 163 埋土（下層・中層・上層）		SI 164 柱穴・壁溝・炉・床直		SI 164 埋土（下層・中層・上層）		SI 165 柱穴・壁溝・炉・床直		SI 165 埋土（下層・中層・上層・最上層）		SI 166 床直・炉・壁溝・柱穴・埋土（下層・中層・上層）		SI 167 炉・柱穴・壁溝・床直・埋土（下層・中層・上層）	
壺	広口壺A	3 (33.3%)		1 (20.0%)		5 (22.7%)		1 (50.0%)		22 (44.9%)		3 (16.7%)		35 (34.3%)		6 (13.0%)		8 (24.2%)	
	広口壺B	2 (22.2%)		1 (20.0%)		3 (13.6%)				10 (20.4%)		4 (22.2%)		55 (53.9%)		25 (54.3%)		20 (60.6%)	
	広口壺C																		
	二重口縁壺	1 (11.1%)		1 (20.0%)						3 (6.1%)		1 (5.6%)		7 (6.9%)		2 (4.3%)		1 (3.0%)	
	長頸壺	2 (22.2%)				3 (13.6%)				2 (4.1%)						4 (8.7%)			
	広口長頸壺		9 (15.5%)		5 (16.7%)		22 (11.6%)		2 (8.0%)	2 (4.1%)	49 (12.8%)		18 (20.7%)		102 (27.6%)		46 (24.3%)		33 (19.3%)
	細頸壺					1 (4.5%)						8 (44.4%)				4 (8.7%)		3 (9.1%)	
	短頸壺	1 (11.1%)		1 (20.0%)		6 (27.3%)				7 (14.3%)		2 (11.1%)		3 (2.9%)		4 (8.7%)		1 (3.0%)	
	太頸壺			1 (20.0%)						1 (2.0%)									
	無頸壺									2 (4.1%)									
	脚台付壺					4 (18.2%)		1 (50.0%)						2 (2.0%)		1 (2.2%)			
甕	甕A	1 (5.3%)		5 (62.5%)		20 (26.7%)				19 (11.8%)		14 (48.3%)		65 (54.2%)		31 (33.3%)		28 (33.7%)	
	甕B	10 (52.6%)		1 (12.5%)		26 (34.7%)		4 (57.1%)		75 (46.6%)		11 (37.9%)		42 (35.0%)		58 (62.4%)		45 (54.2%)	
	甕C									7 (4.3%)		1 (3.4%)		6 (5.0%)				4 (4.8%)	
	甕D	7 (36.8%)	19 (32.8%)	2 (25.0%)	8 (26.7%)	27 (36.0%)	75 (39.7%)	3 (42.9%)	7 (28.0%)	60 (37.3%)	161 (42.2%)	3 (10.3%)	29 (33.3%)	4 (3.3%)	120 (32.5%)	1 (1.1%)	93 (49.2%)	5 (6.0%)	83 (48.5%)
	甕E	1 (5.3%)												3 (2.5%)		2 (2.2%)			
	甕F															1 (1.1%)		1 (1.2%)	
	甕G					2 (2.7%)													
高坏	高坏A	15 (65.2%)		9 (69.2%)		41 (69.5%)		11 (78.6%)		93 (71.5%)		16 (64.0%)		66 (70.2%)		33 (82.5%)		24 (88.9%)	
	高坏B	8 (34.8%)		4 (30.8%)		18 (30.5%)		3 (21.4%)		37 (28.5%)		7 (28.0%)		27 (28.7%)		7 (17.5%)		3 (11.1%)	
	高坏C		23 (39.6%)		13 (43.3%)		59 (31.2%)		14 (56.0%)		130 (34.0%)	2 (8.0%)	25 (28.7%)	1 (1.1%)	94 (25.5%)		40 (21.2%)		27 (15.8%)
	高坏D																		
	高坏E																		
	高坏F																		
鉢	鉢A	1 (33.3%)		3 (100.0%)		14 (60.9%)		1 (100.0%)		12 (37.5%)		8 (53.3%)		16 (41.0%)		3 (42.9%)		7 (29.2%)	
	鉢B	2 (66.7%)				6 (26.1%)				17 (53.1%)		4 (26.7%)		23 (59.0%)		4 (57.1%)		16 (66.7%)	
	鉢C		3 (5.2%)		3 (10.0%)	2 (8.7%)	23 (12.2%)		1 (4.0%)	3 (9.4%)	32 (8.4%)	3 (20.0%)	15 (17.3%)		39 (10.6%)		7 (3.7%)		24 (14.0%)
	鉢D					1 (4.3%)												1 (4.2%)	
器台	器台A			※	※	1 (11.1%)				1 (16.7%)				4 (36.4%)				1 (33.3%)	
	器台B	4 (100.0%)	4 (6.9%)			8 (88.9%)	9 (4.8%)	1 (100.0%)	1 (4.0%)	5 (83.3%)	6 (1.6%)			7 (63.6%)	11 (3.0%)	2 (100.0%)	2 (1.1%)	2 (66.7%)	3 (1.8%)
	器台C																		
手焙形土器																			
蓋	蓋A									2 (100.0%)	2 (0.5%)								
	蓋B																		
甑				1 (100.0%)	1 (3.3%)	1 (100.0%)	1 (0.5%)			2 (100.0%)	2 (0.5%)			3 (100.0%)	3 (0.8%)	1 (100.0%)	1 (0.5%)	1 (100.0%)	1 (0.6%)
合計			58 (100.0%)		30 (100.0%)		189 (100.0%)		25 (100.0%)		382 (100.0%)		87 (100.0%)		369 (100.0%)		189 (100.0%)		171 (100.0%)
地区		第ⅡA3区		第ⅡA4区		第ⅡA4区		第ⅡA3区		第ⅡA3区		第ⅡA3区		第ⅡA3区		第ⅡA2・3区		第ⅡA2・3区	

※印は存在するが口縁部以外の破片

表27　弥生土器・古式土師器の器種構成比率1

器種	器形＼遺構・層位	SI 175 埋土・一段落ち		SI 174 炉・床直・ベッド上・埋土（下層）		SI 171 柱穴・貯蔵穴・ベット下・埋土（下層・中層・上層）		SI 173 柱穴・床直・炉・ベット下・埋土		SI 174 埋土（上層）		SI 601 床直・柱穴		SI 601 埋土		SI 602 柱穴・炉・ベッド下		SI 602 埋土（下層・中層・上層）	
壷	広口壷A	3 (25.0%)		1 (2.0%)		7 (13.2%)		2 (9.5%)		1 (1.9%)		2 (16.7%)		3 (23.1%)				19 (20.0%)	
	広口壷B	6 (50.0%)		30 (58.8%)		27 (50.9%)		14 (66.7%)		25 (46.3%)		4 (33.3%)		5 (38.5%)		13 (92.9%)		60 (63.2%)	
	広口壷C									3 (5.6%)									
	二重口縁壷			16 (31.4%)		9 (17.0%)		3 (14.3%)		12 (22.2%)		1 (8.3%)		1 (7.7%)		1 (7.1%)		8 (8.4%)	
	長頸壷											1 (8.3%)		1 (7.7%)				1 (1.1%)	
	広口長頸壷		12 (13.2%)		51 (21.6%)		53 (27.5%)		21 (21.2%)		54 (19.5%)	1 (8.3%)	12 (40.0%)		13 (38.2%)		14 (36.8%)		95 (36.1%)
	細頸壷	1 (8.3%)		3 (5.9%)		2 (3.8%)		2 (9.5%)		3 (5.6%)		2 (16.7%)						6 (6.3%)	
	短頸壷	1 (8.3%)		1 (2.0%)		7 (13.2%)				6 (11.1%)				3 (23.1%)				1 (1.1%)	
	太頸壷									2 (3.7%)									
	無頸壷	1 (8.3%)																	
	脚台付壷					1 (1.9%)				2 (3.7%)		1 (8.3%)							
甕	甕A	10 (21.7%)		25 (23.4%)		51 (48.1%)		8 (17.8%)		20 (12.1%)		4 (44.4%)		3 (30.0%)		2 (25.0%)		35 (43.8%)	
	甕B	34 (73.9%)		74 (69.2%)		51 (48.1%)		34 (75.6%)		102 (61.8%)		5 (55.6%)		7 (70.0%)		6 (75.0%)		42 (52.5%)	
	甕C					4 (3.8%)		1 (2.2%)											
	甕D	2 (4.3%)	46 (50.5%)	1 (0.9%)	107 (45.4%)		106 (54.9%)	2 (4.4%)	45 (45.5%)	1 (0.6%)	165 (59.6%)		9 (30.0%)		10 (29.4%)		8 (21.1%)	1 (1.3%)	80 (30.4%)
	甕E																		
	甕F			5 (4.7%)						5 (3.0%)									
	甕G			2 (1.9%)						37 (22.4%)								2 (2.5%)	
高坏	高坏A	20 (83.3%)		43 (86.0%)		14 (60.9%)		9 (64.3%)		22 (48.9%)		4 (57.1%)		8 (100.0%)		7 (46.7%)		53 (84.1%)	
	高坏B	4 (16.7%)		7 (14.0%)		5 (21.7%)		4 (28.6%)		6 (13.3%)		3 (42.9%)				8 (53.3%)		10 (15.9%)	
	高坏C		24 (26.4%)		50 (21.2%)		23 (11.9%)		14 (14.1%)	3 (6.7%)	45 (16.2%)		7 (23.3%)		8 (23.5%)		15 (39.5%)		63 (23.9%)
	高坏D					4 (17.4%)		1 (7.1%)		11 (24.4%)									
	高坏E																		
	高坏F									3 (6.7%)									
鉢	鉢A	4 (57.1%)		14 (53.8%)		3 (27.3%)		5 (35.7%)		2 (18.2%)		1 (50.0%)		1 (50.0%)				3 (20.0%)	
	鉢B	2 (28.6%)	7 (7.7%)	12 (46.2%)	26 (11.0%)	8 (72.7%)	11 (5.7%)	9 (64.3%)	14 (14.1%)	6 (54.5%)	11 (4.0%)	1 (50.0%)	2 (6.7%)	1 (50.0%)	2 (5.9%)	1 (100.0%)	1 (2.6%)	11 (73.3%)	15 (5.7%)
	鉢C	1 (14.3%)																1 (6.7%)	
	鉢D									3 (27.3%)									
器台	器台A	┐※		┐※														7 (100.0%)	
	器台B	┘	※	┘	※			3 (100.0%)	3 (3.0%)	1 (100.0%)	1 (0.4%)			1 (100.0%)	1 (3.0%)				7 (2.7%)
	器台C																		
手焙形土器				1 (100.0%)	1 (0.4%)			1 (100.0%)	1 (1.0%)									2 (100.0%)	2 (0.8%)
蓋	蓋A																	0	
	蓋B																	(100.0%)	
甑		2 (100.0%)	2 (2.2%)	1 (100.0%)	1 (0.4%)			1 (100.0%)	1 (1.0%)	1 (100.0%)	1 (0.4%)						1	1 (100.0%)	1 (0.4%)
合計			91 (100.0%)		236 (100.0%)		193 (100.0%)		99 (99.9%)		277 (100.0%)		30 (100.0%)		34 (100.0%)		38 (100.0%)		263 (100.0%)
地区		第ⅡA3区		第ⅡA2区		第ⅡA3区		第ⅡA3区		第ⅡA2区		第ⅢC3区		第ⅢC3区		第ⅢC4区		第ⅢC4区	

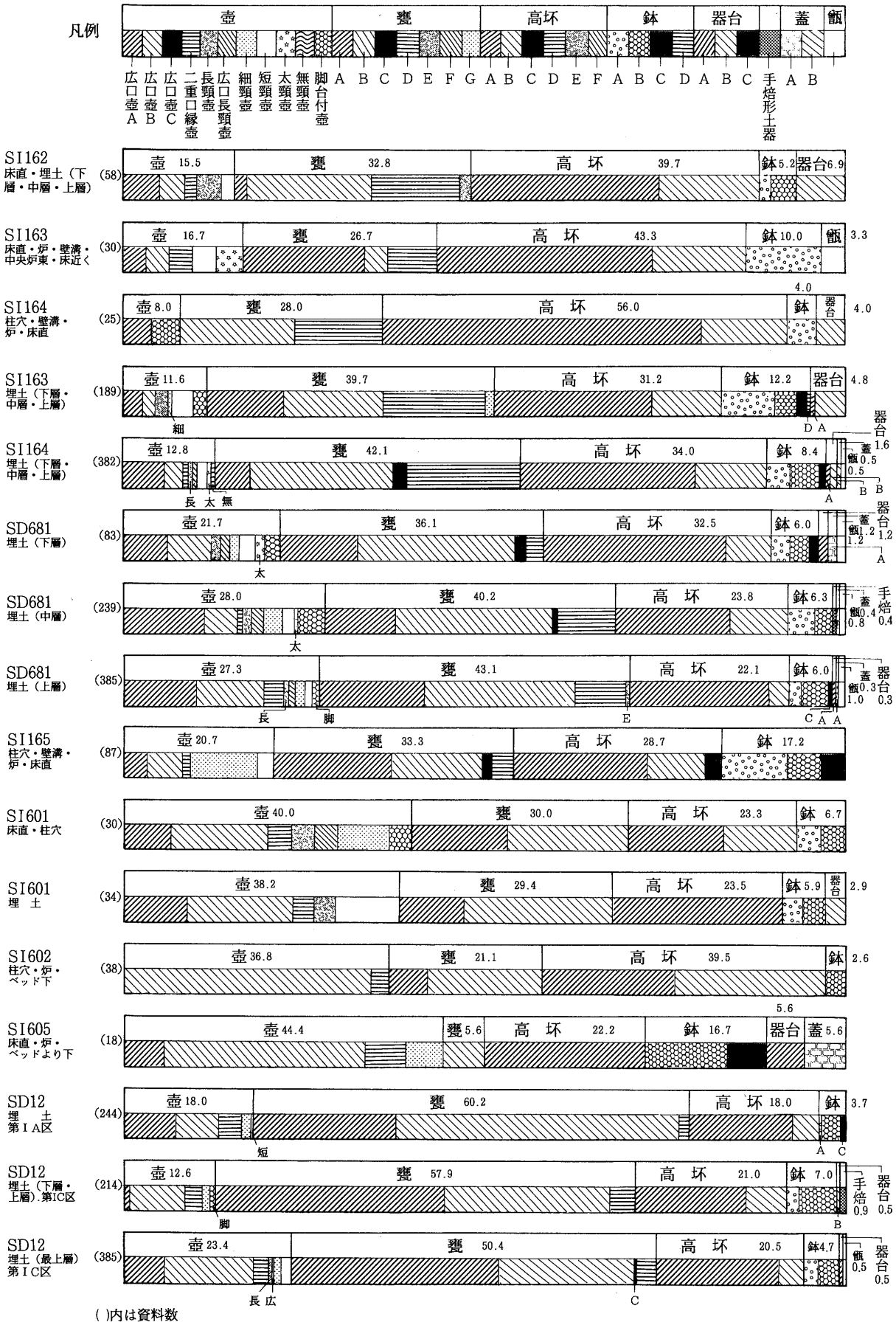
※印は存在するが口縁部以外の破片

表28　弥生土器・古式土師器の器種構成比率2

器種	器形＼遺構・層位	SI 605 床直・炉・ベッドより下		SI 605 埋土（上層）		SI 615 焼炭層・埋土（下層）		SI 615 埋土（中層・上層）		SI 617 柱穴・炉・床直・埋土（下層・中層・上層）		SI 623 柱穴・床直・貯蔵穴・壁溝・埋土（下層・中層・上層）		SI 624 柱穴・貯蔵穴・炉・床直・埋土（下層・中層・上層）		SD 720 埋土（下層・中層・上層）		SD 721 埋土（下層・中層・上層）	
壷	広口壷A	1 (12.5%)		1 (4.2%)		1 (14.3%)		1 (4.8%)		7 (14.6%)		7 (25.0%)		9 (15.3%)		23 (18.5%)		21 (18.4%)	
	広口壷B	5 (62.5%)		17 (70.8%)		3 (42.9%)		14 (66.7%)		36 (75.0%)		11 (39.3%)		27 (45.8%)		69 (55.6%)		59 (51.8%)	
	広口壷C																		
	二重口縁壷	1 (12.5%)		3 (12.5%)				2 (9.5%)		4 (8.3%)		6 (21.4%)		13 (22.0%)		17 (13.7%)		26 (22.8%)	
	長頸壷																		
	広口長頸壷		8 (44.4%)		24 (35.3%)		7 (38.9%)		21 (38.9%)		48 (27.7%)		28 (22.8%)		59 (23.5%)		124 (30.7%)		114 (35.0%)
	細頸壷	1 (12.5%)		2 (8.3%)				1 (4.8%)				1 (3.6%)		1 (1.7%)					
	短頸壷					3 (42.9%)		3 (14.3%)		1 (2.1%)		2 (7.1%)		7 (11.9%)		10 (8.1%)		6 (5.3%)	
	太頸壷																		
	無頸壷																		
	脚台付壷			1 (4.2%)								1 (3.6%)		2 (3.4%)		5 (4.0%)		2 (1.8%)	
甕	甕A			2 (10.0%)		1 (25.0%)		6 (37.5%)		28 (40.0%)		8 (13.3%)		21 (13.5%)		33 (14.5%)		27 (18.5%)	
	甕B	1 (100.0%)		18 (90.0%)		3 (75.0%)		9 (56.3%)		39 (55.7%)		48 (88.0%)		112 (71.8%)		180 (78.9%)		114 (78.1%)	
	甕C													1 (0.6%)		2 (0.9%)		1 (0.7%)	
	甕D		1 (5.6%)		20 (29.4%)		4 (22.2%)	1 (6.3%)	16 (29.6%)	2 (2.9%)	70 (40.5%)		60 (48.8%)	5 (3.2%)	156 (62.1%)	2 (0.9%)	228 (56.4%)	1 (0.7%)	146 (44.8%)
	甕E																		
	甕F									1 (1.4%)		3 (5.0%)		7 (4.5%)		3 (1.3%)		1 (0.7%)	
	甕G											1 (1.7%)		10 (6.4%)		8 (3.5%)		2 (1.4%)	
高坏	高坏A	4 (100.0%)		13 (86.7%)		3 (75.0%)		8 (66.7%)		20 (57.1%)		19 (82.6%)		19 (82.6%)		25 (73.5%)		42 (89.4%)	
	高坏B			2 (13.3%)		1 (25.0%)		4 (33.3%)		15 (42.9%)		2 (8.7%)		3 (13.0%)		1 (2.9%)		5 (10.6%)	
	高坏C		4 (22.2%)	15	15 (22.1%)		4 (22.2%)		12 (22.2%)		35 (20.2%)		23 (18.7%)		23 (9.2%)		34 (8.4%)		47 (14.4%)
	高坏D											2 (8.7%)		1 (4.3%)		7 (20.6%)			
	高坏E															1 (2.9%)			
	高坏F																		
鉢	鉢A			1 (25.0%)		1 (33.3%)		1 (20.0%)		2 (11.1%)		4 (44.4%)		4 (36.4%)		2 (16.7%)		3 (23.1%)	
	鉢B	2 (66.7%)	3 (16.7%)	3 (75.0%)	4 (5.9%)	2 (66.7%)	3 (16.7%)	4 (80.0%)	5 (9.3%)	14 (77.8%)	18 (10.4%)	5 (55.6%)	9 (7.3%)	7 (63.6%)	11 (4.4%)	10 (83.3%)	12 (3.0%)	9 (69.2%)	13 (4.0%)
	鉢C	1 (33.3%)								2 (11.1%)								1 (7.7%)	
	鉢D																		
器台	器台A	1 (100.0%)		1 (25.0%)										1 (50.0%)				2 (50.0%)	
	器台B		1 (5.6%)	3 (75.0%)	4 (5.9%)					2 (100.0%)	2 (1.2%)	3 (100.0%)	3 (2.4%)	1 (50.0%)	2 (0.8%)	2 (100.0%)	2 (0.5%)	2 (50.0%)	4 (1.2%)
	器台C																		
手焙形土器				1 (100.0%)	1 (1.5%)											1 (100.0%)	1 (0.2%)	1 (100.0%)	1 (0.3%)
蓋	蓋A	1 (100.0%)	1 (5.6%)																
	蓋B																		
甑																3 (100.0%)	3 (0.7%)	1 (100.0%)	1 (0.3%)
合計			18 (100.0%)		68 (100.0%)		18 (100.0%)		54 (100.0%)		173 (100.0%)		123 (100.0%)		251 (100.0%)		404 (99.9%)		326 (100.0%)
地区		第Ⅲ C 4区		第Ⅲ C 4区		第Ⅲ C 5区		第Ⅲ C 5区		第Ⅲ C 4区		第Ⅲ C 4・5区		第Ⅲ C 5区		第Ⅲ C 3・4区		第Ⅲ C 4区	

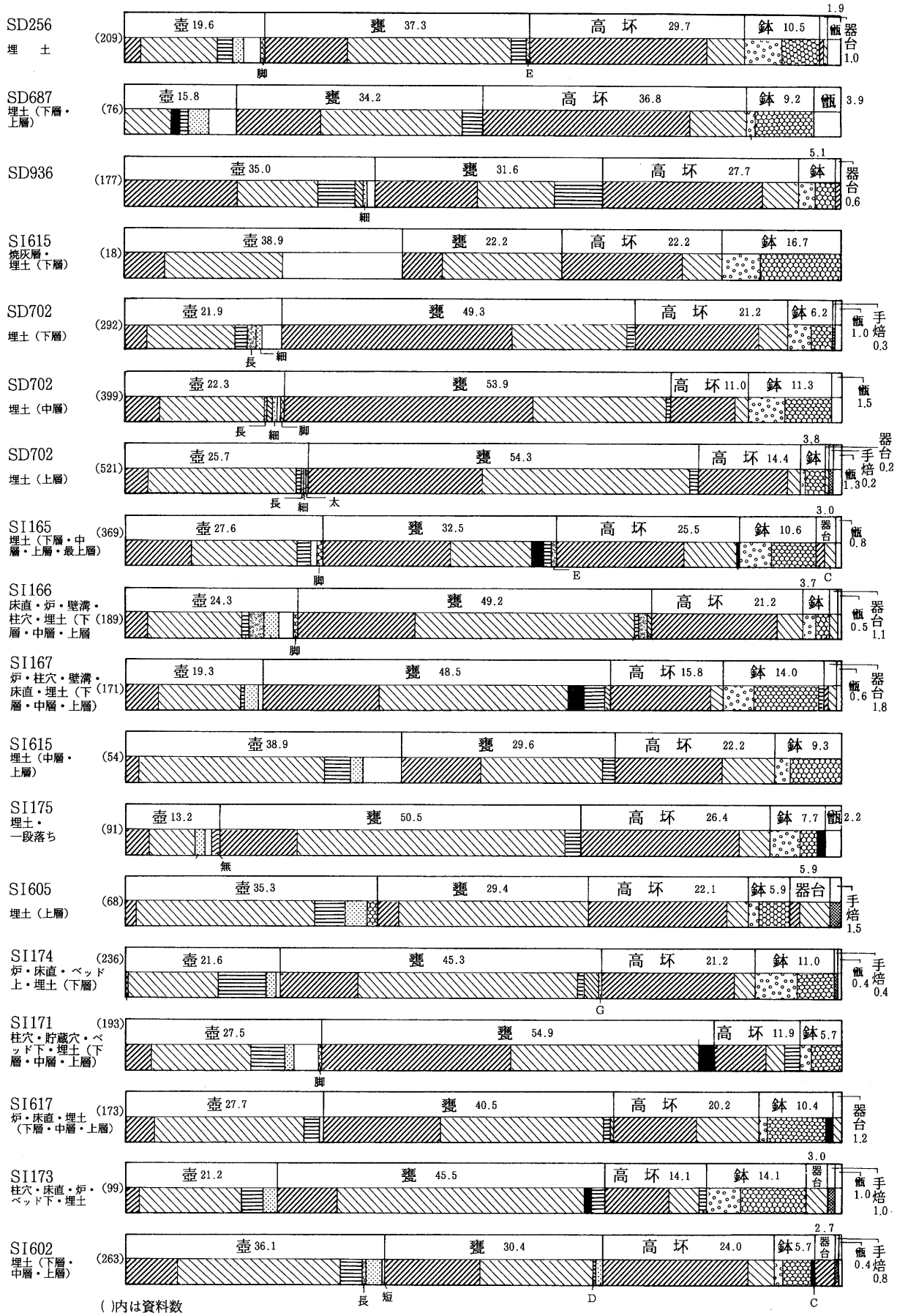
※印は存在するが口縁部以外の破片

表29　弥生土器・古式土師器の器種構成比率3

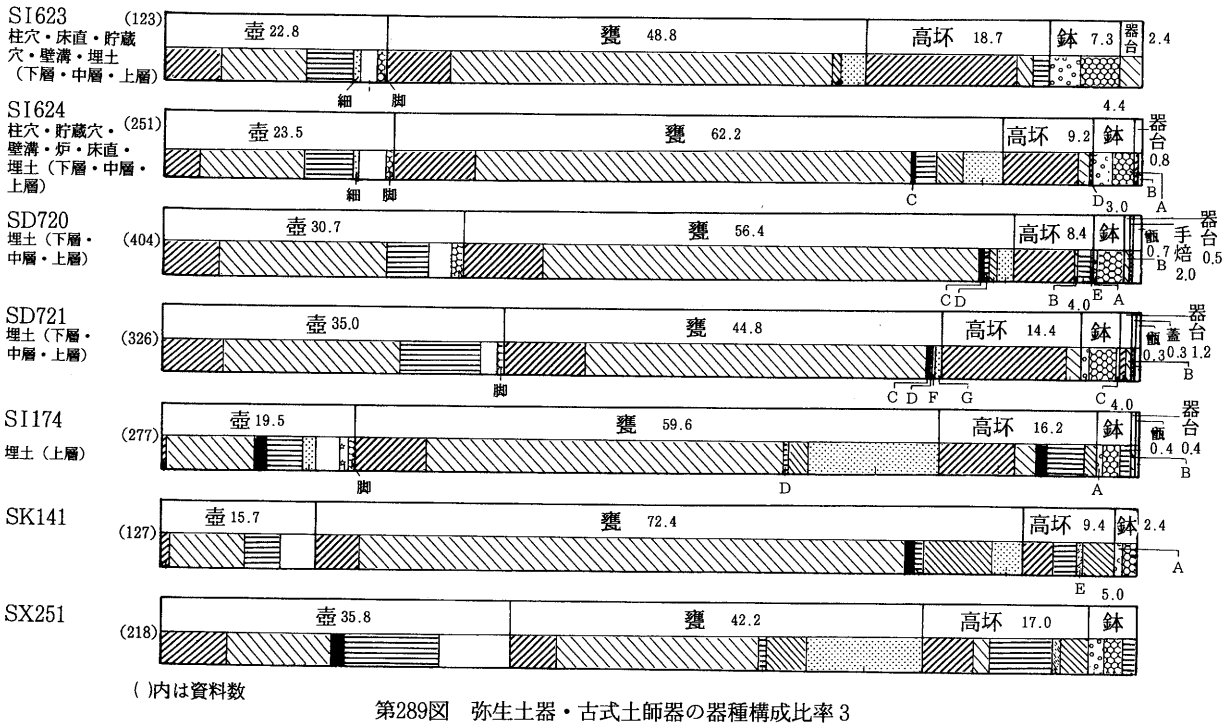


( )内は資料数

第287図　弥生土器・古式土師器の器種構成比率１



第288図　弥生土器・古式土師器の器種構成比率2



第289図　弥生土器・古式土師器の器種構成比率３

西田井遺跡では、弥生土器の主要器種となる壺・甕・高坏・鉢、加えて器台・手焙形土器・蓋・甑などがある。これらの弥生土器は、各遺構によって偏在的な在り方を示す部分や取扱い資料の多寡を考慮しなければならないが、相対的な流れの中で主要器種としての壺・甕・高坏・鉢の組合せの増減を捉えることが可能となっている。

西田井遺跡で最も古い段階の一群と見られる竪穴住居ＳＩ162資料を基準として、竪穴住居ＳＩ605の段階にかけて壺の増加が認められる。甕は、壺の増加と共に僅かではあるが、甕Ａ・Ｂ類の増加が認められ、それとは逆に甕Ｄ類の減少が目立った状況にある。これらの流れの中にあって、暫時、高坏が減少傾向にある。鉢が主要器種に付随して全体の10%前後を占めるのは、溝ＳＤ256から竪穴住居ＳＩ173の段階に認められ、竪穴住居ＳＩ602の段階以降は減少傾向に転じ５%前後を占める状況にある。これらの段階以降においても、器種間の増減、器種内での増減が繰り返されている。西田井遺跡の器種組成で見る限り、高坏が高比率を占める段階は竪穴住居ＳＩ162資料から溝ＳＤ681下層の資料に到る段階である。

また、土器の器種内での消長・形態的特徴においても、二重口縁壺の大形品・手焙形土器などの出現、甕Ｆ・Ｇ類、高坏Ｄ・Ｅ・Ｆ類の出現、長頸壺の消失が各々の段階の目安となってくるものと思われる。

弥生土器の終焉から古墳時代の古式土師器に移り変わる節目においては、生駒西麓産の甕や阿波式の形態をもつ壺などの搬入によって、各地との併行関係を探る手掛かりを得ることができている。加えて、布留式併行期の結晶片岩を多量に含む地元産胎土の丸底甕は、地元における当該期の土器生産の在り方を考える上において重要な問題を提起している。

2　平安時代～室町時代の器種構成と流れ

種類	器種形 ＼ 遺構 層位		SD 424 下層			SD 424 中層			SD 424 上層			SD 425 埋土			SD 425 下層			SD 425 上層		
瓦器	椀	A										0.29 (0.3%)			0.17 (1.6%)			0.79 (6.9%)		
		B	※	※	※	※	0.54 (7.9%)	0.54 (7.9%)	※	0.08 (1.0%)	0.08 (1.0%)	3.29 (2.9%)	12.62 (11.2%)	13.45 (11.9%)	0.13 (1.2%)	1.01 (9.3%)	1.05 (9.7%)	0.08 (0.7%)	2.62 (22.9%)	2.62 (22.9%)
		C							0.08 (1.0%)			5.96 (5.3%)			0.5 (4.6%)			1.58 (13.8%)		
		D				0.54 (7.9%)						3.08 (2.7%)			0.21 (1.9%)			0.17 (1.5%)		
	小皿											0.83 (0.7%)	0.83 (0.7%)		0.04 (0.4%)	0.04 (0.4%)				
土師器	皿	A_1	0.46 (6.0%)			0.50 (7.3%)			0.63 (7.6%)			10.08 (8.9%)			1.38 (12.7%)			0.63 (5.5%)		
		A_2										2.71 (2.4%)			0.13 (1.2%)			0.42 (3.7%)		
		B		1.77 (23.1%)			2.73 (39.7%)		0.21 (2.5%)	3.25 (39.0%)		9.21 (8.1%)	24.92 (22.0%)		0.92 (8.5%)	2.72 (25.1%)		1.12 (9.8%)	2.3 (20.1%)	
		C																		
		D	0.51 (6.7%)			0.69 (10.0%)			1.25 (15.0%)			2.92 (2.6%)			0.29 (2.7%)			0.13 (1.1%)		
		E	0.8 (10.4%)			1.54 (22.4%)			1.16 (13.9%)											
	小皿	A_1	0.29 (3.8%)		2.64 (34.5%)	0.13 (1.9%)		5.16 (75.1%)	0.42 (5.0%)		5.71 (68.5%)	10.00 (8.8%)		95.75 (84.7%)	0.46 (4.2%)		8.75 (80.7%)	0.21 (1.8%)		8.5 (74.2%)
		A_2				0.08 (1.2%)			0.21 (2.5%)			1.04 (0.9%)			0.08 (0.7%)					
		B				0.17 (2.5%)			0.54 (6.5%)			29.12 (25.8%)			2.91 (26.8%)			4.08 (35.6%)		
		C																		
		D_1		0.87 (11.4%)		0.83 (12.1%)	2.43 (35.4%)		0.66 (7.9%)	2.46 (29.5%)		7.58 (6.7%)	70.83 (62.7%)		0.96 (8.9%)	6.03 (55.6%)		0.5 (4.4%)	6.2 (54.1%)	
		D_2				0.13 (1.9%)			0.21 (2.5%)			15.13 (13.4%)			1.08 (10.0%)			1.29 (11.3%)		
		D_3				1.09 (15.9%)			0.29 (3.5%)			7.79 (6.9%)			0.46 (4.2%)			0.04 (0.3%)		
		E	0.58 (7.6%)						0.13 (1.6%)			0.17 (0.2%)			0.08 (0.7%)			0.08 (0.7%)		
		F																		
	坏			2.96 (38.7%)			0.41 (6.0%)			1.05 (12.6%)		1.0 (0.9%)	1.04 (0.9%)			0.13 (1.2%)			0.33 (2.9%)	
	黒色土器		1.21 (15.8%)			0.41 (6.0%)			0.67 (8.0%)			0.04 (※)			0.13 (1.2%)		0.33 (2.9%)		
	椀		1.75 (22.9%)						0.38 (4.6%)			※								
	甕		1.88 (24.6%)	1.88 (24.6%)		0.63 (9.2%)	0.63 (9.2%)		1.25 (14.9%)	1.33 (15.9%)		1.33 (1.2%)	1.62 (1.4%)		※	※		※	※	
	カマド		※			※			0.08 (1.0%)			※			※					
	土釜A											0.21 (0.2%)			※			※		
	土釜B																			
瓦器釜																				
須恵器（質）	椀			0.17 (2.2%)			0.13 (1.9%)			0.17 (2.0%)		0.92 (0.8%)	1.13 (1.0%)		0.83 (7.7%)	0.91 (8.4%)			※	
	捏鉢											0.21 (0.2%)			0.08 (0.7%)			※		
	甕		0.17 (2.2%)			0.13 (1.9%)			0.17 (2.0%)			※						※		
	壺		※			※			※			※								
陶器																				
磁器	白磁											0.04 (※)	0.04 (※)						※	
	青磁																	※		
合計			7.65 (100.0%)			6.87 (100.0%)			8.34 (100.0%)			113.03 (100.0%)			10.84 (100.0%)			11.45 (100.0%)		
地区			第ⅡA2区			第ⅡA2区			第ⅡA2区			第ⅡA2区			第ⅡA2区			第ⅡA2区		

口縁部計測法による個体数、※印は存在するが微量・体部破片

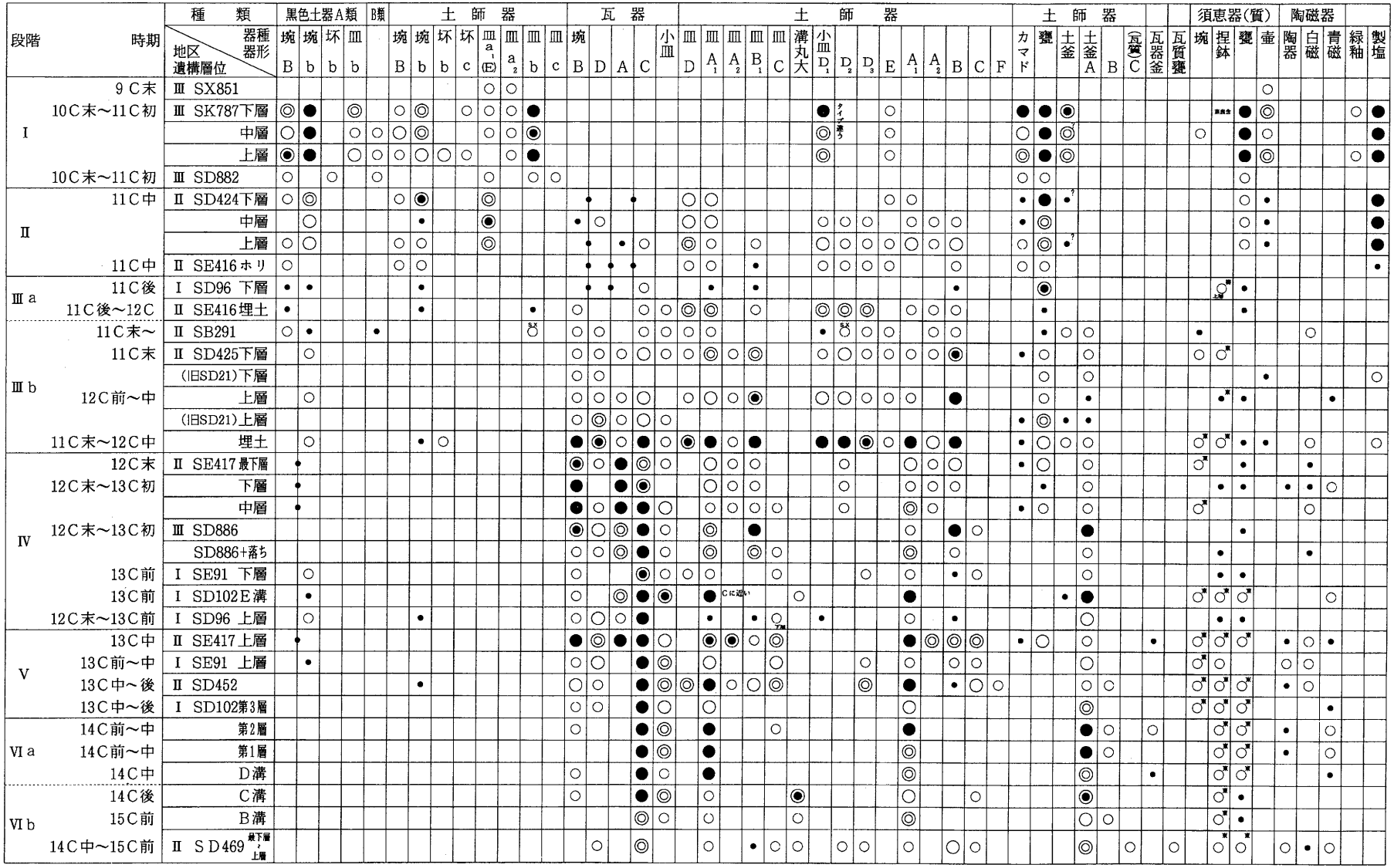
表30　平安時代後期～鎌倉時代土器の器種構成比率１

種類	器種器形 ＼ 遺構層位		SD 886			SD 886＋落ち込み状地形			落ち込み状地形＋包含層			SD 96 下層・上層・埋土			SE 418 上層			SD 452		
瓦器	椀	A	2.25 (3.3%)	48.09 (70.0%)	50.51 (73.5%)	1.04 (7.0%)	10.29 (69.6%)	10.5 (71.0%)	1.58 (2.1%)	48.63 (63.3%)	51.21 (66.7%)	0.29 (0.8%)	8.47 (22.8%)	10.05 (27.1%)	0.46 (1.3%)	5.42 (14.9%)	6.0 (16.5%)		18.67 (39.2%)	21.67 (45.5%)
		B	2.79 (4.1%)			0.33 (2.2%)			1.13 (1.5%)			1.13 (3.0%)			1.21 (3.3%)			1.29 (2.7%)		
		C	42.63 (62.0%)			8.79 (59.4%)			44.96 (58.5%)			4.42 (11.9%)			3.04 (8.4%)			16.96 (35.6%)		
		D	0.42 (0.6%)			0.13 (0.9%)			0.96 (1.3%)			2.63 (7.1%)			0.71 (2.0%)			0.42 (0.9%)		
	小皿		2.42 (3.5%)	2.42 (3.5%)		0.21 (1.4%)	0.21 (1.4%)		2.58 (3.4%)	2.58 (3.4%)		1.58 (4.3%)	1.58 (4.3%)		0.58 (1.6%)	0.58 (1.6%)		3.0 (6.3%)	3.0 (6.3%)	
土師器	皿	A_1	0.92 (1.3%)	7.67 (11.2%)	14.5 (21.1%)	1.25 (8.5%)	2.42 (16.4%)	4.0 (27.0%)	4.75 (6.2%)	9.29 (12.1%)	23.55 (30.7%)	1.46 (3.9%)	8.63 (23.2%)	24.09 (64.8%)	1.25 (3.4%)	7.21 (19.8%)	29.25 (80.5%)	3.51 (7.4%)	7.01 (14.7%)	25.13 (52.8%)
		A_2							0.17 (0.2%)											
		B	6.75 (9.8%)			0.96 (6.5%)			4.37 (5.7%)			4.54 (12.2%)			5.96 (16.4%)			※		
		C				0.21 (1.4%)						1.92 (5.2%)						3.5 (7.4%)		
		D										0.71 (1.9%)						※		
		E																		
	小皿	A_1	0.75 (1.1%)	6.83 (9.9%)		1.04 (7.0%)	1.58 (10.7%)		9.88 (12.9%)	14.26 (18.6%)		3.29 (8.9%)	15.46 (41.6%)		0.96 (2.6%)	22.04 (60.7%)		16.79 (35.3%)	18.12 (38.1%)	
		A_2																※		
		B	5.79 (8.4%)			0.54 (3.7%)			4.17 (5.4%)			6.25 (16.8%)			15.96 (43.9%)					
		C	0.29 (0.4%)						0.21 (0.3%)			0.17 (0.5%)						1.33 (2.8%)		
		D_1										0.75 (2.0%)			0.5 (1.4%)					
		D_2										4.46 (12.0%)			2.04 (5.6%)					
		D_3										0.54 (1.5%)			2.58 (7.1%)			※		
		E																		
		F																		
	坏			※								1.04 (2.8%)	1.04 (2.8%)						※	
	黒色土器																			
	椀		※									※						※		
	甕			3.71 (5.4%)			0.29 (2.0%)		※	2.04 (2.6%)		0.17 (0.5%)	1.88 (5.1%)		0.08 (0.2%)	0.54 (1.5%)			0.17 (0.4%)	
	土釜																			
	土釜A		3.71 (5.4%)			0.29 (2.0%)			2.04 (2.6%)			1.71 (4.6%)			0.46 (1.3%)			0.13 (0.3%)		
	土釜B																	0.04 (0.1%)		
瓦器釜																				
須恵器（質）	椀			※			※			※			0.08		0.17 (0.5%)	0.25 (0.7%)		0.08 (0.2%)	0.54 (1.1%)	
	捏鉢					※			※			0.08 (0.2%)						0.29 (0.6%)		
	甕		※						※									0.17 (0.4%)		
	壺														0.08 (0.2%)					
陶器																		※	※	
磁器	白磁			※		※			※						0.29 (0.8%)	0.29 (0.8%)		0.08 (0.2%)	0.08 (0.2%)	
	青磁								※											
合計			68.72 (100.0%)			14.79 (100.0%)			76.8 (100.0%)			37.14 (100.0%)			36.33 (100.0%)			47.59 (100.0%)		
地区			第ⅢC2区			第ⅢC2区			第ⅢC2区			第ⅠA区			第ⅡA4区			第ⅡA1区		

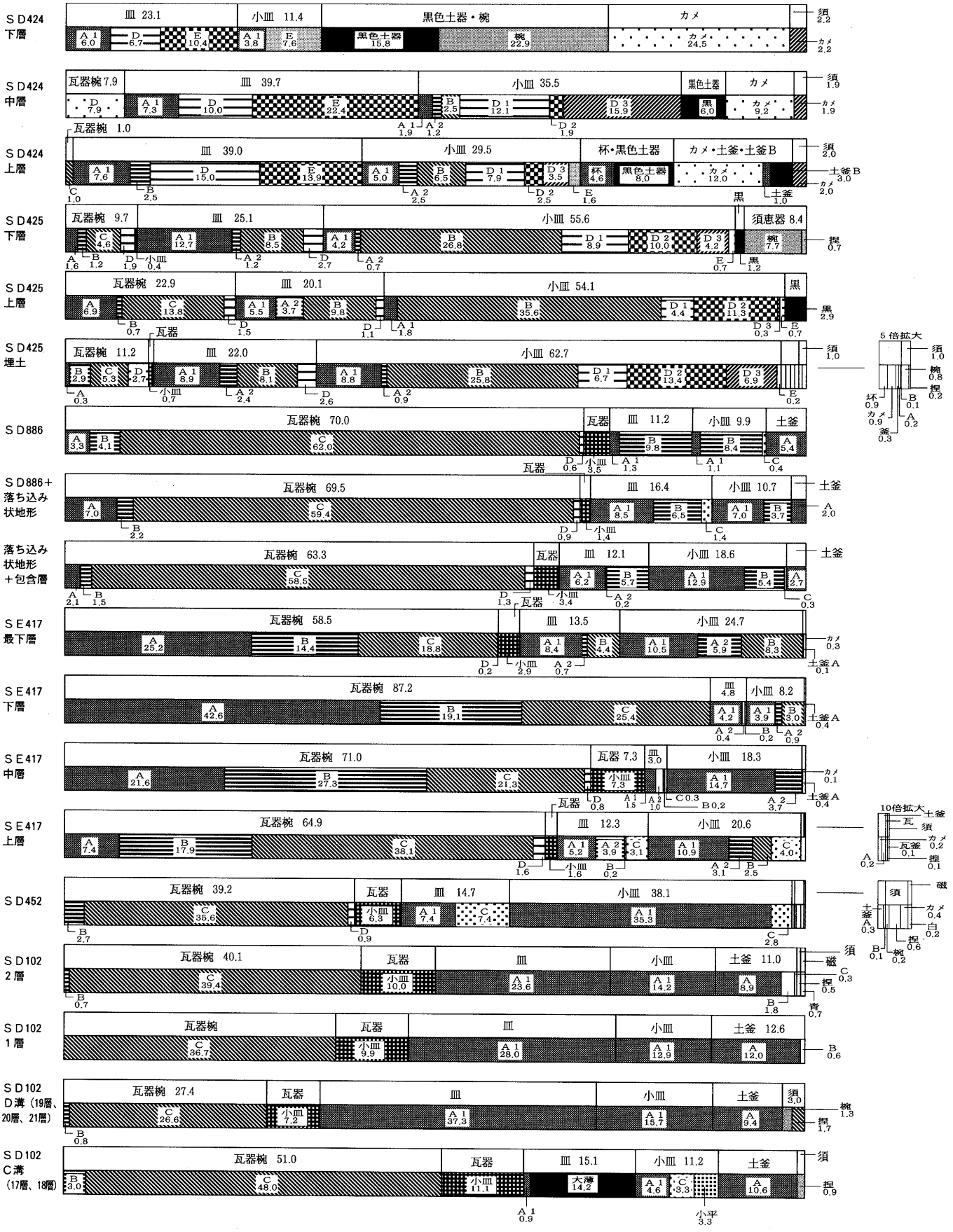
口縁部計測法による個体数、※印は存在するが微量・体部破片

但しSE418 土師器甕に鉢も含む

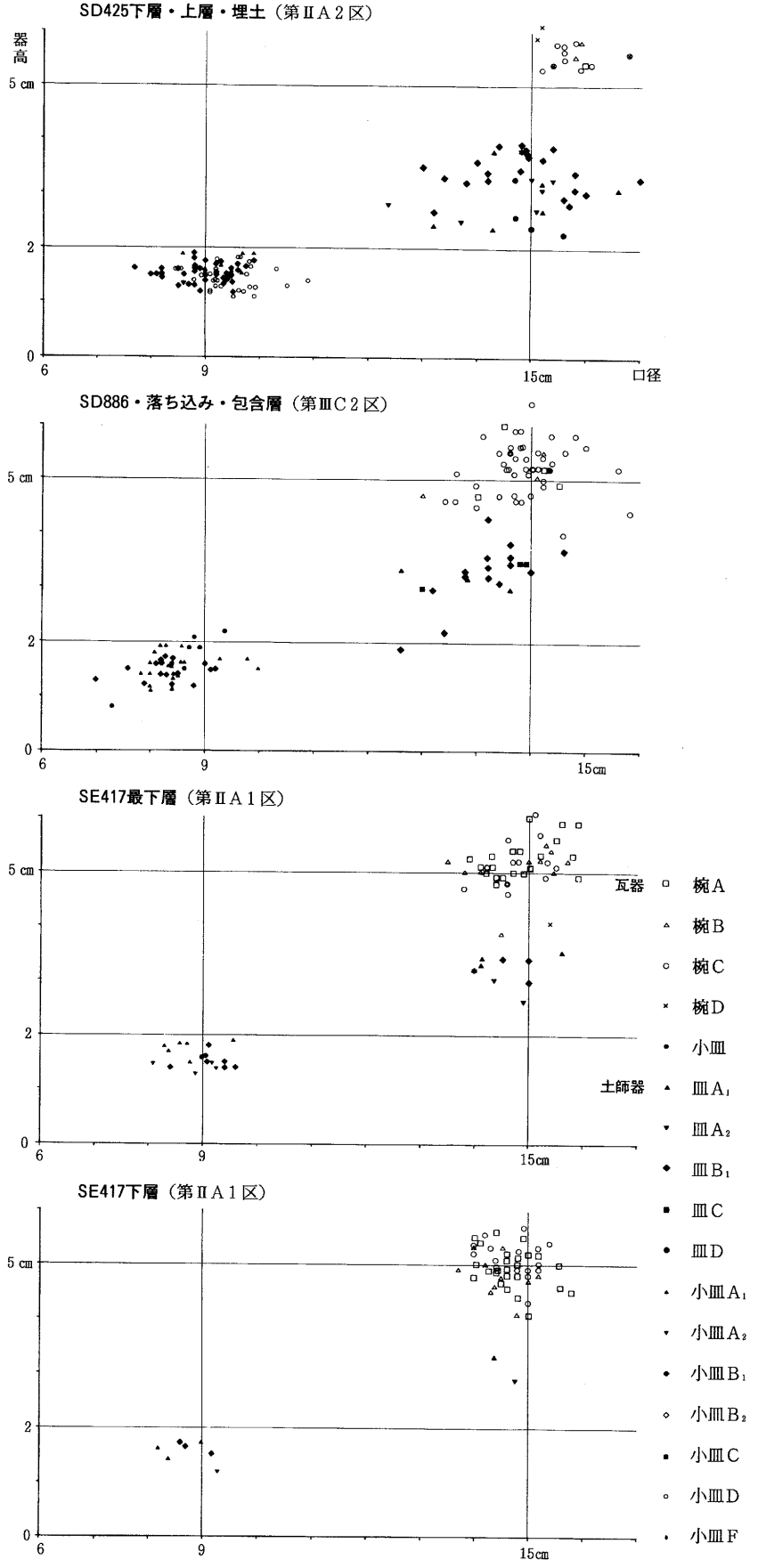
表31　平安時代後期～鎌倉時代土器の器種構成比率2



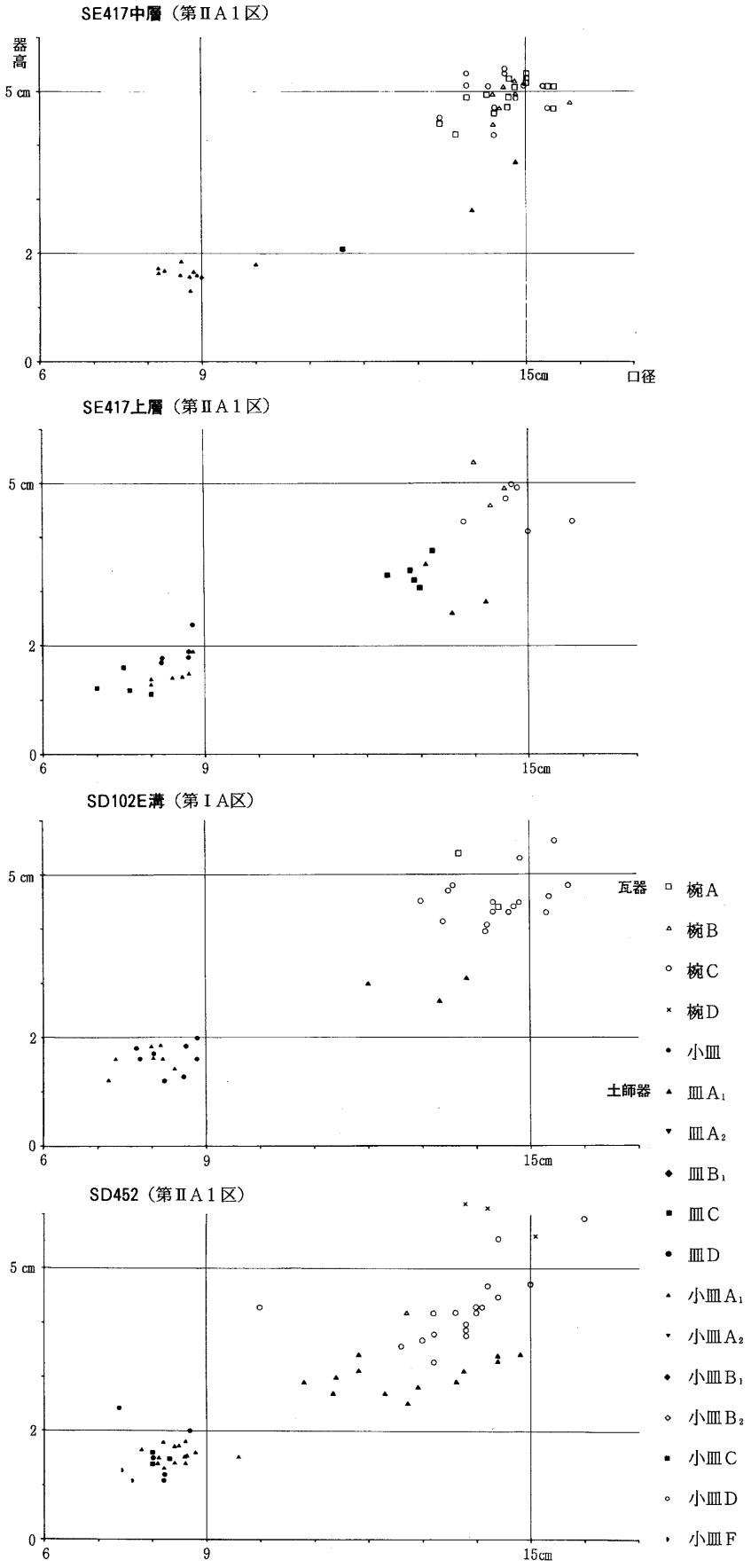
第290図　平安時代～鎌倉時代土器の器種構成



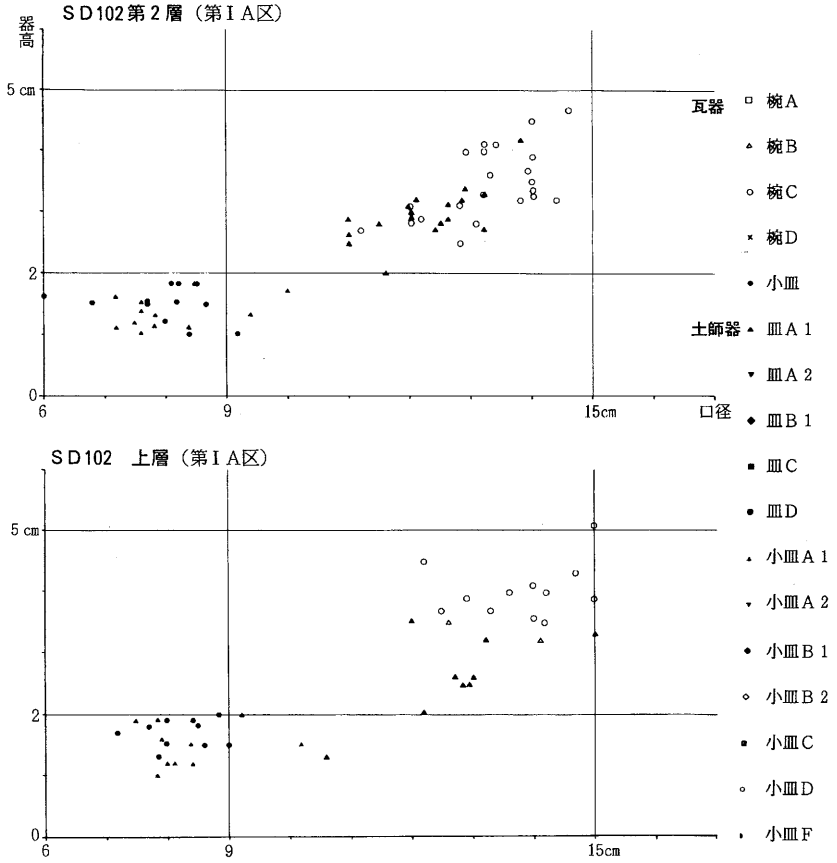
第291図　平安時代後期～鎌倉時代土器の器種構成比率



第292図　平安時代後期～鎌倉時代土器の法量１



第293図　平安時代後期～鎌倉時代土器の法量2



第294図　平安時代後期～鎌倉時代土器の法量３

出土遺物の側面からみると、古代的様相の強い黒色土器Ａ類椀の伴う最終段階を平安時代後期の中で把握することが可能となっている。

その一方、中世的様相の出現する平安時代後期から鎌倉時代にかけて、瓦器椀に伴う様々な器種の変化が見られるようになり、一つの集落において段階を経て変化を追うことが可能となった。

また、瓦器椀そのものの初現形態から終焉を追えることが可能となったのも有意義な点である。

加えて、時代が鎌倉時代から室町時代へ移り変わる中で、主要器種としての瓦器椀の消滅から室町時代への器種組成の変化をみることも可能となっている。

種類	器種＼遺構・層位		SD 469 最下層・下層			SD 111			SF 876			SD 907 SG 782			SG 783 下層・上層			SG 784 下層・上層		
瓦器	椀		※			3.04 (6.7%)	3.62	3.62												
	小皿					0.58 (1.3%)	(8.0%)	(8.0%)												
土師器	皿	大薄	0.17 (2.9%)	0.17 (2.9%)	3.5 (58.7%)							0.13 (0.5%)	0.13 (0.5%)	24.01 (94.8%)	0.38 (1.1%)	0.38 (1.1%)	33.02 (92.8%)			26.47 (93.0%)
	小皿	小薄																		
	皿	大丸	0.08 (1.3%)	0.16 (2.7%)		0.58 (1.3%)	23.12 (51.0%)	38.95 (86.0%)	4.25 (18.7%)	6.54 (28.7%)	16.75 (73.6%)	0.13 (0.5%)	1.84 (7.3%)		12.67 (35.6%)	17.55 (49.3%)		3.13 (11.0%)	5.13 (18.0%)	
		大平	0.08 (1.3%)			22.54 (49.8%)			2.29 (10.1%)			1.71 (6.7%)			4.88 (13.7%)			2.0 (7.0%)		
	小皿	小丸	0.75 (12.6%)	2.96 (49.7%)		2.5 (5.5%)	15.83 (35.0%)		4.00 (17.6%)	10.21 (44.9%)		2.25 (8.9%)	21.83 (86.1%)		8.88 (25.0%)	14.88 (41.8%)		6.71 (23.6%)	21.17 (74.4%)	
		小平	2.21 (37.1%)			13.33 (29.4%)			6.21 (27.3%)			19.5 (77.0%)			5.17 (14.5%)			12.58 (44.2%)		
		NG タイプ										0.08 (0.3%)			0.83 (2.3%)			1.88 (6.6%)		
	皿	C		0.21 (3.5%)									0.21 (0.8%)			0.21 (0.6%)			0.17 (0.6%)	
		D	0.21 (3.5%)									0.21 (0.8%)			0.21 (0.6%)			0.17 (0.6%)		
	土釜	A	1.92 (32.2%)	2.34 (39.3%)	2.34 (39.3%)	1.88 (4.2%)	2.18 (4.8%)	2.47 (5.4%)	1.92 (8.4%)	3.13 (13.8%)	3.71 (16.3%)	0.96 (3.8%)	1 (3.9%)	1 (3.9%)	1.17 (3.3%)	1.5 (4.2%)	1.5 (4.2%)	0.46 (1.6%)	1.38 (4.8%)	1.38 (4.8%)
		B							0.33 (1.5%)						0.04 (0.1%)			0.13 (0.5%)		
		C	0.42 (7.0%)			0.3 (0.7%)			0.88 (3.9%)			0.04 (0.2%)			0.29 (0.8%)			0.79 (2.8%)		
	捏鉢					0.29 (0.6%)	0.29 (0.6%)		0.58 (2.5%)	1.04 (4.6%)		※	※			0.04 (0.1%)		※	0.08 (0.3%)	
瓦器（質）	捏鉢				※				0.46 (2.0%)		0.96 (4.2%)	※		※	0.04 (0.1%)		0.42 (1.2%)	0.08 (0.3%)		0.12 (0.4%)
	甕		※						0.33 (1.5%)	0.5 (2.2%)			※		0.21 (0.6%)	0.38 (1.1%)		※	0.04 (0.1%)	
	湯釜								0.04 (0.2%)											
	その他								0.13 (0.6%)			※			0.17 (0.5%)			0.04 (0.1%)		
須恵器（質）	捏鉢		0.08 (1.3%)	0.08 (1.3%)		0.17 (0.4%)	0.17 (0.4%)													
	甕		※			※														
陶器	備前	擂鉢	0.04 (0.7%)	0.04 (0.7%)	0.04 (0.7%)	0.08 (0.2%)	0.08 (0.2%)	0.08 (0.2%)	1.08 (4.7%)	1.12 (4.9%)	1.12 (4.9%)	0.25 (1.0%)	0.25 (1.0%)	0.29 (1.1%)	0.21 (0.6%)	0.38 (1.1%)	0.38 (1.1%)	0.08 (0.3%)	0.33 (1.2%)	0.33 (1.2%)
		壺	※			※			※			※						0.08 (0.3%)		
		甕	※			※			0.04 (0.2%)			※			0.17 (0.5%)			0.17 (0.6%)		
		その他																※		
	常滑								※			※						※		
	丹波																			
	美濃・瀬戸					※						0.04 (0.2%)						※		
磁器	白磁		※	※					0.21 (0.9%)	0.21 (0.9%)		※	0.04 (0.2%)		0.04 (0.1%)	0.25 (0.7%)		0.04 (0.1%)	0.17 (0.6%)	
	青磁		※						※			0.04 (0.2%)			0.21 (0.6%)			0.13 (0.5%)		
合計			5.96 (100.0%)			45.29 (100.0%)			22.75 (100.0%)			25.34 (100.0%)			35.57 (100.0%)			28.47 (100.0%)		
地区			第ⅡA2区			第ⅠA区			第ⅢC4区			第ⅢC3区			第ⅢC4区			第ⅢC4・5区		

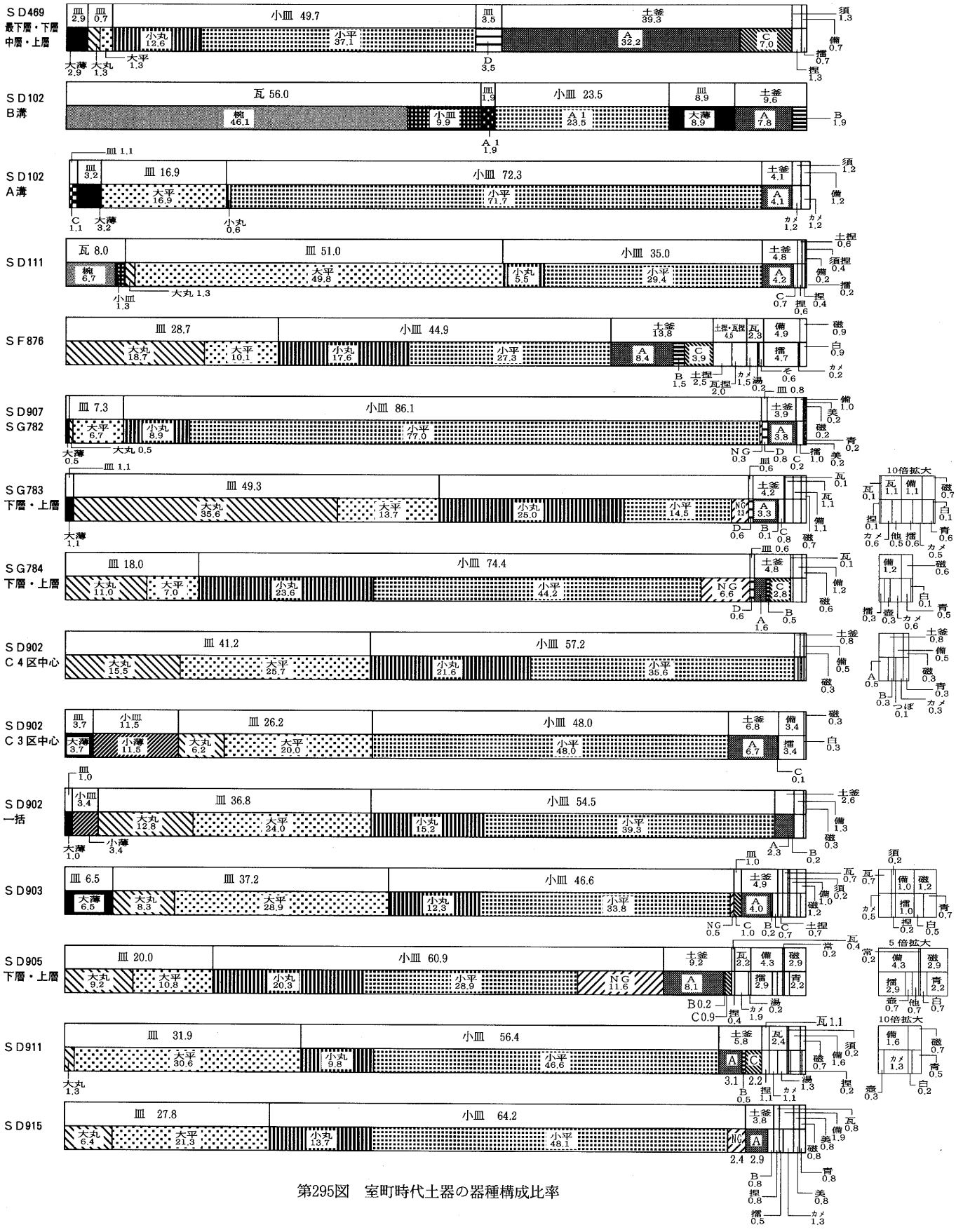
口縁部計測法による個体数、※印は存在するが微量・体部破片、土釜Cは瓦質を含む　　但し新D㋑をⅢDへ入れる

表32　室町時代土器の器種構成比率1

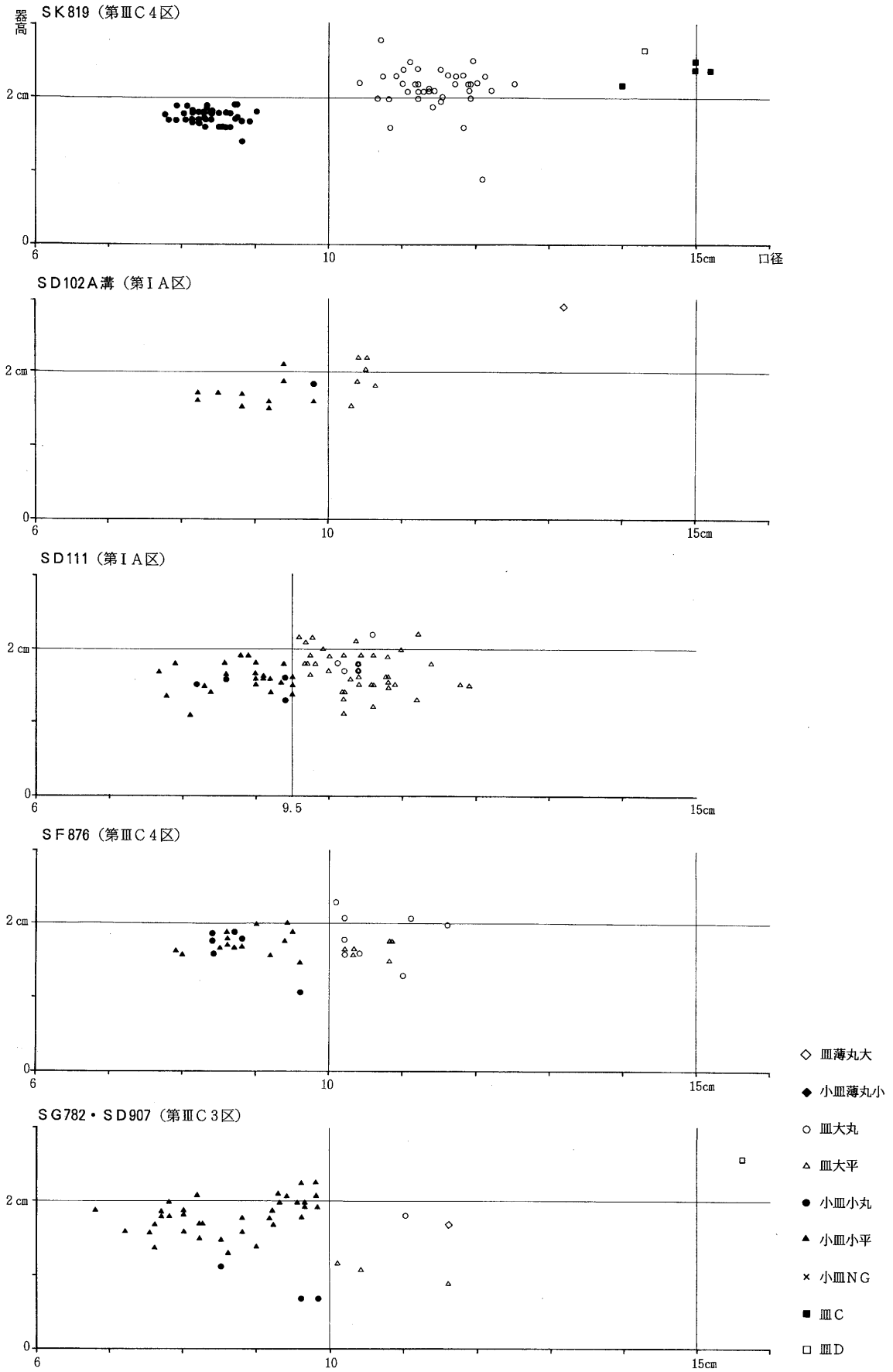
種類	器種＼遺構・層位		SD 902 C4区中心			SD 902 C3区中心			SD 903			SD 905 下層・上層			SD 911			SD 915		
瓦器	椀																			
	小皿																			
土師器	皿	大薄				1.0 (3.7%)	4.08 (15.2%)		1.63 (6.5%)	1.63 (6.5%)										
	小皿	小薄				3.08 (11.5%)														
	皿	大丸	9.88 (15.5%)	26.26 (41.2%)		1.67 (6.2%)	7.05 (26.2%)		2.08 (8.3%)	9.29 (37.2%)		1.75 (9.2%)	3.8 (20.0%)		0.33 (1.3%)	8.25 (31.9%)		1.0 (6.4%)	4.33 (27.8%)	
		大平	16.38 (25.7%)			5.38 (20.0%)			7.21 (28.9%)			2.05 (10.8%)			7.92 (30.6%)			3.33 (21.3%)		
	小皿	小丸	13.75 (21.6%)	36.45 (57.2%)	62.71 (98.4%)		12.91 (48.0%)	24.04 (89.5%)	3.08 (12.3%)	11.63 (46.6%)	22.8 (91.4%)	3.87 (20.3%)	11.58 (60.9%)	15.38 (80.9%)	2.54 (9.8%)	14.62 (56.4%)	22.87 (88.3%)	2.13 (13.7%)	10.01 (64.2%)	14.34 (91.9%)
		小平	22.70 (35.6%)			12.91 (48.0%)			8.42 (33.8%)			5.5 (28.9%)			12.08 (46.6%)			7.5 (48.1%)		
		NGタイプ							0.13 (0.5%)			2.21 (11.6%)						0.38 (2.4%)		
	皿	C							0.25 (1.0%)	0.25 (1.0%)										
		D																		
	土釜	A	0.33 (0.5%)	0.54 (0.8%)	0.54 (0.8%)	1.79 (6.7%)	1.83 (6.8%)	1.83 (6.8%)	1.0 (4.0%)	1.21 (4.9%)	1.38 (5.5%)	1.54 (8.1%)	1.75 (9.2%)	1.75 (9.2%)	0.79 (3.1%)	1.5 (5.8%)	1.5 (5.8%)	0.46 (2.9%)	0.59 (3.8%)	0.59 (3.8%)
		B	0.21 (0.3%)						0.04 (0.2%)			0.04 (0.2%)			0.13 (0.5%)			0.13 (0.8%)		
		C	※			0.04 (0.1%)			0.17 (0.7%)			0.17 (0.9%)			0.58 (2.2%)					
	捏鉢								0.17 (0.7%)	0.17 (0.7%)		※	0.08 (0.4%)		※	0.29 (1.1%)			0.13 (0.8%)	
瓦器（質）	捏鉢					※			※			0.08 (0.4%)			0.29 (1.1%)			0.13 (0.8%)		
	甕								0.13 (0.5%)	0.17 (0.7%)	0.17 (0.7%)	0.37 (1.9%)	0.41 (2.2%)	0.49 (2.6%)	0.29 (1.1%)	0.62 (2.4%)	0.91 (3.5%)			0.13 (0.8%)
	湯釜											0.04 (0.2%)			0.33 (1.3%)					
	その他								0.04 (0.2%)						※					
須恵器（質）	捏鉢								0.04 (0.2%)	0.04 (0.2%)					0.04 (0.2%)	0.04 (0.2%)				
	甕																			
陶器	前備	擂鉢	※	0.29 (0.5%)	0.29 (0.5%)	0.92 (3.4%)	0.92 (3.4%)	0.92 (3.4%)	0.25 (1.0%)	0.25 (1.0%)	0.25 (1.0%)	0.55 (2.9%)	0.81 (4.3%)	0.85 (4.5%)	※	0.41 (1.6%)	0.41 (1.6%)	0.08 (0.5%)	0.29 (1.9%)	0.41 (2.7%)
		壺	0.08 (0.1%)									0.13 (0.7%)			0.08 (0.3%)					
		甕	0.21 (0.3%)			※			※						0.33 (1.3%)			0.21 (1.3%)		
		その他										0.13 (0.7%)						※		
	常滑											0.04 (0.2%)	0.04 (0.2%)		※					
	丹波																	0.12 (0.8%)		
	美濃瀬戸														※			0.12 (0.8%)		
磁器	白磁		※	0.21 (0.3%)		0.08 (0.3%)	0.08 (0.3%)		0.13 (0.5%)	0.3 (1.2%)		0.13 (0.7%)	0.55 (2.9%)		0.04 (0.2%)	0.17 (0.7%)		0.13 (0.8%)		
	青磁		0.21 (0.3%)			※			0.17 (0.7%)			0.42 (2.2%)			0.13 (0.5%)					
合計			63.75 (100.0%)			26.87 (100.0%)			24.94 (100.0%)			19.02 (100.0%)			25.9 (100.0%)			15.6 (100.0%)		
地区			第ⅢC3・4区			第ⅢC3・4区			第ⅢC3・4区			第ⅢC3・4区			第ⅢC4区			第ⅢC4区		

口縁部計測法による個体数、※印は存在するが微量・体部破片、土釜Cは瓦質を含む　　但し土師器湯釜を瓦質湯釜へ入れる

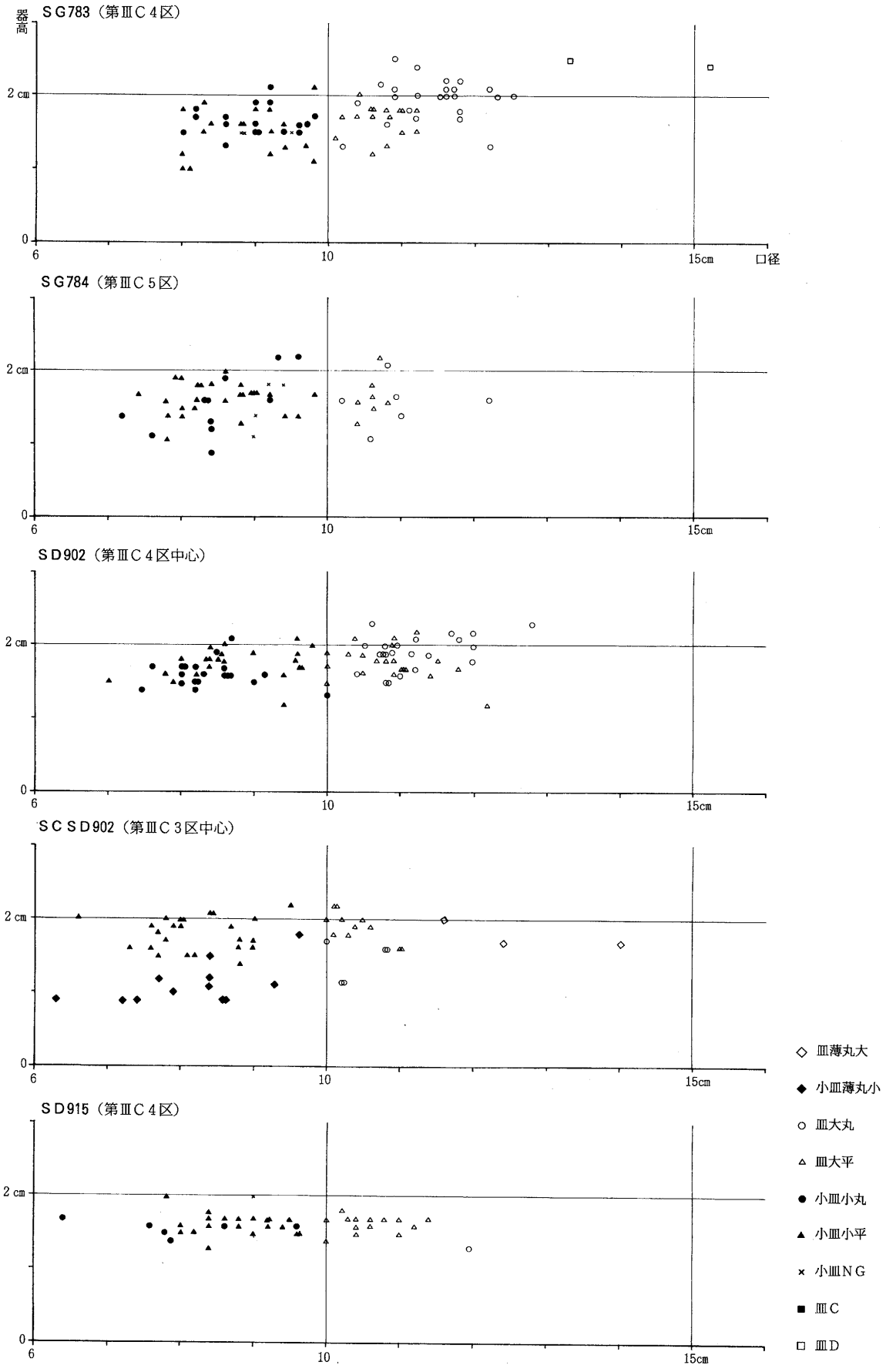
表33　室町時代土器の器種構成比率2



第295図　室町時代土器の器種構成比率



第296図　室町時代皿形態の法量１



第297図　室町時代皿形態の法量2

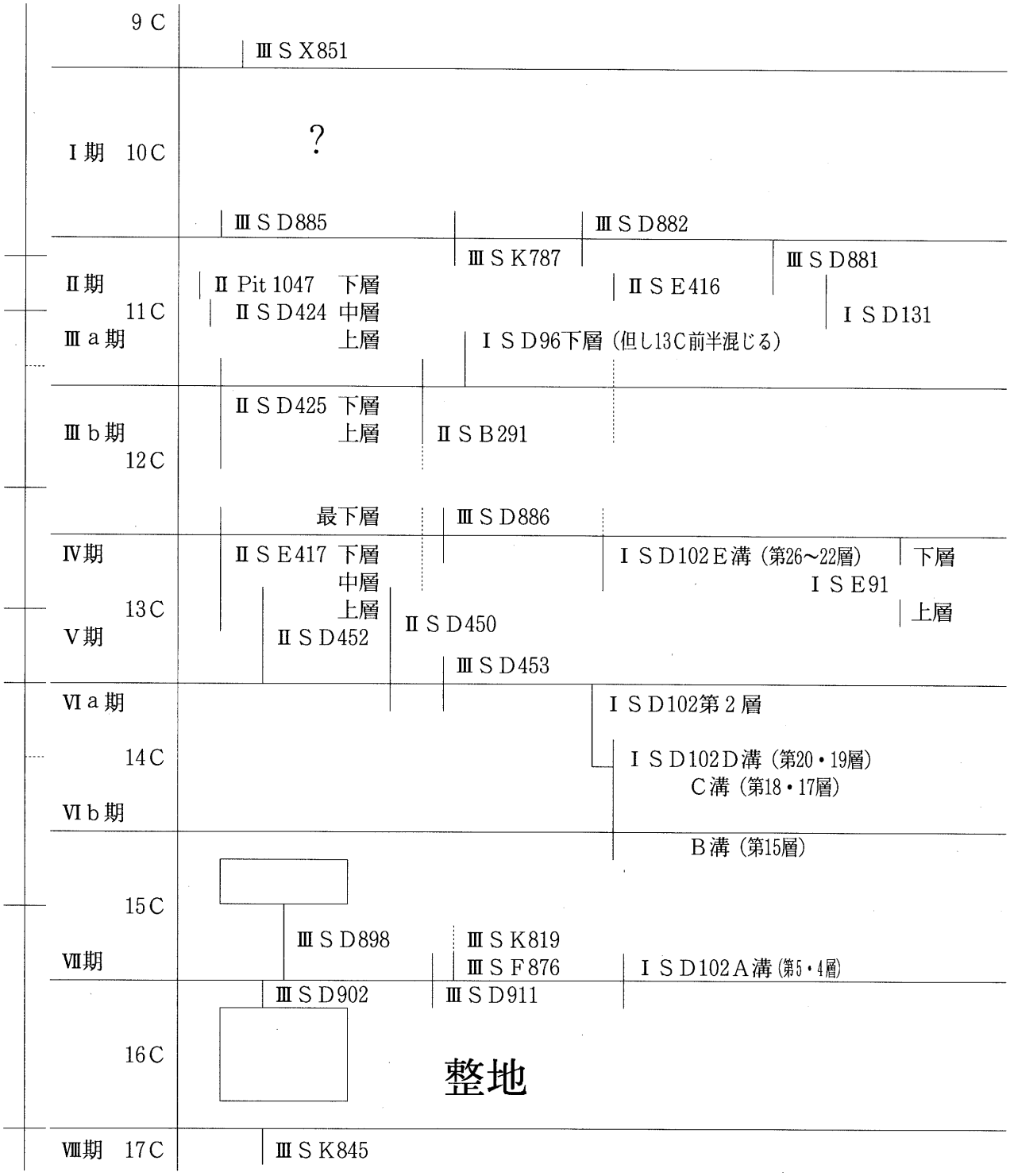


表34　平安時代後期～室町時代の土器の変遷

第Ⅶ章　総括

3箇年かけて実施された西田井遺跡の発掘調査では、様々な時代の遺構に伴って膨大な出土資料が存在した。調査報告書作成に伴う整理作業に着手するに当たり、様々な問題提起が成された。それらは、4年間実施されてきた作業途上において、各年度の担当者と調整を繰り返し、整理方法や資料そのものの検討を繰り返し行なってきた。例えば、弥生土器・古式土師器の器種分類や瓦器椀を伴う時期の器種分類の基準作りである。しかし、整理作業を終えてみると、各々の基本的な資料操作が中途半端に終わってしまった感が否めない。その中で、最小限出土資料としての価値を高めるため、検出遺構については得られた情報を詳述するように努め、出土遺物については遺構一括遺物や遺構内同一層位における数量の把握・分布・出土位置等の客観的な事実の記載を重視して行った。

まず、弥生・古墳時代の集落の点では、遺構の重複関係を重んじ、出土遺物の検討を再々行なった中で、遺構の新旧関係の把握に努めている。このような過程で導き出された結果から、集落の変遷など多くのことが判明してきている。西田井遺跡の弥生・古墳時代の集落の消長は、周辺に存在する田屋遺跡・川辺遺跡・吉田遺跡・北田井遺跡・宇田森遺跡などの沖積平野部の幾つかの集落の調査資料を重ね合わせることによって、より内容分析が深化するものである。即ち、西田井遺跡の弥生集落の出現を、拠点集落と考えうる北田井遺跡などとの関係の中からどのようにして成立してくるのかを導き出すことにある。また、丘陵部を含めた当地域の全体的な集落の消長を考えるには、西田井遺跡の北側の丘陵部に立地する所謂、高地性集落と呼ばれる橘谷遺跡の集落の盛衰を具体的に把握する作業が必要となってくる。その中で、過去に周辺部から出土した銅鐸などを絡めた視点が必要であることは、言うまでもないことである。本書の資料内容が、これらの作業の一翼を担うことができれば幸いである。

出土遺物においても、弥生時代後期中葉から古墳時代にかけて、主要器種としての壺・甕・高坏・鉢の組合せを一連の流れとして捉えることが可能となっている。紙数の関係で詳細については、まったく触れることができなかったが、弥生土器の終焉から古墳時代の古式土師器に移り変わる節目において、生駒西麓産の甕や阿波式の形態をもつ壺などの搬入によって、各地との併行関係を探る手掛かりを得ることができた。加えて、布留式併行期の結晶片岩を多量に含む地元産胎土の丸底甕は、地元における当該期の土器生産の在り方を考える上において重要な問題を提起している。また、内陸部での製塩土器の出土状況などを考える良好な資料を含んでおり、様々な遺物論を展開することをも可能にしている。

さらに、西田井遺跡の平安時代後期以降の集落の在り方は、沖積平野部での大規模な集落の調査例が少ない中で集落変遷の追える一つの基準的な資料となるものである。西田井遺跡の集落では、平安時代後期、鎌倉時代、室町時代前半にかけて東西二つの微高地において、主に建物配置において変遷がみられる段階から、区画溝・通路・池状遺構に囲まれた複数の屋敷地によって構成され、集落構造が大きく変化する段階を導き出すことができている。このことは、当該期の村の質的な構造変化、土地利用の変革を意味するものと考えられるのである。

出土遺物の側面からみると、古代的様相の強い黒色土器A類椀の伴う最終段階を平安時代後期の中で把握することが可能となっている。その一方、中世的様相の出現する平安時代後期から鎌倉時代にかけて、瓦器椀に伴う様々な器種の変化が見られるようになり、一つの集落において段階を経て変化を追うことが可能となった。また、瓦器椀そのものの初現形態から終焉を追えることが可能となったのも有意義な点である。加

えて、時代が鎌倉時代から室町時代へ移り変わる中で、主要器種としての瓦器椀の消滅から室町時代への器種組成の変化をみることも可能となっている。

他に、遺構の最終ベース面である黄褐色シルト層に土器破片が少量含まれている場合が多く認められた。土器破片が包含されている部分が、弥生時代後期以降の遺構のように平面形が判別できるものではなかった。遺構の掘り残しか、ベースの中に何故か包含されている程度の認識であった。これは発掘調査中に認識でなかったが、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての段階の中での堆積層が西田井遺跡周辺に形成もしくは存在したと考えられるものである。僅かではあるが、本文中で扱った縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての土器や石器資料がそれを示唆するようである。後に、同じ24号線バイパスの建設に伴って行なわれた川辺遺跡の発掘調査の中で徐々に明らかにされてきたところである。

遺構・遺物に関すること以外で、これらの成果とは裏腹に、集落の縁辺部がどのような状況にあったかは、田屋遺跡と西田井遺跡第ⅠA区の間、第ⅡA区と第ⅡB区の間、第ⅢC区と第ⅢD区の間、第ⅢD区以東の状況は試掘調査で得られた僅かな成果から類推せざるを得ない状況にある。

こうした状況が、田屋・西田井・川辺の各遺跡において継続されてきた。調査は、幸か不幸か、遺跡の中心部を横断するトレンチを設定したような状況になったが、各遺跡について集落の端から端まで調査を行ったわけではない。工事中に新たに発見・追加された地区があるが、当初から試掘調査・本調査の対象から除外され、残念ながら工事が先行した範囲も認められる。また、試掘調査の結果、遺跡範囲内とも見做されずに調査対象外となった範囲など様々である。

本来、集落を構えた微高地の縁辺部や低地には地形に沿った状態の溝群が存在することが多く、旧自然河道の痕跡を留める範囲には、ある時期ごとに水田が存在した可能性が十分に考えられる。例えば、第ⅡB区から第ⅢC1区を含む西端にかけての低地部が水田であったと推測でき、第ⅢC1区の土壌分析による結果が、これを補強するものといえる。また、旧自然河道の埋没時期は第ⅡB区のSR546から6世紀後半代と考えられるのみで、調査区全体の中で東西両端や途中に存在する3条の旧自然河道の時期は明らかにできないままとなってしまった。

更に、報告書刊行までに、本体工事の擁壁余掘り部分や調査中に対象外となった農道・県道・小堤防部分は、未調査のままとなってしまっている。調査区隣接地においても数々の造成工事なされてきており、国道24号線バイパスの全線開通に伴って数々の開発工事が繰り返されるものと予測される。当報告書の刊行をもって、それらの一部でも調査されることを望むものである。

最後に、既に発行された西田井遺跡に関する文献・発表資料には、下記のものがある。

『昭和61年度　西田井遺跡発掘調査現地説明会資料』1987年　（社）和歌山県文化財研究会
「昭和61年度　西田井遺跡発掘調査の概要」『きのくに文化財』21　1988年　（社）和歌山県文化財研究会
「和歌山県西田井遺跡」河内一浩　『日本考古学年報』39（1986年度版）　1988年　日本考古学協会
「和歌山市西田井遺跡の調査概要」河内一浩　1988年　考古学研究会　第26回関西例会発表資料
「和歌山市西田井遺跡の集落構成の復元」土井孝之　1989年　第7回近畿地方埋蔵文化財研究会資料

上記文献に誤りがあれば、当報告書をもって正式報告とする。

新旧遺構名対照一覧　凡例

現地の調査時には、凡そ以下の方法で遺構番号を付している。

第Ⅰ区　A区・B区・D区　各地区毎の遺構種類毎に１番から。

第Ⅱ区　A区　上面遺構　遺構種類毎に１番から。

下面遺構　遺構種類毎に201番から。ピット（柱穴）のみ1001番から。

B区　時代を問わず、遺構種類毎に2001番から。

第Ⅲ区　C１区・２区　時代を問わず、遺構種類毎に101番から。ピット（柱穴）のみ１番から。

C３区～５区　上面遺構　遺構種類毎に１番から。

下面遺構　遺構種類毎に1001番から。

D区　時代を問わず、遺構種類毎に１番から。

これらの遺構番号には統一性がなく煩雑であるため、調査報告書の作成に伴って新たに番号を統一して付した。各々、第Ⅰ区・第Ⅱ区・第Ⅲ区（大地区）毎に、以下の方法によって並べて行った。

中地区毎→弥生・古墳時代→遺構種類毎→時期の古い順→

奈良時代→遺構種類毎→時期の古い順→

平安～江戸時代→遺構種類毎→時期の古い順

各々に通し番号を付した結果、別遺構によって同一番号は存在しない。また、中地区毎に、凡そ古い時期の遺構から新しい時期の遺構へと変化を辿れるようにし、本文の遺構・遺物の記述、図面の配列においても概ねこの順を適用している。

但し、個別に与えた柱穴番号は調査時のままである。

遺構の名称変更に伴って記録類の全てに対し、報告書で使用する新遺構名に訂正した。なお、出土遺物の注記作業等については、「出土遺物観察一覧　凡例」にその内容を記述している。

新旧遺構名対照一覧の表記載に当って太字で表しているものは、本文中において説明を加えた遺構もしくは遺物に関する遺構である。

地区名の関係は以下の通りである。

大地区	第Ⅰ区	第Ⅱ区		第Ⅲ区	
中地区	A・B・C・D区	A区	B区	C区	D区
小地区		1・2・3・4区	1・2・3区	1・2・3・4・5区	

（本文「第７図　発掘調査地区割図」を参照のこと）

小区画　S16E80　etc　遺物の取上げに使用

新旧遺構名対照一覧 1

遺構名	旧遺構名	小地区
第 I 区		
SK 1	SK 11	A 区
SK 2	SK 25	A 区
SK 3	SK 08	A 区
SK 4	SK 21	A 区
SX 6	P 381	A 区
SD 11	SD 02	A 区
SD 12	SD 01	A 区
	SD 10	C 区
SD 13	SD 50	A 区
SD 14	SD 25	A 区
	SD 49	A 区
SD 15	SD 24	A 区
	SD 48	A 区
SD 16	SD 44	A 区
SD 17	SD 52	A 区
SD 18	SD 54	A 区
SD 19	SD 51	A 区
SD 20	SD 19	A 区
	SD 47	A 区
SD 21	SD 46	A 区
SD 22	SD 53	A 区
	SD 45	A 区
SD 23	SD 28	A 区
SD 26	SD 11	A 区
SB 31	SB 11	A 区
	SB 19	A 区
SB 32	SB 20	A 区
SB 33	SB 10	A 区
SB 34	SB 22	A 区
	SK 34	A 区
	SK 35	A 区
SK 36	SK 05	A 区
SK 37	SK 26	A 区
SB 41	SB 18	A 区
SB 42	SB 21	A 区
SB 43	SB 06	A 区
SB 44	SB 05	A 区
SB 45	SB 03	A 区
SB 46	SB 16	A 区
SB 47	SB 12	A 区
SB 48	SB 01	A 区
SB 49	SB 14	A 区
SB 50	SB 09	A 区
SB 51	SB 02	A 区
SB 52	SB 04	A 区
SB 53	SB 17	A 区
SB 54	SB 15	A 区
SB 55	SB 13	A 区
SB 56	SB 07	A 区
SB 57	SB 08	A 区
SB 58	SB 23	A 区
SB 62	Ⓨ	A 区
SA 61	SA 01	A 区
SK 66	SK 20	A 区
SK 67	SK 01	A 区
SK 68	SK 07	A 区
SK 69	SK 32	A 区
SK 70	SK 24	A 区
SK 71	SK 10	A 区
SK 72	SK 37	A 区
SK 73	SK 27	A 区
SK 74	SK 22	A 区
SK 75	SK 45	A 区
SK 76	SK 12	A 区
SK 77	SK 41	A 区
SK 78	SK 42	A 区
SK 79	SK 43	A 区
SK 80	SK 04	A 区
SK 81	SK 33	A 区
SK 82	SK 44	A 区
SK 83	SK 06	A 区
SK 84	SK 13	A 区
SK 85	SK 30	A 区
SK 86	SK 40	A 区
SK 91	SK 36	A 区
SE 92	SK 29	A 区
	SE 02	A 区
SE 93	SK 23	A 区
	SE 01	A 区
SD 96	SD 09	A 区
SD 97	SD 16	A 区
SD 98	SD 22	A 区
SD 99	SD 27	A 区
SD 100	SD 15	A 区
SD 101	SD 05	A 区
SD 102	SD 23	A 区
SD 103	SD 17	A 区
	SD 43	A 区
SD 104	SD 26	A 区
SD 105	SD 03	A 区
	SD 12	A 区
SD 106	SD 06	A 区
SD 107	SD 07	A 区
SD 108	SD 13	A 区
SD 109	SD 10	A 区
SD 110	SD 40	A 区
SD 111	SD 21	A 区
SD 112	SD 20	A 区
SD 113	SD 41	A 区
SD 114	SD 42	A 区
SD 115	SD 08	A 区
SX 121	SD 09	B 区
SD 126	SD 06	B 区
SD 127	SD 08	B 区
SD 131	SD 08	B 区
SD 132	SD 11	C 区
SI 136	SB 01	D 区
SK 141	SK 02	D 区
	SK 1004	D 区
SK 142	SK 03	D 区
SK 143	SK 04	D 区
SK 144	SK 01	D 区
SD 146	SD 03	D 区
SD 147	SD 04底	D 区
SD 148	SD 05	D 区
SD 149	SD 02	D 区
SD 150	SD 01	D 区
SK 151	SK 05	D 区
SD 156	西3m溝	D 区
SB 152		D 区
第 II 区		
SI 161	SB 214	A3区
SI 162	SB 211	A3区
SI 163	SB 210	A4区
SI 164	SB 213	A3区
SI 165a	SB 200a	A3区
SI 165b	SB 200b	A3区
SI 166	SB 205	A2・3区
SI 167	SB 202	A2・3区
SI 168	SB 206	A2区
SI 169	SB 212	A3区
SI 170	SB 209	A3区
SI 171	SB 208	A3区
SI 172	SB 313	A3区
SI 173	SB 201	A3区
SI 174	SB 203	A2区
SI 175	SB 314	A3区
SI 176	SB 314	A4区
SI 177	SB 302	A3区
SI 178	SB 312	A3区
SI 179	SB 310	A3区
SI 180	SB 304	A3区
SI 181	SB 308	A2・3区
SI 182	SB 303	A4区
SI 183	SB 319	A3区
SI 184	SB 306	A4区
SI 185	SB 307	A3区
SI 186	SB 317	A3区
SI 187	SB 305	A4区
SI 188	SB 309	A3区
SI 189	SB 315	A3区
SI 190	SB 311	A4区
SI 191	SB 316	A4区
SI 192	SB 207	A2区
SB 196	SB 22	A3区
SB 197	SB 17	A3区
SB 198	SB 18	A3区
SB 199	SB 20	A3区
SB 200	SB 21	A3区
SK 201	SK 426	A4区
SK 202	SX 06	A3区
SK 203	SK 42	A3区
SK 204	SK 231	A3区
SK 205	SK 240	A3区
SK 206	SK 210	A2区
SK 207	SK 229	A3区
SK 208	SK 237	A3区
SK 209	SK 400	A4区
SK 210	SK 422	A4区
SK 211	SK 408	A4区
SK 212	SK 423	A4区
SK 213	SK 11	A2区
SK 214	SK 18	A2区
SK 215	SK 16	A2区
SK 216	SK 220	A3区
SK 217	SK 19	A2区
SK 218	SK 227	A3区
SK 219	SK 232	A3区
SK 220	SK 233	A3区
SK 221	SK 14	A2区
SK 222	SK 15	A2区
SK 223	SK 221	A3区
SK 224	SK 415	A4区
SK 225	SK 417	A4区
SK 226	SK 203	A1区
SK 227	SK 222	A3区
SK 228	SK 236	A3区

新旧遺構名対照一覧 2

遺構名	旧遺構名	小地区	遺構名	旧遺構名	小地区	遺構名	旧遺構名	小地区	遺構名	旧遺構名	小地区
SK 229	SK 419	A4区	SD 278	SD 220	A3区	SK 330	SK 402	A4区	SK 380	SK 74	A4区
SK 230	SK 424	A4区	SB 281	SB 11	A2区	SK 331	SK 409	A4区	SK 381	SK 75	A4区
SK 231	SK 420	A4区	SB 282	SB 16	A3区	SK 332	SK 418	A4区	SK 382	SK 65	A4区
SK 232	SK 24	A3区	SB 283	SB 06	A1区	SK 333	SK 01	A1区	SK 383	SK 66	A4区
SK 233	SK 223	A3区	SB 285	SB 12	A2区	SK 334	SK 08	A2区	SK 384	SK 63	A4区
SK 234	SK 224	A3区	SB 285	SB14(N)	A3区	SK 336	SK 30	A3区	SK 385	SK 62	A4区
SK 235	SK 226	A3区	SB 286	SB14(S)	A3区	SK 337	SK 52	A4区	SK 386	SK 64	A4区
SK 236	SK 228	A3区	SB 287	SB 08	A3区	SK 338	SK 95	A4区	SK 387	SK 55	A4区
SK 237	SK 234	A3区	SB 288	SB 09	A2区	SK 339	SK 81	A4区	SK 388	SK 61	A4区
SK 238	SK 241	A3区	SB 289	SB13(N)	A3区	SK 340	SK 82	A4区	SK 389	SK 59	A4区
SK 239	SK 407	A4区	SB 290	SB13(S)	A3区	SK 341	SK 10	A2区	SK 390	SK 60	A4区
SK 240	SK 410	A4区	SB 291	SB 01	A1区	SK 344	SK 56	A4区	SK 391	SK 41	A3区
SK 241	SK 411	A4区	SB 292	SB 07	A1・2区	SK 345	SK 57	A4区	SK 392	SK 51	A4区
SK 242	SK 413	A4区	SB 293	SB 17	A4区	SK 346	SK 72	A4区	SK 393	SK 58	A4区
SK 243	SX 11	A3区	SB 294	SB 04	A1区	SK 347	SK 98	A4区	SK 394	SK 73	A4区
SK 244	SK 235	A3区	SB 295	SB 08	A1区	SK 348	SK 99	A4区	SK 395	SK 76	A4区
SK 245	SK 230	A3区	SB 296	SB 03	A1区	SK 349	SK 02	A1区	SK 396	SK 78	A4区
SK 246	SK 416	A4区	SB 297	SB 10	A2区	SK 350	SK 85	A4区	SK 397	SK 79	A4区
SK 247	SK 12	A2区	SB 298	SB 02	A1区	SK 351	SK 94	A4区	SK 398	SK 80	A4区
SK 248	SK 13	A2区	SB 299	SB 05	A1区	SK 352	SK 21	A3区	SK 399	SK 84	A4区
SK 249	SK 421	A4区	SB 300	SB 15	A3区	SK 353	SK 35	A3区	SK 400	SK 86	A4区
SK 250	SK 202	A1区	SA 301	A	A4区	SK 354	SK 96	A4区	SK 401	SX 03	A1区
SX 251	SX 12	A2・3区	SA 302	B(E)	A4区	SK 355	SK 22	A3区	SK 402	SX 01	A1区
	SD 54	A2・3区	SA 303	B(W)	A4区	SK 356	SK 26	A3区	SK 403	SX 02	A2区
SD 256	SD 207	A1区	SA 304	D(E)	A4区	SK 357	SK 25	A3区	SK 404	SX 05	A2区
SD 257	SD 19	A1区	SA 305	D(W)	A4区	SK 358	SK 29	A3区	SK 405	SX 04	A2区
SD 258	SD 222	A3区	SA 306	C	A4区	SK 359	SK 28	A3区	SK 406	SX 08	
SD 259	SD 43	A2区	SA 307	E	A4区	SK 360	SK 31	A3区	SK 407	SX 09	
SD 260	SD 203	A1区	SK 311	SK 09	A2区	SK 361	SK 68	A4区	SK 408	SK 83	A4区
SD 261	SD 206	A1区	SK 312	SK 17	A2区	SK 362	SK 40	A3区	SK 409	SK 77	A4区
SD 262	SD 208	A1区	SK 313	SK 27	A3区	SK 363	SK 70	A4区	SK 410	SK 401	A4区
SD 263	SD 212	A3区	SK 314	SK 39	A3区	SK 364	SK 53	A4区	SX 411	SX 10	A1区
SD 264	SD 223	A3区	SK 315	SK 207	A4区	SK 365	SK 37	A3区		P 457	A1区
SD 265	SD 235	A3区	SK 316	SK 405	A4区	SK 366	SK 34	A3区	SX 412	SX 07	A2区
SD 266	SD 210	A2区	SK 317	SK 412	A4区	SK 367	SK 36	A3区	SX 413	SX 60	A4区
SD 267	SD 50	A2区	SK 318	SK 414	A4区	SK 368	SK 32	A3区	SE 416	SE 80	A3区
SD 268	SD 34	A3区	SK 319	SK 04	A1区	SK 369	SK 69	A4区	SE 417	SE 01	A1区
	SD 221	A3区	SK 320	SK 05	A1区	SK 370	SK 54	A4区		SK 07	A1区
SD 269	SD 37	A3区	SK 321	SK 404	A4区	SK 371	SK 50	A4区	SE 418	SE 81	A4区
SD 270	SD 49	A2区	SK 322	SK 406	A4区	SK 372	SK 71	A4区	SD 421	SD 28	A2区
SD 271	SD 201	A1区	SK 323	SK 03	A1区	SK 373	SK 87	A4区	SD 422	SD 44	A2区
SD 272	SD 202	A1区	SK 324	SK 06	A1区	SK 374	SK 88	A4区	SD 423	SD 47	A2区
SD 273	SD 204	A1区	SK 325	SK 38	A3区	SK 375	SK 89	A4区	SD 424	SD 42	A2区
SD 274	SD 224	A3区	SK 326	SK 67	A4区	SK 376	SK 90	A4区	SD 425	SD 25	A2区
SD 275	SD 78	A4区	SK 327	SK 23	A3区	SK 377	SK 91	A4区		SD 21	A2区
SD 276	SD 205	A2区	SK 328	SK 97	A4区	SK 378	SK 92	A4区	SD 426	SD 14	A2区
SD 277	SD 35	A3区	SK 329	SK 204	A1区	SK 379	SK 93	A4区	SD 427	SD 17	A1区

新旧遺構名対照一覧 3

遺構名	旧遺構名	小地区	遺構名	旧遺構名	小地区	遺構名	旧遺構名	小地区	遺構名	旧遺構名	小地区
SD 428	SD 24	A2区	SD 473	SD 65	A3区	SD 528	SD 2046	B1区	SD 580	SD 2013	B1区
SD 429	SD 50	A2区	SD 474	SD 70	A4区	SD 529	SD 2023	B1区	SD 581	SD 2001	B1区
SD 430	SD 31	A3区	SD 475	SD 73	A4区	SD 530	SD 2005	B1区	SD 582	SD 2039	B1区
SD 431	SD 32	A3区	SD 476	SD 74	A4区		SD 2035	B1区	SD 583	SD 2008	B1区
SD 432	SD 33	A3区	SD 477	SD 41	A2・3区	SD 531	SD 2045	B1区	SD 584	SD 2010	B1区
SD 433	SD 59	A3区	SD 478	SD 76	A4区	SD 532	SD 2043	B1区	SD 585	SD 2009	B1区
SD 434	SD 61	A3区	SD 479	SD 77	A4区	SD 533	SD 2022	B1区	SD 586	SD 2028	B1区
SD 435	SD 57	A3区	SD 480	SD 1001	A1区	SD 534	SD 2040	B1区	SD 587	SD 2025	B1区
SD 436	SD 12	A1区	SD 481	SD 18	A1区	SD 535	SD 2042	B1区	SD 588	SD 2015	B1区
SD 437	SD 02	A1区	SD 483	SD 55	A3区	SD 536	SD 2044	B1区	SD 589	SD 2017	B1区
	SD 05	A1区	SD 484	SD 213	A3区	SD 537	SD 2037	B1区	SD 590	SD 2018	B1区
SD 438	SD 22	A2区	SK 491	SK 2015	B1区	SD 538	SD 2033	B1区	SD 591	SD 2034	B1区
SD 439	SD 40	A3区	SK 492	SK 2017	B1区	SD 539	SD 2027	B1区	SD 592	SD 2004	B1区
SD 440	SD 10	A1区	SK 493	SK 2024	B1区	SD 540	SD 2032	B1区	SD 593	SD 2036	B1区
SD 441	SD 08	A1区	SK 494	SK 2025	B1区	SD 541	SD 2061	B2区	SD 594	SD 2064	B2区
SD 442	SD 03	A1区	SK 495	SK 2008	B1区	SD 542	SD 2062	B2区	SD 595	SD 2063	B2区
SD 443	SD 06	A1区	SK 496	SK 2034	B1区	SD 543	SD 2081	B3区	SD 596	SD 2080	B3区
SD 444	SD 20	A2区	SK 497	SK 2027	B1区	SR 546	SD 2030	B1区	第Ⅲ区		
SD 445	SD 01	A1区	SK 498	SK 2033	B1区		SD 2041	B1区	SI 601	SI 1002	C3区
	SD 11	A1区	SK 499	SK 2007	B1区	SK 551	SK 2016	B1区	SI 602a	SI 1014a	C4区
SD 446	SD 13	A1区	SK 500	SK 2028	B1区	SK 552	SK 2006	B1区	SI 602b	SI 1014b	C4区
SD 447	SD 16	A1区	SK 501	SK 2032	B1区	SK 553	SK 2003	B1区	SI 603	SI 102	C2区
SD 448	SD 45	A2区	SK 502	SK 2004	B1区	SK 554	SX 2004	B1区	SI 604	SI 1001	C3区
SD 449	SD 52	A3区	SK 503	SK 2026	B1区	SK 555	SK 2012	B1区	SI 605	SI 1010	C4区
SD 450	SD 75	A4区	SK 504	SK 2023	B1区	SK 556	SK 2022	B1区	SI 606	SI 1007	C5区
SD 451	SD 07	A1区	SK 505	SK 2001	B1区	SK 557	SK 2029	B1区	SI 607	SI 1024	C3区
SD 452	SD 04	A1区	SK 506	SK 2013	B1区	SK 558	SK 2011	B1区	SI 608	SI 1011	C4区
SD 453	SD 09	A1区	SK 507	SK 2014	B1区	SK 559	SK 2018	B1区	SI 609	SI 1018	C3区
SD 454	SD 15	A1区	SK 508	SK 2002	B1区	SK 560	SK 2019	B1区	SI 610	SI 1017	C3区
SD 455	SD 29	A2区	SK 509	SK 2009	B1区	SK 561	SK 2041	B2区	SI 611	SI 1022	C3区
SD 456	SD 23	A2区	SK 510	SK 2005	B1区	SK 562	SK 2051	B3区	SI 612	SI 1015	C3区
SD 457	SD 46	A2区	SK 511	SK 2030	B1区	SK 563	SX 2021	B3区	SI 613	SI 1016	C3区
SD 458	SD 48	A2区	SK 512	SK 2031	B1区	SK 564	SK 2035	B1区	SI 614	SI 1013	C4区
SD 459	SD 38	A3区	SK 513	SK 2020	B1区	SK 565	SK 2036	B1区	SI 615	SI 1005	C5区
SD 460	SD 39	A3区	SK 514	SK 2021	B1区	SE 566	SX 2001	B1区	SI 616	SI 1020	C3.4区
SD 461	SD 51	A3区	SK 515	SK 2010	B1区	SE 567	SE 2002	B1区	SI 617	SI 1012	C4区
SD 462	SD 53	A3区	SK 516	SX 2002	B1区	SE 568	SE 2001	B1区	SI 618	SI 1008	C5区
SD 463	SD 56	A3区	SK 517	SK 2042	B2区	SE 569	SE 2003	B3区	SI 619	SI 1004	C5区
SD 464	SD 60	A3区	SK 518	SK 2043	B2区	SD 571	SD 2014	B1区	SI 620	SI 1003	C5区
SD 465	SD 62	A3区	SK 519	SK 2040	B2区	SD 572	SD 2020	B1区	SI 621	SI 1006	C5区
SD 466	SD 63	A3区	SD 521	SD 2002	B1区	SD 573	SD 2019	B1区	SI 622	SI 1019	C3区
SD 467	SD 72	A4区	SD 522	SD 2038	B1区	SD 574	SD 2003	B1区	SI 623	SI 1009	C4.5区
SD 468	SD 30	A2区	SD 523	SD 2021	B1区	SD 575	SD 2006	B1区	SI 624	SI 1005	C5区
SD 469	SD 27	A2区	SD 524	SD 2029	B1区	SD 576	SD 2031	B1区	SI 625	SI 104	C1区
SD 470	SD 26	A2区	SD 525	SD 2026	B1区	SD 577	SD 2016	B1区	SK 626	SI 1025	C4区
SD 471	SD 58	A3区	SD 526	SD 2011	B1区	SD 578	SD 2007	B1区	SK 627	SK 1015	C4区
SD 472	SD 64	A3区	SD 527	SD 2024	B1区	SD 579	SD 2012	B1区	SK 628	SK 1019	C4区

新旧遺構名対照一覧 4

遺構名	旧遺構名	小地区	遺構名	旧遺構名	小地区	遺構名	旧遺構名	小地区	遺構名	旧遺構名	小地区
SK 629	SK 1022	C3区	SX 676	SK 1020	C3区	SD 717	SD 1022	C3区	SB 762	SB 102	C1区
SK 630	SK 1029	C4区	SX 677	SK 1021	C3区	SD 718	SD 1018	C4区	SB 763	SB 103	C2区
SK 631	SK 1035	C4区	SX 678	SK 1031	C3区	SD 719	SD 1017	C4区	SB 764	SB 101	C1区
SK 632	SK 1038	C4区	SX 679	SK 1047	C4区	SD 720	SD 1014	C3・4区	SB 765	SB 104	C2区
SK 633	SK 48	C5区	SX 680	SK 1012	C5区	SD 721	SD 1015	C4区	SB 766	SB 105	C2区
SK 634	SK 132	C2区	SD 681	SD 1008	C3・4・5区	SD 722	SD 1005	C3区	SB 767	SB 106	C2区
SK 635	SK 140	C2区	SD 682	SD 1027	C3区	SD 723	SD 1026	C3区	SB 768	SB 107	C2区
SK 636	SK 141	C2区	SD 683	SD 107	C1区	SD 724	SD 41	C4区	SB 769	SB 108	C2区
SK 637	SK 144	C2区		SD 130	C2区	SD 725	SD 156	C2区	SB 770	SB 14	C4区
SK 638	SK 145	C2区	SD 684	SD 133下	C2区	SD 726	SD 106	C1区	SB 771	SB 03	C3区
SK 639	SK 148	C1区	SD 685	SD133下の南	C2区	SD 727	SD 131	C1区	SB 772	SB 04	C3区
SK 640	SK 149	C1区	SD 686	SD 133	C2区	SD 728	SD 137	C1区	SB 773	SB 06	C3区
SK 641	SK 150	C1区		SD 134	C2区	SD 729	SD 138	C1区	SB 774	SB 01	C4区
SK 642	SK 151	C2区	SD 687	SD 124	C1・2区	SD 730	SD 152	C2区	SA 776	SA 01	C3区
SK 643	SK 152	C1区	SD 688	SD 125	C1・2区	SK 731	SK 41	C3区	SA 777	SA 101	C2区
SK 644	SK 154	C1区	SD 689	SD 141	C2区	SK 732	SK 49	C3区	SA 778	SA 02	C3区
SK 645	SK 1030	C4区		SD 151	C2区	SK 733	SK 1011	C3区	SG 781	SK 33	C3区
SK 646	SK 1007	C3区	SD 690	SD 140	C2区	SK 734	SK 1017	C4区	SG 782	SK 30	C3区
SK 647	SK 1008	C3区	SD 691	SD 154	C2区	SK 735	SK 37	C5区	SG 783	SG 02	C4区
SK 648	SK 1009	C3区	SD 692	SD 153	C2区	SK 753	SK 59	C5区	SG 784	SG 01	C4・5区
SK 649	SK 1034	C4区	SD 693	SD 150	C2区	SD 736	SD 103	C1・2区		SG 03	C5区
SK 650	SK 1013	C4区	SD 694	SD 149	C2区	SD 737	SD 104	C1区	SK 786	SK 01	C3区
SK 651	SK 1014	C4区	SD 695	SD 132	C2区	SD 738	SD 105	C1・2区	SK 787	SK 13	C5区
SK 652	SK 1018	C4区		SD 148	C2区	SD 739	SD 109	C1区		SK 09	C5区
SK 653	SK 1023	C5区	SD 696	SD 128	C1区	SD 740	SD 1019	C4・5区	SK 788	SK 109	C2区
SK 654	SK 1025	C3区	SD 697	SD 126	C1・2区		SK 1027	C4区	SK 789	SK 108	C2区
SK 655	SK 1032	C4区	SD 698	SD 129	C1区	SD 741	SD 20	C5区	SK 790	SK 113	C2区
SK 656	SK 1036	C4区		SD 147	C2区	SD 742	SD 49	C3区	SK 791	SK 121	C2区
SK 657	SK 1037	C4区	SD 699	SD 127	C1区	SD 743	SD 33	C3区	SK 792	SK 107	C2区
SK 658	SK 1041	C4区	SD 700	SD 155	C1区	SD 744	SD 39	C3区	SK 793	SK 116	C2区
SK 659	SK 1042	C4区	SD 701	SD 42	C4区	SD 745	SD 37	C3区	SK 794	SK 118	C2区
SK 660	SK 1043	C4区	SD 702	SD 1001	C3区	SD 746	SD 36	C3・4区	SK 795	SK 120	C2区
SK 661	SK 1044	C4区	SD 703	SD 1023	C3区	SD 747	SD 43	C4区	SK 796	SK 119	C2区
SK 662	SK 1045	C4区	SD 704	SD 1021	C3区	SD 748	SD 44	C4区	SK 797	SK 114	C2区
SK 663	SK 1046	C4区		SD 1025	C3区	SD 749	SD 45	C4区	SK 798	SK 117	C2区
SK 664	SK 1048	C4区	SD 705	SD 1009	C3区	SD 750	SD 46	C4区	SK 799	SK 125	C2区
SK 665	SK 1049	C4区	SD 706	SD 1002	C3区	SD 751	SD 47	C4区	SK 800	SK 111	C2区
SK 666	SK 1050	C4区	SD 707	SD 1007	C3区		SD 48	C4区	SK 801	SK 110	C2区
SK 667	SK 64	C4区	SD 708	SD 1003	C3区	SD 752	SD 1029	C5区	SK 802	SK 127	C2区
SK 668	SK 1016	C4区	SD 709	SD 1010	C3区	SD 754	SD 110	C1区	SK 803	SK 128	C2区
SE 669	SE 1002	C3区	SD 710	SD 1004	C3区	SD 755	SD 1016	C4区	SK 804	SK 135	C1区
SE 670	SE 1001	C3区	SD 711	SD 1028	C4区	SB 756	SB ——	C3区	SK 805	SK 17	C4区
SX 671	SK 1001	C3区	SD 712	SD 142	C3区	SB 757	SB 02	C3区	SK 806	SK 63	C4区
SX 672	SK 1002	C3区	SD 713	SD 1006	C3区	SB 758	SB 05	C3区	SK 807	SK 65	C4区
SX 673	SK 1003	C3区	SD 714	SD 1011	C3区	SB 759	SB 07	C5区	SK 808	SK 37	C3区
SX 674	SK 1004	C3区	SD 715	SD 1012	C3区	SB 760	SB 08	C5区	SK 809	SK 10	C3区
SX 675	SK 1006	C3区	SD 716	SD 1013	C3区	SB 761	SB 09	C5区	SK 810	SK 62	C4区

新旧遺構名対照一覧5

遺構名	旧遺構名	小地区	遺構名	旧遺構名	小地区	遺構名	旧遺構名	小地区	遺構名	旧遺構名	小地区
SK 811	SK 55	C4区	SK 841	SK 08	C3区	SE 875	SE 05	C3区	SD 906	SD 27	C3区
SK 812	SK 02	C3区	SK 842	SK 09	C3区	SE 877	SE 02	C5区	SD 907	SD 09	C3区
SK 813	SK 03	C3区	SK 843	SK 26	C3区	SF 876	SX 06	C4区	SD 908	SD 16	C3区
SK 814	SK 47	C3区	SK 844	SK 36	C3区	SD 881	SD 114	C1・2区	SD 909	SD 14	C3区
SK 815	SK 54	C3区	SK 845	SK 46	C5区	SD 882	SD 119	C2区	SD 910	SD 07	C4区
SK 816	SK 38	C3区	SK 846	SK 50	C5区	SD 883	SD 11	C3区	SD 911	SD 02	C4区
SK 817	SK 11	C3区	SX 851	SK 142	C1区	SD 884	SD 32	C4区	SD 912	SD 31	C4区
SK 818	SK 21	C4区	SX 852	SK 134	C1区	SD 885	SD 51	C5区	SD 913	SD 17	C4区
SK 819	SK 52	C4区	SX 853	SK 138	C2区	SD 886	SD 118	C2区	SD 914	SD 08	C4区
SK 820	SK 53	C3区	SX 854	SK 131	C2区	SD 887	SD 101	C1区	SD 915	SD 29	C4区
SK 821	SK 58	C5区	SX 855	SK 146	C2区		SD 102	C1区	SD 916	SD 35	C3区
SK 822	SK 19	C4区	SX 856	SX 101	C2区	SD 888	SD 116	C2区	SD 917	SD 03	C3区
SK 823	SK 12	C3区	SX 857	SK 137	C2区	SD 889	SD 117	C2区	SD 918	SD 04	C3区
SK 824	SK 18	C4区	SX 858	SK 112	C2区	SD 890	SD 120	C2区	SD 919	SD 05	C3区
SK 825	SK 27	C3区	SX 859	SK 123	C2区	SD 891	SD 121	C1区	SD 920	SD 13	C3区
SK 826	SK 28	C3区	SX 860	SK 101	C1区	SD 892	SD 122	C1区	SD 921	SD 22	C3区
SK 827	SK 50	C3区	SX 861	SK 102	C1区	SD 893	SD 135	C2区	SD 923	SD 19	C5区
SK 828	SK 60	C4区	SX 862	SK 14	C4区	SD 894	SD 136	C2区	SD 924	SD 21	C3区
SK 829	SK 06	C3区	SX 863	SK 15	C4区	SD 895	SD 24	C3区	SI 926	SI 01	D区
SK 830	SK 22	C4区	SX 864	SK 16	C4区	SD 896	SD 25	C3区		SB 01	
SK 831	SK 44	C3区	SX 865	SX 01	C5区	SD 897	SD 40	C3・4区	SK 931	SK 01	D区
SK 832	SK 23	C3区	SX 866	SX 02	C5区	SD 898	SD 115	C2区	SK 932	SK 02	D区
SK 833	SK 24	C3区	SX 867	SX 03	C5区	SD 899	SD 50	C3区	SD 936	SD 04	D区
SK 834	SK 25	C3区	SX 868	SX 04	C5区	SD 900	SD 28	C4区	SD 937	SD 05	D区
SK 835	SK 34	C3区	SX 869	SX 05	C3区	SD 901	SD 30	C3区	SD 938	SD 03	D区
SK 836	SK 20	C4区	SE 871	SE 03	C3区	SD 902	SD 26	C3・4区	SD 939	SD 02	D区
SK 837	SK 103	C1区		SK 29	C3区	SD 903	SD 06	C3・4区	SD 940	SD 01	D区
SK 838	SK 04	C3区	SE 872	SE 01	C5区	SD 904	SD 23	C3区			
SK 839	SK 05	C5区	SE 874	SE 04	C3区	SD 905	SD 01	C3・4区			
SK 840	SK 07	C3区		SK 32	C3区						

出土遺物観察一覧　凡例

1　遺物実測は、年度を超えて整理補助員を中心にして行ったが、当文化財センターとしての整理マニュアルが整っていないため、また、構成員の入替えが少なからずあった。そのため観察方法が不統一に成りがちであった。そこで、表記・観察方法等を統一するため西田井遺跡の出土遺物整理マニュアルを作成し、遺物実測図に関して整理担当者が全てをチェックするように努めた。

2　遺物への注記

遺物の注記は、原則として現地調査等のＩＮＴＡ・ⅡＮＴＡ・ⅢＮＴＡ＋中・小地区etc、遺構番号以下を記入している。実測遺物に対しては、「実測遺物台帳」を作成し、各々試掘調査の遺物には白色●、ＩＮＴＡの遺物には水色●、ⅡＮＴＡの遺物には赤色●、ⅢＮＴＡの遺物には黄色●のタックシールを使用して登録番号を記載した。更に、遺物実測を行ったもの、特に必要と認められる遺物に対しては、追加の注記を行った。追加の注記に当っては、大地区名は既に注記されているので省略し、

例えば、ＮＳＤ102（新溝102）・22ソ－15（登録番号　第22層の15）、

ＮＳＩ161（新竪穴住居161）・７（登録番号　埋土一括の７）となる。

3　遺物の検索方法

遺物収納コンテナへの収納は報告書の遺物番号順になっていない。遺構毎の遺物の登録番号順に収納し、報告書の遺構順に配列している。そのため、遺物の検索に当っては、出土遺物観察一覧によって登録番号をみる必要が有る。次に、遺物収納コンテナへ貼付けたラベルの記載内容を照合すれば、凡その遺物は引き出せる。

4　出土遺物観察一覧の記載

感覚的なものが多いが、『船岡山遺跡発掘調査報告書』1986年　和歌山県教育委員会発行を基本にし、次ページ以下の一覧のような基準を設けている。

・遺物番号（土器番号等）は、遺物実測図・出土遺物観察一覧・写真図版と各々一致する。

・金属製品・木製品に関しては、予算・期間等の問題で保存処理を行えていないものが多数存在する。特に金属製品は堆積土の土質上、錆と土が取り巻いており、現状を留めないものが存在する。本文ではこれらの記述を割愛しているが、図化したものの中にも未処理のものが多数有る。報告書に掲載した金属製品の保存処理の有無については、備考欄に明記した。

・遺物の内、試掘調査出土分、第Ⅰ区～第Ⅲ区出土の縄文土器・瓦・石器・石製品・金属製品は通常の出土土器とは別に収納し、観察項目は出土遺物観察一覧のNo.59～No.63に凡そ時代毎にまとめている。

・砂礫粒の種類等については、『六条山遺跡』1980年　奈良県教育委員会

『矢部遺跡』1986年　奈良県教育委員会

・石器の石材については、菅原正明　他　『東山遺跡』1979年　大阪府教育委員会

益富壽之助　『原色岩石図鑑』第42刷　1984年　保育社

益富壽之助　『原色岩石図鑑』全改訂新版　1987年　保育社

原田哲朗　編　『紀の国石ころ散歩』1988年　宇治書店

内田安茂　編　『化石・岩石』第28刷　1990年　学習研究社

などを参考にしている。

・法量等を記載したものの内、（　）で示したものは現存の長さ・重量を表す。

土器の色調基本パターン1

	略号	色調	基準	色調の基準土器	補助的に同使用・備考
主に弥生土器・土師器	1	黄茶色	茶色をベースに黄色がかる	第145図　SI173　341外面	
	2	淡黄茶色	淡い茶色をベースに黄色がかる	SI165　P6（図無）	
	3	暗黄茶色	茶色をベースに黄色がかって暗い	SI165　P8（図無）	（暗茶黄色）
	4	淡茶黄色	黄色をベースに茶色がかる	SI165　P6（図無）	
	5	明茶黄色	黄色をベースに茶色が薄く入る	（茶黄色）	
	6	茶色	茶色より少し赤色が強い	第138図　SI165　133	（濃茶色）
	7	淡茶色	茶色を薄くして少し赤い	第135図　SI163　57 内面	第185図　SE417　1369　内面
	8	明茶色	茶色の明るくしたもの	SD103　D3（図無）	
	9	暗茶色	茶色を少し暗くしたもの		
	10	褐色	焦茶より少し暗い		
	11	黒褐色	（褐色をベースに黒色がかる）		（淡黒褐色・暗褐色）
	12	淡褐色	褐色を薄くしたもの		（明褐色）
	13	黄褐色	（褐色をベースに黄色がかる）		
	14	淡黄褐色	褐色をベースに薄い黄色が入る	第195図　SD425　1695	中世に同色有
	15	明黄褐色	黄色をベースに褐色が薄く白っぽい	第138図　SI165　137	
	16	茶灰色	灰色をベースに茶色がかる	第145図　SI173　340	（淡茶灰色）中世に同色
	17	淡灰茶色	茶色をベースに灰色がかる	第187図　SE417　1421	（灰茶色）中世に同色有
	18	淡灰黄色	茶色をベースに黄色が強く灰色かかる	第135図　SI163　57 外面	（明灰黄色）
	19	桃茶色	茶色をベースに桃色が強い	二次焼成	
	20	淡桃茶色	茶色をベースに桃色が薄く入る	二次焼成	（淡茶桃色・淡黄桃色）
	21	淡赤茶色	（32を薄くしたもの）		
	22	淡灰褐色	（褐色をベースに薄く灰色がかる）		
	23	茶褐色	（褐色をベースに茶色がかる）		（淡茶褐色）
主に須恵器・須恵質土器	24	灰色	よく使うコンテナの色	第162図　SK243　724	瓦器に同色有
	25	明灰色	灰色を明るくしたもの	SK243　120（図無）	瓦器に同色有
	26	青灰色	灰色をベースに青色が強い	SK243　121（図無）	（暗青灰色）
	27	淡青灰色	灰色をベースに青色が薄く入る	第162図　SK243　733	（淡灰青色）
	28	明青灰色	灰色をベースに青色がかる	SK243　131（図無）	（明灰青色）
	29	灰紫色	紫がかった灰色		（淡灰紫色）断面色に多
	30	黒灰色	灰色をベースに黒っぽい	第187図　SE417　1432	（暗灰色・灰黒色）瓦器
	31	淡黒色			自然釉の付着有
主に中世の土師器	32	赤茶色	茶色をベースに赤色が強い	SD51　1（図無）	
	33	白茶色	茶色をベースに白っぽい	第126図　SD111　608	
	34	明白茶色	茶色をベースに白を入れ明るい	第126図　SD111　595	（淡白茶色）
	35	白黄色	茶色をベースに黄色を入れ白っぽい	第127図　SD112　635	
	36	明黄茶色	茶色をベースに黄色を入れ明るい	SD102　1（図無）	
	37	淡黄灰色	薄い灰色をベースに少し黄色が入る	SD102　1（図無）	（明黄灰色・黄灰色）
	38	黄橙色	橙色をベースに黄色がかる	第195図　SD425　1692	（淡黄橙色）
	39	淡黄色			
	40	淡黄白色			（明黄白色）
主に瓦器・瓦質土器	41	黒色	鉛筆の芯の色	SE417　A40（図無）	（暗黒灰色）
	42	淡黒灰色	灰色をベースに黒色が薄い	第188図　SE417　1446	（淡灰黒色）
	43	銀黒色	黒色をベースに銀色が入る	第184図　SE417　1314	
	44	淡銀黒色	黒色をベースに銀色が薄く入る	第187図　SE417　1436	
	45	淡灰色	灰色より薄い（白っぽい）	第188図　SE417　1448	
	46	明白灰色		SE417　B51（図無）	（白灰色・明灰白色）

土器の色調基本パターン2

	陶磁器・他						
47	海老茶色	55	淡水色（淡青白色）	63	灰褐色	茶色	6に同じ
48	淡緑茶色	56	明白黄濁色	64	淡黄緑色	淡茶色	7に同じ
49	灰緑色（黄色み有）	57	白黄濁色（濁黄白色）	65	灰白色（淡灰白色）	暗茶色	9に同じ
50	灰黄緑色	58	明白濁色（淡白濁色）	66	暗赤茶色	灰色	24に同じ
51	水色	59	淡緑色	67	淡青緑色	明灰色	25に同じ
52	白色	60	淡灰緑色	68	暗灰緑色	淡灰色	45に同じ
53	白濁色	61	赤褐色（淡赤褐色）	他	観察一覧に別記	淡青灰色	27に同じ
54	淡緑白色	62	赤灰色			黒灰色	30に同じ

遺物登録番号の略号層位

略号	層名位置	略号	層名位置	略号	層名位置	略号	層　名　位　置
A	最下層	F	床面直上	P	柱穴	イ直	遺構面直上層
B	下層	H	貼り床	G	壁溝	包	遺物包含層
C	中層	R	炉	セ	セクションベルト	A層	上面遺構直上層（遺構面直上層）
D	上層	K	竈	冠なし	埋土一括	B層	地山直上層
E	最上層	T	貯蔵穴			?	出土地不明

胎土の質

略号	胎土の質
Ⅰ	極めて緻密
Ⅱ	緻密
Ⅲ	緻密（ややザラつく）
Ⅳ	やや緻密
Ⅴ	やや緻密（ややザラつく）
Ⅵ	やや粗い
Ⅶ	やや粗い（ザラつく）
Ⅷ	粗い
Ⅸ	粗い（ザラつく）

砂礫粒の種類

略号	砂礫粒の種類
A	片岩
B	長石
C	石英
D	チャート
E	赤色酸化粒
F	砂岩
G	花崗岩質
H	雲母（金雲母）
I	黒色粒
J	角閃石
K	銀色微粒

砂礫の粒調

略号	砂礫の粒調
ＳＳ以下	微粒
ＳＳ	0.5㎜以下
Ｓ	0.5～1㎜
Ｍ	1～2㎜
Ｌ	2.5～4㎜
ＬＬ	4.5～6㎜
３Ｌ	6.5㎜以上

砂礫の量

略号	砂礫の量
極微	極微量（極稀）
微	微量（稀）
少	少量
中	中量（まばら）
多	多量
極多	極多量

丸底式製塩土器の胎土

略号	胎土の特徴
1	極めて緻密、砂粒を含まない
2	ＳＳの砂礫を極めて多量含む、バサつく
3	緻密な胎土にＳの砂礫を少量含む
4	緻密な胎土にＳ・Ｍの砂礫を中量含む
5	緻密な胎土にＭ・Ｌの円い砂礫を少量含む
6	粗い胎土にＳ・Ｍの砂礫を多量含む、バサつく

残存率の計算方法

口頸部の破片の場合（計測対象2箇所）

口縁部1／3残存（33%）
頸部　1／2残存（50%）
残存率は、（33%＋50%）÷2≒42%

椀等の場合（計測対象3箇所）

口縁部1／3残存（33%）
体部　1／4欠損（75%）（3／4残存）
底部　1／2残存（50%）
残存率は、（33%＋75%＋50%）÷3≒53%

出土遺物観察一覧 No.1

土器番号	登録番号	実測図・写真図版		出土遺構・地区・層位		種類	器種・器形(部位)	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1		第105図		SX6	ⅠA区	弥生土器	壺(底体部)	㉔ ㊱	Ⅵ	SS＞S	AⓈ(LL)多、CⓈⓁ中、DⓈⓁ少、E(SS)Ⓛ中、K多	33%
2	55	第106図		SD12	〃	〃	広口壺A	⑧	Ⅱ	SS以下	BDⓈ中、CⓁ(LL)少、EⓈⓂ中、K少	25%
3	3	〃		〃	〃	〃	〃	⑱ ⑧⑱	Ⅵ	SS以下	BⓈⓂ微、CDⓁ微、EⓈ～Ⓛ中、K微	57%
4	5	〃	PL.51	〃	〃	〃	〃	⑦⑱	〃	SS以下	BⓂ中、C(LL)少、EⓈ多、K多	100%
5	11	〃	〃	〃	〃	〃	広口壺B	⑮ ①⑤	Ⅳ	SS＞S	BCDⓈ微、EⓈ～Ⓛ少	100%
6	14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑤⑮⑮⑯	Ⅱ	SS以下	AⓁ少、BⓈ微、DⓈⓂ少、EⓈ～Ⓛ中、FⓁ微	88%
7	60	〃		〃	〃	〃	広口壺A	⑦	〃	SS以下	AⓁ(LL)微、CⓂⓁ微、K多	8%
8	58	〃		〃	〃	〃	広口壺B	㊴ ㊱	Ⅲ	SS以下	AⓂⓁ多、BⓈⓂ少、CⓈⓂ中、K少	13%
9	10	〃		〃	〃	〃	壺(底体部)	⑨㉝	Ⅱ	SS以下	BDⓈ中、EⓈⓂ多、K多	78%
10	21	〃		〃	〃	〃	細頸壺	㉝ ⑧	Ⅲ	SS＞S	ACⓁ微、BⓈⓂ微、E(SS)～Ⓜ中、K微	67%
11	82	〃		〃	〃	〃	二重口縁壺	⑧ ⑦㉒	Ⅱ	S	AⓁ多、BⓈ少、CⓁ少、DS極、K少	17%
12	83	〃		〃	〃	〃	〃	⑦㊱	〃	SS以下	AⓈⓂ少、B(SS)Ⓢ中、E(SS)～Ⓛ多、K少	8%
13	17	〃	PL.51	〃	〃	〃	〃	㊱①①⑤	〃	SS以下＞S	BⓂⓁ少、DⓈ少、EⓈⓂ中、K微	29%
14	19	〃	〃	SD12 IC区最上層と接合		〃	〃	⑥ ⑥⑤	Ⅴ	SS	AⓂⓁ中、B(SS)Ⓢ微、CⓁ(LL)少、DEⓈⓂ少、K少	56%
15	31	〃		SD12	ⅠA区	〃	壺(底部)	⑧	Ⅱ	SS以下	ACⓁ微、B(SS)少、E(SS)～Ⓜ多、K微	100%
16	34	〃		〃	〃	〃	〃(〃)	⑮ ⑦	〃	SS＞S	BⓈⓂ少、CⓂ～(LL)少、E(SS)Ⓢ中、K多	100%
17	32	〃		〃	〃	〃	甕A	⑧⑭	〃	SS＞S	AⓁ中、BEⓈⓂ多、CⓂ少、DⓂ多	33%
18	18	〃		〃	〃	〃	〃	⑧⑤	〃	SS以下	AⓈ～Ⓛ多、BDⓈⓂ多、CⓂⓁ中、E(SS)Ⓢ多	67%
19	12	〃		〃	〃	〃	〃	⑮㉒⑧⑮	Ⅷ	S＞LL	AⓁ(LL)中、BDⓂⓁ中、CⓂ中、EⓈ少	67%
20	24	〃		〃	〃	〃	〃	⑫⑮⑦⑮	Ⅱ	SS以下	A(LL)極微、BⓈⓂ多、CⓈ少、DⓈ～Ⓛ多、EⓂ中	67%
21	26	第107図	PL.51	〃	〃	〃	〃	⑧⑤	〃	SS	AⓂ～(LL)多、BCⓈⓂ多、DⓈ中、EⓂ中	58%
22	7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑥㊱⑧㊱	Ⅳ	LL	ABCDⓂⓁ中、EⓈ中	25%
23	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑥④	Ⅵ	M＞S	BⓁ多、CDⓂⓁ多、EⓂ多	100%
24	15	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑨⑮⑨⑫	Ⅱ	SS以下	ADⓈ～Ⓛ少、BE(SS)Ⓢ微、CⓂ微	33%
25	9	〃	PL.52	〃	〃	〃	甕B	⑳ ⑧⑭	Ⅶ	SS以下	A(LL)微、BⓈ多、CⓈ少、DⓂ多、E(SS)～(LL)多	71%
26	13	〃		〃	〃	〃	甕A	㊲ ⑮㊴	〃	SS以下	BCⓂ少、DⓂⓁ少、E(SS)Ⓜ(LL)中	25%
27	37	〃		〃	〃	〃	〃	⑧⑦	Ⅱ	SS以下	AⓂⓁ多、BEⓈⓂ多、CⓂ中、DⓂⓁ中、K少	50%
28	39	〃		〃	〃	〃	〃	⑮ ⑦⑧	Ⅵ	SS	ADⓈⓂ中、BEⓈⓂ多、CⓂⓁ中	25%
29	8	〃		〃	〃	〃	〃	⑧㊱	〃	SS	AⓂ(LL)少、BDEⓈ少、CⓂⓁ微、K微	75%
30	46	〃	PL.52	〃	〃	〃	〃	④	Ⅱ	S＞M	B(SS)中、CⓂ中、D(SS)～Ⓜ多、E(SS)Ⓢ中	17%
31	30	〃		〃	〃	〃	〃	㊴ ㊱	Ⅶ	SS＞S	B(SS)～Ⓜ少、DⓂ微、EⓈ～(LL)多、K少	38%
32	76	〃		〃	〃	〃	〃	① ㉜	〃	SS以下	AⓁ微、BEⓈⓂ少	46%
33	73	〃		〃	〃	〃	甕B	㊱	Ⅱ	SS	AⓂⓁ少、DⓂ微、EⓈ～Ⓛ多	21%
34	72	〃		〃	〃	〃	〃	㊱ ⑦⑭	〃	SS以下	AⓁ少、CⓂ少、EⓈ～Ⓛ多、K中	17%
35	20	〃	PL.52	〃	〃	〃	〃	⑮①①⑤	Ⅴ	SS＞S	AⓁ(LL)少、B(SS)～Ⓜ少、CDⓈⓂ中、EⓈ～Ⓛ多、K少	54%
36	36	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑦⑭	Ⅶ	SS以下	B(SS)Ⓢ多、DⓈⓂ多、EⓈⓂ多Ⓛ少、K中	50%
37	42	〃		〃	〃	〃	〃	㊴	〃	SS以下	BⓂ微、DⓈⓂ微、E(SS)～(LL)多、FⓂ～(LL)微	25%
38	84	第108図		〃	〃	〃	甕D	⑦⑧	Ⅱ	SS以下	ADⓂ微、EⓈⓂ少	8%
39	75	〃		〃	〃	〃	甕B	㊱⑦	〃	M	ABCDⓈⓂ多、E(SS)～Ⓜ多	8%
40	65	〃		〃	〃	〃	甕(底体部)	④ ④①	〃	SS以下	A(LL)微、BE(SS)微、D(SS)Ⓛ微	75%
41	43	〃		〃	〃	〃	〃(〃)	⑥㊲⑮⑧	Ⅱ	M	ABⓈⓂ中、A(LL)微、CⓂⓁ少、DⓂⓁ多、JⓂ微K微	57%
42	45	〃		〃	〃	〃	〃(〃)	⑭	Ⅵ	SS＞S	BⓈⓂ多、CⓂ～(LL)多、EⓈⓂ少	100%
43	29	〃		〃	〃	〃	〃(〃)	⑥⑮ ⑨	Ⅱ	SS以下	BⓈⓂ少、D(SS)小、E(SS)Ⓢ少	42%
44	52	〃		〃	〃	〃	〃(底部)	⑯⑦ ⑭	Ⅵ	SS＞S	AⓂⓁ中、CⓈ～Ⓛ中、DⓂ少、K多	58%
45	66	〃		SD12 IC区最上層と接合		〃	〃(〃)	⑥㊳⑥⑬	Ⅱ	SS＞S	ADⓈ～Ⓛ中、A(LL)少、BⓈ～Ⓛ多、(LL)少、CⓈ～(LL)中、EⓈⓂ中	62%
46	40	〃	PL.52	SD12	ⅠA区	〃	鉢A	㉝⑮ ⑧	Ⅳ	SS＞S	AⓂ～(LL)多、BⓂ少、CⓈⓂ少、DⓂⓁ微、EⓈ微、K中	71%
47	27	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑦⑮	Ⅵ	SS以下	AⓁ少、B(SS)Ⓢ多、DⓈⓂ少、EⓈ～(LL)少	100%
48	22	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑮ ⑧⑮	〃	S	ACⓂ微、BⓂⓁ少、DⓂⓁ微、EⓈ～Ⓛ多	63%
49	77	〃		〃	〃	〃	〃	⑤⑦	Ⅱ	SS以下	BDEⓈ少	17%
50	78	〃		〃	〃	〃	鉢B	② ②㊱	Ⅵ	SS以下	AⓁ少、B(SS)Ⓢ中、EⓈ～(LL)多	17%
51	79	〃		〃	〃	〃	〃	⑦ ①	Ⅱ	SS以下	AⓁ微、CⓈⓂ微、DⓈ微、K少	13%
52	85	〃		〃	〃	〃	〃	①⑦	〃	SS以下	BⓈⓂ微、DⓂ微、E(SS)Ⓜ中	17%
53	62	〃		〃	〃	〃	高坏A	㊳	〃	SS以下	AⓂ少、B(SS)中、EⓈⓂ多、K少	33%
54	23	〃	PL.52	〃	〃	〃	〃	㊱㉝	Ⅳ	SS	A(LL)微、BDⓂ微、EⓈ～(LL)多	38%
55	49	〃	〃	〃	〃	〃	〃	㊱ ⑦	Ⅱ	SS以下	BⓈⓂ中、CⓂⓁ微、EⓈⓂ少	42%
56	48	〃	〃	〃	〃	〃	〃	⑪ ①⑥	〃	SS以下	ACⓁ極微、D(SS)Ⓢ少、F(LL)極微、K多	33%
57	80	〃		〃	〃	〃	〃	①⑤ ①	〃	SS以下	B(SS)少、CⓈⓂ微、DⓈ微、E(SS)Ⓢ少、K中	4%
58	64	〃		〃	〃	〃	高坏B	㊱①	〃	SS	A(LL)極微、E(SS)～Ⓛ多	21%
59	6	〃		〃	〃	〃	脚台A	⑦⑱	〃	SS以下	DⓁ中、EⓂ多	75%
60	D1	第109図		SD12上層	ⅠC区	〃	広口壺A	⑦⑭	Ⅳ	SS＞S	B(SS)Ⓢ少、CⓈ～Ⓛ少、K少	29%
61	D2	〃	PL.53	〃 上層、最上層	〃	〃	〃	⑤⑧	Ⅱ	S	EⓈⓂ多、K微	33%
62	D4	〃		〃 上層、最上層	〃	〃	広口壺B	⑦⑭	〃	SS	B(SS)Ⓢ中、CⓂ微、E(SS)～Ⓜ中	100%
63	D3	〃		〃 上層、最上層	〃	〃	〃	⑥⑭	Ⅳ	SS以下	AⓈ～Ⓛ中、C(SS)Ⓢ少、E(SS)少、K少	46%
64	D8	〃	PL.53	〃 上層	〃	〃	二重口縁壺	㊴㉝㊴⑫	Ⅵ	SS	B(SS)少、DⓈ少、E(SS)～Ⓛ中	62%
65	D6	〃		〃 〃	〃	〃	細頸壺	⑧	Ⅱ	S	AⓈ少、BⓈ微、DⓈⓂ微、EⓈⓂ少、K多	100%
66	D5	〃		〃 〃	〃	〃	壺(底体部)	㊺ ㊱	〃	SS	BE(SS)Ⓢ少、K微	52%
67	D21	〃		〃 〃	〃	〃	甕A	②㊲⑭⑫	Ⅵ	SS以下	AⓂⓁ微、B(SS)Ⓢ中、CⓁ(LL)微、DⓈ少、EⓈⓂ少	25%
68	D15	〃		〃 〃	〃	〃	〃	⑦⑭	Ⅳ	SS	BE(SS)Ⓢ少、CⓈ微、DⓈ～Ⓛ少、K少	25%
69	D20	〃		〃 上層、最上層	〃	〃	〃	⑥ ㊱	〃	S＞M	AⓈ～Ⓛ少、BⓈⓂ微、CⓂ微、DⓈⓂ少	13%
70	D18	〃		〃 上層、最上層	〃	〃	〃	⑭ ㉑	Ⅱ	M	CⓈ～Ⓛ少、DⓈ～Ⓛ多、E(SS)～Ⓛ少	33%

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
71	D17	第109図	SD12上層 ⅠC区	弥生土器	甕A	⑦	⑭		Ⅵ	S＞S	AⓂⓁ少、CⓈⓂ微、DⓈⓈ少、EⓈ～Ⓜ中	25%
72	D29	〃 PL.53	〃 上層、最上層 〃	〃	〃	⑭	⑨		Ⅱ	S	AⓈ～Ⓛ中、BⓈⓈ微、CDⓈ～Ⓛ中、K少	46%
73	D23	〃 〃	〃 上層 〃	〃	甕B	⑦⑩⑫⑦			Ⅵ	S以下＞M	AⓂ～Ⓛ少、BⓈⓈ中、CⓈⓈ少、DⓈ～Ⓛ中、K中	52%
74	D24	〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑤			Ⅱ	M	ACⓂⓁ微、DⓂ極微、EⓈ～Ⓛ多	21%
75	D38	〃	〃 上層、最上層 〃	〃	鉢A	②			Ⅳ	SS	ADⓈ微、EⓈ中、FⓂⓁ微	54%
76	D37	〃	〃 上層 〃	〃	〃	②⑩⑭			Ⅱ	SS以下	BⓈ～Ⓜ多、DⓈⓂ少、EⓈ～Ⓛ中	54%
77	D40	〃	〃 上層、最上層 〃	〃	鉢B	⑥	⑦		Ⅳ	S以下	AⓈⓂ少、BⓂ微、K多	17%
78	D31	〃	〃 〃 〃 〃	〃	高坏A	㉑	㉒		Ⅱ	SS＞S	AEⓂ少、BⓈ～Ⓛ少、CⓈ～Ⓛ多、DⓂ～Ⓛ少	65%
79	D32	〃	〃 上層 〃	〃	〃	⑤	⑭	〃		SS	ADⓈⓂ微、CⓈ～Ⓜ微	13%
80	D30	〃	〃 上層、最上層 〃	〃	〃	⑦	㉓	〃		SS	BⓈⓈ少、CⓈ～Ⓛ微、DⓈ～Ⓛ少、EⓈ～Ⓛ中、K中	57%
81	E 6	第110図	〃 最上層 〃	〃	広口壺A	㉓㉓		〃		L	AⓂ～Ⓛ中、CⓈⓂⓁ少、EⓈ～Ⓛ中	33%
82	E 8	〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑧⑮			Ⅵ	S＞M	AⓈⓂ中、CⓈ微、DⓈⓂ少、EⓈⓂ微、K多	32%
83	E 5	〃 PL.53	〃 〃 〃	〃	〃	㉔	⑦		Ⅱ	S	AⓈⓂ中、EⓈⓂ少	21%
84	E 2	〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑦	⑭		Ⅵ	S以下	AⓈ～Ⓛ中、CⓈⓂ少、EⓈ～Ⓜ少、K多	38%
85	E 1	〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑥	⑭		Ⅴ	SS	BⓈⓈ少、CⓈ～Ⓜ少、DⓈ中、K少	21%
86	E 4	〃 PL.53	〃 〃 〃	〃	〃	⑧⑨⑨⑨			Ⅱ	S以下	AⓈ～Ⓛ少、BCⓈ～Ⓜ微、DⓈ～Ⓛ微、EⓈ～Ⓛ中	100%
87	E 7	〃	〃 〃 〃	〃	〃	㉔⑨	⑤		Ⅳ	S	CⓂ微、EⓈ～Ⓛ少、K少	21%
88	E 9	〃	〃 〃 〃	〃	〃	㉓	①		Ⅱ	SS	ACⓈ～Ⓜ微、EⓈ～Ⓜ少	13%
89	E12	〃	〃 〃 〃	〃	広口壺B	⑦⑯⑰⑱			〃	S＞M	BⓈ多、CⓈⓂ微、EⓈ～Ⓛ多	100%
90	E14	〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑦⑯			〃	SS以下	ACⓈ～Ⓜ微	8%
91	E11	〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑭			〃	SS以下	AⓂ微、EⓈ～Ⓛ少、K少	25%
92	E15	〃	〃 〃 〃	〃	〃	㉓⑭			Ⅵ	SS＞S	BⓈ中、CⓈⓂ中、DⓈ～Ⓛ多、EⓈ少	29%
93	E17	〃 PL.53	〃 〃 〃	〃	広口長頸壺	⑧			Ⅱ	S	ACⓈ～Ⓛ少、BⓈ～Ⓛ中、K少	73%
94	E19	〃	SD12 IA区と接合 〃	〃	二重口縁壺	⑧	⑦	〃		S以下	AⓂⓁ中、BDⓈⓂ少、CⓂⓁ少、EⓈⓂ多	13%
95	E18	〃	SD12最上層 〃	〃	〃	⑦			Ⅲ	SS以下	AⓈ～Ⓛ少、BⓈⓂ少、CⓈ～Ⓛ中	21%
96	E30	〃	〃 〃 〃	〃	甕A	⑭			Ⅱ	SS以下	CⓈ微、K中	17%
97	E36	〃 PL.53	〃 〃 〃	〃	〃	⑭⑪	②		Ⅳ	S	AⓈ～Ⓛ少、CⓈⓁ極微、EⓈ～Ⓛ多	23%
98	E28	〃 〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑦⑩⑩⑦			Ⅳ	S以下	AⓂ微、BDⓈⓂ微、CⓈ～Ⓛ少、EⓈⓂ少、K微	46%
99	E35	〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑦⑭			Ⅱ	SS以下	BⓈ～Ⓜ微、DEⓈⓂ微	21%
100	E27	〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑧		〃		S	ABⓈⓂ少、CⓈ微、DⓈⓂ微	8%
101	E32	〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑦		〃		S	AⓈⓂ中、CⓂ極微、K多	17%
102	E26	〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑰⑦		〃		S	AⓈ～Ⓛ中、CⓈ～Ⓛ少、K中	38%
103	E38	〃	〃 〃 〃	〃	甕D	⑭		〃		SS以下	CⓈⓂ微、K中	13%
104	E58	〃	〃 〃 〃	〃	鉢B	⑦①	①		Ⅵ	S	AⓁ微、BⓈⓈ少、CⓈ～Ⓛ少、DⓈⓂ微、K少	4%
105	E60	〃	〃 〃	〃	甑(底部)	⑦⑧			Ⅵ	M＞L	AⓂⓁ中、BⓈ少、CⓈ～Ⓛ中、K中	100%
106	E53	〃	〃 〃	〃	高坏A	⑦⑭	⑦		Ⅱ	SS以下	ADⓈ～Ⓛ少、BⓈⓈ微	98%
107	E48	〃	〃 〃	〃	〃	⑭		〃		SS	ACⓈⓂ微、DⓈⓂ極微、EⓂ極微、K少	21%
108	E49	〃	〃 〃	〃	〃	⑲	⑦⑰	〃		SS	BⓈⓈ少、CⓈ微、DⓈ少、EⓈⓂ少	29%
109	E54	〃 PL.53	〃 〃	〃	高坏B	㉓			Ⅳ	S＞M	CⓈⓂ微、DⓈ微、EⓈ～Ⓛ中	47%
110	E63	〃	〃 〃	〃	脚台	⑩⑫	㉑		Ⅱ	SS以下	AⓈ中、BⓈ微、EⓈ少	21%
111	2	第111図	SD11 IA区	〃	甕A	⑨⑭		〃		SS＞S	AⓂⓁ多、BⓈ～Ⓛ中、CⓈ～Ⓛ多、EⓈⓂ中	13%
112	1	〃	〃 〃	〃	甕B	⑧㉗		〃		S	ADⓈⓂ中、AⓁ少、Ⓛ微、BⓈ少、CⓈⓂ多、Ⓛ微、K少	4%
113	4	〃	〃 〃	〃	甕(底部)	㉓	⑦㉓		Ⅲ	SS	AⓁⓁ微、BⓈ多、CEⓈⓂ中	100%
114	3	〃	〃 〃	〃	脚台A	㉓	㉓		Ⅱ	SS以下	DⓈ微、EⓈ～Ⓛ多、K多	100%
115	2	〃 PL.54	SD18 〃	〃	高坏A	①		〃		SS	AⓈ～Ⓛ中、BⓈ少、DⓈⓂ少、EⓈⓂ中	69%
116	1	〃 〃	〃 〃	〃	脚台付壺	⑨⑨		〃		SS	BEⓈ中、DⓈⓂ中	62%
117	1	〃	SD20 〃	〃	壺(底部)	㉓			Ⅶ	SS以下	BDⓂⓁ少、CⓈⓂ少、EⓂ少	100%
118	1	〃	SD26 〃	〃	鉢A	⑧			Ⅱ	S	AⓁⓁ中、BⓈⓂ中、CⓈⓂ少、EⓈ～Ⓛ多	52%
119	1	〃 PL.54	SD14 〃	須恵器	壺	㉚		〃			AⓁ極微、DⓈⓂ微	77%
120	7	〃 〃	SD127 IB区	土師器	高坏D	⑦	㉔	〃		SS＞S	CⓈ～Ⓛ少、DⓂ少、EⓈ微、K中	50%
121	6	〃 〃	〃 〃	〃	〃	⑨⑭	㉔	〃		SS以下	AⓈ～Ⓛ少、BⓈ～Ⓛ微、CⓈ～Ⓛ微、DⓈ微、K少	65%
122	8	〃 〃	〃 〃	須恵器	坏蓋	㉘		〃		S以下	AⓈⓈ微、BⓈⓈ少、CⓈⓂ微	21%
123	1	〃	SI136 ID区	弥生土器	広口壺B	㉗	㉓		Ⅵ	M＞L	AⓂ～Ⓛ中、BⓈⓂ少、CⓈ～Ⓛ中、EⓈⓂ微、K多	17%
124	2	〃	〃 〃	〃	〃	①			Ⅱ	S	AⓈ～Ⓛ中、BⓈ中、CⓂ微	8%
125	3	〃	〃 〃	土師器	二重口縁壺	①			Ⅵ	S	ACⓈⓂ微、DⓈⓂⓁ少	4%
126	4	〃	〃 〃	〃	甕B	①			Ⅱ	M＞L	AⓂ少、BⓈ～Ⓜ中、CⓂ～Ⓛ中、DⓈ極微、K微	25%
127	5	〃 PL.54	〃 〃	〃	〃	㉓	⑦㉓	〃		S以下	AⓈⓂ中、BⓈ少、CⓈ～Ⓜ中、DⓈ～Ⓜ多、EⓈ～Ⓛ多、K少	38%
128	8	〃	〃 〃	〃	甕F	⑫		〃		SS	BⓈ少、HⓈⓈ少、JⓈⓈ多	8%
129	6	〃	〃 〃	〃	甕B	⑦⑤		〃		SS＞S	CⓈ～Ⓛ少、DⓈ～Ⓛ少、K微	13%
130	7	〃 PL.54	〃 〃	〃	〃	㉓			Ⅳ	M＞L	AⓈⓂ少、BⓈ～Ⓛ少、CⓈ～Ⓛ中、K中	42%
131	12	〃	〃 〃	弥生土器	脚台A	①			Ⅲ	SS	ACⓈⓂ少、BⓈ多、DⓈ～Ⓜ多、EⓈⓈ微、K少	100%
132	13	〃	〃 〃	〃	〃	⑨①		〃		SS	ACⓈ～Ⓛ中、BⓈⓈ少、EⓈ～Ⓛ中	100%
133	10	〃	〃 〃	〃	〃	⑭	①		Ⅳ	S＞M	AⓈⓁ少、CEⓈⓂ少、DⓈⓂ中	63%
134	9	〃	〃 〃	土師器	高坏D	⑨①			Ⅵ	M	AⓂ～Ⓛ中、BCⓂⓁ少、DⓈⓂ少	100%
135	11	〃 PL.54	〃 〃	〃	脚台F′	⑨⑨		〃		M＞L	AⓂ～Ⓛ多、BⓈⓂ少、CⓂⓁ多、K中	42%
136	17	〃	〃 〃	〃	脚台F	⑦⑤			Ⅱ	S＞M	BⓈⓂ中、CⓂ少、K少	69%
137	14	〃	〃 〃	〃	〃	⑲			Ⅳ	M＞S	AⓈ～Ⓛ少、CⓈ～Ⓛ少、DⓈⓂ中	8%
138	15	〃	〃 〃	〃	〃	①		〃		S＞M	AⓈ～Ⓛ中、CⓈⓂ微、EⓈ～Ⓛ少、K中	100%
139	35	第112図	SK141 〃	〃	短頸壺	⑨⑨	⑤		Ⅷ	S＞M	AⓂ少、BⓂ中、CⓂ極多、DⓈⓂ極多、EⓈ～Ⓜ中	62%
140	32	〃	〃 〃	〃	広口壺C	①			Ⅱ	M	ABCDⓈⓂ中、K少	17%

出土遺物観察一覧 No.3

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
141	34	第112図	ＳＫ141 ＩＤ区	土師器	短頸壺	⑭	⑦		Ⅱ	SS以下	Ⓐ〜Ⓜ少、Ⓒ〜Ⓛ微、ⒺⓈⓂ微、K多	4％
142	6	〃	〃 〃	〃	二重口縁壺	⑱	⑮		〃	SS	Ⓐ〜Ⓜ少、ⒷⓈⓈ少	17％
143	5	〃	〃 〃	〃	〃	⑩	⑮		〃	M＞S	Ⓐ〜Ⓛ少、Ⓒ〜Ⓛ中、ⒺⓈⓂ微、K少	8％
144	33	〃	〃 〃	〃	〃	⑦			〃	S	CDⓈⓂ中、ⒺⓈⓂ微、K少	4％
145	3	〃	〃 〃	〃	小形丸底壺	㉘			〃	S＞M	Ⓐ〜Ⓛ少、CⓂⓁ微、DⓈⓂ微、K多	21％
146	38	〃 PL.55	〃 〃	〃	壺（底体部）	⑭	⑦	⑭	〃	S	BⓈⓂ微、CⓂ〜Ⓘ少、DⓂ〜Ⓘ微、K中	53％
147	39	〃 〃	〃 〃	〃	壺（底体部）	㉔	㉗		〃	SS	ADⓈ〜Ⓛ微、EⓈ〜Ⓘ少、K少	69％
148	36	〃 〃	〃 〃	〃	短頸壺	㉗	㉞		〃	M＞L	ACⓈ〜Ⓘ中、EⓂ微、K少	57％
149	25	〃 〃	〃 〃	〃	甕	⑭			Ⅵ	SS	BCⓈⓈ多、ⒺⓈⓂ微、JⓈⓈ中、K少	42％
150	29	〃 〃	〃 〃	〃	甕Ｂ	㉔	⑧	⑤	Ⅳ	S＞M	AⓈ〜Ⓛ少、BⓈⓈ中、Cⓢ〜Ⓘ少、EⓂ微、K少	90％
151	14	第113図	〃 〃	〃	〃	⑦	⑩	①	Ⅱ	SS以下	Ⓐ極微、BⓈⓈ微、Dⓢ極微、K少	17％
152	16	〃	〃 〃	〃	〃	⑭	⑧		Ⅵ	M	ADⓈⓂ少、Bⓢ微、CEⓂ微、K少	21％
153	19	〃	〃 〃	〃	〃	⑮			Ⅱ	SS	AⓂ極微、CⓈⓂ少、EⓈⓂ中	17％
154	15	〃	〃 〃	〃	〃	⑦			〃	SS	BDⓈⓈ微、K少	4％
155	24	〃	〃 〃	〃	〃	⑮			〃	SS以下	EⓈ微、JⓈⓈ微、K少	8％
156	18	〃	〃 〃	〃	甕Ｆ	⑮			〃	SS以下	Bⓢ少、CⓈⓂ少、HⓈⓈ中、JⓈⓈ多	13％
157	20	〃	〃 〃	〃	〃	⑫			Ⅷ	M＞S	BⓈⓈ中、Cⓢ〜Ⓛ多、Dⓢ少、HJⓈ〜Ⓜ多	13％
158	27	〃 PL.55	〃 〃	〃	甕Ｂ	⑫	⑭	⑩	Ⅳ	SS＞S	Ⓐ〜Ⓘ多、BCDⓈⓂ中、K多	50％
159	22	〃	〃 〃	〃	甕Ｇ	㉙			Ⅷ	S・M	Ⓐ〜Ⓘ多、BⓈⓂ中、Cⓢ〜Ⓛ中、Dⓢ中、EⓈ少	13％
160	26	〃	〃 〃	〃	〃	⑦	⑫		Ⅱ	SS以下	BDⓈⓈ中、CⓈⓂ微、EⓈⓂ少、K中	13％
161	21	〃	〃 〃	〃	〃	⑮			Ⅵ	SS＞S	AⓂ極微、BCⓈ微、Dⓢ少	8％
162	30	〃	〃 〃	〃	〃	①			Ⅳ	SS	Aⓢ少、CⓈⓈ少、DⓈⓈ多、K中	8％
163	28	〃	〃 〃	〃	〃	⑫			Ⅱ	S	ABCⓈⓂ中、DⓈⓂ多、K多	17％
164	9	〃	〃 〃	〃	高坏Ｅ	⑦			〃	SS以下	AⓈⓂ中、Ⓘ微、BⓈⓈ微、CⓈⓂ少、K少	21％
165	43	〃	〃 〃	〃	〃	㉙			〃	SS以下	AⓂⓁ中、BⓈⓈ多、CⓈⓈ多、Ⓛ微、K多	8％
166	42	〃	〃 〃	〃	〃	㉙			〃	SS以下	ACⓢ少、BⓈⓈ中、K多	13％
167	44	〃	〃 〃	〃	高坏Ｆ	⑦	⑯		〃	SS以下	DⓈⓈ少、EⓈ微	100％
168	12	〃	〃 〃	〃	脚台Ｇ	㉙			〃	SS	BDⓈⓈ少、EⓈⓂ微、K微	100％
169	13	〃	〃 〃	〃	〃	㉙			〃	SS・S	BⓈⓈ中、DⓈⓂ中、EⓈⓂ少、K微	100％
170	11	〃	〃 〃	〃	脚台Ｆ	㉙	㉙		〃	S	ABⓈⓂ中、CⓈ微、EⓈⓂ少、K少	100％
171	23	〃	〃 〃	製塩土器	脚台Ⅲ	㉑			〃	SS以下	BⓈⓈ少、K微	100％
172	7	〃	〃 〃	土師器	器台（裾部）	㉙	⑮		〃	SS	EⓈ微、K多	4％
173	2	〃	ＳＤ147 〃	弥生土器	甕（底部）	⑦	㉙		Ⅶ	SS	BⓈ中、EⓈⓈ多	100％
174	1	〃	〃 〃	〃	甕（底体部）	⑦			Ⅳ	S以下	AⓈⓈ中、Cⓢ中、Dⓢ少、EⓈⓂ中	100％
175	イ直31	〃	遺構面直上層 ＩＡ区	〃	広口壺Ａ	②			Ⅱ	SS以下	AEⓈ〜Ⓛ微、BⓈ微、K多	8％
176	？4	〃	排土 〃	〃	〃	⑬	③	㉙	Ⅴ	SS	AⓈⓂ中・Ⓘ微、BⓈⓈ少、DⓂ微、EⓈⓈ微、K多	21％
177	イ直32	〃	遺構面直上層 〃	〃	〃	⑤	②	⑤	〃	SS＞M	Aⓢ〜Ⓘ少、BⓈ〜Ⓜ少、Cⓢ少、DⓂ微、EⓈⓂ微、K微	25％
178	？5	〃	排土 〃	〃	甕Ａ	⑤	㉞	①	Ⅱ	S	Aⓢ〜Ⓘ中、BⓈⓈ少、DⓂ微、Eⓢ〜Ⓛ中、K多	42％
179	包13	〃	包含層 〃	〃	鉢Ｂ	㉙	㉞		〃	SS	AⓈⓁ微、DⓈⓈ少・Ⓘ微、Eⓢ〜Ⓜ中、K少	8％
180	包11	〃	〃 ＩＤ区	須恵器	坏身	⑭	㉔		〃	SS	AⓈⓈ少、BⓈⓈ中、CⓈⓈ少・Ⓘ微、DⓂ微	86％
181	包10	〃	〃 〃	〃	〃	㉕			〃		EⓈ微、Iⓢ少	8％
182	包 9	〃	〃 〃	〃	坏蓋	㉘			Ⅵ		Aⓢ中、CⓂ少	13％
183	包12	〃	〃 〃	〃	壺（口縁部）	㉘			Ⅱ		Cⓢ少	8％
187	1	第115図P.L.56	ＳＫ36 ＩＡ区	須恵器	坏Ｂ	⑮			Ⅱ		DⓈ微、EⓈⓂ微	30％
188	2	〃 〃	〃 〃	〃	坏蓋	㉕			〃		AⓈⓈ少、EⓈⓂ少	17％
189	3	〃	〃 〃	〃	甕（口縁部）	㊾			Ⅰ			8％
190	2	〃	ＳＫ37 〃	〃	坏	㉘			Ⅱ		Ｂ微	—
191	1	〃	〃 〃	土師器	坏	㉘			〃		Aⓢ微、DEⓈⓈ中、K少	—
192	3	第117図	ＳＤ131 ＩＢ区	黒色土器Ａ	椀ｂ	㊶	①		〃		AⓈⓂ微、Cⓛ微、EⓈⓂ少	17％
193	1	〃	〃 〃	土師器	皿Ｄ	㉙	⑦		〃		BEⓈ微、DⓈⓈ中	13％
194	2	〃	〃 〃	〃	小皿D_2	⑦			〃		Cⓢ少、EⓈ微、K微	17％
195	5	〃	ＳＤ131 第２層 〃	〃	甕	㉙	㉙	⑩	Ⅵ	M	Aⓢ〜Ⓘ中、Bⓢ少、Cⓢ〜Ⓛ少、EⓈⓂ少、K少	8％
196	4	〃	ＳＤ131 〃	須恵器	壺（底部）	㉘	㉙		Ⅱ		Ｃ少	38％
197	3	〃	ＳＤ156 ＩＤ区	土師器	皿Ｄ	⑭			〃		DⓈ微、ED微	13％
198	2	〃	〃 〃	〃	皿A_2	⑭	⑲		〃		EⓈ〜Ⓜ中	17％
199	1	〃	〃 〃	〃	小皿B_1	㉘			〃		BⓈ微、EⓈ〜Ⓜ少、K微	46％
200	4	〃	〃 〃	須恵質	椀	㊺			〃		Iⓢ少	17％
201	5	第116図	ＳＢ45Ｐ131 柱当り ＩＡ区	黒色土器Ａ	椀ｂ	㊶	⑪	⑦	〃		Aⓛ微、Bⓢ微、Eⓢ〜Ⓛ多、K微	13％
202	4	〃	ＳＢ48Ｐ176 〃 〃	〃	椀Ｂ	㊶	㉔	⑪	〃		ADEⓈⓈ微	8％
203	2	〃	ＳＢ52Ｐ154 〃 〃	〃	椀（底部）	㉔			〃		CⓈⓂ少、EⓈ少、K微	29％
204	1	〃	ＳＢ42Ｐ128 〃 〃	〃	〃（〃）	㊶	⑩	⑩	〃		AⓈⓈ微、DEⓈ微、K少	33％
205	2	〃	ＳＢ46Ｐ324 掘形 〃	土師器	椀ｂ	⑥	⑦		Ⅳ		Aⓢ〜Ⓛ微、DⓈⓂ微、EⓈⓈ微、K微	13％
206	2	〃	ＳＢ45Ｐ102 柱当り 〃	〃	椀Ｂ	⑤			Ⅱ		EⓈⓂ少、K微	8％
207	1	〃 PL.56	ＳＢ41 〃	〃	皿ｂ	⑦	⑫		〃		DEⓈⓈ中、K多	92％
208	4	〃	ＳＢ45Ｐ131 掘形 〃	〃	〃	㉙	㉙		〃		Aⓢ微、DⓈⓂ少、EⓈⓂ中	42％
209	1	〃	ＳＢ51Ｐ030 柱当り 〃	〃	椀（底部）	⑦			〃		DⓈ微	46％
210	3	〃	ＳＢ46Ｐ404 〃 〃	〃	〃（〃）	①			〃		BⓈ微、EⓈ〜Ⓘ多	87％
211	1	〃	ＳＢ45Ｐ080 〃 〃	〃	〃（〃）	⑮	①		〃		AEⓈⓂ少	25％
212	1	〃	ＳＢ57Ｐ202 〃 〃	瓦器	椀Ｄ	㉔	㉔	㉙	Ⅴ		BⓈ〜Ⓜ微、DⓈⓈ多、EⓈⓂ	17％

出土遺物観察一覧 No.4

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
213	2	第116図	SB51P046 掘形 ⅠA区	瓦器	椀C	㊷			Ⅲ		DⓈⓂ少、EⓈⓂ微、K極微	13%
214	1	〃	SB56P201 柱当り 〃	〃	〃	㉔	㉔㊺		Ⅱ		BⓈ微、DⓈⓈ微	8%
215	6	〃	P172SB48を切る 〃	〃	〃	⑭	㊷		〃		EⓈⓈ微、K極微	8%
216	2	〃	SB57P207 柱当り 〃	〃	〃	㉔	①		〃		EⓈ少	13%
217	1	〃	SB49P301 〃 〃	〃	〃	㊷			Ⅰ			8%
218	3	〃	SB48P168 掘形 〃	土師器	皿A1	㊽	⑭		Ⅲ		CⓈ微、DⓈ～Ⓜ少、EⓈ～Ⓜ中	8%
219	2	〃	SB49P301 〃 〃	〃	皿薄丸大	⑦			Ⅱ		AⓁ微、BⓈ微、DⓈ少、EⓈ～Ⓛ微、K多	17%
220	3	〃	P256SB56を切る 〃	〃	皿A1薄丸大	⑮			〃		EⓈⓂ少、K微	8%
221	3	〃	SB51P048 柱当り 〃	〃	小皿D3	⑦			〃		EⓈ少	17%
222	1	〃	SB52P125 〃 〃	〃	小皿D2	㊽			Ⅴ		BⓈ微、DⓈ多、EⓂ微、K少	13%
223	2	〃	SB42P140 〃 〃	〃	小皿E	①			Ⅱ		DⓈⓈ微、EⓈⓈ少	13%
224	5	〃	P172SB48を切る 〃	〃	皿A1	㊽			Ⅲ		BⓈⓂ少、EⓈⓂ 微、K少	29%
225	1	〃	SB48P008 柱当り 〃	〃	小皿B1	⑫			Ⅱ		EⓈ少、K多	42%
226	2	〃	SB56P225 〃 〃	〃	小皿A1	⑮㉚			Ⅵ		CⓈ微、EⓈⓂⓁ多	21%
227	3	〃	SB57P213 掘形 〃	〃	〃	㊽			Ⅱ		EⓈⓈ微	4%
228	2	〃	SB48P077 〃 〃	〃	〃	㊾②			〃		DⓈ～Ⓜ微、EⓈ微、K微	21%
229		〃 PL.56	P453 〃	黒色土器A	椀B	㉚	㉗㊹		〃		DⓈ中、EⓈ少	57%
230		〃	P409 〃	〃	椀b	㊶	㊽㊹		〃		AⓈ～Ⓜ微、CⓈ～Ⓛ微、DⓈ微、EⓈ～Ⓜ中、K微	25%
231		〃	P453 〃	土師器	〃	⑨	⑥⑨		Ⅳ		AⓈⓈ多、CⓈ少、EⓈ微	38%
232		〃	P235 〃	瓦器	椀B	㊶			Ⅱ		DⓈ微	4%
233		〃	P307 〃	〃	椀C	㊷			〃		DⓈ少	29%
234		〃	P124 〃	〃	〃	㉕	㉔		〃		DⓈ少、K少	35%
235		〃	P072 〃	〃	〃	㊹			Ⅰ			19%
236		〃	P332 〃	〃	〃	㉕	㊷		Ⅱ		BⓈ微、EⓈ微	29%
237		〃	P507 〃	〃	〃	㊷	㊺		Ⅰ			13%
238		〃 PL.56	P608 〃	〃	〃	㉚			〃			51%
239		〃	P204 〃	〃	〃	㊷			Ⅱ		DⓂ極微	15%
240		〃	P096 〃	〃	小皿	㊻			〃		DⓈ微、K微	33%
241		〃	P275 〃	土師器	皿C	㉞			Ⅲ		EⓈⓈ微	13%
242		〃 PL.56	P427 ⅠA区	〃	皿薄丸大	⑦⑰			Ⅱ		DEⓈ少	48%
243		〃	P235 〃	〃	皿D3	㉚	⑦		〃		DⓈ多、EⓈⓂ少	29%
244		〃 PL.56	P432 〃	〃	小皿A1(小丸)	㉚	⑦		〃		DⓈⓂ少、EⓈⓂ中、K微	88%
245		〃 〃	P311 〃	〃	小皿A1	㉞			〃		DEⓈⓈ少	84%
246		〃	P235 〃	〃	甕B	㉞	㉞㉟		Ⅸ	M＞S	AⓈ～Ⓛ多、BⓈ～Ⓛ微、DⓈ～Ⓛ多、EⓂ少、K微	13%
247	1	第118図	SK67 〃	〃	皿C	㉟㉟			Ⅱ		DⓈ微、EⓈ～Ⓛ少	38%
248	1	〃	SK71 〃	〃	皿薄丸大	㉟			〃		DⓈ少、EⓈⓂ少	34%
249	1	〃	SK76 〃	須恵質	捏鉢	㉔			Ⅳ		BⓈ中、K少	4%
250	D5	〃 PL.56	SK91上層、セク7接合 〃	瓦器	椀C	㉕	㉔		Ⅰ			58%
255・256		〃	SK91上層 〃	〃	〃	㉔	㊷		〃			—
261~266		〃	〃 〃	〃	〃	㊷㊺	㉔		〃			—
251	B3	〃 PL.56	SK91下層、上層接合 〃	〃	〃	㊷			〃			69%
254	B4	〃 〃	SK91下層 〃	〃	〃	㊷			〃			40%
258	C1	〃 〃	SK91中層、上層接合 〃	〃	〃	㊷			〃			36%
253・257・260		〃 〃	SK91砂層 〃	〃	〃	㉝㉟			〃			—
263	14	〃	SK91土層1 〃	〃	椀	㉔			〃			13%
252・259		〃	SK91 〃	〃	椀C	㉔㉚			〃			—
267・269		〃	SK91上層 〃	〃	小皿	㉔㉔㉔㉔			〃			—
268	4	〃	SK91土層 〃	〃	〃	㉔			〃			44%
270	10	〃 PL.56	SK91砂層 〃	〃	〃	㊹			Ⅱ		FⓈⓈ中	100%
271	13	〃	SK91 〃	土師器	皿C薄丸大	㉝㊼			〃			8%
272	B1	〃	SK91下層 〃	〃	皿C	⑭㊸			〃		DⓈ少	17%
273	D17	〃	SK91上層 〃	〃	〃	㉚			〃		BⓈ微、EⓈⓈ微	8%
274	3	〃	SK91砂層 〃	〃	〃	⑦			〃		BⓈ少、EⓈ～Ⓜ少、K多	25%
275	1	〃	SK91 〃	〃	小皿A1	⑧	㊽		Ⅵ		AⓈⓂ多・Ⓛ微、BⓈⓂ多、EⓈ多	42%
276~281		〃 PL.56	SK91上層 〃	〃	〃	⑦⑲㉔㉚			Ⅰ			—
282	12	〃	SK91第3層 〃	〃	〃	㊽			Ⅳ		CDⓈ少	8%
283	D3	〃	SK91上層 〃	〃	小皿C	㉞			Ⅱ		BⓈ中、EⓈ極微、K中	48%
284	B5	〃	SK91セク下層 〃	〃	〃	⑦㊽			Ⅲ		BⓈⓈ微、EⓈ～Ⓜ少、K微	25%
285~287		〃 PL.56	SK91上層 〃	〃	土釜A	⑫⑭⑮⑰			Ⅷ	SS＞S	AⓈ～Ⓛ多、BCDⓈⓂ多、EⓈ少、K多	—
288	B6	〃	SK91下層 〃	〃	〃	⑫			Ⅵ	M＞S	AⓈⓁ少、CDⓈⓂ中、CⓁ少、K多	8%
289	D26	〃	SK91上層 〃	白磁	碗	㊸			Ⅱ			13%
290~295		第119図PL.57	SK92 〃	土師器	皿大平	⑭⑮⑯⑱⑰			Ⅰ			—
296~299		〃 〃	〃 〃	〃	小皿小平	⑰⑭⑮			〃			—
300・301		〃	〃 〃	〃	皿大丸	⑭			Ⅱ			—
302・303		〃	〃 〃	〃	小皿薄丸小	㉞			〃			—
304	14	〃	〃 〃	備前	擂鉢(底部)	㊼㉔	㊼		〃		BⓈ～Ⓛ中、DⓈ少、K多	25%
305	17	〃	〃 〃	青磁	碗	㊿	㊺		〃			8%
306	1	〃	SE93 〃	土師器	皿大平(底部)	⑫			Ⅰ		EⓁ少、K中	21%
307	1ソ1	〃	〃 第1層 〃	〃	小皿小平	㉞			〃		EⓈ微	21%
308	2ソ1	〃	〃 第2層 〃	〃	小皿NG	⑦㊽			Ⅱ		EⓈⓈ少、K多	31%

出土遺物観察一覧 No.5

土器番号・登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
309 2	第119図	ＳＥ93 ＩＡ区	瀬戸美濃	天目茶碗	㊼	㊸		Ⅱ		CE㊎微	4％
310 セ3	〃 ＰＬ.57	ＳＤ96セク南第２層	〃 瓦器	椀Ｂ	㊷	⑰		〃		E㊎㊎多、F①極微、K少	40％
311 12	〃	ＳＤ96	〃 〃	〃	㉔			Ⅰ			13％
312・313	〃	〃	〃 〃	椀Ｄ	㉔	㉔		〃			—
314・316	〃 ＰＬ.57	〃	〃 〃	椀Ｃ	㉔			〃			—
315 セ2	〃	ＳＤ96セク南第２層	〃 〃	椀Ｄ	㊷			〃			17％
317 16	〃	ＳＤ96	〃 〃	椀Ｃ	㊹			Ⅱ		B㊎少、D㊎極微	14％
318 底1	〃 ＰＬ.57	〃	〃 〃	〃	㊷			Ⅰ			81％
319~321	〃	〃	〃 〃	椀(底体部)	㉔			〃			—
322 底2	〃	〃	〃 〃	小皿	㉔	㊷		Ⅱ		D㊎微、K極微	100％
323 Ｂ3	〃	〃 下層	〃 〃	〃	㉔㉕㉔			〃		A㊓微、D㊎~㊓多	33％
324 Ｄ3	〃	〃 上層	〃 〃	〃	㊷			Ⅰ			29％
325 11	〃	〃	〃 〃	小皿Ｂ1	⑰			Ⅱ		A①極微、C㊓極微、E㊎極微、K多	46％
326・327	〃	〃	〃 土師器	皿Ｄ	⑦㊽⑦㊽			〃		326は、E㊎㊓多、327は、D㊎少、E㊎㊓少、K極微	—
328 Ｄ1	〃 ＰＬ.57	〃 上層	〃 〃	皿Ｃ	㉙			〃		D㊎微	42％
329 Ｂ1	〃 〃	〃 下層	〃 〃	〃	㉙			〃		D㊎多、E㊎微	100％
330・331	〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃	㉙			Ⅲ		330D㊎~㊓中、E㊎極微、331D㊎少、E㊎~㊓少	—
332・333	〃 〃	〃	〃 〃	小皿Ｄ2	㉙⑦㊽㊽			Ⅱ		332B㊎少、D㊎㊓微、333D㊓中、E㊎少、①微	—
334 Ｄ4	〃 〃	〃 上層	〃 〃	〃	⑮㉔			Ⅵ		A㊎少、BD㊎中、C㊎微、E㊎㊎中、K多	100％
335 Ｂ5	〃 〃	〃 下層	〃 〃	小皿Ａ1	㉔			Ⅱ		D㊎中、E㊎少	100％
336 Ｄ2	〃 〃	〃 上層	〃 〃	〃	㊽㊽			〃		BD㊎㊎中、E㊎少	100％
337 7	〃 〃	〃	〃 〃	小皿Ｂ1	⑰㊽			Ⅵ		B㊎㊓少、D㊎㊓微、E㊎少、K中	100％
338・339	〃 〃	〃	〃 〃	〃	㊽㊽㊽⑰			Ⅱ		338・339はBD㊎㊓少、E㊎~㊓多、K中	—
340 1	〃	ＳＤ97	〃 〃	皿ｂ	㊽			〃		B㊎少、C㊎微、E㊎㊎多、K少	18％
341 1	〃	ＳＤ101	〃 〃	皿a1	⑦	㊽		〃		ACD㊓微、E㊎~①多、K微	21％
342 20	〃	ＳＤ96	〃 須恵質	捏鉢	㉕㊺			〃		D㊎極微	8％
343 26ソ2	第120図ＰＬ.58	ＳＤ102第26層	〃 瓦器	椀Ａ	㊹			Ⅰ			100％
344・347	〃 〃	〃 〃	〃 〃	椀Ｃ	㊽㉔			Ⅱ		344はD㊓極微、347はA㊓①微、B㊎㊎微、D㊎微	—
345・349~354	〃 〃	〃 第22層	〃 〃	〃	㊷㊺㊽㊺			Ⅲ		349はBC多、D㊎中、350はD㊎微	—
346・348	〃 〃	〃 第23層	〃 〃	〃	㉔㊺㊷㊺			Ⅱ		D㊎少、E㊎少	—
355 22ソ19	〃	〃 第22層	〃 〃	鉢	㉔㊷	㊷		Ⅰ			17％
356~360	〃 ＰＬ.58	〃 〃	〃 〃	小皿	㉔㊽㊷㊺			Ⅱ		C㊎少、D㊎㊓微、K㊎少	—
361・362	〃	〃 〃	〃 土師器	皿Ａ1	㊽㊽			〃		361はB㊎微、E㊎少、362はDE㊎中、F多	—
364 22ソ37	〃	〃 〃	〃 〃	〃	㊽			〃	S	AD㊎微、E㊎㊓中	25％
363 23ソ7	〃 ＰＬ.58	〃 第23層	〃 〃	皿薄丸大	㉔			〃		D㊎㊎少	57％
365 23ソ1	〃 〃	〃 〃	〃 〃	小皿Ａ1	㊽			〃		D㊎微、E㊎㊓多	54％
366 24ソ1	〃 〃	〃 セク第24層	〃 〃	〃	㊽⑦			Ⅵ		B微、E㊓中	88％
367 22ソ24	〃	〃 第22層	〃 瓦器	小皿	㊽			Ⅱ		DE㊎㊎微	17％
368・371・372	〃	〃 〃	〃 土師器	土釜Ａ	⑭⑮⑦⑪			Ⅵ	S	AD㊎㊓多、B㊎㊓中、C㊎㊓少、K多	—
369 26ソ5	〃	〃 第26層	〃 〃	〃	⑫⑩			〃	SS＞S	A㊓①中、B㊎㊓中、D㊎㊓多、E㊎㊎中、K多	8％
370 23ソ5	〃	〃 第23層	〃 〃	〃	⑯			〃	SS＞S	A㊎㊓多、B㊓①少、C㊎㊓少、D㊓中	29％
373 22ソ21	〃	〃 第22、20、4層	〃 須恵質	捏鉢	㉔			〃		B㊎㊎多、C㊎~㊓多、D㊎㊎微	100％
374 22ソ23	〃	〃 第22層	〃 〃	〃	㉗			Ⅶ		B㊎㊎中、D㊎微	—
375 19ソ23	〃	〃 第22、19、18層	〃 〃	〃（底部）	㉔			Ⅵ		B㊎~㊓多、C㊎微、D㊎㊓少	29％
376 22ソ22	〃	〃 第22、19層	〃 〃	椀	㉔			Ⅱ		B㊎少、D㊎㊎中	33％
377 22ソ31	〃	〃 第22層	〃 〃	甕	㊷			〃		B㊎中、C㊎少	13％
378 23ソ9	〃	〃 第23層	〃 青磁	碗	㊾	㊺		〃			4％
379~382	第121図ＰＬ.59	〃 第19層	〃 瓦器	椀Ｃ	㉔㊷㊷			Ⅰ			—
383 20ソ2	〃	〃 第20層	〃 〃	〃	㊷			〃			25％
384 19ソ9	〃 ＰＬ.59	〃 第19層	〃 〃	小皿	㉚			〃			100％
385 19ソ33	〃	〃 〃	〃 〃	小皿Ａ1	㊹			〃			48％
386・387	〃 ＰＬ.59	〃 〃	〃 土師器	〃	㉚㉚⑦			Ⅲ		D㊎少、E㊎㊓少、F①①微	—
388・389	〃 〃	〃 〃	〃 〃	皿Ａ1	㉔㉔㉚㉚			Ⅱ		E㊎㊓微、K微	—
390・391	〃 〃	〃 セク第19層	〃 〃	〃	㉚㉗			Ⅵ		B極微、D㊎微、E㊎~㊓少	—
392~394	〃 〃	〃 第19層	〃 〃	〃	㉚㉚㉚			Ⅱ		B㊎少、C①微、D㊎少、E㊓①中	—
395 19ソ8	〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 a1（A1）				Ⅲ		A㊎少、BC多、E㊎少、K極多	28％
396・398	〃 〃	〃 〃	〃 〃	土釜Ａ	⑩⑦⑭⑩			Ⅵ	S	A㊎~㊓多、B㊎~㊓中、C㊎㊓中、D㊎~㊓多、K多	—
399・401	〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃	⑭⑧			Ⅱ	S	A㊎㊓多、B㊎~㊓中、C㊎㊓少、D㊎~㊓極多、E㊎㊓中	—
397 19ソ17	〃 〃	〃 セク第19層	〃 〃	土釜Ａ	⑮			Ⅷ	S	A㊓少、B㊎㊓少、C㊎㊓中、D㊎㊓多・①微、E㊎極微	23％
400 19ソ26	〃	〃 〃	〃 〃	〃	⑦⑩			Ⅵ	S	AD㊎㊓中、B㊎少、E㊎㊎微、K少	17％
402 19ソ13	〃	〃 第19、22層	〃 須恵質	捏鉢	㊷			Ⅱ		B㊎多㊎微	13％
403 20ソ1	〃	〃 第20層	〃 〃	〃	㉔			〃		BC多、㊎多、C①微	8％
404 19ソ12	〃	〃 第19層	〃 〃	〃	㉔			〃		BD㊓少、C多	13％
405 19ソ22	〃	〃 セク第19層	〃 〃	〃（底部）	㉔ ⑦㊺			Ⅵ		BD㊎㊎中	42％
406 18ソ3	第122図	〃 第18層	〃 瓦器	椀Ｃ	㊷			Ⅰ			8％
407 18ソ7	〃	〃 〃	〃 土師器	皿薄丸大	㉔			Ⅱ		E㊎~①少	17％
408 17ソ2	〃	〃 セク第17層	〃 〃	小皿薄丸小	㉔			Ⅳ	S	C㊎微、E㊎~①中	28％
409 18ソ2	〃	〃 第18層	〃 瓦器	小皿	㉔			Ⅱ		B㊎少、D㊎少	25％
410 17ソ3	〃	〃 セク第17層	〃 〃	〃	㊷			〃		B㊎微	17％
411 18ソ1	〃	〃 第18層	〃 土師器	小皿Ｃ	⑦㉔			〃		AD㊎少、B㊎㊎微、E㊎㊓少	33％

第ＩＡ区

出土遺物観察一覧 No.6

土器番号・登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
412・413	第122図	ＳＤ102第18層 ＩＡ区	土師器	土釜Ａ	⑭⑭⑮⑫	Ⅵ	S	ADE(S)(M)多、B(S)～(M)多、C(S)(M)少、K多	—
414 18ソ6	〃	〃 〃 〃	須恵質	捏鉢	⑮	Ⅱ		B(S)(S)微、C(S)微、D(S)(S)中	4％
415 17ソ1	〃	〃 第17層 〃	須恵器	甕	㉔ ㊼	〃	M	B(S)(M)少、C(S)(M)中	8％
416 15ソ2	〃 ＰＬ.60	〃 第15層 〃	瓦器	椀C	㉔	Ⅶ		B(S)(S)少、D(S)(M)中	82％
417 15ソ4	〃	〃 セク第15層 〃	〃	〃	⑭	Ⅱ		A(M)微、B(S)～(M)微、C(M)極微、E(S)～(M)多、K多	27％
418 15ソ5	〃	〃 〃 〃 〃	土師器	皿薄丸大	㉔	〃		E(S)～(M)少	13％
419 15ソ1	〃 ＰＬ.60	〃 第15層 〃	瓦器	小皿	㉔	Ⅲ			42％
420・421	〃	〃 〃 〃	土師器	土釜Ｂ	⑦①⑭⑧	Ⅵ	SS・S	AD(S)～(M)多、B(S)(S)少、C(S)～(M)中、E(S)微、K多	—
422 15ソ7	〃	〃 セク第15層 〃	須恵器	捏鉢	⑦⑮	Ⅶ	SS	AB(S)少、C(S)中、D(S)～(L)中、K中	30％
423～426	〃	〃 第４層 〃	瓦器	椀C	㉚㉕㉔㊷	Ⅰ			—
427 4ソ10	〃	〃 〃 〃	土師器	皿薄丸大	⑭	Ⅱ		B(S)微、K微	17％
428 4ソ5	〃	〃 〃 〃	〃	皿C	⑦	〃		B(S)少、E(S)(M)少、K微	13％
429 4ソ1	〃 ＰＬ.60	〃 〃 〃	〃	皿B1	㊲	〃			46％
430 5ソ8	〃 〃	〃 セク第５層 〃	〃	小皿小丸	㊳	〃		B微、E(S)(M)少、I(S)微	34％
431・435	〃 〃	〃 第５層 〃	〃	小皿小平	㊳㊳	〃		B(S)少、E(S)(M)少	—
437～439	〃 〃	〃 〃 〃	〃	小皿小平	㊳㊳㊳㊳	〃		BD(S)少、E(S)～(M)中、K多、F多	—
432～434	〃 〃	〃 〃 〃	〃	皿大平	⑦㊳	Ⅲ		B(S)～(M)少、E(S)～(L)中、K多	—
436 5ソ7	〃	〃 セク第５層 〃	〃	小皿小平	㊴ ㊴㊴	Ⅱ		B(S)(S)微、D(S)(S)少、E(S)微、K少	46％
440・441	〃	〃 第４層 〃	〃	土釜Ａ	⑭⑯⑫⑩	Ⅵ	M	A(S)～(L)極多、B(S)(M)少、CD(S)(M)中、E(S)微、K少	—
442・443	〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑮	Ⅳ	S・M	A(S)～(L)中、B(S)(S)少、C(S)～(L)多、E(S)～(L)少	—
444 5ソ10	〃	〃 第５層 〃	瓦質	甕	㊲ ㊺	Ⅱ	SS以下多	B(S)少、D(S)(M)中、E(S)極微	13％
445 4ソ4	〃	〃 第４層 〃	須恵質	捏鉢	㉔	〃		B(S)(S)少、C(S)(M)微、D(L)中	17％
446・447	〃	〃 セク第５層 〃	備前	擂鉢	㊼	〃		B(S)～(L)中、C(M)(L)微、D(S)(S)少	—
448～450	第123図 ＰＬ.60	〃 第３層 〃	瓦器	椀C	㊷㊸	〃		BC(S)微、E(S)(M)少	—
451 3ソ16	〃	〃 第３層、第２層 〃	〃	〃	㉗㉔㊶㊼	〃		E(S)(M)多、F(M)微	28％
452 3ソ6	〃	〃 第３層 〃	〃	椀D	㊷ ㊽	Ⅰ			23％
453・454	〃	〃 〃 〃	〃	椀C	㉔㊸	〃			—
455・456	〃 ＰＬ.60	〃 〃 〃	土師器	皿A1	㊳㊸	Ⅲ		BC(S)(S)中、D(S)(M)少、E(S)(M)中	—
457～461	〃 〃	〃 〃 〃	瓦器	小皿	㉔㊽㊺㊷	Ⅵ		BC(S)少、K少	—
462～464	〃	〃 〃 〃	土師器	土釜Ａ	⑩㊷⑦	〃	S・M	A(S)(M)多・(L)微、BC(S)(M)少、D(S)～(L)多、E(S)微、K中	—
465 3ソ18	〃	〃 〃 〃	須恵質	捏鉢	㉔	Ⅱ		B(S)(S)微、D(S)(S)少	8％
466 3ソ17	〃	〃 〃 〃	〃	椀	㉔	〃		B(S)(S)微、I(S)微	21％
467 3ソ15	〃	〃 〃 〃	〃	甕	㉕ ㉚	〃	SS以下多	BD(S)(M)多、E(S)(M)中	17％
468 3ソ34	〃	〃 セク第３層 〃	瀬戸美濃	灰釉平皿	㉔ ㊵	Ⅵ		BC(S)(S)微	38％
469～473	〃	〃 第１層 〃	瓦器	椀C	㊷㉔㊺㊹	Ⅱ		B(S)微、D(S)(M)少、E(S)極微、K少	—
474～476	〃 ＰＬ.60	〃 〃 〃	土師器	皿A1	⑫㊸㊹⑦	Ⅳ		A(L)微、BE(S)～(M)多、CH(S)多、K極多	—
477 1ソ22	〃	〃 〃 〃	瓦器	小皿	㊷	Ⅴ		BD(S)(S)微	75％
478～480	〃 ＰＬ.60	〃 〃 〃	土師器	小皿A1	⑦㊸㊸⑭	Ⅱ	SS	B(S)少、D(S)(S)多、E(S)(S)微、K微、479胎土Ⅵ	—
481～485	〃	〃 〃 〃	〃	土釜Ａ	⑦⑫⑭⑧	Ⅷ	S・M	A(S)(M)多、B(S)～(M)中、CD(S)～(L)中、E(S)(M)少、K多	—
486 1ソ8	〃	〃 〃 〃	〃	土釜Ｂ	⑭⑫ ⑭	Ⅵ	S	A(S)中、B(S)(S)少、C(S)少、D(S)～(M)中、K多	13％
487 1ソ9	〃	〃 〃 〃	須恵質	捏鉢	㉔	Ⅱ		B(S)(S)微、D(S)(S)少	8％
488 1ソ34	〃	〃 〃 〃	青磁	碗	㊶	〃			8％
489・490	第124図	〃 第２層 〃	瓦器	椀C	㉔㊸	Ⅰ			—
491～500	〃 ＰＬ.61	〃 〃 〃	〃	〃	㉔㊹㊷㊺	Ⅲ		A(S)(M)微、B(S)～(M)中、C(M)微、D(S)(M)多、E(S)少、K少	—
501～503	〃 〃	〃 〃 〃	〃	小皿	㉔㊹㊺㊺	〃		B(S)(S)多、CI多、D(S)(M)多	—
504～506	〃 〃	〃 〃 〃	土師器	小皿A1	⑦㊸⑮㊼	Ⅱ		B(S)(M)微、DE(S)(M)少、F(L)微	—
507～513	〃 〃	〃 〃 〃	〃	皿A1	㊸㊸㊻⑦	Ⅳ		B(S)(S)少、D(S)～(M)少、E(S)～(M)中、F(L)微	—
514 2ソ4	〃 〃	〃 〃 〃	〃	皿C	㊸	Ⅲ		D(S)少	27％
515～517	〃 〃	〃 〃 〃	〃	土釜Ａ	⑦①⑮	Ⅵ	S・M	A(S)～(L)多、B(S)～(M)中、C(S)～(M)多、E(S)(M)微、K多	—
518 2ソ46	〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑮㊷⑭⑩	Ⅱ	SS	A(S)～(L)中、C(M)～(L)少、D(S)(M)多、K多	8％
519～521	〃 ＰＬ.61	〃 〃 〃	〃	〃	⑦⑫㊷⑯	Ⅵ	S・M	AD(S)～(L)多、B(S)(S)少、C(S)(M)中、E(S)(M)少、K多	
522 2ソ28	〃	〃 〃 〃	〃	土釜Ｂ	⑦	Ⅷ	S	AD(S)(M)多、BE(S)(M)少、C(S)少、K中	13％
523 2ソ60	〃	〃 第２層、最上層 〃	瓦質	土釜(足釜)	㊷	Ⅱ	SS以下多	B(S)多、K多	8％
524 2ソ38	〃	〃 第２層、第３層 〃	須恵質	捏鉢	㉚	〃		B(S)中、D(S)少	17％
525 2ソ76	〃	〃 第２層 〃	青磁	碗	㊾ ㊺	Ⅰ			17％
526 2ソ77	〃	〃 第２層 〃	〃	輪花碗	㊾ ㉕	〃			13％
527 Ａ1	第125図 ＰＬ.62	〃 最下層 〃	瓦器	椀C	㉔㊷	〃			71％
528 Ｂ5	〃 〃	〃 下層 〃	〃	〃	〃	〃			80％
529 Ｂ2	〃 〃	〃 下層第３層 〃	〃	〃	〃	Ⅵ		B(S)微、D(S)(M)中、K少	100％
530 Ｂ3	〃	〃 〃 〃 〃	〃	〃	〃	Ⅱ		E(M)微	38％
531 Ｂ7	〃 ＰＬ.62	〃 下層 〃	土師器	皿A1	㊳	〃		BDE(S)(S)中	31％
532 Ｂ4	〃	〃 下層第３層 〃	〃	小皿A1	⑭	〃		A(M)微、D(S)(S)中、K少	33％
533 Ｂ9	〃	〃 トレンチ下層 〃	〃	土釜Ａ	⑦	Ⅵ	S	A(S)(S)多、C(S)少、D(S)多、E(S)(M)少、K中	8％
534 Ｂ8	〃 ＰＬ.62	〃 下層第３層、上層 〃	〃	土釜Ｂ	⑦⑫	〃	S＞M	C(S)中、D(S)～(L)多、K多	82％
535 Ｂ1	〃	〃 下層 〃	瓦器	足釜	㊸ ㉔㊷	Ⅱ		I微	—
536 Ｂ10	〃	〃 下層第３層 〃	須恵質	捏鉢	㊷	〃		B(S)(S)中、D(S)(S)少	13％
537 Ｄ28	〃 ＰＬ.62	〃 トレンチ上層 〃	瓦器	椀C	㊷	Ⅲ			75％
538～541	〃 〃	〃 上層 〃	〃	椀C	㊷㉔㊸	Ⅵ		C(S)少、D(S)～(L)多、胎土538・540 Ⅱ	—
542 Ｅ1	〃	〃 最上層 〃	〃	小椀	㊷	Ⅱ		D(S)(S)極微	23％
543～545	〃 ＰＬ.62	〃 上層 〃	〃	小皿	㊷㉕㉔	〃		DJ(S)(L)(S)少	—

出土遺物観察一覧 No.7

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器(部位)	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
546・547		第125図PL.62	SD102上層 ＩA区	瓦器	小皿	㉔㉕㊷	Ⅵ		BDⓈⓈ多	—
548	D13	〃	〃 〃 〃	土師器	皿A1	㊳	Ⅱ		AⓁⓁ微、BⓈ少、DⓈ中	69%
549	E 2	〃 PL.62	〃 東肩側溝最上面〃	〃	〃	⑯	〃		DⓈⓈ中、EⓈⓂ中、K中	84%
550・551		〃 〃	〃 上層 〃	〃	〃	㉞⑯②	〃		BⓈⓈ多、DⓈⓈ中・Ⓜ微、EⓈ～Ⓛ少	—
552～554		〃 〃	〃 〃 〃	〃	小皿A1	②㉝㊴	〃		BⓈⓈ少、DⓈⓈ中、EⓈ～Ⓜ少、K少	—
555	D66	〃	〃 〃 〃	〃	小皿小丸	㉞	〃		AⓈ極微、CⓈ極微	23%
556	D60	〃	〃 〃 〃	〃	小皿小平	㊳	〃		EⓈⓂ少	33%
557	10	〃	〃 層不明 〃	〃	土釜A	㊱	Ⅵ	S＞M	AⓈⓂ多、BCEⓈⓂ少、DⓈⓂ中、K中	29%
558	D68	〃	〃 上層 〃	〃	土釜B	⑦	Ⅳ	S・M	AⓈⓂ多、CⓈⓂ少、DⓈ少、K中	8 %
559	D67	〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑦ ⑮	Ⅷ	S＞M	AⓈ～Ⓛ多、CDⓈⓂ少、K中	8 %
560	D44	〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑦	Ⅵ	M	AⓈⓂ多、BⓈ少、CⓈⓂ少、DⓈⓂ中、K中	4 %
561	D37	〃	〃 上層、下層 〃	須恵質	捏鉢	㊷㉒ ㊷	Ⅱ		AⓈ～Ⓛ少、BⓈⓈ少、CⓂ微、D微	8 %
562	D32	〃	〃 上層 〃	〃	〃	㉔	Ⅵ		BⓈ微、DⓈⓈ少、IⓁ微	4 %
563	D69	〃	〃 〃 〃	青磁	碗	㊾ ㉕	Ⅳ		CⓈⓂ少	13%
564	D70	〃	〃 〃 〃	〃	〃	㊿ ㊺	Ⅰ			8 %
565	D72	〃	〃 〃 〃	白磁	〃	㊸	〃			8 %
566	10	第126図	SD103 〃	土師器	皿A1	㊳	Ⅱ		BDⓈ少	13%
567	14	〃	〃 〃	〃	皿A	㊴	〃		DⓈⓈ少、EⓈ微	9 %
568～570		〃	〃 〃	〃	皿C	㊴㊴㊴	〃		BⓈ少、DEⓈⓈ少、FⓂ微	—
571・572・575		〃	〃 〃	〃	皿A1	㊴㊴	〃		BⓈⓈ中、DⓈ少、EⓈⓂ少、KⓈ多	—
573・574・576		〃	〃 〃	〃	小皿A1	㊳	〃		BⓈⓈ多、CⓈ中、EⓈⓈ少、FⓁ微	—
577	2	〃	〃 〃	唐津	碗(底部)	㊼㊺ ㉑	Ⅵ		BⓈ微	50%
578	3	〃	〃 〃	白磁	〃(〃)	㊹ ㊺	〃		CⓈⓈ微	25%
579	99	〃	SD111 〃	瓦器	椀	㉔	Ⅰ			21%
580	34	〃	SD111 〃	〃	〃	㉔	Ⅱ		DⓈ微	29%
581	100	〃	〃 〃	〃	小皿	㊷	Ⅳ			28%
582	45	〃	〃 〃	土師器	皿大丸	㊳	Ⅱ		DⓈ少	21%
583	91	〃	〃 〃	〃	小皿小丸	㊳	〃		EⓈⓂ少	25%
584・585		〃	〃 〃	〃	皿大平	㊳	〃		CIⓈ微、EⓂⓁ微	—
586	68	〃	〃 〃	〃	皿大丸	㊳	〃		BⓈ微、EⓈ極微	29%
587	48	〃	〃 〃	〃	皿大平	㊳	〃		DⓈ極微、EⓈⓂ極微	30%
588	98	〃	〃 〃	〃	小皿小丸	⑦⑤	Ⅴ	SS以下	BCⓈ～Ⓜ微、EⓈⓈ少	29%
589～596		〃 PL.63	〃 〃	〃	皿大平	㊴㊳	Ⅱ		BⓈ微、DⓈⓈ微、EⓈ～Ⓜ極微、IⓈ微	—
597	59	〃	〃 〃	〃	皿大平	㊴	〃		BⓈ微、DⓈ微、EⓈⓈ微	21%
598～605		〃 PL.63	〃 〃	〃	皿大平	㊳㊳㊳㊳	〃		AⓁ微、BⓈ～Ⓜ微、DⓈⓈ少・Ⓛ微、EⓈ～Ⓛ微	—
									FⓂⓁ極微、IⓈ少	—
606～608		〃 PL.63	〃 〃	〃	皿大平	㊳	Ⅲ		AⓂⓁ微、BⓈ中、CⓈ少、EⓈ中、FK多、IⓈⓈ中	—
609～614		〃	〃 〃	〃	小皿小平	㊳㊳㊴	〃		BⓈ少、CⓈ～Ⓛ微、DⓈⓈ少、EⓈ～Ⓛ微、FK多	—
615・617・619		〃 PL.63	〃 〃	〃	〃	㊳㊳㊴	〃		BCⓈ少、DⓈ極微、EⓈ～Ⓛ少	—
616・618		〃	〃 〃	〃	〃	㊳㊴	〃		BⓈ微、EⓈⓁ微、IⓈ微	—
620～623		〃	〃 〃	〃	〃	㊳㊴	Ⅱ		BⓈⓈ少、CⓈ微、DⓈ少、EⓈ～Ⓛ少、FⓈ少、IⓈⓈ微	—
624	38	〃	〃 〃	〃	土釜A	⑦	Ⅵ	SS以下	ABⓈⓂ少、CDⓈⓂ中、K少	4 %
625・626		〃	〃 〃	〃	〃	⑭	Ⅳ	S	AⓈⓂ中・Ⓛ微、BCDEⓈⓂ微、K少	—
627	33	〃	〃 〃	〃	足釜	㉚ ㉝	Ⅱ		AⓁ微、CⓂ微、HⓈ微、K少	13%
628	30	〃	〃 〃	〃	捏鉢	㉙ ㉛	〃		AⓂ微、BCⓂ少、EⓈ中、K極多	8 %
629	41	〃	〃 〃	〃	土釜C	㉞⑦	Ⅳ	SS＞S	ACⓈⓈ中、BⓈⓈ少、DⓈⓂ中、K微	8 %
630	61	〃	〃 〃	瓦器	〃	㉒㉔	Ⅱ	SS以下多	BⓈ少、CⓈⓂ中、K少	13%
631・632		〃	〃 〃	須恵質	捏鉢	㉔㉚	〃		BⓈⓈ微、DⓈ～Ⓜ少・ⓁⓁ微	—
633	31	〃	〃 〃	備前	擂鉢	㊼	〃		CⓂ少、DFⓁ微、KⓈ微	50%
634	7	第127図	SD112 〃	土師器	皿大平	㊳	〃		CEⓈ微、K微	19%
635～639		〃 PL.63	〃 〃	〃	小皿小平	②㉝㊴	〃		BⓈ～Ⓜ少、EⓈ～Ⓛ微、DⓈ微、IⓈ少	—
640	5	〃 〃	〃 〃	〃	皿大丸	㊳	〃		EⓈⓂ少	50%
641・642		〃	〃 〃	〃	小皿小丸	㊳㊳	〃		BⓈ微、DEⓈ微	—
643	10	〃	〃 〃	〃	捏鉢	⑩ ⑦	〃	S	BⓈ中、CⓈ～Ⓛ少、DⓈⓁ微、EⓈ微	8 %
644	11	〃	〃 〃	備前	擂鉢(体部)	⑥	〃		BⓈ微、DⓈ微、GⓁ微	—
645	12	〃	〃 〃	白磁	碗	㊷	Ⅳ			8 %
646	1	〃 PL.63	SD113 〃	土師器	皿薄丸大	㊳	Ⅵ		BCIⓈ微、EⓁ極微	17%
647	2	〃 〃	〃 〃	〃	〃	㊳	Ⅱ		BⓂ極微、DⓈ微、E中	42%
648	包 1	〃	包含層 ＩB区	黒色土器A	椀b	㊶ ㊸	〃		AⓁ微、BⓂ微、DⓈ微、EⓈⓂ少	15%
649	包 7	〃 PL.63	〃 ＩD区	〃	椀	㊶ ①	Ⅳ		AⓈⓂ少・Ⓛ微、CⓈⓂ少、EⓈⓂ中	85%
650	値16	〃	遺構面直上層 ＩA区	瓦器	椀B	㊷	Ⅰ			17%
651	値14	〃	〃 〃	〃	椀C	㉔	〃			46%
652	？2	〃 PL.63	？ 〃	〃	椀c	㉕㉔	Ⅵ		CⓈ少、DⓈ多・Ⓜ微、K少	89%
653	値12	〃	遺構面直上層 〃	土師器	皿C	㊴ ㊳	Ⅱ		DⓈⓈ中、EⓈ～Ⓜ中	23%
654	値13	〃	〃 〃	〃	皿B1	㊳ ⑦	Ⅵ		BⓈⓈ多、DⓈⓂ中、EFⓁ微	15%
655・657		〃 PL.63	〃 〃	〃	小皿A1	⑦㊳	Ⅱ		DⓈ少、EⓈⓂ微	—
656	値4	〃	〃 〃	〃	〃	⑦㊳	Ⅵ		DⓈⓂ多、EⓈⓂ中	34%
658～662		〃 PL.63	包含層 ＩD区	〃	小皿F	㊳㊳⑦⑩⑭	Ⅲ		AⓈⓂ少、BCⓈ中、DEⓈⓈ微	—
663～665		〃 〃	遺構面直上層 ＩA区	〃	皿大平	㊴㊳	Ⅱ		BⓈ多、DⓈ中、EⓈ微	—
666・667		〃 〃	〃 〃	〃	小皿小平	㊴㊳	〃		BⓈ少、DⓈⓈ少、EⓈⓂ微	—

出土遺物観察一覧 No.8

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
668	値2	第127図ＰＬ.63	遺構面直上層 ＩＡ区	土師器	小皿小丸	⑦	㊳㊴		Ⅵ		BⓈ～Ⓛ多、DEⓈ～Ⓜ多	94%
669	包8	〃	包含層 ＩＤ区	〃	土釜	㊴	⑦		〃	M＞S	AⓈⓂ中・ⓁⓁ少、CⓈ～Ⓛ少、DⓈ微、EⓈⓂ微、K多	4%
670	？3	〃	排土 ＩＡ区	瓦器	甕	㉕	㉔		Ⅱ		BⓈⓈ多、DⓈ～Ⓛ多	8%
671・672		〃	遺構面直上層 〃	須恵質	捏鉢	㉔	㉚	㉕㉚	〃		BⓈⓈ微、DⓈⓈ中、K少	—
673	etc1	〃	ユンボWへ2ｍ拡張	須恵器	長頸壺	㊷			〃		DⓈⓈ少	—
674	値25	〃	遺構面直上層 ＩＡ区	青磁	同安窯皿Ⅱ段	㊾	㊺		Ⅰ			29%
675	5	〃	ＳＤ96 〃	土師器	土錘	㉔			Ⅱ		BⓈ中 （5.2ｇ）	
676	12	〃	〃 〃	〃	〃	㊳			Ⅵ		CⓈⓂ少 （2.5ｇ）	
677	？2	〃	？ 〃	瓦器	〃	㊷			Ⅱ		BⓈ中 （1.2ｇ）	
678	P	〃	Ｐ72 〃	土師器	〃	⑳			〃		K中 6.3ｇ	
679	？3	〃	？ 〃	〃	〃	⑭			〃		BDⓈ少、K多 （5.1ｇ）	
680	セ1	〃	中央セク土層第4層 〃	〃	〃	⑦			〃		BⓈ少、DEⓈ中 （7.2ｇ）	
681	11	〃	ＳＤ96 〃	〃	〃	㊴			〃		EⓈⓂ多 5.4ｇ	
682	10	〃	〃 〃	〃	〃	⑦			〃		BⓈ～Ⓜ少、K微 （6.9ｇ）	
683	1	〃	ＳＤ102第1層 〃	瓦器	〃	⑥㊷			〃		EⓈ微 （2.3ｇ）	
684	1	〃	ＳＤ96上層 〃	土師器	〃	㉕㉔			〃		BⓈ少、E少 （5.9ｇ）	
685	？1	〃	？ 〃	〃	〃	⑦㊳			〃		K多 （4.4ｇ）	
686	7	〃	ＳＤ96 〃	〃	〃	㊷㉔			〃		BⓈ微、CⓂ微、DⓈ微、EK中 （6.0ｇ）	
687	8	〃	〃 〃	〃	〃	⑭㉕			Ⅵ		K多 6.5ｇ	
688	セ3	〃	北タン第8層 〃	〃	〃	㊷			Ⅱ		AⓈ少、K多 9.0ｇ	
689	6	〃	ＳＤ96 〃	〃	〃	⑭			〃		BⓈⓂ中、DⓈⓂ少、HⓂ微、K多 （7.7ｇ）	
690	9	〃	〃 〃	〃	〃	㊷㉔			〃		BⓈ 8.2ｇ	
691	8	〃	遺構面直上層 〃	〃	〃	⑭			〃		K多 3.6ｇ	
692	包4	〃	包含層 ＩＤ区	〃	〃	㊳			〃		AⓈ微、EⓈ～Ⓜ少、K多 4.9ｇ	
693	値5	〃	遺構面直上層 ＩＡ区	〃	〃	⑭			〃		DⓈ少、EⓈ微、K多 （4.2ｇ）	
694	値7	〃	〃 〃	〃	〃	⑯			〃		EⓈⓂ少、K多 3.6ｇ	
695	値12	〃	〃 〃	〃	〃	⑦			〃		DⓈ微、EⓈ少 9.3ｇ	
696	値11	〃	〃 〃	〃	〃	⑦㊳			〃		DⓈⓈ中 （8.8ｇ）	
697	値14	〃	〃 〃	〃	〃	⑪			〃		BⓈ少、K多 （5.5ｇ）	
698	値13	〃	〃 〃	〃	〃	⑦⑭			〃		AⓈⓂ中、K多 6.1ｇ	
699	4	〃	ＳＤ96 〃	〃	〃	⑫			〃		BⓈⓈ微、DⓈ中、EⓈ微、K少 （32.0ｇ）	
700	14	〃	〃 セク中央第1層 〃	〃	〃	⑮⑯	⑩		〃		CⓈⓈ微、EⓈ少、K多 （12.3ｇ）	
701	1	〃	ＳＢ46 〃	〃	〃	⑩			〃		AEⓈⓂ微、CⓂ微、K多 29.8ｇ	
702		〃	Ｐ129 〃	〃	〃	㊲			〃		CⓂⓁ少、EⓈⓂ微、K多 30.5ｇ	
703		〃	Ｐ102 〃	〃	〃	⑫			〃		BⓈ少、DⓈ中、K多 63.7ｇ	
704	3	〃	ＳＢ45 〃	〃	〃	⑯			〃		K多 （63.8ｇ）	
705	値2	〃	遺構面直上層 〃	〃	〃	⑦⑪			〃		BⓈ微、DⓈ中、EⓈ～Ⓜ中、K多 （43.7ｇ）	
706	1	〃	ＳＥ91上層 〃	〃	〃	㊳㊳			〃		DⓈ少、EⓈⓂ中、K多 122ｇ	
707	値1	〃	遺構面直上層 〃	〃	〃	⑦㊲			〃		BDⓈⓈ中、EⓈⓂ中、K中 （98.8ｇ）	

出土遺物観察一覧 No.9

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1	6	第131図	S I 170 N E区	弥生土器	壺（底部）	㊷ ㊽㊽	Ⅷ	S＞LL	A㊊微、B㊎～Ⓜ中、CⓂ～㊊少、E㊎～Ⓜ少	50%
2	D29	第132図	S I 174上層	土師器	甕B（F）	⑩⑩⑨⑩	Ⅱ	SS以下	A㊎～㊊微、C㊎～Ⓜ微、D㊎Ⓜ微、K微	49%
S I 161										
3	P 4	第133図	P13、埋土	弥生土器	広口壺A	① ⑮	Ⅱ	SS以下	B㊎微、C㊊微、E㊎少、K微	21%
4	P 2	〃	P 8	〃	壺	①	〃	SS	AD㊎微、B㊎㊎微、C㊎Ⓜ微、E㊎Ⓜ少、K微	25%
5・6		〃	埋土	〃	壺（底部）	㊺②⑦⑥	〃	SS以下	ADE㊎Ⓜ微、B㊎～Ⓜ少、K㊎多	—
7	1	〃	〃	〃	〃（〃）	① ㊽⑦	〃	SS以下	CⓂ極微、D㊎極微、E㊎～Ⓜ中	100%
8	4	〃	〃	〃	甕A	㉓ ⑦	〃	M＞L	A㊊少、B㊎Ⓜ少、DⓂ㊊中、E㊎～㊊極多、K少	4%
9	5	〃	〃	〃	甕D	⑱㊽	〃	SS以下	ADE㊎Ⓜ微、B㊎㊎微、CⓂ微、K微	—
10	7	〃	〃	〃	甕（底部）	⑱	〃	SS	B㊎㊎微・㊊微、D㊊少、E㊎Ⓜ少、K中	50%
11	F 1	〃	床直	〃	高坏A	⑦	〃	S	AⓂ㊊微、D㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓜ少	25%
12	P 1	〃 PL.64	P 1	〃	脚台A	⑦⑮	〃	SS	C㊎微、D㊎少、E㊎㊎中	57%
13	10	〃	埋土	〃	〃（裾部）	②	〃	SS	B㊎微、CⓂ微、D㊎㊎微	13%
14	8	〃	〃	〃	〃（〃）	⑦	〃	SS	AⓂ㊊極微、B㊎微、D㊎㊎微、E㊎～Ⓜ微、K中	8%
S I 162										
15	B 1	第133図	セク下層、S E区中層	弥生土器	広口壺A	⑭ ①	Ⅲ	S	A㊎～㊊多、C㊊微、D㊎Ⓜ微、E㊎Ⓜ少、K多	25%
16	F 1	〃	S E区床直	〃	〃	①	Ⅱ	S以下	AⓂ少、BⓂ微、C㊊㊊極微、D㊎微、E㊎～Ⓜ中、K微	13%
17	C 1	〃 PL.64	S E区中層	〃	長頸壺	⑱	Ⅲ	SS以下	BC㊎㊎微、D㊎微、E㊎Ⓜ少	50%
18	F 2	〃	S E区床直、埋土	〃	〃	⑫ ㊽	〃	S	AⓂ～㊊微、B㊎微、D㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓜ微	21%
19	B 2	〃 PL.64	セク下層、セク上層	〃	〃	⑦㊽①⑭	Ⅵ	S＞M	AE㊎Ⓜ中、B㊎少、C㊎～Ⓜ中、K中	42%
20	C 2	〃	S E区中層	〃	壺（底部）	⑩⑮ ①	Ⅲ	SS＞S	A㊊極微・㊎少、B㊎～Ⓜ多、CⓂ極微、D㊎Ⓜ微	100%
21	F 3	〃	S E区床直、N W区上層	〃	甕A	⑦ ①	Ⅳ	S以下	A㊎㊎少、C㊎Ⓜ微、E㊎Ⓜ少、K中	17%
22	C 3	〃	S W区中層	〃	甕C	⑭ ②	Ⅱ	SS＞S	C㊎Ⓜ少、DⓂ少、E㊎Ⓜ少・㊊微、K少	13%
23	D 1	〃	セク上層	〃	甕D	④	〃	L	AC㊊少・A㊊微、BⓂ㊊少、DⓂ㊊中、EⓂ微、K少	25%
24	F 5	〃	N W区床直、上層	〃	〃	⑩⑮	〃	SS	A㊎～㊊少・㊊微、B㊎㊎微、C㊎～Ⓜ少・㊊微、E㊎～Ⓜ微	17%
25	F 4	〃	N E区床直、S E区中層他	〃	〃	⑭⑮	〃	SS	A㊊微、CⓂ微、E㊎少、K少	38%
26	F 7	〃	S W区床直、S E区中層	〃	〃	①	〃	M	B㊊極微、C㊎～㊊微、D㊎～㊊微、E㊎～Ⓜ微	33%
27	F 6	〃	S E区床直	〃	〃	⑦ ㊽⑫	〃	S＞M	BE㊎㊎少、CⓂ～㊊微、D㊎～Ⓜ少、K中	8%
28	F 8	〃	N W区床直	〃	甕（底部）	①㊽ ①	〃	S以下	A㊎㊎少、B㊎㊎微、C㊎少・㊊微、K中	100%
29	F 9	〃	S W区床直、S E区床直	〃	鉢A	⑤	〃	S	B㊎Ⓜ少、E㊎～㊊少・㊊微、K少	59%
30	F10	〃	N E区床直	〃	高坏A	⑩ ④	〃	SS	A㊊微、B㊎少、CE㊎Ⓜ少、K多	13%
31	F11	〃	S E区床直、S W区中層	〃	高坏（基部）	① ⑤	Ⅳ	S＞M	A㊎～㊊少、B㊎㊎微、C㊎～㊊少、E㊎～㊊中、K少	100%
32	B 3	〃	セク下層	〃	脚台A	⑭	Ⅲ	S	AⓂ㊊少、B㊎Ⓜ多、D㊊微、E㊎Ⓜ中、K少	100%
33	C 4	〃 PL.64	S E区中層	〃	器台（体部）	㊽⑦⑫⑦	Ⅱ	S	BC㊎㊎少、D㊎微、E㊎～Ⓜ中、K中	71%
S I 163										
34	A 1	第134図PL.64	中央炉東（最下層扱い）	弥生土器	広口壺A	⑦⑤	Ⅱ	SS以下	A㊎～㊊微、B㊎～Ⓜ少、E㊎～㊊少、K多	38%
35	A 2	〃 〃	中央炉東、P1542と接合	〃	二重口縁壺	⑦⑤①⑦	〃	SS＞S	A㊎～㊊中、C㊎～㊊少、E㊎～Ⓜ少、K多	42%
36	R 1	〃 〃	炉土層第1層、埋土	〃	〃	⑦	〃	SS以下	B㊎微、D㊎～Ⓜ微、E㊎～㊊微、K極多	77%
37	A18	〃	床近く、埋土	〃	小形壺	①	〃	S以下	A㊎㊎少、B㊎少、C㊎㊎少・Ⓜ微	75%
38	A19	〃	中央炉東、N区埋土、床近く	〃	〃	⑦㊽	〃	SS	B㊎極微、D㊎～Ⓜ微、E㊎㊎少	100%
39	A17	〃 PL.65	中央炉東、中層、炉	〃	甕A	⑦⑱⑥⑫	Ⅳ	S＞M	B㊎～Ⓜ微、CE㊎～Ⓜ少、D㊎～㊊中	82%
40	R 2	〃 〃	炉	〃	〃	④	Ⅱ	M＞S	AⓂ～㊊少、BⓂ少、CⓂ㊊少、DⓂ㊊多、E㊎～Ⓜ多、K多	75%
41	A 4	〃	中央炉東、N区埋土他	〃	〃	⑯ ⑤㉒	Ⅳ	S＞M	B㊎Ⓜ微、D㊎～㊊少、E㊎微、K少	62%
42	R 3	〃	炉、埋土	〃	〃	①	Ⅱ	SS	A㊎～㊊中、C㊎～㊊微、D㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓜ少、K多	13%
43	A 5	〃	中央炉東、埋土	〃	甕B	⑤ ⑤①	Ⅲ	SS	A㊎～Ⓜ中、B㊎㊎少、C㊎～㊊中、D㊎Ⓜ少、E㊎～㊊多、K中	46%
44	F 1	〃	床、埋土	〃	甕D	㊽ ㊽	Ⅱ	SS以下	AⓂ極微、B㊎少、C㊎～㊊微、D㊎～Ⓜ中、E㊎～㊊中	38%
45	R 4	〃	炉、第2層炉	〃	〃	①⑦ ①	〃	SS以下	A㊎Ⓜ微、B㊎㊎中、D㊎～Ⓜ少、E㊎～㊊多、K多	17%
46	A 7	〃	中央炉東	〃	鉢A	⑦㊼⑦㊽	Ⅳ	SS	D㊎微、E㊎多、K微	13%
47	A 8	〃	〃	〃	〃	①⑦	〃	SS以下	B㊎㊎微、C㊎～Ⓜ少、D㊎～㊊微、E㊎～Ⓜ中、K少	29%
48	A 6	〃	〃	〃	〃（小形）	⑦㊽⑫⑦	V	SS	B㊎㊎少、D㊎Ⓜ極微、E㊎～Ⓜ少	54%
49	21	〃 PL.65	埋土	〃	鉢	㊽⑫㊽㊺	〃	SS以下	B㊎㊎少、C㊎～Ⓜ微、D㊎～㊊微、E㊎～㊊微	51%
50	A 9	〃 PL.64	中央炉東、中層	〃	甑	①⑫	Ⅱ	SS以下	AC㊎～㊊少、B㊎～Ⓜ少、DⓂ㊊微、E㊎～㊊少、K少	67%
51	A16	〃	中央炉東	〃	器台	①	Ⅳ	SS	B㊎㊎少、C㊎Ⓜ微、E㊎微、K少	21%
52	A15	第135図	中央炉東、埋土	〃	高坏A	⑦⑱	Ⅱ	SS	B㊎少、CⓂ微、D㊎少、E㊎㊎多、K少	56%
53	A14	〃 PL.65	〃 〃	〃	〃	①	〃	SS以下	AⓂ微、C㊎～㊊微、D㊎～Ⓜ微、E㊎～㊊多、K㊎少	56%
54	A13	〃 〃	中央炉東	〃	〃	⑤⑲	〃	S	A㊎～㊊少、C㊎微、D㊎～Ⓜ微、E㊎Ⓜ少	54%
55	A10	〃	〃	〃	〃	⑦⑭	V	SS	A㊎㊎少・Ⓜ㊊微、B㊎㊎少、C㊎～㊊微、D㊎㊎少、K多	4%
56	A20	〃	床近く、埋土	〃	脚台A	⑮	Ⅱ	S以下	AC㊎少、DⓂ極微、E㊎Ⓜ少、K中	63%
57	1	〃 PL.64	埋土	〃	広口壺A	⑦⑱	〃	SS	AⓂ～㊊極微、BE㊎～Ⓜ中、C㊎㊎少、D㊎～Ⓜ微、K多	83%
58	2	〃 PL.65	N区埋土、埋土	〃	細頸壺	⑧	Ⅳ	S以下	A㊎㊎少、C㊎～Ⓜ中、EⓂ微	79%
59	4	〃	埋土	〃	壺（異形）	⑤	V	SS	A㊎Ⓜ微、B㊎～Ⓜ微、D㊎㊎少、E㊎～Ⓜ多	13%
60	3	〃	〃	〃	二重口縁壺	⑩⑭	Ⅱ	S	B㊎微、E㊎㊎極微、K多	13%
61	C 1	〃	中層	〃	甕B	⑦⑤	〃	L	A㊎～㊊少、B㊎㊎微、C㊎～㊊少、D㊎～㊊中・㊊微、E㊎～㊊中、K中	3%
62	7	〃	埋土	〃	甕A	⑭	〃	SS＞S	AⓂ～㊊微、B㊎～Ⓜ微、C㊎～㊊微、D㊎～㊊中、E㊎Ⓜ少	58%
63	8	〃	〃	〃	〃	⑤㊽	〃	SS	AⓂ少、B㊎多・Ⓜ少、E㊎㊊㊊少	13%
64	14	〃	〃	〃	甕D	⑪ ⑦	〃	S	CⓂ微、E㊎～㊊微、K中	13%
65	16	〃	〃	〃	〃	⑭⑮	V	SS	A㊎～㊊少、B㊎微、C㊎㊎微、K微	21%
66	15	〃	〃	〃	〃	⑦⑳	Ⅱ	SS以下	A㊎～㊊微、B㊎㊎微、E㊎～Ⓜ微、K中	17%
67	11	〃	〃	〃	〃	⑤⑲	〃	M	ACE㊎～㊊微、B㊎～㊊少、D㊎～㊊微、K中	17%
68	13	〃	S W区、埋土	〃	〃	①	Ⅶ	SS	A㊎～㊊少、B㊎㊎少、E㊎～㊊少、K微	21%

出土遺物観察一覧 No.10

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
69	C 2	第135図	中層、埋土	弥生土器	甕(底体部)	①	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓛ微、B㊎微、CⓂ微、D㊎微、E㊎～Ⓜ少、K微	75%
70	24	〃 PL.65	埋土	〃	鉢A	⑧⑦⑧⑧	〃	SS以下	B㊎～Ⓛ少、CⓂⓁ微、DE㊎～Ⓜ少	65%
71	20	〃 PL.64	〃	〃	鉢C	⑧	Ⅲ	SS以下	A㊎～Ⓜ極微、B㊎微、DE㊎～Ⓜ少	52%
72	23	〃 PL.65	埋土、P1541	〃	把手付鉢	⑦⑤⑦④	Ⅳ	SS＞S	A㊎Ⓜ少、BE㊎㊎少、CⓂⓁ微、K中	57%
73	22	〃	埋土	〃	鉢(小形)	①⑭	Ⅸ	S＞M	AC㊎～Ⓜ少、B㊎～Ⓜ多、K中	54%
74	32	〃	〃	〃	高坏B	⑤	Ⅶ	S	A㊎～Ⓛ中、B㊎微、E㊎～Ⓘ中、K多	13%
75	29	〃	N区埋土	〃	高坏A	⑦	Ⅱ	S＞M	A㊎Ⓜ少、BEⓂ微、CⓂ極微、D㊎～Ⓜ微	4%
76	31	〃	埋土	〃	〃	①⑭	〃	S	B㊎～Ⓜ微、C㊎微、K少	17%
77	C 3	〃 PL.65	中層、N区埋土	〃	高坏B	⑤	Ⅴ	SS以下	A㊎～Ⓘ中、B㊎～Ⓜ少、C㊎～Ⓜ微、K中	49%
78	36	〃	埋土	〃	器台	⑦④	Ⅳ	S以下	A㊎㊎少、C㊎～Ⓜ少、K中	13%
SⅠ164										
79	F 1	第136図PL.66	床直、NE区下層	弥生土器	広口壺B	①⑦	Ⅴ	SS＞S	AⓂ～Ⓘ微、B㊎～Ⓜ少、CⓂ～Ⓘ少、D㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓘ多	63%
80	G 2	〃 〃	壁溝、セク第3層、SE区	〃	脚台付壺	⑧ ⑥①	Ⅱ	SS	AD㊎～Ⓜ少、B㊎㊎微、CⓂ微、E㊎～Ⓘ多、K極多	4%
81	G 1	〃	壁溝、セク第3層、SW区中層	〃	壺(底体部)	⑦⑧①④	〃	SS以下	B㊎㊎微、CⓂⓂ極微、E㊎～Ⓘ少、K中	81%
82	F 3	〃	NW区床直	〃	甕D	③ ⑦	Ⅶ	M	ABCD㊎Ⓜ中、E㊎～Ⓛ少、K少	8%
83	F 4	〃	NE区床直、セク第2層	〃	鉢A	②⑫ ㉔	Ⅳ	SS以下	A㊎Ⓜ極微、B㊎～Ⓜ微、K微	63%
84	F 7	〃	床直、NE区下層	〃	高坏A	⑥①	Ⅱ	SS以下	AⒾ微、B㊎㊎少、C㊎微、K少	13%
85	F 6	〃	NE区床直、NE区下層	〃	〃	⑦	〃	S以下	C㊎少、D㊎微、EⓂⒾ少、K中	54%
86	F 5	〃 PL.66	NW区床直、NE区下層他	〃	鉢A(高坏?)	⑤⑩ ②	〃	SS	A㊎～Ⓜ少、B㊎㊎少、E㊎～Ⓘ中、K少	46%
87	F 8	〃	NE区床直	〃	脚台A	① ⑦①	〃	S＞M	AC㊎～Ⓘ少、B㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓜ少、K極微	52%
88	B 3	〃 PL.66	SW区下層、SE区上層他	〃	広口壺A	①⑩①⑦	〃	SS	AⓂⒾ微、B㊎Ⓜ少、D㊎～Ⓜ中、EⓂⒾ少	50%
89	B 2	〃	SW区下層、中層	〃	〃	⑦⑤ ⑤	Ⅲ	SS以下	A㊎㊎少、C㊎～Ⓜ中、E㊎Ⓜ多、K多	46%
90	B 1	〃	NW区下層	〃	〃	⑦ ⑦⑭	Ⅱ	SS＞S	A㊎ⓂⒾ微、BC㊎㊎少、D㊎微、E㊎～Ⓜ少、K中	25%
91	B42	〃	NE区下層、セク第1層他	〃	〃	① ⑤	〃	SS＞S	AⓂ～Ⓛ微、B㊎㊎中、C㊎少、E㊎Ⓜ少、K少	42%
92	B 5	〃	NE区下層	〃	広口壺B	⑧⑦ ⑦	〃	S	A㊎極微、CⓂ極微、D㊎～Ⓘ少、E㊎㊎少、K微	17%
93	B 6	〃	〃 〃	〃	広口壺C	⑫ ⑦	〃	SS以下	B㊎㊎微、C㊎～Ⓜ微、D㊎Ⓜ微、K中	21%
94	B 8	〃 PL.66	SW区下層、セク第2層	〃	長頸壺	㊺⑧⑦⑧	Ⅴ	SS以下	A㊎㊎微、B㊎少、C㊎㊎極微、D㊎㊎少、E㊎～Ⓘ少、K少	83%
95	B 9	〃 〃	SW区下層	〃	太頸壺	①⑩	Ⅲ	SS＞S	AⓂ～Ⓘ微、BC㊎㊎中、E㊎～Ⓜ少、K中	100%
96	B11	〃	NE区下層、セク第3層他	〃	壺(底体部)	⑩⑨⑦⑧	Ⅱ	SS以下	AⓂ微、B㊎～Ⓜ少、C㊎Ⓜ微、D㊎微、E㊎～Ⓜ中、K少	69%
97	B13	〃 PL.67	NW区下層、NE区下層他	〃	甕A	⑦⑭	Ⅵ	L	AE㊎～Ⓘ中、C㊎～Ⓘ少、D㊎～Ⓘ多	60%
98	B16	〃	NW区下層、NW区床直	〃	甕B	①⑧	〃	S＞M	AⓂⓁ少、B㊎～Ⓜ少、CE㊎Ⓜ微、D㊎～Ⓘ少、K微	25%
99	B17	〃	NE区下層	〃	甕C	⑦⑭ ⑦	Ⅱ	S	B㊎少、C㊎㊎微、D㊎Ⓜ少、E㊎Ⓜ微、K多	17%
100	B21	〃	NW区下層	〃	甕D	⑤ ④	〃	SS	AD㊎微、C㊎微、EⓂ～Ⓘ少、K微	13%
101	B20	〃 PL.66	NE区下層、S区中層他	〃	〃	⑦⑥⑧⑦	Ⅲ	SS	AⓂ微、B㊎微、C㊎Ⓜ微、D㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓘ少	36%
102	B25	〃 PL.67	SW区下層、セク第2層他	〃	〃	①④①②	Ⅱ	SS＞S	B㊎～Ⓜ微、CⓂ～Ⓘ微、D㊎～Ⓜ中、E㊎～Ⓘ少、K中	75%
103	B18	第137図	SW区下層、SE区中層	〃	〃	⑩	〃	SS	A㊎～Ⓛ少、B㊎多、C㊎多・Ⓘ微、K多	8%
104	B26	〃 PL.67	SW区下層、SW区中層	〃	鉢A	⑦	Ⅲ	SS以下	A㊎少、C㊎㊎少、E㊎～Ⓘ多	75%
105	B27	〃 〃	NE区下層	〃	鉢B	②②②②	〃	SS	ACⓂ極微、B㊎㊎微、D㊎～Ⓜ微、K少	65%
106	B30	〃 〃	NW区下層、セク第3層	〃	高坏A	⑦	Ⅱ	SS以下	A㊎Ⓜ微、B㊎㊎少、C㊎微、D㊎㊎微、E㊎～Ⓜ多、K微	67%
107	B28	〃 〃	NW区下層、中層、セク2層他	〃	高坏B	② ⑦②	Ⅲ	SS以下	A㊎Ⓜ微、B㊎微、D㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓘ多	83%
108	B31	〃	NE区下層	〃	〃	⑥⑩⑦⑭	Ⅱ	SS以下	B㊎少、E㊎～Ⓜ微、K中	8%
109	B33	〃	〃 〃	〃	脚台A	⑥ ⑦	〃	SS以下	BC㊎㊎少、K少	65%
110	B38	〃 PL.67	SE区下層	〃	蓋	⑧⑦	Ⅲ	SS以下	B㊎微、E㊎～Ⓜ中	63%
111	B41	〃	NW区下層、セク第3層	〃	甑(底体部)	⑦⑧	Ⅱ	SS以下	BE㊎㊎少、K少	59%
112	B40	〃	NE区下層、SW区中層他	〃	〃	① ①⑩	〃	S	A㊎～Ⓜ中、CD㊎Ⓜ少、E㊎～Ⓜ少	59%
113	2ソ1	〃 PL.66	セク第2層	〃	広口壺A	㉔㉔⑮⑦	〃	M	AⓂ～Ⓛ少、BC㊎Ⓜ少、D㊎㊎少、E㊎微、K極多	100%
114	C 2	〃	SE区中層、埋土	〃	〃	⑮⑦⑦⑮	Ⅳ	SS	B㊎～Ⓜ多、CⓂ極微、D㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓜ中、K極微	29%
115	C 4	〃	SE区中層	〃	〃	⑤ ⑦	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓛ微、C㊎㊎微、E㊎～Ⓛ少	25%
116	C 5	〃	中層	〃	広口壺B	⑨⑭	Ⅵ	SS＞S	AⓂ～Ⓘ微、B㊎～Ⓛ少、C㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓜ少、K微	4%
117	C 6	〃	SW区中層	〃	二重口縁壺	① ④	Ⅱ	SS	B㊎微、CⓂ微、EⓂⒾ微、K微	17%
118	C 7	〃 PL.66	SE区中層、SE区上層他	〃	太頸壺	⑫④ ㉒	〃	SS＞S	AⓂⓁ少、B㊎Ⓜ微、CⓂ～Ⓘ微、DⓂ微、K㊎Ⓜ少	13%
119	C 9	〃 PL.146	SE区中層	〃	壺(底体部)	⑦ ⑦⑧	〃	SS以下	B㊎㊎中、D㊎Ⓜ少、E㊎～Ⓜ少	94%
120	2ソ2	〃	セク第2層、セク第1層	〃	甕D	⑭②⑮⑦	Ⅳ	M＞L	A㊎～Ⓘ中、B㊎～Ⓜ微、CⓂⓁ極微、DE㊎～Ⓜ少	54%
121	C14	〃 PL.67	SE区中層	〃	鉢C	⑨②②③	Ⅱ	L	A㊎～Ⓘ少、C㊎～Ⓘ少、D㊎～Ⓘ中、E㊎～Ⓘ中	61%
122	2ソ4	〃 PL.146	セク第2層	〃	鉢A	①⑧⑦⑧	Ⅲ	SS以下	B㊎中、D㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓘ多	59%
123	1	〃	NE区埋土	〃	コップ形	⑦	Ⅱ	M	AⓁ微、BⓂ微、DⓂⒾ微、E㊎～Ⓛ少、K微	57%
124	2ソ5	〃 PL.67	セク第2層、セク第1層	〃	鉢B	⑮ ⑫	〃	SS＞S	AⓂ微、B㊎㊎微、CⓂ極微、D㊎～Ⓜ少	50%
125	C16	〃	SE区中層	〃	高坏B	⑭ ⑭②	〃	SS以下	BE㊎㊎微	4%
126	2ソ7	〃 PL.67	セク第2層	〃	蓋	⑦⑥ ⑦	〃	L	A㊎Ⓛ微、B㊎Ⓘ少、CⓂⒾ少、DⓂ～Ⓘ中、K中	52%
127	C19	〃	SE区上層	〃	〃	⑦⑧	〃	SS以下	BE㊎～Ⓜ少、K微	57%
128	D 2	〃	〃 〃	〃	甑	② ⑦	Ⅳ	SS	AE㊎～Ⓜ微、CⒾ微、D㊎～Ⓜ少	4%
SⅠ165										
129	P 1	第138図PL.68	柱穴1、柱穴2	弥生土器	広口壺A	⑭⑥ ⑥	Ⅱ	SS以下	B㊎少、C㊎Ⓜ少・Ⓛ微、E㊎少	17%
130	P 2	〃 〃	柱穴1	〃	広口壺B	①⑭	〃	S	A㊎～Ⓛ少、B㊎～Ⓜ少、CE㊎Ⓜ少、K少	69%
131	P21	〃 〃	柱穴17、NE区床直	〃	細頸壺	①⑦	〃	M	AⓂⒾ多、CⓂⓁ中・Ⓘ微、DⓂ少、EⓂ中	71%
132	P 7	〃	柱穴4、柱穴17	〃	〃	㊺ ⑦	〃	S	A㊎Ⓜ中、E㊎Ⓜ微、K少	89%
133	P 9	〃	柱穴7	〃	甕A	⑥	Ⅳ	S＞M	AⓂⒾ微、CⓂ微、D㊎～Ⓛ少、K中	31%
134	P10	〃 PL.68	〃	〃	〃	①	〃	SS以下＞S	B㊎少、D㊎少・Ⓘ微	29%
135	P11	〃 〃	〃	〃	〃	⑦⑧	〃	S＞M	ACⓂ～Ⓘ少、B㊎微、DⓂ少、E㊎Ⓜ中、K少	58%
136	P13	〃	〃	〃	甕(底部)	①	Ⅱ	SS＞S	A㊎～Ⓘ中・Ⓘ微、E㊎～Ⓛ中、K中	42%

出土遺物観察一覧 No.11

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
137	P23	第138図	柱穴17	弥生土器	甕B	⑮		Ⅱ	SS	B㊍少、DE㊍微、K中	65%
138	P12	〃	柱穴7	〃	〃	④		〃	SS	B㊍㊍少、E㊍Ⓜ少	13%
139	P18	〃 PL.68	柱穴9	〃	鉢A	⑩⑫		〃	SS以下	B㊍㊍少、DⓂ微、E㊍～Ⓛ微、K中	52%
140	P17	〃 〃	〃	〃	鉢B	㉓⑦		〃	SS	BC㊍少、E㊍中	21%
141	P24	〃 PL.69	柱穴17	〃	鉢A（小形）	⑦㉓		〃	SS	B㊍微、E㊍Ⓜ微	51%
142	P 3	〃	柱穴2	〃	鉢A（〃）	⑮		〃	SS以下	DⓁ微、EH㊍少	71%
143	P26	〃 PL.69	柱穴17	〃	高坏A	①		〃	S	A㊍～Ⓛ微、B㊍少、CⓂ～Ⓛ少、E㊍Ⓜ微、K少	63%
144	P 4	〃 〃	柱穴2	〃	高坏B	①		Ⅳ	S＞M	ADⓂⓁ微、CE㊍～Ⓛ少	76%
145	P 5	〃 〃	柱穴2、柱穴17、NW区下層他	〃	〃	①		Ⅱ	SS＞S	A㊍～Ⓛ少、B㊍～Ⓜ少、C㊍Ⓜ微、E㊍Ⓜ少、K少	81%
146	F 1	〃 PL.68	床直	〃	細頸壺	③⑤		Ⅳ	S＞M	A㊍Ⓜ中、B㊍Ⓜ少、C㊍～Ⓛ中、DⓂ少、E㊍Ⓜ多、K多	87%
147	F 3	〃	SE区床直	〃	二重口縁壺	①		〃	S以下	B㊍少、C㊍微	4%
148	F 4	〃	〃 〃	〃	甕B	⑫		〃	S＞M	A㊍～Ⓛ少、CⓁ微、E㊍Ⓜ微	15%
149	F 9	〃 PL.69	〃 〃	〃	鉢A	⑭		Ⅲ	SS以下	B㊍少、E㊍㊍少	71%
150	F 6	〃 〃	〃 〃	〃	〃	⑤		〃	SS以下	BC㊍㊍微、E㊍～Ⓛ微	59%
151	C 1	第139図	SE区中層	〃	広口壺A	①		〃	S	B㊍少、C㊍～Ⓛ中、D㊍Ⓜ少、K少	8%
152	C 2	〃	NE区中層	〃	〃	⑤⑨ ⑤		〃	S以下	CⓁ極微、D㊍中、E㊍Ⓜ多	13%
153	D 1	〃	NW区上層	〃	〃	①		〃	SS以下	ACⓁ微、BD㊍少	21%
154	C 3	〃 PL.68	セク中層	〃	広口壺B	⑮		〃	?	AC㊍～Ⓛ微	17%
155	D 2	〃	NW区上層	〃	〃	㉓ ⑩		〃	SS	CEⓁ微	8%
156	C 6	〃	NE区中層	〃	二重口縁壺	⑭㉓ ㉓		Ⅵ	SS＞S	AⓂⓁ少、C㊍～Ⓜ多、D㊍Ⓜ微、E㊍～Ⓛ少	17%
157	C 5	〃	NW区中層	〃	〃	⑦		Ⅱ	M＞L	AⓂ～Ⓛ少、C㊍Ⓜ微、K多	13%
158	C12	〃	SE区中層	〃	甕A	⑭		〃	SS以下	B㊍Ⓜ少、C㊍Ⓜ中・Ⓛ微、DⓂ微	8%
159	B 3	〃	SW区下層	〃	〃	⑮ ⑦		〃	S	A㊍Ⓛ微、E㊍Ⓜ中、K多	17%
160	D13	〃	NE区上層	〃	甕	⑭ ⑦		〃	SS以下	A㊍Ⓜ中、B㊍Ⓜ多、D㊍㊍Ⓜ多、J㊍微、K多	8%
161	C17	〃	NE区中層	〃	鉢A	⑭ ⑫		〃	SS以下	E㊍Ⓜ微	59%
162	C15	〃	SE区中層	〃	甕（底部）	㉓ ⑮		Ⅴ	SS以下	E㊍Ⓜ中	100%
163	C18	〃	NE区中層	〃	鉢（底部）	⑲		Ⅱ	SS以下	C㊍微、K多	83%
164	D 8	〃	NE区上層	〃	〃（〃）	②		〃	SS	BC㊍㊍微、E㊍～Ⓜ微	67%
165	D 9	〃	NW区上層	〃	高坏A	⑤		Ⅳ	S	AⓂⓁ少、CⓂ微、E㊍中、K中	21%
166	D10	〃 PL.69	NE区上層、P696	〃	〃	⑫		Ⅱ	SS以下	B㊍㊍少、CD㊍微、K少	64%
167	D12	〃	NE区上層	〃	甑（底部）	⑦⑮		〃	S	C㊍Ⓜ少、E㊍㊍多	100%
SI166											
168	R 1	第139図	炉	弥生土器	広口壺A	⑩⑭		Ⅱ	SS以下	AC㊍～Ⓛ少、B㊍～Ⓜ微、E㊍Ⓜ微、K中	50%
169	R 2	〃	〃	〃	甕A	㉑ ⑦⑫		Ⅳ	M＞L	BE㊍Ⓜ少、CD㊍～Ⓛ中、K中	27%
170	B 1	〃	下層、中層	〃	広口壺B	①		〃	SS	E㊍～Ⓛ中、K極微	30%
171	B 2	〃	セク下層	〃	甕A	㉓㉓		Ⅷ	M＞L	A㊍～Ⓛ中、CⓂ～Ⓛ多、D㊍㊍微、E㊍㊍少、K中	13%
172	B 3	〃 PL.69	下層、NE区上層他	〃	高坏B	⑤①		Ⅱ	SS	A㊍㊍微、C㊍～Ⓜ微、DⓁ微、E㊍Ⓜ中	54%
173	C 2	〃 〃	NE区中層	〃	広口壺B	①		Ⅳ	SS＞S	B㊍～Ⓜ中、C㊍～Ⓛ多、D㊍～Ⓜ少、K多	100%
174	C 1	〃	SE区中層	〃	〃	⑩⑧		Ⅱ	SS以下	A㊍Ⓜ微、D㊍～Ⓜ微、E㊍～Ⓛ中、K微	63%
175	C 4	〃 PL.69	NE区中層	〃	広口長頸壺	⑩㉑		〃	S	A㊍～Ⓛ微、C㊍～Ⓛ少、E㊍～Ⓛ多	13%
176	C 3	〃 PL.70	〃 〃	〃	〃	⑧⑭		〃	SS	A㊍～Ⓜ少、C㊍～Ⓜ微、K微	4%
177	C 5	〃 〃	〃 〃	〃	短頸壺	⑦ ㉑㉓		〃	M	DⓂ微、E㊍Ⓜ少	60%
178	C 8	第140図	SE区中層	〃	細頸壺	⑤		Ⅳ	SS＞S	A㊍Ⓜ微、B㊍㊍少、C㊍～Ⓛ中、D㊍～Ⓛ少、E㊍～Ⓛ中、K微	73%
179	C 7	〃	NE区中層	〃	短頸壺	①		Ⅵ	M＞L	C㊍ⓂⓁ少、D㊍～Ⓛ中、E㊍～Ⓛ少、K多	28%
180	C 6	〃	〃 〃	〃	〃	⑥ ⑤		Ⅱ	S以下	E㊍Ⓜ微、K中	25%
181	C11	〃	〃 〃	〃	甕A	⑦⑤		〃	S	BD㊍㊍微、CⓂ極微、E㊍Ⓜ中	25%
182	C13	〃	〃 〃	〃	〃	⑤ ⑦⑩		〃	S	B㊍㊍微、D㊍Ⓜ微、E㊍～Ⓛ少	13%
183	C14	〃	セク中層、セク上層	〃	〃	⑦ ⑤		〃	S以下	C㊍多、DⓁ微、E㊍㊍微、K少	29%
184	C12	〃 PL.70	SE区中層、NE区埋土	〃	〃	⑭ ⑩⑭		〃	S＞M	BD㊍Ⓜ微、E㊍～Ⓛ中	71%
185	C17	〃	NE区中層	〃	鉢A	①		Ⅵ	M＞S	B㊍～Ⓜ少、E㊍～Ⓜ多、K中	54%
186	C16	〃	〃 〃	〃	〃	㉓ ⑭㉑		Ⅳ	SS以下	B㊍㊍微、C㊍～Ⓜ微、DE㊍Ⓜ微	54%
187	C20	〃	SE区中層	〃	高坏A	①㉑		Ⅱ	S＞M	A㊍Ⓛ微、CⓂ微、E㊍～Ⓛ中	57%
188	C21	〃 PL.70	NE区中層	〃	高坏B	⑭		〃	SS＞S	A㊍㊍少、B㊍少・Ⓜ微、C㊍㊍少・Ⓜ微、E㊍Ⓜ少、K多	58%
189	C23	〃	〃 〃	〃	脚台A	①		〃	S	B㊍㊍少、E㊍～Ⓜ中、K中	69%
190	C24	〃	NW区中層	〃	脚台B	①		〃	S	A㊍～Ⓛ微、B㊍～Ⓜ微、C㊍～Ⓜ少、D㊍Ⓜ微、E㊍～Ⓛ少	61%
191	D 1	〃 PL.69	セク上層	〃	広口壺B	①⑤		〃	S	A㊍～Ⓛ微、B㊍～Ⓜ微、CⓂ極微、E㊍～Ⓜ中	8%
192	D 2	〃	NE区上層	〃	〃	①		〃	S以下	B㊍少、K中	38%
193	D 3	〃	〃 〃	〃	〃	①		〃	SS以下	AⓁ微、C㊍～Ⓜ微、D㊍Ⓜ微	62%
194	D 4	〃	セク上層	〃	〃	⑦		Ⅳ	S以下	B㊍少、CⓂ微、E㊍Ⓜ少	25%
195	1	〃	埋土	〃	〃	⑤		Ⅱ	S＞M	A㊍ⓂⓁ少、CⓂⓁ 極微、E㊍～Ⓛ中	29%
196	D 5	〃	セク上層	〃	壺（頸部）	⑩⑫ ⑤		〃	SS以下	B㊍～Ⓜ微、CⓂ極微、D㊍極微、E㊍～Ⓜ中	25%
197	2	〃 PL.70	埋土	〃	甕A	㉓㉑⑦㉑		〃	S＞M	B㊍㊍少、C㊍～Ⓛ中、D㊍～Ⓛ中、K中	69%
198	3	〃	〃	〃	〃	㉓㉑ ㉖		Ⅵ	M＞L	A㊍～Ⓛ中、C㊍～Ⓛ少、D㊍～Ⓛ中、E㊍Ⓜ少	17%
199	D 7	〃	セク上層	〃	甕	⑦⑭		Ⅱ	SS	AⓂ～Ⓛ微、B㊍～Ⓜ中、CE㊍～Ⓛ少、K微	88%
200	4	〃 PL.70	埋土	〃	甕D	⑤⑦		Ⅵ	M＞L	AE㊍～Ⓛ中、B㊍㊍少、C㊍～Ⓛ少、D㊍～Ⓛ多、K少	69%
201	D 9	〃	NE区上層	〃	高坏A	①		〃	S以下	A㊍㊍少・Ⓛ微、CⓁ微、D㊍Ⓜ微、EⓂ微、K中	25%
202	D11	〃	〃 〃	〃	脚台A（壺）	⑤⑦		Ⅱ	S以下	BE㊍～Ⓜ少、DⓂⓁ極微、K中	52%
203	D10	〃	地直上層	〃	器台A	①㉑		〃	S	A㊍～Ⓛ中、C㊍～Ⓜ微、D㊍微	25%
SI167		〃									
204	R 2	第141図	炉（SW）	弥生土器	広口壺A	①⑭		Ⅱ	SS以下	C㊍Ⓜ微	13%

出土遺物観察一覧 No.12

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形(部位)	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
205	R 1	第141図	炉	弥生土器	広口壺A	⑩⑰	Ⅱ	SS以下	A㊎Ⓜ少、K多	17%
206	F 1	〃 PL.70	SE区床直、SW区上層	〃	広口壺B	⑦	Ⅳ	SS以下	A㊎～Ⓛ中、C㊎Ⓛ少、E㊎㊎少、K中	53%
207	F 2	〃	NW区床直	〃	壺(底部)	⑦⑭	〃	S	B㊎Ⓜ少、E㊎～Ⓛ少、K微	33%
208	F 3	〃	SW区床直	〃	甕B	㉛ ㊷	〃	S	A㊎Ⓜ微、C㊎～Ⓛ微	13%
209	F 7	〃	NW区床直	〃	甕(底部)	①⑰	Ⅵ	S＞M	A㊎～Ⓛ多・Ⓜ微、C㊎～Ⓛ少、D㊎少	100%
210	F 5	〃	〃 〃	〃	〃(〃)	⑫⑰ ⑫	Ⅳ	S＞M	A㊎～Ⓛ少、C㊎～Ⓛ少、K多	100%
211	P 1	〃 PL.70	P6	〃	鉢A	⑭⑮ ④	Ⅷ	S＞M・LL	AC㊎～Ⓛ中、B㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓛ少、K多	63%
212	F 9	〃	SW区床直	〃	〃	⑭	Ⅱ	SS	B㊎微、D㊎Ⓜ微、E㊎Ⓜ少、K中	100%
213	F10	〃	SE区床直	〃	鉢B	⑦⑰	〃	S	AC㊎～Ⓛ微、K少	8%
214	F13	〃	SW区床直、SW区中層	〃	鉢(底部)	⑭ ①	〃	SS以下	CD㊎Ⓜ微、K中	79%
215	F11	〃	SE区床直	〃	〃(〃)	⑤⑧	〃	S	A㊎～Ⓜ少、CD㊎Ⓜ微、EⓂ多、K微	100%
216	F12	〃	SW区床直	〃	〃(〃)	⑦ ⑭	Ⅷ	LL＞L	AC㊎～Ⓛ多、DⓂ微、E㊎Ⓜ微、K多	100%
217	D 1	〃 PL.71	上層、埋土	〃	広口壺B	①	Ⅱ	S	A㊎～Ⓛ少、CⓂⓁ微、K少	62%
218	2ソ1	〃	セク土層第2層	〃	〃	⑩⑭	〃	SS以下	AC㊎～Ⓜ微、B㊎㊎微、E㊎Ⓜ微	13%
219	C 1	〃 PL.71	NW区中層	〃	〃	⑩⑭	〃	S以下	A㊎Ⓜ微、CⓂⓁ少、E㊎～Ⓛ少、K中	79%
220	C 2	〃	NE区中層	〃	二重口縁壺	⑦⑰ ①	〃	S	ABⓂ微、C㊎Ⓛ微、D㊎微、K少	8%
221	C 5	〃	NE区中層、セク第3層	〃	甕A	㊽	〃	S以下	AⓂⓁ微、B㊎Ⓜ微、C㊎～Ⓛ微、K微	50%
222	C 6	〃	NE区中層	〃	〃	⑲㉒ ⑦	Ⅳ	M＞L	AⓂ～Ⓛ少、B㊎～Ⓜ中、D㊎Ⓜ微、E㊎Ⓜ多	25%
223	2ソ2	〃	セク土層第2層	〃	〃	㊽ ①	Ⅱ	S	CⓂ微、DⓂⓁ微、E㊎～Ⓛ多	14%
224	C 7	〃	NW区中層	〃	甕B	㊽⑰	〃	S＞M	A㊎～Ⓛ少、C㊎～Ⓛ微、E㊎～Ⓛ中	17%
225	D 2	〃	上層	〃	甕D	⑦⑭	〃	S	BCE㊎Ⓜ微、D㊎～Ⓛ微、K中	8%
226	B 2	〃	下層、上層、SW区中層	〃	小形甕	①	〃	SS以下	ACE㊎～Ⓛ微	47%
227	B 4	〃	下層	〃	鉢A	⑦⑭	〃	S	CⓂ微、D㊎微、E㊎～Ⓜ中、K少	46%
228	D 3	〃 PL.71	NE区上層	〃	高坏A	⑦⑭	〃	SS＞S	B㊎㊎少、C㊎Ⓜ中、D㊎ⓂⓁ中、E㊎㊎微	92%
229	C10	〃 〃	NW区中層、NE区中層	〃	高坏B	⑪ ⑮	Ⅵ	S＞SS	AC㊎Ⓜ少、B㊎少、D㊎Ⓜ中、E㊎微、K中	59%
230	C11	〃	SE区中層	〃	ジョッキ形	⑮	Ⅱ	M＞S	A㊎～Ⓛ中、B㊎少、C㊎～Ⓛ中、K少	25%
231	D 4	〃 PL.71	上層	〃	器台A	⑧	〃	SS	AC㊎Ⓜ微、B㊎少、E㊎Ⓜ少、K少	42%
SI168										
232	F 1	第141図	床直	弥生土器	甕A	㉔㉘④	Ⅳ	S＞M	A㊎少、B㊎㊎少、C㊎～Ⓛ少、D㊎㊎微、E㊎～Ⓛ微	8%
233	B 1	〃	セク下層	〃	甕B(?)	㊽	〃	S	B㊎微、CⓂ～Ⓛ微、D㊎～Ⓛ微、E㊎～Ⓜ少	13%
234	D 1	〃 PL.71	セク上層	〃	甕B	①⑩⑫	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓜ少・Ⓛ微、C㊎～Ⓜ微・Ⓛ微	60%
235	F 2	〃 〃	SE区床直	〃	鉢B	㊷ ⑦⑭	〃	M	C㊎～Ⓛ少、D㊎～Ⓜ微、K中	31%
236	2	〃	埋土	〃	高坏A	②	〃	S以下	A㊎㊎中、B㊎微、E㊎Ⓜ少、K多	21%
237	3	〃 PL.71	〃	〃	高坏B	㊽	〃	SS以下	A㊎Ⓜ微、B㊎～Ⓜ中、CⓂⓁ微、E㊎～Ⓜ少、K多	29%
238	P 1	〃 〃	柱穴N・セク	〃	〃	⑭	〃	S	A㊎～Ⓛ中、C㊎～Ⓛ中、D㊎～Ⓛ微、E㊎～Ⓜ微	72%
SI169										
239	1	第142図	SE区埋土	弥生土器	広口壺A	⑦ ①⑰	Ⅱ	SS	AD㊎～Ⓜ微、CⓂⓁ極微、E㊎～Ⓛ中、K微	17%
240	2	〃	〃 〃	〃	短頸壺	① ⑦	〃	SS以下	A㊎Ⓜ微、C㊎㊎微、E㊎Ⓜ少、K少	17%
241	3	〃	〃 〃	〃	甕A	㊼㊽ ㊽	Ⅵ	SS	CⓂ～Ⓛ中、E㊎～Ⓛ中、K中	13%
242	4	〃	〃 〃	〃	甕B	①	Ⅴ	S＞M	AⓂ極微、B㊎㊎微、C㊎～Ⓛ少、E㊎～Ⓛ少、K少	13%
243	5	〃	〃 〃	〃	甕?(底部)	⑤	Ⅵ	S＞M	AE㊎Ⓜ少、B㊎㊎少、C㊎Ⓜ中	50%
244	7	〃	南北	〃	高坏B	⑤㉑	Ⅲ	SS以下	AB㊎㊎少、D㊎微、E㊎～Ⓜ中、K微	8%
245	6	〃	SE区埋土	〃	蓋	㉛ ⑭	Ⅱ	SS	AC㊎～Ⓜ微、B㊎㊎少、K少	—
SI186										
246	1	第142図PL.71	SK240上遺構検出	弥生土器	広口壺A	⑮⑥	Ⅱ	SS以下	CⓁ微、K少	42%
247	2	〃	埋土	〃	〃	①	Ⅳ	S以下	C㊎少、E㊎微	21%
248	10	〃	SK240上遺構検出	〃	〃	㊽ ①	Ⅱ	SS以下	A㊎Ⓜ微、D㊎㊎微、E㊎～Ⓛ少、K微	8%
249	3	〃	埋土	〃	甕A	㊽ ④	Ⅳ	S＞M	A㊎Ⓜ多、BE㊎Ⓜ微	21%
250	4	〃	〃	〃	甕C	⑲ ⑦	Ⅱ	SS＞S	AE㊎～Ⓜ中、CⓂ極微、D㊎～Ⓜ微、K多	13%
251	6	〃 PL.71	〃	〃	鉢A	㊽⑱ ⑱	〃	SS	AⓂ～Ⓛ微、B㊎㊎少、D㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓜ中、K微	63%
252	7	〃	SK240上遺構検出	〃	鉢B	⑧⑥ ⑧	Ⅵ	L＞M	A㊎～Ⓛ中、C㊎～Ⓛ少、D㊎微	8%
253	5	〃	埋土	〃	器台A	①	Ⅱ	SS以下	B㊎㊎少、C㊎～Ⓜ微、D㊎㊎微、E㊎～Ⓛ少、K少	17%
SI175										
254	1	第142図	埋土	弥生土器	広口壺A	⑥	Ⅱ	M	A㊎Ⓜ少、B㊎Ⓜ微、DEⓂ～Ⓛ少	42%
255	2	〃	〃	〃	〃	㊼ ㊽㊼	〃	SS以下	BK㊎微、D㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓛ少	25%
256	F 3	〃	床直	〃	広口壺B	①	〃	SS	AB㊎～Ⓜ微、D㊎微、E㊎㊎微、K少	13%
257	A 1	〃 PL.72	中一段落ち、埋土	〃	〃	⑨⑯⑨⑭	〃	SS	AE㊎～Ⓛ少、C㊎㊎微、D㊎Ⓜ微	59%
258	P 1	〃 〃	P1、埋土	〃	〃	㊽㉔ ㊽	Ⅵ	S＞M・L	A㊎～Ⓛ中、CE㊎～Ⓛ中、D㊎Ⓜ微、K多	80%
259	A 2	〃 〃	中一段落ち	〃	甕A	①②②④	Ⅱ	SS＞S	AC㊎～Ⓛ少、D㊎～Ⓛ微、E㊎～Ⓛ少、F㊎微、K少	87%
260	6	〃 〃	検出面	〃	〃	⑥	〃	SS＞S	AⒹ少、CⓂ極微、D㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓛ多	81%
261	4	〃	埋土	〃	〃	㊾⑦ ㊽	Ⅴ	SS以下	B㊎中、D㊎少、E㊎少・Ⓓ微	21%
262	5	〃	セク、埋土	〃	〃	⑦	Ⅱ	SS以下	B㊎多、C㊎～Ⓛ少、E㊎～Ⓜ中、K少	50%
263	3	第143図PL.72	埋土	〃	〃	⑥⑭⑫	〃	M＞S	A㊎～Ⓛ少、CDE㊎Ⓜ微、K中	73%
264	F 1	〃	床直、埋土	〃	〃	⑩⑯⑦⑱	〃	M	A㊎～Ⓛ少、B㊎Ⓜ微、CDⓂ極微、E㊎Ⓜ多、K多	63%
265	7	〃	埋土	〃	短頸壺	⑥	〃	SS以下	AB㊎～Ⓜ少、CEⓂ微、D㊎～Ⓜ微、K中	13%
266	A 3	〃 PL.72	中一段落ち、埋土	〃	甕B(小形)	⑯⑰	Ⅳ	SS＞S	B㊎～Ⓛ中、C㊎Ⓜ少、D㊎～Ⓜ少、H㊎～Ⓜ中、J㊎～Ⓛ多	96%
267	19	〃	埋土	〃	甕B	② ⑨	〃	M	A㊎～Ⓛ多・Ⓛ微、B㊎～Ⓜ微、C㊎Ⓜ微、D㊎～Ⓛ少	11%
268	9	〃 PL.72	〃	〃	鉢A	㊷ ⑮	Ⅱ	SS	A㊎多、B㊎㊎少、D㊎㊎微、E少	69%
269	10	〃	〃	〃	鉢C	㊽ ㊼	〃	SS以下	B㊎少、D㊎微、E㊎㊎少、K微	30%
270	A 7	〃	中一段落ち	〃	鉢(底部)	⑦⑮	〃	SS以下	A㊎～Ⓜ微、B㊎微、E㊎～Ⓜ中、K多	100%

出土遺物観察一覧 No.13

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形(部位)	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
271	A 4	第143図 PL.72	中一段落ち、埋土	弥生土器	甑	⑦㉝ ⑦	Ⅱ	SS	B(SS)Ⓢ中、CⓁ微、D(SS)～(LL)少、E(SS)～Ⓛ中	84%
272	11	〃	埋土、P503	〃	〃	⑦	〃	SS	AEⓂⓁ微、B(SS)少、K(SS)微	75%
273	18	〃	埋土	〃	器台B	① ⑦	〃	SS	A(SS)Ⓜ少、B(SS)Ⓢ微、CⓈ～Ⓛ少、E(SS)Ⓢ少、K少	21%
274	A 5	〃	中一段落ち、埋土	〃	高坏A	⑥⑭ ⑥	〃	SS以下	AⓂⓁ微、B(SS)Ⓢ微、DⓈ～Ⓛ微	75%
275	12	〃 PL.146	埋土	〃	〃	⑦ ㊲	〃	M＞S	AⓈ～Ⓛ少、BⓈⓂ少、EⓈ～Ⓛ中、K多	75%
276	15	〃 PL.73	〃	〃	〃	⑭ ⑦⑱㊷	〃	SS以下	AⓂ極微、B(SS)極微、E(SS)～Ⓜ少、K少	38%
277	A 6	〃 〃	中一段落ち、埋土	〃	〃	⑦ ⑦⑱	〃	SS以下	A(LL)極微、B(SS)Ⓢ中、EⓈ～Ⓛ多、K微	54%
278	13	〃 〃	埋土	〃	〃	②⑦	〃	M＞L	AⓈ～(LL)中、CDⓈ微、EⓈⓂ少、K極多	74%
279	14	〃 〃	〃	〃	〃	㊱ ㉜	〃	SS以下	AⓂ～Ⓛ少、B(SS)微、CⓁ微、D(SS)～Ⓛ微、E(SS)～Ⓛ中、K少	60%
280	F 2	〃	床直	〃	脚台A	⑧ ⑦⑱	Ⅳ	SS＞S	A(SS)Ⓢ多、C(SS)少、DⓈ微、E(SS)～Ⓜ中、K多	71%
281	17	〃	埋土	〃	高坏B	⑦ ③	Ⅱ	SS	A(SS)～Ⓜ中、B(SS)微、C(SS)～Ⓜ微、E(SS)～Ⓜ少	21%
282	16	〃	セク、埋土	〃	〃	㊱	〃	S	A(SS)～Ⓛ少、B(SS)Ⓢ微、C(SS)～Ⓜ少・(LL)微、E(SS)～Ⓛ多	25%
SＩ170										
283	F 1	第144図	NE区床直	弥生土器	広口壺A	㊱㊴⑳㊲	Ⅵ	S	AⓈⓂ微、B(SS)Ⓢ少、CⓈ～Ⓛ少、E(SS)～Ⓛ少、K少	17%
284	F 2	〃	中央	〃	甕(底部)	⑥⑤	Ⅱ	SS以下	AE(SS)～Ⓛ少、B(SS)Ⓢ少、C(SS)～Ⓜ少、K少	58%
285	F 3	〃	SW区中央、NE区第2層	〃	〃(〃)	㊴⑳㉞⑭	Ⅴ	M＞L	AⓂ～(LL)少、B(SS)～Ⓜ微、CⓂ～(LL)微、D(SS)～Ⓜ少 E(SS)～(LL)多、K少	75%
286	P 1	〃	柱は、NW区埋土	〃	鉢B	⑯ ⑦	Ⅳ	S以下	A(SS)～Ⓛ中、CⓈ～Ⓛ少、EⓈ～Ⓛ極微	17%
287	P 2	〃	柱は、NW区埋土他	〃	鉢(大形底部)	㊶ ⑯	Ⅱ	S以下	AⓈ少・Ⓛ微、C(SS)Ⓢ中・(LL)微、EⓈⓂ微、K少	100%
288	2ソ1	〃	NE区第2層	〃	広口壺A	⑤㊴	〃	SS	AD(SS)～Ⓜ微、C(SS)Ⓢ微、EⓈⓂ少	17%
289	2ソ2	〃	SW区第2層	〃	広口壺B	⑦⑱	〃	SS以下	AⓈ微、EⓈⓂ少、K微	33%
290	2ソ3	〃	SW区第2層	〃	二重口縁壺	⑤	〃	SS＞S	AⓈⓂ少、B(SS)～Ⓜ微、CⓈⓂ微、D(SS)～Ⓜ少 EⓂ～(LL)極微、K少	25%
291	1	〃 PL.73	NE区埋土	〃	小形壺	㊷ ①	Ⅵ	M＞S	A(SS)～Ⓜ中・Ⓛ(LL)微、B(SS)～Ⓜ少、C(SS)～Ⓛ少 DⓈ～Ⓛ中・(LL)微、EⓈⓂ少、K少	100%
292	2ソ4	〃	NE区セク第2層	〃	壺(底体部)	㊲	Ⅱ	M＞S	AⓈ～Ⓛ少、BEⓈⓂ少、C(SS)～Ⓛ少、DⓈ微、K中	100%
293	2ソ5	〃	NE区第2層	〃	甕A	㊴ ⑤	〃	LL	AⓈ～(LL)少、CⓂⓁ極微、E(SS)～(LL)多、K極微	17%
294	2ソ10	〃	NW区第2層	〃	高坏A	㊳	Ⅳ	SS＞S	AⓈⓂ少、B(SS)～Ⓜ微、CⓂⓁ微、D(SS)～Ⓛ中、E(SS)～Ⓜ中	50%
295	1ソ1	〃	セク第1層	〃	〃	⑤ ①	Ⅱ	M	AⓈⓂ少、B(SS)Ⓢ微、C(SS)～Ⓜ少、D(SS)～Ⓜ微、E(SS)～Ⓜ中、K少	8%
296	7	〃	埋土	〃	脚台A	⑦㊴	Ⅳ	S	CⓈⓂ微、DⓈ極微、EⓈⓂ少	79%
297	2ソ7	〃 PL.73	セク第2層、NW区埋土	〃	鉢A	⑤⑭	Ⅴ	LL	A(SS)～(LL)少、DⓂ～(LL)微、E(SS)～(LL)中	38%
298	2ソ13	〃	SW区第2層	〃	器台B	④	Ⅱ	SS	ACⓈ微、B(SS)Ⓢ少、EⓂ微、K少	17%
299	2ソ12	〃	〃 〃	〃	器台	⑥	Ⅴ	SS	A(SS)Ⓢ少・Ⓛ微、B(SS)少、C(SS)Ⓢ多、K多	13%
300	2ソ14	〃	〃 〃	〃	器台B	⑱ ⑦	Ⅱ	SS	A(LL)微、B(SS)Ⓢ少・Ⓛ微、CⓂⓁ少、E微、K少	13%
SＩ171										
301	H 2	第144図	N区ベッド下	弥生土器	広口壺A	㉝ ①	Ⅱ	SS以下	D(SS)少、EⓈⓂ微、K微	8%
302	H 1	〃	W区ベッド下	〃	〃	⑩④	〃	SS	C(SS)～Ⓜ中、E(SS)～Ⓜ少	13%
303	H 4	〃	ベッド下	〃	広口壺B	⑦ ⑦㊱	〃	SS以下	E(SS)～Ⓜ少、K微	13%
304	H 5	〃 PL.73	S区ベッド下	〃	〃	①㊱	Ⅷ	M＞L	A(SS)～(LL)多、C(SS)～Ⓛ少、DⓈⓂ少・(LL)微、EⓈⓂ微	25%
305	T 1	〃	貯蔵穴	〃	〃	⑭ ⑨	Ⅱ	S＞M	AB(SS)～Ⓜ少、C(SS)～Ⓜ微、K多	8%
306	F 1	〃 PL.73	NE床直、N区中層、N区隅	〃	〃	㊺⑦ ⑦	〃	M＞S	AⓈ～(LL)中、BD(SS)～Ⓜ少、CⓂⓁ少、EⓈ～Ⓛ少	100%
307	H 7	〃	E区ベッド下	〃	甕B	㉝	Ⅲ	SS以下	BCJ(SS)中、EⓈ微、K中	8%
308	H 8	〃	〃 〃	〃	高坏B	㊱	Ⅱ	SS以下	CⓈⓂ少、D(SS)Ⓢ微、K微	13%
309	C 1	〃	N区中層	〃	広口壺A	㊱ ㊱㉞	〃	SS	AⓈ微、CⓈ～Ⓛ中、D(SS)～Ⓜ中、E(SS)～Ⓜ少、K微	17%
310	D 1	〃	E区上層	〃	〃	⑥④	〃	SS＞S	A(SS)Ⓢ少・Ⓛ微、C(SS)Ⓢ中・(LL)微、EⓁ(LL)微	17%
311	D 2	〃	W区上層	〃	〃	①⑦①㊱	Ⅲ	SS＞S	B(SS)少、C(SS)～(LL)中、EⓈⓂ微、K少	25%
312	2	〃	セク㋑層	〃	広口壺B	⑦㊲	Ⅱ	SS以下	A(SS)～Ⓜ微・(LL)微、BⓈ微	13%
313	C 5	〃	セク中層	〃	〃	㉝㉞	〃	SS	A(SS)Ⓢ微、BⓈⓂ少、CⓈ～(LL)少、DⓈⓂ微、E(SS)～Ⓜ中	29%
314	4	〃	セク㋑層	〃	二重口縁壺	①⑤	Ⅶ	SS以下	A(SS)～(LL)中、B(SS)Ⓢ少、E(SS)～Ⓛ少	8%
315	C 9	〃	W区中層、W区上層	〃	甕A	①	Ⅴ	SS	AEⓂⓁ微、B(SS)Ⓢ少、K少	11%
316	B 1	〃	S区下層、セク第1層	〃	〃	㊴	Ⅱ	SS	AⓈ微、CⓈⓂ少・(LL)微、EⓂ微	17%
317	C 8	〃	N区中層	〃	〃	⑦㊴	Ⅳ	SS＞S	AⓂⓁ少、BⓈ～Ⓛ少、CⓂ～(LL)少、E(SS)～Ⓜ少、K微	21%
318	C12	〃 PL.146	セク中層、セク	〃	高坏A	㉝㊴	Ⅱ	M＞S	ADⓈ微、CⓈ～Ⓛ中、EⓈⓂ少	58%
319	C13	〃	N区中層	〃	脚台G	①	〃	S	CⓈ極微・Ⓛ微、DⓈ～Ⓛ少、EⓈⓂ少	21%
320	F 3	〃	N区床直	製塩土器	脚台Ⅰ	⑦㊲	Ⅲ	SS	A(SS)～Ⓜ微、B(SS)Ⓢ少、DⓈ微	100%
SＩ172										
321	F 1	第145図	床直	弥生土器	広口壺A	⑱ ㊶	Ⅱ	SS	AⓂ微、D(SS)極微、K微	8%
322	1	〃	埋土	〃	〃	⑦ ⑦⑰	Ⅳ	SS以下	CⓈⓂ少、DⓂ極微	50%
323	2	〃	〃	〃	広口壺B	⑧ ㉝	Ⅱ	SS以下	AⓈ微、B(SS)微、DⓂ微、K少	17%
324	3	〃	〃	〃	〃	①②	〃	S＞M	AⓈⓂ少、B(SS)Ⓢ微、DⓂ微、E(SS)～Ⓜ多、K少	25%
325	4	〃 PL.73	〃	〃	甕A	㉝ ⑮	Ⅲ	SS以下	A(SS)～Ⓜ少、B(SS)少、D(SS)～Ⓛ中、E(SS)～(LL)中	33%
326	F 2	〃	床直	〃	甕B	⑭ ㉜	〃	SS以下	AⓈ微、BD(SS)Ⓢ少、E(SS)微、K少	13%
327	11	〃 PL.73	埋土	〃	甕B(小形)	⑧	Ⅳ	SS以下	ACⓁ微、B(SS)少、E(SS)Ⓢ少、K微	38%
328	8	〃	〃	〃	甕B	㊱	Ⅲ	SS以下	AⓂ～(LL)少、B(SS)～Ⓛ微、D(SS)Ⓜ少、EⓈ～(LL)少、K多	25%
329	6	〃	〃	〃	〃	⑦	Ⅳ	M＞L	AⓁ～(LL)中、B(SS)微、C(LL)微、EⓈⓂ微	33%
330	5	〃	〃	〃	甕A	⑦	Ⅱ	SS＞S	AⓂ微、B(SS)微、C(SS)～Ⓜ少、E(SS)～(LL)多、K中	8%
331	F 4	〃	床直	〃	甕B	① ⑮	Ⅲ	SS以下	AⓈ～Ⓛ微、B(SS)Ⓢ微、D(SS)～Ⓜ少、E(SS)～Ⓜ微、K多	8%
332	9	〃	埋土	〃	大鉢B	①⑦	Ⅱ	SS以下	AⓂⓁ少、B(SS)～Ⓜ微、CⓂ～(LL)微、D(SS)～Ⓜ少、E(SS)～Ⓛ少	21%
333	F 5	〃	床直	〃	脚台A(裾部)	⑨	〃	SS＞S	AⓂⓁ少、BⓈⓁ微、DⓂ微、EⓈ～Ⓛ中	13%
334	10	〃	埋土	〃	脚台B(〃)	㊴	Ⅲ	SS	AⓈ～Ⓛ中、B(SS)微、CD(SS)Ⓢ微、E(SS)～Ⓜ少、K中	13%

出土遺物観察一覧 No.14

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
S I 173										
335	F 1	第145図 P L.74	S E区床直	弥生土器	広口壺A	② ㊲	Ⅱ	SS	AⓈ少、CⓈⓂ少、K中	42%
336	F 3	〃	床直	〃	広口壺B	⑮㉝ ⑮	Ⅵ	SS＞S	CⓈ～Ⓛ中、DⓈⓂ多、E(SS)～Ⓛ少	58%
337	F 2	〃 P L.74	〃	〃	〃	㊴ ⑤	Ⅱ	S	AⓈ～Ⓛ少、BⓈ微、EⓈ～Ⓛ中、K多	33%
338	F 4	〃 〃	〃	〃	〃	㊶ ㉜	〃	SS	BⓁ極微、DⓈⓂ微、EⓈ～Ⓛ少、K微	96%
339	F 5	〃 〃	N E区床直	〃	〃	⑭①	Ⅵ	SS	CⓂ～(LL)微、DEⓈⓂ微	67%
340	P 1	〃	S W区柱穴	〃	二重口縁壺	⑯	Ⅳ	S＞M	AⓂⓁ微、CⓈ～(LL)中、DⓈⓂ少、EⓈ極微	21%
341	F 6	〃	S E区床直、S K225	〃	〃	② ①	Ⅱ	SS	A(SS)～Ⓛ少、B(SS)～Ⓜ微、CⓈⓂ微、EⓈ～Ⓛ少	13%
342	F 9	〃 P L.74	S E区床直	〃	甕B	㉔ ④	Ⅳ	S＞M	AⓈ～(LL)少、EⓈ～Ⓛ中、K中	38%
343	F 8	〃	〃 〃	〃	甕A	⑮ ⑩①	〃	S	AⓈ～Ⓛ少、CⓂ微、DⓈⓂ微	8%
344	F13	〃 P L.74	〃 〃	〃	鉢A	② ⑦⑩	Ⅱ	M＞S	AⓈ～Ⓛ中・(LL)極微、BCⓈ～Ⓛ微、DⓈⓂ少、EⓈ～Ⓛ中	77%
345	F15	〃	床直	〃	高坏A	㉔ ㊴	Ⅵ	SS	B(SS)Ⓢ少、CDⓈⓂ微、E(SS)～Ⓜ少、K少	25%
346	F17	〃 P L.74	〃	〃	高坏B	①⑭	Ⅱ	SS以下	CⓂ微、EⓈⓂ少	75%
347	F20	〃	N E区床直	〃	脚台B	㊴	〃	S以下	CⓂ微、E(SS)Ⓢ少	54%
348	F21	第146図 P L.74	床直	〃	手焙形土器	⑫㉓⑭㊱	Ⅷ	S＞M	AEⓈⓂ少、BⓈⓂ中、CⓈ～Ⓛ少、DⓈ少	34%
349	1	〃	第1区埋土	〃	広口壺A	①	Ⅱ	SS	AⓂ微、B(SS)少、C(SS)Ⓜ中、E(SS)Ⓜ微、K中	8%
350	2	〃	埋土	〃	広口壺B	⑭	〃	SS以下	AⓈⓂ微	17%
351	7	〃	〃	〃	甕A	⑭ ⑭㊴	Ⅵ	SS以下	BD(SS)Ⓢ微、CⓈ微、EⓈⓂ多	13%
352	9	〃 P L.74	〃	〃	甕B	⑤	Ⅱ	S＞M	AⓈ～(LL)中、BⓂ微、DⓈ微、E(SS)～Ⓛ中、K少	84%
353	10	〃	第2区埋土	〃	甕D	㉓ ②	〃	SS以下	DⓈⓂ極微	13%
354	11	〃	埋土	〃	〃	④① ④	〃	S	ABⓈ～Ⓛ微、CⓈ～(LL)微、K中	8%
355	13	〃	N W区埋土	〃	鉢B	㊲ ①	Ⅳ	S以下	ACEⓈ微、DⓈ極微	13%
356	14	〃	〃 〃	〃	高坏A	㊱	Ⅵ	SS	B(SS)Ⓢ微、CⓂ微、DⓈ微、E(SS)Ⓢ少	13%
357	15	〃	N E区埋土	〃	〃	⑤ ㊱	Ⅳ	SS以下	AⓈ～Ⓛ少、CⓈ少、EⓈ微	59%
358	16	〃	〃 〃	〃	高坏B	㊴	Ⅱ	SS以下	CⓂ極微、D(SS)～Ⓜ少、E(SS)～Ⓜ中	4%
S I 174										
359	F 1	第146図	N W区上層ベッド上	弥生土器	壺(底部)	㉚ ㊺㊱	Ⅵ	M	AⓈ～(LL)多、BⓂ微、CⓈ～(LL)中、EⓈⓂ中	100%
360	F 3	〃	N W区上層ベッド上、上層	〃	甕A	⑦⑭	Ⅱ	SS以下	BⓈ微、CⓂⓁ微、DⓈⓂ微	4%
361	R 2	〃	炉	〃	〃	㉔㊴①②	Ⅳ	S	CDⓈ少、EⓈⓂ中、K少	17%
362	F 1	〃 P L.75	床直、N W区下層	〃	甕F	⑩⑫	Ⅵ	SS＞S̄	BDⓈⓂ少、CⓈ～Ⓛ少、HJⓈⓂ多	72%
363	F 2	〃 〃	NW区上層ベッド上、NW区	〃	高坏A	③ ㊳	Ⅱ	SS	CⓈ～Ⓛ微、DEⓈⓂ微	84%
364	F 4	〃	S W区床直から5 cm下層	〃	〃	⑦⑭	Ⅳ	S＞L	AⓂ～(LL)微、BⓂ微、CⓂ～Ⓛ少、EⓈⓂ少、K少	52%
365	B 5	〃	N W区下層、S N区下層	〃	広口壺B	㊺	Ⅱ	S・SS以下	B(SS)Ⓢ多、CⓈⓂ少、K中	42%
366	B 1	〃 P L.75	N E区下層	〃	広口壺A	⑱⑦	〃	S	C(SS)～Ⓜ少、D(SS)Ⓢ少、E(SS)～Ⓜ微	100%
367	B 2	〃 〃	N E区下層	〃	広口壺B	㊲④	Ⅳ	S＞M	ACⓈ～Ⓛ多、BⓈ少、EⓈⓂ中、K多	87%
368	B 3	〃	N W区下層	〃	〃	①	〃	M	AⓈⓂ少、CⓈ～(LL)中、EⓈⓂ中、K中	100%
369	B 4	〃 P L.75	下層、南北セク下層	〃	〃	⑦㉝	Ⅱ	S以下	CⓈ～Ⓛ微、D(SS)Ⓢ微、E(SS)Ⓢ中	79%
370	B 7	〃	N E区下層	〃	二重口縁壺	㊴	〃	S	CⓂ極微、DⓈⓂ少、EⓂ中	38%
371	B10	〃 P L.75	南北セク下層、NE区ベッド上	〃	〃	㉝ ⑦㉝	Ⅳ	S	AⓈ～(LL)中、CⓈⓁ少、EⓈⓂ少、K少	50%
372	B12	第147図 〃	NW区下層、NW区上層ベッド上	〃	太頸壺	⑭	Ⅵ	M＞L	ACⓈ～(LL)多、E(SS)～Ⓛ中	42%
373	B14	〃 〃	下層	〃	甕A	⑦㊴ ⑭	Ⅱ	M	AⓈ～(LL)少、CⓂ～(LL)中、E(SS)Ⓢ極微	38%
374	B17	〃	N W区下層	〃	甕B	⑦ ⑦㉔	〃	SS以下	CⓈ～(LL)少、D(SS)～Ⓜ微、EⓈ～Ⓛ中	8%
375	B13	〃 P L.75	E W区セク下層	〃	甕A	㊴ ㊲㉔	Ⅵ	M＞S	ACⓈ～(LL)中、BⓈⓂ微、EⓈ～Ⓛ少	50%
376	B38	〃	S E区下層、NW区下層他	〃	〃	⑤① ①	Ⅱ	SS以下	AⓁ微、BⓈ微、B(SS)Ⓢ中、K少	14%
377	B15	〃	N W区下層	〃	〃	㉝ ⑥⑦	Ⅳ	S	A(LL)微、CⓈⓂ少、DⓈⓂ微	25%
378	B18	〃	〃 〃	〃	甕B	㊱㊴ ⑭	Ⅵ	L＞M	AⓈ～(LL)多、CⓈⓂ少、E(SS)～(LL)中	29%
379	B19	〃	下層	〃	〃	⑦⑭	Ⅳ	S	AⓂ～(LL)少、CⓈⓂ微、EⓈⓂ少	4%
380	B37	〃	N W区下層	〃	甕(底体部)	㉞㉔㉞⑦	Ⅱ	M＞S	AⓈ～(LL)中、CⓈⓂ少、E(SS)～Ⓜ中、K少	100%
381	B20	〃	S E区下層	〃	甕(〃)	⑫⑩⑩⑦	Ⅵ	S	AⓈⓂ微、B(SS)Ⓢ少、CⓈ～Ⓛ少、K中	75%
382	B21	〃 P L.75	南北セク下層	〃	甕F	⑩⑫	Ⅷ	M	BⓈ～Ⓛ少、CⓈ～Ⓛ中、DⓈⓂ中、HⓈⓂ少、JⓈ～Ⓛ多	48%
383	B22	〃	N W区下層	〃	鉢C	㊴	Ⅳ	M	AⓈ～(LL)少、CEⓈⓂ微、K中	50%
384	B23	〃 P L.76	下層	〃	高坏A	①	〃	S＞M	AⓈ～(LL)少、C(LL)微、EⓈⓂ中、K中	92%
385	B28	〃	S W区下層	〃	〃	⑨⑭ ⑭	Ⅱ	SS以下	A(SS)～(LL)微、CEⓈⓂ微	8%
386	B24	〃 P L.76	N W区下層	〃	〃	⑦⑭	Ⅳ	S＞M	B(SS)～Ⓜ少、CⓈ～Ⓛ中、DⓈ～(LL)中	63%
387	B25	〃	下層、南北セク	〃	〃	①	Ⅱ	SS以下	A(SS)～Ⓛ微	71%
388	B30	〃	N W区下層	〃	脚台B	⑦ ㊴	Ⅵ	M＞L	AⓂ～(LL)中、CⓂⓁ中、DⓈⓂ少、E(SS)～Ⓛ多、K微	86%
389	B32	〃	S W区下層	〃	甑(底部)	㊴ ㉞㊴	Ⅱ	SS以下	B(SS)少、D(SS)～Ⓜ微、EⓈ～Ⓛ多、K多	100%
390	D 4	〃	N E区上層	〃	広口壺B	⑦	〃	S	AⓈ～(LL)中、BDⓈ微	13%
391	D 2	〃	南北セク上層	〃	〃	⑫ ⑭	〃	M	AⓈ～Ⓛ微、BCⓈⓂ微、K少	21%
392	D 1	〃	上層	〃	〃	⑭	〃	SS以下	D(SS)Ⓢ少、EⓈ～Ⓛ少、K中	58%
393	D 3	〃	N W区上層	〃	〃	㊴ ⑦	〃	S	AⓈⓂ微、DⓈⓂ少、E(SS)Ⓢ少	8%
394	D 5	〃 P L.146	上層、第1区	〃	広口壺C	⑫ ⑦	〃	SS以下	AⓁ微、EⓈⓂ微、K中	29%
395	D 6	〃 P L.76	上層	〃	〃	⑭	〃	S以下	AⓈⓁ微、CⓈ～Ⓛ少、EⓈⓂ少、K多	33%
396	D 8	〃 〃	〃	〃	短頸壺	⑦㉔①㊴	Ⅳ	M＞L	AⓈ～(LL)中、B(SS)Ⓢ少、CⓈ～Ⓛ少、EⓈ～Ⓛ微	92%
397	D 7	〃	〃	〃	二重口縁壺	㉝	〃	M	AⓂ微、DEⓈⓂ少、K中	4%
398	D13	第148図	南西上層	〃	甕A	⑦	Ⅵ	S＞M	BⓈⓂ少、CⓈ～Ⓛ少、DⓈ～Ⓛ中	62%
399	D14	〃	上層	〃	〃	⑦⑭	Ⅱ	SS以下	CⓂ～(LL)少、DEⓈⓂ微	7%
400	D20	〃	〃	〃	甕B	⑫⑩ ⑫	〃	S以下	AⓂ極微、CⓈⓂ極微、EⓈ極微	25%
401	D31	〃	〃	〃	〃	㊴	〃	SS以下	B(SS)～Ⓜ微、CⓈⓂ微、E(SS)～Ⓜ少	8%
402	D15	〃	N W区上層	〃	〃	①	〃	SS	BⓈ微、CⓂⓁ極微、DⓈ極微、E(SS)～Ⓛ多、K極微	100%

出土遺物観察一覧 No.15

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形(部位)	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
403	D12	第148図	NW区上層	弥生土器	甕B	⑦	Ⅱ	S	A(LL)極微、E(SS)Ⓢ微	19%
404	D21	〃	上層	〃	甕F(庄内系)	④㊱	Ⅷ	M＞L	AⓂ～(LL)多、C(SS)～(LL)多、D(SS)～Ⓜ少、EⓂⓁ少、K微	33%
405	1	〃	埋土	〃	甕F(庄内系)	⑯⑥⑥⑭	Ⅱ	M	CⓈ～Ⓛ少、DⓈⓂ微	13%
406	D34	〃	NW区セク上層	〃	甕(底体部)	㉔ ⑭	〃	S＞LL	AⓈ～(LL)多、B(SS)Ⓢ中、CⓈⓂ少、EⓈ～Ⓛ少	73%
407	D30	〃	上層	土師器	甕G	⑲ ⑤	Ⅴ	SS	AⓈ微、B(SS)Ⓢ少、CD(SS)Ⓢ多、EⓈⓂ極微	25%
408	D33	〃	〃	〃	〃	⑤	Ⅵ	SS	BⓈ多、C(SS)～Ⓜ多、D(SS)～Ⓜ微	13%
409	D23	〃	〃	〃	〃	㉝	Ⅴ	SS＞S	C(SS)少、DF(SS)中、HⓈ微	29%
410	D24	〃 PL.76	〃	〃	〃	⑩⑭⑫⑭	〃	SS＞S	B(SS)Ⓢ中、CEⓈ少、D(SS)～Ⓜ多、K少	33%
411	D25	〃 〃	〃	〃	〃	⑭	〃	S	B(SS)微、CⓈⓂ少、D(SS)～Ⓜ多、K少	23%
412	D11	〃 〃	〃	弥生土器	鉢D	⑤	〃	M＞S	AⓈⓂ(LL)中、BⓈ微、CⓈⓁ少、K極多	61%
413	3	〃 〃	第1区	〃	〃	㉒ ⑨	Ⅱ	M	AEⓂ極微、CⓂ少、D(SS)～Ⓜ中、K中	67%
414	D35	〃 〃	上層	〃	脚台付鉢A	⑧	Ⅵ	L＞M	AⓈ～(LL)多、BⓈⓂ微、CⓈ～Ⓛ中、K多	58%
415	D37	〃 PL.77	〃	〃	高坏A	⑦ ⑭⑧	Ⅱ	S	ADⓈ少、BⓈⓂ少、EⓈ微、K少	28%
416	D39	〃 PL.76	〃	〃	高坏B	① ①⑤	〃	M	AⓈ～(LL)中、BⓈ少、CⓂ(LL)微、K少	100%
417	D38	〃 〃	〃	〃	〃	⑧	Ⅵ	L＞S	ACⓈ～(LL)中、DⓈ微	71%
418	D47	〃	NE区上層	〃	脚台	㉚ ⑦	Ⅱ	SS以下	EⓈ～Ⓛ微	54%
419	D42	〃 PL.77	上層	〃	高坏D	㉔㊴ ㊱	Ⅷ	M	BDⓈ～Ⓛ中、CⓈ～Ⓛ多、EⓈ～Ⓛ少	65%
420	D44	〃 PL.146	上層、NW区セク上層	〃	〃	⑨⑭	Ⅳ	S＞M	AⓈ～(LL)少、CⓈ～Ⓛ少、DⓈⓂ中、K多	65%
421	D45	〃 PL.77	南北セク上層	〃	〃	⑭ ⑨	Ⅱ	L＞M	AC(SS)～(LL)中、DⓈⓂ中、K多	58%
422	D43	〃 〃	上層	〃	〃	① ①④	〃	S	AⓂ微、CⓁ(LL)極微、DⓂ極微、EⓂ～(LL)中	29%
423	D40	〃	NW区上層、南北セク上層	〃	高坏C	⑭⑥⑥⑭	〃	SS	AⓂ微、BDⓈⓂ中、CⓂ少	13%
424	5	〃	埋土	〃	脚台E	㊴㊱	〃	S	AⓈ～(LL)少、CEⓈⓂ少、D(SS)Ⓢ多	81%
SⅠ177										
425	4	第149図	埋土	土師器	高坏D	①	Ⅳ	S＞M	AⓂⓁ多、B(SS)～Ⓜ少、CⓂⓁ微、DE(SS)～Ⓜ微	8%
426	1	〃	〃	弥生土器	甕(底部)	① ④	Ⅱ	SS以下	D(SS)～Ⓜ微、EⓈⓂ微	21%
427	2	〃	〃	〃	〃(〃)	㉚ ⑯	Ⅷ	L	AⓈ～(LL)極多、CⓈ～(LL)多、DⓈ微、K微	62%
428	3	〃	〃	〃	鉢?(底部)	⑥	Ⅱ	SS以下	AⓈ～Ⓛ微、B(SS)Ⓢ微、D(SS)～Ⓜ微	100%
SⅠ178										
429	F 1	第149図PL.77	床直	土師器	小形鉢	⑤	Ⅵ	S・M＞LL	AⓂ～(LL)中、BⓈ～(LL)微、CⓈⓂ微、D(SS)Ⓢ少、E(SS)～Ⓛ微	52%
430	6	〃	NW区埋土	弥生土器	高坏A	⑤ ㊷	Ⅲ	SS以下	C(SS)Ⓢ少、EⓈ～Ⓛ中、K少	8%
431	7	〃	〃 〃	〃	脚台B	⑳	Ⅱ	SS	BⓈ微、EⓈⓂ中、K	42%
432	2	〃	埋土	〃	壺(底部)	㉛ ⑭	Ⅲ	SS以下	BE(SS)～Ⓜ微、C(SS)微、K多	75%
433	3	〃	〃	〃	壺?(底部)	⑦	Ⅱ	SS	CⓂ極微、EⓈⓂ少、K少	17%
434	1	〃	NW区埋土	〃	壺(底部)	⑦ ⑱	〃	SS以下	B(SS)微、CⓁ微、EⓂ多	25%
435	5	〃	NW区埋土	〃	甕(底部)	㊶ ⑥	〃	S	AⓂ微、BCⓈ微、DEⓈⓂ微、K微	33%
436	4	〃	〃 〃	〃	〃(〃)	㉝ ㊱	〃	SS	AⓈⓂ少、BⓈⓂ微、D(SS)～Ⓛ少、E(SS)～Ⓜ少、FⓁ極微	100%
SⅠ179										
437	1	第149図	NW区埋土	弥生土器	二重口縁壺	①	Ⅱ	SS＞S	AⓈⓂ少、B(SS)Ⓢ微、DⓁ微、EⓈ少、K微	8%
438	2	〃	SW区埋土、NE区埋土他	土師器	壺(底体部)	㉔ ⑦⑤	〃	S＞M	A(SS)～Ⓛ中・(LL)微、C(SS)～Ⓜ少、E(SS)～Ⓛ多	63%
439	A 1	〃	床面から5cm	弥生土器	甕A	⑦	〃	SS＞S	AⓈⓂ微・(LL)微、B(SS)Ⓢ微、EⓈⓂ中、K極微	17%
440	3	〃	埋土	土師器	〃	③ ⑧	Ⅵ	S＞L	AⓈ～Ⓛ多、B(SS)～Ⓛ少、CⓈ～(LL)少、E(SS)Ⓢ微、K多	4%
441	4	〃	SW区埋土	〃	甕B	⑧	Ⅱ	S＞M	AⓂ中、CEⓂ微、DⓈⓂ少	8%
442	P 1	〃	柱穴3	〃	〃	① ①⑦	Ⅷ	SS	AⓈ～Ⓛ少、B(SS)～Ⓜ少、CⓂ微、DⓈⓂ中、EⓈⓂ微、K微	25%
443	2ソ1	〃	セク第2層、SK243掘削	〃	〃	⑤ ㊶	Ⅱ	SS＞S	AⓈⓂ中、BD(SS)～Ⓜ少、EⓈⓂ微	8%
444	T 1	〃	貯蔵穴	〃	椀	㊴ ㊱	Ⅲ	S	AⓂⓁ中、CⓂ極微、DE(SS)～Ⓜ少	13%
445	R 2	〃	炉	弥生土器	鉢A(甕?)	⑰⑯⑦㉝	Ⅵ	S＞M	AⓈⓂ少、B(SS)～Ⓜ微、CⓂ極微、DⓈ～(LL)中、E(SS)～(LL)多	100%
446	R 1	〃 PL.77	〃	〃	鉢A(小形)	②㊲	Ⅱ	S 以下	A(SS)～Ⓛ少・(LL)微、C(SS)Ⓢ微、DⓈⓂ微、E(SS)～Ⓜ微、K少	65%
447	A 2	〃	床面から5cm	〃	高坏A	⑥ ⑨⑤	〃	SS以下	A(LL)微、BC(SS)～Ⓜ微、K少	4%
448	10	〃	NW区埋土	土師器	脚台B	②⑤	〃	SS以下	A(SS)～Ⓜ少、BC(SS)～Ⓜ微、E(SS)～Ⓛ少、K多	92%
449	R 3	〃 PL.77	炉、炉の底	弥生土器	高坏B	①㊲	〃	SS以下	CB(SS)Ⓢ微	89%
450	A 3	〃 〃	床面から5cm、SK243掘削	土師器	〃	㉝④ ④	〃	SS以下	B(SS)Ⓢ微、D(SS)～Ⓜ中、E(SS)～Ⓜ少、K微	21%
451	R 4	〃	炉	弥生土器	〃	② ⑤	〃	SS	AⓈⓂ微、B(SS)Ⓢ微、EⓈⓂ少、K少	8%
452	8	〃	埋土、SK243掘削	土師器	高坏D	㉞ ⑧	〃	M	ADE(SS)～Ⓜ少、CⓂ微	17%
453	T 2	〃 PL.77	貯穴、貯穴第3層、SE区埋土	〃	〃	㉝⑯㉞㉝	〃	SS以下	AⓂ極微、D(SS)～Ⓜ少、E(SS)～Ⓜ中	67%
454	2ソ2	〃	セク第2層、セク第1層	弥生土器	高坏B	⑤	Ⅴ	SS＞S	AⓂ～(LL)中、BⓂⓁ少、DⓂ少、EⓈ(LL)微、K少	54%
455	R 5	〃	炉	〃	脚台A(裾部)	⑨	Ⅱ	SS	AⓈ微、B(SS)Ⓛ微、D(SS)微、EⓈⓁ微、K少	62%
456	11	〃	SE区埋土	〃	器台B	①	〃	SS以下	ABⓈⓂ微、D(SS)微、K少	21%
SⅠ180										
457	P 1	第150図	SE区柱穴	土師器	広口壺A	⑦㊱ ②	Ⅱ	SS以下	A(SS)～Ⓜ少、B(SS)Ⓢ少、CⓂⓁ微、DE(SS)～Ⓜ微	13%
458	1	〃 PL.77	NE区埋土、埋土	弥生土器	広口壺C	⑦	Ⅲ	S・M	AⓂⓁ少、B(SS)～Ⓜ微、CⓂ～(LL)微、D(SS)極微、EⓈ～Ⓛ微、K多	21%
459	2	〃	NE区埋土	〃	壺(底部)	㉜	Ⅱ	SS以下	AⓂ極微、B(SS)微、D(SS)～Ⓜ少、E(SS)～Ⓜ微、K極微	100%
460	7	〃	SW区埋土	土師器	脚台(裾部)	② ①	〃	SS以下	AⓂ微、B(SS)～Ⓜ少、D(SS)Ⓢ微、E(SS)～Ⓛ少、K中	17%
461	4	〃	NW区埋土	〃	甕G	⑭㉞	Ⅷ	M	AⓈⓂ極多・(LL)少、B(SS)～Ⓜ中、C(SS)～Ⓜ多、E(SS)～Ⓜ極多、K極微	36%
462	3	〃	SW区埋土	弥生土器	甕D	③ ④	Ⅱ	SS以下	A(SS)～Ⓜ微、B(SS)少、CⓂ極微、E(SS)微、K中	13%
463	5	〃	埋土	土師器	鉢A	㉝	Ⅴ	SS以下	AⓂ微、CⓂ～(LL)微、DⓈⓂ極微、E(SS)～Ⓜ極微	13%
464	6	〃	SW区埋土	〃	鉢B(小形)	⑧㉞	Ⅱ	S＞M	AⓂⓁ少、B(SS)～Ⓜ少、D(SS)極微、E(SS)微	8%
SⅠ181										
465	F 1	第150図	床直	弥生土器	広口壺A	②	Ⅳ	S＞M	AⓈⓂ少、B(SS)Ⓜ微、D(SS)～Ⓜ極微、EⓂ極微、K中	8%
466	F 2	〃	〃	土師器	二重口縁壺	㊱	Ⅱ	S	AⓈⓂ少、BE(SS)～Ⓜ微、CDⓈⓂ微	4%
467	3	〃	埋土	弥生土器	甕B	①	〃	SS	A(SS)少、C(SS)～Ⓜ少、EⓂ極微、K極微	8%

出土遺物観察一覧 No.16

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
468	D 1	第150図	南北上層	土師器	甕B	㉒			Ⅲ	SS以下	B㋎微、CDEⓂ微、K微	8%
469	4	〃	埋土	弥生土器	〃	①			〃	SS以下	AE㋎～Ⓛ少、D㋎Ⓜ微、K微	13%
470	5	〃	セク第2層中	〃	甕(底部)	⑤	①		Ⅳ	SS以下	A㋎少、B㋎Ⓜ微、CEⓂ極微、K少	92%
471	1	〃	埋土	土師器	鉢B	②	①		Ⅲ	S＞M	A㋎～Ⓛ中、C㋎～Ⓛ少、E㋎～Ⓜ微	8%
SI182												
472	1	第150図PL.78	埋土、NE区上層	土師器	二重口縁壺	⑰	⑦	㉑⑰	Ⅱ	SS	A㋎～Ⓛ少、BⓂ極微、D㋎～Ⓜ微、E㋎～Ⓛ微	50%
473	T 1	〃	貯蔵穴、埋土	弥生土器	壺(頸部)	㊶	⑮		〃	M	ABⓂ微、EⓂⓁ少、K微	38%
474	2	〃	埋土	土師器	甕G	㉔			Ⅵ	S	A㋎～Ⓛ多、D㋎Ⓜ中	13%
475	T 2	〃	貯蔵穴	弥生土器	甕(底部)	⑮	⑦	㊶	Ⅴ	SS	A㋎㋎少、BDJ㋎少、C㋎中、EⓂ微、K多	100%
476	5	〃	埋土	〃	手捏ね	⑦			Ⅱ	SS以下	B㋎極微、E㋎㋎極微	25%
477	T 3	〃	貯蔵穴	〃	高坏E	㉓	㉓	⑦	〃	SS以下	B㋎微、D㋎～Ⓜ微、E㋎㋎微	8%
478	3	〃 PL.78	埋土	土師器	高坏F	④	⑱		〃	SS以下	A㋎～Ⓛ少、B㋎微、CⓂⓁ微、D㋎微、E㋎～Ⓜ微、K微	46%
479	T 4	〃	貯蔵穴	〃	脚台F(裾部)	①	㊶		Ⅲ	SS	A㋎微、BC㋎多、D㋎中	13%
480	T 5	〃	〃	弥生土器	脚台G(〃)	⑦			Ⅱ	SS	A㋎微、D㋎～Ⓜ多、K微	13%
481	4	〃	埋土	土師器	脚台F	㉓	㉓㉓		〃	SS以下	A㋎Ⓜ微、CⓂ極微、D㋎～Ⓜ微	100%
SI183												
482	1	第150図	SW区埋土	弥生土器	広口壺A	②			Ⅱ	SS以下	BD㋎微、E㋎㋎微、K㋎少	17%
483	3	〃	〃 〃	〃	甕A	⑦			〃	SS	AⓂ微、E㋎Ⓜ少、K少	13%
484	4	〃	Sセク	〃	高坏D	①	⑪		Ⅷ	LL	A㋎～Ⓛ多、C㋎～Ⓛ微、D㋎～Ⓜ微	4%
485	5	〃	SW区埋土	〃	脚台B	㉒			Ⅵ	SS	A㋎㋎少、B㋎少、D㋎～Ⓜ中、E㋎～Ⓛ微、K少	100%
SI184												
486	T 1	第150図PL.78	貯蔵穴第3層(ハ層)	土師器	甕B	①			Ⅱ	SS	ABC㋎～㋎多、EⓂⓁ中、K多	90%
487	T 2	〃	〃 〃 (〃)	〃	〃	⑤	⑩		〃	SS以下	CE㋎～Ⓜ微、D㋎～Ⓛ中、K多	8%
488	1	〃	埋土	弥生土器	甕D	①	㉓		〃	M	BD㋎～Ⓛ少、CⓂ～Ⓚ中、E㋎少、K微	4%
489	2	〃	〃	〃	〃	①			Ⅴ	SS	A㋎多、B㋎㋎中、CⓀ微、E㋎～Ⓛ少、K多	8%
490	3	〃	〃	〃	鉢(底部)	㉓			Ⅱ	SS	AⓂ少、B㋎㋎少、DⓂ微、E㋎～Ⓜ微、K少	100%
491	T 3	〃 PL.78	貯蔵穴	土師器	鉢D	㉓㉓	㉓		Ⅲ	SS	A㋎～Ⓛ中、BD㋎～Ⓜ少、C㋎～Ⓛ微、K少	100%
492	T 6	〃	〃	弥生土器	脚台A	⑦			Ⅱ	SS以下	AⓂ～Ⓚ、B㋎㋎少、C㋎㋎中、DⓂ少、K中	69%
493	T 5	〃 PL.78	貯蔵穴第3層(ハ層)	土師器	高坏D	㉓㉔	⑤		Ⅴ	SS以下	B㋎㋎多、C㋎㋎少、D㋎～Ⓜ中、E㋎Ⓜ微、K少	61%
494	T 4	〃	貯蔵穴	弥生土器	高坏B	⑦	①		Ⅱ	SS以下	B㋎～Ⓜ少、E㋎㋎微、K中	13%
SI185												
495	D 1	第151図	上層	土師器	広口壺A	㉓	①		Ⅱ	SS以下	AⓂ～Ⓚ微、CⓂ極微、D㋎～Ⓚ微	13%
496	T 2	〃	貯蔵穴セク	〃	甕B	⑦			Ⅷ	M＞S	A㋎～Ⓛ中、C㋎～Ⓚ中、D㋎Ⓜ少、E㋎～Ⓚ少、K多	25%
497	2	〃	埋土	弥生土器	〃	⑭⑤			Ⅱ	M	A㋎～Ⓚ中、B㋎～Ⓚ少、CE㋎Ⓜ少、K微	4%
498	T 1	〃	貯蔵穴セク、貯蔵穴、検出面他	土師器	〃	㉔	⑥③		Ⅳ	M＞L	A㋎～Ⓛ多・Ⓚ微、B㋎～Ⓜ中、C㋎～Ⓜ多、D㋎～Ⓛ中	67%
499	3	〃	埋土	弥生土器	甕(底部)	①			Ⅲ	SS＞S	AⓂ～Ⓚ中、B㋎～Ⓜ少、CⓂ少、D㋎～Ⓜ微、E㋎～Ⓛ多、K多	100%
500	1	〃	〃	土師器	脚台F	⑤	①		Ⅱ	S	B㋎㋎少、E㋎～Ⓛ中、K中	29%
SI187												
501	D 1	第151図	NW区上層	土師器	二重口縁壺	①			Ⅱ	M	AⓂⒹ微、C㋎～Ⓓ微、D㋎Ⓜ極微、E㋎極微	13%
502	K 1	〃	カマド、い？	〃	短頸壺	⑦㉓⑦⑰			Ⅲ	SS以下	D㋎極微、E㋎Ⓜ微	67%
503	D 5	〃	NW区上層	〃	甕G	⑭⑦			Ⅱ	M＞S	A㋎Ⓜ多、EⓂ微、K極微	13%
504	D 4	〃	〃 〃	〃	〃	㉗			Ⅵ	SS＞S	A㋎Ⓜ多、C㋎㋎微、DⓂ少、E㋎微、K少	8%
505	2	〃	セクい	〃	〃	⑩			Ⅱ	S	A㋎～Ⓜ多、C㋎㋎微、K中	8%
506	D 3	〃	SW区上下層	〃	甕A	①⑰⑯⑰			Ⅵ	M	A㋎～Ⓓ中、B㋎㋎少、C㋎Ⓜ微、E㋎Ⓜ少、K少	4%
507	3	〃	セクい	〃	高坏F？	⑥	④		Ⅱ	SS以下	A㋎～Ⓛ少、B㋎微、D㋎Ⓜ微	17%
508	D 6	〃	NE区上層	〃	脚台G	㉓	㉗		〃	M	A㋎少、CⓂ微、D㋎Ⓜ少、EⓂ微	13%
509	D 7	〃	SW区上下層	製塩土器	脚台Ⅲ	①㉓			Ⅵ	SS	B㋎㋎中、D㋎～Ⓜ微、E㋎～Ⓓ少、K少	33%
SI188												
510	K 1	第151図	カマド付近	土師器	甕B	㉓			Ⅱ	M＞S	CⓂⒹ微、D㋎～Ⓜ中、E㋎～Ⓜ少	87%
511	A 1	〃	床面から5cm	〃	甕D′	⑤			Ⅶ	S＞M	BC㋎～Ⓜ中、J㋎微	8%
512	K 2	〃 PL.78	カマド支脚	〃	高坏B	㉓	⑦㉓		Ⅳ	SS以下	B㋎㋎中、DⓂ極微、K微	100%
513	A 2	〃	床面から5cm	〃	高坏B？	⑦			Ⅴ	SS以下	ABD㋎㋎少、E㋎～Ⓜ少	13%
514	F 1	〃	床直	弥生土器	脚台A(裾部)	①	⑦①		Ⅵ	S	B㋎～Ⓓ中、CⓂ極微、D㋎Ⓜ微、K少	25%
515	A 4	〃	床面から5cm	土師器	〃 (〃)	①	㊶		Ⅱ	SS以下	A㋎～Ⓛ少、E㋎Ⓜ微、K微	13%
516	1	〃	セク	須恵器	坏蓋	㉕			〃		B㋎～Ⓓ微、CⓂ極微、D㋎㋎極微	4%
SI189												
517	1	第151図PL.78	埋土、セク	土師器	甕B	①	④		Ⅶ	M＞L	A㋎～Ⓓ多、B㋎Ⓜ少、C㋎～Ⓓ少、D㋎～Ⓓ少、K少	96%
SI190												
518	2	第151図	埋土	土師器	甕B	⑧			Ⅴ	S	A㋎㋎中、B㋎Ⓜ少、CⓂ微、D㋎Ⓜ微、K少	8%
519	1	〃 PL.78	〃	〃	広口壺B	①⑤			〃	M＞L	A㋎～Ⓛ中・Ⓓ微、B㋎㋎少、C㋎～Ⓓ少、D㋎～Ⓓ中	19%
SI191												
520	K 1	第151図	カマド、いう	弥生土器	甕B	⑭			Ⅴ	SS以下	A㋎㋎少、B㋎少、D㋎～Ⓜ少、E㋎～Ⓜ多	42%
SI192												
521	1	第151図	SW区埋土	土師器	広口壺A	⑦㉓			Ⅵ	S	A㋎～Ⓜ少、C㋎～Ⓜ微、D㋎Ⓜ微、E㋎Ⓜ微	8%
522	2	〃	〃 〃	〃	〃	①⑦ ⑫			Ⅳ	SS＞S	AⓂ～Ⓓ微、B㋎極微、E㋎㋎微、K中	8%
523	D 3	〃	SW区上層	〃	甕B	⑦⑤			〃	S以下	AⓂ微・㋎中、C㋎少、EⓂ少	17%
524	D 2	〃	〃 〃	〃	〃	⑦⑤			〃	SS	A㋎～Ⓓ微、B㋎㋎少、E㋎～Ⓜ少、K少	50%
525	D 1	〃 PL.78	〃 〃	〃	〃	①⑤			Ⅵ	S＞M	A㋎～Ⓓ中、B㋎～Ⓜ中、C㋎～Ⓓ微、E㋎～Ⓓ中	46%
526	4	〃	SW区埋土	〃	〃	⑦㉗ ㉗			Ⅱ	S以下	A㋎㋎中、C㋎少、E㋎微、K中	4%
527	6	〃	〃 〃	〃	塙把手	㉓			Ⅳ	M	B㋎～Ⓓ少、C㋎～Ⓛ少、E㋎～Ⓜ多、K少	—

出土遺物観察一覧 No.17

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
528	5	第151図	SW区埋土	土師器	鉢（底部）	⑦	①		Ⅱ	SS以下	BD(S)(S)微、C(M)(L)微、K(S)極微	100%
529	3	〃	〃 〃	弥生土器	壺（底部）	⑦	⑭		〃	SS以下	A(M)(L)極微、B(S)(M)微、K中	100%
530	B 1	〃	SW区下層	須恵器	坏身	㊺			〃		A(S)極微、B(S)(S)微	17%
531	B 2	〃 PL.77	NE区下層	〃	脚台	㊺	㊼		〃		B(S)(S)少	90%
532	F15	第152図	SI167遺構面直上	弥生土器	紡錘車	⑩	⑥		Ⅳ		B(S)微、K中 2.9g	
533	R 4	〃	SI167炉（SE区）	〃	〃	㉔	㉙		Ⅵ		E(S)～(M)中 10.9g	
534	B34	〃	SI174東西セク下層	〃	〃	①			Ⅱ		A(S)～(L)少、D(S)微、E(S)(M)微 10.9g	
535	D48	〃	SI174上層	〃	〃	①㉒			〃		A(S)～(L)少、B(S)少 9.9g	
536	2	〃	SI181セク第2層中	〃	〃	㊽	③		Ⅵ	SS＞S	AE(S)(M)微、B(S)(S)微、D(M)極微、K微 7.9g	
537		第153図	P1562	〃	甕A	⑪⑯			Ⅱ	S＞M	A(S)～(L)中、B(S)微、D(S)(M)微、E(S)～(L)少、K多	21%
538		〃 PL.79	P1400	土師器	高坏B	①			〃	SS以下	A(S)微、E(S)(M)少、K中	75%
539		〃	P1541	弥生土器	〃	①			V	S以下	A(S)(S)中、CE(S)(M)少、D(S)少、K多	8%
540		〃 PL.79	〃	土師器	手捏ね小形壺	⑭①			Ⅸ	M＞S	A(S)～(M)少、C(S)～(M)中、D(S)～(L)多、E(S)(M)微	75%
541		〃	P？	製塩土器	Ⅰ類	⑦			〃	SS以下	BCD多	13%
542		〃	P812	弥生土器	鉢A	⑤⑧	④		Ⅲ	SS以下＞S	A(S)～(L)多・(M)少、D(L)微	54%
543		〃 PL.79	P1542	土師器	高坏D	⑫②	①		Ⅶ	SS以下	A(S)～(M)多、B(S)～(M)少、C(S)～(L)中、K中	96%
544		〃	P1541	〃	脚台F	①			V	SS＞S	AB(S)(S)少、D(S)(M)中、F(M)微、K少	13%
545	1	〃	SB198 P824掘方	〃	脚台B（基部）	②			Ⅱ	SS以下	A(S)～(L)微、DE(S)(S)中、K多	100%
546		〃	P1542	弥生土器	器台A	㉝③	㉔		〃	SS以下	A(S)～(M)少、C(S)(S)中、K中	8%
547	1	第154図	SK201	〃	脚台C	⑭⑦			〃	SS＞S	C(S)(S)(L)中、E(S)(S)少	52%
548	9	〃 PL.79	SK208	〃	壺	⑫⑦			〃	SS以下	B(S)少、D(S)(M)微、K少	52%
549	2	第155図 〃	SK205	〃	広口壺A	①⑤			〃	S＞M	A(L)微、C(S)(M)微、E(S)～(L)中	75%
550	3	〃	〃	〃	広口壺B	⑧			〃	M＞S	A(S)～(L)少、C(M)(L)微、D(M)微、K多	17%
551	1	〃	〃	〃	細頸壺	①			〃	M	AD(M)微、E(L)微	21%
552	9	〃 PL.79	〃	〃	鉢B	⑲	⑲㊽		〃	SS以下	C(S)(S)微、D(S)～(M)微	61%
553	8	〃	〃	〃	〃	⑧	⑧⑮		〃	S＞M	A(S)～(L)少、B(S)～(M)少	54%
554	7	〃	〃	〃	鉢	⑧	⑤		〃	S	A(S)～(L)少、E(S)～(L)中、K微	21%
555	5	〃	〃	〃	高坏A	①	①⑦		〃	S	A(S)～(L)少、D(S)～(L)微、E(S)～(L)少	58%
556	4	〃	〃	〃	〃	②	⑤		〃	S	C(M)微、E(S)(M)少	4%
557	6	〃	〃	〃	高坏B	⑭⑧			〃	S以下	E(S)～(L)中	29%
558	D 1	〃	SK207セク上層	〃	広口壺A	㊽	⑦		〃	M	A(M)(L)微、B(S)中、C(M)微、E(S)～(L)少	13%
559	D 2	〃 PL.79	〃 〃	〃	〃	㉕	⑤		〃	M	A(S)～(L)多、C(S)～(L)少	100%
560	1	〃	SK207	〃	甕A	㊾⑮			〃	S	B(S)(M)微、C(S)微、E(S)少	38%
561	B 1	〃	SK207下層	〃	〃	⑦			〃	S＞M	B(S)少、D(M)微、E(S)～(M)中	13%
562	4	〃	SK207	〃	高坏A	㊽㉒	⑭		〃	S＞M	AE(S)(M)微、C(S)～(L)少、K微	13%
563	D 3	〃	SK207セク上層	〃	〃	⑦㊽			〃	S以下	A(S)(M)微、C(S)(M)(L)少、K中	8%
564	2	〃	SK209	〃	甕A	⑭⑮			〃	SS	A(M)～(L)微、C(S)～(L)中、E(S)(S)中	29%
565	1	〃	〃	〃	〃	⑭⑮			〃	SS以下	E(S)(M)微、K少	33%
566	4	〃	〃	〃	脚台B	⑮			〃	SS	D(S)～(M)中、E(S)～(L)少、K微	67%
567	3	〃 PL.79	〃	〃	脚台付鉢	⑤⑲			〃	SS以下	E(S)(M)微	100%
568	2	〃 〃	SK213	〃	広口壺A	②			Ⅳ	S＞M	A(S)～(L)中、B(S)(S)中、C(S)～(L)少、E(S)～(L)中	100%
569	D 1	〃 PL.80	SK213上層	〃	広口壺B	①②			Ⅵ	S＞M	A(M)(L)少、B(S)(M)中、C(M)(L)中、D(S)(M)少、E(S)(M)微	96%
570	3	〃 PL.79	SK213	〃	脚台付短頸壺	①			Ⅳ	S	A(M)～(L)中、B(S)(M)中、CD(M)(L)少、K少	75%
571	4ソ1	〃	SK213土層第4層	〃	脚台付壺	⑨⑭			Ⅱ	S＞M	B(S)(S)微、C(S)～(M)微、D(S)(M)微、E(S)(M)少	100%
572	1ソ3	〃	SK213セク第1層	〃	甕A	①			〃	M＞L	A(L)(L)少、B(S)～(L)中、C(L)(L)微、E(S)～(L)多	8%
573	1	〃 PL.80	SK213	〃	鉢A	⑦⑰			Ⅳ	S	A(S)～(L)少、B(S)(M)中、C(S)(M)微、K少	92%
574	1ソ2	〃 〃	SK213セク第1層	〃	〃	⑭	㉒		Ⅱ	S	A(M)微、C(S)～(L)微、D(S)(M)少、K多	48%
575	1	第156図	SK208	〃	広口壺A	⑧			〃	SS以下	D(S)微、E(S)(S)微、K微	13%
576	4	〃	〃	〃	広口壺B	⑪⑫			〃	S以下	CDE(S)(M)微	8%
577	2	〃	〃	〃	広口壺C	㉒			〃	M	CD(L)極微、E(S)～(L)少	25%
578	3	〃	〃	〃	〃	⑦⑭⑩			〃	SS	B(S)(S)少、E(S)(M)中、K少	62%
579	5	〃	〃	〃	広口壺B	⑰⑭			〃	S	A(M)(L)中、C(S)微、D(S)少	17%
580	7	〃	〃	〃	二重口縁壺	⑧			〃	SS以下	AD(S)(M)微、K少	4%
581	19	〃	〃	〃	壺（底体部）	⑩	⑰①		〃	SS・S	A(S)(S)少、C(S)(S)中、D(S)微、E(S)(M)少	100%
582	11	〃	〃	〃	甕A	⑦⑭⑭⑫			〃	SS	A(S)(M)少、CD(S)(M)微、E(S)(M)中	25%
583	10	〃	〃	〃	〃	⑩⑦			〃	SS以下	B(S)(S)微	25%
584	13	〃	〃	〃	鉢B	㉓			〃	SS以下	K中	8%
585	15	〃	〃	〃	高坏A	⑥⑤			〃	S	AC(S)～(L)微、BD(S)(M)少	13%
586	21	〃	〃	〃	〃	⑳⑪			〃	SS以下	B(S)(S)微、C(M)微、D(S)(M)微	33%
587	22	〃	〃	〃	高坏B	⑭①			〃	SS	C(S)(M)中、D(S)少、E(S)(M)微	29%
588	18	〃	〃	〃	脚台A	⑥⑤			〃	SS	D(S)少、E(S)微、K微	54%
589	17	〃	〃	〃	〃	⑩⑭			〃	SS以下	A(S)～(L)少、C(S)微、D(S)(S)微	59%
590	1	〃 PL.80	SK232	土師器	高坏D	①			〃	SS・S	A(M)極微、BD(S)(M)中、C(S)～(L)多	75%
591	3	〃	SK233	製塩土器	丸底Ⅰ	㊽㊾			〃	SS以下	E(S)(S)中	38%
592	2	〃	〃	〃	〃	㊾			〃	SS以下	E(S)(S)中	42%
593	4	〃	〃	〃	〃	㊾			〃	SS	E(S)(S)多	33%
594	5	〃	〃	〃	〃	⑳			〃	SS以下	E(S)少	8%
595	7	〃	〃	〃	丸底Ⅱ	㉔㊾			〃	SS	C(S)(M)微、D(S)微	17%
596	1	〃 PL.80	SK235	土師器	甕B	㊾⑭			Ⅳ	S	C(S)(M)少、D(S)(M)微、E(S)(M)中	63%

出土遺物観察一覧 No.18

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
597	2	第156図PL.80	SK235	土師器	甕B	⑩ ㊱	Ⅱ	S＞M	AⓈ～Ⓛ中、CⓈ～Ⓛ多、DⓈ～Ⓛ中	61%
598	3	〃 〃	〃	〃	甕？	㊱⑭㊱⑩	Ⅳ	S	AⓈ～Ⓛ中、CⓈⓂ少、DⓈ～Ⓛ中、K微	67%
599	B 5	〃 〃	SK239下層	弥生土器	鉢（底部）	㊴ ⑮	Ⅱ	SS	BⓈ～Ⓢ極微、CEⓈ～Ⓜ微、DⓈ～Ⓜ多	54%
600	B 4	〃	〃 〃	〃	甕（底部）	㊱⑮ ⑮	Ⅵ	SS＞S	BⓈ少、CⓂⓁ中、DⓈⓂ多・Ⓛ微、K少	100%
601	B 3	〃 PL.80	〃 〃	〃	高坏D	⑧⑥	Ⅳ	S	ACⓈⓂ少、BⓈⓂ多、EⓈ～Ⓛ少、K中	81%
602	B 1	〃	〃 〃	〃	脚台F	⑧	Ⅵ	M＞S	AⓁ極微、CⓈ～Ⓛ多、DⓈⓂ多、EⓈⓂ少	100%
603	B 2	〃	〃 〃	〃	〃	⑧⑥	Ⅳ	S	AⓈ～Ⓛ多、DⓈⓂ少、EⓈⓂ微、K中	100%
604	1	〃	SK242	土師器	高坏D	①	Ⅵ	SS	AⓈⓂ多、CⓈⓂ少、DⓈⓂ中、EⓈ～Ⓛ少、K多	69%
SK243										
605	4ソ5	第157図PL.81	第4層、第1層	土師器	甕B	㉓⑫㉓㉓	Ⅴ	S＞SS・M	AⓈⓂ多、CⓈ少・Ⓛ微、DⓈⓂ多・Ⓛ微、EⓈ～Ⓛ多、K多	58%
606	3ソ12	〃 〃	第3層、第2層、第2・3層混	〃	〃	⑫ ⑰㊾	〃	SS＞S	ACⓈⓈ少、DⓈ～Ⓛ中、EⓈ微	25%
607	2ソ3	〃	第2層	〃	〃	⑰⑦	Ⅱ	SS以下	ABDEⓈ微、K多	17%
608	3ソ13	〃 PL.81	第3層、第2・3層混	〃	〃	⑱⑫ ⑤	〃	S＞M	AⓁ微、BⓂ極微、DⓈⓂ中、EⓈⓂ微、K多	57%
609	3ソ14	〃 〃	第3層、第2層、第1層	〃	〃	⑰	〃	SS以下	CⓂ微、DEⓈⓂ微、K少	52%
610	3ソ16	〃	第3層	〃	〃	⑦	Ⅶ	SS＞S	AⓈ～Ⓜ多、CⓂ微、DⓈ～Ⓜ少、EⓈ～Ⓜ微、K微	29%
611	3ソ19	〃	第3層、層混	〃	〃	㉑⑯ ⑦	Ⅲ	SS以下	AⓂ中、BⓂ微、DⓈ～Ⓜ少、EⓈ～Ⓜ微、K微	30%
612	4ソ6	〃	第4層	〃	〃	①	Ⅱ	SS以下	ABEⓈ微、DⓈ～Ⓜ少、KⓈ多	17%
613	3ソ20	〃	第3層	〃	〃	⑰	〃	S＞M	ADⓈ～Ⓜ少、CⓈ微、EⓈ～Ⓜ中	21%
614	3ソ18	〃	〃	〃	〃	⑦	〃	SS	AⓈ少、BⓈ微、CⓈⓈ微、DⓈⓈ少、K微	21%
615	3ソ21	〃 PL.81	〃	〃	甕B小形	⑫	Ⅲ	S＞SS	AⓈⓈ中、DⓈⓂ少、EⓈ少、K微	42%
616	3ソ17	〃 〃	第3層、第2層	〃	甕B'	⑫⑦⑭⑫	Ⅱ	SS以下	AEⓈ～Ⓜ少、BⓈⓈ微、DⓈⓂ少、EⓁ微	67%
617	3ソ24	〃 〃	第3層、第2・3層混、第2層	〃	甕B変形	⑯	〃	SS以下	AⓈ微、DⓈ～Ⓜ少、EⓈ～Ⓜ微、K微	73%
618	3ソ7	第158図	第3層、第2層	〃	甕B	㊱ ㊱㊱	Ⅵ	M＞S	ABⓈ～Ⓜ少、CⓈⓂ多、DⓈ～Ⓛ多、EⓈ～Ⓛ多	65%
619	3ソ5	〃 PL.82	〃 〃	〃	〃	㉔⑯㉔⑤	Ⅲ	S＞SS	AⓂ～Ⓛ中、BⓈⓈ微、DⓈ～Ⓜ少、EⓈ～Ⓜ微	85%
620	3ソ11	〃	〃 〃	〃	〃	㊴ ⑭㊸	Ⅵ	M＞S	AⓈ～Ⓛ多、BⓈ～Ⓜ少、CEⓈ～Ⓛ少、DⓈ～Ⓛ多、K中	63%
621	3ソ26	〃	第3層、第2・3層	〃	〃	㉓⑯㉓㉔	Ⅳ	SS＞S	AⓈⓈ中、CEⓈⓈ少、DⓈ～Ⓛ中、K少	17%
622	3ソ9	〃 PL.82	第3層、第2層、第1層	〃	〃	⑦①①㊸	Ⅲ	SS以下	AⓈ中、BDⓈ～Ⓜ多、EⓈ～Ⓜ中、K少	75%
623	3ソ8	〃 〃	第3層、層混	〃	〃	⑦㊸⑦⑭	〃	S	AⓈⓈ少、CⓈⓈ中、DⓈ～Ⓛ多、EⓈ～Ⓜ微、K中	71%
624	3ソ6	〃 〃	第3層、第2層、第2・3層混他	〃	〃	㊸㊸㊸⑦	〃	SS	ACⓈ中、BⓈ少、DⓈ～Ⓛ多、EⓈ少、K多	90%
625	3ソ10	第159図PL.81	第3層	〃	〃	㊸⑲	Ⅵ	M	ACⓈ～Ⓛ多、BⓈⓂ中、DⓈⓂ多・Ⓛ極微	42%
626	3ソ40	〃	第3層、第2層	〃	塝	⑤⑦⑥⑭	Ⅴ	SS	AⓈ中、CⓈⓈ多、DⓈⓂ中、EⓈⓂ少、K中	40%
627	5ソ2	〃 PL.82	第5層、第3層	〃	甑	㉑㉔㉑①	〃	SS＞S	ACⓈ～Ⓜ中、BⓈ～Ⓜ少、DⓈⓂ中	96%
628	3ソ38	〃	第3層、第2層、第1層	〃	〃	⑥	Ⅲ	S＞SS	AⓈⓈ多、BEⓈⓂ少、CⓈ～Ⓛ微、DⓈ少、K微	50%
629	3ソ39	〃 PL.82	第3層	〃	〃	① ①⑮		S＞SS	AⓈⓈ多、BⓈⓈ中、CDⓈⓈ少、EⓈ～Ⓛ中	70%
630	3	〃		〃	〃	⑩⑦	Ⅳ	S＞M	ACⓈ～Ⓛ中、DⓈⓂ多、EⓈⓂ少、K少	17%
631	3ソ4	第160図PL.83	第2・3層混、第2層、第1層	〃	短頸壺？	㊱㊱ ⑦	Ⅱ	SS＞S	AⓂ中、CⓂ微、DⓈ～Ⓜ微、EⓈ～Ⓛ中、K中	17%
632	2	〃		〃	甕C	①⑤	〃	SS以下	BⓈ微、CⓈⓈ微、EⓈ～Ⓜ少、K少	15%
633	2ソ7	〃	第2層	〃	〃	①	〃	SS以下	BⓈ～Ⓜ少、EⓈⓂ微、K多	21%
634	3ソ30	〃 PL.83	第3層、層混	〃	高坏B	⑤	Ⅲ	S＞SS	AⓈⓈ多、BⓈⓈ微、DⓈⓈ少、EⓈ少	57%
635	3ソ33	〃 〃	第3層、第2・3層混	〃	〃	⑦①	Ⅱ	SS	AⓈ～Ⓜ少、BⓈ微、EⓈ～Ⓜ多、K微	93%
636	3ソ32	〃 〃	第3層・第2層	〃	〃	⑦	〃	SS以下	BCⓈ微、EⓈ～Ⓛ少、K中	61%
637	3ソ31	〃 〃	第3層	〃	〃	㊸	〃	SS以下	BCⓈ微、DⓈⓈ少、EⓈ～Ⓜ多	98%
638	2・3ソ混3	〃	第2・3層混	〃	〃	⑩⑦	Ⅲ	SS以下	ACⓈ少、BⓈ多、K多	17%
639	3ソ36	〃	第3層	〃	脚台F	① ⑤	Ⅱ	SS以下	AⓈⓈ少、EⓈⓈ多、K多	90%
640	3ソ34	〃 PL.83	第3層、第2層、第1層	〃	高坏D	①	〃	SS以下	BⓈⓈ少、EⓈ～Ⓛ少、K微	25%
641	3ソ35	〃	第3層	〃	高坏A	①	Ⅵ	SS＞S	AⓈⓈ多、CⓈⓈ中、DEⓈ少、K多	25%
642	3ソ42	〃	第3層、第2・3層混	〃	脚台	①⑳	Ⅱ	SS以下	BⓈⓈ少、EⓈⓂ少、K少	17%
643	2・3ソ混4	〃 PL.83	第2・3層混、A133－4	〃	高坏D	㊸㉑	〃	S＞M	AⓂ～Ⓛ微、BⓈⓂ微、DⓈⓂ少、EⓈ～Ⓛ中	46%
644	1	〃 〃		〃	椀	② ㊲	〃	SS以下	BⓈ～Ⓜ微、EⓈ～Ⓜ少、K少	50%
645	2・3ソ混1	〃	第2・3層混	〃	壺	⑱②	〃	SS以下	BCⓈⓈ微、DⓂ微、EⓈ極微、K極微	8%
646	3ソ27	〃 PL.83	第3層	〃	鉢D（坏）	㉒㊺㉒㉑	Ⅲ	SS＞S	AⓈⓂ少、BⓈ～Ⓜ微、DⓈ～Ⓜ多、EⓈ～Ⓜ中、K多	100%
647	3ソ28	〃 〃	〃	〃	〃	① ⑤㉑	Ⅱ	SS以下	AⓈⓈ少・Ⓛ微、CⓈⓈ微、DⓈ～Ⓛ中、EⓈ～Ⓜ少、K中	83%
648	2ソ6	〃	第2層	〃	〃	㊴	〃	SS以下	CⓈ微、DⓈⓈ微	21%
649	3ソ41	〃	第3層、第2・3層混	〃	〃	㊸	〃	SS以下	BDⓈ微、EⓈⓂ微	25%
650	3ソ61	第161図	第3層	製塩土器	丸底I	⑲	〃	SS以下	EⓈⓈ少	33%
651	2ソ13	〃	第2層	〃	〃	⑲	〃	SS以下	EⓈⓈ少	21%
652	4ソ10	〃	第4層	〃	〃	⑲ ㉔	〃	SS以下	BⓈ微、EⓈⓈ少	21%
653	3ソ56	〃	第3層	〃	〃	㉔ ⑲	〃	S	BⓈ微、EⓈ～Ⓜ少	42%
654	1ソ6	〃	第1層	〃	〃	㊴ ㉑	Ⅳ	SS	EⓈⓈ少	21%
655	3ソ66	〃	第3層	〃	〃	②㊸	Ⅱ	SS以下	DⓈ微、EⓈ～Ⓛ微	38%
656	3ソ59	〃	〃	〃	〃	⑲	〃	SS以下	EⓈ微	25%
657	3ソ151	〃	〃	〃	〃	㊸⑲	〃	SS＞M	EⓈ～Ⓜ微、K	13%
658	4ソ11	〃 PL.84	第4層、第3層の底	〃	〃	②㊸㊸㊸	〃	SS＞S	EⓈ～Ⓜ中	87%
659	2ソ8	〃	第2層	〃	〃	㊸	〃	SS	CD微、E少	25%
660	3ソ76	〃	第3層	〃	〃	㊸	〃	SS	DⓈ微、EⓈⓈ多	46%
661	3ソ57	〃	〃	〃	〃	②㊸⑦㉔	〃	SS	DⓈⓂ微、EⓈ～Ⓜ少	25%
662	3ソ49	〃	第3層、第2層	〃	〃	⑤	〃	S	EⓈ～Ⓜ微	29%
663	3ソ150	〃	第3層	〃	〃	㊹ ㊹㊹	Ⅴ	SS	EⓈⓈ多	25%
664	3ソ48	〃	〃	〃	〃	㊸	Ⅲ	SS	EⓈ～Ⓜ多	38%
665	3ソ73	〃	〃	〃	〃	②	Ⅴ	SS	CDⓈ微、EⓈⓈ多	42%

土器番号	登録番号	実測図	写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形(部位)	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
666	3ゾ70	第161図		第3層	製塩土器	丸底Ⅰ	⑲ ㊴⑳	Ⅲ	SS以下	E(SS)Ⓢ中	38%
667	3ゾ68	〃	PL.84	第3層、第2・3層混	〃	〃	㊴⑲	Ⅴ	S	AⓈ少、E(SS)Ⓢ多	75%
668	3ゾ60	〃	〃	第3層	〃	〃	⑲ ㊴	〃	SS	E(SS)〜Ⓜ多	58%
669	3ゾ50	〃		〃	〃	〃	⑲ ㊱	〃	SS	D(SS)少、E(SS)Ⓢ中	25%
670	3ゾ71	〃		〃	〃	〃	②	Ⅲ	SS以下	E(SS)極多	42%
671	3ゾ46	〃		第3層、層混	〃	〃	㊱	〃	SS以下	E(SS)Ⓢ中	46%
672	3ゾ69	〃	PL.84	第3層	〃	〃	㊱ ㊴㊱	〃	SS	E(SS)Ⓢ多	46%
673	2ゾ11	〃		第2層	〃	〃	⑳ ㊱⑳	Ⅴ	S	E(SS)Ⓢ中	33%
674	3ゾ62	〃		第3層、層混	〃	〃	⑭ ②㊱㉔	〃	SS	E(SS)極多	42%
675	3ゾ51	〃		第3層	〃	〃	㊱㉝ ㊴	Ⅷ	SS	C(SS)多、D(SS)中、F(SS)少	21%
676	3ゾ44	〃		第3層(炭層)	〃	〃	⑤	Ⅴ	SS	CD(SS)微、E(SS)Ⓢ多	25%
677	3ゾ79	〃		第3層	〃	〃	⑦ ㊱⑳	〃	SS以下	B(SS)Ⓢ中、E(SS)中、K中	25%
678	2ゾ15	〃	PL.84	第2層、第2・3層混	〃	〃	⑳	〃	SS＞S	E(SS)Ⓢ多	92%
679	3ゾ55	〃		第3層	〃	〃	㉞	〃	SS以下	D(SS)微、E中	38%
680	3ゾ63	〃		〃	〃	〃	㉔㊱㉝㊱	〃	SS	E(SS)〜Ⓜ極多	33%
681	2ゾ14	〃		第2層	〃	〃	⑳	〃	SS	E(SS)Ⓢ極多	46%
682	3ゾ74	〃	PL.84	第3層	〃	〃	㊱	Ⅲ	SS	E(SS)Ⓢ多	58%
683	3ゾ52	〃		〃	〃	〃	⑳	Ⅴ	SS	E(SS)Ⓢ多	25%
684	3ゾ77	〃		〃	〃	〃	㊱⑲	Ⅲ	SS以下	E(SS)Ⓢ極多	58%
685	3ゾ45	〃		〃	〃	〃	⑤⑲	Ⅴ	SS＞S	DⓈ少、E(SS)Ⓢ多	25%
686	3ゾ67	〃		〃	〃	〃	②㊱	〃	SS	B(SS)微、D(SS)〜Ⓜ微、E(SS)〜Ⓜ極多	25%
687	3ゾ75	〃		〃	〃	〃	⑤⑳	Ⅲ	SS	E(SS)Ⓢ多	58%
688	3ゾ78	〃		〃	〃	〃	⑤⑲	〃	SS	C(SS)少、D(SS)微、E(SS)Ⓢ多	87%
689	4ゾ13	〃		第4層、第3層、第2・3層混	〃	〃	⑯	〃	SS	E(SS)少	42%
690	4	〃		冠なし	〃	〃	⑲ ②⑤	〃	SS以下	D(SS)微、E(SS)多	46%
691	3ゾ58	〃		第3層	〃	〃	㉞	Ⅴ	S	DⓈ微、E(SS)〜Ⓛ多	38%
692	2ゾ12	〃		第2層	〃	〃	㉞ ㉞㊴	〃	SS＞S	E(SS)〜Ⓜ多	25%
693	1ゾ8	〃		第1層	〃	丸底Ⅱ	⑤	Ⅱ	SS	E(SS)Ⓢ微	33%
694	3ゾ96	〃		第3層	〃	〃	㉞	〃	SS以下	E(SS)微	25%
695	3ゾ85	〃		〃	〃	〃	⑳	〃	SS以下	DE(SS)微	29%
696	3ゾ81	〃		〃	〃	〃	⑳㊱	〃	SS	E(SS)Ⓢ多	42%
697	2・3ゾ混5	〃		第2・3層混	〃	〃	㊴	〃	SS以下	EⓈⓂ微	17%
698	3ゾ82	〃		第3層(炭層)	〃	〃	㊱	〃	SS以下	D(SS)微、E(SS)〜Ⓜ少	46%
699	3ゾ98	〃		第3層	〃	〃	㉞	〃	SS＞S	AE(SS)Ⓢ少、BD(SS)微、CⓈ微	29%
700	3ゾ95	〃		〃	〃	〃	④⑤	〃	SS以下	E(SS)少	17%
701	3ゾ92	〃		〃	〃	〃	⑳	〃	SS以下	E(SS)微	42%
702	3ゾ93	〃		〃	〃	〃	⑲	〃	SS以下	E微	21%
703	2ゾ16	〃		第2層	〃	〃	㉞㉕	〃	SS以下	D(SS)微、E(SS)〜Ⓜ微	96%
704	3ゾ89	〃	PL.84	第3層	〃	〃	⑳	〃	SS以下	E(SS)微	33%
705	4ゾ15	〃	〃	第4層、第3層	〃	〃	⑲	〃	SS以下	DE(SS)微	83%
706	3ゾ91	〃		第3層	〃	〃	㉞	〃	SS以下	DE(SS)微	13%
707	3ゾ83	〃		〃	〃	〃	㉞ ⑲	Ⅲ	SS以下	ADE(SS)微	25%
708	3ゾ90	〃		〃	〃	〃	㉞ ㉔	〃	SS以下	E微	29%
709	3ゾ86	〃		〃	〃	〃	⑲	〃	SS	BD(SS)微、E(SS)〜Ⓜ多	38%
710	3ゾ88	〃	PL.84	第3層、第2層、第1層	〃	〃	㊱	〃	SS	AE(SS)Ⓢ中、D(SS)少	46%
711	3ゾ97	〃	〃	第3層、第2層	〃	〃	⑳	〃	SS	A(SS)中、B(SS)微、D(SS)少、E(SS)多	67%
712	3ゾ80	〃	〃	第3層	〃	〃	㊱⑳	〃	SS以下	AD(SS)微、E(SS)〜Ⓜ少	100%
713	3ゾ102	〃	〃	〃	〃	丸底Ⅲ	⑲	Ⅱ	SS＞S	D(SS)Ⓢ微、E(SS)〜Ⓜ少	87%
714	3ゾ99	〃		〃	〃	〃	②㊱	Ⅴ	SS	D(SS)微、E(SS)〜Ⓜ多	29%
715	3ゾ101	〃		〃	〃	〃	②㊱ ㊱	〃	SS	D(SS)微、E(SS)〜Ⓜ多	29%
716	3ゾ100	〃		〃	〃	〃	⑳	Ⅱ	SS以下	E(SS)Ⓢ微	17%
717	2・3ゾ混6	〃		第2・3層混	〃	〃	⑰ ⑭⑰	〃	SS	E(SS)Ⓢ微	13%
718	2・3ゾ混12	〃		〃	〃	〃	⑲	Ⅷ	SS	A(SS)〜Ⓜ微、B(SS)Ⓢ微、E(SS)〜Ⓛ少	8%
719	3ゾ104	〃	PL.84	第3層	〃	〃	②㊱	Ⅲ	SS以下	E(SS)微	58%
720	3ゾ103	〃	〃	〃	〃	〃	㊴ ㊴㉔	Ⅴ	SS＞S	DⓈ少、E(SS)Ⓢ多	33%
721	3ゾ135	第162図		〃	須恵器	坏蓋	(65) ㉕	Ⅱ	SS＞S	BⓈⓂ微、D(SS)〜Ⓛ少	50%
722	3ゾ130	〃	PL.85	〃	〃	〃	㉔	〃		B(SS)〜Ⓜ少、CⓂ〜(LL)微、D(SS)Ⓢ微	67%
723	2ゾ19	〃		第2層	〃	〃	㉖ ㉘	〃		CⓈ〜(LL)微	21%
724	3ゾ133	〃	PL.85	第3層	〃	〃	㉔	Ⅲ	SS以下	B(SS)多・Ⓛ微	44%
725	3ゾ134	〃		〃	〃	〃	㉔㉗	Ⅱ		B(SS)〜Ⓜ極微、CⓂ極微	38%
726	2・3ゾ混10	〃		第2・3層混	〃	〃	㉗㉔	〃		C(SS)〜Ⓜ微	42%
727	2・3ゾ混9	〃		〃	〃	〃	㉗ ㉚	Ⅵ	SS	BⓈⓂ少、CⓈ〜Ⓛ少	100%
728	2ゾ21	〃		第2層、第1層	〃	〃	㉔ ㉕	〃	SS＞S	B(SS)〜Ⓜ中、CⓈⓂ少、D(SS)〜Ⓜ微	38%
729	2ゾ20	〃		第2層、第3層	〃	〃	㉔	Ⅱ		BD(SS)〜Ⓜ微	46%
730	3ゾ129	〃		第3層、第2・3層混	〃	〃	㉖ ㉗	〃		C(SS)Ⓢ少、DⓈ〜Ⓛ微	67%
731	4ゾ18	〃		第4層	〃	〃	㉗ ㉔	〃		B(SS)〜Ⓜ微	46%
732	1ゾ10	〃		第1層	〃	〃	㉗ ㉚㉗	〃		BⓈ微、DⓈⓂ微	4%
733	3ゾ132	〃	PL.85	第3層、層混	〃	〃	㉗	〃		C(SS)〜Ⓜ少、DⓈ・Ⓛ微	71%
734	1ゾ12	〃		第1層	〃	〃	㉕	〃		CⓈ微、DⓈⓂ微	17%
735	3ゾ127	〃	PL.85	第3層	〃	坏身	㉚㉚㉖	〃		BD(SS)Ⓜ微	59%

出土遺物観察一覧 No.20

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
736	4ソ16	第162図PL.85	第4層	須恵器	坏身	㉖ ㉗		Ⅱ		B㊎Ⓢ少、D㊎極微	84%
737	4ソ17	〃 〃	第4層、第3層、第2・3層混	〃	〃	㉕ ㉖		〃		CⓈⓂ微	55%
738	2ソ18	〃	第2層	〃	〃	㉕		Ⅲ		BD㊎～Ⓜ少	33%
739	3ソ123	〃	第3層、第2層	〃	〃	㉕ ㉗		Ⅱ		ACEⓂ極微、BⓈⓂ極微、D㊎微	42%
740	3ソ124	〃	第3層、第2層、第1層	〃	〃	㉗		〃		CⓈⓂ微、DⓈ～Ⓛ微	17%
741	3ソ125	〃 PL.85	第3層	〃	〃	㉗ ㉚㉗		〃	SS以下	BCⓂ極微、D㊎Ⓢ微	79%
742	3ソ119	〃	〃	〃	〃	㉗		〃	SS以下	B㊎Ⓢ微、D㊎～Ⓜ微	34%
743	3ソ128	〃	第3層、第2層、第1層	〃	〃	㉚ ㉚⑰⑰		〃		CⓈⓈ微、DⓈⓂ微	25%
744	3ソ122	〃	第3層	〃	〃	㉗ ㊷㉗		〃	SS	BⓂ極微、D㊎～Ⓜ微	67%
745	3ソ126	〃	〃	〃	〃	㉖		〃		B㊎～Ⓜ微、EⓈⓂ微	88%
746	3ソ115	〃	第3層、第2層	〃	〃	㉖		〃		Bⓢ極微、CⓂ微、DⓂ極微・Ⓛ微	61%
747	3ソ118	〃	第3層	〃	〃	㉗		〃		B㊎～Ⓜ少、DⓈ～Ⓛ微	50%
748	2ソ17	〃	第2層、第1層	〃	〃	㉖		〃		B㊎Ⓢ少、CⓈ微	46%
749	3ソ121	〃 PL.85	第3層	〃	〃	㉖		〃		BⓈⓂ微、DEⓂ極微	71%
750	1ソ 9	〃	第1層	〃	〃	㉔ ㉙		〃	SS以下	B㊎Ⓢ少、FⓈⓂ微	21%
751	3ソ139	〃 PL.85	第3層、第2層	〃	坏蓋	㉗ ㉚		〃		BDⓈⓂ微、CⓂ極微	50%
752	3ソ137	〃	第3層	〃	〃	㉗ ㊺㊺		Ⅳ		C㊎～Ⓜ少、DⓈ～Ⓛ少・Ⓛ微	100%
753	3ソ138	〃 PL.85	〃	〃	〃	㉖		Ⅱ		CⓂ極微	100%
754	3ソ140	〃	第3層、層混	〃	〃	㉗		〃	SS以下	C㊎Ⓜ微、D㊎～Ⓜ少	54%
755	3ソ141	〃	第3層	〃	〃	㉕ ㉚		〃		BDⓈ～Ⓜ微	38%
756	3ソ144	〃 PL.86	第3層、第2・3層混	〃	無蓋高坏	㉗ ㉕㉘		〃	SS以下	B㊎少、C㊎Ⓢ中、DⓁ微	72%
757	3ソ142	〃 〃	第3層	〃	有蓋高坏	㉔ ㉘ ㉙		〃		C㊎Ⓢ多・Ⓛ微	100%
758	3ソ143	〃	〃	〃	〃	㉖		〃		B㊎Ⓢ少、CⓈⓂ少、DⓁ微	60%
759	3ソ153	〃	〃	〃	脚台	⑬ ㉖		〃		B㊎Ⓢ少、DⓂ微	50%
760	3ソ147	〃	〃	〃	〃	⑯ ⑰		〃		AⓂ少、DⓂ極微	65%
761	3ソ149	〃	〃	〃	〃（裾部）	㉗		〃		B㊎少	8%
762	2ソ22	〃	第2層	〃	無蓋高坏	㉕ ㊺		〃		B㊎～Ⓛ中、CⓂ極微	8%
763	2・3ソ混11	〃	第2・3層混	〃	〃	⑮ ㉚ ㉙		〃	SS	B㊎～Ⓜ少、D㊎～Ⓛ微	42%
764	2ソ23	〃	第2層、第1層	〃	〃	㉔ ㉚ ㉙		〃		BCⓈ㊎微	25%
765	3ソ145	〃	第3層、層混	〃	〃	㉚㉗		〃		BⓈⓂ微	33%
766	3ソ114	第163図PL.86	第3層、第2・3層混他	〃	壺	㉙㉖		〃		BⓈⓂ微	92%
767	3ソ113	〃 〃	第3層、第2・3層混他	〃	甕	㉗㉔		〃		B㊎Ⓢ微、C㊎Ⓢ少、DⓈ～Ⓛ少	71%
768	3ソ152	〃	第3層、第2・3層、第4層	〃	〃	㊺		〃	SS以下	B㊎Ⓢ少、C㊎～Ⓜ少	17%
769	3ソ112	〃	第3層	〃	〃	㉗ ㉚㊼		Ⅰ			8%
770	3ソ111	〃	〃	〃	〃	㉚ ㊼		Ⅱ		B㊎少、CⓈ微	13%
771	3ソ154	〃 PL.86	第2・3層混	〃	〃	㉔ ㉚		〃		B㊎少	42%
772	3ソ110	〃	第3層	〃	広口壺	㉔㉚ ㊷ ㉙		〃		B㊎～Ⓜ微	21%
773	3ソ106	〃	〃	〃	直口壺	㉙		〃	SS以下	B㊎～Ⓜ微、C㊎Ⓢ微	38%
774	3ソ109	〃	第3層、第2層、第1層	〃	壺			〃		C㊎Ⓢ少	87%
775	3ソ105	〃	第3層	〃	広口壺	㊼		〃		B㊎～Ⓜ少、C㊎Ⓢ微	42%
776	3ソ107	〃 PL.86	第3層、第2・3層混	〃	壺	㉖ ㉙		〃		BC㊎Ⓢ微	38%
777	C 2	第164図	SK502 中層セク東	土師器	甕A	⑧ ㊷		Ⅲ	SS	B㊎～Ⓜ少、C㊎～Ⓜ中、DⓂ少、EⓈ～Ⓛ少、H㊎Ⓢ多、J㊎微	25%
778	1	〃	〃 E128S20	〃	甕B	⑥⑭		Ⅱ	SS	D㊎～Ⓜ少、EⓈ～Ⓜ微、K微	17%
779	C 3	〃	〃 中層セク東	〃	〃	㊽㊴		〃	M＞S	AⓈⓂ少、CⓈⓂ微、D㊎～Ⓜ少	38%
780	B 1	〃 PL.86	〃 下層、中層セク西	〃	高坏D	⑤		〃	S＞S	A㊎少、BCEⓈⓂ少、K中	31%
781	C 4	〃	〃 中層セク東	〃	〃	㊳		Ⅳ	S＞M	A㊎～Ⓜ少、B㊎～Ⓜ微、CⓈⓂ微、DⓈⓂ少、EⓈ～Ⓛ中	52%
782	B 2	〃	〃 下層、中層セク東	〃	〃	④ ㊷		Ⅲ	SS	A㊎中、BⓈ㊎多、FⓈ～Ⓛ極多、FⓁ微、K極微	54%
783	C 8	〃	〃 中層、セク東他	須恵器	坏身	㉔		Ⅱ		B㊎～Ⓜ微、DⓈⓂ微	52%
784	B 6	〃	〃 下層、中層	〃	〃	㉕ ㉖㉔		〃		C㊎～Ⓜ微	12%
785	C 7	〃	〃 中層	〃	坏蓋	⑥ ⑥㉘		〃		BCⓈ微	36%
786	B 7	〃	〃 下層、中層セク東	〃	有蓋高坏	㉖		Ⅳ		BⓈ少、CⓈⓂ中	96%
787	C 9	〃	〃 中層セク西	〃	脚台（裾部）	㉖		Ⅱ		BⓈⓈ微、DⓈⓂ微	25%
788	C 6	〃	〃 中層	〃	広口壺	㉖㉔ ㉙		〃		BⓈⓈ微、CⓈⓂ微	4%
789	B 4	〃	〃 下層	〃	〃	㉕		〃		CⓈⓂ少、DⓂⓁ微	8%
790	2	〃	〃 E128S20	〃	〃	㉕ ㉕㉘		〃		BCⓈⓈ少	25%
791	D 1	〃	〃 上層E132S20	〃	〃	㉔ ㉙		〃		BⓈ微	17%
792	B 5	〃	〃 下層、中層セク東	〃	瓶	㉔ ㉖		Ⅳ		BC㊎～Ⓜ少	17%
793	B 8	〃 PL.86	〃 下層、中層、上層他	〃	甕	㉘ ㉘㉘㉙		Ⅲ		B㊎Ⓢ少、CⓈⓂ中	48%
794	2	〃	SK504	〃	坏蓋	㊺㉔		Ⅳ		B㊎～Ⓛ少、CⓈⓂ微	8%
795	3	〃	〃	〃	坏身	㉕ ㉔㉘㊷		Ⅱ		B㊎～Ⓜ中	15%
796	1	〃	〃	〃	広口壺	㉗㉘ ㉕		〃		B㊎～Ⓜ微、DⓈⓂ微	17%
797	5	〃	SK504、SR546上層他	〃	壺	⑮ ⑮		Ⅳ		ACⓂ極微、BC㊎～Ⓜ微	34%
798	C 1	〃	SK493中層	〃	広口壺	㉗		Ⅵ		A㊎～Ⓜ微、B㊎～Ⓛ中、C㊎Ⓢ微	17%
799	1	〃	SK516	〃	〃	㉖		Ⅱ		BⓈⓂ微	13%
800	2	〃	SK507	〃	坏蓋	㉔ ㉔㉘		〃		B㊎中	13%
801	1	〃	SK509	〃	坏身	㉕		〃		BE㊎～Ⓜ微、D㊎微	8%
802	1	〃	SK513	〃	有蓋高坏	㉕ ㉙		〃		B㊎微	17%
803	1	第165図	SX251	土師器	広口壺A	⑭		〃	SS以下	AⓁ微、C㊎ⓈⓁ微、EⓈⓂ少、K中	17%
804	2	〃	〃	〃	〃	㊴㊴ ㊳		〃	SS以下	C㊎Ⓜ微、EⓈ微、K中	21%

第ⅡA区

出土遺物観察一覧 No.21

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
805	8	第165図	SX251	土師器	二重口縁壺	⑧⑫	Ⅳ	SS＞S	AC㊎～Ⓛ少、B㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓛ少、K少	21%
806	9	〃	〃	〃	〃	⑧	〃	S＞M	A㊎～Ⓛ少・Ⓛ微、C㊎～Ⓛ微、E㊎～Ⓛ少	29%
807	10	〃 PL.146	〃	〃	〃	⑭⑩ ⑦	Ⅱ	S以下	A㊎㊎Ⓓ微、B㊎㊎微、C㊎Ⓜ少、DⓂ微、K中	73%
808	4	〃	SX251セク	〃	広口壺C	⑦⑬ ⑧	〃	M	D㊎Ⓜ微、E㊎Ⓜ極微、K多	8%
809	3	〃 PL.87	SX251	〃	〃	⑤	〃	S＞M	A?㊎～Ⓛ多、B㊎㊎少・Ⓜ微、C㊎～Ⓛ少、E㊎Ⓜ少	67%
810	7	〃	〃	〃	短頸壺	⑦⑫	〃	SS以下	B㊎微、D㊎㊎少、E㊎少	36%
811	5	〃 PL.87	〃	〃	〃	⑦⑬	〃	SS＞S	B㊎㊎少、C㊎極微、D㊎～Ⓛ少、E㊎～Ⓛ少	100%
812	52	〃 〃	SX251 E16S8	〃	〃	⑬⑬⑧⑧	Ⅳ	S＞M	A㊎～Ⓛ中・Ⓛ少、B㊎微、C㊎～Ⓛ中、DE㊎Ⓜ中、K少	44%
813	6	〃 〃	SX251	〃	〃	⑭⑦⑦⑭	Ⅱ	SS以下	B㊎㊎少、D㊎～Ⓛ少、E㊎㊎微	61%
814	11	〃 〃	SX251北側	〃	壺（底体部）	①⑦	Ⅳ	S＞M	A㊎～Ⓛ中、B㊎極微、C㊎～Ⓛ少、E㊎Ⓜ中、K中	100%
815	19	第166図PL.88	〃	〃	甕B	⑦①	Ⅵ	M＞S	A㊎～Ⓛ中、B㊎Ⓜ微、C㊎Ⓜ少、D㊎～Ⓜ中、E㊎Ⓜ中	59%
816	14	〃	〃	〃	〃	⑱ ⑦⑭	〃	M＞S	A㊎Ⓜ中・Ⓛ極微、B㊎㊎微、CDE㊎Ⓜ少、K少	13%
817	16	〃	〃	〃	〃	⑤ ⑦⑫	Ⅱ	S	AD㊎～Ⓜ中、B㊎極微、C㊎～Ⓛ微、E㊎～Ⓜ微、K極微	46%
818	18	〃	〃	〃	〃	⑬⑤	Ⅳ	SS以下	B㊎微、CⓂ～Ⓛ極微、E㊎～Ⓜ少	25%
819	28	〃	〃	〃	甕G	㉔	Ⅵ	SS	A㊎少、B㊎㊎中、E㊎㊎微	46%
820	27	〃	〃	〃	〃	⑦⑭	〃	SS	B㊎少、D㊎㊎少、E㊎中	13%
821	23	〃	〃	〃	〃	⑭	Ⅱ	SS以下	B㊎少	21%
822	D 3	〃	SX251上層	〃	〃	⑬	Ⅵ	S＞M	A㊎～Ⓜ中、C㊎～Ⓜ微、E㊎Ⓜ少	17%
823	22	〃	SX251	〃	〃	⑧	〃	SS＞M	B㊎微、C㊎Ⓜ微、D㊎～Ⓜ中、E㊎～Ⓜ少	33%
824	24	〃	〃	〃	〃	⑰	〃	M＞S	AE㊎Ⓜ中、C㊎Ⓜ微・Ⓛ微、D㊎Ⓜ少	13%
825	20	〃	〃	〃	〃	⑧	〃	SS	B㊎㊎少、C㊎Ⓜ極微、D㊎～Ⓜ微	29%
826	25	〃	〃	〃	〃	⑧ ④	Ⅱ	S以下	ACE㊎～Ⓜ微	13%
827	29	〃 PL.88	SX251（周溝セク）	〃	鉢B′	⑦⑫	〃	S＞M	A㊎～Ⓛ多、B㊎～Ⓜ少、C㊎～Ⓛ中、K多	89%
828	30	〃 〃	SX251	〃	〃	⑭①	〃	SS以下	A㊎～Ⓛ少、B㊎微、D㊎～Ⓜ中、E㊎～Ⓜ多、K極微	59%
829	31	〃 〃	〃	〃	高坏D	⑧	〃	M＞S	A㊎Ⓜ少、C㊎㊎少・Ⓛ微、D㊎少、E㊎Ⓜ微、K少	73%
830	32	〃 〃	〃	〃	〃	⑦⑧⑧⑬	Ⅳ	S＞M	A㊎～Ⓛ中、B㊎～Ⓛ中・Ⓛ微、C㊎～Ⓛ中、K多	65%
831	33	〃	〃	〃	〃	①⑥	Ⅱ	M＞L	AⓂⓁ微、BⓂ微、CⓂ～Ⓛ中、D㊎㊎少、EⓂ極微	8%
832	35	〃	〃	〃	高坏E	①	Ⅵ	M＞S	AB㊎～Ⓜ少、C㊎～Ⓜ微、D㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓛ少	50%
833	36	〃 PL.88	〃	〃	高坏F	⑭⑦	Ⅰ	S以下	B㊎Ⓜ微、E㊎微	36%
834	37	〃 〃	〃	〃	〃	⑳⑤	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓛ少、C㊎～Ⓛ少、D㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓜ少	52%
835	38	〃 〃	〃	〃	〃	⑦⑭	Ⅰ	SS以下	A㊎㊎Ⓓ微、C㊎㊎微、E㊎～Ⓜ微	52%
836	D 4	〃	SX251上層	〃	脚台F	⑦⑤	Ⅱ	SS＞S	CD㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓜ中	13%
837	42	〃	SX251	〃	〃	⑧	Ⅵ	S	AⓁ微、B㊎㊎少、E㊎～Ⓛ中	100%
838	41	〃	〃	〃	脚台B	⑦⑬	Ⅲ	SS以下	C㊎少、D㊎微、E㊎微、K微	63%
839	45	〃	〃	〃	脚台G	㊺⑬	Ⅱ	SS	AC㊎～Ⓜ微、D㊎Ⓜ少、E㊎Ⓜ微	52%
840	46	〃	SX251セク	〃	脚台	⑭	Ⅲ	M	DⓂ極微、E㊎～Ⓛ中	77%
841	47	〃	SX251	〃	〃	⑬	Ⅱ	SS	BC㊎微、D㊎～Ⓜ中、K少	52%
842	48	〃	〃	〃	〃	⑦	〃	SS以下	ABC㊎～Ⓜ微、K少	52%
843	36	第167図PL.89	SD256	弥生土器	広口壺A	⑥	〃	M・L	A㊎～Ⓛ多、C㊎～Ⓛ中	100%
844	37	〃 〃	〃	〃	広口壺B	⑥ ①	〃	M＞L	AⓁ極微、BE㊎～Ⓛ中、CⓂⓁ微	90%
845	40	〃 〃	〃	〃	短頸壺	①	〃	S	A㊎Ⓜ微、B㊎㊎中、CⓂ微、E㊎Ⓜ少、K中	58%
846	42	〃	〃	〃	二重口縁壺	⑧	〃	SS以下	C㊎～Ⓛ少、K中	17%
847	41	〃	〃	〃	〃	①	Ⅳ	S＞M	A㊎～Ⓛ中、B㊎少、C㊎～Ⓛ少	25%
848	48	〃	〃	〃	〃	⑧⑰	Ⅱ	SS以下	AC㊎～Ⓜ微	4%
849	38	〃 PL.89	〃	〃	細頸壺	⑮ ⑫	〃	S＞M	A㊎～Ⓛ中、B㊎少、C㊎～Ⓛ少、E㊎～Ⓛ中、K中	61%
850	39	〃	〃	〃	脚台付細頸壺	⑮⑦	〃	S以下	C㊎極微、E㊎～Ⓛ中	100%
851	13	〃 PL.89	〃	〃	甕A	⑦⑬	〃	S＞M	CD㊎～Ⓛ中、E㊎～Ⓛ多	68%
852	21	〃 〃	〃	〃	〃	⑮⑦	〃	S	B㊎Ⓜ少、CⓂ極微、E㊎Ⓜ中	67%
853	11	〃	〃	〃	〃	①⑬	Ⅳ	L＞M	B㊎㊎少、DⓂ～Ⓛ少、E㊎～Ⓛ中	62%
854	14	〃	〃	〃	〃	⑧	Ⅱ	M	AⓂ～Ⓛ中、CⓂ～Ⓛ少、D㊎Ⓜ少	75%
855	12	〃	〃	〃	〃	⑮	Ⅳ	S・M	A㊎Ⓜ微、D㊎～Ⓛ微、E㊎～Ⓛ少	38%
856	20	〃	〃	〃	甕B	⑧⑤	Ⅱ	S＞M	CⓂ～Ⓛ中、DⓂ微、E㊎～Ⓜ中、K少	13%
857	15	〃	〃	〃	〃	① ⑤	〃	S	C㊎～Ⓛ多、D㊎少、E㊎～Ⓛ中	17%
858	18	〃	〃	〃	〃	⑤⑬	〃	S＞L	B㊎Ⓜ微、DⓁ極微、E㊎～Ⓛ多、FⓁⓁ微	38%
859	19	〃	〃	〃	〃	⑧	Ⅵ	S	A㊎～Ⓛ中・Ⓛ微、B㊎㊎少、E㊎～Ⓛ少	36%
860	17	〃	SD256 W44N12	〃	〃	①	Ⅱ	S＞M	AⓂ～Ⓛ少、CE㊎～Ⓛ中、DⓁ微	29%
861	16	〃	SD256	〃	〃	⑬⑬	Ⅳ	M＞LL	B㊎微、CDⓂ微、E㊎～Ⓛ多	87%
862	24	〃 PL.89	〃	〃	二重口縁甕	①	〃	M＞S	A㊎～Ⓛ少、C㊎～Ⓛ微、D㊎極微、E㊎～Ⓛ多、K中	19%
863	23	〃	〃	〃	甕（底部）	⑧	〃	S	AⓂ微、B㊎～Ⓛ微、C㊎Ⓜ中、K多	100%
864	43	〃	〃	〃	壺（底部）	⑱ ⑧	〃	M＞S	AC㊎～Ⓛ少、E㊎～Ⓛ微	100%
865	22	〃	〃	〃	甕（底部）	⑧ ⑧⑫	Ⅱ	M	AⓂ～Ⓛ中、CⓁ極微、DⓂⓁ微、E㊎～Ⓛ少	100%
866	29	第168図	〃	〃	鉢A	⑧⑮⑭	〃	S	AC㊎Ⓜ微、D㊎～Ⓛ微、E㊎～Ⓜ少	52%
867	30	〃	〃	〃	鉢A（小形）	⑦⑬	Ⅳ	S	B㊎㊎少、C㊎微、E㊎～Ⓜ多	61%
868	28	〃	〃	〃	〃（〃）	⑦ ①	〃	S	A㊎Ⓜ微、B㊎㊎中、CⓁ微、E㊎～Ⓛ中	52%
869	34	〃 PL.89	〃	〃	B（大形）	⑭ ⑦	Ⅵ	M・L	A㊎～Ⓛ中・Ⓛ微、C㊎～Ⓛ中、E㊎微、K少	25%
870	31	〃 PL.90	〃	〃	鉢B	⑮⑦	Ⅳ	S	B㊎㊎少、CⓂⓁ微、D㊎Ⓜ微	59%
871	32	〃	〃	〃	〃	⑧ ⑬⑧	Ⅱ	M	AⓁ微、B㊎～Ⓛ少、D㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓛ中	38%
872	33	〃 PL.90	〃	〃	〃	⑥ ⑥①	〃	SS以下	B㊎少、C㊎ⓂⓁ微、DⓂ微、E㊎～Ⓛ中	67%
873	1	〃	〃	〃	高坏A	⑦⑮	〃	M＞L	AⓂⓁ微、B㊎少、CⓂ微、E㊎～Ⓛ中	68%
874	7	〃	SD256セク	〃	〃	①⑦	〃	S	A㊎～Ⓛ少、B㊎㊎微、C㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓛ少	42%

出土遺物観察一覧 No.22

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形(部位)	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
875	3	第168図	SD256	弥生土器	高坏A	⑦⑮	Ⅱ	S以下	BDE(S)(M)微、C(S)(M)少、K少	44%
876	4	〃	〃	〃	高坏A(坏部)	① ⑤①	〃	SS	A(S)～(L)微、C(S)～(L)微、E(S)～(M)少	62%
877	6	〃	SD256セク	〃	〃 (〃)	⑦⑭⑦⑭	〃	S＞LL以下	C(S)～(L)微、E(S)～(L)中	58%
878	2	〃	SD256	〃	高坏A	⑧⑩	〃	SS	A(S)(M)少、B(S)～(M)少、C(M)微	32%
879	8	〃 PL.90	〃	〃	高坏B	⑤	〃	S	A(S)(M)微、B(S)(S)中、E(S)～(L)中	65%
880	9	〃	〃	〃	高坏C	⑰⑧	〃	M＞LL	B(S)中、E(S)～(L)中、F(M)～(L)微	54%
881	45	〃	〃	〃	高坏D	⑭ ⑭⑭	Ⅲ	M	C(M)極微、D(S)(M)少、E(S)(M)微	100%
882	46	〃	〃	〃	脚台A	⑦	Ⅱ	M	B(S)(M)少、D(M)微、E(M)(L)少	100%
883	10	〃	〃	〃	〃	①⑳	〃	S	A(S)～(L)少、B(S)微、E(S)～(L)少	59%
884	27	〃	SD256セク	〃	甕(底部)	⑮⑦	〃	S＞M	A(S)～(L)微、C(S)～(L)少、D(S)～(L)多	100%
885	25	〃	SD256	〃	〃(〃)	⑭ ⑭⑭	Ⅷ	S・M	AE(S)～(L)多、C(S)(M)少、D(S)～(L)少	100%
886	26	〃	〃	〃	〃(〃)	⑧⑰	Ⅱ	S	B(S)(M)少、C(S)～(L)微、D(L)微、E(S)～(M)少	100%
887	44	〃	〃	〃	器台A	⑧⑤	〃	S	C(S)(M)少、D(S)(M)微、K少	25%
888	9	第169図PL.90	SD257 W40N16	〃	広口壺A	⑭⑭⑦⑭	Ⅲ	SS＞S	B(S)～(M)少、CD(S)～(M)中、E(S)～(M)微	60%
889	6	〃 〃	SD257(し)	〃	〃	⑦⑮	Ⅱ	SS以下	A(M)(L)少・(L)微、B(S)微、C(L)微、D(S)少、E(S)(M)少、K少	81%
890	5	〃	SD257	〃	広口壺B	⑦⑭	Ⅳ	SS＞S	A(L)微、B(S)(S)多、C(M)(L)極微、D(S)(M)少、E(S)～(L)中	25%
891	4	〃 PL.90	SD257(お)	〃	短頸壺	⑩⑳ ⑭	Ⅱ	L＞LL	A(L)(L)中、C(M)～(L)多、D(S)～(L)少、E(S)少	57%
892	3	〃 〃	SD257(え)	〃	甕B	①⑫⑧①	Ⅳ	S＞L	A(S)～(L)少、C(S)～(L)少、D(S)(M)少、E(S)～(L)	72%
893	1	〃	SD257 W40N16	〃	甕A	⑭	〃	S＞M	A(S)(M)少、C(S)～(L)少、D(L)微、E(S)(M)微	25%
894	2	〃	〃 〃	〃	甕(底部)	⑧⑩ ⑩	Ⅵ	SS	A(S)(S)多・(M)(L)少・(L)微、B(S)～(M)中、D(L)微、E(M)(L)少、K微	100%
895	11	〃	SD257 W40N16他	〃	鉢C	⑮ ⑭	Ⅱ	SS	A(S)(M)少、B(M)少、C(M)(L)少、D(L)微、K少	33%
896	10	〃	SD257(う)	〃	高坏B	⑭①	Ⅳ	SS	B(S)(S)中、E(S)～(L)多	47%
897	8	〃	SD257 W40N16	〃	〃	①	Ⅵ	S	A(S)～(L)中、B(S)～(M)中、C(S)(M)少、D(S)微、E(S)～(L)多、K多	25%
898	1	〃	SD264	〃	広口壺A	⑧	Ⅳ	SS	B(S)(S)少、C(S)微、E(S)(S)微	21%
899	2	〃	〃	〃	甕D	⑭	Ⅱ	SS以下	C(S)～(M)微、D(S)～(L)微	13%
900	4	〃	SD268	〃	甕A	①	Ⅷ	S＞M	A(S)～(L)多・(L)微、C(S)～(L)少、DE(S)～(L)微	17%
901	5	〃	〃	〃	高坏B	⑭	Ⅳ	SS＞S	A(M)微、B(S)(M)微、E(M)～(L)少、K微	13%
902	1	〃 PL.90	〃	〃	〃	⑭ ⑭	Ⅱ	M	A(M)(L)中、C(M)少、D(M)多、E(S)(M)中	71%
903	1	〃	〃	土師器	脚台E	⑭	〃	SS以下	CD(S)微、E(S)(M)(L)少	90%
904	2	〃	〃	弥生土器	〃	⑭	〃	SS以下	A(M)(L)微、E(S)(M)少	42%
905	D 1	〃	SD276上層	土師器	手捏ね壺	⑦⑭	Ⅵ	S	BC(S)(S)少、D(S)～(M)中	100%
906	B 1	〃	SD276下層の上層	須恵器	鉢(体部)	⑮ ⑭	Ⅱ		B(S)(S)微、D(S)微	13%
907	D 2	〃	SD276上層	〃	壺(頸体部)	⑮ ⑭⑭	〃		D(S)～(L)中	46%
908	1	第170図PL.91	SD528 ⅡB1区	土師器	甕B	⑦⑭	〃	M	AC(S)～(M)少、D(S)(M)多、E(S)～(L)中、K少	44%
909	2	〃 〃	SD532 〃	〃	〃	⑦⑭	Ⅵ	S＞SS・M	A(S)(S)極多、BC(S)～(M)多、D(S)～(M)中、E(S)(S)少	75%
910	B 1	〃 〃	SD530下層 〃	〃	高坏D	㉑	〃	S＞SS	A(S)～(L)多、BC(S)～(M)中、D(S)(S)少	62%
911	B 2	〃	〃 〃 〃	〃	〃	㉜	Ⅴ	SS	A(S)微、B(S)(S)中、C(S)～(M)中、E(S)(M)少	8%
912	1	〃	SD530 〃	〃	脚台F	①	〃	S＞SS	BC(S)少、E(S)(S)少	73%
913	1	〃	SD529 〃	弥生土器	高坏D	①	Ⅲ	S＞SS	ACE(S)～(M)少、B(S)(S)少、K少	21%
914	1	〃	SD532 〃	須恵器	坏身	㉗	Ⅱ		BD(S)微、E(S)～(M)微	4%
915	1	〃	SD536 〃	〃	〃	㉔	Ⅲ		B(S)(S)少	13%
916	1	〃	SD541 ⅡB2区	〃	坏高台	㉕	Ⅵ		B(S)少、D(S)(M)少、E(S)微	25%
917	1	〃	SD535 ⅡB1区	〃	広口壺	㉔	Ⅳ	SS以下	BC(S)多	34%
918	1	〃	SD533 〃	須恵器(瓦質)	〃	㉔	Ⅱ		A(S)～(M)微	13%
919	1	〃	SD525 〃	須恵器	〃	㉗ ㉕ ㉕	〃		B(S)微	4%
920	D 1	第171図	SR546上層 〃	土師器	甕B	⑤	Ⅲ	SS	A(S)～(M)微、B(S)(S)中、D(S)微、E(S)(S)微	4%
921	E 1	〃	SR546最上層他 〃	〃	高坏D	①⑥	Ⅱ	SS	AC(M)微、B(S)(S)微、D(S)～(L)微、E(S)～(M)少、K微	63%
922	1	〃 PL.91	SR546 〃	弥生土器	高坏B	⑭	Ⅲ	S＞SS	A(S)～(L)極多、B(S)～(L)多、C(S)～(L)少、E(S)～(M)少	75%
923	B 3	〃	SR546下層 〃	須恵器	坏身	㉕	Ⅰ			17%
924	4	〃 PL.91	SR546 〃	〃	坏蓋	㉖ ㉖	〃		AC(S)少、D(S)微	51%
925	5	〃	〃 〃	〃	有蓋高坏	㉗	〃		A(M)微、B(S)～(M)微、D(S)(M)微、E(S)～(M)少	52%
926	D 4	〃	SR546上層 〃	〃	坏身	㉔	〃		BE(S)(S)微、D(S)～(M)少	30%
927	B 2	〃	SR546下層 〃	〃	〃	㉕ ㉔	Ⅳ		A(S)(S)少、C(M)少	48%
928	D 3	〃	SR546上層 〃	〃	〃	㉔	Ⅵ		B(S)(S)多、C(S)(S)中	27%
929	2	〃	SR546 〃	〃	〃	㉖	Ⅱ		B(S)(S)微	17%
930	6	〃	〃 〃	〃	〃	㉔ ㉖	Ⅷ		B(S)～(M)多、C(S)多、D(S)少	4%
931	E 3	〃 PL.91	SR546最上層 〃	〃	〃	㉗	Ⅱ	SS以下	A(S)(M)少・(L)微	52%
932	D 5	〃	SR546上層 〃	〃	〃	㉔ ㉖	Ⅳ		BC(S)(S)少	19%
933	E 4	〃	SR546最上層 〃	〃	〃	㉔	Ⅱ		B(S)(S)微、D(S)～(M)少、E(S)～(M)微	23%
934	1	〃 PL.91	SR546 〃	〃	〃	㉕	〃		C(S)～(L)少・(L)微	67%
935	3	〃	〃 〃	〃	坏蓋	㉔	〃		B(S)(S)少、C(S)～(M)少	27%
936	D 7	〃	SR546上層 〃	〃	〃	㉗ ㉖	〃		B(S)微	23%
937	B 4	〃 PL.91	SR546下層 〃	〃	〃	㉔ ㉖	Ⅳ		A(S)～(L)少、B(S)(M)少、E(S)～(M)微	65%
938	D 6	〃	SR546上層 〃	〃	〃	㉕ ㉔	Ⅱ		B(S)(S)微、D(S)～(L)微、E(M)(L)微、K微	12%
939	D 2	〃	〃 〃 〃	〃	壺	㉔㉙ ㉙	〃		BC(S)～(M)少、D(S)(M)微	21%
940	B10	〃	SR546下層 〃	〃	甕	㉔	〃	SS以下	B微	—
941	B 1	〃 PL.91	〃 〃 〃	〃	〃	㉔ ㉖	〃		C(S)(S)少	27%
942	B 6	〃	〃 〃 〃	〃	脚台	㉖	〃		A(S)(S)少、B(S)少	57%
943	D 9	〃	SR546上層 〃	〃	〃	㉔	Ⅵ		C(S)(M)多	54%
944	D 8	〃	〃 〃 〃	〃	〃	㉔	Ⅱ		D(S)～(M)微	100%

出土遺物観察一覧 No.23

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
945	B 7	第171図	SR546下層 ⅡB1区	須恵器	脚台	㉔	Ⅱ		A㊎～Ⓛ微、B㊎～Ⓛ微、E㊎～Ⓛ少	21%
946	B 8	〃	SR546下層、上層他 〃	〃	提瓶	㉔	〃		BDⓈⓂ微	—
947	B 9	〃 PL.91	SR546下層、上層他 〃	〃	横瓶	㉗ ㉙	〃			36%
948	包1	第172図PL.92	B層W24N16	弥生土器	広口壺A	①	Ⅲ	SS以下	A㊎～Ⓛ少、B㊎微、E㊎～Ⓛ多	50%
949	包61	〃	B層E24NS0周辺	〃	〃	⑧④②⑦	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓛ少・Ⓛ極微、BE㊎㊎微、DⓈⓂⓁ微、K中	17%
950	包5	〃	A層E12S8	〃	〃	⑨⑩⑩⑨	〃	SS以下	A㊎微、BE㊎㊎微、K少	29%
951	包6	〃	A層E4N4	〃	〃	①	〃	SS以下	A㊎～Ⓜ少・Ⓛ微、E㊎～Ⓜ少・Ⓛ微、K多	13%
952	包4	〃	A層E12N8、E16S8	〃	〃	②	〃	M	A㊎～Ⓛ微、E㊎～Ⓛ中	42%
953	包2	〃	A層E16S4、E16S8	〃	〃	①⑤	〃	SS以下	AⓂ～Ⓛ少、B㊎㊎微、DⓈⓂ微、E㊎～Ⓛ中、K多	50%
954	包62	〃	B層E32N8	〃	〃	⑧	〃	SS以下	B㊎微、D㊎㊎微、E㊎～Ⓜ少、K微	29%
955	包3	〃 PL.92	B層E24NS0、E26NS0	〃	〃	①⑯ ①	Ⅵ	LL	A㊎～Ⓛ多、BⓁ微、D㊎㊎少、E㊎～Ⓜ中、K微	92%
956	包9	〃	B層W12N8	〃	広口壺B	⑧④ ⑦	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓛ少、D㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓜ中、K中	13%
957	包7	〃	B層W8N12	〃	〃	⑧⑱	Ⅴ	SS	A㊎～Ⓛ中、CⓁ微、D㊎～Ⓛ少、E㊎～Ⓜ少	21%
958	包8	〃	A層E24S4	〃	〃	②	〃	SS以下	AE㊎～Ⓛ中	42%
959	包15	〃	B層E24N4、E28N4	〃	甕A	② ①	Ⅱ	M＞S	A㊎～Ⓛ少、B㊎～Ⓜ少、D微、E㊎～Ⓜ微、K微	96%
960	包16	〃	B層E32N8	〃	〃	③ ②	〃	S	A㊎～Ⓛ少、D㊎㊎少、E㊎～Ⓛ中、K少	62%
961	包14	〃	A層E12S4	〃	〃	⑭⑭①⑤	〃	SS以下	B㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓜ少、K微	29%
962	包13	〃	A層E24NS0	〃	〃	①⑧	〃	SS以下	A㊎～Ⓛ少、B㊎微、D㊎～Ⓜ少、E㊎㊎微、K少	50%
963	包18	〃	B層E24N4、E28N4他	〃	甕B	⑧ ②	〃	SS以下	A㊎～Ⓜ中・Ⓛ少、D㊎㊎少、E㊎㊎微、K中	8%
964	包19	〃	B層E24NS0、E26NS0	〃	甕D	⑧ ⑦	Ⅷ	S＞M	AⓂ～Ⓛ多、DⓈⓂ中、E㊎～Ⓛ少	67%
965	包20	〃 PL.92	B層E24N4、E26NS0	〃	脚台付鉢	⑩ ②⑧	Ⅶ	SS＞S	A㊎～Ⓜ多・Ⓛ少、BCⓂ微、D㊎～Ⓜ中・Ⓛ少、E㊎～Ⓛ少、K少	58%
966	包21	〃	B層E32N8	〃	鉢(底部)	⑤ ⑧⑤	Ⅱ	SS以下	A㊎㊎中・Ⓛ微、B㊎㊎微、Dⓢ極微、EⓈⓂ少、K多	100%
967	包22	〃	A層E8S8	〃	鉢?(脚台)	② ⑯②	〃	SS以下	B㊎㊎微、DⓁ微、EⓈⓂ少、K少	100%
968	包24	〃	A層E24NS0、E24NS0周辺	〃	高坏A	②	Ⅴ	SS以下	A㊎～Ⓛ多、BⓈⓂ少、E㊎～Ⓛ中	33%
969	包23	〃	B層E32N8、E36N8	〃	〃	①	Ⅳ	SS＞L	A㊎～Ⓛ中、BⓂ少、DⓈⓂ少、E㊎～Ⓛ少、K多	75%
970	包26	〃 PL.92	B層E26NS0、E26NS0より北	〃	高坏B	⑮ ⑧⑧	Ⅴ	SS	A㊎～Ⓜ多・ⓁⓁ少、B㊎㊎微、DE㊎Ⓜ少、K多	29%
971	包27	〃	A層E12N8、E12S8	〃	脚台A	②	Ⅱ	SS以下	AⓂⓁ微、B㊎～Ⓛ微、EⓂⓁ少、K多	79%
972	包28	〃	A層E12N8	〃	〃	① ②	Ⅳ	SS以下	A㊎～Ⓛ中、B㊎㊎微、DⓈⓂ微、E㊎～Ⓜ微、K中	84%
973	包29	〃	B層E36N8	〃	脚台(基部)	⑧	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓜ少、B㊎少、E㊎～Ⓛ少	100%
974	包30	〃 PL.92	B層E24N4	〃	甑	⑰	Ⅶ	S	A㊎～Ⓛ少、B㊎～Ⓜ微、DⓈⓂ中、EⓈⓂ微、K微	59%
975	包10	第173図	B層E24NS0周辺	土師器	二重口縁壺	②⑯ ②	Ⅲ	SS以下	A㊎微、D㊎㊎少、E㊎多・Ⓛ微、K少	25%
976	包11	〃	B層E24NS0を中心にして	〃	短頸壺	② ⑧	Ⅱ	SS以下	E㊎～Ⓛ、K多	62%
977	包12	〃	A層E56N4	〃	〃	⑧⑦	Ⅶ	SS	A㊎多・Ⓢ微、B㊎～Ⓜ中、DE㊎～Ⓜ少	8%
978	包35	〃 PL.92	A層E16N12	〃	甕B	⑦ ②	〃	SS＞LL	AⓂ～Ⓛ多・Ⓛ微、BⓈ～Ⓛ少、DⓈⓂ中、EⓂⓁ少	13%
979	包33	〃	A層W8NS0	〃	〃	⑮	Ⅸ	SS＞S	A㊎Ⓢ多・Ⓛ少、B㊎Ⓢ少、D㊎Ⓢ中・Ⓛ微、E㊎Ⓢ微	50%
980	包36	〃	B層E24N8	〃	〃	⑤⑧⑬⑧	〃	SS	A㊎～Ⓜ多、B㊎Ⓢ少、Dⓢ微、E㊎～Ⓜ少、K多	13%
981	包32	〃	A層E52S16、E48S16	〃	〃	⑧	Ⅶ	S＞M	AⓈ～Ⓛ少、BⓈⓂ微、DⓈ～Ⓛ多、EⓈ～Ⓛ中	54%
982	包34	〃	A層E48NS0	〃	〃	⑰ ⑭	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓜ微、DⓂⓁ微、E㊎～Ⓛ少、K中	33%
983	包31	〃	A層E48S16、E44S16	〃	〃	⑧① ⑧	Ⅴ	M＞S	AⓈ～Ⓛ少、BⓈⓂ少、DⓈ～Ⓛ中、E㊎～Ⓜ少	75%
984	包48	〃 PL.92	B層E28N4	〃	鉢	②	Ⅳ	M	A㊎～Ⓛ極多、BⓈⓂ少・Ⓛ微、DⓈⓂ微、EⓈⓂ少	69%
985	包49	〃	B層E24N8	〃	小鉢	⑮⑧	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓛ少、D㊎～Ⓜ中、E㊎～Ⓜ少、K中	52%
986	包52	〃	B層E32N8	〃	椀	⑦⑧ ⑦	〃	SS以下	AⓂ極微、D㊎～Ⓜ極微、E㊎～Ⓛ微、K多	21%
987	包53	〃	B層E20NS0	〃	〃	⑧ ⑧⑧	〃	SS以下	A㊎Ⓢ微、D㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓜ微、K少	17%
988	包39	〃	B層E26NS0、E28N4	〃	高坏B	⑧⑤	Ⅲ	SS以下	A㊎～Ⓜ中、CⓂ極微、D㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓛ少、K中	33%
989	包25	〃 PL.92	B層E28N8	〃	〃	① ①⑫	Ⅱ	SS以下	AⓈ～Ⓛ少、B㊎Ⓢ微、DⓈ～Ⓛ微、E㊎～Ⓛ中、K中	65%
990	包40	〃	B層E24N8	〃	〃	⑤ ①	〃	SS	A㊎Ⓜ微、B㊎Ⓢ少、D㊎～Ⓛ微、EⓈ～Ⓛ少、K中	100%
991	包38	〃	A層E4N32	〃	〃	②	Ⅶ	SS	AⓈ～Ⓛ中、B㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓛ多、K中	17%
992	包45	〃	A層E24NS0他	〃	高坏D	②	Ⅲ	SS以下	AⓂ微、DE㊎～Ⓜ微、K多	13%
993~996		〃	B層E26NS0	〃	〃	⑧⑧⑦⑧	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓛ中、B㊎～Ⓜ少、D㊎～Ⓜ少・Ⓛ微	—
									E㊎～Ⓜ中、K多 994は胎土まま緻密V	—
997	包41	〃 PL.92	B層E16N18	〃	〃	⑧⑧ ⑦	Ⅲ	SS以下	D㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓜ極微	63%
998	包44	〃	A層E68S4	〃	〃	⑧⑧⑧⑧	Ⅶ	SS以下	A㊎多、BE㊎～Ⓜ中、K多	6%
999	包46	〃	A層E24NS0	〃	脚台F	①	Ⅳ	SS以下	A㊎～Ⓛ多・Ⓛ微、BⓂ～Ⓛ微、DⓂ～Ⓛ微、E㊎～Ⓜ少	88%
1000	包47	〃	A層E16S8	〃	脚台G	②	Ⅲ	L	AⓈ～Ⓛ中、BⓂ微、E㊎～Ⓢ少、K微	17%
1001	包51	〃	A層E36N8	〃	手捏ね	⑧⑧	Ⅱ	SS	AE㊎㊎少、D㊎～Ⓛ微、K少	—
1002	包50	〃	B層E32N4	〃	〃	⑧	〃	SS	AE㊎㊎少、D㊎㊎微	100%
1003	包56	第174図	B層E20NS0	須恵器	坏身	㉗ ㉘			AⓂ微、B㊎㊎微	25%
1004	包57	〃	南端トレンチ	〃	〃	㉔	〃		B㊎微	38%
1005	包54	〃	A層E32N8	〃	〃	㉘	〃		E㊎少、K微	96%
1006	包55	〃	B層E32N8	〃	〃	㉗ ㊷	〃		D㊎微	58%
1007	包59	〃	A層E20N16	〃	蓋	㉗	〃		D㊎微	38%
1008	包60	〃	A層E8N4	〃	無蓋高坏	㉙ ㉘	〃		AⓈ～Ⓛ微、B㊎㊎少	50%
1009	包58	〃	A層E4N4	〃	蓋	㉘㉘	〃		B㊎㊎少、D㊎微、E㊎㊎微	42%
1010	包3	〃	B層E128S16 ⅡB1区	土師器	甕A	㉘㉙ ㊲	〃	L	A㊎～Ⓛ中、CⓂ微、D㊎～Ⓛ少、E㊎㊎少、K中	21%
1011	包4	〃	B層E140S16 〃	〃	脚台A	②	〃	SS以下	AⓈⓂ微、E㊎㊎少	59%
1012	包6	〃	〃 〃 〃	須恵器	坏身	㉗ ㉘	〃		A㊎～Ⓜ少、Dⓢ微	13%
1013・1014		〃	A層E116S8 〃	〃	〃	㉗㉘㉕ ㉓	Ⅵ		B㊎～Ⓛ少、CⓂⓁ少、DⓈⓂ中・Ⓛ微	—
1015	包8	〃	〃 〃 〃	〃	〃	㉔ ㉓ ㉓	Ⅱ		B㊎中、C㊎微	25%
1016	包5	〃	A層E132S16 〃	〃	高坏	⑦⑰	Ⅵ		B㊎㊎少、CE㊎～Ⓜ少、D㊎Ⓜ微	57%
1017	包7	〃	B層E120S16 〃	〃	脚台	㉗	Ⅱ		A微	100%

出土遺物観察一覧 No.24

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1018	包 9	第174図	A層E116S12 ⅡB1区	須恵器	提瓶（？）	㉙			Ⅵ		A㊎㊎少、B㊎～Ⓜ多、C㊎～Ⓛ多	79%
1019	包10	〃	〃 〃 〃	〃	〃	㉘			Ⅱ		AC㊎Ⓜ少、B㊎㊎少	25%
1020	包 4	〃	A層E136S16 〃	〃	広口壺	㉘ ㉕			〃		B少、D㊎㊎多、EⓂ極少	13%
1021	包 1	〃	B層E144S20 〃	〃	甕	㉔ ㊶			〃		D㊎微	—
1022	包 1	〃	A層E128S16 〃	〃	広口壺	㉕ ㉙			Ⅰ			13%
1023	包 5	〃	B層E140S16 〃	〃	甕	㉗ ㉙			Ⅵ		A㊎～Ⓛ中	13%
1024	包 3	〃	A層E116S12 〃	〃	壺（？）	㉙			Ⅱ		B㊎～Ⓜ少、C㊎Ⓜ中・Ⓛ微	21%
1025	包 2	〃	A層E115S 8 〃	〃	壺（底部）	㉕ ㉙			〃	SS＞S	A㊎Ⓜ微、B㊎㊎微、K極微	38%
1026		〃	P823	土師器	土錘	⑯			Ⅵ		A㊎少、C㊎～Ⓛ中 28.52g	
1027	69	〃	B層	〃	〃	⑦			Ⅴ		B㊎㊎中、D㊎㊎微、E㊎～Ⓛ少 （38.1g）	
1028	68	〃	〃	〃	〃	㉘			〃		A㊎～Ⓜ微、B㊎～Ⓜ中、D㊎㊎微、E㊎～Ⓛ少(44.0g)	
1029	1	〃	S R546 ⅡB1区	〃	〃	㉘			Ⅱ		B㊎極微、D㊎微、E㊎微 （9.46g）	
1030	67	〃	A層E56S 8	〃	〃	㉘			〃		B㊎微、DE㊎㊎微 （14.54g）	
1031	65	〃	A層W44NS 0	〃	〃	①			〃		B㊎㊎少、DⓂ微 （15.06g）	
1032	66	〃	A層E16N 8	〃	〃	㉘			Ⅴ		AⓂⓁ微、B㊎微、DⓂ微、F㊎～Ⓛ少、K微（15.58g）	
1033	1	〃	B層E132S16 ⅡB1区	〃	〃	④ ㉚			Ⅱ		E㊎㊎微 （7.66g）	
1034	1	〃	S K239上層	〃	〃	㉙			〃		E㊎少 （5.8g）	
1035	2・3ソ混2	〃	S K243第2・3層混	〃	〃	㉘㉘			〃		E㊎Ⓜ微	
1036	3ソ1	〃	S K243第3層	〃	〃	⑤			〃		B㊎～Ⓜ多、E㊎～Ⓜ微	
1037	1ソ4	〃	S K243第1層	〃	〃	⑤①			〃		AC㊎㊎微、B㊎㊎微	
1038	1ソ3	〃	〃 〃	〃	〃	㉘			〃		B㊎㊎微	
1039	2	〃	S R546 ⅡB1区	〃	〃	㉙			Ⅴ		A㊎多、B㊎極微、D㊎㊎微、EⓂ微 5.09g	
1040	上ソ2	〃	S K502上層 〃	〃	〃	①⑯			Ⅱ		AD㊎㊎微、B㊎㊎少、E㊎～Ⓛ少、K微 5.91g	
1041	中ソ1	〃	S K502中層 〃	〃	〃	㉘㉘			Ⅳ		B㊎㊎少、CD㊎㊎微、E㊎～Ⓛ少 8.40g	
1042	50	第174図	S X251	土師器	紡錘車	㉘			Ⅱ		A㊎～Ⓜ微、B㊎㊎微、C㊎～Ⓜ極微、E㊎～Ⓛ多	
1043	セク49	〃	S X251セク	〃	〃	㉘ ⑮			〃	S以下	A㊎極微、C㊎Ⓜ微、K中	
1044	51	〃	S X251	〃	〃	？			〃	S以下	A㊎極微、CⓂ微、D㊎微、E㊎～Ⓜ微	
1107	4	第179図	S B281 P374柱当り	黒色土器A	椀b	㊶ ⑮㉞			Ⅱ		AⓂ少、CⓂ微、E㊎Ⓜ多、K極微多	4%
1108	1	〃 PL.93	S B281 P361掘形	土師器	皿a1（E）	①㉜			〃		C㊎～Ⓜ微、D㊎Ⓜ微、E㊎Ⓜ少	86%
1109	2	〃 〃	S B281 P399－9掘形	須恵器	灰釉?（底部）	㊾			〃		CⓂⓁ微	100%
1110	2	〃	S B287 P626掘形	土師器	椀B	⑦㉞ ⑦			Ⅲ		D㊎㊎少、E㊎～Ⓜ微、K極微	13%
1111	1	〃	S B287 P556掘形	〃	皿D	㉘ ㉞㉞			Ⅱ		E㊎～Ⓜ中	13%
1112	3	〃	S B287 P569柱当り	〃	皿D2	㉝			Ⅲ		DⓂ微、E㊎Ⓜ少、K微	17%
1113	3	〃	S B288 P314柱当り	〃	椀（底部）	㉞			〃		D㊎少、E㊎微	33%
1114	1	〃	S B288	〃	小皿D2	⑮ ③⑮			Ⅱ		E㊎～Ⓜ少	13%
1115	2	〃	S B288 P336柱当り	〃	〃	㉘			〃		D㊎極微、E㊎～Ⓜ中	21%
1116	1	〃	S B289 P516掘形	黒色土器A	椀（底部）	㉞ ㉘			〃		A㊎Ⓜ微、B㊎少、K中	100%
1117	3	〃	S B289 P516柱当り	土師器	椀（底部）	⑭ ⑫			Ⅶ		C㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓜ微	38%
1118	2	〃	S B289 P603柱当り	〃	皿B1	㉘㉘			Ⅲ	SS以下多	B㊎㊎少、E㊎Ⓜ微、K多	57%
1119	22	〃	S B291 P3柱当り	瓦器	椀D	㉞			Ⅱ		K少	25%
1120	4	〃	S B291 P110掘形	〃	〃	㊷ ㉕			Ⅰ			17%
1121・1122		〃	S B291 P4埋土柱当り	〃	〃	㉞㊷ ㉔			Ⅱ		D㊎～Ⓜ微、1122の胎土極めて緻密Ⅰ	—
1123	25	〃	S B291 P110柱当り	〃	〃	㊷ ㊹			〃		DⓂ極微	8%
1124	3	〃 PL.93	S B291 P446掘形	〃	椀C	㉔			Ⅰ			67%
1125	30	〃	S B291が切るP270柱当り	〃	〃	㉞			Ⅱ		K少	8%
1126	2	〃 PL.93	S B291 P446掘形	〃	小皿	㊷			Ⅰ			33%
1127	21	〃 〃	S B291 P6柱当り	〃	〃	㊷㉕ ㊷			〃			33%
1128	32	〃	S B291を切るP101柱当り	土師器	皿D	⑦			Ⅱ		E㊎～Ⓜ少	8%
1129	19	〃	S B291 P4柱当り	〃	皿A1	㉝			Ⅲ		E㊎～Ⓜ少	17%
1130	20	〃 PL.93	S B291 P?柱当り	〃	皿B1	㉝			〃		A㊎㊎微、D㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓜ多、K少	59%
1131	3	〃 〃	S X411	〃	皿b	㉟㉟			Ⅴ		A㊎～Ⓛ中・Ⓛ微、C㊎～Ⓛ少、D㊎微、E㊎～Ⓜ多、K多	75%
1132・1133		〃 〃	〃	〃	小皿D2	㊾㊾㊾⑦			Ⅱ		A㊎Ⓛ微、C㊎㊎微、E㊎㊎少	—
1134	16	〃	S B291 P107柱当り	〃	〃	㉝			〃		B㊎微、C㊎微、E㊎～Ⓛ中	25%
1135	15	〃	S B291 P11柱当り	〃	〃	⑦㉘ ㉔			〃		E㊎～Ⓛ少	29%
1136	17	〃 PL.93	S B291 P?柱当り	〃	〃	⑤			〃		E㊎Ⓜ少	42%
1137	29	〃	S B291が切るP1033柱当り	〃	〃	㉘			〃		E㊎㊎少	8%
1138	18	〃	S B291 P6柱当り	〃	小皿D3	⑦			〃		E㊎～Ⓜ中	29%
1139	1	〃	S B291 P47掘形	〃	〃	⑦㉘ ㉚			〃		E㊎Ⓜ微	17%
1140	31	〃	S B291を切るP1掘形	〃	小皿E	⑦㉘			〃			21%
1141	33	〃	S B291を切るP	〃	小皿B1	㉘			Ⅴ		B㊎中、E㊎Ⓜ少	100%
1142	10	〃	S B291 P3掘形	須恵器	椀（底部）	㊺㊻			Ⅰ			100%
1143	6	〃	S B291 P45掘形	土師器	土釜A	⑩⑦⑫㉜			Ⅵ	S＞SS	A㊎～Ⓛ多、B㊎㊎少、C㊎～Ⓜ少、D㊎Ⓜ少、E㊎～Ⓛ微、K極多	17%
1144	7	〃	S B291 P311掘形	〃	土釜（鍔部）	⑩			Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓜ多・Ⓛ微、K極多	8%
1145	9	〃	S B291 P446掘形	瓦質	土釜C	㊾ ㊾⑯			Ⅶ	SS以下多	C㊎～Ⓛ多、DⓂ極微	33%
1146	6	〃	S B292 P188柱当り	土師器	椀（底部）	⑯ ⑦			Ⅳ		A㊎少、B㊎中、E㊎Ⓜ中、K多	17%
1147	5	〃	S B293 P714柱当り	瓦器	椀D	㊷			Ⅱ		K微	—
1148	8	〃	S B292 P187柱当り	〃	椀C	㊷			Ⅲ		C㊎少、K少	13%
1149	1	〃	S B297 P343柱当り	〃	〃	㉗㊷㉔㉜			Ⅳ		CD㊎少、E㊎多	48%

出土遺物観察一覧 No.25

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1150	2	第179図	SB296 P128柱当り	瓦器	椀C	㉔	Ⅱ		BⓈ極微、DⓂ極微	8%
1151	5	〃	SB292 P35、埋土柱当り	土師器	ⅢD	㉝㉝	〃		AⓂ微、DⓈ～Ⓜ少、EⓈ～Ⓜ微	21%
1152	3	〃	SB293 P714柱当り	〃	〃	㉙	Ⅲ	SS以下	BⓈ少、EⓈⓈ少	8%
1153	4	〃	SB293 P747柱当り	〃	〃	㉘ ㊷	Ⅱ		AⓈⓈ微、EⓈⓂ少、K微	8%
1154	7	第180図	SB292 P32柱当り	瓦器	小皿	㊷	Ⅰ			13%
1155	11	〃	SB292 P32柱当り	土師器	Ⅲb	②	Ⅱ		DⓈ微、K中	4%
1156	10	〃	SB292 P45柱当り	〃	小皿D2	⑦㉔ ㉙	〃		EⓈ微	17%
1157	4	〃	SB292 P367柱当り	〃	〃	㉘	〃		EⓈⓈ微	17%
1158	2	〃	SB293 P747柱当り	〃	小皿D3	㉘	〃		EⓈ微	13%
1159	9	〃	SB292 P35柱当り	〃	小皿A1	㉘ ㉙	〃		EⓈⓈ微	13%
1160	1	〃	SB292 P211掘形	〃	小皿B1	⑤	Ⅳ	S	AⓈⓈ少、EⓈⓂ少	34%
1161	1	〃	SB296 P204柱当り	〃	〃	①㊲	Ⅴ		AEⓈ～Ⓜ少、BⓈⓈ微、CⓈ～Ⓜ少・Ⓛ微、K中	25%
1162	1	〃	SB293 P797柱当り	〃	〃	㉙	Ⅱ		EⓈⓂ多、K多	19%
1163	2	〃 PL.93	SB292 P311掘形	須恵質	小皿B1	㊷	〃		BCⓈ微、K極微	42%
1164	3	〃 〃	SB296が切るP129	土師器	小皿B2	⑥	Ⅳ		AEⓈ少、K極多	96%
1165	3	〃	SB292 P188柱当り	〃	小皿B1	⑦㉔	Ⅲ		EⓈ～Ⓜ少	29%
1166	1	〃	SB295 P63柱当り	須恵質	捏鉢	㉗	Ⅵ	SS＞S	BⓈ少、CⓈⓂ中、DⓈ少	4%
1167	15	〃 PL.93	SX412	土師器	ⅢB1	③㉔	Ⅷ		BⓈ～Ⓛ少、CⓈⓂ微、EⓈ～Ⓛ中、K微	17%
1168~1181		〃 〃	SX412	〃	小皿B1	③⓪㉝⑦	Ⅶ	S＞M	AⓈ～Ⓛ多、BⓈ～Ⓛ中、CⓈ～Ⓛ中、DⓈ～Ⓜ少	—
1～14									EⓈ～Ⓜ極微、K多	—
1182	4	〃	SB298 P33掘形	瓦器	椀D	㉔ ㊺	Ⅱ		BEⓈ微	4%
1183	7	〃	SB298 P33柱当り	〃	〃	㊹	〃		EⓂ極微、K微	17%
1184	6	〃	SB298 P33柱当り	土師器	ⅢB1？	㊷	Ⅳ	SS以下	EⓈⓈ多、K多	17%
1185	2	〃 PL.93	SB298 P33掘形	〃	小皿B1	⑧	Ⅵ	S	AⓈⓂ中・Ⓛ微、DⓁ微	61%
1186	1	〃	SB298 P33掘形	〃	〃	㉘	Ⅱ		EⓈⓈ少	15%
1187	11	〃	SB298が切るP34掘形	〃	〃	㉘㉘	〃		AⓁ微、EⓈ～Ⓜ多	44%
1188	3	〃	SB298?(P46の東のP)掘形	〃	〃	㊶	Ⅳ	SS以下	AⓈⓈ中、K多	30%
1189	10	〃	SB298が切るP34掘形	〃	〃	⑦㊹	Ⅲ		AⓈ～Ⓛ中・Ⓛ微、EⓈ～Ⓜ中、K多	77%
1190	5	〃	SB298 P33掘形	〃	土釜A	㉘⑥㉝㊹	Ⅷ	SS	AⓈ～Ⓜ多、BⓈ～Ⓜ少、CⓈⓂ少、DⓈⓈ少、EⓈ～Ⓛ少、K多	13%
1191	8	〃	SB298 P425柱当り		土釜A？	⑫	Ⅵ	S＞SS	AⓈ～Ⓜ多、CⓈ～Ⓛ少、DⓈⓂ中、EⓈⓂ微、K少	8%
1192	9	〃	SB298 P279柱当り	白磁	碗	㊸	Ⅱ			—
1193		〃 PL.94	P1047	黒色土器A	椀B	㊶ ⑦㊽	〃		AⓈ少、BⓈⓈ多、DⓈⓂ少、K極微	92%
1194		〃	P259	黒色土器B?	椀b	㊶ ㉒	Ⅲ		CⓈ～Ⓜ少、K少	23%
1195		〃 PL.94	P268	黒色土器A	〃	㊶ ⑤	Ⅱ		AⓈ～Ⓜ少、EⓈ～Ⓜ中、K中	32%
1196		〃	P545	土師器	椀B	⑦	Ⅳ		EⓈ～Ⓛ少	21%
1197	3	〃	P542	〃	〃	㊲ ㉘	Ⅲ		DⓈ少、EⓈⓈ微	17%
1198	1	〃	〃	〃	ⅢD	㉘㉘	〃		EⓈ～Ⓜ多	13%
1199		〃 PL.93	P1047	〃	Ⅲb(高台付)	⑦⑮ ⑦	Ⅱ		DⓈ極微、EⓈ～Ⓜ微	59%
1200		〃 〃	P229掘形	〃	〃（〃）	⑦	〃		CⓈ～Ⓛ微、EⓈ～Ⓜ少	77%
1201		〃 PL.93	P1030	〃	小皿E	⑮	〃		AⓂ～Ⓛ微、CⓂⓁ微、EⓈ～Ⓜ微	46%
1202	2	〃	P542	〃	小皿B2	⑰	Ⅶ		CⓈ少、DⓈⓈ微、EⓈⓈ少、K多	30%
1203		〃 PL.93	P1017	〃	小皿E	㉝㉝	Ⅳ	M	ADⓈ～Ⓛ少、EⓈⓂ中	100%
1204		〃	P38	〃	土釜A	⑮	Ⅷ	M	AⓈⓂ極多、BⓈⓈ少、DⓈⓂ多、EⓂⓁ多、K極多	8%
1205		〃	P189	須恵質	椀	㊺㊷	Ⅰ			13%
1206		〃	P207	白磁	碗	㊵	Ⅲ			13%
1207	7	第181図	SK311壁	瓦器	椀	㉔	Ⅰ			17%
1208	5	〃	SK311	土師器	ⅢD	㉞ ⑫	Ⅳ		BⓈ微、FⓈ少、K少	25%
1209	8	〃	〃 〃	〃	〃	㉞	Ⅱ		EⓈⓂ微	8.%
1210	6	〃	SK311壁	〃	ⅢB1	㉙	〃		DⓂ微、EⓈ微	10%
1211	3	〃	〃 〃	〃	小皿D2	㉞	〃		K少	25%
1212	4	〃	SK311	〃	小皿D2	⑦	〃		EⓈ微	15%
1213	2	〃	〃	〃	小皿D1	㉘	〃		EⓈⓈ中	17%
1214	1	〃 PL.94	SK311壁	〃	小皿B1	㉘ ⑧	Ⅳ		BⓈⓈ少、CⓈⓂ微、K少	62%
1215	1	〃	SK320	〃	小皿D2	⑦㊹	Ⅱ		EⓈⓂ微	31%
1216	2	〃	〃	〃	小皿D3	㉙⑦ ⑦	〃	S	EⓈ～Ⓛ少	29%
1217	1	〃	SK323	〃	小皿A1	㉞	〃		EⓈ微、FⓈ少	25%
1218	2	〃	〃	無釉陶器	小碗	⑧	〃			8%
1219	1	〃	SK349	瓦器	土釜C	㊷	〃	SS	CⓈ～Ⓛ少、DⓁ極微	8%
1220	10	〃	SK365	土師器	甕	㉘	Ⅵ	SS＞S	ACDEⓈ少、BⓈ微、FⓈⓈ中	21%
1221	9	〃	〃	〃	鉢B	㉘ ㊲	Ⅱ	M	ACⓈⓂ微、DⓈ～Ⓛ微、EⓈⓂ少	8%
1222	8	〃	〃	〃	ⅢD	㉝㉙	〃	SS	EⓈⓂ微、FⓈⓈ多、K微	21%
1223	7	〃	〃	〃	ⅢD？	㉘	〃		DⓈⓂ微、EⓂ微	25%
1224	4	〃 PL.94	〃	〃	ⅢD	⑦㊹㊾㊾	〃		ACEⓈⓂ微、K微	48%
1225	12	〃	〃	〃	ⅢA1	㊹ ㊺	Ⅲ		DⓈ多、EⓈ～Ⓜ微	13%
1226	6	〃	〃	〃	ⅢB1	⑦㉘	Ⅱ	S以下	DⓈⓂ多	23%
1227	3	〃 PL.94	〃	〃	〃	㉘ ㉝㉘	Ⅲ		DⓈ～Ⓛ微、EⓈ～Ⓛ少、K微	100%
1228	2	〃	〃	〃	小皿B2	㉘	Ⅴ		EⓈ微、FⓈ多	17%
1229	1	〃 PL.94	〃	〃	小皿D3	㊹	Ⅱ		EⓈⓂ中	46%
1230	5	〃	〃	〃	小皿B1	⑦㊷	Ⅳ		EⓈⓈ多、K微	17%
1231	11	〃	〃	〃	ⅢC	㉘	Ⅶ		AⓈ～Ⓜ少、BⓈⓈ少、DⓁ微、EⓈ～Ⓜ多	17%

出土遺物観察一覧 No.26

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1232	2	第181図PL.94	SK387	土師器	小皿D2	㊴	Ⅱ	SS	E㊎少、F㊎中、K微	71%
1233	3	〃	SK387第3層	〃	小皿D1	㊱	〃		E㊎～Ⓜ少	19%
1234	1	〃	SK387	〃	小皿D2	⑦	Ⅵ	SS	B㊎㊎多、D㊎～Ⓜ多、E㊎Ⓜ中	36%
1235	4	〃 PL.94	SK387第3層	〃	小皿B1	⑦	Ⅱ	S	E㊎～Ⓜ多	8%
1236	2ン5	〃	SK390第2層	弥生土器	広口壺B	㉟㉟	Ⅳ	SS＞M	A㊎～Ⓛ微、C㊎～Ⓛ少、DⓂ微、E㊎～Ⓛ中	18%
1237	1ン3	〃	SK390第1層	瓦器	椀(底部)	㉔	Ⅱ		BD㊎微	33%
1238	2ン3	〃	SK390第2層	〃	椀(底部)	㉔	Ⅰ			71%
1239	2ン2	〃	〃 〃	〃	小皿	㊷	〃			19%
1240	3ン4	〃	SK390第3層	土師器	皿A	㊸㊸	Ⅱ		E㊎微、F㊎少	13%
1241	3ン3	〃	〃 〃	〃	小皿D2	⑭ ⑦⑭	Ⅲ		D㊎Ⓜ少	19%
1242	2ン1	〃	SK390第2層	〃	小皿D3	㊸㉔	Ⅱ		E㊎㊎少	40%
1243・1244		〃	SK390第3層	〃	小皿B1	㊸㊸	〃		1243E㊎中、1244EⓁ微、F㊎中	—
1245	1ン1	〃 PL.94	SK390第1層	〃	〃	⑦①	〃	S	E㊎Ⓜ多	46%
1246	2ン4	〃	SK390第2層	瓦器	土釜	㉔	〃		B㊎微	8%
1247	1ン2	〃	SK390第1層	土師器	椀	㊸	〃		E㊎Ⓜ微	25%
1248	1	〃	SK553、上層 ⅡB1区	瓦器	椀D	㉚㉕	Ⅵ		B微	32%
1249	1	〃	SK562 ⅡB3区	土師器	小皿NGタイプ	②	Ⅲ		B㊎～Ⓜ微、DE㊎微、K微	15%
1250	1	〃	SK339	青磁	碗(底部)	㊾ ㉔	Ⅰ			67%
1251	3	〃	SK339埋土上	美濃瀬戸	天目茶碗	㉓ ㊸	Ⅱ			13%
1252	2	〃	SK339埋土下	白磁	小坏(底部)	㊺ ㉕	Ⅰ			86%
1253	B56	第182図	SE417下層		ふいごの羽口	㊲㉔㊸	Ⅵ		A㊎少、B㊎㊎極多	
1254	D14	第183図PL.94	SE416上層、掘形	黒色土器A	椀B	㊸ ⑭	Ⅲ		BD㊎多、E㊎微	67%
1255	9	〃 〃	SE416掘形	土師器	椀b	⑤ ⑰	Ⅱ	SS以下	A㊎微、D㊎～Ⓜ多、E㊎Ⓜ微	65%
1256	11	〃	SE416	瓦器	椀C	㊷ ㊺	Ⅰ			13%
1257	D13	〃	SE416上層	〃	椀(底部)	㊷	〃			32%
1258	D12	〃	〃 〃	〃	小皿	㊷ ㉔	〃			11%
1259	D11	〃	〃 〃	土師器	皿D	㊲㊸	Ⅲ	SS以下	AⓁ微、BD㊎少	8%
1260	D10	〃 PL.94	SE461上層、掘形	〃	皿A1	㊴	〃		BD㊎㊎少、E㊎～Ⓜ中	30%
1261	D 2	〃	SE416上層	〃	小皿D1	⑤	〃	SS以下	B㊎微、D㊎少、E㊎～Ⓛ微、K㊎微	29%
1262	3	〃	SE416	〃	小皿D1(D2)	⑦㊸	Ⅱ		E㊎～Ⓜ少	40%
1263	D 3	〃 PL.94	SE416上層		小皿D1	⑦	〃		D㊎中、E㊎～Ⓜ微、K多	100%
1264・1268		〃	SE416掘形	〃	小皿D2	①⑦⑮	〃		1264A㊎微、BE㊎微、D㊎～Ⓜ少、1268E㊎～Ⓜ微	—
1265～1267・1269		〃 PL.94	SE416上層	〃	〃	⑤㊷⑩⑮	Ⅱ		AⓁ微、B㊎微、D㊎少、E㊎～Ⓛ微、K多	—
1270・1271		〃	SE416掘形	〃	小皿D3	⑦⑰	〃		A㊎～Ⓜ多、BK㊎微、D㊎～Ⓜ少、E微	—
1272・1273		〃	SE416上層	〃	〃	⑦⑮	〃		B㊎微、E㊎～Ⓜ少	—
1274	8	〃	SE416掘形	〃	小皿E	⑳	〃		B㊎微、D㊎～Ⓜ少、K微	13%
1275	D 1	〃	SE416上層	〃	小皿A1	㉞	〃	SS以下	A㊎微、D㊎㊎少	25%
1276・1277		〃	SE416掘形	〃	小皿B2	⑫⑭⑳	Ⅱ		BDE㊎㊎少、K中 1277胎土V	—
1278	10	〃	〃 〃	〃	鉢	⑰	Ⅳ	M＞S	A㊎Ⓜ多、B㊎Ⓛ微、D㊎Ⓜ少	17%
1279	D17	〃	SE418上層	〃	椀B	② ⑧	Ⅲ	SS	A㊎㊎微、B㊎微、D㊎㊎少、E㊎～Ⓜ微	17%
1280	D22	〃	〃 〃	瓦器	〃	㉔㉔ ㉔	Ⅰ			13%
1281	D24	〃	〃 〃	〃	椀D	㊷ ㊺	〃		K少	13%
1282	D21	〃	〃 〃	〃	椀A	㉔㊺ ㊺	〃			8%
1283・1284		〃	〃 〃	〃	椀(底部)	㊷㉓㉚㉔㉔	〃		1284E㊎微	—
1285	D23	〃	〃 〃	〃	椀C	㉔	Ⅱ		E㊎微	13%
1286	D20	〃	〃 〃	〃	小皿	㊺ ㊺㉔	Ⅰ			23%
1287	D14	〃	〃 〃	土師器	小皿D2	⑦	Ⅱ	SS	D微	21%
1288・1289		〃	〃 〃	〃	小皿D3	⑦	〃		B㊎微、E㊎～Ⓜ微	—
1290	D 1	〃	〃 〃	〃	小皿A1	㊸ ㊼	Ⅳ		B㊎少、E㊎微	25%
1291～1298		〃	〃 〃	〃	小皿B1	⑤⑰㉗⑯㉔	Ⅱ		AB㊎㊎微、D㊎㊎少、E㊎～Ⓜ微、K極多	—
1299～1300		〃	〃 〃	〃	小皿B1	⑦⑯⑮⑦	Ⅳ		E㊎Ⓜ中、K極多	—
1301～1302		〃	〃 〃	〃	〃	㊸㉔⑦⑭	Ⅲ		C㊎～Ⓜ微、D㊎㊎少、E㊎～Ⓜ多、K多	—
1303	D18	〃	〃 〃	〃	鉢	㊸ ⑦	Ⅴ	SS以下	A㊎㊎中、B㊎少、E㊎少、K中	8%
1304	D19	〃	〃 〃	〃	土釜	⑦⑭ ㉔	Ⅵ	M	A㊎～Ⓛ多、C㊎～Ⓜ中、E㊎㊎微、K中	—
1305	D29	〃	〃 〃	須恵質	椀	㉘	Ⅰ			—
1306	D27	〃	〃 〃	須恵器	壺	㊺	Ⅱ		B㊎㊎微	8%
1307	D30	〃	〃 〃	白磁	碗(底部)	㊸ ㊺	Ⅳ			17%
1308	D31	〃	〃 〃	〃	碗(口縁部)	㊸ ㊺	Ⅱ			4%
1309～1311		〃	SE417セク	瓦器	椀C	㉚㉔㊺	〃		B㊎少、D㊎Ⓜ微、EⓂ極微、K微	—
1312	セ 5	〃	〃 〃	〃	椀(底部)	㉔㉓	〃		B㊎㊎中	100%
1313	セ 1	〃 PL.94	〃 〃	土師器	皿A1	㊸ ㊸㊸	Ⅲ	SS以下	B㊎㊎微、E㊎～Ⓛ少、K微	31%
1314・1317～1319		第184図PL.95	SE417最下層	瓦器	椀B	㊶㊸㊷㊺	Ⅰ			—
1315・1316		〃 〃	〃 〃	〃	〃	㊸㊸㉔	Ⅵ		B㊎以下多、C㊎微	—
1320	A48	〃	SE417最下層、中層	〃	〃	㊺ ㉔	Ⅱ		CⓁ微	87%
1321～1333		〃 PL.95	SE417最下層	〃	椀A	㉚㊸㉔㊸㊺	〃		1321胎土やや粗い(Ⅵ)、1331胎土まま緻密(Ⅳ)	—
			最下層、下層、中層接合有り			㊺			AⓁ微、BC㊎多、DⓂ微	—
1334	A31	〃	SE417最下層	〃	椀(底部)	㊸	Ⅰ			100%
1335～1338		〃 PL.95	〃 〃	〃	椀C	㊸	〃			—
1339～1347		第185図PL.95	〃 〃	〃	〃	㉚㊸	〃			—
1348・1349		〃 PL.96	〃 〃	〃	小皿	㊺㊸㉔	〃			—

出土遺物観察一覧 No.27

土器番号・登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1350・1352・1353	第185図PL.96	SE417最下層	土師器	皿A1	㉔㉔㉓㉓	Ⅱ		BⓈ少、DⓈ微・Ⓢ多、EⓂⓁ少	—
1351 A1	〃	〃 〃	〃	〃	㉗	Ⅲ		DⓈ微	87%
1354~1356	〃 PL.96	〃 〃	〃	皿A2	⑯⑰⑰	Ⅱ		AⓁ極微、BⓈ少、DⓈⓈ多、EⓈⓈ少、K少	—
1357・1359	〃 〃	〃 〃	〃	皿B1	⑯⑰⑰	〃		AⓂ～Ⓛ少、BDⓈ少、CⓂ少、EⓂⓁ中、H少、K多	—
1358 A9	〃 〃	〃 〃	〃	〃	⑰⑯	Ⅵ		DⓈ微、EⓈ～Ⓛ中、K少	79%
1360~1364	〃 〃	〃 〃	〃	小皿A1	⑦から㉚主体	Ⅱ		BEⓈⓈ少、DⓂⓁ中、K少	—
1365~1368	〃 〃	〃 〃	〃	小皿A2	⑦⑯	〃		BⓈ微、DⓈⓈ中、EⓈ少、FⓂ微	—
1369 A11	〃 〃	〃 〃	〃	小皿A1	⑦⑰	Ⅵ		BⓈ多・ⓂⓁ少、DⓈ少、EⓈⓁ少	83%
1370~1375	〃 〃	〃 〃	〃	小皿B1	⑭⑰⑯⑰	Ⅱ		AK多、BⓂⓁ微、DEⓈ少	—
1376 A65	〃	〃 〃	〃	甕	㉒⑩	〃	S	ACⓈⓂ微、DⓈ～Ⓛ少、K微	17%
1377 A63	〃	〃 〃	〃	〃	㉚ ㉚⑫	Ⅳ	S＞M	ACⓈⓂ少、DEⓈ～Ⓜ少、K少	11%
1378 A64	〃	〃 〃	〃	〃	⑦⑩ ⑩	Ⅵ	SS＞S	AⓈ～Ⓛ微、CⓈ～Ⓜ微、DⓈⓂ少、K中	8%
1379 A66	〃	〃 〃	須恵質	椀	㊷	Ⅱ		BⓈⓈ少、DⓈ微	—
1380 A68	〃	SE417最下層、中層	白磁	碗	㉚ ㉕	〃			2%
1381~1385	第186図PL.97	SE417下層	瓦器	椀B	㊸㉔㉔㉔㉕	Ⅰ		1384の胎土やや粗い(Ⅵ)BCⓈ以下多、DⓂ極微	—
1386~1390	〃 〃	〃 〃	〃	椀A	㊸㉔㉔	〃		1388・1390の胎土はやや粗い(Ⅵ)BC多、DⓁ極微	—
1391 B27	〃 〃	SE417下層、中層	〃	〃	㊷	〃			94%
1392・1394~1399	〃	SE417下層	〃	〃	㉔㊸㊸㊸㉕	〃		1392・1395・1398の胎土やや粗い(Ⅵ)BCⓈ多	—
1393 B28	〃 PL.97	SE417下層、中層、上層	〃	〃	㊹	〃			93%
1400~1404	〃 〃	SE417下層	〃	椀C	㊺㊺㉔ ㊺	〃			—
1405・1407~1410	第187図PL.97	〃 〃	〃	〃	㊸㉔㉔㉔㊸	〃			—
1406 B50	〃	SE417下層	〃	〃	㊸ ㊺	〃			61%
1411 B47	〃	SE417下層、中層	〃	〃	㊷	〃			79%
1412・1413	〃	SE417下層	〃	〃	㊸㉔㉔㉕㉕	〃		1413の胎土やや粗い(Ⅵ)BCⓈ以下多	—
1414 B1	〃 PL.97	〃 〃	土師器	皿A1	㊳	Ⅱ		DⓈⓂ中、EⓈⓂ多	88%
1415 B2	〃 〃	〃 〃	〃	皿A2	⑫	〃		EⓈ少	56%
1416~1418	〃 〃	〃 〃	〃	小皿A1	⑦⑫㉓	〃		BⓈⓈ微、DⓈ～Ⓜ微、EⓈⓂ微	—
1419 B6	〃	〃 〃	〃	小皿A2	㊱	〃	SS	EⓈⓈ少、K微	33%
1420・1421	〃 PL.97	〃 〃	〃	小皿B1	㉔⑰㉔	〃		AⓁ微、CⓂ微、EⓈ極微、K多	—
1422 B52	〃	〃 〃	〃	土釜A	㉓	Ⅵ	S＞SS	AⓈⓁⓁ多、BⓈ微、CⓂ微、DⓈ～Ⓜ多、HⓈ多	18%
1423 B53	〃	〃 〃	〃	〃	⑯⑫ ⑮	〃	S＞SS	AⓈⓁ多、BⓂ少、CⓂ微、DⓈ少、EⓈ微、K多	16%
1424 B54	〃	〃 〃	青磁	碗	㊾ ㊺	Ⅱ			—
1425 B55	〃	〃 〃	白磁	碗(底部)	㊸ ㊺	Ⅳ			100%
1426~1428	〃 PL.98	SE417中層	瓦器	椀B	㉔㉔㉕	Ⅰ		1428の胎土やや粗い(Ⅵ)DⓂ微	—
1429~1437	〃 〃	〃 〃	〃	椀A	㊷㊸㊸㊸	〃		1431の胎土やや粗い(Ⅵ)BCⓈ多、FⓈ少	—
1438 C22	〃	SE417中層、下層	〃	〃	㊹	Ⅱ		BCⓈ多、EⓈ微	38%
1439~1447	第188図PL.98	SE417中層	〃	椀C	㊷㊸㊸㉔㊺	Ⅰ		1443の胎土緻密(Ⅱ)CⓁⓁ微、1445の胎土やや粗い DEⓈ多	
1448・1449	〃 〃	〃 〃	〃	小皿	㊺㊸㊷	〃			—
1450・1451	〃 〃	〃 〃	土師器	皿A1	⑦㊸㊼	Ⅱ		BⓈ～Ⓜ少、DⓈⓂ微、EⓈ～Ⓛ微	—
1452 C3	〃 〃	〃 〃	〃	皿C	⑦ ⑦㊸	Ⅳ	S	DⓈ微、EⓈⓂ微、K多	17%
1453・1455~1459	〃 〃	〃 〃	〃	小皿A1	⑯㊸㊸㊸	Ⅱ		AⓈ～Ⓛ微、BⓈ少、DⓈ～Ⓜ中、EⓈⓈ少	—
1454・1460・1462	〃 〃	〃 〃	〃	〃	⑦㊸㊸㊺	Ⅵ		BⓈ多・Ⓢ少、CⓈ少、DⓈ～Ⓜ少、EⓈ～Ⓜ少	—
1461 C7	〃 〃	〃 〃	〃	〃	㉑ ⑦㉒	Ⅲ		CDⓈ微	75%
1463 C45	〃	〃 〃	〃	土釜A	㊳	Ⅵ	M＞S	AⓈ～Ⓛ多、CⓈⓂ少、EⓂ少、K多	8%
1464 C46	〃	〃 〃	須恵質	椀	㊷	Ⅱ		BⓈⓈ少、DⓈ微	—
1465 C47	〃	〃 〃	白磁	碗(底部)	㊼	〃			50%
1466・1467	〃 PL.98	SE417上層	瓦器	椀B	㊹㊷㊸	Ⅳ		BⓈⓈ中、DⓂ微、1466の胎土極めて緻密(Ⅰ)	—
1468・1469	〃	〃 〃	〃	椀D	㊷㊷㊺	Ⅰ			—
1470~1472	〃 PL.98	〃 〃	〃	椀C	㊹㊷㊷	Ⅱ		EⓈ極微、K中	—
1473・1474	〃	〃 〃	〃	椀(底部)	㊸㊷㊷	Ⅰ			—
1475~1479	〃 PL.98	〃 〃	〃	小皿	㊷㊷	Ⅱ		BCⓈ以下多、EⓈⓈ少、FⓁ微	—
1480 D40	〃 〃	〃 〃	土師器	小椀	㊼	Ⅳ	SS	DⓈⓈ少、EⓈⓂ少	27%
1481・1482	〃	〃 〃	〃	皿A1	㊸㊸⑦	Ⅱ		EⓈⓈ微	—
1483~1486	〃 PL.98	〃 〃	〃	皿C	㊸㊸	Ⅳ		AⓈ少、BⓈ微、CⓈ微、DⓈ～Ⓜ微、EⓈⓂ多、K中	—
1487 D41	〃	〃 〃	瓦器	足釜	㊷	Ⅱ		BⓈ少、DⓁ微	13%
1488~1492	第189図	〃 〃	土師器	小皿A1	㊹⑦㊸㊸	〃		AⓈ極微、BⓈ微、DⓈⓈ少、EⓈⓂ少	—
1493・1494	〃	〃 〃	〃	〃	㊸㊸	Ⅵ		BⓈ少、DⓈⓈ少、EⓈⓂ微、1493の胎土(Ⅲ)	—
1495~1497	〃	〃 〃	〃	小皿C	⑲⑰⑭	Ⅲ		EⓈⓂ少、1497の胎土緻密(Ⅱ)	—
1496 D15	〃	〃 〃	〃	〃	⑦	Ⅱ		EⓈⓂ中	27%
1498 D39	〃	〃 〃	〃	甕	⑧ ⑦	〃	M	AⓈ～Ⓛ中、BⓈ～Ⓛ微、DⓈⓂ極微、EⓂ極微、K微	4%
1499 D35	〃	〃 〃	〃	〃	⑮	〃	SS以下	BCⓈⓈ少、DⓈ少、K中	13%
1500 D38	〃	〃 〃	〃	手捏ね土釜	㊳	〃	SS以下	DⓈ～Ⓜ微、EⓈ極微	13%
1501・1502	〃	〃 〃	〃	土釜A	⑦㊸⑮	Ⅵ	SS・S＞M	AⓈ～Ⓛ中、CⓈⓂ多、DⓈ多、EⓈ少、K少	—
1503 D45	〃	〃 〃	須恵質	捏鉢	㉔	Ⅱ	SS以下	AⓈ少、BⓈⓈ少、DⓈⓂ中	4%
1504 D44	〃	〃 〃	須恵器(瓦質)	甕	㉚ ㉔	Ⅳ		BⓈ少、CⓈ微、K中	6%
1505 D42	〃	〃 〃	須恵質	椀	㊷	Ⅱ		BⓈⓈ少、K中	—
1506 D47	〃	〃 〃	白磁	皿(底部)	㊼ ㊹	〃			50%
1507 D46	〃	〃 〃	青磁	碗(〃)	㊾ ㊺	Ⅳ			29%
1508 1	〃 PL.98	SE566 ⅡB1区	瓦器	椀C	㊶	Ⅵ	SS以下	ADⓈ微、EⓈ～Ⓛ少	96%
1509 C1	〃	SE567中層 〃	土師器	皿(薄丸大)	㊸㊹	Ⅱ		BⓈ～Ⓛ微、DⓈ微、EⓈ～Ⓛ微、K微	17%

出土遺物観察一覧 No.28

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1510	B 3	第189図	SE567下層 ⅡB1区	青磁	碗	㊾	㉔		Ⅱ			
1511	D 1	〃	SE567上層 〃	土師器	土釜A	㊷			Ⅵ	S＞M	AⓈ～Ⓜ極多、BⓈ～Ⓛ多、CⓈ～Ⓛ少、DⓈ～Ⓜ微	21%
1512	C 2	〃	SE567中層、上層 〃	〃	〃	㊷			Ⅷ	SS＞S	AⓈ～Ⓛ少、BⓈ～Ⓛ多、DⓈ微、K少	17%
1513	B 2	〃	SE567下層、SK502下層〃	〃	〃	㊵	⑨		Ⅱ	S	AⓈ～Ⓜ極多、BⓈ～Ⓜ少、DⓈ～Ⓛ多、K少	17%
1514	D 2	〃	SE567上層 〃	〃	〃	㊷			Ⅷ	SS	AⓈ～Ⓜ極多、BⓈ～Ⓜ少、DⓈⓈ少、K少	17%
1515	B 1	〃	SE567下層 〃	〃	〃	㉔	㊷		Ⅵ	SS＞S	BⓈ～Ⓜ多、CDⓈⓈ多	8%
1516	D 2	〃	SE568上層 〃	瓦器	鉢	㉚	㉕		Ⅱ			8%
1517	2ソ1	〃	SE568第2層 〃	〃	椀	㉕	㊷		〃		DⓈ～Ⓜ微、K微	4%
1518	D 4	〃	SE568上層 〃	〃	椀C	㊷	㊺		〃		ABⓈ微	17%
1519	C 1	〃	SE568中層 〃	〃	小皿	㊷			〃		AⓈ微、DⓈ微	13%
1520	1	〃	SE568 〃	〃	〃	㊹	㊺		〃		AⓈ微、DⓈ～Ⓜ少、K微	29%
1521	4ソ1	〃	SE568第4層 〃	土師器	皿大平	㊳			〃		AⓈ・BⓈ極微、DEⓈⓈ微	17%
1522	D 1	〃	SE568上層 〃	〃	小皿小平	㉞			Ⅵ		DⓈⓂ微、FⓂ微	13%
1523	4ソ2	〃	SE568第4層 〃	〃	小皿小平	㉟			Ⅰ			17%
1524	D 3	〃	SE568上層 〃	須恵質	捏鉢(底部)	㊻			Ⅵ		BⓈⓈ中、DⓈ少	33%
1525	1	〃	SE569 〃	土師器	小皿NGタイプ	㊳			Ⅳ		AⓈ～Ⓜ少、BⓈ～Ⓜ微、CⓁ微、EⓈⓈ中、K極微	8%
1526	6	第190図 PL.99	SD424混合層	瓦器	手捏ね土釜	㊷	㊸		Ⅱ		BⓈⓈ中・Ⓛ微	100%
1527	162	第191図 〃	SD425	土師器	坏	㊸	㊸		〃		BⓈⓈ微、CⓂ極微、DⓂ微、EⓈ少、K少	100%
1528	173	〃 PL.101	〃	須恵質	椀	㊷	㉕		Ⅰ			90%
1529	175	〃	〃	〃	椀(東播系?)	㉔			Ⅱ		DⓈ微	13%
1530	174	〃	〃	〃	椀(底部)	㉔			〃		DⓂ少	29%
1531	177	〃	〃	〃	〃(〃)	㉔			〃		BⓈ微	8%
1532	176	〃 PL.99	〃	〃	椀	㉔			〃		BⓈⓈ少	8%
1533	178	〃	〃	〃	捏鉢	㉔			〃		BⓂ微、CⓈ少・Ⓜ微	14%
1534	10	〃	〃	〃	捏鉢(東播系)	㉔			〃		BⓈⓂ少・Ⓛ微、CⓂⓁ微、DⓈ～Ⓛ中	8%
1535	179	〃	〃	〃	捏鉢	㊹	㊹		〃	SS	CⓂⓁ極微、DⓈ微	4%
1536	B 2	〃	SD425下層		ふいごの羽口	⑦	⑫	㊸	Ⅷ		BⓈⓈ多、DⓈ～Ⓜ多、EⓈⓂ多	—
1537~1541		第192図 PL.99	SD424下層	黒色土器A	椀b	㊶	⑦	⑫	Ⅱ		AⓈⓁ少、BⓈ微、CⓁ微、DⓈⓁ微、EⓈ～Ⓜ少、K多	—
1542	B 3	〃	〃 〃	土師器	Ⅲa1(E)	⑦	㊼		〃		EⓈⓈ極微、K微	13%
1543	B 1	〃	SD424中・下層	〃	ⅢD	㉝	㊸		〃		DⓈ極微	8%
1544	B 6	〃 PL.99	SD424下層	〃	小皿E	㊳			Ⅵ		CⓈ～Ⓛ少、DⓈ中、EⓈⓂ中	67%
1545	B 4	〃	SD424中・下層	〃	小皿A1(D1)	㊳			Ⅶ	SS	EⓈ少・Ⓜ微	19%
1546	B 5	〃	〃 〃	〃	小皿A1	㊸	㊸		Ⅳ	SS	EⓈⓈ中、K微	21%
1547	B 8	〃	SD424下層	〃	甕B	⑦			Ⅵ	S＞M	AⓈ～Ⓛ多、CⓈ～Ⓛ中、DⓈⓂ微、FⓈⓂ少、K中	8%
1548	B 7	〃	〃 〃	〃	甕A	⑫	⑦	㊸	〃	S＞M	AⓈ～Ⓛ中、BⓈ～Ⓛ少、CⓈ～Ⓛ中、DⓈⓈ少、EⓈ微、K少	17%
1549	B14	〃	〃 〃	須恵器	壺(底部)	㉔	㊷		Ⅱ		BⓈⓈ中、CDⓈ微	17%
1550	B18	〃	〃 〃	〃	長頸壺(底部)	㉗	㊼		〃		BⓈ～Ⓜ中、CⓈⓂ中	29%
1551	B16	〃	〃 〃	〃	壺(底部)	㉔			〃		AⓈ微、CⓈⓂ微	19%
1552	B15	〃	〃 〃	〃	〃(〃)	㉔			〃		CⓈⓈ微	17%
1553	B17	〃	〃 〃	〃	〃(〃)	㊺	㉔		〃		BⓈⓈ微、CⓈ～Ⓛ少、DⓈⓂ微	17%
1554	B19	〃	SD424中・下層	〃	甕	㉔			〃	M	BⓈ～Ⓜ少、CⓈⓈ微、DⓈ微	13%
1555	C12	〃	SD424中層	黒色土器A	椀b	㊶	㉞		〃	S	AⓈ～Ⓜ少、BⓈ微、EⓈⓂ中、K中	19%
1556	C13	〃	SD424上・中層混合	〃	〃(〃)	㉞	㊶		〃		AⓈ少、CⓈ微、EⓈⓂ微、K多	8%
1557	C14	〃	〃 〃	〃	〃(〃)	㊶	㉝	㊷	〃	S	AⓂ微、CⓈⓂ少、EⓈⓂ中	13%
1558	C11	〃	〃 〃	〃	椀(底部)	㊶	㉗		〃	SS	BEⓈⓈ微、CⓈ～Ⓜ少、K中	100%
1559	C10	〃 PL.99	SD424中層	瓦器	椀	㊶	㊶	㉔	Ⅵ		BⓈⓂ少、CⓂ～Ⓤ中	67%
1560	C 3	〃	〃 〃	土師器	Ⅲa1(E)	⑦	㊸		Ⅱ		CⓈ微、EⓈⓈ微、K極微	13%
1561	C 5	〃	〃 〃	〃	〃 〃	⑤	㊸		Ⅵ	S	ACⓈ微、EⓈⓂ少	17%
1562	C 6	〃	〃 〃	〃	〃 〃	㉝	⑦		Ⅳ		DⓂ微、EⓈⓈ少	13%
1563	C 4	〃	〃 〃	〃	ⅢD	㉝	㊸		Ⅵ	SS	BⓈ微、EⓈ～Ⓛ多	21%
1564	C 2	〃	〃 〃	〃	〃	㉝	㊸		Ⅱ		EⓈ～Ⓜ微	13%
1565	C 1	〃	〃 〃	〃	Ⅲa1	⑦	㊸		〃		EⓈⓂ微	8%
1566	C 7	〃 PL.99	〃 〃	〃	小皿D1	㊸	㊸		Ⅳ	SS	DⓈⓈ少、EⓈ～Ⓤ少、FⓈ中、K微	83%
1567	C 8	〃 〃	〃 〃	〃	小皿D3	㊸	㊸		Ⅱ		EⓈ～Ⓜ少	92%
1568	C 9	〃	〃 〃	〃	小皿D3	㉟			〃		DⓈ微、EⓈ少	21%
1569	C15	〃	SD424中層、混合層	須恵器	壺(底部)	㉔			〃		BⓈⓈ微、CⓈ～Ⓜ微	25%
1570	D 4	〃	SD424上層	土師器	ⅢE(a1)	㊽	⑦		〃		CⓈ～Ⓜ微	13%
1571	D 3	〃	〃 〃	〃	ⅢD	㉟			Ⅴ	SS以下	CⓈⓈ微、DⓈ～Ⓜ微、EⓈ～Ⓜ少、K多	13%
1572	D 2	〃	〃 〃	〃	〃	㊽			Ⅱ		EⓈⓈ微、K微	8%
1573	D 1	〃	〃 〃	〃	Ⅲa1	㊸	㊸		Ⅴ	SS	BⓈ極微、EⓈ～Ⓤ多	8%
1574	D 8	〃 PL.99	〃 〃	〃	小皿D3	⑦	㊸		Ⅱ		BⓈ微、EⓈ～Ⓜ中	100%
1575	D 5	〃	〃 〃	〃	小皿A2	⑦	㊸		〃		EⓈ～Ⓛ少	8%
1576	D 6	〃	〃 〃	〃	小皿A2	㊽			Ⅴ	S	BⓈ微、EⓈⓂ多	17%
1577	D 7	〃	〃 〃	〃	小皿B1	⑫	㊸		〃	SS	BⓈ極微、EⓈⓈ多	17%
1578	D 9	〃	〃 〃	須恵器	壺(底部)	㊺			〃	S	BⓈ～Ⓤ多、CⓈⓂ少	25%
1579	D10	〃	〃 〃	〃	〃(〃)	㉔			Ⅱ		BⓈⓈ微	4%
1580	D11	〃	〃 〃	〃	甕	㉔			〃		BⓈⓂ微、CⓈ～Ⓛ微	8%
1581	8	〃	SD424	黒色土器A	椀b	㊶	㊸	㊷	〃	S	AⓈ～Ⓤ微、EⓈⓂ微、K微	8%
1582	2	〃	〃	土師器	Ⅲa2(E)	㊽	①		〃		BⓈ極微、EⓈ～Ⓜ中、K少	4%
1583	1	〃	〃	〃	ⅢD	㉞	㊸	㊸	Ⅴ		EⓈ～Ⓜ中、K少	8%

出土遺物観察一覧 No.29

土器番号	登録番号	実測図	写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形(部位)	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1584	5	第192図		SD424	土師器	小皿D1	㊱	Ⅶ	SS	EⓈⓁ微	30%
1585	3	〃		〃	〃	小皿A1	⑦	Ⅱ		EⓈⓂ少、K少	8%
1586	4	〃		〃	〃	〃	㊱	Ⅲ	SS	A(SS)~Ⓛ微、C(SS)~Ⓜ微、DEⓈⓂ微	8%
1587	7	〃		〃	〃	甕	㊴ ⑮⑫	Ⅱ		D(SS)Ⓢ少、E(SS)微、K中	25%
1588	B20	第193図		SD424下層	製塩土器	丸底Ⅴa	㊴	1		EⓈⓂ微	13%
1589・1590		〃	PL.99	SD424混合層	〃	〃	㊴	2	SS以下	B(SS)Ⓢ微、C(SS)中、EⓈ少、1590は砂粒主体S以下	—
1591	C17	〃	〃	SD424中層	〃	丸底Ⅴb	㊴	1	SS以下	D(SS)微	13%
1592	B24	〃		SD424下層	〃	〃	㉞	2	SS以下	D(SS)Ⓢ少、E(SS)Ⓢ多	13%
1593	13	〃	PL.99	SD424	〃	丸底Ⅵ	⑰	6	S	BD(SS)Ⓢ中、E(SS)Ⓢ微	8%
1594・1596		〃	〃	〃 〃	〃	丸底Ⅶa	㉞㊴ ㊷	3	SS以下	AⓈ微、B(SS)微、D(SS)少	—
1595	C27	〃		SD424中層	〃	〃	㊱	5	L>M	AⓈ~Ⓛ中、CⓈⓂ少、DⓁ(LL)微、EⓈ~Ⓛ多	21%
1597	B21	〃		SD424下層	〃	〃	㉞	1	SS以下	E(SS)極微	13%
1598	C31	〃	PL.99	SD424中層	〃	丸底Ⅷb	㊵	2	SS	ACⓈ少、D(SS)Ⓢ多・Ⓛ微	13%
1599	B28	〃	〃	SD424下層	〃	〃	㊴	3	S	E(SS)Ⓢ少	13%
1600・1601		〃	〃	SD424中層	〃	〃	㉞㊴	3	S	AⓂ微、BDⓈ微、E(SS)Ⓢ少、1601は砂粒主体SS	—
1602	B22	〃	〃	SD424下層	〃	〃	㊴	2	SS以下	D(SS)多、EⓈ極微	17%
1603	15	〃		SD424混合層(中層)	〃	〃	⑦	6	S>M	ACⓈⓂ少、B(SS)多、D(SS)~Ⓜ多	4%
1604	B31	〃		SD424下層	〃	〃	㉝	6	S>M	CDⓈⓂ少、E(SS)~(LL)中	17%
1605	B25	〃	PL.99	〃 〃	〃	〃	㉝	2	SS	B(SS)多、C(SS)Ⓢ少、D(SS)Ⓢ多	13%
1606	C19	〃	〃	SD424中層	〃	〃	㉝⑳ ㉝	2	SS以下	A(SS)微、CD(SS)~Ⓜ多、E(SS)~Ⓜ中	8%
1607	B30	〃	〃	SD424下層	〃	〃	㊴	4	S>M	CⓈ少、D(SS)Ⓢ中、E(SS)~Ⓛ中	13%
1608	16	〃		SD424	〃	丸底Ⅶc	㉞	3	SS以下	B(SS)微、EⓈ少	13%
1609	B33	〃	PL.99	SD424下層	〃	〃	㉝ ㉞㉝	2	SS以下	BD(SS)微、E(SS)~Ⓜ多	8%
1610・1611		〃	〃	〃 〃	〃	〃	㉝㊴	3	S	B(SS)微、E(SS)~Ⓛ中、1611は砂粒主体S>M	—
1612	C28	〃		SD424中層	〃	〃	⑦	6	SS	B(SS)~Ⓜ中、CⓈⓂ少	13%
1613~1615		〃	PL.99	〃 〃	〃	丸底Ⅷa	㉞㉝	2	SS以下	A(SS)~Ⓜ微、B(SS)Ⓢ多、E(SS)多、1614は砂粒主体S以下	17%
1616	B36	〃		〃 〃	〃	〃	㊴	3	SS以下	D(SS)極微	17%
1617	B29	〃		SD424下層	〃	〃	㊴ ⑯	4	S	AⓂ微、B(SS)少、CⓈⓂ微、DⓈⓂ中	4%
1618	C21	〃	PL.99	SD424中層	〃	丸底Ⅷb	⑰	2	SS	B(SS)Ⓢ少、D(SS)Ⓢ多、EⓈ~Ⓛ少	13%
1619	C32	〃	〃	〃 〃	〃	〃	㉞	3	SS以下	AⓈ微、E(SS)少	17%
1620	14	〃		SD424	〃	丸底Ⅷc	㊴	6	S>M	BEⓈⓂ少、CⓈ~Ⓛ多、DⓈⓂ中	17%
1621	B32	〃	PL.99	SD424下層	〃	〃	㉞	6	S>M	AⓂ極微、CⓂ微、DEⓈⓂ中	8%
1622	C29	〃	〃	SD424中層	〃	〃	㊱	6	S>M	AⓈ少、CⓈⓂ中、DⓈ少・Ⓜ微	13%
1623	B35	〃		SD424下層	〃	〃	㉞	2	SS以下	BD(SS)微、DⓂ極微、E(SS)~Ⓜ多	13%
1624	B34	〃		〃 〃	〃	〃	㉞	4	M	AⓂ少、CⓁ微、DⓈⓂ中、EⓈⓂ少	13%
1625	C22	〃	PL.99	SD424中層	〃	〃	㊱	2	S以下	C(SS)少、E(SS)~Ⓜ中	13%
1626	B15	〃		SD425下層	瓦器	椀D	㊺	Ⅰ			8%
1627	B14	〃		〃 〃	〃	椀C	㉔㊲ ㊲	Ⅱ		BDⓈ微、EⓂ微	25%
1628	B16	〃		〃 〃	〃	椀(底部)	㊷ ㉕	Ⅵ		B(SS)以下多	60%
1629	B17	〃		〃 〃	〃	〃(〃)	㊷ ㊺	〃		EⓂ極少、FⓈⓂ少	80%
1630	B 1	〃		〃 〃	土師器	皿A2	㉝	〃		DⓂ少、EⓈ微	23%
1631	B 3	〃		〃 〃	〃	皿B1	㊱	〃		DⓂ少、EⓈ少	21%
1632	B 4	〃	PL.99	〃 〃	〃	皿B2	㊱	Ⅳ		DⓂⓁ少、EⓈⓂ中	32%
1633	B11	〃		〃 〃	〃	小皿D1	⑦	Ⅱ		D(SS)少、E(SS)Ⓜ少	38%
1634	B10	〃		〃 〃	〃	〃	⑭㊴	Ⅰ			29%
1635	B12	〃		〃 〃	〃	小皿D2	㊴⑦ ㊷	Ⅱ		E(SS)微	25%
1636	B13	〃		〃 〃	〃	〃	⑦㉝	〃		E(SS)中	20%
1637	B 8	〃		〃 〃	〃	小皿B1	⑦	Ⅳ		B(SS)中、E(SS)少	52%
1638	B 9	〃		〃 〃	〃	〃	⑧	Ⅱ		AⓂ極微、EⓂ微、K微	28%
1639	B 7	〃	PL.100	〃 〃	〃	〃	⑦	Ⅵ		A(SS)多、BⓈ中、CEⓂ少	46%
1640	B 6	〃		〃 〃	〃	〃	㊱	Ⅳ		DⓂ微、E(SS)~Ⓜ中	40%
1641	B 1	〃	PL.100	〃 〃	〃	〃	㉝ ㊴	Ⅱ		B微、DE(SS)Ⓢ少	86%
1642	B 5	〃		〃 〃	〃	小皿A2	(63) ㉒	〃		D(SS)微、EⓈ~Ⓛ少	9%
1643	B18	〃	PL.101	〃 〃	須恵器	椀	㊺	Ⅲ		B中、雲母粒子混入	87%
1644	B19	〃		〃 〃	須恵質	捏鉢	㉔	Ⅱ		B(SS)Ⓢ微、D(SS)Ⓢ少・Ⓛ微	4%
1645~1647		第194図		SD425上層	黒色土器A	椀b	㊶ ㉜⑳	〃		AⓂ~Ⓛ微、BⓈ微、DⓂ微、EⓈⓂ微	—
1648	D18	〃		〃 〃	瓦器	椀A	㉔㊷	〃		B(SS)以下少、DⓂ少	17%
1649	D17	〃		〃 〃	〃	〃	㊷ ㉔	Ⅱ		E(SS)少	53%
1650	D19	〃	PL.99	〃 〃	〃	椀C	㉚ ㉚	Ⅳ		AⓁ極微、B(SS)以下多・Ⓢ微、CⓂⓁ微	42%
1651	D 1	〃	〃	〃 〃	土師器	皿A1	㊱	Ⅱ		EⓈⓂ極微	40%
1652	D 4	〃		〃 〃	〃	皿A2	㊴	〃		EⓈ~Ⓛ少	8%
1653	D 8	〃		〃 〃	〃	皿B1	⑥㊲⑩⑥	Ⅵ		AⓈ~(LL)微、B(SS)以下微・Ⓜ極微、EⓈ~Ⓛ中、K多	60%
1654	D 4	〃		〃 〃	〃	小皿D1	⑦	Ⅱ		A(SS)少、EⓈ微	25%
1655	D15	〃	PL.100	〃 〃	〃	小皿D2	⑯㉝⑯⑦	〃		EⓈⓂ少	75%
1656	D16	〃		〃 〃	〃	〃	㊲ ⑫	〃		E(SS)極微、K中	25%
1657	D14	〃		〃 〃	〃	小皿B1	㊴ ⑮	〃		DⓈ微、EⓈ少	38%
1658	D13	〃		〃 〃	〃	〃	⑯	Ⅲ		EⓂ微	50%
1659	D 1	〃	PL.100	〃 〃	〃	〃	㊴	Ⅵ		D(SS)Ⓢ少、E(SS)Ⓢ多・Ⓜ微	63%
1660	D11	〃	〃	〃 〃	〃	〃	⑳ ⑳㊲	〃		AⓂ~(LL)極微、CⓂ極微、EⓈ~Ⓛ極多	87%
1661	D 5	〃		〃 〃	青磁	碗(底部)	㊾ ㉔	Ⅱ			21%

出土遺物観察一覧 No.30

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1662	D27	第194図	SD425上層	須恵質	捏鉢	㊻	Ⅱ		CⓂ～Ⓛ少、DⓈ～Ⓛ少	21%
1663	7	〃 PL.100	SD425	瓦器	椀B	㉚ ㉕Ⓢ	〃		DⓈⓈ微、EⓈ極微	52%
1664	123	〃	〃	〃	〃	㉚	Ⅰ			13%
1665	119	〃 PL.100	〃	〃	〃	㉔ ㊷	Ⅱ		BⓈ少	48%
1666	118	〃 〃	〃	〃	〃	㉛	〃		BⓈⓂ微、CⓂ微、DⓈ微	75%
1667	120	〃	〃	〃	〃	㉔	〃		BⓈ微	29%
1668	135	〃 PL.100	〃	〃	椀D	㉔ ㊿㉔	Ⅵ		BⓈ多、EⓈⓂ少、K少	63%
1669	137	〃	SD425第1セク	〃	〃	㉔㊷	Ⅰ			67%
1670	138	〃	SD425第2セク黒灰色土	〃	〃	㊷㊺	Ⅳ		BⓈ少	31%
1671・1672		〃 PL.100	SD425	〃	椀A	㉔㊷	Ⅰ			—
1673・1674		〃 〃	〃	〃	椀C	㊷㉔	Ⅱ		DⓈⓁ微	—
1675	134	〃	〃	〃	〃	㉔	Ⅴ		BEⓈ微	17%
1676	124	〃 PL.100	〃	〃	〃	㉚	Ⅱ		CⓂ微	100%
1677	125	〃 〃	〃	〃	〃	㉔㊻㊷㉔	Ⅵ		AⓈ多、BⓂ少、EⓈ少、K微	50%
1678	129	〃	〃	〃	〃	㊸	Ⅱ		CⓂ微	17%
1679	128	〃	〃	〃	〃	㉕	〃		BⓈ微、DⓈ少	57%
1680～1682		〃 PL.100	〃	〃	小皿	㉔㉕ ㊺	〃		DⓈ極微 1681・1982の胎土は極めて緻密（Ⅰ）	—
1683	38	〃	〃	土師器	皿D	㉝㉝ ㊽	〃		EⓂ多	13%
1684	15	〃 PL.100	〃	〃	〃	⑦㉓	〃		DⓈⓈ少、EⓈⓈ中	36%
1685	40	〃	〃	〃	〃	㉝㉝	〃		EⓂ少	19%
1686	37	〃	〃	〃	〃	㉝	〃		EⓈⓂ中	25%
1687	39	〃	〃	〃	〃	㉝㉝	Ⅶ		BⓈ以下多、DⓈ以下多・ⓈⓂ中、EⓈ微	36%
1688～1691		〃 PL.101	〃	〃	皿A1	㉝⑦㉓	Ⅱ		BⓈ微、DⓈ微、EⓈ～Ⓛ少	—
1692・1693		第195図PL.101	〃	〃	皿A2	㉝㉝㉝	〃		DⓈ少、EⓈ～Ⓛ少	—
1694	14	〃	SD425第1セク黒灰色土	〃	〃	㉝	〃		BⓈⓂ極微、EⓈⓂ少	59%
1695・1696		〃	SD425	〃	皿B1	⑮㉝㉔	〃		AⓂⓁ微、DⓈⓈ少、EⓈ～Ⓜ中、KⓈ少	—
1697	17	〃	〃	〃	〃	㉑	Ⅲ		AⓈ～Ⓛ中、BⓈ少、CⓁ微、EⓈⓂ多	42%
1698	23	〃	〃	〃	〃	⑦⑫	Ⅵ		AⓈ～Ⓘ中、BⓈ中、CⓂ～Ⓘ少、EⓂ少	63%
1699	15	〃 PL.101	〃	〃	〃	⑦	〃		ACEⓈ～Ⓘ中	38%
1700	18	〃 PL.102	〃	〃	〃	⑦ ㉝㉝	Ⅱ		EⓈ～Ⓛ多	42%
1701	25	〃 PL.101	〃	〃	〃	⑧	Ⅵ		AⓈ～Ⓘ中、CⓂ微、EⓈ～Ⓜ極多	100%
1702	31	〃 PL.102	SD425、SD425第1セク	〃	〃	⑭ ㉝⑦	Ⅳ	SS＞S	BDⓈⓈ少、CⓂ極微、EⓈ～Ⓜ多、K多	67%
1703	33	〃	SD425第1セク黒灰色土	〃	〃	㉝⑭	Ⅱ		BⓈⓈ微、EⓈⓂ微	15%
1704	30	〃	SD425	〃	〃	⑭⑮	〃		BⓈ微、DⓈ少、EⓂ極微、K少	17%
1705	26	〃	〃	〃	〃	㉙	Ⅲ		BⓈ以下多・Ⓢ微、EⓈ～Ⓛ少	36%
1706	21	〃	〃	〃	〃	⑭	Ⅵ		BⓈ少、DⓈ微、EⓂ多、K多	30%
1707・1708		〃	〃	〃	小皿D1	㉝⑦⑭	Ⅱ		EⓂ微	—
1709～1711		〃 PL.102	〃	〃	小皿D2	㉝㉝④	〃		EⓈ～Ⓜ多	—
1712・1713		〃 〃	〃	〃	〃	⑫㉚	Ⅵ		BⓈ少、CⓈ以下多、DⓈ以下多・Ⓢ少、EⓈⓈ少、IⓈ微	—
1714・1715		〃 〃	〃	〃	〃	㉝㉝⑦	Ⅱ		EⓈ～Ⓜ中	—
1716	98	〃 〃	〃	〃	〃	㉙	Ⅵ		AⓂ微、DⓈ以下多・Ⓢ中、K中	58%
1717	112	〃 〃	SD425第2セク黒灰色土	〃	小皿D3	⑤	Ⅱ		EⓈ～Ⓛ微、K微	100%
1718～1721		〃 〃	SD425	〃	〃	㉙⑯㉝㉝	〃		DⓈ微、EⓂⓁ少	—
1722・1726		〃	SD425第2セク	〃	〃	⑮㉝㉝	〃		BDⓈ微、EⓈ微	—
1723～1725		〃 PL.102	SD425	〃	〃	㉝⑦㉝㉝	〃		CⓈ以下微、EⓈⓂ中、IⓈ少、1725の色調淡黄色㊴	—
1727	48	〃 〃	SD425第1セク黒灰色土	〃	小皿A1	㊽ ㊽㊽	〃		EⓈⓂ少	69%
1728	46	〃 〃	SD425	〃	〃	㊽ ㊽㊽	Ⅵ		DⓈ少、EⓈⓂ中	79%
1729	47	〃 〃	SD425第1セク灰色土	〃	〃	㊼ ⑭	Ⅱ		DⓈ極微、EⓈ～Ⓜ少、K微	100%
1730	45	〃	SD425	〃	〃	③	〃		BⓈⓁ微、DⓈ中、EⓈ多、K多	67%
1731	42	〃	〃	〃	〃	⑦ ⑧	Ⅵ		AⓂⓁ少、BⓈ多・Ⓜ少、CⓈ多、K多	87%
1732	43	〃	〃	〃	〃	⑥ ⑫	Ⅲ		BⓈ以下少、K多	15%
1733・1734		〃 PL.102	〃	〃	小皿A2	㊽㊽	Ⅵ		AⓂ少、BⓈ～Ⓜ微、CⓈ少、DⓈ～Ⓜ少、EⓈ～Ⓘ中	—
1735・1737・1738		〃	〃	〃	小皿B1	㉝㉝①⑦	Ⅱ		AⓁ微、DⓈ少、EⓈ中	—
1736	84	〃	〃	〃	〃	㉝㉝	Ⅵ		DⓈ以下・Ⓢ多、EⓂⓁ少、K多	69%
1739	71	〃 PL.102	〃	〃	〃	⑮⑩ ⑭	Ⅱ		BDEⓈ少、K多	75%
1740	81	〃 〃	〃	〃	〃	㊸ ㊽㊽	Ⅲ		EⓈⓁ中	67%
1741	55	〃 〃	〃	〃	〃	⑩⑦⑦㊽	Ⅵ		CⓂ少、EⓈⓈ多	42%
1742	85	〃	SD425第2セク黒灰色土	〃	〃	㊽㊼	Ⅱ		CⓈ微、EⓈⓈ多、K少	44%
1743～1745		〃 PL.102	SD425	〃	〃	㊽⑦㊽⑩	Ⅵ		AⓂⓁ少、BⓈ多、CⓈ多・Ⓛ極微、EⓈ～Ⓜ多	—
1746	53	〃 〃	〃	〃	〃	⑦ ㊽	Ⅲ		AⓂ微、EⓈⓂ多	67%
1747～1749		〃 〃	〃	〃	〃	⑦㊽㊽	Ⅱ		BⓈ極微、DⓈⓈ微・Ⓜ極微、EⓈⓂ少、IⓂ少、K極微	—
1750・1751		〃 〃	〃	〃	〃	⑦㊽㊽㊽	Ⅵ		CⓁ微、DⓈ少、EⓈⓂ多、K多	—
1752	159	〃	〃	〃	土釜	⑬ ⑭	〃	SS以下	AⓈ多・ⓁⓁ中、CⓂⓁ少、EⓁⓁ少、K極多	13%
1753	160	〃	〃	〃	〃	⑦⑦ ⑦	Ⅱ	SS	AⓈ～Ⓘ多、CⓂ～Ⓘ少、DEⓂ微、K多	25%
1754	156	〃	SD425黒灰色土	〃	甕	⑭	Ⅷ	M	ADⓈ～Ⓛ中、CⓂ少、EⓈ～Ⓘ少、K中	4%
1755	154	〃	SD425	〃	〃	⑮⑫	Ⅵ	SS＞S	AⓈ多、BⓂ少、CⓂ微、EⓈ中、K多	29%
1756	153	〃	〃	〃	〃	㉘ ㉑	〃	S＞SS	AⓂ極微、BⓈⓂ少、CⓈⓂ極微、DEⓂⓁ少	17%
1757	157	〃	〃	〃	〃	⑦	〃	M	AⓂ～Ⓘ中、BEⓈⓂ少、CⓈⓂ中、DⓈⓂ微、K少	17%
1758	181	〃	〃	白磁	碗	㊾ ㊻	Ⅳ			4%
1759	1	第196図PL.103	SD271	土師器	土釜	⑦	Ⅵ	M・L	AⓂ～Ⓘ多、BⓈ～Ⓘ中、CⓂⓁ微、DEⓈ～Ⓘ少	46%

出土遺物観察一覧 No.31

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1760	1	第196図PL.103	SD277	土師器	ⅢA	①㉘⑮	Ⅱ	S	D(S)～(L)多・(LL)微、E(S)少	38%
1761	5	〃	SD426	〃	ⅢD	⑦	Ⅴ		E(SS)微、K中	8%
1762	3	〃 PL.103	〃	〃	小皿D3	㉘	Ⅱ		C(S)～(LL)微、DE(S)(M)微、K微	100%
1763	2	〃 〃	〃	〃	小皿A	㉘	〃		D(S)微、E(S)～(L)少	65%
1764	4	〃	〃	白磁	碗	㉜ ㊻	〃			—
1765	1	〃	〃	土師器	土釜A	⑦㉘㉘	Ⅷ		A(S)～(L)多、B(S)(M)中、C(S)～(LL)多、D(S)(M)多、E(M)微	17%
1766	1	〃	SD427	〃	小皿D1	㉘	Ⅱ		B(S)極微、E(S)(M)微	65%
1767	4	〃	SD428	〃	小皿D	⑮ ⑦	〃		D(S)微、E(S)極微	25%
1768・1769		〃 PL.103	〃	〃	小皿D1	⑮㉘	〃		D(S)(M)微、E(S)(S)(L)中、K微	—
1770	1	〃	〃	〃	小皿D3	⑭	〃		K少	25%
1771	5	〃	〃	白磁	碗	㉞ ㊻	〃			8%
1772	6	〃	〃	〃	〃	㉝	〃			4%
1773	B 8	〃	SD429下層	土師器	椀b	⑦㉑ ⑦	〃		E(S)(M)微	4%
1774	B 1	〃	〃 〃	〃	〃	㉙ ⑦	Ⅵ	SS	A(M)極微、C(S)微、D(S)微、E(S)(M)微、K微	25%
1775	B 7	〃	〃 〃	〃	皿	㉙	Ⅱ		A(S)(M)微、K微	8%
1776	B 6	〃	〃 〃	〃	ⅢD	㉙㊷ ㉘	〃		E(S)～(L)中	8%
1777	B 5	〃	〃 〃	〃	〃	⑮ ⑦⑮	〃		E(S)(M)微	4%
1778	B 4	〃	〃 〃	〃	小皿D2	⑲ ⑦	〃		E(S)(M)微	25%
1779	1	〃	SD429 SD455の下	〃	小皿D3	⑭ ⑦	〃		E(S)(M)微	21%
1780	B 3	〃	SD429下層	〃	〃	㉙㉑	〃		E(S)～(L)微	19%
1781	2	〃	SD429 SD455の下	〃	甕	⑦㉔	Ⅵ	S	A(S)～(LL)中、B(S)(M)中、C(S)(M)少、E(S)(M)微	8%
1782	3	〃	SD429	〃	〃	⑦	〃	S＞M	A(S)～(LL)多、B(S)(M)微、CE(S)～(L)少	8%
1783	B 2	〃	SD429下層	須恵質	椀	㉔	Ⅱ		BD(S)(S)微	8%
1784	1	〃	SD435	土師器	小皿D3	㉘	Ⅵ	S	B(M)極微、E(S)～(L)多	50%
1785	2	〃	〃	〃	小皿B1	㉘⑦	Ⅴ		B(S)(S)少、E(S)～(M)中	65%
1786	11	〃	SD440	瓦器	椀C	㊷	Ⅱ		B(S)微、D(S)(S)少、K中	8%
1787	13	〃	〃	〃	〃	㉔	〃		E(S)(M)微、K微	13%
1788	12	〃	〃	〃	椀(底部)	㉔	Ⅰ			33%
1789	9	〃	〃	〃	椀(〃)	㉖㉖㉜㊷	Ⅱ		E(S)少	100%
1790	8	〃 PL.103	〃	土師器	ⅢA1	⑦㉘	〃	S	D(S)微、E(S)(M)少	53%
1791	5	〃	〃	〃	ⅢC	㉘	Ⅶ		B(S)(M)微、D(S)(M)少・(LL)微、E(S)(M)中、F(LL)微	33%
1792	6	〃 PL.103	〃	〃	〃	㉘	Ⅵ	S	B(S)(S)少、D(S)微、E(S)(M)多、F(LL)極微	53%
1793	7	〃	〃	〃	〃	㉘	Ⅱ		B(S)(S)中、E(S)(M)多	13%
1794	2	〃	〃	〃	小皿A1	⑪	Ⅶ		D(S)～(M)少、E(S)(LL)微、K少	90%
1795	4	〃	〃	〃	〃	㉘	Ⅱ		D(S)(M)微、E(S)(S)微、K微	23%
1796	3	〃 PL.103	〃	〃	〃	㉙	Ⅵ	SS	B(M)極微、D(S)～(M)多、E(S)～(L)少	94%
1797	1	〃 〃	〃	〃	小皿B1	①	Ⅱ		E(S)～(L)極多、K微	71%
1798	3	〃 〃	SD441	瓦器	椀D	㉔	〃		K中	75%
1799	8	〃	〃	土師器	ⅢD3	㉘	〃		CD(S)微、E(S)(S)中	17%
1800	1	〃 PL.103	〃	〃	小皿D3	⑦	〃		D(S)中、E(S)(S)微	46%
1801	7	〃	〃	〃	〃	㉘ ⑯	〃		E(S)～(L)中	25%
1802	2	〃 PL.103	〃	〃	小皿B2	㉘	〃	S	B(S)微、D(S)少、E(S)(M)多	44%
1803	4	〃	〃	須恵器	椀(底部)	㊺	〃		B(S)微、D(S)(S)微	17%
1804	6	〃	〃	〃	〃(〃)	㉕	〃	SS	D(S)～(M)少	58%
1805	5	〃	〃	〃	〃(〃)	㊺	〃	SS	B(S)少、D(S)(S)少	17%
1806	6	第197図	SD443	瓦器	椀C	㊷	Ⅰ			57%
1807	4	〃	〃	土師器	ⅢA1	㉘ ㉘	Ⅱ		D(S)微、E(S)(M)中	8%
1808	3	〃	〃	〃	ⅢC	㉘	〃	S	B(S)(S)中、D(S)(M)少、E(S)～(M)多、K中	25%
1809	1	〃	〃	〃	小皿A1	⑦㉘	〃		E(S)(M)微	53%
1810・1811		〃	SD445	瓦器	椀C	㉔㉖㊺	〃		B(S)少、D(S)極微、K中、1811はチャート(D)(S)微	—
1812	13	〃	〃	〃	〃	㉔	Ⅰ			19%
1813	8	〃	SD445最上層	〃	小皿	㉔㊷	Ⅱ		E(S)微	50%
1814	9	〃	SD445	〃	〃	㉔	〃		B(S)少、C(LL)極微、D(S)(L)中、E(S)(S)微	100%
1815	15	〃	〃	土師器	ⅢC	㊼	〃		DE(S)微、K少	23%
1816	14	〃	〃	〃	〃	㉙ ㉙㉘	Ⅲ		B(S)微、D(S)(S)微、E(S)(M)少	15%
1817	6	〃	〃	〃	〃	⑦㉘	Ⅱ		A(L)微、B(S)微、E(S)(M)少・(LL)微	11%
1818	7	〃 PL.103	〃	〃	椀	㉘	〃		B(S)微、DE(S)少	40%
1819	5	〃	SD445最上層	〃	小皿A1	㉘ ⑦	Ⅲ		C(S)極微、D(M)極微、E(S)(M)少、K微	100%
1820	2	〃	SD445	〃	〃	㉘ ⑦	Ⅱ		B(S)中、D(S)微、E(S)(M)少、K多	28%
1821	3	〃	〃	〃	〃	㉘	〃		A(M)極微、DE(S)(M)少、K微	80%
1822	1	〃	〃	〃	小皿B1	⑦	Ⅵ		AE(S)微、C(S)(M)少・(LL)微、K多	67%
1823	1	〃	SD446	青磁	碗	㊾ ㊺	Ⅱ			17%
1824~1826		〃	SD447西溝	瓦器	椀C	㉜㊷	〃		E(LL)微 1825・1826は胎土極めて緻密(Ⅰ)	—
1827・1829		〃	〃 〃	〃	小皿	㉔㉖㉔㊷	Ⅰ			—
1828	3	〃	〃 〃	〃	〃	㊻	Ⅵ	S	A(S)微、B(S)(S)中、C(S)極微、D(S)(M)多、E(S)(M)中、K微	57%
1830・1831		〃	〃 〃	土師器	小皿A1	㉙⑦㉘	Ⅱ		D(S)微・(M)極微、E(S)(S)少、K微	—
1832	11	〃	〃 〃	青磁	碗(底部)	㊾ ㊺	〃			40%
1833	10	〃	〃 〃	土師器	土釜A	⑦	〃	S	A(M)少、B(S)微、C(S)(M)中、D(S)～(L)多、K多	8%
1834	D 2	〃	SD450上層	瓦器	椀C	㊷	〃		B(S)微	59%
1835	C 5	〃 PL.103	SD450中層	〃	〃	㉛	〃		D(S)微	65%

出土遺物観察一覧 No.32

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部形）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1836	2ソ1	第197図PL.103	SD450第2層	瓦器	椀C	㉔			Ⅱ		DⓂ微	65%
1837	D 3	〃 〃	SD450上層	〃	〃	㊷			Ⅰ			61%
1838・1839		〃 〃	SD450中層	土師器	皿A1	⑦㊳			Ⅱ		BⓈ少、EⓈ～Ⓜ少、FⓁ微、K微	—
1840	2ソ3	〃 〃	SD450第2層	〃	皿C	㉞			〃		DⓈ少、EⓈ微	100%
1841	C 3	〃	SD450中層、第2層	〃	皿B1	㊳			〃		AⓈ～Ⓛ微、K微	50%
1842	B 3	〃	SD450中・下層	〃	皿B1	㊳			〃		ADⓈⓂ少、CⓂⓁ少、EⓈ～Ⓛ中、K中	42%
1843	D 7	〃	SD450上層	〃	皿薄丸大	⑦			〃		AEⓈ少、CⓈ微	30%
1844	B 2	〃	SD450下層	〃	小皿E	⑲			〃		AⓈ微、BⓈ少、EⓈⓂ中、K少	48%
1845	C 1	〃	SD450中層、第2層	〃	小皿A1	⑮			〃		EⓈ～Ⓜ微	94%
1846	C 7	〃	SD450中層	〃	小皿F	⑦			〃		CⓁ微、DⓈ微、K多	23%
1847	C 6	〃 PL.103	〃 〃	〃	土釜A	⑦⑩			〃	SS＞S	AⓈ～Ⓛ中、BⓈⓂ少、DⓈⓂ多	54%
1848	D 5	〃	SD450上層	〃	〃	⑦			Ⅷ	S＞M	AⓈⓂ中、BⓈⓈ少、CⓈ～Ⓜ中、KⓈⓈ中、K中	38%
1849	C 9	〃	SD450中層	〃	〃	⑫ ⑩			Ⅳ	S＞M	AⓈ～Ⓜ中、CⓈ～Ⓜ少、DⓈⓂ中、K少	21%
1850	D 6	〃	SD450上層	〃	〃	⑲⑩ ⑩			Ⅵ	S	AⓈ中、CⓈⓂ少、DⓈ～Ⓛ中、K中	17%
1851	D 4	〃	〃 〃	〃	〃	⑦⑩㊸			Ⅷ	S＞M	AⓈⓂ中、BⓈⓈ微、CDⓈ～Ⓜ中、K少	13%
1852	64	第198図PL.104	SD452	瓦器	椀B	㉔			Ⅰ			73%
1853	57	〃	SD452 W32N 8	〃	〃	㉔			〃			46%
1854	54	〃 PL.104	SD452	〃	椀D	㊷			〃			52%
1855	42	〃	〃	〃	〃	㊷⑫			Ⅱ		DⓈⓈ少	21%
1856	62	〃	〃	〃	〃	⑩⑫㊸			〃		BⓈ極微、DⓈⓈ微	17%
1857~1879		〃 PL.104	〃	〃	椀C	㉔㊷			Ⅰ		1859・1860・1864・1866・1868・1869・1872・1873	—
						⑦㊸㉟㊸			Ⅱ		1875・1876・1879の胎土緻密（Ⅱ）	—
											BⓈ極微、DⓈ～Ⓜ微、EⓈⓂ微、K微	—
1880	11	〃 PL.104	SD452	〃	小皿	㊺			Ⅵ		DⓈⓈ少・Ⓜ極微	42%
1881	3	〃 〃	SD452 W40N 8	〃	〃	㊷㊸ ㊷			Ⅰ			46%
1882	4	〃 〃	〃 〃	〃	小皿	㊷ ㉕			〃			100%
1883	36	〃	SD452	土師器	皿D	⑮ ⑪			Ⅱ		DEⓈ微	17%
1884	34	〃	〃	〃	皿A1	⑭ ⑦			〃		EⓈⓈ微	11%
1885・1886		〃 PL.104	〃	〃	〃	㊳⑦			〃		BⓈ少、EⓈⓂ少	—
1887~1889		〃 〃	〃	〃	皿C	⑦㊳			〃		ADⓈⓂ微、BⓈⓈ少、EⓈ～Ⓛ多	—
1890	29	〃	〃	〃	〃	㊳			Ⅲ		CⓈ少、EⓈⓈ微、JⓈⓈ少、K多	17%
1891	33	〃 PL.104	〃	〃	〃	㊳			Ⅱ	M	CⓂ極微、EⓈ～Ⓜ多	75%
1892	2	〃 〃	SD452 W36N 8	〃	〃	㊳			〃		BⓈ以下多、EⓈⓂ多、K多	96%
1893	68	第199図	SD452 W32N 8	〃	〃	㊹㊳			Ⅴ		ABⓈ少、EⓈⓂ中	17%
1894	69	〃	SD452	〃	〃	㊳			Ⅴ		BⓈⓈ中、DⓈⓂ微、EⓈ～Ⓜ中	42%
1895	70	〃	SD452 W40N 8	〃	〃	㊳			Ⅲ		ABⓈ少、EⓈⓈ微	19%
1896	24	〃 PL.105	SD452	〃	小皿D3	㉞			Ⅵ		AⓈ極微、DⓈ微、EⓈⓂ中	46%
1897	75	〃	SD452 W40N 8	〃	小皿A1	㉞			Ⅱ		EⓈ～Ⓜ少	42%
1898~1905		〃 PL.105	SD452	〃	〃	㊳㊳㊳⑦			〃		BⓈ微、DⓈ～Ⓜ微、EⓈ～Ⓛ少、K極微	—
1906	16	〃 〃	〃	〃	〃	⑦㊳			Ⅵ		BⓈ少、DⓈ微、EⓈⓂ中	100%
1907・1910		〃 〃	〃	〃	〃	⑦			Ⅱ		BⓈⓈ微、DⓈⓂ微、EⓈ～Ⓜ少	—
1908	18	〃 〃	〃	〃	〃	㊳			Ⅵ	SS＞S	AⓂⓁ微、DⓈⓈ中、EⓈ少	75%
1909	1	〃 〃	SD452 W36N 8	〃	〃	㊳㊳			〃		BⓂ微、EⓈ～Ⓛ中	81%
1911	19	〃 〃	SD452	〃	〃	⑦			〃	S	BⓈ～Ⓜ少、DⓈⓈ少、EⓈⓂ中、FⓁ微	96%
1912	13	〃	〃	〃	小皿A2	㊳			Ⅱ		BⓈ極微、DⓈ微、EⓈⓈ少、K極微	33%
1913~1915		〃	〃	〃	小皿C	㊳⑦㊳㉔			〃		BⓈⓈ少、CⓈ少、EⓈ～Ⓜ少、FⓁ微、K微	—
1916	65	〃	SD452 W32N 8	〃	〃	⑦㉔ ㉞			Ⅵ	S	CⓈⓈ少、EⓈⓂ多	32%
1917	66	〃	SD452	〃	小皿F	㊳			Ⅲ		BⓈ微、EⓈ～Ⓜ少、K少	29%
1918	74	〃	SD452 W36N 8	〃	〃	㊳			Ⅱ		EⓈ少	21%
1919	8	〃	SD452	須恵質	捏鉢	㉔ ㊻			Ⅵ		BCⓈ～Ⓛ少、ⅠⓈⓂ多	13%
1920	9	〃	SD452 W40N 8	〃	甕	㉔ ㊷ ㉕			Ⅱ		ACⓂ極微	8%
1921	76	〃	SD452	青磁	皿	㊼ ㊺			〃			13%
1922	77	〃	SD452 W32N 8	〃	皿龍泉窯	㊾ ㊺			Ⅳ			4%
1923	21	〃	SD453	瓦器	椀B	㉔			Ⅱ		BDⓈ極微、EⓈ極微	33%
1924~1936		〃 PL.105	〃	〃	椀C	㉔㊷㉕㊺			〃		AⓂ微、BⓈ少、DⓈⓈ微、EⓈ～Ⓜ多、K中	—
						㊻					1929・1931・1932・1933・1936は胎土の極緻密Ⅰ	—
1937	15	〃 PL.105	〃		小皿	㉔			Ⅰ			33%
1938	14	〃 〃	〃	〃	小皿	㉔			Ⅱ		DⓈ少	59%
1939~1941		〃	〃	土師器	皿A1	㊳㊳⑦			〃		BⓈ微、EⓈ～Ⓜ中、FⓁ微	—
1942	12	〃 PL.105	〃	〃	皿A2	㊳ ㊳			〃		DⓈ微、EⓈⓂ中	32%
1943	10	〃	〃	〃	皿C	㊳			Ⅵ		AⓂ微、BⓈ～Ⓜ中、DⓈ微、EⓈⓂ中	36%
1944	9	〃	〃	〃	〃	⑦			Ⅱ	S	EⓈ～Ⓜ中	29%
1945・1946		〃 PL.105	〃	〃	小皿A1	⑦⑧⑦㊳			〃		DⓈⓂ微、EⓈⓂ少	—
1947	11	〃 〃	〃	〃	皿A1	㊳ ㊳			〃		DⓈ微、EⓈⓂ中、K少	71%
1948	6	〃	〃	〃	小皿A1	⑦㊳			Ⅵ		DEⓈ微、FⓈ中	54%
1949	2	〃	〃	〃	小皿C	㊳ ㊳⑦			〃		BDⓈ微、EⓈⓂ少、K極微	52%
1950	5	〃	〃	〃	小皿B1	⑭			Ⅱ		AⓂ微、DⓈⓈ微、K多	23%
1951	30	〃	〃	〃	土釜A	⑭㊳⑫㊳			Ⅷ	S	ABⓈⓂ中、CDⓈⓂ多、EⓈⓂ少、K多	13%
1952	32	〃	〃	白磁	碗	㊾ ㊺			Ⅱ			4%
1953	1	第200図	SD469	瓦器	椀D	㊷			〃		DⓈ微	25%

出土遺物観察一覧 No.33

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1954	A 1	第200図	SD469最下層	瓦器	椀C	㊷			Ⅱ		E㋎少、K中	28%
1955	D 3	〃	SD469上層	〃	〃	㊷			Ⅰ			8%
1956	C 1	〃 PL.105	SD469中層	〃	〃	㉒㉔㉜㉔			Ⅶ		B㋎中、D㋎少、E㋎微	36%
1957	D 4	〃	SD469上層	〃	〃	㉔			Ⅵ		C㋎微	13%
1958	D 2	〃	〃 〃	〃	〃	㊷			Ⅰ			8%
1959	D 5	〃	〃 〃	〃	椀(底部)	㊷			Ⅱ		K多	38%
1960	7	〃	SD469	土師器	皿	㉞			〃	SS以下	C㋎極微、E㋎Ⓜ微、K少	17%
1961	B 1	〃 PL.105	SD469下層	〃	小皿A2	㉟			〃		E㋎㋎微	79%
1962・1963		〃	〃 〃	〃	皿大平	㉞			〃		A㊊微、D㋎～Ⓜ少、E㋎Ⓜ微	—
1964	B 2	〃	〃 〃	〃	小皿小平	㉞ ㉞㉞			〃		E㋎～㊊少	16%
1965	D 1	〃	SD469上層	〃	〃	㉞			〃		EⓂ微	27%
1966	A 5	〃	SD469最下層	〃	〃	㉞			〃		D㋎微、E㋎Ⓜ微	25%
1967	B 6	〃	SD469下層	〃	〃	㉞			〃		E㋎Ⓜ微	23%
1968	B 7	〃	〃 〃	〃	〃	㉞			〃		E㋎～Ⓜ多、K極微	17%
1969	D10	〃	SD469上層	〃	土釜A	⑧ ⑫			Ⅵ	SS＞S	A㋎少、C㋎㋎多、D㋎㋎中、E㋎微	8%
1970	D 8	〃	〃 〃	〃	〃	⑮ ㊷			Ⅳ	SS	A㋎少、CD㋎微、E㋎Ⓜ少、K多	13%
1971	D 7	〃	〃 〃	〃	〃	⑭⑫			Ⅱ	S	A㋎少、CD㋎微、E㋎～Ⓜ少、K中	13%
1972	D 9	〃	SD469上層セク、上層	〃	〃	⑭			〃	S	AE㋎Ⓜ多、C㋎少	29%
1973	B 3	〃	SD469下層	〃	〃	⑦⑩			Ⅳ	S	A㋎～㊊多、B㋎Ⓜ中、C㋎Ⓜ少、D㋎少、E㋎微	13%
1974	D 6	〃	SD469上層	〃	〃	⑮			Ⅱ	S＞M	A㋎Ⓜ少、BD㋎～Ⓜ微、C㋎Ⓜ微、K中	25%
1975	A 2	〃	SD469最下層	瓦質	土釜C	⑪㉔			Ⅶ	SS以下多	B㋎多、C㋎～㊊中	4%
1976	A 3	〃	SD469最下層(粘土)	〃	〃	⑪ ㉝			〃	SS以下多	B㋎多、C㋎～㊊中	17%
1977	D13	〃	SD469上層	〃	〃	㉛			Ⅵ	SS	B㋎㋎少、C㋎～Ⓜ中、D㋎微	12%
1978	D21	〃	〃 〃	土師器	捏鉢	㉝⑦			Ⅴ		A㋎Ⓜ中、B㋎～Ⓜ中、CD㋎Ⓜ少、E㋎Ⓜ微、K中	21%
1979	D16	〃	〃 〃	瓦質	甕	⑫⑩ ⑪			Ⅱ		A㋎微、B㋎㋎中、K少	13%
1980	D15	〃	〃 〃	瓦器	〃	㉔⑩㉔㉕			Ⅵ	SS	BD㋎㋎少、C㋎～Ⓜ少、K微	8%
1981	B 5	〃	SD469下層	須恵質	捏鉢	㉔			Ⅱ	S	BD㋎Ⓜ中	1%
1982	D19	〃	SD469上層	〃	〃	㉔			〃		BD㋎少、C㊊微、D㊊微	8%
1983	D18	〃	〃 〃	〃	〃	㉔			Ⅵ		BD㋎微、K微	2%
1984	A 4	〃	SD469最下層	備前	擂り鉢	㉜㉔㊷㊷			〃	S＞M	B㋎Ⓜ少、C㋎少、D㋎少・㊊微	4%
1985	D22	〃	SD469上層	青磁	碗	㊹ ㊺			Ⅱ			8%
1986	B10	〃	SD469下層	〃	碗(底部)	㊼ ㊺			〃			33%
1987	D23	〃	SD469上層	〃	碗(口縁部)	㊾ ㊺			〃			—
1988	8	〃	SD469	白磁	皿(輪高台)	㊸ ㉞			〃			100%
1989	C 1	第201図	SD470中層	土師器	小皿B1	⑫㉔			〃		E㋎中、K少	19%
1990	D 2	〃	SD470上層	〃	〃	⑮ ㊲			〃		AⓂ微、D㋎微、E㋎Ⓜ多、K少	25%
1991	D 1	〃	〃 〃	〃	〃	㉔			〃		AD㋎～Ⓜ微	17%
1992	C 2	〃	SD470中層	〃	皿薄丸大	㉙			〃		EⓂ㊊微、K極微	23%
1993	D 4	〃	SD470上層	〃	小皿小丸	㉝㉝			〃		E㋎㋎微	13%
1994	D 3	〃	〃 〃	〃	皿大平	㉝			〃		B㋎微、D㋎少、E㋎微、K少	17%
1995	A 1	〃	SD470最下層	〃	小皿NGタイプ?	㉟			Ⅳ	M	AⓂ少、CⓂ微、E㋎Ⓜ少、K中	23%
1996	B 1	〃	SD470下層	〃	土釜A	㊲ ㊷			Ⅷ	S	A㋎Ⓜ多、B㋎少、C㋎Ⓜ中、D㋎微、K多	8%
1997	B 3	〃	〃 〃	〃	〃	㉙ ㉔			Ⅳ	S以下	A㋎㋎中、C㋎㋎少、E㋎少、K中	4%
1998	C 3	〃	SD470中層	瓦質	土釜C	㉕			Ⅱ	SS以下多	B㋎㋎中、C㋎～Ⓜ少、D㋎㋎微	10%
1999	B 2	〃	SD470下層	備前	擂り鉢	㊼ ㊷			〃	M	C㋎Ⓜ微、DⓂ～㊊中、EⓂ㊊中	8%
2000	2	〃	SD470	青磁	碗	㊾ ㊺			Ⅳ			4%
2001	1	〃 PL.105	SD594 ⅡB2区	瓦器	椀C	㊸			Ⅱ		AD㋎㋎微、K微	34%
2002	2	〃 〃	SD594、SD542 〃	〃	〃	㊷			Ⅰ			90%
2003・2004		〃	SD596 ⅡB3区	土師器	小皿小平	㉞			Ⅱ		AD㋎微、B㋎～㊊微、E㋎～Ⓜ微	—
2005	4	〃	〃 〃	〃	〃	㉙			Ⅲ		BD㋎微、E㋎～㊊少	15%
2006	5	〃	〃 〃	〃	〃	⑭			Ⅴ		ABD㋎微	27%
2007	7	〃	〃 〃	〃	〃	㉙			Ⅶ		AD㋎微、B㋎少、K	50%
2008	10	〃	〃 〃	〃	小皿NGタイプ	②			Ⅱ		BD㋎微、E㋎㋎微、K少	15%
2009	9	〃	〃 〃	〃	〃	㉘			Ⅴ		B㋎Ⓜ微、DⓂ微、E㋎～Ⓜ微	15%
2010	11	〃	〃 〃	〃	土釜B	⑮			Ⅱ	SS以下	BC㋎微、D㋎少、E㋎～Ⓜ少、K？	8%
2011	12	〃	〃 〃	〃	土釜C	⑮ ⑪			〃	SS以下多	B㋎～Ⓜ多・㊊微、C㋎～Ⓜ多、D㋎～㊊少、E㋎微	4%
2012	13	〃	〃 〃	青磁	碗(底部)	㊾ ㊺			Ⅳ			100%
2013	1	〃	SD580 ⅡB1区	〃	〃(〃)	㊾ ㊹			Ⅱ		B㋎少	50%
2014	包 7	〃	A層E36N 8	黒色土器A	椀b	㉘ ㉘			〃		A㋎～㊊微、E㋎～Ⓜ中	48%
2015	包 6	〃	A層E16N 4	黒色土器	皿(高台付)	⑬⑩ ⑮			Ⅲ		A㋎㋎多、E㋎～Ⓜ微	14%
2016	包 4	〃 PL.106	A層E36N18	土師器	椀b	⑦㉘ ⑦			Ⅱ		A㊊微、D㋎㋎微、E㋎Ⓜ微、K中	61%
2017	包 5	〃 〃	〃	〃	〃	⑧			〃		A㋎㋎微、BⓂ微、D㋎㋎少、E㋎～Ⓜ微	27%
2018	包 2	〃	A層E16N 4	〃	皿a1	⑦㉝ ⑦			〃		A㋎～Ⓜ微、E㋎～Ⓜ少、K中	13%
2019	包 1	〃	A層E36N12	〃	皿a1(皿E)	㉕			〃		AE㋎㋎微、B㋎微	19%
2020	包 3	〃	A層E16N 4、E16N 8	〃	〃 (〃)	㉕			〃		B㋎微、E㋎～Ⓜ少、K微	19%
2021	包13	〃	A層W16N 4	〃	坏	⑤①			Ⅴ		A㋎㋎少・Ⓜ微、B㋎㋎少、D㋎微、E㋎Ⓜ微、K多	100%
2022	包14	〃	A層W24N12	〃	杯c	㉟			Ⅱ		E㋎～Ⓜ中・㊊微	21%
2023	包12	〃	A層E16N 4	〃	坏b	㉟ ㉟㉞			Ⅴ		B㋎㋎微、D㋎～Ⓜ中、E㋎～Ⓜ少、K中	6%
2024	包11	〃	A層W16N16	〃	甕	㉟②㉟㉞			Ⅵ	M＞L	A㋎～㊊多、B㋎㋎微、CⓂ微、D㋎～㊊微、E㋎～Ⓜ少、K少	13%
2025	包10	〃	B層W20N12	〃	〃	②			Ⅳ	S	A㋎～㊊中、B㋎～Ⓜ微、D㋎㊊少、E㋎微、K少	17%

出土遺物観察一覧 No.34

土器番号・登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
2026 包 8	第201図PL.106	B層W24N12、W20N12他	土師器	甕	㊳ ⑦	Ⅷ	M	AⓈ～Ⓛ多、BDⓈⓈ微、EⓈⓈ少、K多	46%
2027 包 9	〃 〃	B層W20N12	〃	〃	⑰ ⑮	Ⅵ	M＞L	AⓈ～Ⓛ多、BⓈ～Ⓛ中、DⓂⓁ少、EⓈⓂ微、K多	21%
2028 包75	第202図PL.106	A層W36N4	瓦器	椀D	㉔㉔	Ⅱ		DⓈⓈ微、EⓈ微	75%
2029 包77	〃 〃	A層W36N4整地作業中	〃	〃	㊷	Ⅰ			79%
2030 包76	〃	A層W24N12	〃	〃	㉔㉔ ㊷ ㉕	〃			34%
2031 包66	〃	A層W44N4整地作業中	〃	椀A	㊷ ㊷㉕㉕	〃			40%
2032 包67	〃	A層	〃	〃	㉔	Ⅱ		ADⓈⓈ少、EⓈ微	60%
2033 包65	〃	A層W36N4	〃	〃	㉔ ㉕	Ⅰ			38%
2034 包74	〃 PL.106	A層W48N8	〃	椀C	㉕ ㊹	Ⅱ		DⓈ極微	40%
2035 包73	〃	A層W24N12	〃	〃	㉔㉔	Ⅰ			48%
2036 包72	〃	A層W36N4	〃	〃	㊷	Ⅱ		EⓈ微	42%
2037 包68	〃	A層W44N12	〃	〃	㉔	〃		DⓈ～Ⓜ少	67%
2038 包71	〃 PL.106	A層W48N4	〃	〃	㊷	Ⅰ			92%
2039 包70	〃	A層W24S4	〃	〃	㊷ ㊺㉔	Ⅲ		ADⓈⓈ少、EⓈⓈ微、K少	48%
2040 包69	〃	A層W24S4	〃	〃	㊺	〃		BⓈ微、DⓈⓈ少	38%
2041 包120	〃	A層W24N4	〃	〃	㉕	Ⅰ			4%
2042 包60	〃	A層W28N12	〃	小皿	㉔㉔	〃			84%
2043・2045	〃	A層W44N12	〃	〃	㉔㉔	〃			—
2044 包61	〃	A層W44N16	〃	〃	⑯㉕	〃			71%
2046 包64	〃	A層W48N4	〃	〃	㉔	Ⅴ		BⓈⓈ少、DⓈⓈ微、K微	54%
2047 包78	〃 PL.106	A層W32N16、W32N12	〃	鉢	㊷	Ⅱ		ABⓈⓂ微、EⓈ～Ⓜ少、K微	40%
2048 包52	〃	A層W24N12	土師器	ⅢD	㊳ ⑭	〃		BⓈ微、DEⓈ～Ⓜ少、K少	13%
2049 包53	〃	A層W20N16	〃	〃	㊳ ㉔	〃		DⓈⓈ少、EⓈ～Ⓜ多	13%
2050 包54	〃	A層W20N4	〃	〃	⑦㊳	Ⅷ	SS以下	BⓈⓈ微、DⓈ微、EⓈ～Ⓜ微	65%
2051 包44	〃	A層W40N8～W44N8の周辺	〃	ⅢA1	⑦	Ⅱ	SS以下	EⓈⓈ微、K少	17%
2052 包43	〃	A層W44N12	〃	〃	㊳ ㊳②	〃		DⓈⓈ微、EⓈ～Ⓜ少	17%
2053 包45	〃 〃	〃 〃	〃	〃	㊳	Ⅴ		BⓈⓈ少、DⓈⓈ微、EⓈ～Ⓜ少	58%
2054 包50	〃	〃 〃	〃	ⅢC	㊳⑰	Ⅷ		AⓈⓈ少、DⓈⓈ微、EⓈ～Ⓜ少、K多	17%
2055 包49	〃	A層W48N12、W44N12	〃	〃	㊳	Ⅱ		BⓈ微、DⓈ～Ⓛ微、EⓈⓈ少、K少	29%
2056 包51	〃 PL.106	A層W44N12、W48N12	〃	〃	㊳㊳	Ⅵ		AⓈ微、DⓈⓈ少、EⓈ～Ⓜ中	29%
2057 包47	〃	A層W36N4	〃	ⅢB1	⑭⑮	Ⅱ		DⓈⓈ微、EⓈ～Ⓜ中	13%
2058 包46	〃 PL.106	B層W16N12、W12S4	〃	〃	⑦	〃		EⓈ～Ⓛ少・Ⓛ微	100%
2059 包48	〃	A層W16N16	〃	ⅢB2	①	Ⅷ		AⓈⓈ多・Ⓜ微、EⓈⓂ少、K中	36%
2060 包57	〃	A層W32N16	〃	小皿D2	㊳	Ⅱ		AⓈ～Ⓜ極微	75%
2061 包59	〃 PL.106	北側排土中	〃	〃	㊳	〃		EⓈⓈ多	100%
2062 包56	〃	A層W24N4	〃	〃	㊳	〃		EⓈ～Ⓜ多	50%
2063 包58	〃 PL.106	西隅北側排土中	〃	小皿D3	⑦ ⑦㊷	〃		EⓈ～Ⓜ少、K中	50%
2064・2065	〃	A層W44N12	〃	小皿A1	⑦⑯㊸	〃		AⓈ極微、BDⓈ微、EⓈⓈ微、K多	—
2066・2067	〃 PL.106	A層W24N8	〃	〃	㉔㊸	〃		DⓈⓈ極微、EⓈⓈ中	—
2068 包19	〃	A層W40N8	〃	〃	⑦	Ⅰ			75%
2069 包21	〃	A層W44N12、W44N8	〃	〃	㉔	Ⅱ		EⓈⓈ微	71%
2070~2072	〃	A層W44N12	〃	〃	⑤㊸㊸⑦	〃		AⓈⓈ少、BⓈ微、DⓈⓈ微、EⓈ～Ⓛ少	—
2073 包16	〃 PL.106	A層W40N12	〃	〃	⑦㊸	Ⅶ		AEⓈ～Ⓛ微	100%
2074 包24	〃	A層W48N4	〃	〃	㊸	Ⅵ		AⓈⓈ中、DⓈⓈ少、EⓈ～Ⓜ少、K微	75%
2075 包20	〃	A層W44N16	〃	〃	㉔㊸	Ⅶ		BDⓈⓈ微、EⓈ～Ⓜ少	81%
2076 包25	〃	A層W44N12	〃	〃	㊸	Ⅲ		DEⓈⓈ少	79%
2077 包22	〃	A層W48N8	〃	〃	㊸	〃		AⓈ少、DⓈ～Ⓛ微、EⓈ～Ⓜ微	75%
2078 包34	〃	A層W4N12	〃	小皿B1	⑭ ①	Ⅶ		AⓈ～Ⓜ多、CⓂ～Ⓓ極微	80%
2079 包35	〃	A層W16N16	〃	〃	①	〃		AⓈⓈ微、DⓈ微、EⓈⓂ少、K多	90%
2080 包38	〃 PL.106	〃 〃	〃	〃	①	Ⅸ		AⓈ～Ⓛ少、BⓈ～Ⓜ微、EⓈ～Ⓜ少、K微	100%
2081 包30	〃	北側排土中	〃	〃	㊺⑦	Ⅴ		AⓂ微、EⓈ～Ⓜ多、K中	90%
2082 包37	〃	A層W16N16	〃	〃	⑦⑪	Ⅶ		AⓈⓂ多、DⓈⓂ少、EⓈ～Ⓛ少	71%
2083 包41	第203図	A層E36N8	〃	〃	②	Ⅱ		DⓈ微、EⓈ～Ⓜ少	29%
2084 包32	〃	A層E8S8	〃	〃	㊺ ㊿	〃		EⓈⓈ多	100%
2085 包29	〃	A層W32N12	〃	〃	㊺	〃		BⓈ微、DⓈ微、EⓈ～Ⓜ中	42%
2086 包40	〃	A層E8S8	〃	〃	㊺	Ⅳ		DⓈⓈ微、EⓈⓈ極多	50%
2087 包36	〃 PL.106	B層W16N12	〃	〃	㊸㊸	Ⅱ		DⓈ微、EⓈ～Ⓜ多、K中	100%
2088 包39	〃	A層E8S8	〃	〃	⑦	Ⅲ		EⓈⓈ微、K多	50%
2089 包33	〃	A層W16N16	〃	〃	㊺	Ⅶ		ABⓈⓈ微、EⓈ～Ⓛ少、K少	94%
2090 包42	〃	西隅北側排土中	〃	〃	②	〃		BⓈ～Ⓜ極微、DⓈ～Ⓜ微	50%
2091 包31	〃	A層W20N12	〃	小皿B2	㊺	Ⅳ		EⓈⓈ極多	71%
2092 包55	〃	A層W48N12	〃	小皿F	㊺	Ⅱ		EⓈ～Ⓜ微、K少	57%
2093 包79	〃	A層W40N4、W36N4	〃	土釜A	⑮⑰	Ⅷ	SS＞S	AⓈ～Ⓜ極多、BⓈⓈ少、DⓈⓂ微、EⓈ～Ⓜ少	8%
2094 包80	〃	B層W28N12	〃	〃	⑮	〃	S＞M	AⓈ～Ⓜ極多、BEⓈ～Ⓜ少、DⓈ～Ⓜ少・Ⓛ微、K少	13%
2095 包81	〃	B層E20N8	〃	土釜B	⑦㊳	〃	S＞M	AⓈ～Ⓛ多、BⓈⓂ少、DⓈⓂ微、EⓈ～Ⓜ多	17%
2096 包82	〃	A層EW0N12	瓦質	土釜C	㊶ ⑯	Ⅵ	SS以下多	AⓈ～Ⓛ中、BⓈⓈ少、DⓂ微、EⓈⓈ微、K中	17%
2097 包 2	〃	B層E128S16 ⅡB1区	〃	〃	⑯	Ⅱ		AⓈⓈ微、BⓈⓂ微、CⓂ微、DⓈ～Ⓜ少、EⓈ～Ⓜ微	4%
2098 包84	〃	A層E4N12	須恵質	捏鉢	㉔ ㊿㉔	〃		ADⓈ～Ⓜ少	8%
2099 包83	〃	A層W14N8	〃	〃	㉕	〃		BⓈ少、DⓈⓈ少、EⓈ微	8%
2000 包85	〃	A層EW0N8	備前	擂鉢	㊻ ㊼	〃		BⓈⓂ微、EⓈ～Ⓛ微	13%

出土遺物観察一覧 No.35

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形(部位)	色調 内 外 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
2101	包 94	第203図	A層W32N12、W28NS0	白磁	碗	(57) ㊺	Ⅱ			17%
2102	包 95	〃	A層W16N12	〃	〃	(52) (65)	〃			13%
2103	包 93	〃	A層W44N12の周り	〃	〃	(53) ㊺	〃			13%
2104	包 96	〃	A層EW0N4	〃	〃	(54) ㉕	〃			8%
2105	包101	〃	B層W36N4	〃	碗(底部)	(58) ㉕	〃			21%
2106	包 97	〃	A層W32N12、W28NS0他	〃	〃(〃)	(54) ㊺	〃		E(SS)Ⓢ微	25%
2107	包 99	〃	A層W24N8	〃	〃(〃)	(57) ㉞	Ⅵ			25%
2108	包 98	〃	B層W28N16	〃	〃(〃)	(53) ㉕	Ⅱ			21%
2109	包100	〃	A層W28N12	〃	〃(〃)	(57) ㉞	Ⅳ			50%
2110	包 89	〃	A層W16N12	〃	皿	(54) (65)	Ⅱ			38%
2111	包 87	〃	A層W40S4	〃	〃	(52)(58) ㉕	〃			13%
2112	包 86	〃	A層W16N12	〃	皿(底部)	(53) ㊻	〃			21%
2113	包 91	〃	A層W24N8	〃	〃(〃)	(57) ㉞	〃			29%
2114	包 88	〃	A層W28N8	〃	〃(〃)	(54) (65)	〃			25%
2115	包 90	〃	A層W24N12	〃	〃(〃)	(58) ㉕	〃		E(SS)～Ⓜ微	21%
2116	包102	〃	A層W36N16、W32N12他	〃	〃(〃)	(57) ㉞	〃			32%
2117	包 92	〃	A層EW0N8	〃	〃(〃)	(56) ㉕	〃		E(SS)～Ⓜ微	100%
2118	包103	〃	A層W32N8、W28N8	青磁	皿	㊾ (65)	〃			28%
2119	包 11	〃	表採 ⅡB区	唐津天目	碗(底部)	(61) ㉝	〃		BⓈⓂ微	100%
2120	包104	〃	A層W44N12		坩堝	㊷ ㊷⑭	Ⅲ		B(SS)Ⓢ中、D(SS)Ⓢ少、E(SS)～Ⓜ中	—
2121	2	第204図	SE417最下層	土師器	土錘	⑫	Ⅳ		B(SS)～Ⓛ少、EⓁ(LL)微 15.90g	
2122	3	〃	SE418上層	〃	〃	⑯	〃		A(SS)少、CⓈ中・Ⓛ(LL)微、DⓂ微	
2123	包105	〃	B層E20N4	〃	〃	㉚	Ⅱ		B(SS)微、K微 (87.72g)	
2124	1	〃	SK375	〃	〃	㉚	〃		B(SS)Ⓢ少、K微 (40.32g)	
2125	1	〃	SD424下層	〃	〃	⑦㊲	〃		B(SS)Ⓢ少、EⓈ少 (35.84g)	
2126	包116	〃	A層E8N16	〃	〃	②	Ⅴ		AE(SS)～Ⓜ少、B(SS)Ⓢ微、K微 (27.28g)	
2127	包113	〃	A層W20N8	〃	〃	⑦	〃		AⓈⓂ少、D(SS)Ⓢ微、E(SS)～Ⓜ少 15.70g	
2128	包112	〃	A層W32N12	〃	〃	⑳	Ⅳ		A(SS)Ⓢ少、DⓈⓂ微、E(SS)～Ⓜ少、K中 14.83g	
2129	包115	〃	A層W20N8	〃	〃	㊱	Ⅴ		AⓈ微、D(SS)Ⓢ少、E(SS)～Ⓜ少 14.16g	
2130	包114	〃	A層W8N12	〃	〃	⑲	Ⅱ		A(SS)～Ⓜ微、B(SS)Ⓢ微、DⓈ微 11.40g	
2131	11	〃	SB291 P3掘形	〃	〃	⑤	〃		A(SS)Ⓢ多、EⓈⓂ少、K少 12.55g	
2132	6	〃	SB287P535柱当り	〃	〃	㊶㉔	〃		AC(SS)少、DⓂ微、K多 11.15g	
2133	3	〃	SE417中層	〃	〃	(63)	Ⅳ		EⓈ微、K多 (11.50g)	
2134	4	〃	SE417上層	〃	〃	㉒	Ⅱ		K中 9.70g	
2135	2	〃	P1349	〃	〃	㊺㊷	〃		B(SS)少、K少 8.42g	
2136	1	〃	〃	〃	〃	㊶	〃		B(SS)少 7.68g	
2137	3	〃	〃	〃	〃	㊺㉚	〃		B(SS)少 (8.05g)	
2138	5	〃	〃	〃	〃	㊶㉚	〃		(7.92g)	
2139	28	〃	SB291 P110柱当り	〃	〃	⑯㉝	〃		C(SS)Ⓢ少、DⓈ微、K中 5.99g	
2140	26	〃	SB291 P6柱当り	〃	〃	⑰	Ⅳ		A(SS)～Ⓜ中、C(SS)Ⓢ微、EⓈⓂ微、K中 6.96g	
2141	13	〃	SB291 P8掘形	〃	〃	㉝㊱	Ⅱ		8.43g	
2142	3	〃	SD424下層	〃	〃	㉝	Ⅳ		DEⓈ微、K極微 5.62g	
2143	12	〃	SB291 P6掘形	〃	〃	㉚	Ⅱ		4.57g	
2144	包111	〃	A層W32N12	〃	〃	⑦	〃		DE(SS)～Ⓜ微、K少 8.19g	
2145	2	〃	SD424下層	〃	〃	㉝	〃		D(SS)微、EⓈ微 6.12g	
2146	2	〃	SD445	〃	〃	⑦㉔	Ⅵ		CⓈⓂ中、K多 (5.20g)	
2147	包109	〃	A層W28N12	〃	〃	⑯	Ⅱ		B(SS)微、EⓂ微 8.00g	
2148	1	〃	SE416上層	〃	〃	㊲①	〃		BD(SS)微 5.69g	
2149	2	〃	SE416掘形	〃	〃	⑦⑯	〃		A(SS)Ⓢ少、K中 3.73g	
2150	包108	〃	A層E4S8	〃	〃	⑦	〃		B(SS)微、K微 (5.53g)	
2151	包107	〃	A層E8NS0	〃	〃	㉞	Ⅴ		A(SS)～Ⓜ少、B(SS)微、E(SS)～Ⓜ微 4.35g	
2152	1	〃	SB290 P543掘形	〃	〃	㊱㊴	Ⅱ		CⓈ微、EⓈ少、K多 (5.47g)	
2153	包119	〃	A層E20N12	〃	〃	㉚㊷	〃		D(SS)微、K多 4.83g	
2154	1	〃	SD447西溝	〃	〃	⑦	〃		DⓈ微、EⓈⓂ少、K少 4.50g	
2155	5	〃	SD424上・中層混合	〃	〃	㊴	〃		BCⓈ微、EⓈ少 5.28g	

出土遺物観察一覧 No.36

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
S I 602												
1	B11	第208図	NW区下層	弥生土器	二重口縁壺?	⑤	⑥		Ⅱ	SS以下	AⓂⓁ極微、BⓈ極微、DⓈⓈ極微	8%
2	H 1	〃	NW区貼床	〃	二重口縁壺	⑫	⑬		Ⅵ	S	AⓈⓂ多、BⓈ少、DⓈ中、K極多	8%
3	H 2	〃	〃 〃	〃	甕(底部)	③	⑨		Ⅱ	SS	AⓈⓈ少、BⓈ微、K多	100%
S I 601												
4	F 1	第209図	床直、セク中央	弥生土器	広口壺A	⑤	⑩		Ⅱ	S	AⓂⓁ少、CⓈⓂ微、EⓈ～Ⓛ少、K微	21%
5	F 4	〃 PL.107	床直	〃	広口長頸壺	②			〃	SS以下＞S	AⓈ～Ⓛ少、BⓂ微、CⓂⓁ微、EⓈⓂ少	64%
6	F 3	〃 〃	床直、埋土2	〃	広口壺B	①②			〃	SS	BⓈⓈ少、CⓈⓂ少、EⓈⓂ多	67%
7	F 6	〃	床直	〃	二重口縁壺	②	⑥		〃	S	BⓂ極微、EⓂ微、K微	17%
8	F 5	〃	〃	〃	細頸壺	⑥	②		〃	SS以下	AⓈ～Ⓛ少、CⓈ～Ⓜ微	8%
9	P 1	〃	P 2	〃	甕A	⑥			〃	SS以下	AⓈⓈ微、BⓈⓂ微、DⓈ～Ⓛ極微	8%
10	F 8	〃 PL.107	床直、埋土1	〃	〃	②			〃	SS＞S	AⓈⓂ少、CⓈⓂ微、DⓈ中	46%
11	F 7	〃 〃	床直	〃	〃	⑥			〃	S＞SS	AⓈ～Ⓛ少・Ⓛ極微、CⓈⓂ微、DⓈ～Ⓛ中、K多	87%
12	F 9	〃	〃	〃	甕(底部)	⑤			Ⅳ	S	AⓈ少、CⓈ～Ⓛ少、DⓈ～Ⓛ中、EⓈ～Ⓜ微、FⓈⓂ微	100%
13	F14	〃 PL.107	〃	〃	鉢B	④⑩			〃	S＞M	AⓂⓁ多、CⓂⓁ微、DEⓈⓂ少、K微	67%
14	F11	〃	〃	〃	高坏A	⑩⑫			Ⅱ	SS以下	CⓈ微	8%
15	F13	〃	〃	〃	高坏B	⑧			〃	SS以下	BⓈ極微、CⓂ極微、EⓈ～Ⓛ極微	84%
16	F12	〃 PL.107	〃	〃	〃	⑤	⑤	⑧	Ⅶ	SS以下＞S	ABFⓈ～Ⓛ少、CⓈ～Ⓛ少、DEⓈ～Ⓜ中	67%
17	F 2	〃	床直、石の下	〃	広口壺A(器台)	①			Ⅱ	S	AⓈ～Ⓛ多、EⓈⓂ少、K中	54%
18	1	〃	埋土7(－15～－30cm)	〃	広口壺A	⑦			〃	S	AⓈ微、BDⓈⓂ微、EⓈⓈ中	8%
19	2	〃	埋土5(－15～－30cm)	〃	〃	②	①		Ⅴ	SS以下	BⓈ以下多、DⓈ極微、EⓈⓈ中、K多	21%
20	4	〃	埋土3(－30cm～ベッド直上)	〃	広口壺B	①			Ⅱ	S	AⓈ～Ⓛ中、BⓈ～Ⓛ少、CⓁ微、DⓈ微、EⓂ微	38%
21	3	〃	埋土3	〃	〃	⑥			〃	SS以下	BCⓈⓈ微、EⓈ～Ⓛ微	21%
22	5	〃 PL.107	埋土	〃	小形壺	③	⑭		〃	SS以下	CⓈⓂ少、DEⓁ微、K多	46%
23	6	〃	埋土東セク(－30cm～ベッド)	〃	甕A	⑧	⑦		〃	SS	AEⓈⓈ少、CⓈⓂ微、DⓈ少	8%
24	8	〃	埋土1	〃	高坏A	⑤	⑥		〃	SS	AⓈⓈ少、CⓈ～Ⓜ微、K多	25%
25	7	〃 PL.107	埋土	〃	高坏B	⑦	⑮	②①	Ⅴ	S＞M	AⓈ～Ⓛ中、BⓈⓈ少、CⓈ～Ⓛ少、DⓈ～Ⓛ少、EⓈⓂ少	64%
26	10	〃	埋土3	〃	脚台A	⑤	④		Ⅱ	SS	AⓈ～Ⓜ微、EⓈ少、K微	58%
27	9	〃	埋土1	〃	〃	④			〃	SS	AⓈⓈ少・Ⓛ極微、BⓈ極微、DⓈ微、K微	8%
S I 602												
28	P 3	第210図	P 4掘形、SW区下層他	弥生土器	甕B	⑦	⑮	⑦	Ⅱ	SS以下	AⓈ～Ⓛ少・Ⓛ微、CⓈⓂ微、EⓈ～Ⓜ少、K中	23%
29	H 4	〃 PL.108	NW区貼床、西壁ベッド上	〃	高坏A	①	⑳		〃	M＞L	AⓈ～Ⓛ中、CⓂ極微、EⓈⓂ少、K中	83%
30	H 5	〃 〃	NE区貼床壁際	〃	高坏B	①	②		〃	M＞S	AⓂ～Ⓛ少、EⓈ～Ⓛ多	86%
31	P 1	〃 〃	P 3柱当り	〃	〃	⑦	⑭		〃	S＞M	AⓂ～Ⓛ少、BⓈⓂ少、CⓂⓁ微、DⓂⓁ少、EⓈⓂ微	65%
32	D 1	〃	NE区上層	〃	広口壺A	②			〃	SS以下	AⓈ～Ⓜ少、BⓈ微、EⓈ微、K少	13%
33	B 1	〃 PL.108	下層	〃	〃	⑥	⑫		〃	SS以下	AⓂⓁ微、EⓈ～Ⓛ微、K	100%
34	C 1	〃	NW区中層	〃	〃	⑨			〃	SS以下	AEⓂⓁ微、K多	17%
35	B 3	〃	NE区下層	〃	〃	①			〃	SS	AⓈ～Ⓛ多、BⓈ～Ⓜ微、EⓈ～Ⓛ微、K微	17%
36	D 2	〃	NE区上層	〃	〃	⑨	⑤	⑨	〃	SS以下	AⓈ～Ⓛ少、BⓈ微、DⓁ微、EⓈ～Ⓜ微、K多	13%
37	B 4	〃 PL.108	SE区下層ベッド下	〃	広口壺B	⑧	⑤	①	〃	SS以下	AⓂ～Ⓛ微、BⓈ微、DⓈ～Ⓛ微、EⓈⓈ微	94%
38	B 9	〃	NW区下層	〃	〃	②			〃	SS以下	AⓈ～Ⓜ少、DEⓈ～Ⓜ微、K多	17%
39	B 6	〃	〃 〃	〃	〃	①			〃	S	AⓈ～Ⓛ中、BⓈ微、DEⓈ～Ⓜ少、K多	21%
40	B10	〃	NE区下層	〃	〃	⑩			〃	SS以下	AⓈ～Ⓛ微、K微	8%
41	B 8	〃	SE区下層ベッド下	〃	〃	③	④		〃	SS	AⓈ～Ⓛ中、BⓈ少、DⓈ微、K少	21%
42	B 5	〃	NE区下層	〃	〃	①			〃	SS以下	AⓂ少、BⓈⓈ微、DⓈ～Ⓛ微、K中	25%
43	B12	〃	〃 〃	〃	長頸壺	①			〃	S	AⓈ～Ⓛ少、BⓈ～Ⓜ微、CⓁ微、EⓈⓂ少、K微	33%
44	B22	〃	NW区下層、セク第1層他	〃	甕A	③			〃	SS	AⓈ～Ⓜ多、BⓈⓂ少、DEⓈ～Ⓜ中、K多	46%
45	B13	〃	NE区下層、NW区下層	〃	〃	⑳	⑤		〃	S＞SS	AⓂ～Ⓛ少、BⓈⓂ微、EⓈ～Ⓛ多、K中	58%
46	B14	〃	下層	〃	〃	①	⑪		〃	M	AⓈ～Ⓛ少、BⓂⓁ微、DⓈ～Ⓛ少、EⓈ～Ⓛ微、K多	21%
47	D 6	〃	セク第3層	〃	〃	⑥	①		〃	M＞S	AⓈ～Ⓛ中、BⓈ～Ⓛ微、DⓂⓁ中、EⓁ微	25%
48	C 4	〃	NE区中層、セク第5層	〃	〃	⑤			Ⅲ	SS以下	AⓈ～Ⓛ中、BⓈⓈ少、DEⓈ～Ⓜ微、K多	38%
49	B15	〃 PL.108	NE区下層	〃	甕B	⑭	⑮⑯		Ⅱ	SS以下	ADⓈ～Ⓛ微、BⓈⓈ微、CⓂ微	73%
50	B16	〃	〃 〃	〃	鉢A	⑨			〃	SS	AⓁ微、BEⓈⓂ微、K中	79%
51	B17	〃	NW区下層	〃	高坏A	⑧	①		〃	SS	AⓈ～Ⓜ少、BⓈ微、DⓈ～Ⓜ微、EⓈⓈ微、K多	21%
52	B18	〃	〃 〃	〃	〃	①			Ⅲ	SS以下	AⓈ少、BⓈ微、DⓈⓂ少、K少	17%
53	D 7	〃	NE区上層、セク東下層	〃	高坏B	⑨			Ⅱ	SS	AⓈ～Ⓛ中、BⓂ少、DⓂ微、EⓂ～Ⓛ微、K多	4%
54	B19	〃	NE区下層、NW区中層他	〃	〃	⑧	⑧		〃	S＞M	AⓈ～Ⓛ中、BDⓈ微、EⓈⓂ少、K少	63%
55	D 3	〃	NW区上層	〃	脚台(某部)	①			〃	SS	AⓈⓈ中、DⓂ微、EⓈ～Ⓛ微、K中	100%
56	B21	〃	セク第6層、壁	〃	脚台B	④	⑤	㉔	〃	SS＞S	AⓈ～Ⓜ微、EⓈ～Ⓜ中	57%
57	D 4	〃	NW区上層	〃	甕(底部)	⑤	②		Ⅳ	L	AⓈ～Ⓛ多・Ⓛ少、BⓈ～Ⓛ少、DⓈ～Ⓛ少、EⓈ～Ⓜ中、K多	100%
58	D 5	〃	〃 〃	〃	器台B	⑤	⑩		Ⅱ	SS以下	BⓈⓈ微、CⓈⓂ極微、EⓈ～Ⓛ中、KⓈ少	17%
S I 603												
59	B 1	第211図	B区下層	弥生土器	広口壺B	②	①		Ⅳ	SS	AⓂⓁ微、CⓈ～Ⓜ中、EⓈ～Ⓛ多	21%
60	C 1	〃	A区中層	〃	〃	③	⑪		Ⅱ	SS以下	EⓈⓂ微、K微	13%
61	A 1	〃 PL.108	B区最下層、埋土3、埋土2	〃	広口壺B小形	④	㉓		Ⅳ	SS＞S	AⓈⓈ中・Ⓛ極微、BⓈⓂ少、CⓁ微、EⓈ～Ⓛ微	75%
62	A 2	〃 〃	A区最下層、A区上層他	〃	二重口縁壺	⑦			Ⅱ	SS以下	BⓂ微、DⓈ微、EⓈ微、K少	4%
63	B 2	〃	A区下層	〃	甕(底部)	⑪	①		〃	SS	AⓈⓈ極多、BCⓈ～Ⓜ微、DⓈ～Ⓜ少、EⓈⓈ微、K中	100%
64	F 1	〃 PL.108	床直6	〃	〃(底体部)	⑩	⑦		〃	SS	AⓈⓂ中、DⓈⓂ少、EⓈ～Ⓛ多、K多	100%
65	A 3	〃	A区最下層、D区上層	〃	鉢A	⑩	⑤		〃	S	AⓈⓈ少、BCⓈ～Ⓜ微、DⓈⓂ少、EⓈ～Ⓛ中	50%
66	B 3	〃	A区下層、A区中層他	〃	〃	①	②		〃	SS以下	ACⓈⓈ少・Ⓛ微、EⓈⓂ多、K中	54%

出 土 遺 物 観 察 一 覧 No.37

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形(部位)	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
67	F 2	第211図	床直7	弥生土器	鉢C	①	Ⅱ	SS＞S	B(SS)Ⓢ微、D(SS)～Ⓜ少、E(SS)～Ⓜ微	100%
SⅠ604										
68	1	第211図	埋土	弥生土器	広口壺A	①	Ⅳ	SS＞S	AⓈⓂ中、B(SS)少、EⓂ少、K多	29%
69	2	〃	SW区埋土	〃	〃	①	Ⅱ	SS	A(SS)Ⓢ中、BⓈ微、EⓈⓂ微	4%
70	3	〃	セク第1層	〃	〃	②	〃	SS以下	AD(SS)Ⓢ微、BⓈ微、E(SS)～Ⓜ微	13%
SⅠ605										
71	B 2	第211図	南西拡張区下層SE区ベッド下	弥生土器	広口壺A	③ ⑦	Ⅱ	SS以下	AD(SS)～Ⓜ微、B(SS)Ⓢ微、EⓈⓂ微、K多	13%
72	B 1	〃	南西拡張区下層SW区ベッド下	〃	〃	①	〃	S	AⓂ～(LL)中、B(SS)Ⓢ微、DⓈⓂ微、EⓈ～Ⓛ中、K極多	13%
73	D 1	〃	東区上層	〃	広口壺B	①	Ⅲ	SS	AⓈⓂ少、B(SS)Ⓢ少、E(SS)～Ⓜ微、K多	8%
74	F 1	〃 PL.109	床直、南西拡張区上層SW区	〃	〃	③⑤⑦	Ⅳ	SS＞M	A(SS)～Ⓛ多・(LL)微、CⓁ極微、DⓈ～Ⓛ少、EⓈⓂ少、K中	59%
75	D 2	〃	W区上層	〃	〃	⑤ ⑧	Ⅱ	SS以下	A(SS)～Ⓜ少、DE(SS)～Ⓜ、K少	25%
76	D 4	〃	南西拡張区上層SW区	〃	二重口縁壺	⑥	〃	SS	A(SS)～Ⓛ微、D(SS)～Ⓜ少、E(SS)～Ⓜ微、K中	13%
77	D 3	〃	E区上層	〃	長頸壺	③	〃	SS以下	A(SS)少・Ⓢ微、K中	8%
78	B 3	〃	南西拡張区下層SW区ベッド下他	〃	壺(底体部)	㊶ ⑦	〃	SS＞S	A(SS)～Ⓛ多・(LL)微、B(SS)Ⓢ少、K中	63%
79	R 1	〃	SE区炉第2層、NE区炉	〃	甕(底部)	②	〃	L＞LL	AⓂⓁ少、BⓈ～Ⓛ微、DⓂ～(LL)中、EⓈ～Ⓛ中	100%
80	B 5	〃	第4層	〃	甕B	①	〃	SS	AⓂ～(LL)少、BⓈⓂ微、D(SS)Ⓢ微、E(SS)Ⓢ少	13%
81	D 6	〃	南北セク第2層、南北セク第1層	〃	鉢A	⑦⑮ ㊶	〃	SS	A(SS)～(LL)中、B(SS)Ⓢ少、C(LL)微、E(SS)～Ⓜ微	59%
82	D 8	〃	南西拡張区上層SE区	〃	高坏A	①	〃	S	A(SS)～(LL)少、B(SS)微、DⓈ少、E(SS)Ⓢ微、K微	13%
83	B 4	〃	南西拡張区下層SE区ベッド下	〃	高坏B	②	〃	SS以下	A(SS)微、B(SS)Ⓢ微、E(SS)～Ⓜ微、K中	17%
84	B 6	〃	南セク第4層	〃	器台(裾部)	①	〃	S	A(SS)～Ⓛ少、B(SS)Ⓢ微、D(SS)～Ⓜ微、EⓈ～Ⓛ中、K少	17%
85	B 7	〃	西セク第3層	〃	手焙形土器	⑥	〃	SS以下	AⓈ少、BⓈⓂ微、EⓈⓂ少、K多	—
86	D10	〃	E区上層	〃	手捏ね脚台	⑦	〃	SS	B(SS)Ⓢ微	75%
87	D 9	〃	南西拡張区上層SW区	〃	手捏ね鉢	⑦	〃	SS以下	EⓈⓂ微	52%
88	D11	〃	南西拡張区SW区壁	〃	土玉	⑧	〃		AⓂ～(LL)極微、B(SS)Ⓢ極微、K少　11.58 g	
SⅠ606										
89	B 1	第212図	北拡張区下層A・B区	弥生土器	広口壺B	⑤ ⑪	Ⅱ	SS以下	A(SS)～Ⓜ少・(LL)微、BⓈⓂ微、DⓈ～(LL)微、E(SS)～Ⓜ少、K少	8%
90	B 2	〃	B区下層	〃	二重口縁壺	④	〃	SS	A(SS)～Ⓜ少、B(LL)微、E(SS)～Ⓛ少、K少	13%
91	D 1	〃	上層	〃	甕A	⑥	〃	S	A(SS)～(LL)中、BE(SS)Ⓢ微、D(SS)～Ⓜ少、K微	33%
92	C 1	〃	C区中層、SW区中層(Fから10cm)	〃	甕(底部)	⑪ ⑥	〃	MLL＞S	AⓈ～(LL)中、BⓂⓁ少、DⓂ微、EⓈⓂ少、K微	100%
93	1	〃 PL.109	C区セク第4層他	〃	鉢A	⑦ ⑦⑭	〃	SS	AⓈ微、CⓈ～Ⓛ微、DEⓈⓂ少、K中	57%
94	B 3	〃	北拡張区下層A・B区、B区下層	〃	高坏A	⑨	〃	SS＞S	A(SS)～Ⓛ中・(LL)微、C(SS)～Ⓜ少・(LL)微、E(SS)～Ⓛ少、K少	25%
95	C 2	〃	SW区中層(Fから10cm)	〃	高坏B	⑧	〃	S	A(SS)Ⓢ少、C(SS)～(LL)微、D(SS)～Ⓜ微、E(SS)Ⓢ微、K微	29%
96	C 3	〃	C区中層、D区セク第3層	〃	〃	② ①	〃	SS	A(SS)～Ⓜ少、B(SS)極微、DⓈ少、E(SS)極微	33%
97	D 6	〃	上層	〃	脚台A	⑦	〃	SS以下	AEⓈⓂ微、BⓈ極微、K極多	100%
98	D 5	〃	〃	〃	〃	⑤	〃	SS以下	AⓈ微、B(SS)Ⓢ微、K中	50%
99	D 2	〃	C区上層	〃	〃	③㉓	〃	S	A(SS)～Ⓜ中、B(SS)Ⓢ少、DⓂ微、EⓈ～Ⓛ微、K少	55%
100	1	〃	C区セク第3層	〃	脚台(付壷)	㊱	〃	S	A(SS)少・Ⓛ微、B(SS)中、EⓈⓂ少、K少	21%
SⅠ607										
101		第212図	NE区埋土	弥生土器	広口壺A	④ ①	Ⅱ	SS以下	AⓈ少、BⓈ微、K多	8%
102	3	〃	〃 〃	〃	器台	⑨	〃	SS以下	AⓈⓂ微、B(SS)～Ⓜ微、E(SS)～Ⓜ少、K多	8%
103	5	〃	〃 〃	〃	二重口縁壺	①	〃	SS以下	B(SS)Ⓢ中、K少	13%
104	4	〃	〃 〃	〃	〃	④ ①	〃	SS以下	A(SS)～Ⓜ中、D(SS)Ⓢ微、E(SS)～Ⓜ微	13%
105	6		〃 〃	〃	甕A	① ③	〃	SS以下	AⓈ微、B(SS)微、E(SS)Ⓢ微、K微	8%
106	8	〃	〃 〃	〃	甕B	㊱ ㉚	〃	SS以下	AⓈ～Ⓛ中、B(SS)～Ⓜ微、K微	8%
107	10	〃	SE区埋土	〃	高坏	⑤	〃	S＞SS	AⓈ～Ⓛ多、BⓈ少、DEⓈ微、K多	100%
SⅠ608										
108	1	第212図	NW区埋土	弥生土器	脚台B	①	Ⅱ	SS	AⓈ～Ⓛ中、B(SS)～Ⓜ中、DⓈⓂ微、EⓈⓂ少、K微	100%
SⅠ610										
109	1	第212図	NE区埋土	弥生土器	脚台B	④	Ⅱ	S	AⓂⓁ多、B(SS)Ⓢ微、E(SS)～Ⓛ微、K(SS)少	100%
SⅠ611										
110	2	第212図	埋土	弥生土器	高坏A	②④	Ⅱ	S	A(SS)～Ⓛ多、B(SS)Ⓢ微、DⓈ微	—
111	3	〃	〃	〃	脚台A	②	〃	S＞M	AⓈⓂ中・Ⓛ極微、DⓈⓂ少、EⓈⓂ中、K少	100%
SⅠ612										
112	1	第212図	NE区第1層	弥生土器	広口壺A	④	Ⅱ	SS以下	AⓈ～(LL)少、BⓈ～Ⓛ微、EⓈⓂ微、K微	—
113	3	〃	セク	〃	脚台A	⑯	〃	SS以下	A(SS)～Ⓜ少、BD(SS)微、EⓈ～(LL)少、K微	29%
SⅠ613										
114	1	第212図	NE区サブトレ	弥生土器	広口壺B	① ②	Ⅲ	SS以下	A(SS)～(LL)多、B(SS)Ⓢ少、CⓂ極微、K少	13%
115	2	〃	SE区埋土	〃	甕B	⑤ ㉚	Ⅱ	SS＞S	A(SS)～Ⓛ多・(LL)微、B(SS)～Ⓜ少、E(SS)～Ⓜ微	8%
116	3	〃	〃 〃	〃	〃	②	〃	SS	A(SS)～Ⓛ少、BⓈ微、D(SS)～Ⓜ少、E(SS)少、K微	4%
117	4	〃	SW区サブトレ	〃	甕F	㊱	〃	S	A(SS)～Ⓛ中、BⓈⓂ微、D(SS)～Ⓜ少、E(SS)少	8%
118	5	〃	NE区埋土	〃	甕(底部)	⑭ ②	Ⅳ	S＞M	A(SS)～Ⓜ多・(LL)微、B(SS)Ⓢ少、E(SS)～Ⓜ少、K多	100%
119	6	〃	NE区サブトレ	〃	〃(〃)	③ ①	Ⅱ	SS＞S	AⓈⓂ微、B(SS)Ⓢ少・Ⓜ微	100%
120	7	〃	SE区埋土	〃	脚台A	⑧	〃	S＞M	AⓈ少、CⓂ極微、DⓂ微、EⓈⓂ少	100%
SⅠ614										
121	B 1	第212図	E区下層	弥生土器	広口壺A	②⑤	Ⅱ	SS以下	AⓈ～(LL)中、BⓁ微、DⓈⓂ極微、K極多	13%
122	1	〃 PL.109	埋土	〃	〃	①④	〃	M＞S	A(SS)～(LL)中、BⓈⓂ少、K多	29%
123	D 5	〃	セク第1層	〃	〃	⑥	〃	SS以下	AⓈ微、B(SS)～Ⓜ少	13%
124	2	〃	埋土	〃	二重口縁壺(小形)	⑨	〃	SS以下	A(SS)Ⓢ少、BⓈ微、K多	21%
125	B 2	〃	W区下層	〃	短頸壺	②	〃	SS以下	A(SS)～Ⓜ少、EⓈⓂ少、FⓁ微、K少	17%
126	B 3	〃 PL.109	〃 〃	〃	甕B	⑯㉚ ㊱	Ⅲ	SS以下	AB(SS)Ⓢ微、DⓈⓂ微	57%

出土遺物観察一覧 No.38

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
127	D 2	第212図	E区上層	弥生土器	甕D	⑤	⑯		Ⅵ	M	AD(S)～(L)中、B(S)(M)微、C(S)微、E(S)～(M)微、K微	4%
128	B 4	〃	W区下層	〃	甕(底部)	⑤			Ⅱ	S	A(S)微、E(S)(M)中	100%
129	D 4	〃	W区上層、NW区下層他	〃	鉢B	①④			〃	SS	A(S)～(L)中、B(S)(S)微、E(S)(S)少、K中	38%
SI615												
130	C 1	第213図	D区中層上	弥生土器	広口壺B	⑤			Ⅱ	S	A(S)～(L)中・(LL)微、D(LL)微、K少	25%
131	B 3	〃	B区下層	〃	〃	⑥			〃	SS	A(S)微、B(S)少、E(M)(L)微、K極微	29%
132	B 4	〃 PL.109	A区下層	〃	〃	㉒①			〃	SS	A(S)(S)微、B(M)～(LL)中、D(S)(S)少、E(S)～(M)微、K微	25%
133	C 2	〃	A区中層	〃	〃	①			Ⅸ	M＞L・LL	A(S)～(LL)多、B(S)(M)少、E(M)～(L)微、F(LL)微、K微	25%
134	B 2	〃 PL.109	D区下層	〃	〃	⑭⑮			Ⅱ	SS	E(S)～(M)少、F(L)微	42%
135	B 1	〃 〃	B区下層	〃	〃	⑯⑰			〃	SS	A(S)微、D(S)(M)少、E(S)(M)中	88%
136	D 1	〃	D区上層	〃	二重口縁壺	④			Ⅳ	SS	A(S)～(L)少、B(S)(S)微、C(S)～(M)微、E(S)～(L)中、K少	13%
137	C 3	〃	B区中層上	〃	短頸壺	⑦⑥			Ⅱ	SS	AE(S)(M)微、B(S)微、D(M)(L)少、K少	13%
138	B 5	〃	C区下層	〃	壺(底体部)	⑥⑤			〃	SS以下	A(S)微、C(S)(S)微、E(S)(M)中、K多	81%
139	C 4	〃	B区中層上	〃	〃(〃)	②①			〃	SS以下	A(M)(L)少、E(S)～(L)少	65%
140	B 7	〃 PL.109	A区下層	〃	鉢B	⑧③⑧⑯			Ⅳ	ML	A(S)～(L)中、C(S)～(L)微、D(S)～(L)少、E(S)～(LL)多	77%
141	1	〃	A区セク第2層	〃	高坏A	⑤ ②			Ⅱ	M	A(M)～(LL)微、B(L)(LL)微、D(S)微、E(S)～(M)少、K微	13%
142	B 8	〃	A区下層	〃	〃	⑦⑱⑲			〃	SS以下	A(S)(S)少、BC(S)～(M)微、E(S)～(L)微	59%
143	2	〃	D区セク第2層	〃	高坏B	㉔ ①			〃	SS	A(S)～(L)中、C(S)～(M)微、E(S)～(M)少	8%
144	C 5	〃	A区中層上	〃	脚台A	⑮⑭			〃	SS	A(S)少、B(S)(M)少、E(S)(M)中、K多	57%
145	B 9	〃	A区下層	〃	〃	⑥			〃	SS以下	B(S)(S)少、E(S)(M)微、K多	69%
SI616												
146	2	第213図	W区埋土	弥生土器	甕A	⑦			Ⅱ	SS以下	A(S)(M)少、B(S)(M)微、C(S)微、E(S)～(L)微、K多	33%
147	3	〃	〃 〃	〃	〃	④ ⑨			〃	SS以下	B(S)(S)微、D(M)極微、E(S)微、K微	13%
148	1	〃	〃 〃	〃	壺(底部)	⑥ ②⑯			〃	SS以下	A(S)～(L)少、B(M)微、D(S)～(M)微、E(S)～(L)中	100%
149	4	〃	〃 〃	〃	高坏A	④ ②			〃	SS以下	AE(S)～(M)少、B(S)(S)微、C(S)微、K中	—
SI618												
150	D 1	第213図	P1上層	弥生土器	広口壺B	①㉔			Ⅴ	SS＞S	A(S)～(L)多・(LL)微、B(S)～(M)微、DE(S)～(L)中、K多	62%
151	1	〃	D区埋土	〃	〃	⑤ ⑤			Ⅱ	SS以下	B(S)(S)微、D(S)～(M)微、K極微	13%
152	2	〃	C区埋土	〃	壺(底部)	⑤			Ⅶ	SS＞S	A(S)～(L)多・(LL)微、B(S)～(M)少、C(S)(M)微、D(S)～(L)中、K少	100%
SI617												
153	R 1	第214図PL.110	SE区炉、セク炉	弥生土器	広口壺B	④⑫ ⑥			Ⅲ	SS	A(S)～(L)少、B(S)(S)微、D(S)(M)少	17%
154	F 1	〃	S区床直	〃	〃	④ ①			Ⅱ	SS	A(S)～(LL)少、B(S)(S)少、D(S)(M)微、E(S)極微	46%
155	F 3	〃	床直上	〃	壺(底部)	①			〃	SS	A(M)～(LL)中、B(S)～(M)微、C(S)微、D(M)少(S)微・(S)微	100%
156	F 4	〃	S区床直、S区上層	〃	甕A	⑮ ①			〃	SS	A(S)～(L)微、B(S)(S)微、D(S)(S)少、E	25%
157	F 5	〃 PL.110	W区床直	〃	甕B	①			〃	SS以下	A(S)～(LL)多、B(L)微、C(L)極微、D(S)～(L)微、K中	87%
158	F 6	〃	〃 〃	〃	甕(底部)	⑩①②①			〃	SS	A(S)～(L)中、B(S)(S)微、D(S)～(M)少、E(S)(S)少	83%
159	F 2	〃	S区床直、南壁下層、南壁上層	〃	脚台(脚台付壺)	②			〃	SS以下	A(S)～(LL)少、B(S)～(M)微、D(S)(L)微、E(S)(M)微、K微	67%
160	B 1	〃 PL.110	E区下層	〃	広口壺B	⑥①			〃	S＞SS	A(S)～(L)微・(LL)少、B(S)(S)少、D(S)(M)微、E(S)～(LL)少、K中	59%
161	C 1	〃	中層	〃	〃	①			〃	SS以下	B(S)少、D(S)微、E(S)微、K多	21%
162	C 2	〃	S区中層	〃	〃	⑭ ⑮			Ⅴ	SS	A(M)～(LL)多、B(S)(M)少、C(M)微、D(S)(S)微、E(S)(M)微、K極多	17%
163	B 7	〃	下層壁	〃	〃	②⑯ ②			Ⅱ	SS	A(S)(S)少、E(S)～(L)多	17%
164	B 2	〃	南壁下層	〃	〃	㉚			Ⅴ	SS以下	A(S)(M)微、B(S)～(M)少、C(M)極微、D(S)(S)微、E(S)～(L)多、K微	21%
165	C 3	〃	W区中層	〃	二重口縁壺	②⑤			Ⅱ	SS	A(S)～(L)少、B(S)～(M)微、D(S)～(LL)微、E(S)(S)微、K微	17%
166	B 3	〃	東拡張区下層S区、W区上層	〃	甕A	⑤ ①			〃	S	A(S)～(LL)中、B(S)(S)微、D(S)～(M)少、E(S)～(L)少	25%
167	C 4	〃	W区中層	〃	〃	⑥			〃	SS以下	A(S)～(L)少、B(S)(S)中、D(S)微、K中	13%
168	C 5	〃 PL.110	W区中層、北東拡張区中層	〃	〃	④④			Ⅲ	S＞M	A(S)～(L)多・(LL)微、B(M)少・(LL)微、C(M)(L)少、D(S)～(LL)中、E(S)少、K中	79%
169	B 5	〃	S区下層、S区中層	〃	甕B	① ④			Ⅱ	S	AE(S)～(L)少、D(S)～(M)微、K微	17%
170	B 4	〃	南壁下層	〃	〃	④ ⑥ ㉝			〃	S	A(S)～(LL)中、B(S)～(M)少、D(S)(M)微、E(S)～(L)中、K少	17%
171	D 3	〃 PL.110	S区上層	〃	〃	⑤⑦			〃	SS＞S	A(S)(M)少、B(S)微、E(S)～(L)中、K中	90%
172	D 4	〃	セク第1層	〃	甕D	⑩ ⑥			〃	M	A(S)～(LL)中、B(M)微、D(S)～(L)少、E(S)(S)微	8%
173	B 6	〃	下層	〃	甕(底部)	⑤ ①⑳			〃	M＞L	AB(S)～(L)微、C(L)微、D(S)～(L)中	100%
174	D 1	〃	N区上層、セク第3層	〃	高坏A	㉚⑯			〃	SS＞M	A(S)～(LL)中、B(L)微、DE(S)～(M)少、K	21%
175	C 6	〃	W区中層、北東拡張区中層	〃	〃	⑤ ⑥			〃	SS以下	A(S)(S)中、B(S)(S)微、D(S)～(M)少、E(S)(S)少、K微	8%
176	D 5	〃	セク第2層	〃	脚台B	②			Ⅲ	SS以下	A(S)～(L)少、B(S)(S)少、D(S)～(M)少・(L)微、E(S)～(M)微	17%
177	C 7	〃 PL.110	S区中層	〃	高坏B	⑯			Ⅶ	SS	A(S)～(L)中、B(S)～(L)少、C(L)微、D(M)極微、E(M)微	57%
178	D 2	〃	N区上層、セク第2層他	〃	器台B	① ①④			Ⅱ	S＞M	A(M)(L)少、B(S)～(M)微、E(S)～(L)中	50%
SI619												
179	B 1	第215図PL.110	A区下層	弥生土器	広口壺A	①			Ⅱ	S	A(S)微、B(M)極微、E(S)～(L)中	25%
180	D 1	〃	B区上層	〃	〃	⑧			〃	SS以下	A(S)～(M)微、B(S)(S)微、C(S)～(M)極微、E(S)～(M)少、K微	25%
181	D 2	〃	A区上層	〃	広口壺B	⑦ ①			〃	SS＞S	A(S)～(M)中、C(M)極微、D(S)少、E(S)～(M)少、K多	33%
182	D 3	〃	〃 〃	〃	〃	①			〃	SS以下	AD(S)(S)微、E(S)～(L)微	25%
183	C 2	〃	C区中層(その2)	〃	二重口縁壺	①	㊺		〃	S以下	A(S)(S)少、K少	4%
184	C 1	〃	〃 〃(〃)	〃	〃	①			〃	SS以下	A(S)～(M)少、B(S)少、C(S)～(M)微、D(LL)微、K微	17%
185	B 3	〃	D区下層	〃	甕A	⑦ ㉓			Ⅵ	S	A(S)(M)多、B(S)～(M)少、D(S)～(M)多、E(S)(M)極微、K微	8%
186	T 1	〃	貯蔵穴	〃	〃	③ ④			Ⅱ	SS	AD(S)～(L)微、E(S)～(M)微、K微	4%
187	D 4	〃	D区上層	〃	甕B	⑤ ③			〃	S＞M	A(M)極微、D(S)～(M)微、E(S)～(M)少、K微	21%
188	T 2	〃	貯蔵穴、A区下層	〃	高坏A	⑭			Ⅴ	S＞SS	A(S)微、B(S)(S)多、D(S)(M)少、E(S)(M)多	33%
189	B 4	〃	A区下層	〃	〃	㊳			Ⅶ	S＞M	B(S)(S)中、D(S)少、E(S)～(LL)中、F(S)～(L)少	8%
190	C 3	〃	B区中層	〃	高坏B	㊴㊴			Ⅱ	SS以下	BE(S)～(M)微	100%
191	C 4	〃	A区中層	〃	脚台A	⑦ ㉔			〃	S	E(S)～(L)中	100%

出土遺物観察一覧 No.39

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
192	B 2	第215図	D区下層	弥生土器	器台A	⑯⑥ ⑦	Ⅱ	SS	A㊎～Ⓜ少、E㊎Ⓜ微、K少	13%
SI620										
193	C 1	第215図	A区中層	弥生土器	広口壺A	⑥②	Ⅱ	SS以下	A㊎㊎少、C㊎㊎微、D㊎微	13%
194	D 1	〃	B区上層	〃	広口壺B	①	〃	SS以下	A㊎Ⓜ少、B㊎微、CⓂ極微	17%
195	B 1	〃	B区下層	〃	壺（底部）	⑧	〃	SS	A㊎～Ⓛ微、B㊎少、D㊎～Ⓜ少、E㊎㊎微、K微	100%
196	D 2	〃	A区上層	〃	鉢（底部）	⑱ ⑥	〃	SS＞S	A㊎Ⓜ少、B㊎～Ⓜ微、D㊎微、E㊎～Ⓛ微、K中	67%
197	T 1	〃 PL.110	NE区貯蔵穴上、A区中層	〃	甕A	⑤	Ⅳ	S＞M	AⓂ～Ⓘ中、CⓂ～Ⓘ微、D㊎Ⓜ多、E㊎～Ⓛ中	76%
198	T 2	〃	貯蔵穴上	〃	高坏B	⑥	Ⅱ	S	A㊎～Ⓛ少、B㊎微、CⓂ微	42%
199	1	〃	SE877掘方	〃	手捏ね	①⑱	〃	SS	A㊎～Ⓜ中、B㊎㊎微、C㊎～Ⓘ少	67%
SI621										
200	D 1	第215図	B区上層	弥生土器	広口壺B	①	Ⅱ	L	A㊎～Ⓛ微、B㊎㊎微、D㊎㊎極微、F㊎～Ⓛ中	13%
201	B 1	〃	A区下層	〃	広口壺？	② ⑱	〃	S	A㊎～Ⓘ中、D㊎㊎微、E㊎～Ⓜ微、K微	13%
202	D 2	〃	北拡張区セク上層	〃	広口壺	⑤ ⑫	〃	SS以下	A㊎㊎少、CⓂ微、K多	4%
203	R 1	〃	中央炉	〃	甕B	⑦	Ⅲ	SS	A㊎微、E㊎Ⓜ中	13%
204	D 3	〃	上層中央炉回り	土師器	〃	② ①	Ⅱ	SS	A㊎㊎少・Ⓘ微、B㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓛ微、K中	13%
205	B 2	〃	北拡張区セク下層	弥生土器	〃	①	Ⅵ	M＞L	AⓂ～Ⓘ多、B㊎微、C㊎～Ⓘ少、E㊎Ⓜ微	8%
206	B 3	〃	〃 〃	〃	鉢B	⑦	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓜ微、DE㊎㊎微、K微	8%
207	B 4	〃	C区下層、D区上層セク第1層	〃	鉢（底部）	⑱⑤ ⑩	〃	SS以下	B㊎極微、D㊎～Ⓜ微、E㊎微	100%
208	B 5	〃 PL.111	北拡張区下層、中央セク他	〃	高坏D	①⑱	Ⅲ	SS	B㊎少、E㊎～Ⓛ中、K中	13%
209	B 6	〃	北拡張区セクより東下層	土師器	〃	⑭	Ⅱ	S以下	C㊎㊎微、K多	13%
210	B 7	〃	北拡張区セク下層	弥生土器	器台B	⑧	〃	SS	A㊎～Ⓜ微、B㊎極微、D㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓜ少、K多	13%
211	D 4	〃	北拡張区上層中央セク西	〃	〃	⑱① ⑦	〃	SS	A㊎～Ⓘ微、B㊎㊎極微、D㊎～Ⓜ微、EⓂ～Ⓘ微	21%
SI623										
212	D 1	第216図	W区上層	弥生土器	広口壺A	② ⑥	Ⅳ	SS＞S	A㊎～Ⓜ中、B㊎少、K中	17%
213	D 6	〃	SD740 底E352 C258	〃	〃	①	Ⅱ	SS以下	A㊎㊎少・Ⓛ微、D㊎Ⓜ微、K多	17%
214	D 2	〃	W区上層	〃	広口壺B	⑥ ⑱	〃	SS以下	A㊎～Ⓜ微、B㊎㊎微、D㊎微、K中	25%
215	B 2	〃	W区下層	〃	〃	②	〃	SS	A㊎～Ⓘ少、B㊎極微、D㊎～Ⓜ微、E㊎㊎微	17%
216	B 1	〃	S区下層西壁下層	〃	〃	①	〃	SS	AⒾⒿ少、BD㊎㊎微、E㊎Ⓜ中、K微	25%
217	B10	〃	D区下層（その1）	〃	壺（頸部）	④		SS以下	A㊎～Ⓘ微、B㊎㊎少、E㊎～Ⓛ多、K微	21%
218	C 1	〃	NE区中層	〃	広口壺B	⑱ ④	Ⅱ	SS	AⓂ微、B㊎～Ⓜ微、D㊎㊎微、E㊎～Ⓜ少	21%
219	F 2	〃	E区床直、N区上層他	〃	壺（底体部）	②	Ⅴ	SS	A㊎㊎少、B㊎㊎中、D㊎Ⓜ少、E㊎～Ⓜ微	59%
220	F 1	〃 PL.111	北隅床直、N区下層他	〃	甕B	⑩	Ⅱ	SS	A㊎～Ⓘ中、BE㊎Ⓜ少、CⒾ極微、DⓂ極微	63%
221	D 3	〃 〃	NE区上層	〃	〃	⑱	〃	S＞SS	A㊎㊎少・Ⓘ微、D㊎㊎中、E㊎Ⓜ少	29%
222	D 4	〃	W区上層	〃	甕D	⑤ ⑤⑱	Ⅵ	M	A㊎～Ⓘ多、B㊎～Ⓘ少、DⓂⒾ中、E㊎Ⓜ微、K少	4%
223	D 5	〃	D区上層	土師器	甕G	⑭	Ⅳ	SS	A㊎極多・Ⓜ微、CⓂ微、D㊎少、K多	8%
224	B 3	〃	S区下層	弥生土器	鉢B	②⑥	Ⅱ	SS	A㊎～Ⓜ中・Ⓘ微、D㊎少、E㊎Ⓜ中、K少	8%
225	B 4	〃	SE区下層	〃	鉢？	⑧	〃	SS	A㊎～Ⓜ少、B㊎微、D㊎㊎微、E㊎～Ⓜ微	13%
226	A 2	〃	F～10cm	〃	鉢A（小形）	⑳	〃	S＞M	A㊎～Ⓜ多、D㊎～Ⓛ少、E㊎～Ⓜ中	94%
227	C 2	〃 PL.111	E区中層	〃	〃（〃）	⑤ ①	〃	SS以下	A㊎Ⓜ少、D㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓘ少、K多	67%
228	A 1	〃 〃	南隅F～10cm、南隅下層	〃	〃（〃）	⑨⑭	〃	SS以下	AⒾ微、D㊎～Ⓘ中、K中	59%
229	A 3	〃 〃	F～10cm、D区下層	〃	鉢B（小形）	⑪ ⑭	〃	S＞M	A㊎Ⓜ多、DⓂ少、E㊎～Ⓜ中、K微	63%
230	C 4	〃	NW区中層	〃	甑（底部）	② ⑤	Ⅵ	S＞M	A㊎Ⓜ多、B㊎～Ⓜ微、D㊎Ⓜ少、E㊎～Ⓜ少	25%
231	B 5	〃	南隅下層、東壁隅中層	〃	高坏B	⑤ ②	Ⅲ	SS以下	A㊎～Ⓘ少、B㊎～Ⓜ微、DⓂ少、E㊎Ⓜ極微	13%
232	C 3	〃	NE区中層	〃	〃	② ⑩	Ⅱ	SS	A㊎微、D㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓜ少、K少	13%
233	B 6	〃	NW区下層、西壁上・下層	〃	〃	⑥	〃	SS以下	A㊎～Ⓘ少、D㊎㊎微、E㊎～Ⓜ微、K中	8%
234	B 7	〃 PL.111	東隅下層、東壁隅中層、E区上層	〃	高坏D	⑧	〃	SS	A㊎～Ⓜ多、B㊎少、DE㊎～Ⓜ少、K微	29%
235	P 1	〃 〃	E区主P、E区下層	〃	〃	②	〃	S	A㊎Ⓜ少、B㊎㊎微、D㊎～Ⓘ少、E㊎～Ⓘ少、K中	49%
236	B 8	〃	西壁下層、W区下層、S区下層他	〃	脚台A	⑥	〃	SS	A㊎～Ⓜ少、D㊎㊎微、E㊎～Ⓜ中、K少	100%
237	B 9	〃	W区下層、NW区中層	〃	器台B	⑦	〃	SS以下	A㊎㊎少、K多	38%
SI624										
238	D 1	第217図	B区上層暗黒褐色土	弥生土器	広口壺A	⑱ ⑦ ⑳	Ⅴ	SS以下	AⒾ極微、B㊎～Ⓜ微、K極多	21%
239	D 2	〃	C区上層暗黒褐色土	〃	広口壺B	②	Ⅱ	SS以下	AⓂⒹ微、B㊎～Ⓜ極微、D㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓛ少、K微	25%
240	B 1	〃	B・C区下層	〃	〃	③	〃	S	A㊎微、BC㊎～Ⓜ微、D㊎微、E㊎Ⓜ微	17%
241	C 3	〃 PL.111	C区中層（その2）、C区上層	〃	二重口縁壺	⑳⑲ ⑦	〃	S＞LL	AⓂ～Ⓘ中、B㊎Ⓜ微、C㊎～Ⓘ微、D㊎Ⓜ極微	25%
242	C 2	〃 〃	B区中層	〃	〃	⑥⑦	Ⅴ	SS＞S	A㊎～Ⓘ多、B㊎少、D㊎㊎少、E㊎Ⓜ微、K微	25%
243	D 3	〃	C区上層暗黒褐色土	〃	〃	⑮ ⑱⑱	Ⅷ	S＞M	A㊎～Ⓘ多、BⓂⒹ微、DE㊎Ⓜ中、K微	17%
244	C 1	〃	C区中層（その2）他	〃	短頸壺	⑳ ②	Ⅱ	S以下	A㊎～Ⓘ少、C㊎～Ⓜ微、DⓂ少、K少	17%
245	B 4	〃	A区下層	〃	〃	② ⑤	Ⅴ	SS	A㊎Ⓜ中、D㊎㊎少、K少	8%
246	R 1	〃	床直炉上、A区セク第5層	〃	甕B	⑱	Ⅱ	SS以下	AⓂⒹ微、D㊎～Ⓘ微、E㊎～Ⓜ少、K少	71%
247	R 2	〃	炉1直	〃	〃	⑭	〃	SS以下	A㊎～Ⓜ少、BC㊎～Ⓜ微	13%
248	C 5	〃	B区中層	〃	〃	⑱⑱	〃	SS以下	BC㊎微、E㊎㊎微、K㊎少	29%
249	D 9	〃	A区セク第1層	〃	〃	⑫	Ⅴ	SS＞S	B㊎微、H㊎㊎多、J㊎～Ⓜ多、K多	8%
250	B 2	〃 PL.111	壁下層、壁際下層	〃	〃	⑱⑱	Ⅱ	M	A㊎～Ⓘ少、BⓂ極微、CⓂ～Ⓘ微、DⓂⓂ中、EⓂ少	96%
251	D 7	〃	B区上層暗黒褐色土	〃	甕F	④	Ⅳ	SS＞S	A㊎～Ⓜ中、BD㊎㊎少、E㊎～Ⓘ少	54%
252	D 6	〃	C区上層暗黒褐色土	土師器	甕G	⑱	Ⅵ	SS	A㊎㊎多、DⓂ中、E㊎少、K少	13%
253	C 6	〃	C区中層（その2）	弥生土器	甕（底体部）	①②	Ⅷ	ML＞S	A㊎～Ⓘ多、B㊎～Ⓘ少、DⓂ少、E㊎～Ⓘ中、K多	100%
254	P 1	〃	P7	〃	高坏A	①	Ⅱ	SS	A㊎㊎中、C㊎微、D㊎㊎微、E㊎～Ⓜ微	13%
255	R 3	〃	炉1、P9	〃	高坏D	① ㊺	〃	SS	A㊎～Ⓛ少、B㊎微、EⓂ極微、K中	13%
256	C 4	〃	A区中層暗黒褐色土	〃	脚台（脚台付壺）	⑱⑱⑧㉔	〃	SS	A㊎㊎少、B㊎～Ⓘ少、D㊎㊎微、E㊎～Ⓜ極多、K微	54%
257	C 8	〃	B区中層、B区セク第3層他	土師器	脚台B	⑦⑱	〃	SS＞S	C㊎～Ⓜ微、D㊎Ⓜ少、E㊎～Ⓜ少、K中	61%

出土遺物観察一覧 No.40

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒組成	残存率
258	D 4	第217図	B区上層暗黒褐色土	弥生土器	脚台(鉢)	⑯	⑥		Ⅱ	SS以下	AD(M)極微、E(M)(L)微、K多	17%
259	D 8	〃	〃 〃 〃	〃	器台B	⑱			〃	SS	AB(S)微、D(S)(S)中、E(S)極微、K中	13%
260	B 5	〃	C区下層	〃	蓋	㉓			〃	S＞SS	A(S)～(L)微、B(S)少、D(S)少・(L)微、K多	100%
261	C 7	〃	D区中層、D区セク第3層	〃	鉢B(小形)	⑧	②		Ⅵ	S＞M	A(M)(L)少、B(S)(S)少、D(S)～(L)極多、E(S)～(L)少、K微	50%
262	B 3	〃	A区セク第5層、A区セク第3層	〃	鉢A(小形)	③⑦			Ⅱ	SS以下	AE(S)～(M)微	33%
263	D 2	第218図 P L.112	S K626セク西上層、セク西	弥生土器	広口壺A	⑦	④		Ⅱ	S＞M・L	A(S)～(L)中、C(S)～(L)少、D(S)～(L)極微、E(M)少、K中	67%
264	D 4	〃	S K626セク第2層	〃	〃	⑦	②		〃	SS以下	A(S)少、B(S)微、D(M)極微、K多	13%
265	B 1	〃	S K626セク東下層	〃	〃	②			〃	SS以下	A(S)～(L)少、B(S)～(S)微、K少	21%
266	D 3	〃	S K626セク第1層	〃	〃	⑨			〃	SS	A(S)～(L)中、B(S)微、D(S)(S)少、E(S)～(M)中、K多	8%
267	D 1	〃	S K626セク東上層	〃	広口壺B	②			〃	M	A(S)～(L)微、B(M)(L)微、D(M)微、E(S)～(L)少、K少	33%
268	B 2	〃	S K626セク西下層	〃	〃	④⑫⑦⑫			〃	SS以下	A(M)～(L)少、B(S)(S)少、D(M)微、E(M)(L)微、K多	25%
269	1	〃	S K626セク西	〃	短頸壺	⑤			Ⅳ	S＞M・L	A(S)～(L)中、D(S)少、K少	100%
270	2	〃	〃 〃	〃	〃	④			Ⅱ	SS	A(L)微、B(S)微、D(M)微、E(S)～(M)少、K多	8%
271	B 4	〃	S K626セク西下層	〃	大形鉢(底部)	⑤	①		Ⅲ	SS	A(S)(S)中・(L)(L)微、B(S)(S)少、E(S)～(L)中、K多	50%
272	B 3	〃	〃 〃 〃	〃	鉢A(小形)	⑪			Ⅱ	SS	D(S)(M)少、E(S)微	73%
273	3	〃	S K626セク西	〃	高坏A	⑨	⑨⑱		〃	SS	A(S)～(M)少、B(S)(S)微、D(S)微、K多	8%
274	B 5	〃 P L.112	S K626セク西下層	〃	〃	⑥	⑳		〃	SS以下	A(S)少・(L)微、D(S)(M)少、K多	54%
275	4	〃	S K626セク西	〃	脚台A	㉓㉓			〃	SS	A(S)～(M)少、B(S)(S)微、D(S)～(L)微、E(S)～(L)微	61%
276	5	〃	〃 〃	〃	〃	①	③		〃	SS以下	A(S)～(L)微、B(S)(S)少、E(S)～(M)微、K少	17%
277	B 6	〃	S K626セク西下層	〃	〃（裾部）	①	②⑤		〃	SS	A(S)～(L)中、B(S)(S)微、D(S)微、E(S)～(L)微、K中	21%
278	C 1	〃	S K627第2層中層	〃	広口壺A	⑩⑪			〃	SS	A(S)(M)微、B(S)(S)少、E(S)(S)微、K微	25%
279	C 2	〃 P L.112	S K627北第2層中層	〃	〃（裾部）	⑤①			〃	S	A(M)～(L)微、B(S)微	79%
280	D 1	〃 〃	S K627北第1層上層	〃	広口壺B	⑤②			〃	M	A(M)(L)微、B(S)(S)微、E(S)～(L)多	67%
281	D 2	〃	S K627南第1層上層	〃	二重口縁壺	⑤	⑥⑤		Ⅱ	SS以下	A(M)～(L)微、D(S)微、E(S)～(M)少、K少	25%
282	C 4	〃	S K627北第2層中層他	〃	甕A	⑥			〃	SS	A(S)～(L)少、B(S)～(M)微、D(S)(M)微、K微	17%
283	D 3	〃	S K627北第1層上層他	〃	〃	⑯㉑	④		Ⅳ	SS以下	A(S)～(M)中・(L)(L)微、B(S)～(M)微、E(S)～(L)少	25%
284	C 3	〃 P L.112	S K627北第2層中層他	〃	〃	⑥	①		Ⅱ	SS	A(M)～(L)少、B(M)～(L)微、E(S)～(L)多	46%
285	D 4	〃	S K627南第1層上層	〃	鉢B	⑤	⑪		〃	SS＞S	A(M)～(L)少、B(S)～(L)微	25%
286	4ソ1	第219図 P L.112	S K628セク第4層	〃	広口壺A	⑤			Ⅴ	SS以下	A(S)～(L)中、B(S)～(M)中、E(S)～(L)少	100%
287	4ソ2	〃	〃 〃	〃	短頸壺	⑦	㉒		Ⅱ	SS	A(L)微、B(S)中、E(S)～(L)中、K少	21%
288	B 1	〃 P L.112	S K628下層、下層北他	〃	甕B	⑤①			〃	SS以下	A(M)～(L)微、B(S)～(M)微、E(S)～(L)少	71%
289	1	〃	S K628西	〃	鉢B	⑱⑱			〃	SS以下	A(S)～(L)微、C(M)(L)微、D(S)～(M)少、E(S)(S)少、K微	23%
290	4ソ3	〃	S K628セク第4層	〃	鉢A	②⑤			〃	SS以下	A(S)(M)少・(L)微、C(M)微、E(S)少、K少	54%
291	4ソ4	〃 P L.112	〃 〃	〃	高坏A	⑤②			〃	SS以下	A(M)(L)微、B(S)(S)微、E(S)(M)微、E(S)(M)中、K中	49%
292	1	〃	S K632	〃	甕B	⑥⑨			Ⅳ	M	A(S)～(L)中・(L)少、D(S)微、E(S)(M)少、K多	42%
293	1	〃	S K656	〃	広口壺A	⑤①			Ⅴ	SS以下	A(S)～(L)多、C(S)～(L)少、E(S)(S)少	25%
294	2	〃	〃	〃	二重口縁壺	②			〃	SS	A(S)少、B(S)多、E(S)～(L)微、K少	4%
295	1	〃	S K668	〃	広口壺A	②⑤	②	㊷	Ⅱ	SS以下	A(S)(M)微、BE(S)(S)微、K少	33%
296	3	〃	〃	〃	広口壺B	①			Ⅳ	SS	A(M)(L)中・(L)極微、B(S)(S)少、C(S)(M)微、E(S)(S)微	38%
297	2	〃	〃	〃	〃	①			Ⅱ	SS以下	A(S)～(M)中、B(S)(S)少・(L)微、E(S)～(L)中、K中	54%
298	4	〃	〃	〃	脚台付壺	①			〃	SS以下	A(S)～(M)中・(L)(L)微、E(S)中	88%
299	1	〃	S X671南西第2層	〃	広口壺A	①	⑳		〃	S	A(S)～(L)中、B(S)(S)少、E(S)～(L)微	21%
300	2	〃	〃 〃	〃	甕A	②⑤			Ⅴ	SS以下	B(S)少、E(S)(M)中	13%
301	3	〃	〃 〃	〃	甕(底部)	⑤㉔②⑤			Ⅱ	M	A(M)(L)微、B(S)(S)微、D(M)(L)少、E(S)(S)極微	100%
302	1	〃	S X672北	〃	広口壺A	①⑤			〃	SS以下	A(S)～(M)少・(L)微、B(S)～(M)少、C(S)(S)微、E(S)(M)少、K中	8%
303	3	〃	〃 〃	〃	甕A	①			〃	SS	AD(S)(M)微、B(S)(S)少、E(S)(S)微	8%
304	4	〃	〃 〃	〃	高坏A	①			〃	SS	A(S)少、B(S)(S)微、E(S)(M)少、K少	8%
305	5	〃	〃 〃	〃	高坏(基部)	①			〃	SS	A(S)～(L)中、B(S)～(M)中、C(S)(M)微、D(S)(M)少、K中	100%
306	2	〃 P L.112	S X673北	〃	甕A	①			〃	SS	A(S)～(L)少、B(S)(M)少、C(M)極微、D(M)(L)微、E(S)(M)微	100%
307	1	〃 〃	S X673南	〃	〃	⑤①	⑰		〃	SS以下	D(M)微	81%
308	1	〃	S X679	〃	壺(底体部)	⑱⑫	⑱		〃	SS＞S	A(S)～(L)中・B(S)微、E(S)～(L)中、K多	75%
S D681												
309	B 2	第220図 P L.113	C 4区 下層E340～344他	弥生土器	広口壺A	①			Ⅱ	SS以下＞SS	A(S)～(M)少、B(S)～(M)微、D(S)～(M)・L微、E(S)～(L)少	100%
310	B 1	〃 〃	C 5区 下層E368～370他	〃	〃	⑥			〃	SS以下	A(S)(S)少、D(S)微、K中	77%
311	B13	〃 〃	〃 下層E368～370	〃	広口壺B	⑤			〃	SS以下	A(S)～(M)微、BC(S)(S)少、E(S)～(M)多	25%
312	B 3	〃	C 4区 下層E336～340他	〃	〃	⑤			Ⅵ	SS＞S	A(S)～(L)多、B(S)～(L)中、CE(S)～(L)多、K微	81%
313	B 4	〃 P L.113	〃 下層E330他	〃	広口長頸壺	⑨⑰			Ⅱ	SS以下	A(S)～(M)少・(L)微、B(S)～(M)少、E(S)～(L)少、K多	44%
314	B 5	〃 〃	〃 下層E344～348他	〃	脚台付短頸壺	①			〃	SS以下	AE(S)(S)微、C(S)微	14%
315	B 6	〃	〃 下層E330	〃	小形壺	⑩	⑥		〃	SS以下	B(S)～(M)少、K中	92%
316	B 7	〃	〃 下層E340～344	〃	甕A	①	①⑥		Ⅷ	L＞M	A(S)～(L)中・(L)微、B(S)少、D(S)～(L)極多、K多	92%
317	B 8	〃 P L.113	〃 下層E344～348	〃	〃	⑤⑱			Ⅵ	S＞M	A(S)～(L)多、B(S)～(L)中、E(S)～(L)少・(L)微、K多	61%
318	B 9	〃	〃 下層E340～344	〃	〃	⑦	⑦⑱		Ⅱ	SS以下	B(S)微、D(S)～(L)少、E(S)～(M)微、K中	90%
319	B15	〃	〃 下層E344～348他	〃	甕D	②①	①②		〃	SS	BC(S)～(M)少、E(S)(S)少、K多	82%
320	B10	〃	C 5区 下層E365他	〃	高坏A	②①	⑳		Ⅳ	S＞LL	A(S)～(L)中、B(S)～(L)少、D(S)(M)微、E(S)～(M)少	72%
321	B12	〃 P L.113	C 4区 下層E344～348他	〃	〃	②④			Ⅱ	SS以下	A(S)～(M)中・(L)少、B(S)～(M)少、D(S)～(L)微、E(S)～(L)少、K中	96%
322	B14	〃	C 3区 下層―16	〃	高坏B	③④			〃	SS	D(S)～(M)微、E(S)(M)少	67%
323	B11	〃	C 4区 下層E344～348他	〃	〃	⑥			〃	SS以下	A(S)少、D(S)微、K多	51%
324	C 2	〃 P L.114	C5区 中層E354.5～355地点	〃	広口壺A	⑤	①⑦		Ⅲ	SS以下	A(S)～(L)中、B(S)～(M)少、C(S)～(L)少、E(S)～(M)中、K多	61%
325	C 1	〃	〃 中層	〃	〃	①	①⑦		Ⅱ	SS以下	A(M)～(L)中、B(S)～(L)少、D(S)～(L)少、E(S)(M)微	82%

出土遺物観察一覧 No.41

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
326	C35	第221図 PL.114	C4区 中層E316～320	弥生土器	広口壺A	④①①⑱	Ⅲ	SS以下	A⑤⑤中、B⑤微、D⑤Ⓜ少・Ⓛ微、E⑤⑤中	100%
327	C 4	〃 〃	C5区 中層E362 S31	〃	広口壺B	⑨①①⑤	Ⅳ	SS以下＞S	A⑤～Ⓛ多、B⑤～Ⓛ少、D⑤Ⓜ微、E⑤～Ⓛ多	88%
328	C 3	〃 〃	〃 中層E357	〃	〃	⑥①	Ⅱ	SS以下	A⑤～Ⓛ中、D⑤Ⓜ中・Ⓛ微、K多	100%
329	C 5	〃	〃 中層E349～350	〃	〃	①	〃	SS以下	ABDE⑤～Ⓜ少、K中	97%
330	C36	〃 PL.114	C4区 中層E324～328他	〃	〃	⑪ ⑦②	〃	SS以下	A⑤～Ⓜ少、B⑤～Ⓜ微、D⑤⑤微、E⑤Ⓛ少	83%
331	C53	〃 〃	C3区 中層E367 地点	〃	〃	⑪② ②⑤	Ⅶ	SS以下＞SS	A⑤～Ⓜ多、BE⑤⑤少、D⑤⑤中	83%
332	C37	〃 〃	C5区 中層E355～356	〃	〃	⑥⑤	Ⅱ	SS以下	A⑤Ⓜⓛ微、B⑤⑤微、E⑤～Ⓜ少	13%
333	C40	〃 PL.115	〃 中層E353.7 地点	〃	長頸壺	②⑤	Ⅲ	SS以下	A⑤⑤少・Ⓛ微、BD⑤少、E⑤～Ⓜ少	78%
334	C39	〃	〃 中層E370 地点	〃	〃	⑤⑧	Ⅵ	SS以下＞SS	B⑤～Ⓜ多・Ⓛ微 C⑤Ⓜ微、D⑤Ⓜ少・Ⓛ微、E⑤微	81%
335	C33	第222図 PL.115	〃 中層E363.7 地点	〃	二重口縁壺	⑪⑯①⑤	Ⅱ	SS以下	A⑤Ⓜ中・ⓁⓁ微、B⑤少、E⑤～Ⓛ中、K中	64%
336	C38	〃 〃	C3区 中層－7	〃	広口長頸壺	① ⑥⑤	〃	SS	A⑤⑤中・Ⓛ微、B⑤少、E⑤⑤少、K中	85%
337	C 6	〃	C5区 中層E366 地点	〃	〃	①⑧	〃	SS＞S	AD⑤Ⓜ微、B⑤⑤少、E⑤～Ⓛ微、K中	33%
338	C 7	〃	〃 中層E362 地点	〃	〃	⑥	〃	SS以下	A⑤～Ⓜ少・Ⓛ微、E⑤～Ⓜ微、K中	50%
339	C41	〃	〃 下層～中層E364～365	〃	短頸壺	⑤①	〃	SS以下＞SS	A⑤⑤中・Ⓛ微、D⑤～Ⓛ少・Ⓛ微、EⓂ微	54%
340	C46	〃 PL.115	〃 中層E352～353他	〃	〃	⑪④②④	Ⅳ	S＞SS	AE⑤Ⓜ中、B⑤～Ⓛ少、D⑤～Ⓛ中	81%
341	C 8	〃 〃	〃 中層E356.7 地点	〃	脚台付細頸壺	①②①⑭	Ⅱ	SS以下	A⑤少、B⑤微、D⑤Ⓜ少、K中	61%
342	C10	〃	〃 中層E356.5 地点	〃	〃	①②	〃	SS以下	A⑤～Ⓜ微、D⑤⑤微、E⑤⑤少、K多	57%
343	C42	〃	C3区 中層－25他	〃	脚台付太頸壺	②	〃	SS以下	A⑤～Ⓜ少・Ⓛ微、BDE⑤⑤微	54%
344	C11	〃 PL.115	〃 中層E307.4 地点	〃	細頸壺	①⑤	〃	SS以下	A⑤～Ⓛ微、B⑤⑤微、DⓂⓁ微、E⑤Ⓜ微	69%
345	C14	第223図 PL.116	C4区 中層E344～348他	〃	甕A	⑦⑩	Ⅶ	SS＞S	A⑤～Ⓜ多、BⓂⓁ少、D⑤～Ⓛ多・Ⓛ微、E⑤Ⓜ微	83%
346	C13	〃	C5区 中層E359.5 地点	〃	〃	⑯ ⑥④	Ⅱ	L	BⓂⓁ微、DⓁⓁ少、K多	86%
347	C12	〃 PL.116	〃 下・中層E357～358	〃	〃	①⑱	〃	SS以下	A⑤～Ⓜ少、BD⑤⑤微、E⑤～Ⓜ微、K多	92%
348	C15	〃 〃	C4区 中層E324～328他	〃	甕B	⑤⑱	〃	S＞L	A⑤～Ⓛ少、B⑤Ⓜ微、D⑤～Ⓛ中、K中	89%
349	C43	〃 〃	C5区 中層E353.3 地点	〃	〃	⑥ ⑤	〃	S	A⑤～Ⓜ少・ⓁⓁ微、D⑤Ⓜ微、E⑤⑤微	67%
350	C45	〃 〃	〃 中層E357 地点	〃	〃	⑳ ⑥①	〃	SS	AD⑤～Ⓛ少、B⑤Ⓜ微	82%
351	C16	〃	〃 中層E352.9 地点	〃	〃	①④	〃	SS以下	A⑤⑤少、B⑤⑤微、E⑤中	72%
352	C17	〃 PL.116	〃 中層E352～353	〃	〃	①②	Ⅵ	M	A⑤少、B⑤中、CE⑤Ⓜ少、D⑤～Ⓛ中・Ⓛ少、K中	94%
353	C18	〃	〃 中層E356～356.5	〃	甕D（E）	②	Ⅱ	S	A⑤Ⓜ微、B⑤Ⓜ少、D⑤～Ⓛ中	21%
354	C23	〃 PL.117	C4区 中層E350～351他	〃	鉢A(把手付)	⑰④	Ⅳ	SS	A⑤⑤多・Ⓜ～Ⓛ微、D⑤Ⓜ微、E⑤～Ⓛ少	75%
355	C54	〃	C5区 中層E352～353	〃	〃（ 〃 ）	②⑤	Ⅴ	SS以下多	A⑤⑤中・Ⓛ微、B⑤少、D⑤Ⓜ少 E⑤～Ⓜ少	29%
356	C21	〃 PL.117	〃 中層E366.5 地点	〃	鉢B	⑨⑩	Ⅱ	SS以下	A⑤～Ⓜ少・Ⓛ微、D⑤Ⓜ少	42%
357	C22	〃	〃 中層E357.5 地点	〃	〃	⑩ ⑧⑭	Ⅳ	SS以下	A⑤～Ⓛ少、B⑤～Ⓛ中、C⑤⑤少、D⑤～Ⓛ少、E⑤～Ⓜ、F⑤微	63%
358	C30	〃	〃 中層E353 地点	〃	脚台A	①	Ⅱ	SS以下	A⑤⑤中、B⑤～Ⓜ微、D⑤⑤微、E⑤～Ⓜ少、K微	100%
359	C48	第224図 PL.117	〃 中層E359.7 地点	〃	高坏A	⑳	〃	SS以下	A⑤⑤少、E⑤～Ⓜ中、K中	15%
360	C24	〃 〃	C5区 中層E356地点他	〃	〃	① ①⑥	〃	SS	AE⑤～Ⓛ中、B⑤⑤少、C⑤～Ⓛ少、D⑤微、K微	56%
361	C29	〃	〃 中層E352～353他	〃	〃	①② ⑯	〃	SS以下	A⑤⑤微、DⓂⓁ微	51%
362	C50	〃	〃 中層E356	〃	〃	⑥④ ⑤	〃	SS以下	A⑤～Ⓜ中・ⓁⓁ微、B⑤Ⓜ少、C⑤Ⓜ微、E⑤～Ⓛ中、K多	86%
363	C49	〃	〃 中層E355～356他	〃	〃	①④	〃	SS以下	A⑤～Ⓜ微、B⑤～Ⓜ少、D⑤微、E⑤S微、K微	45%
364	C47	〃 PL.117	C3区 中層－8	〃	〃	④⑤	〃	SS以下	A⑤微、E⑤⑤少、K多	34%
365	C32	〃	C5区 中層E353～354	〃	〃	⑥	〃	M	AE⑤Ⓜ少、B⑤～Ⓛ少、DⓂⓁ中	67%
366	C26	〃	〃 中層E362～364	〃	〃	⑥	〃	SS	A⑤⑤少・Ⓛ極微、B⑤少、E⑤～Ⓛ少、K中	88%
367	C28	〃 PL.117	〃 中層E355～356他	〃	高坏B	⑰	〃	SS以下	A⑤⑤少、K中	56%
368	C31	〃 〃	〃 中層E353	〃	〃	①④	〃	SS	A⑤～Ⓛ少、B⑤～Ⓛ微、D⑤Ⓜ微、K多	63%
369	C25	〃	〃 中層E353～354	〃	〃	⑱④ ①	〃	SS以下	A⑤⑤少、E⑤～Ⓛ中	69%
370	C27	〃 PL.117	C3区 中層－5	〃	〃	⑤⑱	〃	SS以下	A⑤⑤微、E⑤⑤少、K多	63%
371	C52	〃	C4区 中層E324～328	〃	蓋	⑱⑥ ㉓	〃	SS	AB⑤微	46%
372	C51	〃	C3区 中層－A	〃	〃	⑦⑱	Ⅴ	SS	A⑤～Ⓜ少、B⑤微、D⑤⑤微、E⑤～Ⓛ少、K少	2%
373	C34	〃	〃 中層－4他	〃	手焙形土器	⑧⑩	Ⅱ	SS以下	AB⑤～Ⓜ少、CⓁ微、D⑤Ⓜ微、E⑤Ⓜ少、K多	63%
374	C19	〃	C5区 中層E353.5	〃	甑	②	〃	SS以下	ABE⑤～Ⓜ少、D⑤Ⓜ中	69%
375	C20	〃	C3区 中層－14	〃	〃（底体部）	⑤	〃	SS	AD⑤～Ⓛ中・Ⓛ微、B⑤Ⓜ少、E⑤～Ⓜ少、K少	100%
376	1	第225図 PL.118	C3区	〃	広口壺A	⑥⑪⑥④	〃	SS以下	A⑤～Ⓛ微、B⑤～Ⓛ少、CⓁ微	62%
377	D21	〃 〃	C4区 上層E344～348	〃	広口壺B	⑥ ⑤	〃	SS以下	A⑤～Ⓜ中・Ⓛ微、B⑤～Ⓜ少、D⑤微、E⑤⑤微	100%
378	D 1	〃 〃	〃 上層E336～340	〃	〃	①⑤⑤①	〃	SS以下＞SS	A⑤～Ⓛ少、BD⑤⑤少、C⑤～Ⓛ微	52%
379	D 3	〃 〃	〃 上層E316～320	〃	二重口縁壺	②⑤	〃	SS	A⑤～Ⓛ中・Ⓛ少、B⑤～Ⓛ少、D⑤～Ⓛ少、E⑤～Ⓛ中、K中	96%
380	D 4	〃 〃	〃 上層E316～320他	〃	〃	② ①⑩	〃	SS	A⑤～Ⓛ中、B⑤Ⓜ少、CⓂ少、E⑤～Ⓛ微、K少	65%
381	D 5	第226図	〃 上層E336～340他	〃	〃	①⑤①⑦	〃	S	A⑤～Ⓜ少・ⓁⓁ微、R⑤～Ⓛ微、D⑤～Ⓜ微、E⑤Ⓜ微	46%
382	D 2	〃	〃 上層E336～340他	〃	〃	①	〃	SS＞S	AB⑤Ⓜ少、DⓂ微、E⑤～Ⓛ中	100%
383	D 6	〃 PL.118	〃 上層E316～320	〃	〃	⑥⑨	〃	SS以下	A⑤～Ⓜ中、B⑤Ⓜ微、E⑤⑤微	75%
384	D22	〃	〃 上層E336～340	〃	〃	①②	〃	SS以下	D⑤少・Ⓛ微、E⑤⑤中	67%
385	D 7	〃	〃 上層E336～340	〃	長頸壺	⑮ ④	Ⅸ	SS＞S	A⑤～Ⓜ中・Ⓛ微、B⑤～Ⓜ少、E⑤⑤多、K少	44%
386	D 8	〃 PL.119	〃 上層E316～320	〃	広口長頸壺	①①②④	Ⅲ	SS以下	A⑤Ⓜ中・Ⓛ少、B⑤Ⓜ少、CⓂ微、E⑤～Ⓛ中、K中	48%
387	D 9	〃	C5区 上層E367地点	〃	〃	①	Ⅱ	SS以下	A⑤～Ⓜ中・Ⓛ微、B⑤～Ⓜ少、D⑤Ⓜ微、E⑤～Ⓛ中、K極微	75%
388	D10	〃 PL.119	〃 上層E356～358	〃	脚台付太頸壺	①	Ⅲ	SS	A⑤～Ⓛ中・Ⓛ微、B⑤～Ⓛ少、C⑤Ⓜ少・Ⓛ微、D⑤～Ⓛ中、E⑤Ⓜ微	84%
389	D11	第227図 〃	C4区 上層E344～348他	〃	甕A	⑯⑤⑦②	Ⅱ	S＞LL	A⑤～Ⓜ中・ⓁⓁ少、B⑤～Ⓛ微、D⑤～Ⓛ微、K多	71%
390	2	〃	C5区 東壁	〃	甕B	②①	〃	M	B⑤Ⓜ微、CⓂⓁ微、D⑤～Ⓛ少・Ⓛ微	81%
391	3	〃	〃 E356～358？	〃	〃	⑤ ⑥⑤	Ⅳ	M＞LL	A⑤～Ⓛ中、B⑤～Ⓛ少、C⑤微、D⑤～Ⓛ中、E⑤Ⓜ少、K少	97%
392	4	〃	〃 E356～356.5	〃	〃	⑫	〃	S＞M	A⑤～Ⓛ中、D⑤Ⓜ少	73%
393	5	〃	〃 E356～356.5	〃	甕D	⑥	Ⅱ	M＞S	A⑤Ⓜ微、B⑤Ⓜ少、D⑤Ⓜ中	42%
394	D17	〃 PL.119	C4区 上層E344～348	〃	鉢B（大形）	①	〃	SS＞S	A⑤～Ⓛ中・Ⓛ微、B⑤～Ⓜ少・Ⓛ微、E⑤～Ⓛ少	89%
395	D19	〃	〃 上層E340～344	〃	鉢A（小形）	①	〃	SS以下	A⑤～Ⓛ少、B⑤微、E⑤～Ⓜ少、K中	65%

出土遺物観察一覧 No.42

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
396	D18	第227図	C 4区 上層E340～344	弥生土器	鉢B	⑧⑧⑦⑧	Ⅳ	SS＞S	A Ⓢ～Ⓜ多・Ⓛ Ⓓ少、C Ⓜ微、E Ⓢ～Ⓛ少、K少	57%
397	6	〃 PL.119	〃 E349～350	〃	鉢A（C）	⑥	Ⅱ	SS以下	A Ⓜ～Ⓓ少、B Ⓢ～Ⓛ微、K少	88%
398	D12	〃 〃	〃 上層E344～348	〃	高坏A	①⑤	〃	SS以下	A Ⓢ～Ⓛ少、B Ⓢ～Ⓜ少、E Ⓢ Ⓜ少、K少	94%
399	7	〃	C 3区	〃	〃	⑥①	〃	SS以下＞SS	AB Ⓢ～Ⓜ少、D Ⓢ Ⓜ微、K少	71%
400	D13	〃 PL.119	C 4区 上層E316～320	〃	〃	①②	〃	SS以下	A Ⓢ Ⓜ少・Ⓛ極微、E Ⓢ～Ⓛ中、K中	73%
401	D14	〃	〃 上層E347～348	〃	高坏B	⑥③	Ⅴ	SS以下	A Ⓢ～Ⓛ中、B Ⓢ～Ⓛ少、D Ⓢ Ⓜ微、E Ⓢ微、K少	75%
402	D15	〃	〃 上層E316～320	〃	〃	①②⑥①	Ⅱ	SS以下	A Ⓢ Ⓢ中、BD Ⓢ～Ⓜ微、E Ⓢ Ⓜ微	78%
403	D20	〃 PL.119	〃 上層E316～320他	〃	舟形土製品	② ⑩	〃	SS以下	BE Ⓢ Ⓢ微	—
SD687										
404	B 3	第228図	下層E258 S13他	弥生土器	広口壺B	⑦⑤⑦⑮㉔	Ⅱ	SS以下	A Ⓢ～Ⓜ中・Ⓓ微、D Ⓢ少・Ⓛ極微、E Ⓢ～Ⓓ少、K多	65%
405	B 1	〃 PL.120	下層E237.7 S31.9 地点	〃	〃	㉔⑩⑤②	Ⅲ	SS＞S	A Ⓢ～Ⓛ多、BE Ⓢ～Ⓛ中、C Ⓢ～Ⓛ少、D Ⓢ～Ⓜ微	13%
406	B 2	〃 〃	下層E254.8 S15.8 地点	〃	〃	⑯ ㉑	〃	SS	A Ⓢ多・Ⓜ微、B Ⓢ Ⓢ少、C Ⓢ Ⓢ微、D Ⓢ～Ⓜ微	100%
407	D 1	〃	上層E258 S13	〃	広口壺C	②⑤	Ⅱ	SS以下	A Ⓢ少、B Ⓢ微、C Ⓢ極微、E Ⓢ Ⓜ少、K多	29%
408	1	〃	E254S17	〃	二重口縁壺	⑧③	〃	SS	A Ⓢ～Ⓛ少、B Ⓢ～Ⓜ少、D Ⓢ微、E Ⓢ～Ⓛ多	13%
409	B 4	〃	下層E246 S25	〃	短頸壺	③ ③⑯	〃	SS以下	A Ⓢ Ⓢ少、B Ⓢ少、D Ⓢ～Ⓓ少、K中	25%
410	B 6	〃	下層E238.1 S31.5 地点他	〃	細頸壺	⑧②	〃	SS以下	AD Ⓢ～Ⓜ微、B Ⓢ微、E Ⓢ～Ⓜ少	50%
411	B 7	〃	下層E237.2 S31.9 地点他	〃	甕A	⑤⑧	〃	SS以下	A Ⓢ～Ⓜ少、D Ⓢ微、E Ⓢ～Ⓜ中、K中	50%
412	B 8	〃	下層E236.9 S33.2 地点	〃	〃	⑤ ④	〃	S	AE Ⓢ Ⓜ少、B Ⓢ～Ⓜ微、C Ⓛ微、K微	33%
413	B 9	〃 PL.120	下層E254.2 S16.7 地点他	〃	甕B	⑨⑤	〃	M＞S	ABE Ⓢ～Ⓜ少、D Ⓢ Ⓜ中	52%
414	B10	〃 〃	下層E242 S29他	〃	〃	⑤ ②⑤	〃	S	A Ⓢ～Ⓜ少・Ⓓ極微、B Ⓢ微、D Ⓢ Ⓢ少、E Ⓢ Ⓜ中、K中	48%
415	D 2	〃	上層北壁、上・下層E258S9北壁	〃	〃	⑧⑤	Ⅴ	S＞M	A Ⓜ～Ⓓ中、B Ⓢ微、D Ⓢ Ⓜ少、E Ⓢ～Ⓓ少	23%
416	B11	〃	下層E237.7 S31.8 地点	〃	甕D	⑭⑨ ②	Ⅱ	M	AD Ⓢ～Ⓜ少、BE Ⓢ～Ⓜ微、C Ⓢ Ⓢ微	38%
417	B12	〃 PL.120	下層E253.8 S16.8 地点	〃	鉢A	②⑤	Ⅴ	SS以下	A Ⓢ～Ⓛ少・Ⓓ微、B Ⓢ Ⓢ少、D Ⓢ Ⓜ微、E Ⓢ～Ⓛ多	88%
418	B13	〃 〃	下層E254 S16.5 地点	〃	鉢B	①	Ⅱ	SS以下	A Ⓢ Ⓜ微、D Ⓜ極微、E Ⓢ～Ⓛ少、K微	81%
419	B14	〃	下層E242 S29他	〃	〃	③ ⑬	〃	SS＞M	A Ⓢ～Ⓓ中、B Ⓢ～Ⓜ中、E Ⓢ～Ⓜ多	54%
420	2	〃	E246S25	〃	脚台A	①④	〃	SS以下	A Ⓢ Ⓢ少、B Ⓢ微、E Ⓢ少、K多	48%
421	B23	〃	下層E254.5 S16.5 地点	〃	〃	④②	〃	M＞S	A Ⓢ～Ⓓ中、B Ⓢ Ⓢ少、D Ⓢ Ⓜ微、E Ⓢ～Ⓜ微、K微	87%
422	D 3	〃	上層E254S17	〃	甑（底部）	⑧⑤	〃	SS	A Ⓢ～Ⓛ中、D Ⓢ Ⓢ微、E Ⓢ～Ⓜ少	100%
423	B15	〃	下層E238.1 S31.5 地点	〃	〃（ 〃 ）	⑭ ②	〃	S	AC Ⓢ Ⓢ極微、B Ⓢ Ⓢ微、E Ⓢ～Ⓜ中	100%
424	B16	第229図	下層E242 S29他	〃	高坏A	⑭⑦	〃	SS以下	A Ⓢ～Ⓜ微、B Ⓢ Ⓢ微、E Ⓢ～Ⓛ少	42%
425	B17	〃 PL.120	下層E237.2 S32.1 地点他	〃	〃	②	〃	SS＞M	A Ⓢ少・Ⓜ極微、B Ⓢ Ⓢ少、E Ⓢ～Ⓛ中、K中	58%
426	B19	〃 〃	下層E254.3 S16.4 地点	〃	高坏B	②⑤	Ⅲ	SS＞M	A Ⓢ～Ⓓ中、BC Ⓢ～Ⓛ中、D Ⓢ Ⓢ中、E Ⓢ～Ⓛ少	65%
427	B18	〃	下層E236.6 S 33地点	〃	高坏A	① ②	Ⅱ	SS＞S	A Ⓢ～Ⓜ中、B Ⓢ～Ⓜ少、C Ⓢ～Ⓜ微、D Ⓢ微、E Ⓢ～Ⓓ多、F微、K多	29%
428	B21	〃	下層E235.9 S33.8 地点	〃	高坏B	②③⑤③	Ⅲ	SS以下	A Ⓢ Ⓢ少・Ⓛ微、B Ⓢ Ⓢ微、D Ⓢ微、E Ⓢ～Ⓜ多、K多	17%
429	B20	〃	下層E236.4 S34.1 地点	〃	〃	①⑧	Ⅱ	SS＞S	A Ⓢ～Ⓓ少、B Ⓢ Ⓢ微、C Ⓓ極微、D Ⓢ～Ⓛ微、E Ⓢ～Ⓛ中、K微	13%
430	1	第229図	SD683 E254S13	弥生土器	細頸壺	⑨⑩ ③	Ⅱ	SS	A Ⓢ～Ⓜ中、B Ⓢ微、D Ⓢ Ⓢ少、E Ⓢ～Ⓜ少、K多	67%
431	1	〃	〃 〃 〃	〃	短頸壺（甕B？）	①	〃	SS以下	A Ⓢ Ⓜ少、B Ⓢ微	25%
432	D 1	〃	SD683上層E254S 9	〃	甕A	⑮	〃	SS以下	A Ⓢ Ⓢ微、K多	25%
433	D 2	〃	SD683上層E254S13	〃	甕B	⑤ ⑧	〃	SS以下	A Ⓢ Ⓢ中・Ⓓ微、D Ⓢ Ⓢ少、E Ⓢ～Ⓜ少、K多	4%
434	1	〃	SD684 E262S29	〃	広口壺A	②	〃	SS以下	A Ⓢ Ⓢ少、B Ⓢ Ⓢ微、E Ⓢ～Ⓜ中、K中	—
435	2	〃	SD686 E258S21	〃	甕A	②	〃	SS	A Ⓢ～Ⓓ少、D Ⓢ微、E Ⓢ Ⓢ微	8%
436	3	〃	〃 〃	〃	〃	③	〃	SS以下	A Ⓢ Ⓢ少、BE Ⓢ Ⓢ微、D Ⓢ微、K中	13%
437	4	〃	〃 〃	〃	〃	②	〃	SS以下	B Ⓢ極微	—
438	1	〃	SD688セクS26	〃	広口壺A	⑤ ①	〃	SS以下	A Ⓜ微、B Ⓢ少、E Ⓢ Ⓜ微、K微	17%
439	D 2	〃	SD688上層E250 S29	〃	器台B	⑨	〃	SS	A Ⓢ～Ⓛ少、B Ⓢ Ⓢ少、C Ⓢ Ⓢ微、D Ⓢ～Ⓛ微	8%
440	B 2	〃	SD688下層E242 S33	〃	器台（裾部）	①	〃	SS以下	A Ⓢ～Ⓛ少、B Ⓢ Ⓢ微、D Ⓢ微、K中	17%
441	1	〃	SD703 S21北	〃	広口壺A	⑦	〃	S	A Ⓢ～Ⓛ少、B Ⓢ微、D Ⓢ Ⓜ微、E Ⓢ～Ⓜ少、K微	17%
442	3	〃	〃 〃	〃	甕A	⑤	〃	SS	A Ⓢ～Ⓓ微、D Ⓢ Ⓢ少、E Ⓢ微	25%
443	2	〃	SD703 S29南	〃	壺（底部）	⑧	Ⅴ	SS	A Ⓢ～Ⓛ多、D Ⓢ～Ⓜ少、E Ⓢ～Ⓜ中、K少	50%
444	1	〃	SD704	〃	広口壺B	⑧ ①	Ⅱ	SS以下	A Ⓢ～Ⓛ中、C Ⓢ微、D Ⓢ～Ⓜ少、E Ⓢ～Ⓜ微、K少	21%
445	3	〃	〃	〃	甕A	①⑤	〃	SS以下	A Ⓢ～Ⓓ微、B Ⓢ Ⓢ微、E Ⓢ～Ⓛ微、K多	21%
446	1	〃	SD705北セク第3層	〃	広口壺B	② ①	〃	S	A Ⓢ～Ⓛ中、D Ⓢ Ⓜ少、E Ⓢ～Ⓜ少	17%
447	1	〃	SD706	〃	甕A	②	〃	S＞SS	A Ⓢ～Ⓜ少、BCD Ⓢ～Ⓜ微	21%
448	1	〃	SD708	〃	広口壺A	①	〃	SS	A Ⓢ少、BE Ⓢ Ⓢ微、K微	8%
449	5	〃	〃	〃	脚台B（手捏ね）	⑤ ㉑	〃	SS以下	A Ⓢ～Ⓜ微、B Ⓢ Ⓢ微	42%
450	3	〃	SD708南拡張区	土師器	甕B	㉓ ⑤	Ⅷ	M＞S	A Ⓢ～Ⓛ中、B Ⓢ Ⓜ微、D Ⓢ～Ⓛ多、E Ⓢ Ⓜ少	96%
451	1	〃	SD709南拡張区	弥生土器	広口壺A	⑤ ②	Ⅱ	SS以下	A Ⓢ～Ⓜ少・Ⓓ微、D Ⓢ Ⓜ微、E Ⓢ～Ⓜ少	17%
452	3	〃	SD709	〃	高坏A	② ②⑤	Ⅴ	SS以下	A Ⓢ Ⓢ微、B Ⓢ Ⓜ微、D Ⓛ微	2%
453	2	〃	〃	〃	甕（底部）	⑧	Ⅱ	SS以下	A Ⓢ～Ⓛ少、D Ⓢ Ⓢ微、E Ⓢ～Ⓜ少、K多	13%
454	1	〃	SD710	〃	二重口縁壺	⑧	〃	SS以下	A Ⓢ～Ⓛ少、B Ⓢ Ⓢ微、D Ⓢ微、E Ⓢ Ⓜ中	4%
455	1	〃	SD711（SK631内下）	〃	広口壺A	⑮⑤	Ⅲ	SS以下	A Ⓢ～Ⓜ中、C Ⓢ微、D Ⓢ～Ⓓ少、E Ⓢ Ⓢ微、K多	21%
456	2	〃	SD711（SK631の下）	〃	甕（底部）	②⑤ ⑫	〃	SS以下＞S	A Ⓢ～Ⓛ少、D Ⓢ～Ⓛ中、E Ⓢ～Ⓛ少、K中	71%
457	3	〃	〃 （ 〃 ）	〃	鉢（底部）	①	Ⅱ	SS以下	A Ⓢ～Ⓛ少、BD Ⓢ Ⓢ微、C Ⓓ微、E Ⓢ～Ⓜ微、K中	67%
SD702										
458	B 1	第230図 PL.121	下層No.10区画、No.2区画	弥生土器	広口壺A	⑭ ⑥⑤⑯	Ⅱ	SS	A Ⓢ～Ⓜ少・Ⓘ Ⓓ微、B Ⓢ Ⓜ少、E Ⓢ～Ⓛ少、K中	100%
459	B 4	〃 〃	下層No.15区画	〃	〃	㉑①	〃	SS以下	AD Ⓢ～Ⓜ微	94%
460	B 2	〃	下層No.10区画、No.7区画	〃	〃	①㉒	〃	SS以下	A Ⓢ～Ⓓ微、B Ⓢ Ⓢ微、D Ⓜ Ⓛ微、E Ⓢ Ⓜ微	67%
461	B11	〃	下層No.35区画	〃	〃	⑦⑯⑦⑫	〃	SS以下	A Ⓢ Ⓜ少・Ⓘ微、B Ⓢ微、C Ⓜ微、E Ⓢ Ⓢ微、K中	8%
462	B24	〃 PL.121	下層No.10区画	〃	〃	①	〃	SS以下	A Ⓢ少、B Ⓢ Ⓢ少、K中	100%

第ⅢC区

出土遺物観察一覧 No.43

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
463	B 3	第230図	下層北壁	弥生土器	広口壺A	⑩⑯	Ⅳ	SS以下	A⑤Ⓜ中・Ⓛ微、B⑤微、E⑤～Ⓛ中	92%
464	B 5	〃	下層No.33区画	〃	〃	①	Ⅱ	SS以下	B⑤～Ⓜ微、D⑤微、E⑤⑤微、K微	79%
465	B 6	〃 PL.121	下層No.4区画	〃	広口壺B	⑯②⑥①	Ⅲ	SS以下	A⑤⑤少、E⑤～Ⓜ少・Ⓛ微	82%
466	B 9	〃 〃	下層No.18区画	〃	〃	①⑰	Ⅱ	SS以下	A⑤⑤少、B⑤微、K多	82%
467	B 7	〃	下層No.2区画	〃	〃	①②	〃	SS以下	A⑤～Ⓛ微、B⑤Ⓜ微、D⑤～Ⓛ微	81%
468	B 8	〃 PL.121	下層No.4区画	〃	〃	⑪⑤①⑤	〃	SS以下	A⑤Ⓜ少・ⓁⓁ微、D⑤⑤微、E⑤Ⓜ微	82%
469	B12	第231図 〃	下層No.14区画、No.15区画	〃	〃	②①	〃	SS以下	A⑤Ⓜ中・Ⓛ微、CⓁ微、E⑤～Ⓜ少	79%
470	B10	〃 PL.122	下層No.12区画	〃	〃	㉑ ㉓㉕	Ⅷ	SS	A⑤Ⓜ中・ⓁⓁ微、BD⑤～Ⓛ少、C⑤～Ⓛ微、EⓂⓁ少、FⓂ～Ⓛ微	69%
471	B21	〃	下層No.13区画	〃	短頸壺(小形)	⑰⑤	Ⅲ	SS以下	A⑤Ⓜ少・ⓁⓁ微、B⑤～Ⓜ微、DⓂ微、E⑤Ⓜ中、K少	56%
472	B19	〃 PL.122	下層No.4区画	〃	短頸壺	⑥①⑥⑩	Ⅱ	SS以下	A⑤⑤少、E⑤微	14%
473	B23	〃	下層No.12区画、No.10区画	〃	〃	⑱③ ㉒	Ⅴ	SS以下	AB⑤～Ⓜ少、C⑤～Ⓜ微	32%
474	B20	〃 PL.122	下層No.7区画	〃	〃	①㉓	Ⅱ	SS以下	A⑤～Ⓛ微、DE⑤⑤微、K微	46%
475	B22	〃	下層No.2区画	〃	小形短頸壺	②	〃	SS以下	A⑤Ⓛ微、E⑤極微、K少	100%
476	B15	〃 PL.122	下層No.33区画、No.4区画他	〃	二重口縁壺	①② ⑮	〃	SS	A⑤～Ⓛ少、B⑤⑤少、E⑤～Ⓛ中、K中	79%
477	B14	〃 〃	下層No.12区画	〃	〃	①	〃	SS以下	A⑤～Ⓜ少・ⓁⓁ微、B⑤Ⓜ少、D⑤Ⓜ微、E⑤～Ⓜ多、K多	100%
478	B13	〃 〃	下層No.2区画、No.33区画	〃	〃	⑨⑤⑨⑭	〃	SS	A⑤～Ⓜ少・Ⓛ微、B⑤～Ⓜ少、K多	73%
479	B17	〃	下層No.13区画	〃	細頸壺	⑪ ⑥⑤	〃	SS以下	AB⑤～Ⓜ少、E⑤Ⓜ少	100%
480	B16	〃 PL.122	下層No.2区画	〃	〃	⑪①①⑤	〃	SS以下	B⑤～Ⓛ微、E⑤Ⓜ少	25%
481	B18	〃	下層No.15区画	〃	〃(頸体部)	⑤ ①	Ⅴ	SS以下	A⑤中・ⓁⓁ微、B⑤微、C⑤～Ⓛ少、E⑤Ⓜ多・Ⓛ微、K中	50%
482	B26	第232図 PL.123	下層No.2区画	〃	甕A	②	Ⅳ	L＞M	A⑤～Ⓛ少、C⑤Ⓜ少、D⑤～Ⓛ中、E⑤～Ⓛ中、K少	65%
483	B25	〃 PL.122	下層No.12区画	〃	甕B	⑥ ①	Ⅱ	SS＞S	A⑤～Ⓛ多、B⑤～Ⓛ少、D⑤～Ⓜ微、E⑤～Ⓛ中	65%
484	B28	〃	下層No.15区画	〃	甕A	⑤ ②	Ⅳ	SS以下	A⑤～Ⓛ中・Ⓛ微、B⑤～Ⓜ少、D⑤Ⓜ微、E⑤～Ⓛ中	86%
485	B27	〃	下層No.10区画	〃	〃	⑥⑨	〃	S＞SS	A⑤～Ⓜ中・ⓁⓁ微、B⑤～Ⓜ少、D⑤～Ⓜ中、E⑤⑤微	93%
486	B29	〃 PL.123	下層No.2区画	〃	〃	⑥⑤	Ⅱ	L＞LL	A⑤～Ⓛ中・Ⓛ微、B⑤～Ⓛ少、D⑤～Ⓛ多、E⑤～Ⓛ中、K中	100%
487	B30	〃 〃	下層No.10区画	〃	〃	①⑤	Ⅳ	SS＞S	A⑤～Ⓛ多、B⑤～Ⓜ少、D⑤Ⓜ微、E⑤～Ⓜ中、K多	93%
488	B32	〃 〃	下層No.12区画	〃	〃	① ①⑤	Ⅱ	SS以下	A⑤～Ⓜ少・ⓁⓁ微、B⑤微、CⓂ微、E⑤～Ⓜ中、K少	89%
489	B33	〃	下層No.2区画	〃	〃	①⑤	〃	SS以下	A⑤Ⓛ微、BD⑤Ⓜ微、E⑤～Ⓜ少、K中	94%
490	B34	〃	下層No.4区画	〃	〃	⑦⑤	Ⅴ	S＞M	A⑤～Ⓜ中・Ⓛ微、B⑤～Ⓛ微、D⑤～Ⓛ少	44%
491	B31	第233図 PL.124	下層No.2区画	〃	〃	⑤⑯	〃	SS以下	A⑤多・⑤～Ⓛ微、B⑤少・ⓂⓁ微	69%
492	B35	〃	下層No.15区画	〃	甕B	②⑤	Ⅳ	SS＞S	A⑤～Ⓜ中・Ⓛ微、B⑤Ⓜ微、D⑤Ⓜ少、Ⓛ微、E⑤～Ⓜ中	94%
493	B41	〃 PL.123	下層No.13区画、No.10区画	〃	〃	⑭⑰	Ⅷ	LL＞L	BⓂ～Ⓛ少、DⓂⓁ少、E⑤Ⓜ微	89%
494	B38	〃 〃	下層No.15区画	〃	甕D	⑦⑭	Ⅱ	SS	A⑤Ⓜ少・Ⓛ微、B⑤微、DⓁ微、K少	74%
495	B36	〃 PL.124	下層No.2区画、No.33区画	〃	〃	㊵	Ⅶ	SS	A⑤～Ⓛ中・Ⓛ微、B⑤～Ⓛ中、C⑤～Ⓛ少、E⑤～Ⓛ多	78%
496	B37	〃 〃	下層No.33区画、No.2区画	〃	〃	⑯⑰	Ⅱ	SS以下	A⑤～Ⓜ少・ⓁⓁ微、B⑤微、D⑤～Ⓛ微	76%
497	B47	〃	下層No.10区画	〃	甕B	②① ①	Ⅴ	SS以下	AⓂ～Ⓛ少、B⑤～Ⓜ少、D⑤～Ⓜ極微、E⑤～Ⓛ多	75%
498	B52	〃	下層No.12区画	〃	鉢B	⑥	Ⅱ	SS以下	A⑤～Ⓛ微、B⑤～Ⓜ微、C⑤～Ⓛ微、E⑤～Ⓛ中、K少	25%
499	B54	〃	下層No.4区画	〃	鉢A	④⑤	Ⅴ	SS以下	A⑤Ⓜ多・Ⓛ微、B⑤～Ⓛ少、D⑤Ⓜ少	94%
500	B48	〃 PL.124	下層No.12区画	〃	〃	①③	Ⅳ	SS＞S	A⑤Ⓜ中・Ⓛ微、DE⑤少、K少	86%
501	B53	〃	下層No.33区画	〃	〃	⑥	Ⅲ	SS以下	AE⑤～Ⓜ少、B⑤Ⓜ微、K中	79%
502	B49	〃 PL.124	下層No.13区画	〃	〃	⑤ ①④	Ⅱ	SS以下	A⑤Ⓜ少、B⑤⑤少、D⑤微、E⑤Ⓜ中、K中	100%
503	B51	〃 〃	下層No.12区画	〃	鉢B	①⑤	Ⅵ	SS＞S	A⑤Ⓜ多・Ⓛ微、B⑤～Ⓛ少、CⓂⓁ微、E⑤Ⓜ少	81%
504	B50	〃	下層No.33区画	〃	〃	①⑤	Ⅱ	SS以下	A⑤～Ⓜ少・ⓁⓁ微、B⑤～Ⓛ微、E⑤～Ⓛ微	90%
505	B55	〃 PL.124	下層No.19区画	〃	〃	⑤㊶ ①	〃	SS以下	A⑤Ⓜ多・ⓁⓁ微、D⑤Ⓜ少、K中	57%
506	B46	〃	下層No.19区画	〃	甑	②㉘	〃	SS以下	B⑤微、DⓂ微	52%
507	B45	〃	下層No.19区画	〃	〃	① ①⑤	Ⅴ	SS以下	A⑤～Ⓜ少・ⓁⓁ微、B⑤微、CⓂ微、E⑤～Ⓛ中、K中	69%
508	B66	第234図	下層No.10区画	〃	高坏A	⑫⑤⑥⑤	Ⅱ	SS以下＞SS	A⑤Ⓜ少・Ⓛ微、B⑤微、E⑤～Ⓜ少	47%
509	B60	〃 PL.125	下層No.2区画	〃	〃	⑥ ②⑤	〃	SS以下	AD⑤～Ⓜ微、BCE⑤～Ⓜ少	71%
510	B62	〃	下層No.2区画	〃	〃	①	〃	SS以下	A⑤Ⓜ少・Ⓛ微、B⑤微、E⑤～Ⓛ中	67%
511	B64	〃	下層No.10区画	〃	〃	①⑥	〃	SS以下	A⑤⑤中・ⓁⓁ微、DⓂ極微、E⑤～Ⓛ少	71%
512	B57	〃 PL.125	下層No.10区画	〃	〃	⑥①⑭	〃	SS以下	A⑤⑤少・Ⓜ微、B⑤少、E⑤Ⓜ少、K少	57%
513	B63	〃	下層No.33区画	〃	〃	①㉓	〃	SS以下	A⑤～Ⓜ少・ⓁⓁ微、B⑤⑤微、E⑤～Ⓜ微	61%
514	B58	〃	下層No.10区画	〃	〃	⑥①	〃	SS	A⑤Ⓜ中・ⓁⓁ少、B⑤少、E⑤Ⓜ少、K中	77%
515	B65	〃	下層No.10区画	〃	〃	④㉘	〃	SS以下	A⑤Ⓜ少、B⑤～Ⓛ微、C⑤⑤微、E⑤～Ⓜ少	42%
516	B59	〃 PL.125	下層No.10区画、No.11区画	〃	〃	⑰⑤	〃	M	B⑤少、EⓂⓁ中	55%
517	B67	〃	下層No.12区画	〃	〃	⑤④		SS以下	ADⓈⓂ少、B⑤⑤微、E⑤～Ⓜ少	50%
518	B61	〃 PL.125	下層No.10区画	〃	〃	②	Ⅴ	SS＞S	A⑤～Ⓜ少・Ⓛ微、B⑤～Ⓛ少、CⓁ微、E⑤～Ⓜ中、K微	81%
519	B69	〃 〃	下層No.15区画	〃	高坏A(変形)	①⑤	Ⅶ	SS	A⑤～Ⓛ中、B⑤Ⓜ少、CⓂ微、E⑤Ⓜ中、K少	56%
520	B70	〃 〃	下層No.15区画	〃	高坏B	①	Ⅴ	SS＞S	A⑤～Ⓛ中、B⑤～Ⓜ少、D⑤Ⓜ微、E⑤⑤微	61%
521	B68	〃	下層No.10区画	〃	〃	①	Ⅱ	SS以下	AE⑤Ⓜ少、K中	50%
522	B71	〃	下層No.33区画	〃	〃	⑦⑤	Ⅲ	SS以下＞SS	A⑤～Ⓜ中・Ⓛ微、B⑤⑤Ⓛ少、DⓁ微	88%
523	B72	〃 PL.125	下層No.12区画	〃	手焙形土器	⑯ ⑯⑭	Ⅱ	SS以下	A⑤⑤少・ⓁⓁ微	67%
524	C19	第235図	中層No.15区画	〃	広口壺A	①	〃	SS＞S	A⑤⑤Ⓛ微、BD⑤⑤微、E⑤～Ⓜ中・Ⓛ微、K少	33%
525	C 3	〃 PL.126	中層No.19区画	〃	〃	①㉓	〃	SS以下	A⑤～Ⓜ少、BE⑤～Ⓜ微、D⑤⑤微、K少	71%
526	C 1	〃 〃	中層No.6区画	〃	〃	②	〃	SS以下	A⑤～Ⓜ少・ⓁⓁ微、B⑤～Ⓜ微、E⑤～Ⓛ少	86%
527	C 2	〃 〃	中層No.4区画	〃	〃	②⑤①⑤	〃	SS以下＞SS	A⑤Ⓜ少・Ⓛ微、E⑤～Ⓛ中、K少	60%
528	C 4	〃 〃	中層No.10区画	〃	〃	① ⑮	〃	SS	A⑤Ⓜ少、B⑤極微、E⑤～Ⓛ多	67%
529	C 5	〃 〃	中層No.4区画	〃	〃	②㉕	Ⅳ	S	A⑤～Ⓜ中・ⓁⓁ微、B⑤Ⓜ微、E⑤～Ⓜ少、K多	100%
530	C12	〃	中層No.19区画	〃	〃	①⑯	Ⅱ	SS以下	A⑤～Ⓛ少、B⑤～Ⓜ微、E⑤～Ⓜ微	100%
531	C 6	〃	中層No.12区画	〃	〃	①	〃	SS	A⑤～Ⓛ少、BE⑤～Ⓜ微、D⑤⑤微、K微	100%
532	C14	〃 PL.126	中層No.19区画	〃	広口壺B	①④	〃	SS＞S	A⑤～Ⓛ少、B⑤～Ⓛ少・Ⓛ微	33%

出土遺物観察一覧 No.44

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	品種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
533	1	第235図	埋土No.7区画、No.35区画	弥生土器	広口壺B	⑪ ①⑤	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓜ中・Ⓛ⑪微、B㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓛ少	76%
534	C20	〃	中層No.33区画	〃	〃	①㉝	〃	SS以下	A㊎～⑪微、B㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓜ少、K少	63%
535	C 8	第236図 PL.126	中層No.6区画	〃	〃	① ⑥①	〃	SS以下	A㊎～Ⓛ少・⑪微、D㊎Ⓜ少、E㊎～Ⓛ少	76%
536	C 7	〃 〃	中層No.10区画	〃	〃	①	Ⅲ	SS以下	A㊎㊎多、B㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓛ多、K微	86%
537	C10	〃	中層No.33区画	〃	〃	①	Ⅱ	SS以下	A㊎㊎微、B㊎～㊎微、E㊎～Ⓜ微、K多	57%
538	C 9	〃 PL.127	中層No.2区画	〃	〃	④㉔㉜⑤	Ⅴ	SS以下	A㊎㊎中・⑪微、B㊎㊎少、C㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓜ少	92%
539	C11	〃	中層No.33区画	〃	〃	⑭⑯ ⑭	Ⅶ	SS＞S	A㊎Ⓜ多・Ⓛ微、B㊎Ⓜ少、E㊎㊎少、K少	38%
540	C13	〃	中層No.18区画、No.19区画	〃	〃	㊱⑰ ㊱	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓛ中・Ⓛ⑪微、B㊎Ⓜ少、E㊎～Ⓛ中、K多	71%
541	C18	〃 PL.127	中層No.33区画	〃	短頸壺(小形)	①㉝	〃	SS＞S	A㊎～Ⓜ少、B㊎㊎微、D㊎～Ⓜ少・Ⓛ極微、K中	90%
542	C17	〃 〃	中層No.10区画	〃	広口長頸壺	⑥ ⑥⑤	Ⅲ	SS以下	A㊎～Ⓜ中・Ⓛ⑪微、B㊎少、C㊎Ⓛ微、E㊎Ⓜ少、K中	79%
543	C16	〃	中層No.19区画	〃	〃	②⑤	〃	SS以下	A㊎㊎少、BD㊎～Ⓜ少、E㊎中、K少	54%
544	C15	〃 PL.127	中層No.13区画	〃	細頸壺	⑦㊶⑦⑤	Ⅴ	SS以下	A㊎㊎少・Ⓛ微、B㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓛ中	54%
545	C23	第237図 〃	中層No.2区画	〃	甕A	②	Ⅱ	SS以下	A㊎㊎少、K中	100%
546	C22	〃 〃	中層No.33区画	〃	〃	⑥⑤	〃	SS以下	A㊎～Ⓛ中・⑪微、BE㊎～Ⓜ少、D㊎～Ⓛ少、K中	82%
547	C26	〃	中層No.7区画	〃	甕A(B)	②⑤ ㉝	Ⅴ	SS以下	B㊎㊎中、CDE㊎～Ⓜ少、D⑪微	64%
548	C25	〃 PL.128	中層No.10区画	〃	〃(〃)	⑨ ③	〃	SS以下	A㊎～Ⓜ多、B㊎～Ⓛ中、DⓂⓁ少	76%
549	C27	〃 〃	〃	〃	甕A	①②	Ⅱ	M＞S	A㊎～Ⓛ少、B㊎～Ⓜ少、D㊎Ⓛ少、E㊎Ⓜ中	100%
550	C28	〃	〃	〃	〃	⑥ ⑤②	〃	SS以下	A㊎～Ⓛ少・⑪微、B㊎～Ⓛ少、D㊎Ⓜ少	76%
551	C29	〃 PL.128	中層No.2区画、No.3区画	〃	甕A(B)	⑳②②⑭	Ⅴ	SS以下	ABD㊎～Ⓜ中、A⑪微、BDⓁ微	90%
552	C21	〃 〃	中層No.18区画	〃	甕B(A)	①	Ⅱ	L＞LL	AB㊎～Ⓛ少、DE㊎～Ⓛ中	89%
553	C31	〃 〃	中層No.2区画	〃	甕B	① ①⑤	〃	SS以下	A㊎㊎微、B㊎㊎少、C㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓜ中	64%
554	C33	〃	中層No.15区画	〃	〃	③ ②	〃	SS以下	A㊎～Ⓜ少・Ⓛ微、B㊎微、C⑪微、E㊎～Ⓛ少	78%
555	C30	〃	中層No.4区画	〃	〃	①⑲ ⑤	〃	SS以下	A㊎Ⓜ少・Ⓛ微、B㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓜ中、K少	67%
556	C32	〃	〃	〃	〃	②⑤	〃	SS以下	A㊎Ⓜ少、B㊎微、E㊎～Ⓜ中、K少	61%
557	C45	第238図 PL.128	中層No.10区画	〃	鉢A	⑥	〃	SS以下	A㊎～Ⓛ少、B㊎～Ⓛ少、E㊎～⑪中	57%
558	C46	〃	中層No.6区画	〃	〃	⑤	〃	SS以下	A㊎㊎少・ⓁⓁ微、B㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓛ多	59%
559	C48	〃	中層No.33区画	〃	〃	③⑩	〃	SS以下	AⓁⓁ少、BⓂⓁ微、F㊎微、K多	73%
560	C44	〃 PL.128	中層No.29区画	〃	〃	② ②④	Ⅵ	SS	A㊎～Ⓜ多・⑪少、BE㊎～⑪少	59%
561	C47	〃	中層No.13区画	〃	〃	① ②㉟	Ⅱ	SS以下	A㊎～⑪微、B㊎Ⓜ少、E㊎～Ⓛ少	59%
562	C43	〃 PL.129	中層No.32区画、No.33区画	〃	鉢B(大形)	①⑤	〃	SS以下	A㊎～Ⓛ中・⑫微、B㊎㊎少、D㊎Ⓜ少、E中、K多	86%
563	C49	〃	中層No.12区画	〃	〃(〃)	⑥	〃	SS	A㊎～Ⓜ少・⑪微、B㊎Ⓜ微、D㊎極微	27%
564	C50	〃 PL.128	中層No.33区画	〃	〃	⑪⑨⑭	〃	SS以下	AB㊎㊎少、E㊎Ⓜ微、K多	79%
565	C51	〃 PL.129	中層No.15区画	〃	〃	②⑭	Ⅲ	SS以下	A㊎～Ⓛ少・⑪微、B㊎少、E㊎～Ⓛ少、K中	86%
566	C53	〃	中層No.18区画	〃	〃	① ①㉝	Ⅱ	SS以下	A㊎～⑪微、B㊎～Ⓜ微、D㊎Ⓜ微、F⑪微、K微	86%
567	C52	〃 PL.129	中層No.2区画	〃	〃	② ②⑯	Ⅴ	SS以下	B㊎～Ⓜ少・⑪微、D㊎Ⓜ少・⑪微、E㊎～Ⓛ少	86%
568	C54	〃	中層No.10区画	〃	〃	②⑯②㉔	Ⅱ	SS以下	A㊎Ⓜ少・⑪微、E㊎～⑪中	100%
569	C55	〃	中層No.34区画	〃	〃	①	〃	SS	AⓂⓁ微、B㊎～Ⓜ少、D㊎～Ⓜ微	80%
570	C39	〃 PL.129	中層No.10区画	〃	甑	①⑯ ②	Ⅵ	L＞LL	AC㊎～⑪少、BE㊎～Ⓛ中、D㊎～Ⓛ少	65%
571	C40	〃	中層No.18区画	〃	〃	①㉚⑤②	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓜ微、B㊎～㊎微	52%
572	C42	〃	中層No.26区画	〃	甑（底部）	② ⑦	Ⅴ	SS以下	B㊎～Ⓜ中、C㊎～㊎少・Ⓛ微、E㊎～㊎微	100%
573	C41	第239図	中層No.19区画	〃	甑	①⑤	〃	SS以下	A㊎～Ⓜ中・Ⓛ⑪微、B㊎～Ⓛ少、E㊎～Ⓛ少	86%
574	C60	〃	中層No.29区画	〃	高坏A	①	Ⅲ	SS以下	AB㊎～㊎少、C㊎～㊎微	58%
575	C56	〃 PL.129	中層No.22区画	〃	〃	①②	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓛ少、B㊎～Ⓛ微、D㊎Ⓜ微	100%
576	C58	〃	中層No.10区画	〃	〃	②	〃	SS＞S	B㊎Ⓜ少、E㊎～Ⓛ中	54%
577	C59	〃	〃	〃	〃	② ①	〃	SS以下	A㊎㊎微、B㊎微、E㊎～Ⓜ微、K中	63%
578	C57	〃 PL.129	中層No.7区画	〃	〃	㊱ ⑤①	Ⅴ	SS以下	A㊎～Ⓛ少、B㊎～Ⓜ少、C㊎少、E㊎～Ⓛ多	69%
579	C63	〃	中層No.23区画	〃	〃	⑨⑭	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓜ微、B㊎㊎微、E㊎Ⓜ少、K多	96%
580	C66	〃	中層No.5区画	〃	高坏B	②	Ⅵ	S＞M	A㊎～⑪多、B㊎～⑪中、E㊎～Ⓛ少	57%
581	C65	〃 PL.129	中層No.12区画	〃	〃	①	Ⅱ	SS以下	A㊎㊎少・Ⓛ微、B㊎㊎微、E㊎～Ⓜ微	69%
582	C64	〃 〃	中層No.13区画	〃	〃	①④	〃	SS以下	A㊎～Ⓛ少・⑪微、B㊎Ⓜ微、D㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓛ中	58%
583	2	〃	埋土No.7区画	〃	広口壺B	⑤ ②⑤	〃	SS	DⓂ微、F㊎㊎中	84%
584	3	〃	埋土	〃	甕B	②⑳②④	Ⅷ	SS以下	A㊎～Ⓛ多・⑪少、B㊎～Ⓜ中・Ⓛ微、C㊎～Ⓜ少、D㊎～Ⓛ微、E㊎～Ⓛ少	81%
585	5	〃	上層	〃	高坏B	⑯②	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓛ微、B㊎～Ⓛ少、DⓂⓁ微	79%
586	4	〃	埋土No.22区画	〃	鉢B	①⑤	〃	SS以下	A㊎～Ⓜ少・Ⓛ微、B㊎微、E㊎㊎少、K少	69%
587	6	〃	埋土	〃	匙状土製品	⑥	〃	SS以下	A㊎少、B㊎～Ⓛ微、K少	—
588	D 1	第240図	SD695上層E262S13他	〃	二重口縁壺	②	Ⅱ	SS＞S	A㊎～Ⓛ多、B㊎㊎少、E㊎～Ⓜ中、K多	46%
589	1	〃	SD695E258S21	〃	高坏D	⑧	Ⅴ	SS以下	A㊎Ⓜ少、B㊎少、E㊎Ⓜ中	77%
SD720										
590	D 2	第240図	上層E336・340	〃	広口壺A	㊱ ②	Ⅴ	SS以下	AⓂ～⑪中、B㊎Ⓜ少、D㊎Ⓜ微、E㊎㊎極微、K少	25%
591	D 1	〃	上層E316～319	〃	〃	① ①②	Ⅱ	SS	A㊎～Ⓛ少、B㊎微、CⓂ極微、D㊎Ⓜ微、E㊎Ⓜ少、K多	67%
592	D 3	〃	上層E326～331	〃	〃	①	Ⅴ	SS	A㊎～Ⓛ極多、BE㊎～Ⓜ微、K多	42%
593	1	〃	E326～331	〃	〃	⑧⑤	Ⅲ	SS以下	A㊎㊎中、D㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓛ中、K多	61%
594	D 5	〃	上層E332～336・E331～332	〃	広口壺B	⑧⑯②⑦	〃	S＞M	A㊎Ⓜ中・Ⓛ少、B㊎微、D㊎Ⓛ少、F㊎～Ⓛ少、K多	71%
595	B 1	〃	下層E326～328、中層S21	〃	〃	㊳ ②	Ⅴ	S＞M	A㊎Ⓜ少、D㊎Ⓜ中、E㊎～Ⓜ少	50%
596	D 4	〃	上層E321～326	〃	〃	①㊱ ①	Ⅱ	SS	A㊎～⑪中、B㊎㊎微、D㊎Ⓜ少、E㊎～⑪多、K少	71%
597	D 8	〃	上層E326～331	土師器	二重口縁壺	㊱	Ⅶ	SS＞S	A㊎㊎多、B㊎少、D㊎～Ⓜ少、E㊎Ⓜ微、K多	8%
598	D 9	〃	上層 〃	〃	〃	⑧⑤	Ⅲ	SS＞S	A㊎～Ⓛ多、DE㊎～Ⓜ少、K中	8%
599	C 3	〃	中層E340～344	〃	〃	②	Ⅱ	SS	AB㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓛ、K少	4%

出土遺物観察一覧 No.45

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	品種・器形（部位）	色調 内	色調 外	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
600	C 2	第240図	中層E323～326、上層E318	土師器	二重口縁壺	⑰	④	Ⅶ	SS	A㊎～Ⓛ中、BE㊎～Ⓛ少、BⓁ極微、CD㊎～Ⓜ少、K中	33%
601	D 7	〃	上層E336～340	〃	短頸壺	⑭	⑤	Ⅴ	SS	A㊎㊎中、B㊎㊎少、C㊎～Ⓛ少、DE㊎㊎微	25%
602	D 6	〃	上層E323～326	弥生土器	〃	⑦	⑤	Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓜ微、B㊎微、C㊎㊎微、E㊎～Ⓛ中、K少	21%
603	D10	〃	上層E340	〃	甕B	㊱		Ⅴ	S＞M	A㊎～Ⓜ中・ⓁⓁ微、CD㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓜ微、K少	21%
604	C 4	〃	中層E324～327	〃	〃	⑭㉝		Ⅱ	SS	A㊎Ⓜ中、BⓁ極微、E㊎Ⓜ少、K少	13%
605	C 5	〃	中層E336～340、上層同地区	〃	〃	⑭	⑤	〃	SS＞S	A㊎～Ⓛ中、B㊎～㊎微、E㊎～Ⓛ微、K多	38%
606	D12	〃	上層E332～336	〃	甕D	⑤		〃	SS	A㊎～Ⓛ少、CⓂ微、D㊎～Ⓜ少、E㊎微、K多	8%
607	D13	〃	上層E318～320	土師器	鉢A（小形）	⑤		〃	SS以下	A㊎～Ⓜ中、B㊎極微、D㊎Ⓜ極微、E㊎～Ⓜ微、K中	57%
608	B 3	〃	下層E323～326	弥生土器	甕（底部）	②⑤		Ⅲ	SS以下	A㊎㊎中、B㊎㊎微、D㊎Ⓜ微、K少	71%
609	D14	〃	上層E340～344	土師器	高坏F	②		Ⅵ	S	AⓂ～Ⓛ少、B㊎微、E㊎～Ⓜ中	4%
610	B 4	〃	下層E330～332、上層同地区	〃	脚台F	⑭		Ⅱ	SS以下	B㊎㊎少	61%
SD721											
611	D 1	第240図	上層E334～344	弥生土器	広口壺A	⑤	②	Ⅲ	SS以下	A㊎～Ⓛ中、B㊎微、D㊎～Ⓜ少、E㊎少	17%
612	D 2	〃	上層E336～340	〃	広口壺B	①⑤		Ⅱ	SS	AⓂⓁ少、B㊎㊎少、DⓂ～Ⓛ微、E㊎～Ⓛ少	100%
613	C 1	〃	中層E332～336	土師器	二重口縁壺	②		〃	SS以下	AE㊎～Ⓜ少、D㊎～Ⓜ微、K中	13%
614	D 4	〃	中上層S19より北	弥生土器	甕B	⑤		Ⅲ	SS	A㊎～Ⓛ中、CⓂ微、D㊎～Ⓜ少、E㊎㊎微	17%
615	D 3	〃	上層S21～25	〃	甕A	⑪	②	〃	SS以下	A㊎～Ⓛ中、B㊎～Ⓜ少、C㊎～Ⓜ中、K多	17%
616	D 5	〃	上層E339～344	土師器	脚台F	④⑧		Ⅳ	SS	A㊎Ⓜ多、B㊎㊎少、D㊎少、K微	100%
617	D 6	〃	中層S25～29、上層S21～25	〃	器台	⑦		Ⅱ	SS	AB㊎㊎微、D㊎微、K少	8%
SD936											
618	B 1	第241図 PL.130	下層E397～398 S32.5～33他	弥生土器	広口壺A	⑮㊱㉞㊺		Ⅱ	SS以下	E㊎Ⓜ中、K多	28%
619	D 1	〃	上層E400S33、下層E395.5	〃	〃	㊲⑦		〃	S＞SS	A㊎～Ⓛ少・Ⓛ微、B㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓛ微、K少	73%
620	D 2	〃	〃 〃	〃	〃	②⑱ ①		Ⅲ	SS以下	A㊎～Ⓜ少・Ⓛ微、B㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓛ少	67%
621	B 2	〃	下層E395.6S35.3地点	〃	〃	①⑤		Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓛ少、B㊎～Ⓛ中、C㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓛ、K少	100%
622	B 3	〃	下層南端、上層南端	〃	〃	①⑱		Ⅳ	SS＞S	A㊎～Ⓛ少、B㊎㊎微、D㊎Ⓜ少、E㊎～Ⓜ微	54%
623	B 4	〃	下層E396.9S33.3地点	〃	広口壺B	㊱⑦ ⑦		Ⅱ	SS以下	A㊎微、B㊎㊎微、E㊎～Ⓜ微	79%
624	D 3	〃	上層E400S29、下層E395.5	〃	〃	①⑤②⑭		〃	SS以下	A㊎～Ⓛ少、B㊎～Ⓜ少、D㊎微、E㊎～Ⓛ中、K多	92%
625	B 5	〃 PL.130	下層E396S35地点	〃	二重口縁壺	① ㉞		〃	SS以下	A㊎Ⓜ中・ⓁⓁ少、B㊎㊎中、D㊎少、E㊎少、K多	100%
626	B 6	〃 〃	下層E397S33地点他	〃	〃	①⑤		〃	SS以下	A㊎～Ⓛ中・Ⓛ微、BE㊎～Ⓜ少、K少	29%
627	B 7	〃 〃	下層E396S34.9地点	〃	広口長頸壺	①㉝		〃	SS	A㊎Ⓜ少、B㊎㊎少、E㊎～Ⓛ中、K中	29%
628	1	〃	E400S33	〃	〃	①②		Ⅴ	SS	A㊎Ⓜ少、B㊎㊎多、CⓂⓁ微、E㊎～Ⓛ中、K中	54%
629	B 8	〃	下層E395.9S35.4地点	〃	短頸壺	②㊲		Ⅳ	SS＞S	A㊎～Ⓜ多・ⓁⓁ微、B㊎㊎少、E㊎㊎中、K多	96%
630	B13	第242図 PL.130	下層E396.5S34.5地点	〃	甕A	⑭⑳⑦②		Ⅵ	M＞S	A㊎～Ⓜ多・ⓁⓁ中、B㊎～Ⓛ中、D㊎～Ⓛ少	92%
631	B10	〃	下層E395.6S35.7地点	〃	〃	⑦⑪⑦㊱		〃	S＞M	A㊎～Ⓛ多、B㊎～Ⓛ多、C㊎～Ⓛ微、D㊎Ⓜ少	75%
632	B 9	〃 PL.130	下層E395.5S35.7地点	〃	〃	①⑫①②		〃	M＞L	AⓁ～Ⓛ中、B㊎Ⓜ微、DⓂⓁ多、E㊎㊎微	82%
633	3	〃	E400S29、E400S33	〃	〃	⑱ ⑧⑭		Ⅵ	SS＞S	A㊎～Ⓛ中、B㊎～Ⓛ少、D㊎～Ⓛ少、E㊎～Ⓛ微	40%
634	B12	〃 PL.130	下層E395.7S35.5地点	〃	〃	⑮⑫②⑭		〃	M＞L	A㊎～Ⓛ中、B㊎Ⓜ少、CⓂⓁ少、D㊎～Ⓛ中、K少	90%
635	4	〃	E400S29、淡褐色粘質土	〃	〃	②㉘⑦②		Ⅱ	SS以下	A㊎～Ⓛ少、DⓁ微、E㊎微、K少	27%
636	B11	〃	下層E396S35地点	〃	〃	⑧ ②		Ⅴ	SS以下	AⓂ～Ⓛ少、B㊎～Ⓛ中、D㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓛ少、K少	75%
637	B14	〃	下層E395.7S35.5、上層	〃	甕D	⑫ ②⑮		Ⅳ	SS	A㊎Ⓜ中・Ⓛ微、B㊎少、D㊎Ⓜ少、K極多	17%
638	B15	〃	下層E400S33	〃	鉢B	④ ⑤⑱		Ⅱ	SS	A㊎㊎少・ⓁⓁ微、B㊎～Ⓛ微、D㊎㊎微、E㊎～Ⓛ少	25%
639	B18	〃	下層E395.5S35.5地点	〃	高坏A	⑦㉝		Ⅴ	SS以下	ABD㊎㊎微、C㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓛ少、K微	75%
640	B16	〃	下層、上層	〃	〃	②㊲		Ⅱ	SS以下	AB㊎～Ⓛ微、CⓁ微、D㊎微、E㊎～Ⓜ少、K微	54%
641	B17	〃	下層E400S29他	〃	〃	① ㊱		Ⅳ	SS	A㊎～Ⓛ中、B㊎～Ⓜ少、D㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓜ中	47%
642	B19	〃 PL.130	下層E396.3S34.6他	〃	高坏B	①⑦		〃	M	A㊎～Ⓛ少、BⓁ微、E㊎～Ⓛ中	71%
643	B20	〃	下層E396.7S33.5地点	〃	脚台A	㊽㊽②㊽㊺		Ⅴ	SS以下	AⓂⓁ中・Ⓛ微、B㊎Ⓜ、C㊎極微、D㊎微	69%
674	D 2	第245図	SK732上層	製塩土器	丸底Ⅵ	⑰		4	S・M	B㊎～Ⓜ中、C㊎㊎中	17%
675	2	〃	SK732	〃	〃	⑦ ⑩		3	SS以下	B㊎㊎微・Ⓜ極微	13%
676	D 1	〃	SK732上層	〃	丸底Va	㉞		4	S・M	AⓁ微、B㊎～Ⓛ中、CD㊎～Ⓛ中	13%
677	3	〃	SK732 西拡張区	〃	〃	⑧ ⑮		6	S	ABCD㊎㊎多	4%
678	1	〃	〃 〃	〃	〃	㊱㉟ ⑯		〃	S・M	B㊎Ⓜ少、C㊎Ⓜ微、D㊎Ⓜ多	4%
679	4	〃 PL.131	SK732	須恵器	坏A	㉕㊷		Ⅳ		A㊎～Ⓛ中、B㊎㊎微	71%
680	D 3	〃	SK732上層	〃	〃	㉔㊺		Ⅱ		B㊎～㊎少、CⓂ微	13%
681	1	〃 PL.131	SD742	〃	坏身	㉕		〃		A㊎～Ⓜ少、BE㊎～Ⓜ微	100%
682	1ソ1	〃 〃	SK734NE区第1層、NW区	土師器	坏A	②⑤		〃		AⓂⓁ微、E㊎～Ⓜ少	38%
683	D 1	〃	SK734NW区	〃	〃	⑦		〃		B㊎㊎微、D㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓜ少、K微	13%
684	D 2	〃	SD721 上層E344～348他	須恵器	坏B	㉕㉔⑪㉔		Ⅳ		B㊎㊎微・Ⓛ極微、C㊎Ⓛ極微	40%
685	D 3	〃 PL.131	SK734 NW区	〃	蓋	㊺		Ⅰ			76%
686	1ソ3	〃 〃	SK734NE区第1層、SD740	〃	坏蓋	㉔㉕		Ⅱ		D㊎～Ⓜ微	69%
687	1ソ2	〃	SK734 NE区第1層	〃	〃	㉔ ㉔㉚		〃		A㊎～Ⓛ微	54%
688	1ソ4	〃	〃 〃	〃	短頸壺	㉕ ㉔㉕		〃		AⓁ極微、B㊎㊎微	8%
689	2ソ2	〃	SK753 第2層	黒色土器A	椀B？	⑪ ⑦		〃		E㊎～Ⓜ少	17%
690	2ソ1	〃	〃 〃	土師器	甕	⑭		Ⅵ	SS＞S	A㊎～Ⓜ多、B㊎㊎少、D㊎～Ⓜ少、K少	25%
691	2ソ3	〃 PL.131	SK753第2層、上層	須恵器	坏A	㉕		Ⅱ		B㊎㊎少、D㊎㊎微	40%
692	3ソ1	〃	SK753 第3層	〃	坏B	㊻		〃		D㊎㊎微	6%
693	D 1	〃	SD738 上層E246 S17	土師器	甕	⑧ ⑤⑨		Ⅱ	SS	A㊎㊎中、B㊎少、E㊎Ⓜ少、K中	15%
694	1	〃 PL.131	SD739 E230・234 S21	〃	〃	⑦㊲		〃	SS以下	A㊎少、E㊎少、K少	42%
695	B 2	〃	SD740下層E348～349 S33～35	〃	坏A	⑤ ②		Ⅱ		B㊎微	13%
696	C 2	〃	SD740中層E351～352 S27～29	〃	〃	㉝⑦⑳⑦		〃		AD Ⓜ極微、E㊎～Ⓜ微	8%

出土遺物観察一覧 No.46

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
697	C 3	第245図	SD740中層E360 S29NE	土師器	坏	②			Ⅰ			13%
698	C 1	〃	SD740中層E351～352S27～29	〃	高坏	②	⑤		Ⅱ		BⓈ微、DⓈⓂ微	8%
699	D 1	〃 PL.131	SD740上層E356 S25SE	〃	甕	①	㉟	㊲	Ⅷ	SS＞L・M	AⓈ～Ⓛ多、BⓈ～Ⓛ微、DⓈ～Ⓜ中、EⓈ～Ⓛ中	42%
700	B 1	〃	SD740下層E354～356 S27～29	〃	〃	②⑭	②		Ⅳ	S＞M	AⓈⓈ中、BⓈ～Ⓜ少、CEⓈⓈ微、DⓈ微、K微	13%
701	C 5	〃	SD740セク第3層E352	〃	塝	⑭			Ⅱ	SS	AⓈ～Ⓛ、BEⓈ微、CDⓈⓈ微、K微	13%
702	B 3	〃	SD740下層E352 S25他	須恵器	壺（底部）	㊺			〃		AⓈ極微、CⓈⓈ微	75%
SD741												
703	B 9	第246図	下層	黒色土器B	坏A	㊶	⑦		Ⅰ		K微	21%
704	B 2	〃 PL.131	下層E368 S15～21、上層	土師器	Ⅲ A	①			Ⅱ		BDⓈ～Ⓜ微、EⓈⓂ微	15%
705	D 2	〃 〃	E356～358 S34～38	〃	〃	⑦			〃		BⓈ微	67%
706	B 3	〃	下層	〃	〃	①			〃		BEⓈ微	25%
707	B 5	〃	〃	〃	〃	㊱	㉜	⑲	Ⅲ		AⓂ極微、DⓈ～Ⓜ少、EⓈ～Ⓜ微	27%
708	B 4	〃	下層E368～372S15～21他	〃	〃	④			Ⅱ		DEⓈ微、K少	25%
709	D 1	〃 PL.132	セク上層E370S18他	〃	坏A	①			Ⅳ		AⓈ少、BⓈ多、K少	50%
710	C 1	〃 PL.131	北拡張区中層1 E370～372	〃	〃	①	㊳		Ⅴ		BEⓈ少	42%
711	B 1	〃 〃	下層E368～372S15～21他	〃	坏B	①			Ⅱ		DⓈ～Ⓜ微、EⓈ～Ⓜ少	29%
712	D 4	〃 〃	上層E361～363S27～31他	〃	甕	⑥	⑤		Ⅳ	S＞M	AⓈ～Ⓜ中、DEⓈⓂ少、K少	63%
713	B 6	〃	下層E361～363S27～28	〃	〃	⑦	⑭		Ⅵ	S＞M	AⓈ～Ⓛ多、BⓈ少、DⓈⓂ中、EⓈⓂ少、K中	47%
714	B 8	〃	下層E368～372S19～21他	〃	〃	㉟	㉞	㉟ ⑦	Ⅷ	S	AⓈ～Ⓜ多、BⓈⓈ微、DⓈ～Ⓜ中、EⓈ中	22%
715	C 2	〃 PL.132	中層E368～370S20～21他	〃	高坏	②⑤			Ⅱ		EⓈⓈ微	69%
716	D 3	〃	SG784、SX868下層	〃	〃	②	⑦		〃		DⓈⓂ微、EⓈ～Ⓜ少	27%
717	B26	〃 PL.132	下層E356～358S34～38他	〃	〃	②			〃		AⓈ～Ⓛ微、DⓈⓈ微、EⓈ～Ⓜ微	47%
718	B27	〃	下層	製塩土器	丸底 Va	㉞			2	SS以下	DⓈⓈ微、EⓈ～Ⓜ微	14%
719	C 3	〃	北セク第3層	〃	〃 〃	㊱	⑮		〃	SS以下	BⓈ微Ⓢ以下多、EⓈⓈ微Ⓢ以下多	13%
720	D12	〃	SE872 第18層	〃	丸底 Ⅶa	⑯	⑤	㉔	4	SS＞S	AⓈⓂ少・Ⓓ微、CⓈ微、DⓈ～Ⓛ少	29%
721	D 8	〃	上層	〃	〃 〃	㉞			〃	SS＞S	BⓈ～Ⓜ微、DⓂ極微	4%
722	D13	〃 PL.132	E360 S33南、SG784他	〃	〃 〃	㊲	㉝		5	M＞L	DⓈ～Ⓛ中、EⓈ～Ⓛ少	27%
723	D 9	〃	上層、SE872南セク他	〃	〃 〃	㊲	㉕	㉔	4	SS＞S	BⓈⓈ少、DⓈ～Ⓜ微	8%
724	2	〃	E360 S33南	〃	丸底 Ⅶb	㉝			5	M	BⓈ～Ⓛ少、DⓈ～Ⓛ中、FⓈⓂ少	13%
725	1	〃	E360 S33南	〃	丸底 Ⅷa	㊱			〃	M	BⓈ少、CⓂ微、DⓈ～Ⓛ中、EⓈⓂ少	13%
726	D11	〃	SG784	〃	〃 〃	㉞	㊺	㉕	〃	L	DⓈ～Ⓛ中	17%
727	D10	〃	SX868 下層	〃	丸底 Ⅷb or Ⅶb	㉟	㊱	㊺	〃	M	AⓂ少、DⓈⓂ中	17%
728	C 4	〃	中層E368～390 S19～20	〃	丸底(底部)	⑲			6	SS以下	BⓈⓈ少、DⓈ中	100%
729	C 5	〃	中層	〃	〃（〃）	⑯			〃	S＞SS	AⓈⓈ多、BⓈⓂ微、DⓈ～Ⓜ中	100%
730	B28	〃	下層	〃	〃（〃）	㉕	㉟	㉝	1	SS以下	微	100%
731	B22	〃	北拡張区セク下層底他	須恵器	広口壺	㉔	㉖	㉙	Ⅱ		BⓈⓈ微、DⓈ～Ⓜ少	8%
732	B23	〃	北拡張区下層E370～372他	〃	壺（底部）	㉗	㉔	㉙	〃		BⓈⓈ微	33%
733	B24	〃	底E372～373 S21～23	〃	甕	㊺	㉕	㊺	〃		BⓈⓈ微	17%
734	B13	〃 PL.132	下層E366～368 S21～25	〃	坏A	㉗			Ⅵ		AⓈ～Ⓛ中、BⓈ～Ⓛ少・Ⓓ微	30%
735	B11	〃 〃	底E361～363S25～27他	〃	〃	㊺	㊺	㉕	Ⅱ		AⓂ微、BⓈ～Ⓛ少、EⓈ～Ⓜ少	52%
736	B14	〃 〃	北拡張区セク下層底他	〃	〃	㉖	㉔	㉚	〃		BⓈ微	81%
737	B12	〃 〃	下層E368～372S15～21他	〃	〃	㉔	㉖	⑨	Ⅳ		AⓂⓁ微、BⓈⓂ微、DⓂ極微	46%
738	B10	〃 〃	北拡張区下層、SK787上層	〃	〃	㉗	㉕	㉙	〃		AⓈ少、BⓈ～Ⓛ中	86%
740	D 5	〃	上層E363～364S22～25他	〃	坏B	㉖	㉔		Ⅱ		BⓈⓈ微・Ⓛ極微、DⓂ極微	28%
741	B17	第247図 PL.132	北拡張区下層E370～372他	〃	〃	㊺			Ⅵ		BⓈⓈ少、DⓈⓂ中、EⓈ少	25%
742	B15	〃 〃	下層E368～372S15～21他	〃	〃	㉖	㉖	㊱	Ⅱ		BⓈ～Ⓜ微、DⓁ微	40%
743	B16	〃	〃 〃 〃	〃	〃	㉕	㉔	⑪ ㉙	〃		BEⓈⓈ微	21%
744	D 7	〃 PL.132	上層E358～362S30～31他	〃	〃	㉕			〃		AⓈ～Ⓜ少、BⓈ～ⓂⓁ微	44%
745	B20	〃 〃	下層E360～363S29～31	〃	坏蓋	㉖	㉕	㉙	Ⅰ			88%
746	B21	〃	下層北	〃	〃	㉖	㉕	㉚	Ⅱ		BⓈ中	75%
747	B19	〃	下層E360～362S25～28	〃	〃	㉔	㉘		Ⅳ		AⓈⓂ微、BⓈⓂ少	59%
748	B25	〃	下層E368～372S15～21他	〃	甕	㉕			〃		BⓈⓈ中、DⓈ～Ⓜ少	30%
749	B 1	〃	SD755下層E332～336	須恵器	壺（底部）	㉗			Ⅱ		DⓈ少	13%
750	D 2	〃 PL.132	SD755上層E332～336	〃	坏A	㉗			〃		AⓈ～Ⓛ少	50%
751	1	〃	SD755 セク第1層	〃	〃	㉕			〃		BDⓈⓈ微	8%
752	D 3	〃	SD755 西セク上層	〃	〃	㉕			〃	SS	AⓈ少、BⓁ極微	8%
753	D 4	〃 PL.132	〃 〃	〃	坏蓋	㉕			Ⅰ			65%
754	1	〃	SD746	土師器	Ⅲ B	㊱			Ⅱ		EⓈ微	6%
755	B 1	〃	SD750 下層S33～37	〃	Ⅲ A	㊱			〃		BⓈⓈ微、EⓈ～Ⓜ少	8%
756	2	〃	SD746	〃	坏A	②			〃		BⓈ極微、EⓈ～Ⓜ微	13%
757	B 2	〃	SD750 下層S33～37	〃	甕	⑭	⑰		Ⅴ	SS＞S	AⓈ～Ⓜ多、BⓈⓂ微、DⓈ～Ⓜ少、EⓈ～Ⓜ極微	8%
758	D 1	〃	SD749 上層S37～南	須恵器	〃	㊾			Ⅱ		AⓈ～Ⓛ中、DⓈⓂ微	4%
759	B 1	〃	SD748 下層S33～37	〃	短頸壺	㉖	㊾	㉙	Ⅰ			4%
760	D 2	〃	SD749 上層S37～南	〃	坏B	㉗			Ⅱ		AⓈⓂ少・Ⓛ極微	17%
761	D 1	〃	SD747 上層S25～29	〃	坏B(底部)	㉕			Ⅰ			17%
762	1	〃	SD750 S29～33	〃	〃（〃）	㉗	㉙		Ⅱ		ADⓈ～Ⓜ少	46%
763	1	〃	SD745	〃	〃（〃）	㊲	㉕		Ⅵ		AⓈ～Ⓛ微、BⓈⓈ中、DⓈ～Ⓛ少、EⓈⓈ微	25%
764	3	〃	SD746	〃	坏蓋	㉕	㉕	㊾	Ⅰ			13%
765	1	〃	SI605 南北セク第1層	〃	〃	㉗	㉔		〃			13%

出土遺物観察一覧 No.47

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
766	D 3	第247図	SD749 上層S37～南	須恵器	坏蓋	㉗ ㉗㉚	Ⅰ			8％
767	D 1	〃	SD750 上層S33～37	〃	〃	㉗ ㊼	Ⅱ		A㋎～㋣中	100％
768	1	〃	SD748 S29～33	〃	〃	㉗	〃		B㋅微、D㋎～㋅微	8％
769	D 1	〃	SD748 上層S33～37	〃	〃	㉔㉕	〃		AD㋎微	13％
770	1	第248図PL.133	SB760 P842	黒色土器A	椀b	㊶ ⑭⑩	Ⅳ		A㋎㋎中、C㋎微、E㋎㋅少、K多	69％
771	2	〃	SB760 P832	〃	椀B	㊷ ②	Ⅱ		B㋎微、E㋎～㋅微	8％
772	2	〃	SB759 P806	〃	椀b	㊷⑦ ⑦	〃		A㋎微、E㋎㋅少	17％
773	3	〃	SB759 P831	土師器	椀（底部）	②	Ⅳ		A㋎～㋣少、B㋎㋎微、D㋎～㋅微、E㋎～㋅少、K多	100％
774		〃	P188	瓦器	椀C	㊲㊷	〃		A㋅微、BE㋎～㋅微	32％
775	2	〃	SB767 P312 掘形	〃	〃	㉔㊷	Ⅱ		D㋓微	21％
776	1	〃	SB770 P655	〃	〃	㊷㊺ ㊷	〃		D㋎微、E㋎少	28％
777	3	〃	SB768が切るP44	〃	〃	㊷ ㉔	Ⅰ			72％
778	1	〃	SB767 P166 掘形	〃	〃	㉕㊺	〃			30％
779	1	〃 PL.133	SB763 P145掘形、柱当り	〃	鉢	㉔㉚	Ⅴ	SS以下多	B㋎㋎中、D㋎以下多	29％
780		〃	P65北柱当り	〃	小皿	㊷㊲	Ⅱ		D㋎～㋅微、E㋎㋎微	50％
781		〃 PL.133	P85	〃	〃	㉚㊺	Ⅳ		A㋅微、BE㋎㋎微、C㋓微、D㋎～㋣微	100％
782	1	〃	SB759 P974 柱当り	土師器	皿a1（E）	⑦	Ⅱ		E㋎㋅少、K少	17％
783	3	〃 PL.133	SB767を切るP37掘形	〃	皿A1	㊱	Ⅶ		B㋎㋎少、D㋎～㋅少、E㋎～㋣中	17％
784	2	〃	SB768が切るP44	〃	皿B1	㊱	Ⅳ		A㋎㋅少・㋣微、C㋓極微、E㋎㋅少、K中	13％
785		〃	P62掘形	〃	皿C	⑦㊱ ⑦	〃		B㋎微、D㋎㋎少、E㋎～㋅中	25％
786		〃	P128 柱当り	〃	小皿A1	㊱	Ⅵ		B㋎～㋅微、E㋎～㋅多	27％
787	1	〃	SB768 P55	〃	小皿B1	⑰	Ⅱ		DE㋎㋎微、K極多	31％
788		〃	P888	〃	甕	②②⑯㉔	〃	SS以下	A㋅微、BCD㋎微	8％
789	3	〃	SB760 P832	須恵器	壷（底部）	㉞ ㉗	Ⅰ			17％
790	2	〃 PL.133	SG781	土師器	皿大丸	⑭	Ⅱ		E㋎～㋅中	46％
791	1	〃 〃	〃	〃	小皿小丸	㉟	Ⅰ			42％
792	3	〃	〃	〃	土釜A	⑭ ⑤	Ⅵ	SS＞S	A㋎～㋅多、B㋎～㋅少、D㋎㋅少、E㋎微、K多	8％
793	4	〃 PL.134	〃	〃	〃	⑭⑦ ⑭	Ⅷ	S＞M	A㋎～㋣多、B㋎微、D㋎㋎少、K中	13％
794	5	〃 PL.133	〃	瓦質	土釜C	㊺ ㊵㊷	Ⅴ		B㋎中、C㋎～㋅少、D㋎㋎中	27％
795	6	〃 〃	〃	須恵器	壷	㊺	Ⅱ		B㋎㋅少	60％
796	7	〃 PL.134	SG781 C3区西拡張区	美濃瀬戸	香炉	⑪㉓ ㊺	Ⅰ			17％
797	11	〃 PL.133	SG782 西側	土師器	皿新D	⑩⑭	Ⅱ		B㋎微、D㋎～㋅中、E㋎㋎微	29％
798	10	〃	SG782 南	〃	皿薄丸大	㉟	〃		AB㋎微、E㋎～㋅少	8％
799	7	〃 PL.133	〃 〃	〃	皿大丸	⑮ ⑭⑦	Ⅳ		BC㋎少、E㋎～㋅微、F㋓極微	50％
800	1	〃 〃	SG782	〃	小皿小丸	㉞ ㉞㉟	Ⅱ		B㋎微、D㋎極微、E㋎～㋅少	75％
801・802	9・8	〃	SG782 南・中	〃	皿大平	㉟ ㉟㊸	〃		E㋎～㋅微	—
803~806		〃 PL.133	SG782 南・南セク第3層	〃	小皿小平	㉞㉟	〃		E㋎～㋅微	—
807	12	〃 PL.134	SG782 南	〃	蛸壷	㊱	Ⅳ	SS以下多	B㋎少、D㋎中、E㋎㋅少、K中	21％
808	14	〃 〃	〃 〃	備前	擂鉢	㊼ ㉔	〃		B㋎～㋅中、D㋎少、E㋎～㋣微、G㋅㋣少	8％
809	13	〃 〃	SG782 北	〃	〃	㊼㊸ ㊼	〃		B㋎㋅少、D㋎～㋣微、G㋎～㋓中	—
810	15	〃	SG782 中	美濃瀬戸	おろし皿	㊿ ㊲	Ⅰ			8％
811	18	〃	SG782 北	青磁	碗（底部）	㊾⑦ ㉕	〃			33％
812	17	〃 PL.134	〃 〃	〃	皿（底部）	㊿㊺ ㉙	〃			21％
813	16	〃 〃	SG782 南	〃	碗	㊾ ㊺	〃			62％
SG783										
814	B12	第249図	下層	土師器	皿大丸	⑭	Ⅰ			38％
815	B 6	〃	〃	〃	〃	㉟	〃			58％
816	B 7	〃	〃	〃	〃	㉞㉟	Ⅱ		E㋎㋎微	8％
817	B 8	〃	〃	〃	〃	⑭	〃		D㋎極微、K少	71％
818	B 9	〃	〃	〃	〃	㉞	Ⅰ			62％
819	B11	〃	〃	〃	〃	㉝	Ⅱ		E㋎～㋅微	8％
820	B10	〃	〃	〃	〃	⑦㉞	〃		E㋎微	33％
821	B 3	〃	〃	〃	小皿小丸	⑦㉟	Ⅰ			67％
822	B 1	〃 PL.133	〃	〃	〃	⑦㉞	Ⅱ		E㋎㋎微	57％
823	B 2	〃	〃	〃	〃	㉟	〃		E㋎～㋅微	83％
824	B 4	〃	〃	〃	〃	⑦㉞	〃		E㋎～㋅微	29％
825	B 5	〃 PL.134	下層S21	〃	小皿小平	⑦㉟	〃		E㋎～㋅微	81％
826	B13	〃 PL.133	下層、上層	〃	皿新D	㉞⑭	Ⅲ	SS以下		13％
827	B14	〃 PL.134	下層	瓦質	土釜C	㊺⑯ ㊶	Ⅵ	S以下多	B㋎㋅少、C㋎～㋅中、D㋎中	25％
828	B16	〃 〃	〃	青磁	皿（底部）	㊾ ㉕	Ⅰ			50％
829	B15	〃 〃	〃	〃	碗	暗緑茶色㉜	〃			23％
830	1	〃		土師器	皿大丸	㉟㊱	Ⅱ		E㋎～㋅微	33％
831	D 5	〃 PL.134	上層	〃	〃	⑭	〃		E㋎㋅少、K微	100％
832	D 6	〃	〃	〃	〃	㊵	〃		E㋎微	100％
833	D 7	〃	〃	〃	〃	⑯ ⑰	〃		A㋎微、E㋎～㋅微	42％
834	D 8	〃	〃	〃	〃	㉞	〃		E㋎～㋅微	50％
835	D 1	〃	〃	〃	小皿小丸	⑭	〃		E㋎微	50％
836	D 9	〃 PL.134	〃	〃	皿大平	㉟	〃		E㋎微	100％
837	D11	〃	〃	〃	〃	㉟⑭	〃		E㋎微	32％

出土遺物観察一覧 No.48

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
838	D10	第249図	上層S21	土師器	皿大平	㊱	I			50%
839	D 2	〃	上層S17	〃	小皿小平	⑦㉞	II		E㋎微	65%
840	D12	〃	上層S21	〃	皿新D	㉝	III		AD㋎少、E㋎～Ⓜ微	8%
841	D 4	〃	上層	〃	小皿NGタイプ	⑦	IV		C㋎～Ⓜ微、E㋎～Ⓜ中、K微	25%
842	D 3	〃	上層S21	〃	〃	⑦㉟	II		B㋎微、E㋎㋎中	13%
843	2	〃		〃	土釜A	② ⑰②	IV	SS	A㋎～Ⓛ少、D㋎～Ⓜ少、E㋎～Ⓛ多、K中	21%
844	D13	〃 PL.134	上層	〃	〃	⑦⑭㉝	VIII	SS＞S	AD㋎～Ⓜ中、B㋎㋎少、E㋎～Ⓜ少、K中	13%
845	D14	〃 〃	〃	〃	〃	⑭ ⑯	〃	S	A㋎～Ⓛ多、B㋎～Ⓛ少、C㋎～Ⓛ微、D㋎～Ⓜ微	13%
846	D16	〃	〃	瓦質	土釜C	㉚㊷	VII	SS以下多	B㋎㋎多、C㋎～Ⓛ中、D㋎多、K少	15%
847	D15	〃 PL.134	〃	〃	甕	㉕ ㉔	II		B㋎少、D㋎多	17%
848	D18	〃 〃	〃	〃	捏鉢	㉚ ㉔	V	SS以下多	B㋎以下少、D㋎以下多	8%
849	D17	〃 〃	〃	〃	捏鉢(底部)	㉔ ㉚ ㊾	〃	SS以下多	B㋎以下多・Ⓜ微、DⓁ極微	13%
850	D19	〃 〃	上層S21、S23セク第2層	〃	火鉢	㊷㉕㉚②②	〃	SS以下	B㋎微、D㋎以下多	15%
851	D20	〃 〃	上層、J層E332 S29	備前	甕	㊷	VI	M	B㋎Ⓜ微、EⓂ微、GⓂ～Ⓛ少	10%
SG784										
852	B 9	第250図PL.134	下層、SX865 上層集石内	土師器	皿大丸	㊱	II		A㋎微、B㋎少、D㋎㋎中	83%
853	B 1	〃 〃	下層、上層 C4区	〃	小皿小丸	㊱㉟	III		B㋎少、D㋎～Ⓜ微、E㋎Ⓜ微、K少	100%
854	B 2	〃	下層～最下層 C5区	〃	〃	⑦㉟	〃		B㋎㋎微、D㋎中、E㋎㋎微、K微	42%
855	B 3	〃	下層 〃	〃	小皿小平	㉟	II		D㋎㋎微、E㋎微	25%
856	B 4	〃	〃 C4区	〃	〃	㉟	〃		D㋎少	90%
857	B 5	〃	下層～最下層 C5区	〃	〃	⑦㉟	〃		A㋎微、E㋎㋎微・Ⓛ極微	69%
858	B 7	〃 PL.134	下層 〃	〃	小皿NGタイプ	② ①	〃		AB㋎Ⓜ極微、E㋎～Ⓜ微	29%
859	B 6	〃	〃 C4区	〃	〃	㉜⑦	〃		A㋎㋎少、B㋎微、K多	25%
860	B 8	〃	〃 C5区	〃	〃	②	IV		A㋎少、C㋎極微、K多	25%
861	B 1	〃	〃 〃	〃	〃	㊱②	III		A㋎～Ⓜ少、B㋎㋎少、E㋎～Ⓜ中	33%
862	B10	〃	下層、上層 C4区	〃	土釜B	㊳ ㊱	V	SS	BD㋎㋎中、E㋎㋎少、K多	13%
863	B12	〃 PL.134	下層、上層E364S37 C5区	備前	徳利	㊼ ㉔	II		B㋎～Ⓜ少	29%
864	B11	〃	下層 〃	白磁	皿（底部）	㊲ ㊱	I		E㋎微	21%
865	D 4	〃	上層 C5区	土師器	皿大丸	㉞㉝㉟㉞	II		E㋎㋎微	21%
866	4	〃	〃	〃	〃	⑦⑯ ⑯	〃		D㋎微、E㋎～Ⓜ微	42%
867	D 2	〃	西セク第4層 〃	〃	小皿小丸	⑦㉟	〃		E㋎㋎微	77%
868	D 1	〃	上層 〃	〃	小皿小平	㊱㉟	〃		E㋎㋎微、K微	29%
869	1	〃	〃	〃	小皿小丸	⑭㊲	III		B㋎㋎少、E㋎極微、K少	46%
870	D 8	〃	上層 〃	〃	皿大平	㉟	II		E㋎Ⓜ微	30%
871	5	〃	〃	〃	〃	㊱㉟	I			40%
872	D 7	〃	上層 〃	〃	〃	㉟	II		A㋎㋎少、D㋎㋎微、E㋎微	23%
873	D 5	〃	セク上層 C4・5区	〃	〃	㉟㊱ ㉟	〃		A㋎㋎微、E㋎㋎少	19%
874	D 6	〃	上層 C5区	〃	〃	㉟	〃		E㋎Ⓜ少	29%
875	D 3	〃	〃 〃	〃	小皿小平	㉞ ㉟㊱	I			46%
876	2	〃	〃 〃	〃	〃	㉟㊳	V		B㋎㋎中、E㋎少、K中	44%
877	3	〃	〃 〃	〃	小皿NGタイプ	⑦	IV		A㋎～Ⓛ少、B㋎少、E㋎～Ⓜ少、K少	13%
878	1	〃 PL.133	SG784 SX865 周辺排土	瓦質	土釜C	㊷㉚	VI	SS以下多	B㋎㋎中、CD㋎少、DⓁ極微、E㋎Ⓜ少、K多	34%
879	D 9	〃 PL.134	上層 C5区	〃	〃	⑯⑩⑯㉝	〃	SS以下多	B㋎㋎多・Ⓜ微、C㋎～Ⓜ少、D㋎Ⓜ多	17%
880	D10	〃	SX865 集石内 〃	〃	〃	㊺ ㊸	〃	SS以下多	B㋎㋎中、D㋎㋎多、EⓂⓁ微、K極微	21%
881	2	〃 PL.133	SG784 SX865周辺 〃	〃	土釜(湯釜)	㊺⑳	V	SS以下多	B㋎～Ⓜ少、D㋎以下多、E㋎～Ⓜ微	13%
882	6	〃 〃	E350～352 S35～38、SX865	〃	湯釜	㉚ ㉞	VI	SS＞S	B㋎㋎多、D㋎㋎中、E㋎㋎微、K少	29%
883	7	〃	C5区	〃	捏鉢	㊺㉕	VII		B㋎～Ⓜ多、C㋎少、D㋎～Ⓜ中	—
884	D 1	〃 PL.134	上層 〃	備前	壺	㊼	IV		B㋎～Ⓛ少、G㋎～Ⓛ少	29%
885	D12	〃	〃 〃	〃	〃	⑮ ㉝㉔	II		B㋎少、E㋎微	13%
886	D11	〃 PL.134	西セク第4層、SD911北端集石	〃	甕	㊼	IV		B㋎㋎少、G㋎～Ⓜ少・Ⓛ極微、K中	21%
887	D13	〃 〃	上層 C5区	〃	擂鉢	㊼ ㊼㊶	II		BD㋎Ⓜ微	13%
888	8	〃	E350～352 S35～38 〃	青磁	碗	㊵㊴ ㊺	I			13%
889	3	〃 PL.134	SG784、SX865周辺 〃	〃	〃	㊴ ㊺	〃			100%
SK787										
890	B10	第251図PL.135	下層E372～380 S16～20他	黒色土器A	椀B	㊶ ①⑤	IV		AD㋎㋎少、E㋎㋎微	83%
891	B11	〃 〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑪㊱②㊱	VI		A㋎～Ⓛ中、B㋎㋎少、E㋎中、K極多	72%
892	C 5	〃 〃	北拡張区中層E372～374	〃	〃	⑤②	IV		A㋎～Ⓛ中・Ⓛ極微、D㋎Ⓜ微、E㋎～Ⓛ多、K多	82%
893	B12	〃 〃	下層E372～380 S16～20他	〃	椀b	㊵ ⑦	VI		A㋎～Ⓜ中、D㋎～Ⓜ少、E㋎Ⓜ微、K中	66%
894	4	〃 〃		〃	〃	㊶ ㊱㊲	IV		AD㋎～Ⓛ中、B㋎Ⓜ微、CⓂ微、E㋎Ⓜ少	79%
895	C 4	〃	中層E372～375S14	土師器	椀B	⑭ ⑧⑯	V		AB㋎多、D㋎～Ⓜ少・Ⓛ微	53%
896	D 2	〃	上層E372～380S16～20	〃	椀b	㉟㊲	II		A㋎～Ⓜ中、D㋎Ⓜ微、E㋎～Ⓛ中、K極多	29%
897	1	〃 PL.135		〃	坏b	①⑦	VII	SS以下	A㋎～Ⓛ中、B㋎㋎中、CD㋎㋎少、E㋎～Ⓜ少	67%
898	C 1	〃	北拡張区中層－2	〃	坏C(底部)	⑦	IV		A㋎～Ⓛ中、B㋎～Ⓜ少、E㋎～Ⓜ中、K多	100%
899	C 2	〃 PL.135	中層－1 E373～374	〃	小皿E	②	VII		BD㋎～Ⓜ微、E㋎Ⓜ中	75%
900	B 3	〃 〃	下層	〃	皿a2	㉟	II		E㋎㋎少	13%
901	B 2	〃	北拡張区下層－1	〃	〃	②	〃		B㋎微、E㋎Ⓜ少	21%
902	3	〃 PL.135		〃	皿b	㉟⑦	V		A㋎中、B㋎～㋎中、D㋎極微、E㋎～Ⓛ中	89%
903	2	〃 〃		〃	〃	㉞㊱	VI		A㋎Ⓜ中・ⒹⓁ少、B㋎㋎少、C㋎微、E㋎Ⓜ微	92%
904	B 4	〃 〃	下層	〃	〃	㊱㊴	IV		A㋎～Ⓛ微、B㋎～Ⓛ少、E㋎～Ⓜ多、K多	100%
905	B 5	〃	下層セク上NW	〃	〃	㊱	II		D㋎～Ⓜ微、E㋎～㋎微	74%

出土遺物観察一覧 No.49

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
906	B 7	第251図PL.135	下層E372～380 S16～20他	土師器	小皿	⑭	Ⅳ		AE(S)～(M)少、B(S)～(M)微	75%
907	B 6	〃 〃	下層セク上NW	〃	小皿D_1	㊱⑳ ㉟	Ⅱ		D(S)微、E(S)(M)少	42%
908	B 1	〃	北拡張区下層E373～374	〃	坏A	①④	Ⅰ			25%
909	C 3	〃	中層	〃	甕	㉟ ㊱㉟	Ⅷ	M＞L	A(S)～(L)極多、B(M)微、D(S)～(L)少、E(S)(M)中	13%
910	B 9	〃 PL.135	下層	〃	〃	⑦	Ⅳ	M	A(S)(M)少、B(S)(S)微、C(S)微、E(S)微、K多	17%
911	B 8	〃 〃	〃	〃	〃	②⑫⑩②	Ⅵ	M＞LL	A(S)～(L)中、B(S)(M)少、E(S)～(L)少、K多	12%
912	C 6	〃	中層E373～374	須恵器	坏A	㉗㉕	Ⅱ		A(S)(S)少・(L)微	14%
913	D 3	〃	上層E372～380 S17～20	〃	〃	㉕	〃		B(S)(S)微	17%
914	D 4	〃	上層E378～380 S16～18他	〃	坏B	㉔㉔㉕㉙	Ⅵ		AB(S)(S)多・(M)(L)微、D(S)～(L)微	31%
915	C 7	〃 PL.135	北拡張区中層E372～374他	須恵質	椀	㉔	Ⅱ		B(S)(M)微・(L)極微	19%
916	B13	〃	下層E378～380 S14～17他	須恵器	壺（底部）	㉘㉔㊺㊷	〃		B(S)～(M)中、C(S)～(M)微	21%
917	B14	〃	下層セク上NW	〃	甕	㉖ ㊿㉕㊷	〃		AB(S)～(M)少、F微	13%
918	B15	〃 PL.135	下層セク上NW他	土師器	カマド	⑮ ⑲	Ⅲ	S・M＞SS	A(S)～(L)多、B(S)～(M)中、E(S)(M)少、K多	—
919	B17	〃 〃	北拡張区最下層他	〃	〃	⑮⑫	Ⅷ	S＞M	A(S)～(L)極多、B(S)～(L)中、DE(S)～(L)多、K多	—
920	B16	〃 〃	下層セク上NW	〃	〃	⑲⑭	〃	M＞S	A(S)～(L)極多、B(S)～(L)中、D(S)～(L)多、E(S)(M)少	—
921	6	第252図	SK789 セク	瓦器	椀A	㊺	Ⅱ		B(S)(S)微、D(S)～(M)微	17%
922	8	〃	SK789	〃	椀C	㉔	〃		D(M)(L)極微、E(S)～(M)微	8%
923	10	〃	SK789 セク	〃	〃	㊷ ⑱	Ⅳ		B(S)(S)微、E(S)微	13%
924	7	〃	SK789	〃	〃	㊷ ⑱	Ⅱ		A(S)(S)極微、E(M)(L)極微、K中	25%
925	9	〃	SK789 セク	〃	〃	㊷	Ⅰ			13%
926	5	〃	〃 〃	〃	小皿	㊷ ㉕	〃			17%
927	3	〃	SK789	土師器	皿B_1	㉞㊽⑭⑳	Ⅱ		A(S)～(L)微、BE(S)(M)微、K多	71%
928	4	〃	〃	〃	坏c	②㊲ ②	〃		A(S)～(L)多、B(S)(S)微、C(S)(M)微、E(S)～(L)中、K中	33%
929	1	〃 PL.135	SK789 セク	〃	小皿A_1	㊳㊲	〃		A(M)微、BE(S)～(M)微、D(S)(S)極微	79%
930	2	〃	SK789	〃	小皿B_1	⑦	〃		A(S)～(L)微、B(S)(S)微、E(S)～(M)微、K少	21%
931	1	〃	SK792	〃	小皿C	㊱㉟	〃		B(S)極微、E(S)(S)微	17%
932	2	〃	〃	須恵質	捏鉢	㉕	〃		B(S)(S)少、D(S)(S)微	17%
933	1	〃	SK793	土師器	皿A_1	㉟	〃		E(S)少	8%
934	2	〃	〃	〃	皿C	⑦	〃		A(S)微、D(S)(M)少、E(S)～(L)少、K少	13%
935	5	〃	〃	須恵質	捏鉢（底部）	㉕	Ⅳ		B(S)(S)微、D(S)～(M)少、E(S)～(M)少	33%
936	3	〃	〃	土師器	土釜A	⑮	Ⅷ	S＞SS	A(S)～(M)多、B(S)～(M)中、CD(S)～(M)微、H(S)(S)微	4%
937	4	〃	〃	〃	〃	⑮	〃	S＞SS	A(S)～(M)多、B(S)～(M)中、C(S)～(M)微、D(S)(S)少	8%
938	4	〃	SK794 東	瓦器	椀C	㊷㊸㊷㊺㊺	Ⅱ		F(S)(M)微	8%
939	3	〃	〃 〃	〃	〃	㊷	Ⅰ			17%
940	5	〃	〃 〃	〃	〃	㊷㊺	Ⅱ		A(S)微、B(S)微	21%
941	1	〃	SK794	土師器	皿A_1	㉟	〃		E(S)微	8%
942	2	〃	〃	〃	土釜A	⑮⑲	Ⅷ	S＞SS	A(S)～(L)極多、B(S)(M)少、CD(S)～(L)微	25%
943	4	〃	SK795 E263.5セク	瓦器	椀B	㉚	Ⅰ			25%
944	6	〃 〃	〃 〃	〃	椀C	㊾㊷	Ⅴ		BD(S)微、E(S)～(M)少、K微	33%
945	7	〃	〃 〃	〃	〃	㊷	Ⅱ		A(S)～(L)微、D(S)微	15%
946	5	〃	〃 〃	〃	〃	㊷㉕	Ⅳ		D(S)(S)微、E(S)～(L)中	42%
947	3	〃	〃 〃	土師器	皿A_2	⑫	Ⅱ		BD(S)微、K微	17%
948	1	〃	〃 〃	〃	小皿A_1	㊱	〃		D(S)～(M)少、E(S)～(M)微	13%
949	2	〃	〃 〃	〃	〃	㊱ ②	〃		D(S)(S)微、E(S)～(M)少、K微	17%
950	8	〃	〃 〃	白磁	碗	㊹ ㊺	Ⅰ			8%
951	3	〃	SK796	瓦器	椀C	㊷	Ⅱ		A(L)微	38%
952	4	〃	〃	〃	〃	㊷㊺	〃		A(S)微、DE(S)(S)少	8%
953	1	〃	〃	土師器	小皿A_1	⑮ ②	〃	SS以下	BD(S)微、E(S)中、K微	21%
954	2	〃	〃	〃	小皿B_1	㉝	〃		A(S)～(M)少・(L)極微、E(M)極微、K多	38%
955	1	〃	SK800	瓦器	椀C	㊷ ㉕	Ⅳ		E(S)～(M)極微	81%
956~986		第253図PL.136	SK819	土師器	皿大丸	㉝㊴㉟㉞	Ⅱ		胎土Ⅰも有り、色調は㉞主体、砂粒は概して微	—
									A(S)微、BD(S)微、E(S)～(M)微～中	—
987~998		〃 PL.136	〃	〃	〃	㊴㉞	Ⅱ		色調は㊴主体、砂粒は概して微	—
									A(M)極微、BCDE(S)微（E(S)～(L)多稀れ）	—
999~1007		〃 PL.136	〃	〃	〃	㊱⑩⑭㉓	Ⅱ		色調は㊱主体、砂粒は概して微	—
									ED(S)微（E(S)(M)微稀れ）	—
1008~1041		〃 PL.136	〃	〃	小皿小丸	㊴㊴㉞⑦	Ⅱ		色調は㊱主体（㉝稀れ）	—
									E(S)(S)微（A(S)微、K少稀れ）	—
1042~1047		第254図PL.136	〃	〃	〃	㉝㉞	Ⅱ		BD(S)極微、E(S)(S)微	—
1048~1053		〃 〃	〃	〃	〃	⑯㉝⑦㊱	〃		D(S)(S)少、E(S)(S)極微	—
1054~1065		〃 〃	〃	〃	〃	㊱⑦㊴㉝	〃		E(S)(M)微	—
1066	914	〃 〃	〃	〃	皿新C	㊱	〃		A(M)(L)微、D(M)極微、E(S)(S)極微	33%
1067	913	〃 〃	〃	〃	〃	㊱	Ⅳ	S＞M	C(S)(M)少・(L)極微、D(S)(M)中、E(S)少	38%
1068	915	〃	〃	〃	〃	㊱	Ⅴ	SS以下	A(M)極微、D(S)～(M)微、E(S)～(M)少	21%
1069	918	〃	〃	〃	〃	㊱	Ⅳ		E(S)(S)中	17%
1070	917	〃	〃	〃	〃	㊱	〃		B(S)～(M)微、C(S)～(L)少、D(L)極微、E(S)～(M)少	25%
1071	919	〃	〃	〃	〃	㊱	Ⅱ		C(S)～(L)微、E(S)(M)微	13%
1072	916	〃	〃	〃	〃	㊴	〃		DE(S)～(M)微	33%
1073	920	〃 PL.136	〃	〃	皿新D	㉞⑩⑲㉞	Ⅲ		B(S)～(L)少、C(M)(L)微、D(S)～(M)少、E(S)微、F(S)少	100%

出土遺物観察一覧 No.50

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1074	922	第254図	SK819	土師器	土釜A	㉖	⑮		Ⅱ		D㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓜ微	13%
1075	923	〃	〃	瓦質	土釜C	⑪	㊶	⑩	Ⅲ	SS以下	B㊎～Ⓜ微、D㊎～Ⓛ少、E㊎微	13%
1076	924	〃	〃	〃	〃	⑯	㊶		Ⅴ	SS	B㊎㊎多、CⓂⓁ極微、E㊎Ⓜ微、K微	6%
1077	925	〃	〃	〃	〃	㊶	⑩		Ⅱ		BE㊎微、CⓂ微	17%
1078	926	〃	〃	備前	擂鉢	㉖			〃		B㊎㊎中、C㊎㊎微	8%
1079	921	〃	〃	黒色土器A	椀	⑪	⑮		〃		A㊎～Ⓛ微、E㊎～Ⓜ少	36%
1080	928	〃	〃	白磁	碗	㊸			Ⅰ			—
1081	927	〃	〃	青磁	碗（底部）	㊾	㊺		〃			23%
1082	1	第255図PL.136	SK845、SG784上層、下層	土師器	甕	⑧⑦	⑦㉟		Ⅴ	SS以下多	B㊎微、C㊎少、D㊎㊎中、E㊎Ⓜ少、K少	21%
1083	2	〃 〃	SK845、SE872上層	唐津	皿	㊿	⑰		Ⅰ		露胎部色調⑦⑪	63%
1084	2	第256図PL.137	SX851	土師器	Ⅲa1（E）	㉝	㊱②	㊱	Ⅱ		ABⓂ微、E㊎～Ⓛ多	92%
1085	1	〃 〃	〃	〃	〃（〃）	㊲	⑦	⑦	〃		AⓂⓁ極微、B㊎微、E㊎～Ⓜ少	80%
1086	3	〃 〃	〃	〃	Ⅲa2（〃）	⑦	④		Ⅲ		A㊎～Ⓘ中、BE㊎～Ⓛ少	98%
1087	4	〃 〃	SX851 E246 S29北半	須恵器	壺	㉕	㉔		Ⅰ			72%
1088	1	〃 〃	SX853	〃	〃	㊺			〃			81%
1089	1	〃 〃	SX854	土師器	椀b	⑦	㊱		Ⅸ		AD㊎㊎中、E㊎～Ⓜ多	64%
1090	2	〃 〃	SX856	〃	Ⅲb	②			Ⅱ		A㊎～Ⓘ少、B㊎～Ⓛ微、E㊎～Ⓘ少、K少	100%
1091	4	〃 〃	〃	〃	〃	②			〃		AⓂⓁ極微、E㊎～Ⓛ少	100%
1092	3	〃	SX856 1091VI上	〃	〃	⑦	㊱		Ⅴ		A㊎～Ⓛ中、BⓁ微、D㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓜ多	82%
1093	1	〃 PL.137	〃 1090の上	〃	〃	㊱	②		Ⅱ		A㊎～Ⓘ少、B㊎微、E㊎～Ⓛ少、K微	93%
1094	1	〃 〃	SX857	瓦器	椀C	㊷	㊺		Ⅲ		B㊎少、C㊎微、D㊎㊎中、E㊎微	89%
1095	4	〃 〃	SX858	〃	椀A	㊷			Ⅰ			92%
1096	6	〃	SX858 セク	〃	椀C	㊶	㉕		Ⅱ		E㊎微	35%
1097	5	〃	SX858	〃	〃	㊷	㉔		〃		E㊎～Ⓜ微	28%
1098	1	〃 PL.137	〃	土師器	ⅢA1	②			〃		C㊎微、D㊎～Ⓘ少、E㊎～Ⓛ多	92%
1099	3	〃 〃	〃	〃	ⅢB1	⑭			Ⅲ		A㊎～Ⓘ中、B㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓛ少、K多	96%
1100	B 2	〃	SX865 下層、上層	〃	Ⅲ薄丸大	㊸			Ⅸ	SS以下多	B㊎微、D㊎多、E㊎少	58%
1101	D 2	〃	SX865 上層	〃	Ⅲ大丸	⑭	㊱		Ⅱ		A㊎㊎微、E㊎～Ⓛ微	42%
1102	1	〃	SX865 E352 S36	〃	〃	㉟			〃		E㊎少	54%
1103	D 4	〃	SX865 上層	〃	〃	㉟	㉞		Ⅴ		A㊎㊎微、B㊎微、E㊎㊎少・ⓂⓁ微	83%
1104	D 3	〃	〃 〃	〃	〃	⑦	㉝		Ⅳ		B㊎～Ⓜ中、E㊎～Ⓜ多	42%
1105	B 1	〃	SX865 下層	〃	Ⅲ大平	⑦	㊲		Ⅱ		E㊎㊎微、K少	17%
1106	D 1	〃	SX865 上層集石内	〃	小ⅢA1	⑦	㉟		〃		B㊎少、E㊎Ⓜ少	94%
1107	D 2	〃	SX869 上層灰黄色粘土	〃	Ⅲ大丸	㉞	㊱		〃		D㊎微	25%
1108	D 1	〃	〃 〃	〃	Ⅲ大平	㉞	㉟		〃		E㊎Ⓜ少	25%
1109	1	〃	SX869 NW区	〃	小Ⅲ小平	⑭			Ⅲ		A㊎以下多	48%
1110	2	〃 PL.138	SX869NW区、SW、SE他	備前	甕	㊼	⑯	㊼	Ⅳ		B㊎㊎中、C㊎Ⓜ少、E㊎～Ⓜ中、G㊎㊎少	42%
1111	3	〃	SX869NE、SE、SW区	〃	擂鉢	㊼	㉔	⑯	〃		B㊎～Ⓛ少、G㊎～Ⓘ中	25%
1112	5	〃	SX869 NW区	美濃瀬戸	壺	⑪	㉓	㉝	〃			4%
1113	4	〃	SX869 青灰色粘土	青磁	鉢（底部）	㉔	㊾		Ⅰ			29%
1114	D 5	第257図	SE871 東半第1層	土師器	Ⅲ大丸	㊲			Ⅱ		E㊎微	13%
1115	D 4	〃	SE871 第2層	〃	小Ⅲ小丸	㉞	㉟		〃		E㊎～Ⓜ微	13%
1116	D15	〃	SE871 SW区	〃	小Ⅲ小平	⑯	⑦		〃		BE㊎微	13%
1117	D 2	〃	SE871 第3層	〃	〃	㉝	㉞		〃		B㊎㊎微	13%
1118	D 1	〃	SE871 東半第2層	〃	〃	㉞			〃		E㊎微	17%
1119	D 3	〃	SE871 第1層	〃	〃	㉞	㉟		〃		DE㊎微	17%
1120	D 7	〃 PL.138	〃 〃	〃	土釜A	⑭			Ⅳ		A㊎㊎多・Ⓘ極微、E㊎～Ⓛ少、K多	13%
1121	A 1	〃 〃	SE871 最下層	〃	〃	⑩	⑯		Ⅱ		CⓁ微	8%
1122	D 8	〃	SE871 NE区	〃	〃	⑭	⑩	⑲	Ⅷ	S＞M	A㊎～Ⓛ極多、B㊎～Ⓜ少、C㊎～Ⓜ微	17%
1123	D 6	〃	SE871 第1層	〃	〃	⑫	⑯	⑩	Ⅵ	SS＞S	A㊎～Ⓜ中、B㊎㊎少、C㊎微、D㊎Ⓜ少、K多	13%
1124	D14	〃	SE871 東半第2層	〃	〃	⑯	⑦	㉛	Ⅱ		B㊎㊎少、D㊎微、E㊎～Ⓜ微、K中	8%
1125	D 9	〃	SE871 東半第1層	瓦質	土釜C	㊷	㊷	㊹	Ⅵ	SS以下多	BD㊎～Ⓜ中、C㊎中	15%
1126	D10	〃	SE871 第1層	須恵質	捏鉢	㊺			Ⅶ		B㊎中、C㊎㊎少、D㊎～Ⓛ多	—
1127	D13	〃	SE871 東半第1層	常滑	甕	㉚			Ⅵ		B㊎～Ⓜ極多、C㊎㊎極多、K多	—
1128	D12	〃 PL.138	SE871 NE区	青磁	碗（底部）	㉔	㉕		Ⅰ		露胎部色調⑥	100%
1129	A 2	〃 〃	SE871 最下層	〃	碗	㉔	㉕		〃			8%
1130	D11	〃 〃	SE871 東半第1層	〃	Ⅲ（底部）	㊾	㉘		〃			13%
1131	B 1	〃	SE872 青灰色粘土	土師器	Ⅲ大丸	㊲			Ⅱ		E㊎微	13%
1132	D 1	〃	SE872 第4層	〃	小ⅢNGタイプ	②			〃		E㊎～Ⓜ中、K少	25%
1133	E 1	〃	SE872 最上層	〃	〃	⑪	②		〃		E㊎㊎中、K中	17%
1134	B 2	〃 PL.138	SE872 第12層	瓦質	椀	㉚	㉔		Ⅲ	SS以下多	土釜Cと類似	13%
1135	D 2	〃	SE872 上層、SE877	〃	甕	㊷	㉕		Ⅴ	SS以下多	B㊎～Ⓜ少、C㊎～Ⓛ微、D㊎～Ⓘ中	17%
1136	C 1	〃	SE872 第8層	〃	捏鉢	㉔			Ⅳ	SS以下多	BC㊎～Ⓜ少、D㊎Ⓜ少	4%
1137	B 3	〃	SE872 青灰色粘土	瓦器	土釜C（足釜）	㉛	㊺		Ⅱ		C㊎Ⓜ微、D㊎㊎中	13%
1138	E 2	〃	SE872 最上層	備前	擂鉢	⑥	⑨	⑥	〃		B㊎～Ⓜ微、G㊎㊎微	8%
1139	D 3	〃 PL.138	SE872 上層、SE877	唐津	丸椀	淡緑灰色⑦			〃		B㊎㊎極微、E㊎Ⓜ極微	8%
1140	C 2	〃 〃	SE872 第8層	青磁	碗（底部）	㊿	㊺		Ⅰ			21%
1141	B 1	〃	SE874 下層	土師器	Ⅲ大丸	㊽	㉞		Ⅱ		E㊎微	21%
1142	A 1	〃	SE874西拡張区青灰色粘土	〃	小Ⅲ小平	㉝			〃		E㊎微、K少	36%
1143	C 1	〃	SE874 西第1層	〃	土釜A	⑦			Ⅷ	S＞M	A㊎～Ⓜ多、B㊎㊎少、D㊎Ⓜ微、E㊎～Ⓜ微	13%

出土遺物観察一覧 No.51

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1144	A 2	第257図 PL.138	SE874西拡張区青灰色粘土	備前	擂鉢	㊼	㉔		Ⅱ		BⓈⓈ微、GⓈ～Ⓜ微	13%
1145	C 3	〃 〃	SE874 第2層	備前？	〃	㊸㊾	⑯		Ⅳ		BⓈ～Ⓜ中、EⓈⓂ少	9%
1146	C 2	〃 〃	SE874 西第3層	瓦質	土釜	㊷㉔	㉚	㉕	Ⅰ			19%
1147	A 3	〃 〃	SE874東第3層青灰色粘土	美濃瀬戸	皿	㊿	㊻	〃				4%
1148	C 4	〃	SE874 西第1層	白磁	〃	㊼		〃				13%
1149	D 1	〃 PL.138	SE874	唐津	椀（底部）	㊽	㉝		Ⅷ			94%
1150	A 1	〃 〃	SE875 井内	〃	〃（〃）	明緑灰色㉝			Ⅰ			42%
1151	H 1	〃	SE877 掘形	土師器	皿薄丸大	㉞			Ⅱ		EⓈⓈ微	17%
1152	D 1	〃	SE877 上層	唐津？	皿	淡緑灰色㊻			Ⅰ			11%
1153	H 3	〃 PL.138	SE877 掘形	唐津	皿（底部）	淡茶灰色⑦			〃			67%
1154	H 2	〃	SE877 青灰色粘土	備前	擂鉢	⑪	⑩	⑨	Ⅳ		BⓈⓈ微、CⓈⓂ微	13%
1155	15	第258図 PL.138	SF876 東半	瓦器	小皿	㊷			Ⅱ		DⓈ微	71%
1156	16	〃	〃 〃	〃	〃	㉔			〃		EⓈ微	72%
1157	6	〃	SF876 SE区	土師器	皿大丸	㉞			〃		EⓈⓂ微	42%
1158	E 3	〃	SF876 最上層	〃	〃	㉞			〃		EⓈⓈ微	29%
1159	1	〃	SF876 東半	〃	小皿小丸	⑦			〃		DⓈ極微、EⓈ～Ⓜ少、K微	17%
1160	8	〃 PL.138	SF876 東半、北半	〃	皿大平	㉞			Ⅰ			63%
1161	7	〃	SF876 東半	〃	〃	㉟			Ⅱ		EⓈ少	79%
1162	E 1	〃	SF876 最上層	〃	小皿小平	⑦㊱			〃		EⓈ少	50%
1163	E 2	〃 PL.138	〃 〃	〃	〃	㊱			〃		EⓈ微	63%
1164	3	〃	SF876 東半	〃	〃	㉟			〃		EⓈ微	65%
1165	5	〃	SF876 西半	〃	〃	㉟㊲			〃		EⓈ微	77%
1166	4	〃 PL.138	SF876 SE区	〃	〃	⑭			Ⅴ		BⓈ微、EⓂ微	75%
1167	11	〃	SF876	〃	土釜A	⑭	⑰		Ⅷ	SS＞S	AⓈ～Ⓛ多、BⓈ少、DⓈ～Ⓜ少、K多	9%
1168	9	〃 PL.139	SF876 北半、東半	〃	〃	⑮	㉔		Ⅱ	SS	AⓈ～Ⓜ少、DⓈ微、EⓈⓂ中、K多	21%
1169	10	〃 〃	SF876 東半	〃	〃	㉟			Ⅷ	S	AⓈ～Ⓜ多、DⓈ少、EⓈ～Ⓛ中、K中	17%
1170	E 4	〃 〃	SF876 最上層、東半	〃	〃	㉟			〃	SS＞S	ACⓈ～Ⓜ中、BDⓈ～Ⓜ少	25%
1171	12	〃 PL.138	SF876 北半、東半	〃	土釜B	㉞			〃	SS	AEⓈ～Ⓜ多、CⓂ～Ⓛ極微、DⓈ～Ⓜ少、K微	25%
1172	13	〃 PL.139	SF876 E半	〃	捏鉢	㉝	⑳	㊲	Ⅵ	SS以下多	BⓈⓈ微、CⓈⓂ微、DⓈⓂ中	13%
1173	E 5	〃 〃	SF876最上層、SG783下層	〃	〃	⑰	⑳		Ⅳ	SS	AⓈ～Ⓛ少、BⓈ微、DEⓈ～Ⓜ中、K中	21%
1174	14	〃 PL.138	SF876 E半	〃	〃	⑦	㊲	⑦㉔	Ⅵ	SS	BⓈ～Ⓜ中、CDⓈⓈ中、EⓈ～Ⓛ中	29%
1175	21	〃 PL.139	SF876 北半	瓦質	土釜C	㊷			Ⅴ	SS以下多	BⓈ以下多、CⓈ微、DⓈⓈ多	9%
1176	19	〃 〃	SF876 SW区	〃	〃	㉔			〃	SS以下多	BDⓈ中、CⓈ少、K中	6%
1177	20	〃 〃	〃 〃	〃	〃	㉛			〃	SS以下多	BⓈ～Ⓜ少、DⓂ微	8%
1178	22	〃	SF876 北半	〃	〃	㉔	㊺	㊷㊺	〃	SS以下多	BⓈⓈ多、CⓈⓂ微、DⓈⓈ中	17%
1179	24	〃 PL.139	SF876 西側	〃	捏鉢	㊷	㉙	㊸㉘	Ⅶ	SS以下多	BⓈ～Ⓜ中、CⓈⓂ微、DⓈ～Ⓛ少	13%
1180	23	〃 〃	SF876 SE区	〃	〃	㊷			〃	SS以下多	BⓈ～Ⓜ多、CⓈ～Ⓜ少、DⓈ～Ⓜ中	8%
1181	26	〃 〃	SF876 北半	〃	〃	⑫	㊼	㉝	Ⅷ	SS以下多	BⓈⓈ少、CⓈⓂ微、DⓈ～Ⓜ少・Ⓛ微	13%
1182	17	〃 〃	SF876 SE区	〃	甕	㊷	㉔		Ⅲ	SS以下	BDⓈ以下中、CⓈ中	25%
1183	18	〃 〃	〃 〃	〃	〃	㉔	㊺		Ⅴ	SS以下多	BⓈ中、CⓈⓈ少、DⓈ以下中	4%
1184	27	第259図 〃	SF876 SW区	〃	火鉢	⑳	㉔		Ⅲ	SS＞S	AⓈ～Ⓛ多、BⓈ～Ⓜ多	13%
1185	33	〃 〃	SF876 SW区、SG784上層	備前	擂鉢	⑬			Ⅳ		EⓈⓂ少、GⓈ～Ⓛ少	12%
1186	29	〃 PL.138	SF876東半、SD905上層、SD911上層、SG784上層、SG783上層他	〃	〃	⑥	⑨	⑥㊺	Ⅱ		BⓈ～Ⓜ少	23%
1187	31	〃	SF876 東半	〃	〃	⑥	⑥	⑨㉔	〃		CⓈ微、GⓈⓈ少、K少	8%
1188	28	〃 PL.138	SF876北半、SE区、SW区 SD905上層、SD913北端、SG783下層他	〃	〃	㊼			〃		BⓈⓈ微、GⓁ微	71%
1189	30	〃	SF876 SE区、東半他	〃	〃	㊼			Ⅳ		BⓈ～Ⓛ微、CⓈⓂ微、GⓈ～Ⓜ少	15%
1190	32	〃 PL.139	SF876 SE区	〃	〃	㊼			〃		BⓈ～Ⓜ微、DⓈⓂ微、GⓂⓁ少	13%
1191	35	〃 〃	SF876	青磁	碗（底部）	㊾	㉔		Ⅰ			100%
1192	34	〃 〃	SF876 東半	白磁	皿	㊸	㊷		〃			25%
1193	1	〃 〃	SD881 E238 S33北	黒色土器B	椀B	㊶	⑱		Ⅱ		AⓈ～Ⓜ少、BⓈ微、K少	27%
1194	3	〃	SD881、P274 掘形	土師器	甕	⑭	㊸	⑦	Ⅷ	S＞SS	AⓈ～Ⓜ多、BⓈⓈ少、EⓈ～Ⓜ極多	8%
1195	D 9	〃	SD882 上層E266S25	黒色土器A	椀B	㊶	⑦		Ⅲ	SS以下	BCⓈ以下中、DⓈ以下少、EHⓈ以下微、K少	25%
1196	D 8	〃 PL.139	〃 〃	〃	椀b	㊶	⑪		Ⅱ		AⓈ極微、EⓈⓂ少、外面色調は淡黒褐色	64%
1197	D10	〃	〃 〃	〃	〃	㊶	⑯		〃		BⓈ～Ⓛ微、K少	25%
1198	D12	〃	〃 上層E262 S25	〃	〃（底部）	㊶	⑦	⑬	〃		AⓈⓂ微、EⓈⓈ中	71%
1199	D11	〃	〃 上層E266 S25	〃	坏A	㊶	⑥		Ⅲ	SS以下	BEHⓈ以下微、CⓈ以下多、DⓈ以下中	8%
1200	D 7	〃	〃 上層E254S21・25	土師器	坏b	②			Ⅱ		AⓈⓈ中、BⓈ～Ⓜ微、DⓈ～Ⓜ少、EⓈⓈ多、K微	67%
1201	D 3	〃	〃 上層E270S29	〃	坏A	⑦			〃	SS	BⓂ極微、EⓈⓈ微、K極微	—
1202	D 6	〃	〃 〃	〃	皿B？(底部)	㊱			〃		BⓈⓈ少	8%
1203	D 5	〃	〃 上層E254S21・25	〃	皿 a_1（E）	㉝			〃		AⓈ微、EⓈ～Ⓜ微、K少	17%
1204	D 4	〃	〃 上層E258S21・25	〃	〃（〃）	㊱			〃		AEⓈⓈ微、DⓈⓈ微、K少	8%
1205	D 1	〃	〃 上層E266 S25	〃	皿c	⑨			〃		BEⓈ微、K少	8%
1206	B 1	〃	〃 下層E266 S25	〃	〃	⑳	④		〃		AⓈ～Ⓛ少、BⓈ～Ⓜ微、EⓈ～Ⓜ少	13%
1207	D 2	〃	〃 上層E262 S25	〃	〃	⑦			〃		AⓈ～Ⓜ中、DⓈⓈ微、EⓈ微、K微	13%
1208	D13	〃	〃 上層E266 S25	〃	甕	⑬	⑯		Ⅳ	M＞S	AⓈ～Ⓛ多、DⓈⓂ少	17%
1209	D14	〃	〃 上層E270 S29	〃	〃	⑮			Ⅵ	S＞M	AⓈ～Ⓛ多、BⓂ微、EⓈⓂ微、K多	—
1210	C 2	〃 PL.139	SD885 中層	黒色土器A	椀B	⑪	④		Ⅴ	SS以下	BCⓈ以下	80%
1211	C 1	〃 〃	〃 中層E374 S14	土師器	坏C	⑤	⑤	⑲	Ⅱ		AⓈ～Ⓛ少、EⓈ～Ⓜ中、K多	72%

第ⅢC区

出土遺物観察一覧 No.52

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1212	D 1 SD886	第259図	SD885 上層	緑釉陶器	椀（底部）	濃緑色	⑦		Ⅲ		BⓈⓈ少、CⓈⓈ微、EⓈⓂ少	29%
1213	36	第260図	E266S29セク、E272S28	瓦	器	椀B	㊷㉕		V	SS以下中	BⓈ微、DⓈⓈ微	71%
1214	34	〃	E262.7 S29.6 地点	〃		椀A	㉔㉕	〃	〃	SS以下中	DEⓈ微	75%
1215	74	〃 PL.140	E262 S29.6 地点	〃		〃	㉔ ㉕		Ⅱ		BDⓈ～Ⓛ微、EⓈ～Ⓜ少	57%
1216	35	〃 〃	E264 S29.7 地点	〃		〃	㉔㉕	〃	〃		DⓈⓈ微	100%
1217	65	〃 〃	E255.2 S28.2 地点	〃		椀C	㉕㊷㊺㊷	〃	〃		AⓈ微、DⓈ～Ⓜ少、EⓈⓂ微	46%
1218	40	〃	E262.3 S29.5 地点	〃		〃	㉕	〃	〃		DEⓈ微	55%
1219	51	〃 PL.140	E261.5 S29.5 地点	〃		〃	㊷㉓		I			63%
1220	54	〃 〃	E260.1 S29地点	〃		〃	㊺㊷		Ⅱ		DⓈ～Ⓜ微	66%
1221	49	〃 〃	E260.9 S28.3 地点	〃		〃	㊺㉕		Ⅲ		CⓈ微、DⓈ～Ⓛ少	81%
1222	64	〃	E265.5 S29.9 地点	〃		〃	㉔	〃	〃		DⓈⓈ微、EⓈⓂ微、K微	32%
1223	41	〃	E262.1 S29.7 地点	〃		〃	㊷		I			88%
1224	55	〃 PL.140	E255.9 S27.7 地点	〃		〃	㊷	〃	〃			78%
1225	46	〃 〃	E257.3 S29.1 地点	〃		〃	㊷		Ⅱ		EⓈ微	57%
1226	47	〃	E264.9 S29.8 地点	〃		〃	㉕㊷	〃	〃		DⓈ～Ⓛ微	69%
1227	59	〃	E261.8 S29.4 地点	〃		〃	㉔	〃	〃		EⓈ以下微	25%
1228	50	〃 PL.140	E261.2 S29.5 地点	〃		〃	㉔		Ⅲ		AⓈⓂ微、BⓈ微、DⓈ～Ⓜ多、EⓈⓂ微	95%
1229	43	〃	E260.8 S29.3 地点他	〃		〃	㉔㉕	〃	〃		AⓈⓂ微、DⓈ～Ⓜ少、EⓈ～Ⓜ微	64%
1230	61	〃	E257.5 S28.5 地点	〃		〃	㉕ ㊷	〃	〃		BDⓈ微、EⓈ～Ⓜ微	29%
1231	42	〃	E261 S29.5 地点	〃		〃	㉔㊺	〃	〃		DⓈ微、EⓈ微	76%
1232	52	〃 PL.140	E261.6 S29.7 地点	〃		〃	㊷ ㊷㉔		Ⅱ		ADEⓈ微	83%
1233	62	〃	E206 S29	〃		〃	㉕ ㉔	〃	〃		AⓈ微、DⓈ少	19%
1234	48	〃 PL.140	E262.8 S29.7 地点	〃		〃	㊺		V		AⓈⓈ微、DEⓈ～Ⓛ少	83%
1235	37	〃	E265.8 S29.9 地点	〃		〃	㊷㉕㊺		Ⅱ		BⓈ微	58%
1236	57	〃	E259.9 S28.8 地点他	〃		〃	㉔		Ⅲ		CⓈ～Ⓛ微、EⓈ微、K中	72%
1237	58	〃	E267.4 S29.9 地点	〃		〃	㊺ ㊷	〃	〃		AⓂⓁ微、BⓁ微、DⓈ～Ⓜ微、EⓈ～Ⓛ微、K微	48%
1238	39	〃	E254 S25	〃		〃	㉕㉔㊺㉔		Ⅱ		DⓈ～Ⓜ微	89%
1239	44	〃	E260.8 S29.4 地点	〃		〃	㉔		Ⅲ		BDⓈ微、EⓈ～Ⓜ少	96%
1240	53	〃	E264.5 S29.8 地点	〃		〃	⑰㊺		V		DⓈ～Ⓜ多、EⓈ～Ⓜ少	94%
1241	45	〃 PL.140	E263.9 S29.8 地点	〃		〃	㊷		Ⅲ		BDⓈ微、K 微	94%
1242	38	〃	E254 S25	〃		〃	㊷		Ⅱ		EⓈ～Ⓛ微	68%
1243	33	〃 PL.140	E261.9 S29.5 地点	〃	小皿		㊾⑳	〃	〃		DEⓈ微、FⓈ～Ⓓ極微	83%
1244	30	〃	E265.5 S29.5 地点	〃		〃	㉔ ⑯	〃	〃		AⓂ微、DⓈⓈ微、EⓈ～Ⓜ微	25%
1245	32	〃 PL.140	E260.1 S28.8 地点	〃		〃	㉔	〃	〃		EⓈ微	87%
1246	29	〃	E267.2 S30.1 地点	〃		〃	㉞		Ⅲ		AⓈ以下多、DⓈ～Ⓜ少、EⓈ微	29%
1247	31	〃	E266 S29	〃		〃	㉔㊺	〃	〃		AⓈ微、DⓈ～Ⓜ少、EⓈ～Ⓜ微	38%
1248	12	第261図	E262 S29南半	土師器	皿A1		⑮ ㉞		Ⅱ		ACDEⓈ微	13%
1249	11	〃	E264.9 S30地点	〃		〃	㊱ ㊶㊱	〃	〃		AⓁ微、DⓈⓂ微、EⓈ～Ⓜ少	13%
1250	16	〃	E264.6 S29.9 地点	〃	皿B1		⑮	〃	〃		AⓈ～Ⓛ中、DEⓈ微、K極多	38%
1251	17	〃	E264.2 S29.4 地点	〃		〃	⑰	〃	〃		AⓈ～Ⓜ少、CⓈⓈ微、EⓈ～Ⓛ少、K極多	8 %
1252	15	〃 PL.141	E263.9 S29.7 地点	〃		〃	⑮	〃	〃		AⓈⓈ少、BⓈ微、DⓈ～Ⓜ微、EⓂ微	42%
1253	13	〃	E262 S29南、E259～260	〃		〃	⑰	〃	〃		AⓈⓂ微、CⓈ～Ⓛ少、DEⓈⓈ微、K極多	38%
1254	18	〃	E266 S29	〃		〃	⑰⑯	〃	〃		AEⓈⓂ少、DⓈⓈ微、K中	13%
1255	14	〃 PL.141	E263.9 S29.6 地点	〃		〃	⑦	〃	〃		AⓂ～Ⓓ中、BⓈⓈ微、EⓈ～Ⓛ微、K極多	79%
1256	20	〃	E260.8 S29.4 地点	〃		〃	⑦	〃	〃		AⓈ～Ⓛ少、BⓈ微、DⓂ微、EⓈ～Ⓜ少、K極多	17%
1257	25	〃	E260.2 S29地点	〃		〃	②㊱	〃	〃		AⓁⒹ少、DⓈ微、EⓈⓂ微	42%
1258	19	〃 PL.141	E260.1 S28.8 地点	〃		〃	⑦	〃	Ⅲ		AⓈ～Ⓓ中、BⓈ～Ⓓ微、CⓈ～Ⓓ少、DⓈ～Ⓓ微	75%
1259	27	〃	E263.9 S29.9 地点	〃		〃	⑦	〃	Ⅱ		AⓈⓂ少、BDⓈ微、K極多	21%
1260	22	〃	E266.5 S29.5 地点	〃		〃	⑦	〃	〃		AⓂ微、CⓈ～Ⓛ微、FⓈ～Ⓛ少、K極多	21%
1261	24	〃	E256.3 S28.3 地点	〃		〃	①	〃	〃		AⓈ～Ⓜ少、EⓈ微	17%
1262	23	〃	E256.3 S28.4 地点	〃		〃	①	〃	〃		CDⓈⓂ微、EⓈ微	25%
1263	26	〃	E264.9 S29.6 地点	〃		〃	⑦	〃	〃		ACⓂ微、EⓈ～Ⓜ少、K極多	13%
1264	21	〃	E263.9 S29.9 地点	〃		〃	①	〃	〃		ABⓈⓂ微、DⓈⓈ微、K多	8 %
1265	28	〃	E259 —260 セク	〃		〃	㊳	〃	V		AⓈ～Ⓓ少、DⓈ微、EⓈ～Ⓛ少、K多	29%
1266	1	〃	E261.6 S29.6 地点	〃	小皿A1		⑥		Ⅱ		DⓈ～Ⓜ微、EⓈⓂ微	13%
1267	2	〃	E263.5 セク第1層	〃		〃	㊴ ①	〃	〃		EⓈ～Ⓜ少	29%
1268	3	〃	E266 S29.5 地点	〃		〃	㊴①	〃	V		CDⓈⓈ少、EⓈ微	21%
1269	73	〃	E257.8 S28.5 地点	〃	小皿B1		①		Ⅱ		ADⓈ微、EⓈ～Ⓜ微、K多	25%
1270	5	〃	E263.5 セク第1層	〃		〃	㊳		Ⅳ		AⓈⓈ少、BⓈ微、DEⓈ～Ⓜ微、K多	38%
1271	4	〃	E266.5 S29.5 地点	〃		〃	⑮	〃	〃		AⓈ～Ⓓ少、CⓈ～Ⓜ微、DⓈⓈ微、EⓈ～Ⓛ微、K中	25%
1272	10	〃	E264.6 S29.9 地点	〃		〃	① ①㊱		Ⅱ		AⓈⓂ少、CⓈ～Ⓓ微、DⓈ微、EⓈ～Ⓜ微、K多	33%
1273	6	〃	E265.1 S29.4 地点	〃		〃	⑦	〃	〃		DⓈ微、EⓈ～Ⓛ微、K 極多	8 %
1274	9	〃	E266 S29セク	〃		〃	⑦	〃	〃		BⒹ 微、CⓈⓂ微、DⓈ～Ⓜ微、EⓈ～Ⓛ少、K多	17%
1275	7	〃	セク2—5層	〃		〃	㉑ ㉞	〃	〃		AⓈ～Ⓜ少、BEⓂ微、DⓈ微、K多	13%
1276	8	〃	E261.1 S29.4 地点	〃		〃	⑦	〃	〃		AⓂ少、BⓂ微、EⓈ～Ⓜ微、K多	17%
1277	66	〃 PL.141	E263.7 S29.6 地点	〃	土釜A		⑦⑱		Ⅷ	M＞S	AⓈ～Ⓜ極多、BCDEⓈ～Ⓜ少	92%
1278	67	〃	E267.1 S29.9 地点	〃		〃	㊱⑯ ㊱	〃	〃	SS・S	AⓈ～Ⓛ多、BⓈ～Ⓛ中、CⓈ～Ⓜ中、DEⓈ～Ⓜ少	25%
1279	69	〃 PL.141	E254 S25東半	〃		〃	⑯ ⑰㊸		Ⅸ	M＞S	AⓈⓂ極多、BⓂ微、CⓈⓂ少、DⓈ～Ⓓ中、E微	50%
1280	68	〃	E256.9 S28.5 地点	〃		〃	㉔		Ⅷ	S＞M	AⓈⓂ多、BⓈ～Ⓜ微、DⓈ～Ⓛ少、EⓂ微、K少	21%

出土遺物観察一覧 No.53

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒組成	残存率
1281	70	第261図	E264.3 S29.9 地点	土師器	土釜A	⑯ ㊱⑯	Ⅷ	S・M	AⓈⓂ極多、B(SS)Ⓢ少、CEⓈⓂ微、D(SS)〜Ⓛ少	17%
1282	72	〃	E255—256 セク他	〃	〃	⑦ ㊱	〃	S・M＞L	A(SS)〜Ⓛ極多、BC(SS)〜Ⓛ少、D(SS)〜Ⓛ微	42%
1283	71	〃	E265.1 S29.4 地点他	〃	〃	⑦	〃	S＞M	A(SS)〜Ⓜ極多、B(SS)〜Ⓜ微、D(SS)〜Ⓛ少、EⓈ微	33%
SD886 落ち込み										
1284	13	第262図	E258 S25	瓦器	椀C	㉔	Ⅱ		D(SS)〜Ⓜ微、EⓈⓂ微	11%
1285	16	〃	〃	〃	〃	㉔㊺	〃		E(SS)微	38%
1286	15	〃	〃	〃	〃	㊷㉕	Ⅳ		DE(SS)微	20%
1287	17	〃 PL.141	E258 S25南半	〃	〃	㊷㊺	Ⅴ		D(SS)〜Ⓜ多、E(SS)〜Ⓜ少	46%
1288	14	〃	〃 〃	〃	〃	㉔㊺	Ⅲ	SS以下中	CE(SS)微	42%
1289	7	〃	E262 S25南半	土師器	皿A_1	⑮	Ⅱ		B(SS)微、DE(SS)〜Ⓜ微	4%
1290	6	〃	E258 S25	〃	〃	⑦	〃		D(SS)〜Ⓜ微、E(SS)〜Ⓜ少	13%
1291	8	〃	〃	〃	〃	⑦⑯ ⑦	〃		AC(SS)微、E(SS)〜(LL)少	17%
1292	11	〃 PL.141	E262 S25南半	〃	皿B_1	⑦⑤	〃		B(SS)微、CDⓈ微、E(SS)〜Ⓜ微、K多	67%
1293	9	〃	〃 〃	〃	〃	②	〃		A(SS)微、DⓈⓂ微、K多	13%
1294	12	〃	E258 S25	〃	〃	⑰	〃		AⓂ微、B(SS)〜(LL)微、D(SS)微、EⓈⓂ微、K多	40%
1295	1	〃	E258 S24〜25	〃	小皿A_1	㉝ ㉝㊳	〃		CE(SS)微	13%
1296	3	〃	E258 S25南半	〃	〃	⑦	〃		CE(SS)微	8%
1297	2		E250 S25南半	〃	〃	⑦	〃		B(SS)微、D(SS)Ⓢ微、E(SS)〜Ⓜ微	17%
1298	5		E270 S29	〃	小皿B_1	⑦	〃		AⓈ〜Ⓛ微、C(SS)微、E(SS)少、K多	33%
1299	18		E258 S25南半	瓦器	鉢	㉔ ㉔㊺	Ⅴ	SS以下多	CE(SS)微	17%
第ⅢC2区落ち込み										
1300	22	第262図	E266 S25南半	瓦器	椀A	㉔㉕	Ⅳ		D(SS)微	28%
1301	24	〃 PL.141	E266 S25	〃	椀C	㉔㊺	Ⅲ	SS以下中	BCE(SS)微、D(SS)〜Ⓜ微	75%
1302	25	〃	E258 S25中	〃	〃	㊷㊺	Ⅴ	SS以下多	D(SS)微、EⓈ微	78%
1303	20	〃 PL.141	E266 S25	〃	〃	㉕㉔	Ⅲ		BⓈ微、D(SS)〜Ⓜ多、EⓈⓂ微	86%
1304	23	〃	E266 S29北西、E266S25	〃	〃	㉔	Ⅱ		D(SS)Ⓢ微、EⓈ極微	21%
1305	21	〃	E254—258 セク	〃	〃	㉕	〃		B(SS)少、D(SS)微、E(SS)Ⓢ微	29%
1306	17	〃 PL.141	E263.5 セク第1層	土師器	皿A_1	②	Ⅳ		D(SS)微、E(SS)〜Ⓛ微	25%
1307	18	〃	E272 S24	〃	〃	②	〃		B(SS)少、C(SS)微、E(SS)〜Ⓜ微、K微	21%
1308	16	〃	E266 S25西半	〃	皿B_1	⑰	Ⅴ		AⓁ(LL)少、B(SS)〜Ⓜ微、DⓈ微、EⓂⓁ微、K極多	30%
1309	15	〃	E266 S25	〃	〃	⑮	〃		AⓂⓁ中、BⓂ微、EⓂⓁ微、K極多	8%
1310	19	〃	〃	〃	皿C	㉞	Ⅱ		BCE(SS)微	17%
1311	7	〃	E263.5 セク第10層	〃	小皿A_1	㊴	〃		BⓈ微、D(SS)Ⓢ微、E(SS)〜Ⓜ微、K微	17%
1312	9	〃	〃 〃	〃	〃	⑭	〃		BC(SS)微、E(SS)少	58%
1313	5	〃 PL.141	〃 〃	〃	〃	㊱	〃		BⓈ微、C(SS)Ⓢ微、DE(SS)〜Ⓜ微	100%
1314	10	〃	E266 S25	〃	〃	⑭	〃		AC(SS)微、DⓈ微	33%
1315	6	〃	E263.5 セク第10層	〃	〃	㊴	〃		D(SS)微、E(SS)〜Ⓜ微	58%
1316	8	〃	E263.5 セク第11層、14層	〃	〃	① ㊱	〃		E(SS)Ⓢ微	29%
1317	13	〃 PL.141	E263.5 セク第10層	〃	小皿A_1？	㊲⑯	Ⅲ		BCD(SS)微、E(SS)Ⓢ多	50%
1318	1	〃 〃	〃 〃	〃	小皿A_1	㊴	〃		B(SS)Ⓢ微、D(SS)〜Ⓜ少、E(SS)〜Ⓛ中	96%
1319	3	〃 〃	E276 S24、E266 S25	〃	〃	㉞	Ⅶ		BCD(SS)微、E(SS)〜Ⓜ多	75%
1320	2	〃	E263.5 セク第10層	〃	〃	㊱ ⑦	Ⅴ	SS以下多	A(LL)微、B(SS)Ⓢ微、D(SS)微、E(SS)〜Ⓜ微	100%
1321	4	〃 PL.141	〃 〃	〃	〃	㊴	〃	SS	A(SS)中、D(SS)微、E(SS)〜Ⓜ微	96%
1322	11	〃 〃	E280 S16	〃	小皿B_1	⑳	Ⅱ		AEⓂⓁ微、B(SS)微、D(SS)少	54%
1323	14	〃	E263.5 セク第10層	〃	〃	②	Ⅲ	SS以下中	BDE(SS)Ⓢ微、K微	25%
1324	26	〃	E276 S28	須恵器	鉢（底部）	㉘ ㉕	Ⅱ		BCE(SS)微	28%
1325	27	〃	E266 S25南半	白磁	碗	(53)	Ⅰ			13%
第ⅢC2区包含層										
1326	12	第262図	E266 S33	瓦器	椀C	㉔㊺	Ⅴ		B(SS)微、D(SS)中	76%
1327	11	〃	E266 S29	〃	小皿	㉔	Ⅱ		D(SS)Ⓢ少、EⓈ微	42%
1328	10	〃	〃	〃	〃	⑳	〃		B(SS)微、DⓂ微、E(SS)〜Ⓛ多	29%
1329	8	〃		土師器	皿A_1	⑥ ⑮	〃		CE(SS)微	17%
1330	9	〃	E266 S29	〃	〃	㉞	〃		D(SS)Ⓢ微、E(SS)〜Ⓛ微	17%
1331	1	〃	E266 S25	〃	小皿A_1	⑯ ⑰⑯	〃		D(SS)Ⓢ微、EⓈ微、K微	8%
1332	3	〃	E266 S33	〃	〃	㊴	Ⅴ		D(SS)〜Ⓛ少、E(SS)〜Ⓛ微、K少	25%
1333	6	〃	E266 S29	〃	小皿B_1	⑭	Ⅱ		A(SS)〜Ⓜ少、CⓈ微、K多	17%
1334	4	〃	〃	〃	〃	⑤ ㉝⑲	〃		B(SS)微、D(SS)Ⓢ微、E(SS)〜Ⓜ微、K極多	38%
1335	5	〃	〃	〃	〃	⑭ ⑦	Ⅳ		AⓈ〜Ⓛ少、D(SS)微、K極多	38%
1336	2	〃	E276 S16	〃	〃	②	Ⅱ		A(SS)〜Ⓜ微、C(SS)微、K多	13%
1337	7	〃	E266 S29	〃	〃	⑦	〃		AⓈ〜(LL)少、BⓈ微、D(SS)〜Ⓜ微、K極多	8%
1338	5	第263図	SD887 E246 S21	瓦器	椀C	㉔	Ⅱ		EⓈⓂ少	8%
1339	2	〃	SD887 S21セク	土師器	皿A_1	㉒ ⑯ ⑦	〃		A(SS)Ⓢ中、B(SS)Ⓢ少、E(SS)〜Ⓜ微、K中	21%
1340	3	〃 PL.142	SD887 E246 S13	〃	〃	㉞	〃		D(SS)Ⓢ微、E(SS)〜Ⓜ中	50%
1341	4	〃	SD887 E246 S17	〃	〃	㉞	〃		E(SS)Ⓢ微	13%
1342	3	〃	SD888 E262 S29西半	瓦器	椀C	㊺ ㊷	〃		EⓈⓂ極微	8%
1343	2	〃	SD888 E258 S29	〃	〃	㉔ ㊷	〃		D(SS)Ⓢ少	8%
1344	4	〃	SD888 E266 S33	〃	椀D	(65)㊼ ㉞	〃		E(SS)〜Ⓜ微	8%
1345	1	〃	SD888 E262 S29	土師器	皿A_1	㉞	〃		DE(SS)極微	8%
1346	D 7	〃	SD898上層E270S29南半	〃	皿大丸	㉟	〃		BⓈ微、D(SS)微	4%

出土遺物観察一覧 No.54

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1347	D 8	第263図	SD898 上層E270 S29南半	土師器	皿大丸	㉟			Ⅱ		A㋎微、E㋎～Ⓜ少	8％
1348	1	〃	SD898 E266 S33	〃	〃	⑭	㉟	⑭	〃		A㋎微、D㋎㋎微、E㋎～Ⓜ少	8％
1349	2	〃	〃 〃	〃	皿大平	㉞			〃		A㋎～Ⓜ微、E㋎～Ⓛ微	36％
1350	D11	〃	SD898 上層E266 S33	〃	〃	㉟			〃		A㋎微、D㋎㋎少、E㋎～Ⓜ少	19％
1351	D 3	〃	〃 〃	〃	小皿小丸	⑦			〃		D㋎㋎微、E㋎微	17％
1352	D 1	〃	〃 〃	〃	〃	⑭			〃		D㋎～Ⓜ微、E㋎Ⓜ微	17％
1353	D 2	〃	SD898上層E266S33北半	〃	〃	㉞			〃		D㋎㋎微、E㋎～Ⓜ微	13％
1354	D 4	〃	SD898上層下半E278S21	〃	〃	㉟	㉝		〃		E㋎Ⓜ微	13％
1355	B 1	〃 PL.142	SD898灰色粘泥E274S25	〃	小皿小平	㉞	㉝		〃		E㋎㋎微、K微	40％
1356	D12	〃	SD898 上層E278 S17	〃	土釜A	㉝	⑰	⑯	Ⅷ	S＞M	AⓂ～Ⓛ中、BD㋎～Ⓜ少、E㋎～Ⓜ微、K微	4％
1357	B 4	〃 PL.142	SD898 灰色粘泥	〃	〃	⑯			Ⅳ	SS＞S	AB㋎～Ⓜ中、D㋎Ⓜ少、E㋎㋎微	8％
1358	3	〃	SD898 E266 S33	瓦質	土釜C	㉚			Ⅶ	SS以下多	B㋎～Ⓜ微、C㋎中、D㋎～Ⓛ少	4％
1359	D15	〃 PL.142	SD898上層下半E270S33	〃	〃	㉔			〃	SS以下多	B㋎㋎多、C㋎中、D㋎Ⓜ少、K多	13％
1360	D14	〃 〃	SD898 上層E266 S33	〃	〃	㊻	⑳		〃	SS以下多	B㋎㋎少、C㋎中、D㋎㋎少、E㋎微、K微	4％
1361	D16	〃	SD898上層下半E282S13	須恵器	捏鉢	㊺			Ⅱ		B㋎微、D㋎㋎微	—
1362	D17	〃 PL.142	SD898 上層E266 S33	備前	擂鉢	㊼	⑦		〃		B㋎少	—
1363	D20	〃	〃 〃	青磁	碗	㊾	⑤		Ⅷ		BD㋎多	—
1364	D18	〃 PL.142	〃 〃	美濃瀬戸	天目台	⑫	㉞		Ⅱ		B㋎少	75％
1365	D19	〃 〃	SD898上層E270S29南半	青磁	碗（底部）	㊾	㊽	㊲	Ⅰ			50％
1366	2	〃	SD899	土師器	小皿小平	㉟			〃			8％
1367	1	〃	〃	〃	〃	㊲			Ⅱ		D㋎極微、E㋎㋎極微	50％
1368	4	〃	〃	〃	皿大平	㉟			Ⅲ			13％
1369	3	〃	〃	〃	小皿小平	㉞			〃			13％
1370	5	〃 PL.142	〃	〃	土釜B	⑯	㊴		Ⅷ	SS＞S	A㋎～Ⓜ極多、B㋎～Ⓜ少、C㋎Ⓜ微、K中	17％
1371	D 3	〃	SD900 上層E321～326	〃	皿薄丸大	㉟	㉞		Ⅰ			13％
1372	B 1	〃	SD900 下層E325～328他	〃	〃	㉟			Ⅱ		D㋎～Ⓜ少、E㋎㋎微	38％
1373	C 1	〃	SD900 中層E328～332	〃	小皿薄丸小	㉟			〃		E㋎㋎微	13％
1374	4	〃	SD900 E321 サブトレ	〃	皿大丸	㉟			〃		E㋎～Ⓜ微	17％
1375	5	〃	〃 〃	〃	〃	㉞	㉟		Ⅲ		A㋎微、D㋎㋎少、E㋎㋎少	8％
1376	6	〃 PL.142	SD900 E332西壁	〃	皿大平	㉟			Ⅰ			100％
1377	1	〃	〃 〃	〃	小皿小平	㉟	㉞		Ⅱ		E㋎Ⓜ少	40％
1378	D 1	〃	SD900 上層E325～332	〃	〃	⑦	㉝		〃		D㋎微、E㋎Ⓜ微	19％
1379	D 4	〃 PL.142	〃 〃	〃	土釜A	㉟	⑭		Ⅳ	S＞M	A㋎Ⓜ多、BD㋎～Ⓜ少、E㋎Ⓜ中、K極多	38％
1380	1	〃 〃	SD901 E312	〃	〃	②	②	⑤	Ⅷ	S＞SS	A㋎Ⓜ極多、B㋎少、D㋎Ⓜ中、E㋎微、K多	42％
1381	2	〃	SD901 E308	〃	〃	⑮	⑫		Ⅵ	S＞SS	A㋎Ⓜ多、D㋎Ⓜ少、E㋎㋎微、K微	13％
1382	D 5	〃	SD900 上層E328～332	須恵器	捏鉢	㉕			Ⅱ		D㋎㋎微	4％
1383	3	〃	SD901 E308	白磁	碗	㊼	㉕		Ⅰ			—
1384	4	〃	SD901 E316	青磁	碗（底部）	㊿	㊺		〃			71％
SD902												
1385	B 1	第264図	下層 C3区	土師器	小皿A_1	㉔	㉟	㉞	Ⅱ		E㋎～Ⓜ微	25％
1386	B 6	〃	下層E304 〃	〃	小皿薄丸小	㊱	㉟	㉞	〃		E㋎Ⓜ微	13％
1387	A 8	〃	最下層E320西 C4区	〃	皿大丸	㉞			〃		E㋎Ⓜ微	67％
1388	A 9	〃 PL.142	〃 〃 〃	〃	〃	㊱	㉞		〃		E㋎Ⓜ微	42％
1389	A 7	〃	〃 〃 〃	〃	〃	㉞			〃		E㋎～Ⓛ少	54％
1390	A10	〃 PL.142	〃 〃 〃	〃	〃	㉟	㊱		Ⅲ		B㋎㋎少、E㋎～Ⓛ少	96％
1391	A 1	〃 〃	最下層E320～325西半 〃	〃	小皿小丸	㉞	㉟		Ⅱ		BDE㋎微	98％
1392	A 3	〃 〃	最下層E320西 〃	〃	〃	㊱			〃		E㋎～Ⓜ微	94％
1393	A 2	〃	最下層E320～325西半〃	〃	〃	㊱	㉟	㊱	〃		DE㋎㋎微	62％
1394	A 4	〃	最下層E320西 〃	〃	〃	㊱	㉞		〃		E㋎㋎微	88％
1395	B 2	〃	下層E308 C3区	〃	〃	㊱	㉟		Ⅴ	SS以下中	E㋎㋎微、K微	33％
1396	A11	〃	最下層E320西 C4区	〃	皿大平	㉟			Ⅱ		E㋎㋎微	52％
1397	B 7	〃	下層E325～332東半 〃	〃	〃	⑦	⑭		〃		B㋎少	77％
1398	B 8	〃 PL.142	下層E320西、上層 〃	〃	〃	㉟			Ⅰ			92％
1399	A 5	〃	最下層E325～332西半〃	〃	小皿小平	㉟	㉟		Ⅱ		B㋎㋎微、E㋎微	92％
1400	B 5	〃 PL.142	下層E325～332西半 〃	〃	〃	㉟			Ⅳ		A㋎㋎少、B㋎㋎中、E㋎～Ⓛ少	100％
1401	B 4	〃 〃	〃 〃 〃	〃	〃	㉟			〃	SS以下少		71％
1402	B 3	〃	下層E312 C3区	〃	〃	㉟			Ⅴ	SS以下中	E㋎極微	36％
1403	A 6	〃 PL.142	最下層E325～332西半C4区	〃	〃	㉟	㉞		〃		B㋎㋎少、E㋎Ⓜ微、K中	94％
1404	A12	〃 〃	最下層E304、上層 C3区	〃	土釜A	㊱	⑮		Ⅱ	S	B㋎微、C㋎～Ⓛ少、E㋎～Ⓛ微、K少	33％
1405	D44	〃	上層E304 〃	〃	皿薄丸大	㉞			〃		E㋎～Ⓛ少	17％
1406	D43	〃	〃 〃	〃	皿薄丸大（新C）	⑦	㉟		〃		B㋎微、E㋎㋎微	13％
1407	D45	〃	〃 〃	〃	〃（〃）	㉔			Ⅲ	SS以下多	BCD㋎微、E㋎～Ⓜ中	17％
1408	D27	〃	〃 〃	〃	小皿薄丸小	㊱			Ⅱ		D㋎～Ⓜ少、E㋎㋎微	13％
1409	D24	〃	〃 〃	〃	〃	㉟			〃		E㋎Ⓜ少	17％
1410	D23	〃	〃 〃	〃	〃	㉟			〃		E㋎微	17％
1411	D25	〃	上層E308 〃	〃	〃	㊱			〃		BE㋎微	21％
1412	D26	〃	上層E304 〃	〃	〃	㊱			Ⅲ		B㋎微、E㋎～Ⓜ微	13％
1413	D30	〃	〃 〃	〃	皿大丸	㊱			Ⅱ		BCE㋎微、F㋑極微	30％
1414	D28	〃	〃 〃	〃	〃	㉟	㉞		〃		E㋎～Ⓜ微	73％
1415	D29	〃	上層E312 〃	〃	〃	㊱			〃		BC㋎微、E㋎㋎微	50％

出土遺物観察一覧 No.55

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1416	D 5	第264図PL.142	上層E320～325西半C4区	土師器	小皿小丸	㊱	Ⅱ		E㋎～Ⓛ少	100%
1417	D 6	〃	上層E320西 〃	〃	〃	⑦	〃		E㋎～Ⓜ微	46%
1418	D 2	〃	上層E308 C3区	〃	〃	㉟	〃		E㋎Ⓜ微	94%
1419	D 1	〃	〃 〃	〃	〃	㊱	〃		B㋎微、E㋎～Ⓜ微	38%
1420	D 4	〃	〃 〃	〃	〃	㊱⑲	Ⅴ		A㋎少、BE㋎微、C㋎極微、D㋎㋎少	67%
1421	D32	〃	上層E304 〃	〃	皿大平	㊱㉟ ㉟	Ⅱ		B㋎微、E㋎㋎微	79%
1422	D38	〃	上層E325～332東半C4区	〃	〃	㉞	〃		D㋎微、E㋎～Ⓜ微	85%
1423	D42	〃 PL.142	上層E325～332西半 〃	〃	〃	㉞	Ⅰ			100%
1424	D41	〃	〃 〃 〃	〃	〃	㉟	Ⅱ		E㋎～Ⓛ極微	56%
1425	D37	〃	〃 〃 〃	〃	〃	㉟㉞	Ⅰ			84%
1426	D39	〃 PL.143	〃 〃 〃	〃	〃	㉟㉞ ㉟	Ⅱ		E㋎Ⓜ微	84%
1427	D34	〃	上層E304 C3区	〃	〃	㊱	〃		E㋎㋎微	67%
1428	D31	〃 PL.143	上層E308 〃	〃	〃	㉟㉞	〃		E㋎㋎微	58%
1429	D40	〃	上層E325～332西半C4区	〃	〃	㉟㉞	〃		E㋎㋎微	88%
1430	D36	〃	上層E308 C3区	〃	〃	㉟㉟	Ⅰ			44%
1431	D35	〃	上層E304 〃	〃	〃	㉟	Ⅲ	SS以下多	B㋎㋎少、DE㋎微	86%
1432	D10	〃	上層E308 〃	〃	小皿小平	㉟	Ⅱ		E㋎㋎微	50%
1433	D15	〃	上層E325～332西半C4区	〃	〃	㉞	〃		BE㋎微	67%
1434	D 9	〃 PL.143	上層E308 C3区	〃	〃	㊱㉟	〃		AⓁⓁ極微、E㋎～Ⓜ少、K少	77%
1435	D18	〃	上層E320～325東半C4区	〃	〃	㉟	Ⅲ	SS以下中	E㋎微	71%
1436	D 7	〃 PL.143	上層E308 C3区	〃	〃	㉟㉟	Ⅱ		E㋎Ⓜ微	100%
1437	D16	〃	上層E325～332西半C4区	〃	〃	㉟	〃		E㋎㋎微	86%
1438	D19	〃	上層E325～332東半 〃	〃	〃	㉟	〃		E㋎～Ⓜ極微	69%
1439	D14	〃 PL.143	〃 〃 〃	〃	〃	㉟㉞	〃		E㋎微	96%
1440	D17	〃	〃 〃 〃	〃	〃	㊱	〃		B㋎少、C㋎㋎微、E㋎微	67%
1441	D20	〃	上層E325～332西半 〃	〃	〃	㉟	Ⅳ		D㋎㋎少、E㋎～Ⓛ微	94%
1442	D13	〃	上層E308 C3区	〃	〃	㉞	〃		AⓁ微、D㋎㋎中、E㋎㋎少	94%
1443	D22	〃	上層E325～332西半C4区	〃	〃	㉟	〃		D㋎㋎中、E㋎㋎少	86%
1444	D12	〃	上層E308 C3区	〃	〃	㉟	〃	SS以下少	BD㋎微、E㋎～Ⓜ微	67%
1445	D11	〃	〃 〃	〃	〃	⑭⑲⑭⑫	Ⅴ		B㋎㋎少、E㋎Ⓜ少、FⓂⓁ極微、K多	79%
1446	D21	〃	上層E325～332西半C4区	〃	〃	⑯ ㊲	Ⅲ		B㋎㋎少、E㋎微	84%
1447	D49	〃 PL.143	上層E308 C3区	〃	土釜A	㊱⑭	Ⅷ	M＞S	A㋎～Ⓛ多、B㋎～Ⓜ少、D㋎～Ⓜ多、E㋎～Ⓛ中	13%
1448	D48	〃 〃	〃 〃	〃	〃	⑤⑭ ⑦	〃	SS	A㋎～Ⓛ極多、B㋎～Ⓜ少、D㋎～Ⓛ中、E㋎～Ⓛ少	25%
1449	D46	第265図 〃	〃 〃	〃	〃	⑫⑩	〃	M＞S	A㋎～Ⓜ極多、D㋎Ⓜ少、K中	17%
1450	D47	〃	〃 〃	〃	〃	⑮⑦	〃	SS	A㋎～Ⓛ極多・Ⓛ微、B㋎Ⓜ微、D㋎～Ⓛ中、E㋎㋎微	13%
1451	D51	〃 PL.143	上層E325～332東半C4区	〃	〃	⑦㊱	Ⅵ	SS以下	A㋎～Ⓛ中、D㋎～Ⓜ中、E㋎～Ⓜ少、K多	13%
1452	D50	〃 〃	上層E308 C3区	〃	〃	⑫⑩	Ⅷ	M＞S	A㋎～Ⓜ極多、BE㋎㋎微、D㋎Ⓜ中	21%
1453	D52	〃 〃	上層E304 〃	〃	土釜B	㊱	Ⅵ	SS以下	C㋎㋎中、D㋎㋎多、E㋎～Ⓜ中、K多	13%
1454	D53	〃 〃	上層E308 〃	〃	〃	⑦	〃	SS以下	B㋎～Ⓜ多、C㋎～Ⓜ中、D㋎少、E㋎～Ⓜ中、K多	8%
1455	D54	〃 〃	上層E304 〃	瓦質	土釜C	㊹㊷ ㉔	〃	SS以下	B㋎以下㋎多、D㋎中、E㋎㋎中、K少	4%
1456	2	〃 〃	E334～336 C4区	備前	壺	㉓ ⑦⑯	Ⅳ		B㋎～Ⓜ中	13%
1457	D55	〃 〃	上層E325～332東半 〃	〃	甕	⑦ ㊼⑯	Ⅱ		B㋎～Ⓘ多	17%
1458	D57	〃	上層E304、E308他 C3区	〃	擂鉢	㊼	Ⅵ		B㋎～Ⓛ中・Ⓘ微、G㋎～Ⓘ中	32%
1459	1	〃	南、SD903、SG784 C4区	〃 ？	〃	㉔	〃	SS以下多	B㋎～Ⓜ中、DE㋎～Ⓜ微、G㋎Ⓜ中	15%
1460	D56	〃 PL.143	上層E308 C3区	備前	〃	㊼	Ⅳ		B㋎少、D㋎㋎微、G㋎中	21%
1461	3	〃 〃	南北セク 〃	〃	〃	㉑ ⑮	Ⅱ		B㋎微、G㋎㋎微	8%
1462	D58	〃 〃	上層E304 〃	美濃瀬戸	平碗	㊹ ㊺	〃		E㋎微	8%
1463	4	〃 〃	C4区	青磁	皿	㊵ ㊺	Ⅰ			15%
1464	D59	〃 〃	上層E308 C3区	〃	碗	㊾ ㉕	〃			100%
SD903										
1465	D 6	第266図PL.144	上層E332～334サブC4区	土師器	皿薄丸大	㉞㊱	Ⅱ		B㋎少、D㋎微、E㋎～Ⓜ少	100%
1466	D 7	〃	上下層E332～334サブ 〃	〃	〃	㉝⑳	Ⅴ	SS以下多	AB㋎㋎少、E㋎～Ⓜ中	13%
1467	6	〃	C3区	〃	皿大丸	㊱㉟ ㉟	Ⅱ		E㋎～Ⓜ少	21%
1468	1	〃	〃 〃	〃	小皿小丸	㉟	〃		E㋎少	28%
1469	D 1	〃 PL.144	上層 〃	〃	〃	㉟㉞	〃		B㋎㋎微、E㋎㋎少・ⓂⓁ微	69%
1470	2	〃	〃 〃	〃	〃	㊱	〃		E㋎微	36%
1471	D 4	〃	上層 C4区	〃	皿大平	㉟	Ⅰ			77%
1472	9	〃	E331～333 〃	〃	〃	㉞	Ⅱ		B㋎微、E㋎少	33%
1473	8	〃	〃 〃	〃	〃	㉞	〃		E㋎～Ⓜ微	46%
1474	11	〃	〃 〃	〃	〃	㉞	〃		B㋎㋎少、E㋎微	38%
1475	7	〃	〃 〃	〃	〃	㉞	Ⅰ			33%
1476	10	〃	〃 〃	〃	〃	㉞	Ⅱ		B㋎微、E㋎～Ⓛ微	34%
1477	D 5	〃	上層 〃	〃	〃	㊵	〃		BDE㋎微	31%
1478	12	〃	E331～333 〃	〃	〃	㊵	〃		BDE㋎微	21%
1479	D 2	〃	上層 〃	〃	小皿小平	⑦㉟	〃		E㋎～Ⓜ微・Ⓘ極微、K微	44%
1480	5	〃	C3区	〃	〃	㉝⑰	Ⅰ			69%
1481	4	〃 PL.144	E331～333 C4区	〃	〃	㊱	Ⅱ		BCE㋎微	100%
1482	3	〃 〃	C3区	〃	〃	㉞	〃		E㋎～Ⓜ微	82%
1483	D 3	〃	上層 C4区	〃	〃	⑯	Ⅰ			29%
1484	14	〃	C3区	〃	皿新C	㊱	Ⅴ		B㋎少、D㋎多、E㋎～Ⓜ微	8%

出土遺物観察一覧 No.56

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1485	13	第266図	C3区	土師器	皿新C	⑭	㊺		Ⅱ		E㋎㋏少	8%
1486	D11	〃	上下層E322～334サブC3区	須恵器	椀	㉕			〃		D㋎㋏少	25%
1487	D 8	〃	上層 C3区	土師器	土釜A	⑦			Ⅵ	SS	A㋎～Ⓜ中、B㋎㋏少、D㋎Ⓜ中、E㋎微、K中	8%
1488	D 9	〃 PL.144	〃 C4区	〃	〃	⑫			〃	SS以下	AD㋎～Ⓛ多、B㋎～Ⓜ中、E㋎～Ⓛ少、K多	17%
1489	15	〃 〃	C3区	〃	捏鉢	㊱	㊷		〃	SS以下	AE㋎Ⓜ少、B㋎微、D㋎Ⓜ微、K中	13%
1490	D10	〃 〃	上層 C4区	瓦質	甕	㉔			Ⅴ	SS以下多	B㋎㋏中、D㋎Ⓜ極微	17%
1491	16	〃 〃	C3区	〃	土釜C	㊲	㉞		Ⅸ	SS以下多	B㋎多、C㋎～Ⓜ中、D㋎～Ⓛ少、E㋎微	13%
1492	B 1	〃 〃	下層、第2層 C4区	〃	火舎	㉔	㉕		Ⅱ		B㋎～Ⓜ少、D㋎Ⓜ少・Ⓛ極微	8%
1493	D12	〃 〃	上層中セク西 〃	備前	擂鉢	⑪	⑩	⑬	Ⅳ		B㋎～Ⓛ少、G㋎Ⓜ中	14%
1494	D13	〃	上層 〃	〃	〃	㊼			Ⅱ		B㋎少、C㋎㋏少、E㋎～Ⓛ少	13%
1495	17	〃 PL.144	C3区	青磁	碗	㊾	㊽		〃		E㋎Ⓜ微	38%
SD905												
1496	5	第267図 PL.144	C4区	土師器	皿大丸	㉟			Ⅰ			33%
1497	D 4	〃	上層 〃	〃	〃	㉟	⑲		Ⅱ		BD㋎微、E㋎～Ⓜ少	50%
1498	6	〃	〃	〃	〃	㉟			Ⅲ	SS以下中	E㋎Ⓜ少	25%
1499	D 1	〃 PL.144	E334 セク上層 〃	〃	小皿小丸	㊱			Ⅱ		E㋎～Ⓜ極微	38%
1500	B 2	〃	下層 〃	〃	皿大平	㉟			〃		BD㋎微、E㋎～Ⓜ少	25%
1501	B 3	〃	〃 〃	〃	〃	㉝			〃		BE㋎㋏微	46%
1502	7	〃	〃	〃	〃	㉟			Ⅲ		A㋎少、E㋎㋏少、FⓁ極微	40%
1503	1	〃	〃	〃	〃	⑦	㊱		Ⅱ		B㋎微、D㋎～Ⓜ微	36%
1504	2	〃	C3区	〃	小皿NGタイプ	②			Ⅰ			27%
1505	3	〃 PL.144	C4区	〃	〃	②			Ⅲ		AE㋎少、K微	33%
1506	D 3	〃	上層 〃	〃	〃	①	②		〃		A㋎㋏多、E㋎㋏微、K多	21%
1507	4	〃	〃	〃	〃	②			〃		A㋎中、DⓂ微、E㋎～Ⓜ微	21%
1508	D 2	〃	上層 〃	〃	〃	⑤			〃		A㋎中、B㋎㋏微、E㋎微、K多	21%
1509	D 6	〃 PL.144	〃 〃	〃	土釜A	㊱			Ⅵ	SS以下	A㋎㋏多、D㋎Ⓜ少、E㋎～Ⓜ少、K中	13%
1510	D 5	〃	〃 〃	〃	〃	㊱	㊷		Ⅳ	SS以下	A㋎～Ⓛ多、B㋎㋏少、D㋎㋏微、E㋎Ⓜ少、K多	17%
1511	19	〃	C3区	〃	土釜B	⑦			Ⅵ	SS	A㋎～Ⓛ多、B㋎～Ⓛ微、D㋎㋏少、K中	4%
1512	D12	〃	上層 〃	〃	捏鉢	⑦	⑳		Ⅳ	SS	A㋎微、C㋎少・Ⓛ極微、D㋎Ⓜ少、E㋎Ⓜ中、K多	—
1513	10	〃	C4区	瓦質	土釜C	㊷			〃	SS以下多	B㋎～Ⓜ少、C㋎㋏少、D㋎微、K少	6%
1514	9	〃 PL.144	C3区	〃	甕	⑩	㉚		Ⅷ	SS以下	B㋎～Ⓛ多、C㋎多、D㋎微、E㋎㋏微、K微	8%
1515	8	〃 〃	C4区	〃	〃	㉔	㊺		Ⅴ	SS以下	BD㋎多、C㋎㋏中	13%
1516	11	〃 〃	C3区	〃	捏鉢	㉕			Ⅲ	SS以下	BC㋎㋏多	8%
1517	18	〃	〃	〃	香炉	㊺	㉔		Ⅱ		E㋎微	6%
1518	D 8	〃 PL.144	上層 〃	備前	壺	暗灰紫色			Ⅳ		B㋎微、D㋎Ⓜ微	13%
1519	D 9	〃 〃	〃 C4区	〃	水差し	㊼	㉔		〃	SS＞S	B㋎中、D㋎～Ⓜ微、E㋎微	8%
1520	13	〃	C3区	〃	擂鉢	㊼			Ⅱ		B㋎㋏中、EG㋎～Ⓜ微	—
1521	14	〃	〃	〃	〃	㊼			〃		B㋎Ⓜ少、G㋎㋏微	—
1522	B 4	〃 PL.144	下層、上層 C4区	〃	〃	㊼	㉚		〃		B㋎㋏少、D㋎Ⓜ少、G㋎Ⓜ微	13%
1523	12	〃	C3区	〃	〃	㉓	⑦	㉔	〃		BDE㋎～Ⓜ微	8%
1524	B 5	〃	下層、上層 C4区	青磁	碗	暗緑茶色⑰			Ⅰ			8%
1525	17	〃 PL.144	C3区	〃	皿	㊼	㊺		〃			17%
1526	D11	〃 〃	上層 C4区	白磁	碗	㊾	㉕		〃			13%
1527	D10	〃 〃	〃 〃	〃	皿	㊼	㊺		〃			17%
1528	16	〃	〃	美濃瀬戸	碗（底部）	⑪	⑦	㉞	〃			100%
1529	15	〃	〃	〃	〃（〃）	⑥	⑫	㉞	〃			100%
1530	D 7	〃	上層E324S25 〃	須恵質	捏鉢	㉖			Ⅱ		D㋎㋏少	13%
SD906												
1531	5	第268図	E296～304	土師器	小皿薄丸小	⑫			Ⅰ			8%
1532	4	〃	E304 東半	〃	小皿小丸	㉟			〃			17%
1533	1	〃	E296～304	〃	小皿小平	㉟	㉞		Ⅱ		E㋎微	13%
1534	2	〃	〃	〃	〃	⑤			〃		E㋎少	15%
1535	3	〃	〃	〃	〃	㉟			Ⅲ		E㋎Ⓜ少	19%
1536	6	〃	E304 東半	〃	土釜A	⑤			Ⅱ	S	AⓂ少、D㋎Ⓜ極微、E㋎Ⓜ少	8%
1537	7	〃	E296～304	〃	〃	⑩			Ⅵ	SS主体	B㋎㋏少、D㋎㋏多、E㋎㋏微、K微	—
1538	8	〃	E304 東半	〃	〃	㊱			Ⅱ	S	AⓂ少、D㋎～Ⓜ微、E㋎～Ⓜ少	—
1539	9	〃	E296～304	備前	擂鉢	㊲	⑦	㉔	Ⅵ		B㋎少、C㋎㋏少、G㋎～Ⓛ多	13%
1540	1	第268図	SD907	土師器	小皿小丸	㊱	㉟		Ⅱ		E㋎～Ⓜ少	17%
1541	11	〃	SD907 セク	〃	皿大平	㉞			〃		E㋎微	25%
1542	3	〃	SD907	〃	小皿小平	㊱			〃		A㋎㋏微、DE㋎～Ⓜ少	28%
1543	4	〃 PL.144	〃	〃	〃	㊱			Ⅲ	SS以下多	D㋎微、E㋎～Ⓜ微	92%
1544	2	〃	〃	〃	〃	㊱			Ⅱ		E㋎～Ⓜ微	27%
1545	7	〃	〃	〃	〃	㉞			Ⅳ		E㋎～Ⓜ微	13%
1546	10	〃 PL.144	〃	〃	〃	㉟			Ⅴ	SS以下多	BC㋎少、D㋎多、E㋎㋏多、FⓂ～Ⓛ極微	88%
1547	9	〃	〃	〃	〃	白黄茶色			〃	SS以下多	BC㋎少、E㋎㋏多	100%
1548	5	〃 PL.144	〃	〃	〃	㊱			〃	SS以下多	BCD㋎微、E㋎㋏少	94%
1549	6	〃	〃	〃	〃	㊱	㉟		〃	SS以下多	AE㋎～Ⓜ微、D㋎微	90%
1550	8	〃	〃	〃	〃	⑫	②		〃	SS以下多	B㋎微、E㋎～Ⓛ微、K少	50%
1551	16	〃	〃	白磁	四耳壺(底部)	㊼	㉔		Ⅰ			23%

出土遺物観察一覧 No.57

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外	断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1552	14	第268図	SD907	土師器	土釜A	⑦		Ⅳ	M＞S	A㊍中、B㊍少、D㊍Ⓜ中、E㊍Ⓜ極微、K極多	11%
1553	15	〃	〃	〃	〃	⑮		〃	SS	A㊍～Ⓜ中、B㊍㊍少、DE㊍～Ⓜ微、K多	8%
1554	13	〃	SD907、SD906E296～304	〃	〃	⑭	⑫	〃	SS以下	A㊍～Ⓜ中、D㊍Ⓜ少、E㊍～Ⓜ微、K多	15%
1555	12	〃	SD907	〃	〃	⑦⑮㉚		Ⅱ	SS	A㊍～Ⓜ中・Ⓛ微、D㊍Ⓜ少、E㊍微、K多	25%
1556	8	〃	SD910	瓦器	椀C	㊷㉕		Ⅰ			11%
1557	2	〃	SD910・903混E332～334サブ	土師器	小皿A_1	⑭		Ⅱ		D㊍㊍極微、E㊍～Ⓜ少	92%
1558	3	〃 PL.144	〃 〃	〃	皿薄丸大	㉟		〃		E㊍Ⓜ少	71%
1559	5	〃	SD910・903混	〃	皿大平	⑦㉟ ㉟		〃		E㊍㊍微	25%
1560	7	〃	〃	〃	〃	㉟		〃		E㊍微	15%
1561	4	〃	〃	〃	〃	㉟		Ⅰ			21%
1562	6	〃	〃	〃	〃	㉟		〃			19%
1563	1	〃	〃	〃	小皿小平	⑦㉟		Ⅱ		E㊍㊍微、K中	19%
1564	10	〃	〃	〃	土釜A	㊱	⑫	Ⅳ	SS以下	A㊍～Ⓜ少・Ⓛ微、E㊍～Ⓜ中、K多	—
1565		〃	P161 C2区	白磁	碗	㊹	㉔	Ⅱ		E㊍微	33%
SD911		〃									
1566	B 3	第268図PL.145	下層	土師器	小皿A_1	㊱⑦⑯⑦		Ⅰ			67%
1567	A 1	〃	最下層	〃	小皿小丸	㉟		Ⅱ		B㊍微	25%
1568	D11	〃	上層	〃	〃	㉞		〃		BC㊍微、E㊍Ⓜ微	25%
1569	1	〃		〃	皿大平	㉟		〃		E㊍微	40%
1570	D10	〃 PL.145	上層	〃	〃	㉟		Ⅰ			67%
1571	2	〃		〃	〃	㉞		Ⅱ		D㊍㊍少、E㊍～Ⓜ微	62%
1572	3	〃		〃	〃	㉞		〃		B㊍Ⓜ微、EⓂ極微	26%
1573	B 1	〃	下層	〃	〃	㉟		〃		E㊍Ⓜ少	27%
1574	D 8	〃	上層	〃	〃	㉞		Ⅰ			50%
1575	D 9	〃	〃	〃	〃	㉟㉞		〃			42%
1576	A 2	〃	最下層	〃	〃	⑦㉟		Ⅲ		A㊍微、B㊍少、E㊍Ⓜ少	42%
1577	B 2	〃 PL.145	下層	〃	小皿小平	㉟		Ⅱ		E㊍Ⓜ極微	77%
1578	D 2	〃	上層	〃	〃	㉟ ㉟②		〃		BD㊍微、E㊍極微、K微	71%
1579	4	〃	SD903混	〃	〃	㉞㉝		〃		BCE㊍微	38%
1580	D 6	〃	上層	〃	〃	⑦㉟		〃		B㊍微、DE㊍～Ⓜ微	50%
1581	D 7	〃	〃	〃	〃	㉞		〃		D㊍微、E㊍～Ⓜ少	94%
1582	D 3	〃	〃	〃	〃	⑦㉟		Ⅲ	SS以下中		21%
1583	D 1	〃	〃	〃	〃	㉟		Ⅰ			36%
1584	D 4	〃	〃	〃	〃	㉟		Ⅲ	SS以下中	B㊍㊍微、E㊍Ⓜ微、K少	88%
1585	D 5	〃	〃	〃	〃	⑦㉟		〃		B㊍㊍微、E㊍～Ⓜ微、K少	44%
1586	5	第269図	北端集石	〃	土釜A	⑤㊱⑭㊺		Ⅵ	SS＞S	A㊍～Ⓛ多、B㊍～Ⓜ少、D㊍～Ⓜ中、E㊍～Ⓜ微	13%
1587	D12	〃	上層	〃	〃	㊳		Ⅷ	SS	A㊍～Ⓜ多・Ⓛ微、B㊍㊍少・Ⓛ微、DE㊍～Ⓜ少、K多	8%
1588	D13	〃	〃	〃	〃	②⑭		Ⅵ	SS以下	A㊍～Ⓛ中、B㊍㊍少、DE㊍微、K多	17%
1589	6	〃	南端集石	〃	土釜B	⑭㉔		Ⅷ	SS＞S	A㊍～Ⓜ多、B㊍～Ⓛ多、C㊍㊍多、E㊍～Ⓜ微、K多	13%
1590	A 3	〃 PL.145	最下層、下層、上層、SD905	〃	湯釜	㊺ ㉟㉞		Ⅴ	SS＞S	B㊍㊍少、C㊍～Ⓛ少、D㊍～Ⓛ中、E㊍微	33%
1591	B 4	〃 〃	下層、北端集石、SD914	瓦質	〃	㊷ ㊺		Ⅱ	SS以下	B㊍㊍中、C㊍少・Ⓛ極微、K中	14%
1592	D15	〃	上層	〃	土釜C	㊺		Ⅴ	SS以下多	B㊍㊍中、CD㊍Ⓜ少	17%
1593	9	〃		〃	〃	㊷ ㊺		Ⅵ	SS以下多	B㊍㊍中、C㊍～Ⓛ少、D㊍Ⓜ少、E㊍～Ⓛ微	9%
1594	B 5	〃 PL.145	下層	〃	〃	㊺		Ⅴ	SS以下多	B㊍多、D㊍～Ⓜ中、EⓂ微	11%
1595	D14	〃 〃	上層	〃	土釜	㊲		Ⅱ	SS	A㊍～Ⓜ少、D㊍㊍微、E㊍～Ⓛ中、K多	9%
1596	7	〃	北サブトレ	〃	甕	㉔ ㊺		Ⅴ	SS以下	BD㊍多、C㊍少	13%
1597	10	〃 PL.145		〃	捏鉢	㊷ ㊺		Ⅵ	SS以下	B㊍㊍中、C㊍～Ⓛ少、D㊍Ⓜ中、E㊍微	8%
1598	8	〃 〃	SD903混	〃	甕	㊹㉚		Ⅲ	SS以下	B㊍～Ⓛ多、C㊍少、DⓂ中	17%
1599	11	〃		備前	壺	㊽ ㊷		Ⅱ		BE㊍少	—
1600	B 6	〃 PL.145	下層、北端集石、上層	〃	甕	㉙		〃		B㊍㊍少、D㊍Ⓜ微、G㊍～Ⓛ	13%
1601	D16	〃 〃	上層E340S13	〃	〃	㉚㊷ ㉙		〃		BD㊍～Ⓜ少、E㊍微、G㊍～Ⓛ多	11%
1602	13	〃	北端集石	青磁	碗	㊾ ㉔		Ⅰ			86%
1603	12	〃		〃	稜花皿	㊾ ㉔		〃			8%
1604	8	第270図	SD913 S17	瓦器	小皿	㉚		Ⅱ		A㊍～Ⓜ少、K微	17%
1605	3	〃 PL.145	SD913 南端角	土師器	皿A_1(薄丸大)	㊱		〃		B㊍微、D㊍㊍微、E㊍～Ⓜ微	25%
1606	4	〃 〃	〃 〃	〃	皿A_1（C）	㊱		〃		B㊍㊍微、DE㊍Ⓜ微	63%
1607	5	〃	SD913 E33南半西壁	〃	皿薄丸大	㉟ ㊲		〃		A㊍微、D㊍～Ⓜ少	42%
1608	1	〃	SD913 S23～29	〃	小皿小平	㉟		〃		E㊍微	15%
1609	6	〃	SD913	〃	皿大平	㉞		〃		E㊍～Ⓛ微	17%
1610	2	〃	SD913 S23～29	〃	小皿小平	㉖㉝		〃		B㊍微、DE㊍㊍微、K微	13%
1611	7	〃	SD913 南端	〃	土釜A	⑫		Ⅵ	S＞SS	A㊍Ⓜ極多・Ⓛ極微、B㊍微、D㊍Ⓜ少、E㊍少、K多	13%
1612	6	〃	SD914	〃	皿大丸	⑭⑩ ②		Ⅱ		BE㊍微、K少	36%
1613	1	〃	〃	〃	小皿小丸	⑭⑩		〃		B㊍微	31%
1614	7	〃	〃	〃	皿大平	㉟		Ⅰ			17%
1615	9	〃	〃	〃	小皿小平	㉞		Ⅱ		EⓂ極微	20%
1616	8	〃	SD914、SG783	〃	皿大平	㉞		Ⅴ	SS以下多	D㊍㊍少、E㊍Ⓜ微	19%
1617	2	〃 PL.145	SD914	〃	小皿小平	㉝		Ⅰ			63%
1618	11	〃	SD914 セク	〃	〃	㊷㉕ ㉕		Ⅱ		B㊍微、K多	25%
1619	15	〃	SD914	〃	〃	㉚⑯ ㉚		〃		E㊍微	31%

出土遺物観察一覧 No.58

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内外断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
1620	3	第269図	SD914	土師器	小皿小平	㉕㊷	Ⅰ			25%
1621	4	〃	〃	〃	〃	⑫㉕	〃			32%
1622	5	〃	〃	〃	〃	㊱㉝	Ⅱ		Ⓛ㊦微	23%
1623	16	〃	SD914・SG783	〃	小皿NGタイプ	⑦	〃		AⓈ～Ⓛ少、E㊀Ⓢ微、K少	13%
1624	12	〃	SD914	瓦質	土釜C	㉕ ㉚	Ⅶ	SS以下	B㊀Ⓢ少、C㊀Ⓢ微、DⓈⓂ少・Ⓛ極微、EⓈ微	17%
1625	14	〃	〃	備前	擂鉢	⑪㊼	Ⅱ		B㊀Ⓢ微、D㊀～Ⓜ微、GⓈ少	8%
1626	13	〃	SD914 セク	〃	甕	暗灰紫色㉙	Ⅵ		CⓈⓂ微、GⓂ～㊦中、K多	8%
1627	17	〃 PL.145	SD914S14北端サブトレ	青磁	碗	㊾ ㊺	Ⅰ			54%
SD915										
1628	2	第269図	南西拡張区	土師器	皿大丸	㉝㉟	Ⅴ	SS以下中	D㊀微、E㊀～Ⓜ中、K微	21%
1629	7	〃 PL.145	E320S27	〃	小皿小丸	㉞㊱	Ⅱ		BC㊀微、E㊀～㊦多	81%
1630	3	〃	南西拡張区	〃	皿大平	㉞㊱	〃		B㊀微、E㊀～Ⓜ微	31%
1631	4	〃	E319西	〃	〃	㊱㉟	〃		E㊀～Ⓜ微	36%
1632	5	〃	〃	〃	〃	⑦㉟㉞㉟	〃		E㊀Ⓢ微	23%
1633	6	〃	〃	〃	〃	⑦㊱	〃		D㊀微、E㊀～Ⓜ微	27%
1634	8	〃	東端	〃	小皿小平	㉟	〃		B㊀微、E㊀～Ⓜ少	71%
1635	11	〃	南西拡張区	〃	〃	⑦㉟	〃		D㊀微、E㊀～Ⓜ微	17%
1636	9	〃	〃	〃	〃	㉟	Ⅰ			40%
1637	10	〃	〃	〃	〃	㉟	〃			30%
1638	12	〃	〃	〃	〃	㉟	Ⅲ	SS以下中	E㊀Ⓢ微	100%
1639	13	〃	〃	〃	〃	㉟	〃			65%
1640	14	〃	〃	〃	〃	㉟	〃			31%
1641	15	〃 PL.145	E320S37	〃	小皿NGタイプ	⑨⑩	Ⅱ		A㊀～㊦微、B㊀微、C㊀少、E㊀Ⓢ少、K微	33%
1642	17	〃	E319西	〃	土釜A	② ㊷	Ⅵ	SS	A㊀～Ⓜ多、DⓈ微、E㊀～Ⓜ中、K多	13%
1643	18	〃	E326東	〃	土釜B	⑦	Ⅲ	SS以下	B㊀Ⓢ多、D㊀少、EⓈⓂ極微、K少	8%
1644	16	第271図	E319西	〃	土釜A	㊱ ㉕	Ⅷ	S＞M	AⓈⓂ極多、B㊀Ⓢ微、D㊀～Ⓜ少、EⓈⓂ微、K微	8%
1645	19	〃 PL.145	南西拡張区	瓦質	捏鉢	㊷ ㊷㊺㊺	Ⅵ	SS以下多	C㊀少、B㊀Ⓢ微、D㊀～Ⓛ中、K多	8%
1646	22	〃 〃	〃	備前	徳利	㊼ ㊺	Ⅱ		B㊀Ⓢ中	33%
1647	21	〃 〃	E319西	〃	擂鉢	㊼	〃		B㊀Ⓢ少	17%
1648	20	〃	E319～326	〃	甕	㊼	Ⅳ		B㊀Ⓢ多、GⓈⓂ少	21%
1649	23	〃 PL.145	E319西、SD905	美濃瀬戸	おろし皿	㊿ ㉞	Ⅰ			8%
1650	24	〃 〃	東端	青磁	碗	㊾㊿ ㉔	〃			13%
包含層										
1651	9	第271図	暗茶褐色泥土E332S13	須恵器	坏A	㊺65	Ⅱ		BⓁ極微、D㊀～Ⓜ少、E㊀～Ⓜ微	75%
1652	3	〃	機械掘削 D区	〃	〃	㉕	Ⅵ		AⓈⓂ中、BⓈⓂ少	25%
1653	13	〃	遺構面直上E374S14	土師器	皿b	⑳⑱⑦⑭	Ⅶ	SS以下多	A㊀～Ⓜ中、B㊀～Ⓜ少、C㊀～Ⓛ少	46%
1654	14	〃	遺構検出中E328S13	〃	土釜A	㉞	Ⅷ	S＞M	AⓈⓂ極多・Ⓛ㊦少、BⓈⓂ微、EⓈ～Ⓛ少、K多	21%
1655	10	〃	淡灰褐色土E366S21	〃	皿大平	㉟	Ⅱ		EⓈⓂ微	79%
1656	11	〃	暗茶褐色泥土E332S21	〃	〃	㊱㉞	〃		B㊀微	100%
1657	12	〃	〃 〃	〃	〃	㉞㉟	〃		E㊀微	98%
1658	2	〃	灰色弱粘質土E242S17	青白磁	合子蓋	55 ㉟	Ⅰ			50%
1659	15	〃	暗茶褐色泥土E320S37	白磁	碗	㊺ ㊺	〃			29%
1660	1	〃	灰色弱粘質土E246S17	〃	〃	㉟ 65	〃			17%
土錘										
1661	1	第271図	SD740下層E348～349S33～35	土師器	土錘	③	Ⅶ	SS	AⓂ～㊦中、BⓈⓂ極微、DⓂⓁ少　49.24g	
1662	2	〃	SD740 E352S25	〃	〃	㉝	〃	SS以下	B㊀少、EⓈⓂ少　(35.34g)	
1663	1	〃	E266S29	〃	〃	㊱	Ⅱ		BD㊀微、E㊀～Ⓜ微　57.30g	
1664	3	〃	SD740上層E353～355S26～28	〃	〃	⑦㊷	〃		AE㊀Ⓢ微、K多　(5.72g)	
1665	6	〃	SK787 上層	〃	〃	⑳㉟	〃		BE㊀～Ⓜ微、K中　3.88g	
1666	1	〃	〃 〃	〃	〃	㊷	Ⅳ		A㊀Ⓢ微、K中　5.25g	
1667	2	〃	〃 〃	〃	〃	㉟	〃		B㊀Ⓢ微、E㊀微、K中　4.34g	
1668	3	〃	〃 〃	〃	〃	⑭	Ⅱ		BD㊀Ⓢ微、K中　4.09g	
1669	4	〃	〃 〃	〃	〃	㉝	〃		DE㊀Ⓢ微、K多　5.90g	
1670	5	〃	〃 〃	〃	〃	⑦	〃		BⓈⓂ少、DEⓈ微、K少　4.50g	
1671	7	〃	〃 〃 E378～380S16～18	〃	〃	⑦	〃		BⓈ少、EⓈ微、K少　4.30g	
1672	8	〃	〃 〃 〃	〃	〃	⑭⑦	〃		BⓈ微、E㊀微、K少　4.15g	
1673	9	〃	〃 〃 〃	〃	〃	㉟⑭	Ⅳ		B㊀Ⓢ少、E㊀Ⓢ微、K少　3.96g	
1674	10	〃	〃 〃 E372～376S12～14	〃	〃	⑦㉔	Ⅱ		E㊀微、K微　5.27g	

土器番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	器種・器形（部位）	色調 内	色調 外	色調 断	胎土	砂粒主体	砂粒粗成	残存率
試1	試3	第5図	C5G　SD02	弥生土器	壺	⑪	⑤	①	Ⅵ	S＞L	A㊎～①中・⑫少、B㊎～⑪中、D㊎～⑫少、E㊎Ⓜ少・⑪極微、K多	86%
〃2	〃1	〃	C5G　SD02他	〃	広口壺A	①			Ⅱ	SS以下	B㊎微、E㊎微、K微	13%
〃3	〃2	〃	C8G　SK06暗茶褐色泥土	〃	〃	①	⑯		〃	SS以下	A㊎～Ⓛ少・⑫微、D㊎Ⓜ少・Ⓛ微、K多	13%
〃4	〃4	〃	C5G　SD02	土師器	短頸壺	②	①		〃	SS以下	A㊎Ⓜ少、B㊎中、D㊎少、K中	82%
〃5	〃5	〃	A5G東半　SD01灰色粘質土	須恵器	坏身	㉔			〃		B㊎微	2%
〃6	〃6	〃	A6G　SD01灰色粘質土	〃	坏蓋	㉔			Ⅵ		B㊎～Ⓛ中、D㊎Ⓜ微	25%
〃7	〃7	〃	C9G　SK01B	土師器	椀	①	㉞		Ⅱ		K少	13%
〃8	〃9	〃	C6G　下層茶褐色泥砂	瓦器	椀D	㊶	㉝		〃		BD㊎微	54%
〃9	〃10	〃	C9G　遺構検出	土師器	皿A1	⑦	㊻	⑦	Ⅶ	SS以下多	A㊎中、B㊎少、DE㊎～Ⓜ少、K少	29%
〃10	〃8	〃	C9G　濃茶色泥土	〃	皿b		㊱		〃	SS以下多	A㊎㊎少、B㊎微、D㊎少、E㊎～Ⓜ少	75%
〃11	〃11	〃	C6G茶褐色泥土	〃	皿B1		㊱		Ⅳ		A㊎～⑫中、B㊎～Ⓛ微	21%
〃12	〃13	〃	C7G　SD01暗灰色土	〃	小皿小平		㉟		Ⅱ		E㊎微	50%
〃13	〃14	〃	C6G　茶色泥土	〃	〃		㉟		〃		E㊎㊎微	30%
〃14	〃15	〃	C7G　SD01暗灰色土	〃	〃		㉟		〃		A㊎微、E㊎㊎微、K微	84%
〃15	〃16	〃	C7G　SD02	〃	小皿NGタイプ	①	④		〃		A㊎微、E㊎～Ⓜ少・⑫微、K微	50%
〃16	〃19	〃	C4G　SD01暗灰色土	備前	擂鉢	㉒	⑦	⑯ ㉔	〃		B㊎微	8%
〃17	〃17	〃	C8G　SK02	土師器	土釜A	㉘	⑩		〃	SS＞S	A㊎～Ⓜ多、BE㊎Ⓜ少、D㊎Ⓜ中、K多	13%
〃18	〃18	〃	C6G　茶色泥土	〃	土釜B	⑭	⑪		Ⅴ	SS以下	BDH㊎少、E㊎～Ⓛ少、K少	13%
〃19	〃12	〃	A4G　SD	青磁	皿	㊵	㊺		Ⅱ			25%
〃20	〃20	〃	C7G　SD01暗灰色土	土師器	分銅形土製品	⑭	㊲		〃		B㊎微、E㊎㊎微　（71.94g）	
縄文土器・弥生土器												
第Ⅰ区												
J1	J2	第104図PL.147	包含層　ⅠD区	縄文土器	浅鉢(口縁部)	⑫			Ⅷ	S	A㊎中、B㊎㊎少、C㊎少、D㊎Ⓜ中、K中	—
J2	J1	〃　〃	SK02　〃	〃	深鉢?(口縁部)	⑨			〃	S＞M	A㊎少、B㊎～Ⓜ少、D㊎～Ⓛ中、E㊎微	—
Y1	Y1	〃　〃	包含層　〃	弥生土器	壺(頸部)	㉞	㉞	⑤	〃	L＞M	ADⓂ中、E㊎Ⓜ少、FⓂ微	13%
第Ⅱ区												
J9	J8	第130図PL.147	SK43（旧遺構名）	縄文土器	深鉢	⑤	⑮		Ⅷ	M＞S	A㊎～Ⓛ少、B㊎Ⓜ少、D㊎～Ⓛ中、K中	8%
J10	J11	〃　〃	A層E56N4	〃	〃	⑫	⑪		Ⅵ	SS	A㊎～Ⓛ少、B㊎～Ⓛ中、C㊎Ⓜ中、K中	—
J11	J10	〃　〃	B層W8N8	〃	〃	⑬	⑪		Ⅷ	SS	A㊎～Ⓛ中、B㊎～Ⓜ少、D㊎Ⓜ中、K中	—
J12	J6	〃　〃	SK387	〃	鉢	㊷	⑯		〃	M	BD㊎Ⓜ中、C㊎Ⓜ少	4%
J13	J9	〃　〃	P1525	〃	深鉢	㉚	⑦		〃	SS	AC㊎～Ⓜ少、B㊎～Ⓜ中、D㊎Ⓜ中、K少	—
J14	J3	〃　〃	SI165柱穴8	〃	〃	㉚			〃	S	AB㊎Ⓜ少、C㊎Ⓜ微、D㊎Ⓜ多	—
J15	J5	〃　〃	SI182貯蔵穴	〃	〃	⑫	⑭		〃	S	A㊎Ⓜ少、B㊎～Ⓜ少、C㊎Ⓜ微、D㊎Ⓜ多	—
J16	J4	〃　〃	SI170　NE区	〃	〃	④			Ⅵ	SS以下	B㊎Ⓜ中、C㊎～Ⓜ微、D㊎Ⓜ少、H㊎多、J㊎～Ⓜ少	—
J17	J7	〃　〃	SK390　－4	〃	〃	⑯	⑦		〃	M	A㊎～Ⓛ中、B㊎～Ⓜ少、D㊎Ⓜ少、E㊎微、K少	—
第Ⅲ区												
J22	J14	第207図PL.147	SI607　NE区	縄文土器	深鉢	③	⑫		Ⅷ	SS＞S	AC㊎少、B㊎～Ⓜ少、D㊎～Ⓜ中、K中	13%
J23	J16	〃　〃	SI619　D区中層(その2)	〃	〃	㊲	⑫		〃	S	A㊎～Ⓜ中、B㊎～Ⓜ少、C㊎～Ⓜ微、DE㊎Ⓜ多、K中	—
J24	J15	〃　〃	SI619　C区中層	〃	〃	⑦	㊲	⑫⑭	〃	M	A㊎～Ⓜ中、B㊎～Ⓜ微、D㊎～Ⓛ中、K多	4%
J25	J13	〃　〃	SI607埋土	〃	〃	⑦	⑫	⑫	〃	S	A㊎～Ⓜ少、B㊎～Ⓜ中、C㊎Ⓜ微、D㊎Ⓜ中、K多	8%
J26	J12	〃　〃	SI605西セク第4層	〃	浅鉢	⑫	⑭	⑤	〃	M	A㊎～Ⓛ中、B㊎Ⓜ少、D㊎Ⓜ多	—
瓦												
第Ⅰ区												
708	Ⅰ3	第128図PL.151	SD102第3層西肩		軒平瓦			㊲	Ⅳ		B㊎～Ⓜ少、D㊎～Ⓛ微、E㊎㊎少	
709	Ⅰ2	〃　〃	SD102第2層		平瓦	㉚	㉕		Ⅱ		B㊎微	
710	Ⅰ1	〃	SD96上層		丸瓦	㉔	㊺	㉕	〃			
711	Ⅰ5	〃	P585		〃	㊺		㊲	〃			
712	Ⅰ4	〃　PL.151	SD111		鰾羽	㉕		㉔	〃			
第Ⅱ区												
2156	Ⅱ1	第204図PL.151	SE417最下層		軒平瓦？	㊲	⑳		Ⅱ		B㊎㊎少、D㊎㊎微	
2157	Ⅱ2	〃　〃	SE417		〃	㉔	㉚		〃			
2158	Ⅱ7	〃　〃	SD450第2層		平瓦	㉚	㉔		〃		D㊎少	
2159	Ⅱ4	〃　〃	SE418上層		〃	⑭	㊽		〃		B㊎以下少、E㊎㊎微	
2160	Ⅱ6	〃	SD450上層		〃	㉚	㉔	㉕	〃		D㊎㊎少	
2161	Ⅱ3	〃	SE417最下層		丸瓦	㉚		㉔	Ⅴ		B㊎以下中、D㊎Ⓜ微	
第Ⅲ区												
1675	Ⅲ7	第272図PL.151	SD900セクE325		軒丸瓦	㉔		㊲	Ⅵ		A㊎㊎少、B㊎少、D㊎Ⓜ中、K中	
1676	Ⅲ10	〃　〃	SD905		軒丸瓦	㉕	㊲		Ⅱ		B㊎㊎少、D㊎～Ⓜ少、E㊎～Ⓜ微	
1677	Ⅲ2	〃　〃	SG784上層		軒平瓦	㊷		㊻	Ⅵ		A㊎㊎少、B㊎㊎中、D㊎少、K中	
1678	Ⅲ11	〃　〃	SD905		〃	㉕	㉚		Ⅱ		B㊎微、D㊎少	
1679	Ⅲ12	〃　〃	〃		〃	㉕	㉚	㉕	〃		B㊎以下少	
1680	Ⅲ8	〃　〃	SD902上層E308		〃	㊷		㊺	Ⅶ		B㊎㊎少、D㊎微	
1681	Ⅲ5	〃　〃	SF876　N区、L層		鬼瓦(鬼板)	⑳		㉕	Ⅱ		B㊎微、D㊎㊎微、E㊎～Ⓛ少	
1682	Ⅲ9	〃　〃	SD902上層、E320～325		雁振	㊷	㉚	㉔	Ⅳ		B㊎少、D㊎～Ⓜ少、E㊎㊎微	
1683	Ⅲ15	〃	SD918		平瓦	㊷	㉔	㉕	〃		A㊎Ⓜ少、B㊎少、D㊎～Ⓜ微、E㊎Ⓜ微、K微	
1684	Ⅲ6	〃　PL.151	SD882上層E266　S25		〃	⑦	⑯		〃		A㊎微、B㊎少、D㊎～Ⓜ微、E㊎～Ⓛ少、K多	
1685	Ⅲ1	〃	SG782		〃	㊷	㉕		Ⅵ		A㊎～Ⓜ微、B㊎㊎中、D㊎～Ⓜ少、E㊎㊎微	
1686	Ⅲ3	〃	SK824		丸瓦	㉔	㊷	㉔	Ⅱ		B㊎㊎中、D㊎Ⓜ少	
1687	Ⅲ4	第273図PL.151	SE874第3層東他		〃	㊸		㊺	〃		D㊎少	
1688	Ⅲ13	〃　〃	SD905　SE874西拡張区		〃	㊸		㉕	Ⅳ		B㊎微、D㊎㊎少	
1689	Ⅲ14	〃　〃	SD905		〃	⑱	⑱	㉚	Ⅱ		D㊎Ⓜ少	

出土遺物観察一覧 No.60

番号・登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	法量(mm) 現存長	幅	厚	重量(g)	石材	石質	色調
第Ⅰ区	縄文時代									
J 3 Ⅰ11	第104図 PL.147	P362	石鏃	(15)	17	3.5	(0.68)	サヌカイト	緻密	淡黒灰色
J 4 Ⅰ12	〃 〃	中央セクションベルト第5層	〃	24	14	3	(0.76)	〃	緻密、風化ぎみ	〃
J 5 Ⅰ14	〃 〃	不明	〃	25	16	4	(0.99)	〃	緻密	黒灰色
J 6 Ⅰ 9	〃 〃	SK71	〃	(23)	18	3	(1.10)	〃	〃	〃
J 7 Ⅰ10	〃 〃	SK 1	〃	33	13	4	1.60	〃	〃	黒色
J 8 Ⅰ13	〃 〃	黄色土	〃	21	17	6	1.66	〃	〃	黒灰色
第Ⅱ区	縄文時代									
J18 Ⅱ56	第130図 PL.147	遺構面直上層W40NS 0	石鏃	(18.5)	14	4	(0.75)	サヌカイト	緻密	灰黒色
J19 Ⅱ54	〃 〃	遺構面直上層E68S12	〃	18.5	13	3	0.61	〃	緻密、白色粒含む	黒灰色
J20 Ⅱ44	〃 〃	遺構面直上層	〃	(17)	(12)	2.5	(0.53)	〃	緻密、風化ぎみ	淡黒色
J21 Ⅱ45	〃 〃	SⅠ167セクションベルト第2層	〃	(19)	15	(2.5)	(0.62)	〃	〃	淡黒灰色
第Ⅲ区	縄文時代									
J27 Ⅲ 4	第207図 PL.147	SX860	石鏃	(15)	16.5	3	(0.54)	サヌカイト	緻密	黒灰色
J28 Ⅲ 3	〃 〃	SD721上層E340 S29	〃	(17)	18	3.1	(0.73)	〃	〃	〃
J29 Ⅲ 5	〃 〃	淡黄灰色弱粘質土E242 S29	〃	(24)	(14)	4.5	(1.39)	〃	緻密、風化著しい	灰色
J30 Ⅲ 6	〃 〃	灰色弱粘質土下層E226 S17	〃	(23)	17	4	(1.11)	〃	緻密、やや風化する	〃
J31 Ⅲ 7	〃 〃	浮土	〃	36	15	3	1.7	〃	緻密	黒色
J32 Ⅲ 1	〃 〃	SⅠ615 B区上層	〃	(20)	11	3	(0.73)	〃	緻密、風化ぎみ	灰色
J33 Ⅲ 2	〃 〃	SD687上層セクションベルトS17	〃	18.5	12	3.5	0.6	〃	緻密	黒灰色
J34 Ⅲ 8	〃 〃	SD681上層E340～344	削器	(68)	39	13	(32.37)	〃	〃	黒色
第Ⅰ区	弥生・古墳時代									
184 Ⅰ 4	第114図 PL.148	SK141	砥石	(75)	67	48	(250)	砂岩	緻密、やや軟質	淡黄褐色
185 Ⅰ 3	〃 〃	SK141	〃	(40)	(41)	11	(23.6)	〃	やや緻密、やや硬質	灰褐色
	奈良～室町時代									
713 Ⅰ 7	第129図 PL.152	遺構面直上層	砥石	(97)	73	57	(660)	砂岩	やや緻密、やや硬質	淡青灰色～赤褐色
714 Ⅰ 8	〃 〃	撹乱	〃	(90)	64	13～52	(255)	石英斑岩	緻密、軟質	淡黄茶色
715 Ⅰ 6	〃 〃	中央セクションベルト第3層	〃	(69)	39	35	(135)	砂岩	緻密、硬質	淡青灰色
716 Ⅰ 2	〃 〃	SD102上層	〃	(56)	42	38	(112)	石英斑岩	緻密、軟質	淡黄白色
717 Ⅰ 1	〃 〃	SB49、P301	〃	(91)	37	2～4.5	(23.7)	粘板岩(泥岩)	緻密、やや軟質	淡灰色～赤灰色
718 Ⅰ 5	〃 〃	中央セクションベルト第2層	〃	(60)	36	6	(23.67)	〃 (〃)	〃 〃	明灰色～淡黄灰色
719 Ⅰ 1	〃 〃	ユンボ排土	五輪塔、空風輪	(193)	137	—	4900	砂岩	〃 〃	淡青灰色～淡黄灰色
第Ⅱ区	弥生・古墳時代									
1045 Ⅱ32	第175図 PL.147	SⅠ163埋土	勾玉	43	16	14	22.4	緑色凝灰岩	緻密、やや軟質	灰緑色～淡灰緑色
1046 Ⅱ33	〃 〃	〃 〃	管玉	34.5	径 15		10.3	〃	緻密、やや硬質	淡灰緑色
1047 Ⅱ34	〃 〃	SⅠ164埋土	〃	28	〃 10	—	4.64	緻密、軟質	緻密、軟質	灰色～白濁色
1048 Ⅱ35	〃 〃	SⅠ186埋土	〃	26	〃 5	—	0.96	滑石	緻密、やや軟質	暗緑色
1049 Ⅱ36	〃 〃	SⅠ163埋土	〃	10	〃 4	—	0.29	碧玉	〃 〃	淡灰緑色
1050 Ⅱ37	〃 〃	SⅠ188カマドの南側床面	小玉	3.5	〃 45	—	(0.11)	緑色凝灰岩	〃 〃	暗緑色
1051 Ⅱ38	〃 〃	〃 〃	〃	2.5	〃 4.5	—	(0.02)	〃	〃 〃	〃
1052 Ⅱ53	〃 〃	遺構面直上層W12N12	装身具	(31)	32	7	(7.07)	滑石	緻密、軟質	褐色
1053 Ⅱ41	〃 〃	P594掘形	有孔円板	—	径(35)	5	(6.29)	〃	緻密、やや軟質	灰緑色
1054 Ⅱ42	〃 〃	〃 〃	〃	—	〃(22)	3.5	(1.95)	〃	〃 〃	褐色？
1055 Ⅱ52	〃 〃	遺構面直上層E36N 4	〃	—	〃(21)	4	(2.96)	〃	〃 〃	暗灰緑色
1056 Ⅱ 8	〃 〃	SR546北東肩	紡錘車	—	〃43	(22)	(56.21)	〃	〃 〃	暗緑色
1057 Ⅱ29	〃 PL.148	SⅠ171西壁床直	柱状片刃石斧	153	25	38	248	緑色片岩	緻密	暗黒灰色
1058 Ⅱ30	〃 〃	SⅠ185検出面	磨製石斧	(60)	59	36	(215)	蛇文岩	緻密、やや硬質	暗灰緑色？
1059 Ⅱ59	〃 〃	地山直上層E28NS 0	磨製石棒	(98)	45	19	(150)	緑色片岩	緻密	淡灰緑色
1060 Ⅱ31	〃 〃	遺構面直上層E16S12	石庖丁未製品	(102)	65	9	(77.37)	〃	やや緻密、やや軟質	淡緑灰色
1061 Ⅱ55	〃 PL.147	遺構面直上層W24N 4	石鏃	(27)	(19)	5	(1.8)	サヌカイト	緻密、風化ぎみ	灰色
1062 Ⅱ43	〃 〃	遺構面直上層W44NS 0	〃	48	23	5	(4.11)	〃	緻密	〃
1063 Ⅱ46	〃 〃	SⅠ163埋土	削器(未成品)	73	43	13	42.46	〃	〃	黒色
1064 Ⅱ47	〃 〃	〃 〃	削器(未成品)	50	37	12	21.33	〃	〃	黒灰色
1065 Ⅱ48	〃 〃	SⅠ186 SK205 上遺構検出	〃	(49)	38	10	(18.63)	〃	〃	〃
1066 Ⅱ 4	第176図 PL.148	SⅠ165柱穴3	砥石	(59)	30	24	(64.65)	石英斑岩	緻密、軟質	淡黄茶色
1067 Ⅱ 8	〃	SⅠ185上層	〃	49	20～37	17～30	57.64	〃	緻密、やや軟質	〃
1068 Ⅱ 6	〃 PL.148	SⅠ173埋土	〃	(49)	20～29	10～14	(21.85)	粘板岩(泥岩)	〃 〃	淡灰色
1069 Ⅱ 1	〃 〃	SⅠ163床面より約5cm上	〃	(55)	24～29	16～19	(37.09)	石英斑岩	〃 〃	白茶色
1070 Ⅱ11	〃 〃	SK239下層	〃	(81)	32～37	36	(162)	泥岩	〃 〃	明白茶色～淡黄色
1071 Ⅱ61	〃	SⅠ170 P1424	〃	(54)	49	(22)	(61.52)	砂岩	〃 〃	淡茶色～淡灰色
1072 Ⅱ62	〃 PL.148	SX251	〃	(40)	(51)	30	(86.65)	〃	〃 〃	淡灰褐色～淡褐色
1073 Ⅱ 7	〃 〃	SⅠ174 SW区上層	〃	(85)	(48)	(38)	(235)	〃	やや緻密、やや軟質	淡茶灰色
1074 Ⅱ 3	〃 〃	SⅠ163床直	〃	53	(11)	10	(9.96)	粘板岩	緻密、やや軟質	黒褐色
1075 Ⅱ 2	〃 〃	SⅠ163 E区	〃	(116)	77	13	(200)	〃	〃 〃	灰色
1076 Ⅱ 5	〃 〃	SⅠ166壁溝	〃（台石）	152	92	36	(857)	〃	緻密、軟質	灰色～淡黄灰色
1077 Ⅱ10	〃 〃	SK205	〃	190	53～82	61	(1,240)	砂岩(泥岩)	緻密、やや硬質	白茶色
1078 Ⅱ28	〃 〃	表採	石皿	170	246	39	2,830	砂岩	〃 〃	淡灰色
1079 Ⅱ27	第177図 PL.148	SⅠ167	〃	296	246	90	9,400	〃	やや緻密、硬質	茶灰色～淡黄灰色
1080 Ⅱ58	〃	SⅠ185遺構検出面	台石	294	351	146	23,300	〃	〃 〃	淡茶灰～淡灰黄色
1081 Ⅱ57	〃 PL.148	SⅠ179貯蔵穴第3層	〃	(167)	120	9.65	(2,600)	〃	緻密、やや硬質	淡灰色
1082 Ⅱ20	第178図 PL.149	SⅠ165 NW区ベッド下	叩石	(140)	64	69	(880)	〃	やや緻密、やや軟質	淡灰白色

出土遺物観察一覧 No.61

番号・登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	法量(mm) 現存長	幅	厚	重量(g)	石材	石質	色調
1083 Ⅱ25	第178図 PL.149	SD424	叩石	137	52	32	(345)	砂岩	緻密、やや軟質	淡灰白色
1084 Ⅱ24	〃 〃	SI179	磨石(調整)	(135)	55	39	(380)	〃	緻密、やや硬質	淡茶灰色
1085 Ⅱ22	〃 〃	SI167 NW区埋土	〃(調整)	(104)	53	31	(272)	〃	〃 〃	淡灰色
1086 Ⅱ21	〃 〃	SI166床直	叩石	(123)	44	28	(272)	紅簾片岩	緻密、硬質	淡灰白色～淡桃灰色
1087 Ⅱ26	〃 〃	SD256	磨石	107	40	37	(248)	砂岩	緻密、やや硬質	淡灰色
1088 Ⅱ23	〃 〃	SI174南北セクションベルト上層	〃	102	55	42	270	〃	〃 〃	〃
1089 Ⅱ19	〃 〃	SI165 NW区埋土	磨石	141	54	36	465	〃	〃 〃	〃
1090 Ⅱ18	〃 〃	SI164セクションベルト第2層	〃	97	77	49	530	〃	〃 〃	淡茶灰色
1091 Ⅱ60	〃 〃	地山直上層E26NS0北	叩石	147	93	(57)	(1,210)	〃	〃 〃	淡灰色(緑色)
第Ⅱ区	奈良～室町時代									
2162 Ⅱ63	第205図 PL.152	SK386	石鍋	器高(36)	—	—	—	滑石	緻密、やや軟質	黒灰色～灰色
2163 Ⅱ16	〃 〃	SD469上層	砥石	(52)	26	8～10	(28.27)	石英斑岩	〃 〃	淡黄茶色
2164 Ⅱ 9	〃 〃	SE417上層	〃	(50)	40	16	(33.76)	粘板岩	〃 〃	灰色
2165 Ⅱ50	〃 〃	遺構面直上層W28N12	〃	(46)	40～50	18～25	(61.75)	石英斑岩	〃 〃	明白茶色～淡黄色
2166 Ⅱ49	〃 〃	遺構面直上層W28N12北	〃	(48)	36	18	(39.1)	泥岩	〃 〃	白茶色
2167 Ⅱ40	〃 〃	P229	〃	(35.5)	18	20	(17.51)	砂岩	〃 (〃)	淡茶灰色～淡灰桃色
2168 Ⅱ51	〃 〃	遺構面直上層W28N8	〃	(57)	38	11～16	(50.71)	〃	緻密、やや硬質	〃 〃
2169 Ⅱ12	〃 〃	SE417最下層	〃	(45)	29～32	13～19	(43.05)	石英斑岩？	やや緻密、やや硬質	淡白黄色
2170 Ⅱ14	〃 〃	SE417	〃	(49)	53	18～22	(88.63)	砂岩	緻密、やや硬質	灰褐色
2171 Ⅱ13	〃 〃	SE417上層	〃	(86)	40	34	(172)	石英斑岩	緻密、やや軟質	淡黄茶色
2172 Ⅱ15	〃 〃	SD425	〃	(108)	61	19	(190)	粘板岩	緻密、やや軟質	灰色
2173 Ⅱ39	〃 〃	SB287 P626柱当り	〃	(95)	(60)	23	(188)	泥岩(砂岩)	〃 〃	黒灰色
2174 Ⅱ17	〃 〃	P207	〃	292	65	37	(1015)	緑色片岩	〃 〃	暗緑色
第Ⅲ区	弥生・古墳時代									
644 Ⅲ12	第243図 PL.149	SK626セクションベルト西	管玉	14	径2.8	—	0.14	碧玉	緻密、やや硬質	淡緑茶色
645 Ⅲ11	〃 〃	SD702 No.10区画	〃	(13)	〃 2.5	—	(0.10)	〃	〃 〃	緑灰色
646 Ⅲ 9	〃 〃	暗茶褐色泥土E340S13	磨製石剣	(51)	31	9	(19.8)	頁石	〃 〃	黒色
647 Ⅲ10	〃 〃	SD702 No.12区画	磨製石斧	(62)	(67)	20	(90)	緑色片岩	緻密、やや軟質	緑色
648 Ⅲ27	〃 〃	茶褐色粘土E396 S33	砥石	(57)	(51)	40	(150)	砂岩	〃 〃	淡茶灰色～明白茶色
649 Ⅲ24	〃 〃	SI624 B区セクションベルト	〃	98	33～47	11～23	110	粘板岩	〃 〃	淡灰緑色
650 Ⅲ21	〃 〃	SI615 下層	〃	(81)	49	30	(115)	石英斑岩	〃 〃	明白茶色
651 Ⅲ22	〃 〃	SI615 下層、中層壁	〃	(112)	(42-75)	14	(185)	泥岩(砂岩)	〃 〃	明灰色淡茶色～明白茶色
652 Ⅲ26	〃 〃	茶褐色粘土E408 S21	〃	(72)	(50)	(20)	(80.7)	砂岩	緻密、軟質	明白茶色～白黄色
653 Ⅲ23	〃 〃	SI620 下層	〃	(114)	(91)	59～73	(955)	泥岩	緻密、やや軟質	淡灰緑色
654 Ⅲ25	〃 〃	SD938	〃	(123)	(107)	(33)	(410)	砂岩	〃 〃	暗茶色～明白茶色
655 Ⅲ18	〃 PL.150	灰茶褐色粘土E408 S29	磨石(叩石)	116	79	58	660	〃	緻密、やや硬質	淡黄褐色～灰色
656 Ⅲ13	〃 〃	SD911上層	〃	146	25	16	110	結晶片岩	やや緻密、やや軟質	明灰色～灰色
657 Ⅲ17	〃 〃	茶褐色粘土E396 S29	〃	120	41	35	250	砂岩	緻密、やや硬質	淡黄褐色～灰色
658 Ⅲ14	〃 〃	SD938S21付近	〃	117	54	42	360	〃	〃 〃	〃 〃
659 Ⅲ16	〃 〃	暗茶褐色泥土E340 S13	〃	81	59	56～60	340	〃	〃 〃	灰色
660 Ⅲ15	〃 〃	遺構面直上層E312 S21	磨石(叩石)	94	59	50	390	〃	やや緻密、やや軟質	淡黄灰色～灰色
661 Ⅲ19	第244図 〃	SI617 SW区床直	叩石	118	86	47	550	花崗片麻岩	やや粗い、やや硬質	明白茶色～白黄色
662 Ⅲ20	〃 〃	SD917サブトレより南	〃	(115)	(69)	65	(720)	砂岩	緻密、やや軟質	灰色
	奈良～平安時代									
1690 Ⅲ33	第274図 PL.152	SD915南西拡張区	石鍋	器高(49)	径202	—	—	滑石	緻密、軟質	黒灰色～灰色
1691 Ⅲ31	〃 〃	SD902上層	硯	(124)	81	18	—	粘板岩	緻密、やや硬質	黒灰色
1692 Ⅲ32	〃 〃	SD905上層	〃	(86)	66	17	—	〃	〃 〃	エビ茶色
1693 Ⅲ34	〃 PL.153	SG782北、SX869	茶臼	器高(54)	径382	—	—	砂岩	〃 〃	黒色～黒灰色
1694 Ⅲ36	〃 〃	SE874井内	石臼、下臼		〃(280)	(97)	(4,200)	〃	やや緻密、やや軟質	明灰色～淡青灰色
1695 Ⅲ35	〃 〃	SX869 NE区、SG781	石臼、上臼		〃(268)	(113)	(5,000)	〃	〃 〃	明灰色淡青灰色
1696 Ⅲ37	〃 〃	SF876 SE区	五輪塔、空風輪	高(180)	123	—	3,500	〃	〃 〃	淡青灰色～淡黄灰色
1697 Ⅲ39	〃 〃	SF876	五輪塔、空輪	〃(109)	135	—	(1,100)	〃	〃 〃	〃 〃
1698 Ⅲ38	〃 〃	SF876北	〃 風輪	〃(86)	137		1,250	〃	〃 〃	〃 〃
1699 Ⅲ40	〃 PL.152	包含層E266S25	砥石	(39)	(16-19)	9	(9.95)	石英斑岩	緻密、やや軟質	明白茶色
1700 Ⅲ42	〃 〃	遺構検出中E344S25、E344S17	〃	(54)	30	12	(13.79)	粘板岩(泥岩)	緻密	白黄色
1701 Ⅲ41	〃 〃	P888	〃	(49)	26	8.5	(25.15)	泥岩	緻密、やや軟質	淡灰茶色
1702 Ⅲ43	〃 〃	SG783上層	〃	(34)	32	33	(56.38)	石英斑岩	〃 (〃)	白茶色～淡黄褐色
1703 Ⅲ45	第275図 〃	SD915西セクションベルトW	〃	(74)	48～42	9	(52.47)	〃	緻密、やや硬質	明白茶色～淡黄灰色
1704 Ⅲ44	〃 〃	SE872暗青灰色粘土底	〃	(67)	26～33	22～29	(110)	〃	〃 〃	黒灰色～淡褐色
1705 Ⅲ47	〃 〃	SD900上層	〃	(66)	30～41	35	(122)	〃	緻密、やや軟質	淡灰色～エビ茶～淡褐色
1706 Ⅲ46	〃 〃	遺構検出中E336S29	〃	(73)	44	14～27	(98.64)	〃	〃 〃	白茶色～淡黒灰色(スス付着)
1707 Ⅲ50	〃 〃	SE874西	〃	(73)	45～54	10～25	(140)	〃	緻密、やや硬質	明白茶色(一部サビ付着)
1708 Ⅲ49	〃 〃	SD905	〃	90	31～40	23～27	130	〃	〃 〃	淡灰色、灰色～黒灰色
1709 Ⅲ51	〃 〃	SG784下層	〃	(87)	52	18	(145)	〃	〃 〃	白茶色～淡黄褐色
1710 Ⅲ52	〃 〃	整地作業中E332S29	〃	(95)	42～47	25～31	(210)	砂岩	やや緻密、やや軟質	外面灰色断面明茶黄色
1711 Ⅲ48	〃 〃	SD903	〃	(82)	37	11～42	(145)	石英斑岩	緻密	明白茶色断面淡黄褐色～明白茶色
1712 Ⅲ53	〃	SF876北	〃	(137)	76-106	72	(1,180)	粘板岩	緻密、やや硬質	灰色～エビ茶色
1713 Ⅲ54	〃 PL.153	SG784 E362S37地点	〃	(198)	115	58	(2,030)	緑色片岩	緻密、やや軟質	淡緑色
1714 Ⅲ55	〃 〃	SF876北	〃	220	62-108	27～48	1,530	砂岩	緻密、やや硬質	灰色～黒灰色
1715 Ⅲ56	〃 〃	SF876南東	〃	(207)	(128～145)	52～67	(2,820)	〃	〃 〃	〃 〃

出土遺物観察一覧 No.62

番号・登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	法量（mm） 現存長	幅	厚	重量(g)	備考
第Ⅰ区	弥生・古墳時代							
186 Ⅰ 1	第114図 PL.150	SK2埋土	鉄斧？	61	31	7	(44.62)	未保存処理
	奈良～室町時代							
720 Ⅰ 4	第129図 PL.153	SD96	鉄鏃	(77)	35	12	(32.45)	未保存処理
721 Ⅰ 8	〃 〃	SD102上層	刀子刃先	(46)	15	3	(3.2)	
722 Ⅰ24	〃 〃	SD97	刀子	(36)	11	3.5	(3.45)	未保存処理
723 Ⅰ 9	〃 〃	SD102	不明鉄製品	(45)	22	5	(9.52)	
724 Ⅰ 7	〃 〃	SD102上層	鉋	(58)	10	2	(3.03)	
725 Ⅰ 3	〃 〃	SD96	平鑿？	(80)	9.5	2.5	(5.95)	
726 Ⅰ21	〃 〃	SD102上層	円盤形鉄製品	—	径45×(37)	10	(18.94)	
727 Ⅰ23	〃 〃	不明	紡錘車	軸長(29)	径 38	3	(3.75)	未保存処理
728 Ⅰ 6	〃	SD102上層	鑿	73	27.5	5×7	7.01	
729 Ⅰ18	〃 PL.153	P072	鉄鎌	(104)	最大46	4	(26.8)	
730 Ⅰ11	〃 〃	SD102第2層肩側溝部の底	管状鉄製品	(30)	径11×14	2	(1.61)	
731 Ⅰ15	〃 〃	SE93	毛抜き(銅製品)	119	7～13	3	31.37	未保存処理
732 Ⅰ12	〃	SD102セクションベルト第19層	キャップ状鉄製品	44	径 9	2	2.79	〃
733 Ⅰ16	〃 PL.153	北端セクションベルト第1層	鉄釘	(42)	9	9	(15.24)	〃 (写真保存処理後)
734 Ⅰ14	〃 〃	SD111	鉄釘	(41)	6	4	(3.66)	
735 Ⅰ17	〃 〃	P019	鉄釘？	(29)	4	2.5	(1.86)	
736 Ⅰ19	〃	P564	〃	(18.5)	3	2	(0.44)	
737 Ⅰ10	〃 PL.153	SD102上層	〃	(30)	6	6	(3.23)	
738 Ⅰ 2	〃 〃	SD96	〃	(33)	4	3.5	(1.91)	
739 Ⅰ25	〃	P301	銅銭[?]平元宝	—	径 24	1.5	3.03	
740 Ⅰ28	〃	P359	銅銭紹聖元宝	—	〃 25	1.5	3.18	
741 Ⅰ26	〃	遺構面出土	銅銭政和通[?]	—	〃 25	1.5	(1.2)	
742 Ⅰ27	〃	不明	銅銭寛永通宝	—	〃 24	2.5	1.88	
第Ⅱ区	弥生・古墳時代							
1092 Ⅱ 2	第178図 PL.150	SI173 SE区床直上	刀子？	(29)	26	3～5	(64.10)	
1093 Ⅱ 4	〃 〃	〃 〃	鉄素材片	28	14	5	2.87	
1094 Ⅱ 3	〃 〃	〃 〃	〃	32.5	15	5	3.42	
1095 Ⅱ 9	〃 〃	SI173 SE区柱穴	〃	41	14	3.5	5.87	未保存処理
1096 Ⅱ36	〃 〃	地山直上層E36N4	鉄鏃	(39.5)	15	5	(6.87)	〃
1097 Ⅱ37	〃 〃	地山直上層E20N12	〃？	39	27	6	12.09	〃
1098 Ⅱ39	〃 〃	地山直上層E24NS0	銅鏃	(44)	(17)	5	(9.24)	〃
1099 Ⅱ53	〃 〃	P811	鉄鏃	46	16	12	9.15	〃
1100 Ⅱ38	〃 〃	地山直上層E24NS0	〃	49	20	8	11.32	〃
1101 Ⅱ 7	〃 〃	SI173 NW区ベッド下	鑿状鉄製品	(51)	14	9	(33.05)	〃 (写真保存処理後)
1102 Ⅱ21	〃 〃	SX251周溝セクションベルト	鉋	(35.5)	19～22.5	4	(7.53)	
1103 Ⅱ22	〃 〃	〃 〃	〃	(65)	12～21	6	(15.11)	
1104 Ⅱ 8	〃 〃	SI173第2層	〃？	(98)	9～16	7	(27.52)	未保存処理 (写真保存処理後)
1105 Ⅱ19	〃 〃	SK227	錐状鉄製品	112	5	3.5	5.53	
1106 Ⅱ 1	〃 〃	SK390 SI171 S区ベッド下	鉄鎌	(89.5)	20～27.5	5	(21.89)	
	奈良～室町時代							
2175 Ⅱ50	第205図 PL.154	遺構面直上層E116S8	犂のヘラ部？	(61)	54	5	(65.03)	未保存処理
2176 Ⅱ24	〃 〃	SK390中央部第3層	不明鉄製品	(24)	21	13	(13.45)	
2177 Ⅱ56	〃 〃	遺構面直上層W4NS0	不明銅製品	(17)	17	2	(1.15)	未保存処理
2178 Ⅱ52	〃 〃	P620	小さじ状銅製品	径 17	高 9	1.5	(3.57)	〃
2179 Ⅱ33	〃 〃	SD478	煙管(銅製品)	(50)	9	1	(7.35)	〃
2180 Ⅱ51	〃	P1掘形	鑿	(53)	11	7	(35.11)	〃
2181 Ⅱ16	〃 PL.154	SB291 P10掘形	不明鉄製品	(52)	23	13	(13.23)	
2182 Ⅱ31	〃 〃	SD445	鉋(こざね？)	(70.5)	8～10	5	(9.12)	
2183 Ⅱ15	〃 〃	SB291 P3	鉄鏃	75	16.5	6.5	12.20	
2184 Ⅱ28	〃 〃	SD424上層	〃 ？(刀子？)	(33)	13～15	7.5	(6.42)	
2185 Ⅱ26	〃 〃	SE417最下層灰色粘土	鉋	(53)	15	4	(6.19)	
2186 Ⅱ34	〃 〃	SD596	鎌先？	(40)	19	3	(5.30)	未保存処理
2187 Ⅱ35	第206図 〃	E64S16北の撹乱	犂先	(154)	266	6	(430)	
2188 Ⅱ14	〃	SB289 P513	鉄釘	(67)	13	13	(18.96)	未保存処理
2189 Ⅱ30	〃 PL.154	SD443	〃	(71)	9	7	(9.32)	
2190 Ⅱ25	〃	SK402	〃	(40)	10	7	(13.91)	未保存処理
2191 Ⅱ42	〃	遺構面直上層W28N4	〃	(63)	7	7.5	(15.59)	〃
2192 Ⅱ23	〃	SK387	〃	42	4.5	4.5	3.34	
2193 Ⅱ32	〃	SD452	〃	(39)	7	6	(4.61)	
2194 Ⅱ27	〃	SE417	〃	(31)	4	3	(4)	未保存処理
2195 Ⅱ55	〃	P823	〃	(34)	6	5	(7.99)	〃
2196 Ⅱ54	〃	P1030	〃	(48)	6	6	(6.41)	〃
2197 Ⅱ29	〃	SD425上層	〃	(52)	6	6	(3.54)	
第Ⅲ区	弥生・古墳時代							
663 Ⅲ 1	第244図 PL.150	SI601第1突出部床直(ベッド上)	釣針	(21)	2	2	(0.36)	未保存処理
664 Ⅲ 2	〃 〃	SI606東部	鉄鏃(刀子？)	58	7.5	3	4.21	〃
665 Ⅲ 3	〃 〃	SI620セクションベルト第3層	〃	(42)	15	6	(10.76)	〃

出土遺物観察一覧 No.63

番号	登録番号	実測図・写真図版	出土遺構・地区・層位	種類	法量（mm） 現存長	幅	厚	重量(g)	備考
666	Ⅲ 4	第244図PL.150	SI621間仕切り溝	鉄鏃？	(30)	9.5	5.5	(1.96)	
667	Ⅲ10	〃 〃	SI623 D区下層	〃	(40)	14	3	(6.09)	未保存処理
668	Ⅲ11	〃 〃	SI623中層南東	〃	(39)	11	5	(4.23)	〃
669	Ⅲ 9	〃 〃	SI623南東壁	〃	40	9	3	2.41	
670	Ⅲ 8	〃 〃	SI623北西壁	鉄素材片	32	12.5	5	2.49	
671	Ⅲ12	〃 〃	SI624 A区上層暗黒褐色土	鉄鏃	(31)	18	9	(7.88)	未保存処理
672	Ⅲ73	〃 〃	P840	〃	(52)	17	5	(11.36)	〃
673	Ⅲ13	〃 〃	SD721中層S19～22	〃	(36)	19	4	(8.70)	〃
		奈良～室町時代							
1716	Ⅲ67	第276図PL.154	SX857	小刀	(312)	27	6.8	(69.68)	
1717	Ⅲ72	〃 〃	P131	〃	(193)	30	6.3～8.9	(111.63)	
1718	Ⅲ25	〃 〃	SD749	刀子	(42)	12	6	(5.86)	未保存処理
1719	Ⅲ66	〃 〃	SX859	〃	(160)	16	5	(27.25)	
1720	Ⅲ21	〃 〃	SG783下層	銅製品(仏具？)	(70)	19	1	(6.82)	
1721	Ⅲ65	〃 〃	SX859	鎌	(146)	31	3	(20.62)	
1722	Ⅲ22	〃	SG784下層	〃	身(122)	38	2.5	(58.17)	未保存処理
1723	Ⅲ27	〃 PL.154	SK793	鉄鏃？	(76)	22	5	(54.60)	〃
1724	Ⅲ64	〃 〃	SX856	〃	128	27	2	15.51	
1725	Ⅲ23	〃 〃	SD905	板状鉄製品	(54)	51	7	(45.11)	未保存処理
1726	Ⅲ24	〃 〃	SD913、SG783混入	棒状鉄製品	(71)	14	12	(19.25)	
1727	Ⅲ15	〃 〃	SK823	鉋	48	9	3	(3.57)	未保存処理
1728	Ⅲ14	〃 〃	SK838	不明鉄製品	(46)	11	4	(7.79)	〃
1729	Ⅲ28	〃 〃	SX851②SX852 D区	鉄釘	(106)	8	6.5	(11.49)	
1730	Ⅲ32	〃 〃	SX851⑪	〃	62.5	4	5	5.42	
1731	Ⅲ31	〃 PL.154	〃 ④	〃	(39)	5	5	(3.15)	
1732	Ⅲ41	〃 PL.154	〃 ⑯	〃	(56)	12	4	(8.43)	未保存処理
1733	Ⅲ40	〃 〃	〃 ⑭	〃	(43)	6	3	(7.34)	〃
1734	Ⅲ39	〃 〃	〃 ⑤	〃	(41)	10	5	(9.10)	〃
1735	Ⅲ42	〃 〃	〃 ⑲	〃	(26)	11	8	(3.43)	〃
1736	Ⅲ30	〃 〃	〃 ③	〃	(31)	5	5	(2.92)	
1737	Ⅲ33	〃 〃	〃 ⑮	〃	(33)	4	3.5	(2.86)	
1738	Ⅲ60	〃	SX853⑦	〃	(22)	9	3～4	(6.15)	未保存処理
1739	Ⅲ48	〃	〃 ⑧	〃	(38)	6	5	(1.83)	
1740	Ⅲ46	〃 PL.154	〃 ⑤	〃	96	11	11	(20.47)	
1741	Ⅲ52	〃 〃	〃 ⑬	〃	83	6	6	9.69	
1742	Ⅲ53	〃 〃	〃 ⑭	〃	83	6	5	7.44	
1743	Ⅲ56	〃 〃	〃 ⑱	〃	90.5	70.5	70.5	9.38	
1744	Ⅲ47	〃 〃	〃 ⑥	〃	85.5	8	7	9.66	
1745	Ⅲ55	〃 〃	〃 ⑰	〃	(69)	9.5	7	(11.21)	
1746	Ⅲ59	〃 〃	〃 ④	〃	90	4	4	16.39	未保存処理
1747	Ⅲ51	第277図 〃	〃 ⑪	〃	(66)	7	6	(5.43)	
1748	Ⅲ43	〃 〃	〃 ①	〃	(56)	9	7.5	(8.61)	
1749	Ⅲ49	〃 〃	〃 ⑨	〃	(59)	5	6	(2.88)	
1750	Ⅲ57	〃 〃	〃 ⑲	〃	(70)	6.5	5	(5.94)	
1751	Ⅲ54	〃	〃 ⑯	〃	(46)	6.5	6	(3.85)	
1752	Ⅲ50	〃	〃 ⑩	〃	(40.5)	8	7	(6.47)	
1753	Ⅲ62	〃	〃 ⑮	〃	(31)	7	7	(9.73)	未保存処理
1754	Ⅲ61	〃	〃 ⑫	〃	7	4	4.5	9.65	〃
1755	Ⅲ58	〃	〃	〃	(43)	6	7	(4.91)	
1756	Ⅲ45	〃 PL.154	〃 ③	〃	(36)	7	7	(5.73)	
1757	Ⅲ44	〃 〃	〃 ②	〃	(27.5)	4	5	(1.17)	
1758	Ⅲ74	〃 〃	淡茶褐色弱粘質土E258S25	〃	(95)	7	6	(8.66)	
1759	Ⅲ69	〃	SD890 E266S25	〃	(48)	10	5	(5.98)	未保存処理
1760	Ⅲ70	〃	SD890 E266S21	〃	(39)	3	3	(3.66)	〃
1761	Ⅲ17	〃	SE875第1層	〃	(22)	6	5	(6.81)	〃
1762	Ⅲ85	〃	整地作業中E300S16付近	宋元通宝	—	径 25.1	1.5	3.14	
1763	Ⅲ82	〃		咸平元宝	—	〃 24	1.5	2.52	
1764	Ⅲ83	〃	遺構面直上層E338S35付近	天聖元宝	—	〃 24.5	1.5	2.06	
1765	Ⅲ86	〃	不明	熙寧元宝	—	〃 24	1.5	2.22	
1766	Ⅲ84	〃	整地作業中E289S35付近	正隆元宝	—	〃 25	3.1	5.40	2枚接着
1767	Ⅲ81	〃	SE877上層	永楽通宝	—	〃 24	2	3.39	
1768	Ⅲ80	〃	SK787上層	寛永通宝	—	〃 22	1	1.19	

西田井遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

西田井遺跡は紀北を中央構造線に沿って流れる紀ノ川北岸の氾濫原に位置する。本遺跡の発掘調査は複数年度にわたり実施され、発掘調査と並行して自然科学分析を応用した調査も実施された。今回は、これら各年度の自然科学分析調査成果を課題別にまとめを行った。調査課題は、1）弥生時代後期から中世に属すると考えられる時期の古環境解析、2）弥生時代後期末の土器内容物の検討、3）土器胎土の岩石・鉱物学的検討、の大きく3つの課題に分かれる。以下に各課題別に報告する。

Ⅰ．微化石分析による古環境解析

本遺跡の発掘調査では弥生時代、中世の遺構が確認されており、各時期の人間活動を捉える上で、当時の環境に関する情報を得ることが課題となった。そこで、調査区内の基本層序となる堆積物や、遺構埋積物を対象として、花粉・珪藻・植物珪酸体の微化石分析を実施した。

1．試料

分析を行った試料の一覧を表1に示す。調査は各時期の自然堆積層の他に溝、住居跡、井戸、土坑などの遺構に関する堆積物について実施した。

表1　分析試料一覧表

地区	遺構名	時代	試料番号	岩質	由来	分析項目
第ⅠA区	SD102：A溝	15世紀末～16世紀初頭？	①－1	褐灰色砂質粘土質シルト	溝埋土	P．D
第ⅠA区	SD102：B溝	15世紀前半	①－2	褐灰色砂質粘土質シルト	溝埋土	P．D
第ⅠA区	SD102：D溝	14世紀前半～14世紀中頃	①－3	褐灰色砂質粘土質シルト	溝埋土	P．D
第ⅠA区	SD102：D溝	14世紀前半～14世紀中頃	①－4	灰色シルト質粘土	溝埋土	P．D
第ⅠA区	SD102：C溝	14世紀後半	②－1	灰褐色砂質粘土質シルト	溝埋土	P．D
第ⅠA区	SD102：E溝	12世紀末～13世紀前半	②－2	灰褐色砂質粘土質シルト	溝埋土	P．D
第ⅠA区	SD102：E溝	12世紀末～13世紀前半	②－3	暗褐色粘土質シルト	溝埋土	P．D
第ⅠA区	SD102：E溝	12世紀末～13世紀前半	②－4	褐灰色シルト質粘土	溝埋土	P．D
第ⅡA区	SD450	12世紀末～13世紀初頭	Ⅱ－7	暗灰黄色砂質粘土質シルト	溝埋土	P．D
第ⅡA区	SI182	古墳時代前期（布留式古相期）	Ⅱ－6	暗褐色砂質粘土質シルト	竪穴住居覆土	P
第ⅡA区	SI175	弥生時代後期（V-6古）	Ⅱ－5	褐色砂質粘土質シルト	竪穴住居覆土	P
第ⅡA区	SI170	弥生時代後期（V-6）	Ⅱ－2	黄灰色砂質粘土質シルト	竪穴住居覆土	P
第ⅡA区	SI166	弥生時代後期（V-4新，5古）	Ⅱ－1	暗灰黄色砂質粘土質シルト	竪穴住居覆土	P
第ⅡA区	SI164	弥生時代後期（V-3新，4古）	Ⅱ－4	暗灰黄色砂質粘土質シルト	竪穴住居覆土	P
第ⅡA区	SI163	弥生時代後期（V-3，4）	Ⅱ－3	黄灰色砂質粘土質シルト	竪穴住居覆土	P
第ⅢC-1区	西壁：第5層	中世	Ⅲ－10	灰色砂質シルト	基本層序内	P．D
第ⅢC-1区	西壁：第5層	中世	Ⅲ－19	灰色粘土質砂質シルト	基本層序内	P．D．P0
第ⅢC-1区	SD737：第5層	奈良時代？	Ⅲ－9	暗灰褐色粘土質砂質シルト	溝埋土	P．D
第ⅢC-1区	西壁：第6層	弥生時代後期（V-5）以後	Ⅲ－18	灰オリーブ色シルト質粘土（含酸化鉄）	基本層序内	P．D．P0
第ⅢC-1区	西壁：第7層	弥生時代後期（V-5）以後	Ⅲ－17	暗灰褐色粘土質砂質シルト	基本層序内	P．D．P0
第ⅢC-1区	西壁：第8層	弥生時代後期（V-5）以後	Ⅲ－16	暗灰褐色粘土質砂質シルト	基本層序内	P．D．P0
第ⅢC-1区	西壁：第8層	弥生時代後期（V-5）以後	Ⅲ－1	暗灰褐色砂質シルト	基本層序内	P．D
第ⅢC-1区	SD687：S21，炭層	弥生時代後期（V-5）	Ⅲ－20	灰オリーブ色シルト質粘土（含酸化鉄）	溝埋土	P．D．P0
第ⅢC-1区	西壁：ベース	縄文時代晩期～弥生時代前・中期？	Ⅲ－15	灰色砂質シルト質粘土（含酸化鉄）	基本層序内	P．D．P0
第ⅢC-2区	SD687：第3～5層	弥生時代後期（V-5）	Ⅲ－2	灰褐色砂質シルト	溝埋土	P．D
第ⅢC-2区	SD687：第8～12層	弥生時代後期（V-5）	Ⅲ－3	灰黄色砂質シルト	溝埋土	P．D
第ⅢC-2区	SI603：炉，炭層	弥生時代後期（V-5古）	Ⅲ－21	黒褐色砂質シルト質粘土	竪穴住居炉内埋土	P．D．P0
第ⅢC-3区	SD702：第2層	弥生時代後期（V-5新）	Ⅲ－4	暗灰黄色砂質シルト	溝埋土	P．D
第ⅢC-3区	SD702：第5～7層	弥生時代後期（V-5新）	Ⅲ－5	黄灰色砂質シルト	溝埋土	P．D
第ⅢC-3区	SI601床面直上	弥生時代後期（V-4ないし5）	Ⅲ－6	暗灰黄色砂質シルト	竪穴住居覆土	P．D
第ⅢC-4区	SD755：ｾｸｼｮﾝﾍﾞﾙﾄ	奈良	Ⅲ－13	灰黄褐色粘土質砂	溝埋土	P．D
第ⅢC-4区	SD720：中央ｾｸｼｮﾝﾍﾞﾙﾄ	弥生時代後期～古墳時代前期（V-6～布留式期）	Ⅲ－12	暗褐色粘土質砂	溝埋土	P．D
第ⅢC-4区	SD721：南側ｾｸｼｮﾝﾍﾞﾙﾄ	弥生時代後期～古墳時代前期（V-6～布留式期）	Ⅲ－22	灰白色シルト質粘土（含酸化鉄）	溝埋土	P．D
第ⅢC-4区	SI605：東西ｾｸｼｮﾝﾍﾞﾙﾄ	弥生時代後期（V-5）	Ⅲ－7	黄灰色砂質シルト	竪穴住居覆土	P．D
第ⅢC-4区	SD681：ｾｸｼｮﾝﾍﾞﾙﾄ	弥生時代後期（V-4，5）	Ⅲ－11	褐色砂質シルト	溝埋土	P．D
第ⅢC-5区	SE872：第12層	16世紀後半	Ⅲ－23	青灰色砂質粘土	井戸埋土	P．D
第ⅢC-5区	SI619：炉，炭層	弥生時代後期（V-6）	Ⅲ－24	黒色砂質粘土質シルト	竪穴住居炉内埋土	P．D．P0
第ⅢD区	SD936：下層	弥生時代後期（V-5）	Ⅲ－25	灰白色シルト質粘土（含酸化鉄）	溝埋土	P．D
第ⅢD区	SD938：第2層	弥生時代後期（V-5）以前	Ⅲ－14	灰色シルト質粘土	溝埋土	P．D
第ⅢD区	SI01：第2層	縄文時代？	Ⅲ－8	にぶい黄灰色砂質シルト	竪穴住居覆土	P．D

凡例：P：花粉分析、D：珪藻分析、P0：植物珪酸体分析

2．珪藻化石からみた堆積物の成因

2－1．分析方法

珪藻化石の抽出は、以下に述べる方法で行った。試料を秤量（湿重7.6～8.7ｇ）し、過酸化水素水（H_2O_2）と塩酸（HCl）により試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。蒸留水を満たし、７時間以上放置した後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う（予め、分散剤のピロリン酸ナトリウムを加えておき分散し易くしておく）。上澄み液が透明近くなるまでこの操作を繰り返す。次に、試料中に含まれる砂を、比重差を利用して取り除くために、Ｌ字形管分離を行う。珪藻殻の濃縮を終了した試料は、検鏡し易い濃度に希釈し、マイクロピペットで0.4ml測り取り、18×18㎜のカバーガラス上に静かに滴下し、パラフィン伸展器で対流の起こらない温度で乾燥する。乾燥して一様に展開した試料上に封入剤のプリュウラックスを滴下、加熱し溶剤のエタノールを蒸発する。次に、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸1000倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が200個体以上になるまで同定・計数した。なお珪藻殻が半分以上破損したものについては、同定・計数を行っていない。種の同定は、Krammer（1992）、Krammer and Lange-Bertalot（1986, 1988, 1991a, 1991b）などを参照する。

同定結果は、汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率2.0%以上の主要な種類について、珪藻化石群集の分布図を作成する。堆積環境の解析は、淡水生種については安藤（1990）、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991）、汚濁耐性についてはWatanabe, T. *et al.*（1986）の環境指標種を参考とする。

2－2．結果

珪藻分析の結果を表２・３、図１・２に示す。珪藻化石は試料番号①－１～①－４、②－１・②－３・②－４、Ⅱ－７、Ⅲ－13、Ⅲ－12、Ⅲ－11、Ⅲ－23で、100個体以上産出する。100個体以上産出した珪藻化石群集の特徴を、地点別に以下に示す。

・第ＩＡ区　SD102　A地点

試料番号①－１～①－４の群集組成は類似し、陸生珪藻が全体の約50～80%を占めることが特徴である。陸生珪藻の中では、Ａ群（伊藤・堀内，1991）とされる *Amphora montana*、*Hantzschia amphioxys*、*Navicula contenta*、*Navicula mutica* などが産出する。中でも、陸生珪藻Ａ群（伊藤・堀内，1991）の *Amphora montana* が約10～30%産出する。その他は、流水性種・流水不定性種・止水性種など様々な生態性の水生珪藻が低率で産出する。

・第ＩＡ区　SD102　B地点

溝下部の②－４・②－３は、流水不定性種の *Achnanthes hungarica* と *Gomphonema parvulum* が約10%前後、陸生珪藻Ａ群の *Navicula confervacea* が約10～20%産出するが、その他はいずれも産出率が10%以下と低率である。全体的に優占する種はなく、流水性種・流水不定性種・止水性種・陸生珪藻など様々な生態性の種が低率で産出する。

②－１は陸生珪藻が多産する。中でも、陸生珪藻Ａ群の *Amphora montana* が約60%産出する。

なお、陸生珪藻とは、多少の湿り気のある乾いた環境に生育する珪藻であり、中でも、乾燥に耐性のある

表２　第ⅠA・ⅡA区の珪藻分析結果（１）

種類	生態性			環境指標種	SD102								SD450
	塩分	pH	流水		①-1	①-2	①-3	①-4	②-1	②-2	②-3	②-4	7
Navicula capitata Ehrenberg	Ogh-Meh	al-il	r-ph	U	-	-	-	-	1	-	2	1	1
Navicula capitata var. elliptica (Schulz)Cl.- Eu.	Ogh-Meh	al-il	ind		-	-	-	-	1	-	1	-	-
Navicula veneta Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	3
Nitzschia levidensis var. victoriae Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind	U	2	-	1	-	-	-	-	-	-
Nitzschia palea (Kuetz.)W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	4	1	-	2	-	-	1	-	-
Rhopalodia gibberula (Ehr.)O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind		-	-	-	1	-	-	-	-	-
Achnanthes lanceolata var. elliptica Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Achnanthes exigua var. heterovalvata Krasske	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	1	-	-	2	3	-
Achnanthes japonica H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	r-bi	J,T	-	2	-	-	1	-	1	2	-
Achnanthes lanceolata var. rostrata (Oestrup.)Lange-B.	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	-	-	-	1	6	-
Achnanthes lanceolata (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	1	2	-	1	2	3	5	3	8
Achnanthes hungarica Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	2	-	8	14	2	-	30	15	3
Actinella brasiliensis Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-bi	O	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Amphora affinis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	2	3	1	1
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	19	43	65	59	119	1	4	-	17
Amphora ovalis (Kuetz.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	-	-	2	2	1
Amphora pediculus (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	T	-	-	-	-	-	-	1	1	-
Aulacoseira epidendron (Ehr.)Crawford	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	1
Aulacoseira italica (Ehr.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Caloneis bacillum (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	3	1	1	5	-	-	1	1	1
Caloneis hyalina Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RA	3	-	-	2	-	-	1	1	-
Caloneis silicula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	2	-
Caloneis silicula var. minuta (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	1	1	-
Ceratoneis vaucheriae var. intermedia (Grun.)H.Kob.	Ogh-ind	al-il	r-ph		-	-	-	-	-	-	1	-	-
Cocconeis placentula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	1	-	-	-	-	1	-
Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	1	-	-	-	-	-	-	1
Cocconeis placentula var. lineata (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Cymbella aspera (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O,T	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Cymbella elginensis Krammer	Ogh-ind	al-il	l-bi	T	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Cymbella minuta Hilse ex Rabh.	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	1	2	1	1	1	-	2	2	3
Cymbella naviculiformis Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	-	-	-	-	1	-	1
Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	-	1	-	-	1	4	6	2
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	-	-	1	3	-
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	3	-	-	-	2	-	2	-
Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	1	1
Diploneis oblongella (Naegeli)Cleve-Euler	Ogh-ind	al-il	l-ph		1	-	-	-	-	-	-	-	-
Diploneis ovalis (Hilse)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		7	-	-	-	-	1	-	1	3
Eunotia bigibba Kuetzing	Ogh-hob	ac-bi	ind	RA	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Eunotia duplicoraphis H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	1
Eunotia incisa W.Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	1	-	-	1	1	-	3	-
Eunotia bilunaris (Ehr.)Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	-	-	-	1	2	-
Eunotia monodon Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	1	1	-	-	4	3	1
Eunotia subarcuatoides Noerpel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	2	-
Fragilaria capucina var. rumpens (Kuetz.)Lange-B.	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Fragilaria construens fo. binodis (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Fragilaria pinnata var. lancettula (Schum.)Hust.	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Fragilaria ulna (Nitzsch)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	2	-
Frustulia constricta Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	-	-	-	3
Frustulia vulgaris (Thwait.)De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	1	2	1	-	-	-	-	1
Gomphonema abbreviatum Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	1	-	-
Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	-	-	-	-	1	1	1	-
Gomphonema acuminatum var. brebissonii (Kuetz.)Cl.	Ogh-ind	ind	l-ph		-	-	-	-	-	-	1	1	-
Gomphonema angustatum (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	2	4	-	-	8	4	2
Gomphonema angustatum var. productum Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	3	4	1	2	1	1	3	-	2
Gomphonema augur Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	-	1	-	-
Gomphonema augur var. gautieri V.Heurck	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	-	2	1	-
Gomphonema augur var. turris (Ehr.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind		-	-	2	-	-	-	4	2	1
Gomphonema clevei Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	-	1	-	-	-	2	7	3	1
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	-	-	1	4	-	-	2	4	-
Gomphonema lanceolatum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	7
Gomphonema lanceolatum fo. turris (Ehr.e.p.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	-	-	2	1	-
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	1	-	12	12	1	-	18	19	14
Gomphonema parvulum var. lagenula (Kuetzing)Fren.	Ogh-ind	ind	r-ph	S	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Gomphonema parvulum var. micropus (Kuetz.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind		-	1	-	1	1	-	1	-	-
Gomphonema pumilum (Grun.)Reichardt & Lange-Be.	Ogh-ind	al-il	ind		2	1	-	-	-	-	-	1	-
Gomphonema subtile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	1	-
Gomphonema truncatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	-	-	1	-	-	-	1	1	-
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	1	-	2
Gyrosigma acuminatum (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	1	-	-	-	-	-	-
Gyrosigma kuetzingii (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	-	-	-	2	-
Gyrosigma scalproides (Rabh.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph		2	-	-	-	-	3	-	-	-
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	15	26	14	7	15	3	3	3	17
Melosira varians Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K,U	-	-	-	-	-	-	-	3	-
Meridion circulae var. constrictum (Ralfs)V.H.	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Navicula anglica Ralfs	Ogh-ind	al-il	r-ph		1	-	-	-	-	-	1	1	-
Navicula cocconeiformis Gregory	Ogh-hob	ind	r-ph		-	-	1	-	-	-	-	-	-
Navicula confervacea (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RB,S	6	2	2	1	1	1	25	48	1
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	38	22	15	16	16	3	10	12	19
Navicula contenta fo. biceps (Arnott)Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	-	-	-	-	-	-	-	-	5
Navicula cryptocephala Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	4	3	16	4	-	2	6	1
Navicula cryptocephala var. exilis (Kuetz.)Grun.	Ogh-ind	al-il	ind	T	2	-	-	2	-	-	-	2	-
Navicula decussis Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Navicula elginensis (Greg.)Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	4	1	1	-	-	2	2	1	-
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.)Pat.	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	2	1	-	-	1	7	1	1
Navicula ignota Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	-	1	-	-	-	-	1
Navicula kotschyi Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	1	-	-
Navicula lacustris Gregory	Ogh-hob	ind	l-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	1
Navicula lapidosa Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula menisculus Schumann	Ogh-ind	al-il	r-ph		1	-	-	-	-	-	-	3	-
Navicula mobiliensis var. minor Patrick	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	3	-
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	24	28	12	9	6	3	4	2	9

表２　第ⅠA・ⅡA区の珪藻分析結果（２）

種類	生態性			環境指標種	SD102								SD450
	塩分	pH	流水		①-1	①-2	①-3	①-4	②-1	②-2	②-3	②-4	7
Navicula mutica var. ventricosa (Kuetz.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	RI	–	–	–	–	–	–	1	–	1
Navicula paramutica Bock	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	3	1	1	–	–	–	–	–
Navicula seminulum Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RB,S	–	–	–	–	–	–	–	–	2
Navicula ventralis Krasske	Ogh-ind	ind	ind	U	–	–	–	2	–	–	–	–	–
Navicula viridula (Kuetz.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	–	1	1	–	–	–	–	1	–
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	1	–	–	–	4
Neidium affine var. amphirhynchus (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-bi		3	1	–	–	–	–	–	–	–
Neidium ampliatum (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph		–	–	–	–	–	–	–	–	1
Neidium gracile Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind		–	–	–	–	–	–	–	–	1
Neidium iridis (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi	O	–	–	–	–	–	–	–	1	–
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	–	1	–	1	–	–	–	1	–
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	–	–	2	–	–	–	1	1	1
Nitzschia debilis (Arnott)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	–	–	–	–	–	–	–	–	23
Nitzschia fonticola Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	–	–	–	–	–	–	–	1
Nitzschia heideni Meister	Ogh-ind	al-il	ind		–	–	1	–	–	–	–	–	–
Nitzschia paleacea Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	12	4	1	1	–	–	–	–	–
Nitzschia romana Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	2	2	5	1	10	1	–	3	2
Orthoseira roeseana (Rabh.)O'Meara	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	1	1	1	–	–	–	–	–
Pinnularia appendiculata (Ag.)Cleve	Ogh-hob	ind	ind	RB	–	–	–	–	–	–	–	1	–
Pinnularia biceps fo. petersenii R.Ross	Ogh-ind	ac-il	ind	S	–	–	–	1	–	–	1	1	1
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	–	1	1	–	1	–	–	–	2
Pinnularia braunii (Grun.)Cleve	Ogh-hob	ac-bi	l-ph		–	–	1	–	–	–	1	–	1
Pinnularia braunii var. amphicephala (A.Mayer)Hust.	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	S	–	–	–	–	–	–	–	1	–
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	–	–	–	–	–	–	2	–	–
Pinnularia gibba var. dissimilis H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	ind		–	–	–	–	–	–	1	1	–
Pinnularia karelica var. japonica Hustedt	Ogh-ind	ind	l-ph		–	1	–	–	–	–	–	–	–
Pinnularia mesolepta (Ehr.)W.Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	2	–	–	–	–	–	–	–	–
Pinnularia molaris (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind	RB,U	–	–	1	–	–	–	–	–	–
Pinnularia nodosa Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	–	–	–	–	–	–	1	2	3
Pinnularia obscura Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	–	–	–	–	–	–	–	–	1
Pinnularia schroederii (Hust.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	10	5	1	–	1	2	–	–	4
Pinnularia streptoraphe Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph		–	–	–	1	–	–	–	–	–
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	7	12	14	14	8	3	2	3	5
Pinnularia subcapitata var. paucistriata (Grun.)Cl.	Ogh-ind	ac-il	l-ph	O,U	–	–	–	–	–	–	–	–	1
Pinnularia substomatophora Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1	–	2	2	–	–	1	1	–
Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	–	–	–	–	–	–	–	–
Rhoicosphenia abbreviata (Ag.)Lange-B.	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	–	–	–	–	1	–	–	2	–
Sellaphora laevissima (Kuetz.)Mann	Ogh-ind	ind	ind		–	–	–	1	–	–	–	–	–
Sellaphora pseudopupula (Krasske)Lange-B.	Ogh-ind	ind	ind		–	–	1	–	–	–	–	–	–
Sellaphora pupula (Kuetz.)Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S	2	1	2	3	–	–	4	15	4
Sellaphora pupula fo. capitata Skvortzow & Meyer	Ogh-ind	ind	ind	U	–	–	–	–	–	–	–	1	–
Sellaphora rectangularis (Greg.)Lange-B.& Met.	Ogh-ind	ind	ind		–	1	–	–	–	–	–	1	–
Stauroneis anceps Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	3	1	–	–	–	–	1	–	–
Stauroneis anceps fo. gracilis (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind		–	–	1	–	–	–	–	–	2
Stauroneis lauenburgiana Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		1	1	–	–	–	–	1	–	–
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	3	8	3	–	1	1	1	–	–
Stauroneis phoenicenteron (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	–	–	–	–	–	–	1	1	–
Stauroneis smithii Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	–	–	–	–	–	–	2	–	–
Stauroneis smithii var. incisa Pantocsek	Ogh-ind	al-il	r-ph		5	–	2	–	1	–	–	2	–
Stauroneis tenera Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	–	–	–	–	–	–	–	–	4
Stephanodiscus astraea var. minutula (Kuetz.)Grun.	Ogh-ind	al-il	l-bi	M	–	–	–	–	–	–	–	3	–
Surirella angusta Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	U	–	–	–	1	–	–	–	–	–
Surirella ovata Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	–	–	1	–	2	–	–	–	–
Surirella ovata var. pinnata (W.Smith)Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	8	6	4	5	1	–	–	–	3
Tabellaria fenestrata (Lyngb.)Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	l-bi	O,T	–	–	–	–	–	–	–	1	–
海水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0
海水～汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種合計					0	0	2	0	0	0	1	1	1
淡水～汽水生種合計					6	1	1	3	2	0	4	1	4
淡水生種合計					201	200	197	195	198	39	197	239	199
珪藻化石総数					207	201	200	198	200	39	202	241	204

凡例

H.R.：塩分濃度に対する適応性　pH：水素イオン濃度に対する適応性　C.R.：流水に対する適応性

Meh	：汽水生種	al-bi	：真アルカリ性種	l-bi	：真止水性種
Ogh-Meh	：淡水－汽水生種	al-il	：好アルカリ性種	l-ph	：好止水性種
Ogh-hil	：貧塩好塩性種	ind	：pH 不定性種	ind	：流水不定性種
Ogh-ind	：貧塩不定性種	ac-il	：好酸性種	r-ph	：好流水性種
Ogh-hob	：貧塩嫌塩性種	ac-bi	：真酸性種	r-bi	：真流水性種
Ogh-unk	：貧塩不明種	unk	：pH 不明種	unk	：流水不明種

環境指標種群

J:上流性河川指標種，K:中～下流性河川指標種，L:最下流性河川指標種，M:湖沼浮遊性種，
N:湖沼沼沢湿地指標種，O:沼沢湿地付着生種，P:高層湿原指標種（以上は安藤，1990）
S:好汚濁性種，U:広域適応性種，T:好清水性種（以上は Asai, K. & Watanabe, T., 1986）
R:陸生珪藻（RA:A 群，RB:B 群，RI：未区分、伊藤・堀内，1991）

表３　第ⅢA・ⅢD区の珪藻分析結果（１）

種類	生態性			環境指標種												
	塩分	pH	流水		Ⅲ-10	Ⅲ-9	Ⅲ-18	Ⅲ-1	Ⅲ-20	Ⅲ-15	Ⅲ-2	Ⅲ-3	Ⅲ-21	Ⅲ-4	Ⅲ-5	Ⅲ-6
Nitzschia parvula Lewis	Meh				–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Fragilaria brevistriata Grunow	Ogh-Meh	al-il	l-ph	U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Navicula goeppertiana (Bleisch)H. L. Smith	Ogh-Meh	al-il	ind	S	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Nitzschia frustulum (Kuetz.)Grunow	Ogh-Meh	al-bi	ind		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Nitzschia palea (Kuetz.)W. Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Rhopalodia gibberula (Ehr.)O. Muller	Ogh-Meh	al-il	ind		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-ind	al-bi	l-ph	T	1	–	1	–	1	–	–	–	–	–	–	–
Achnanthes lanceolata (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Achnanthes minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Achnanthes pseudohustedtii H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	ind		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Achnanthes subhudsonis Hustedt	Ogh-ind	ind	r-ph	T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Amphora affinis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Caloneis bacillum (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Caloneis silicula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–
Caloneis silicula var. minuta (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Cocconeis placentula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.)Cl.	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Cocconeis placentula var. lineata (Ehr.)Cl.	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Cymbella minuta Hilse ex Rabh.	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Epithemia spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–
Eunotia incisa W. Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Fragilaria construens fo. venter (Ehr.)Hust.	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Frustulia vulgaris (Thwait.)De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Gomphonema angustum Agardh	Ogh-ind	al-il	ind		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Gomphonema truncatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–
Gyrosigma scalproides (Rabh.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, U	–	1	–	–	–	–	1	–	1	5	–	–
Navicula brekkaensis Petersen	Ogh-ind	ind	ind	RI	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Navicula cohnii (Hilse)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Navicula confervacea (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RB, S	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Navicula contenta fo. biceps (Arnott)Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	RA, T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Navicula cryptotenella Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Navicula decussis Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.)Pat.	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Navicula minima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA, S	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–
Navicula tantula Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI, U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Navicula tenelloides Hustedt	Ogh-unk	unk	r-ph	J, U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Navicula trivialis Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–
Navicula viridula var. rostellata (Kuetz.)Cl.	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–
Neidium bisulcatum (Lagerst.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	RI	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Neidium herrmanni Hustedt	Ogh-ind	ind	ind		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Nitzschia dissipata (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Nitzschia fonticola Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	–	–	–	–	4	–	–
Pinnularia appendiculata (Ag.)Cleve	Ogh-hob	ind	ind	RB	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Pinnularia borealis var. rectangularis Carlson	Ogh-ind	ind	ind	RA	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Pinnularia braunii var. amphicephala (A. Mayer)Hust.	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	S	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Pinnularia intermedia (Largerst.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind	RA	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Pinnularia leptosoma Grrunow	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Pinnularia microstauron (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Pinnularia molaris (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind	RB, U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Pinnularia schroederii (Hust.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB, S	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Stauroneis anceps Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Stauroneis phoenicenteron fo. gracilis (Ehr.)Hust.	Ogh-ind	ind	l-ph	O	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Stauroneis smithii Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Stauroneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Surirella ovata Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Surirella ovata var. pinnata (W. Smith)Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Surirella spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–
海水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海水～汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
淡水～汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
淡水生種合計					1	1	1	0	1	0	1	0	5	14	2	0
珪藻化石総数					1	1	1	0	1	0	1	0	5	14	2	0

＊：凡例は表２参照

表３　第ⅢA・ⅢD区の珪藻分析結果（２）

種類	生態性			環境指標種	Ⅲ-13	Ⅲ-12	Ⅲ-22	Ⅲ-7	Ⅲ-11	Ⅲ-23	Ⅲ-24	Ⅲ-25	Ⅲ-14	Ⅲ-8
	塩分	pH	流水											
Nitzschia parvula Lewis	Meh				1	2	−	−	3	2	−	−	−	−
Fragilaria brevistriata Grunow	Ogh-Meh	al-il	l-ph	U	−	−	−	−	−	1	−	−	1	−
Navicula goeppertiana (Bleisch)H. L. Smith	Ogh-Meh	al-il	ind	S	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Nitzschia frustulum (Kuetz.)Grunow	Ogh-Meh	al-bi	ind		−	8	−	−	3	−	−	−	−	−
Nitzschia palea (Kuetz.)W. Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
Rhopalodia gibberula (Ehr.)O. Muller	Ogh-Meh	al-il	ind		−	−	−	−	−	2	−	−	−	−
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-ind	al-bi	l-ph	T	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−
Achnanthes lanceolata (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Achnanthes minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Achnanthes pseudohustedtii H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	ind		−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Achnanthes subhudsonis Hustedt	Ogh-ind	ind	r-ph	T	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Amphora affinis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	2	1	−	−	12	42	−	−	−	−
Caloneis bacillum (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	1	−	−	−	2	−	−	−	−
Caloneis silicula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Caloneis silicula var. minuta (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
Cocconeis placentula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	−	−	−	−	−	3	−	−	−	−
Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.)Cl.	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
Cocconeis placentula var. lineata (Ehr.)Cl.	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Cymbella minuta Hilse ex Rabh.	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−
Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	1	−	−	−	−	2	−	−	−	−
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, T	−	−	−	−	1	1	−	−	−	−
Epithemia spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	−	−	1	−
Eunotia incisa W. Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Fragilaria construens fo. venter (Ehr.)Hust.	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Frustulia vulgaris (Thwait.)De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Gomphonema angustum Agardh	Ogh-ind	al-il	ind		−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Gomphonema truncatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Gyrosigma scalproides (Rabh.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph		−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, U	36	34	1	5	27	30	8	−	4	−
Navicula brekkaensis Petersen	Ogh-ind	ind	ind	RI	−	−	−	−	10	−	−	−	−	−
Navicula cohnii (Hilse)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
Navicula confervacea (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RB, S	−	−	−	−	1	3	−	−	−	−
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, T	−	−	−	−	2	18	−	−	−	−
Navicula contenta fo. biceps (Arnott)Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	RA, T	9	2	−	−	5	−	−	−	−	−
Navicula cryptotenella Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	T	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Navicula decussis Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, U	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.)Pat.	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Navicula minima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		−	−	−	−	−	2	−	−	−	−
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA, S	42	16	1	−	17	31	9	−	1	−
Navicula tantula Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI, U	−	−	−	−	4	−	−	−	−	−
Navicula tenelloides Hustedt	Ogh-unk	unk	r-ph	J, U	−	−	−	−	−	4	−	−	−	−
Navicula trivialis Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Navicula viridula var. rostellata (Kuetz.)Cl.	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, U	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Neidium bisulcatum (Lagerst.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	RI	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Neidium herrmanni Hustedt	Ogh-ind	ind	ind		−	5	−	−	1	3	−	−	−	−
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	−	1	−	−	−	1	−	−	−	−
Nitzschia dissipata (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
Nitzschia fonticola Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	−	−	−	−	2	10	−	−	−	−
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
Pinnularia appendiculata (Ag.)Cleve	Ogh-hob	ind	ind	RB	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	−	−	−	2	−	−	−	−	−
Pinnularia borealis var. rectangularis Carlson	Ogh-ind	ind	ind	RA	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
Pinnularia braunii var. amphicephala (A. Mayer)Hust.	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	S	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Pinnularia intermedia (Largerst.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind	RA	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Pinnularia leptosoma Grrunow	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
Pinnularia microstauron (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	−	−	−	−	1	1	−	−	1	−
Pinnularia molaris (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind	RB, U	1	1	−	−	−	2	−	−	−	−
Pinnularia schroederii (Hust.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	1	−	−	−	3	−	−	−	−
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB, S	5	5	−	−	3	17	−	−	−	−
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
Stauroneis anceps Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	9	−	−	6	6	1	−	−	−
Stauroneis phoenicenteron fo. gracilis (Ehr.)Hust.	Ogh-ind	ind	l-ph	O	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−
Stauroneis smithii Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
Stauroneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	1	−	−	1	−	−	−	−	−
Surirella ovata Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	−	−	−	−	−	10	−	−	−	−
Surirella ovata var. pinnata (W. Smith)Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	13	−	−	−	1	1	−	−	−
Surirella spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
海水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海水～汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種合計					1	2	0	0	3	2	0	0	0	0
淡水～汽水生種合計					0	8	0	0	3	4	1	0	1	0
淡水生種合計					103	92	2	5	98	212	22	0	12	0
珪藻化石総数					104	102	2	5	104	218	23	0	13	0

＊：凡例は表２参照

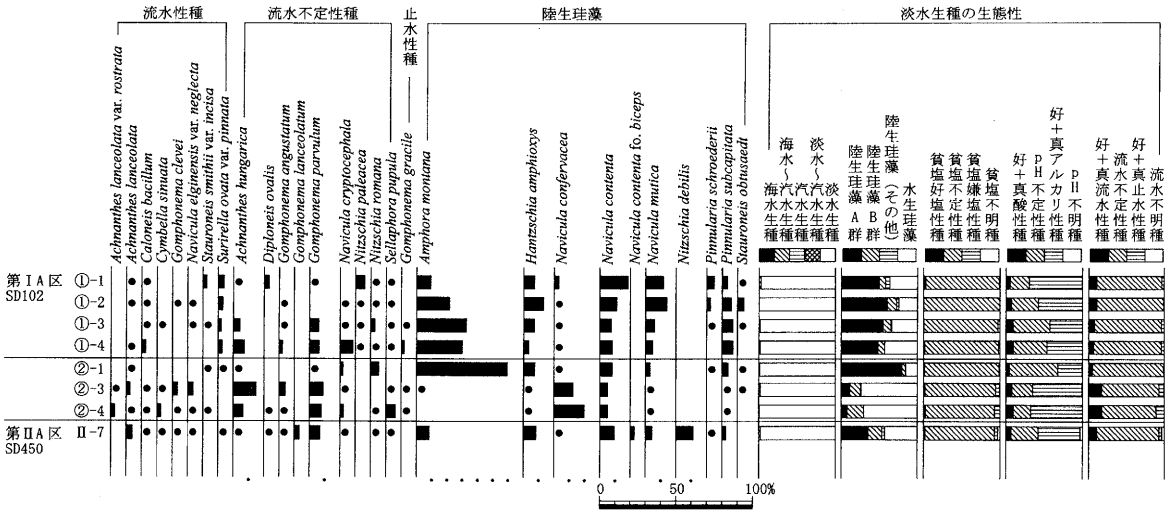


図1　主要珪藻化石群集の層位分布

海水－汽水－淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は2％未満、＋は100個体未満の試料について検出した種類を示す。

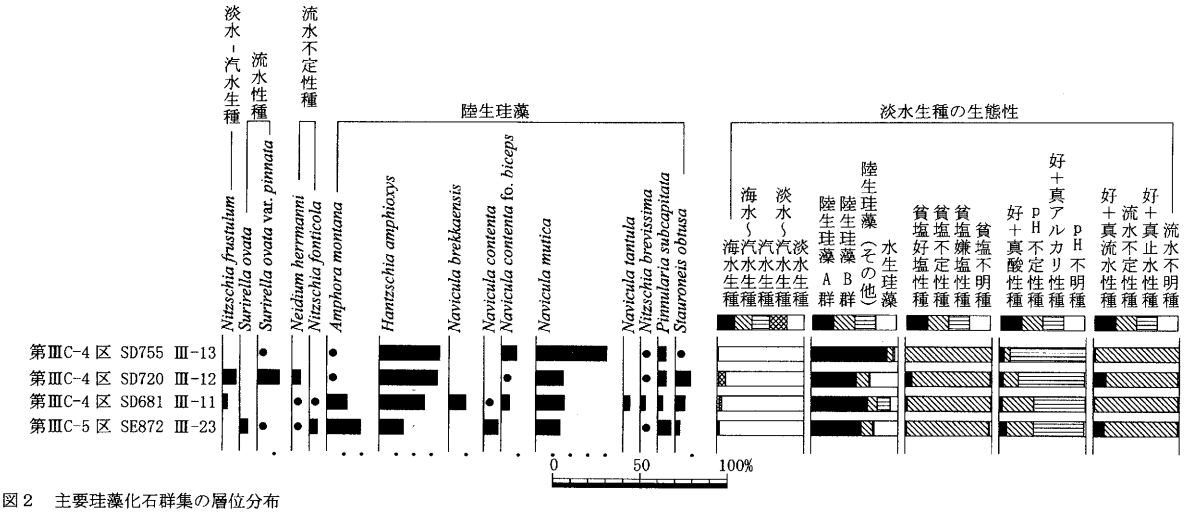


図2　主要珪藻化石群集の層位分布

海水－汽水－淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は2％未満検出した種類を示す。

種がA群とされる。

・第ⅡA区　SD450

Ⅱ－7は、全体の約50％を陸生珪藻が占める。全体的に優占する種はなく、陸生珪藻の他には、流水性種・流水不定性種・止水性種など様々な生態性の水生珪藻が低率で産出する。

・第ⅢC－4区　SD755・SD720・SD681

SD755（Ⅲ－13）・SD720（Ⅲ－12）・SD681（Ⅲ－11）の溝埋積物から採取された試料は、いずれも陸生珪藻が多産する。中でも、*Hantzschia amphioxys*、*Navicula mutica*などの陸生珪藻A群とされる種が多産する。なお、SD720（Ⅲ－12）では、好流水性種の*Surirella ovata var. pinnata*が約10％産出するなど、若干の水生珪藻が産出する。

・第ⅢC－5区　SE872

Ⅲ－23は、陸生珪藻A群とされる*Amphora montana*、*Hantzschia amphioxys*、*Navicula contenta*、*Navicula mutica*などの、陸生珪藻が全体の約70％を占める。また、好流水性種の*Surirella ovata*、流水不定性種の*Navicula fonticola*などの水生珪藻が若干産出する。

2－3．珪藻化石からみた堆積物の成因

・第ⅠA区　SD102　A地点

全体的に陸生珪藻が多産したことから、溝埋積当時は好気的環境であった、あるいはそのような堆積物で埋没していると思われる。様々な生態性の水生珪藻が低率で産出したことから、何らかの水の影響を受けた堆積物と思われる。本遺跡付近に紀ノ川が流れることを考慮すると、河川の氾濫時に様々な場所から運搬されてきた土壌が堆積した氾濫堆積物に由来する可能性がある。

・第ⅠA区　SD102　B地点

下部で様々な生態性の水生珪藻が低率で産出したことから、B地点もA地点と同様な成因の堆積物で埋積されていると思われる。ただし、陸生珪藻の産出率が低いことから、B地点の溝埋積物下部は、やや湿潤な環境下で形成された堆積物と判断されると思われる。

一方、溝埋積物上部では、陸生珪藻が多産したことから、A地点同様に、乾いた環境が継続するような堆積環境下で形成された堆積物と思われる。

・第ⅡA区　SD450

SD102A地点と同様に、陸生珪藻が多産し、様々な生態性の水生珪藻が低率で産出した。よって、溝埋積物は、氾濫堆積物のような堆積物からなり、かつ乾いた状態が継続する環境で形成された堆積物からなると考えられる。

・第ⅢC－4区　SD755・SD720・SD681

構成種は異なるが、いずれの溝埋積物においても陸生珪藻が多産した。よって、溝は乾いた環境下で埋積された可能性がある。ただし、SD720（Ⅲ－12）では、流水性種など若干の水生珪藻が産出することから、氾濫などの何らかの水の影響を受けていた可能性がある。

・第ⅢC－5区　SE872

井戸埋積物（Ⅲ－23）は陸生珪藻が多産したことから、乾いた環境下で堆積したと思われる。なお、若干の水生珪藻が産出したことから、埋積物が何らかの水の影響を受けていた可能性もある。

なお、珪藻化石の産出しない試料に関しては、何らかの理由で、堆積後の珪藻化石が溶解消失したと思われる。また、②－2、Ⅲ－2・3・4・5・6・7・8・9、Ⅲ－15、Ⅲ－20、Ⅲ－22、Ⅲ－25は、他の微化石の産出数も少ないことから、試料採取層は、堆積速度が速いために微化石自体をあまり取り込まずに形成された可能性がある。

3．花粉・植物珪酸体による古植生の検討

3－1．方法

（1）花粉分析

試料約10ｇについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.3）よる有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

（２）植物珪酸体分析

植物珪酸体の抽出は、以下に示す方法で行った。試料を秤量（10～20ｇ：湿重）し、過酸化水素水（H_2O_2）により試料の泥化と有機物の分解を行う。これに蒸留水を満たし、分散剤のピロリン酸ナトリウムを加えて分散しやすくし、30分以上放置した後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去する。上澄み液が透明近くなるまでこの操作を繰り返す。

次に、400メッシュ（網目径37μｍ）の篩を用いて篩別し、砂分を除去する。鉄分除去のため、６Ｎ塩酸（HCl）50ccで加熱し、水洗した後、エタノールで脱水する。

これを５cc沈澱管に入れ、比重2.00の重液（テトラブロモエタンをエタノールで調整）を加えて攪拌し、遠心分離器した後、浮上物を残して沈んだ残渣をピペットで除去する。別の沈澱管に浮上物を入れ、重液の比重をエタノールで1.14に調整して浮上物をピペットで除去し、エタノールで洗浄する。

これを検鏡し易い濃度に希釈し、マイクロピペットでカバーガラス上に滴下し、乾燥する。封入剤のプリュウラックスを滴下して、スライドガラスに貼り付ける。

光学顕微鏡を用い、400～1000倍にて観察する。表面が溶解していない、イネ科植物の亜鈴型細胞列に形成した植物珪酸体の個数を計数し、その産出率を求める。イネ科植物以外の植物珪酸体については、その個数を記載する。植物の同定は、現生の植物標本を基に行った。

３－２．結果

（１）花粉分析

結果を表４・５、図３に示す。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。なお、木本花粉総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を＋で表示するにとどめておく。以下、地点別に結果を述べる。

・第Ⅰ A区

試料番号①－１～－３、および②－１・－２においては、花粉の産出状況が悪く、定量解析を行うだけの花粉化石は検出されなかった。

試料番号①－４・②－３・－４からは花粉化石が豊富に検出された。産出傾向はいずれの試料も類似しており、草本花粉の割合が高い。木本花粉ではマツ属・コナラ属アカガシ亜属が多く産出し、コウヤマキ属・

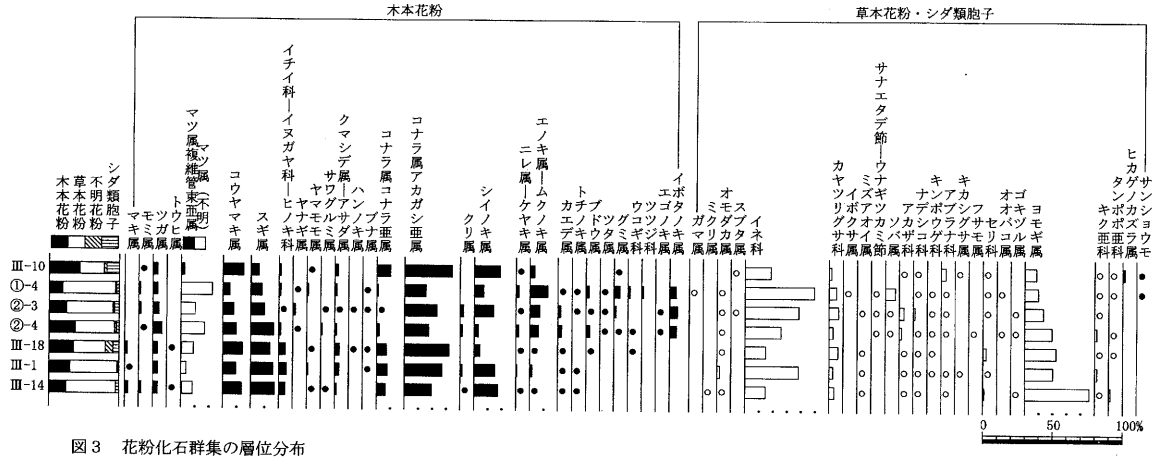


図３　花粉化石群集の層位分布

出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。

なお、●○は１％未満、＋は木本花粉 100 個体未満の試料について検出した種類を示す。

表4　第ⅠA区・第ⅡA区における花粉分析結果

種類	第ⅠA区								第ⅡA区						
試料番号	①-1	①-2	①-3	①-4	②-1	②-2	②-3	②-4	Ⅱ-7	Ⅱ-6	Ⅱ-5	Ⅱ-2	Ⅱ-1	Ⅱ-4	Ⅱ-3
木本花粉															
モミ属	−	−	−	2	−	−	3	1	−	−	−	−	−	−	−
ツガ属	−	−	−	6	−	3	9	13	−	−	−	−	−	−	−
マツ属	−	−	−	42	−	5	21	33	1	−	−	−	−	−	2
コウヤマキ属	−	−	2	9	−	4	16	19	1	−	−	−	1	−	−
スギ属	−	−	2	15	−	1	20	32	1	−	−	−	−	−	−
イチイ科−イヌガヤ科−ヒノキ科	2	−	−	3	1	4	2	3	−	−	−	−	−	−	−
ヤナギ属	−	−	−	1	−	1	4	1	−	−	−	−	−	−	−
ヤマモモ属	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
サワグルミ属	−	−	−	−	−	−	1	2	−	−	−	−	−	−	−
クマシデ属−アサダ属	−	−	−	3	−	1	1	3	−	−	−	−	2	−	−
カバノキ属	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
ハンノキ属	−	−	−	−	−	−	1	−	1	−	−	−	−	−	−
ブナ属	−	−	−	1	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−
コナラ属コナラ亜属	−	−	1	2	−	1	2	4	1	−	−	1	−	−	1
コナラ属アカガシ亜属	−	−	−	29	−	2	48	34	4	−	−	−	−	−	−
クリ属	−	−	−	−	−	−	5	3	−	−	−	−	−	−	−
シイノキ属	−	−	−	13	−	−	29	6	−	−	−	−	−	−	−
ニレ属−ケヤキ属	−	−	−	4	−	−	2	4	−	−	1	−	−	−	−
エノキ属−ムクノキ属	−	1	−	24	−	1	15	12	−	−	−	−	−	−	−
マンサク属	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−
カラタチ属近似種	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ウルシ属	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
カエデ属	−	−	−	1	−	−	4	5	−	−	−	−	−	−	−
トチノキ属	−	−	−	1	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
ブドウ属	−	−	−	4	−	−	2	5	−	−	−	−	−	−	−
ツタ属	−	−	−	1	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−
グミ属	−	−	−	8	−	1	3	1	−	−	−	−	−	−	−
ウコギ科	−	−	1	3	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−
ツツジ科	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
リョウブ属	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
ハイノキ属	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
エゴノキ属	−	−	−	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−
イボタノキ属	−	−	−	9	−	1	12	10	−	−	−	−	−	−	−
トネリコ属	1	−	1	1	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−
スイカズラ属	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
草本花粉															
ガマ属	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
オモダカ属	−	−	−	1	−	−	3	1	−	−	−	−	−	−	−
スブタ属	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
イネ科	18	10	63	477	10	−	314	131	−	−	1	−	−	1	1
カヤツリグサ科	2	1	1	51	−	−	56	15	−	−	−	−	−	−	−
イボクサ属	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ミズアオイ属	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
クワ科	−	−	1	12	−	3	3	6	−	−	−	−	−	−	−
サナエタデ節−ウナギツカミ節	−	−	−	4	−	−	2	2	−	−	−	−	−	−	−
タデ属	−	−	−	−	−	−	1	2	−	−	−	−	−	−	−
ソバ属	−	1	12	70	−	−	5	4	−	−	−	−	−	−	−
アカザ科	1	2	15	−	−	−	28	8	3	−	−	−	−	−	1
スベリヒユ属近似種	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
ナデシコ科	−	1	1	6	−	−	11	1	−	−	−	−	−	−	−
キンポウゲ科	−	−	−	4	−	−	4	2	−	−	−	−	−	−	−
アブラナ科	2	−	3	2	−	−	3	2	−	−	−	−	−	−	−
バラ科	−	−	−	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−
フサモ属	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−
セリ科	−	−	1	4	−	−	3	−	−	−	−	−	−	−	−
アサザ属	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
オオバコ属	−	−	−	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−
ゴキヅル属	−	−	−	−	−	−	1	5	−	−	−	−	−	−	−
ヨモギ属	−	−	11	94	3	−	110	100	−	−	−	−	−	3	4
キク亜科	−	−	2	7	−	−	3	8	1	−	−	−	−	−	−
タンポポ亜科	−	1	−	5	−	−	−	3	−	−	−	−	−	−	−
不明花粉	1	−	2	14	−	−	14	16	−	−	−	−	−	−	1
シダ類胞子															
サンショウモ	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
他のシダ類胞子	63	17	8	38	4	−	60	20	3	4	1	6	2	6	6
合計															
木本花粉	3	1	7	189	1	26	209	196	9	0	1	1	3	0	3
草本花粉	23	16	110	740	13	3	552	293	4	0	1	0	0	4	6
不明花粉	1	0	2	14	0	0	14	16	0	0	0	0	0	0	1
シダ類胞子	63	17	8	39	4	0	60	20	3	4	1	6	2	6	6
総計（不明を除く）	89	34	125	968	18	29	821	509	16	4	3	7	5	10	15

表５　第ⅢC・ⅢD区における花粉分析結果（１）

種類	第ⅢC-1区						第ⅢC-2区			第ⅢC-3区		
試料番号	Ⅲ-10	Ⅲ-9	Ⅲ-18	Ⅲ-1	Ⅲ-20	Ⅲ-15	Ⅲ-2	Ⅲ-3	Ⅲ-21	Ⅲ-4	Ⅲ-5	Ⅲ-6
木本花粉												
マキ属	−	−	4	1	−	2	−	−	−	−	−	−
モミ属	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ツガ属	4	2	7	7	−	1	−	−	−	−	−	1
トウヒ属	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
マツ属複維管束亜属	2	2	1	−	−	1	−	−	−	−	−	−
マツ属（不明）	1	2	18	7	−	−	−	−	−	−	1	1
コウヤマキ属	18	11	30	18	−	2	2	3	−	−	1	1
スギ属	7	8	29	31	−	4	−	2	−	−	−	1
イチイ科−イヌガヤ科−ヒノキ科	2	−	10	11	−	−	−	−	−	−	−	−
ヤマモモ属	1	−	1	2	−	−	−	−	−	−	−	−
サワグルミ属	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−
クルミ属	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
クマシデ属−アサダ属	3	2	7	6	−	1	−	1	−	−	−	−
ハシバミ属	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
ハンノキ属	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ブナ属	−	−	2	1	−	−	−	−	−	−	−	−
コナラ属コナラ亜属	12	3	15	15	−	2	1	−	−	−	−	−
コナラ属アカガシ亜属	42	5	68	52	−	1	−	−	−	−	1	−
クリ属	−	−	−	3	−	−	−	−	−	−	−	−
シイノキ属	23	3	9	29	−	2	−	−	−	−	−	−
ニレ属−ケヤキ属	1	−	2	2	−	−	−	−	−	−	−	−
エノキ属−ムクノキ属	4	−	1	3	−	−	−	1	−	−	−	−
ユズリハ属	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
カエデ属	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−
トチノキ属	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
クロウメモドキ科	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ブドウ属	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
グミ属	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ウコギ科	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ミズキ属	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
草本花粉												
ミクリ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
サジオモダカ属	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
オモダカ属	−	−	5	13	−	−	−	−	−	−	−	−
スブタ属	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
イネ科	50	24	80	239	1	5	4	8	−	−	1	8
カヤツリグサ科	5	1	35	17	−	1	−	2	−	−	−	−
ミズアオイ属	−	−	2	1	−	−	−	−	−	−	−	−
サナエタデ節−ウナギツカミ節	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
アカザ科	2	−	3	3	−	−	−	1	−	−	−	−
ヒユ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ナデシコ科	2	1	3	2	−	−	−	−	−	−	−	2
カラマツソウ属	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
キンポウゲ科	−	1	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−
アブラナ科	9	−	−	2	−	−	−	−	−	2	−	24
マメ科	−	1	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−
カラスノゴマ属	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
キカシグサ属	2	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−
セリ科	1	−	13	6	−	−	−	−	−	−	−	−
ネナシカズラ属	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
シソ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ゴキヅル属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ヨモギ属	23	69	120	126	−	25	7	6	1	3	1	14
オナモミ属	−	−	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−
キク亜科	1	31	5	11	−	1	2	−	−	1	−	1
タンポポ亜科	2	4	3	−	−	−	1	1	−	1	−	1
不明花粉	10	2	67	12	−	5	−	−	−	−	−	−
シダ類胞子												
ヒカゲノカズラ属	4	1	−	−	−	1	−	2	−	−	−	1
ハナヤスリ属	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
ゼンマイ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
イノモトソウ属	5	−	2	1	3	6	1	16	−	1	1	11
サンショウモ	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
他のシダ類胞子	41	31	51	7	42	80	6	44	−	7	6	12
合　計												
木本花粉	123	38	212	192	0	17	3	7	0	0	3	4
草本花粉	99	134	274	426	1	32	14	18	1	7	2	50
不明花粉	10	2	67	12	0	5	0	0	0	0	0	0
シダ類胞子	51	32	53	8	45	87	8	62	0	8	7	24
総計（不明を除く）	273	204	539	626	46	136	25	87	1	15	12	78

表５　第ⅢC・ⅢD区における花粉分析結果（２）

種類 / 試料番号	第ⅢC-4区 Ⅲ-13	Ⅲ-12	Ⅲ-22	Ⅲ-7	Ⅲ-11	第ⅢC-5区 Ⅲ-23	Ⅲ-24	第ⅢD区 Ⅲ-25	Ⅲ-14	Ⅲ-8
木本花粉										
マキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	4	－
モミ属	－	－	－	－	－	1	－	－	3	－
ツガ属	－	－	－	－	－	－	－	2	6	－
トウヒ属	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
マツ属複維管束亜属	－	－	－	－	－	2	－	－	1	－
マツ属（不明）	－	－	－	－	－	3	－	－	13	－
コウヤマキ属	3	2	－	1	1	2	－	－	23	2
スギ属	－	－	－	－	－	－	－	－	29	－
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	1	－	－	－	－	－	－	－	8	－
ヤマモモ属	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
サワグルミ属	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
クルミ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クマシデ属－アサダ属	－	－	－	－	－	1	－	－	2	－
ハシバミ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ハンノキ属	－	－	1	－	－	1	－	－	－	－
ブナ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
コナラ属コナラ亜属	1	－	－	－	－	1	－	－	11	5
コナラ属アカガシ亜属	－	－	－	1	－	1	－	－	33	－
クリ属	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
シイノキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	29	1
ニレ属－ケヤキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
エノキ属－ムクノキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
ユズリハ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
カエデ属	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
トチノキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
クロウメモドキ科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ブドウ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
グミ属	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－
ウコギ科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ミズキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
草本花粉										
ミクリ属	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
サジオモダカ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
オモダカ属	－	－	－	－	－	1	－	－	3	－
スブタ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
イネ科	2	6	－	10	1	16	－	－	103	1
カヤツリグサ科	－	－	－	－	－	－	－	－	26	－
ミズアオイ属	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
サナエタデ節－ウナギツカミ節	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－
アカザ科	1	－	－	－	－	13	－	－	1	－
ヒユ科	－	－	－	－	－	2	－	－	5	－
ナデシコ科	－	－	－	－	－	2	－	－	2	－
カラマツソウ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
キンポウゲ科	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－
アブラナ科	－	－	－	5	－	4	－	－	3	－
マメ科	－	－	－	－	－	－	－	－	6	－
カラスノゴマ属	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
キカシグサ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
セリ科	－	－	－	－	－	－	－	－	8	－
ネナシカズラ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
シソ科	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－
ゴキヅル属	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
ヨモギ属	7	3	3	16	－	1	1	1	326	1
オナモミ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
キク亜科	－	－	1	－	1	－	－	2	6	－
タンポポ亜科	－	－	－	1	1	3	－	－	8	－
不明花粉	－	－	3	－	－	4	－	－	－	－
シダ類胞子										
ヒカゲノカズラ属	－	－	－	1	1	2	－	－	－	－
ハナヤスリ属	－	－	1	－	－	3	－	－	－	－
ゼンマイ属	－	－	－	－	－	1	－	－	1	－
イノモトソウ属	－	3	15	1	2	5	－	－	2	2
サンショウモ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
他のシダ類胞子	2	5	41	5	16	56	1	10	31	4
合計										
木本花粉	5	2	1	2	1	13	0	2	170	8
草本花粉	10	9	4	32	4	44	1	3	501	2
不明花粉	0	0	3	0	0	4	0	0	0	0
シダ類胞子	2	8	57	7	19	67	1	10	34	6
総計（不明を除く）	17	19	62	41	24	124	2	15	705	16

スギ属・シイノキ属・エノキ属－ムクノキ属なども認められる。草本ではイネ科が多産し、ヨモギ属が次いで多く、カヤツリグサ科なども産出する。また、ガマ属・オモダカ属・スブタ属・ミズアオイ属・フサモ属などの水生植物や、栽培植物であるソバ属なども検出されている。

・第ⅡA区

本地区のいずれの試料からも、花粉化石はほとんど検出されなかった。

・第ⅢC区・D区

本地点の第ⅢC区は、第ⅢC－1～C－5区に分けられている。第ⅢC－1区の試料番号Ⅲ－9・－15・－20からは、花粉化石はあまり産出しなかった。試料番号Ⅲ－1・－10・－18の花粉化石群集は類似しており、木本花粉ではアカガシ亜属が最も多く産出する。その他ではコウヤマキ属・スギ属・コナラ属コナラ亜属・シイノキ属などが認められる。草本花粉はイネ科・ヨモギ属が多く、オモダカ属やミズアオイ属などの水生植物も認められる。

第ⅢC－2区～C－5区では、いずれの試料も花粉化石の産出状況は悪く、ほとんど検出されなかった。

第ⅢD区の試料番号Ⅲ－14では花粉化石の検出状況は良く、草本花粉の割合が高い。その半数以上をヨモギ属が占め、イネ科がそれに次いで産出する。その他にはカヤツリグサ科や、ミクリ属・オモダカ属・ミズアオイ属などが検出される。試料番号Ⅲ－8・－25では、花粉化石の産出状況は悪い。

（2）植物珪酸体分析

結果を表6、図4に示す。以下に、各試料の産状を述べる。

・西壁基本層序

5点は、いずれも風化鉱物粒が多い。また計数していないが、かなり溶解が進んだ個体が目立つ。

プレパラート2枚を検鏡した結果、総産出個数は50個前後と少ない。この中で、試料番号Ⅲ－15・Ⅲ－16・Ⅲ－18・Ⅲ－19からイネ属がわずかに認められる。また、栽培種を含むオオムギ族が試料番号Ⅲ－16・Ⅲ－17・Ⅲ－18・Ⅲ－19から検出されるが、検出された個体からは栽培種か否かの判別がつかない。

この他には、メダケ属、ヨシ属、コブナグサ属、ススキ属などが認められる。

・溝状遺構の炭層

溝状遺構SD687から採取された試料番号Ⅲ－20の総産出個数は、西壁の基本層序試料と同様に少ない。この中では、イネ属とオオムギ族の産出が目立つ。また、イネ属やオオムギ族、ススキ属の葉部や稈（茎部）の珪化組織片（灰像）、ヨシ属の稈の珪化組織片が認められる。

・炉の炭層

住居址SI603の試料番号Ⅲ－21では、ススキ属に由来する珪化組織片の産出が目立ち、特に短細胞珪酸体の産出率は60.2

表6　植物珪酸体分析結果

種類	第ⅢC-1区 西壁					SD687	第Ⅲ C-2区 SI603	第Ⅲ C-5区 SI619
試料番号	Ⅲ-19	Ⅲ-18	Ⅲ-17	Ⅲ-16	Ⅲ-15	Ⅲ-20	Ⅲ-21	Ⅲ-24
イネ科葉部短細胞珪酸体								
イネ属	8	3	－	1	9	12	12	73
マコモ属	2	－	－	－	－	6	－	7
メダケ属	7	4	6	22	7	3	12	7
ヤダケ属	－	－	－	－	－	1	－	－
ヨシ属	－	2	4	7	2	1	3	3
コブナグサ属	－	－	1	4	1	1	1	1
ススキ属	1	1	22	15	4	9	71	89
ジュズダマ属	－	－	－	－	－	－	1	－
オオムギ族	3	1	13	7	－	19	13	85
カラスムギ族	－	－	－	－	－	1	－	－
コヌカグサ族	2	－	3	1	－	－	－	4
ウシノケグサ族	1	－	3	3	－	1	5	－
不明	1	－	－	－	－	－	－	－
合計								
総計	25	11	52	60	23	54	118	269

%を占める。また、低率ながらイネ属、オオムギ族、メダケ属が産出し、ヨシ属、ウシノケグサ族、コブナグサ属、ジュズダマ属も認められる。

住居址SI619の試料番号Ⅲ－24では、イネ属、オオムギ族、ススキ属に由来する珪化組織片の産出が目立つ。ヨシ属は稈組織片の産出が目立ち、葉に由来する珪化組織片はわずかである。低率ながらメダケ属・マコモ属・コブナグサ属・コヌカグサ族も出現している。

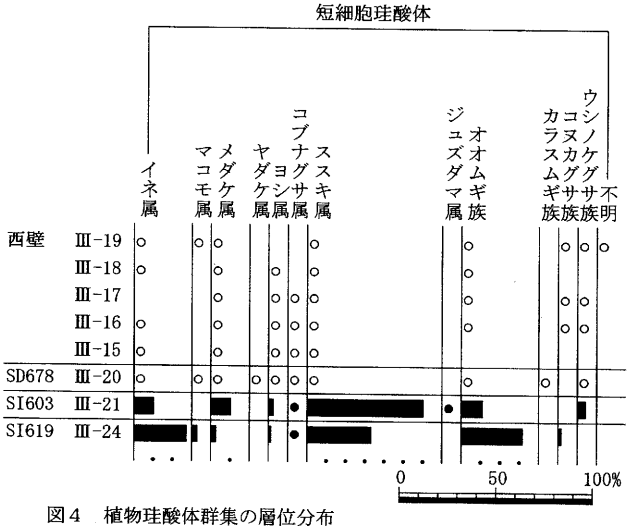


図4　植物珪酸体群集の層位分布
出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、●は1％未満の種類、○は100個未満の試料で検出された種類を示す。

3－3．考察

（1）低地の植生について

今回花粉分析を行った37点の試料のうち、30点は花粉化石・シダ類胞子の産出が少なく、古植生の推定を行うには不充分であった。花粉化石・シダ類胞子の産出状況が悪い場合、元々取り込まれる花粉量が少なかった、あるいは、取り込まれた花粉が消失した、という2つの可能性があげられる。一般的に花粉・シダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている（中村，1967；徳永・山内，1971）。また、本遺跡の立地条件からみると、分析試料の多くは旧紀ノ川の洪水による氾濫堆積物である可能性がある。このような堆積物は堆積速度が速いため、花粉が取り込まれにくい。また、一過性の洪水の場合、堆積後は水が引き、好気的な環境にさらされやすい。これらのことから、今回花粉が検出されなかった理由としては、全体的に花粉が取り込まれにくく、わずかに取り込まれた花粉・シダ類胞子も、その後の経年変化により分解・消失したためと考えられる。一方、植物珪酸体は、ⅢC区西壁の基本層序試料では少なく、かなり溶解が進んだ個体が目立ち、風化鉱物粒も多かった。花粉化石と同様に堆積速度が速く、堆積物中に微化石が取り込まれにくかったことや堆積後の風化作用の影響が窺える。

弥生時代後期とされる試料番号Ⅲ－14・－1・－18についてみると、いずれの試料も草本類が多く検出される。その多くはイネ科・ヨモギ属であることから、当時の遺跡周辺は、イネ科やヨモギ属などからなる比較的開けた草地的環境であったと推測される。また、ミクリ属・オモダカ属・ミズアオイ属などの水生植物も検出されたことから、湿地的環境も考えられる。一方、植物珪酸体でも、挺水植物のヨシ属や湿生植物のコブナグサ属、原野などに生育するススキ属などが確認されている、これらの植物が周辺に分布していた可能性があるが、当時の遺跡、あるいはその周囲に、これらの種が生育する湿地があったのか、もしくは氾濫時に堆積物と共に運ばれてきたかについては、調査地域の地形発達過程と合わせた評価が必要である。

中世とされる試料番号②－4・②－3・①－4・Ⅲ－10でも、イネ科・ヨモギ属が多産する。とくに、SD102内の溝覆土より採取された試料番号②－4・②－3・①－4では草本類の割合が高く、特にイネ科の産出する割合が高い。オモダカ属・ミズアオイ属・サンショウモなどの水生植物・水生シダ類も検出される。これらはしばしば水田や、それに伴う水路などにも認められる種群である。また、12世紀以降の堆積物からは栽培種であるソバ属が検出される。特に14世紀の試料番号①－4では、かなりの割合で認められる。ソバ属は虫媒花であり花粉生産量が少ないことから、調査地点の極近傍においてソバが生育していたことを示唆

する。

広域の植生を反映する木本類では、いずれの時代の試料も群集組成は類似している。主にアカガシ亜属を中心にマツ属・コウヤマキ属・スギ属・コナラ亜属・シイノキ属などが認められる。アカガシ亜属はシイノキ属などと共に、暖温帯性常緑広葉樹林（いわゆる照葉樹林）の主要構成要素である。このことから、弥生時代後期以降から中世にかけて、周辺山地には基本的にシイ類・カシ類を中心とした照葉樹林が形成されており、コウヤマキ属・スギ属などの針葉樹やコナラ亜属などの落葉樹がモザイク状に分布していたと推測される。なお、12世紀以降の試料番号②－４・②－３・①－４ではマツ属・エノキ属－ムクノキ属・イボタノキ属などが、やや多く産出するようになる。この花粉群の変化は周辺植生の変化を反映している可能性があるが、これらの試料が溝埋土から採取されていることから、局地的要素を強く反映している可能性も考えられる。

（２）栽培植物のイネ属の産状について

今回の調査地点では、栽培植物のイネ属が縄文時代晩期～弥生時代前・中期に形成された可能性があるベース土、弥生時代後期（Ⅴ－５）以降の第8層と第６層、中世とされる第5層からわずかに認められた。検出されたイネ属は本地点での栽培により土壌に混入したことも考えられるが、前述のように河川の影響も考えられ、紀ノ川流域の稲作地から流入した可能性も否定できない。ただし、後述するように弥生時代後期（Ⅴ－６・Ⅴ－５）以降の炉や溝に認められた炭層からはイネ属に由来する珪化組織片が検出されている。この点は、集落の周囲で稲作が行われていたことを間接的に示すと思われる。そのため、今回の結果を見る限り、弥生時代後期（Ⅴ－６・Ⅴ－５）以降で本地点を含む集落の周辺で稲作が行われていた可能性がある。

なお、縄文時代晩期～弥生時代前・中期に形成された可能性があるベース土からもイネ属が検出された点は、河川の影響を考慮すれば、積極的に本地点での稲作を支持するものとは言えない。しかし、本地域の稲作の展開を考える上で興味深く、今後、本遺跡周辺での当該期の堆積物について調査例を蓄積していくことが望まれる。

また、弥生時代後期（Ⅴ－５）以降の第８層と第６層、中世とされる第５層からはオオムギ族も検出された。栽培種に由来するものであれば、本地点を含む紀ノ川流域でのムギ栽培も想定される。

（３）燃料材としてのイネ科植物の利用について

弥生時代後期（Ⅴ－５）の溝状遺構SD687の炭層から検出された珪化組織片により、炭層内にイネ属、オオムギ族、ススキ属、ヨシ属の灰が混入していたことがうかがえる。炭層の形成過程は明確にされていないが、これらの植物が溝内で燃やされた、あるいは別な場所で燃やされた後の灰が溝内に投棄された可能性が考えられる。

また、弥生時代後期（Ⅴ－５古・Ⅴ－６）の住居址SI603の炉や住居址SI619の炉に見られた炭層でも、検出された珪化組織片の種類から、イネ属、オオムギ族、ススキ属、ヨシ属が燃料材のひとつであったと推定される。燃料材の調査例としては、時代・地域は異なるが、千葉県平賀遺跡の例がある。そこでは、奈良時代になるとタケ亜科に代わってイネ属・ススキ属が多く利用されている（大越，1985）。イネ属やオオムギ族は収穫後に容易に植物体が入手できる。また、ススキ属やヨシ属は人里付近に普通に見られる種類であり、日常的に入手可能と思われる。これらの遺跡では、人々が入手しやすいこれらの植物を燃料材のひとつとして利用していたのであろう。なお、炉の燃料材を検討する上では燃焼部の炭層や灰層を中心に採取し、周囲の土壌が混入しないように留意することが望まれる。

Ⅱ．遺構埋積物のリン・カルシウム分析

本遺跡のⅢNTA　C－1～4区では弥生時代後期末に使用されたとみられる土器、あるいは壷が出土している。考古学的には、これらが人骨埋納に用いられたものではないかと推測されているが、骨などは検出されず、確証は得られていない。そこで，出土した土器あるいは壷の中の土壌中に骨の主成分であるリン・カルシウムがどの程度含有されているかを分析し、人骨埋納の可能性などを検討することを目的として分析を行った。

1．試料

分析試料は各遺構から採取された土壌試料8点である。試料の詳細については結果とともに表7に示す。

2．分析方法

粉砕、篩別した試料について、過塩素酸分解をおこなった後、リンについてはバナドモリブデン酸法（注1）により全リン酸（T－P_2O_5）を、またカルシウムについては原子吸光光度法（注2）により全カルシウム（T－CaO）をそれぞれ測定した。分析の工程は以下のとおりである。

①試料は風乾、粉砕した後φ0.5㎜の篩を全通させて供試した。

②水分は、加熱減量法（注3）により測定した。

③試料の一定量を秤りとり、はじめに硝酸（HNO_3）により、つぎに過塩素酸（$HClO_4$）により加熱分解を行った。

④本分解液の一定量を採取し、発色液を加えて、比色法により全リン酸を測定した。

⑤また、別に分解液の一定量を採取し、干渉抑制剤を加えた後、原子吸光光度法により全カルシウムを測定した。

（注1）農水省農林水産技術会議事務局監修：土壌養分分析法（養賢堂）

（注2）日本土壌肥料学会監修：土壌標準分析・測定法（博友社）

（注3）京都大学農学部農芸化学教室編：農芸化学実験書第1巻（産業図書）

3．結果および考察

結果は、表7に示すとおりである。各遺構ごとに結果の概要を述べると、以下の通りである。

・SK142（試料番号1）

本試料はＳＫ142下部より採取されており、リン（1.27mg/ｇ）、カルシウム（3.95mg/ｇ）ともに低い値を示している。しかし、試料採取位置の断面図がなく、しかも分析試料が1点だけであるので、これらの値によって土坑内全体のリン、カルシウム含量を判断する

表7　西田井遺跡リン・カルシウム分析試料一覧および分析結果

試料番号	地区	遺構名	採取層準	採取日	T-P_2O_5 (mg/g)	T-CaO (mg/g)
1	ⅢNTA　C-1区	SK142	⑬下部の埋土	870216	1.27	3.95
2	ⅢNTA　C-2区	SK112	土器内埋土	861226	1.78	4.84
3	ⅢNTA　C-2区	SX101	土器B下の土	870119	1.11	4.15
4	ⅢNTA　C-2区	SX101	土器Aの方の覆土	870117	1.67	4.63
5	ⅢNTA　C-1区	SX05	遺構内埋土	861218	2.07	4.06
6	ⅢNTA　C-3区	SD1003	遺構内埋土	870209	1.60	4.45
7	ⅢNTA　C-4区	SK1047	壷内土壌	870303	2.38	4.82
8	ⅢNTA　C-4区	SK1047	壷外埋土	870303	1.56	3.84

※ リン・カルシウムの値は乾土1ｇ中のmgで示す。

のは難しい。

・SX05（試料番号５）

試料はSX05中より採取されたが、その詳細な採取位置は不明である。SK142（試料番号．１）の試料と比べるとリン（2.07mg/ｇ）では高く、カルシウム（4.06mg/ｇ）では差異のない値が認められる。

・SK112（試料番号２）

試料は、SK112内に埋められていた土器中の埋土１点であるが、今回の分析試料全体からみると、リン（1.78mg/ｇ）、カルシウム（4.84mg/ｇ）ともにやや高い値を示している。

しかし、この値がリン・カルシウム含量の高い内容物による影響か否かを判断するには，土器外あるいはその周辺の覆土の対比分析が必要であろう。

・SX101（試料番号３・４）

試料は、SX101より出土したＡ・Ｂ２つの土器内より各１点づつ採取されている。

土器Ａではリン（1.67mg/ｇ）、カルシウム（4.63mg/ｇ）ともに分析試料全体からみると、高い方の試料に分類されるが、試料番号2の試料よりもやや低い値を示している。

一方、土器Ｂではリン（1.11mg/ｇ）が分析試料中もっとも低い値を示し、カルシウム（4.15mg/ｇ）も相対的に低く、土器Ａ試料とはあきらかに差異が認められる。

したがって、土器Ａについては、リン・カルシウム含量の高い内容物の影響があったか否かの判断については、試料番号２同様に対比試料の分析が必要である。ただ、土器Ｂについては、その影響が低かったと考えられる。

・SD1003（試料番号６）

SD1003中より採取されたが、試料番号．５と同様に試料の詳細な採取位置は不明である。リン（1.60mg/ｇ）、カルシウム（4.45mg/ｇ）ともに試料番号．３（土器Ａ）の試料よりやや低い値を示している。

・SK1047（試料番号７・８）

試料は、SK1047壷の中（試料番号７）および外の埋土（試料番号８）から各１点づつ採取されている。壷の中の試料ではリン（2.38mg/ｇ）、カルシウム（4.82mg/ｇ）ともに高く、とくにリンについては、分析試料中もっとも高い値を示している。一方、壷の外の試料については、リン（1.56mg/ｇ）、カルシウム（3.84mg/ｇ）ともに比較的低い値を示し、壷の中の試料とあきらかに差異が認められる。

したがって、壷のなかの試料ではリン・カルシウム含量の高い内容物の影響が大きいと判断できる。

以上の結果から、SK1047の壷の中（試料番号７）についてはリン・カルシウム含量の高い（人骨など）ものを埋めた可能性が考えられる。ただ、リン・カルシウム含量の高い結果が必ずしも、人骨の埋納だけにみられるものではなく、他のリン・カルシウムの高いものが埋められたとしても高い結果がえられる場合がある。したがって、人骨の埋納を確証ずけるには、考古学的な立場からの検討がさらに必要であろう。

また、SK112（試料番号２）、SX101（試料番号３）では、分析試料全体からみるとやや高い含量が認められているが、リン・カルシウム含量の高い（人骨など）ものを埋めたか否かを考える場合には、土器などの埋められていた覆土などの対比となる試料のデータが必ず必要であろう。

リン・カルシウムともに、全般的に含量は一般の土壌より低い点からみて、人骨の埋納された可能性はきわめて小さいと思われる。

Ⅲ．出土土器の胎土分析

本分析は、土器胎土の特徴を客観的に捉え、同遺跡から出土した土器について時期・形態・部位等によって差異を見い出し得るかどうか検討することを目的とする。

1．試料

試料は、和歌山県西田井遺跡より出土した弥生式土器６点（試料番号１～６）、土師器12点（試料番号７～15・19～21）、瓦器椀６点（試料番号16～18・22～24）の計24点である。試料番号、時代、器種などを表８に示す。

2．分析方法

本分析は胎土の特徴を捉える方法として、まず胎土中の砂の重鉱物組成を求める。さらに重鉱物組成の検証と軽鉱物や粘土鉱物などを調べる意味で、Ｘ線回折分析を行った。両分析の試料処理過程および条件を以下に記す。

（１）重鉱物分析

土器片を鉄乳鉢を用いて粉砕し、水を加え超音波洗浄装置により分散、＃250の分析篩により水洗、粒径１／16㎜以下の粒子を除去する。乾燥の後篩別し、得られた１／４－１／８㎜の粒子をテトラブロモエタン（比重約2.96）により重液分離、重鉱物のプレパラート作製、偏光顕微鏡下にて同定した。同定の際、変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とした。

（２）Ｘ線回折

土器片はめのう乳鉢により粉砕し、粉末状にする。測定は、島津自記Ｘ線回折装置XD－３Ａ型を用い、Ｘ線管球、銅対陰極、フィルター、ニッケル、印加電圧－電流、30kv-30mA、スリット系：１°－0.3㎜－１°の条件で行った。走時速度は、２°／min、フルスケールは5000カウントとした。

3．分析結果

（１）重鉱物分析

鉱物の同定粒数は、250個を目標としたが、同定粒数が100個に満たない試料が試料番号17•20•24の３点あった。これらの試料は組成を正しく表していないと考えられるので、データとして他の試料とは同等には扱えない。したがって後述する試料のグループ分けからは除外した。また、250個を数えた試料も「その他」とした同定不能粒が多く、他の鉱物粒も新鮮な結晶はほとんどない。同定した鉱物の中では斜方輝石・単斜輝石・角閃石（普通角閃石）が比較的多く含まれ、その３者の量比

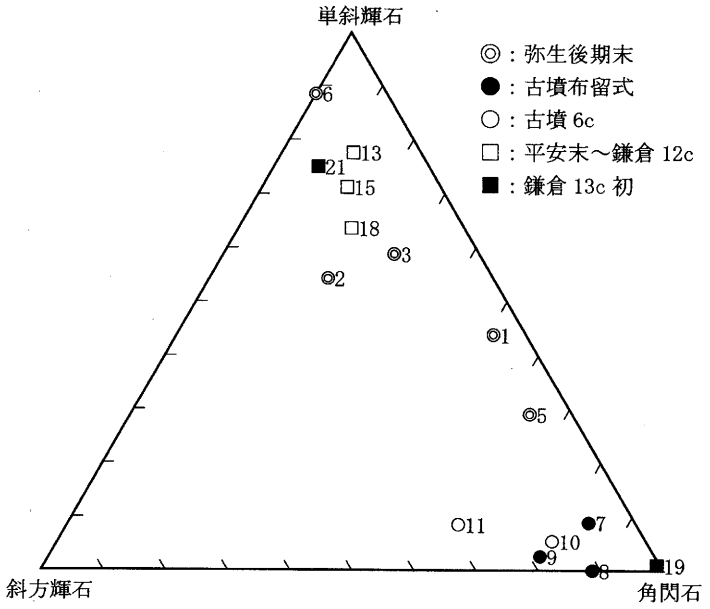
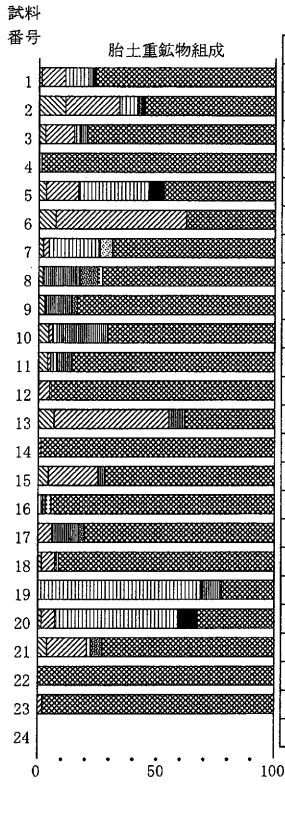


図６　斜方輝石－単斜輝石－角閃石三角ダイアグラム

表８　胎土重鉱物分析結果

試料番号	器種			時期	出土地区・遺構・層位	肉眼観察による砂粒組成	重鉱物組成													同定鉱物粒数
							カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	黒雲母 緑色	黒雲母 赤褐色	ジルコン	ザクロ石	リン灰石	電気石	不透明鉱物	その他	
1	弥生土器	壺	体部	弥生後期末	IINTA A-3区 SB200 柱穴17	M 片岩・長石 少量,S 長石・石英・チャート 少量,SS 長石・石英・チャート・赤色酸化粒 少量	0	3	25	24	5	1	1	0	1	0	0	3	188	251
2	弥生土器	壺	体部	弥生後期末	IINTA A-3区 SB200 NW区上層 860206	LL・L 赤色酸化粒 少量,M・S 長石・チャート 微量,SS 石英・長石 少量	0	28	57	20	0	3	3	0	0	0	0	4	138	253
3	弥生土器	高杯	体部	弥生後期末	IINTA A-3区 SB200 NW区上層 860206	L 赤色酸化粒 微量,M 長石 微量,SSS 石英・長石 極多量	0	7	30	6	8	1	1	2	0	0	0	0	196	251
4	弥生土器	壺	体部	弥生後期末	IIINTA C-3区 SD1001 No.1 870121	L・M・S 酸化粒 多量,L 片岩・長石 微量 S 片岩 少量,SS 長石・石英 多量	0	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	245	250
5	弥生土器	壺	体部	弥生後期末	IIINTA C-3区 SD1001 No.19-9 870203	LL・M 片岩 微量,M・S 長石 少量,SS 石英・チャート 少量	2	8	34	74	1	0	0	0	0	0	0	16	115	250
6	弥生土器	二重口縁壺	口縁部	弥生後期末	IIINTA C-3区 SD1001 南拡張 870116	L 片岩 微量,M 長石 少量,S・SS 長石・石英・チャート・金色微粒 多量	0	18	138	0	0	0	0	0	0	0	0	0	94	250
7	土師器	壺	頸部	古墳布留式	IINTA A-3区 SX12 フク土 860204	M 灰白色粒微量,S・SS 長石・赤色酸化鉄粒 微量	0	5	6	54	2	0	0	1	13	0	0	2	167	250
8	土師器	高杯	体部?	古墳布留式	IINTA A-3区 SX12 フク土 860204	M 石英・チャート・長石 多量,S 左同 少量,SS 左同 多量	0	5	0	2	37	18	18	5	2	0	0	0	172	259
9	土師器	高杯	体部?	古墳布留式	IINTA A-3区 SX12 周溝セクション 860312	L 長石・チャート・赤色酸化粒 少量,M 長石・チャート・石英 多量,S・SS 左同 多量	1	7	1	2	28	6	6	2	0	0	0	1	202	256
10	土師器	甕	体部	古墳6c	IINTA A-3区 SX11 第3層 860301	M チャート 微量,SS 石英・チャート 少量,SSS 左同 多量	1	11	4	7	51	2	2	0	1	0	0	0	173	252
11	土師器	甕	体部	古墳6c	IINTA A-3区 SX11 第3層 860301	L チャート・長石 中量,M 左同少量,S チャート・長石・石英 少量	0	10	3	6	16	0	0	0	0	0	0	0	215	250
12	土師器	高杯	脚台部	古墳6c	IINTA A-3区 SX11 第3層 860301	LL 赤色酸化粒 微量,M 左同・片岩 中量,SS・SSS 長石・石英 多量	0	0	12	0	1	0	0	0	0	0	0	0	237	250
13	土師器	大皿(ヘラ切り)	底部	平安末～鎌倉12c	IINTA 2次023 SD25 下層	S 石英 少量(器面全体にパラパラ),SS,S 赤色酸化粒(パラパラ)	0	17	121	1	17	2	2	0	1	0	1	0	90	252
14	土師器	小皿(ての字)	底部	平安末～鎌倉12c	IINTA 030 SD25	SSSの赤色酸化粒 微量,よく水簸されている	0	0	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	244	250
15	土師器	大皿(ヘラ切り)	底部	平安末～鎌倉12c	IINTA 2次021 SD25 上層	SSS・SS 赤色酸化粒 微量,SS やや黒っぽい砂粒(パラパラ),水簸度良	0	11	52	2	8	0	0	0	1	0	0	0	176	250
16	瓦器塊		底部	平安末～鎌倉12c	IINTA 037 SD25	水簸度良	0	1	0	5	1	3	3	6	0	0	0	2	232	253
17	瓦器塊		口縁部	平安末～鎌倉12c	IINTA 2次026 SD25	水簸度良	0	0	2	9	0	1	1	0	0	0	0	0	50	63
18	瓦器塊		体部～高台	平安末～鎌倉12c	IINTA 037 SD25	SS 赤色酸化粒 少量,SSS 銀色微粒子 多量	0	4	14	4	0	1	1	0	0	1	0	0	226	251
19	土師器	大皿	口縁～底部	鎌倉13c初	IINTA 040 SE01 中層	不明,よく水簸されている,底部未調整,板目圧痕	0	1	2	173	21	0	0	0	0	0	1	2	50	250
20	土師器	小皿	口縁～底部	鎌倉13c初	IINTA 040 SE01 中層	SSS,SS 赤色酸化鉄 少量,M 赤色酸化粒 微量,SSS 黒色粒子 微量,底部未調整	0	1	3	28	0	0	0	0	0	0	0	4	16	52
21	土師器	羽釜のツバ		鎌倉13c初	IINTA 2次005 SE01 中層	SS～M 長石・黒色砂粒・片岩粒器面全体に多量	0	10	42	4	0	12	12	0	0	0	1	0	181	262
22	瓦器塊		口縁～体部	鎌倉13c初	IINTA 2次009 SE01 下層	水簸度やや良好	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	250	250
23	瓦器塊		口縁～体部	鎌倉13c初	IINTA 2次009 SE01 下層	水簸度良好	0	0	5	1	0	0	0	0	1	0	0	0	243	250
24	瓦器塊		口縁～体部	鎌倉13c初	IINTA 040 SE01 中層	水簸度良好	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	88	89



	器種		時期	出土地区・遺構・層位			肉眼観察による砂粒組成
1	弥生土器	壺 体部	弥生後期末	IINTA A-3区	SB200 柱穴17		M 片岩・長石 少量,S 長石・石英・チャート 少量,SS 長石・石英・チャート・赤色酸化粒 少量
2	弥生土器	壺 体部	弥生後期末	IINTA A-3区	SB200 NW区上層	860206	LL-L 赤色酸化粒 少量,M-S 長石・チャート 微量,SS 石英・長石 少量
3	弥生土器	高杯 体部	弥生後期末	IINTA A-3区	SB200 NW区上層	860206	L 赤色酸化粒 微量,M 長石 微量,SSS 石英・長石 極多量
4	弥生土器	壺 体部	弥生後期末	IIINTA C-3区	SD1001 No.1	870121	L-M-S 酸化粒 多量,L 片岩・長石 微量 S 片岩 少量,SS 長石・石英 多量
5	弥生土器	壺 体部	弥生後期末	IIINTA C-3区	SD1001 No.19-9	870203	LL-M 片岩 微量,M-S 長石 少量,SS 石英・チャート 少量
6	弥生土器	二重口縁壺 口縁部	弥生後期末	IIINTA C-3区	SD1001 南拡張	870116	L 片岩 微量,M 長石 少量,S-SS 長石・石英・チャート・金色微粒 多量
7	土師器	壺 頸部	古墳布留式	IINTA A-3区	SX12 フク土	860204	M 灰白色粒微量,S-SS 長石・赤色酸化鉄粒 微量
8	土師器	高杯 体部?	古墳布留式	IINTA A-3区	SX12 フク土	860204	M 石英・チャート・長石 多量,S 左同 少量,SS 左同 多量
9	土師器	高杯 体部?	古墳布留式	IINTA A-3区	SX12 周溝セクション	860312	L 長石・チャート・赤色酸化粒 少量,M 長石・チャート・石英 多量,S-SS 左同 多量
10	土師器	甕 体部	古墳6c	IINTA A-3区	SX11 第3層	860301	M チャート 微量,SS 石英・チャート 少量,SSS 左同 多量
11	土師器	甕 体部	古墳6c	IINTA A-3区	SX11 第3層	860301	L チャート・長石 中量,M 左同少量,S チャート・長石・石英 少量
12	土師器	高杯 脚台部	古墳6c	IINTA A-3区	SX11 第3層	860301	LL 赤色酸化粒 微量,M 左同・片岩 中量,SS-SSS 長石・石英 多量
13	土師器	大皿(ヘラ切り)底部	平安末～鎌倉12c	IINTA 2次023	SD25 下層		S 石英 少量(器面全体にパラパラ),SS,S 赤色酸化粒(パラパラ)
14	土師器	小皿(ての字) 底部	平安末～鎌倉12c	IINTA 030	SD25		SSS の赤色酸化粒 微量, よく水簸されている
15	土師器	大皿(ヘラ切り)底部	平安末～鎌倉12c	IINTA 2次021	SD25 上層		SSS-SS 赤色酸化粒 微量,SS やや黒っぽい砂粒(パラパラ), 水簸度良
16	瓦器塊	底部	平安末～鎌倉12c	IINTA 037	SD25		水簸度良
17	瓦器塊	口縁部	平安末～鎌倉12c	IINTA 2次026	SD25		水簸度良
18	瓦器塊	体部～高台	平安末～鎌倉12c	IINTA 037	SD25		SS 赤色酸化粒 少量,SSS 銀色微粒子 多量
19	土師器	大皿 口縁～底部	鎌倉13c初	IINTA 040	SE01 中層		不明, よく水簸されている, 底部未調整, 板目圧痕
20	土師器	小皿 口縁～底部	鎌倉13c初	IINTA 040	SE01 中層		SSS,SS 赤色酸化鉄 少量,M 赤色酸化粒 微量,SSS 黒色粒子 微量, 底部未調整
21	土師器	羽釜のツバ	鎌倉13c初	IINTA 2次005	SE01 中層		SS～M 長石・黒色砂粒・片岩粒器面全体に多量
22	瓦器塊	口縁～体部	鎌倉13c初	IINTA 2次009	SE01 下層		水簸度やや良好
23	瓦器塊	口縁～体部	鎌倉13c初	IINTA 2次009	SE01 下層		水簸度良好
24	瓦器塊	口縁～体部	鎌倉13c初	IINTA 040	SE01 中層		水簸度良好

図5　西田井遺跡胎土分析試料重鉱物組成

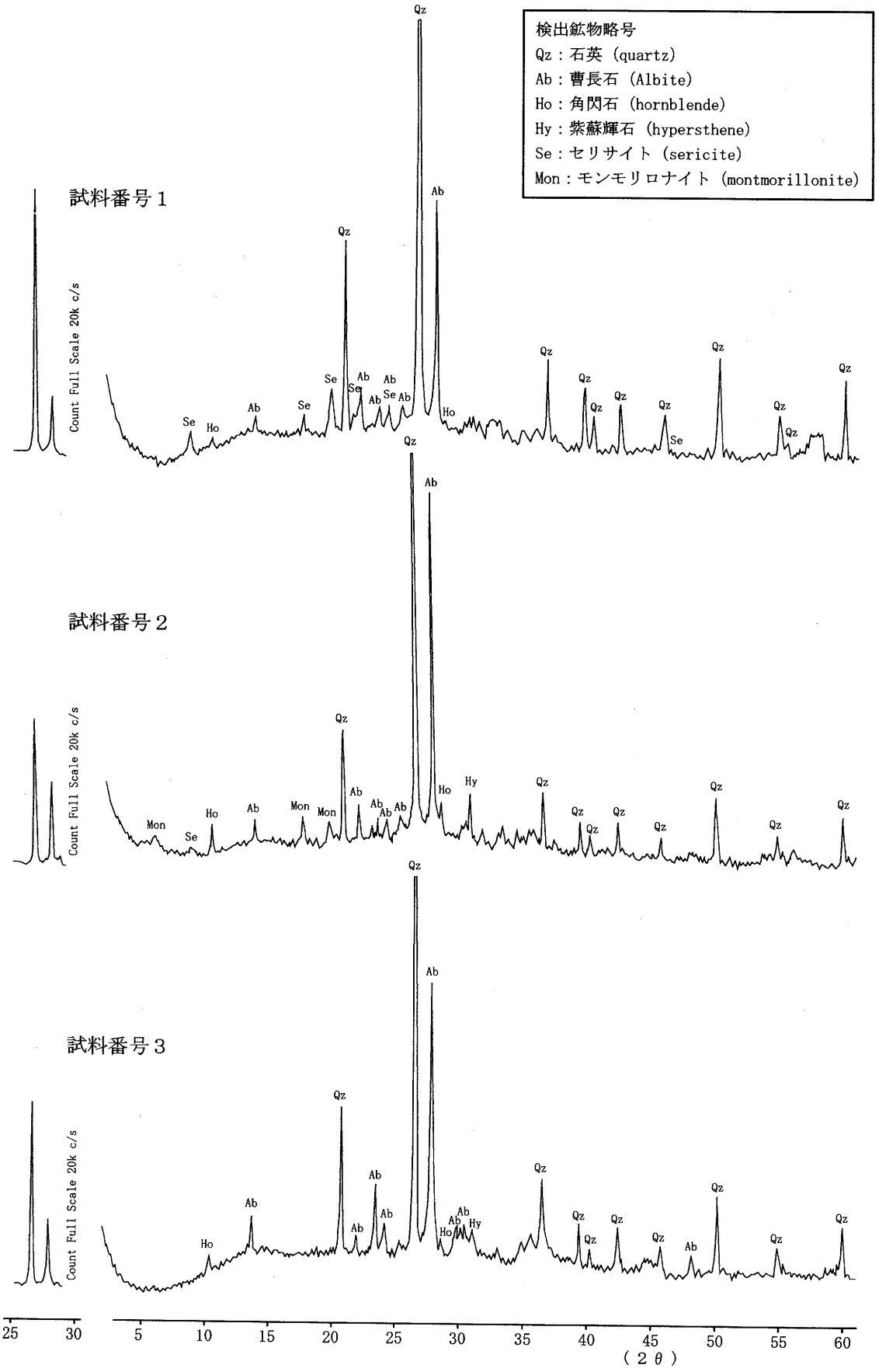

検出鉱物略号
Qz：石英（quartz）
Ab：曹長石（Albite）
Ho：角閃石（hornblende）
Hy：紫蘇輝石（hypersthene）
Se：セリサイト（sericite）
Mon：モンモリロナイト（montmorillonite）
試料番号１
試料番号２
試料番号３
Count Full Scale 20k c/s
25
30
5
10
15
20
25
30
35
40
45
50
55
60
（２θ）

図７　Ｘ線回折図（１）

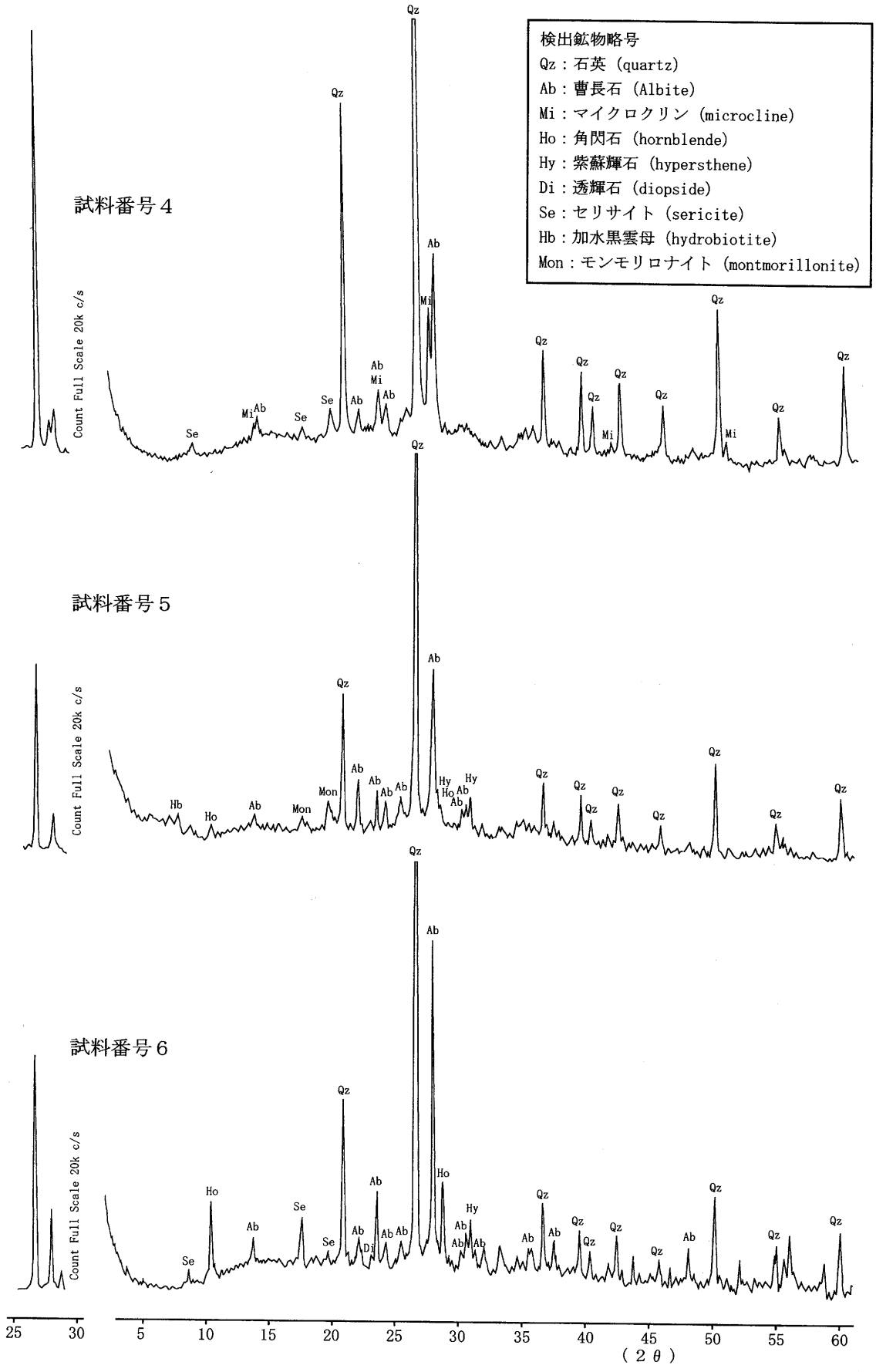

検出鉱物略号
Qz：石英（quartz）
Ab：曹長石（Albite）
Mi：マイクロクリン（microcline）
Ho：角閃石（hornblende）
Hy：紫蘇輝石（hypersthene）
Di：透輝石（diopside）
Se：セリサイト（sericite）
Hb：加水黒雲母（hydrobiotite）
Mon：モンモリロナイト（montmorillonite）
試料番号４
試料番号５
試料番号６
Count Full Scale 20k c/s
25
30
5
10
15
20
25
30
35
40
45
50
55
60
（２θ）

図７　X線回折図（２）

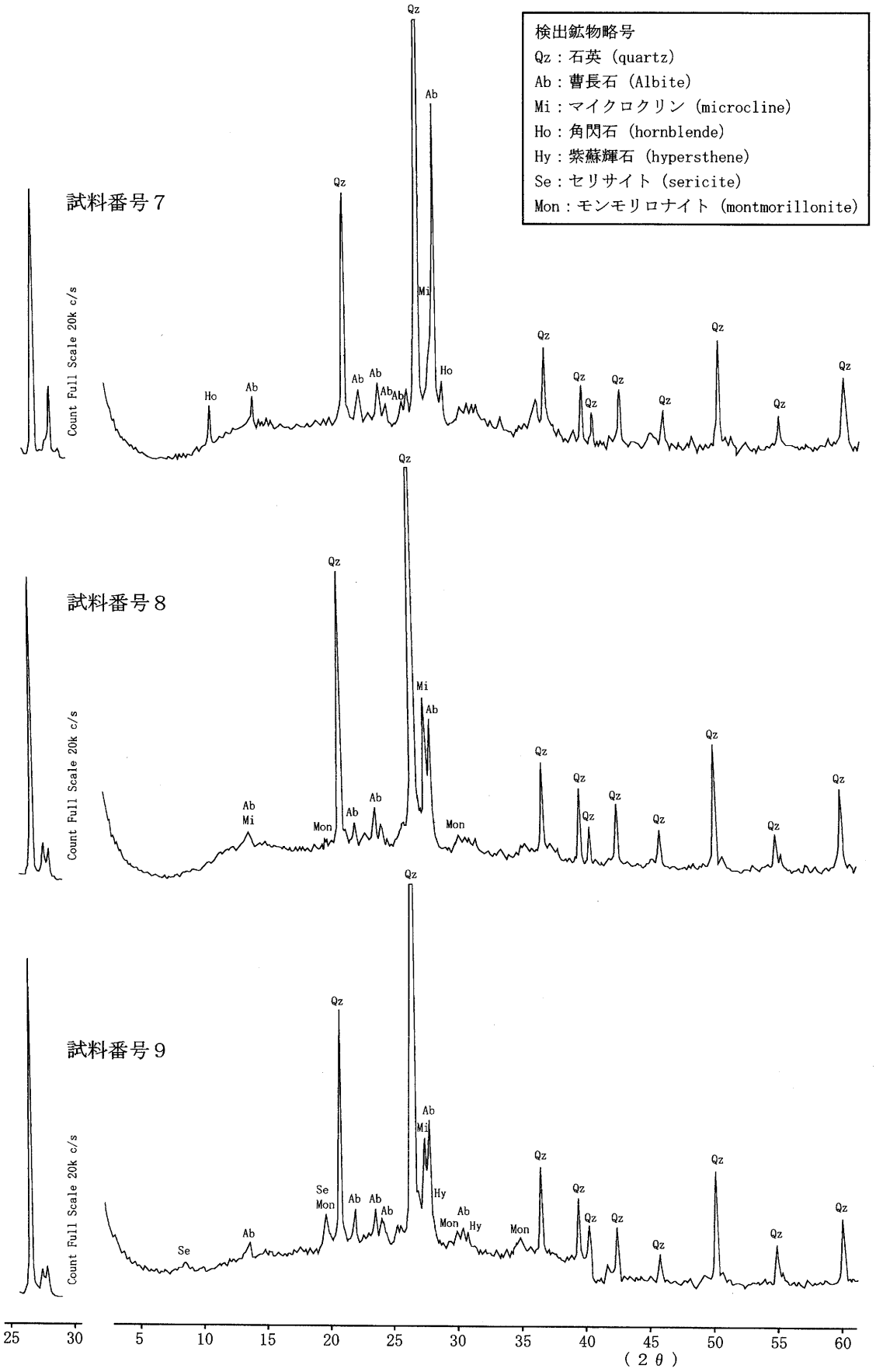

検出鉱物略号
Qz：石英（quartz）
Ab：曹長石（Albite）
Mi：マイクロクリン（microcline）
Ho：角閃石（hornblende）
Hy：紫蘇輝石（hypersthene）
Se：セリサイト（sericite）
Mon：モンモリロナイト（montmorillonite）
試料番号７
試料番号８
試料番号９
Count Full Scale 20k c/s
25 30 5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60
（２θ）

図７　Ｘ線回折図（３）

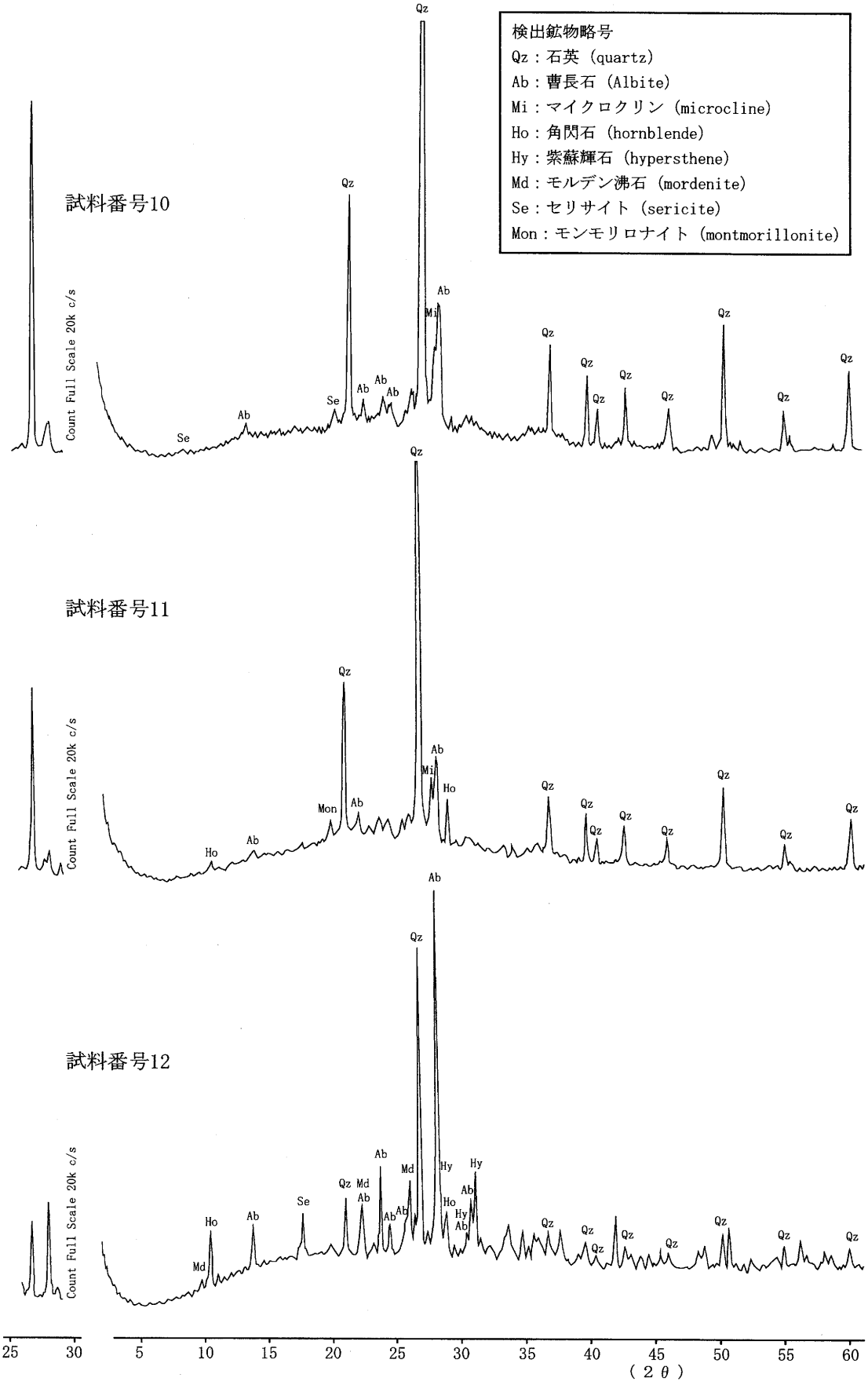

検出鉱物略号
Qz：石英（quartz）
Ab：曹長石（Albite）
Mi：マイクロクリン（microcline）
Ho：角閃石（hornblende）
Hy：紫蘇輝石（hypersthene）
Md：モルデン沸石（mordenite）
Se：セリサイト（sericite）
Mon：モンモリロナイト（montmorillonite）
試料番号10
試料番号11
試料番号12
Count Full Scale 20k c/s
25 30 5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60
（2θ）

図7　X線回折図（4）

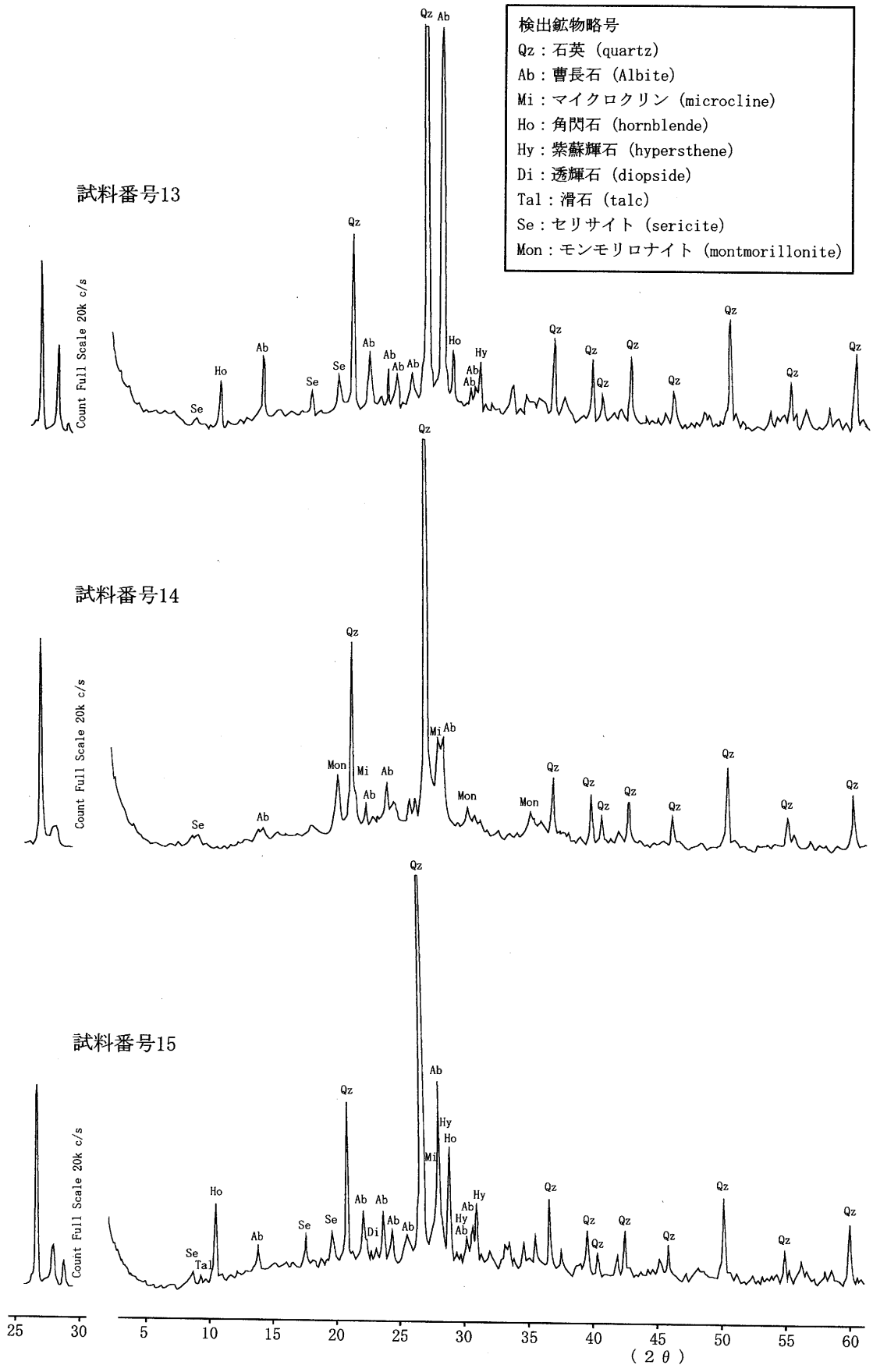

検出鉱物略号
Qz：石英（quartz）
Ab：曹長石（Albite）
Mi：マイクロクリン（microcline）
Ho：角閃石（hornblende）
Hy：紫蘇輝石（hypersthene）
Di：透輝石（diopside）
Tal：滑石（talc）
Se：セリサイト（sericite）
Mon：モンモリロナイト（montmorillonite）
試料番号13
試料番号14
試料番号15
Count Full Scale 20k c/s
25 30 5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60
（2θ）

図７　X線回折図（５）

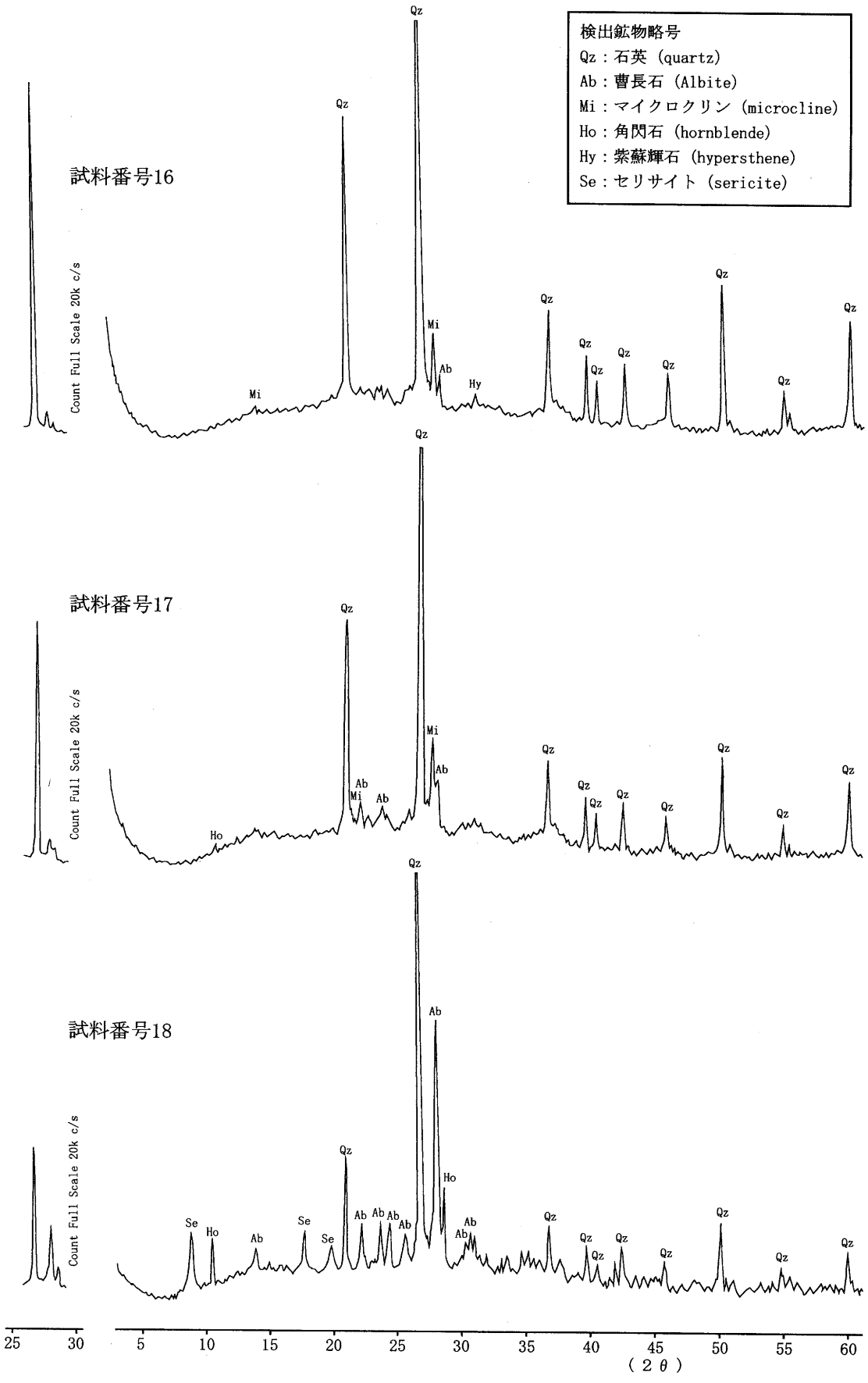

検出鉱物略号
Qz：石英（quartz）
Ab：曹長石（Albite）
Mi：マイクロクリン（microcline）
Ho：角閃石（hornblende）
Hy：紫蘇輝石（hypersthene）
Se：セリサイト（sericite）
試料番号16
試料番号17
試料番号18
Count Full Scale 20k c/s
Qz
Mi
Ab
Hy
Ho
Se
25
30
5
10
15
20
25
30
35
40
45
50
55
60
（２θ）

図７　X線回折図（６）

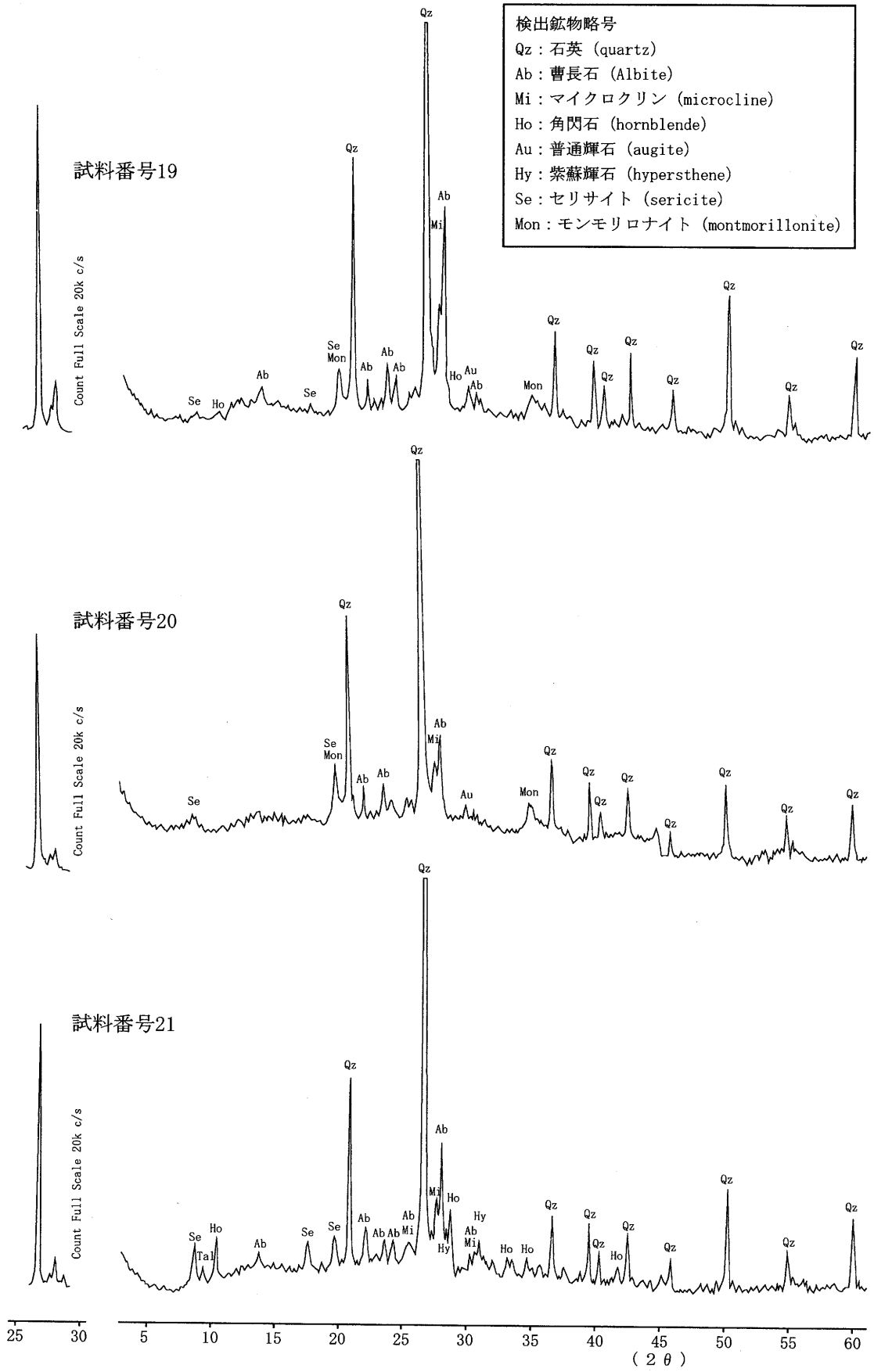

検出鉱物略号
Qz：石英（quartz）
Ab：曹長石（Albite）
Mi：マイクロクリン（microcline）
Ho：角閃石（hornblende）
Au：普通輝石（augite）
Hy：紫蘇輝石（hypersthene）
Se：セリサイト（sericite）
Mon：モンモリロナイト（montmorillonite）
試料番号19
試料番号20
試料番号21
Count Full Scale 20k c/s
Tal
25
30
5
10
15
20
25
30
35
40
45
50
55
60
（2θ）

図７　X線回折図（７）

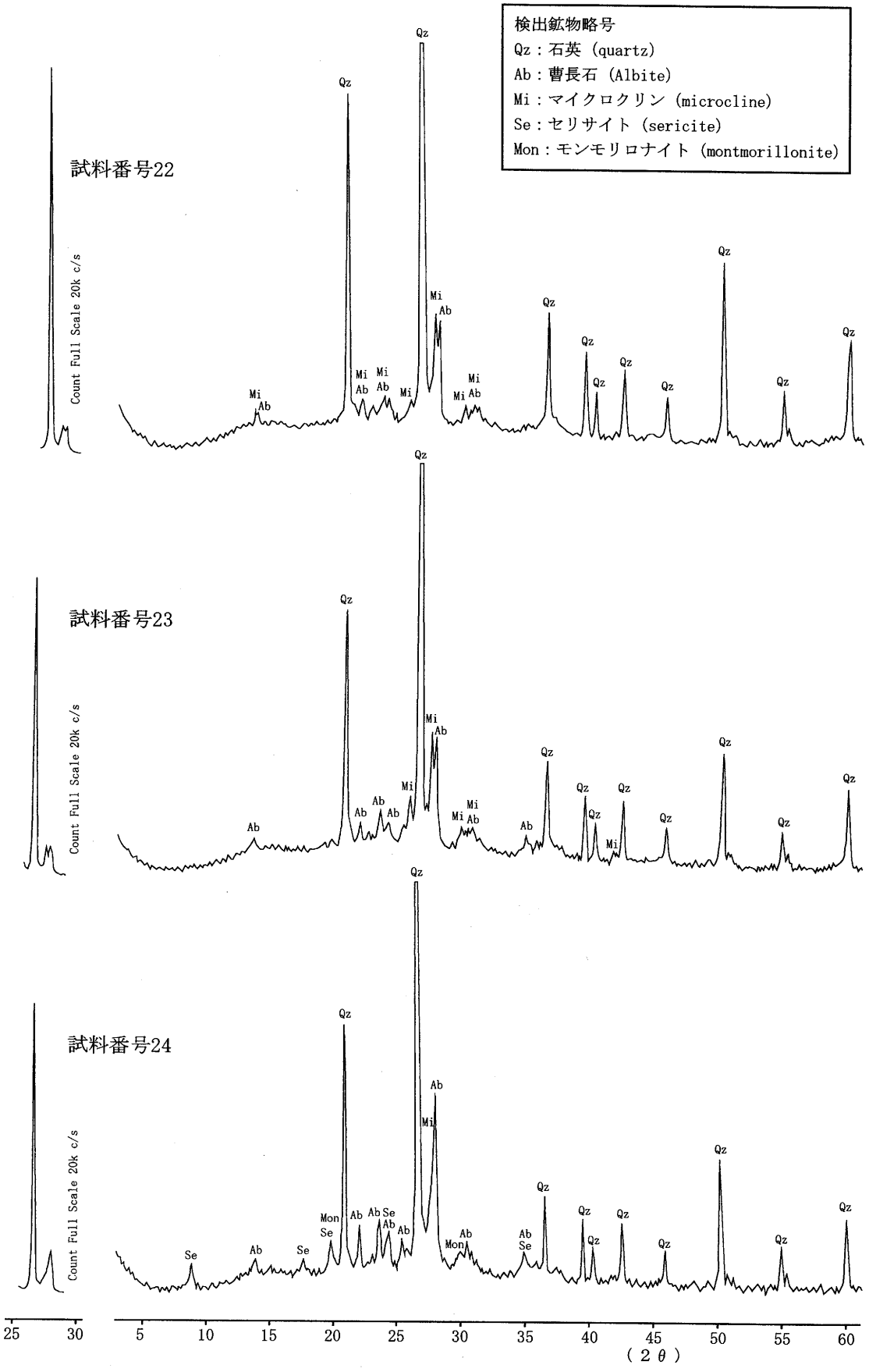

検出鉱物略号
Qz：石英（quartz）
Ab：曹長石（Albite）
Mi：マイクロクリン（microcline）
Se：セリサイト（sericite）
Mon：モンモリロナイト（montmorillonite）
試料番号22
試料番号23
試料番号24
Count Full Scale 20k c/s
25 30 5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60
（2θ）

図7　X線回折図（8）

は試料により異なる。各試料の重鉱物組成は、表８、図５・６に示す。

（２）Ｘ線回折

測定結果を図７に示す。

ａ）全体的な傾向

①全般に石英と斜長石（曹長石）を主成分とする。長石が多く含まれる事から、原土はあまり風化の進んでいない岩屑を多く含んでいたと推察される。

②多くの胎土はマイクロクリン（微斜長石）を伴う。とくにマイクロクリンが多い胎土は、試料番号３・８・９である。石英・曹長石・マイクロクリンの構成比率は、試料によって異なっている。このことは原料の不均質性を示しているが、産地が異なるか否かは不明である。

③本遺跡土器胎土には角閃石、輝石類が含有されている。含有比は一定せず、原土の不均質性を示すと考えられる。一般に、風化が十分に進んだ原土の場合は角閃石や輝石はクロライトなどの粘土鉱物に変質するのが通常である。このことから、当該鉱物は岩石片あるいは鉱物粒として原土に混入していると思われる。

④粘土鉱物はセリサイトが多く含まれ、モンモリロナイトが伴われていたと思われるが、焼成の影響を受け、検出されるＸ線回折ピークは低くなっている（一般にセリサイト（またはイライト）は加熱により100～150℃で吸着水を放出し、520～580℃で構造OHを放出する。モンモリロナイトも同様で、100～300℃で層間水と吸着水を放出し、500～780℃で構造OHを放出する）。

⑤その他の鉱物として、試料番号15および21に少量のタルクが、試料番号12にモルデンふっ石が検出される。これらの鉱物は、粘土産地の後背地の地質を反映すると考えられる。

ｂ）時代・器種等による相違

①Ｘ線回折試験でみる限り、明瞭な特徴はみられない。

②試料番号12は他の試料と比較すると曹長石が石英より多く、また、モルデンふっ石が含有されている特徴がある。原土に含まれる岩片の質の相違を反映しているが、原土が不均質である場合にはＸ線試料のサンプリングが問題となる。

③以上に述べた事象は、試料が十分量確保されている場合には、薄片を作製し、顕微鏡観察により、含有岩片の岩種や鉱物粒の性質などを明かにすることが可能であり、その特徴を一層明確にすることができると期待される。

４．考察

４－１．重鉱物組成による試料のグループ分け

（１）「その他」について

本分析における試料全体の特徴としてまずあげられることは、「その他」が非常に多いことである。この「その他」とした粒は、鏡下では不透明で不定形・塊状を呈し、斜め上方からの落射光下では、赤褐色の褐鉄鉱様のものや暗灰褐色のものなどが認められる。このような粒は、自然堆積物中にはほとんどみられないことから、おそらく土器の焼成により生成されたものと考えられる。したがって焼成前の砂の重鉱物組成を考える場合には、「その他」を除くことが適当であると考える。

（２）三角ダイアグラムによる分類

結果の項で述べたように、本分析の試料は「その他」を除けば、斜方輝石・単斜輝石・角閃石の３つの鉱

物が多く、しかもその量比は試料により様々である。したがって、まずこれら3鉱物の量比の差から試料の分類を試みた。分類の方法として、これら3鉱物の三角ダイアグラムを用いた。ここで、試料番号8～11などに比較的多い酸化角閃石は、普通角閃石が焼成により高温酸化して生成した可能性が考えられるため、角閃石として一まとめに扱う。また、3つの鉱物の量比が非常に少ない試料番号4・12・14・16・22・23の6点はダイアグラムには載せない。三角ダイアグラムを図30に示す。

図6より、単斜輝石の多い試料番号2・3・13・15・18・21と角閃石の多い試料番号5・7・8・9・10・11の二つの大きなグループと、両グループの中間的な組成である試料番号1、両輝石をほとんど含まない試料番号19の単独グループに分かれる。角閃石の多いグループのうち試料番号5は斜方輝石より単斜輝石の方が多く、試料番号7は両輝石がほぼ同量、他の試料は単斜輝石より斜方輝石の方が多い。

（3）3つの鉱物以外の鉱物も考慮した分類

試料番号7はザクロ石が比較的多く、試料番号8・9は共に黒雲母とジルコンを少量含むという特徴が認められる。

以上の事と三角ダイアグラムによる分類から次のような分類をすることができる。

Iグループ：斜方輝石より単斜輝石の方が多く、その両輝石を合わせた量比が最も多い。次の2つの小グループに分けることができる。

- I－1グループ（試料番号6）

  角閃石がほとんど含まれない。

- I－2グループ（試料番号2・3・13・15・18・21）

  角閃石を少量含む。

IIグループ：斜方輝石より単斜輝石の方が多いが、Iグループに比べて角閃石の量比が多い。次の2つの小グループに分かれる。

- II－1グループ（試料番号1）

  両輝石と角閃石の量比がほぼ同じ。

- II－2グループ（試料番号5）

  両輝石より角閃石の方が多い。

IIIグループ（試料番号7）：斜方輝石と単斜輝石の量比がほぼ同じで、両輝石より角閃石の方が多く、少量のザクロ石を含む。

IVグループ：斜方輝石の方が単斜輝石より多く、さらに両輝石より角閃石の方が多い。また角閃石は酸化角閃石が多い。次の2つの小グループに分かれる。

- IV－1（試料番号10・11）

  IVグループの標準的な組成。

- IV－2（試料番号8・9）

  少量の黒雲母とジルコンを含む。

Vグループ（試料番号19）：角閃石の量比が非常に多い。

VIグループ（試料番号4・12・14・16・22・23）：「その他」が非常に多い。

4－2．重鉱物分析とX線回折結果の比較

上記の重鉱物分析による分類とX線回折分析の結果との共通点と相違点を検討した。

Ⅰグループ

試料番号3の1点を除き、すべて角閃石と斜方輝石が副成分として検出される。マイクロクリンとセリサイトについては、検出される試料とされない試料とがある。

Ⅱグループ

2点の試料とも角閃石が副成分として検出されるが、試料番号1は角閃石の他にセリサイトが副成分として検出され、試料番号．5は斜方輝石・モンモリロナイトが副成分として検出されるという違いがみられる。

Ⅲグループ

マイクロクリン・角閃石が副成分として検出される。Ⅲグループは試料番号7のみであるが、X線回折においても他の試料の中に似た傾向のものはみられない。

Ⅳグループ

マイクロクリンが多く、または副成分として検出される。4点のうち試料番号10を除く3点からモンモリロナイトが微量検出された。角閃石・斜方輝石・セリサイトについては、検出される試料とされない試料とがある。

Ⅴグループ

マイクロクリン・単斜輝石・モンモリロナイトが副成分として検出され、角閃石・セリサイトが微量検出される。Ⅴグループは試料番号19のみであるが、X線回折では試料番号20も似た傾向を示す。

Ⅵグループ

重鉱物組成では区別ができなかったので1つのグループにしたが、X線回折ではグループ内の試料に次のような差異が認められる。

試料番号4は角閃石・斜方輝石・単斜輝石が副成分として検出され、モンモリロナイトが微量検出される。試料番号12は角閃石・斜方輝石が副成分として検出され、傾向としてⅠグループの試料に似る。試料番号14は、マイクロクリン・モンモリロナイト・セリサイトが副成分として検出される。試料番号16・22・23は、マイクロクリンが副成分として検出される。このうち、試料番号16は斜方輝石が微量検出される。

重鉱物同定粒数が250個に満たなかった試料

試料番号17はマイクロクリン・角閃石が副成分として検出され、Ⅲグループの試料番号11に類似する。試料番号20は前述の通りⅤグループの試料番号．19に類似する。試料番号．24はセリサイトのみが副成分として検出され、他にモンモリロナイトが微量検出される。試料番号24と似た傾向を示す試料は認められない。

以上述べた通り、重鉱物分析による分類とX線回折結果とは完全に一致することはないが、大きく異なることもない。両者が一致しない原因としては主に胎土の不均質性と分析対象の違いという2つのことが考えられる。胎土の不均質性とは、1個体の土器の中で必ずしも岩片や斑晶が均一に含まれているとは限らないということである。つまりそれぞれの分析における試料は非常に近い部分を使ってはいるが、それぞれの試料における重鉱物斑晶などの含まれる割合には差があり、たまたま多く存在する鉱物が特に強調されてしまう場合も考えられる。また、分析対象の違いとは、重鉱物分析が胎土中の粒径1／4～1／8㎜の砂分のみを対象としているのに対し、X線回折の対象は粒径にはほとんど関係ないということである。したがって、土器の素地をつくる段階で、素地の主体となる粘土に同じものを使い、異なる種類の砂を混ぜた場合には、両分析の結果は一致しないと考えられる。今後は、同一個体の試料を多数分析することなどの検討も必要といえる。

4－3．胎土の類型化

前項で述べた通り、重鉱物分析とX線回折分析との間には大きな結果の違いはないので、試料の分類も基本的には上述の4－2項の通りである。しかし、重鉱物分析だけでは分類が不十分であったVグループや、同定粒数250個未満の試料についてはX線回折結果から、以下のような分類の変更がある。

Iグループ：I－3として試料番号12を加える。

IIおよびIIIグループ：変更なし。

IVグループ：IV－3として試料番号17を加える。

Vグループ：V－2として試料番号20を加える。

VIグループ：次の3つの小グループに分けることができる。

- VI－1（試料番号4）
- VI－2（試料番号14）
- VI－3（試料番号16・22・23）

VIIグループ：試料番号24を新たにVIIグループとする。

4－4．胎土と土器の時期および器種の関係について

4－1項と4－3項で分類した胎土のグループと試料の時期・器種との対応関係を以下に述べる。

①弥生式土器（弥生時代後期末）

全6点のうち試料番号．4を除く5点はIグループに属し、ほぼ似た胎土である。試料番号4はVIグループに属し、他の弥生式土器とは異質である。器種との関係は特に認められない。

②土師器（古墳時代　布留式）

3点のうち、試料番号8・9はIVグループに属し良く似た胎土であるが、試料番号7はIIIグループに属し、やや異質である。

③土師器（古墳時代　6世紀）

3点のうち試料番号10・11の2点はIVグループに属し良く似た胎土であるが、試料番号12はIグループに属しやや異質である。

古墳時代の土師器では、器種と胎土との間には次のような対応関係が認められる。すなわち、②では同一グループの2点が高杯であるのに対し、他の1点は壷であり、③では同一グループの2点が甕であるのに対し、他の1点は高杯である。

④土師器（平安時代末～鎌倉時代12世紀）

3点のうち試料番号13・15の2点はI－2グループに属し、良く似た胎土であるが、試料番号14は2グループに属し異質である。器種と胎土の関係では、同一グループの2点が大皿であるのに対し、試料番号14は小皿であるという対応を認めることができる。

⑤土師器（鎌倉時代13世紀初）

3点のうち試料番号19・20の2点はIVグループに属し良く似た胎土であるが、試料番号21はI－2グループに属し異質である。器種と胎土の関係では、同一グループの2点が皿であるのに対し、試料番号21は羽釜であるという対応を認めることができる。

⑥瓦器椀（平安時代末～鎌倉時代12世紀）

重鉱物組成では3点とも「その他」が非常に多いことが共通する。しかし、グループわけでは試料番号

16はVI、試料番号17はIV、試料番号18はIの各グループに属し、胎土の異質性が認められる。

⑦瓦器椀（鎌倉時代13世紀初）

重鉱物組成では3点とも「その他」が非常に多いことが共通する。しかし、グループわけでは、試料番号22・23はVIグループに属し胎土の共通性を認めることができるが、試料番号．24はVIIグループに属し異質である。また、⑥の試料番号．16は試料番号．22・23と同一グループに属する。

以上の状況からみた限りでは、弥生式土器と土師器においては、時代ごとに胎土の特徴があり、特に土師器には器種と胎土との間にも関係のあることが窺える。一方、瓦器椀については、上記2者ほどの関係を認めることはできない。

4－5．遺跡周辺地域の地質学的背景と胎土の重鉱物組成について

本報告における重鉱物分析の対象となった胎土中の重鉱物は、その多くが風化の影響を受けており新鮮で自形を呈する粒は鏡下ではほとんど認められなかったことから、岩石の風化砕屑物に由来すると考えられる。

本遺跡の位置する和歌山平野の周辺には、紀ノ川を挟んで北側には中世代白亜紀後期の主として砂岩・礫岩・泥岩より成る和泉層群が分布し、南側には中生代の変成作用により生じた結晶片岩より成る三波川変成帯とその中に点在する超塩基性岩体などが分布する。これらの岩石の風化砕屑物が多く含まれていると考えられる場所の河川砂や粘土層中の砂の重鉱物組成を調べ、土器の重鉱物組成と比較することにより、土器の現地性の可能性を考えることができる。

今後、本遺跡の他の土器および周辺の他の遺跡の土器の分析と上記の土器の現地性の推定を進めることができれば、和歌山平野一帯における土器胎土の時代的変遷、遺跡あるいは地域特有の胎土の有無および器種と胎土との関係の有無などを明らかにすることが可能であると考える。さらに、これらの事項を組み合わせて考えることにより、土器の移動・製作等の考古学的問題の解明に役立つことが期待される。

引用文献

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42，p.73-88.

伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用．珪藻学会誌，6，p.23-45.

Krammer, K.（1992）PINNULARIA, eine Mo試料番号graphie der europaischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA, BAND 26, p.1-353., BERLIN・STUTTGART.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.（1986）Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.（1988）Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.（1991a）Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eu 試料番号 tiaceae. Band 2/3 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag.

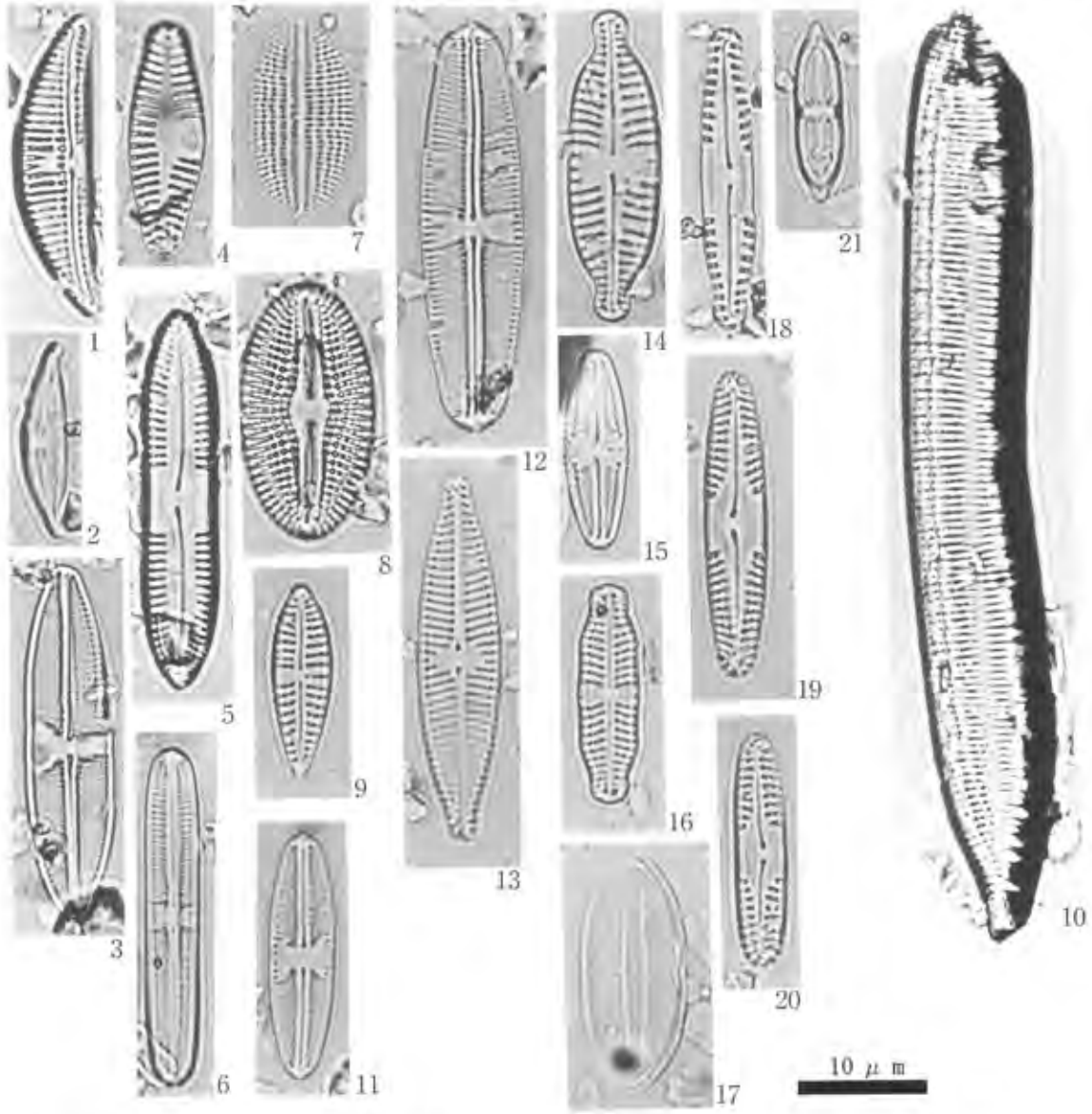
Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.（1991b）Bacillariophyceae, Teil 4, Achnanthaceae, Kritsche Ergaenzungen zu Navicula（Lineolatae）und Gomphonema. Band 2/4 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.

中村　純（1967）花粉分析．232p.，古今書院．

大越昌子（1985）プラント・オパール分析．平賀遺跡群発掘調査報告書，p.803～815，平賀遺跡発掘調査会．

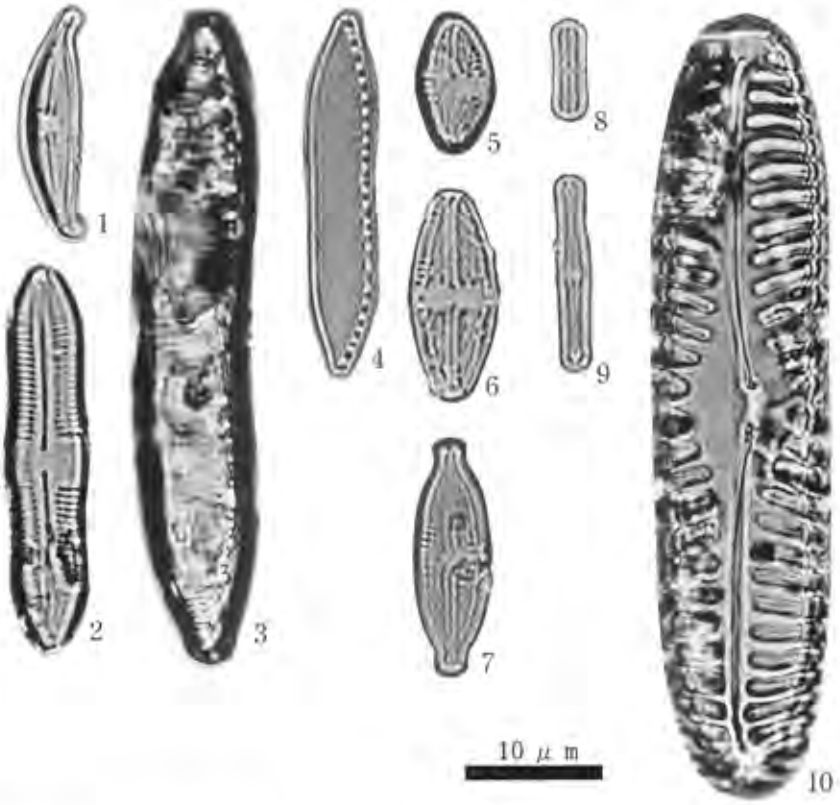
徳永重元・山内輝子（1971）花粉・胞子．「化石の研究法」，p.50-73，共立出版株式会社．

Watanabe, T., Asai, K., Houki, A., Tanaka, S.and Hizuka, T.（1986）Saprophilous and Eurysaprobic Diatom Taxa to Organic Water Pollution and Diatom Assemblage Index（DAIpo）. Diatom, 2, p.23-73.

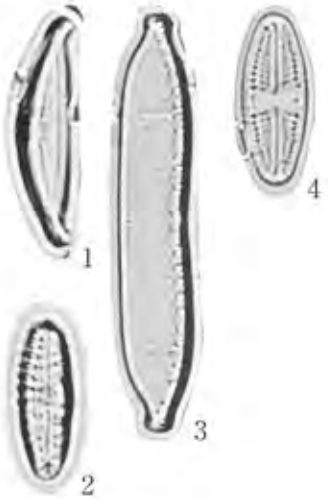


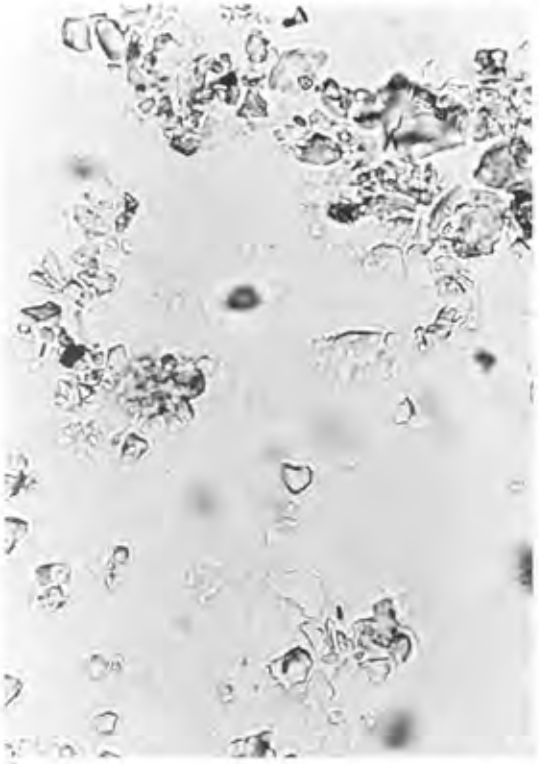
1. *Amphora affinis* Kuetzing (SD450 ; II-7)
2. *Amphora montana* Krasske (SD450 ; II-7)
3. *Achnanthes hungarica* Grunow (SD450 ; II-7)
4. *Achnanthes lanceolata* (Breb.)Grunow (SD450 ; II-7)
5. *Pinnularia schroederii* (Hust.)Krammer (SD450 ; II-7)
6. *Caloneis bacillum* (Grun.)Cleve (SD450 ; II-7)
7. *Cocconeis placentula* var. *euglypta* (Ehr.)Cleve (SD450 ; II-7)
8. *Diploneis ovalis* (Hilse)Cleve (SD450 ; II-7)
9. *Gomphonema parvulum* Kuetzing (SD450 ; II-7)
10. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.)Grunow (SD450 ; II-7)
11. *Sellaphora pupula* (Kuetz.)Mereschkowsky (SD450 ; II-7)
12. *Sellaphora pupula* (Kuetz.)Mereschkowsky (SD450 ; II-7)
13. *Navicula cryptocephala* Kuetzing (SD450 ; II-7)
14. *Navicula anglica* Ralfs (SD450 ; II-7)
15. *Navicula mutica* Kuetzing (SD450 ; II-7)
16. *Navicula ignota* Krasske (SD450 ; II-7)
17. *Nitzschia debilis* (Arnott)Grunow (SD450 ; II-7)
18. *Pinnularia subcapitata* Gregory (SD450 ; II-7)
19. *Pinnularia subcapitata* var. *paucistriata* (Grun.)Cl. (SD450 ; II-7)
20. *Pinnularia intermedia* (Largerst.)Cleve (SD450 ; II-7)
21. *Stauroneis tenera* Hustedt (SD450 ; II-7)

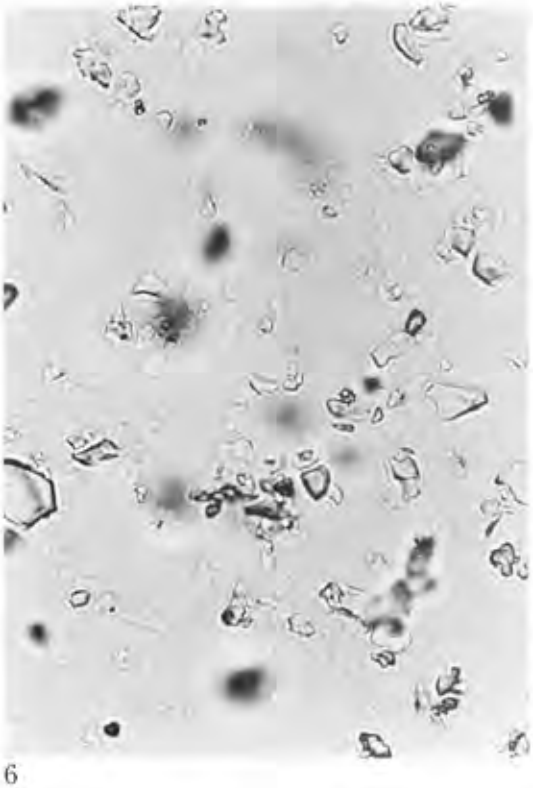
図版２　珪藻化石（２）

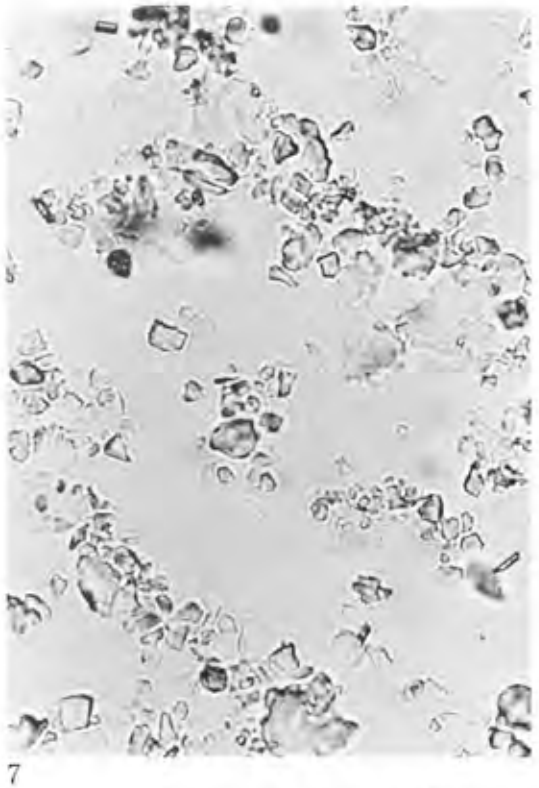


1．*Amphora montana* Krasske (SD681；Ⅲ-11)
2．*Caloneis silicula* (Ehr.)Cleve (SD755；Ⅲ-13)
3．*Hantzschia amphioxys* (Ehr.)Grunow (SD755；Ⅲ-13)
4．*Nitzschia brevissima* Grunow (SD681；Ⅲ-11)
5．*Navicula mutica* Kuetzing (SD755；Ⅲ-13)
6．*Navicula mutica* Kuetzing (SD681；Ⅲ-11)
7．*Navicula* sp. (SD755；Ⅲ-13)
8．*Navicula contenta* Grunow (SD681；Ⅲ-11)
9．*Navicula brekkaensis* Petersen (SD681；Ⅲ-11)
10．*Pinnularia borealis* Ehrenberg (SD681；Ⅲ-11)




5

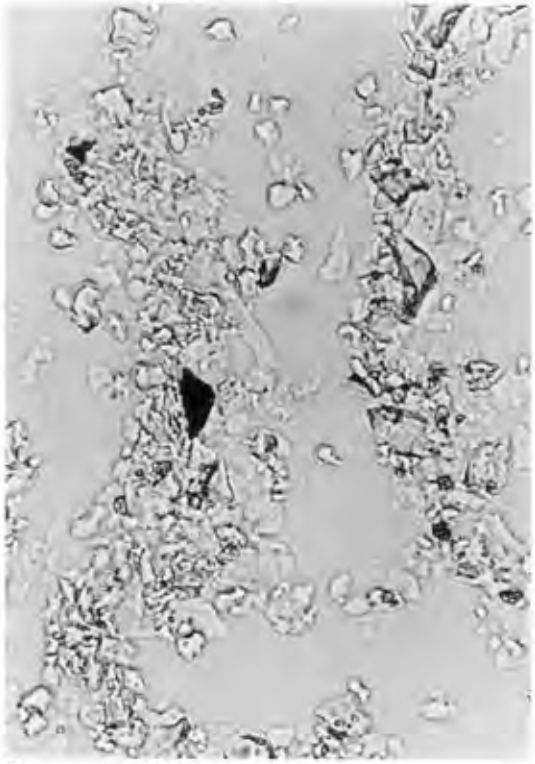

6


7

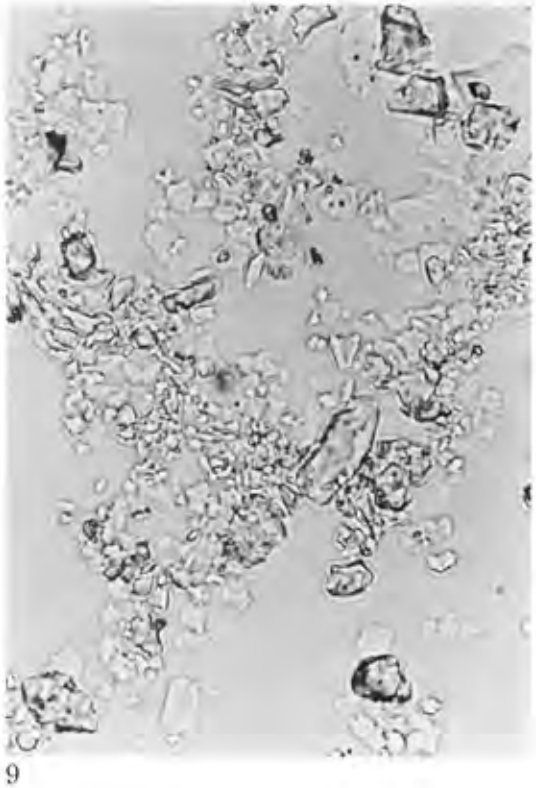
10 μm　10 μm
(1-4)　(5-7)

1. *Amphora montana* Krasske (SE872 ; Ⅲ-23)
2. *Cymbella sinuata* Gregory (SE872 ; Ⅲ-23)
3. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.)Grunow (SE872 ; Ⅲ-23)
4. *Navicula mutica* Kuetzing (SE872 ; Ⅲ-23)
5. 状況写真（西壁 ; Ⅲ-15）
6. 状況写真（西壁 ; Ⅲ-18）
7. 状況写真（SD687 ; Ⅲ-20）

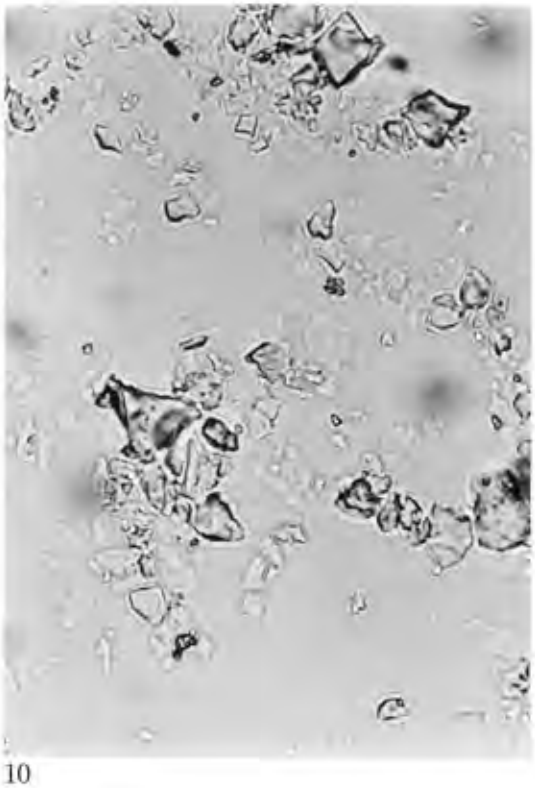
図版4　珪藻化石（4）



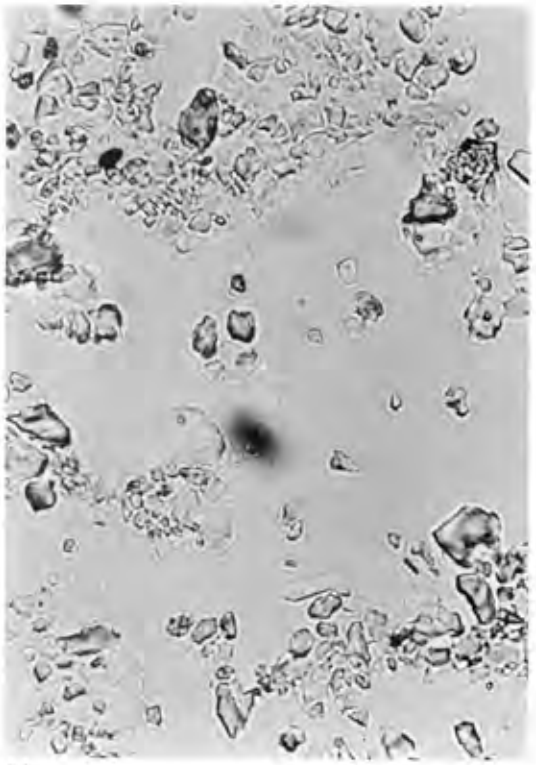
8



9



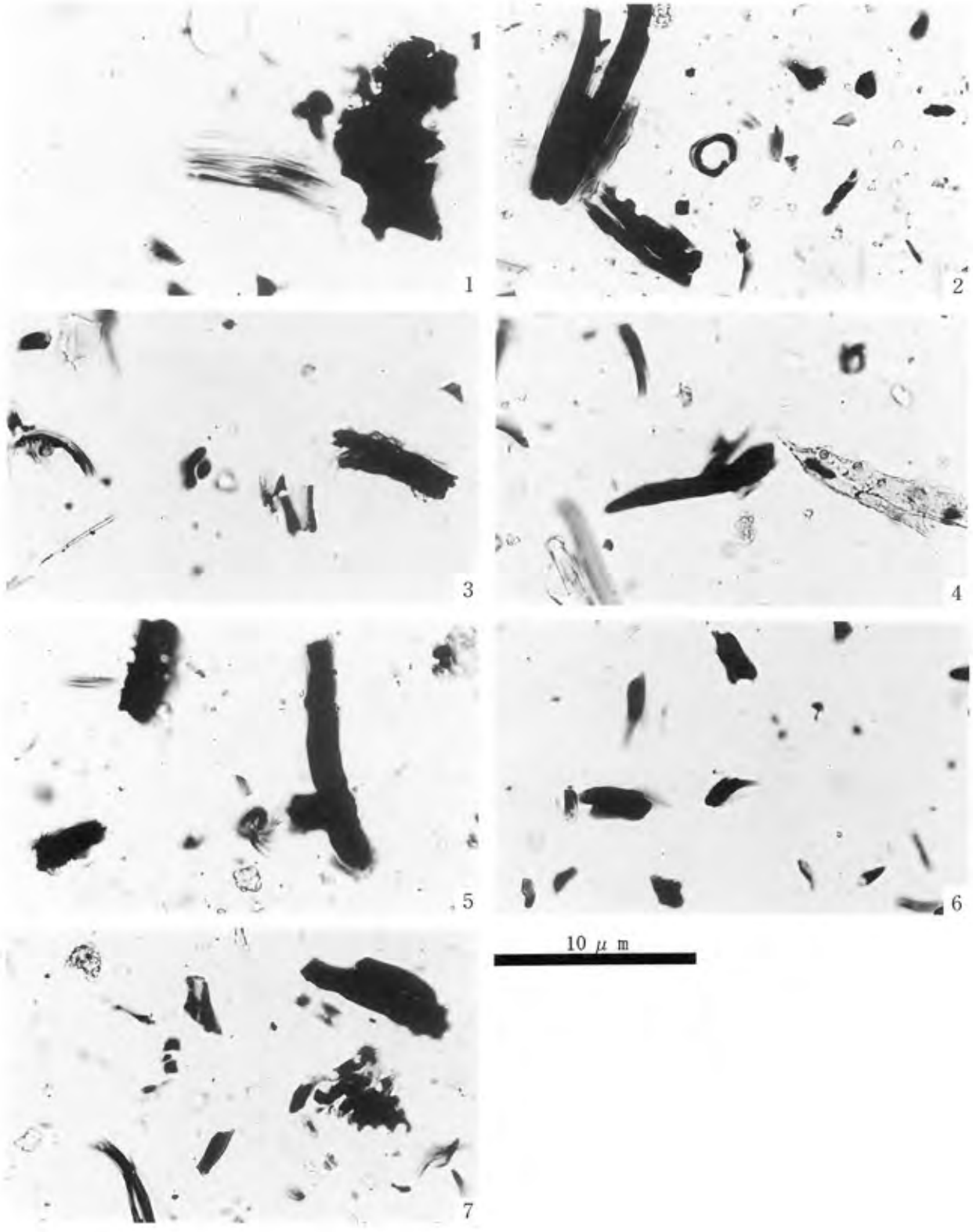
10



11

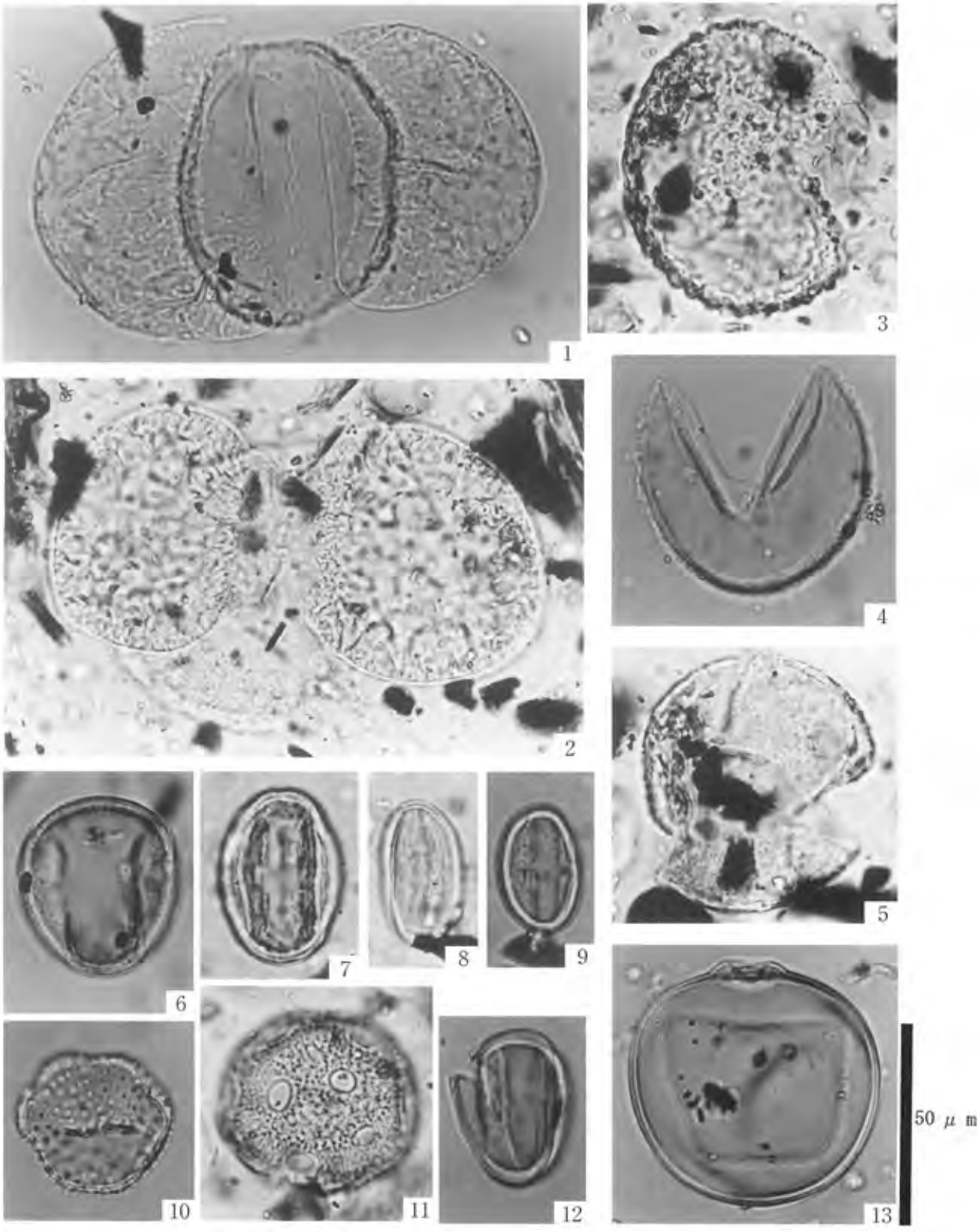
10 μ m

8．状況写真（S1603；Ⅲ-21）
9．状況写真（SD721；Ⅲ-22）
10．状況写真（S1619；Ⅲ-24）
11．状況写真（SD936；Ⅲ-25）

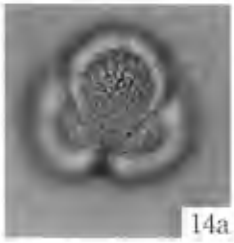


1．状況写真（SI166；Ⅱ-1）
2．状況写真（SI170；Ⅱ-2）
3．状況写真（SI163；Ⅱ-3）
4．状況写真（SI164；Ⅱ-4）
5．状況写真（SI175；Ⅱ-5）
6．状況写真（SI182；Ⅱ-6）
7．状況写真（SD450；Ⅱ-7）

図版6　花粉化石（2）



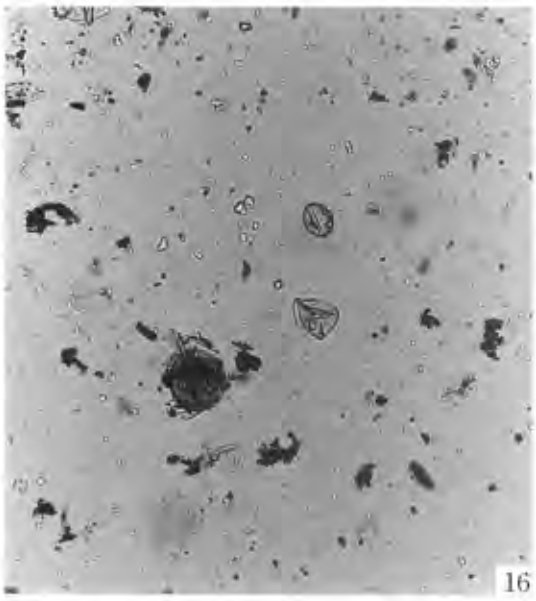
1．マキ属（西壁;Ⅲ-1）
2．マツ属複維管束亜属（西壁;Ⅲ-14）
3．コウヤマキ属（西壁;Ⅲ-14）
4．スギ属（西壁;Ⅲ-1）
5．コナラ属コナラ亜属（西壁;Ⅲ-14）
6．コナラ属アカガシ亜属（西壁;Ⅲ-1）
7．コナラ属アカガシ亜属（西壁;Ⅲ-14）
8．シイノキ属（西壁;Ⅲ-14）
9．シイノキ属（西壁;Ⅲ-1）
10．オモダカ属（西壁;Ⅲ-1）
11．ナデシコ科（西壁;Ⅲ-14）
12．キカシグサ属（西壁;Ⅲ-1）
13．イネ科（西壁;Ⅲ-1）


14a

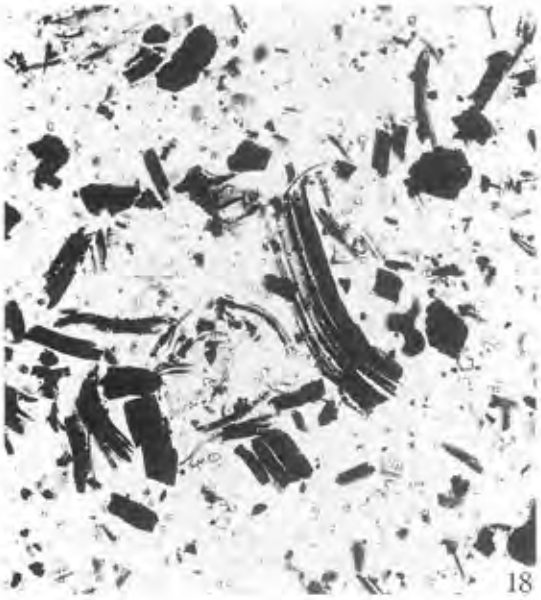

14b

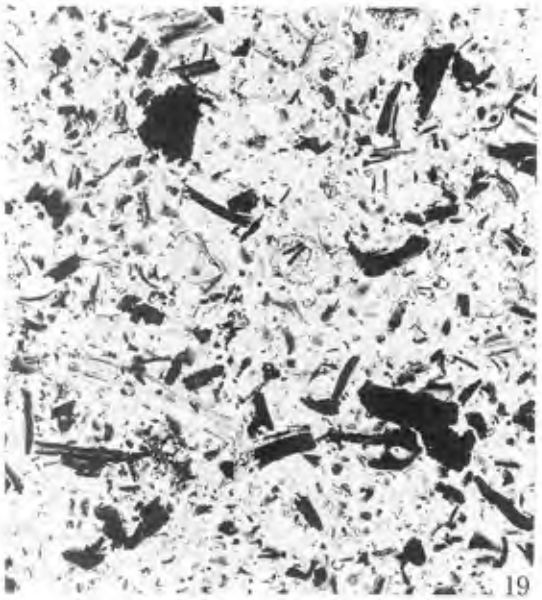

15a


15b


16


17


18

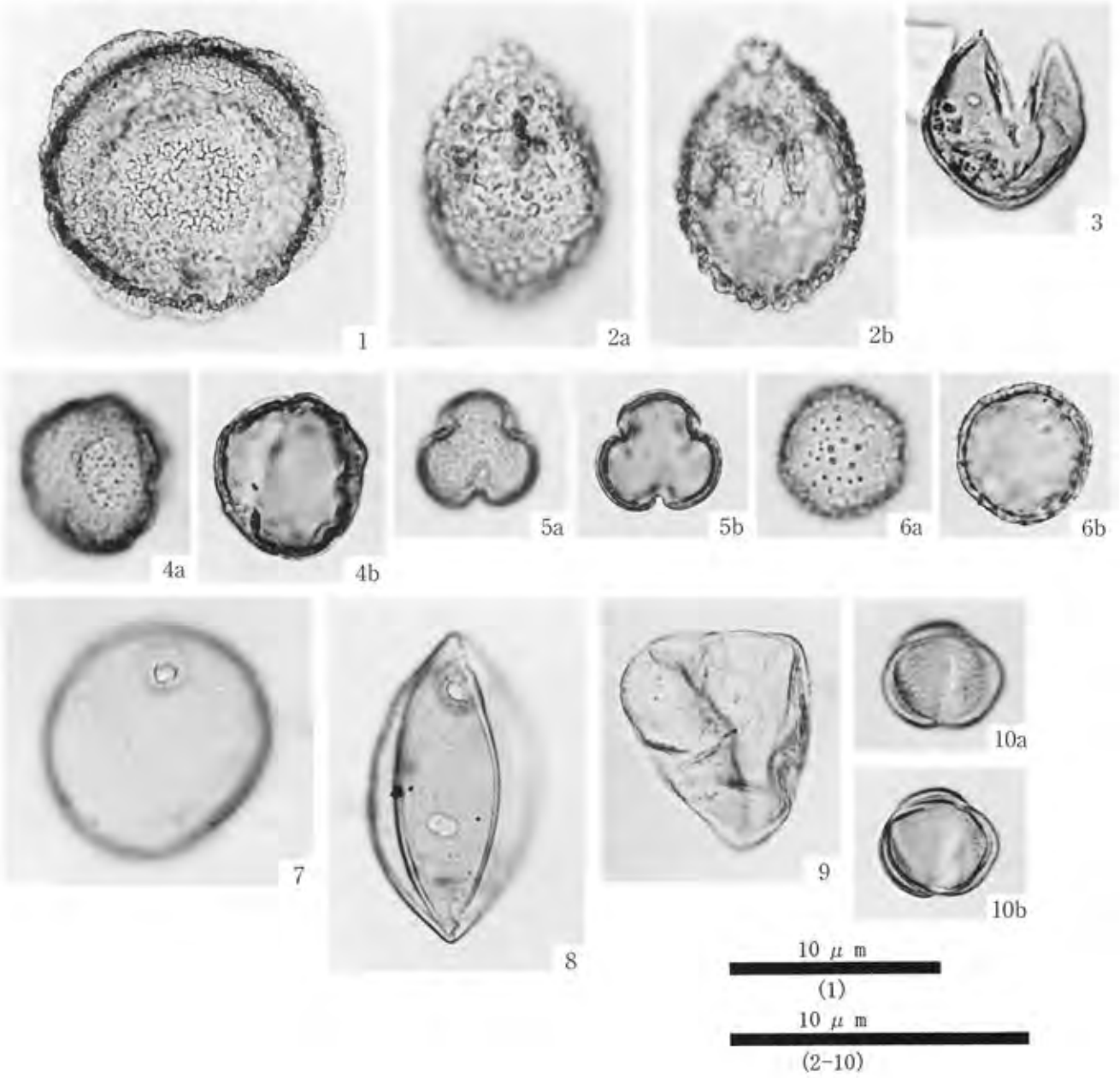

19

50 μ m
(14, 15)

50 μ m
(16-19)

14．ヨモギ属（西壁;Ⅲ-1）
15．タンポポ亜科（西壁;Ⅲ-14）
16．状況写真（西壁;Ⅲ-1）
17．状況写真（西壁;Ⅲ-1）
18．状況写真（西壁;Ⅲ-13）
19．状況写真（西壁;Ⅲ-14）

図版８　花粉化石（４）

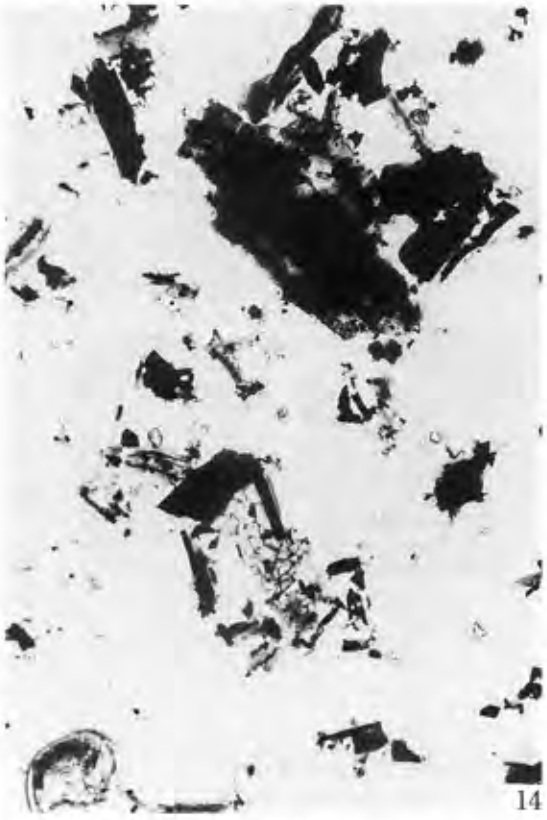


1．ツガ属（西壁;Ⅲ-18）
2．コウヤマキ属（西壁;Ⅲ-18）
3．スギ属（西壁;Ⅲ-18）
4．コナラ属コナラ亜属（西壁;Ⅲ-18）
5．コナラ属アカガシ亜属（西壁;Ⅲ-18）
6．オモダカ属（西壁;Ⅲ-18）
7．イネ科（西壁;Ⅲ-18）
8．イネ科（西壁;Ⅲ-18）
9．カヤツリグサ科（西壁;Ⅲ-18）
10．ヨモギ属（西壁;Ⅲ-18）







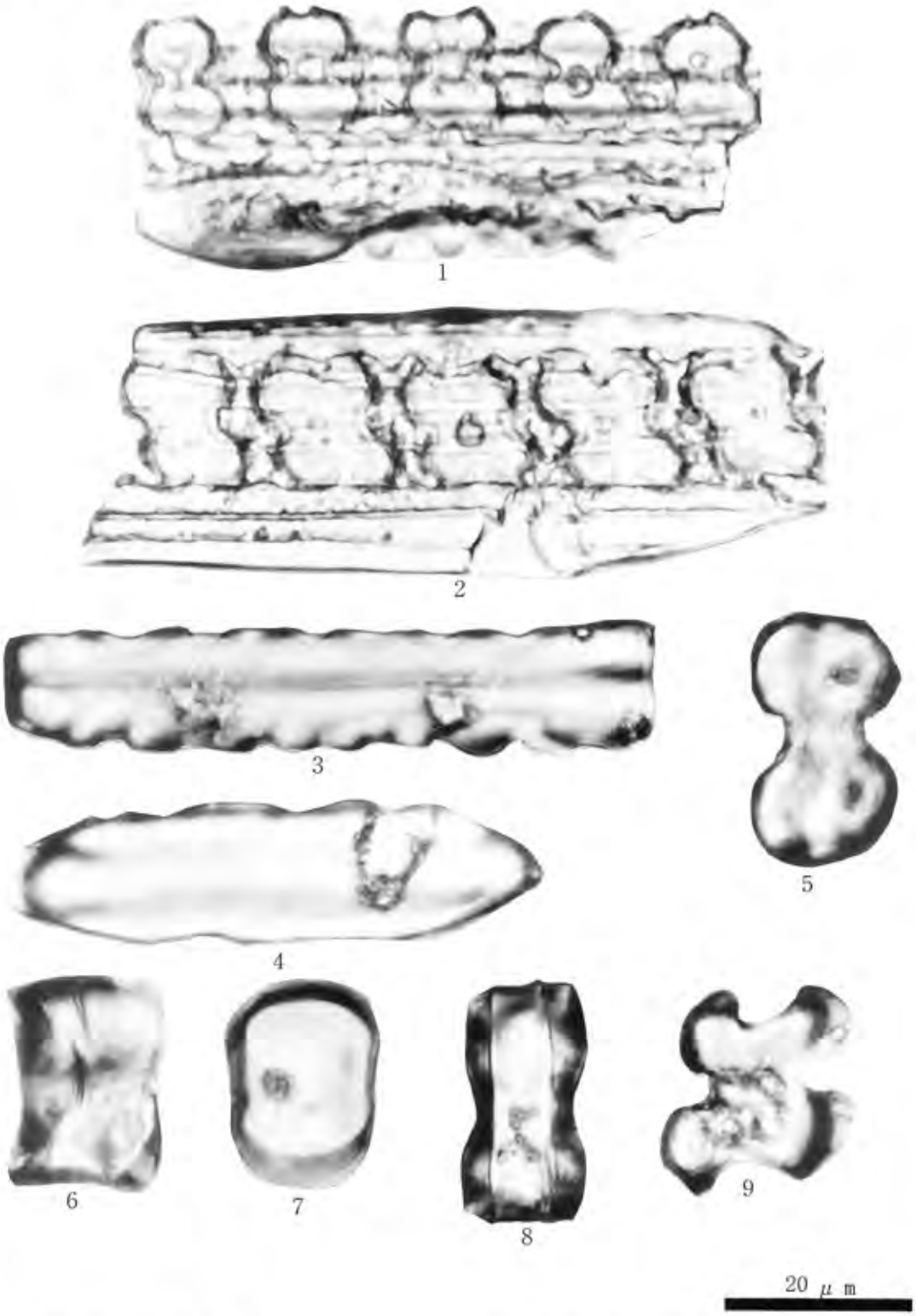


11．状況写真（SI619;Ⅲ-24）
13．状況写真（SI603;Ⅲ-21）

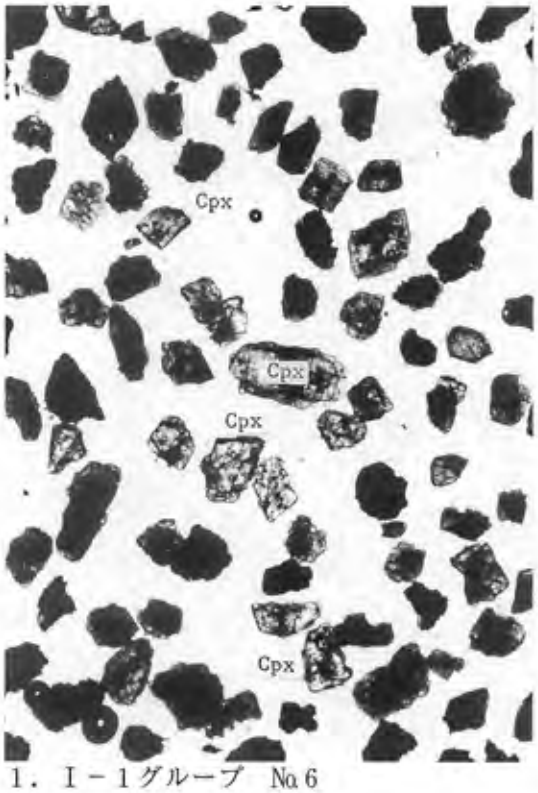
12．状況写真（SE872;Ⅲ-23）
14．状況写真（西壁;Ⅲ-15）

10 μ m

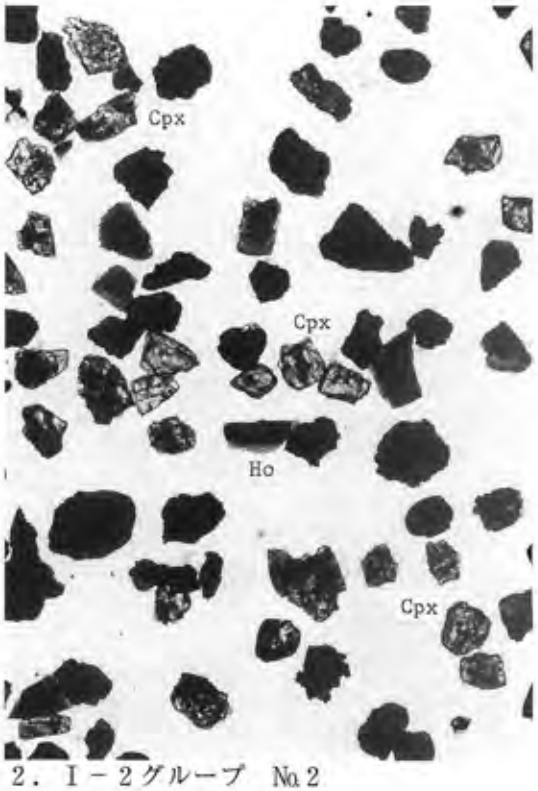
図版10　植物珪酸体



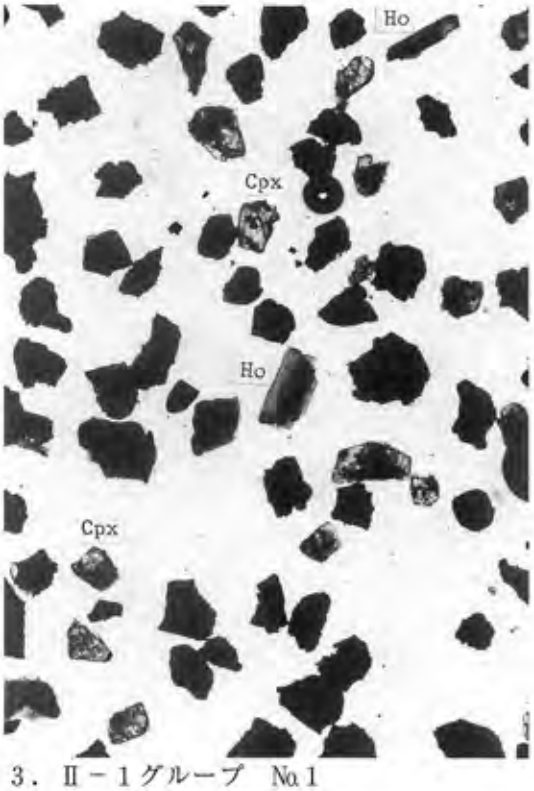
1．イネ属（SI619;Ⅲ-24）
2．マコモ属（SD687;Ⅲ-20）
3．オオムギ族（SI619;Ⅲ-24）
4．ウシノケグサ族（西壁;Ⅲ-17）
5．ススキ属（SI619;Ⅲ-24）
6．ヤダケ属（SD687;Ⅲ-20）
7．ヨシ属（西壁;Ⅲ-17）
8．コブナグサ属（SD687;Ⅲ-20）
9．ジュズダマ属（SI603;Ⅲ-21）



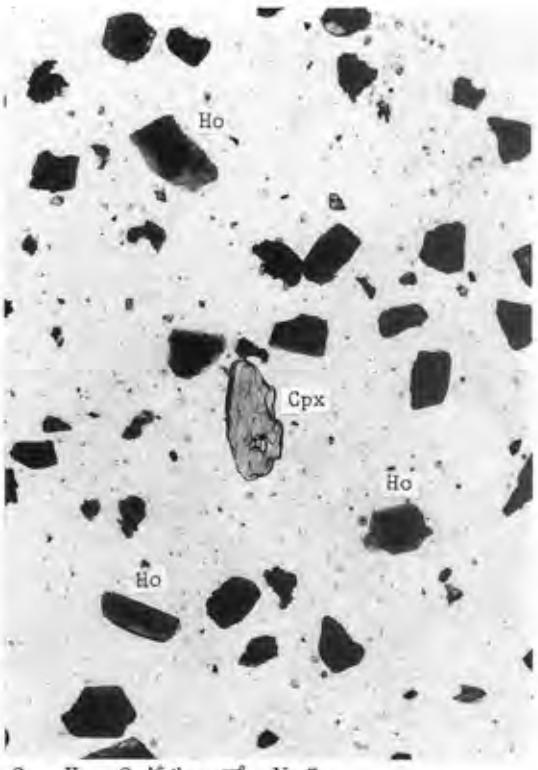
1．Ⅰ－1グループ　No.6



2．Ⅰ－2グループ　No.2



3．Ⅱ－1グループ　No.1

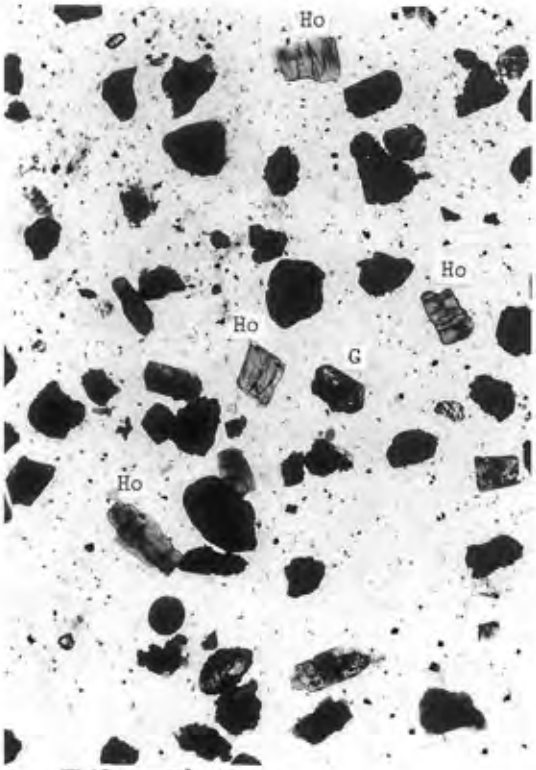


2．Ⅱ－2グループ　No.5

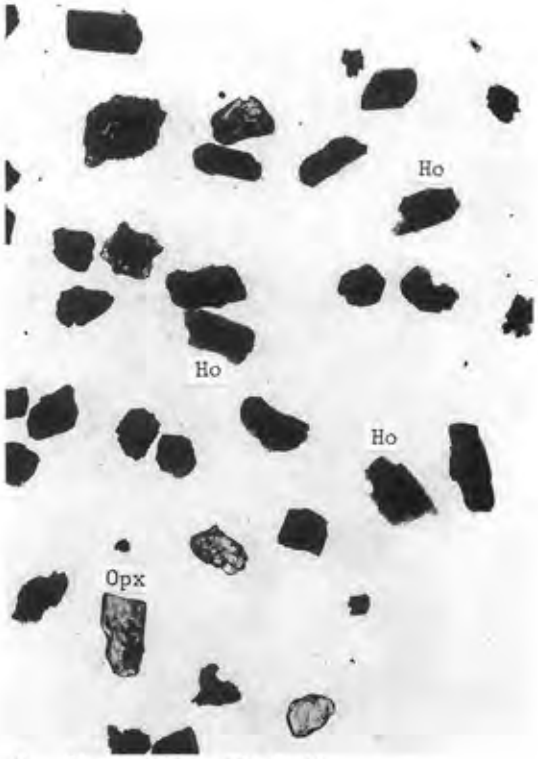
Cpx：単斜輝石．Ho：角閃石．

0.5mm

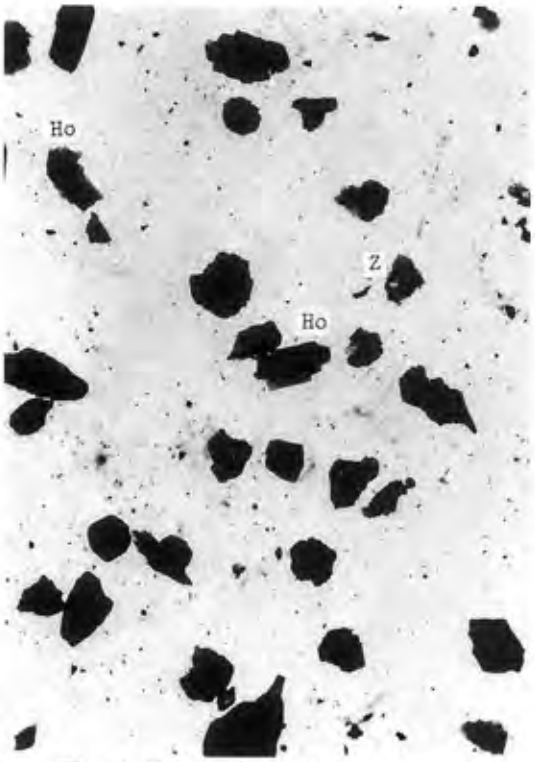
図版12　胎土重鉱物（２）



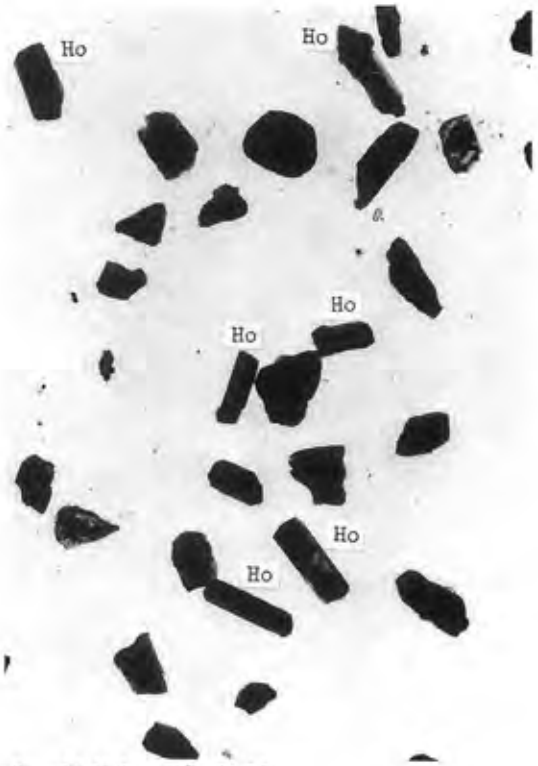
5．Ⅲグループ　No.7



6．Ⅳ－１グループ　No.10



7．Ⅳ－２グループ　No.18



8．Ⅴグループ　No.19

Opx：斜方輝石．Ho：角閃石（No.10･18は酸化角閃石）．
Z：ジルコン．G：ザクロ石．

0.5mm



9．VIグループ　No.4

Ho：角閃石．

0.5mm

西田井遺跡発掘調査報告書

－ 一般国道24号（和歌山バイパス）建設に伴う発掘調査 －

―本文編―

1991年３月30日発行

編　集
発　行　　財団法人　和歌山県文化財センター
和歌山市広道20番地

印　刷　　明新印刷株式会社
奈良市橋本町36番地

西田井遺跡発掘調査報告書

―― 一般国道24号（和歌山バイパス）建設に伴う発掘調査 ――

―図版編―

１９９１年３月

財団法人 和歌山県文化財センター

西田井遺跡発掘調査報告書

――一般国道24号(和歌山バイパス)建設に伴う発掘調査――

―図版編―

財団法人 和歌山県文化財センター

図 版 目 次

PL. 1　第ⅠA区航空写真

PL. 2　第ⅠA区　1　全景
2　SK4・74
3　SD12土器出土状況

PL. 3　第ⅠA区　1　SB31・SE92
2　SB33・SK3
3　SB44・SK3・81

PL. 4　第ⅠA区　1　SB45・54・58
2　SB41・47・48・51
3　SB51南半

PL. 5　第ⅠA区　1　SB47・48
2　SB47・55・59
3　SB56

PL. 6　第ⅠA区　1　SB50・57
2　SE92
3　SD102土層

PL. 7　第ⅠB区～D区
1　第ⅠB区全景
2　第ⅠC区全景
3　第ⅠD区全景
4　SI136
5　SK141

PL. 8　第ⅡA区航空写真

PL. 9　第ⅡA区　1　下面全景
2　下面全景

PL. 10　第ⅡA区　1　竪穴住居群
2　SI161
3　SI163
4　SI167

PL. 11　第ⅡA区　1　SI165
2　SI165柱穴1
3　SI165柱穴2
4　SI165柱穴7
5　SI165柱穴17

PL. 12　第ⅡA区　1　SI162
2　SI164
3　SI171
4　SI173

PL. 13　第ⅡA区　1　SI168
2　SI170
3　SI179
4　SI181

PL. 14　第ⅡA区　1　SI182・191
2　SI187
3　SI188カマド
4　SI188

PL. 15　第ⅡA区　1　SB197
2　SK205
3　SK213
4　SK213

PL. 16　第ⅡA区　1　SK202
2　SK239
3　SK243・SI175・SI179・186
4　SK243南北土層

PL. 17　第ⅡA区　1　SX251
2　SX251・SI166
3　SX251周溝東側土器出土状況
4　SX251周溝北東隅土器出土状況

PL. 18　第ⅡA区　1　SD256・260
2　SD257
3　SD276

PL. 19　第ⅡA区　1　第ⅡA1区上面全景
2　第ⅡA1区上面全景
3　第ⅡA2区上面溝群

PL. 20　第ⅡA区　1　第ⅡA3・4区上面全景
2　第ⅡA4区上面全景
3　SB281

PL. 21　第ⅡA区　1　SB287
2　SB289

		3	ＳＢ291・298
ＰＬ．22	第ⅡＡ区	1	ＳＢ292
		2	ＳＢ293
		3	ＳＢ294
		4	ＳＢ295・296
		5	ＳＢ297
		6	ＳＢ299
		7	ＳＢ300
ＰＬ．23	第ⅡＡ区	1	ＳＸ411
		2	ＳＸ412
		3	ＳＫ372・390近世土坑群
		4	ＳＫ332・399
		5	ＳＥ416
		6	ＳＥ418
		7	ＳＥ417
ＰＬ．24	第ⅡＡ区	1	ＳＤ470・469
		2	ＳＤ424南北土層
		3	ＳＤ470南壁東西土層
		4	ＳＤ469南壁東西土層
ＰＬ．25	第ⅡＡ区	1	ＳＤ450
		2	ＳＤ450東西土層
		3	ＳＤ478内集石遺構
		4	ＳＤ478
ＰＬ．26	第ⅡＢ区	1	第ⅡＢ１区全景
		2	ＳＲ546
		3	第ⅡＢ２区全景
ＰＬ．27	第ⅡＢ区	1	第ⅡＢ３区全景
		2	ＳＥ566
		3	ＳＥ567
		4	ＳＥ568
		5	ＳＥ569
ＰＬ．28	第ⅢＣ区航空写真		
ＰＬ．29	第ⅢＣ区	1	下面全景
		2	下面全景
ＰＬ．30	第ⅢＣ区	1	第ⅢＣ１・２区下面全景
		2	第ⅢＣ３区下面全景
		3	第ⅢＣ４・５区下面全景
ＰＬ．31	第Ⅲ３区	1	ＳＩ601
		2	ＳＩ601土器出土状況
		3	ＳＩ601北西側ベッド状遺構
ＰＬ．32	第ⅢＣ区	1	ＳＩ602ａ
		2	ＳＩ603
		3	ＳＩ604
ＰＬ．33	第ⅢＣ区	1	ＳＩ605
		2	ＳＩ605北側ベッド状遺構
		3	ＳＩ612
		4	ＳＩ613
ＰＬ．34	第ⅢＣ区	1	ＳＩ615遺物・炭化材検出状況
		2	ＳＩ617
		3	ＳＩ616
		4	ＳＩ618
		5	ＳＩ619
ＰＬ．35	第ⅢＣ区	1	ＳＩ606・621・624
		2	ＳＩ620
		3	ＳＩ624
		4	ＳＩ623
ＰＬ．36	第ⅢＣ区	1	ＳＸ672
		2	ＳＸ671
		3	ＳＸ673
		4	ＳＸ680完掘状況
		5	ＳＸ680土器出土状況
		6	ＳＫ626
		7	ＳＸ679
		8	ＳＥ669
ＰＬ．37	第ⅢＣ区	1	ＳＤ681・720
		2	ＳＤ681土器出土状況
		3	ＳＤ681土器出土状況
ＰＬ．38	第ⅢＣ区	1	ＳＤ683・687・688・736
		2	ＳＤ687土器出土状況
		3	ＳＤ702下層土器出土状況
ＰＬ．39	第ⅢＣ区	1	ＳＤ702中層土器出土状況

2　ＳＤ702中層土器出土状況
3　ＳＤ720・721
ＰＬ．40　第ⅢＣ区　1　第ⅢＣ３～５区上面全景
2　ＳＤ900・902・905・910全景
ＰＬ．41　第ⅢＣ区　1　第ⅢＣ３～５区上面全景
2　第ⅢＣ４・５区上面全景
3　ＳＢ774周辺
ＰＬ．42　第ⅢＣ区　1　第ⅢＣ２区掘立柱建物全景
2　ＳＢ771・772周辺
3　第ⅢＣ５区上面全景
ＰＬ．43　第ⅢＣ区　1　ＳＢ759・760
2　ＳＢ769
3　ＳＢ774
ＰＬ．44　第ⅢＣ区　1　ＳＧ781・782
2　ＳＫ819土器出土状況
3　ＳＸ859
ＰＬ．45　第ⅢＣ区　1　ＳＸ851
2　ＳＸ853
3　ＳＸ857
ＰＬ．46　第ⅢＣ区　1　ＳＸ851遺物出土状況
2　ＳＸ856
3　ＳＸ858
4　ＳＸ869
5　ＳＥ871南北土層
6　ＳＥ871曲物
7　ＳＥ871竹・桶・石組細部
ＰＬ．47　第ⅢＣ区　1　ＳＥ872
2　ＳＥ872釣瓶検出状況
3　ＳＥ872竹検出状況
4　ＳＥ872井筒
5　ＳＦ876集石
6　ＳＦ876板材検出状況
ＰＬ．48　第ⅢＣ区　1　ＳＥ877石組み
2　ＳＥ875
3　第ⅢＣ３区西端溝群
4　ＳＤ686・736（882）
5　ＳＤ737・739
ＰＬ．49　第ⅢＣ区　1　ＳＤ739土器出土状況
2　ＳＤ886
3　ＳＤ886土器出土状況
4　ＳＤ898
5　ＳＤ898・899
ＰＬ．50　第ⅢＤ区　1　ＳＩ926
2　全景
3　ＳＤ936土器出土状況
ＰＬ．51　第ＩＡ区　ＳＤ12出土土器
ＰＬ．52　第ＩＡ区　ＳＤ12出土土器
ＰＬ．53　第ＩＣ区　ＳＤ12出土土器
ＰＬ．54　第ＩＡ区　ＳＤ14・18，第ＩＢ区　ＳＤ127，第ＩＤ区　ＳＩ136出土土器
ＰＬ．55　第ＩＤ区　ＳＫ141出土土器
ＰＬ．56　第ＩＡ区　ＳＫ36・掘立柱建物・柱穴・ＳＥ91出土土器
ＰＬ．57　第ＩＡ区　ＳＥ92・ＳＤ96出土土器
ＰＬ．58　第ＩＡ区　ＳＤ102Ｅ溝出土土器
ＰＬ．59　第ＩＡ区　ＳＤ102Ｄ溝出土土器
ＰＬ．60　第ＩＡ区　ＳＤ102Ｂ溝・Ａ溝・第３層・第１層出土土器
ＰＬ．61　第ＩＡ区　ＳＤ102第２層出土土器
ＰＬ．62　第ＩＡ区　ＳＤ102最下層～最上層出土土器
ＰＬ．63　第ＩＡ区　ＳＤ111・112・113・包含層，第ＩＤ区　包含層出土土器
ＰＬ．64　第ⅡＡ区　ＳＩ161・162・163出土土器
ＰＬ．65　第ⅡＡ区　ＳＩ163出土土器
ＰＬ．66　第ⅡＡ区　ＳＩ164出土土器
ＰＬ．67　第ⅡＡ区　ＳＩ164出土土器
ＰＬ．68　第ⅡＡ区　ＳＩ165出土土器
ＰＬ．69　第ⅡＡ区　ＳＩ165・166出土土器
ＰＬ．70　第ⅡＡ区　ＳＩ166・167出土土器
ＰＬ．71　第ⅡＡ区　ＳＩ167・168・186出土土器

ＰＬ．72　第ⅡＡ区　ＳＩ175出土土器
ＰＬ．73　第ⅡＡ区　ＳＩ170・171・172・175出土土器
ＰＬ．74　第ⅡＡ区　ＳＩ173出土土器
ＰＬ．75　第ⅡＡ区　ＳＩ174出土土器
ＰＬ．76　第ⅡＡ区　ＳＩ174出土土器
ＰＬ．77　第ⅡＡ区　ＳＩ174・178・179・180・192出土土器
ＰＬ．78　第ⅡＡ区　ＳＩ182・184・185・188・189・190・192出土土器
ＰＬ．79　第ⅡＡ区　柱穴・ＳＫ205・207・208・209・213出土土器
ＰＬ．80　第ⅡＡ区　ＳＫ213・232・235・239出土土器
ＰＬ．81　第ⅡＡ区　ＳＫ243出土土器
ＰＬ．82　第ⅡＡ区　ＳＫ243出土土器
ＰＬ．83　第ⅡＡ区　ＳＫ243出土土器
ＰＬ．84　第ⅡＡ区　ＳＫ243出土土器
ＰＬ．85　第ⅡＡ区　ＳＫ243出土土器
ＰＬ．86　第ⅡＡ区　ＳＫ243，第ⅡＢ区　ＳＫ502出土土器
ＰＬ．87　第ⅡＡ区　ＳＸ251出土土器
ＰＬ．88　第ⅡＡ区　ＳＸ251出土土器
ＰＬ．89　第ⅡＡ区　ＳＤ256出土土器
ＰＬ．90　第ⅡＡ区　ＳＤ256・257・268出土土器
ＰＬ．91　第ⅡＢ区　ＳＤ528・530・532・ＳＲ546出土土器
ＰＬ．92　第Ⅱ区　包含層出土土器
ＰＬ．93　第ⅡＡ区　掘立柱建物・地鎮遺構・柱穴出土土器
ＰＬ．94　第ⅡＡ区　柱穴・ＳＫ311・365・387・390・ＳＥ416・417・418出土土器
ＰＬ．95　第ⅡＡ区　ＳＥ417最下層出土土器
ＰＬ．96　第ⅡＡ区　ＳＥ417最下層出土土器
ＰＬ．97　第ⅡＡ区　ＳＥ417下層出土土器
ＰＬ．98　第ⅡＡ区　ＳＥ417中層・上層，第ⅡＢ区ＳＥ566出土土器
ＰＬ．99　第ⅡＡ区　ＳＤ424・425出土土器
ＰＬ．100　第ⅡＡ区　ＳＤ425出土土器
ＰＬ．101　第ⅡＡ区　ＳＤ425出土土器
ＰＬ．102　第ⅡＡ区　ＳＤ425出土土器
ＰＬ．103　第ⅡＡ区　ＳＤ271・277・426・428・440・441・445・450出土土器
ＰＬ．104　第ⅡＡ区　ＳＤ452出土土器
ＰＬ．105　第ⅡＡ区　ＳＤ452・453・469，第ⅡＢ区　ＳＤ594出土土器
ＰＬ．106　第ⅡＡ区　包含層出土土器
ＰＬ．107　第ⅢＣ区　ＳＩ601出土土器
ＰＬ．108　第ⅢＣ区　ＳＩ602・603出土土器
ＰＬ．109　第ⅢＣ区　ＳＩ605・606・614・615出土土器
ＰＬ．110　第ⅢＣ区　ＳＩ617・619・620出土土器
ＰＬ．111　第ⅢＣ区　ＳＩ621・623・624出土土器
ＰＬ．112　第ⅢＣ区　ＳＫ626・627・628・ＳＸ673出土土器
ＰＬ．113　第ⅢＣ区　ＳＤ681下層出土土器
ＰＬ．114　第ⅢＣ区　ＳＤ681中層出土土器
ＰＬ．115　第ⅢＣ区　ＳＤ681中層出土土器
ＰＬ．116　第ⅢＣ区　ＳＤ681中層出土土器
ＰＬ．117　第ⅢＣ区　ＳＤ681中層出土土器
ＰＬ．118　第ⅢＣ区　ＳＤ681上層・埋土出土土器
ＰＬ．119　第ⅢＣ区　ＳＤ681上層・埋土出土土器
ＰＬ．120　第ⅢＣ区　ＳＤ687下層出土土器
ＰＬ．121　第ⅢＣ区　ＳＤ702下層出土土器
ＰＬ．122　第ⅢＣ区　ＳＤ702下層出土土器
ＰＬ．123　第ⅢＣ区　ＳＤ702下層出土土器
ＰＬ．124　第ⅢＣ区　ＳＤ702下層出土土器
ＰＬ．125　第ⅢＣ区　ＳＤ702下層出土土器
ＰＬ．126　第ⅢＣ区　ＳＤ702中層出土土器
ＰＬ．127　第ⅢＣ区　ＳＤ702中層出土土器
ＰＬ．128　第ⅢＣ区　ＳＤ702中層出土土器
ＰＬ．129　第ⅢＣ区　ＳＤ702中層出土土器
ＰＬ．130　第ⅢＤ区　ＳＤ936下層出土土器
ＰＬ．131　第ⅢＣ区　ＳＫ732・734・753・ＳＤ739・740・741・742出土土器
ＰＬ．132　第ⅢＣ区　ＳＤ741・755出土土器

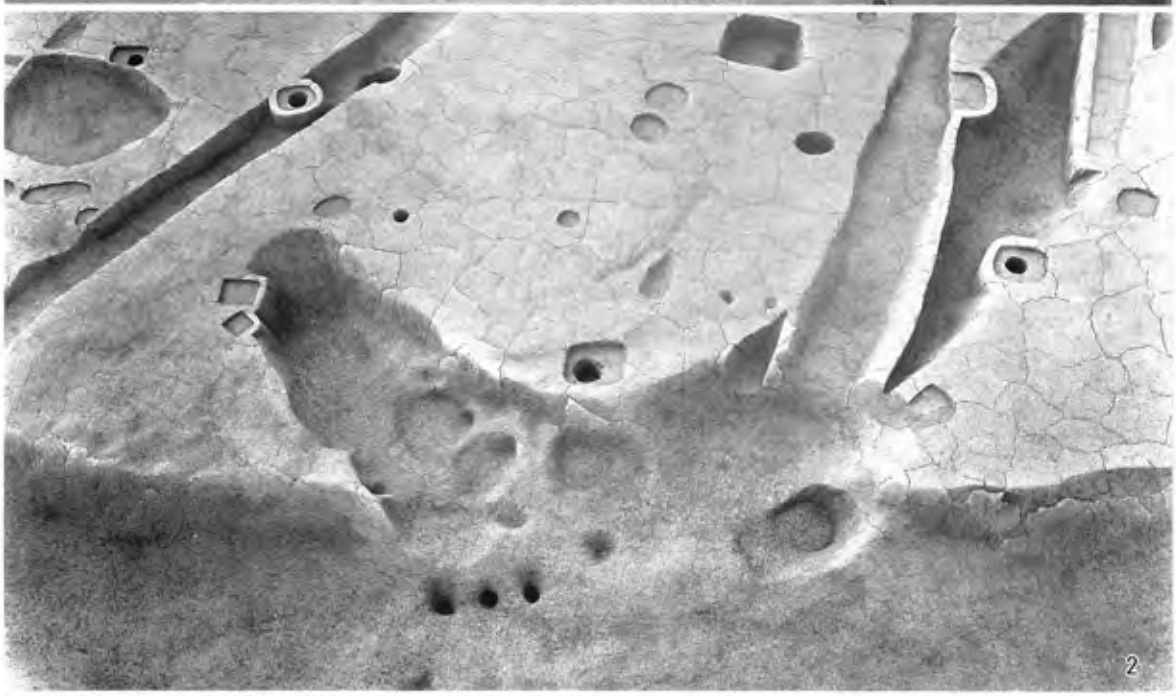
ＰＬ．133　第Ⅲ Ｃ区　掘立柱建物・柱穴・ＳＧ781・782・783・784出土土器
ＰＬ．134　第Ⅲ Ｃ区　ＳＧ781・782・783・784出土土器
ＰＬ．135　第Ⅲ Ｃ区　ＳＫ787・789出土土器
ＰＬ．136　第Ⅲ Ｃ区　ＳＫ819・845出土土器
ＰＬ．137　第Ⅲ Ｃ区　ＳＸ851・853・854・856・857・858出土土器
ＰＬ．138　第Ⅲ Ｃ区　ＳＸ869・ＳＥ871・872・874・875・877・ＳＦ876出土土器
ＰＬ．139　第Ⅲ Ｃ区　ＳＦ876・ＳＤ881・882・885出土土器
ＰＬ．140　第Ⅲ Ｃ区　ＳＤ886出土土器
ＰＬ．141　第Ⅲ Ｃ区　ＳＤ886・ＳＤ886落ち・落ち込み出土土器
ＰＬ．142　第Ⅲ Ｃ区　ＳＤ887・898・899・900・901・902出土土器
ＰＬ．143　第Ⅲ Ｃ区　ＳＤ902出土土器
ＰＬ．144　第Ⅲ Ｃ区　ＳＤ903・905・907・910出土土器
ＰＬ．145　第Ⅲ Ｃ区　ＳＤ911・913・914・915出土土器
ＰＬ．146　第Ⅱ Ａ区出土　弥生土器・（古式）土師器の細部
ＰＬ．147　第Ⅰ～Ⅲ区出土　縄文土器・石器，弥生前期土器，第Ⅱ区出土　弥生・古墳時代石製品・石器
ＰＬ．148　第Ⅰ・Ⅱ区出土　弥生・古墳時代石器
ＰＬ．149　第Ⅱ・Ⅲ区出土　弥生・古墳時代石製品・石器，石器細部
ＰＬ．150　第Ⅲ区出土　弥生・古墳時代石器，第Ⅰ～Ⅲ区出土　弥生・古墳時代金属製品
ＰＬ．151　第Ⅰ～Ⅲ区出土　瓦
ＰＬ．152　第Ⅰ～Ⅲ区出土　奈良～江戸時代石製品・石器
ＰＬ．153　第Ⅲ区出土　室町～江戸時代石製品・石器，第Ⅰ区出土　平安～室町時代金属製品
ＰＬ．154　第Ⅱ・Ⅲ区出土　平安～江戸時代金属製品
ＰＬ．155　第Ⅱ・Ⅲ区出土　室町・江戸時代木製品



第ⅠA区 航空写真



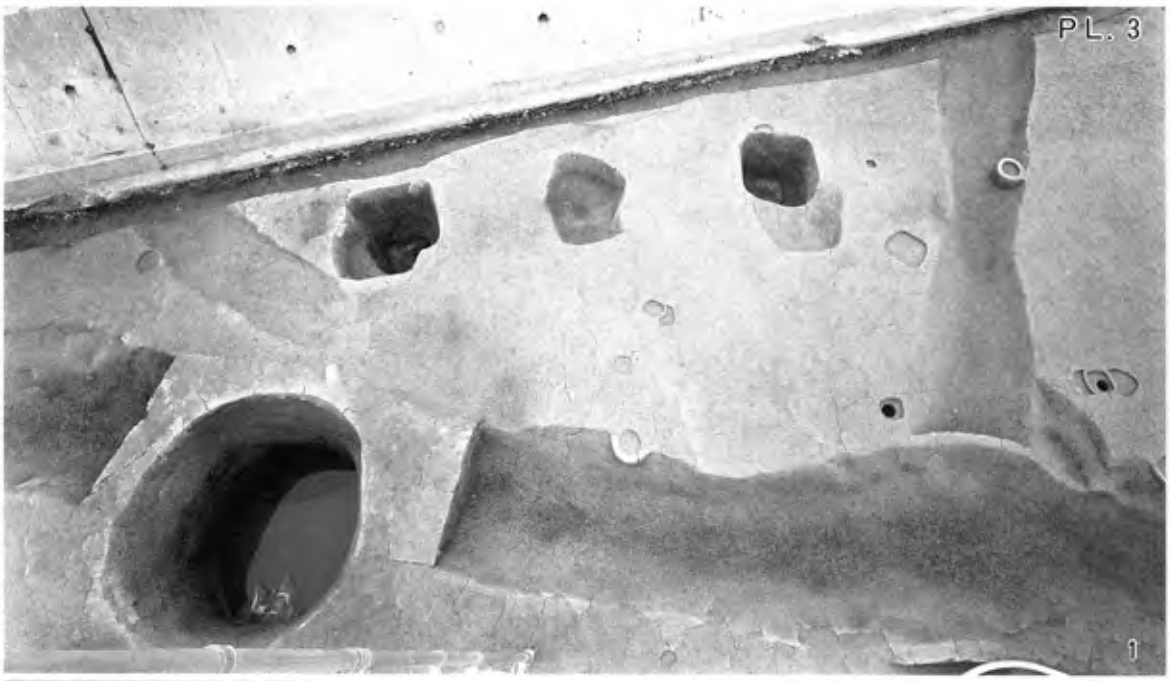
1 全景
（南西から）



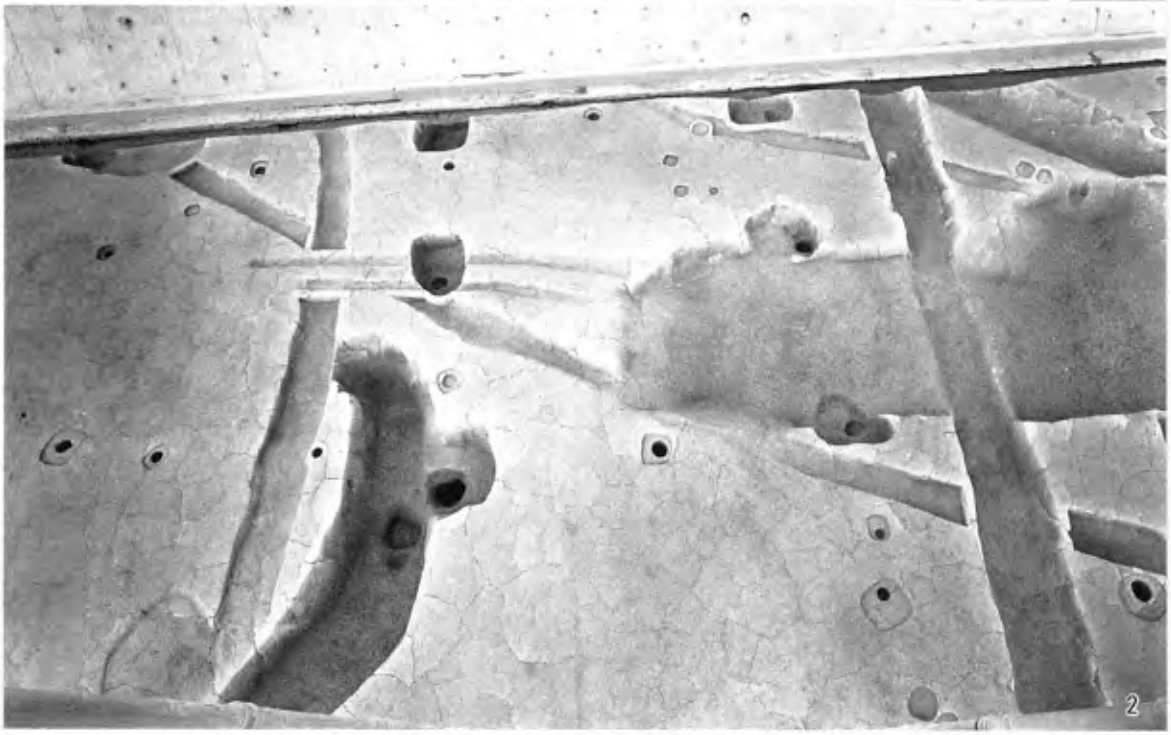
2 ＳＫ４・74
（東から）



3 ＳＤ12
土器出土状況
（東から）



1　ＳＢ31・SE92
（北から）



2　ＳＢ33・SK 3
（南から）



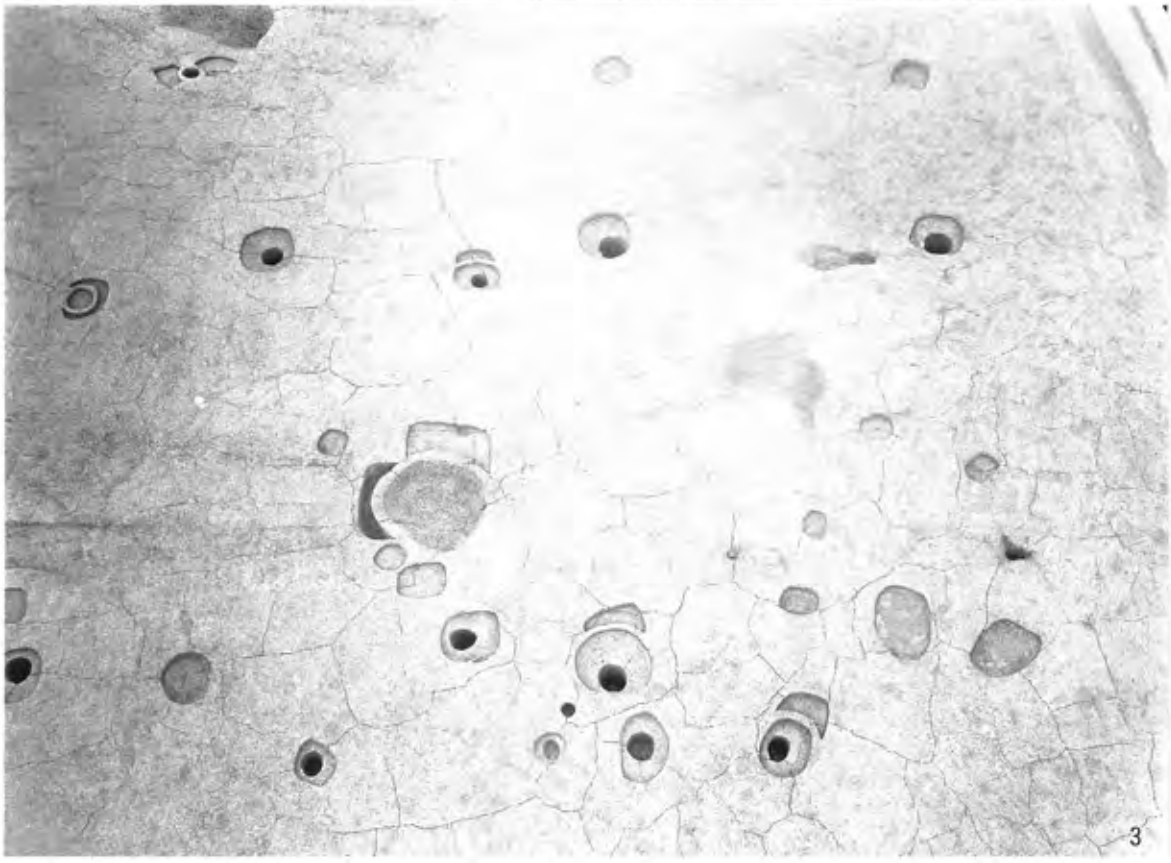
3　ＳＢ44・SK 3・81
（東から）



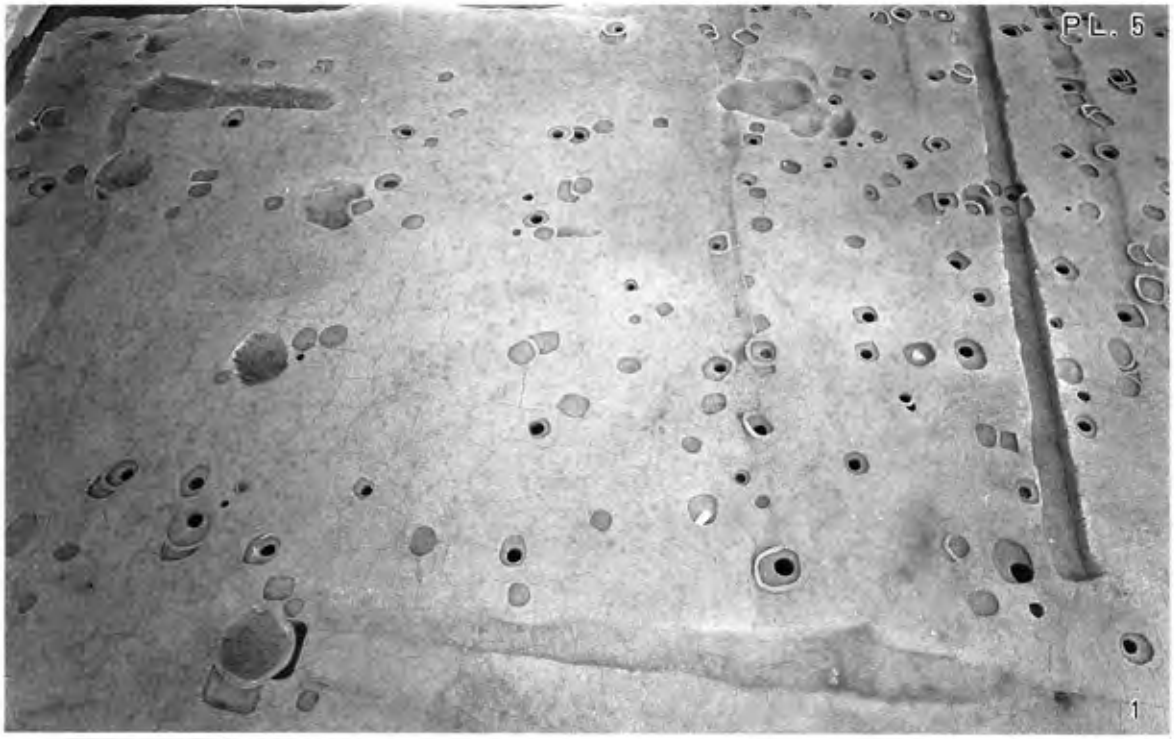
1　ＳＢ45・54・58
（西から）



2　ＳＢ41・47・48・51
（西から）



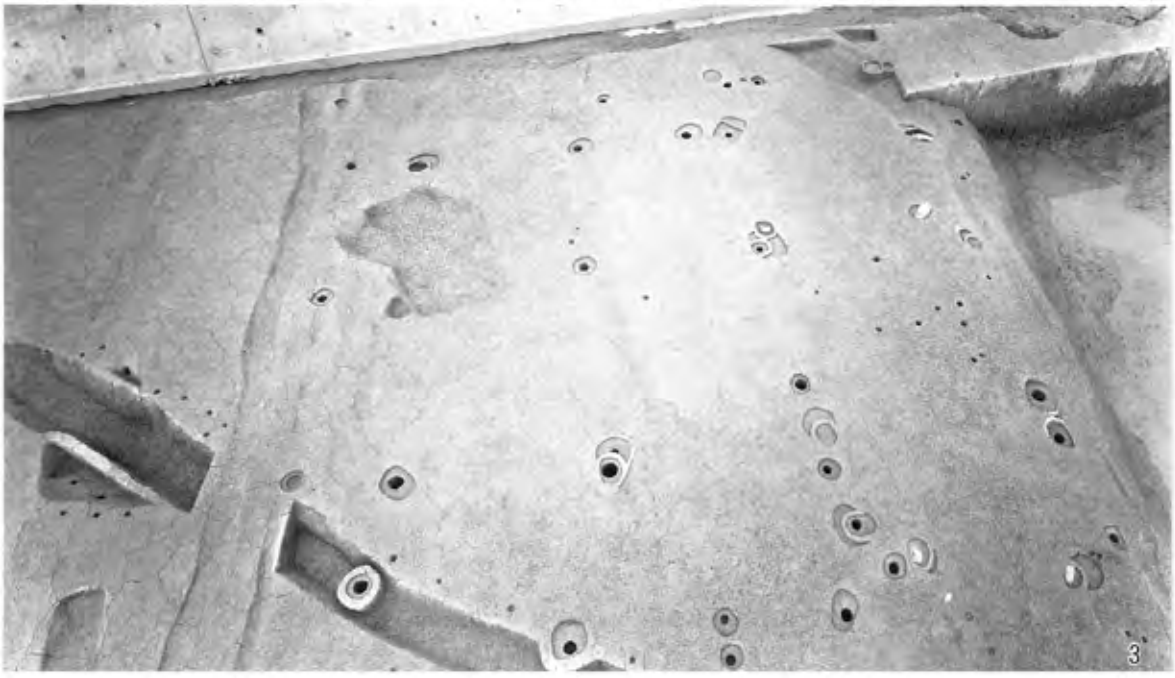
3　ＳＢ51南半
（東から）



1　ＳＢ47･48
（西から）



2　ＳＢ47･55･59
（西から）



3　ＳＢ56
（南から）



1　ＳＢ50･57
（南から）



2　ＳＥ92
（南から）



3　ＳＤ102土層
（北から）



1 第ＩＢ区全景
（西から）



2 第ＩＣ区全景
（南から）



3 第ＩＤ区全景
（東から）



4 ＳＩ136
（西から）



5 ＳＫ141
（南西から）

第ⅡA区 航空写真





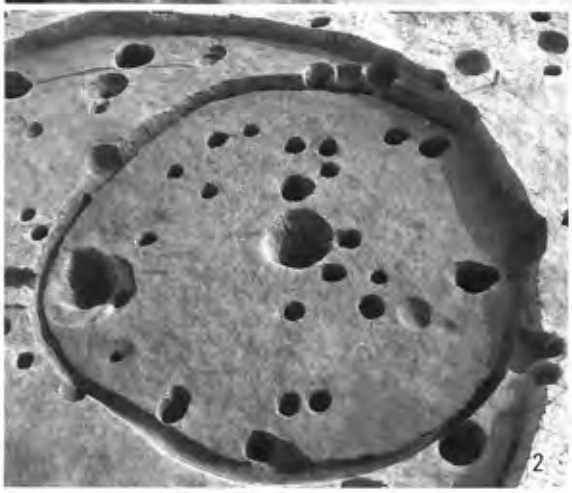


1 下面全景（東から）

2 下面全景（西から）

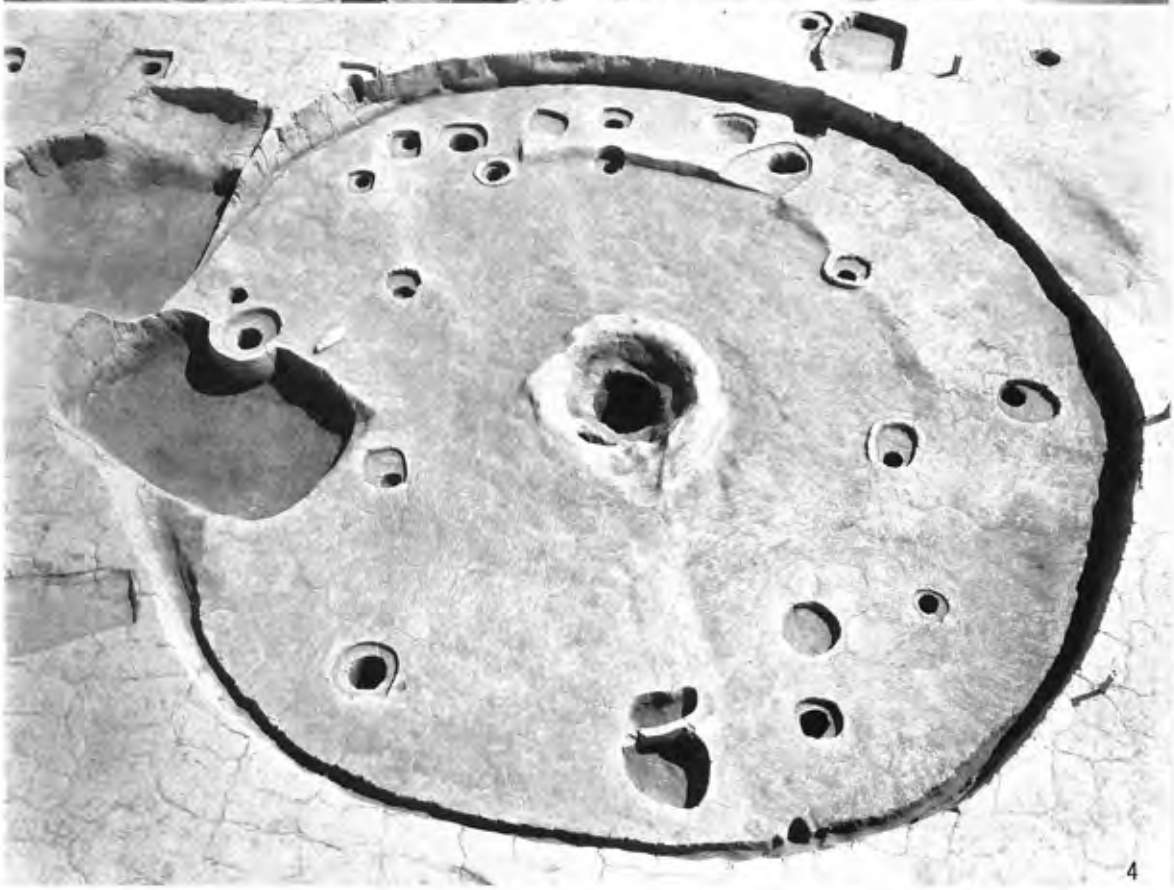


1 竪穴住居群
（西から）





2 ＳＩ161
（北から）
3 ＳＩ163
（南々西から）



4 ＳＩ167
（西から）



1 SI165
（北から）



2 SI165 柱穴1
（北西から）



3 SI165 柱穴2
（南から）



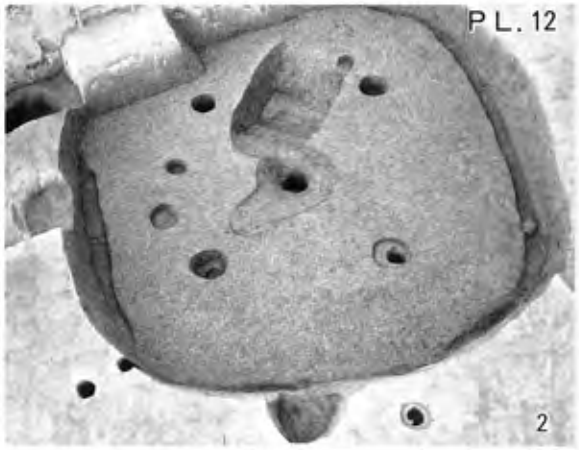
4 SI165 柱穴7
（北から）



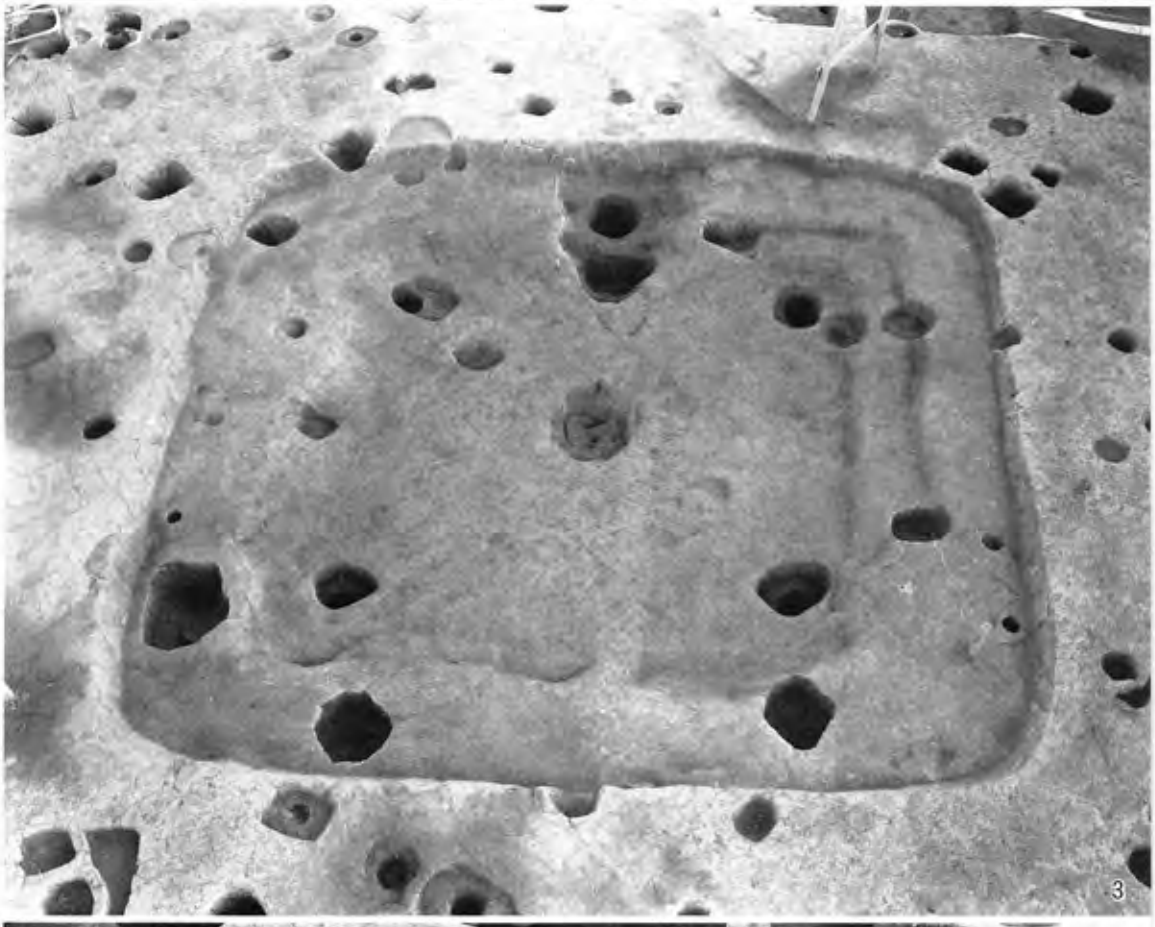
5 SI165 柱穴17
（南から）



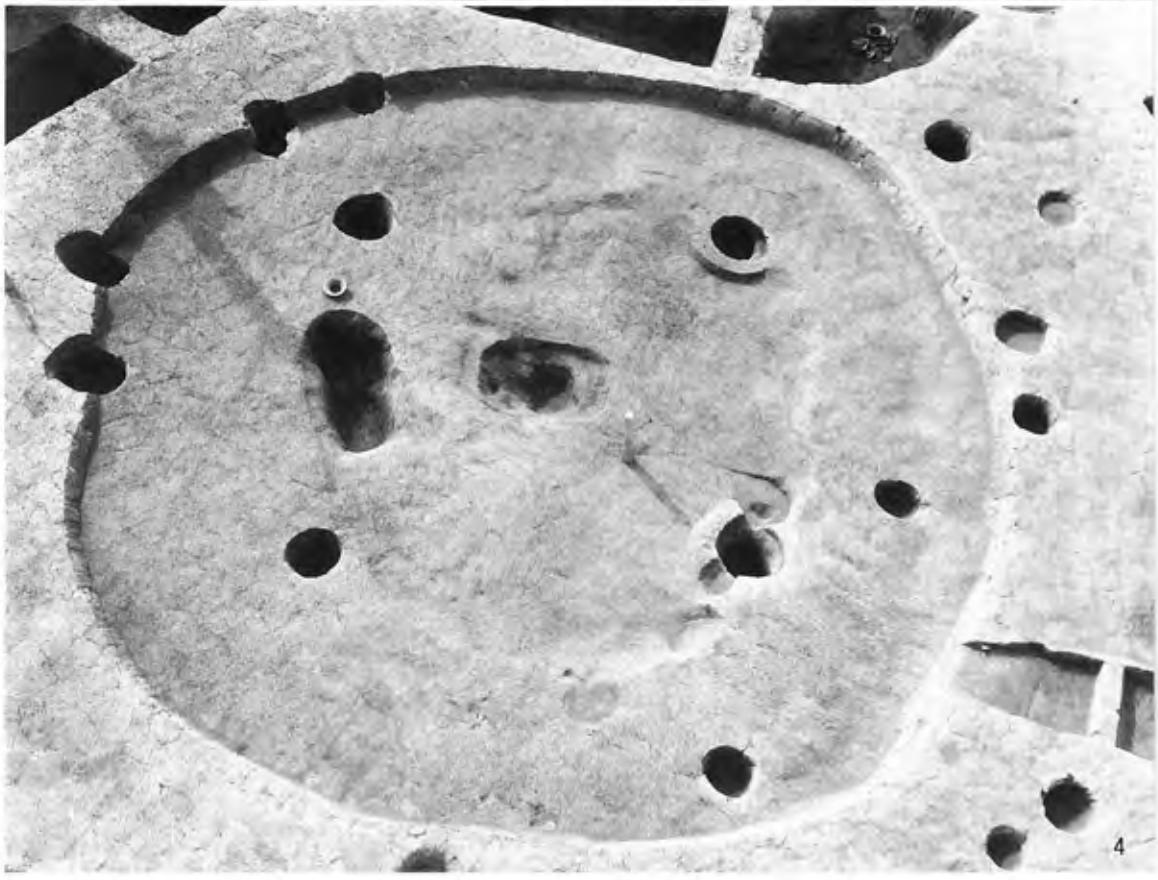
1 SI162
（北西から）



2 SI164
（南西から）



3 SI171
（北西から）



4 SI173
（東から）



1 ＳＩ168
（北西から）



2 ＳＩ170
（南西から）



3 ＳＩ179
（南西から）



4 ＳＩ181
（南東から）



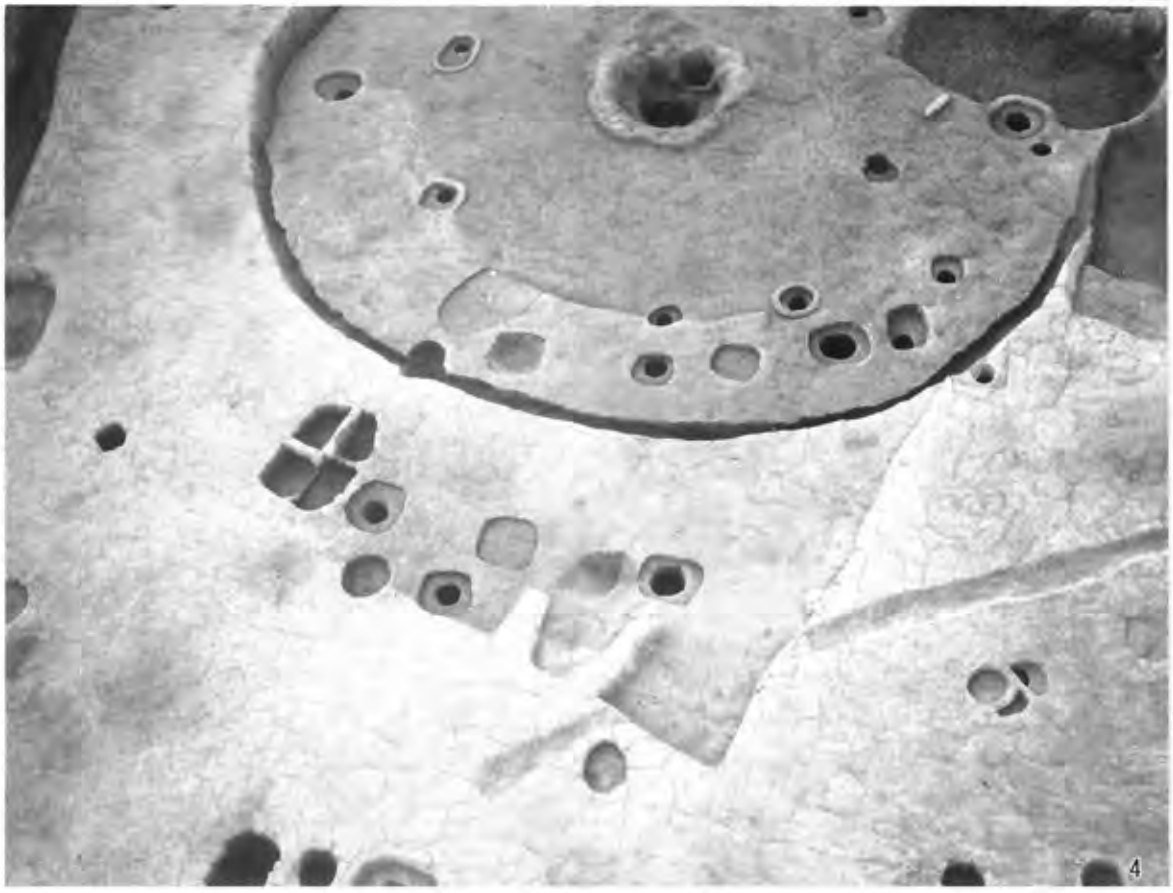
1　SI182・191
（北から）



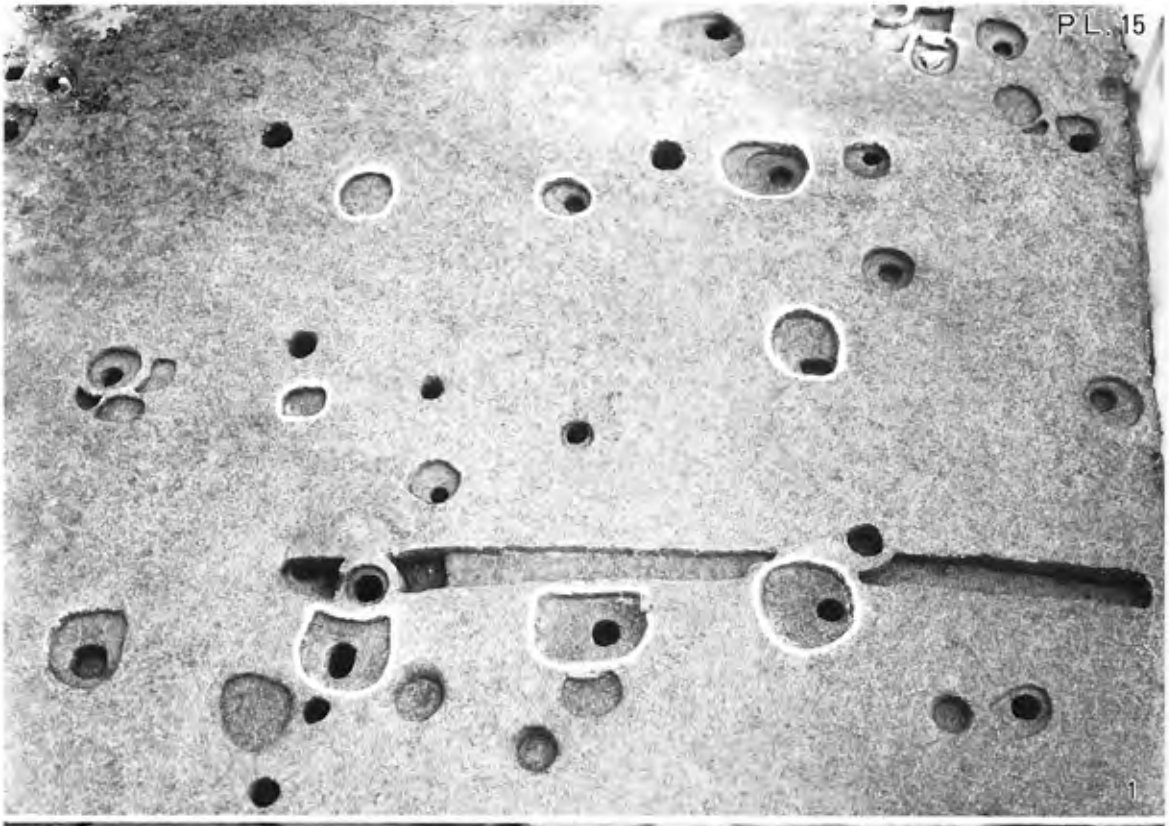
2　SI187
（北から）



3　SI188カマド
（北西から）



4　SI188
（東から）



1 SB197
（南から）



2 SK205
（北西から）



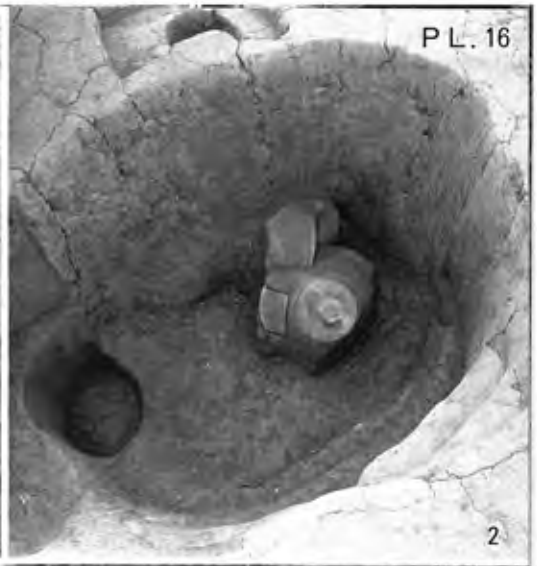
3 SK213
（南から）



4 SK213
（南から）



1 SK202
（南東から）



2 SK239
（北から）



3 SK243・SI175
SI179・186
（東から）



4 SK243南北土層
（南東から）



1 ＳＸ251
（北から）



2 ＳＸ251・ＳＩ166
（北から）



3 ＳＸ251周溝
東側土器出土状況
（西から）



4 ＳＸ251周溝
北東隅土器出土状況
（北から）



1　SD256・260
（北から）



2　SD257
（北西から）



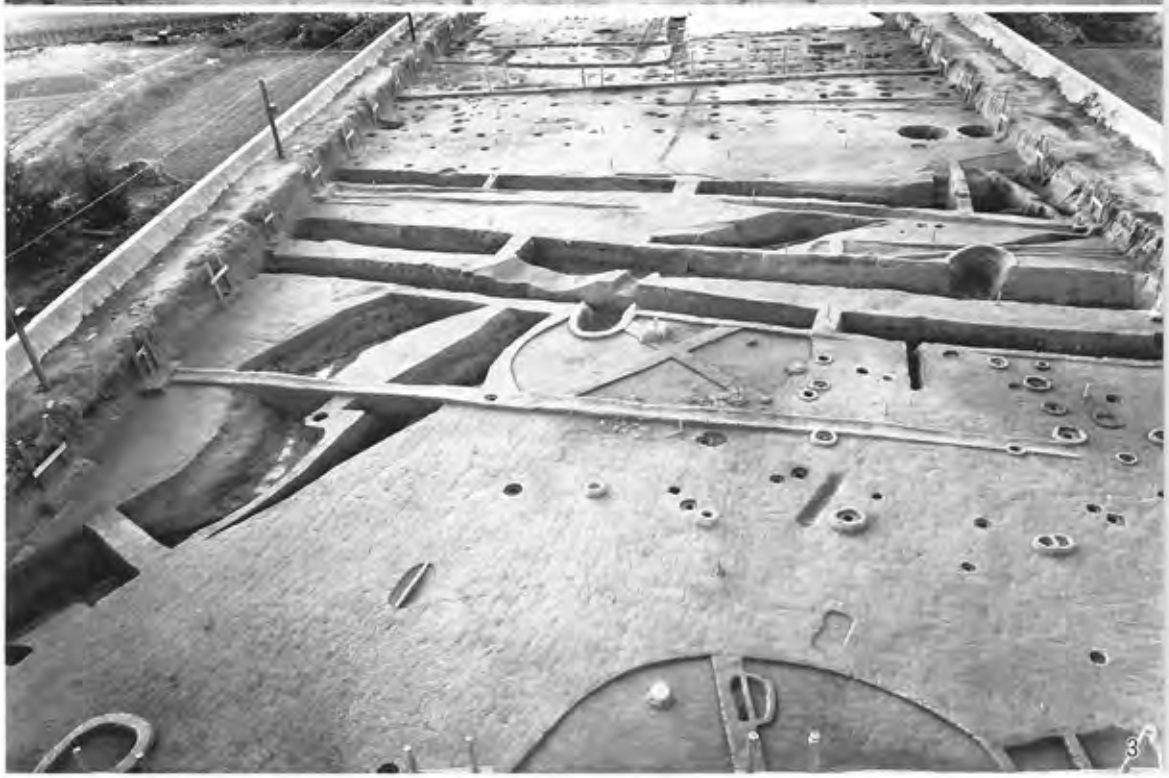
3　SD276
（北西から）



1 第ⅡA1区
上面全景
（西から）



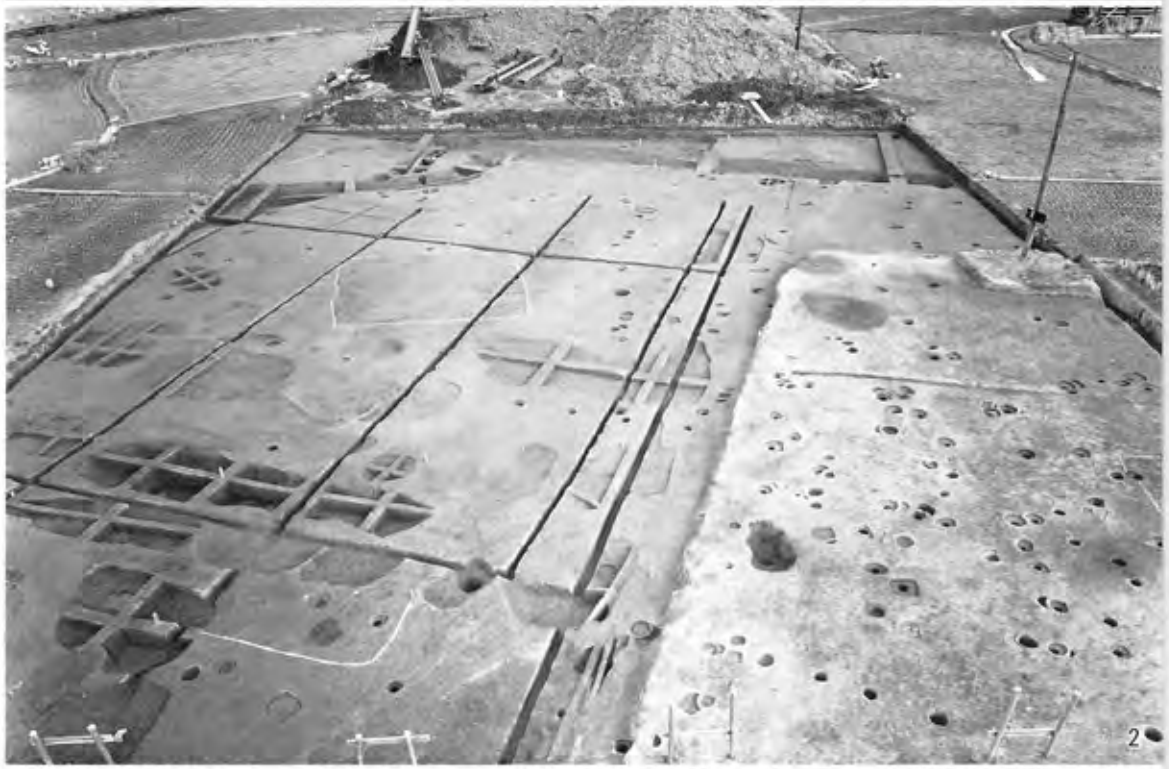
2 第ⅡA1区
上面全景
（東から）



3 第ⅡA2区
上面溝群
（東から）



1 第ⅡA3・4区
上面全景
（西から）



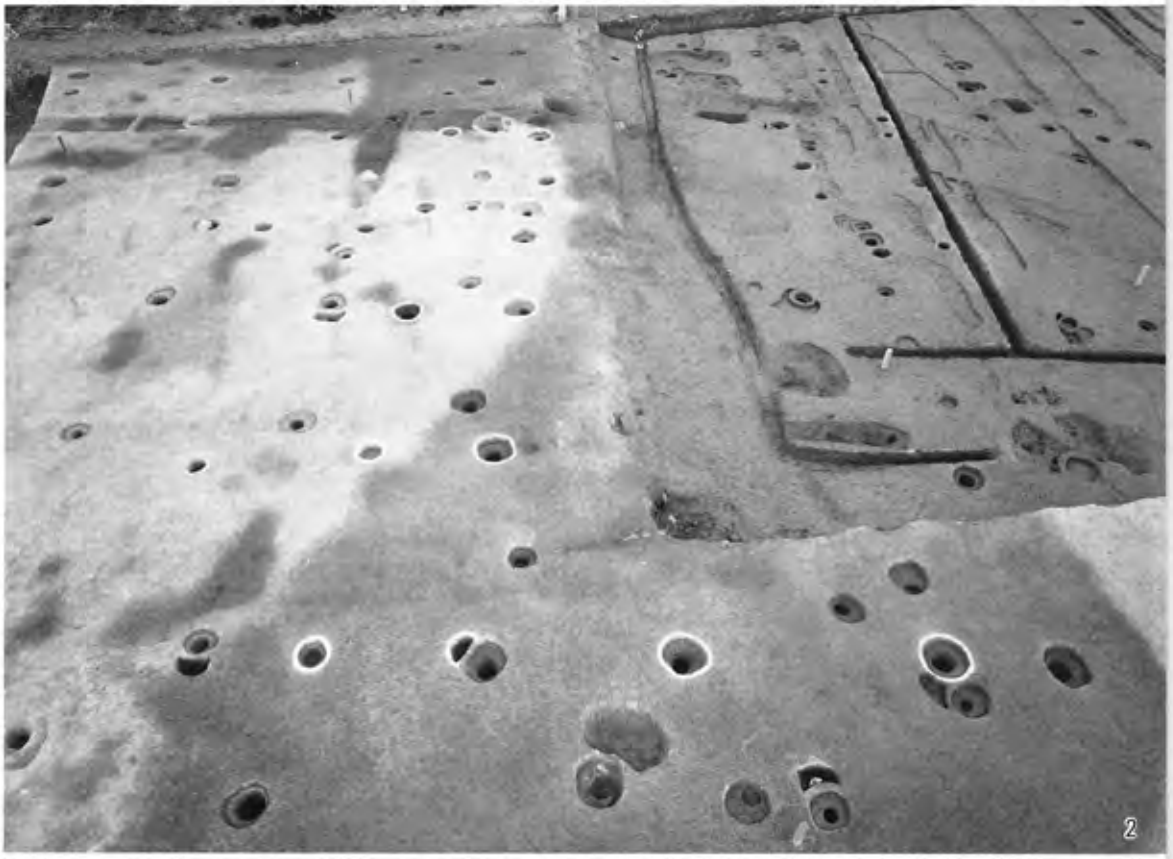
2 第ⅡA4区
上面全景
（西から）



3 SB281
（東から）



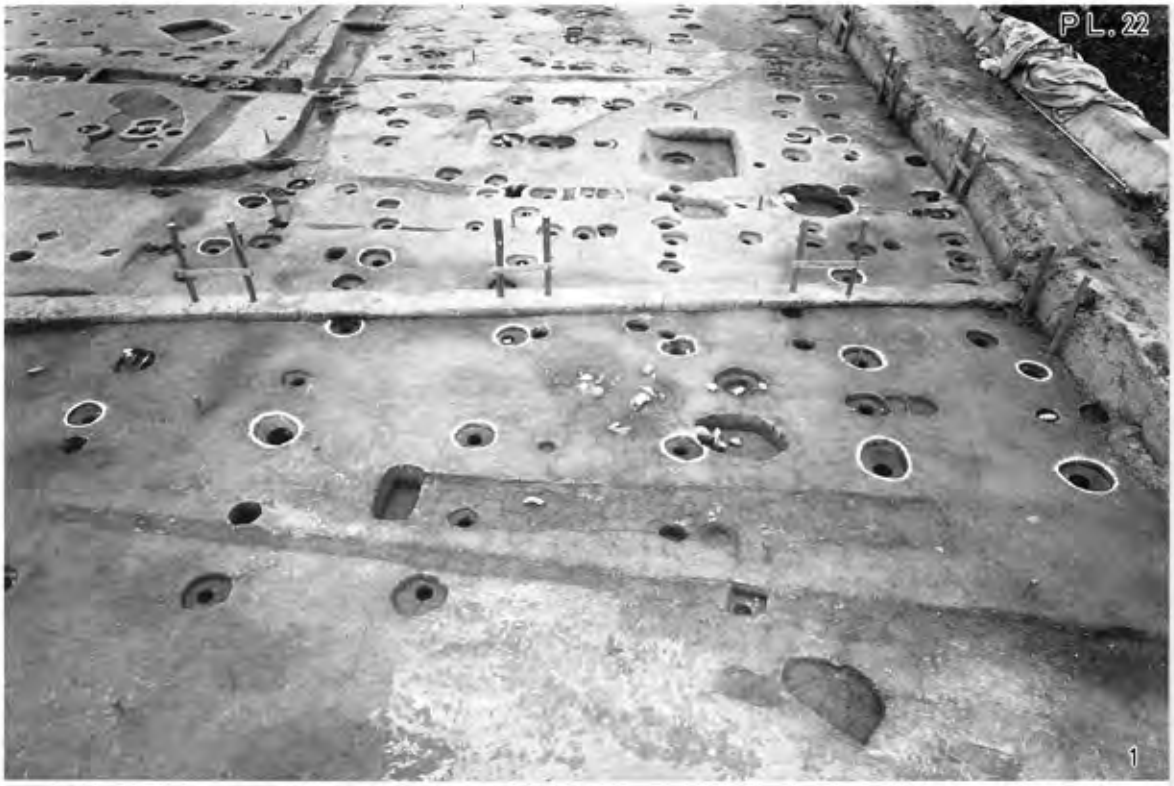
1 SB287
（北西から）



2 SB289
（南から）



3 SB291・298
（南から）



1 SB292
（東から）



2 SB293
（西から）



3 SB294
（北から）



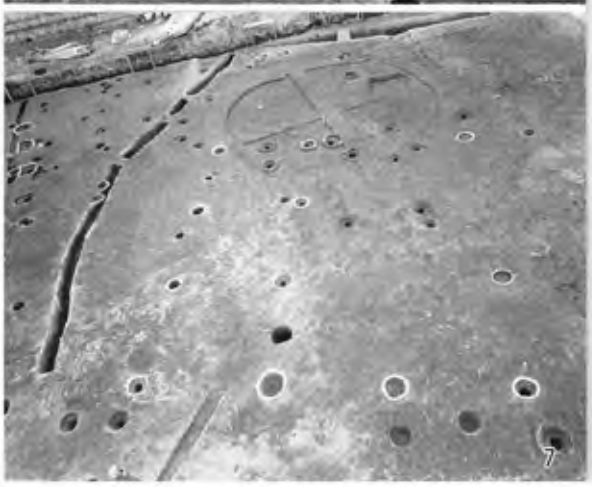
4 SB295・296
（東から）



5 SB297
（北から）



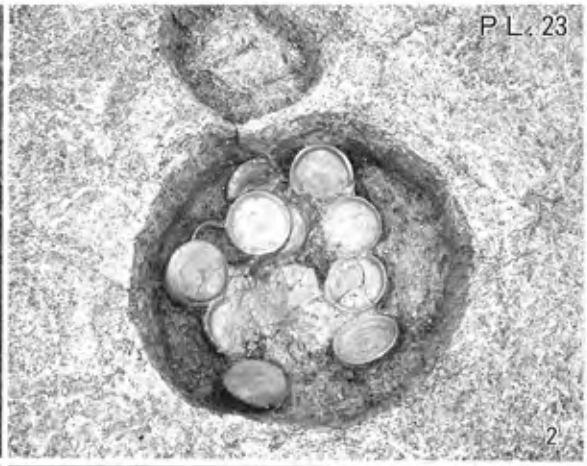
6 SB299
（北から）



7 SB300
（北東から）



1 SX411
（南から）



2 SX412
（南から）



3 SK372・390
近世土坑群
（南東から）



4 SK332・399
（西から）



5 SE416
（南東から）



6 SE418
（西から）



7 SE417
（北から）



1 ＳＤ470・469
（北から）



2 ＳＤ424南北土層
（東から）

3 ＳＤ470
南壁東西土層
（北から）

4 ＳＤ469
南壁東西土層
（北から）







1 SD450
（南から）





2 SD450東西土層
（北から）
3 SD478内集石遺構
（北西から）



4 SD478
（北から）



1　第ⅡＢ１区全景
（南東から）



2　ＳＲ546
（南から）



3　第ⅡＢ２区全景
（西から）



1 第Ⅱ B 3区全景
（東から）



2 SE566
（北から）



3 SE567
（東から）



4 SE568
（北から）



5 SE569
（北から）







1 下面全景（東から）

2 下面全景（西から）



1 第Ⅲ C 1・2 区
下面全景
（東から）



2 第Ⅲ C 3 区
下面全景
（東から）



3 第Ⅲ C 4・5 区
下面全景
（西から）



1 SI601
（東から）



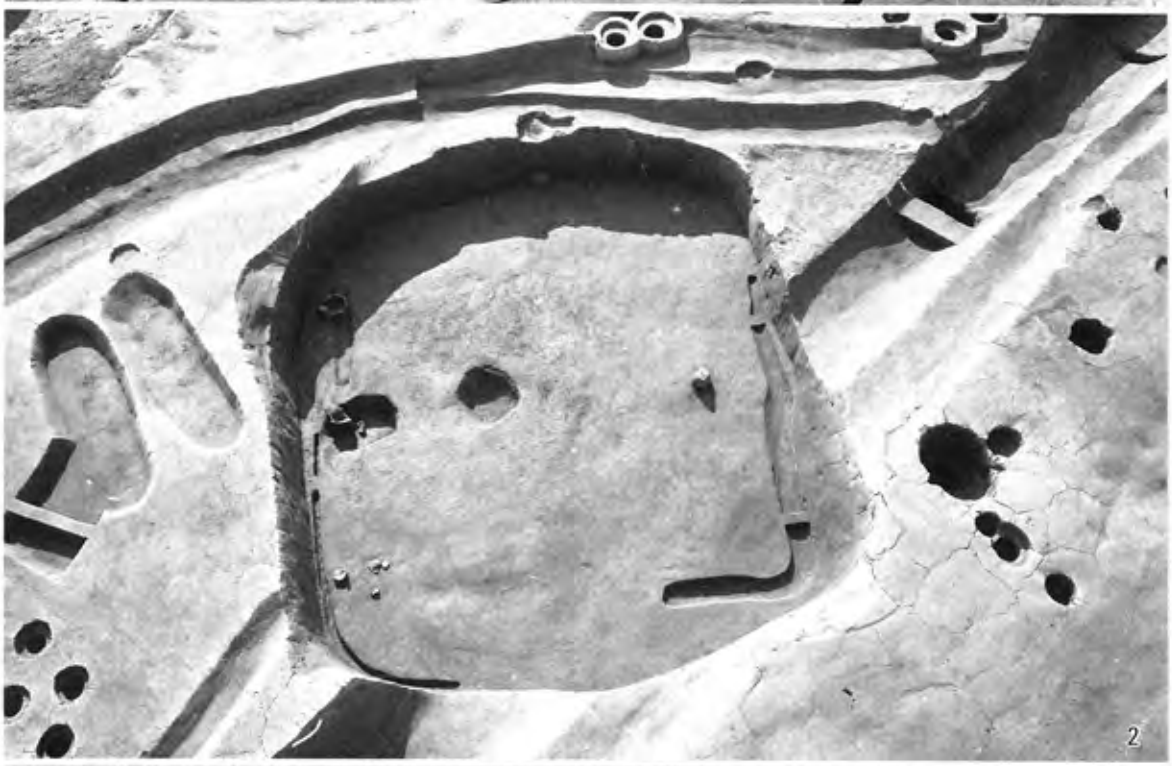
2 SI601
土器出土状況
（南東から）



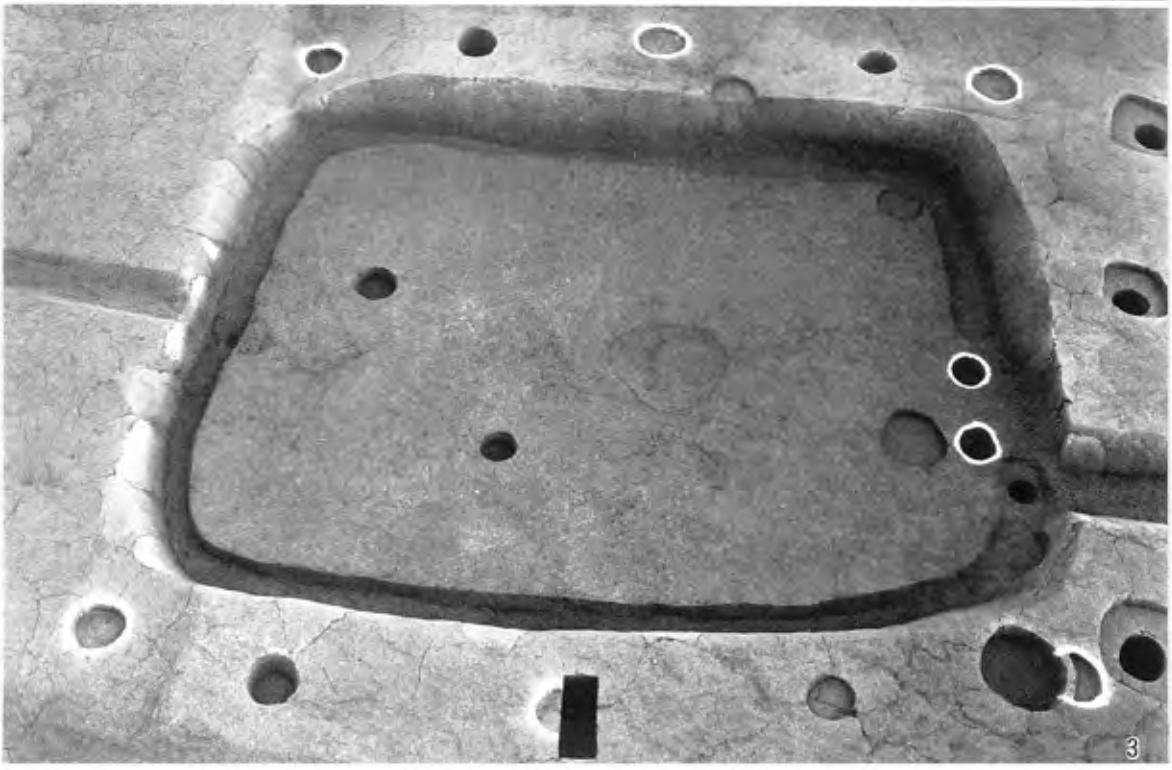
3 SI601北西側
ベッド状遺構
（南から）



1 SI602a
（南から）



2 SI603
（北東から）



3 SI604
（西から）



1 ＳＩ605
（北から）



2 ＳＩ605 北側
ベッド状遺構
（南東から）

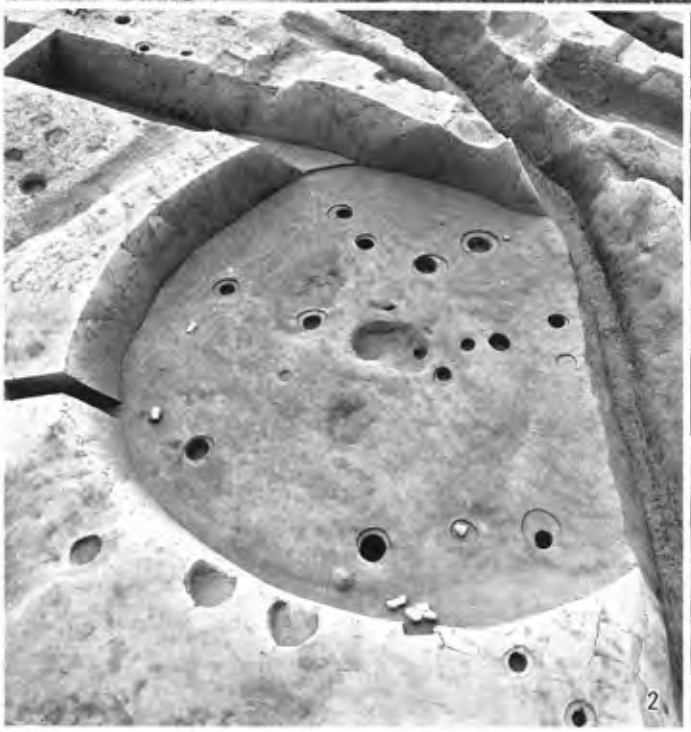




3 ＳＩ612
（南西から）
4 ＳＩ613
（南東から）



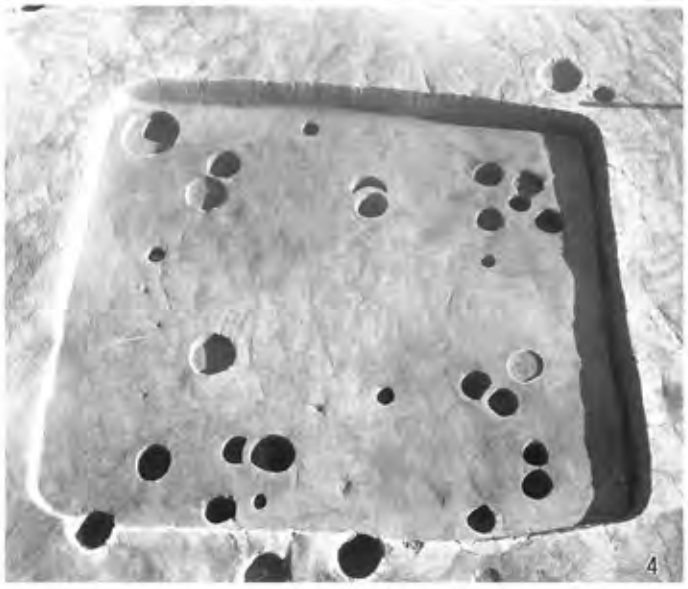
1 ＳＩ615遺物・
炭化材検出状況
（北東から）



2 ＳＩ617
（北から）



3 ＳＩ616
（東から）



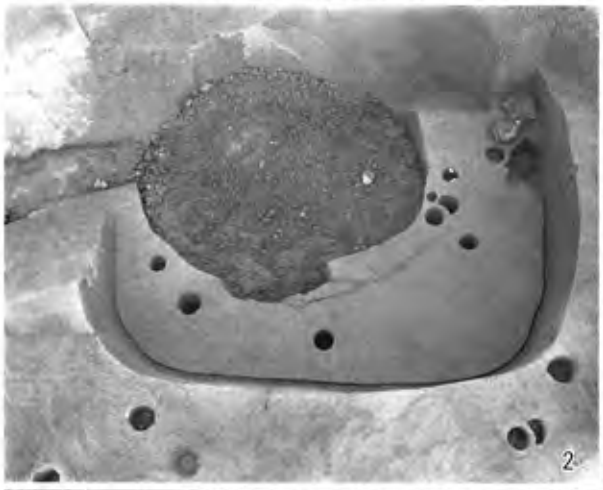
4 ＳＩ618
（北西から）



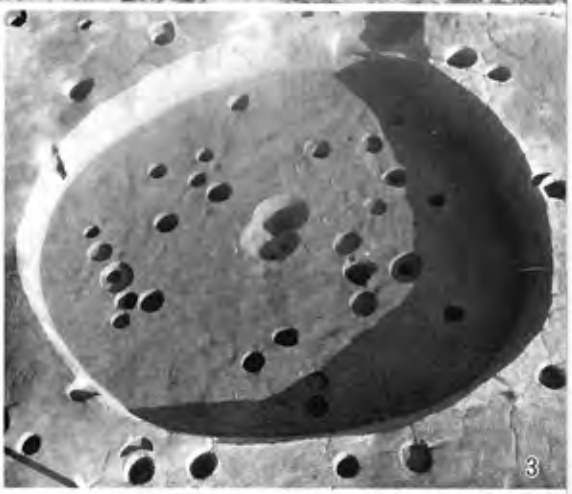
5 ＳＩ619
（北東から）



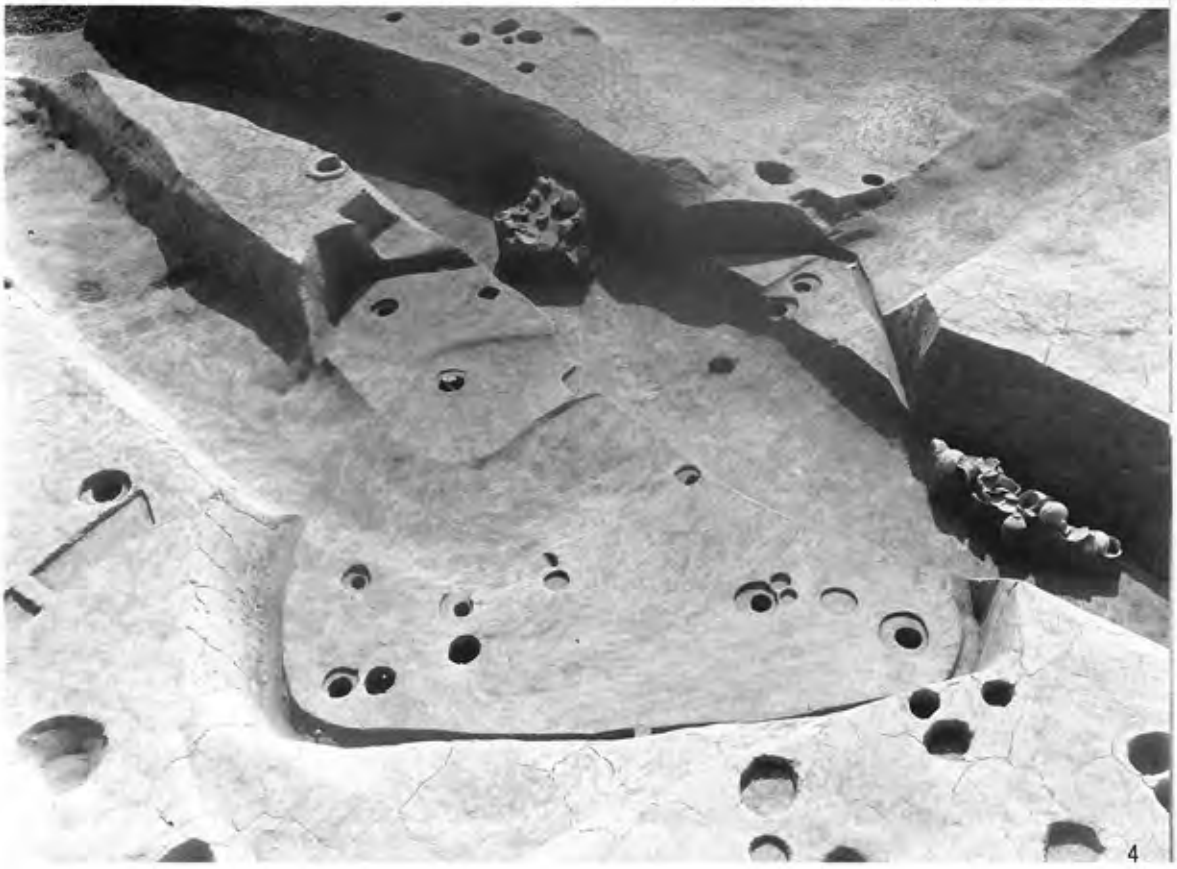
1 S I 606・621・624
（北から）



2 S I 620
（南西から）



3 S I 624
（北西から）



4 S I 623
（北西から）



1 SX672
（北から）



2 SX671
（東から）



3 SX673
（南から）



4 SX680完堀状況
（北西から）



5 SX680
土器出土状況
（南西から）



6 SX626
（南西から）



7 SX679
（南から）



8 SE669
（北から）



1　S D681・720
（北西から）



2　S D681
土器出土状況
（南から）



3　S D681
土器出土状況
（北から）



1 SD683・687
688・736
（南西から）



2 SD687
土器出土状況
（北西から）



3 SD702 下層
土器出土状況
（南から）



1 SD702 中層
土器出土状況
（西から）



2 SD702 中層
土器出土状況
（西から）



3 SD720・721
（北東から）





1 第ⅢC３～５区上面全景（西から）

2 ＳＤ900・902・905・910全景（北西から）



1 第Ⅲ C 3～5区
上面全景
（南東から）



2 第Ⅲ C 4・5区
上面全景
（西から）



3 ＳＢ774周辺
（南西から）



1 第Ⅲ C 2区
掘立柱建物全景
（南西から）



2 SB771・772周辺
（南西から）



3 第Ⅲ C 5区
上面全景
（北から）



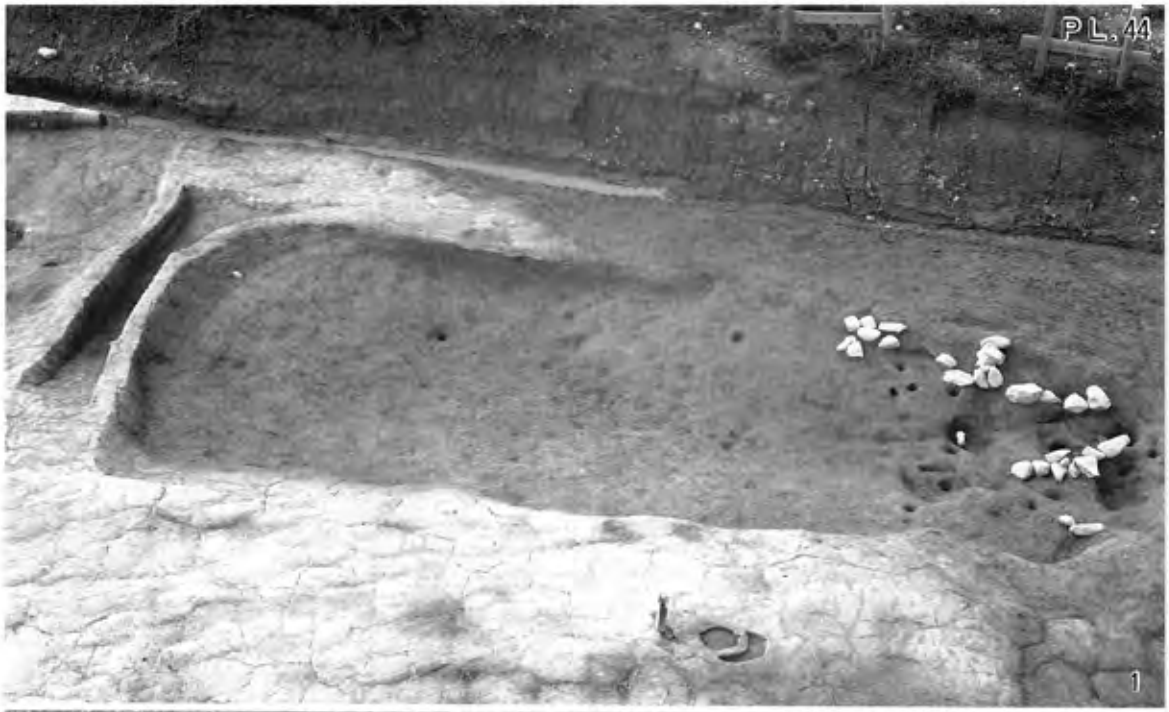
1 SB759・760
（南東から）



2 SB769
（南西から）



3 SB774
（南西から）



1 SG781・782
（南東から）



2 SK819
土器出土状況
（南から）



3 SX859
（西から）



1 SX851
（南東から）



2 SX853
（北から）



3 SX857
（北西から）



1 ＳＸ851
土器出土状況
（北東から）



2 ＳＸ856
（西から）



3 ＳＸ858
（西から）



4 ＳＸ869
（東から）



5 ＳＥ871南北土層
（東から）



6 ＳＥ871曲物
（西から）



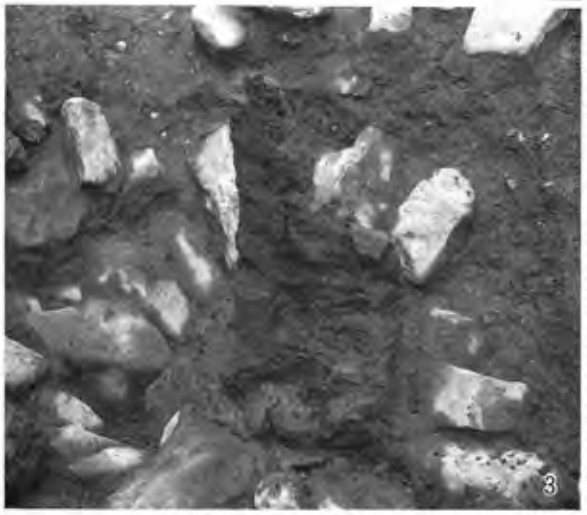
7 ＳＥ871竹・桶
石組細部
（北西から）



1 ＳＥ872
（北東から）



2 ＳＥ872
釣瓶検出状況
（北西から）



3 ＳＥ872
竹検出状況
（東から）



4 ＳＥ872井筒
（北東から）



5 ＳＦ876集石
（南西から）



6 ＳＦ876
板材検出状況
（南西から）



1 ＳＥ877石組み
（南から）



2 ＳＥ875
（北から）



3 第ⅢＣ３区
西端溝群
（南西から）



4 ＳＤ686・736（882）
（東から）



5 ＳＤ737・739
（北東から）



1 ＳＤ739
土器出土状況
（北西から）

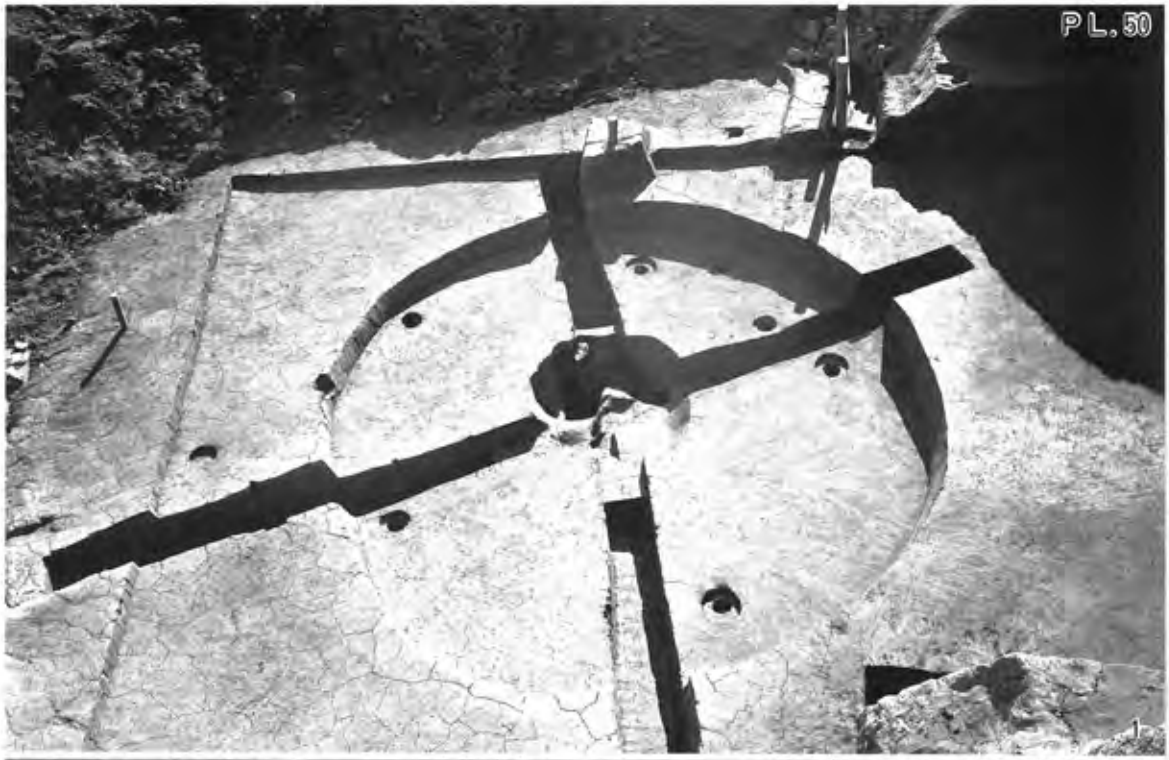


2 ＳＤ886
（東から）
3 ＳＤ886
土器出土状況
（北から）
4 ＳＤ898
（南西から）
5 ＳＤ898・899
（北東から）









1 ＳＩ926
（南東から）



2 全景
（東から）



3 ＳＤ936
土器出土状況
（南東から）


4


5


6


13


14


21


22


23


24

第106図
第107図


25


30


35


36


46


47


48


54


55


56

第107図
第108図



61



83



64



65



86



72



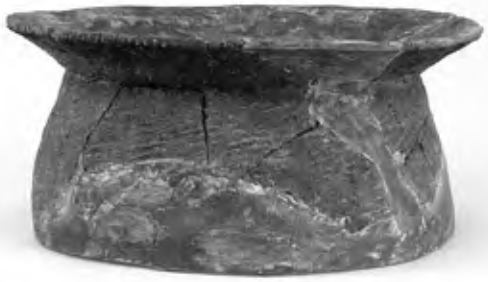
73



93



97



98



109

上層
61・64・65
72・73
最上層
83・86・93
97・98・109

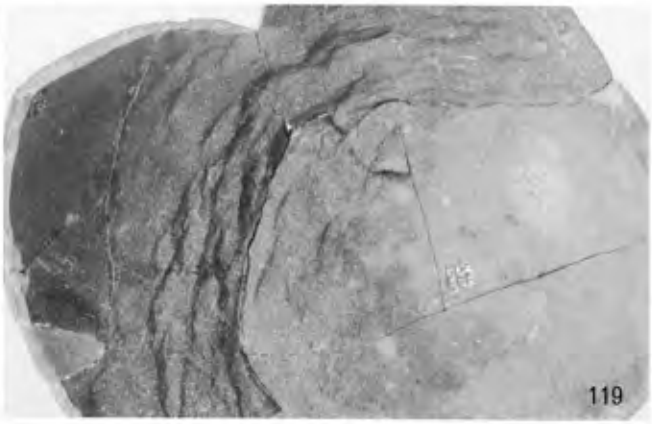
第109図
第110図


115


120


119


121


119


121


122


130


127


116


135


136

ＳＤ14
119
ＳＤ18
115・116
ＳＤ127
120～122
ＳＩ136
127・130
135・136

第111図



146





147



150



148



158



149



149

第112図
第113図


187


188


229


238


242


207


244


245


250


251


254


257


258


286


270


276


278

SＫ36
187・188
SＢ41
207
柱穴
229・238
242・244
245
SＥ91
250・251
254・257
258・270
276・278
286

第115図
第116図
第118図


291






296


293


299


297


310


316


318


328


329


330


332


334


335


336


337


339

SＥ92
291・293
296・297
299
SＤ96
310・316
318
328～330
332
334～337
339

第119図


343


344


345


347


348


349


350


353


351


363


356


357


358


359


365


366

第120図


380


382


388


389


390


391


397


394


395


396


399


384


386


387

第121図

SD102B溝・A溝・第3層・第1層出土土器


416


429


419


430


431


433


434


437


448


449


455


474


475


476


456


458


459


460


461


480

B溝
416・419
A溝
429・430
431・433
434・437
第3層
448・449
455・456
458～461
第1層
474～476
480

第122図
第123図


491


494


496


498


499

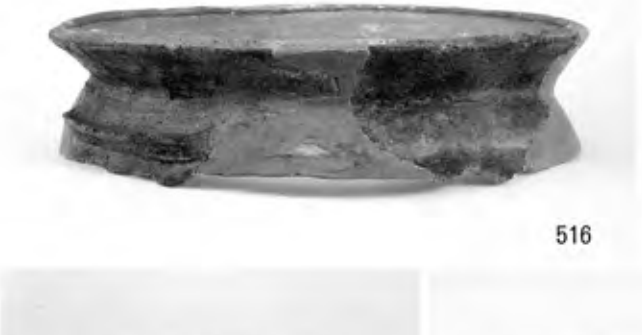

500


508


510


513


514


516


519


503


504


506

第124図

第ＩＡ区　ＳＤ102 最下層～最上層出土土器


527


528


529


531


534


537


538


540


541


549


550


551


543


544


546


552


553


554

最下層
527
下層
528・529
531・534
上層
537・538
540・541
543・544
546・550
551～554
最上層
549

第125図


595


602


604


607


608


617


635


639


640


646


647


652


649


655


658


660


662


664


665


666


667


668

ＳＤ111
595・602
604・607
608・617
ＳＤ112
635・639
640
ＳＤ113
646・647
第ＩＡ区
包含層
652・655
664～668
第ＩＤ区
包含層
649・658
660・662

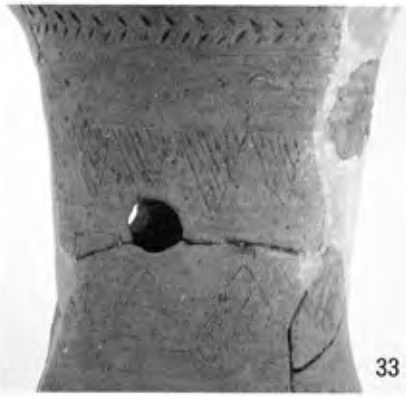
第126図
第127図


19


33


12


17


33


34


35


36


57


50


71

SI161
12
SI162
17・19・33
SI163
34～36
50・57
71

第133図
第134図
第135図


39


40


49


58


72


53


54


70


77

第134図
第135図


79


80


88


94


95


113


118


101


86

第 136 図
第 137 図



97



102



105



104



124



121



106



107



126



110

第136図
第137図


129


154


130


131


146


134


140


135


139

第138図
第139図


141


149


150


143


166


144


145


172


173


175


191

SI165
141・143
144・145
149・150
166
SI166
172・173
175・191

第138図
第139図
第140図



176



177



184



197



200



188



211



206

SI166
176・177
184・188
197・200
SI167
206・211

第139図
第140図
第141図


217


219


228


229


231


234


235


237


238


246


251

S I 167
217・219
228・229
231
S I 168
234・235
237・238
S I 186
246・251

第 141 図
第 142 図



257



258



259



260



263



266



268



271

第 142 図
第 143 図


276


277


278


279


291


297


304


306


325


327

S I 175
276～279
S I 170
291・297
S I 171
304・306
S I 172
325・327

第 143 図
第 144 図
第 145 図


335


337


338


339


342


344


346


352


348


348

第145図
第146図



362



363



366



369



367



371



373



372



375



382

第146図
第147図


384


386


396


395


410


411


414


412


413


416


417

第 147 図
第 148 図


415


419


421


422


449


453


429


446


531


450


458

S I 174
415・419
421・422
S I 178
429
S I 179
446・449
450・453
S I 180
458
S I 192
531

第148図
第149図
第150図
第151図


478


472


486


491


493


498


512


517

S I 182
472・478
S I 184
486・491
493
S I 185
498
S I 188
512
S I 189
517
S I 190
519
S I 192
525

第150図
第151図


519


525


538


543


540


548


548


552


549


559


567


570


568

柱穴
538・540
543
SK205
549・552
SK207
559
SK208
548
SK209
567
SK213
568・570

第153図
第154図
第155図


569


573


574


590


597


596


601


599


598

S K213
569・573
574
S K232
590
S K235
596～598
S K239
599・601

第 155 図
第 156 図


605


606


608


609


615


616


617


625

第157図
第159図


619


622


623


624


627


629

第158図
第159図


631


634


635


636


640


637


643


644


646


647

第160図


638


667


668


672


678


682


704


705


710


711


712


719


713


720


719

第161図


722


724


733




737


735


736


741


749


751


753

第162図


756


757


767


766


780


771


793


776

SK243
756・757
766・767
771・776
SK502
780・793

第162図
第163図
第164図


809


811


812




813


814

第 165 図


815


827


828


833


834


835


829


830

第166図


843


844


845


851


849

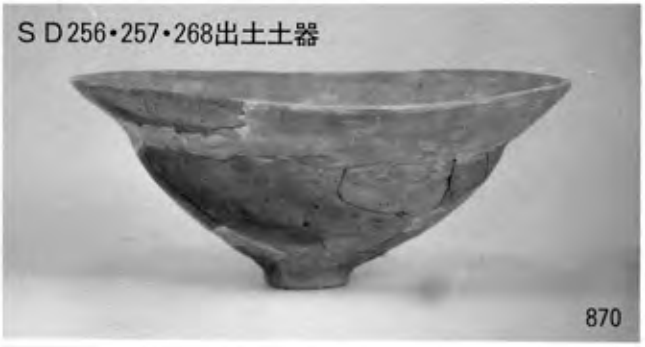

852


862


869

第167図
第168図

S D256・257・268出土土器


870


879


888


902


872


889


891


892

S D256
870・872
879
S D257
888・889
891・892
S D268
902

第168図
第169図


908


909


910


922


937


924


941


931


947


934

S D528
908
S D530
910
S D532
909
S R546
922・924
931・934
937・941
947

第 170 図
第 171 図


948


965


974


978


955


970


984


989


997

地山直上層

第 172 図
第 173 図


1130


1108


1124


1167


1109


1126


1127


1131


1132


1136


1164


1163


1181


1185


1199


1201


1171

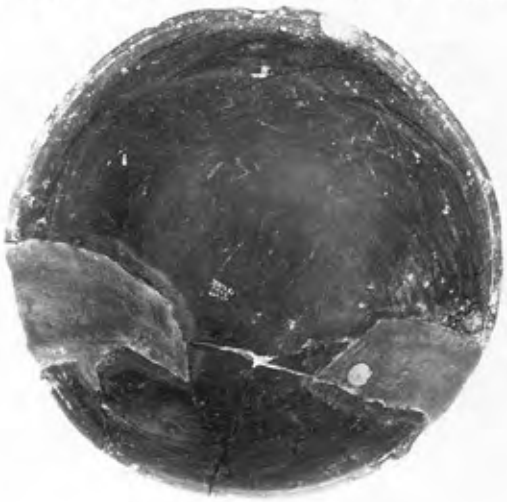

1200


1203


1173

S B 281
1108・1109
S B 291
1124・1126
1127・1130
1136
S B 292
1163
S B 296
1164
S B 298
1185
柱穴
1199～1201
1203
S X 411
1131・1132
S X 412
1167・1171
1173・1181

第 179 図
第 180 図




1195


1224


1193


1227


1254


1265


1260


1313




1229


1232


1214


1235


1245


1263


1266

柱穴
1193・1195
SK311
1214
SK365
1224・1227
1229
SK387
1232・1235
SK390
1245
SE416
1254・1255
1260・1263
1266
SE417
1313

第180図
第181図
第183図


1314


1315


1316


1318


1325


1327


1328


1332


1335


1336


1337


1338


1340


1341

第184図
第185図


1350


1354


1356


1357


1358


1359


1348


1349


1362


1365


1367


1364


1366


1369


1372


1375


1374

第185図


1381


1382


1386


1387


1390


1391


1393


1401


1405


1410


1414


1415


1416


1418


1421

第186図
第187図


1426


1430


1432


1436


1437


1441


1467


1472


1508


1450


1452


1485

SE417
中層
1426・1430
1432・1436
1437・1441
1450・1452
1449・1454
1455・1461
上層
1467・1472
1477・1480
1485
SE566
1508

第187図
第188図
第189図


1449


1454


1455


1461


1477


1480


1537


1559

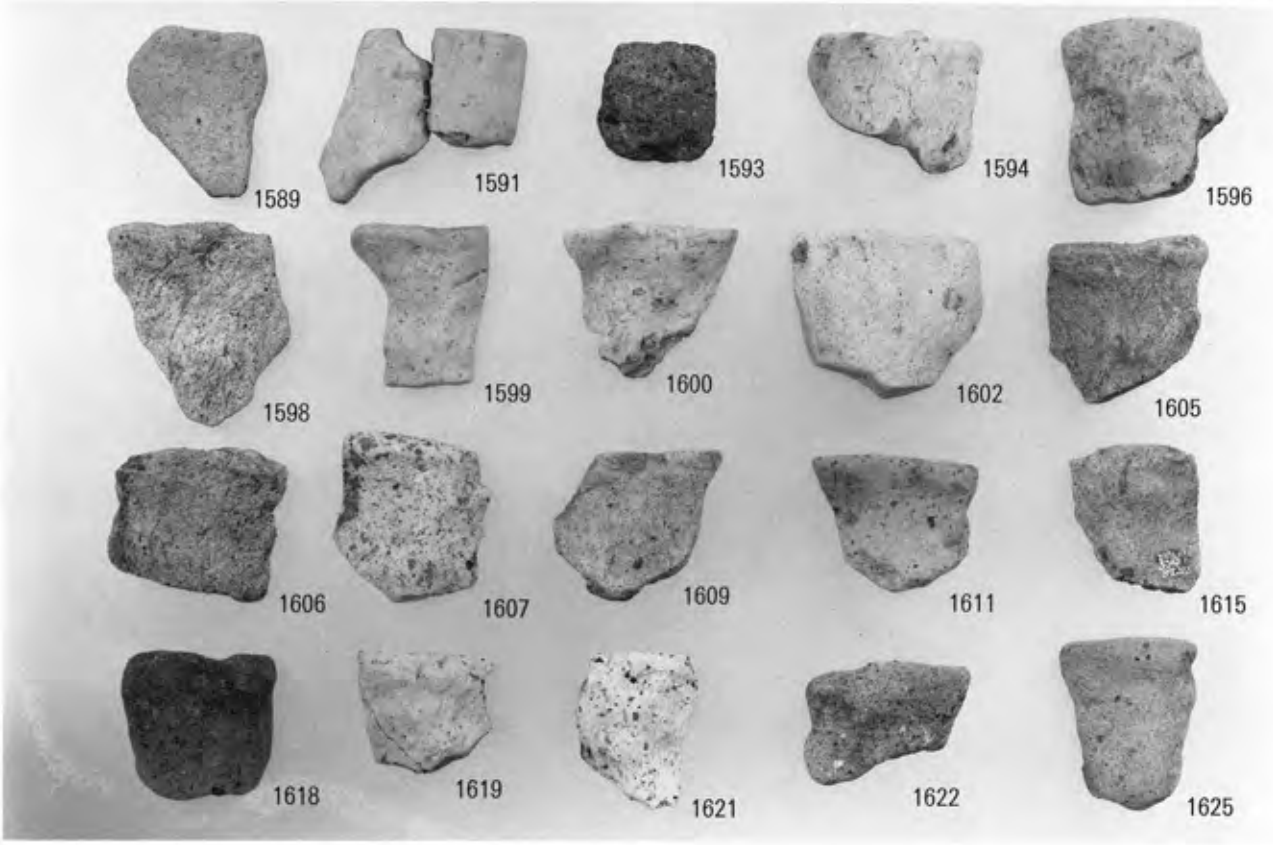

1526


1566


1567


1544


1574



SD424
下層
1537・1544
1599・1602
1605・1607
1609・1611
1615・1621
中層
1559・1566
1567・1591
1598・1600
1606・1618
1619・1622
1625
上層
1574
埋土
1526・1589
1593・1594
1596
SD425
下層
1632
上層
1650・1651
埋土
1527

第190図
第191図
第192図
第193図
第194図


1650


1527


1632


1651


1639


1641


1655


1659


1660


1680


1666


1663


1665


1668


1671


1673


1674


1676


1677


1684

下層
1639・1641
上層
1655・1659
1660
埋土
上記以外

第193図
第194図


1688


1689


1692


1693


1528

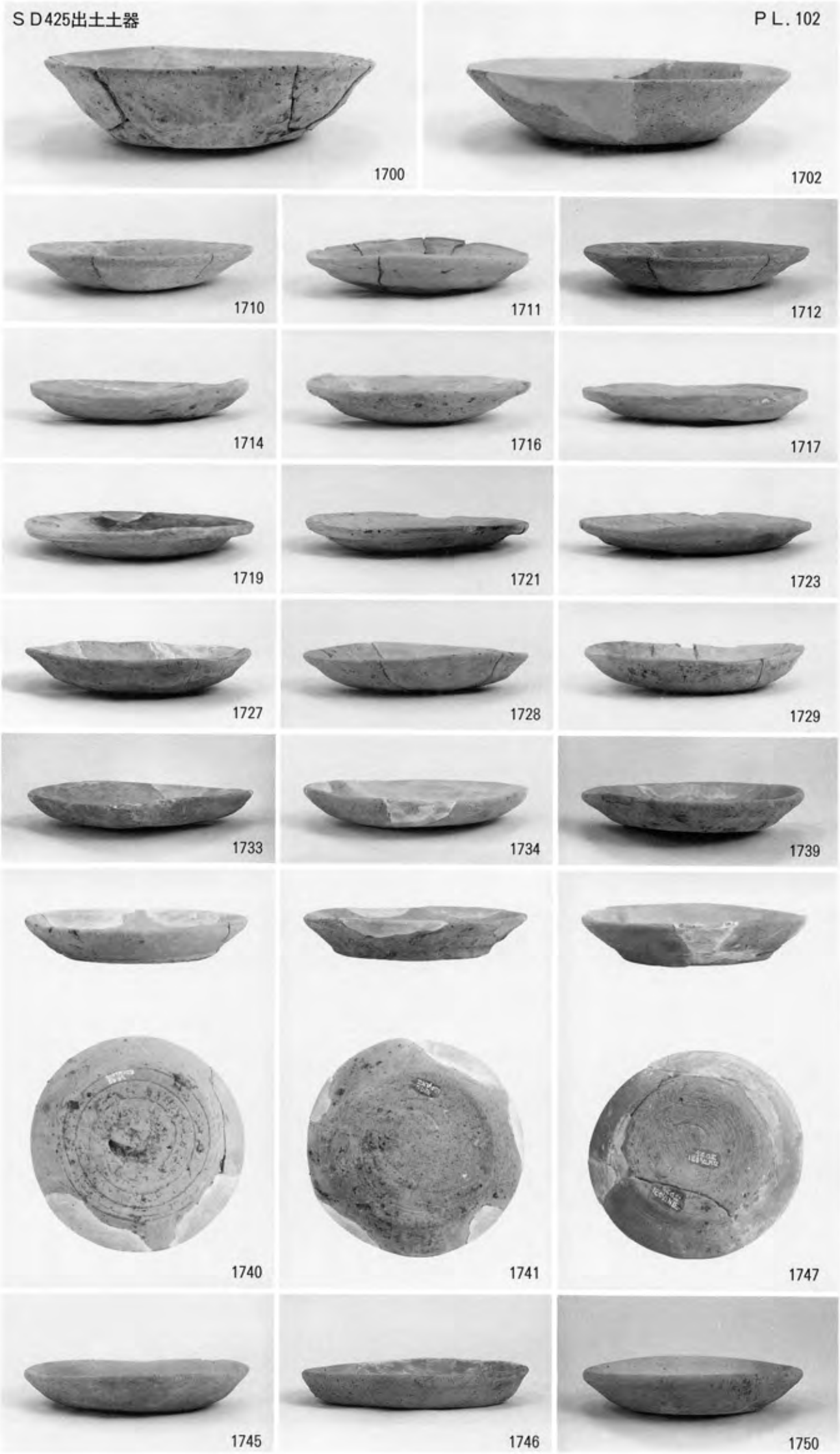

1643


1699


1701

下層
1643
埋土
上記以外

第191図
第193図
第194図
第195図


1700
1702
1710
1711
1712
1714
1716
1717
1719
1721
1723
1727
1728
1729
1733
1734
1739
1740
1741
1747
1745
1746
1750

埋土

第195図

S D271・277・426・428・440・441・445・450出土土器


1759


1760


1790


1792


1798


1762


1763


1768


1769


1796


1797


1800


1802


1818


1835


1839


1840


1836


1847


1837

S D271
1759
S D277
1760
S D426
1762・1763
S D428
1768・1769
S D440
1790・1792
1796・1797
S D441
1798・1800
1802
S D445
1818
S D450
1835～1837
1839・1840
1847

第196図
第197図


1852


1854


1858


1859


1860


1861


1862


1863


1885


1889


1891


1892


1880


1881


1882

第198図


1896


1902


1903


1905


1906


1907


1908


1909


1911


1926


1931


1942


1956


1937


1938


1945


1946


1947


1961


2001


2002

S D452
1896・1902
1903
1905～1909
1911
S D453
1926・1931
1937・1938
1942
1945～1947
S D469
1956・1961
S D594
2001・2002

第 199 図
第 200 図
第 201 図


2016


2026


2027


2028


2029


2034


2038


2047


2056


2058


2061


2063


2067

地山直上層
2026・2027
2058・2087
遺構面直上層
上記以外

第 201 図
第 202 図
第 203 図


2073


2080


2087


5


6


11


10


13


22


16


25

第 209 図


29


30


31


33


37


49


62


61


64

S I 602
29・30・31
33・37・49
S I 603
61・62・64

第 210 図
第 211 図


74


93


122


126


134


132


135


140

S I 605
74
S I 606
93
S I 614
122・126
S I 615
132・134
135・140

第 211 図
第 212 図
第 213 図


153


160


171


179


157


168


177


197

S I 617
153・157
160・168
171・177
S I 619
179
S I 620
197

第 214 図
第 215 図


208


221


220


227


228


229


234


235


241


242


250

S I 621
208
S I 623
220・221
227～229
234・235
S I 624
241・242
250

第 215 図
第 216 図
第 217 図


263


279


236


288


307


274


280


284


291


306

S K626
263・274
S K627
279・280
284
S K628
286・288
291
S X673
306・307

第 218 図
第 219 図



309



310



311



313



317



314



318



321

第 220 図


324


327


331


332


326


328


330

第 221 図

ＳＤ681中層出土土器



333



335



336



340



344



341

第 221 図
第 222 図


345


347


343


349


350


352

第 223 図



354



356



359



360



364



367



368



370

第 223 図
第 224 図


376


377


379


380


378


383

上層
377～380
383
埋土
376

第 225 図
第 226 図

第Ⅲ C区　SD681上層・埋土出土土器

PL. 119


386


388


389


394


397


398


400


403

上層
386・388
389・394
398・400
403
埋土
397

第 226 図
第 227 図



405



406



414



413



418



417



425



426

第 228 図
第 229 図



458



459



462



466



465



468



469

第 230 図
第 231 図


470


472


474


477


476


478


480


483

第 231 図
第 232 図



482



486



487



488



493



494

第 232 図
第 233 図


495


496


491


497


500


502


503


505

第 233 図



509



512



516



518



519



520



523



523

第 234 図



525



527



529



535



526



528



532



535

第 235 図
第 236 図



538



541



542



544



545



546

第 236 図
第 237 図


549


548


551


552


553


557


560


564

第 237 図
第 238 図


562


562


575


581


565


567


570


578


582

第 238 図
第 239 図


618


626


625


627


630


632


642


634

第 241 図
第 242 図


681


679


682


685


686


691


694

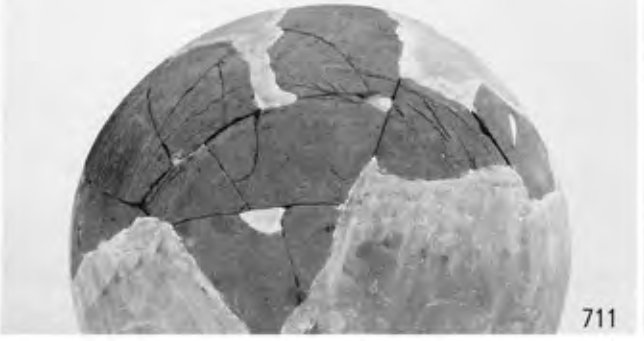

699


705


704


710

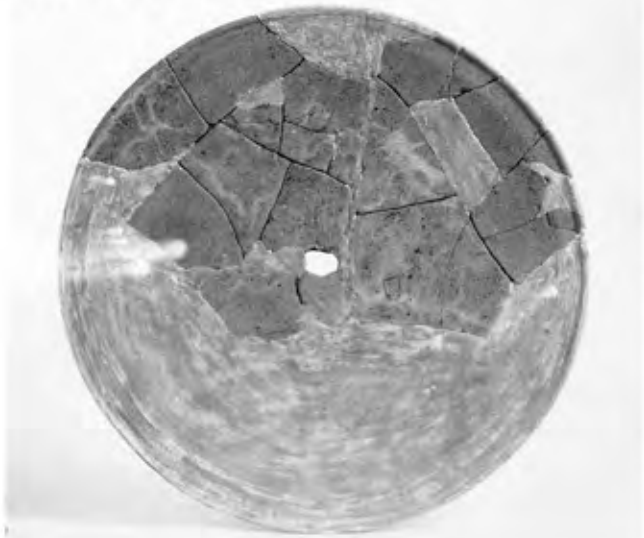



711


712

S K732
679
S K734
682・685
686
S K753
691
S D739
694
S D740
699
S D741
704・705
710・711
712
S D742
681

第 245 図
第 246 図




715


722


737


709


735


736


738


717


740


741




734


744


742


745


750


753

S D741
709・715
717・722
734～738
740～742
744・745
S D755
750・753

第 246 図
第 247 図


770


779


783


794


797


878


826


881


882


781


790


791


799


800


805


795

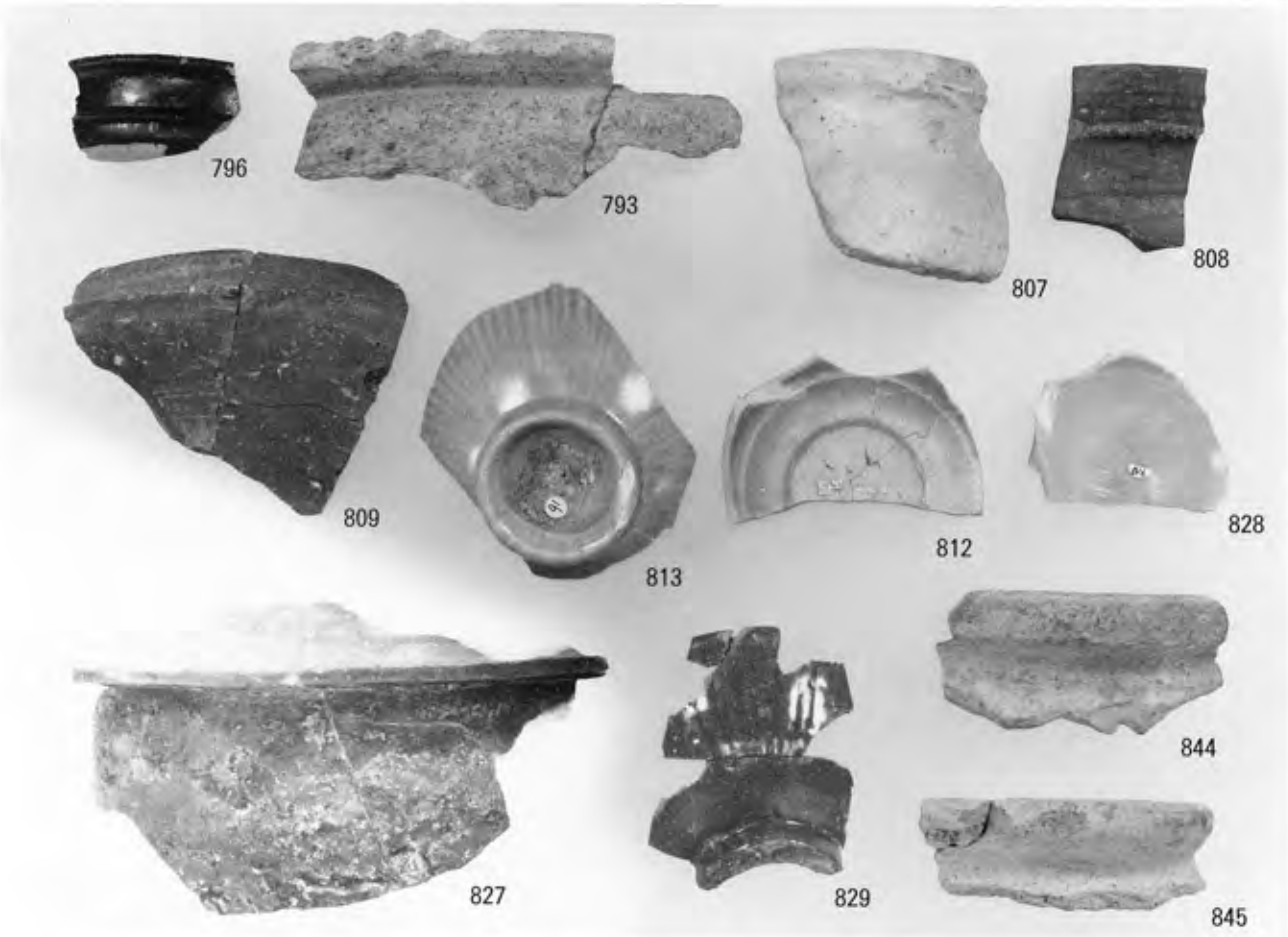

822

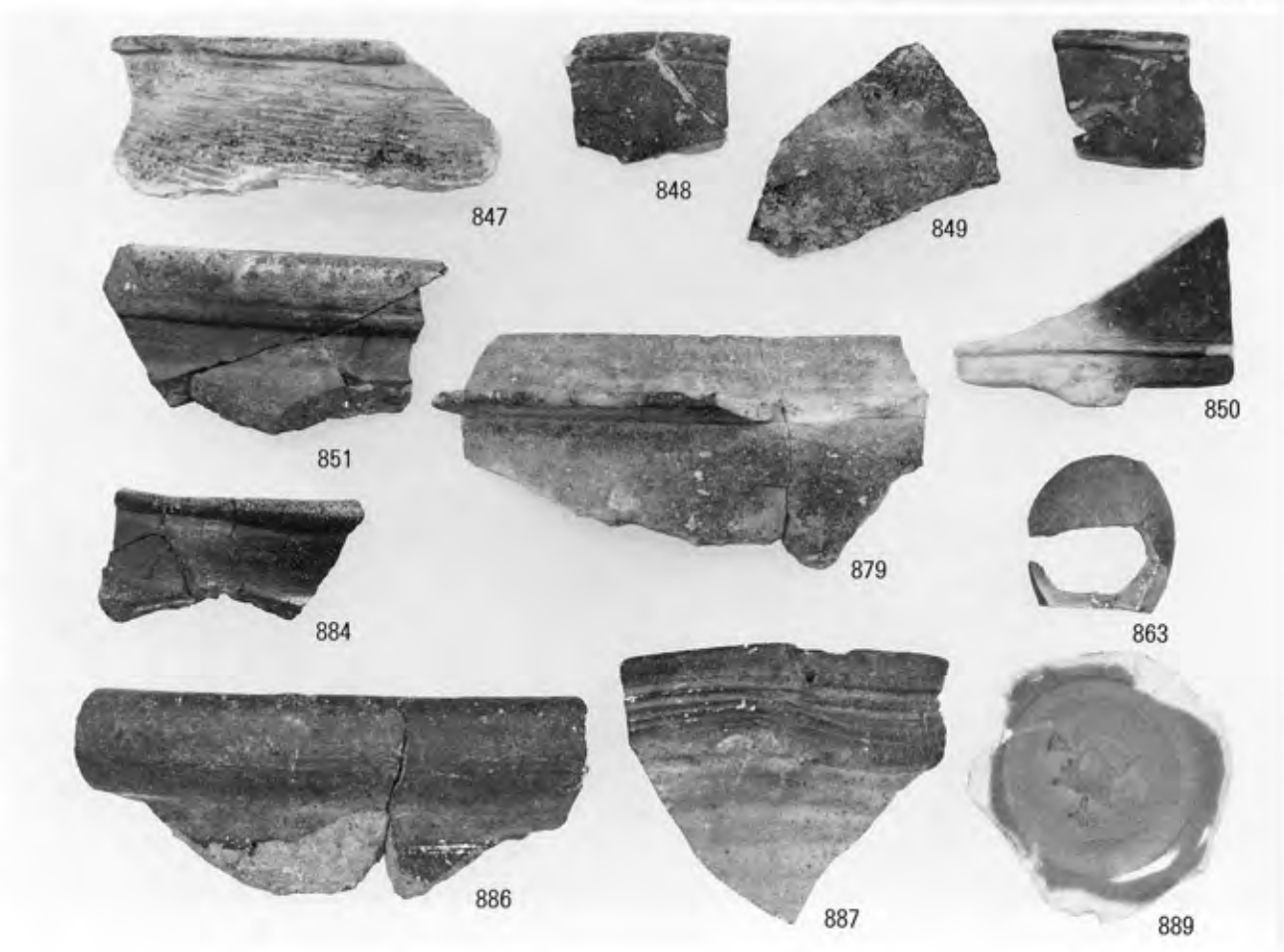
S B760
770
S B763
779
S B767
783
柱穴
781
S G781
790・791
794・795
S G782
797・799
800・805
S G783
822・826
S G784
878・881
882

第 248 図
第 249 図
第 250 図

S G781・782・783・784出土土器







S G781
793・796
S G782
807～809
812・813
S G783
825・827～
829・831
836・844
845・847～
851
S G784
852・853
858・863
879・884
886・887
889

第 248 図
第 249 図
第 250 図


890


891


892


894


893


897


899


902

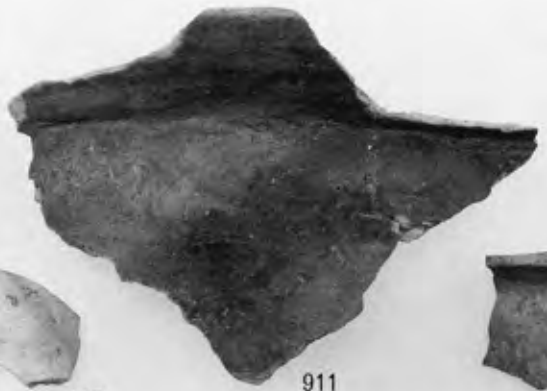

903


904


906


929


900


911


915


907


910


918


919


920

S K787
下記以外
S K789
929

第 251 図
第 252 図



S K819 各種皿

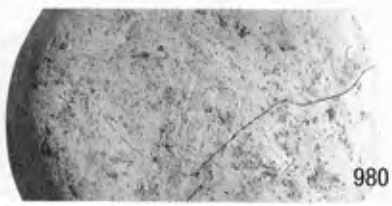




























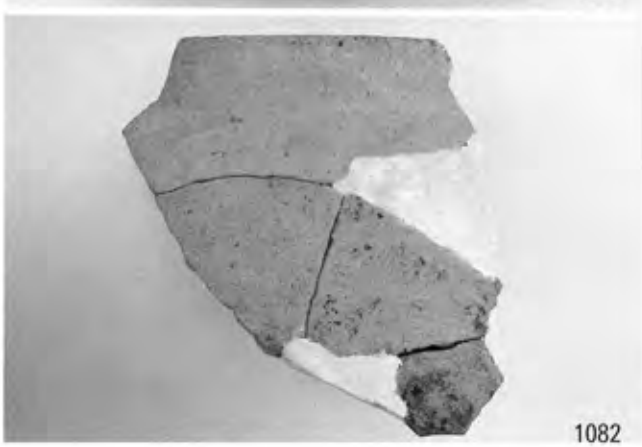












S K819
下記以外
S K845
1082・1083

第 253 図
第 254 図
第 255 図


1084


1085


1086


1087


1089


1094




1095


1098


1088


1099

S X851
1084～1087
S K853
1088
S X854
1089
S X856
1090・1091
1093
S X857
1094
S X858
1095・1098
1099


1093


1090


1091

第 256 図


1120


1121


1129


1130


1128


1134


1139

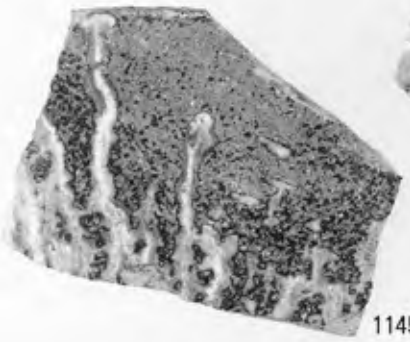

1140


1144


1149


1147


1153


1145


1150


S E874


1146


1155


1160


1163


1166


1110


1171


1174


1188


1186


1188

S X869
1110
S E871
1120・1121
1128～1130
S E872
1134・1139
1140
S E874
1144～1147
1149
S E875
1150
S E877
1153
S F876
1155・1160
1163・1166
1171・1174
1186・1188

第256図
第257図
第258図
第259図


1168


1173


1169

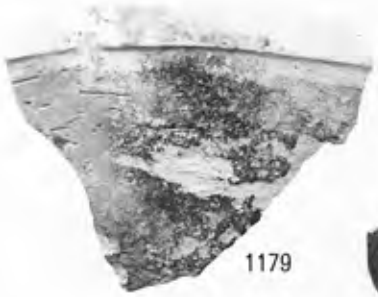

1176


1172

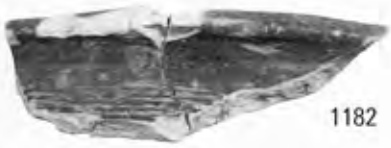

1170


1175


1177


1179


1181


1182


1184


1183


1180

1185


1191


1190


1192


1193


1210


1196


1211

S F 876
下記以外
S D 881
1193
S D 882
1196
S D 885
1210・1211

第 258 図
第 259 図


1215


1216


1217


1219


1220


1221


1224


1225


1228


2132


1234


1241


1243


1245

第 260 図




1258


1255


1252


1279


1287


1277


1292


1303


1301


1306

S D886
1252・1255
1258・1277
1279
S D886落ち
1287・1292
落ち込み
1301・1303
1306・1313
1317～1319
1321・1322

第 261 図
第 262 図


1313


1317

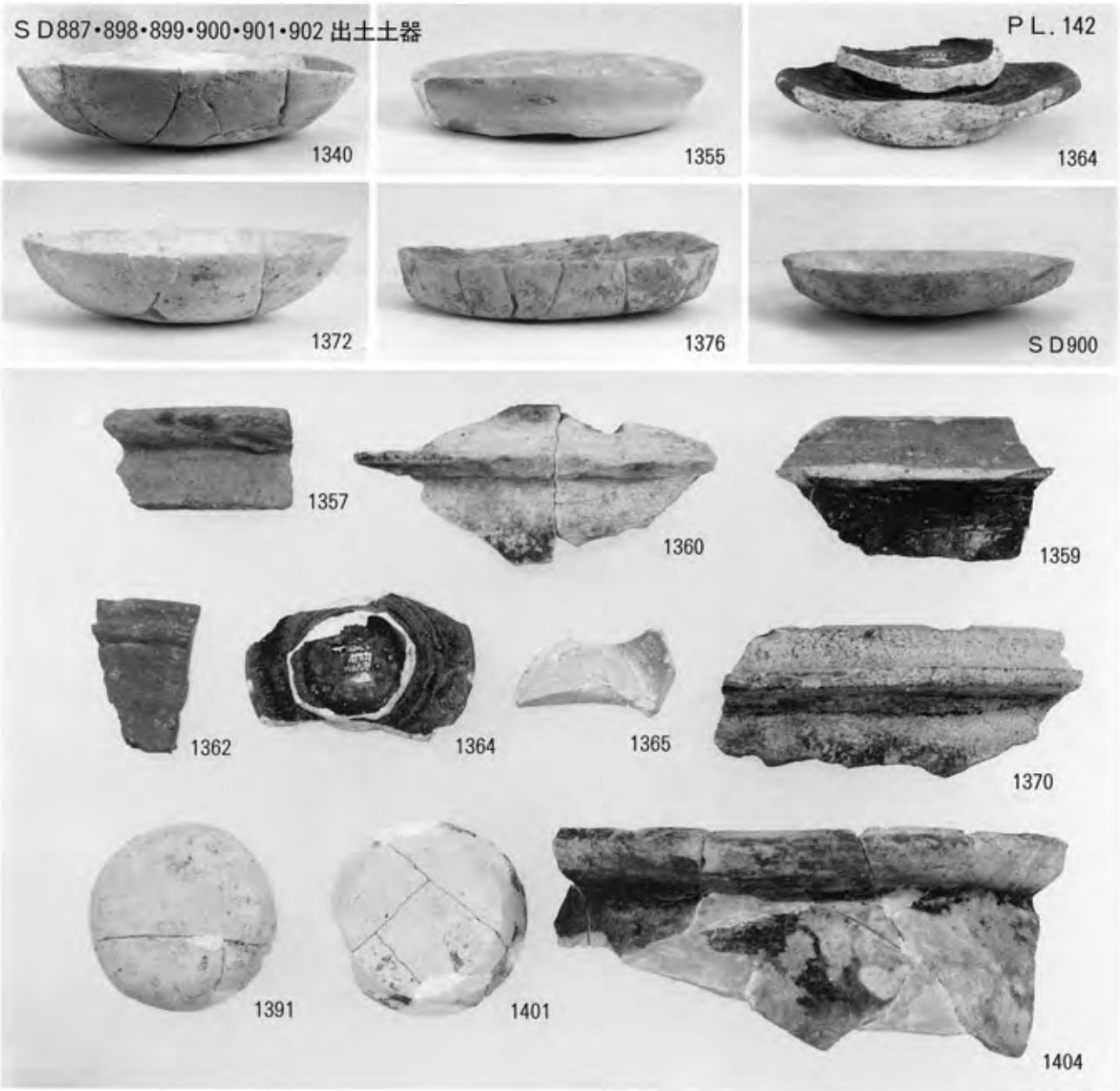

1318


1319


1321

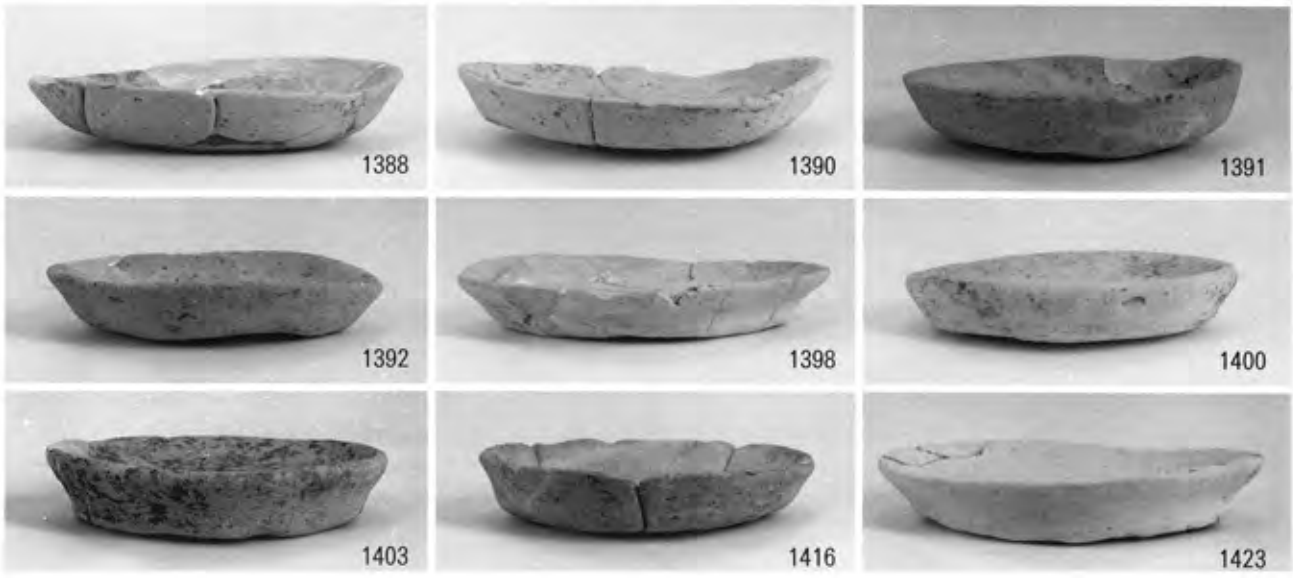

1322

S D887・898・899・900・901・902 出土土器



S D887
1340
S D898
1355・1357
1359・1360
1362・1364
1365
S D899
1370
S D900
1372・1376
1379
S D901
1380
S D902
1388・
1390～1392
1398・1400
1401・1403
1404・1416
1423

第 263 図
第 264 図



SD902出土土器


1426

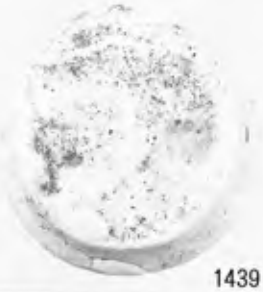

1428


1436


1434


1436


1416


1439


1447


1449

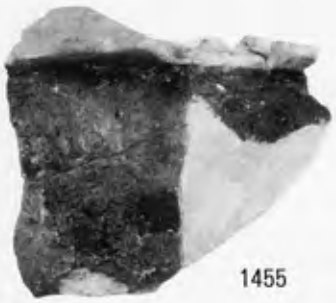

1448


1451


1452


1453


1454


1455


1456


1457


1462


1463

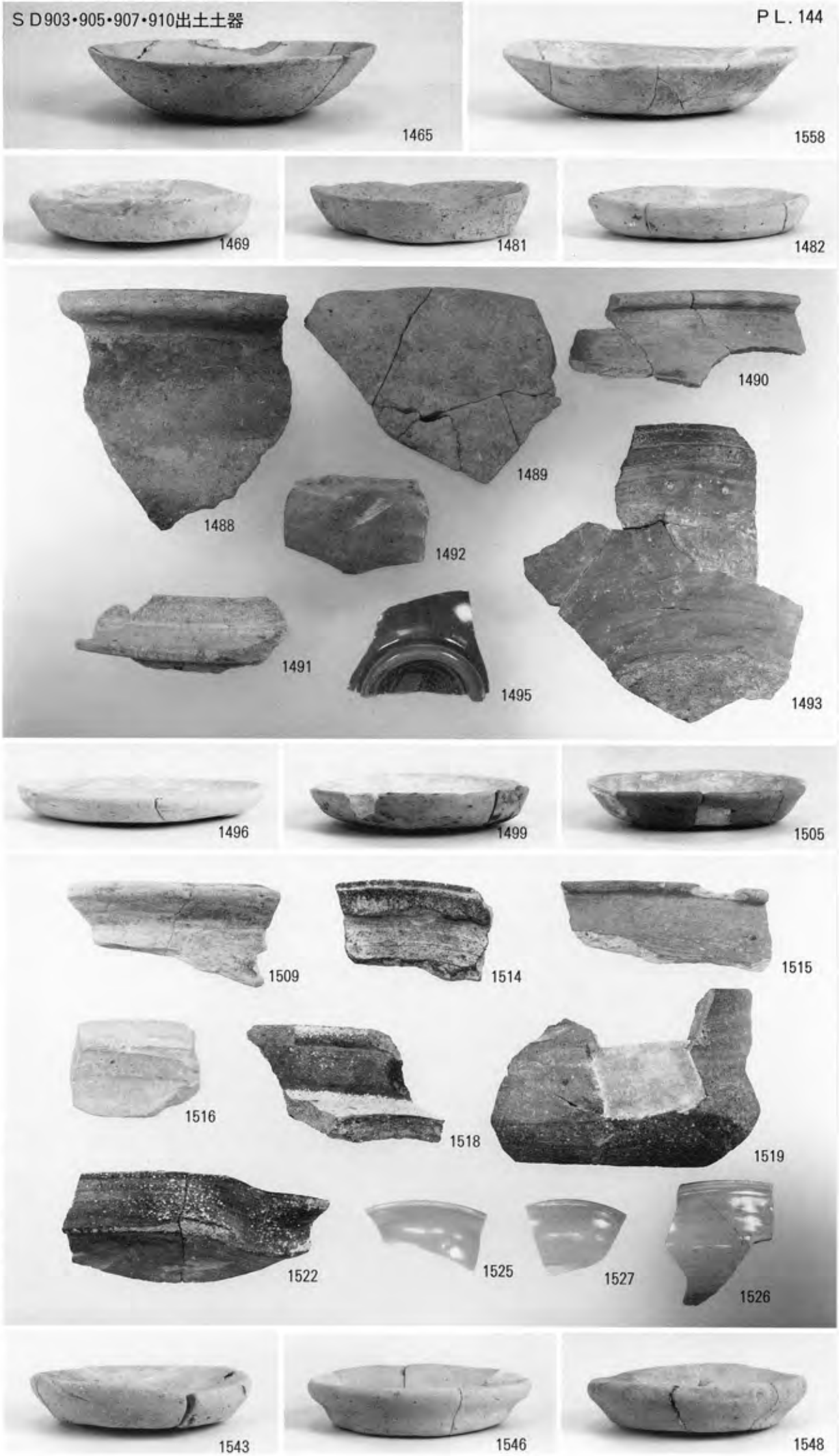

1464


1461


1460

第 264 図
第 265 図

S D903・905・907・910出土土器



S D903
1465・1469
1481・1482
1488～1493
1495
S D905
1496・1499
1505・1509
1514～1516
1518・1519
1522
1525～1527
S D907
1543・1546
1548
S D910
1558

第 266 図
第 267 図
第 268 図


1566


1570


1577


1590


1591


1594


1595


1597


1598


1600


1601


1605


6106


1627


1617


1629


1641


1645


1647


1646


1649


1650

S D911
1566・1570
1577・1590
1591・1594
1595・1597
1598・1600
1601
S D913
1602・1606
S D914
1617・1627
S D915
1629・1641
1645～1647
1649・1650

第 268 図
第 269 図
第 270 図
第 271 図


口縁部の接合痕 134


口縁部の接合痕 135


粘土円盤充塡 275


坏部の接合 318


坏部の接合 420


坏部の接合 278


坏部の接合 902


脚台部の接合 420


底部の接合 124


太いタタキ目 119

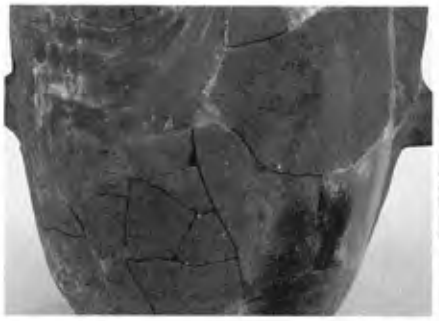

細いタタキ目 264


やや太いタタキ目 69


細いハケ目 122

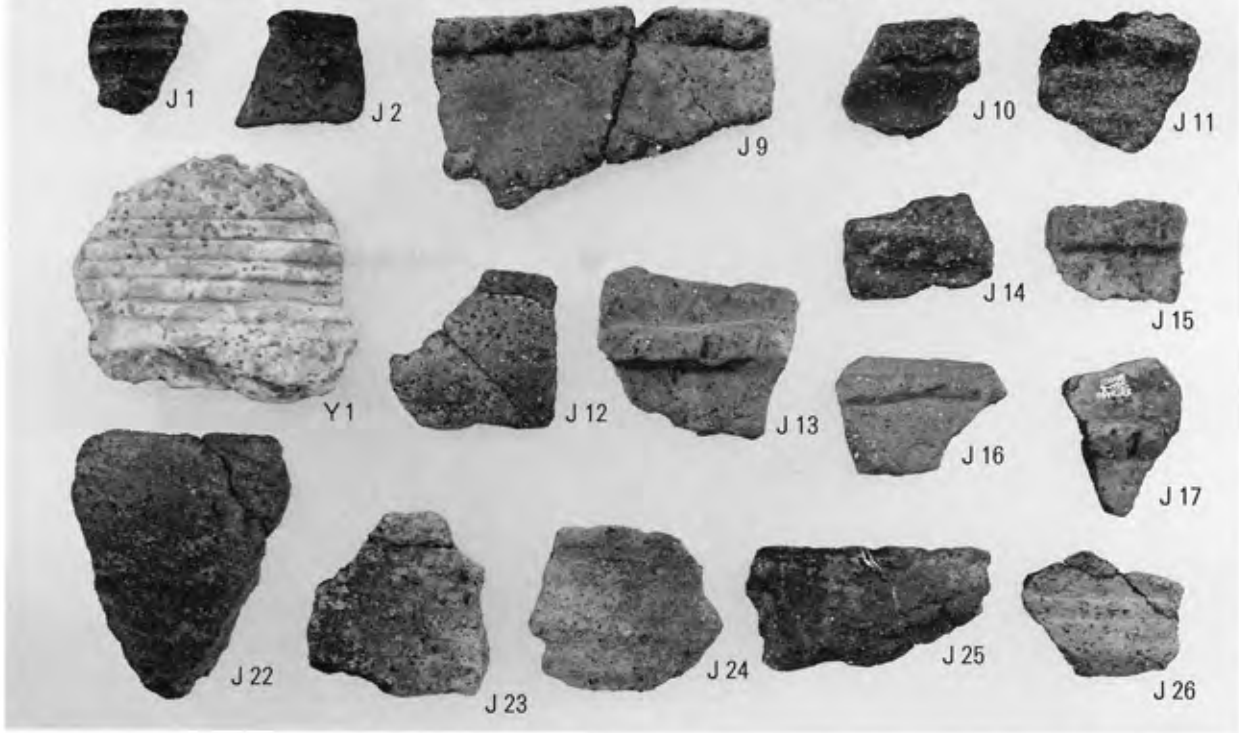

粗いハケ目 394


櫛描直線文 410

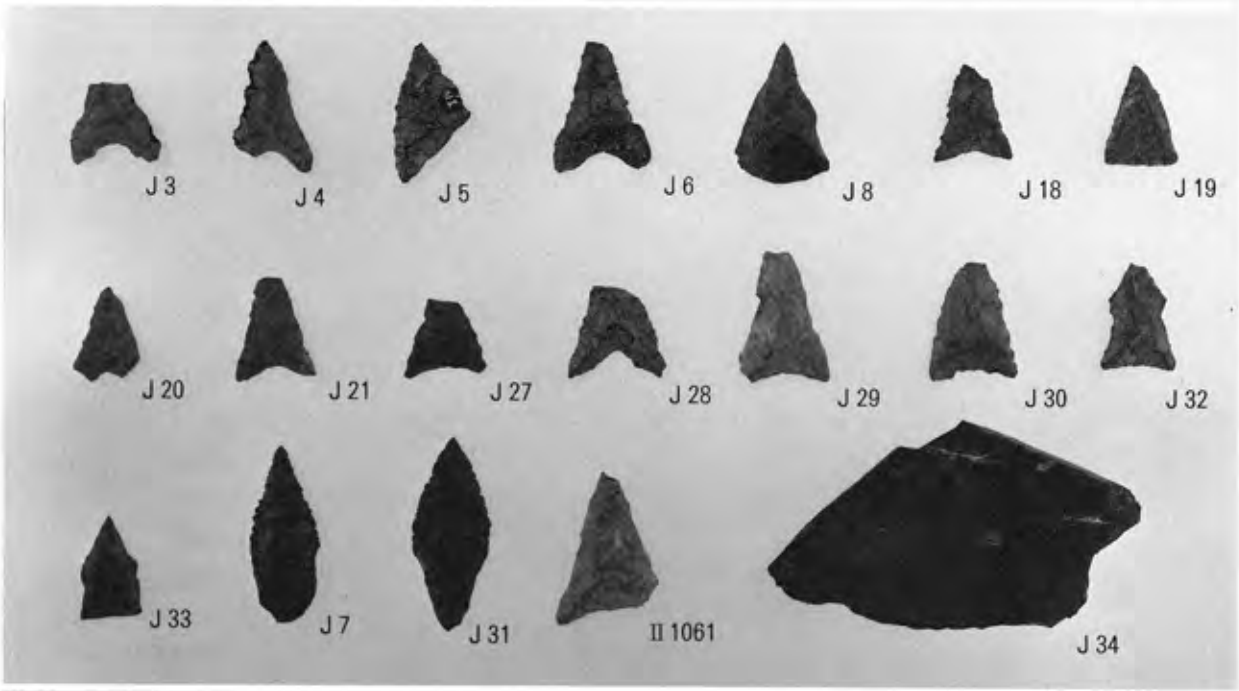

甑のハケ目 628


軽いヘラケズリ 807

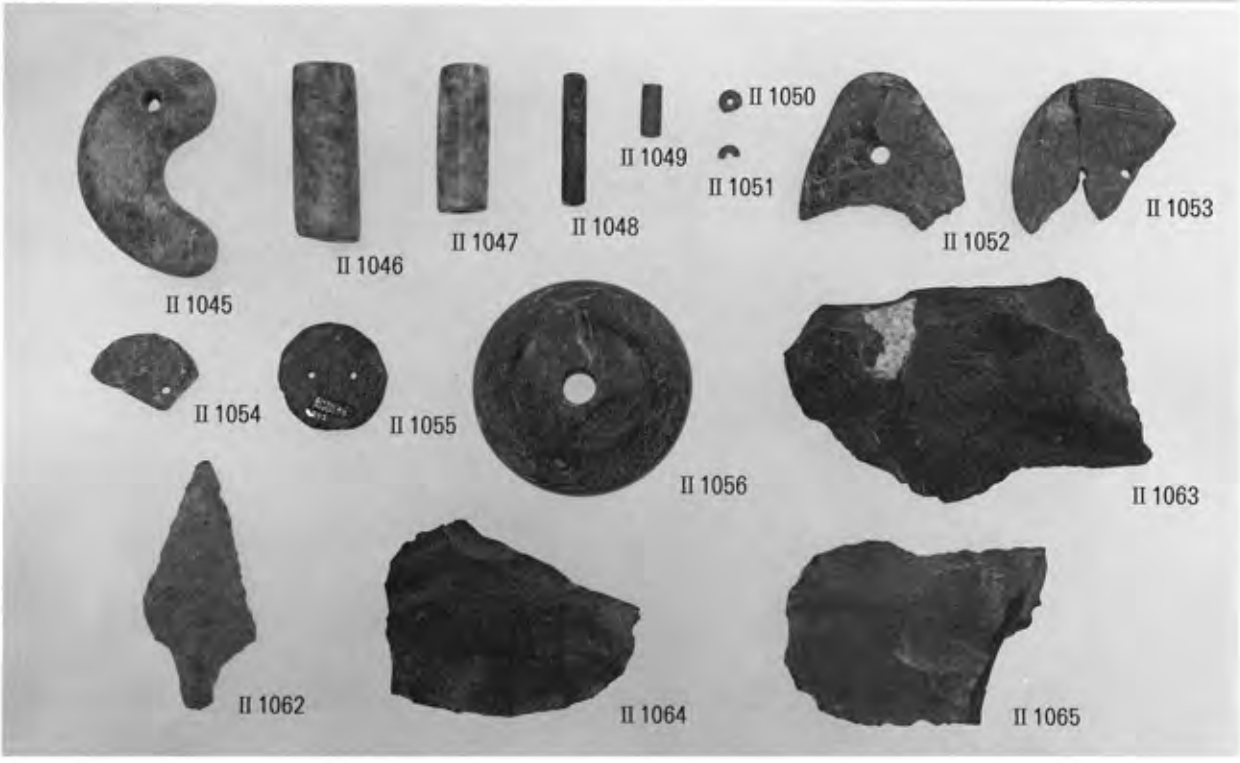

粗いヘラケズリ 491



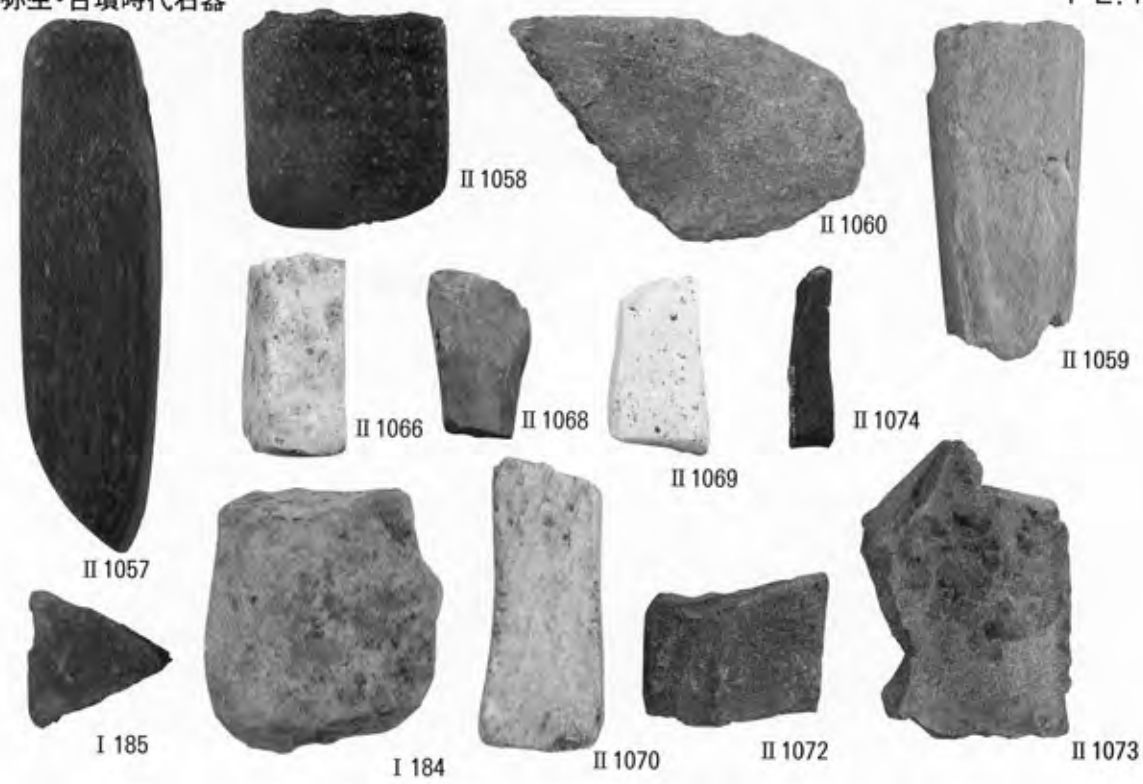
第Ⅰ～Ⅲ区
第 104 図
第 130 図
第 207 図



第Ⅰ～Ⅲ区
第 104 図
第 130 図
第 175 図
第 207 図



第Ⅱ区
第 175 図



第Ⅰ・Ⅱ区
第 114 図
第 175 図
第 176 図

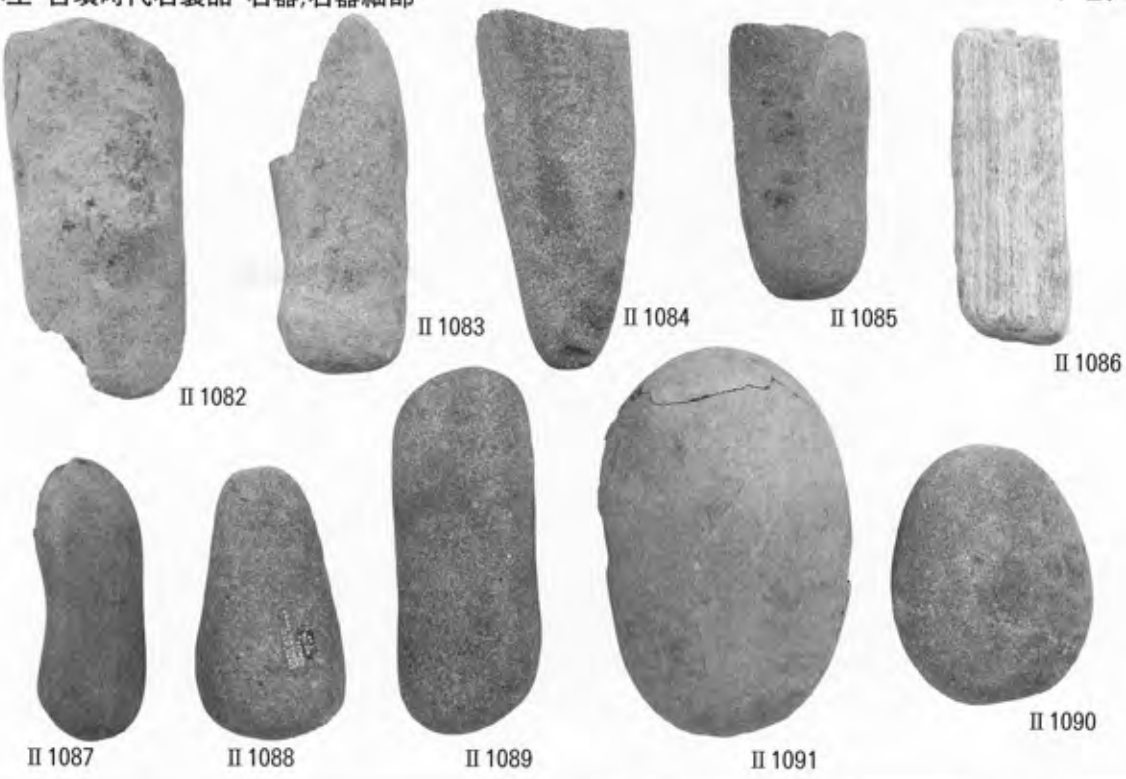




第Ⅱ区
第 176 図

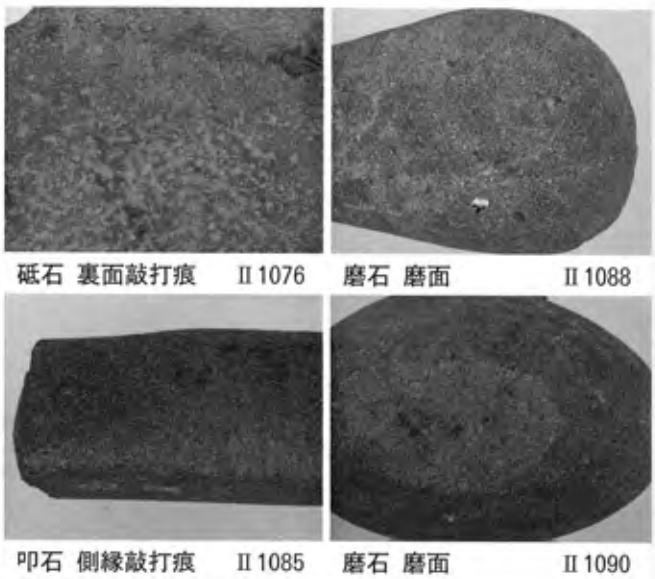


第Ⅱ区
第 177 図

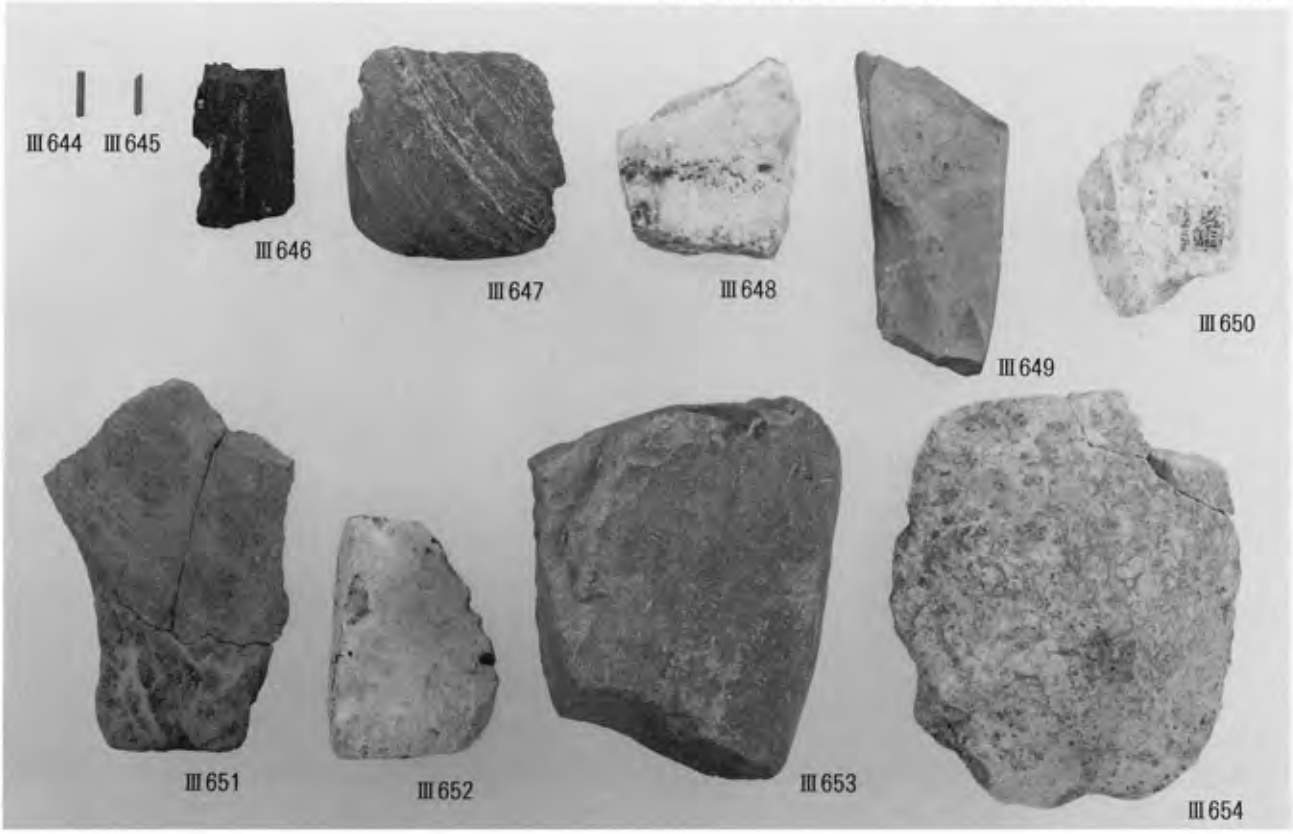


第Ⅱ区
第 178 図

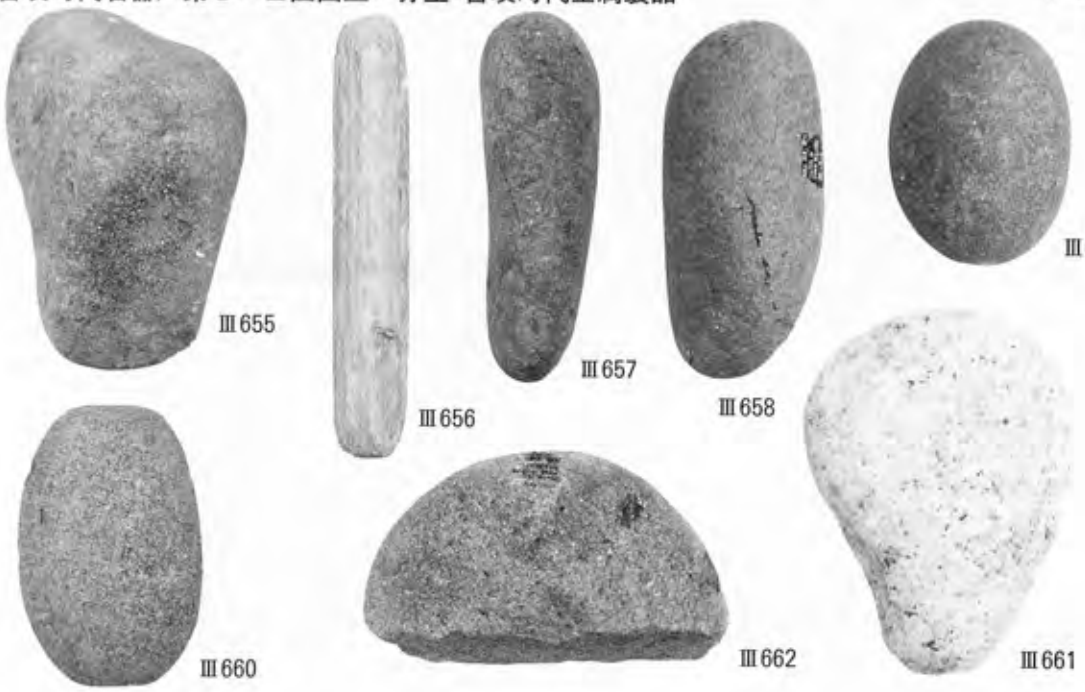




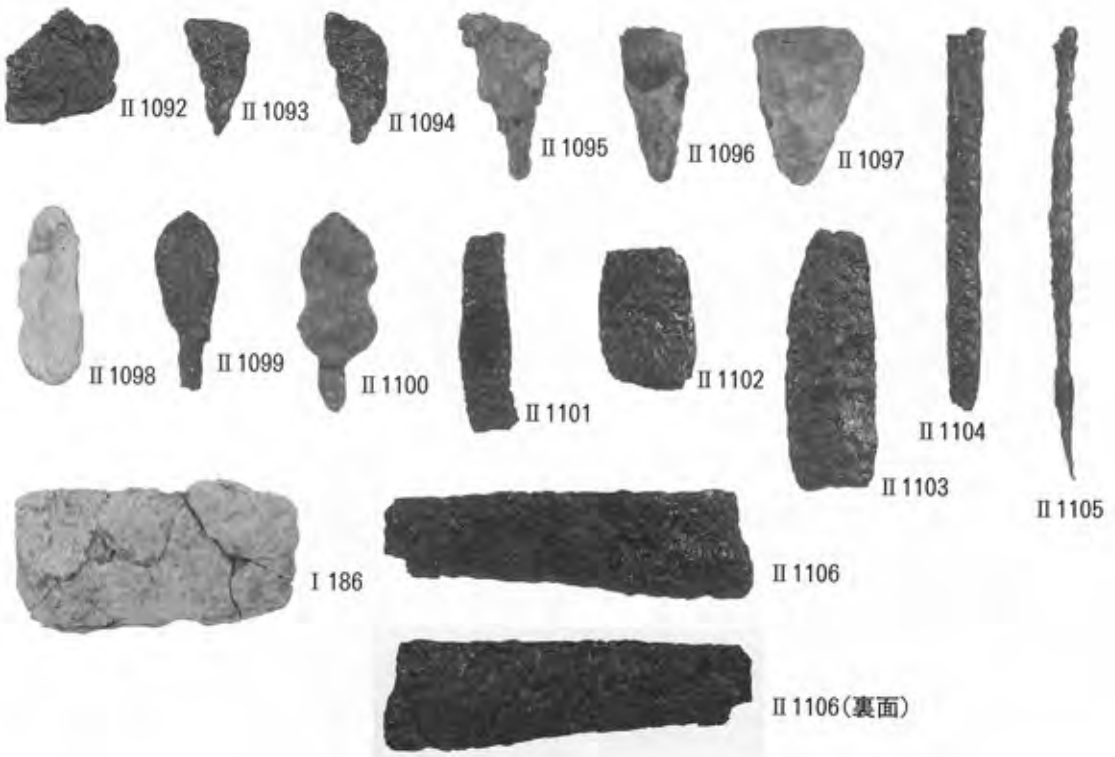
第Ⅱ区
第 176 図
第 177 図
第 178 図



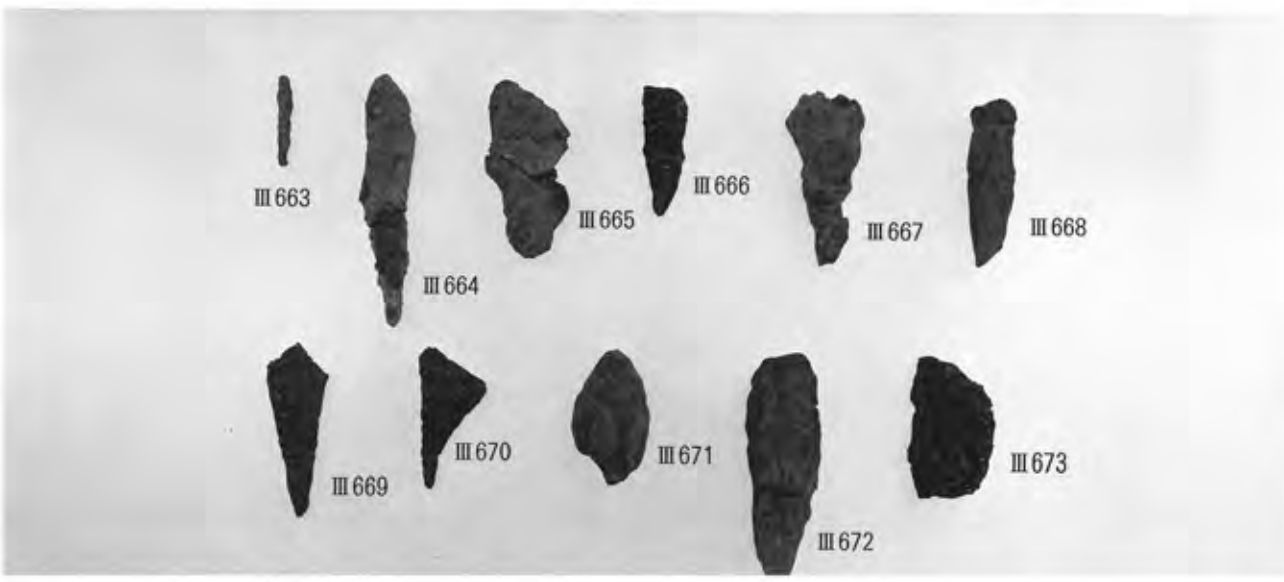
第Ⅲ区
第 243 図



第Ⅲ区
第 243 図
第 244 図



第Ⅰ・Ⅱ区
第 114 図
第 178 図



第Ⅲ区
第 244 図



Ⅰ 708



Ⅰ 712



Ⅱ 2156



Ⅱ 2158



Ⅰ 709



Ⅱ 2157



Ⅱ 2159

第Ⅰ・Ⅱ区
第 128 区
第 204 図



Ⅲ 1675



Ⅲ 1676



Ⅲ 1677



Ⅲ 1678



Ⅲ 1679



Ⅲ 1680





Ⅲ 1681

第Ⅱ区
第 272 図



Ⅲ 1684



Ⅲ 1687



Ⅲ 1689



Ⅲ 1682



Ⅲ 1688

第Ⅲ区
第 272 図
第 273 図

第Ⅰ区
第129図


Ⅰ713


Ⅰ714


Ⅰ715


Ⅰ719


Ⅰ716


Ⅰ717


Ⅰ718

第Ⅱ区
第205図


Ⅱ2162


Ⅱ2163


Ⅱ2164


Ⅱ2165


Ⅱ2174


Ⅱ2166


Ⅱ2167


Ⅱ2168


Ⅱ2169


Ⅱ2170


Ⅱ2171


Ⅱ2172


Ⅱ2173

第Ⅲ区
第274図
第275図


Ⅲ1690


Ⅲ1691


Ⅲ1692


Ⅲ1699


Ⅲ1700


Ⅲ1704


Ⅲ1701


Ⅲ1702


Ⅲ1703


Ⅲ1705


Ⅲ1706

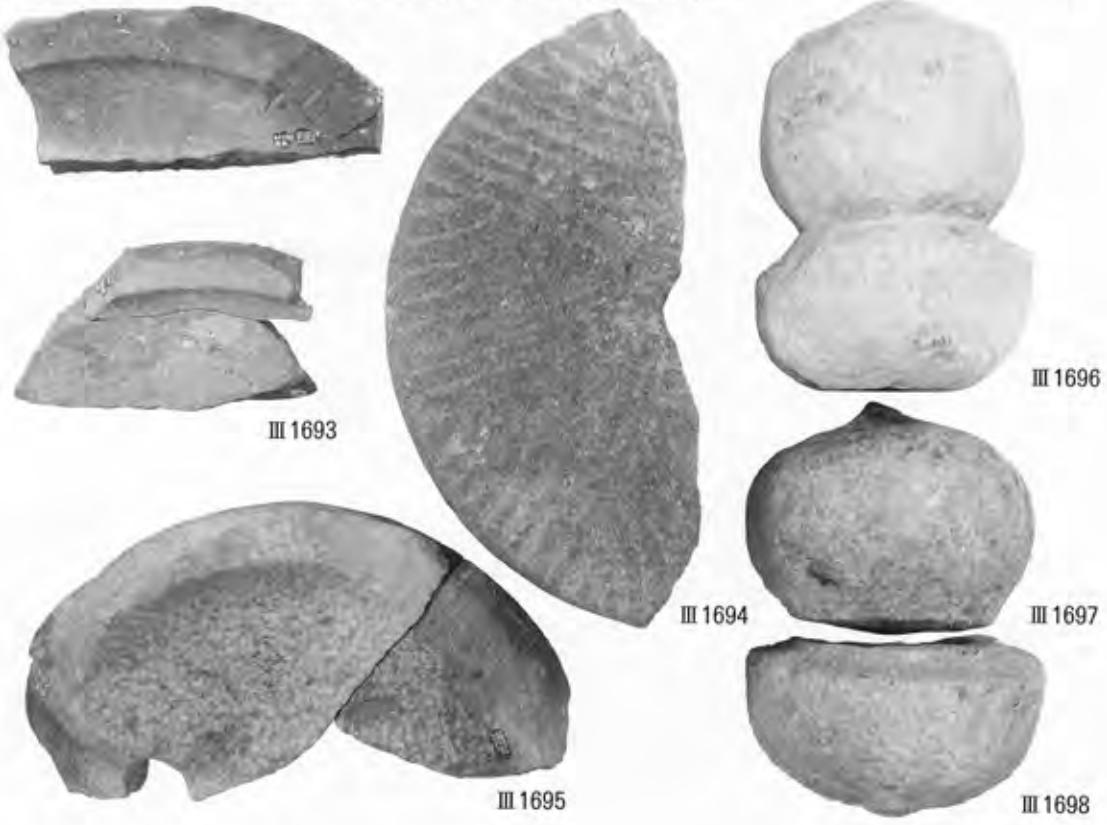

Ⅲ1707


Ⅲ1708


Ⅲ1709


Ⅲ1710


Ⅲ1711



第Ⅲ区
第274図



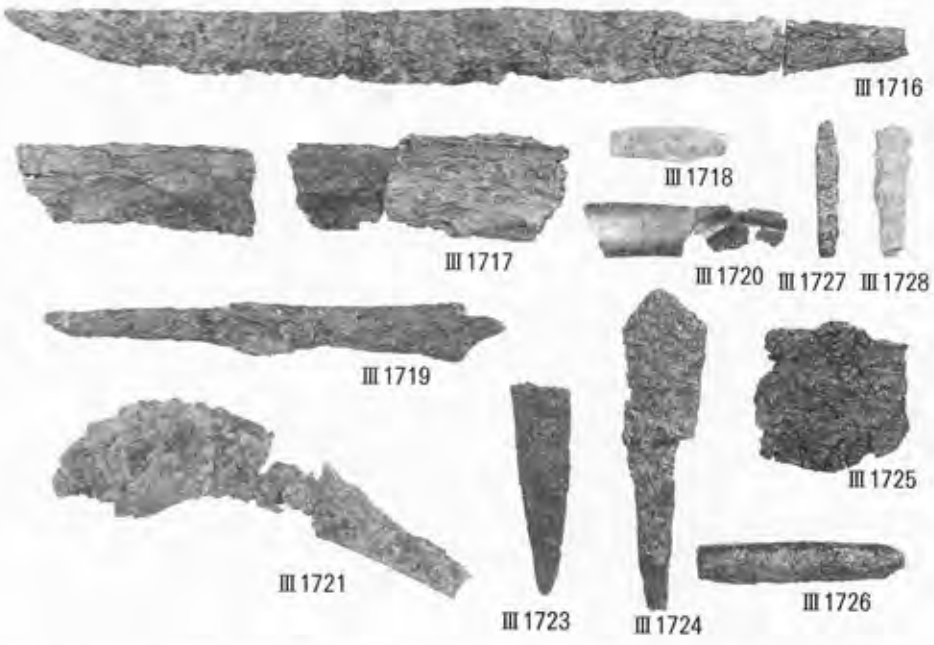
第Ⅲ区
第275図



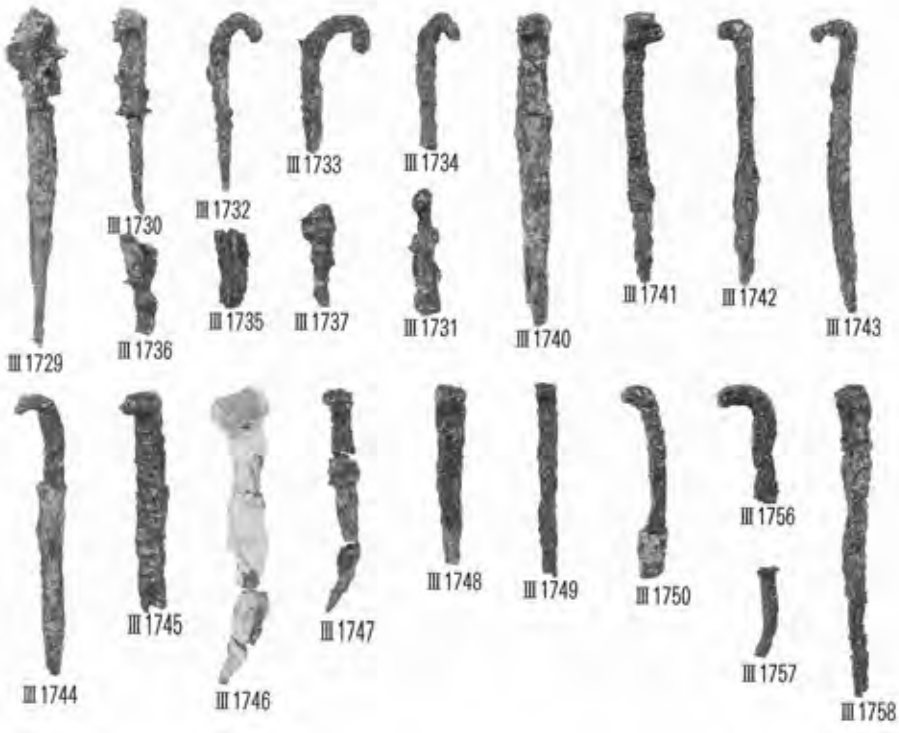
第Ⅰ区
第129図



第Ⅱ区
第 205 図
第 206 図



第Ⅲ区
第 276 図



第Ⅲ区
第 276 図
第 277 図



Ⅱ2199



Ⅱ2200



Ⅱ2201



Ⅱ2202



Ⅲ1771



Ⅲ1772



Ⅲ1773



Ⅲ1774



Ⅱ2198



Ⅲ1775



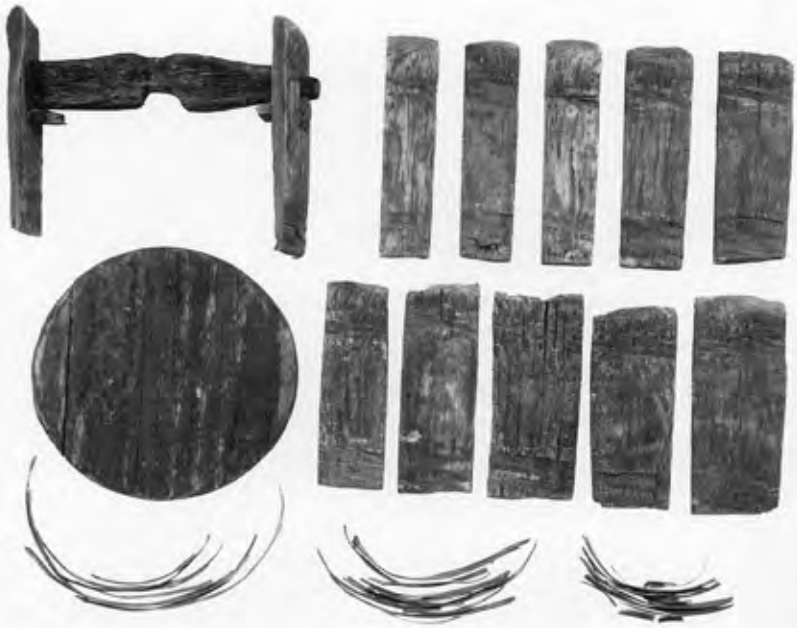
Ⅲ1777



Ⅲ1778



Ⅲ1776



Ⅲ1770

第206図
第278図

西田井遺跡発掘調査報告書

— 一般国道24号（和歌山バイパス）建設に伴う発掘調査 —

—図版編—

1991年３月30日発行

編集
発行　財団法人　和歌山県文化財センター
和歌山市広道20番地

印刷　明新印刷株式会社
奈良市橋本町36番地